

JP1 Version 12

JP1/Service Support 構築・運用ガイド

3021-3-D71

前書き

■ 対象製品

P-2A2C-8FCL JP1/Service Support 12-00 (適用 OS : Windows Server 2016, Windows Server 2012)

P-2A2C-8LCL JP1/Service Support Starter Edition 12-00 (適用 OS : Windows Server 2016, Windows Server 2012)

適用 OS のバージョン, JP1/Service Support が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細についてはリリースノートで確認してください。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, HiRDB, JP1, uCosminexus は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

RSA および BSAFE は、米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (<http://relaxngcc.sf.net/>).

This product includes software developed by the Java Apache Project for use in the Apache JServ servlet engine project (<http://java.apache.org/>).

This product includes software developed by Andy Clark.



JP1/Service Support は、米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE(R)ソフトウェアを搭載しています。

HITACHI
Inspire the Next

株式会社 日立製作所



■ マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

マイクロソフトの許可を得て使用しています。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	正式名称	
Excel	Microsoft(R) Office Excel	
IIS	Microsoft(R) Internet Information Services	
Internet Explorer	Windows(R) Internet Explorer(R)	
Windows 7	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise	
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional	
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate	
Windows 8	Windows(R) 8 Pro	
	Windows(R) 8 Enterprise	
	Windows(R) 8.1 Pro	
	Windows(R) 8.1 Enterprise	
Windows 10	Windows(R) 10 Enterprise	
	Windows(R) 10 Home	
	Windows(R) 10 Pro	
Windows Server 2012	Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
	Windows Server 2012 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
Windows Server 2016		Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard
WSFC		Windows Server(R) Failover Cluster

Windows 7, Windows 8, Windows 10, Windows Server 2012 および Windows Server 2016 を総称して、Windows と表記することがあります。

■ 発行

2019年1月 3021-3-D71

■ 著作権

Copyright (C) 2019, Hitachi, Ltd.

Copyright (C) 2019, Hitachi Solutions, Ltd.

変更内容

変更内容 (3021-3-D71) JP1/Service Support 12-00

追加・変更内容	変更箇所
対応 OS から Windows Server 2008 R2 を削除した。	—

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、JP1/Service Support の機能、システム構築方法、および操作方法について説明したものです。

なお、このマニュアルでは、次の製品を総称して「JP1/Service Support」と表記します。

- JP1/Service Support[※]
- JP1/Service Support Starter Edition

注※

このマニュアルでは、「JP1/Service Support (Standard)」と表記します。

製品名称の変更および統合について

JP1/Service Support 11-00 から製品名称を変更しました。

旧名称：JP1/Integrated Management - Service Support

新名称：JP1/Service Support

また、JP1/Integrated Management - Service Support Advanced Edition は JP1/Service Support に統合しました。

■ 対象読者

このマニュアルは、次の方にお読みいただくことを前提に説明しています。

- JP1/Service Support を使用して、IT サービス管理のサービスサポートでのプロセスを定義し、実際に運用していくための環境を構築するシステム管理者の方
- Windows Server 2016, Windows Server 2012 R2, または Windows Server 2012 に関する基本的な知識をお持ちの方

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す編から構成されています。

第1編 概要編

JP1/Service Support の概要について説明しています。案件を解決するまでの流れや、JP1/Service Support のシステム構成について説明しています。

第2編 機能編

JP1/Service Support の機能について説明しています。また、JP1/Service Support と他製品が連携して実現できることについても説明しています。

第3編 設計編

JP1/Service Support によるサービスサポートに沿った運用をするための設計方針について説明しています。

第4編 構築編

JP1/Service Support のインストールとセットアップの方法、および JP1/Service Support の環境を構築する方法について説明しています。

第5編 メンテナンス編

JP1/Service Support のメンテナンス方法について説明しています。

第6編 リファレンス編

JP1/Service Support で使用できるコマンド、定義ファイル、および JP1/Service Support が出力するメッセージについて説明しています。

第7編 トラブルシューティング編

JP1/Service Support でトラブルが発生した場合の対処について説明しています。

■ マニュアルの体系

JP1/Service Support のマニュアルには、このマニュアルを含め次に示すマニュアルがあります。利用目的に応じてお読みください。

JP1 Version 12 IT サービス管理 基本ガイド (3021-3-D70)

JP1/Service Support を初めて使用する方は、このマニュアルをお読みください。JP1/Service Support のインストール・セットアップ方法、および JP1/Service Support の操作について、ユースケースに基づいて説明しています。

JP1 Version 12 JP1/Service Support 構築・運用ガイド (3021-3-D71)

JP1/Service Support の管理、メンテナンスをされるシステム管理者の方は、このマニュアルをお読みください。JP1/Service Support の概要、機能、インストール・セットアップ方法、および JP1/Service Support の操作について説明しています。

JP1 Version 12 JP1/Service Support 操作ガイド (3021-3-D72)

JP1/Service Support の画面操作だけを実施する方は、このマニュアルをお読みください。JP1/Service Support の画面から行う操作について説明しています。

なお、案件に関する画面上での操作手順は、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」だけに記載しています。環境構築に関する画面上での操作手順は、マニュアル「JP1/Service Support 構築・運用ガイド」およびマニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」両方に記載しています。

■ 読書手順

このマニュアルのそれぞれの編は、システムの設計・構築・運用などのシステムのライフサイクルでの段階ごとに必要な情報を説明しています。次の表に示すように、目的に合わせて必要な個所をお読みください。

項番	目的	参照箇所
1	JP1/Service Support を理解する。	概要編：JP1/Service Support の概要を知る。 機能編：JP1/Service Support の詳細を理解する。
2	JP1/Service Support のシステムを設計・構築する。	概要編：JP1/Service Support の概要を知る。 機能編：JP1/Service Support の詳細を理解する。 設計編：JP1/Service Support の設計箇所を確認し、システムを設計する。 構築編：JP1/Service Support の構築手順を確認し、構築する。 メンテナンス編：JP1/Service Support のメンテナンス方法を知る。 リファレンス編：JP1/Service Support の定義ファイル、コマンドを確認し、設定値を決める。
3	JP1/Service Support のシステムを運用する。	概要編：JP1/Service Support の概要を知る。 メンテナンス編：JP1/Service Support のメンテナンス方法を知る。 機能編：必要に応じて、JP1/Service Support の機能詳細を確認する。 トラブルシューティング編：トラブルが発生したときにトラブルの回避方法を知る。 参考マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」 案件に関する画面上での操作手順を知る。
4	JP1/Service Support のシステムの見直しをする。	項番 2 に戻り、JP1/Service Support のシステムを再設計・再構築する。

■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで画面の構成要素を説明するときに使用する記号を、次のように定義します。

記号	意味
[]	画面、メニュー項目、ダイアログボックス、ダイアログボックスのボタンなどを示す。 例：[案件作成] 画面、[OK] ボタン
[] - []	画面のメニューから項目を選択することを示す。 例：[アクション] - [案件の参照] を選択する。
[]	画面中に表示されている項目を示す。 例：「タイトル」、[重大度] リストボックス

■ コマンドの文法で使用する記号

コマンドとパラメーターの説明で使用する記号を、次のように定義します。

記号	意味
 (ストローク)	複数の項目に対し、項目間の区切りを示し、「または」の意味を示す。 例 「A B C」は、「A, B または C」を示す。
{ } (波括弧)	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず 1 組の項目を選択する。項目の区切りは で示す。 例 {A B C} は「A, B または C のどれかを指定する」ことを示す。
[] (角括弧)	この記号で囲まれている項目は任意に指定できる(省略してもよい)。 複数の項目が記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択する。 例 [A]は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示す。 [B C]は「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示す。
... (点線)	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できる。 例 「A, B, ...」は「A のあとに B を必要個数指定する」ことを示す。
— (下線)	括弧内のすべてを省略したときに、システムが取る標準値を示す。標準値がない場合は、指定した項目だけが有効である。 例 [A B]はこの項目を指定しなかった場合に、A を選択したと見なすことを示す。

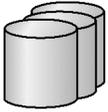
■ 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

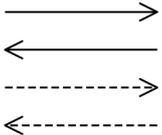
●マシン(端末)



●複数のデータベース



●制御の流れ



●障害



●ユーザー



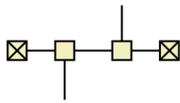
●GUIイメージ



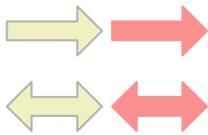
●サーバ



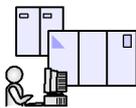
●ネットワーク



●データの流れ



●ホストシステム



●メール



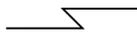
●帳票



●データベース



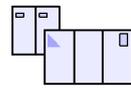
●通信回線



●工程, 作業項目の流れ



●大型システム



●画面



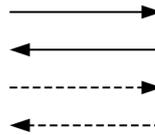
●リレーショナルデータベース



●プログラム



●その他の流れ



●データ



●CD-ROM



■ インストール先フォルダの表記

このマニュアルでは、ユーザーの指定によって格納先が変わるファイルのパス表記をゴシックで表記しています。また、ユーザーが任意の名称を設定できるファイル名もゴシックで表記しています。

このマニュアルで使用されているパス表記を次の表に示します。

インストール先フォルダの表記	意味
JP1/SS パス	JP1/Service Support のインストール先フォルダ (デフォルトインストール先フォルダ [*] は、システムドライブ:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS)
IM-M パス	JP1/IM - Manager のインストール先フォルダ
JP1/UCMDB パス	JP1/UCMDB のインストール先フォルダ
システムドライブ	OS のインストール先ドライブ
システムルートフォルダ	OS のシステムファイルが格納されているフォルダ

インストール先フォルダの表記	意味
ユーザー指定フォルダ	ユーザーが任意に指定できるフォルダ
共有フォルダ	クラスタ環境用の共有ディスク上の共有ファイル格納先フォルダ

注※

JP1/Service Support のインストール時に、あらかじめ設定されているインストール先フォルダです。

■ このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは、ローカル PC に対する Administrators 権限です。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば、ローカルユーザー、ドメインユーザーおよび Active Directory 環境で動作に違いはありません。

■ 画面での全角文字の入力について

JP1/Service Support では、画面で入力した文字列が UTF-8 に変換されるため、全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。上記を考慮して全角文字を入力してください。

■ このマニュアルで使用する「デフォルト」について

このマニュアルで表記している「デフォルト」とは、JP1/Service Support を新規インストールした状態を示します。定義ファイルの指定キーの「デフォルト値」は、JP1/Service Support を新規インストールした状態とは異なります。

■ JP1 製品との連携について

次に示す JP1 製品は、日本語環境だけで連携できます。

- JP1/TELstaff
- JP1/UCMDB

目次

前書き	2
変更内容	6
はじめに	7

第1編 概要編

1	JP1/Service Support の概要	28
1.1	JP1/Service Support とは	29
1.1.1	IT サービス管理でのサービスサポートの役割	29
1.1.2	JP1/Service Support によるサービスサポートの運用支援	31
1.2	JP1/Service Support の特長	34
1.2.1	ユーザーからの問い合わせやシステム障害を解決が必要な案件として一元管理	34
1.2.2	過去の事例を基にした素早い回避策の提示を支援	36
1.2.3	案件の内容に応じて別プロセスに対応依頼	38
1.2.4	案件の発生から解決までの運用プロセスの改善を支援	38
1.2.5	各プロセスで対応する作業担当者の管理	39
1.2.6	システム全体の案件の状況を管理	40
1.3	JP1/Service Support の運用例	42
1.3.1	問い合わせ管理システムとしての運用	42
1.3.2	企業内システムの運用管理	43
1.3.3	インシデントの登録および作業の効率化	45
1.3.4	リリース管理の効率化	46
1.3.5	案件ごとの参照権限の制御	48
1.4	JP1/Service Support を利用した案件解決の流れ	49
1.4.1	案件の受付から解決まで	51
1.4.2	他プロセスへのエスカレーション	54
1.5	JP1/Service Support を利用した状況確認と分析	57
1.5.1	二つの視点による案件の状況確認	57
1.5.2	集計データを基にした運用状況の分析	58
1.6	JP1/Service Support が提供する製品	60
2	JP1/Service Support の構成	61
2.1	前提 OS および前提プログラム	62
2.2	JP1/Service Support のシステム構成	63
2.2.1	基本的なシステム構成	63

2.2.2 メールで案件を操作する場合のシステム構成 63

2.2.3 JP1 製品と連携する場合のシステム構成 65

第2編 機能編

3 JP1/Service Support の機能 79

3.1 機能一覧 80

3.2 案件の管理 82

3.2.1 プロセスワークボードによる案件の管理 82

3.2.2 プロセスワークボードに登録された案件の一覧表示 96

3.2.3 案件管理ウィンドウ 101

3.3 案件の表示 105

3.3.1 案件の詳細表示 105

3.3.2 案件履歴の表示 108

3.3.3 案件の進捗の表示 109

3.3.4 案件の作業状況の表示 112

3.3.5 関連案件の表示 114

3.4 案件の検索 116

3.4.1 検索範囲、検索結果の表示件数、および検索条件の指定 116

3.4.2 検索結果の表示 120

3.5 案件の作成 122

3.5.1 [案件作成] 画面での案件の作成 122

3.5.2 登録済みの案件を流用して案件を作成 127

3.5.3 メールによる案件の作成 130

3.5.4 コマンドによる案件の作成 140

3.5.5 案件のエスカレーション 141

3.5.6 登録された案件の件数の確認 142

3.6 案件の編集 144

3.6.1 [案件編集] 画面での案件編集 144

3.6.2 コマンドによる案件の編集 147

3.6.3 案件の引き戻し 147

3.6.4 案件の差し戻し 149

3.7 案件の一括操作 153

3.7.1 案件の一括操作の流れ 154

3.7.2 案件の一括操作の結果 155

3.8 案件の削除 160

3.8.1 画面操作による削除 160

3.8.2 コマンドによる削除 160

3.9 案件の保存 162

3.10	案件の印刷	164
3.11	案件に対するアクセス権の管理	166
3.11.1	アクセス権の種類	167
3.11.2	案件の編集とステータス, 担当者の関係	169
3.12	メールによる通知	171
3.12.1	メール送信のタイミング	171
3.12.2	メール送信時のユーザー認証	172
3.12.3	メールで通知できる案件情報	173
3.12.4	期限前メール通知	174
3.13	案件情報を CSV ファイルに出力	176
3.14	案件フォームの管理	177
3.14.1	案件フォームのカスタマイズ	177
3.14.2	カスタマイズした案件フォームの使い分け	179
3.15	ステータスの管理	180
3.15.1	使用するステータスの選択	180
3.15.2	ステータスの表示順序変更	180
3.15.3	ステータス名称の変更	180
3.15.4	ステータスの制限	182
3.15.5	エスカレーションの禁止	182
3.16	案件の作業状況の管理	183
3.16.1	システム視点での案件の集計	184
3.16.2	プロセス視点での案件の集計	186
3.16.3	案件の集計データのファイル出力	189
3.17	ユーザーとロールの管理	196
3.17.1	ユーザー管理	196
3.17.2	ロール管理	199
3.18	ファイアウォール環境への対応	202
3.19	JP1/Service Support のサービス	204
3.20	コマンドを使用したデータベースの操作	206
3.20.1	コマンドを使用した案件管理 DB の操作	206
3.20.2	コマンドを使用した案件保存 DB の操作	209
3.21	クラスタシステムでの運用	211
3.21.1	フェールオーバー時の JP1/Service Support の動作	211
3.21.2	実行系サーバ, 待機系サーバで実行できるコマンド	212
4	他製品との連携	213
4.1	JP1/IM - Manager との連携	214
4.1.1	自動アクションによる案件の自動登録	215
4.1.2	自動アクションを利用した JP1 製品とのイベント連携	217

- 4.1.3 案件のステータス変更に応じた JP1 イベントの対処状況の変更 218
- 4.1.4 JP1 イベントによるステータス変更の通知と自動アクション 220
- 4.2 JP1/IM - View との連携 223
 - 4.2.1 JP1/IM - View からの案件登録 223
 - 4.2.2 特定の JP1 イベントの属性をインシデントとして引き継ぐ 225
 - 4.2.3 任意の JP1 イベントの属性や文字列をインシデントとして引き継ぐ 227
- 4.3 JP1/NETM/AIM との連携 233
 - 4.3.1 JP1/NETM/AIM の管理する機器情報の表示 233
 - 4.3.2 JP1/NETM/AIM への接続 234
- 4.4 JP1/UCMDB との連携 235
 - 4.4.1 JP1/UCMDB の管理する機器情報の表示 235
 - 4.4.2 JP1/UCMDB への接続 236
- 4.5 JP1/NP との連携 237
 - 4.5.1 JP1/NP へ引き継がれる案件情報 238
 - 4.5.2 JP1/NP への接続 239
- 4.6 JP1/AO との連携 240
 - 4.6.1 JP1/AO へ引き継がれる案件情報 241
 - 4.6.2 JP1/AO への接続 241
- 4.7 JP1/Audit - Manager との連携 243
 - 4.7.1 JP1/Audit - Manager への接続 243
- 4.8 JP1/ITDM2 - Asset Console との連携 244
 - 4.8.1 JP1/ITDM2 - Asset Console の管理する機器情報の表示 244
 - 4.8.2 JP1/ITMD2 - Asset Console への接続 245
- 4.9 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携 246
 - 4.9.1 JP1/AJS3 - Web Console へ引き継がれる案件情報 247
 - 4.9.2 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI への接続 248
 - 4.9.3 自動アクションの定義例 (JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携の場合) 248
- 4.10 JP1/PFM - Web Console との連携 249
 - 4.10.1 JP1/PFM - Web Console へ引き継がれる案件情報 250
 - 4.10.2 JP1/PFM - Web Console への接続 251
 - 4.10.3 自動アクションの定義例 (JP1/PFM - Web Console との連携の場合) 251
- 4.11 JP1 以外の運用管理製品との連携 252
 - 4.11.1 連携製品からの案件の登録 253
 - 4.11.2 連携製品の管理情報の参照 253
 - 4.11.3 WWW アプリケーションとの連携 253
- 4.12 JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報との連携 256
- 4.13 外部認証サーバとの連携 258
 - 4.13.1 LDAP サーバとの連携 258
 - 4.13.2 JP1/Base との連携 (認証機能) 258

第3編 設計編

- 5 JP1/Service Support の設計 259
 - 5.1 JP1/Service Support の運用サイクル 260
 - 5.2 対象システム, プロセスの決定と体制作り 261
 - 5.2.1 ユーザー, ロールの設計 266
 - 5.2.2 対象システム, プロセスワークボードの設計 268
 - 5.2.3 アクセス権の割り当ての設計 269
 - 5.3 案件のステータスの検討 285
 - 5.3.1 通常使用するステータスをカスタマイズする場合 286
 - 5.3.2 ユーザー拡張用のステータスをカスタマイズする場合 286
 - 5.3.3 ステータスの設定をカスタマイズする場合 287
 - 5.4 案件で管理する項目と入力方法の検討 288
 - 5.4.1 案件フォームのカスタマイズの利用 288
 - 5.4.2 カスタマイズした案件フォームの使い分けの利用 289
 - 5.4.3 案件項目の自動入力の利用 289
 - 5.4.4 入力候補値および項目間連携の利用 290
 - 5.4.5 リンク設定の利用 290
 - 5.4.6 ファイル添付の利用 290
 - 5.5 メール通知の検討 292
 - 5.5.1 メール送信時のユーザー認証の検討 293
 - 5.6 メールによる案件登録の検討 295
 - 5.6.1 メールによる案件の登録方法の検討 295
 - 5.6.2 送信メールのテンプレートの検討 296
 - 5.7 案件の自動登録の検討 300
 - 5.8 案件情報の出力に関する検討 301
 - 5.9 案件の集計と集計結果のファイル出力に関する検討 302
 - 5.10 案件管理ウィンドウの検討 303
 - 5.11 他製品との連携の検討 304
 - 5.11.1 JP1/IM - Manager 連携の検討 304
 - 5.11.2 JP1/IM - View 連携の検討 311
 - 5.11.3 JP1/NETM/AIM 連携の検討 311
 - 5.11.4 JP1/UCMDB 連携の検討 311
 - 5.11.5 JP1/NP 連携の検討 312
 - 5.11.6 JP1/AO 連携の検討 312
 - 5.11.7 JP1/ITMD2 - Asset Console 連携の検討 313
 - 5.11.8 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携の検討 313
 - 5.11.9 JP1/PFM - Web Console との連携の検討 314
 - 5.12 案件管理 DB の運用についての検討 315

5.12.1	案件管理 DB のセットアップの検討	315
5.12.2	案件管理 DB の初期化の検討	315
5.12.3	案件管理 DB からのデータの削除の検討	316
5.12.4	案件管理 DB の再編成の検討	317
5.12.5	案件管理 DB のサイズの判断基準	318
5.13	案件保存 DB の運用についての検討	320
5.13.1	案件保存 DB の運用例	320
5.13.2	案件保存 DB の運用の流れ	321
5.13.3	案件保存 DB の容量設計	322
5.13.4	案件保存 DB の年次メンテナンス	325
5.14	データ移行に関する検討	327
5.14.1	JP1/Service Support 以外のシステムからの案件データの移行について	327
5.14.2	JP1/Service Support 以外のシステムからのユーザー情報の移行について	327
5.14.3	既存の JP1/Service Support からのデータの移行について	327
5.15	認証方法の検討	328
5.15.1	案件管理 DB を使用したログイン認証	328
5.15.2	LDAP サーバを使用したログイン認証	329
5.15.3	JP1/Base の認証サーバを使用したログイン認証	330
5.16	ウィルス対策ソフト実行時の注意事項	332

第 4 編 構築編

6	インストールとセットアップ	333
6.1	インストールとセットアップの流れ	334
6.2	インストール前に必要な作業	336
6.2.1	環境を構築するための設計	336
6.2.2	OS の環境構築	336
6.2.3	環境のバックアップ	336
6.3	JP1/Service Support の新規インストールとセットアップ	338
6.3.1	新規インストール手順	338
6.3.2	新規インストール時のセットアップ手順	339
6.4	JP1/Service Support の上書きインストールとセットアップ	343
6.4.1	上書きインストール手順	343
6.4.2	バージョンアップインストール時のセットアップ手順	344
6.4.3	修復インストール時のセットアップ手順	350
6.5	JP1/Service Support のアップグレード	351
6.5.1	JP1/Service Support のアップグレード手順	351
6.6	インストール先マシンのリプレース	354
6.7	JP1/Service Support のアンインストールとアンインストール	356

- 6.7.1 アンセットアップ手順 356
- 6.7.2 アンインストール手順 357
- 6.8 マニュアルの組み込み手順 358
- 6.9 インストールとセットアップの注意事項 359
- 6.9.1 インストール時およびアンインストール時の注意事項 359
- 6.9.2 セットアップ時の注意事項 360
- 6.9.3 Windows ファイアウォール使用時の注意事項 360
- 6.9.4 その他の注意事項 362

7 障害に備えた設定 363

- 7.1 障害発生時の資料採取の準備 364
- 7.1.1 ユーザーダンプの出力設定 364

8 JP1/Service Support の起動と終了 365

- 8.1 JP1/Service Support の起動 366
- 8.2 JP1/Service Support の終了 368
- 8.3 クラスタ運用時の JP1/Service Support の起動と終了 369
- 8.4 JP1/Service Support を自動起動する場合の注意事項 370

9 JP1/Service Support の環境構築 371

- 9.1 環境構築の流れ 372
- 9.2 ユーザーの作成 373
- 9.2.1 ユーザーの追加 373
- 9.2.2 ユーザー情報の編集 375
- 9.2.3 ユーザーの削除 377
- 9.3 ロールの作成 379
- 9.3.1 ロールの追加 379
- 9.3.2 ロールの編集 381
- 9.3.3 メンバーの追加 382
- 9.3.4 メンバーの削除 383
- 9.3.5 ロールの削除 383
- 9.4 対象システムの作成 385
- 9.4.1 対象システムの追加 385
- 9.4.2 対象システム情報の編集 386
- 9.4.3 対象システムの削除 388
- 9.5 プロセスのカスタマイズ 389
- 9.5.1 プロセス表示名の編集 389
- 9.6 プロセスワークボードの作成 390
- 9.6.1 プロセスワークボードの追加 390
- 9.6.2 プロセスワークボード情報の編集 395

- 9.6.3 プロセスワークボードの削除 396
- 9.6.4 プロセスワークボードの参照 397
- 9.7 アクセス権の割り当て 399
 - 9.7.1 アクセス権の追加 401
 - 9.7.2 アクセス権の削除 403
- 9.8 コマンドの自動実行スケジュールの設定 405
 - 9.8.1 案件情報の集計 (jssclectdata) 405
 - 9.8.2 期限前通知 (jssinformperiod) 405
 - 9.8.3 滞留案件通知 (jssinformleave) 406
 - 9.8.4 メールによる案件登録 (jssitementrybyemail) 407
- 9.9 案件フォームのカスタマイズ 409
 - 9.9.1 案件フォームのカスタマイズ手順 409
 - 9.9.2 案件フォーム情報の参照 410
 - 9.9.3 案件フォームの削除 411
 - 9.9.4 プロセスの標準案件フォームの設定 412
- 9.10 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ 413
 - 9.10.1 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ手順 413
 - 9.10.2 案件フォーム定義情報の参照 417
- 9.11 ステータスのカスタマイズ 419
 - 9.11.1 使用するステータスの選択 419
 - 9.11.2 ステータスの表示順序変更 423
 - 9.11.3 ステータス名称の編集 424
 - 9.11.4 ステータスの制限の設定 426
 - 9.11.5 エスカレーションの禁止の設定 427
- 9.12 案件を操作するための環境設定 429
- 9.13 案件ごとに参照権限を設定するための環境設定 432
- 9.14 定義ファイルによる環境設定 434
- 9.15 メールで案件を登録または通知するための環境設定 437
 - 9.15.1 メールで案件を登録するための環境設定 437
 - 9.15.2 メール通知するための環境設定 440
- 9.16 JP1 製品と連携するための環境設定 443
 - 9.16.1 JP1/IM - Manager と連携するための環境設定 443
 - 9.16.2 JP1/IM - View と連携するための環境設定 448
 - 9.16.3 JP1/NETM/AIM と連携するための環境設定 448
 - 9.16.4 JP1/UCMDB と連携するための環境設定 449
 - 9.16.5 JP1/NP と連携するための環境設定 450
 - 9.16.6 JP1/AO と連携するための環境設定 451
 - 9.16.7 JP1/ITDM2 - Asset Console と連携するための環境設定 452
 - 9.16.8 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携するための環境設定 452

- 9.16.9 JP1/PFM - Web Console と連携するための環境設定 453
- 9.16.10 シングルサインオンするための環境設定 455
- 9.17 JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報と連携するための環境設定 457
- 9.18 JP1/Service Support 以外のシステムからの案件データの移行 459
- 9.19 JP1/Service Support 以外のシステムからのユーザー情報の移行 461
- 9.20 既存の JP1/Service Support からのデータの移行 462

10 クラスタシステムでの運用と環境構築 464

- 10.1 クラスタ運用の概要 465
 - 10.1.1 クラスタシステムの概要 465
 - 10.1.2 クラスタ運用の前提条件 466
 - 10.1.3 JP1/Service Support をクラスタシステムで運用するための制限 468
 - 10.1.4 クラスタシステムでの JP1/Service Support の構成 469
- 10.2 クラスタ運用の環境設定（新規インストールからの環境構築） 473
 - 10.2.1 環境設定前に必要な作業 473
 - 10.2.2 環境設定の流れ 473
 - 10.2.3 インストール 474
 - 10.2.4 jsshasetupinfo.bat の編集 474
 - 10.2.5 クラスタソフトへのリソースの登録 476
 - 10.2.6 論理ホストのセットアップ（現用系） 477
 - 10.2.7 論理ホストのセットアップ（予備系） 477
 - 10.2.8 クラスタソフトへのサービスの登録 478
 - 10.2.9 認証サーバの設定 479
 - 10.2.10 ODBC の設定 480
 - 10.2.11 クラスタ環境でのマニュアルの組み込み手順 480
- 10.3 クラスタ運用の環境設定（物理ホストからの移行） 481
- 10.4 クラスタ環境での案件管理 DB のサイズ拡張 483
- 10.5 クラスタ環境での案件保存 DB の構築 485
 - 10.5.1 クラスタ環境での案件保存 DB のセットアップ 485
 - 10.5.2 クラスタ環境での案件保存 DB の拡張 486
- 10.6 クラスタ環境からの論理ホスト削除 488
- 10.7 クラスタ環境での JP1 イベントの発行 489
- 10.8 クラスタ環境でのバージョンアップ 491
 - 10.8.1 クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support のバージョンアップ手順 491
- 10.9 クラスタ環境でのアップグレード 497
 - 10.9.1 クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support のアップグレード手順 497
- 10.10 クラスタ環境でのインストール先マシンのリプレース 502
- 10.11 クラスタ運用時の注意事項 504

第5編 メンテナンス編

- 11 JP1/Service Support のメンテナンス 506
 - 11.1 定義情報のバックアップ・リカバリー 507
 - 11.1.1 定義情報のバックアップ 507
 - 11.1.2 定義情報のリカバリー 509
 - 11.2 データベースのメンテナンス 511
 - 11.2.1 案件管理 DB のバックアップとリカバリー 511
 - 11.2.2 案件管理 DB からの案件の一括削除 512
 - 11.2.3 案件管理 DB からのデータ削除 515
 - 11.2.4 案件管理 DB のサイズ拡張 515
 - 11.2.5 案件管理 DB の再編成 517
 - 11.2.6 案件管理 DB の空き領域解放 517
 - 11.2.7 案件管理 DB の初期化 518
 - 11.2.8 案件情報の再登録 518
 - 11.2.9 案件保存のための事前確認 522
 - 11.2.10 案件保存 DB の構築 522
 - 11.2.11 案件保存 DB の保存先の切り替え 523
 - 11.2.12 案件保存 DB の拡張 524
 - 11.2.13 案件保存 DB に案件を保存 526
 - 11.2.14 案件保存 DB 使用時のバックアップ 527
 - 11.2.15 案件保存 DB 使用時のリカバリー 527
 - 11.3 JP1/Service Support の環境見直し 531
 - 11.3.1 IP アドレスの変更 531
 - 11.3.2 ポート番号の変更 532
 - 11.3.3 ホスト名の変更 534
 - 11.3.4 システム日時の変更 538
 - 11.3.5 JP1/Service Support のインストール先フォルダの変更 539

第6編 リファレンス編

- 12 コマンド 540
 - コマンドの文法 541
 - コマンド一覧 543
 - 同時に実行できないコマンド 546
 - コマンド実行時のサービスの状態 547
 - jss_log.bat (資料採取) 550
 - jssaclexport (アクセス権情報エクスポート) 553
 - jssaclimport (アクセス権情報インポート) 558
 - jssauthusersetup (認証ユーザー設定) 561
 - jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え) 563

jsscollectdata (案件情報集計)	565
jssdelrec (案件管理 DB データ削除)	567
jssformcustomizer (案件フォーム定義ファイル編集)	569
jssformdef (案件フォーム登録)	570
jssinformleave (滞留案件通知)	572
jssinformperiod (期限前通知)	574
jssitemcount (案件数確認)	576
jssitemdeletion (案件一括削除)	579
jssitemedit (案件編集)	583
jssitementry (案件登録)	598
jssitementrybyemail (メールによる案件登録)	609
jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート)	612
jssitemhistory (案件履歴出力)	626
jssitemimport (案件情報インポート)	636
jssitemimportEx (案件情報拡張インポート)	639
jssitemlist (案件一覧出力)	643
jssmemberdelete (メンバー情報削除)	648
jssmemberimport (メンバー情報インポート)	650
jssmemberlist (メンバー一覧出力)	652
jssnodecount (管理ノード数のカウント)	655
jssrev (案件一括削除取り消し)	657
jssroleimport (ロール情報インポート)	659
jssroledlist (ロール一覧出力)	661
jssuseredit (ユーザー情報編集)	664
jssuserimport (ユーザー情報インポート)	666
jssuserlist (ユーザー一覧出力)	668
jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成)	672
jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)	675
jssdbinit.bat (データベース初期化)	680
jssdbreclaim.bat (案件管理 DB 空き領域解放)	682
jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)	683
jssdborg.bat (案件管理 DB 再編成)	688
jssdbstatchk.bat (データベース状態確認)	691
jsshadbinit.bat (クラスタ環境用データベース初期化)	695
jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ)	698
jsshaunsetup.bat (クラスタ環境用アンセットアップ)	702
jssitemstore (案件保存)	704
jssitemstoredbexpand.bat (案件保存 DB 領域拡張)	708
jssitemstoredbrotate (案件保存 DB 切り替え)	712
jssitemstoredbsetup.bat (案件保存 DB セットアップ)	714
jssrefacsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ)	717
jsssetup.bat (セットアップ)	719
jssstoreitemdel.bat (保存案件一括削除)	723
jssunsetup.bat (アンセットアップ)	725
コマンドプロンプトを使用したコマンドの実行方法	727

定義ファイル 729

定義ファイルの説明形式	730
定義ファイル一覧	731
定義ファイル変更時の定義内容の反映時期	735
CSV カラム名マッピングファイル (jp1imss_itemcsv_columnmap.conf)	739
CSV 設定ファイル (hptl_jp1_imss_csv_setting.properties)	746
JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル (hptl_jp1_imss_ua_conf.properties)	748
JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties)	751
JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jp1event_setting.properties)	754
URL 定義ファイル (jsslogin.url)	757
アクセス権情報入力ファイル (任意)	759
案件検索用の案件フォーム定義ファイル (任意)	764
案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties)	769
案件自動入力プロパティファイル (jp1imss_itementry_default.conf)	774
案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties)	778
案件情報入力ファイル (任意)	786
案件情報拡張入力ファイル (任意)	793
案件フォーム定義ファイル (任意)	808
案件保存 DB 拡張情報設定ファイル (jssitemstoredbexpandinfo.bat)	833
案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (jssitemstoredbinfo.bat)	835
関連情報定義ファイル	837
関連リンクプロパティファイル (hptl_jp1_imss_link_setting.properties)	839
機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties)	842
コードマッピングファイル (jp1imss_itemedit_codemap.conf)	845
コードマッピングファイル (jp1imss_itementry_codemap.conf)	854
コードマッピングファイル (jp1imss_itemimport_codemap.conf)	859
システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)	868
ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jp1_imss_jp1event_status.properties)	890
操作ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_access_log.properties)	898
滞留案件定義ファイル (jp1informleave_setting.conf)	900
タスク実行サービス定義ファイル (jp1imss_service_setting.conf)	904
入力候補値設定ファイル (任意)	908
入力補助機能プロパティファイル (hptl_jp1_imss_input_assist_plugin.properties)	918
メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_main_log.properties)	920
メール定義ファイル (jp1imss_mail_setting.conf)	922
メンバー情報入力ファイル (任意)	961
文字列置換設定ファイル (jp1imss_replace_string_setting.conf)	963
ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties)	965
ユーザー情報入力ファイル (任意)	969
ユーザー情報編集ファイル (任意)	972
ユーザーログ定義ファイル (jp1acllexport.conf)	975
ユーザーログ定義ファイル (jp1aclimport.conf)	977
ユーザーログ定義ファイル (jp1authusersetup.conf)	979
ユーザーログ定義ファイル (jp1informleave.conf)	981

ユーザーログ定義ファイル (jp1informperiod.conf)	983
ユーザーログ定義ファイル (jp1itemcount.conf)	985
ユーザーログ定義ファイル (jp1itemedit.conf)	987
ユーザーログ定義ファイル (jp1itementry.conf)	989
ユーザーログ定義ファイル (jp1itementrybymail.conf)	991
ユーザーログ定義ファイル (jp1itemexportEx.conf)	993
ユーザーログ定義ファイル (jp1itemimportEx.conf)	995
ユーザーログ定義ファイル (jp1itemstore.conf)	997
ユーザーログ定義ファイル (jp1itemstoredbrotate.conf)	999
ユーザーログ定義ファイル (jp1mailnotification.conf)	1001
ユーザーログ定義ファイル (jp1refaclsetup.conf)	1003
ロール情報入力ファイル (任意)	1005

14 メッセージ 1007

14.1	メッセージの出力先	1008
14.2	イベントログの一覧	1036
14.2.1	JP1/Service Support が出力する Windows イベントログ	1036
14.2.2	JP1/Service Support のデータベースがイベントログに出力するメッセージ	1036
14.3	メッセージの形式	1039
14.3.1	メッセージの出力形式	1039
14.3.2	メッセージの記載形式	1039
14.4	画面操作時 (ユーザー管理, ロール管理) のメッセージ (KNAB00002~KNAB05059)	1041
14.5	画面操作時 (案件管理) のメッセージ (KNAB10005~KNAB16008)	1049
14.6	セットアップ・コマンド実行時のメッセージ (KNAB20001~KNAB28125)	1083
14.7	案件フォーム定義ファイル編集時のメッセージ (KNAB30002~KNAB30214)	1226
14.8	インストール実行時のメッセージ (KNAB99001~KNAB99099)	1233

第7編 トラブルシューティング編

15 トラブルシューティング 1245

15.1	対処の手順	1246
15.2	ログ情報の種類	1247
15.2.1	共通メッセージログ	1247
15.2.2	統合トレースログ	1247
15.2.3	公開ログ	1249
15.2.4	プロセス別トレースログ	1250
15.3	トラブル発生時に採取が必要な資料	1251
15.3.1	OS のシステム情報	1251
15.3.2	JP1 の情報	1252
15.3.3	オペレーション内容	1252
15.3.4	画面上のエラー情報	1253

15.4	資料の採取	1254
15.4.1	資料採取ツールを実行する	1254
15.4.2	オペレーション内容を確認する	1254
15.4.3	画面上のエラー情報を採取する	1254
15.5	トラブルへの対処方法	1255
15.5.1	想定されるトラブル一覧	1255

付録 1265

付録 A	ファイル一覧	1266
付録 A.1	JP1/Service Support で使用するファイルおよびフォルダの一覧	1266
付録 A.2	JP1/Service Support が出力するログファイルの一覧	1271
付録 B	プロセス一覧	1281
付録 C	ポート番号一覧	1282
付録 C.1	JP1/Service Support が使用するポート番号	1282
付録 C.2	ファイアウォールの通過方向	1282
付録 D	制限値一覧	1283
付録 E	JP1 イベント	1285
付録 E.1	JP1 イベント一覧	1285
付録 E.2	JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携できる JP1 イベント	1288
付録 F	操作ログの出力	1290
付録 F.1	操作ログに出力される事象の種別	1290
付録 F.2	操作ログの保存形式	1290
付録 F.3	操作ログの出力形式	1291
付録 F.4	操作ログが出力される契機	1293
付録 F.5	操作ログを出力するための設定	1294
付録 G	サンプルデータの登録	1295
付録 G.1	サンプルデータの概要	1295
付録 G.2	サンプルデータのセットアップ手順	1300
付録 G.3	レポート用のサンプルデータ	1301
付録 H	各バージョンの変更内容	1303
付録 H.1	12-00 の変更内容	1303
付録 H.2	11-50 の変更内容	1303
付録 H.3	11-10 の変更内容	1303
付録 H.4	11-00 の変更内容	1304
付録 H.5	10-50 の変更内容	1311
付録 H.6	10-10 の変更内容	1316
付録 H.7	10-00 の変更内容	1318
付録 H.8	09-50 の変更内容	1318
付録 H.9	09-00 の変更内容	1320

付録 I	このマニュアルの参考情報	1321
付録 I.1	関連マニュアル	1321
付録 I.2	このマニュアルでの表記	1321
付録 I.3	このマニュアルで使用する英略語	1323
付録 I.4	KB (キロバイト) などの単位表記について	1324
付録 J	用語解説	1325

索引 1336

1

JP1/Service Support の概要

この章では、JP1/Service Support の概要について説明します。

また、JP1/Service Support を利用した案件解決の流れについても説明します。

1.1 JP1/Service Support とは

JP1/Service Support は、ITIL (IT インフラストラクチャ・ライブラリ) の考えに基づき、IT サービス管理でのサービスサポートに沿った運用の負荷軽減、効率向上を目的として開発された製品です。ITIL とは、近年、欧州を中心に普及してきた IT システムの構築・運用業務を体系化したガイドラインのことです。

JP1/Service Support を使用することで、ITIL の考えに基づいた構築・運用業務の流れを可視化でき、構築・運用業務に携わる担当者は構築・運用業務に関する情報を共有できます。また、業務に関する情報が参照できるユーザーを、アクセス権によって限定できるため、共有する情報を統制できます。

この節では、IT サービス管理でのサービスサポートの役割について説明したあと、JP1/Service Support を利用したサービスサポートの運用支援について説明します。

1.1.1 IT サービス管理でのサービスサポートの役割

近年、IT 技術の進歩は著しく、企業ビジネスでの IT 資産の活用は、必要不可欠なものとなっています。ハードウェアやソフトウェア、それらをつなぐネットワークといった IT システムは急速に普及し、年々大規模化・複雑化しています。これに合わせ、企業ビジネスやサービスの遂行を支援するために、IT システムの運用を、投資するコストに見合った品質で管理する **IT サービス管理** という考え方があります。

IT サービス管理とは、IT システムの管理に加え、システムを利用するユーザーとの関係、運用に携わるスタッフやリソースまでを **プロセス** (一つの活動) として管理する考え方です。

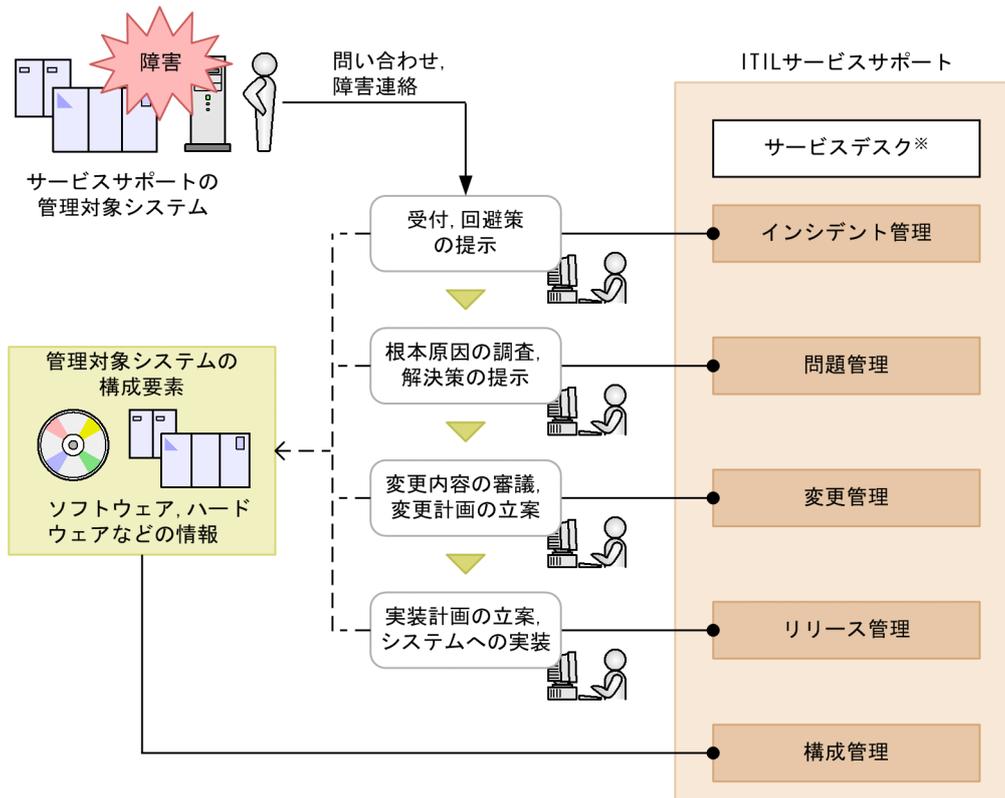
ITIL では、IT サービス管理の中心となるプロセスを、**サービスサポート** および **サービスデリバリー** というカテゴリで定義しています。サービスサポートは、システムを利用しているユーザーからの問い合わせやシステム障害など、日々発生する問題をどのように素早く対処していくかを目指しているものです。サービスデリバリーは、一貫したサービスを中長期にわたり、ユーザーに提供することを目指しているものです。ここでは、サービスサポートについて詳しく説明していきます。

通常、IT システムの日々の運用では、システムを利用するユーザーからの問い合わせやシステム障害に対し、迅速な対応が求められます。しかし、回避策を早急に提示する必要がある一方で、根本原因の究明と、必要に応じてシステム変更などの抜本的な対策を立てる必要もあります。これらを単一部署で実施しようとすると、かえって無理が生じ、対応の遅れが発生する要因となることがあります。

作業の効率化、アウトプットの迅速化を図るため、ユーザーへの回避策を提示するプロセス、根本原因を調査、解決策を提示するプロセス、システムの変更の審議、計画立案をするプロセスなど、作業内容に合わせてプロセスを分け、問題を解決する手法があります。

ITIL に当てはめると次の図のようになります。

図 1-1 ITIL サービスサポートでの作業の概要



(凡例)

- ▶ : 解決困難なものは次のプロセスに対応を依頼
- -> : 必要に応じて参照される情報
- : ITILで定義されているプロセス

注※ サービスデスクはサービスサポートでの単一窓口を表しています。これはプロセスではありません。

ITIL で定義されている各プロセスについて次に説明します。

インシデント管理

ユーザーからの問い合わせやシステムの正常な運用を妨げる事象をインシデントとして管理します。問い合わせに対しては適切な回答を、また、事象に対しては回避策を早急に提示します。

インシデント管理プロセスで対応困難なものについては問題管理プロセスに対応を依頼します。

問題管理

問い合わせやシステム障害などを機に、原因追求が必要と判断したものを問題点として管理します。問題点の根本原因を調査し、恒久的な解決策を導き出します。

このとき、インシデント管理プロセスへのフィードバックが必要であればインシデント管理プロセスに対応を依頼します。また、ユーザーに提供しているドキュメントやシステム自体に変更が必要であれば、**変更要求 (RFC)** を発行し、変更管理プロセスに対応を依頼します。

変更管理

変更要求の発行を受け、変更による障害発生リスクや業務への影響度を考慮に入れた上で、変更内容の審議と変更計画の立案をします。この審議、変更計画の立案には、システム構築、運用に携わる有識者

やシステムの利用ユーザーなどが加わります。これを ITIL では**変更諮問委員会 (CAB) メンバー**と呼び、審議、変更計画の立案をする会議を**変更諮問委員会 (CAB) 会議**と呼びます。

会議の結果、変更計画が決まれば、リリース管理プロセスに連絡、対応を依頼します。また、問題管理プロセスに、変更要求の結果を連絡します。

リリース管理

変更計画に基づき、対象システムに対する実装計画を立てます。また、実装計画に基づき、構築、テスト、実装を実施します。

実装したあとは、変更管理プロセス、構成管理プロセスに実装したことを連絡します。

構成管理

管理の対象となっているシステムの構成情報を管理します。構成情報には、ハードウェア、ソフトウェアなどの情報が蓄積・関連づけられ、ほかのプロセスから必要に応じて参照されます。

なお、リリース管理プロセスによってシステム変更が実施された場合には、構成管理プロセスの対応者が最新の構成情報に更新する必要があります。

1.1.2 JP1/Service Support によるサービスサポートの運用支援

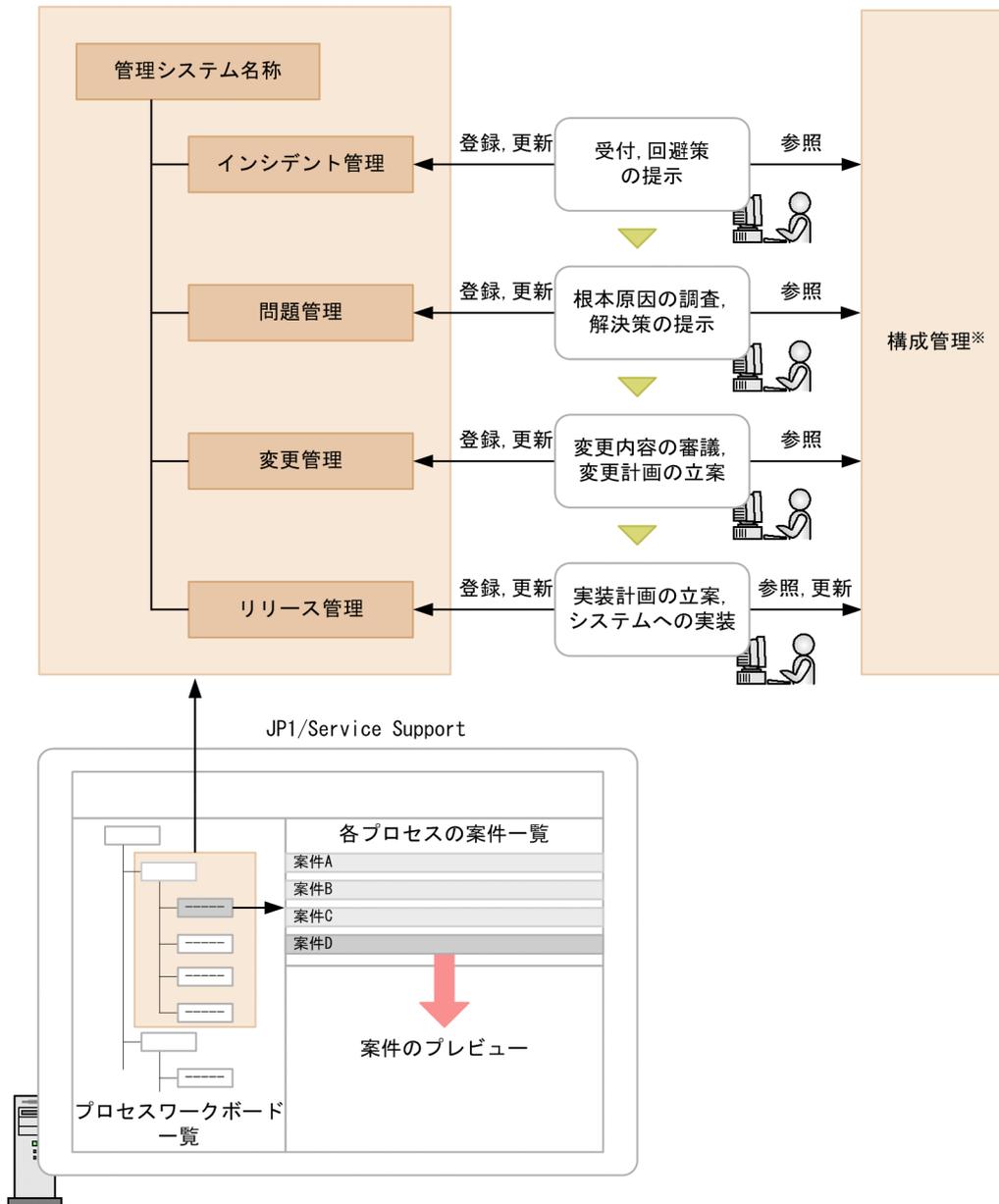
JP1/Service Support では、ユーザーからの問い合わせやシステムで発生した障害、そこから派生する問題、検討課題などを、解決が必要な**案件**として一元管理できます。

これらの案件は、サービスサポートのプロセスに沿った形で可視化されます。これによって、各プロセスでの作業者は、どのような案件が発生しているか、また、自身がいつまでに何をする必要があるかを、JP1/Service Support を参照することで把握できます。

JP1/Service Support によるサービスサポートの運用支援を次の図に示します。

図 1-2 JP1/Service Support によるサービスサポートの運用支援

サービスサポートに沿った運用の流れ



(凡例)

▶ : 解決困難なものは次のプロセスに対応を依頼

■ : ITILで定義されているプロセス

□ : プロセスワークボード

注※ 構成管理は連携製品 (JP1/NETM/AIM) の機能を利用します。

JP1/Service Support では、管理の対象となるシステムとそのシステムでのプロセスを分類、管理する場所としてプロセスワークボードを用意しています。プロセスワークボード一覧で管理の対象となるシステムとプロセスを明示し、プロセスごとに案件を管理します。各プロセスの案件は一覧表示でき、各案件のプレビューを表示することもできます。

これによって、JP1/Service Support にアクセスするユーザーは、自身の作業状況の管理だけでなく、ほかの作業者の作業状況やほかのプロセスでの案件発生、対応状況などを確認でき、自身が対応している案件の参考となる情報を共有できます。

また、登録された案件の内容や作業履歴を出力し、管理の対象となるシステムの弱点や運用でのボトルネックを分析できます。

1.2 JP1/Service Support の特長

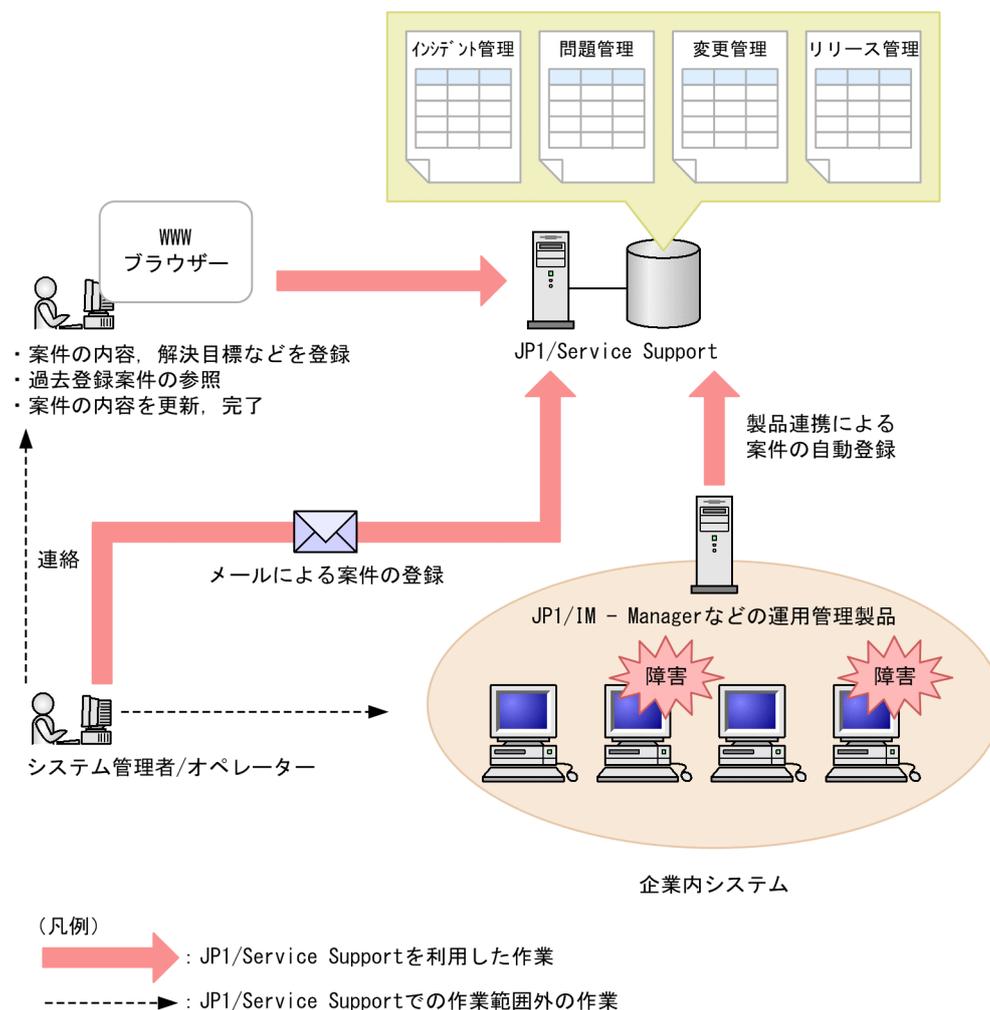
ここでは、JP1/Service Support の特長を説明します。

1.2.1 ユーザーからの問い合わせやシステム障害を解決が必要な案件として一元管理

ユーザーからの問い合わせやシステム内で発生した障害事象，そこから派生するさまざまな問題を，解決が必要な案件として登録，一元管理できます。

案件の一元管理の概要を次の図に示します。

図 1-3 案件の一元管理の概要



案件は、WWW ブラウザー，コマンドまたはメールを使って登録できます。WWW ブラウザーは主にユーザーからの問い合わせを受けたとき，コマンドは主にシステム障害時にその障害を案件として自動登録するとき，メールは JP1/Service Support にログインしないで簡単に案件を登録したいときなどに使用

します。なお、システム障害を検知して自動で JP1/Service Support に案件として登録する場合は、JP1/IM - Manager などの運用管理製品と連携する必要があります。

登録された案件は、**案件管理 DB** と呼ばれるデータベースで一元管理されます。案件管理 DB に登録された案件は、WWW ブラウザーから参照、更新できます。更新すると、古い情報は履歴として案件管理 DB に蓄積され、その案件に対する作業履歴として、あとから参照できます。また、案件管理 DB の容量不足で管理できなくなった過去の大量案件を、**案件保存 DB** と呼ばれるデータベースに保存できます。案件保存 DB は、二つの保存エリアから構成されます。一つの保存エリアが満杯になった場合、案件の保存先をもう一つの保存エリアに切り替えることができます。このため、案件数の増加に伴って柔軟に対応できます。なお、案件保存 DB に格納された案件（**保存案件**）は、案件管理 DB に登録された案件（**管理案件**）と同様に、WWW ブラウザーから参照できます。案件管理 DB と案件保存 DB で管理する情報、および案件保存 DB の構成を、次の図に示します。

図 1-4 案件管理 DB と案件保存 DB で管理する情報

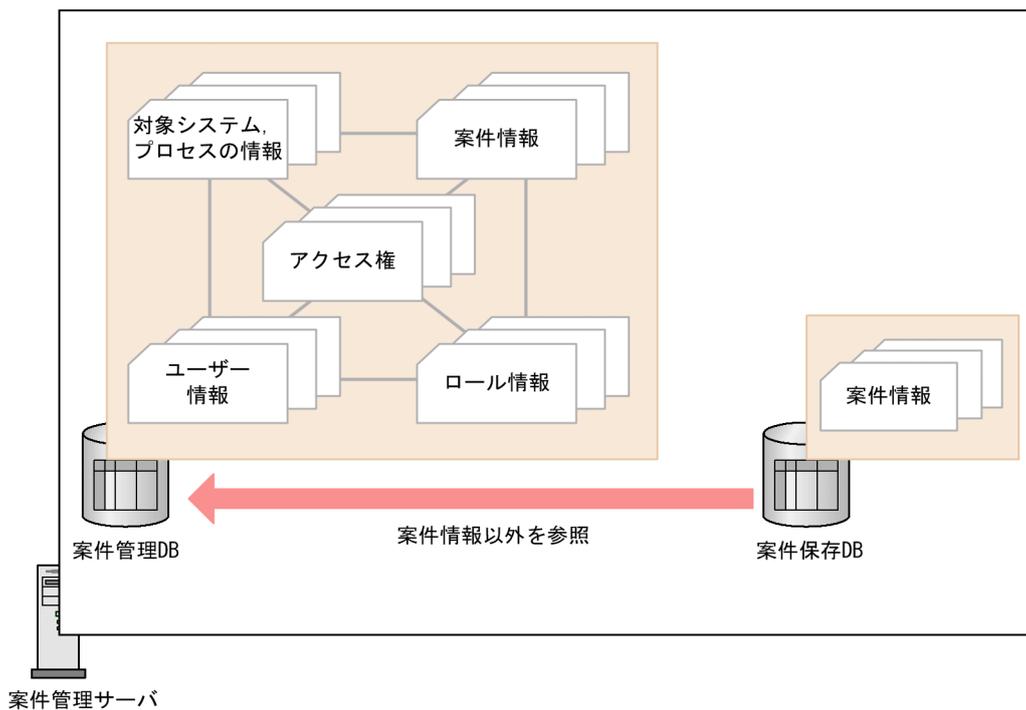
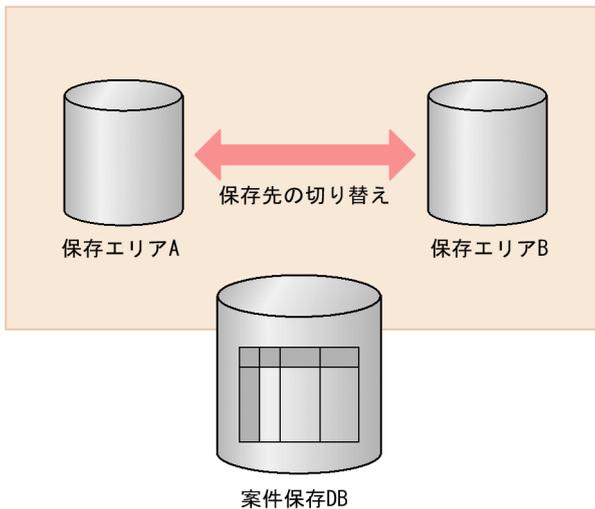


図 1-5 案件保存 DB の構成



WWW ブラウザー上で案件は、システム、プロセスごとに分類された状態で表示され、フィルタリング機能によって必要な案件だけを表示できます。また、解決期限が近づいている案件を、関係者にメールで通知することもできます。これらの機能によって JP1/Service Support を使用するユーザーは、案件の登録状況や解決状況を簡単に把握でき、案件を解決する活動に専念できます。

📄 メモ

JP1/Service Support では、プロセスごとに入力項目の異なる、案件情報入力用のテンプレートを用意しています。これは、各プロセスで管理が必要な情報が異なるためです。

このマニュアルでは、これらのテンプレートのことを**案件フォーム**と呼びます。案件フォームは、ユーザーの運用に合わせてカスタマイズできます。また、案件のステータスもカスタマイズできるので、運用に合わせて案件を処理する流れも変更できます。

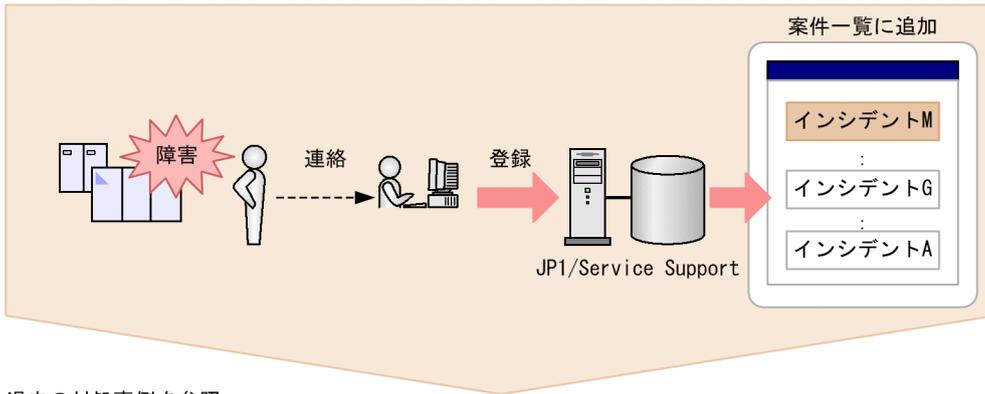
1.2.2 過去の事例を基にした素早い回避策の提示を支援

過去に発生した案件の対処事例を参照することで、障害要因の一次切り分けや対処方法の調査に掛かる時間を短縮でき、障害や問い合わせに対し、素早く対処できます。

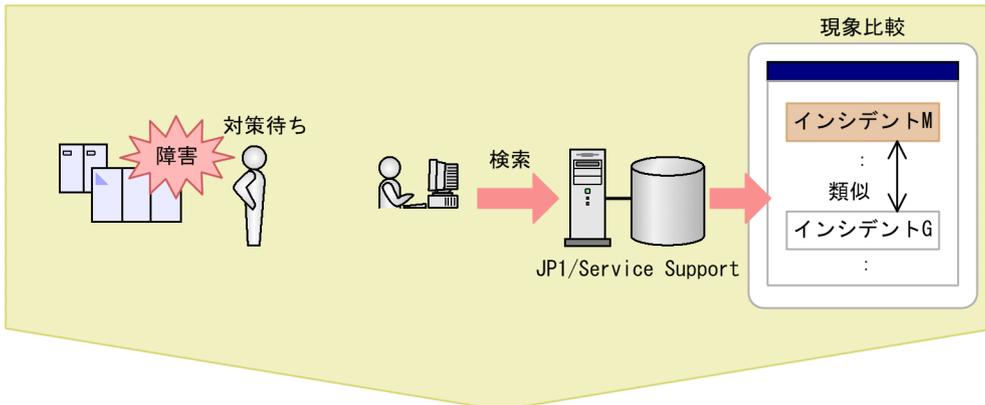
過去の対処事例を基にした案件の対処例を次の図に示します。

図 1-6 過去の対処事例を基にした案件の対処例

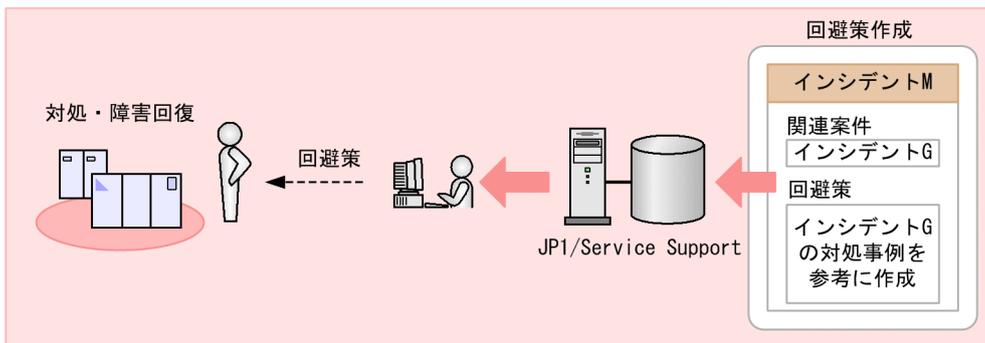
インシデントの登録



過去の対処事例を参照



過去の対処事例を参考に回避策を提示、障害回復



(凡例)

- : JP1/Service Supportを利用した作業
- > : JP1/Service Supportでの作業範囲外の作業

障害連絡を受けた場合、作業履歴として残すため、必ず JP1/Service Support に登録します。登録後、調査を開始し、類似案件が過去に発生していないか検索します。JP1/Service Support では、案件の発生日時や優先度、担当者の作業状況など、案件のさまざまな属性を条件に指定して、検索条件に一致する案件だけを表示できます。

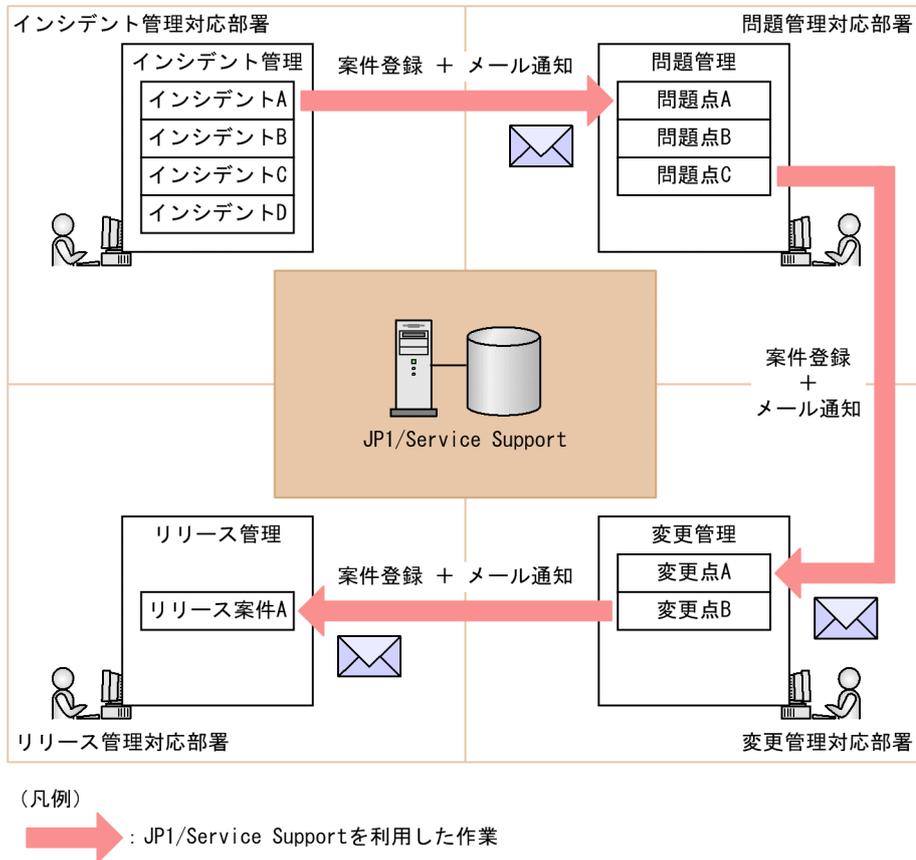
検索した結果、類似案件があった場合は、そのときの対処事例を参考に今回の対処を作成します。また、関連案件として類似案件を追記します。JP1/Service Support での作成完了後、回避策を連絡者に提示し、対処してもらいます。

1.2.3 案件の内容に応じて別プロセスに対応依頼

案件の内容に応じてほかのプロセス対応部署にその案件の対応を依頼できます。対応依頼時に自動でメール通知するなど、ほかのプロセス対応部署へのスムーズな引き継ぎを支援します。

案件の対応依頼例を次の図に示します。

図 1-7 案件の対応依頼例



登録された案件から該当する案件だけを選択、別プロセスに登録することで、別プロセスの担当者に対応を依頼できます。また、そのときに別プロセスの担当者にメールを自動送信できます。

JP1/Service Support では、これを案件のエスカレーションと呼びます。案件のエスカレーションでは、依頼先の部署で必要になると思われる案件情報をそのまま引き継ぎます。また、エスカレーションした案件は、関連案件として依頼先部署での作業状態を確認できます。

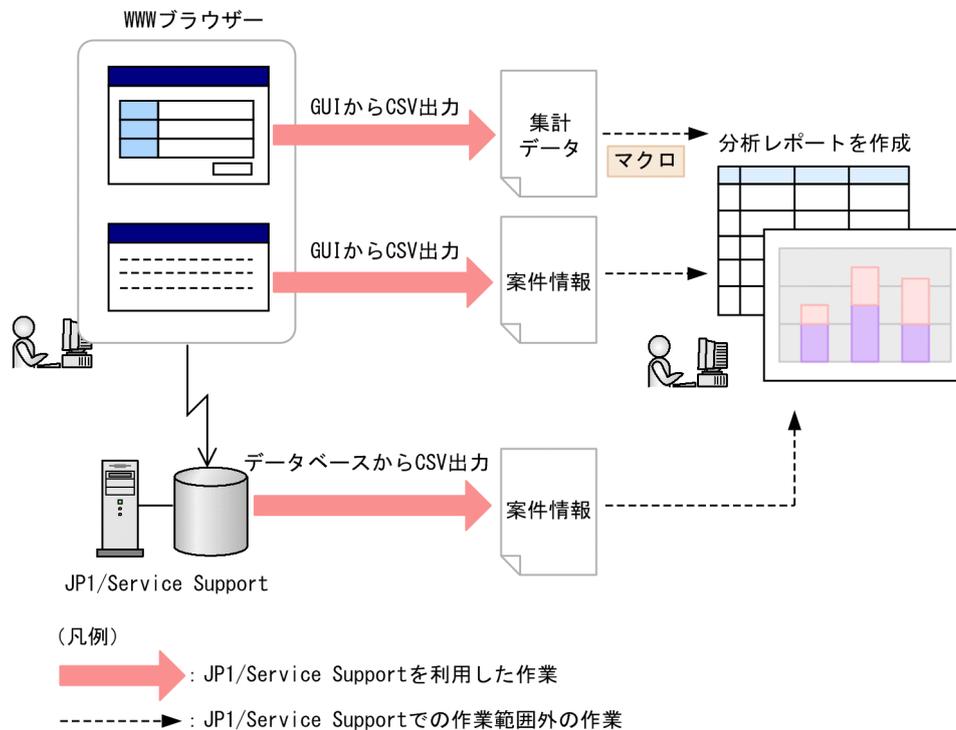
1.2.4 案件の発生から解決までの運用プロセスの改善を支援

蓄積した案件の情報は、CSV ファイルに出力できます。出力した CSV ファイルは、問い合わせや障害の発生傾向の分析などに利用できます。日、週、月単位での案件の発生頻度や、案件が多発するシステムを分析することで、システムの根本的な問題の解決を支援します。

また、案件の受付時間、案件の調査や対処に掛かった時間などを分析することで、解決が遅延した原因として、対処人員や対処方法に問題がなかったかを調べられます。

蓄積した案件の情報を基に、分析レポートを作成する場合の例を次の図に示します。

図 1-8 案件の情報の分析レポートへの利用



CSV ファイルに出力できる案件の情報は、案件数の集計データおよび案件情報の 2 種類です。案件数の集計データは、GUI から CSV ファイルに出力できます。なお、CSV ファイルに出力した集計データから分析レポートを作成するとき、JP1/Service Support がサンプルで提供しているマクロを利用することもできます。

案件情報は GUI またはコマンドを使って、CSV ファイルに出力できます。表計算ソフトや分析ツールなどを使って、出力した CSV ファイルを分析レポートとして利用します。

1.2.5 各プロセスで対応する作業担当者の管理

JP1/Service Support は、JP1/Service Support を操作するユーザーのために、次の三つの管理機能を用意しています。これらを組み合わせて使用することで、適切な権限を、作業担当者ごとに与えることができます。

(1) ユーザー情報の管理

JP1/Service Support には、JP1/Service Support を操作するユーザーの情報を管理する機能があります。JP1/Service Support にログインするために必要となるユーザー ID やパスワードのほか、所属組織やメールアドレス、電話番号など、ユーザー個々の情報も管理できます。

(2) ロールの管理

JP1/Service Support で管理するユーザーを、JP1/Service Support での作業分担に合わせてグループ化できます。これを**ロール**と呼びます。

ロールを定義することで、ロール単位で操作対象にアクセス権限を割り当てられます。

例えば、チームを組んで A システムのインシデント対応をする場合、「A システム-インシデント担当」のようなロールを作ることで、複数人が共通の権限で作業に当たれます。

なお、ロールには、ユーザーが作成、定義できるユーザー作成ロールと、システムで定義されているシステムロールの 2 種類があります。ユーザー作成ロールは上記例のように運用に合わせてユーザーが作成するロール、システムロールは JP1/Service Support の環境を構築する際に利用するロールです。

(3) アクセス権の管理

JP1/Service Support では、個々のユーザー、ロールに対し、各プロセスで管理される案件へのアクセス権を細かく割り当てられます。

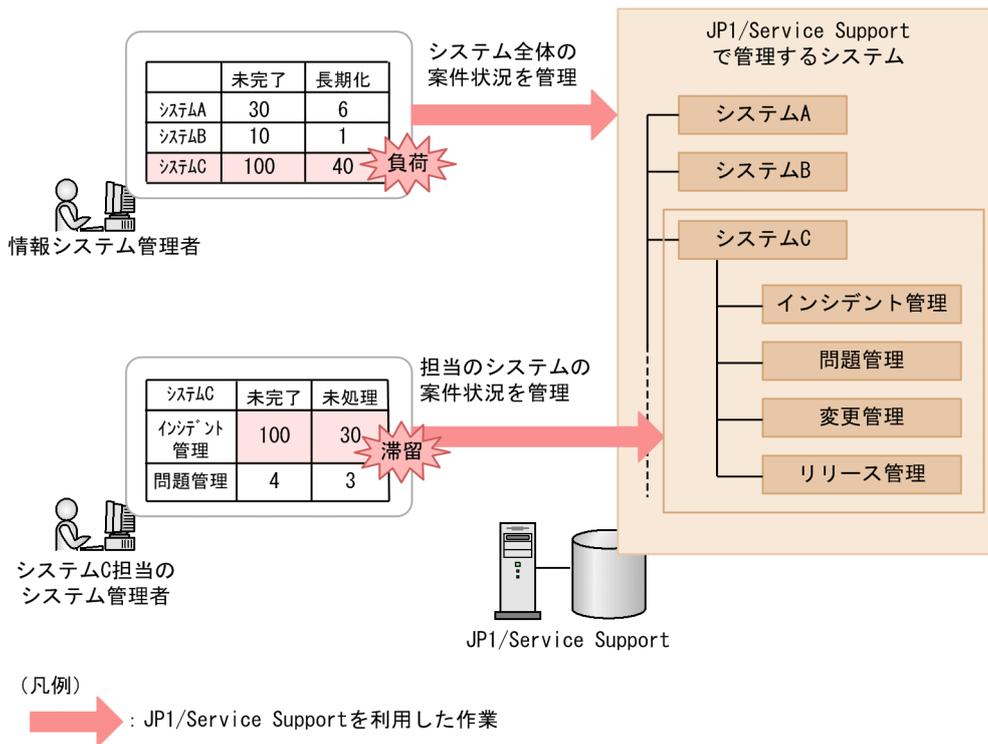
例えば、インシデント担当部署のメンバーには、インシデント管理プロセスでのフルコントロール権限を、問題管理などのほかのプロセスには参照権限だけを割り当てるといった運用ができます。また、各プロセス内でも担当者には案件の作成、編集権限を、管理者には審査、承認権限を、といった細かな権限割り当てができます。

1.2.6 システム全体の案件の状況を管理

案件管理 DB で一元管理している案件の情報を基に、システム全体の案件の状況を管理できます。案件の状況は、プロセスごとに案件の状態別に集計されます。この集計結果から、JP1/Service Support 上で処理されている案件の状況を、一括して管理できます。

また、案件の状況は、各ユーザーのアクセス権限に応じて表示される内容を制限できます。そのため、それぞれの作業分担に合った集計結果から、案件が滞留しているプロセスや、処理期限の迫っている案件を確認することもできます。作業分担に応じた案件状況の管理について、次の図に示します。

図 1-9 作業分担に応じた案件状況の管理



JP1/Service Support で管理するシステム全体の案件状況を管理する情報システム管理者は、全システムの案件の集計結果を参照します。情報システム管理者は、各システムの状況を比較して、特定のシステムに集中している負荷の分散を図るなど、システムの問題点を解消できます。

また、システム C 担当のシステム管理者は、自分の管理しているシステムの案件の集計結果を参照します。システム C のシステム管理者は、インシデント管理のプロセスで未処理案件が滞留していることを確認して、プロセスワークボード管理者に解決を指示できます。

1.3 JP1/Service Support の運用例

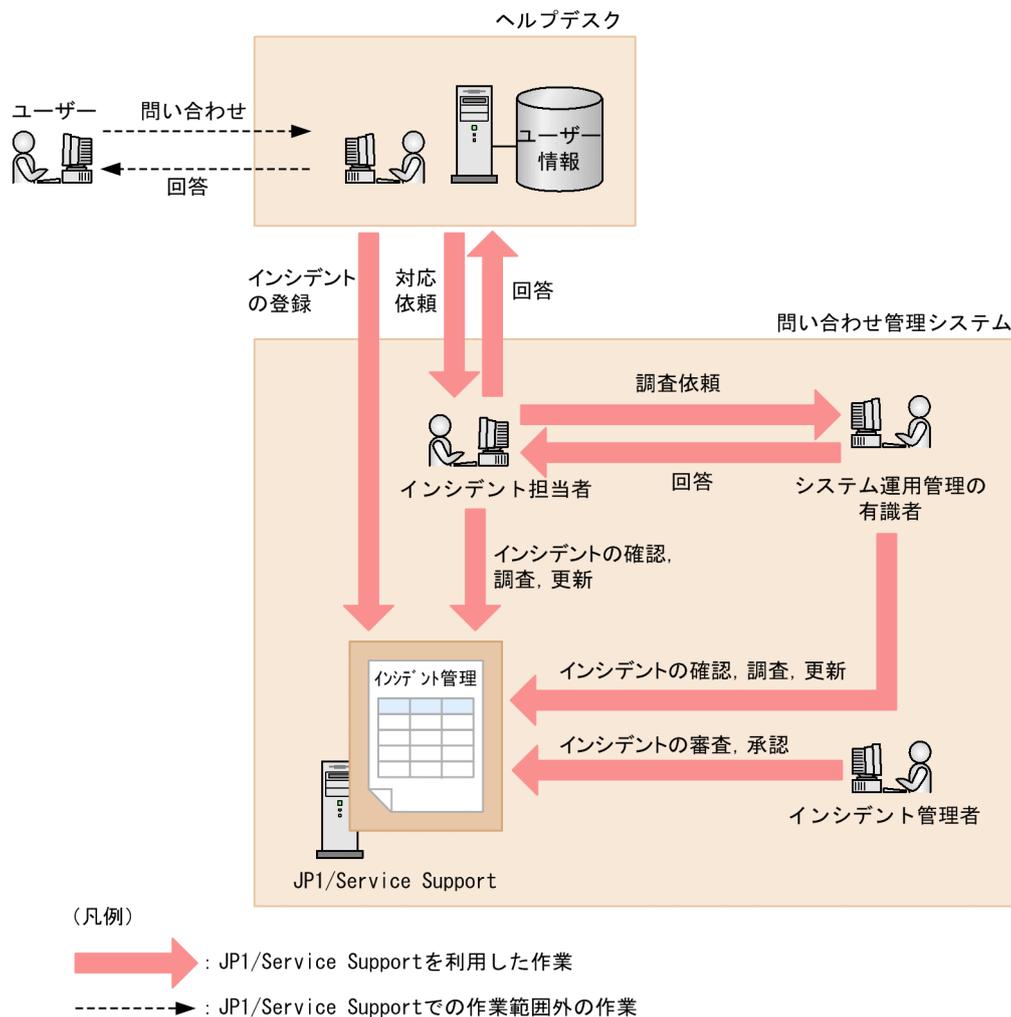
ここでは、JP1/Service Support の運用例を紹介します。

1.3.1 問い合わせ管理システムとしての運用

システム障害や運用に関するユーザーからの問い合わせを、解決が必要な案件（インシデント）として、企業内で共有、管理できます。

運用例を次の図に示します。

図 1-10 問い合わせ管理システムとしての運用例



ヘルプデスクがユーザーからの問い合わせを受け、その問い合わせをインシデントとして登録し、対応をインシデント担当者に依頼します。

インシデント担当者は、インシデントの内容を確認し、過去に類似案件がなかったかどうかを自身で調査するとともに、システム運用管理の有識者にも対応を依頼します。有識者は、インシデントの内容を確認し、調査結果をインシデントに追記、更新します。

インシデント担当者は、調査結果を基にインシデントの内容を更新し、インシデント管理者に承認を依頼します。インシデント管理者は、内容を確認したあと、承認します。

承認を受けたあと、インシデント担当者は、インシデントの内容を回答としてヘルプデスクに返信します。ヘルプデスクは、インシデント担当者からの回答を基にユーザーに回答します。

補足

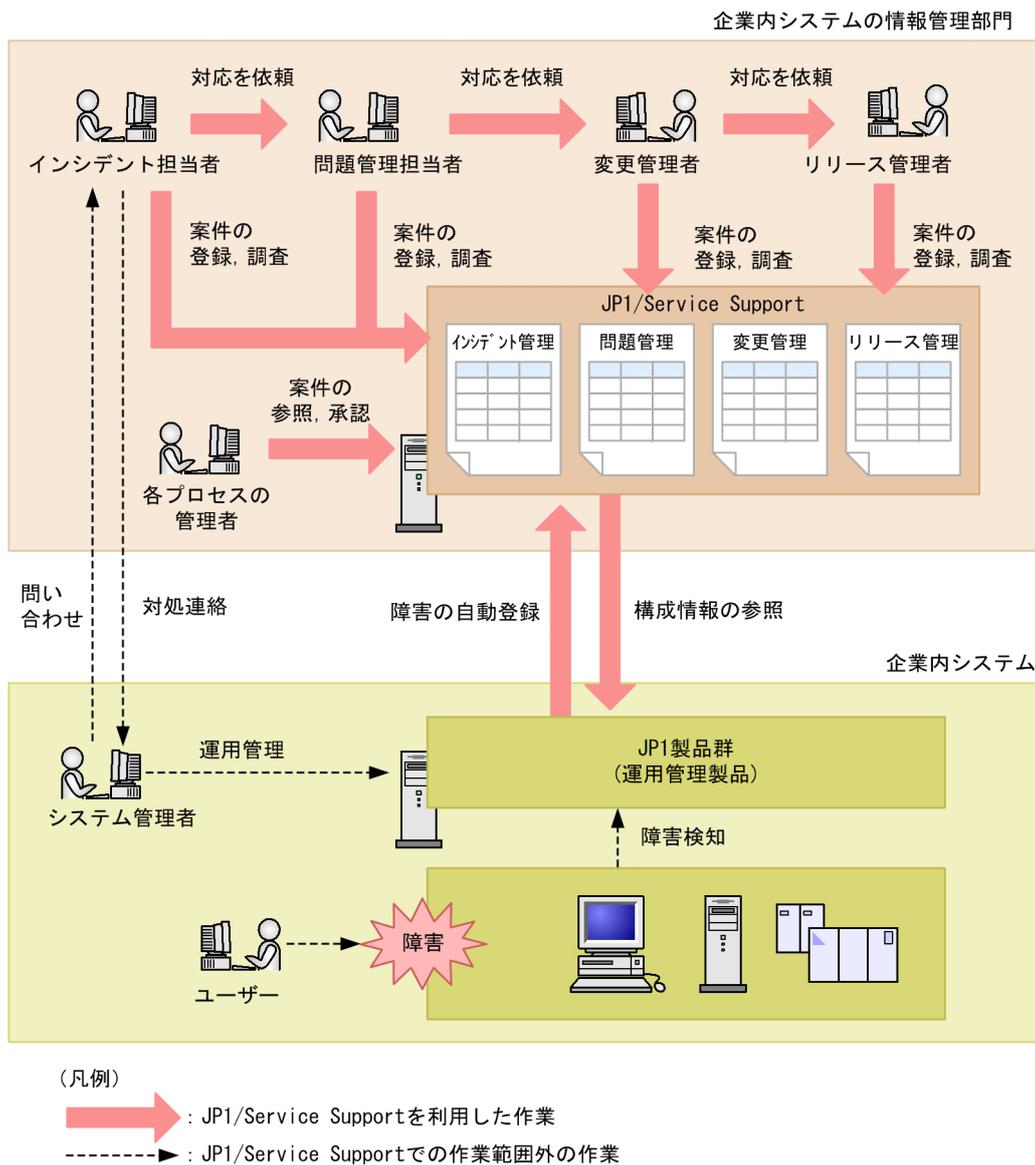
- JP1/Service Support の機能を使うことで、対応者間の連絡も、インシデントの対応の流れでスムーズに実施できます。
- JP1/Service Support では管理の対象となるシステムを利用しているユーザーの情報を管理する機能をサポートしていません。ヘルプデスクのような別システムでの管理が必要となります。

1.3.2 企業内システムの運用管理

企業内システムのインシデント管理、問題管理、変更管理、リリース管理をする情報管理部門で利用できます。また、JP1 製品と連携することで、企業内システム全般の案件管理に利用できます。

運用例を次の図に示します。

図 1-11 企業内システムの情報管理部門での運用例



この運用例では、企業内システムの障害をシステム管理者が検知し、情報管理部門に問い合わせをしています。また、JP1 製品群からも JP1/Service Support に対し、障害発生を通知しています。

インシデント担当者は、システム管理者からの問い合わせを基に、JP1/Service Support に自動登録された案件を確認し、調査を開始します。対応困難なものであれば、次の問題管理担当者に依頼します。また、問題管理担当者は、必要に応じて次のプロセスへと対応を依頼していきます。

各プロセスでの作業内容と作業状況は、JP1/Service Support に記録されます。また、このとき、必要に応じて各プロセスの管理者に作業内容の承認をしてもらいます。

最終的には、システム管理者への連絡は、各作業担当者、管理者からするのではなく、インシデント担当者が窓口となって連絡します。

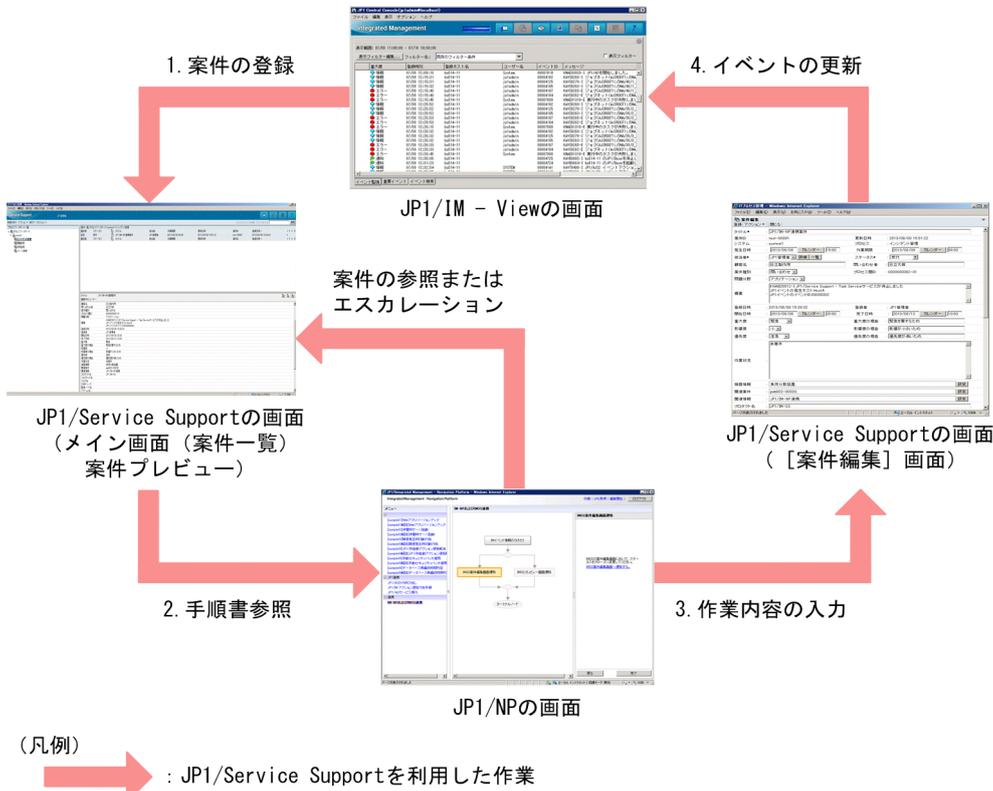
事象の発生から解決までの流れについては、「1.4 JP1/Service Support を利用した案件解決の流れ」で詳しく説明します。

1.3.3 インシデントの登録および作業の効率化

障害が発生した場合、インシデントを案件として登録し、運用手順に基づき作業します。その際、JP1/IM - View (JP1/IM - Manager) や JP1/NP と連携することで、作業の効率化を図れます。なお、JP1/NP と連携することで、シングルサインオンで該当する JP1/NP の運用手順の画面を表示できます。

運用例を次の図に示します。

図 1-12 インシデントの登録および作業を効率化するための運用例



1. JP1/IM - View の画面から案件を登録するため、JP1/Service Support の画面を呼び出します。

なお、JP1/IM - Manager の自動アクションを利用して JP1/Service Support に案件を登録することもできます。

2. JP1/Service Support の画面から、案件に対する運用手順を参照するため、JP1/NP の画面を呼び出します。

3. JP1/NP の画面から案件を処理するため、JP1/Service Support の画面を呼び出します。

その際、案件の作業に対して、呼び出す画面を選択できます。

案件を参照する場合

メイン画面 (案件一覧) の案件プレビューを呼び出して、案件を参照してください。

案件をエスカレーションしたい場合

メイン画面 (案件一覧) の案件プレビューを呼び出して、この画面から案件をエスカレーションしてください。

次の手順に移りたい場合

[案件編集] 画面を呼び出して、作業内容を入力してください。

4. 案件のステータスを「クローズ」にした場合、JP1/IM - Manager の自動アクション機能によって、自動的に JP1/IM - View に表示されたイベントが「対処済み」に変更されます。

該当する JP1/NP の画面を表示するには、JP1 イベントが必要です。JP1 イベントがない場合は、JP1/NP の画面を表示できません。JP1/IM - View の画面または JP1/IM - Manager の自動アクションから案件を登録する必要があります。

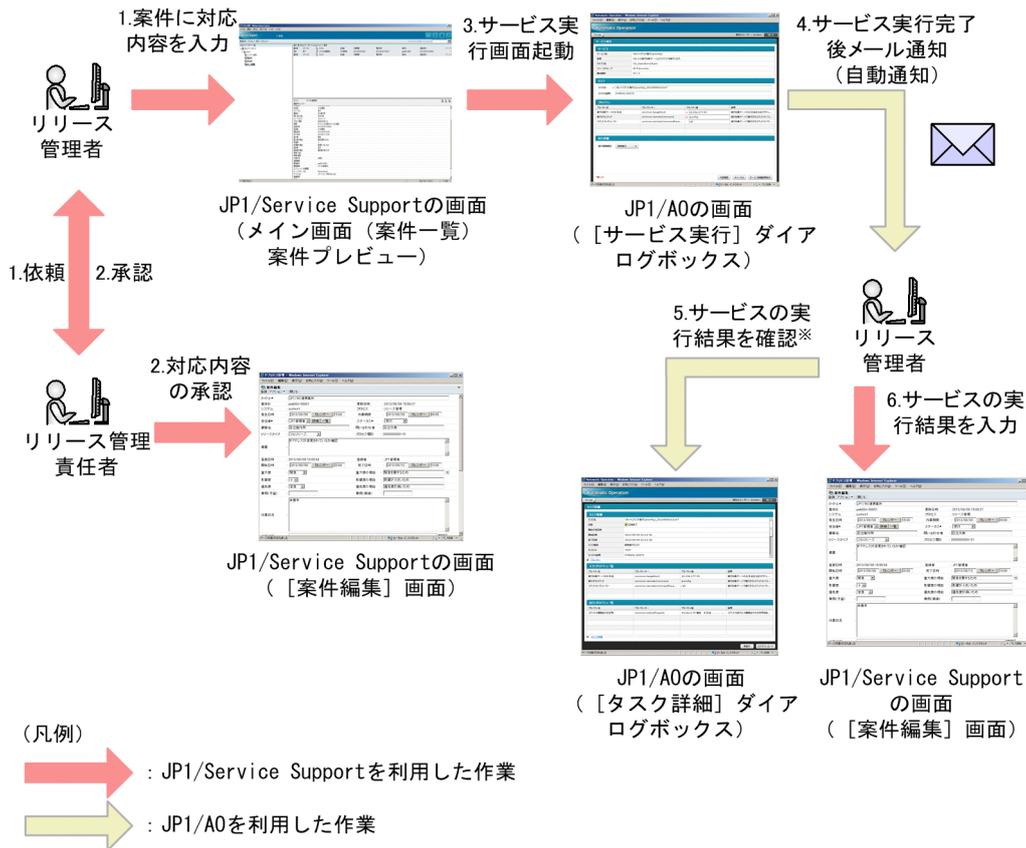
JP1/IM - View との連携の詳細については、「[4.2 JP1/IM - View との連携](#)」を参照してください。JP1/IM - Manager との連携の詳細については、「[4.1 JP1/IM - Manager との連携](#)」を参照してください。JP1/NP との連携の詳細については、「[4.5 JP1/NP との連携](#)」を参照してください。JP1/Base のユーザー認証機能を利用する場合については、「[5.15 認証方法の検討](#)」を参照してください。

1.3.4 リリース管理の効率化

リリース管理では、サーバ機器のハードディスクの拡張やメモリの増設などの作業を行います。その際、JP1/AO と連携することで、設定変更に伴う作業の自動化および効率化を図れます。なお、JP1/AO と連携することで、シングルサインオンで該当する JP1/AO のサービスを実行する画面を表示できます。

運用例を次の図に示します。

図 1-13 リリース管理を効率化するための運用例



注※
 通知されたメールに、該当するJP1/AOの画面へのURLが記載されています。
 そのURLに直接アクセスします。

1. リリース管理者は、登録された案件に対処内容を入力して、作業内容の承認を依頼します。
2. リリース管理責任者は、依頼された案件の作業内容を確認し承認します。
3. リリース管理者は、JP1/Service Support の画面から該当する JP1/AO の [サービス実行] ダイアログボックスを呼び出します。
4. リリース管理者は、JP1/Service Support で入力した案件の作業内容を参照し、サービスの実行に必要な項目を手動で入力して実行します。
 なお、サービスの実行完了後に、サービスの実行者あてにメールが送信されます。
5. リリース管理者は、送信されたメールに記載されている URL から JP1/AO の [タスク詳細] ダイアログボックスを起動し、サービスの実行結果を確認します。
6. リリース管理者は、JP1/Service Support にログインして該当の [案件編集] 画面を起動し、JP1/AO の実行結果を該当する案件に入力します。
 その際、該当する JP1/AO の [タスク詳細] 画面の URL を「関連情報」に入力しておくこと、作業結果の詳細を参照しやすくなります。

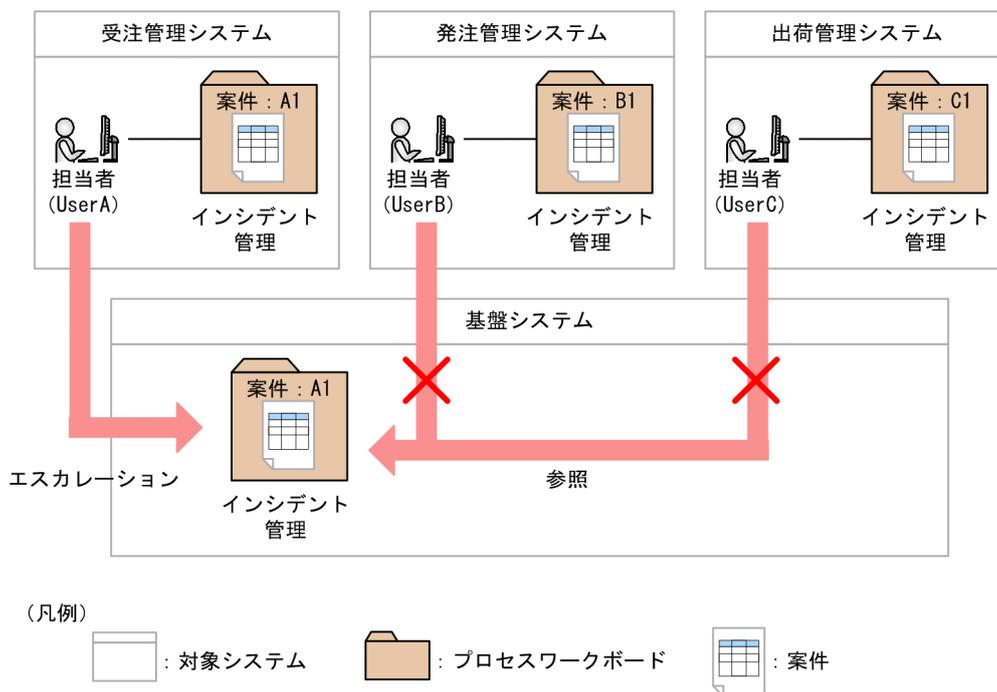
JP1/AO との連携の詳細については、「4.6 JP1/AO との連携」を参照してください。JP1/Base のユーザー認証機能を利用する場合には、「5.15 認証方法の検討」を参照してください。

1.3.5 案件ごとの参照権限の制御

大規模環境では、システム数が多く、また各システム間で関連する案件が多いことから、システム間で共通となるシステムを設定する場合があります。このような、システム間で共通となるシステムを**基盤システム**と呼びます。基盤システムを設定している場合、JP1/Service Support のユーザー（担当者）は、各システムで共通のインシデントに対して、基盤システムにエスカレーションします。JP1/Service Support では、プロセスワークボードにアクセス権を設定するため、基盤システムにエスカレーションした案件を、基盤システムのアクセス権を持つすべてのユーザーが参照できます。この場合、エスカレーションした案件に関係のないユーザーも参照できます。案件ごとに参照権限を設定することで、エスカレーションした案件を、関係のないユーザーに参照させないようにすることができます。

案件ごとに参照権限を設定した運用例を、次の図に示します。

図 1-14 案件ごとに参照権限を設定した運用例



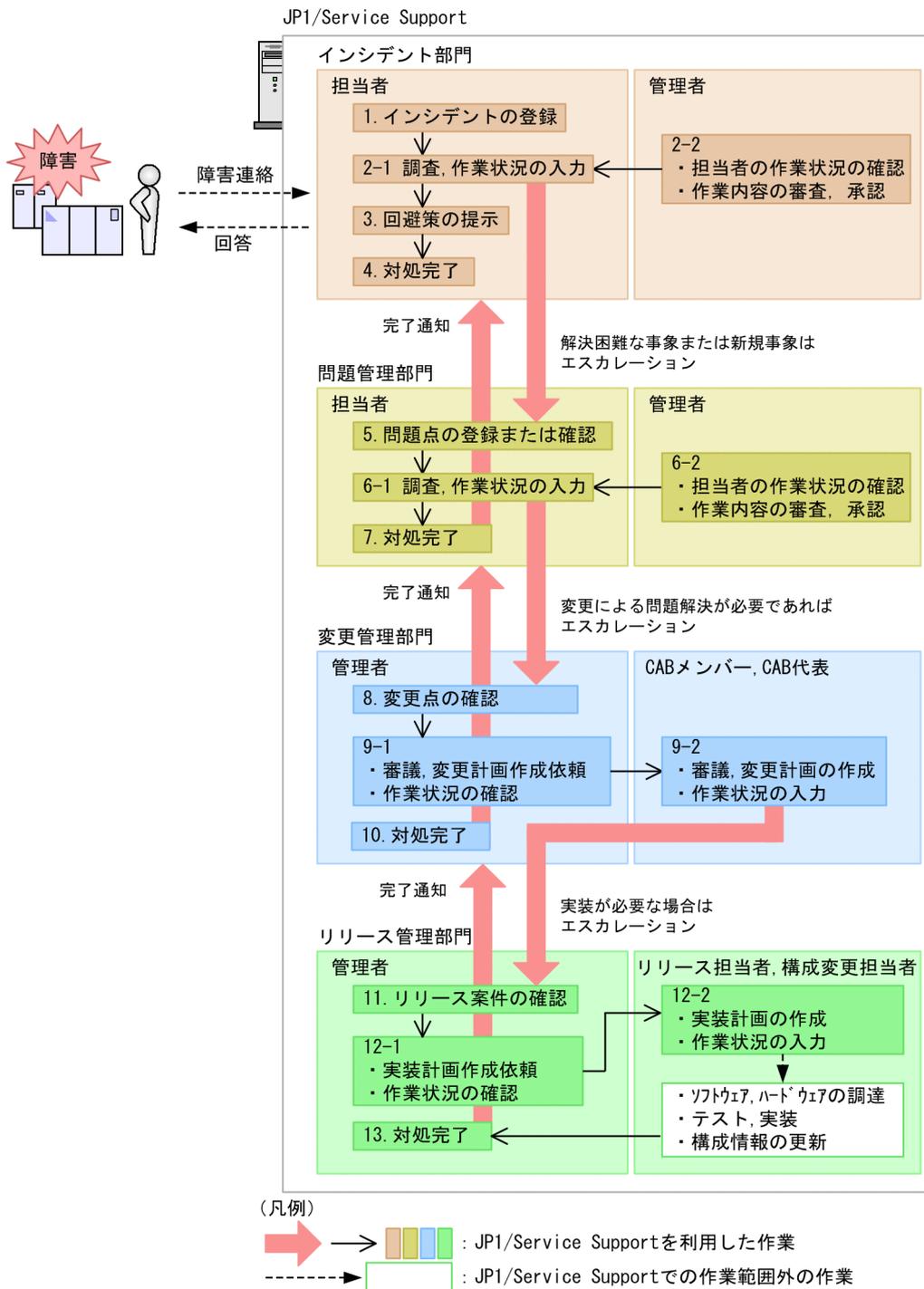
この運用例では、受注管理システム、発注管理システム、出荷管理システム、および基盤システムが設定されています。各システムの担当者（UserA, UserB, UserC）には、担当システムおよび基盤システムのプロセスワークボードの参照権限が設定されています。案件ごとに参照権限を設定した場合、案件 A1 に対して UserA だけに参照権限を設定すること（**案件の参照権限所有者**）によって、案件 A1 の案件状況の参照を制限できます。

案件ごとの参照権限の設定については、「[3.11 案件に対するアクセス権の管理](#)」を参照してください。

1.4 JP1/Service Support を利用した案件解決の流れ

JP1/Service Support を利用した、事象の発生から解決までの流れの例を次の図に示します。

図 1-15 事象の発生から解決までの流れ



図中の番号に従って説明します。

1. 「インシデントの登録」

インシデント担当者は、ユーザーからの障害連絡を受け、インシデントを登録します。

2-1 「調査，作業状況の入力」

インシデント担当者は、既知のインシデントかどうかを調査します。調査の結果、未知のインシデントであった場合、問題管理にエスカレーションします。

また、日々の作業状況に合わせてインシデントの内容を更新します。

2-2 「担当者の作業状況の確認」「作業内容の審査，承認」

インシデント管理者は、担当者の作業状況を確認します。また、必要に応じて案件を審査，承認します。

3. 「回避策の提示」

インシデント担当者は、回避策をユーザーに提示します。

4. 「対処完了」

ユーザーの了解を得てインシデント担当者は、インシデントを完了とします。

5. 「問題点の登録または確認」

問題管理担当者は、問題点を登録，またはインシデント対応部署から登録された問題点の内容を確認します。

6-1 「調査，作業状況の入力」

問題管理担当者は、既知の問題点かどうかを調査します。調査の結果、未知の問題点であった場合、解決に向けて検討を重ねます。検討の結果、システムの変更が必要と判断した場合、変更管理にエスカレーションします。

また、日々の作業状況に合わせて問題点の内容を更新します。

6-2 「担当者の作業状況の確認」「作業内容の審査，承認」

問題管理者は、問題管理担当者の作業状況を確認します。また、必要に応じて問題点を審査，承認します。

7. 「対処完了」

問題管理担当者は、結論を出した時点で問題点の対処を完了します。なお、インシデントからエスカレーションされてきた問題点については、インシデント対応部署に対処が完了したことを通知します。

8. 「変更点の確認」

変更管理者は、問題管理対応部署から登録された変更点の内容を確認します。

9-1 「審議，変更計画作成依頼」「作業状況の確認」

変更管理者は、CAB メンバー，CAB 代表に問題管理から登録された変更点の審議と，変更計画の作成を依頼します。また，依頼後の作業状況を確認します。

9-2 「審議，変更計画の作成」「作業状況の入力」

CAB メンバーは，会議を開催し，登録された変更点について審議し，それに合わせて変更計画を作成します。また，日々の作業状況に合わせて変更計画の内容を更新します。

CAB 代表は，審議の結果，および変更計画について審査，承認します。また，リリース管理部門に対し，システムへの実装を要求するため，リリース案件としてエスカレーションします。

10. 「対処完了」

変更管理者は、リリース管理部門からのリリース完了を受け、一定期間を置いたあと、レビューを実施します。その結果を記入し、変更点の対処を完了します。

また、問題管理対応部署に完了したことを通知します。

11. 「リリース案件の確認」

リリース管理者は、変更管理対応部署から登録されたリリース案件の内容を確認します。

12-1 「実装計画作成依頼」「作業状況の確認」

リリース管理者は、リリース担当者に変更管理から登録されたリリース案件に対する実装計画の作成を依頼します。また、依頼後の作業状況を確認します。

12-2 「実装計画の作成」「作業状況の入力」

リリース担当者は、役割に合わせて実装計画を作成したり、ソフトウェア、ハードウェアを調達したりします。また、実装に向けてのテスト、実装も行います。また、日々の作業状況に合わせて、リリース案件の内容を更新します。

構成変更担当者は、実装完了を受けてシステムの構成情報を更新します。また、日々の作業状況に合わせて、リリース案件の内容を更新します。

13. 「対処完了」

リリース管理者は、リリース案件の内容を確認し、作業がすべて完了していることを確認します。問題ないと判断した時点でリリース案件の対処を完了します。また、変更管理部署に対処が完了したことを通知します。

1.4.1 案件の受付から解決まで

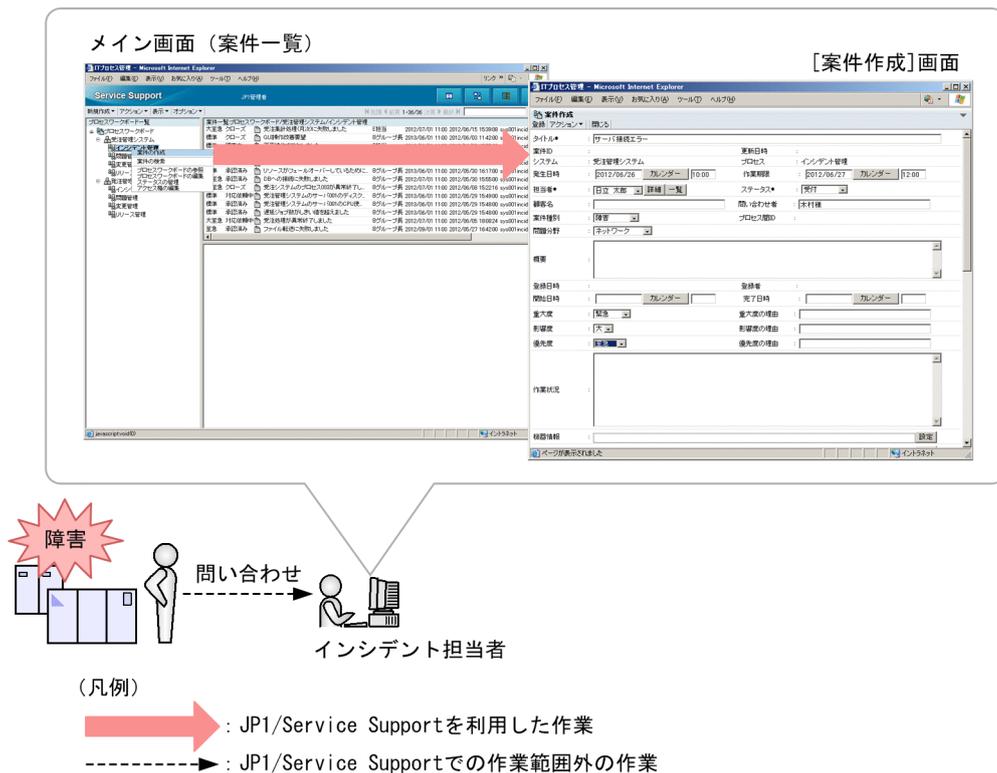
案件の受付から解決までを、インシデントを例に説明します。これは、「[1.4 JP1/Service Support を利用した案件解決の流れ](#)」の手順 1~4 に該当します。

(1) インシデントの発生による案件の登録

ユーザーからの問い合わせをインシデントとして JP1/Service Support に登録する例を次の図に示します。

図 1-16 案件（インシデント）の登録例

案件の作成



メイン画面（案件一覧）からインシデントが発生したシステムのプロセス（インシデント管理）を選択し、[案件作成]画面を呼び出します。[案件作成]画面で必要事項を記入したあと、メニューから[登録]を選択すると、JP1/Service Supportの案件管理DBに案件として登録されます。

(2) 調査

インシデント担当者は、過去、類似案件が発生、対処していないか、検索機能を使って調査します。また、調査結果や作業状況を履歴として残すため、登録案件を更新します。

インシデント管理者は、インシデント担当者の作業状況を確認します。また、インシデント担当者の記入した内容に対し、審査、承認をします。

インシデント担当者が類似案件を調査、作業状況を入力する、また、インシデント管理者がインシデント担当者の作業状況を確認し、内容に対して審査、承認する例を次の図に示します。

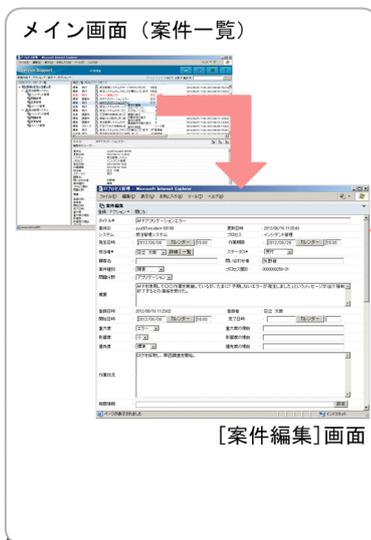
図 1-17 類似案件の調査と作業状況の入力、作業状況の確認と審査、承認例

類似案件の調査



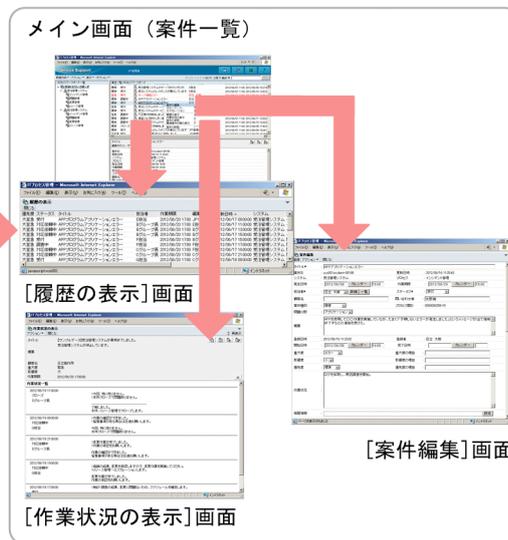
インシデント担当者

作業状況の入力



インシデント担当者

作業状況の確認、審査、承認



インシデント管理者

(凡例)

→ : JP1/Service Supportを利用した作業

過去の類似案件の調査には、[案件共通項目検索条件指定]画面または[案件検索条件指定]画面を利用します。[案件共通項目検索条件指定]画面または[案件検索条件指定]画面で検索条件を入力したあと、[検索]ボタンをクリックすると、[案件検索結果一覧]画面が表示されます。この画面から類似案件を選択し[案件参照]画面を呼び出すことで類似案件の内容、対処を確認できます。

また、インシデント担当者が作業状況を入力する場合、メイン画面(案件一覧)から[案件編集]画面を呼び出します。この画面上で作業内容に合わせた修正をし、情報を更新します。インシデント管理者は、インシデント担当者の作業状況をメイン画面(案件一覧)、および[作業状況の表示]画面で確認します。また、審査、承認が必要になった場合には、作業履歴に問題がないか[履歴の表示]画面で確認したあと、メイン画面(案件一覧)から[案件編集]画面を呼び出し、案件のステータスを変更します。

1. JP1/Service Support の概要

(3) 案件の解決

案件を解決するには、まず、問い合わせをしてきたユーザーに回避策を提示する必要があります。その回避策を基に対処が完了して初めてその案件が解決したと言えます。

図 1-18 案件の解決

回避策の提示、対処



案件の完了(クローズ)



インシデント担当者

(凡例)

- : JP1/Service Supportを利用した作業
- : JP1/Service Supportでの作業範囲外の作業

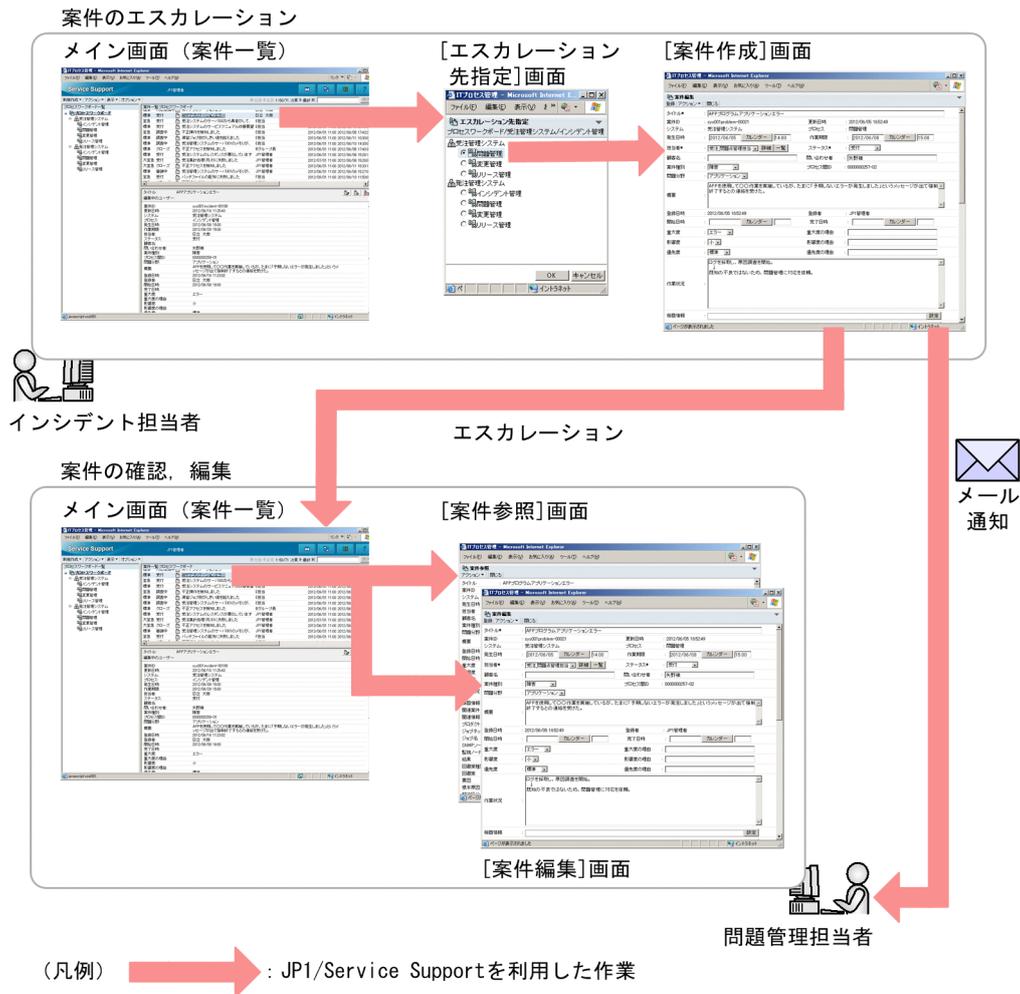
回避策の提示や対処は、JP1/Service Support 外での作業となります。この作業によって、ユーザーまたは管理対象システムへの対応完了となってから、案件の完了操作を実施します。

メイン画面 (案件一覧) から該当する案件を選択し、[案件編集] 画面を呼び出します。[案件編集] 画面で、案件のステータスを「クローズ」に変更、更新します。これで案件を完了できます。

1.4.2 他プロセスへのエスカレーション

他プロセスへのエスカレーションを、インシデントを例に説明します。調査の結果、既知不良ではない、新しい問い合わせと判明した場合には、問題管理にエスカレーションします。

図 1-19 エスカレーション



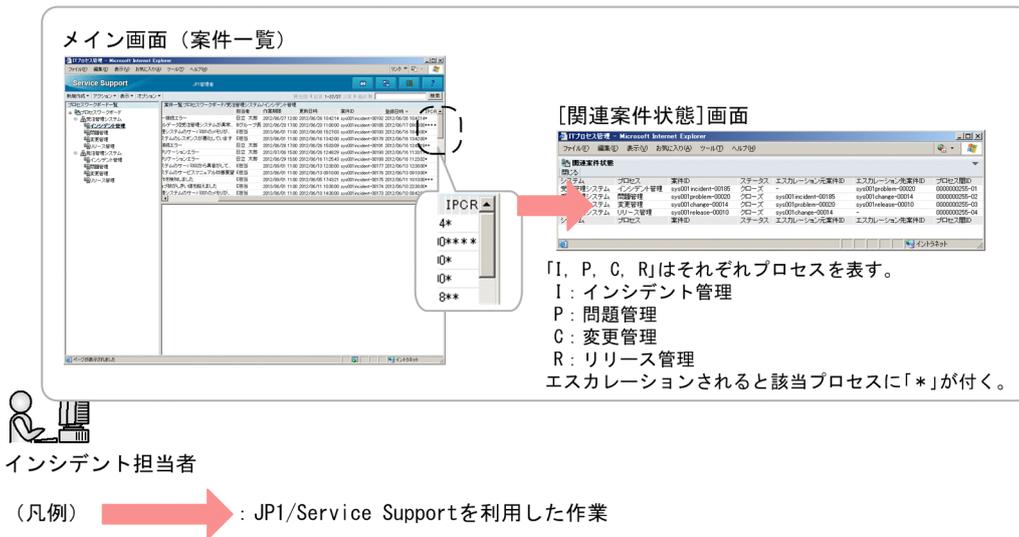
他プロセスへエスカレーションする場合には、メイン画面 (案件一覧) 上でエスカレーションする案件を選択し、[エスカレーション先指定] 画面を呼び出す必要があります。[エスカレーション先指定] 画面でエスカレーション先を指定するとエスカレーション元の案件情報を引き継いだ状態で [案件作成] 画面が呼び出されます。エスカレーション先で必要となる情報を追加したあと、メニューから [登録] を選択することで、エスカレーション先プロセスに案件が登録されます。

エスカレーション先プロセスの担当者は、自身が登録した場合と同様にこの案件の対処をする必要があります。

また、エスカレーションした案件の状態は、次の図に示すように、エスカレーション元から確認できます。

図 1-20 エスカレーションした案件の状態確認

エスカレーションした案件の状態確認



メイン画面（案件一覧）の案件一覧上で、エスカレーションした案件かどうかの確認ができます。また、エスカレーションした案件の状態は、[関連案件状態]画面で確認できます。

1.5 JP1/Service Support を利用した状況確認と分析

JP1/Service Support では、JP1/Service Support で実施しているサービスサポートの状況の確認および運用実績の分析ができます。

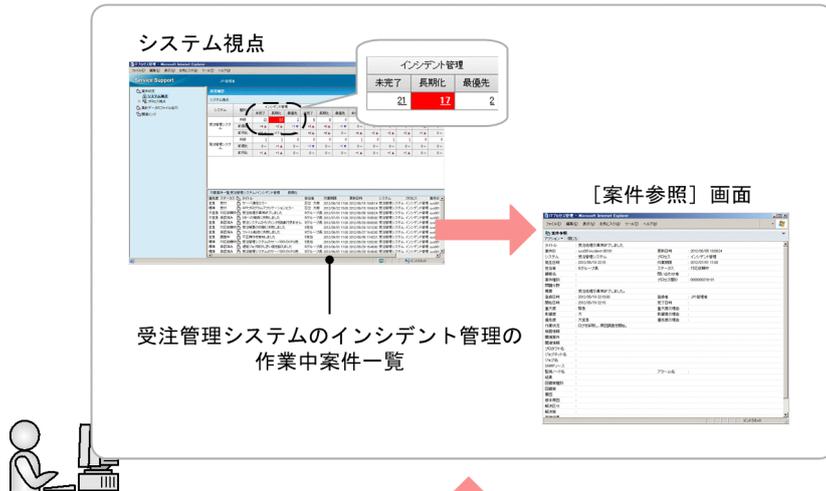
状況確認および運用実績の分析方法について、次に説明します。

1.5.1 二つの視点による案件の状況確認

JP1/Service Support で処理されている案件の状況は、システム視点とプロセス視点の二つの視点から確認できます。JP1/Service Support で管理しているシステム全体の案件の状況を確認する場合はシステム視点、システム内のプロセスの状況をシステム視点よりも詳細に確認する場合はプロセス視点というように、それぞれの視点を目的や状況に合わせて使い分けることができます。

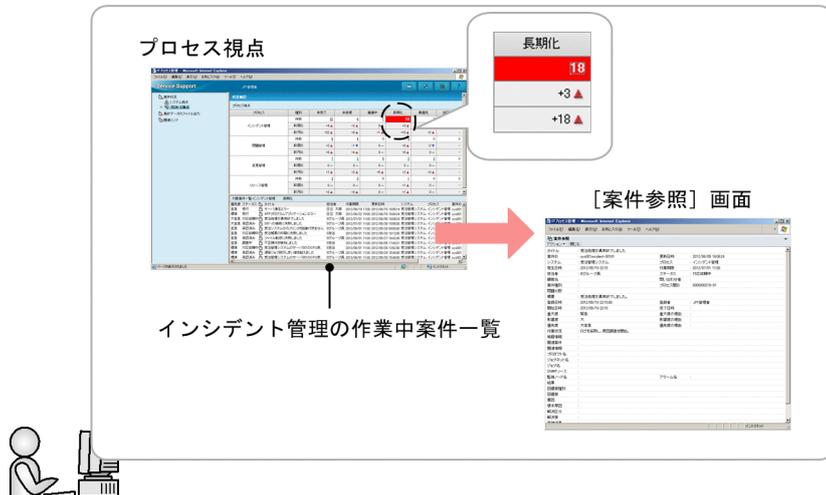
図 1-21 案件の状況確認

システム全体の案件の状況を確認



目的に合わせて選択

特定のシステムの案件の状況を確認



(凡例)  : JP1/Service Supportを利用した作業

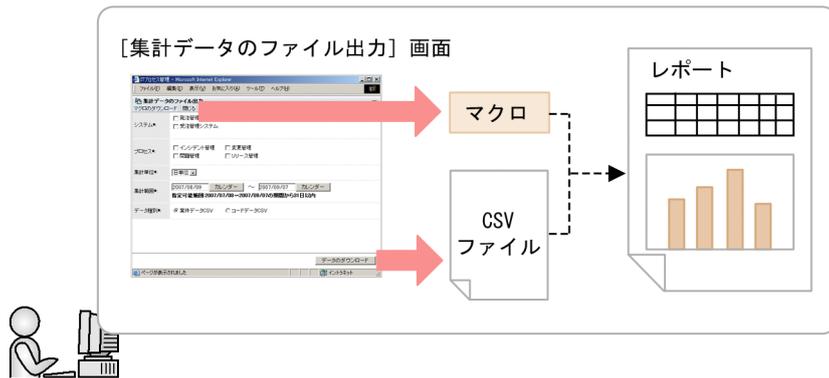
確認したい項目の件数をクリックすると、画面の下に対象の案件が一覧で表示されます。この一覧から、詳細を確認したい案件をクリックすると、[案件参照]画面が表示されて、案件の情報を参照できます。

1.5.2 集計データを基にした運用状況の分析

日々の案件の状況を確認するだけでなく、一定期間の運用実績を集計して、CSVファイルに出力することもできます。

図 1-22 集計データの出力とレポート作成

集計データを基にした分析用レポートの作成



(凡例)  : JP1/Service Supportを利用した作業

 : JP1/Service Supportでの作業範囲外の作業

[集計データのファイル出力] 画面で集計データの出力条件を指定して、[データのダウンロード] ボタンをクリックすると、集計データの CSV ファイルが出力されます。また、出力した集計データから分析用のレポートを作成するためのマクロをダウンロードできます。

1.6 JP1/Service Support が提供する製品

JP1/Service Support は、システムの規模やニーズに合わせて次に示す製品を提供しています。

JP1/Service Support Starter Edition

小規模システムに対応した製品です。

JP1/Service Support (Standard)

中規模および大規模システムに対応した製品です。

2

JP1/Service Support の構成

この章では、JP1/Service Support の構成について説明します。

また、前提 OS および前提プログラムについて説明します。

2.1 前提 OS および前提プログラム

この節では、JP1/Service Support の前提 OS、および前提プログラムについて説明します。

JP1/Service Support を稼働させるサーバには、次に示す前提 OS が必要です。

前提 OS

- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012

また、JP1/Service Support の画面操作をするマシンには、次に示す前提 OS および前提プログラムが必要です。

前提 OS*

- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012
- Windows 10
- Windows 8
- Windows 7

注※

JP1/Service Support を稼働させるサーバと同じ言語設定にすることを推奨します。言語が異なる場合は、ASCII 文字の範囲で使用してください。

前提プログラム

- Windows Internet Explorer 11
- Windows Internet Explorer 10
- Windows Internet Explorer 9
- Windows Internet Explorer 8

なお、前提 OS および前提プログラムのバージョンや種類（例：Enterprise Edition など）については、リリースノートを参照してください。

2.2 JP1/Service Support のシステム構成

この節では、JP1/Service Support のシステム構成について説明します。

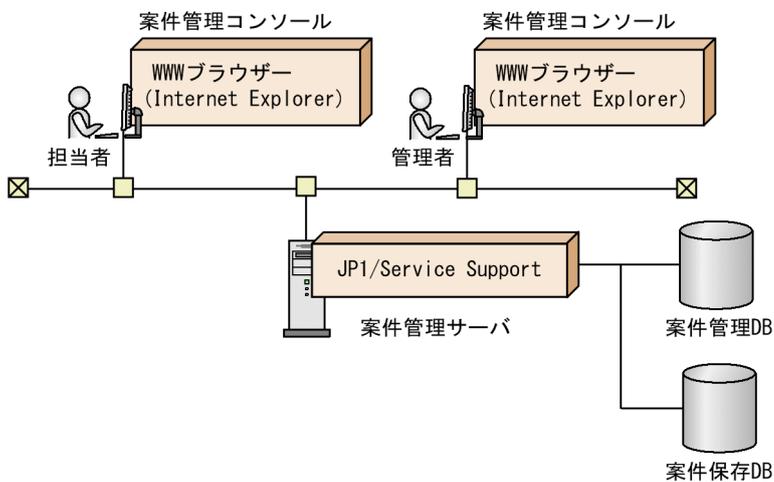
JP1/Service Support は、次に示すシステム構成で使用できます。

2.2.1 基本的なシステム構成

JP1/Service Support は、JP1/Service Support にログインして画面を表示する WWW ブラウザーと、JP1/Service Support 本体を稼働させるサーバだけの環境で使用できます。

JP1/Service Support の場合の基本的なシステム構成例を、次の図に示します。

図 2-1 基本的なシステム構成例



各マシン、サーバで必要なプログラムを次に示します。

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。案件管理コンソールには、Internet Explorer が必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。なお、案件保存 DB は、必要に応じてセットアップする必要があります。

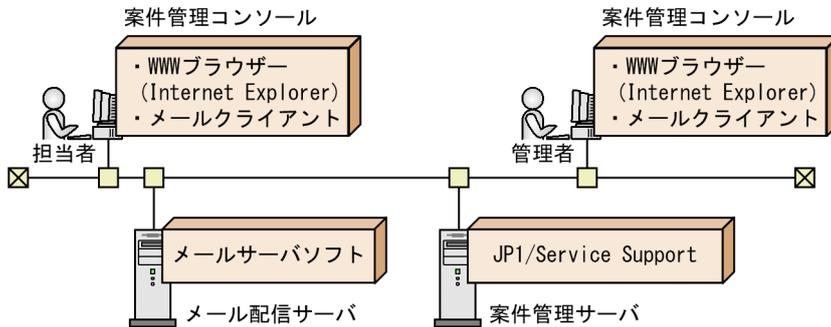
2.2.2 メールで案件を操作する場合のシステム構成

メールで案件を操作する場合のシステム構成について説明します。

(1) メールで案件の更新を通知する場合のシステム構成

JP1/Service Support に、メールで案件の更新を通知する場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 2-2 メールで案件の更新を通知する場合のシステム構成例



案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。案件管理コンソールには、Internet Explorer とメールクライアントが必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。

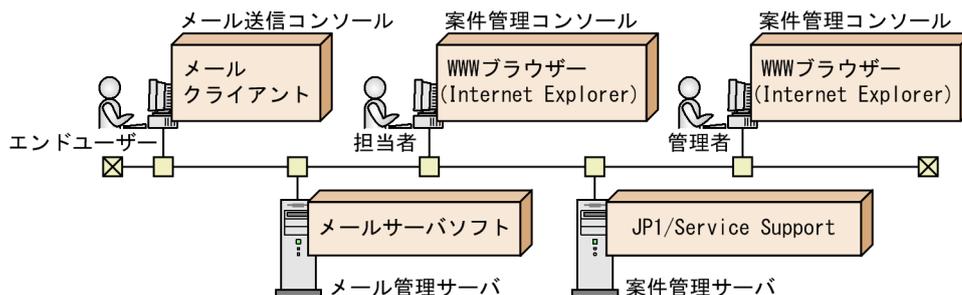
メール配信サーバ

案件の更新内容を通知するためにメールを配信するサーバです。メール配信サーバには、SMTP プロトコルを利用してメールを配信できるメールサーバが必要です。

(2) メールで案件を登録する場合のシステム構成

JP1/Service Support に、メールで案件を登録する場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 2-3 メールで案件を登録する場合のシステム構成例



メール送信コンソール

メールを送信して JP1/Service Support に案件を登録するマシンです。メール送信コンソールには、SMTP プロトコルを利用してメールを送信できるメールクライアントが必要です。

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。案件管理コンソールには、Internet Explorer が必要です。

メール管理サーバ

案件を登録するために送信されたメールを管理するサーバです。メール管理サーバには、POP3 プロトコルを利用してメールを取得できるメールサーバが必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。

2.2.3 JP1 製品と連携する場合のシステム構成

JP1/Service Support は、JP1/IM - Manager, JP1/NETM/AIM, JP1/UCMDB, JP1/NP, JP1/AO, および JP1/ITDM2 - Asset Console と連携して、システム全般の案件管理ができます。

なお、JP1 製品と連携する場合、次に示す項目について注意してください。

- JP1/Service Support は、連携する JP1 製品と言語設定を合わせる必要がある。
- JP1/Service Support で対応している言語は、連携できる JP1 製品で対応している言語と異なる場合がある。

連携する JP1 製品が対応している言語については、それらの製品が提供しているドキュメントを参照してください。

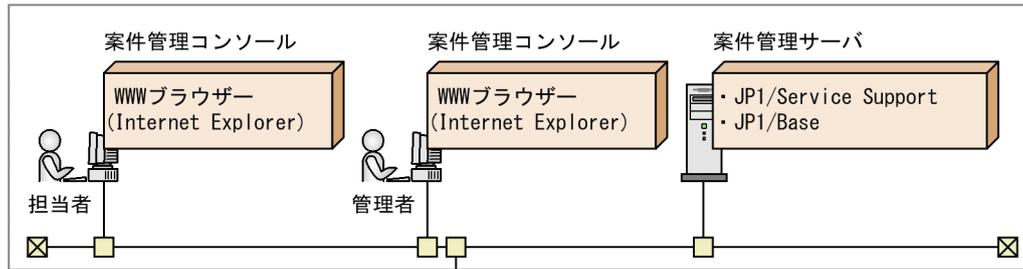
それぞれと連携した場合のシステム構成例を次に示します。

(1) JP1/IM - Manager と連携する場合のシステム構成

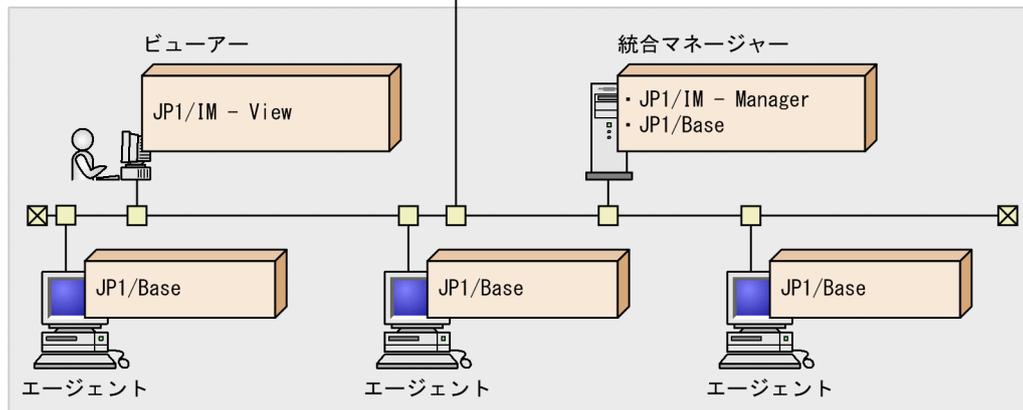
JP1/IM - Manager と連携する場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 2-4 JP1/IM - Manager と連携する場合のシステム構成例

JP1/Service Supportのシステム環境



JP1/IM - Managerのシステム環境



各マシン、サーバで必要なプログラムを次に示します。

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。案件管理コンソールには、Internet Explorer が必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。また、JP1/IM - Manager と連携するために、JP1/Base が必要です。案件管理サーバで使用している OS によって、必要な JP1/Base のバージョンが異なります。JP1/Base のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

ビューアー

統合マネージャーで管理している JP1 イベントを参照するマシンです。

統合マネージャーの JP1 イベントを参照するには、JP1/IM - View が必要です。

また、JP1/IM - View から、JP1/Service Support の画面に遷移し、統合マネージャーで管理している JP1 イベントを案件として登録できます。

統合マネージャー

JP1/IM - Manager によってシステムを統合監視するサーバです。統合マネージャーには、JP1/IM - Manager のほか、前提製品となる JP1/Base が必要です。JP1/IM - Manager および JP1/Base のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

システムで発生した事象は、JP1 イベントとして統合マネージャーで管理されます。JP1/IM - Manager は、この JP1 イベントを、自動アクション機能を使って JP1/Service Support にインシデントとして自動登録します。

また、自動登録された案件のステータスが「クローズ」に変更されたときに、自動アクションの契機となった JP1 イベントの対処状況を、あらかじめ定義された自動アクションによって「対処済」に変更できます。さらに、JP1/Service Support で案件のステータスが変更されたときに、案件情報を外部システムに通知する JP1 イベントが発行されるため、あらかじめ自動アクションを定義することでさまざまなアクションを実行できます。

エージェント

JP1/IM - Manager で監視するマシンです。JP1/IM - Manager で監視する場合には JP1/Base が必要です。

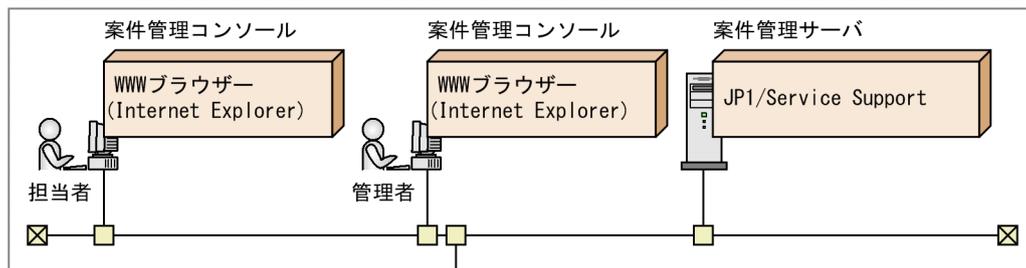
JP1/IM - Manager によるシステム監視で必要となる JP1/Base や JP1/IM - View のバージョン、前提 OS については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」で確認してください。

(2) JP1/NETM/AIM と連携する場合のシステム構成

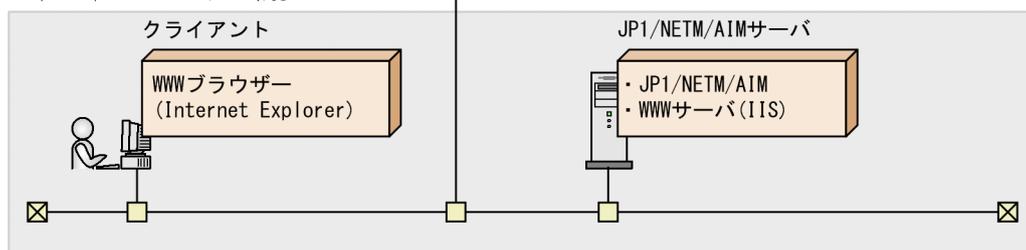
JP1/NETM/AIM と連携する場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 2-5 JP1/NETM/AIM と連携する場合のシステム構成例

JP1/Service Support のシステム環境



JP1/NETM/AIM のシステム環境



各マシン、サーバに必要なプログラムを次に示します。

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。また、JP1/Service Support の管理情報と関連づけられた JP1/NETM/AIM の管理情報を JP1/NETM/AIM にログインし、参照します。

案件管理コンソールには、Internet Explorer が必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。

クライアント

JP1/NETM/AIM サーバで管理している資産情報を参照するマシンです。

JP1/NETM/AIM サーバの資産情報を参照するには、WWW ブラウザーが必要です。

JP1/NETM/AIM サーバ

JP1/NETM/AIM によってシステムの資産情報を管理するサーバです。JP1/NETM/AIM サーバには、JP1/NETM/AIM のほか、前提製品となる WWW サーバ (IIS) が必要です。JP1/NETM/AIM のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

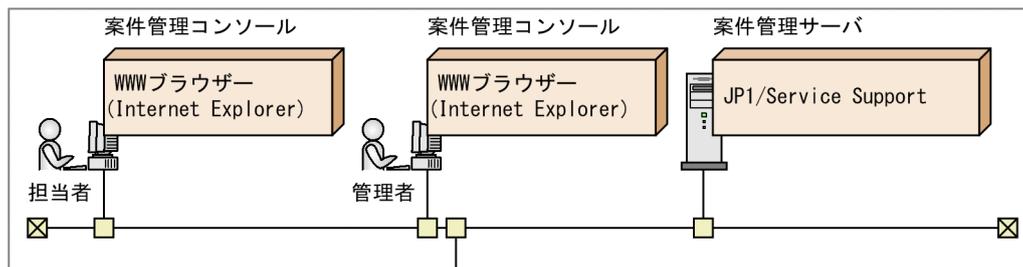
JP1/NETM/AIM による資産管理で必要となる WWW ブラウザーや IIS のバージョン、前提 OS については、マニュアル「JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド」で確認してください。

(3) JP1/UCMDB と連携する場合のシステム構成

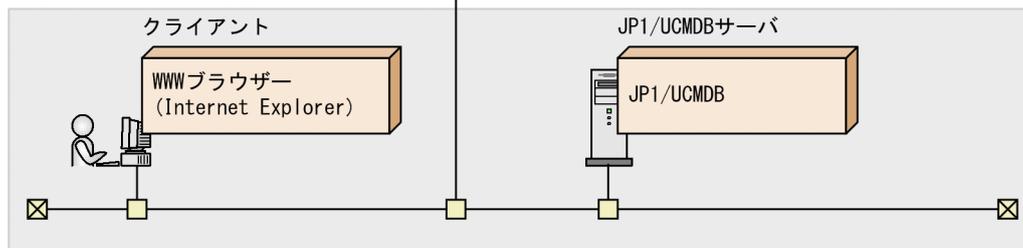
JP1/UCMDB と連携する場合のシステム構成例を次の図に示します。なお、JP1/UCMDB は、日本語環境だけで連携できます。

図 2-6 JP1/UCMDB と連携する場合のシステム構成例

JP1/Service Support のシステム環境



JP1/UCMDB のシステム環境



各マシン、サーバに必要なプログラムを次に示します。

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。また、JP1/Service Support の管理情報と関連づけられた JP1/UCMDB の管理情報を JP1/UCMDB にログインし、参照します。

案件管理コンソールには、Internet Explorer が必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。

クライアント

JP1/UCMDB サーバで管理している資産情報を参照するマシンです。

JP1/UCMDB サーバの資産情報を参照するには、WWW ブラウザーが必要です。

JP1/UCMDB サーバ

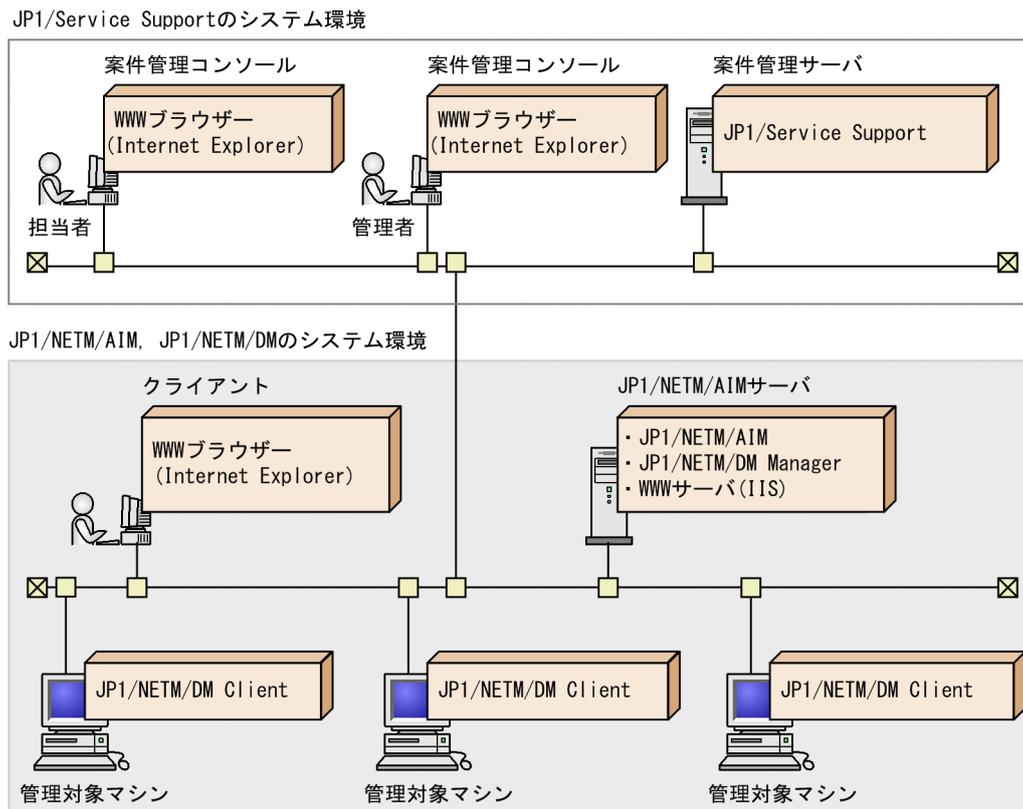
JP1/UCMDB によってシステムの資産情報を管理するサーバです。JP1/UCMDB サーバには、JP1/UCMDB が必要です。JP1/UCMDB のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

JP1/UCMDB で資産管理する場合の前提条件については、JP1/UCMDB のマニュアルを参照してください。

(4) JP1/NETM/AIM, JP1/NETM/DM と連携する場合のシステム構成

JP1/NETM/AIM は、JP1/NETM/DM (JP1/NETM/DM は日本国内の製品名称です) と連携することで、JP1/NETM/DM が管理対象マシンから収集した情報を資産情報として管理できます。この場合のシステム構成と JP1/Service Support を組み合わせた場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 2-7 JP1/NETM/AIM, JP1/NETM/DM と連携する場合のシステム構成例



各マシン、サーバに必要なプログラムを次に示します。

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。また、JP1/Service Support の管理情報と関連づけられた JP1/NETM/AIM の管理情報を JP1/NETM/AIM にログインし、参照します。

案件管理コンソールには、Internet Explorer が必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。

クライアント

JP1/NETM/AIM サーバで管理している資産情報を参照するマシンです。

JP1/NETM/AIM サーバの資産管理情報を参照するには、WWW ブラウザーが必要です。

JP1/NETM/AIM サーバ

JP1/NETM/AIM によってシステムの資産情報を管理するサーバです。JP1/NETM/AIM サーバには、JP1/NETM/AIM のほか、前提製品となる WWW サーバ (IIS) が必要です。JP1/NETM/AIM のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

また、ネットワーク上のマシンから資産情報を収集するために、JP1/NETM/DM Manager も必要です。JP1/NETM/AIM は、JP1/NETM/DM Manager が収集した情報を、資産情報として利用します。

管理対象マシン

JP1/NETM/DM Manager によって資産情報を管理されるマシンです。

JP1/NETM/DM Manager で資産情報を収集するために、JP1/NETM/DM Client が必要です。

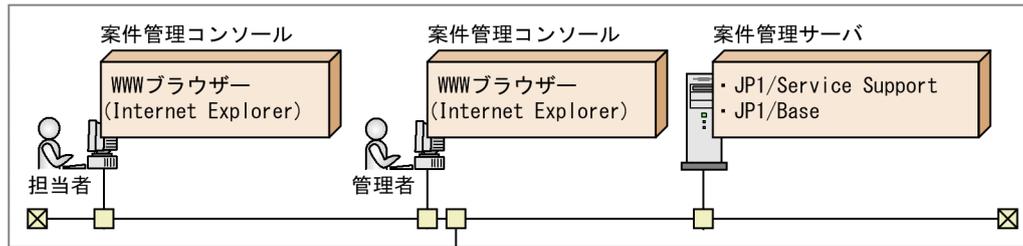
JP1/NETM/AIM による資産管理で必要となる WWW ブラウザーや IIS、連携製品の JP1/NETM/DM Manager などのバージョン、前提 OS については、マニュアル「JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド」で確認してください。

(5) JP1/NP と連携する場合のシステム構成

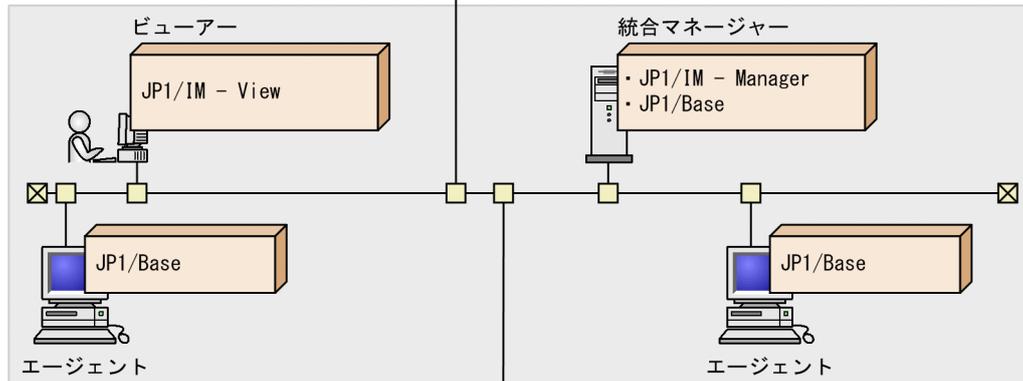
JP1/NP と連携する場合のシステム構成例を、次の図に示します。

図 2-8 JP1/NP と連携する場合のシステム構成例

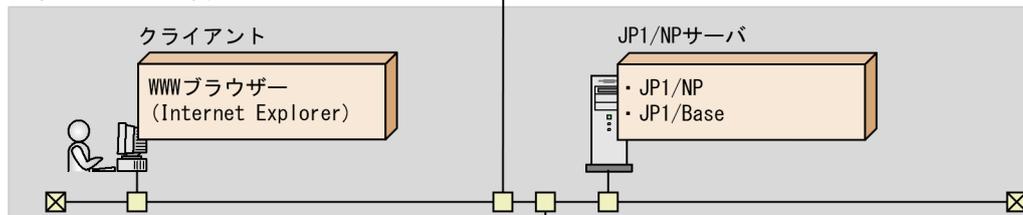
JP1/Service Supportのシステム環境



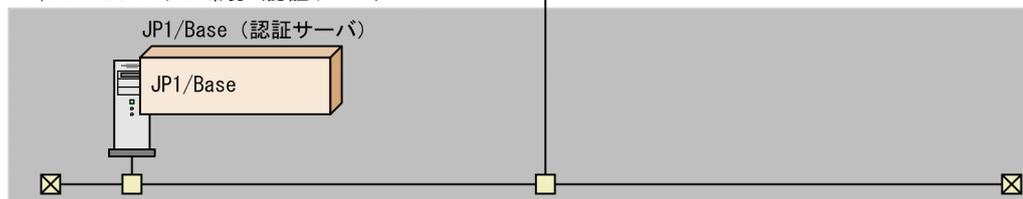
JP1/IM - Managerのシステム環境



JP1/NPのシステム環境



JP1/Baseのシステム環境 (認証サーバ)



各マシン、サーバで必要なプログラムを次に示します。

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。

JP1/NP と連携する場合、JP1/Service Support の案件に関連づけられた JP1/NP の運用手順を参照できます。その際、JP1/Base の認証機能を利用し、シングルサインオンで JP1/NP の画面を参照します。

案件管理コンソールには、Internet Explorer が必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。また、JP1/Base の認証機能を利用するため、JP1/Base が必要です。

クライアント

JP1/NP サーバで管理している業務コンテンツを参照、作成、または編集するマシンです。JP1/NP サーバのコンテンツを参照、作成、または編集するには、WWW ブラウザーが必要です。

JP1/NP サーバ

JP1/NP によってシステムの運用手順などのコンテンツを管理するサーバです。

JP1/Service Support と連携する場合、JP1/Service Support の案件情報に関連づけられた JP1/NP の画面から JP1/Service Support のメイン画面（案件一覧）の案件プレビューや【案件編集】画面を表示できます。

JP1/NP サーバには、JP1/NP が必要です。また、JP1/Base の認証機能を利用するため、JP1/Base が必要です。JP1/NP のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

JP1/Base（認証サーバ）

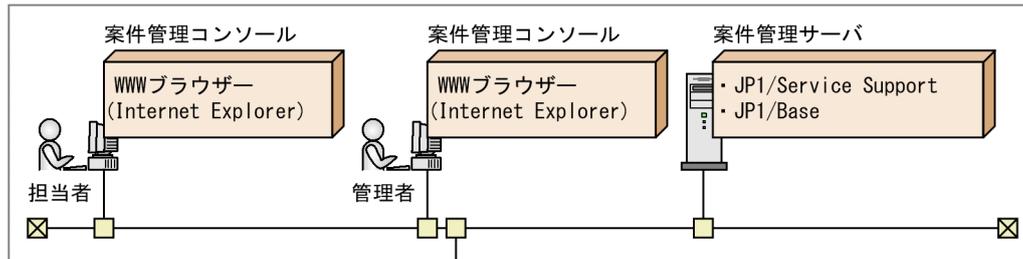
JP1/Base の認証機能を利用するための認証サーバです。JP1/Base の認証機能を利用し、シングルサインオンで該当する JP1/NP の画面を表示します。また、表示した JP1/NP の画面から JP1/Service Support の画面をシングルサインオンで表示します。JP1/Base（認証サーバ）には、JP1/Base が必要です。JP1/Base のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

(6) JP1/AO と連携する場合のシステム構成

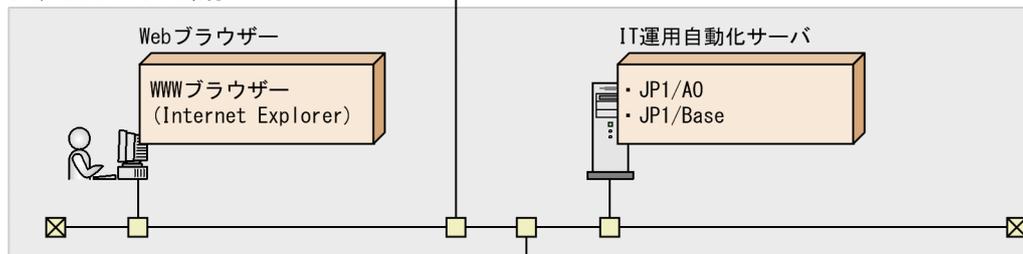
JP1/AO と連携する場合のシステム構成例を、次の図に示します。

図 2-9 JP1/AO と連携する場合のシステム構成例

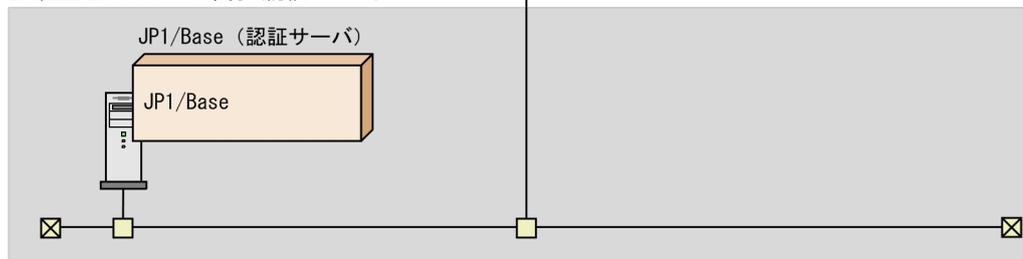
JP1/Service Supportのシステム環境



JP1/AOのシステム環境



JP1/Baseのシステム環境（認証サーバ）



各マシン、サーバで必要なプログラムを次に示します。

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。

JP1/AO と連携する場合、JP1/Service Support の案件に関連づけられた JP1/AO の [サービス実行] ダイアログボックスを表示します。その際、JP1/Base の認証機能を利用し、シングルサインオンで JP1/AO の画面を参照します。

案件管理コンソールには、Internet Explorer が必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。また、JP1/Base の認証機能を利用するため、JP1/Base が必要です。

Web ブラウザー

JP1/AO で管理しているサービスを実行するマシンです。

JP1/AO のサービスを実行するには、WWW ブラウザーが必要です。

IT 運用自動化サーバ

JP1/AO によってシステムの運用手順を自動化するサーバです。JP1/AO サーバには、JP1/AO 以降が必要です。また、JP1/Base の認証機能を利用するため、JP1/Base が必要です。JP1/AO のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

JP1/Base (認証サーバ)

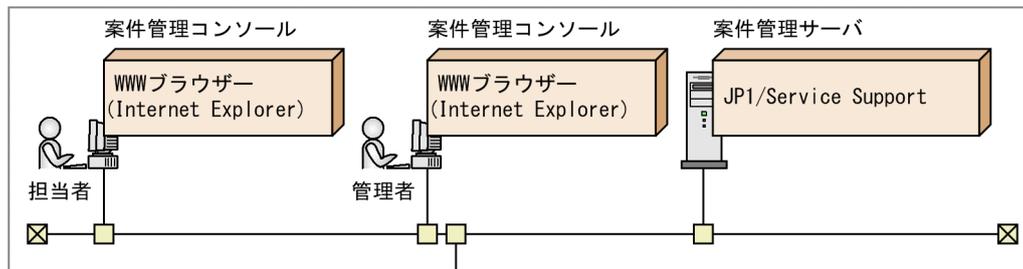
JP1/Base の認証機能を利用するための認証サーバです。JP1/Base の認証機能を利用し、シングルサインオンで該当する JP1/AO のダイアログを表示します。JP1/Base (認証サーバ) には、JP1/Base が必要です。JP1/Base のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

(7) JP1/ITDM2 - Asset Console と連携する場合のシステム構成

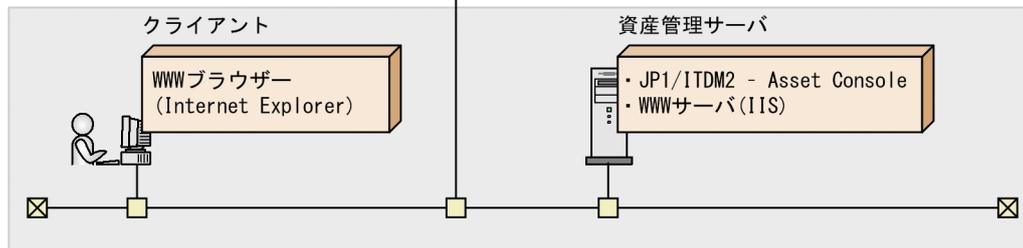
JP1/ITDM2 - Asset Console と連携する場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 2-10 JP1/ITDM2 - Asset Console と連携する場合のシステム構成例

JP1/Service Supportのシステム環境



JP1/ITDM2 - Asset Console



各マシン、サーバで必要なプログラムを次に示します。

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。また、JP1/Service Support の管理情報と関連づけられた JP1/ITDM2 - Asset Console の管理情報を JP1/ITDM2 - Asset Console にログインし、参照します。

案件管理コンソールには、Internet Explorer が必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。

クライアント

資産管理サーバで管理している資産情報を参照するマシンです。

資産管理サーバの資産情報を参照するには、WWW ブラウザーが必要です。

資産管理サーバ

JP1/ITDM2 - Asset Console によってシステムの資産情報を管理するサーバです。資産管理サーバには、JP1/ITDM2 - Asset Console 10-50 以降のほか、前提製品となる WWW サーバ (IIS) が必要です。JP1/ITDM2 - Asset Console のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

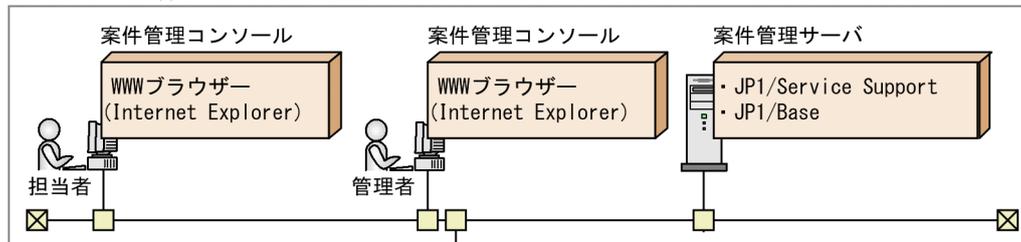
JP1/ITDM2 - Asset Console による資産管理で必要となる WWW ブラウザーや IIS のバージョン、前提 OS については、マニュアル「JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console 設計・構築ガイド」で確認してください。

(8) JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携する場合のシステム構成

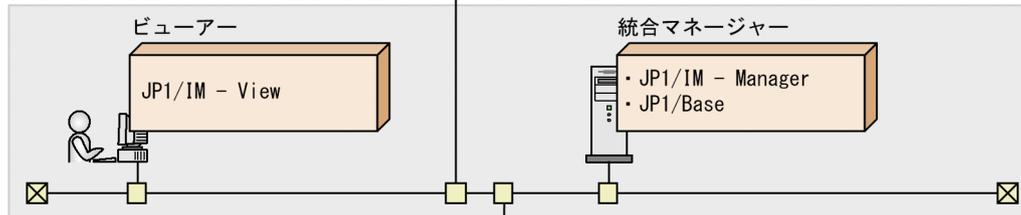
JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携する場合のシステム構成例を、次の図に示します。

図 2-11 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携する場合のシステム構成例

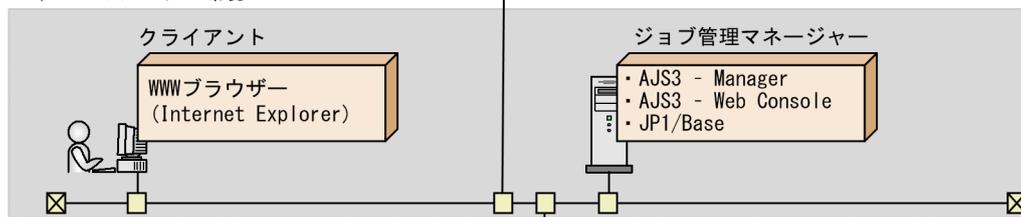
JP1/Service Supportのシステム環境



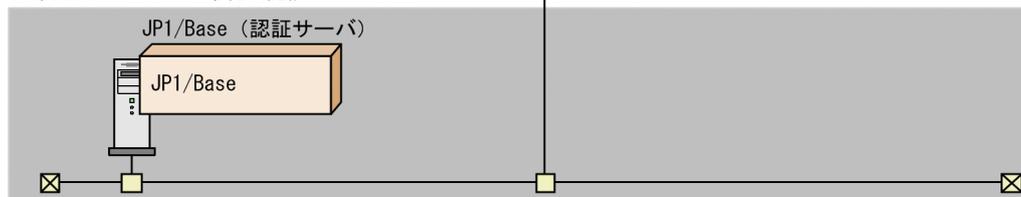
JP1/IM - Managerのシステム環境



JP1/AJS3のシステム環境



JP1/Baseのシステム環境 (認証サーバ)



各マシン、サーバで必要なプログラムを次に示します。

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。

JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携する場合、JP1/Service Support の案件に関連づけられた JP1/AJS3 - Web Console の [モニタ] 画面を表示します。その際、JP1/Base の認証機能を利用し、シングルサインオンで JP1/AJS3 - Web Console の [モニタ] 画面を参照します。

案件管理コンソールには、Internet Explorer が必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。また、JP1/Base の認証機能を利用するため、JP1/Base が必要です。

クライアント

定型的・定期的な業務を自動化する JP1/AJS3 に接続して、WWW ブラウザーなどから業務の実行状況や実行結果の監視などをするマシンです。

WWW ブラウザーなどによるインターネットを利用した監視の実現には、JP1/AJS3 - Web Console が必要です。

ジョブ管理マネージャー

JP1/AJS3 によって定型的な業務を自動化するサーバです。ジョブ管理マネージャーには、JP1/AJS3 以降が必要です。また、JP1/Base の認証機能を利用するため、JP1/Base が必要です。JP1/AJS3 のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

JP1/Base (認証サーバ)

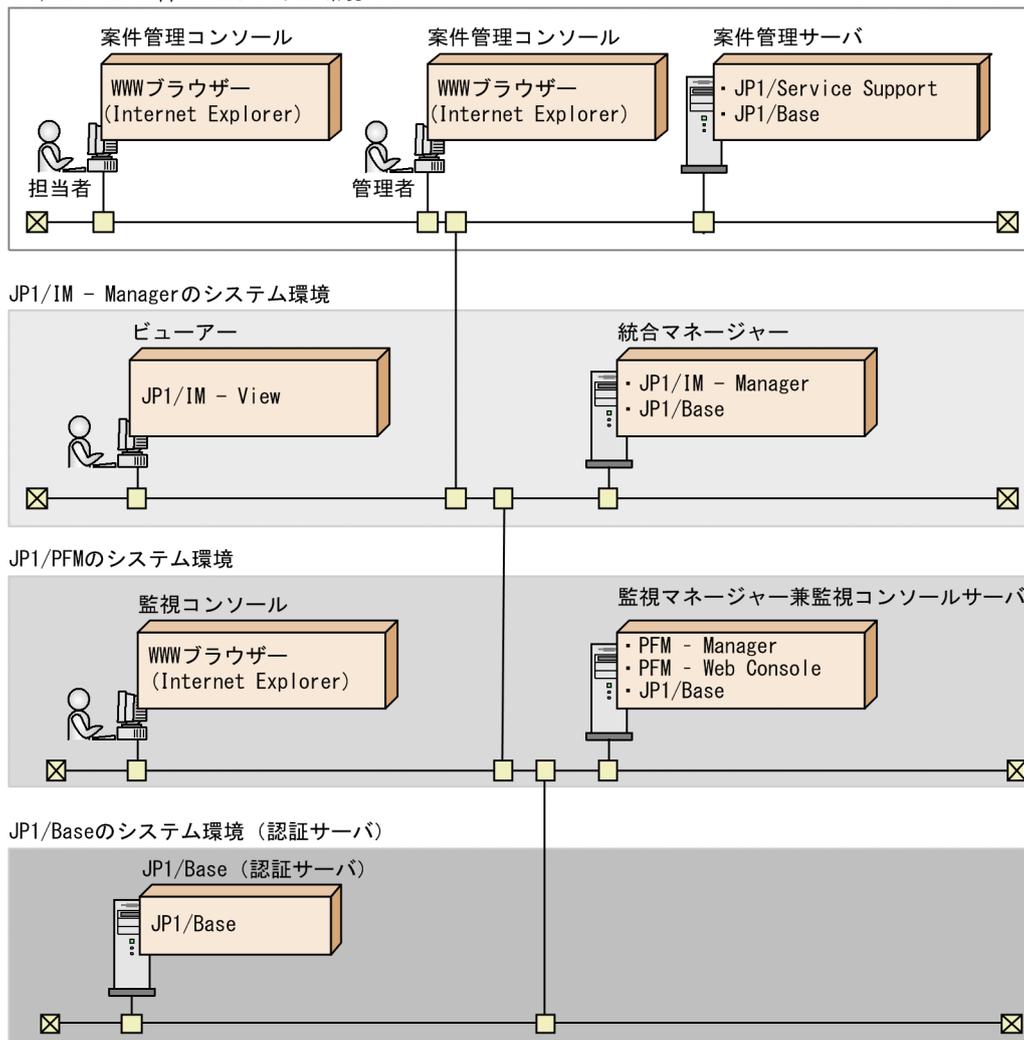
JP1/Base の認証機能を利用するための認証サーバです。JP1/Base の認証機能を利用し、シングルサインオンで該当する JP1/AJS3 - Web Console の [モニタ] 画面を表示します。JP1/Base (認証サーバ) には、JP1/Base が必要です。JP1/Base のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

(9) JP1/PFM - Web Console と連携する場合のシステム構成

JP1/PFM - Web Console と連携する場合のシステム構成例を、次の図に示します。

図 2-12 JP1/PFM - Web Console と連携する場合のシステム構成例

JP1/Service Supportのシステム環境



各マシン、サーバで必要なプログラムを次に示します。

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから JP1/Service Support にログインし、案件を参照、操作するマシンです。

PFM - Web Console と連携する場合、JP1/Service Support の案件に関連づけられた PFM - Web Console の [レポート選択] 画面を表示します。その際、JP1/Base の認証機能を利用し、シングルサインオンで PFM - Web Console の [レポート選択] 画面を参照します。

案件管理コンソールには、Internet Explorer が必要です。

案件管理サーバ

案件を管理するサーバです。案件管理サーバには、JP1/Service Support が必要です。また、JP1/Base の認証機能を利用するため、JP1/Base が必要です。

監視コンソール

監視エージェントが監視対象から収集した稼働情報を確認したり、Performance Management の設定を変更したりするためのコンソール画面です。WWW ブラウザーから監視コンソールサーバに接続することで表示できます。

監視マネージャー兼監視コンソールサーバ

監視マネージャーは、監視エージェントを一元管理します。監視マネージャーとするホストには、PFM - Manager が必要です。

監視コンソールサーバは、監視エージェントが監視対象から収集した稼働情報や、Performance Management の設定画面を監視コンソールで表示できるようにします。監視コンソールサーバとするホストには、PFM - Web Console が必要です。

監視マネージャーおよび監視コンソールサーバは JP1/Base の認証機能を利用するため、JP1/Base が必要です。JP1/PFM のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

JP1/Base (認証サーバ)

JP1/Base の認証機能を利用するための認証サーバです。JP1/Base の認証機能を利用し、シングルサインオンで該当する PFM - Web Console の [レポート選択] 画面を表示します。JP1/Base (認証サーバ) には、JP1/Base が必要です。JP1/Base のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

3

JP1/Service Support の機能

この章では、JP1/Service Support の機能について説明します。

3.1 機能一覧

JP1/Service Support の機能一覧と製品別の使用可否を次の表に示します。

表 3-1 JP1/Service Support の機能一覧

機能	説明	参照
案件の管理	対象システム、およびプロセスワークボードを使って案件を管理する。 一覧表示、設定の参照、作成、編集、削除、削除取り消しなどの機能がある。 また、特定の期間に登録された案件だけを運用できる。	3.2
案件の表示	案件の情報、履歴、および進捗などの処理状況を表示する。エスカレーション機能で関連づけられた案件の情報を表示する。	3.3
案件の検索	案件を検索する。	3.4
案件の作成	案件を作成する。 案件を別のプロセスにエスカレーションする。	3.5
案件の編集	案件を編集する。 案件を引き戻したり、差し戻したりする。	3.6
案件の一括操作	案件のステータスを一括で、「承認済み」または「クローズ」に変更する。	3.7
案件の削除	案件を削除する。	3.8
案件の保存	案件管理 DB に登録されている過去の案件を、案件保存 DB に保存する。	3.9
案件の印刷	案件を印刷する。	3.10
案件に対するアクセス権の管理	案件にアクセス権を設定する。	3.11
メールによる通知	案件が作成されたときやステータスが変更されたときなどに、メールで担当者に通知する。	3.12
案件情報を CSV ファイルに出力	案件の情報や履歴などの一覧を CSV ファイルに出力する。	3.13
案件フォームの管理	案件フォームをカスタマイズする。また、不要な案件フォームを削除する。	3.14
ステータスの管理	案件のステータスをカスタマイズする。	3.15
案件の作業状況の管理	案件の情報を集計し確認する。集計した案件の情報を出力する。	3.16
ユーザーとロールの管理	ユーザーおよびロールを管理する。ユーザー情報やロールの定義情報の一覧表示、詳細情報表示、追加、編集、削除などの機能がある。	3.17
ファイアウォール環境への対応	JP1/Service Support を、ファイアウォール環境で運用する環境を構築する。	3.18
JP1/Service Support のサービス	JP1/Service Support は、次の四つのサービスで構成される。 ※ <ul style="list-style-type: none">JP1/Service Support サービス画面の表示を制御するサービス。	3.19

機能	説明	参照
JP1/Service Support のサービス	<ul style="list-style-type: none"> JP1/Service Support - DB Server サービス JP1/Service Support で使用するデータベースを管理するサービス。 JP1/Service Support - Task Service サービス 指定した間隔でコマンドを実行するサービス。 JP1/Service Support - Web Service サービス 案件管理コンソールとの通信窓口になるサービス。 	3.19
コマンドを使用したデータベースの操作	コマンドを使用して JP1/Service Support で管理するデータベースを操作する。	3.20
クラスタシステムでの運用	JP1/Service Support を、クラスタシステムで運用する環境を構築する。	3.21
他製品との連携	JP1/Service Support と他製品が連携して、案件の自動登録や機器情報の参照などを行う。	4 章

注※

クラスタ環境では、JP1/Service Support - DB Cluster Service サービスも使用します。

3.2 案件の管理

JP1/Service Support にログインすると、次の図に示すメイン画面（案件一覧）が表示されます。この画面を起点として、JP1/Service Support の対象システムと、それに対応するプロセス、また、各プロセスで発生、対処する案件を管理します。

図 3-1 メイン画面（案件一覧）



プロセスワークボード一覧

プロセスワークボードが一覧で表示されます。プロセスワークボードが登録されている対象システム名およびプロセス名（プロセス表示名）がツリーで表示されます。

案件一覧

JP1/Service Support に登録されている案件が、一覧で表示されます。

案件プレビュー

案件一覧で選択した案件の内容が表示されます。

また、案件管理ウィンドウ機能を使用すると、特定の期間に登録された案件だけを運用できます。

3.2.1 プロセスワークボードによる案件の管理

JP1/Service Support では、プロセスワークボードによって、案件を対象システムやプロセスごとに一元管理できます。

プロセスワークボードで案件を分類するためには、次の項目を定義する必要があります。

対象システム

案件を、JP1/Service Support の管理対象となるシステムごとに分類するためのカテゴリです。ユーザーが任意の対象システムを定義できます。

プロセス

対象システム内の案件を、管理対象となるプロセスごとに分類するためのカテゴリです。JP1/Service Support で提供しているプロセスを、次に示します。

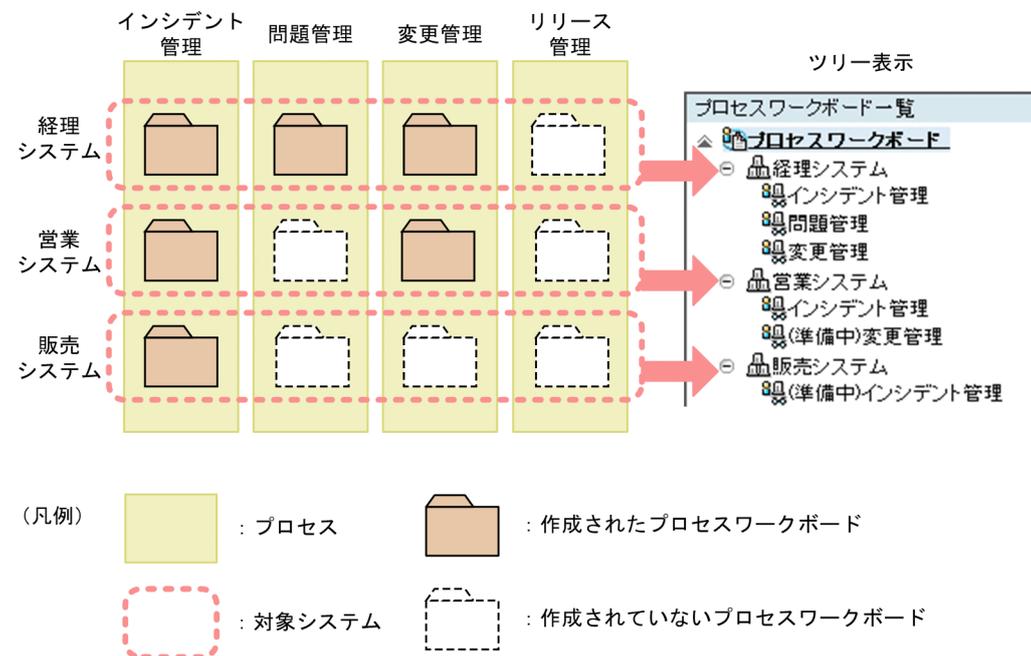
- インシデント管理
- 問題管理
- 変更管理
- リリース管理

また、上記のプロセスの表示名を、ユーザーが任意の名称に定義できます。これをプロセス表示名と呼びます。

対象システムおよびプロセスを定義した上で、プロセス下にプロセスワークボードを作成します。プロセス下に作成したプロセスワークボードに案件を登録することで、案件を対象システムおよびプロセスごとに管理できます。

案件がプロセスワークボードによって分類および管理される概念を、次の図に示します。

図 3-2 プロセスワークボードによる案件の管理



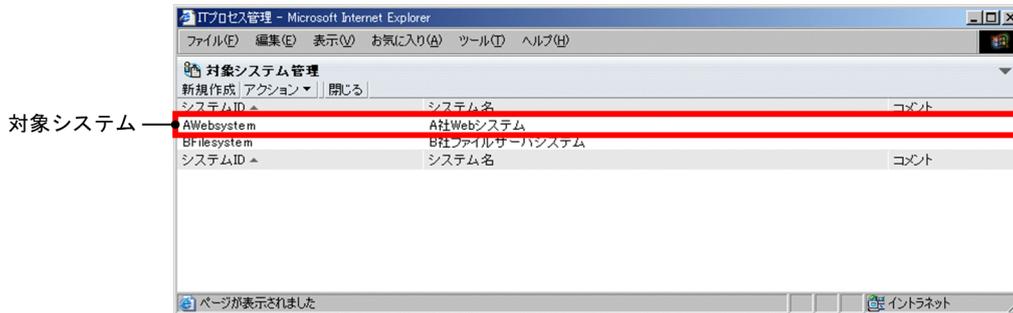
作成されたプロセスワークボードは、メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧に表示されません。プロセスワークボード一覧では、プロセスワークボードに設定された対象システムおよびプロセス（プロセス表示名）がツリーで表示されます。

対象システムやプロセスワークボードで設定する各項目、およびプロセス表示名の設定について説明します。

(1) 対象システムの設定

対象システムは [対象システム管理] 画面で定義します。[対象システム管理] 画面を次の図に示します。

図 3-3 [対象システム管理] 画面



対象システムの設定項目および定義機能を説明します。

(a) 対象システムの設定項目

対象システムには次の項目を設定します。

表 3-2 対象システムの設定項目

設定項目	説明
システム ID	対象システムを識別する ID。JP1/Service Support 内で一意の対象システム ID を設定する。
システム名	対象システムを識別する名称。JP1/Service Support 内で一意の対象システム名を設定する。
コメント	対象システムに対するコメント。

(b) 対象システムの定義機能

対象システムを定義するために JP1/Service Support が提供している機能を次に示します。次に示す機能を使えるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザーだけです。プロセスワークボード管理ロールについては、「3.17.2 ロール管理」を参照してください。

対象システムの作成

対象システムを [対象システム作成] 画面で作成します。

対象システムの編集

対象システムの設定項目を [対象システム編集] 画面で編集します。なお、削除待ちの対象システムは編集できません。編集したい場合は、削除待ちの対象システムの削除取り消しをする必要があります。

対象システムの削除

不要な対象システムを削除します。対象システムを削除する場合、その配下のプロセスワークボードの状態を運用中以外にしておく必要があります。

対象システムを [対象システム管理] 画面で削除すると、[対象システム管理] 画面およびメイン画面 (案件一覧) のプロセスワークボード一覧で「(削除待ち) 対象システム名」と表示され、編集できなく

なります。また、対象システムを削除すると、プロセスワークボード管理ロールに所属しないユーザーは、削除した対象システム下のプロセスワークボードおよび案件もすべて参照できなくなります。

なお、[対象システム管理] 画面で削除した対象システムは、案件管理 DB には残っているため、復元できます。復元については、次の「対象システムの削除取り消し」を参照してください。

案件管理 DB からも対象システムを削除する場合、jssdelrec コマンドを実行します。jssdelrec コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdelrec (案件管理 DB データ削除)」を参照してください。

また、案件保存 DB を使用している場合、jssdelrec コマンドを実行してシステムを削除すると、案件管理 DB に登録されている管理案件だけでなく、案件保存 DB に保存されている保存案件も参照できなくなります。

対象システムの削除取り消し

[対象システム管理] 画面で、削除待ち状態の対象システムを、削除待ちとなる前の状態に復元します。なお、登録されていたプロセスワークボードも、削除待ちとなる前の状態に戻ります。

(2) プロセスの設定

JP1/Service Support で提供しているプロセスのプロセス表示名をカスタマイズできます。カスタマイズしたプロセス表示名は、すべてのシステムに適用されます。このため、次に示す画面やファイルに出力されるプロセス名のすべてが、プロセス表示名となります。

- JP1/Service Support で表示される画面
- 出力できる CSV ファイル、集計ファイルの出力結果
- JP1/Service Support が提供しているレポート作成マクロで作成したレポート
- コマンド実行時に必要な入力ファイル、およびコマンドを実行して出力されたファイル

プロセス表示名が反映される画面および機能の一覧を、次の表に示します。

表 3-3 プロセス表示名が反映される画面および機能一覧

項番	分類	説明
1	画面	メイン画面 (案件一覧) <ul style="list-style-type: none">• プロセスワークボード一覧• 案件一覧• 案件プレビュー
2		メイン画面 (案件状況) <ul style="list-style-type: none">• 状況確認• 対象案件一覧
3		[プロセスワークボード参照] 画面
4		[プロセスワークボード作成] 画面
5		[プロセスワークボード編集] 画面

項番	分類	説明	
6	画面	[案件参照] 画面	
7		[案件作成] 画面	
8		[案件編集] 画面	
9		[関連案件状態] 画面	
10		[案件共通項目検索条件指定] 画面	
11		[案件検索条件指定] 画面	
12		[案件検索結果一覧] 画面	
13		[履歴の表示] 画面	
14		[進捗表示] 画面	
15		[集計データのファイル出力] 画面	
16		[ステータス管理] 画面	
17		[エスカレーション先指定] 画面	
18		[登録先プロセスワークボード選択] 画面	
19		[アクセス権編集] 画面	
20		案件印刷画面	
21		メール通知	通知されるメールのタイトルおよび本文
22		入力/出力ファイル	[案件検索結果一覧] 画面から出力した案件の詳細情報 (CSV ファイル)
23			[集計データのファイル出力] 画面から出力した案件データおよびコードデータ (CSV ファイル)
24			jssitemimportEx コマンド実行時の入力ファイル (案件情報拡張入力ファイル)
25			jssitemexportEx コマンドを実行して出力される案件情報の CSV ファイル
26	jssitemlist コマンドを実行して出力される案件詳細情報ファイル (CSV ファイル)		
27	jssitemhistory コマンドを実行して出力される案件履歴情報ファイル (CSV ファイル)		
28	案件の集計	案件の集計データ (案件データ CSV ファイル, コードデータ CSV ファイル) のデータ部	
29		レポート作成マクロで作成したレポート	

プロセスで設定できる項目および定義機能について説明します。

(a) プロセスの設定項目

プロセス表示名は、[プロセス表示名編集] 画面で定義します。[プロセス表示名編集] 画面は、メイン画面 (案件一覧) のメニューから [オプション] - [プロセス表示名編集] を選択すると表示されます。[プロセス表示名編集] 画面を次の図に示します。

図 3-4 [プロセス表示名編集] 画面



プロセスには、次の項目を設定できます。

表 3-4 プロセスの設定項目

設定項目	説明
プロセス	次に示すプロセスのプロセス表示名を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> インシデント管理 問題管理 変更管理 リリース管理

(b) プロセスの定義機能

プロセスを定義するために、JP1/Service Support が提供している機能を次に示します。この機能は、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザーが使用できます。プロセスワークボード管理ロールについては、「3.17.2 ロール管理」を参照してください。

プロセス表示名の変更

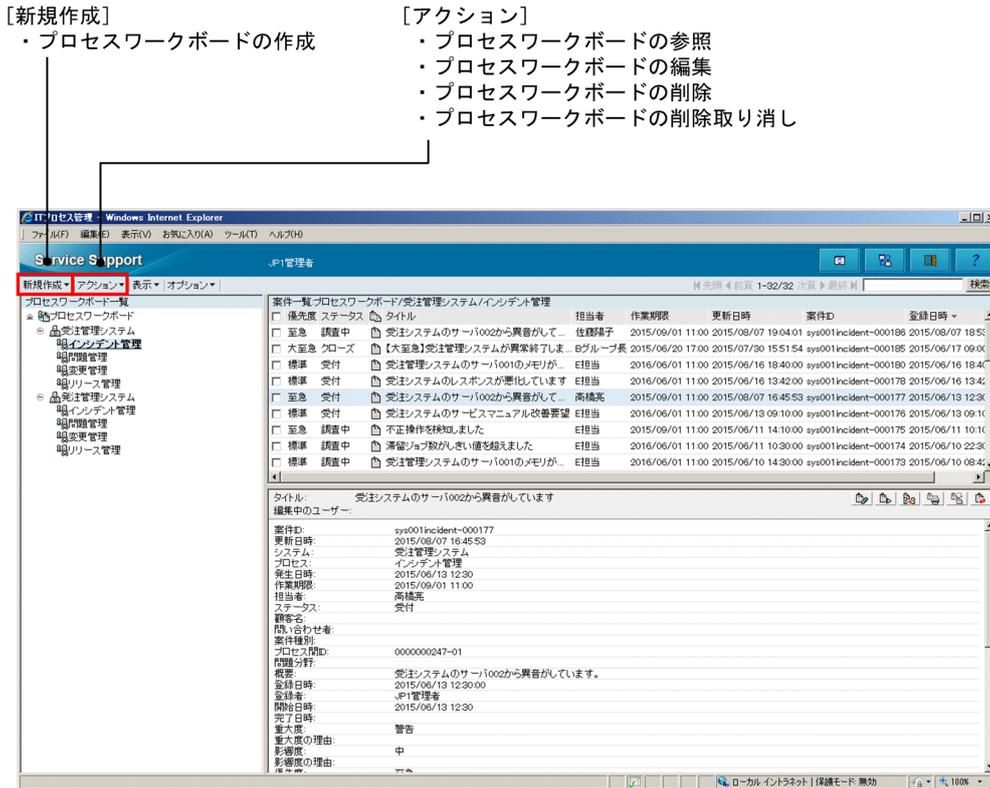
[プロセス表示名編集] 画面で、プロセス表示名を変更できます。

(3) プロセスワークボードの設定

プロセスワークボードは、メイン画面（案件一覧）のメニューで定義します。プロセスワークボードの作成は [新規作成]、プロセスワークボードの参照、編集、削除および削除の取り消しは [アクション] から行います。

メイン画面（案件一覧）でのプロセスワークボードを定義する機能について、次の図に示します。

図 3-5 メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボードの定義機能

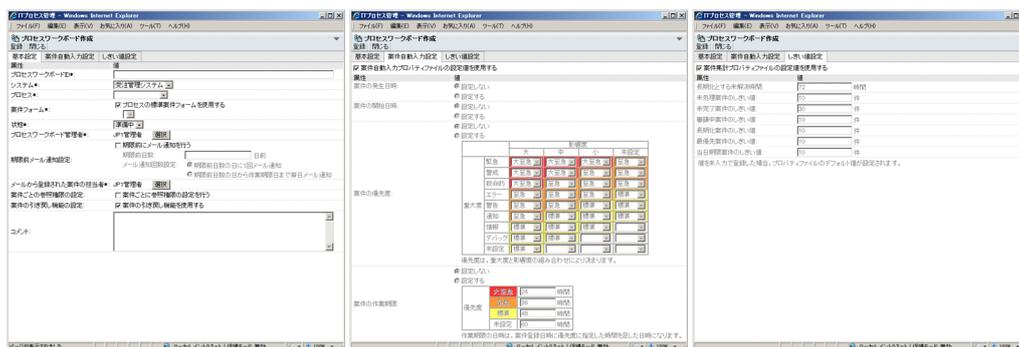


プロセスワークボードの設定項目、定義機能およびプロセスワークボードの状態と実行できる操作を説明します。

(a) プロセスワークボードの設定項目

プロセスワークボードについては、[プロセスワークボード作成] 画面、および [プロセスワークボード編集] 画面で設定します。これら二つの画面は、設定する項目によって次の三つのタブに分けられています。例として、[プロセスワークボード作成] 画面のそれぞれのタブを次の図に示します。

図 3-6 [プロセスワークボード作成] 画面



- [基本設定] タブ
プロセスワークボードについての基本的な項目を設定します。
- [案件自動入力設定] タブ

「案件の発生日時」や「案件の開始日時」など、案件登録時に自動入力できる項目について設定します。なお、案件の自動入力設定は、案件自動入力プロパティファイルでも設定できます。プロセスワークボードごとに設定したい場合は [プロセスワークボード作成] 画面、または [プロセスワークボード編集] 画面で設定してください。また、[案件自動入力設定] タブの設定についても、案件自動入力プロパティファイルで設定できます。ただし、画面から設定した場合、[案件自動入力設定] タブの表示は案件自動入力プロパティファイルで設定した値と異なります。案件自動入力プロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件自動入力プロパティファイル \(hptl_jpl_imss_pwb_default_setting.properties\)](#)」を参照してください。

- [しきい値設定] タブ

メイン画面（案件状況）での案件の状況確認で使用するしきい値を設定します。

設定する項目について、それぞれのタブごとに次の表に示します。

表 3-5 プロセスワークボードの設定項目（[基本設定] タブ）

設定項目	説明
プロセスワークボード ID	プロセスワークボードを識別する ID。JP1/Service Support 内で一意のプロセスワークボード ID を設定する。
システム	プロセスワークボードを登録する対象システム。作成済みの対象システムから選択する。
プロセス	プロセスワークボードを登録するプロセス。プルダウンメニューから選択する。プルダウンメニューには、プロセス表示名が表示される。プロセス表示名については、「(2) プロセスの設定 」を参照のこと。
案件フォーム	プロセスワークボードで使用する案件フォーム。プロセスの標準案件フォームを使用する場合は、[プロセスの標準案件フォームを使用する] チェックボックスにチェックする。使用する案件フォームを選択する場合は、プルダウンメニューから使用する案件フォームを選択する。案件フォームの詳細については、「 3.14 案件フォームの管理 」を参照のこと。
状態	プロセスワークボードの運用状態。次に示す運用状態から選択する。 <ul style="list-style-type: none"> • 準備中 プロセスワークボードを運用するための準備をしている状態。準備中からは、運用中または削除待ちにしか状態を変更できない。 • 運用中 プロセスワークボードが運用できる状態。運用中からは停止中にしか状態を変更できない。 • 停止中 プロセスワークボードがメンテナンス中か、停止している状態。停止中からは、削除待ちまたは運用中にしか状態を変更できない。 • 削除待ち プロセスワークボードがメイン画面（案件一覧）で削除された状態。削除待ちからは停止中にしか状態を変更できない。
プロセスワークボード管理者	プロセスワークボードを管理するユーザーまたはロール。プロセスワークボード管理者には、次の権限が設定される。 <ul style="list-style-type: none"> • プロセスワークボードの編集権限

設定項目	説明
プロセスワークボード管理者	<ul style="list-style-type: none"> プロセスワークボードに所属する案件に対するすべてのアクセス権
期限前メール通知設定	案件の作業期限が近づいていることを、担当者やプロセスワークボード管理者にメールで通知するかどうかを設定する項目。メール通知の詳細については、「3.12 メールによる通知」を参照のこと。
JP1 イベント発行設定	案件のクローズ時やステータス変更時に、JP1/Service Support から JP1 イベントを発行させるかどうかを設定するチェックボックス。JP1 イベント発行の詳細については、「4.1 JP1/IM - Manager との連携」を参照のこと。
メールから登録された案件の担当者	メールから登録された案件の担当者となるユーザーまたはロール。メールによる案件の登録については、「3.5.3 メールによる案件の作成」を参照のこと。
案件ごとの参照権限の設定	案件ごとに参照権限を設定するかどうかを設定するチェックボックス。案件ごとの参照権限の設定については、「3.11 案件に対するアクセス権の管理」を参照のこと。
案件の引き戻し機能の設定	案件の引き戻し機能を使用するかどうかを設定するチェックボックス。案件の引き戻しについては、「3.6.3 案件の引き戻し」を参照のこと。
コメント	プロセスワークボードに対するコメント。

表 3-6 プロセスワークボードの設定項目（[案件自動入力設定] タブ）

設定項目	説明
案件自動入力プロパティファイルの設定値を使用する	案件自動入力プロパティファイルの設定値を使用するかどうかを設定するチェックボックス。チェックすると、案件自動入力プロパティファイルの設定値を使用して、案件の自動入力を設定する。
案件の発生日時	案件の発生日時を自動入力させるかどうかを設定するラジオボタン。[設定する] を選択すると、[案件作成] 画面を表示させた日時が自動的に入力される。また、案件登録コマンドまたはメールによる案件登録コマンドで案件を作成した場合は、コマンドの実行日時が自動的に入力される。
案件の開始日時	案件の開始日時を自動入力させるかどうかを設定するラジオボタン。[設定する] を選択すると、[案件作成] 画面を表示させた日時が自動的に入力される。また、案件登録コマンドまたはメールによる案件登録コマンドで案件を作成した場合は、コマンドの実行日時が自動的に入力される。
案件の優先度	<p>案件の優先度を自動入力させるかどうかを設定するラジオボタン、および優先度の自動入力の基となる影響度および重大度の組み合わせを設定するプルダウンメニュー。</p> <p>ラジオボタンで [設定する] を選択すると、案件作成時に入力された影響度および重大度によって、優先度が自動入力される。案件登録コマンドまたはメールによる案件登録コマンドで案件を作成した場合も同様に、優先度が自動入力される。</p> <p>優先度の自動入力の基となる影響度および重大度の組み合わせについては、ユーザーの運用に合わせてプルダウンメニューで設定することもできる。</p>
案件の作業期限	<p>案件の作業期限を自動入力させるかどうかを設定するラジオボタン。</p> <p>ラジオボタンで [設定する] を選択すると、テキストボックスに入力された時間数が、[案件作成] 画面を表示させた時刻に加算されて自動入力される。</p> <p>なお、[案件編集] 画面で案件の優先度を変更した場合、作業期限が自動入力される。作業期限の算出方法には、次のどちらかを選択できる。</p>

設定項目	説明
案件の作業期限	<ul style="list-style-type: none"> • テキストボックスに入力された時間数が、[案件編集] 画面を表示させた時刻に加算される。 • テキストボックスに入力された時間数が、案件の登録日時に加算される。 <p>作業期限の算出方法の設定については、「13. 定義ファイル」の「案件自動入力プロパティファイル (hptl_jpl_imss_pwb_default_setting.properties)」を参照のこと。</p> <p>案件登録コマンドまたはメールによる案件登録コマンドで案件を作成した場合も、作業期限が自動入力される。また、案件編集コマンドで案件の優先度の変更された場合も、作業期限が自動更新される。</p> <p>案件登録コマンドまたはメールによる案件登録コマンドで案件を作成した場合、案件編集コマンドで案件の優先度の変更された場合、作業期限は、テキストボックスに入力された時間数が、案件の登録日時に加算される。</p> <p>なお、テキストボックスが空欄の場合は、作業期限が自動入力されない。</p>

表 3-7 プロセスワークボードの設定項目（[しきい値設定] タブ）

設定項目	説明
案件集計プロパティファイルの設定値を使用する	案件集計プロパティファイルの設定値を使用するかどうかを設定するチェックボックス。チェックすると、案件集計プロパティファイルの設定値を使用して、しきい値を設定する。
長期化とする未解決時間	長期化案件と見なすための時間数のしきい値を設定するテキストボックス。案件の登録日時からこのテキストボックスで設定した時間が超過すると、長期化案件と見なされる。長期化した案件の数はメイン画面（案件状況）の「長期化」に表示される。
未処理案件のしきい値	メイン画面（案件状況）の状況確認で、「未処理」を警告表示する件数のしきい値を設定するテキストボックス。未処理案件の件数がこのテキストボックスで設定した件数を超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「未処理」部分が警告表示される。
未完了案件のしきい値	メイン画面（案件状況）の状況確認で、「未完了」を警告表示する件数のしきい値を設定するテキストボックス。未処理案件の件数がこのテキストボックスで設定した件数を超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「未完了」部分が警告表示される。
審議中案件のしきい値	メイン画面（案件状況）の状況確認で、「審議中」を警告表示する件数のしきい値を設定するテキストボックス。未処理案件の件数がこのテキストボックスで設定した件数を超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「審議中」部分が警告表示される。
長期化案件のしきい値	メイン画面（案件状況）の状況確認で、「長期化」を警告表示する件数のしきい値を設定するテキストボックス。未処理案件の件数がこのテキストボックスで設定した件数を超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「長期化」部分が警告表示される。
最優先案件のしきい値	メイン画面（案件状況）の状況確認で、「最優先」を警告表示する件数のしきい値を設定するテキストボックス。未処理案件の件数がこのテキストボックスで設定した件数を超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「最優先」部分が警告表示される。
当日期限案件のしきい値	メイン画面（案件状況）の状況確認で、「当日期限」を警告表示する件数のしきい値を設定するテキストボックス。未処理案件の件数がこのテキストボックスで設定した件数を

設定項目	説明
当日期限案件のしきい値	超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「当日期限」部分が警告表示される。

案件が未処理案件、未完了案件などに分類される基準については、「[3.16.2\(1\) 状況確認](#)」を参照してください。

(b) プロセスワークボードの定義機能

プロセスワークボードを定義するために、JP1/Service Support が提供している機能を次に示します。

プロセスワークボードの参照

〔プロセスワークボード参照〕画面で、プロセスワークボードの設定項目を確認できます。

プロセスワークボードの作成

プロセスワークボードを作成します。プロセスワークボードの作成は〔プロセスワークボード作成〕画面で行います。

プロセスワークボードの編集

プロセスワークボードの設定項目を編集します。プロセスワークボードの編集は〔プロセスワークボード編集〕画面で行います。なお、削除待ちのプロセスワークボードは編集できません。編集する場合は、削除待ちのプロセスワークボードの削除取り消しをする必要があります。

プロセスワークボードおよび案件のアクセス権設定

プロセスワークボードで行う操作を、ユーザーまたはロール単位で限定するためにアクセス権を設定できます。アクセス権設定の詳細については、「[3.11 案件に対するアクセス権の管理](#)」を参照してください。

プロセスワークボードの削除

不要なプロセスワークボードを削除します。プロセスワークボードを削除する場合、状態が準備中または停止中であることが必要です。

プロセスワークボードをメイン画面（案件一覧）で削除すると、プロセスワークボード一覧で「(削除待ち) プロセスワークボード名」と表示されます。削除待ちと表示されたプロセスワークボードは、プロセスワークボードの編集やプロセスワークボードのアクセス権の編集などの操作ができなくなります。また、プロセスワークボード管理ロールに所属しないユーザーは、削除したプロセスワークボード下の案件も参照できなくなります。案件保存 DB を使用している場合、削除したプロセスワークボード下の保存案件も参照できなくなります。

なお、メイン画面（案件一覧）で削除したプロセスワークボードは、案件管理 DB には残っているため、復元できます。復元については、次の「[プロセスワークボードの削除取り消し](#)」を参照してください。

案件管理 DB からプロセスワークボードを削除する場合、jssdelrec コマンドを実行します。jssdelrec コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssdelrec \(案件管理 DB データ削除\)](#)」を参照してください。

プロセスワークボードの削除取り消し

削除待ち状態のプロセスワークボードを、削除待ちとなる前の状態に復元します。これにより、同じように削除待ち状態だったプロセスワークボードの案件も参照できるようになります。ただし、プロセス

ワークボードを削除する前からすでに削除待ち状態だった案件は、削除待ち状態のまま復元されます。そのため、案件は参照できません。プロセスワークボードの削除取り消しはメイン画面（案件一覧）で行います。

(c) プロセスワークボードの状態と実行できる操作

プロセスワークボードの状態および操作するユーザーの権限によって、プロセスワークボードに対して実行できる操作が異なります。権限および状態によって実行できる操作の違いを表 3-8～表 3-10 に示します。

表 3-8 プロセスワークボードの状態と操作の対応（プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザーの場合）

操作	状態			
	準備中	運用中	停止中	削除待ち
プロセスワークボードの参照	○	○	○	○
プロセスワークボードの編集	○	○	○	×
プロセスワークボードおよび案件のアクセス権設定	○	○	○	×
プロセスワークボードの削除	○	×	○	×
プロセスワークボードの削除取り消し	×	×	×	○
案件の参照	—	○	○	○
案件の作成	×	○	×	×
登録済みの案件を流用して案件を作成※1	—	○	○	○
案件の編集※2	—	○	×	×
案件のエスカレーション	—	○	×	×
案件の削除	—	○	×	×
案件の印刷	—	○	○	○

(凡例)

- ：操作できる
- ×
- ：案件がないため操作の対象外

注※1

流用元のプロセスワークボードの状態を示します。案件の流用先のプロセスワークボードの状態については、「案件の作成」を参照してください。

注※2

案件を引き戻したり差し戻したりする場合、案件のステータスの遷移状態や編集状態によって操作できる権限が異なります。案件の引き戻しについては「3.6.3 案件の引き戻し」を、案件の差し戻しについては「3.6.4 案件の差し戻し」を参照してください。

表 3-9 プロセスワークボードの状態と操作の対応（プロセスワークボード管理ロールに所属していない、プロセスワークボード管理者のユーザーまたはロールの場合）

操作	状態			
	準備中	運用中	停止中	削除待ち
プロセスワークボードの参照	○	○	○	プロセスワークボードが表示されないため操作できない
プロセスワークボードの編集	○	○	○	
プロセスワークボードおよび案件のアクセス権設定	○	○	○	
プロセスワークボードの削除	×	×	×	
プロセスワークボードの削除取り消し	×	×	×	
案件の参照	—	○	○	
案件の作成	×	○	×	
登録済みの案件を流用して案件を作成※1	—	○	○	
案件の編集※2	—	○	×	
案件のエスカレーション※3	—	○	×	
案件の削除	—	○	×	
案件の印刷	—	○	○	

(凡例)

- ：操作できる
- ×：操作できない
- ：案件がないため操作の対象外

注※1

流用元のプロセスワークボードの状態を示します。案件の流用先のプロセスワークボードの状態については、「案件の作成」を参照してください。

注※2

案件を引き戻したり差し戻したりする場合、案件のステータスの遷移状態や編集状態によって操作できる権限が異なります。案件の引き戻しおよび案件の差し戻しについては、「3.6.3 案件の引き戻し」または「3.6.4 案件の差し戻し」を参照してください。

注※3

案件のエスカレーションには、エスカレーション先のプロセスワークボードでエスカレーション権限が必要です。

表 3-10 プロセスワークボードの状態と操作の対応（プロセスワークボード管理者以外で、かつプロセスワークボード管理ロールにも所属していない、案件の参照権限を持つユーザーまたはロールの場合）

操作	状態			
	準備中	運用中	停止中	削除待ち
プロセスワークボードの参照	プロセスワークボードが表示されないため操作できない	○	○	プロセスワークボードが表示されないため操作できない
プロセスワークボードの編集		×	×	
プロセスワークボードおよび案件のアクセス権設定		×	×	
プロセスワークボードの削除		×	×	
プロセスワークボードの削除取り消し		×	×	
案件の参照※1		○	○	
案件の作成		×	×	
登録済みの案件を流用して案件を作成※2		○	○	
案件の編集※3		×	×	
案件のエスカレーション※4		○	×	
案件の削除		×	×	
案件の印刷		○	○	

(凡例)

- ：操作できる
- ×：操作できない

注※1

案件ごとに参照権限を設定している場合は、案件に対して対象となるユーザーまたはロールを、案件の参照権限所有者として設定する必要があります。なお、このマニュアルでは「案件ごとの参照権限所有者」を表示名としています。

注※2

流用元のプロセスワークボードの状態を示します。案件の流用先のプロセスワークボードの状態については、「案件の作成」を参照してください。

注※3

案件を引き戻したり差し戻したりする場合、案件のステータスの遷移状態や編集状態によって操作できる権限が異なります。案件の引き戻しおよび案件の差し戻しについては、「3.6.3 案件の引き戻し」または「3.6.4 案件の差し戻し」を参照してください。

注※4

案件のエスカレーションには、エスカレーション先のプロセスワークボードでエスカレーション権限が必要です。

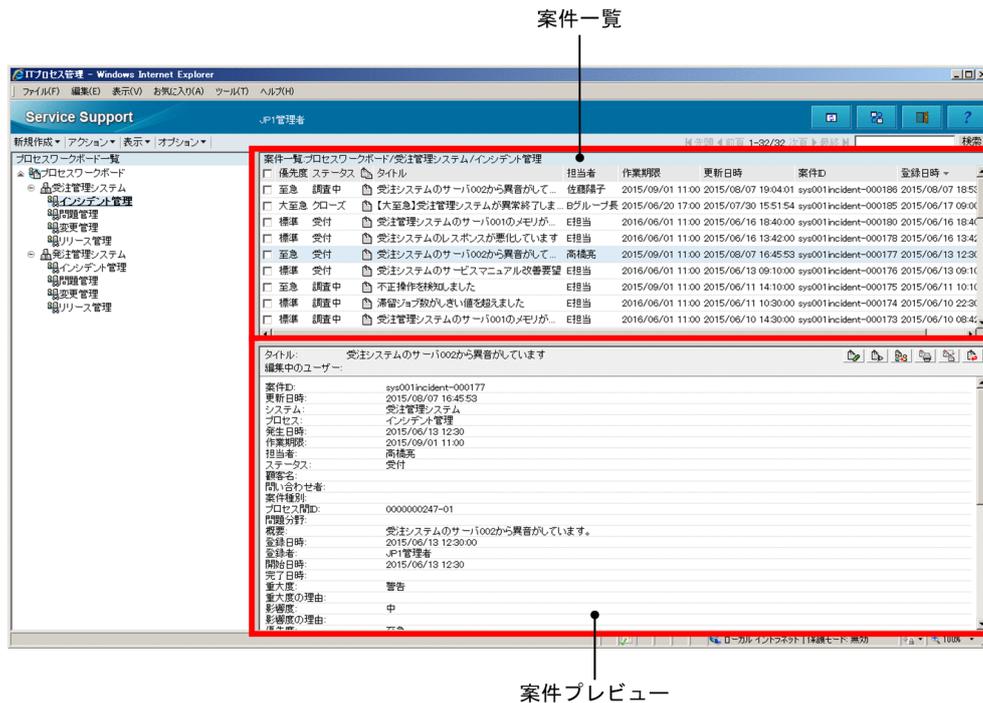
3.2.2 プロセスワークボードに登録された案件の一覧表示

プロセスワークボードに登録された案件は、メイン画面（案件一覧）の案件一覧に表示されます。一覧表示される案件は、ソートして表示したり、自分が担当する案件だけをフィルタリングして表示したりできます。また、メイン画面（案件一覧）の案件プレビューに、案件一覧で選択した案件のプレビューを表示できます。

なお、管理案件だけでなく、保存案件も表示されます。

メイン画面（案件一覧）の案件一覧および案件プレビューを次の図に示します。

図 3-7 メイン画面（案件一覧）の案件一覧および案件プレビュー



メイン画面（案件一覧）の案件一覧および案件プレビューについて説明します。

(1) 案件一覧

メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧で選択する項目によって、案件一覧で表示される案件が異なります。表示される案件の違いについて次に示します。

プロセスワークボード一覧で最上位の「プロセスワークボード」を選択した場合

運用中および停止中のプロセスワークボードに登録されている案件が表示されます。なお、一時受付プロセスワークボードに登録されている案件は表示されません。一時受付プロセスワークボードについては、「3.5.3(1) 一時受付プロセスワークボード、およびマスターシステムとは」を参照してください。

プロセスワークボード一覧で対象システムを選択した場合

選択した対象システム下にある、運用中および停止中のプロセスワークボードに登録されている案件が表示されます。

プロセスワークボード一覧でプロセスワークボードを選択した場合

選択したプロセスワークボードに登録されている案件が表示されます。

なお、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザーの場合、削除待ちの対象システムおよびプロセスワークボードも、プロセスワークボード一覧に表示されます。その場合、削除待ちの対象システムおよびプロセスワークボードを選択すると、その下にある案件も案件一覧に表示されます。

また、案件ごとに参照権限を設定しているプロセスワークボードでは、参照権限を所有している案件だけが案件一覧に表示されます。

案件一覧に表示される項目を次の表に示します。

表 3-11 案件一覧の表示項目

項目	説明
優先度	案件の優先度。「標準」、「至急」、「大至急」の3種類がある。
ステータス	現在の案件の状態。ステータスの種類については、「3.6.1(2) ステータスの変更」を参照のこと。
編集状態アイコン	案件の編集状態を示すアイコン。次の2種類がある。 <ul style="list-style-type: none">•  : 案件アイコン 案件が編集中でないことを示す。•  : 編集中アイコン 案件が編集中であることを示す。編集中アイコンには次の2種類がある。<ul style="list-style-type: none">•  : 自分が編集中の案件であることを示す。自分が編集中の案件は編集できる。•  : ほかのユーザーが編集中の案件であることを示す。ほかのユーザーが編集中の案件は編集できない。•  : 保存案件アイコン※1 案件保存 DB に保存されている案件であることを示す。案件保存 DB の案件は編集できない。
タイトル	案件のタイトル。
担当者	案件を処理するユーザーまたはロール。
作業期限	案件の作業期限。作業期限が切れた案件は赤字で強調表示される。
更新日時	案件の最終更新日時。
システム	案件が登録されている対象システム名。
プロセス	案件が登録されているプロセス名。プロセス表示名が表示される。
案件 ID	JP1/Service Support 内で、案件を一意に識別するための ID。プロセスワークボード作成時に設定したプロセスワークボード ID と、プロセスワークボード内通し番号※2 を組み合わせた値。
登録日時	案件が JP1/Service Support に登録された日時。
I (Incident)	案件がインシデント管理※3 で作成された場合またはインシデント管理※3 にエスカレーションしている場合、「*」が表示される。

項目	説明
P (Problem)	案件が問題管理 ^{※3} で作成された場合または問題管理 ^{※3} にエスカレーションしている場合、「*」が表示される。
C (Change)	案件が変更管理 ^{※3} で作成された場合または変更管理 ^{※3} にエスカレーションしている場合、「*」が表示される。
R (Release)	案件がリリース管理 ^{※3} で作成された場合またはリリース管理 ^{※3} にエスカレーションしている場合、「*」が表示される。

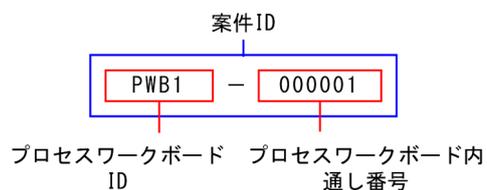
注※1

案件保存 DB を使用している場合に表示されます。

注※2

プロセスワークボード内通し番号とは、一つのプロセスワークボード内で作成された案件を、一意に識別するための通し番号です。案件 ID、プロセスワークボード ID およびプロセスワークボード内通し番号の関係を次の図に示します。

図 3-8 案件 ID の構成



なお、プロセスワークボード内通し番号は、次の方法で確認できます。

- JP1/Service Support の画面から確認する方法

[案件参照] 画面に表示される案件 ID のうち、「-」の右側にプロセスワークボード内通し番号が表示されます。例えば、案件 ID が「honsyasystem-000001」の場合、「000001」がプロセスワークボード内通し番号となります。

- 案件の情報を出力した CSV ファイルで確認する方法

検索結果の CSV 出力、jssitemhistory (案件履歴出力) コマンドの CSV 出力、jssitemlist (案件一覧出力) コマンドの CSV 出力、jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート) コマンドの CSV 出力に、プロセスワークボード内通し番号が出力されます。検索結果の CSV 出力の詳細については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」を参照してください。jssitemhistory コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssitemhistory \(案件履歴出力\)](#)」を参照してください。

jssitemlist コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssitemlist \(案件一覧出力\)](#)」を参照してください。jssitemexportEx コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssitemexportEx \(案件情報拡張エクスポート\)](#)」を参照してください。

- JP1/Service Support から発行された JP1 イベントの内容から確認する方法

JP1/Service Support から発行された JP1 イベントの拡張属性のオブジェクト ID のうち、「-」の右側にプロセスワークボード内通し番号が表示されます。例えば、オブジェクト ID が「honsyasystem-000001」の場合、「000001」がプロセスワークボード内通し番号となります。

JP1/Service Support から発行される JP1 イベントについては、「4.1 JP1/IM - Manager との連携」を参照してください。

注※3

プロセスの名称は、デフォルトの名称です。プロセス表示名をカスタマイズしても、次に示す案件一覧の項目の表示は変わりません。

- I (Incident)
- P (Problem)
- C (Change)
- R (Release)

案件一覧でできる操作について次に示します。

表示▼ : 案件のフィルタリング

案件をフィルタリングして表示します。フィルター条件を次に示します。

- 自分が担当者の案件
自分が担当者の案件だけが表示されます。また、担当者に自分が所属するロールが設定されている案件も表示されます。
- 処理中の案件
処理中の案件だけが表示されます。処理中の案件とは、デフォルトでのステータス名称が「クローズ」以外、かつプロセスワークボードの状態が運用中の案件です。
- 案件管理ウィンドウの移動
このフィルター条件は、案件管理ウィンドウを使用している場合に表示されます。選択すると、[案件管理ウィンドウの移動] 画面が表示されて、案件管理ウィンドウの範囲を移動できます。案件管理ウィンドウを移動すると、移動した範囲内に登録された案件が表示されます。案件管理ウィンドウについては、「3.2.3 案件管理ウィンドウ」を参照してください。

先頭 ◀ 前頁 1-50/100 次頁 ▶ 最終 ▶ : ページめくり

案件を表示しているページを変更します。案件一覧で一度に表示できる案件数は 50 件です。50 件を超えた場合、この機能を使って表示します。上の表示「1-50/100」を例にすると、登録されている案件 100 件のうち 1 件から 50 件が表示されていることになります。なお、登録されている案件が 10,001 件以上になると、表示は「1-50/10000+」の形で表示されます。

優先度 ステータス タイトル 担当者 作業期限 更新日時 システム プロセス 案件ID 登録日時 ▼ IPCR : 案件のソート

「I」「P」「C」「R」を除き、案件の表示項目名をクリックすることで、その表示項目をキーにソートできます。ソートすると、並び順の基準となる項目に▲（昇順）または▼（降順）が表示されます。デフォルトの表示順は登録日時の降順です。

 をクリックすると、編集状態アイコンをキーにソートできます。ソート順を次に示します。

▲が表示された場合

1. 編集していない案件

2. 編集中の案件
3. 編集できない案件（保存案件）

▼が表示された場合

1. 編集できない案件（保存案件）
2. 編集中の案件
3. 編集していない案件

(2) 案件プレビュー

メイン画面（案件一覧）の案件一覧から案件を選択すると、案件プレビューに案件の内容が表示されます。[案件参照] 画面を呼び出すことなく、容易に案件の内容を確認できます。案件の内容は、添付ファイルの内容を除いて、すべての情報が表示されます。

案件プレビューでできる操作について次に示します。

編集中のユーザーの参照

編集中のユーザーの詳細情報を表示できます。

表示内容からの情報の呼び出し

表示項目のアンカーをクリックすると、情報を表示できます。情報を表示できる項目を次に示します。

- 関連案件
- 関連情報
- 機器情報
- 添付ファイル
- ユーザーが追加したリンク指定系の項目

操作アイコン

それぞれのアイコンをクリックすると、指定された画面が表示されます。アイコンの種類と表示される画面について示します。

表 3-12 操作アイコン

アイコン	説明
	案件の参照アイコン。このアイコンをクリックすると、[案件参照] 画面が表示される。
 ※	<p>案件の編集アイコン。このアイコンをクリックすると、[案件編集] 画面が表示される。なお、このアイコンは次に示す条件のどれかに当てはまる場合にだけ表示される。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プロセスワークボード管理ロールに所属している。 • プロセスワークボード管理者である。 • 案件の参照権限および編集権限が設定されている。 • 案件の参照権限および現ステータスの操作権限が設定されている。

アイコン	説明
 ※	エスカレーションアイコン。このアイコンをクリックすると、[エスカレーション先指定] 画面が表示される。なお、このアイコンは、案件がほかのユーザーによって編集中の場合は表示されない。
	印刷画面表示アイコン。このアイコンをクリックすると、案件印刷画面が表示される。
	内容を引き継いで案件作成アイコン。このアイコンをクリックすると、[登録先プロセスワークボード選択] 画面が表示される。案件の流用先のプロセスを選択し、[OK] ボタンをクリックすると、案件プレビューに表示された案件の案件情報を引き継いだ状態の [案件作成] 画面が表示される。
 ※	案件の引き戻しアイコン。このアイコンをクリックすると、案件の引き戻しを実行するかどうかを確認するダイアログボックスが表示される。[OK] ボタンをクリックすると、案件が引き戻される。

注※

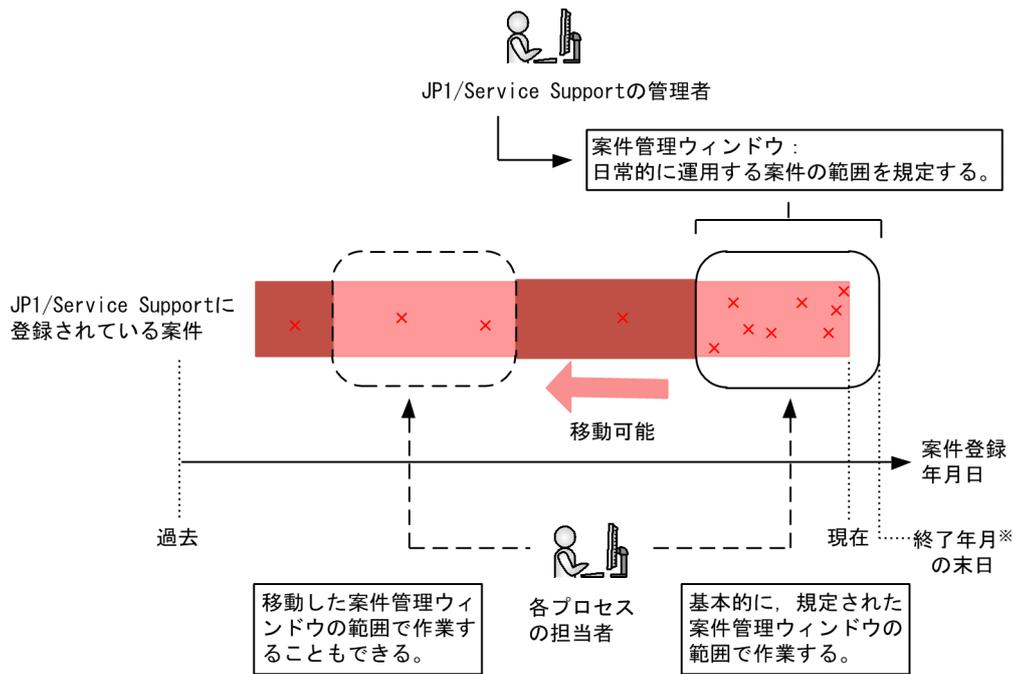
保存案件の場合は表示されません。

3.2.3 案件管理ウィンドウ

案件管理ウィンドウとは、日常的に運用する案件の範囲を規定する機能です。案件管理ウィンドウを使用すると、特定の期間に JP1/Service Support に登録された案件だけを運用の対象にできます。大量の案件が JP1/Service Support に登録されている場合、案件の運用範囲を規定することで、現在の業務に関係のない案件が表示されないため、案件を検索しやすくなります。なお、案件保存 DB を使用している場合は、管理案件だけでなく保存案件も運用の対象となります。

案件管理ウィンドウの概念を、次の図に示します。

図 3-9 案件管理ウィンドウの概念



(凡例)

×：未完了案件

注※

JP1/Service Supportにログインした年月日と、案件管理ウィンドウのサイズから決まります。

案件管理ウィンドウは、特定の操作に適用されます。案件管理ウィンドウが適用される操作を、次の表に示します。

表 3-13 案件管理ウィンドウが適用される操作

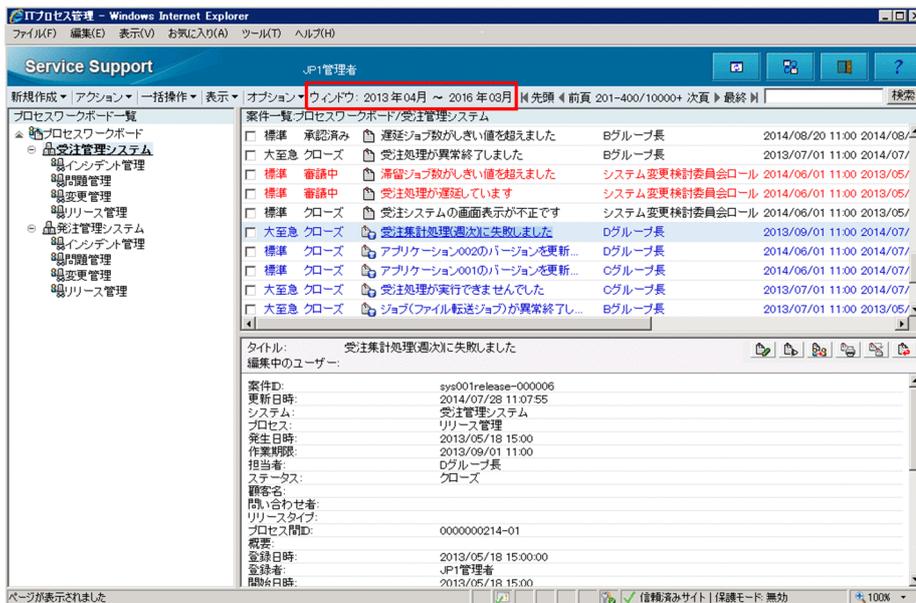
項番	操作	案件管理ウィンドウの適用効果
1	メイン画面（案件一覧）の案件一覧表示	案件管理ウィンドウの範囲内に登録された案件だけが、案件一覧に表示されます。
2	案件の検索※	検索条件の [登録日時] に、案件管理ウィンドウの指定値が入力されます。
3	案件の簡易検索※	検索対象は、案件管理ウィンドウの範囲で検索されます。

注※

案件の検索および案件の簡易検索の詳細については、「3.4 案件の検索」を参照してください。

案件管理ウィンドウを使用した場合、メイン画面（案件一覧）のメニューに案件ウィンドウの規定範囲が表示されます。案件ウィンドウ使用時のメイン画面（案件一覧）を、次の図に示します。

図 3-10 案件ウィンドウ使用時のメイン画面（案件一覧）



なお、案件管理ウィンドウを適用する場合、jssitemimport コマンドや jssitemimportEx コマンドで案件を登録するときに、登録日時を指定してください。登録日時を指定しなかった案件は、案件管理ウィンドウの適用範囲外となります。

案件管理ウィンドウの設定

案件管理ウィンドウは、システム管理者が設定します。システム管理者は、担当者が日常的な案件の対応を案件管理ウィンドウ内でできるように、適切な案件管理ウィンドウのサイズを設定する必要があります。

案件管理ウィンドウのサイズは、1～5年の範囲で、指定した開始月から年単位に設定します。また、案件管理ウィンドウの範囲は、開始年月の1日～終了年月の末日となります。なお、担当者がJP1/Service Support にログインした年月日と、案件管理ウィンドウのサイズから、終了年月が決まります。例を次に示します。

例 1
 案件管理ウィンドウのサイズが「3年」、開始月が「4月」に指定されていて、担当者が2016/04/01にJP1/Service Support にログインした場合、終了年月には、「2017年3月」が入力されます。案件管理ウィンドウの範囲は、2014/04/01～2017/03/31 となります。

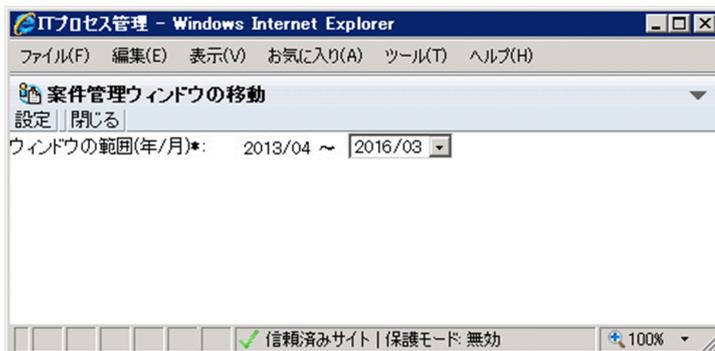
例 2
 案件管理ウィンドウのサイズが「3年」、開始月が「4月」に指定されていて、担当者が2016/03/31にJP1/Service Support にログインした場合、終了年月には、「2016年3月」が入力されます。案件管理ウィンドウの範囲は、2013/04/01～2016/03/31 となります。

案件管理ウィンドウは、システムプロパティファイルで設定します。システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

(1) 案件管理ウィンドウの移動

各プロセスの担当者は、案件管理ウィンドウを年単位で移動できます。未完了の過去案件の処理や、ノウハウとして保管している過去案件を参照したい場合、案件管理ウィンドウを移動することによって過去案件を処理したり、参照したりできます。案件管理ウィンドウの移動は、[案件管理ウィンドウの移動] 画面で設定します。[案件管理ウィンドウの移動] 画面を次の図に示します。

図 3-11 [案件管理ウィンドウの移動] 画面



[ウィンドウの範囲 (年/月)] の終了年月を設定することで、案件管理ウィンドウが移動します。終了年月として、次に示す値を選択できます。

- 現在の年月
- JP1/Service Support に登録されている案件中の最古登録案件の登録年月から最新登録案件の登録年月

開始年月は、システムプロパティファイルの `hptl_jp1_imss_itemwindow_size` に指定した値によって自動設定されます。

なお、案件管理ウィンドウを移動した場合、移動した設定は JP1/Service Support からログアウトするまで有効です。再度ログインした場合、あらかじめ設定されている範囲になります。

案件管理ウィンドウの移動手順については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」を参照してください。

3.3 案件の表示

JP1/Service Support は、案件を表示する次の機能を提供しています。

- 案件の詳細表示
- 案件履歴の表示
- 案件の進捗の表示
- 案件の作業状況の表示
- 関連案件の表示

なお、案件ごとに参照権限を設定しているプロセスワークボードでは、参照権限を所有している案件だけを表示できます。案件ごとの参照権限の設定については、「[3.11 案件に対するアクセス権の管理](#)」を参照してください。

また、案件保存 DB を使用している場合は、管理案件だけでなく、保存案件も表示されます。

この節では、これらの機能について説明します。

3.3.1 案件の詳細表示

JP1/Service Support に登録された案件の詳細は、[案件参照] 画面またはメイン画面（案件一覧）の案件プレビューで確認できます。担当している案件を解決するために過去の案件を調査したり、担当者の作業状況の詳細を確認したりする場合などに使用します。

[案件参照] 画面を次の図に示します。

図 3-12 [案件参照] 画面



表示項目はプロセスごとに異なります。また、表示項目をカスタマイズした場合は、図と異なる表示となります。

なお、参照している案件をほかのユーザーが編集している場合、ヘッダーに「編集しているユーザー」が追加され、現在編集しているユーザー名が表示されます。

[案件参照] 画面でできる操作について、次に示します。

案件の編集

表示している案件を編集できます。メニューから [アクション] - [案件の編集] を選択すると、[案件編集] 画面が表示されます。ただし、保存案件を表示している場合は [案件の編集] が非活性となり、操作できません。

編集の取り消し

表示している案件の編集状態を解除できます。メニューから [アクション] - [編集の取り消し] を選択すると、取り消しを実行してよいか確認するダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると編集状態が解除されます。ただし、保存案件を表示している場合は [編集の取り消し] が非活性となり、操作できません。

案件の引き戻し

表示している案件を引き戻す（現在のステータスと担当者を遷移前の状態に戻す）ことができます。メニューから [アクション] - [案件の引き戻し] を選択すると、案件の引き戻しを実行してよいか確認するダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、案件が引き戻されます。ただし、保存案件を表示している場合は [案件の引き戻し] が非活性となり、操作できません。また、プロセスワークボードで案件の引き戻し機能を使用する設定がされていない場合は、メニューに表示されません。

内容を引き継いで案件作成

表示している案件の案件情報を引き継いだ状態で新規案件を作成できます。メニューから [新規作成] - [内容を引き継いで案件作成] を選択すると、[登録先プロセスワークボード選択] 画面が表示されます。プロセスを選択して [OK] ボタンをクリックすると、[案件参照] 画面に表示された案件の案件情報を引き継いだ状態の [案件作成] 画面が表示され、[登録先プロセスワークボード選択] 画面で選択したプロセスに案件を作成できます。

ただし、[履歴の表示] 画面から [案件参照] 画面に遷移した場合は非活性となり、操作できません。

エスカレーション

表示している案件をエスカレーションできます。メニューから [アクション] - [エスカレーション] を選択すると、[エスカレーション先指定] 画面が表示されます。ただし、保存案件を表示している場合は [エスカレーション] が非活性となり、操作できません。

履歴の表示

表示している案件の履歴を表示できます。メニューから [アクション] - [履歴の表示] を選択すると、[履歴の表示] 画面が表示されます。

進捗の表示

表示している案件の進捗を表示できます。メニューから [アクション] - [進捗の表示] を選択すると、[進捗表示] 画面が表示されます。

作業状況の表示

表示している案件の処理状況を一覧で表示できます。メニューから [アクション] - [作業状況の表示] を選択すると、[作業状況の表示] 画面が表示されます。

印刷画面を表示

表示している案件の印刷画面を表示できます。メニューから [アクション] - [印刷画面を表示] を選択すると、案件印刷画面が表示されます。

案件印刷画面を印刷

表示している案件の印刷画面の表示内容を印刷できます。WWW ブラウザーの印刷機能を使用すると、表示内容が印刷されます。

関連案件状態の表示

表示している案件の関連案件を表示できます。メニューから [アクション] - [関連案件状態の表示] を選択すると、[関連案件状態] 画面が表示されます。

添付ファイルのダウンロード

「添付ファイル」に表示されているファイル名のアンカーをクリックすると、添付ファイルをダウンロードできます。

表示内容からの情報呼び出し

「編集中のユーザー」、「担当者」、「登録者」、「機器情報」、「関連案件」、「関連情報」のアンカーをクリックすると、詳細または関連情報が表示されます。

3.3.2 案件履歴の表示

案件は、編集するたびに作業履歴として JP1/Service Support に保存されます。保存された案件の作業履歴は「履歴の表示」画面で確認できます。「履歴の表示」画面では、ほかのプロセスにエスカレーションした案件の作業履歴も確認できます。ただし、エスカレーションした案件の作業履歴を表示するには、エスカレーション先の案件を参照する権限が必要です。

「履歴の表示」画面を次の図に示します。

図 3-13 「履歴の表示」画面



優先度	ステータス	タイトル	担当者	作業期限	編集者	更新日時	システム	プロセス	案件ID	登録日時
至急	受付	Webサーバ11に障害発生	A社インシデント管理	2007/02/28 12:00	日立太郎	2007/02/25 17:31:39	A社Webシステム	インシデント管理	APWBI-00002	2007/02/25 17:31:39
至急	調査中	Webサーバ11に障害発生	A社インシデント管理	2007/02/28 12:00	日立太郎	2007/02/25 17:32:28	A社Webシステム	インシデント管理	APWBI-00002	2007/02/25 17:31:39
至急	対応依頼中	Webサーバ11に障害発生	高橋三郎	2007/02/28 12:00	鈴木次郎	2007/02/25 17:42:01	A社Webシステム	インシデント管理	APWBI-00002	2007/02/25 17:31:39
至急	対応依頼中	Webサーバ11に障害発生	高橋三郎	2007/02/28 12:00	高橋三郎	2007/02/25 17:43:01	A社Webシステム	インシデント管理	APWBI-00002	2007/02/25 17:31:39
至急	受付	Webサーバ11に障害発生	A社インシデント管理	2007/02/28 12:00	高橋三郎	2007/02/25 17:43:01	A社Webシステム	問題管理	APWBP-00001	2007/02/25 17:43:01
至急	調査中	Webサーバ11に障害発生	A社問題管理	2007/02/28 12:00	山田四郎	2007/02/25 17:43:55	A社Webシステム	問題管理	APWBP-00001	2007/02/25 17:43:01
至急	審議中	Webサーバ11に障害発生	A社問題管理	2007/02/28 12:00	佐藤五郎	2007/02/25 17:45:05	A社Webシステム	問題管理	APWBP-00001	2007/02/25 17:43:01
至急	承認済み	Webサーバ11に障害発生	A社問題管理	2007/02/28 12:00	佐藤五郎	2007/02/25 17:45:25	A社Webシステム	問題管理	APWBP-00001	2007/02/25 17:43:01
至急	クローズ	Webサーバ11に障害発生	A社問題管理	2007/02/28 12:00	佐藤五郎	2007/02/25 17:45:40	A社Webシステム	問題管理	APWBP-00001	2007/02/25 17:43:01

なお、次の条件に当てはまる案件も、「履歴の表示」画面に表示されますが、詳細な情報を表示できません。

- メイン画面（案件一覧）で削除した案件
- 登録していた対象システムが削除され、削除待ちとなっている案件
- 登録していたプロセスワークボードが削除され、削除待ちとなっている案件
- jssitemdeletion コマンドの実行によって、削除待ちとなっている案件

注意事項

jssdelrec コマンドによって案件管理 DB から案件を削除すると、「履歴の表示」画面にも案件は表示されなくなります。

「履歴の表示」画面でできる操作について、次に示します。

表示内容からの情報呼び出し

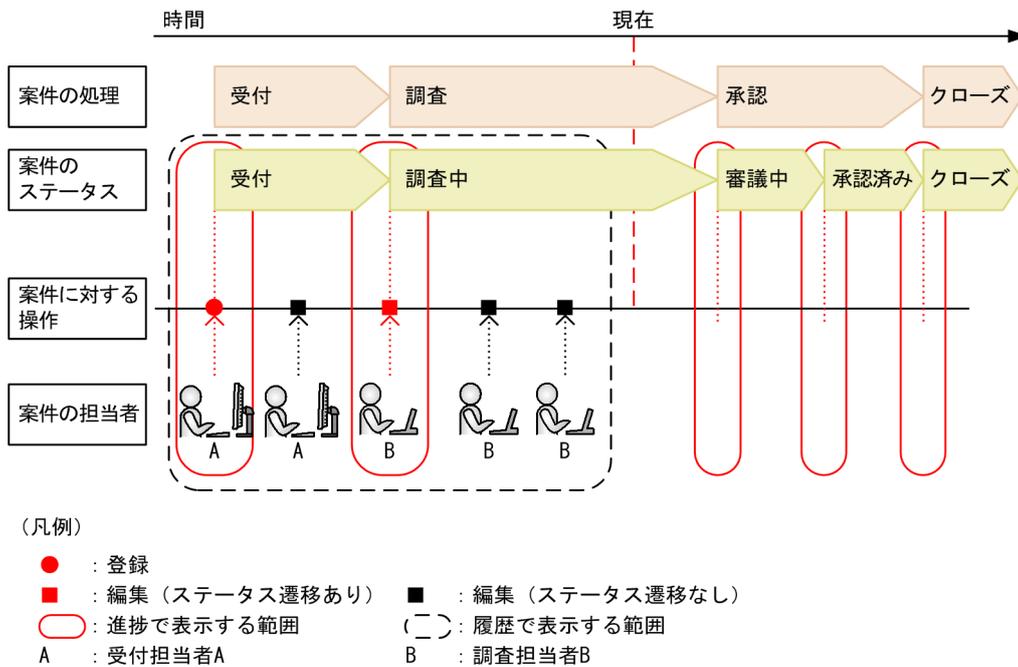
「タイトル」、「担当者」、「編集者」のアンカーをクリックすると、詳細または関連情報が表示されます。

3.3.3 案件の進捗の表示

案件の処理が全体のどの位置まで進んでいるかを、[進捗表示]画面で確認できます。[進捗表示]画面では、案件が登録されているプロセスワークボードで使用するすべてのステータスを表示し、各ステータスの着手日時や完了日時など、進捗に関する情報が表示されます。案件の進捗が滞っている場合、案件の担当者をフォローするかどうかを判断できます。

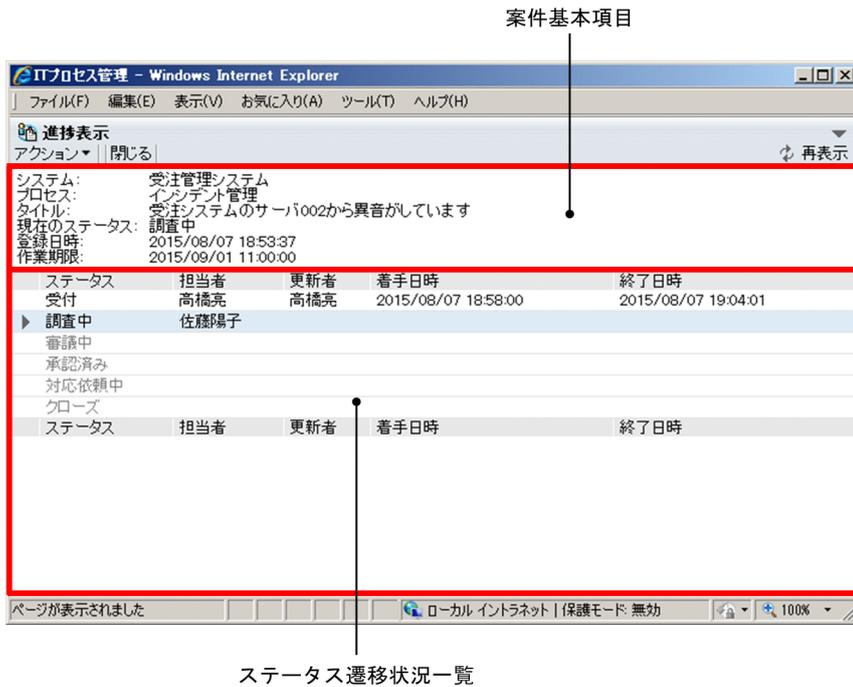
案件の履歴と案件の進捗の表示範囲の違いを、次の図に示します。

図 3-14 案件の履歴と案件の進捗の表示範囲の違い



[進捗表示]画面を次の図に示します。

図 3-15 [進捗表示] 画面



[進捗表示] 画面の表示項目を次の表に示します。

表 3-14 [進捗表示] 画面の表示項目

項目	説明	
案件基本項目	システム名	案件が登録されている対象システム名。
	プロセス名	案件が登録されているプロセス名。プロセス表示名が表示される。
	タイトル	案件のタイトル。
	現在のステータス	案件の現在のステータス。
	登録日時	案件が登録された日時。
	作業期限	案件に設定された作業期限。
ステータス遷移状況一覧	現在のステータス	現在のステータスに ▶ が表示される。
	ステータス	プロセスワークボードで使用するステータス名。
	担当者	案件が該当するステータスに遷移済みかどうかで、表示内容が異なる。 遷移前の場合 該当ステータスの初期担当者に設定されたユーザー名またはロール名が表示される。 遷移済みの場合 案件の担当者に設定されたユーザー名またはロール名が表示される。 担当者をクリックすると、[ユーザー詳細] 画面または [ロール詳細] 画面が表示される。
	更新者	該当ステータスで、最後に案件を編集したユーザー名。

項目	説明	
ステータス遷移状況一覧	更新者	更新者をクリックすると、[ユーザー詳細] 画面が表示される。
	着手日時	該当ステータスで、最初に編集した日時が表示される。ただし、「クローズ」の場合は、「クローズ」に遷移した日時が表示される。 該当ステータスに遷移していない、または該当ステータスに遷移後に案件を編集していない場合は、着手日時が表示されない。
	終了日時	該当ステータスから次のステータスに遷移した日時。ただし、「クローズ」の場合は、「クローズ」に遷移した日時が表示される。 該当ステータスに遷移していない、または該当ステータスに遷移後に案件を編集していない場合は、着手日時が表示されない。

なお、案件に対する操作によって表示内容が異なります。

エスカレーションした場合

エスカレーションしたステータスの更新者には、エスカレーションしたユーザー名が表示されます。着手日時には、案件をエスカレーションした日時が表示されます。ただし、案件をエスカレーションする前にそのステータスで案件が編集されていた場合は、着手日はエスカレーションする前と変わりません。

ステータスをスキップした場合

使用するステータスはプロセスワークボード単位で設定するため、案件によっては不要なステータスが設定されている場合があります。

ステータスをスキップした場合、該当ステータスは、非活性で表示されます。ステータス遷移状況一覧の項目の値は、スキップする前と変わりません。

注意事項

- [進捗表示] 画面に表示されるステータスの順序は、[ステータス管理] 画面で設定したステータスの表示順序と同じです。このため、[進捗表示] 画面に表示されるステータスおよびステータスの表示順序は、あらかじめ設定しておく必要があります。ステータスについては、「[3.15 ステータスの管理](#)」を参照してください。
- [案件進捗] 画面を表示するには、案件の参照権限が必要です。

[進捗表示] 画面でできる操作について、次に示します。

履歴の表示

表示している案件の履歴を表示できます。メニューから [アクション] - [履歴の表示] を選択すると、[履歴の表示] 画面が表示されます。

案件の参照

表示している案件の詳細を表示できます。メニューから [アクション] - [案件の参照] を選択すると、[案件参照] 画面が表示されます。

再表示

表示している案件の進捗を最新の状態に更新できます。[再表示] ボタンまたは再表示アイコン () をクリックすると、[進捗表示] 画面が最新の状態で表示されます。

[作業状況の表示] 画面で作業状況を確認するには、作業状況を記入する際に記入済みの内容を削除してから記入することで、[作業状況の表示] 画面で全体の作業状況の流れがつかみやすくなります。

[作業状況の表示] 画面でできる操作について、次に示します。

関連案件状態の表示

表示している案件の関連案件を表示できます。メニューから [アクション] - [関連案件状態の表示] を選択、または関連案件状態の表示アイコン () をクリックすると、[関連案件状態] 画面が表示されます。

履歴の表示

表示している案件の履歴を表示できます。メニューから [アクション] - [履歴の表示] を選択、または履歴の表示アイコン () をクリックすると、[履歴の表示] 画面が表示されます。

進捗の表示

表示している案件の進捗を表示できます。メニューから [アクション] - [進捗の表示] を選択、または進捗の表示アイコン () をクリックすると、[進捗表示] 画面が表示されます。

案件の参照

表示している案件の詳細を表示できます。メニューから [アクション] - [案件の参照] を選択、または案件の参照アイコン () をクリックすると、[案件参照] 画面が表示されます。

案件の編集

表示している案件を編集できます。メニューから [アクション] - [案件の編集] を選択、または案件の編集アイコン () をクリックすると、[案件編集] 画面が表示されます。ただし、保存案件を表示している場合は [案件の編集] が非表示となり、操作できません。

印刷画面の表示

表示している案件の作業状況の印刷画面を表示できます。メニューから [アクション] - [印刷画面の表示] を選択、または案件の印刷画面の表示アイコン () をクリックすると、作業状況を印刷する画面が表示されます。なお、表示内容を印刷する場合は、WWW ブラウザーの印刷機能を使用してください。

添付ファイルのダウンロード

「作業状況一覧」に表示されているファイル名のアンカーをクリックすると、添付ファイルをダウンロードできます。

表示内容からの情報呼び出し

「作業状況一覧」に表示されている編集者名のアンカーをクリックすると、詳細または関連情報が表示されます。

3.3.5 関連案件の表示

案件をエスカレーションすると、エスカレーション元の案件とエスカレーション先の案件が関連づけられます。関連づけられた案件があるかどうかは、メイン画面（案件一覧）の案件一覧で確認できます。

また、関連づけられた案件の最新の状況は、[関連案件状態] 画面で確認できます。[関連案件状態] 画面には、関連づけられたすべての案件が一覧表示されます。

[関連案件状態] 画面を次の図に示します。

図 3-17 [関連案件状態] 画面

システム	プロセス	案件ID	ステータス	エスカレーション元案件ID	エスカレーション先案件ID	プロセス間ID
システム	インシデント管理	APWBF-00002	クローズ	-	APWBP-00001	000002-01
A社Webシステム	問題管理	APWBP-00001	クローズ	APWBF-00002	APWBP-00001	000002-02
A社Webシステム	変更管理	APWBP-00001	対応依頼中	APWBP-00001	APWBP-00001	000002-03
A社Webシステム	リリース管理	APWBP-00001	受付	APWBP-00001	BPWBP-00001	000002-04
B社ファイル管理システム	インシデント管理	BPWBF-00001	対応依頼中	APWBP-00001	BPWBP-00001	000002-05
B社ファイル管理システム	問題管理	BPWBP-00001	対応依頼中	BPWBF-00001	BPWBP-00001	000002-06
B社ファイル管理システム	変更管理	BPWBP-00001	受付	BPWBP-00001	-	000002-07
システム	プロセス	案件ID	ステータス	エスカレーション元案件ID	エスカレーション先案件ID	プロセス間ID

[関連案件状態] 画面の表示項目を次の表に示します。

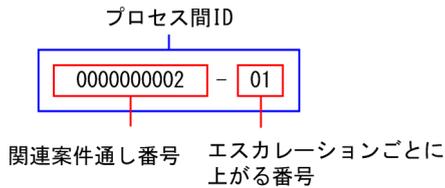
表 3-15 [関連案件状態] 画面の表示項目

項目	説明
システム	案件が登録されている対象システム名。
プロセス	案件が登録されているプロセス名。プロセス表示名が表示される。
案件 ID	JP1/Service Support 内で、案件を一意に識別するための ID。プロセスワークボード作成時に設定したプロセスワークボード ID と、プロセスワークボード内での案件の通し番号を組み合わせた値。なお、この ID は自動で設定される。
ステータス	現在の案件の状態。ステータスの種類については、「3.6.1(2) ステータスの変更」を参照のこと。
エスカレーション元案件 ID	エスカレーション元の案件 ID。
エスカレーション先案件 ID	エスカレーション先の案件 ID。
プロセス間 ID	エスカレーションによって関連づけられた案件の関連を表す ID。JP1/Service Support 内での関連案件通し番号*と、エスカレーションごとに上がる番号を組み合わせた値。関連案件通し番号が同じ案件は、エスカレーションによって関連づけられた案件だとわかる。また、エスカレーションごとに上がる番号によって、その案件が何回エスカレーションしたかわかる。なお、この ID は自動で設定される。

注※

関連案件通し番号とは、JP1/Service Support 内で作成された案件を一意に識別するための通し番号です。案件をエスカレーションした場合は、元の案件と同じ関連案件通し番号となります。プロセス間 ID、関連案件通し番号およびエスカレーションごとに上がる番号の関係を次の図に示します。

図 3-18 プロセス間 ID の構成



なお、次の条件に当てはまる案件も、関連案件として [関連案件状態] 画面に表示されますが、詳細な情報を表示できません。ただし、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザーは、詳細な情報を表示できます。

- メイン画面（案件一覧）で削除した案件
- 登録していた対象システムが削除され、削除待ちとなっている案件
- 登録していたプロセスワークボードが削除され、削除待ちとなっている案件
- jssitemdeletion コマンドの実行によって、削除待ちとなっている案件

注意事項

- jssdelrec コマンドによって案件管理 DB から案件を削除すると、[関連案件状態] 画面にも案件は表示されなくなります。また、案件の関連状態もあわせて削除されるため、案件の関連が正しく表示されないことがあります。
- 案件保存 DB を使用している場合、jssstoreitemdel コマンドによって保存案件を削除すると、[関連案件状態] 画面にも保存案件は表示されなくなります。また、案件の関連状態もあわせて削除されるため、案件の関連が正しく表示されないことがあります。

[関連案件状態] 画面でできる操作について、次に示します。

表示内容からの情報呼び出し

「案件 ID」、 「エスカレーション元案件 ID」、 「エスカレーション先案件 ID」 のアンカーをクリックすると、詳細または関連情報が表示されます。

3.4 案件の検索

JP1/Service Support に登録された案件を、さまざまな条件を指定して検索できます。検索条件の指定はメイン画面（案件一覧）の簡易検索エリア、[案件共通項目検索条件指定] 画面および [案件検索条件指定] 画面で、検索結果の表示は [案件検索結果一覧] 画面で行います。ただし、次の案件は検索の対象外となります。

- 検索するユーザーに参照権限が設定されていない案件
- 画面または `jsitemdeletion` コマンドで削除待ちとなっている案件

なお、案件ごとに参照権限を設定しているプロセスワークボードでは、参照権限を所有している案件だけを検索できます。案件ごとの参照権限の設定については、「[3.11 案件に対するアクセス権の管理](#)」を参照してください。

また、案件保存 DB を使用している場合は、管理案件だけでなく、保存案件も検索対象となります。

次に、検索範囲および検索条件の指定、ならびに検索結果の表示について説明します。

3.4.1 検索範囲、検索結果の表示件数、および検索条件の指定

メイン画面（案件一覧）の簡易検索エリアでは、検索条件の文字列を入力し、検索ボタンを選択することで簡易検索を実行します。なお、案件管理ウィンドウを使用している場合は、案件管理ウィンドウで指定した範囲内で案件が検索されます。案件管理ウィンドウの詳細については、「[3.2.3 案件管理ウィンドウ](#)」を参照してください。案件を簡易検索する手順については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」を参照してください。

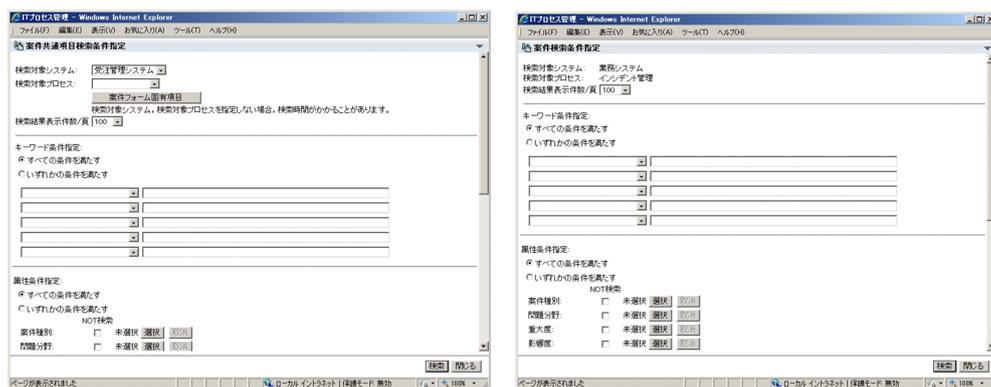
注意事項

削除待ちのプロセスワークボードに登録されている案件は検索の対象になりません。

ここでは、[案件共通項目検索条件指定] 画面および [案件検索条件指定] 画面での検索範囲、検索結果の表示件数、および検索条件の指定方法について説明します。なお、検索する際、メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧から、最上位の [プロセスワークボード] または対象システムを選択した場合と、プロセスワークボードを選択した場合で、表示される画面が異なります。また、表示された画面によって指定できる検索範囲や指定できる項目が異なります。

対象システムを選択した場合に表示される [案件共通項目検索条件指定] 画面、およびプロセスワークボードを選択した場合に表示される [案件検索条件指定] 画面を、次の図に示します。

図 3-19 「案件共通項目検索条件指定」画面および「案件検索条件指定」画面

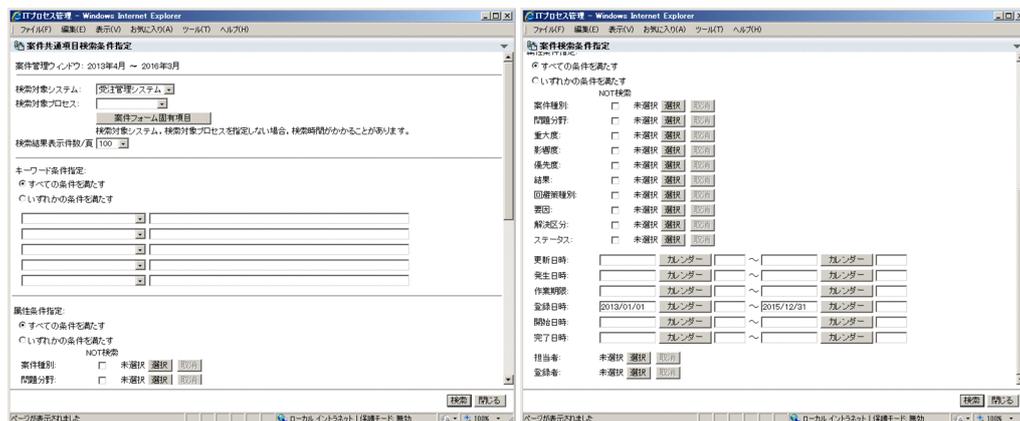


対象システム選択時

プロセスワークボード選択時

また、案件管理ウィンドウを使用している場合は、画面の上部に案件管理ウィンドウの範囲が表示されます。案件管理ウィンドウを使用している場合の「案件検索条件指定」画面を次の図に示します。

図 3-20 「案件共通項目検索条件指定」画面および「案件検索条件指定」画面（案件管理ウィンドウ使用時）



対象システム選択時

プロセスワークボード選択時

(1) 検索範囲の指定方法

「案件共通項目検索条件指定」画面では、検索範囲を次の方法で指定できます。

表 3-16 検索範囲の指定方法

指定項目※	説明
対象システム	検索範囲とする対象システムを、プルダウンメニューから選択する。
プロセス	検索範囲とするプロセス（プロセス表示名）を、プルダウンメニューから選択する。

注※

「案件検索条件指定」画面では指定できません。

なお、検索する際、プロセスワークボード一覧で選択した項目によって、検索範囲が異なります。検索範囲の違いを、次の表に示します。

表 3-17 検索条件として指定できる検索範囲の違い

プロセスワークボード一覧で選択した項目	検索範囲	表示される画面
最上位の [プロセスワークボード]	JP1/Service Support に登録されているすべての案件。 なお、表 3-16 で示した検索範囲の指定方法で、検索範囲を変更できる。	[案件共通項目検索条件指定] 画面
対象システム	選択した対象システムに登録されている案件。なお、表 3-16 で示した検索範囲の指定方法で、検索範囲を変更できる。	[案件共通項目検索条件指定] 画面
プロセスワークボード	選択したプロセスワークボードに登録されている案件。	[案件検索条件指定] 画面

(2) 検索結果の表示件数の指定方法

検索結果の表示件数の指定方法を、次の表に示します。

表 3-18 検索範囲の指定方法

指定項目	説明
検索結果表示件数/頁	[案件検索結果一覧] 画面で検索結果を表示する際、1 ページに表示する案件数を、プルダウンメニューから選択する。 プルダウンメニューに表示する値は、システムプロパティファイルで設定する。詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照のこと。

(3) 検索条件の指定方法

検索条件の指定方法を、次の表に示します。

表 3-19 検索条件の指定方法

指定項目	説明
文字列	テキスト入力した項目を条件に指定する。検索したい項目をプルダウンメニューで選択し、記入した文字列と部分一致する案件を検索する。 次の特殊文字を使い、検索条件に指定できる。 <ul style="list-style-type: none"> 「_」：アンダーバー。任意の 1 文字。 「a_c」と指定して検索すると、「aac」, 「abc」などの案件が検索される。 「%」：パーセント。0 文字以上の任意の文字列。 「a%c」と指定して検索すると、「ac」, 「abc」, 「abbbc」などの案件が検索される。
選択	重大度、影響度などに、プルダウンメニューから選択した値を条件として指定する。[選択] ボタンを押すと、[コード選択] 画面が表示され、条件として指定したい項目が選択できる。NOT 検索のチェックボックスにチェックした場合、NOT 検索となる。 複数選択された選択肢コードはすべて OR 条件となる。例えば、属性条件指定が「すべての条件を満たす」(AND 検索) の場合、検索条件指定方法「選択」の項目 A で選択肢

指定項目	説明
選択	コード「a1,a2,a3」を、項目 B で選択肢コード「b1,b2,b3」を選択すると、検索条件は「(a1 or a2 or a3) AND (b1 or b2 or b3)」となる。
日時	発生日時、登録日時*などに、日時を条件として指定する。
数値	費用（予算）、費用（実績）などに、数値を条件として指定する。
ユーザーまたはロール	登録者、担当者などに、ユーザーまたはロールを条件として指定する。

注※

案件管理ウィンドウを使用している場合は、登録日時の年月日に「案件管理ウィンドウの開始年/01/01」と「案件管理ウィンドウの終了年/12/31」が自動で指定されます。

なお、自動で指定された登録日時の年月日は編集できます。編集した場合は、案件管理ウィンドウの範囲を無視して検索されます。

これらの条件を組み合わせることで、検索結果を絞り込めます。

「キーワード条件指定」および「属性条件指定」のそれぞれに、「すべての条件を満たす」（AND 検索）または「いずれかの条件を満たす」（OR 検索）の検索方法を選択できます。「キーワード条件指定」と「属性条件指定」を検索条件として指定した場合、「キーワード条件指定」の指定条件と「属性条件指定」の指定条件を AND 条件で検索するか、OR 条件で検索するかは、「キーワード条件指定」および「属性条件指定」で、「すべての条件を満たす」または「いずれかの条件を満たす」のどちらを選択したかによって異なります。「キーワード条件指定」および「属性条件指定」の関係を次の表に示します。

表 3-20 「キーワード条件指定」および「属性条件指定」の関係

キーワード条件指定での選択項目	属性条件指定での選択項目	検索方法
すべての条件を満たす	すべての条件を満たす	AND 条件で検索する
すべての条件を満たす	いずれかの条件を満たす	AND 条件で検索する
いずれかの条件を満たす	すべての条件を満たす	AND 条件で検索する
いずれかの条件を満たす	いずれかの条件を満たす	OR 条件で検索する

なお、検索する際、プロセスワークボード一覧で選択した項目によって、検索条件として指定できる項目が異なります。検索条件として指定できる項目の違いを、次の表に示します。

表 3-21 検索条件として指定できる項目の違い

プロセスワークボード一覧で選択した項目	指定可能項目	表示される画面
最上位の [プロセスワークボード]	案件検索用の案件フォームで定義した項目*	[案件共通項目検索条件指定] 画面
対象システム	案件検索用の案件フォームで定義した項目*	[案件共通項目検索条件指定] 画面
プロセスワークボード	選択したプロセスワークボードに設定された案件の表示項目	[案件検索条件指定] 画面

注※

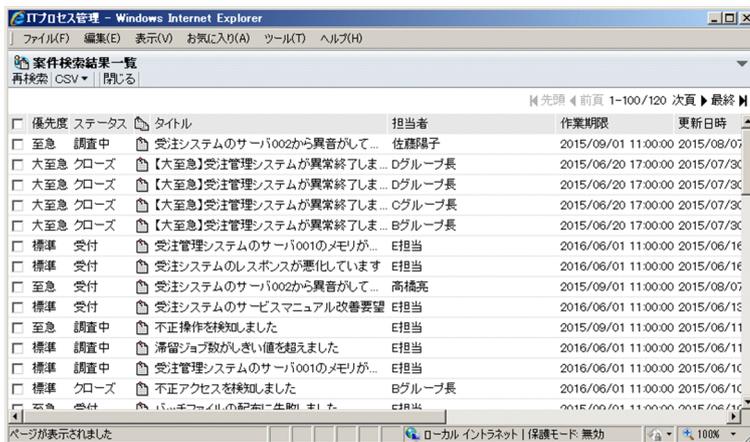
表示項目は、案件検索用の案件フォームで定義されています。各プロセスで作成、表示される案件の項目をカスタマイズした場合や、使用頻度に合わせて表示項目を減らしたい場合には、案件検索用の案件フォームをカスタマイズする必要があります。カスタマイズ手順については、「9.9 案件フォームのカスタマイズ」を参照してください。

3.4.2 検索結果の表示

メイン画面（案件一覧）の簡易検索エリア、[案件共通項目検索条件指定] 画面、または [案件検索条件指定] 画面から検索した結果は、[案件検索結果一覧] 画面に表示されます。

[案件検索結果一覧] 画面を次の図に示します。

図 3-21 [案件検索結果一覧] 画面



優先度	ステータス	タイトル	担当者	作業期限	更新日時
至急	調査中	受注システムのサーバ002から異音が出て...	佐藤陽子	2015/09/01 11:00:00	2015/08/07
大至急	クローズ	【大至急】受注管理システムが異常終了しま...	Dグループ長	2015/06/20 17:00:00	2015/07/30
大至急	クローズ	【大至急】受注管理システムが異常終了しま...	Dグループ長	2015/06/20 17:00:00	2015/07/30
大至急	クローズ	【大至急】受注管理システムが異常終了しま...	Cグループ長	2015/06/20 17:00:00	2015/07/30
大至急	クローズ	【大至急】受注管理システムが異常終了しま...	Bグループ長	2015/06/20 17:00:00	2015/07/30
標準	受付	受注管理システムのサーバ001のメモリが...	E担当	2016/06/01 11:00:00	2015/06/16
標準	受付	受注システムのレスポンスが悪化しています	E担当	2016/06/01 11:00:00	2015/06/16
至急	受付	受注システムのサーバ002から異音が出て...	高橋亮	2015/09/01 11:00:00	2015/08/07
標準	受付	受注システムのサービスマニュアル改善要望	E担当	2016/06/01 11:00:00	2015/06/16
至急	調査中	不正操作を検知しました	E担当	2015/09/01 11:00:00	2015/06/11
標準	調査中	滞留ジョブ数が増え、値を越えました	E担当	2016/06/01 11:00:00	2015/06/11
標準	調査中	受注管理システムのサーバ001のメモリが...	E担当	2016/06/01 11:00:00	2015/06/10
標準	クローズ	不正アクセスを検知しました	Bグループ長	2016/06/01 11:00:00	2015/06/10
至急	受付	...	E担当	2015/09/01 11:00:00	2015/06/10

[案件検索結果一覧] 画面のデフォルトの表示順は、登録日時の降順です。なお、1 ページに表示される案件の検索結果の件数は、検索方法によって異なります。検索結果の表示件数を、検索方法別に説明します。

簡易検索エリアから検索した場合

[案件検索結果一覧] 画面の 1 ページに表示される検索結果の件数は 100 件です。

[案件共通項目検索条件指定] 画面または [案件検索条件指定] 画面から検索した場合

[案件検索結果一覧] 画面の 1 ページに表示される検索結果の件数は、[案件共通項目検索条件指定] 画面または [案件検索条件指定] 画面の「検索結果表示件数/頁」で指定した件数が表示されます。

検索条件に当てはまる案件が指定した件数以上ある場合は、ページめくり機能を使用することで、残りの検索結果を表示できます。なお、検索したあとに案件が追加、削除、および編集された場合にページをめくると、検索されていた案件が検索されなかったり、検索されていなかった案件が検索されたりすることがあります。また、ページをめくった結果、案件が表示されず、ページが「0-0/0」となる場合があります。このような場合は、再検索してください。検索した案件を CSV ファイルに出力したい場合など、案件の重複や欠如なく表示したいときは、案件の更新が少ない時間帯に実施することをお勧めします。

次に、[案件検索結果一覧] 画面でできる操作について説明します。

案件の再検索

[再検索] ボタンをクリックすると、検索時の条件が入力された [案件共通項目検索条件指定] 画面または [案件検索条件指定] 画面が表示されます。

簡易検索の結果から再検索を行った場合は、検索時の条件が、[案件検索条件指定] 画面のキーワード条件指定に入力された状態で表示されます。新たな検索条件を追加して、検索結果をさらに絞り込むことができます。また、[案件検索結果一覧] 画面の 1 ページに表示する件数を指定することができます。

案件の CSV ファイル出力

[CSV] ボタンをクリックすると、検索結果の一覧で、チェックした案件を CSV ファイルに出力できます。また、複数の案件をチェックして出力することもできます。CSV ファイルの出力については、[3.13 案件情報を CSV ファイルに出力] を参照してください。

案件の一括操作

[一括操作] ボタンをクリックすると、検索結果の一覧で、チェックした案件を一括で操作できます。なお、案件の一括操作を有効にしている場合にだけ表示されます。案件の一括操作については、[3.7 案件の一括操作] を参照してください。

表示内容からの情報呼び出し

[タイトル]、[担当者] のアンカーをクリックすると、詳細または関連情報が表示されます。

◀先頭 ◀前頁 101-200/250 次頁 ▶最終▶ (ページめくり)

[案件検索結果一覧] 画面に表示されているページを変更します。検索条件に当てはまる案件が指定した件数を超えた場合は、この機能を使って表示します。1 ページに表示される件数が 1,000 件で、検索された総件数が 2,500 件の場合、最初のページは「1-1000/2500」の形で表示されます。

3.5 案件の作成

案件は、次に示す方法で作成できます。

- [案件作成] 画面を使用する
- 登録済みの案件を流用する
- メールを使用する
- jssitementry コマンドを使用する

次に、それぞれの作成方法について説明します。

3.5.1 [案件作成] 画面での案件の作成

[案件作成] 画面での案件の作成について説明します。[案件作成] 画面を次の図に示します。

図 3-22 [案件作成] 画面

The screenshot shows a web browser window titled 'ITプロセス管理 - Windows Internet Explorer'. The main content area is a form titled '案件作成' (Case Creation). The form includes the following fields and controls:

- タイトル* (Title): Text input field.
- 案件ID (Case ID): Text input field.
- システム (System): Dropdown menu with '受注管理システム' (Order Management System) selected.
- 更新日時 (Update Date): Text input field.
- プロセス (Process): Dropdown menu with 'インシデント管理' (Incident Management) selected.
- 発生日時 (Occurrence Date): Text input field with a 'カレンダー' (Calendar) button.
- 作業期限 (Due Date): Text input field with a 'カレンダー' (Calendar) button.
- 担当者* (Assignee): Dropdown menu with a '詳細' (Details) button and a '一覧' (List) button.
- ステータス* (Status): Dropdown menu with '受付' (Received) selected.
- 案件ごとの参照権限所有者* (Case-specific Reference Authority Owner): Dropdown menu with a '詳細' (Details) button and a '一覧' (List) button.
- 問い合わせ者 (Inquirer): Text input field.
- 案件種別 (Case Type): Dropdown menu.
- プロセス間ID (Process ID): Text input field.
- 顧客名 (Customer Name): Text input field.
- 問題分野 (Problem Area): Dropdown menu.
- 概要 (Summary): Large text area.
- 登録日時 (Registration Date): Text input field.
- 登録者 (Registrant): Text input field.
- 開始日時 (Start Date): Text input field with a 'カレンダー' (Calendar) button.
- 完了日時 (Completion Date): Text input field with a 'カレンダー' (Calendar) button.
- 重大度 (Severity): Dropdown menu.
- 重大度の理由 (Reason for Severity): Text input field.
- 影響度 (Impact): Dropdown menu.
- 影響度の理由 (Reason for Impact): Text input field.
- 優先度 (Priority): Dropdown menu.
- 優先度の理由 (Reason for Priority): Text input field.
- 作業状況 (Work Status): Text input field.

The status bar at the bottom indicates 'ページが表示されました' (Page displayed) and '信頼済みサイト | 保護モード: 無効' (Trusted site | Protection mode: Off).

[案件作成] 画面での項目の入力方法および表示項目について次に説明します。

(1) 項目の入力方法

案件の項目の入力方法には次の六つがあります。

- 自動生成
自動で入力されます。
- テキスト

テキストで入力できます。最大値は表示項目によって異なります。

- 選択

決められた選択項目の中から選択できます。なお、選択式の項目のうち、「担当者」と「ステータス」は連動しているため、選択したステータスに合わせて、選択できる担当者が変わります。選択できる担当者は、アクセス権の設定によって決まります。また、ステータスに対してステータスの初期担当者を設定している場合は、ステータスの初期担当者が自動で設定されます。なお、ステータスに対してステータスの初期担当者を設定していない場合、選択できる担当者が1ユーザーまたは1ロールのときは、そのユーザーまたはロールが自動で設定されます。詳細については、「[3.11.2 案件の編集とステータス、担当者の関係](#)」を参照してください。

- 日付，時刻

日付と時刻を入力できます。

- 参照設定

関連する案件や情報へのリンクを設定できます。

- 添付ファイル

任意のファイルを添付できます。

(2) 表示項目

JP1/Service Support では、プロセスごとに案件フォームと呼ばれるテンプレートを用意しています。[案件作成] 画面での表示項目は、そのテンプレートの定義によって決まります。[案件作成] 画面での表示項目は、デフォルトで次のように定義されています。

表 3-22 【案件作成】画面での表示項目

表示項目	入力形式 (最大値)	案件フォーム			
		インシデント管理※1	問題管理※1	変更管理※1	リリース管理※1
タイトル	テキスト (512 文字以内の半角英数字または約 170 文字以内の全角文字列)	○	○	○	○
システム	自動生成	○	○	○	○
プロセス	自動生成	○	○	○	○
案件 ID	自動生成	○	○	○	○
プロセス間 ID	自動生成	○	○	○	○
重大度	次から選択 緊急，警戒，致命的，エラー，警告，通知，情報，デバッグ	○	○	○	○
重大度の理由	テキスト(512 文字以内の半角英数字または約 170 文字以内の全角文字列)	○	○	○	○

表示項目	入力形式 (最大値)	案件フォーム			
		インシデント管理※1	問題管理※1	変更管理※1	リリース管理※1
影響度	次から選択 小, 中, 大	○	○	○	○
影響度の理由	テキスト(512文字以内の半角英数字または約170文字以内の全角文字列)	○	○	○	○
優先度	次から選択 標準, 至急, 大至急	○	○	○	○
優先度の理由	テキスト(512文字以内の半角英数字または約170文字以内の全角文字列)	○	○	○	○
案件種別	次から選択 問い合わせ, 障害, 顧客要望	○	○	—	—
問題分野	次から選択 アプリケーション, ミドルウェア, OS, ハードウェア, ネットワーク, プロセス	○	○	—	—
変更の規模	次から選択 小規模, 中規模, 大規模	—	—	○	—
リリースタイプ	次から選択 パッケージリリース, フルリリース, デルタリリース	—	—	—	○
ステータス※2	次から選択 インシデント管理※1の場合 受付, 調査中, 対応依頼中, 審議中, 承認済み, クローズ 問題管理※1の場合 受付, 調査中, 審議中, 承認済み, 対応依頼中, クローズ 変更管理※1の場合 受付, 計画中, 審議中, 承認済み, 対応依頼中, レビュー中, クローズ リリース管理※1の場合 受付, 計画中, 審議中, 承認済み, 対応依頼中, クローズ	○	○	○	○
結果	次から選択 インシデント管理※1の場合 完了, 打ち切り, 未確認 問題管理※1の場合 変更完了, 既知の問題, 原因不明	○	○	○	○

表示項目	入力形式 (最大値)	案件フォーム			
		インシデント管理※1	問題管理※1	変更管理※1	リリース管理※1
結果	変更管理※1, リリース管理※1 の場合 成功, 失敗(計画ミス), 失敗(人的ミス), 失敗(その他)	○	○	○	○
発生日時※3	日付, 時刻	○	○	○	○
解決区分	次から選択 ナレッジ, ドキュメント, ユーザー解決, 二次サポート, 問題管理, 他社調査	○	○	—	—
登録者※4	自動生成	○	○	○	○
登録日時	自動生成	○	○	○	○
担当者	ユーザー, ロール, ロールに所属するユーザー	○	○	○	○
作業期限※3	日付, 時刻	○	○	○	○
開始日時※3	日付, 時刻	○	○	○	○
完了日時※3	日付, 時刻	○	○	○	○
顧客名	テキスト(1,024 文字以内の半角英数字または約 340 文字以内の全角文字列)	○	○	○	○
問い合わせ者	テキスト(255 文字以内の半角英数字または約 85 文字以内の全角文字列)	○	○	○	○
費用 (予算)	0~2147483647 の整数値	—	—	○	○
費用 (実績)	0~2147483647 の整数値	—	—	○	○
機器情報	JP1/NETM/AIM, JP1/UCMDB, または JP1/ITDM2 - Asset Console への参照設定	○	○	○	○
問題個所とバージョン	テキスト(1,024 文字以内の半角英数字または約 340 文字以内の全角文字列)	—	—	○	—
関連案件	関連案件への参照設定	○	○	○	○
関連情報	URL への参照設定	○	○	○	○
概要	テキスト(2,048 文字以内の半角英数字または約 680 文字以内の全角文字列)	○	○	○	○
回避策種別	次から選択 なし, 運用回避, 縮退運転, 再起動, ファイル回復, 変更の戻し, その他	○	○	—	—
回避策	テキスト(4,096 文字以内の半角英数字または約 1,365 文字以内の全角文字列)	○	○	—	—

表示項目	入力形式 (最大値)	案件フォーム			
		インシデント管理※1	問題管理※1	変更管理※1	リリース管理※1
作業状況	テキスト(4,096 文字以内の半角英数字または約 1,365 文字以内の全角文字列)	○	○	○	○
要因	次から選択 インシデント管理※1, 問題管理※1 の場合 新規ソフトウェア不良, 既知ソフトウェア不良, 新規ハードウェア不良, 既知ハードウェア不良, ドキュメント不良, 資料不足, ユーザーミス, 仕様, 他社問題, プロセス不良 変更管理※1, リリース管理※1 の場合 顧客要望, 機能拡張, 業務要件, インシデント・問題修正, プロセス改善	○	○	○	○
根本原因	テキスト(4,096 文字以内の半角英数字または約 1,365 文字以内の全角文字列)	○	○	—	—
解決策	テキスト(4,096 文字以内の半角英数字または約 1,365 文字以内の全角文字列)	○	○	—	—
スケジュール, 手順概要	テキスト(4,096 文字以内の半角英数字または約 1,365 文字以内の全角文字列)	—	—	○	○
変更の影響評価	テキスト(4,096 文字以内の半角英数字または約 1,365 文字以内の全角文字列)	—	—	○	—
審議結果	テキスト(2,048 文字以内の半角英数字または約 680 文字以内の全角文字列)	○	○	○	○
フリー記入欄	テキスト(4,096 文字以内の半角英数字または約 1,365 文字以内の全角文字列)	○	○	○	○
プロダクト名	テキスト(1,024 文字以内の半角英数字または約 340 文字以内の全角文字列)	○	○	—	—
ジョブネット名	テキスト(1,024 文字以内の半角英数字または約 340 文字以内の全角文字列)	○	○	—	—
ジョブ名	テキスト(1,024 文字以内の半角英数字または約 340 文字以内の全角文字列)	○	○	—	—
SNMP ソース	テキスト(1,024 文字以内の半角英数字または約 340 文字以内の全角文字列)	○	○	—	—
監視ノード名	テキスト(255 文字以内の半角英数字または約 85 文字以内の全角文字列)	○	○	—	—
アラーム名	テキスト(255 文字以内の半角英数字または約 85 文字以内の全角文字列)	○	○	—	—
添付ファイル	ファイル(最大 5 件, 1 件につき 5 メガバイト)	○	○	○	○

表示項目	入力形式 (最大値)	案件フォーム			
		インシデント管理※1	問題管理※1	変更管理※1	リリース管理※1
更新日時	自動生成	○	○	○	○

(凡例)

- ：デフォルトで表示設定となっている項目
- －：デフォルトで非表示設定となっている項目

注※1

プロセスの名称は、デフォルトの名称です。プロセス表示名をカスタマイズしても、案件フォーム名は変わりません。

注※2

ステータスで選択できる項目は、デフォルトの名称です。カスタマイズによって異なる場合があります。詳細については、「3.15 ステータスの管理」を参照してください。

注※3

「YYYY/MM/DD hh:mm」形式で指定します。各日時には、1970/01/01 09:00～2107/01/01 00:00 の値を指定できます。

注※4

ロールに所属するメンバーを設定したい場合、システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の hptl_jp1_imss_assigned_selection_checkbox の設定を display に変更する必要があります。この設定に変更すると、担当者の右側に「ロールメンバ選択」チェックボックスが表示され、チェックすると、ロールに所属しているメンバー名を選択できるようになります。ただし、ロール名は選択できなくなります。

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

これらの表示項目は、カスタマイズできます。カスタマイズについては、「3.14 案件フォームの管理」を参照してください。

3.5.2 登録済みの案件を流用して案件を作成

JP1/Service Support に登録済みの案件を流用して、新規の案件を登録できます。この方法は、次の場合に有効です。

- 内容が類似している案件を流用したい場合
変更が必要な項目だけを修正して案件を作成することで、入力の手間を軽減できます。
- 初期内容を入力した案件を流用したい場合
例えば、「作業状況」に次に示すような内容を入力した案件を、あらかじめ登録しておきます。この案件を利用して新規案件を作成することで、入力の手間を軽減できるとともに、案件のフォーマットを統一できます。

注意事項

初期内容を入力した案件は、案件を集計する際、集計対象となります。案件を集計する際に集計対象から除外したい場合は、専用のプロセスワークボードを作成して、初期内容を入力した案件を登録してください。

また、初期内容を入力した案件は、運用中に変更できます。ただし、案件フォームを変更する場合は、別の案件として登録する必要があります。

図 3-23 初期内容をあらかじめ登録した案件の例



(1) 案件情報の引き継ぎ

JP1/Service Support に登録済みの案件を流用して新規案件を作成する場合、流用元案件の案件情報を引き継ぎます。なお、プロセスごとに案件の表示項目が異なるため、流用元および流用先のプロセスの案件フォームの両方に存在する項目の案件情報を引き継ぎます。ただし、次に示す項目については、案件情報が引き継がれません。

表 3-23 案件流用時に案件情報を引き継がれない項目

項番	項目	説明
1	対象システム (JIMSD_FORM_SYSTEM)	案件の流用先のプロセスワークボードに設定されたシステムのシステム名が自動で設定される。
2	プロセス (JIMSD_FORM_PROCESS)	案件の流用先のプロセスワークボードに設定されたプロセス名が自動で設定される。
3	案件 ID (JIMSD_FORM_ITEMID)	案件を JP1/Service Support に登録する際、自動で設定される。
4	プロセス間 ID (JIMSD_FORM_PROCESSITEMID)	
5	ステータス (JIMSD_FORM_ITEMSTATUSID)	案件を流用して新規案件を作成するユーザーが設定する。
6	登録者 (JIMSD_FORM_REGISTRANT)	案件を流用して新規案件を作成するユーザーの名前が自動で設定される。
7	担当者	

項番	項目	説明
7	(JIMSD_FORM_ASSIGNED)	案件を流用して新規案件を作成するユーザーの名前が自動で設定される。
8	登録日時 (JIMSD_FORM_REGISTDATE)	案件を JP1/Service Support に登録する際、自動で設定される。
9	更新日時 (JIMSD_FORM_LASTUPDATE)	
10	イベント DB 内通し番号 (JIMSD_FORM_IMEVENTNO)	対処済み連動用 JP1 イベントの発行に使用するため、新規案件には設定しない。
11	JP1/IM - Manager のホスト名 (JIMSD_FORM_IMHOSTNAME)	

また、流用元と流用先の型が異なる場合、案件情報の項目によっては、案件情報の引き継ぎが異なります。項目の型による案件情報の引き継ぎを、次の表に示します。

表 3-24 項目の型による案件情報の引き継ぎ

項番	項目	説明
1	追加項目：テキスト (JIMSD_FORM_USERTEXT01～ JIMSD_FORM_USERTEXT20)	流用元の案件フォームが textarea 型で、流用先の案件フォームが text 型の場合、改行を無視して案件情報を引き継ぐ。
2	追加項目：ユーザー (JIMSD_FORM_USEREXTTYPE01～ JIMSD_FORM_USEREXTTYPE05)	流用元と流用先の案件フォームで型 (user または userrole) が異なる場合、案件情報を引き継がない。
3	追加項目：リンク (JIMSD_FORM_REFINFO01～ JIMSD_FORM_REFINFO05)	流用元と流用先の案件フォームで型 (aim, url, または item) が異なる場合、案件情報を引き継がない。

なお、案件の流用先のプロセスワークボードに案件項目の自動入力を設定している場合は、自動入力が優先されます。この場合、流用元の案件情報は引き継がないで、自動入力で設定された値が設定されます。案件項目の自動入力については、「5.4.3 案件項目の自動入力の利用」を参照してください。

(2) 案件を流用して新規案件を作成する方法

次に示す画面から、案件を流用して新規案件を作成できます

- メイン画面 (案件一覧)
- [案件参照] 画面※

注※

[履歴の表示] 画面から [案件参照] 画面に遷移した場合は、案件を流用して新規案件を作成できません。

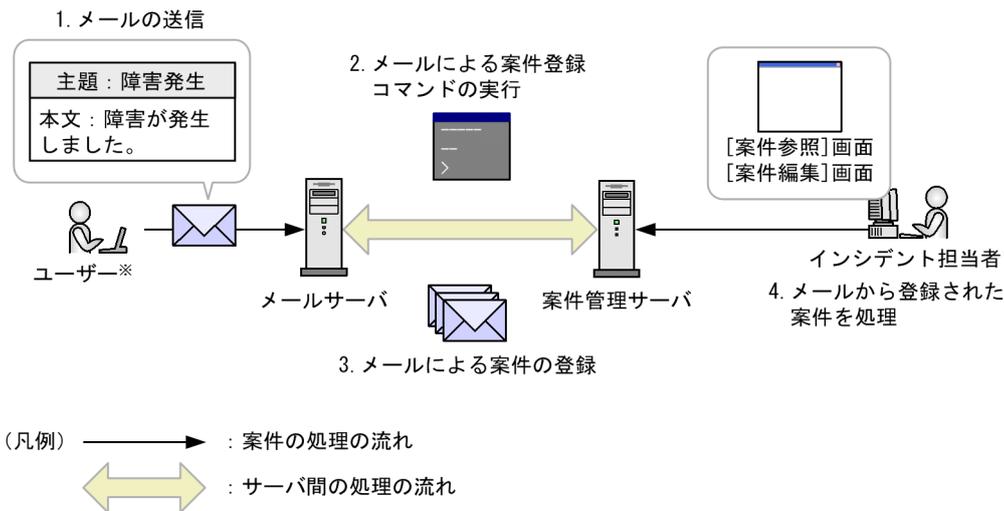
なお、流用元の案件は、状態が「運用中」のプロセスワークボードから選択してください。

案件を流用して新規案件を作成する手順については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」を参照してください。

3.5.3 メールによる案件の作成

メールを使って、JP1/Service Support に案件を登録できます。メールを使って JP1/Service Support に案件を登録し、処理するまでの流れを次の図に示します。

図 3-24 メールによる案件登録の流れ



注※ 事前にメール通知定義ファイルで設定されたユーザーです。

図中の番号に従って説明します。

1. メールの送信

企業内システムのユーザーが、案件について記載したメールを指定されたメールアドレスに送信します。案件のメールは、あらかじめメール定義ファイルで設定されたユーザーだけが送信できます。送信先のメールアドレス、メールサーバなどの情報も、メール定義ファイルで設定します。メール定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)」を参照してください。

2. メールによる案件登録コマンドの実行

案件管理サーバから、メールによる案件登録コマンドが実行されます。

メールによる案件登録コマンドは、JP1/Service Support - Task Service サービスによって、定期的に実行できます。メールによる案件登録コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssitementrybymail (メールによる案件登録)」を参照してください。

3. メールによる案件の登録

メールによる案件登録コマンドによって、メールサーバに蓄積されたメールが案件管理サーバに登録されます。

メールが案件管理サーバに登録されたあと、メールサーバに残ったメールは削除されます。メールからの案件の登録に失敗した場合は、メールのヘッダー情報と本文の内容が、メール一時退避ファイルとして次のフォルダに出力されます。

```
JP1/SS パス¥log¥command¥jssitementrybymail_mail_tmp_file
```

4. メールから登録された案件を処理

jssitementrybymail コマンドで登録された案件の内容を参照し、担当者が案件を処理します。

jssitementrybymail コマンドは、動作モードによって、登録される内容が異なります。詳細については、「(2) 案件として登録されるメールの内容」を参照してください。

案件を処理する担当者は、プロセスワークボードごとに設定されている「メールから登録された案件の担当者」が自動で設定されます。設定は [プロセスワークボード作成] 画面、または [プロセスワークボード編集] 画面で行います。詳細については、「9.15.1 メールで案件を登録するための環境設定」を参照してください。

(1) 一時受付プロセスワークボード、およびマスターシステムとは

一時受付プロセスワークボードとは、メールによって作成された案件を登録するためのプロセスワークボードです。特定のプロセスワークボードに案件を登録したい場合は、メールの主題でプロセスワークボード ID を指定することで登録できます。メールの主題でプロセスワークボードを指定しない場合は、すべて一時受付プロセスワークボードに登録されます。一時受付プロセスワークボードは、メイン画面 (案件一覧) のプロセスワークボード一覧に表示されます。

マスターシステムとは、一時受付プロセスワークボードの登録先となる対象システムです。

一時受付プロセスワークボードおよびマスターシステムは、セットアップコマンド、またはマスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドで作成します。

セットアップコマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsssetup.bat (セットアップ)」を参照してください。

マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成)」を参照してください。

一時受付プロセスワークボードおよびマスターシステムの作成時の設定内容を次の表に示します。

表 3-25 一時受付プロセスワークボード作成時の設定内容

項目名	設定内容	
[基本設定] タブ	プロセスワークボード ID	<ul style="list-style-type: none">セットアップコマンドで作成した場合は「jp1TemporaryReceiptProcessWorkBoard」が設定される。マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドで作成した場合は、引数で指定した文字列が設定される。
	システム*	「マスターシステム」が設定される。

項目名		設定内容
[基本設定] タブ	プロセス※	「インシデント管理」が設定される。プロセス表示名をカスタマイズした場合は、「インシデント管理」に設定したプロセス表示名が設定される。
	案件フォーム	[プロセスの標準案件フォームを使用する] にチェックされる。
	状態	「運用中」が設定される。
	プロセスワークボード管理者	「JP1 管理者」が設定される。
	期限前メール通知設定	[期限前にメール通知を行う] にはチェックされない。
	JP1 イベント発行設定	[JP1 イベントの発行を行う] にはチェックされない。
	メールから登録された案件の担当者	「JP1 管理者」が設定される。
	案件ごとの参照権限の設定	[案件ごとに参照権限の設定を行う] にはチェックされない。
	案件の引き戻し機能の設定	[案件の引き戻し機能を使用する] にチェックされる。
	コメント	「メールによる案件機能のための一時受付プロセスワークボード」と設定される。
[案件自動入力設定] タブ	[案件自動入力プロパティファイルの設定値を使用する] にチェックされる。	
[しきい値設定] タブ	[案件集計プロパティファイルの設定値を使用する] にチェックされる。	

注※

「システム」、および「プロセス」以外の項目は、[プロセスワークボード編集] 画面で編集できます。

表 3-26 マスターシステム作成時の設定内容

項目名	設定内容
システム ID	<ul style="list-style-type: none"> セットアップコマンドで作成した場合は、「jplTemporaryReceiptSystem」が設定される。 マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドで作成した場合は、引数で指定した文字列が設定される。
システム名	「マスターシステム」が設定される。
コメント	「メールによる案件機能のためのマスターシステム」と設定される。

一時受付プロセスワークボードは、そのほかのプロセスワークボードと同じように編集および削除できます。また、マスターシステムもそのほかの対象システムと同じように編集および削除できます。

(2) 案件として登録されるメールの内容

案件として登録されるメールの内容を、次の表に示します。

表 3-27 案件として登録されるメールの内容

メールの内容	案件の内容
主題	<p>送信したメールの主題が、案件のタイトルとなる[※]。なお、メールの主題で先頭から「#プロセスワークボード ID#」を入力して、案件の登録先プロセスワークボードを指定することもできる。登録先プロセスワークボードを指定した場合、メールの主題からプロセスワークボード ID を除いた文字列が、案件のタイトルとなる。</p> <p>また、送信したメールに主題が設定されていない場合は、案件のタイトルに「No Subject」が設定される[※]。</p>
本文	<p>案件登録の動作モードによって案件の登録状態が異なる。案件登録の動作モードは、あらかじめメール定義ファイルで設定する必要がある。詳細については、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)」を参照のこと。案件登録の動作モードと登録状態を、次に示す。</p> <p>添付ファイルモード</p> <p>メールの本文は、案件の添付ファイルとしてテキストファイルで保存される。そのため、一時受付プロセスワークボード、および登録先のプロセスワークボードで使用する案件フォームは、添付ファイルを許可すること。</p> <p>シングルモード</p> <p>メールの本文は、一つの案件項目に設定して登録される。メール本文を設定する項目は、あらかじめメール定義ファイルで設定する必要がある。詳細については、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)」を参照のこと。デフォルトでは、案件の「概要」に設定される。また、指定した案件項目にメールの本文を登録できなかった場合は、メールの本文を案件の添付ファイルとしてテキストファイルで保存される。そのため、一時受付プロセスワークボードで使用する案件フォームは、添付ファイルを許可すること。</p> <p>マルチモード</p> <p>メールの本文を XML 形式のフォーマットに従って記述することで、開始タグと終了タグで囲んだ内容を、案件の各項目に設定して登録される。また、メールの本文は案件の添付ファイルとしてテキストファイルで保存される。そのため、一時受付プロセスワークボードで使用する案件フォームは、添付ファイルを許可すること。</p>
添付ファイル	<p>セキュリティ上の問題があるため、案件登録のために送信するメールには、ファイルを添付しない運用にすること。メールにファイルが添付されていた場合、添付ファイルは案件管理 DB には登録されず、案件管理サーバ上に用意された添付ファイル管理フォルダに保存される。</p>
送信元アドレス	<p>メール定義ファイルで設定したメールの送信元アドレスを設定する案件項目の案件項目指定 ID に、送信元アドレスが設定される。メール定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)」を参照のこと。</p>

注※

動作モードがマルチモードでメールの本文にタイトル情報が設定されていた場合は、メール本文のタイトル情報の設定が有効になります。

(3) メールによって登録される案件の内容

メールによって案件を登録する場合、案件登録の動作モードに関係なく登録される共通の内容と、動作モードによって異なって登録される内容があります。

(a) 共通の登録内容

表 3-28 メールによって登録される共通の案件の内容

案件の設定項目	設定内容
タイトル	送信したメールの主題が、案件のタイトルとなる。メールの主題でプロセスワークボード ID を指定した場合は、メールの主題から「#プロセスワークボード ID#」を取り除いた文字列が案件のタイトルとなる。
案件 ID	案件の登録時点で最新の案件 ID が自動で設定される。
更新日時	案件管理サーバに案件が登録されたときの日時が自動で設定される。
システム	「マスターシステム」が設定される。メールの主題で登録先のプロセスワークボードを指定した場合は、そのプロセスワークボードの対象システムが設定される。
プロセス	「インシデント管理」が設定される。メールの主題で登録先のプロセスワークボードを指定した場合は、そのプロセスワークボードのプロセスが設定される。プロセス表示名をカスタマイズした場合は、「インシデント管理」に設定したプロセス表示名が設定される。
担当者	登録先のプロセスワークボードで設定されている、「メールから登録された案件の担当者」が設定される。 なお、「メールから登録された案件の担当者」には、次の権限が設定される。 <ul style="list-style-type: none">設定先のプロセスワークボードの案件参照権限設定先のプロセスワークボードに登録されている案件を、ステータスが「受付（ステータス ID：JIMSD_STAT_INQUIRY）」の場合に編集できる権限
ステータス	「受付（ステータス ID：JIMSD_STAT_INQUIRY）」が設定される。
プロセス間 ID	案件の登録時点で最新のプロセス間 ID が自動で設定される。
登録日時	案件管理サーバに案件が登録されたときの日時が自動で設定される。
登録者	登録先のプロセスワークボードで設定されている「メールから登録された案件の担当者」が設定される。
拡張ユーザー情報 01～05 のうちどれか一つ※	登録先のプロセスワークボードが案件ごとに参照権限を設定している場合、登録先のプロセスワークボードで設定されている、「メールから登録された案件の担当者」が自動で設定される。

注※

案件ごとに参照権限を設定している場合、案件の参照権限を設定する項目として選定した拡張ユーザー情報です。案件ごとに参照権限を設定していない場合は、拡張ユーザー情報 01～05 に値は設定されません。案件の参照権限を設定する項目の選定については、「9.13 案件ごとに参照権限を設定するための環境設定」を参照してください。

[プロセスワークボード作成] 画面、または [プロセスワークボード編集] 画面の「案件自動入力」タブで、自動入力を設定している項目があれば、それらの項目も自動で設定されます。

(b) 動作モードによって異なる登録内容

案件登録の動作モードは、メール定義ファイルの `hptl_jp1_imss_mail_operation_mode` で設定します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル (`jp1imss_mail_setting.conf`)」を参照してください。

添付ファイルモード

案件の動作モードが添付ファイルモードの場合、添付ファイルにメールの本文がすべて登録されます。

シングルモード

案件登録の動作モードがシングルモードの場合、メール定義ファイルで指定した案件項目指定 ID にメールの本文がすべて登録されます。指定できる案件項目指定 ID については、「表 3-29 案件項目指定 ID に対応する案件フォーム項目 ID」を参照してください。メール定義ファイルで指定した案件項目指定 ID にメールの本文を登録できなかった場合は、メールの本文を案件の添付ファイルとしてテキストファイルで保存されます。その際、案件のタイトルにメール定義ファイルの `hptl_jpl_imss_mail_format_error_string` に指定した値が追加されます。メール定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」のメール定義ファイル (`jplimss_mail_setting.conf`) を参照してください。

マルチモード

案件登録の動作モードがマルチモードの場合、メール本文を XML 形式のフォーマットで記述する必要があります。案件に登録したい項目を、次に示すフォーマットに従い記述します。

<案件項目指定ID>案件項目に設定する情報</案件項目指定ID>

XML 形式のフォーマットで記述する際、空白、改行、タブなどを含むすべての文字が使用できます。ただし、「& (アンパサンド)」、「< (小なり)」、「> (大なり)」、「' (シングルクォーテーション)」および「" (ダブルクォーテーション)」を案件項目に設定する情報として登録したい場合は、次に示すエスケープシーケンスを記述してください。

- 「&」のエスケープシーケンス：&
- 「<」のエスケープシーケンス：<
- 「>」のエスケープシーケンス：>
- 「'」のエスケープシーケンス：'
- 「"」のエスケープシーケンス："

メール本文に同一の案件項目指定 ID が複数記述されていた場合は、最初の案件項目指定 ID に設定された情報が登録されます。ただし、最初の案件項目指定 ID の記述に不正があった場合は、その次の案件項目指定 ID に設定された情報が登録されます。

案件項目指定 ID がメール定義ファイルと、メール本文で重複して記述されていた場合、次に示す優先順位に従って、情報が登録されます。

1. メール定義ファイルで指定した案件項目指定 ID の値
2. メール本文で指定した案件項目指定 ID の案件項目に設定する情報
3. 送信メールの主題※

注※

メール定義ファイルおよびメール本文で案件項目指定 ID 「TITLE」 を指定していない場合、案件のタイトルとして送信メールの主題が登録されます。

なお、次に示すエラーが発生した場合、エラーが発生した項目には情報が設定されません。この場合、エラーが発生したことがわかるように、案件のタイトルに次に示す値が設定されます。

- 終了タグだけが記述されているなど、構文エラーが発生した場合
この場合、タイトルに「KNAB22124-W 案件登録時に欠損した情報があります。」が設定された案件が登録されます。
- 構文エラー以外のエラーが発生した場合
案件のタイトルにメール定義ファイルの `hptl_jpl_imss_mail_format_error_string` に指定した値が追加されます。メール定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」の[メール定義ファイル \(jplimss_mail_setting.conf\)](#) を参照してください。

また、メール本文の内容やエラーメッセージは、案件の添付ファイルとしてテキストファイルで保存されます。添付ファイルを参照して、必要な情報を案件項目に設定してください。

送信メールで設定できる案件項目指定 ID に対応する案件フォーム ID を、次の表に示します。

表 3-29 案件項目指定 ID に対応する案件フォーム項目 ID

項番	項目名 (デフォルト表示名)	案件フォーム項目 ID	案件項目指定 ID	設定可否	
				シングルモード	マルチモード
1	タイトル	JIMSD_FORM_TITLE	TITLE	×	○
2	重大度	JIMSD_FORM_SEVERITYCODE	SEVERITYCODE	×	○
3	重大度の理由	JIMSD_FORM_SEVERITYREASON	SEVERITYREASON	×	○
4	影響度	JIMSD_FORM_IMPACTCODE	IMPACTCODE	×	○
5	影響度の理由	JIMSD_FORM_IMPACTREASON	IMPACTREASON	×	○
6	優先度※ ¹	JIMSD_FORM_PRIORITYCODE	PRIORITYCODE	×	○
7	優先度の理由	JIMSD_FORM_PRIORITYREASON	PRIORITYREASON	×	○
8	案件種別	JIMSD_FORM_ITEMCATEGORYCODE	ITEMCATEGORYCODE	×	○
9	問題分野	JIMSD_FORM_ISSUECATEGORYCODE	ISSUECATEGORYCODE	×	○

項番	項目名 (デフォルト表示名)	案件フォーム項目 ID	案件項目指定 ID	設定可否	
				シングルモード	マルチモード
10	変更の規模	JIMSD_FORM_CHANGESCALECODE	CHANGESCALECODE	×	○
11	リリースタイプ	JIMSD_FORM_RELEASETYPECODE	RELEASETYPECODE	×	○
12	結果	JIMSD_FORM_RESULTCODE	RESULTCODE	×	○
13	発生日時※1	JIMSD_FORM_ACCRUALDATE	ACCRUALDATE	×	○
14	現象種別	JIMSD_FORM_PHENOMENONCODE	PHENOMENONCODE	×	○
15	解決区分	JIMSD_FORM_SOLUTIONCODE	SOLUTIONCODE	×	○
16	作業期限※1	JIMSD_FORM_DEADLINE	DEADLINE	×	○
17	開始日時※1	JIMSD_FORM_STARTDATE	STARTDATE	×	○
18	完了日時	JIMSD_FORM_COMPDATE	COMPDATE	×	○
19	顧客名	JIMSD_FORM_CUSTOMENAME	CUSTOMERNAME	×	○
20	問い合わせ者	JIMSD_FORM_INQUIRYNAME	INQUIRYNAME	×	○
21	費用（予算）	JIMSD_FORM_ESTIMATEDCOST	ESTIMATEDCOST	×	○
22	費用（実績）	JIMSD_FORM_ACTUALCOST	ACTUALCOST	×	○
23	影響業務	JIMSD_FORM_EFFECTSERVICE	EFFECTSERVICE	○	○
24	問題個所とパージョン	JIMSD_FORM_FAILURELOCATION	FAILURELOCATION	○	○
25	概要	JIMSD_FORM_SUMMARY	SUMMARY	○	○
26	回避策種別	JIMSD_FORM_AVOIDANCECODE	AVOIDANCECODE	×	○
27	回避策	JIMSD_FORM_AVOIDANCE	AVOIDANCE	○	○
28	作業状況	JIMSD_FORM_SITUATION	SITUATION	○	○
29	再発防止のための考察	JIMSD_FORM_MEASURES	MEASURES	○	○
30	要因	JIMSD_FORM_CAUSECODE	CAUSECODE	×	○
31	根本原因	JIMSD_FORM_ROOTCAUSE	ROOTCAUSE	○	○
32	解決策	JIMSD_FORM_SOLUTION	SOLUTION	○	○

項番	項目名 (デフォルト表示名)	案件フォーム項目 ID	案件項目指定 ID	設定可否	
				シングルモード	マルチモード
33	スケジュール, 手順概要	JIMSD_FORM_SCHEDULE	SCHEDULE	○	○
34	変更の影響評価	JIMSD_FORM_IMPACTEVAL	IMPACTEVAL	○	○
35	審議結果	JIMSD_FORM_DELIBERATIONRST	DELIBERATIONRST	○	○
36	フリー記入欄	JIMSD_FORM_FREEDESCRIPTION	FREEDESCRIPTION	○	○
37	プロダクト名	JIMSD_FORM_JP1PRODUCTNAME	JP1PRODUCTNAME	×	○
38	ジョブネット名	JIMSD_FORM_JP1JOBNETNAME	JP1JOBNETNAME	×	○
39	ジョブ名	JIMSD_FORM_JP1JOBNAME	JP1JOBNAME	×	○
40	SNMP ソース	JIMSD_FORM_JP1SNMPSRC	JP1SNMPSRC	×	○
41	監視ノード名	JIMSD_FORM_JP1NODENAME	JP1NODENAME	×	○
42	アラーム名	JIMSD_FORM_JP1ALARMNAME	JP1ALARMNAME	×	○
43	イベント DB 内 通し番号※2	JIMSD_FORM_IMEVENTNO	IMEVENTNO	×	○
44	JP1/IM-M ホスト名※2	JIMSD_FORM_IMHOSTNAME	IMHOSTNAME	×	○
45	ユーザ追加テキスト項目	JIMSD_FORM_USERTEXT01~05	USERTEXT01~05	△	○
46		JIMSD_FORM_USERTEXT06~15	USERTEXT06~15	△	○
47		JIMSD_FORM_USERTEXT16~20	USERTEXT016~20	△	○
48	ユーザ追加数値項目	JIMSD_FORM_USERINT01~05	USERINT01~05	×	○
49	ユーザ追加コード項目	JIMSD_FORM_USERCODE01~05	USERCODE01~05	×	○
50	ユーザ追加日時項目	JIMSD_FORM_USERTIME01~05	USERTIME01~05	×	○

(凡例)

- : 該当なし
- : 設定可能

×：設定不可

△：型が textarea の場合に設定可能

注※1

自動で設定する機能が有効な場合でも、送信メールに設定された値が優先されます。

注※2

案件フォームで使用されていない場合でも、送信メールに設定された値が登録されます。

各項目については、「12. コマンド」の「jssitemexportEx（案件情報拡張エクスポート）」の案件情報 CSV ファイルの内容を参照してください。各項目に設定できる文字やバイト数は、「13. 定義ファイル」の「案件情報拡張入力ファイル（任意）」の案件情報 CSV ファイルの説明を参照してください。ただし、項目の型によって、設定できる文字が異なる場合があります。各項目の型については、「13. 定義ファイル」の「案件フォーム定義ファイル（任意）」の「案件フォーム定義ファイルでの定義状態」を参照してください。設定できる文字の違いについて、次の表に示します。

表 3-30 設定できる文字の違い

項番	種別	型	設定できる文字の違い
1	文字列	text	制御文字を設定した場合、エラーにならない。制御文字は、半角スペースに置換される。
2		textarea	制御文字を設定した場合、エラーにならない。制御文字が改行のときは、何もされない。制御文字が改行以外のときは、その制御文字が半角スペースに置換される。
3	日時	datetime	<ul style="list-style-type: none">「yyyy/mm/dd/hh:mm」形式の文字列で設定できる。制御文字を設定した場合、エラーにならない。その制御文字は無視される。指定できる範囲は、1970/01/02 00:00~2107/01/01 23:59。
4	コード	code	制御文字を設定した場合、エラーにならない。その制御文字は無視される。
5	整数値	number	

なお、設定した項目は、フォーマットチェックされます。フォーマットチェックでエラーが発生した場合、案件として登録されますが、エラーが発生した項目には送信メールの情報が設定されません。

(4) メールサーバからメールが削除される条件

メールの内容が案件として案件管理サーバに登録されると、メールサーバからメールが削除されます。ただし、何らかの理由でメール一時退避ファイルの出力に失敗したり、メールに添付されたファイルが添付ファイル管理フォルダに保存されなかったりした場合は、メールサーバからメールが削除されません。メールサーバからメールが削除される条件を次の表に示します。

表 3-31 メールサーバからメールが削除される条件

メールからの案件登録の成否	メールに添付されたファイルの状況		
	添付されていない	添付ファイル管理フォルダに保存された	添付ファイル管理フォルダに保存されなかった
登録に成功	○	○	×

メールからの案件登録の成否	メールに添付されたファイルの状況		
	添付されていない	添付ファイル管理フォルダに保存された	添付ファイル管理フォルダに保存されなかった
登録に失敗したが、メール一時退避ファイルの出力に成功	○	○	×
登録に失敗し、メール一時退避ファイルの出力にも失敗	×	×	×

(凡例)

- ：メールが削除される
- ×

メールが削除される条件に当てはまる場合でも、メールサーバからメールが削除されないことがあります。その場合は、手動でメールを削除してください。

メール定義ファイルで設定されていないユーザーからのメールは、メールサーバから削除されます。

(5) メールによる案件作成時の注意事項

- 案件が文字化けするおそれがあるため、メールの主題や本文に、「~」、「¥」、「\」、「~」、「?」、「-」、「@」、「£」、「-」、および機種依存文字を使用しないでください。
- 案件が文字化けしたり、案件の登録に失敗したりするおそれがあるため、暗号化したメールによって案件を作成しないでください。
- メールで指定したプロセスワークボードが存在しない場合は、一時受付プロセスワークボードに案件が登録されます。
- メールで指定したプロセスワークボードが運用中以外の場合は、一時受付プロセスワークボードに案件が登録されます。
- 案件登録するプロセスワークボードの案件フォームで、添付ファイルが使用できない設定になっている場合は、一時受付プロセスワークボードに案件が登録されます。なお、一時受付プロセスワークボードでも、案件フォームで添付ファイルが使用できない設定になっているときは、案件は登録されません。案件を登録する場合は、添付ファイルが使用できる案件フォームを使用してください。案件フォームのカスタマイズについては、「[9.9 案件フォームのカスタマイズ](#)」を参照してください。
- 案件登録の動作モードがマルチモードの場合、あらかじめメールのひな型を作成しておき、必要な情報を入力することで案件を登録する運用を推奨します。詳細については、「[5.6.1 メールによる案件の登録方法の検討](#)」を参照してください。

3.5.4 コマンドによる案件の作成

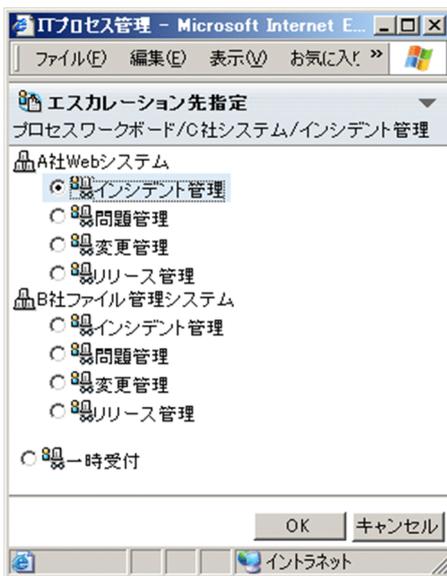
jssitementry コマンドを使うと、案件管理 DB に直接案件を登録できます。対象システムで何らかの障害が発生したときに、対象システムの運用管理製品を利用して案件を自動登録できます。jssitementry コマ

ンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssitementry (案件登録)」を参照してください。また、運用管理製品との連携については、「4. 他製品との連携」を参照してください。

3.5.5 案件のエスカレーション

現在のプロセスで対応できない案件は、ほかのプロセスにエスカレーションできます。エスカレーションできるプロセスには、ほかの対象システム下にあるプロセスも含まれます。エスカレーション先のプロセスは、[エスカレーション先指定] 画面で指定します。なお、エスカレーション元の案件が、ほかのユーザーによって編集中の場合はエスカレーションできません。[エスカレーション先指定] 画面を、次の図に示します。

図 3-25 [エスカレーション先指定] 画面



エスカレーション先を指定すると、エスカレーション先プロセスの [案件作成] 画面が、エスカレーション元の情報を引き継いだ状態で表示されます。なお、プロセスごとに案件の表示項目が異なるため、引き継がれる情報はエスカレーション先およびエスカレーション元の案件フォームの両方にある項目だけ情報が引き継がれます。ただし、エスカレーション元の情報が引き継がれない項目もあります。エスカレーション時に引き継がれない項目を、次の表に示します。

表 3-32 エスカレーション時に引き継がれない項目

項番	項目	説明
1	対象システム	エスカレーション先のプロセスワークボードに設定された対象システム名が自動で設定される。
2	プロセス	エスカレーション先のプロセスワークボードに設定されたプロセス名が自動で設定される。プロセス表示名が設定される。
3	案件 ID	案件を JP1/Service Support に登録したときに、自動で設定される。

項番	項目	説明
4	プロセス間 ID	案件を JP1/Service Support に登録したときに、自動で設定される。
5	登録者	エスカレーションしたユーザーの名前が自動で設定される。
6	登録日時	案件を JP1/Service Support に登録したときに、自動で設定される。
7	更新日時	
8	ステータス	
9	担当者	
10	案件ごとの参照権限所有者	エスカレーションするユーザーが設定する。

また、項目の型が異なる場合は、次に示す表に従って情報を引き継ぎます。

表 3-33 項目の型による情報の引き継ぎ

項番	項目	説明
1	追加項目：テキスト (JIMSD_FORM_USERTEXT01～ JIMSD_FORM_USERTEXT20)	textarea 型から text 型にエスカレーションした場合、改行を無視して情報を引き継ぐ。
2	追加項目：ユーザー (JIMSD_FORM_USEREXTTYPE01～ JIMSD_FORM_USEREXTTYPE05)	エスカレーション元と先で型 (user または userrole) が異なる場合は情報を引き継がない。
3	追加項目：リンク (JIMSD_FORM_REFINFO01～ JIMSD_FORM_REFINFO05)	エスカレーション元と先で型 (aim または url,item) が異なる場合は情報を引き継がない。

3.5.6 登録された案件の件数の確認

JP1/Service Support に登録されている案件の件数は、`jssitemcount` コマンドで確認できます。また、プロセスワークボードに追加登録できる案件数がシステムプロパティファイルで設定したしきい値を下回った場合、およびプロセスワークボードに登録できる案件数の上限に達した場合、警告のメッセージが出力されます。

JP1/Service Support に登録されている案件の件数を確認することで、登録できる案件数の上限に達する前に不要な案件を削除できます。また、案件保存 DB を使用する場合は、案件保存 DB に移行する案件数の見積もりに利用できます。

`jssitemcount` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jssitemcount \(案件数確認\)](#)」を参照してください。システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[システムプロパティファイル \(hptl_jpl_imss_main_setting.properties\)](#)」を参照してください。

なお、プロセスワークボードに登録できる案件数は、JP1/Service Support の製品によって異なります。プロセスワークボードに登録できる案件数の詳細は、「[付録 D 制限値一覧](#)」を参照してください。

3.6 案件の編集

JP1/Service Support に登録した案件は、作業状況に合わせて、調査した情報を追加したり、案件のステータスを変更したりします。これらの作業を行うために、案件を編集します。また、必要に応じて案件を引き戻したり、差し戻したりします。

なお、案件ごとに参照権限を設定しているプロセスワークボードでは、参照権限を所有している案件だけを編集できます。案件ごとの参照権限の設定については、「3.11 案件に対するアクセス権の管理」を参照してください。

また、案件保存 DB を使用している場合、保存案件は編集できません。

案件の編集は、[案件編集] 画面または `jssitemedit` コマンドで行います。次に、それぞれの編集方法、および案件の引き戻しと差し戻しについて説明します。

3.6.1 [案件編集] 画面での案件編集

[案件編集] 画面での案件の編集について説明します。編集できる項目は、プロセスによって異なります。[案件編集] 画面を次の図に示します。

図 3-26 [案件編集] 画面

ほかのユーザーが編集中の案件は、内容の上書きを防ぐために編集できません。対象の案件が編集中心かどうかは、メイン画面（案件一覧）の案件一覧に表示されているアイコンで確認できます。次にアイコンの種類について説明します。

-  : 案件アイコン

案件が編集中心でないことを示すアイコンです。

- 編集中心アイコン

案件が編集中心であることを示すアイコンです。編集中心アイコンには、次の2種類があります。

- 

自分が編集中心の案件であることを示します。自分が編集中心の案件は編集できます。

- 

ほかのユーザーが編集中心の案件であることを示します。ほかのユーザーが編集中心の案件は編集できません。

-  : 保存案件アイコン※

案件保存 DB に保存されている案件（保存案件）であることを示します。保存案件は編集できません。

注※

案件保存 DB を使用している場合に表示されます。

編集しているユーザー名を確認したい場合は、[案件参照] 画面のヘッダーにある、「編集中心のユーザー」に表示されているユーザー名で確認できます。また、ユーザー名から詳細情報を表示することもできます。

(1) 案件内容の編集

JP1/Service Support に登録されている、案件の内容を編集できます。案件の調査結果を追記したり、案件に関連する WWW ページへのリンクを設定したり、ファイルを添付したりできます。

ただし、次に示す項目は、案件作成時または更新時に自動で設定されるため、編集できません。

- システム
- プロセス
- 案件 ID
- プロセス間 ID
- 登録者
- 登録日時
- 更新日時

(2) ステータスの変更

ステータスとは、案件の現在の状態を示す項目です。ステータスは、プロセスごとに JP1/Service Support で定義されており、作業状態に合わせて選択できます。ステータスが示す意味は、プロセスごとに異なります。

JP1/Service Support では、ステータスの状態に合わせて適切な担当者（ユーザーまたはロール）を選択できるよう、アクセス権の設定によって制御しています。この機能によって、ユーザーは案件に対して、役割に応じた適切な操作ができるようになります。また、ステータスに対して初期担当者を設定することで、ステータスの担当者を自動で設定できるようになります。なお、ステータスに対してステータスの初期担当者を設定していない場合、選択できる担当者が 1 ユーザーまたは 1 ロールのときは、そのユーザーまたはロールが自動で設定されます。詳細については、「[3.11.2 案件の編集とステータス、担当者の関係](#)」を参照してください。

ここで示すステータスの名称は、デフォルトの名称です。ユーザーの運用に合わせてカスタマイズできます。詳細については、「[3.15 ステータスの管理](#)」を参照してください。

次に、ステータスの項目をプロセスごとに説明します。

表 3-34 ステータス（インシデント管理）

ステータスの名称	説明
受付	対象システムを利用しているユーザーからの問い合わせを受け、受け付け担当者がインシデントを案件として登録した状態。
調査中	インシデントに対する調査担当者が割り振られ、事例を検索したり、資料を採取したり、回答を作成したりしている状態。
対応依頼中	問題管理や外部サポートへ対応を依頼している状態。
審議中	インシデントの回答内容および回避策を、承認者が審議している状態。
承認済み	インシデントの回答内容または回避策が承認された状態。
クローズ	対象システムを利用しているユーザーに問い合わせの回答をして、インシデントがクローズした状態。

表 3-35 ステータス（問題管理）

ステータスの名称	説明
受付	インシデント管理からエスカレーションされた問題案件が登録され、未着手の状態。
調査中	問題案件の調査担当者が割り振られ、ログ資料などを調査している状態。
審議中	調査担当者の調査結果を、承認者が原因または解決策を審議している状態。
承認済み	問題案件の原因または解決策が承認された状態。
対応依頼中	システム上の変更作業が発生する場合、変更管理に対して変更依頼をエスカレーションしている状態。
クローズ	問題が解決し、インシデント管理に対して原因または解決策を回答した状態。

表 3-36 ステータス (変更管理)

ステータスの名称	説明
受付	問題管理からエスカレーションされた変更案件が登録され、未着手の状態。
計画中	変更案件が計画検討担当者に割り振られ、計画を作成したり、影響を評価している状態。
審議中	計画検討担当者の変更計画を承認者が審議している状態。
承認済み	変更案件の変更内容が承認され、変更計画が回覧されている状態。
対応依頼中	承認された変更計画をリリース管理にエスカレーションし、リリース作業を依頼している状態。
レビュー中	変更またはリリース作業が完了し、変更後のレビュー開催待ちの状態。
クローズ	変更作業が完了した状態。

表 3-37 ステータス (リリース管理)

ステータスの名称	説明
受付	変更管理からエスカレーションされたリリース案件が登録され、未着手の状態。
計画中	リリース担当者が割り振られ、リリース計画を作成している状態。
審議中	作成したリリース計画を承認者が審議している状態。
承認済み	リリース計画が承認され、リリース作業を実施している状態。
対応依頼中	リリース作業が完了し、構成管理に構成データベースの更新処理を依頼している状態。
クローズ	リリース作業が完了した状態。

3.6.2 コマンドによる案件の編集

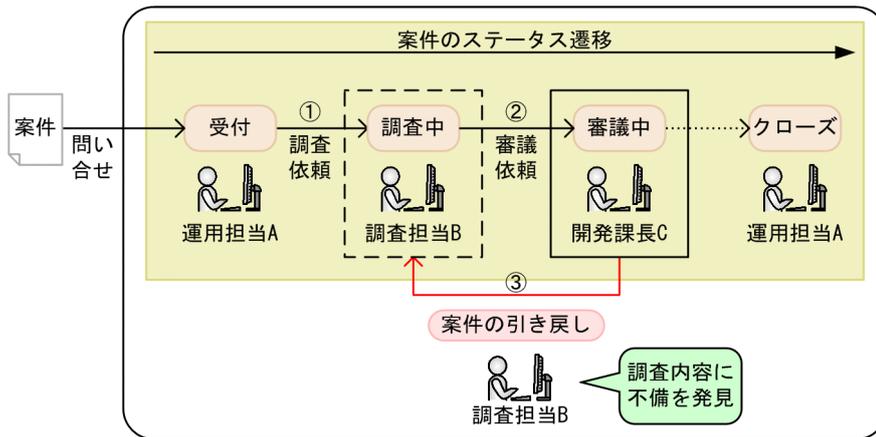
jssitemedit コマンドを使用すると、プロセスワークボード内通し番号またはイベント DB 内通し番号をキーに案件管理 DB を検索し、該当する案件を編集できます。jssitemedit コマンドで案件を編集した場合も、案件の履歴は案件管理 DB に保存されます。案件を jssitemedit コマンドで編集する方法については、「12. コマンド」の「jssitemedit (案件編集)」を参照してください。

3.6.3 案件の引き戻し

案件の引き戻しとは、ステータスを遷移させた案件に対して、遷移させたステータスにアクセス権がなくても案件のステータスと担当者を遷移前の状態に戻す機能です。この機能を使用することで、案件の承認の申請などでステータスを遷移させたときに不備があった場合、遷移先の担当者にステータスの変更を依頼することなく、案件を再編集できます。

案件の引き戻し機能の使用例を、次の図に示します。

図 3-27 案件の引き戻し機能の使用例



なお、案件の引き戻し機能を使用するかどうかは、プロセスワークボードごとに設定します。案件の引き戻し機能の設定については、「[3.2.1 プロセスワークボードによる案件の管理](#)」を参照してください。

(1) 案件の引き戻しの実行条件

案件を引き戻すためには、実行ユーザー、対象システム、対象プロセスワークボード、および対象案件が、案件の引き戻し機能を実行できる状態にしておく必要があります。それぞれの実行条件を、次に示します。

実行ユーザーの条件

対象となる案件が現在のステータスに遷移する前に担当者に設定されていたユーザーまたはロールのメンバーです。なお、対象となるプロセスワークボードに対して案件ごとに参照権限を設定している場合は、案件ごとの参照権限所有者として登録されている案件だけを操作できます。案件ごとの参照権限の設定については、「[3.11 案件に対するアクセス権の管理](#)」を参照してください。

対象システムおよび対象プロセスワークボードの条件

次に示すすべての条件を満たす必要があります。

- 対象システムおよび対象プロセスワークボードが運用中である。
- 対象プロセスワークボードで、案件の引き戻し機能を使用できる設定になっている。
- 遷移後のステータスから遷移前のステータスへの遷移が制限されていない。

対象案件の条件

次に示すすべての条件を満たす必要があります。

- 対象案件が管理案件である。
- 対象案件をほかのユーザーが編集中ではない。
- 対象案件が削除待ち状態ではない。
- 対象案件のステータスが現在のステータスに遷移してから、編集またはエスカレーションされていない。
- 対象案件の編集回数が、上限に達していない。
- 対象案件の引き戻し先のステータスで必要な項目が、すべて入力されている。

- 対象案件の現在のステータスが、案件の引き戻しまたは差し戻し機能によって遷移されていない。編集によって遷移されている。

❗ 重要

- 登録時のステータスの場合、引き戻しできません。
- エスカレーション先の案件は、エスカレーション元の案件とは別の案件となります。このため、エスカレーション先の案件をエスカレーション元の案件に引き戻すことはできません。
- 案件を引き戻したあとのステータスは、[進捗表示]画面のステータスの表示順と一致しない場合があります。[進捗表示]画面のステータスの表示順と一致させたい場合は、案件の編集でステータスを変更してください。また、常に引き戻したあとのステータスを[進捗表示]画面の表示順と一致させたい場合は、[進捗表示]画面の表示順と一致するようにステータスの遷移先を制限してください。ステータスの制限については、「[3.15.4 ステータスの制限](#)」を参照してください。

(2) 案件の引き戻しの実行

案件の引き戻しは、次に示す画面から実行できます。実行方法については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」を参照してください。

- メイン画面（案件一覧）
- [案件参照]画面

(3) 案件の引き戻しによるメール通知

案件を引き戻した際、引き戻し前の案件の担当者にメールで通知できます。また、案件を引き戻すと担当者変更されるため、案件の担当者変更もメールで通知できます。メールによる通知の詳細については、「[3.12 メールによる通知](#)」を参照してください。

3.6.4 案件の差し戻し

案件の差し戻しとは、ステータスの編集権限を持つ案件に対して、案件のステータスと担当者をステータスの遷移前の状態に戻す機能です。この機能を使用することで、案件の承認などの依頼を受けた際に調査内容などの不備に気づいた場合、案件の承認依頼を却下できます。

案件の差し戻し機能の使用例を、次の図に示します。

図 3-28 案件の差し戻し機能の使用例（通常の場合）

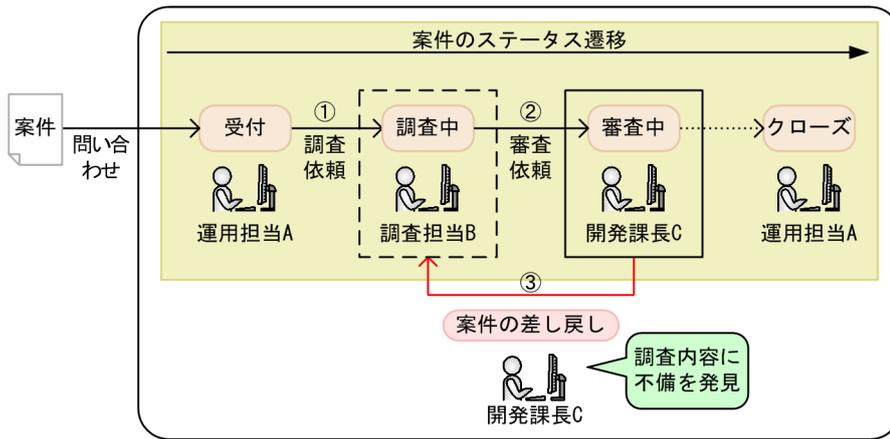
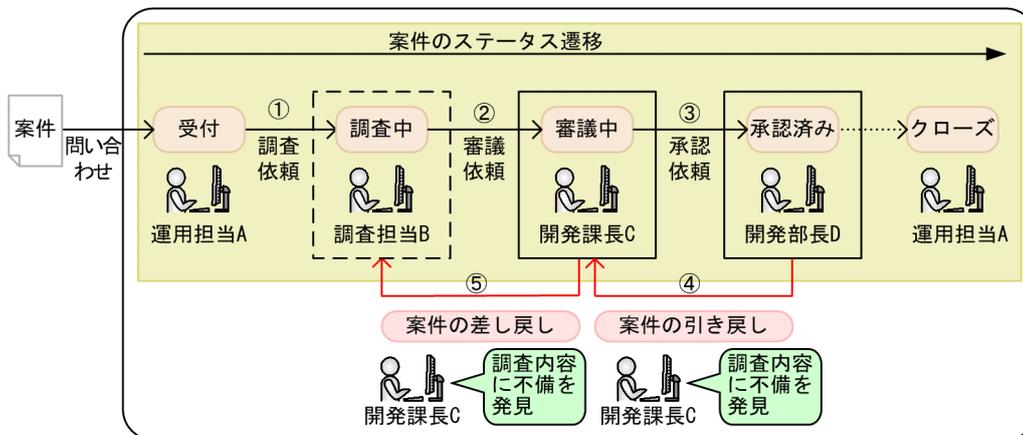


図 3-29 案件の差し戻し機能の使用例（引き戻しまたは差し戻された案件をさらに差し戻す場合）

引き戻した案件をさらに差し戻す場合



差し戻された案件をさらに差し戻す場合

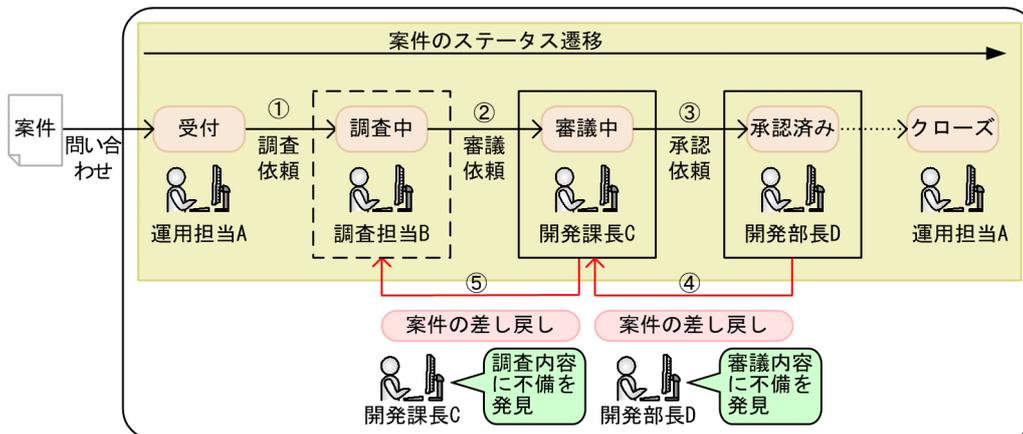


図 3-28 に示すように、通常は案件を差し戻すと、差し戻す前のステータスと担当者に変更されます。引き戻しまたは差し戻された案件をさらに差し戻す場合は、図 3-29 に示すように、ステータスは「調査中」、担当者は「調査担当 B」に変更されます。

また、案件を差し戻す際に、[案件編集] 画面で案件の内容を編集できます。例えば、却下理由などの情報を「コメント」に追加できます。ただし、「ステータス」および「担当者」を編集しても、自動で設定されるため、案件に反映されません。

(1) 案件の差し戻しの実行条件

案件を差し戻すためには、実行ユーザー、対象システム、対象プロセスワークボード、および対象案件が、案件の差し戻し機能を実行できる状態にしておく必要があります。それぞれの実行条件を、次に示します。

実行ユーザーの条件

対象となる案件の編集権限を持つユーザーです。

なお、対象となるプロセスワークボードに対して案件ごとに参照権限を設定している場合は、案件ごとの参照権限所有者として登録されている案件だけを操作できます。案件ごとの参照権限の設定については、「[3.11 案件に対するアクセス権の管理](#)」を参照してください。

対象システムおよび対象プロセスワークボードの条件

次に示すすべての条件を満たす必要があります。

- 対象システムおよび対象プロセスワークボードが運用中である。
- 遷移後のステータスから遷移前のステータスへの遷移が制限されていない。

対象案件の条件

次に示すすべての条件を満たす必要があります。

- 対象案件が管理案件である。
- 対象案件が編集中ではない。
- 対象案件が削除待ち状態ではない。
- 対象案件の編集回数が、上限に達していない。
- 対象案件の差し戻し先のステータスで必要な項目が、すべて入力されている。

差し戻し先担当者の条件

次に示すすべての条件を満たす必要があります。

- 対象案件に対して、参照権限を持っている。
- 差し戻し先の案件に対して、編集権限を持っている。

❗ 重要

- エスカレーション先の案件は、エスカレーション元の案件とは別の案件となります。このため、エスカレーション先の案件をエスカレーション元の案件に差し戻すことはできません。
- 設定したステータスの順序と異なるステータスに遷移した案件を差し戻した場合、差し戻す直前のステータスに遷移するため、案件を差し戻したあとのステータスは、[進捗表示] 画面のステータスの表示順と一致しない場合があります。[進捗表示] 画面のステータスの表示順と一致させたい場合は、案件の編集でステータスを変更してください。また、常に差し

戻したあとのステータスを [進捗表示] 画面の表示順と一致させたい場合は、[進捗表示] 画面の表示順と一致するようにステータスの遷移先を制限してください。ステータスの制限については、[\[3.15.4 ステータスの制限\]](#) を参照してください。

(2) 案件の差し戻しの実行

案件の差し戻しは、次に示す画面から実行できます。実行方法については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」を参照してください。

- [案件編集] 画面

(3) 案件の差し戻しによるメール通知

案件を差し戻した際、差し戻し後の案件の担当者にメールで通知できます。メールによる通知の詳細については、[\[3.12 メールによる通知\]](#) を参照してください。

3.7 案件の一括操作

案件の一括操作は、日々発生する案件の中で、調査などが不要な複数の案件を一括で操作する機能です。案件を一括で操作することによって、オペレーションの負荷を軽減できます。この機能では、対象となる案件のステータスを一括で変更できます。

なお、案件保存 DB を使用している場合、保存案件は一括で操作できません。

案件の一括操作でできる操作を、次の表に示します。

表 3-38 案件の一括操作でできる操作

項番	操作	説明
1	案件の一括承認	案件のステータスを「承認済み※ (JIMSD_STAT_APPROVED)」に変更する。
2	案件の一括クローズ	案件のステータスを「クローズ※ (JIMSD_STAT_CLOSE)」に変更する。

注※

ステータスの名称は、デフォルトの名称です。カスタマイズによって異なる場合があります。詳細については、「[3.15 ステータスの管理](#)」を参照してください。

案件の一括操作は、次に示す画面のメニュー [一括操作] から操作できます。

- メイン画面 (案件一覧)
- [案件検索結果一覧] 画面

また、案件を一括操作するためには、案件を一括操作するための設定やアクセス権の設定が必要です。それぞれについて説明します。

案件を一括操作するための設定

案件を一括操作するには、次に示す設定が必要です。

- 案件の一括操作を有効にする設定※
- 案件を一括操作するユーザーの設定※
- 1 回の案件の一括操作で編集できる案件数の設定

注※

案件の一括承認および案件の一括クローズそれぞれに対して、設定が必要です。

案件を一括操作するための設定は、システムプロパティファイルで設定します。システムプロパティファイルの詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[システムプロパティファイル \(hptl_jpl_imss_main_setting.properties\)](#)」を参照してください。

案件を一括操作するために必要なアクセス権

案件を一括操作するために必要なアクセス権は、操作によって異なります。アクセス権が正しく設定されていない担当者が案件を一括操作した場合、案件の一括操作に失敗します。

案件を一括操作するユーザーに必要なアクセス権

案件を一括操作するユーザーに必要なアクセス権を、次の表に示します。

表 3-39 案件を一括操作するユーザーに必要なアクセス権

項番	操作	案件を一括操作する前に必要なアクセス権	案件の一括操作するときに必要なアクセス権
1	案件の一括承認	• 案件の参照権限	案件の承認権限
2	案件の一括クローズ	• 案件の編集権限、または編集前のステータスのアクセス権	案件のクローズ権限

案件の担当者に必要なアクセス権

案件の一括操作時には、案件の担当者に設定されているユーザーまたはロールに対して、次に示すどちらかのアクセス権を設定します。

- 案件の参照権限および編集権限
- ステータスが「クローズ」または「承認済み」の案件に対するアクセス権

アクセス権については、「[3.11 案件に対するアクセス権の管理](#)」を参照してください。

なお、案件ごとに参照権限を設定しているプロセスワークボードでは、参照権限が設定されている案件だけを一括で操作できます。案件ごとの参照権限の設定については、「[3.11 案件に対するアクセス権の管理](#)」を参照してください。

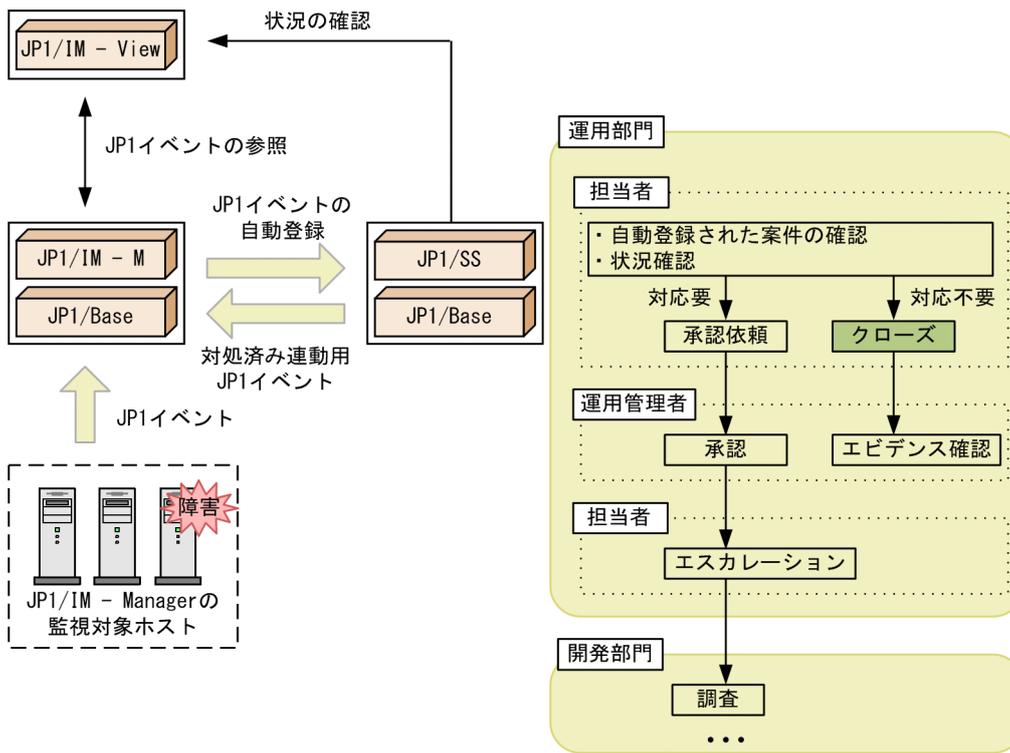
次に、案件の一括操作の流れ、および一括操作の結果について説明します。

3.7.1 案件の一括操作の流れ

一括操作で案件のステータスを「クローズ」に変更する流れを、次に示します。

JP1/IM - Manager と連携して自動アクションによって、JP1/IM - Manager が管理する JP1 イベントを JP1/Service Support の案件として自動登録する運用の場合、対応が不要な JP1 イベントも案件として登録されます。この場合、調査などの対応が不要な案件のステータスを「クローズ」に変更しないと、未完了案件として残ってしまいます。案件の一括操作を使用することで、対処が不要な案件を確認してから、まとめて案件のステータスを「クローズ」に変更できます。案件のクローズの流れを、次の図に示します。

図 3-30 案件の一括クローズ



(凡例)

JP1/IM - M : JP1/IM - Manager

JP1/SS : JP1/Service Support

➡ : JP1/IM - Manager, JP1/Base, JP1/Service Supportによる処理の流れ

3.7.2 案件の一括操作の結果

案件の一括操作は、メイン画面（案件一覧）または〔案件検索結果一覧〕画面から操作します。案件の一括操作を有効にすると、メイン画面（案件一覧）の案件一覧の左端にチェックボックスが表示されます。担当者は、一括操作する案件をチェックし、案件のステータスを一括で変更します。案件の一括操作を使用した場合のメイン画面（案件一覧）の案件一覧、および〔案件検索結果一覧〕画面を、次の図に示します。

図 3-31 案件の一括操作が有効な場合のメイン画面（案件一覧）

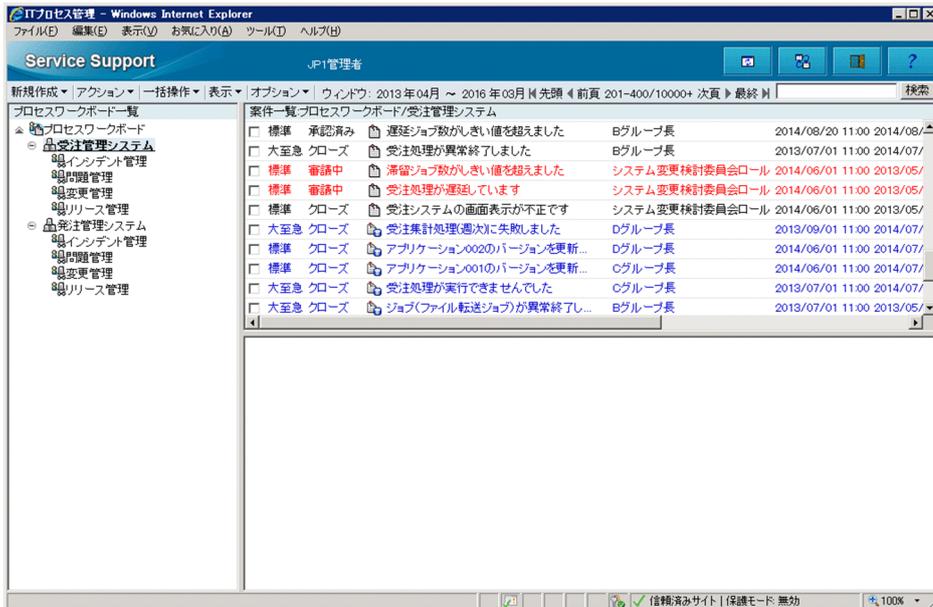
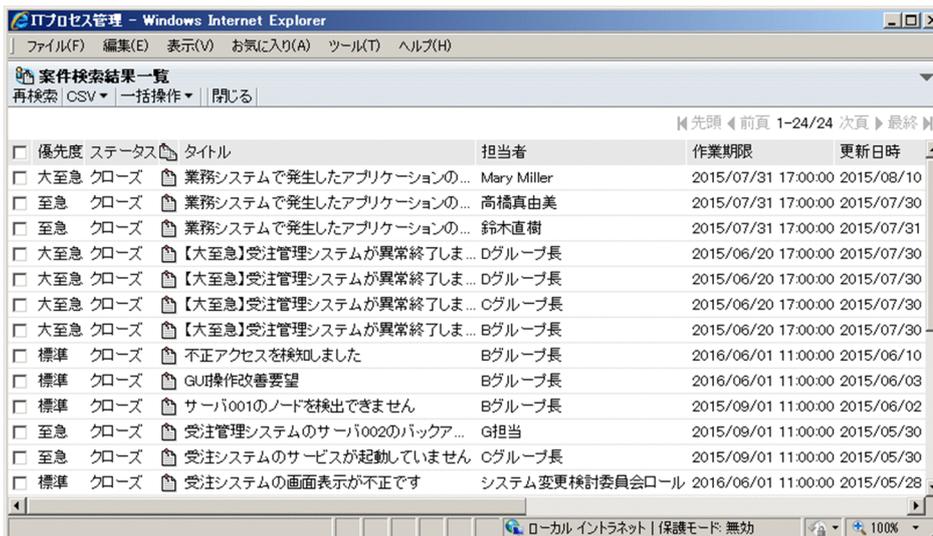


図 3-32 案件の一括操作が有効な場合の「案件検索結果一覧」画面



メイン画面（案件一覧）から案件を一括で操作する場合、案件一覧に表示できる案件の上限※以上は指定できません。

注※

システムプロパティファイルで設定します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

案件の一括操作の手順については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」を参照してください。

メイン画面（案件一覧）または「案件検索結果一覧」画面から案件を一括操作すると、実行結果が「一括操作結果一覧」画面に表示されます。

ここでは、[一括操作結果一覧] 画面に表示される実行結果、案件の一括操作で発行される JP1 イベント、およびメール通知について説明します。

(1) 一括操作の実行結果

[一括操作結果一覧] 画面に表示された実行結果は、[編集結果] と [JP1 イベント] で確認できます。

[編集結果] に表示される実行結果を、次の表に示します。

表 3-40 [編集結果] に表示される実行結果

項番	実行結果※	説明
1	成功	案件の編集が成功した場合に表示される。
2	案件削除	次のどちらかの状態の場合に表示される。 <ul style="list-style-type: none"> 削除待ち状態 jssdelrec コマンドが実行され、案件管理 DB から案件が削除された状態
3	案件保存	対象が保存案件の場合に表示される。保存案件は編集できないため、エラーとなる。
4	編集回数上限超過	編集回数が上限に達した場合に表示される。
5	権限不正	案件を編集するための権限がない場合に表示される。
6	状態不正	プロセスワークボードのステータスが案件を編集できない状態になっている場合に表示される。
7	案件編集中	ほかのユーザーが案件を編集している場合に表示される。
8	遷移不正	次のどちらかの場合に表示される。 <ul style="list-style-type: none"> 遷移先のステータスを制限して、遷移できないステータスに編集しようとした。 「承認済み」のステータスを使用していない。
9	担当者不正	次のどちらかの場合に表示される。 <ul style="list-style-type: none"> 一括操作する前に、設定されていた担当者が削除された。 一括操作する前に案件に設定されていた担当者に対して、遷移先のステータスで担当者に設定できる権限がない。
10	必須項目未設定	案件で入力が必要となっている項目が入力されていない場合に表示される。
11	その他	データベースのアクセスなどに失敗した場合に表示される。

注※

1 件の案件で複数のエラー要因がある場合、項番 2 から順に表示されます。

[JP1 イベント] に表示される実行結果を、次の表に示します。

表 3-41 [JP1 イベント] に表示される実行結果

項番	実行結果	説明
1	成功	JP1 イベントの発行に成功した。
2	失敗	JP1 イベントの発行に失敗した。

項番	実行結果	説明
3	－	JP1 イベントを発行しない案件。

また、案件のクローズ時にメールを送信する設定にしている場合、一括操作で案件のステータスを「クローズ」に変更すると、[一括操作結果一覧] 画面の [メール送信] でメールの送信結果を確認できます。案件のクローズ時にメールを送信しない設定の場合、[メール送信] は表示されません。メールの送信の詳細については、「3.12 メールによる通知」を参照してください。

[メール送信] に表示される実行結果を、次の表に示します。

表 3-42 [メール送信] に表示される実行結果

項番	実行結果	説明
1	成功	メールの送信に成功した。
2	失敗	メールの送信に失敗した。
3	－	メールを送信しない案件。次に示す場合は、メールを送信しない。 <ul style="list-style-type: none"> • 案件を一括承認した • 案件の編集に失敗した • ステータスが「クローズ」の案件に対して一括クローズした

(2) 一括操作で発行される JP1 イベント

案件を一括操作した場合、JP1/Service Support は次の表に示す JP1 イベントを発行できます。

表 3-43 案件の一括操作で発行できる JP1 イベント

項番	JP1 イベント	説明
1	対処済み連動用 JP1 イベント (イベント ID : 00005F00)	一括操作で案件のステータスを「クローズ」にした場合に発行される。
2	ステータス変更 JP1 イベント (イベント ID : 00005F01)	一括操作で案件のステータスを「クローズ」または「承認済み」にした場合に発行される。
3	対処済み連動用集約 JP1 イベント (イベント ID : 00005F02)	JP1 イベントを集約する設定にしている場合、一括操作で複数の案件のステータスを「クローズ」にしたときに発行される。 [*] 対処済み連動用集約 JP1 イベントは、対処済み連動用 JP1 イベントをホスト名 (項目 ID : JIMSD_FORM_IMHOSTNAME) で集約した JP1 イベント。この JP1 イベントが発行された場合は、対処済み連動用 JP1 イベントは発行されない。

注※

JP1 イベントを集約する設定にしている場合、一括操作で 1 件の案件のステータスを「クローズ」にした場合は、対処済み連動用 JP1 イベントが発行されます。JP1 イベントについては、「5.11.1 JP1/IM - Manager 連携の検討」を参照してください。

JP1 イベントを発行するには、次に示す定義ファイルの設定が必要です。

- JP1 イベント発行設定ファイル

JP1 イベントを発行するかどうか、JP1 イベントを集約するかどうかなどを設定します。JP1 イベント発行設定ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties)」を参照してください。

- ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル

ステータス変更 JP1 イベントに格納できる拡張属性について定義します。ステータス変更 JP1 イベント定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_status.properties)」を参照してください。

- イベント拡張属性定義ファイル

ステータス変更 JP1 イベントに追加した拡張属性名を、JP1/IM - View に表示させるために、追加した拡張属性名を設定します。この定義ファイルは JP1/IM - Manager の定義ファイルですが、JP1/Service Support でイベント拡張属性定義ファイルのひな型を提供しています。詳細については、「9.16.1 JP1/IM - Manager と連携するための環境設定」を参照してください。

(3) 案件の一括操作によるメール通知

案件の一括操作でステータスを「クローズ」に変更した場合、ユーザーにメールで通知できます。JP1 イベントを集約する設定にしても、内容を担当者に通知する必要があるため、メールは集約されません。

メールによる通知の詳細については、「3.12 メールによる通知」を参照してください。

3.8 案件の削除

誤って作成した案件や、不要となった案件は削除できます。案件管理 DB から案件を削除する方法は、画面操作による削除とコマンドによる削除の 2 種類があります。それぞれについて説明します。

なお、案件保存 DB を使用している場合、保存案件は案件単位で削除できません。保存案件は、案件単位ではなく、保存エリア単位の削除となります。このため、案件保存 DB の運用法について、あらかじめ検討する必要があります。案件保存 DB の詳細については、「[3.9 案件の保存](#)」を参照してください。案件保存 DB の運用法の検討については、「[5.13 案件保存 DB の運用についての検討](#)」を参照してください。

3.8.1 画面操作による削除

画面操作による削除は、メイン画面（案件一覧）の案件一覧から行います。案件を削除すると、メイン画面（案件一覧）の案件一覧には案件が表示されなくなりますが、削除した案件は案件管理 DB に残った状態となります。残った案件は `jssdelrec` コマンドで完全に削除できますが、`jssdelrec` コマンドを実行する前に、`jssrev` コマンドを実行すると復元できます。

メイン画面（案件一覧）から案件を削除する手順については、マニュアル「[JP1/Service Support 操作ガイド](#)」を参照してください。案件管理 DB に残った案件を削除する `jssdelrec` コマンドについては、「[12. コマンド](#)」の「[jssdelrec \(案件管理 DB データ削除\)](#)」を参照してください。`jssrev` コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssrev \(案件一括削除取り消し\)](#)」を参照してください。

なお、案件ごとに参照権限を設定しているプロセスワークボードでは、参照権限を所有している案件だけを削除できます。案件ごとの参照権限の設定については、「[3.11 案件に対するアクセス権の管理](#)」を参照してください。

3.8.2 コマンドによる削除

案件の削除に使用するコマンドは、次の 2 種類があります。

- `jssitemdeletion` コマンド

案件を削除待ち状態にするコマンドです。画面上では 1 件ずつしか削除待ち状態にできませんが、`jssitemdeletion` コマンドを使うと、大量の案件を一括で削除待ち状態にできます。運用前のテストで作成した案件を削除する場合や、案件管理 DB の空き容量が不足した場合などに使用すると便利です。`jssitemdeletion` コマンドを使った、案件を一括削除する手順については、「[11.2.2 案件管理 DB からの案件の一括削除](#)」を参照してください。

`jssitemdeletion` コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssitemdeletion \(案件一括削除\)](#)」を参照してください。

なお、誤って `jssitemdeletion` コマンドを実行し、必要な案件を削除待ち状態にしてしまった場合、`jssrev` コマンドで削除待ち状態を解除することもできます。`jssrev` コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssrev \(案件一括削除取り消し\)](#)」を参照してください。

- jssdelrec コマンド

画面上や jssitemdeletion コマンドで削除待ち状態にした案件を、案件管理 DB から削除するコマンドです。案件だけでなく、削除待ち状態にした対象システムやプロセスワークボードも削除できます。jssdelrec コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdelrec (案件管理 DB データ削除)」を参照してください。

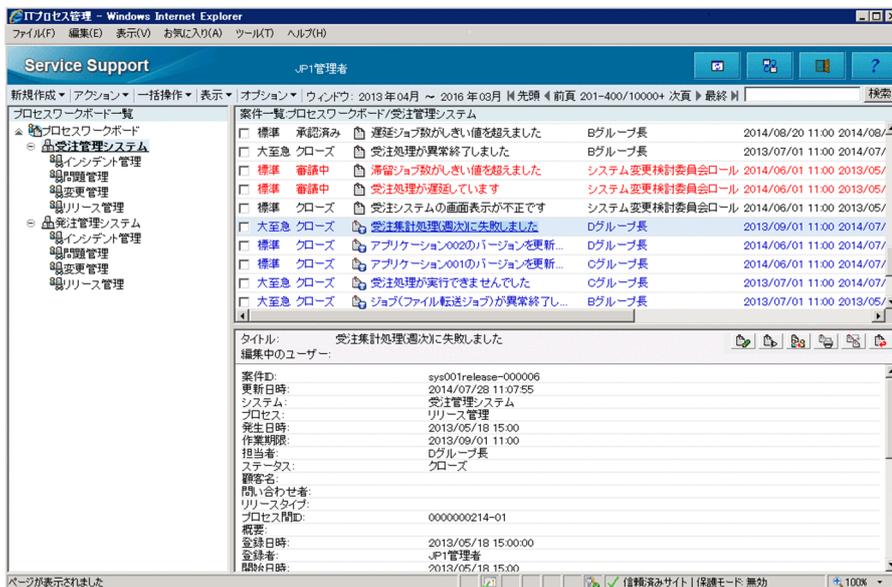
3.9 案件の保存

案件管理 DB に登録されている運用が終了した過去の案件を、**案件保存 DB** に保存できます。過去の案件を案件保存 DB に保存することで、それらの案件をナレッジとして管理し、必要なときに参照できます。また、案件管理 DB と案件保存 DB を意識することなく、案件を表示したり、検索したりできます。

案件保存 DB に保存された案件の表示

案件保存 DB に保存された案件は、メイン画面（案件一覧）の案件一覧や [案件検索結果一覧] 画面で表示が異なります。案件保存 DB に保存された案件は、青字で表示されます。また、編集状態アイコンには、案件保存 DB の案件（保存案件）を示すアイコンが表示されます。保存案件が表示されたメイン画面（案件一覧）を、次の図に示します。

図 3-33 メイン画面（案件一覧）（案件保存 DB に保存された案件）



なお、案件の編集や削除など、参照以外で案件を操作するメニュー（[アクション] メニュー）は、非活性となります。

また、案件管理ウィンドウを使用することで、大量の案件の中から通常の業務に必要な案件を効率よく検索できます。案件管理ウィンドウについては「3.2.3 案件管理ウィンドウ」を参照してください。

案件保存 DB に格納される情報

案件保存 DB には、次に示す情報が格納されます。

- エスカレーション情報および関連情報を含む案件情報
- 案件の添付ファイル

案件保存 DB の保存単位

案件保存 DB は、保存エリア単位で案件を管理します。案件を保存する際は、一つの保存エリアに対して、保存したい年数分の案件を保存します。また、使用している保存エリアの容量に空きがある間は、何度で

も案件を保存できます。なお、案件保存 DB では、案件単位で案件を削除できません。案件の削除も保存エリア単位となります。

案件保存 DB の運用方法

案件保存 DB に案件を保存する際に、案件保存 DB に保存される案件は、案件管理 DB から削除されます。なお、案件保存 DB に保存された案件は、案件管理 DB に戻せません。また、案件保存 DB を運用する前に、何年分の案件を保存するか、保存先をどうするかなどの運用方法について、あらかじめ検討する必要があります。案件保存 DB の運用方法の検討については、「5.13 案件保存 DB の運用についての検討」を参照してください。

保存案件に対して使用できる機能

案件管理 DB の案件と比較した案件保存 DB の保存案件に対して使用できる機能を、次の表に示します。

表 3-44 案件保存 DB の保存案件および案件管理 DB の案件に対して使用できる機能

機能	案件保存 DB	案件管理 DB	説明
案件の表示	○	○	案件保存 DB と案件管理 DB の案件で機能差異はない。
案件の検索	○	○	案件保存 DB と案件管理 DB の案件で機能差異はない。
案件の作成	×	○	案件管理 DB に対して案件を作成、およびエスカレーションできる。
案件の編集	×	○	案件管理 DB の案件に対して編集できる。
案件の一括操作	×	○	案件管理 DB の案件に対して案件のステータスを一括で操作できる。
案件の削除	○	○	案件管理 DB では、案件単位で案件を削除できる。案件保存 DB では、保存エリア単位で案件を削除できる。
案件の印刷	○	○	案件保存 DB と案件管理 DB の案件で機能差異はない。
メールによる通知	×	○	案件保存 DB に対して案件を作成または変更できないため、メールで通知できない。
案件情報を CSV ファイルに出力	○	○	案件保存 DB と案件管理 DB の案件で機能差異はない。
案件の作業状況の管理	○	○	案件保存 DB と案件管理 DB の案件で機能差異はない。
コマンドを使用したデータベースの操作	○	○	案件保存 DB と案件管理 DB の案件に対して実行できるコマンド、およびコマンドで指定できるオプションに差異がある。

(凡例)

○：使用できる

×：使用できない

3.10 案件の印刷

JP1/Service Support に登録された案件は、案件印刷画面から印刷できます。その際、ブラウザの印刷機能を使用することで、案件印刷画面の内容をすべて印刷できます。なお、案件保存 DB を使用している場合、管理案件だけでなく、保存案件も印刷できます。

表示される項目は、メイン画面（案件一覧）の案件プレビューで表示される項目と同じです。また、案件印刷画面は、ほかのユーザーが編集中的の場合でも表示できます。このため、ほかのユーザーが編集中的の場合、「編集中的のユーザー」に現在編集中的のユーザー名が表示されます。

なお、案件印刷画面に表示される項目は、最新の案件情報が表示されます。[履歴の表示] 画面から過去の案件を [案件参照] 画面で表示した場合、この [案件参照] 画面から案件印刷画面を表示すると、該当する案件は最新の案件情報が表示されます。

また、案件印刷画面は案件を印刷する画面のため、メイン画面（案件一覧）の案件プレビューとは異なりアンカーが設定されません。このため、次に示す項目は、案件印刷画面から直接参照できません。

- 編集中的のユーザー
- 関連案件
- 関連情報
- 機器情報
- 添付ファイル
- ユーザーが追加したリンク指定系の項目

案件印刷画面を次に示します。

図 3-34 案件印刷画面



案件印刷画面は、次に示す画面から表示できます。表示方法については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」を参照してください。

- メイン画面（案件一覧）
- [案件参照] 画面

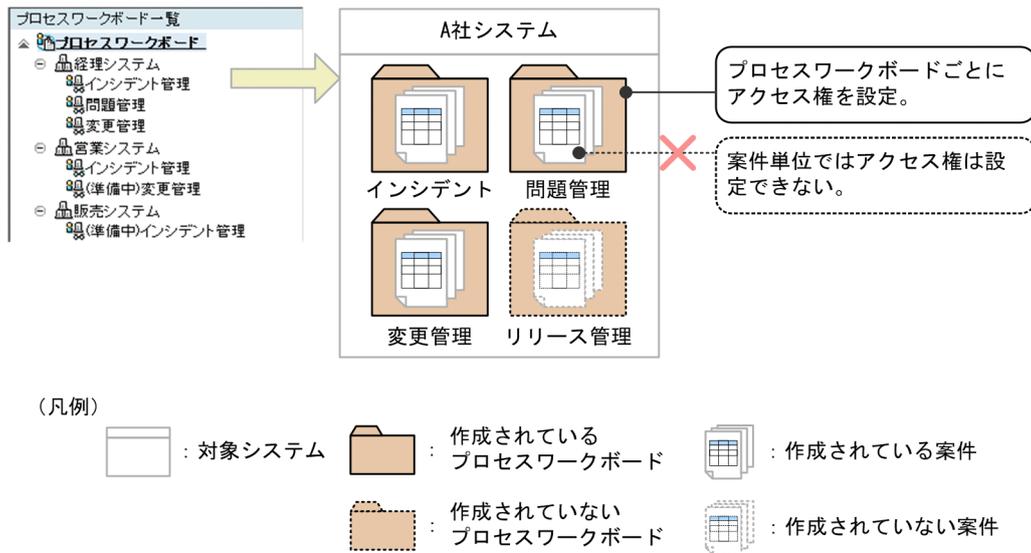
なお、案件ごとに参照権限を設定しているプロセスワークボードでは、参照権限を所有している案件だけを印刷できます。案件ごとの参照権限の設定については、「[3.11 案件に対するアクセス権の管理](#)」を参照してください。

3.11 案件に対するアクセス権の管理

JP1/Service Support には、案件に対するアクセス権を設定する機能があります。アクセス権は、プロセスワークボードごとに設定できます。それぞれのプロセスに合ったアクセス権を設定し、適切なユーザーだけが案件を操作できるため、管理体制を強化できます。なお、アクセス権は、[アクセス権編集] 画面または jssaclimport (アクセス権情報インポート) コマンドで設定できます。

アクセス権は次の図のように設定します。

図 3-35 アクセス権の管理



アクセス権は、案件の作成や案件の編集など、案件の操作に対して設定します。また、案件の編集権限には、受付やクローズなどのステータスごとにさらに細かくアクセス権を設定できます。アクセス権は、プロセスワークボードごとに設定します。案件ごとに異なるアクセス権は設定できません。ただし、プロセスワークボードに対して案件ごとに参照権限を設定することで、案件ごとに参照権限所有者を設定できます。

なお、案件保存 DB を使用している場合、対象のプロセスワークボードに対して案件の参照権限以外のアクセス権限が設定されていても、保存案件に対してできる操作は参照だけです。

案件ごとの参照権限の設定

案件ごとの参照権限は、プロセスワークボードに対して設定します。案件ごとの参照権限が設定されたプロセスワークボードに登録された案件は、案件ごとに参照権限を設定できます。案件ごとの参照権限を使用した運用例については、「1.3.5 案件ごとの参照権限の制御」を参照してください。

🔔 ヒント

案件ごとの参照権限は、基本的にロールで設定します。案件の参照権限を所有するロールを設計し、そのロールを案件ごとの参照権限の所有者として設定します。案件ごとに参照権限を設定する場合のアクセス権の設計については、「5.2.3(5) 運用例 (案件ごとに参照権限を設定する場合の運用例)」を参照してください。

なお、案件ごとに参照権限を設定していても、プロセスワークボードに登録されたすべての案件を参照させたいユーザーがいる場合は、そのユーザーを作業管理ロール（システム管理ロール）に所属させてください。次に示すユーザーは、案件の参照権限所有者として設定しなくても、案件を参照できます。

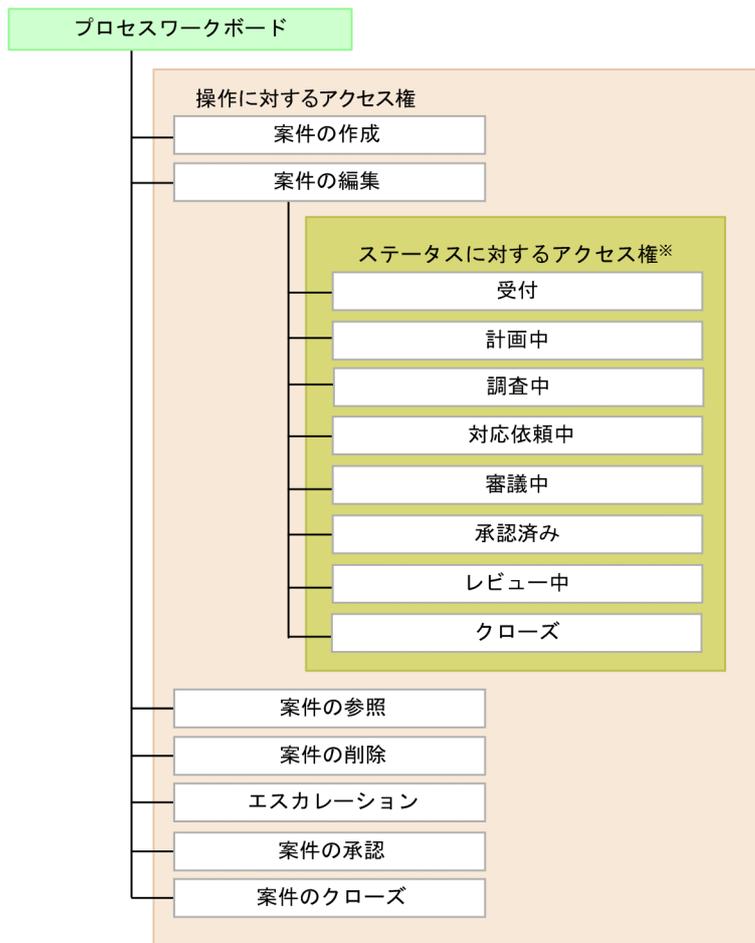
- プロセスワークボード管理者
- プロセスワークボード管理ロール（システムロール）に所属しているユーザー

また、案件保存 DB を使用している場合、案件保存 DB に案件を保存したあとに対象のプロセスワークボードに案件ごとの参照権限を設定すると、案件保存 DB の対象のプロセスワークボードの案件は上記のユーザーだけが参照できます。保存案件をほかのユーザーが参照できるようにするには、該当する案件を新規案件として再度登録する必要があります。登録する際、案件の参照権限所有者を設定してください。詳細については、「[9.13 案件ごとに参照権限を設定するための環境設定](#)」を参照してください。また、該当する案件を流用して案件を作成できます。詳細については、「[3.5.2 登録済みの案件を流用して案件を作成](#)」を参照してください。

3.11.1 アクセス権の種類

プロセスワークボードに設定できるアクセス権の種類を次の図に示します。

図 3-36 プロセスワークボードに設定できるアクセス権の種類



注※ プロセスによってアクセス権を設定できるステータスは異なります。

プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザーとプロセスワークボード管理者は、これらのアクセス権に関係なく、案件を操作できます。プロセスワークボードに設定できるアクセス権の詳細について次の表に示します。

表 3-45 設定できるアクセス権一覧

案件の操作権限	アクセス権の内容
案件の作成権限	対象のプロセスワークボードに案件を新規に作成，登録できる権限。
案件の編集権限※1，※2	<p>対象のプロセスワークボードに登録されたすべての案件を編集できる権限。この権限を持つユーザーは，ステータスの案件を「承認済み」，「クローズ」以外のステータスに変更できる。</p> <p>案件の編集権限は，ステータスごとに設定できる。ステータスごとに設定できるアクセス権を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 受付：ステータスが「受付」の案件を編集する権限。 • 計画中：ステータスが「計画中」の案件を編集する権限。 • 調査中：ステータスが「調査中」の案件を編集する権限。 • 対応依頼中：ステータスが「対応依頼中」の案件を編集する権限。 • 審議中：ステータスが「審議中」の案件を編集する権限。 • 承認済み：ステータスが「承認済み」の案件を編集する権限。 • レビュー中：ステータスが「レビュー中」の案件を編集する権限。

案件の操作権限	アクセス権の内容
案件の編集権限※1, ※2	<ul style="list-style-type: none"> ・ クローズ：ステータスが「クローズ」の案件を編集する権限。 <p>プロセスの種類によって、選択できるステータスは異なる。また、ユーザーが新たに作成したステータスについても、編集権限を設定できる。</p> <p>また、上記のステータスごとに設定できるアクセス権に、そのステータスの初期担当者を設定できる。ステータスの初期担当者については、「3.11.2 案件の編集とステータス、担当者の関係」を参照のこと。</p>
案件の参照権限	<p>対象のプロセスワークボードに登録されたすべての案件を参照できる権限。この権限を持つとメイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧に対象のプロセスワークボードが表示され、そこに登録されている案件を参照できるようになる。</p> <p>ただし、案件ごとに参照権限を設定している場合、該当する案件に対して参照権限が必要となる。なお、次に示すユーザーは、案件に対して参照権限が設定されていなくても、該当する案件を参照できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロセスワークボード管理者 ・ プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザー ・ 作業管理ロールに所属するユーザー
案件の削除権限※2	対象のプロセスワークボードに登録されたすべての案件を削除できる権限。
エスカレーション権限※2	ほかのプロセスワークボードから対象のプロセスワークボードに案件をエスカレーションできる権限。
案件の承認権限※2	対象のプロセスワークボードに登録されたすべての案件を承認できる権限。
案件のクローズ権限※2	対象のプロセスワークボードに登録されたすべての案件をクローズできる権限。

注※1

ここで示すステータスは、デフォルトの名称です。ステータスのカスタマイズによって名称が異なる場合があります。ステータスのカスタマイズについては、「3.15 ステータスの管理」を参照してください。

注※2

案件ごとに参照権限を設定しているプロセスワークボードの場合、案件に対して、これらの参照権限が設定されているユーザーを案件の参照権限所有者として設定する必要があります。

3.11.2 案件の編集とステータス、担当者の関係

JP1/Service Support では運用に合わせて、次に示す方法で、案件を編集できます。

- ・ 案件のステータスに関係なく決まった担当者が案件を編集する。
- ・ 案件のステータスごとに異なる担当者が案件を編集する。

案件のステータスに関係なく、決まった担当者が案件を編集する場合は、担当者に案件の編集権限を割り当てます。

案件のステータスごとに異なる担当者が案件を編集する場合は、該当するステータスに適切な担当者を割り当てます。これによって、案件の処理の流れに合わせて、担当者が変更できます。また、案件の登録先のプロセスワークボードに対してステータスの初期担当者を設定している場合は、案件を編集時にステータス

タスを入力すると、ステータスの初期担当者が自動で設定されます。なお、ステータスに対してステータスの初期担当者を設定していない場合、選択できる担当者が1ユーザーまたは1ロールのときは、そのユーザーまたはロールが自動で設定されます。

なお、案件の担当者に設定するユーザーには、案件の参照権限と次のどちらかのアクセス権が必要です。

- 案件の編集権限
- 該当するステータスに対するアクセス権

アクセス権を設定した案件の運用例については、「[5.2.3\(4\) 運用例（案件の処理）](#)」を参照してください。

アクセス権を設定する操作については、「[9.7 アクセス権の割り当て](#)」を参照してください。

3.12 メールによる通知

JP1/Service Support には、案件やユーザー・ロールを変更したことをユーザーにメールで通知する機能があります。これをメール通知機能と呼びます。案件を作成したり、ユーザーやロールを削除したりするときに、案件の担当者やプロセスワークボードの管理者にメールを送信できます。

メールを送信する場合は、メールを送信する SMTP サーバ、ユーザー認証方式、およびメールの送信タイミングを、あらかじめメール定義ファイル、[プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面で設定しておきます。

3.12.1 メール送信のタイミング

JP1/Service Support では、次の表に示したタイミングでメールを送信できます。

表 3-46 メール送信のタイミング一覧

送信情報	説明	送信対象者※1
案件作成通知	次のタイミングでメールを送信する。 <ul style="list-style-type: none">• [案件作成] 画面から案件を作成したとき。• jssitementry コマンドで案件を作成したとき。• jssitementrybyemail コマンドで案件を作成したとき。	案件担当者
案件エスカレーション通知	プロセスワークボードに案件がエスカレーションされたときにメールを送信する。	案件担当者
案件の担当者変更通知	次のタイミングでメールを送信する。 <ul style="list-style-type: none">• [案件編集] 画面から担当者を変更したとき。• jssitemedit コマンドで担当者を変更したとき。• 案件を引き戻して担当者を変更したとき。	変更後の案件担当者
作業期限前通知（期限前メール通知）	jssinformperiod コマンドを実行すると、案件の作業期限が、あらかじめ指定した日数前まで迫ったときにメールを送信する。※2 詳細については、「3.12.4 期限前メール通知」を参照してください。	案件担当者、およびプロセスワークボード管理者
滞留案件通知	jssinformleave コマンドを実行すると、案件の処理状況が、滞留されていると見なされたときにメールを送信する。※2	案件担当者、およびプロセスワークボード管理者
案件クローズ通知	プロセスワークボードの案件がクローズされたときにメールを送信する。 次のタイミングでメールを送信する。 <ul style="list-style-type: none">• [案件編集] 画面から案件をクローズしたとき。• 一括操作で案件をクローズしたとき。※3• 案件の引き戻しで案件のステータスをクローズに戻したとき。• 案件の差し戻しで案件のステータスをクローズに戻したとき。• jssitemedit コマンドで案件のステータスをクローズに変更したとき。	案件作成者

送信情報	説明	送信対象者※1
ユーザー/ロール削除通知	ユーザーまたはロールが削除されたときにメールを送信する。	プロセスワークボード管理者
案件の引き戻し通知	案件が引き戻されたときにメールを送信する。	案件が引き戻される前の案件担当者
案件の差し戻し通知	案件が差し戻されたときにメールを送信する。	案件が差し戻された後の案件担当者

注※1

複数のユーザーにメールを送信したい場合は、送信対象者にロールを設定することで、ロールに所属するユーザーにメールを送信できます。

注※2

定期的に行いたい場合は、JP1/Service Support - Task Service サービスを使用してください。

メールはプロセスワークボードごとに、それぞれの案件担当書およびプロセスワークボード管理者にまとめて送信されます。1 通のメールにまとめられる案件の最大件数は、メール定義ファイルで指定できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)」を参照してください。

注※3

一括操作で案件をクローズした場合、JP1 イベントを集約する設定にしている場合、メールは集約されません。

どのタイミングでメールを送信するかは、あらかじめメール定義ファイル、または [プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面で設定しておきます。

3.12.2 メール送信時のユーザー認証

JP1/Service Support では、メールの送信時に使用できるユーザー認証として、次に示す認証方式に対応しています。

- POP before SMTP
- SMTP-AUTH (PLAIN および LOGIN)
- ユーザー認証しない。

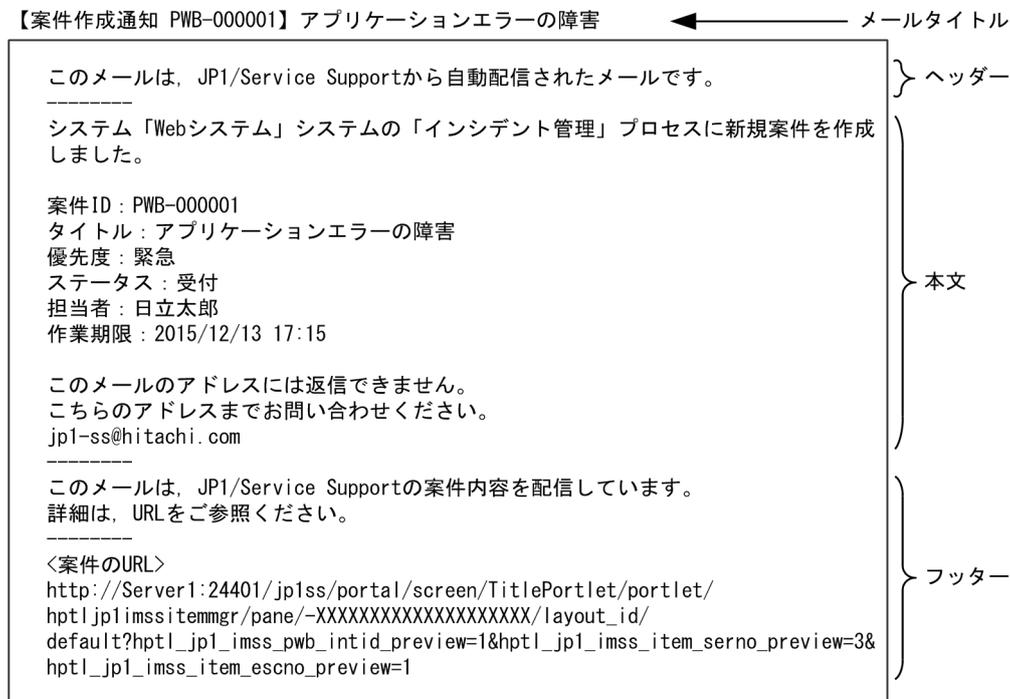
メール送信時にユーザー認証するかどうか、使用するユーザー認証に必要なメールサーバのアドレスなどを、あらかじめメール定義ファイルに設定しておきます。なお、ユーザー認証のためのユーザー ID とパスワードは、jssauthusersetup (認証ユーザー設定) コマンドを実行して、メール定義ファイルに設定します。メール定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)」を参照してください。jssauthusersetup コマンドについては、「12. コマンド」の「jssauthusersetup (認証ユーザー設定)」を参照してください。

3.12.3 メールで通知できる案件情報

送信（通知）されるメールのメールタイトルおよびメールの本文には、さまざまな案件情報を含められます。メールでどのような情報を送信するかは、あらかじめメール定義ファイルで設定しておきます。

JP1/Service Support で送信できるメールの例を次の図に示します。

図 3-37 メールを送信例（案件作成時）



メールタイトルと本文はユーザーが設定できます。ヘッダーとフッターは、JP1/Service Support が自動的に作成します。

送信例に示したメールを送る場合は、メール定義ファイルに次のように設定します。

メール定義ファイルの設定例

```
hptl_jp1_imss_mail_item_create_title = 【案件作成通知 %ITEMID%】 %TITLE%  
hptl_jp1_imss_mail_item_create_text = -----¥n「%SYSTEM%」システムの「%PROCESS%」プロセスに新規案件を作成しま  
した。¥n案件ID：%ITEMID%¥nタイトル：%TITLE%¥n優先度：%PRIORITY%¥nステータス：%STATUS%¥n担当者：%CHARGE%¥n作業期  
限：%PERIOD%¥n¥nこのメールのアドレスには返信できません。¥nこちらのアドレスまでお問い合わせください。¥npj1-  
ss@hitachi.com
```

メール定義ファイルの設定手順については、「9.14 定義ファイルによる環境設定」を参照してください。

なお、送信情報によって、メールに含むことができる案件情報が異なります。送信情報については、「3.12.1 メール送信のタイミング」を参照してください。

メールのタイトルおよび本文に含むことができる案件情報、およびメールで送信する案件情報の設定については、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル (jp1imss_mail_setting.conf)」を参照してください。

3.12.4 期限前メール通知

案件の作業期限に対してあらかじめ指定した日数前（期限前）になると、メールを送信できます。期限前にメールを送信するには、jssinformperiod コマンドを実行する前に、[プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面で期限前メール通知の設定が必要です。期限前メール通知の設定と、jssinformperiod コマンドの実行時間の組み合わせで、期限前メール通知の対象となる案件が決定します。期限前メール通知の対象となる案件は、jssinformperiod コマンドを実行した時点から、[プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面の期限前メール通知に設定した期限前日数後の 23:59:59 の期間内に作業期限が設定されている案件となります。なお、メールは、jssinformperiod コマンドの実行時に送信されます。

[プロセスワークボード編集] 画面で期限前メール通知設定を、次のように設定し、jssinformperiod コマンドを実行する場合を例に説明します。

設定例 1

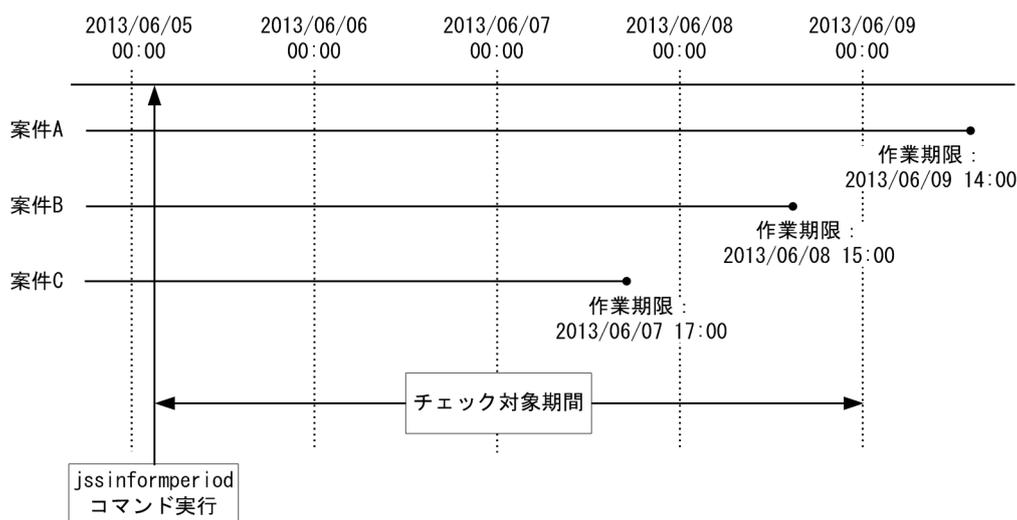
- 「期限前にメール通知を行う」をチェック
- 「期限前日数」：3 日前
- 「期限前日数の日に 1 回メール通知」を選択

設定例 2

- 「期限前にメール通知を行う」をチェック
- 「期限前日数」：3 日前
- 「期限前日数の日から作業期限日まで毎日メール通知」を選択

この場合の期限前メール通知の実行例を次の図に示します。

図 3-38 期限前メール通知の実行例



この例では、jssinformperiod コマンドを 2013/06/05 03:00 に実行しているので、期限前メール通知の対象となるチェック対象期間は、2013/06/05 03:00 から 2013/06/08 23:59:59 となります。

設定例 1 の場合（期限前日数に設定した日に、1 回だけメールを送信する）

案件 A は作業期限がチェック対象期間の対象外となるため（4 日前）、期限前メール通知の対象となりません。

案件 B は作業期限がチェック対象期間内で 3 日前に当たるので、jssinformperiod コマンドの実行時にメールが送信されます。

案件 C は作業期限がチェック対象期間内ですが、すでに 2 日前となっているため、期限前メール通知の対象となりません。

設定例 2 の場合（期限前日数に指定した日から作業期限までは、毎日メールを送信する）

案件 A は作業期限がチェック対象期間の対象外となるため（4 日前）、期限前メール通知の対象となりません。

案件 B は作業期限がチェック対象期間内で 3 日前に当たるため、期限前メール通知の対象となり、jssinformperiod コマンドの実行時にメールが送信されます。

案件 C は作業期間がチェック対象期間内で 3 日前を過ぎているが（2 日前に当たる）、設定例 2 の場合チェック対象期間内は毎日メールを送信する設定のため、期限前メール通知の対象となり、jssinformperiod コマンドの実行時にメールが送信されます。

なお、jssinformperiod コマンドは、JP1/Service Support - Task Service サービスを利用して、定期的（毎日決まった時間）に実行できます。この場合、作業期限の 3 日前から作業期限まで、毎日（jssinformperiod コマンド実行時）メールが送信されます。

[プロセスワークボードの作成] 画面および [プロセスワークボード編集] 画面での期限前メール通知の設定については、「[9.6 プロセスワークボードの作成](#)」を参照してください。jssinformperiod コマンドについては、「[12. コマンド](#)」の「[jssinformperiod（期限前通知）](#)」を参照してください。JP1/Service Support - Task Service サービスについては、「[3.19 JP1/Service Support のサービス](#)」を参照してください。

なお、メールはプロセスワークボードごとに、それぞれの案件担当者およびプロセスワークボード管理者へ、案件をまとめて送信できます。1 通のメールにまとめる案件の件数は、メール定義ファイルで指定します。詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[メール定義ファイル \(jplimss_mail_setting.conf\)](#)」を参照してください。

3.13 案件情報を CSV ファイルに出力

JP1/Service Support では、案件データを CSV 形式で出力する機能があります。これを **CSV 出力機能** と呼びます。案件情報を一覧で出力できるので、大量の案件データを 1 ファイルで保存したり、問い合わせや障害の発生傾向を分析したりできます。また、案件情報をメンテナンスする場合、および管理していたシステムやプロセスワークボードの運用を終了する場合のバックアップデータとして保存できます。

CSV 出力機能では、次に示す案件情報を CSV ファイルに出力できます。

- 案件詳細情報ファイル（案件情報出力）
システム名、担当者、ステータスなどの案件の詳細情報を出力できます。
[案件検索結果一覧] 画面または `jssitemlist` コマンドで出力できます。
- 案件履歴情報ファイル（案件履歴出力）
案件の履歴情報を出力できます。
`jssitemhistory` コマンドで出力できます。
- 案件情報 CSV ファイル、関連情報 CSV ファイル（案件情報拡張エクスポート）
`jssitemexportEx` コマンドで出力できます。
なお、案件情報に添付ファイルが含まれている場合、添付ファイルも出力されます。

なお、案件保存 DB を使用している場合、管理案件の案件情報だけでなく、保存案件の案件情報も CSV ファイルに出力できます。

[案件検索結果一覧] 画面から案件情報を CSV ファイルに出力する方法については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」の案件情報を CSV ファイルに出力する手順の説明を参照してください。

コマンドで CSV ファイルを出力する方法、およびファイルの出力形式については、「12. コマンド」の「`jssitemlist`（案件一覧出力）」、「`jssitemhistory`（案件履歴出力）」、または「`jssitemexportEx`（案件情報拡張エクスポート）」を参照してください。

3.14 案件フォームの管理

JP1/Service Support は、各プロセス、検索用に案件フォームを用意しています。これらは、用途に合わせてカスタマイズできます。また、カスタマイズした案件フォームは、対象システムごとに使い分けることもできます。案件フォームのカスタマイズ、および案件フォームの使い分けについて次に説明します。

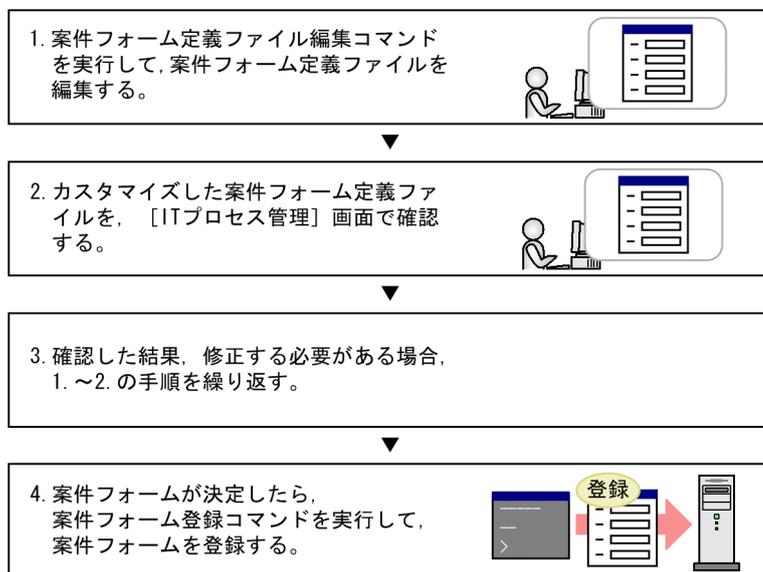
3.14.1 案件フォームのカスタマイズ

案件フォームは次のようなカスタマイズができます。

- 項目の追加
- 項目の変更
項目の表示名、表示位置、表示・非表示の設定、選択式の項目での選択できる値（選択肢コードと呼びます）が変更できます。
- 必須項目の設定
案件を登録、またはクローズする場合に、情報の入力を必須にするかどうかを項目ごとに設定できます。

案件フォームをカスタマイズするには案件フォーム定義ファイル編集コマンドを使用する方法およびテキストエディターを使用する方法があります。それぞれの流れについて次の図に示します。

図 3-39 案件フォームをカスタマイズする流れ（案件フォーム定義ファイル編集コマンドを使用する方法）



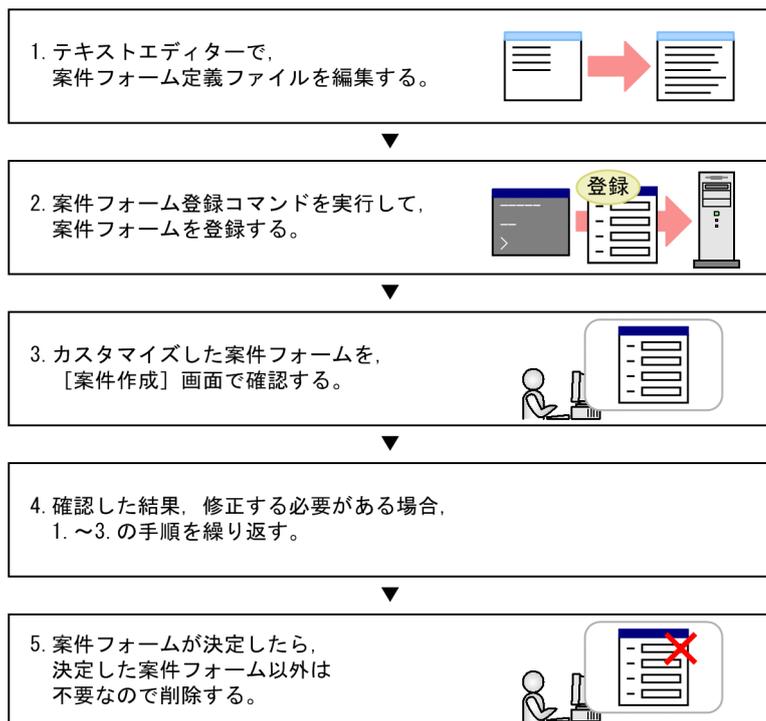
(凡例)

 : GUIで行う作業

案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ方法および詳細情報の参照方法については、「[9.10 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ](#)」を参照してください。

プロセスの標準案件フォームの設定方法については、「9.9 案件フォームのカスタマイズ」を参照してください。

図 3-40 案件フォームをカスタマイズする流れ（テキストエディターを使用する方法）



(凡例)



カスタマイズした案件フォームは、[案件フォームの詳細情報]画面から、案件フォーム ID やバージョン、プロセスワークボードや案件で使用されているか、どの対象システムで使用されているかなどを確認できます。データベースのメンテナンス時には、使用されていない案件フォームがあるか確認してください。使用されていない案件フォームがある場合は、削除してください。

案件フォームのカスタマイズ方法、詳細情報の参照方法、削除方法、プロセスの標準案件フォームの設定方法については、「9.9 案件フォームのカスタマイズ」を参照してください。

カスタマイズした案件フォームは [案件作成]画面で確認できます。[案件作成]画面を表示する方法については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」の案件を作成する手順について説明している章を参照してください。

注意事項

- 次に示す項目はメイン画面（案件一覧）の案件一覧や [履歴の表示]画面などのヘッダーで表示される項目のため、非表示にできません。
タイトル、プロセス、システム、案件 ID、プロセス間 ID、優先度、ステータス、登録者、担当者、作業期限、更新日時、登録日時

- 項目の変更および必須項目の設定は、項目の種類によってできない場合があります。項目の変更および必須項目の設定ができる項目の種類については、「13. 定義ファイル」の「[案件フォーム定義ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。
- 選択肢コードは各プロセス間で統一してください。統一していない場合、次の問題が発生します。
 - ・ エスカレーション時に、意図しない選択肢コードに変換されたり、引き継がれない。
 - ・ 案件検索用の案件フォームの選択系の項目には、選択肢コードが重複したコードを定義できないため、[案件検索条件指定] 画面にすべての項目を表示させることができなかつたり、[案件検索結果一覧] 画面からダウンロードした CSV ファイルの選択コードが正しく表示されない。

メモ

入力時の手間を省くために、案件の各項目に入力する情報をあらかじめ入力候補値として登録しておくこともできます。案件の作成や編集時には、登録されている入力候補値を選択するだけで情報を入力できます。また、複数ある項目の入力候補値同士を連動させて表示させることもできます。詳細については、「[4.12 JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報との連携](#)」を参照してください。

3.14.2 カスタマイズした案件フォームの使い分け

カスタマイズした複数の案件フォームを、対象システムごとに使い分けられます。また、プロセスごとに標準で使用する案件フォームを設定できます。プロセスごとに設定した案件フォームを、**プロセスの標準案件フォーム**と呼びます。

どの案件フォームを使用するかは、プロセスワークボードごとに設定します。使用する案件フォームを選択する方法については、「[9.6 プロセスワークボードの作成](#)」を参照してください。プロセスの標準案件フォームを設定する手順については、「[9.9.4 プロセスの標準案件フォームの設定](#)」を参照してください。

3.15 ステータスの管理

JP1/Service Support で使用する案件のステータスは、ユーザーの運用に合わせてカスタマイズできます。ステータスは次に示す方法でカスタマイズできます。

- 使用するステータスの選択
- ステータスの表示順序変更
- ステータス名称の変更
- ステータスの制限
- エスカレーションの禁止

それぞれのカスタマイズ方法について、次に説明します。

3.15.1 使用するステータスの選択

プロセスやプロセスワークボードごとに、使用するステータスを選択できます。また、ユーザー拡張用のステータスが用意されているため、新たにステータスを作成して使用することもできます。

なお、案件情報インポートコマンドおよびメイン画面（案件状況）での案件状況の確認などで使用するため、一部のステータスは使用不可にできません。使用不可にできないステータスを次に示します。

- 「受付（ステータス ID：JIMSD_STAT_INQUIRY）」
- 「クローズ（ステータス ID：JIMSD_STAT_CLOSE）」

使用するステータスは、[ステータス管理] 画面で設定します。設定手順については、「[9.11.1 使用するステータスの選択](#)」を参照してください。

3.15.2 ステータスの表示順序変更

[案件作成] 画面や [案件編集] 画面でステータスを選択する際に表示される、プルダウンメニューの表示順序を変更できます。なお、設定したステータスの表示順序は、[進捗表示] 画面で表示されるステータスの表示順序に反映されます。

ステータスの表示順序は、[ステータス管理] 画面で設定します。設定手順については、「[9.11.2 ステータスの表示順序変更](#)」を参照してください。

3.15.3 ステータス名称の変更

プロセスごとにステータスの名称を変更できます。

ステータスの名称は変更できるため、ステータスはステータス ID という一意の ID を使って識別します。ステータスの名称は変更できますが、ステータス ID は変更できません。デフォルトで提供しているステータスの名称、およびそれに対応したステータス ID を次の表に示します。

表 3-47 デフォルトで提供しているステータスの名称、およびそのステータス ID

ステータスの名称	ステータス ID
受付	JIMSD_STAT_INQUIRY
調査中	JIMSD_STAT_RESEARCH
計画中	JIMSD_STAT_PLANNING
審議中	JIMSD_STAT_DISCUSSING
承認済み	JIMSD_STAT_APPROVED
対応依頼中	JIMSD_STAT_WAITING
レビュー中	JIMSD_STAT_REVIEW
クローズ	JIMSD_STAT_CLOSE
拡張ステータス 01	JIMSD_STAT_USER01
拡張ステータス 02	JIMSD_STAT_USER02
拡張ステータス 03	JIMSD_STAT_USER03
拡張ステータス 04	JIMSD_STAT_USER04
拡張ステータス 05	JIMSD_STAT_USER05
拡張ステータス 06	JIMSD_STAT_USER06
拡張ステータス 07	JIMSD_STAT_USER07
拡張ステータス 08	JIMSD_STAT_USER08
拡張ステータス 09	JIMSD_STAT_USER09
拡張ステータス 10	JIMSD_STAT_USER10

「JIMSD_STAT_USER」で始まるステータス ID は、ユーザー拡張用のステータスです。ユーザー拡張用のステータスは、デフォルトでは 10 種類用意されています。ユーザー拡張用のステータスは、使用できる数を増やしたり、使用しない場合には画面から非表示にしたりすることもできます。ユーザー拡張用のステータスの数は、システムプロパティファイルで設定できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル ([hptl_jpl_imss_main_setting.properties](#))」を参照してください。

なお、メイン画面（案件状況）での案件状況確認に影響が出るため、ユーザー拡張用以外のステータスは、完全に意味の異なる名称に変更しないでください。案件状況確認への影響について、プロセス視点での状況確認に表示される「審議中」の案件数を例に説明します。「審議中」の案件数は、ステータス ID が JIMSD_STAT_DISCUSSING のステータスとなっている案件数が集計されて表示されています。例えば、ステータス ID が JIMSD_STAT_DISCUSSING のステータス名称を、「審議中」から「停止中」に変更す

ると、案件のステータスが「停止中」となっている場合でも、「審議中」の案件として集計され、メイン画面（案件状況）の「審議中」の案件数に表示されます。

ステータス名称は、[ステータス] 管理画面で設定します。設定手順については、「[9.11.3 ステータス名称の編集](#)」を参照してください。

ステータス名称を変更した場合は、案件情報インポートコマンドに影響が出るため、コードマッピングファイルもあわせて編集する必要があります。詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[コードマッピングファイル \(jplimss_itemimport_codemap.conf\)](#)」を参照してください。

3.15.4 ステータスの制限

プロセスワークボードごとに、ステータスを制限できます。ステータスを制限することで、あらかじめ定義した流れに従って案件を処理できます。

ステータスの制限は、[ステータス管理] 画面で設定します。設定手順については、「[9.11.4 ステータスの制限の設定](#)」を参照してください。

(1) 登録された案件のステータスを「受付」だけに制限する

プロセスワークボードごとに、登録された案件のステータスを「受付」だけに制限できます。

(2) 遷移先のステータスを制限する

プロセスワークボードごとに、遷移先のステータスを制限できます。

3.15.5 エスカレーションの禁止

プロセスワークボードごとに、エスカレーションできないステータスを設定できます。

エスカレーションを禁止するステータスは、[ステータス管理] 画面で設定します。設定手順については、「[9.11.5 エスカレーションの禁止の設定](#)」を参照してください。

3.16 案件の作業状況の管理

JP1/Service Support では、次の三つの方法で案件の作業状況を管理できます。

1. システム視点での案件の集計
2. プロセス視点での案件の集計
3. 案件の集計データのファイル出力

1.および 2.は、メイン画面（案件状況）で集計結果を確認します。3.は、メイン画面（案件状況）のメニューから表示する [集計データのファイル出力] 画面から、CSV ファイルをダウンロードします。

なお、管理案件だけを集計、および集計データをファイルに出力できます。保存案件は、集計および集計データをファイルに出力できません。

メイン画面（案件状況）を次の図に示します。

図 3-41 メイン画面（案件状況）

メニュー

状況確認

システム	種別	インシデント管理			問題管理			変更管理			リリース管理		
		未完了	長期化	最優先	未完了	長期化	最優先	未完了	長期化	最優先	未完了	長期化	最優先
受注管理システム	件数	21	17	2	8	8	0	8	2	2	2	1	0
	前週比	+4▲	+2▲	-1▼	+3▲	+6▲	-1▼	0-	0-	0-	0-	+1▲	0-
	前月比	+21▲	+17▲	+2▲	+8▲	+8▲	0-	+6▲	+2▲	+2▲	+2▲	+1▲	0-
発注管理システム	件数	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0
	前週比	0-	+1▲	0-	-1▼	0-	-1▼	0-	0-	0-	0-	0-	0-
	前月比	+1▲	+1▲	0-	0-	0-	0-	+1▲	0-	+1▲	+1▲	0-	0-

対象案件一覧: 受注管理システム/インシデント管理 長期化

優先度	ステータス	タイトル	担当者	作業期限	更新日時	システム	プロセス	案件ID
至急	受付	サーバの接続エラー	日立 太郎	2012/06/18 17:00	2012/06/15 19:05:14	受注管理システム	インシデント管理	sys001
標準	受付	APPプログラムアプリケーションエラー	日立 太郎	2012/06/22 15:00	2012/06/15 19:04:24	受注管理システム	インシデント管理	sys001
大至急	対応依頼中	受注処理が異常終了しました	Bグループ長	2012/07/01 11:00	2012/06/05 18:08:24	受注管理システム	インシデント管理	sys001
大至急	承認済み	DBへの接続が失敗しました	Bグループ長	2012/07/01 11:00	2012/05/30 15:55:00	受注管理システム	インシデント管理	sys001
至急	承認済み	受注システムからリンクが起動できません	Bグループ長	2012/09/01 11:00	2012/05/26 09:00:00	受注管理システム	インシデント管理	sys001
至急	対応依頼中	受注権限の取得に失敗しました	E担当	2012/09/01 11:00	2012/05/26 10:12:00	受注管理システム	インシデント管理	sys001
至急	承認済み	ファイル転送に失敗しました	Bグループ長	2012/09/01 11:00	2012/05/27 16:42:00	受注管理システム	インシデント管理	sys001
至急	調査中	不正操作を検知しました	E担当	2012/09/01 11:00	2012/06/05 17:43:21	受注管理システム	インシデント管理	sys001
標準	対応依頼中	受注管理システムのサーバT001のCPU使用	E担当	2013/06/01 11:00	2012/05/29 13:52:00	受注管理システム	インシデント管理	sys001
標準	承認済み	連絡ジョブ数が増えし値を越えました	Bグループ長	2013/06/01 11:00	2012/05/29 15:48:00	受注管理システム	インシデント管理	sys001
標準	承認済み	受注管理システムのサーバT001のCPU使用	Bグループ長	2013/06/01 11:00	2012/05/29 15:48:00	受注管理システム	インシデント管理	sys001

対象案件一覧

メニュー

「案件状況」、「集計データのファイル出力」および「関連リンク」が表示されます。「案件状況」の下位には、案件を集計する視点の種類と、案件の状況を確認できるシステム名が一覧で表示されます。ここで選択した視点およびシステムの状況が、状況確認に表示されます。なお、「関連リンク」に表示されるリンクの数、表示名、および URL は、関連リンクプロパティファイルで設定します。関連リンクプ

ロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[関連リンクプロパティファイル \(hptl_jpl_imss_link_setting.properties\)](#)」を参照してください。

「集計データのファイル出力」を選択すると、案件の集計データを CSV ファイルに出力するための「集計データのファイル出力」画面が表示されます。

「関連リンク」の下位には、登録した連携製品のログイン画面や関連するサイトなどが一覧で表示されます。各リンクを選択すると、リンク先が別画面で表示されます。

状況確認

メニューの「案件状況」で選択した項目に合わせて、システム視点またはプロセス視点で、案件の状況が集計されます。メイン画面（案件状況）を表示したときは、デフォルトではシステム視点の集計結果が表示されます。

状況確認の件数の欄には、現時点での状況が表示されます。前週比と前月比の欄は、あらかじめ `jssclectdata` コマンドで集計したデータを基に、前日までの状況が表示されます。

作業管理ロールに所属するユーザーでログインした場合、JP1/Service Support が管理する全プロセスワークボードの案件の状況を確認できます。

そのほかのユーザーでログインした場合、案件の参照権限を持つプロセスワークボードの案件の状況だけ、確認できます。

なお、案件ごとに参照権限を設定している場合、案件の参照権限所有者として設定されていない案件も集計されます。

対象案件一覧

状況確認で選択した項目の対象案件が一覧で表示されます。対象案件一覧に表示できる案件は 100 件までです。メイン画面（案件状況）を表示したときは、デフォルトでは状況確認の集計結果のうち、最優先の案件（状況確認の表示内容を最上位、左から右の順に検索し、最初に数字が入っている個所の案件）が一覧で表示されます。

なお、案件ごとに参照権限を設定している場合、案件の参照権限所有者として設定されていない案件は表示されません。このため、「状況確認」で表示された案件数と、「対象案件一覧」で表示される案件数が異なります。この場合、「対象案件一覧」のヘッダー部分に「参照権限のない一部の案件を表示できませんでした」が表示されます。

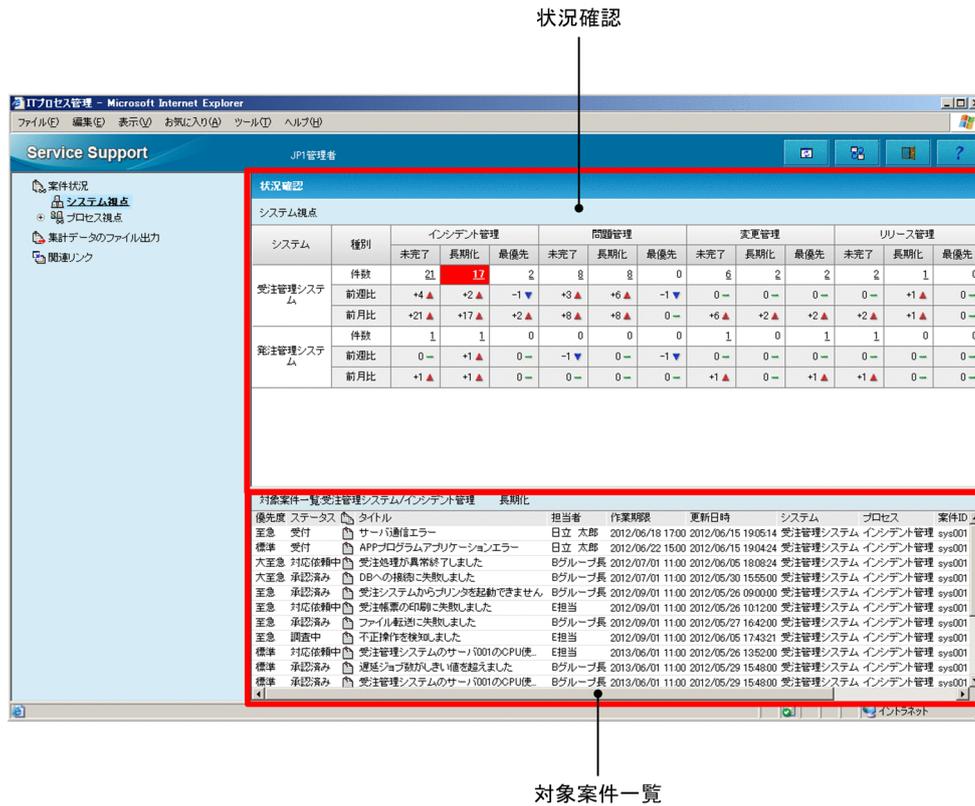
次に、システム視点、プロセス視点それぞれの集計結果から確認できる内容、および CSV ファイルに出力できる内容について説明します。

3.16.1 システム視点での案件の集計

システム視点では、JP1/Service Support で管理しているシステム全体の案件の状況を確認できます。

システム視点のメイン画面（案件状況）を次の図に示します。

図 3-42 システム視点のメイン画面（案件状況）



システム視点の場合の状況確認および対象案件一覧について説明します。

(1) 状況確認

状況確認には、システムごとに各プロセスでの案件数が集計されます。状況確認に表示される項目を次の表に示します。

表 3-48 状況確認の表示項目（システム視点）

項目	説明
システム	ログインしたユーザーが参照権限を持つシステムが表示される。
種別	案件数の種別が次の 3 種類表示される。 <ul style="list-style-type: none"> 件数：現在の案件数。 前週比：今日と 7 日前との案件数の差分。 前月比：今日と 30 日前との案件数の差分。
未完了	ステータスが「クローズ（ステータス ID：JIMSD_STAT_CLOSE）」※1 以外の案件数。
長期化	次の条件をすべて満たす案件数。 <ul style="list-style-type: none"> ステータスが「クローズ（ステータス ID：JIMSD_STAT_CLOSE）」※1 以外の案件。 完了日時が設定されていない案件。 案件登録日から、[プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面の [しきい値設定] タブに設定した時間、または案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties) に設定した時間以上に経過している案件。

項目	説明
長期化	[しきい値設定] タブの詳細については、「3.2.1(3) プロセスワークボードの設定」を参照のこと。案件集計プロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties)」を参照のこと。
最優先	次の条件をすべて満たす案件数。 <ul style="list-style-type: none"> • ステータスが「クローズ (ステータス ID : JIMSD_STAT_CLOSE)」^{※1} 以外の案件。 • 優先度が「大至急」の案件。
増減アイコン ^{※2}	前週および前月との差分を示すアイコン。次の3種類がある。 <ul style="list-style-type: none"> • ▲ : 増加アイコン 該当する案件数が、前週または前月と比較して増加していることを示す。 • ▼ : 減少アイコン 該当する案件数が、前週または前月と比較して減少していることを示す。 • — : 増減なしアイコン 該当する案件数が、前週または前月と同じであることを示す。

注※1

ここで示すステータスは、デフォルトの名称です。ステータスのカスタマイズによって名称が異なる場合があります。ステータスのカスタマイズについては、「3.15 ステータスの管理」を参照してください。

注※2

比較対象のデータが存在しない場合は、増減アイコンは表示されません。

件数のアンカーをクリックすると、対象案件一覧に対象となっている案件が一覧で表示されます。各プロセスの件数の欄は、案件数が一定の数を超えると赤く警告表示されます。

また、プロセスワークボードがない場合、または参照権限がないプロセスワークボードの場合は、そのプロセスの集計結果だけ「-」で表示されます。

(2) 対象案件一覧

状況確認で選択した項目の対象案件が、作業期限の昇順で最大 100 件表示されます。

案件のタイトルからは、[案件参照] 画面、[履歴の表示] 画面、[進捗表示] 画面、および [作業状況の表示] 画面を表示できます。また、担当者からは、[メンバー一覧] 画面、[ユーザーの詳細情報] 画面、[ロール一覧] 画面または [ロールの詳細情報] 画面を表示できます。

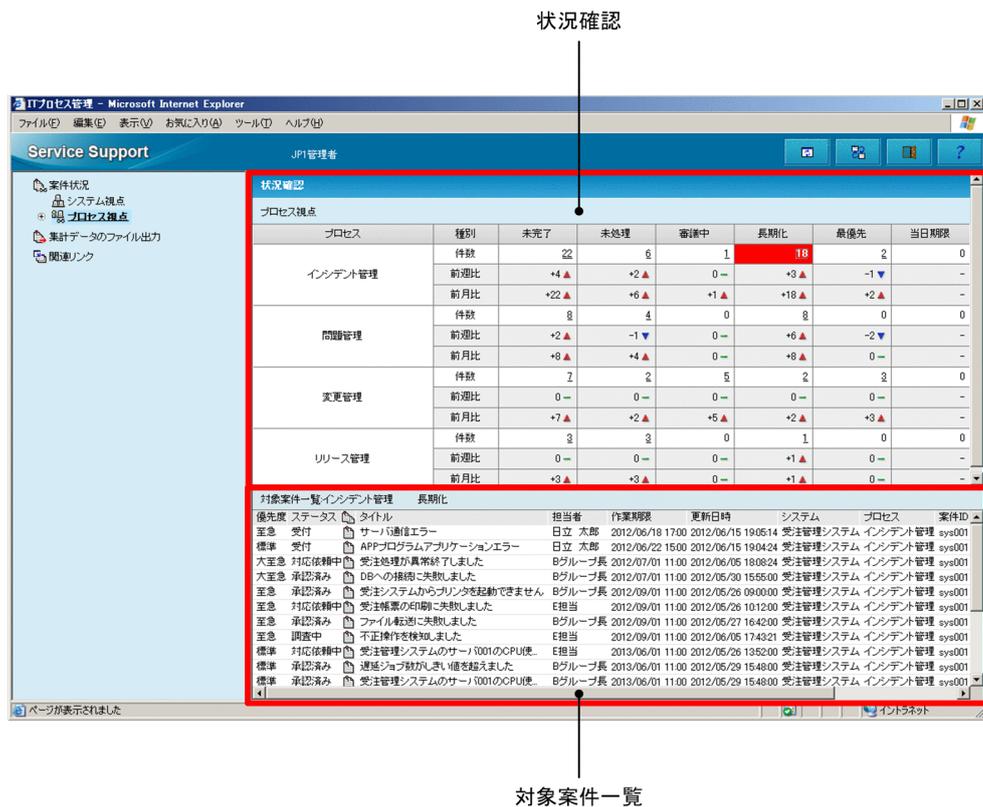
対象案件一覧に表示される各項目については、「3.2.2(1) 案件一覧」を参照してください。なお、メイン画面 (案件一覧) の案件一覧で表示される、「I」「P」「C」「R」の列は、メイン画面 (案件状況) の対象案件一覧では表示されません。

3.16.2 プロセス視点での案件の集計

プロセス視点では、特定のシステム内にあるプロセスの状況をシステム視点よりも詳細に確認できます。

プロセス視点のメイン画面 (案件状況) を次の図に示します。

図 3-43 プロセス視点のメイン画面（案件状況）



プロセス視点の場合の状況確認および対象案件一覧について説明します。

(1) 状況確認

状況確認には、プロセスごとに案件数が集計されます。なお、一時受付プロセスワークボードに登録されている案件は、インシデント管理の案件として集計されます。メイン画面（案件状況）のメニューで「プロセス視点」を選択している場合は、下位の全システムの案件数が集計されます。メニューで特定のシステムを選択している場合は、選択しているシステムの案件数だけが集計されます。

状況確認に表示される項目を次の表に示します。

表 3-49 状況確認の表示項目（プロセス視点）

項目	説明
プロセス	各プロセスが表示される。次の条件に当てはまる場合に、プロセス名をクリックすると、該当する [プロセスワークボード参照] 画面が表示される。 <ul style="list-style-type: none"> メニューで特定の対象システムを選択している。 該当するプロセスのプロセスワークボードに対し、案件参照権限を持っている。
種別	案件数の種別が次の 3 種類表示される。 <ul style="list-style-type: none"> 件数：現在の案件数。 前週比^{*1}：今日と 7 日前との案件数の差分。 前月比^{*1}：今日と 30 日前との案件数の差分。

項目	説明
未完了	ステータスが「クローズ (ステータス ID : JIMSD_STAT_CLOSE)」※2 以外の案件数。
未処理	ステータスが「受付 (ステータス ID : JIMSD_STAT_INQUIRY)」※2 の案件数。
審議中	ステータスが「審議中 (ステータス ID : JIMSD_STAT_DISCUSSING)」※2 の案件数。
長期化	次の条件をすべて満たす案件数。 <ul style="list-style-type: none"> ステータスが「クローズ (ステータス ID : JIMSD_STAT_CLOSE)」※2 以外の案件。 完了日時が設定されていない案件。 案件登録日から、[プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面の [しきい値設定] タブに設定した時間、または案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties) に設定した時間以上に経過している案件。 [しきい値設定] タブの詳細については、[3.2.1(3) プロセスワークボードの設定] を参照のこと。案件集計プロパティファイルの詳細については、[13. 定義ファイル] の「案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties)」を参照のこと。
最優先	次の条件をすべて満たす案件数。 <ul style="list-style-type: none"> ステータスが「クローズ (ステータス ID : JIMSD_STAT_CLOSE)」※2 以外の案件。 優先度が「大至急」の案件。
当日期限	ステータスが「クローズ (ステータス ID : JIMSD_STAT_CLOSE)」※2 以外で、今日が期限になっている案件数。なお、前月比および前週比は「-」で表示される。
増減アイコン※1	前週および前月との差分を示すアイコン。次の3種類がある。 <ul style="list-style-type: none">  : 増加アイコン 該当する案件数が、前週または前月と比較して増加していることを示す。  : 減少アイコン 該当する案件数が、前週または前月と比較して減少していることを示す。  : 増減なしアイコン 該当する案件数が、前週または前月と同じであることを示す。

注※1

比較対象のデータが存在しない場合は、増減アイコンは表示されません。

注※2

ここで示すステータスは、デフォルトの名称です。ステータスのカスタマイズによって名称が異なる場合があります。ステータスのカスタマイズについては、[3.15 ステータスの管理] を参照してください。

件数のアンカーをクリックすると、対象案件一覧に対象となっている案件が一覧で表示されます。各プロセスの件数の欄は、案件数が一定の数を超えると赤く警告表示されます。また、メニューで「プロセス視点」を選択して、参照できる全対象システムの案件数を表示している場合は、案件数が一定の数を超えた対象システムが一つでもあると、赤く警告表示されます。

また、プロセスワークボードがない場合、または参照権限がないプロセスワークボードの場合は、そのプロセスの集計結果だけ「-」で表示されます。

(2) 対象案件一覧

状況確認で選択した項目の対象案件が、作業期限の昇順で最大 100 件表示されます。

案件のタイトルからは、[案件参照] 画面、[履歴の表示] 画面、[進捗表示] 画面、および [作業状況の表示] 画面を表示できます。また、担当者からは、[メンバー一覧] 画面、[ユーザーの詳細情報] 画面、[ロール一覧] 画面または [ロールの詳細情報] 画面を表示できます。

対象案件一覧に表示される各項目については、「3.2.2(1) 案件一覧」を参照してください。なお、メイン画面（案件一覧）の案件一覧で表示される、「I」「P」「C」「R」の列は、メイン画面（案件状況）の対象案件一覧では表示されません。

3.16.3 案件の集計データのファイル出力

案件の状況を集計した CSV ファイルは、次の図に示す [集計データのファイル出力] 画面でダウンロードできます。なお、案件ごとに参照権限を設定している場合、案件の参照権限所有者として設定されていない案件も集計された CSV ファイルとなります。

図 3-44 [集計データのファイル出力] 画面

The screenshot shows a web browser window titled 'ITプロセス管理 - Windows Internet Explorer'. The main content area is titled '集計データのファイル出力' (File Output of Summary Data). Below the title, there are several filter sections:

- システム*** (System): A list of checkboxes for '全てのシステム' (All systems), 'A社システム' (System A), 'B社システム' (System B), 'C社システム' (System C), 'D社システム' (System D), and 'E社システム' (System E).
- プロセス*** (Process): A list of checkboxes for 'インシデント管理' (Incident management), '変更管理' (Change management), '問題管理' (Problem management), and 'リリース管理' (Release management).
- 集計単位*** (Summary unit): A dropdown menu currently set to '日単位' (Daily).
- 集計範囲*** (Summary range): Two date pickers showing '2013/07/10' and '2013/08/08'. Below them, it says '指定可能範囲: 2013/06/08 ~ 2013/08/08の期間から31日以内' (Specifiable range: within 31 days from the period 2013/06/08 ~ 2013/08/08).
- データ種別*** (Data type): Radio buttons for '案件データCSV' (Case data CSV) and 'コードデータCSV' (Code data CSV).

At the bottom right of the form area, there is a button labeled 'データのダウンロード' (Download data). The browser status bar at the bottom shows 'ページが表示されました' (Page displayed) and 'ローカル イン트라ネット' (Local intranet).

ファイル出力したい集計データの条件を指定して、[データのダウンロード] ボタンをクリックします。

集計データの絞り込み条件を次に示します。

- システム

出力したい対象システムのチェックボックスにチェックします。ユーザーが参照できる対象システムを選択できます。「全てのシステム」をチェックすると、表示されているシステムをすべて選択したことになり、個別のシステムのチェックボックスは非活性となります。

なお、多数の対象のシステムのチェックボックスをチェックして集計データを出力した場合、「Internet Explorer ではこのページを表示できません」の画面が表示され、案件の集計データを出力できないことがあります。この場合の対処を次に示します。

1. 「全てのシステム」をチェックして集計データを出力する。
2. 出力された案件の集計データのファイルを開き、手動で不要なシステムの案件集計データを削除する。

• プロセス

出力したいプロセスのチェックボックスにチェックします。ユーザーが参照できるプロセスを選択できます。なお、プロセスにはプロセスの表示名が表示されます。

• 集計単位

集計の単位を「日単位」、「月単位」または「年単位」から選択します。

• 集計範囲

集計単位での指定に合わせて、集計範囲を指定します。あらかじめ `jssclectdata` コマンドで集計したデータを基に CSV ファイルに出力されるため、集計範囲に指定できるのは前日までです。

何も指定しない場合は、次の期間のデータが集計されます。

- 日単位：前日から過去 30 日
- 月単位：過去 12 か月
- 年単位：過去 5 年

• データ種別

CSV ファイルの種類を、「案件データ CSV」、または「コードデータ CSV」から選択します。

(1) 出力される CSV ファイルの内容

[集計データのファイル出力] 画面からは、案件データ CSV ファイル (`OutputItemData.csv`) およびコードデータ CSV ファイル (`OutputItemCodeData.csv`) を出力できます。

出力される CSV ファイルは、ヘッダー部とデータ部から構成されます。ヘッダー部の出力項目は、案件データ CSV ファイルとコードデータ CSV ファイルで共通です。

案件データ CSV ファイルとコードデータ CSV ファイルのヘッダー部の出力項目を、次に示します。

表 3-50 案件データ CSV ファイルとコードデータ CSV ファイルのヘッダー部の出力項目

項目	説明
製品名称	「JP1/Service Support」。
バージョン情報	出力されるファイルのバージョン。
文字コード	出力されるファイルの文字コード。
データ集計日	案件集計コマンドを実行した日付。
集計単位	出力した集計単位。

項目	説明
プロセス表示名（インシデント管理）※	インシデント管理プロセスのプロセス表示名。
プロセス表示名（問題管理）※	問題管理プロセスのプロセス表示名。
プロセス表示名（変更管理）※	変更管理プロセスのプロセス表示名。
プロセス表示名（リリース管理）※	リリース管理プロセスのプロセス表示名。

注※

CSV ファイルの出力対象に含まれない場合も出力されます。

案件データ CSV ファイルのデータ部の出力項目を次に示します。

表 3-51 案件データ CSV ファイルのデータ部の出力項目

項目	説明
システム ID	集計データを出力したシステムのシステム ID。
システム名	集計データを出力したシステムのシステム名。
プロセス名	集計データを出力したプロセスのプロセス名。デフォルトのプロセス名が出力される。プロセス表示名を確認したい場合は、ヘッダー部の各プロセスのプロセス名を参照すること。
出力種別※	次の 8 種類の種別に対応した 1~8 の数値。 <ul style="list-style-type: none"> • 1：登録案件数。 対象期間に登録された案件数を出力する。案件の発生傾向をプロセスごとに分析したレポートなどを作成するために使用する。 • 2：クローズ以外の案件数。 対象期間の終了時に、ステータスがクローズ以外の案件数を出力する。出力種別 1 の「登録案件数」と併用し、案件の処理率を分析したレポートを作成するために使用する。 • 3：クローズした案件数。 対象期間にクローズした案件数を出力する。クローズした案件の傾向をプロセスごとに分析したレポートなどを作成するために使用する。 • 4：クローズした案件の平均所要時間。 対象期間にクローズした案件の平均所要時間を出力する。案件の平均処理時間を分析したレポートなどを作成するために使用する。 • 5：クローズした案件のうち、作業期限が設定されている案件数。 対象期間にクローズした案件で、作業期限が設定されている案件数を出力する。案件の平均処理時間を分析したレポートなどを作成するために使用する。 • 6：作業期限内にクローズした案件数。 対象期間にクローズした案件で、作業期限内にクローズした案件数を出力する。作業期限内にクローズした案件の処理率を分析したレポートなどを作成するために使用する。 • 7：クローズした案件で費用（実績）が設定されている案件数。

項目	説明
出力種別※	<p>対象期間にクローズした案件で、費用（実績）が設定されている案件数を出力する。出力種別 8 の「クローズした案件の使用費用（実績）の合計」と併用し、1 案件当たりの平均費用を分析したレポートなどを作成するために使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 8：クローズした案件の使用費用（実績）の合計。 <p>対象期間にクローズした案件で使用した費用（実績）の合計を出力する。出力種別 7 の「クローズした案件で費用（実績）が設定されている案件数」を併用し、1 案件当たりの平均費用を分析したレポートなどを作成するために使用する。</p>
集計期間	集計期間内に集計された案件の数、平均所要時間、使用費用（実績）の合計のどれかの値。

注※

ここで示している「クローズ」はステータス ID 「JIMSD_STAT_CLOSE」のステータスのことです。ステータスのカスタマイズによって、ステータス名称が「クローズ」ではない場合があります。ステータスのカスタマイズについては、「3.15 ステータスの管理」を参照してください。

コードデータ CSV ファイルのデータ部の出力項目を次に示します。

表 3-52 コードデータ CSV ファイルのデータ部の出力項目

項目	説明
システム ID	集計データを出力したシステムのシステム ID。
システム名	集計データを出力したシステムのシステム名。
プロセス名	集計データを出力したプロセスのプロセス名。デフォルトのプロセス名が出力される。プロセス表示名を確認したい場合は、ヘッダー部の各プロセスのプロセス名を参照すること。
フォーム ID	案件フォーム ID。
フォーム VR	フォームバージョン。
コード種別	<p>コード種別、実コードおよびコード表示名の詳細については、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jp1imss_itemimport_codemap.conf)」を参照。コード種別の JIMSD_CODE_XXXX の XXXX 部分がセクション、実コードが値、コード表示名がキーに対応する。</p>
実コード	
コード表示名	
集計期間	集計期間内に集計された案件の数。

集計の対象となるのは、対象期間にクローズした案件だけです。

案件フォームをカスタマイズしてコードを追加した場合は、追加したコードも出力されます。

(2) マクロのダウンロード

出力した CSV ファイルからレポートを作成するためのマクロ（サンプル）をダウンロードできます。マクロをダウンロードするには、次に示す方法があります。

- ・ [マクロのダウンロード] メニューからダウンロードする。
- ・ JP1/SS パス¥home¥public¥report¥jss_report.xls をコピーする。

なお、サンプルのマクロは、変更したり、ユーザーが作成したマクロに置き換えたりすることもできます。

注意事項

- JP1/Service Support に格納できるマクロは一つだけです。ユーザーが作成したマクロに置き換える場合には JP1/SS パス¥home¥public¥report¥フォルダ内の jss_report.xls を削除し、同フォルダ内にユーザーが作成したマクロを格納してください。なお、マクロのファイル名は jss_report.xls で固定です。別名のファイルを格納しても、JP1/Service Support の画面からはダウンロードできません。
- JP1/Service Support は、サンプルのマクロのモデルファイル (JP1/SS パス¥home¥public¥report ¥jss_report.xls.model) を提供しています。モデルファイルはカスタマイズしたマクロの内容をリセットする場合に利用してください。jss_report.xls を削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで jss_report.xls として使用できます。

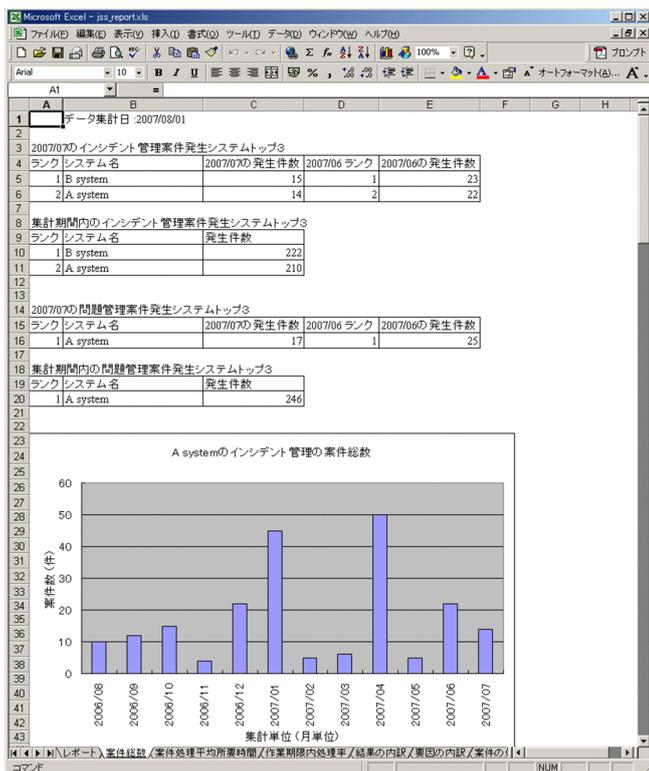
また、過去バージョンの CSV ファイルに対応したマクロのモデルファイル (JP1/SS パス¥home ¥public¥report¥バージョン番号_jss_report.xls.model) を提供しています。過去バージョンのマクロを実行する場合、CSV ファイル (ヘッダー部) のバージョン情報とマクロ名のバージョン番号が一致している必要があります。なお、過去バージョンのマクロは、[集計データのファイル出力] 画面からダウンロードできないため、必要に応じて JP1/Service Support の管理者が配布してください。

- サンプルのマクロを実行中は、クリップボードを使用しています。クリップボードを使用する操作 (文字列のコピーや切り取り、貼り付けなど) を行うと、正しくマクロを実行できない場合があります。
- システム名称、またはコード表示名に "=" など特別な意味を持つ文字で始まる名称を指定した場合、正しく処理できません。
- サンプルのマクロは見本として提供しているものです。サンプルのマクロをカスタマイズしての使用は可能ですが、カスタマイズ方法についての質問はお受けできません。
- 11-00 ではサンプルのマクロ (jss_report.xls.model) に機能を追加しています。バージョンアップインストールした場合、使用中のサンプルのマクロ (jss_report.xls) は、バージョンアップインストールで更新されないため、新しいサンプルのマクロのモデルファイルからコピー、リネームし、jss_report.xls として配置してください。

なお、旧バージョンのサンプルのマクロは「<旧バージョン>_<マクロ名称>」のファイル名称で格納しています。

サンプルのマクロを使用したレポートの作成例を次の図に示します。

図 3-45 集計データを基にしたレポート作成例



サンプルのマクロでは、10種類のレポートを作成できます。作成できるレポートの種類を次の表に示します。

表 3-53 サンプルのマクロで作成できるレポートの種類

項番	種類 (単位)	説明	対象プロセス
1	案件総数 (件)	すべてのステータスに登録されている案件数が集計される。なお、登録日時が設定されていない案件は、集計の対象外となる。 プロセスごとの案件発生傾向を分析するために使用できる。	CSVに出力された全プロセス
2	案件処理平均所要時間 (時間)	一定期間の案件処理所要時間 (クローズした案件の更新日時と登録日時の差) の和を、クローズした案件数で割った値が集計される。なお、登録日時が設定されていない案件は、集計の対象外となる。 プロセス内の案件の処理時間を確認して、早期回答の目安に使用できる。	CSVに出力された全プロセス
3	作業期限内処理率 (%)	作業期間内に案件がクローズした処理率が集計される。 期限内の回答の指標を出すために使用できる。	CSVに出力された全プロセス
4	一次サポート解決率 (%) ※1	クローズした案件で解決区分が設定されている案件のうち、解決区分が「ナレッジ」、「ドキュメント」に設定されている案件の割合が集計される。 プロセス内のサポート品質の状況を確認するために使用できる。	インシデント管理
5	問題分野の内訳 (件および%) ※1	クローズした案件で問題分野の項目が設定されている案件に対する、各問題分野の割合が集計される。	インシデント管理, 問題管理

項番	種類 (単位)	説明	対象プロセス
5	問題分野の内訳 (件および%) ※1	システムごとの傾向を分析するために使用できる。	インシデント管理, 問題管理
6	結果の内訳 (件および%) ※1	クローズした案件で結果の項目が設定されている案件に対する, 各結果の割合が集計される。 システムごとの傾向を分析するために使用できる。	CSV に出力された全プロセス
7	要因の内訳 (件および%) ※1	クローズした案件で要因の項目が設定されている案件数に対する, 各要因の割合が集計される。 システムごとの傾向を分析するために使用できる。	CSV に出力された全プロセス
8	案件当たりの平均使用費用 (なし) ※2	クローズした案件で, 費用 (実績) が設定されている案件の平均値が集計される。 一案件当たりに使用する費用の確認や, 全体的にコストが掛かっていないかを確認するために使用できる。	変更管理, リリース管理
9	案件の処理率 (%)	一定期間内で, クローズした案件数を登録された案件数で割った値が集計される。 作業の効率を確認するために使用できる。	CSV に出力された全プロセス
10	類似案件率 (%) ※1	クローズした案件で, 要因に「既知のソフトウェア不良」または「既知のハードウェア不良」が設定されている案件数を集計される。 同件の発生傾向を確認するために使用できる。	インシデント管理, 問題管理

注※1

案件フォームのカスタマイズによって, 案件項目の選択肢を変更した場合, マクロが正しく動作しません。案件フォームと同様に, マクロのカスタマイズも検討してください。

注※2

費用の単位はユーザーの運用によって異なるため, 特に定めていません。

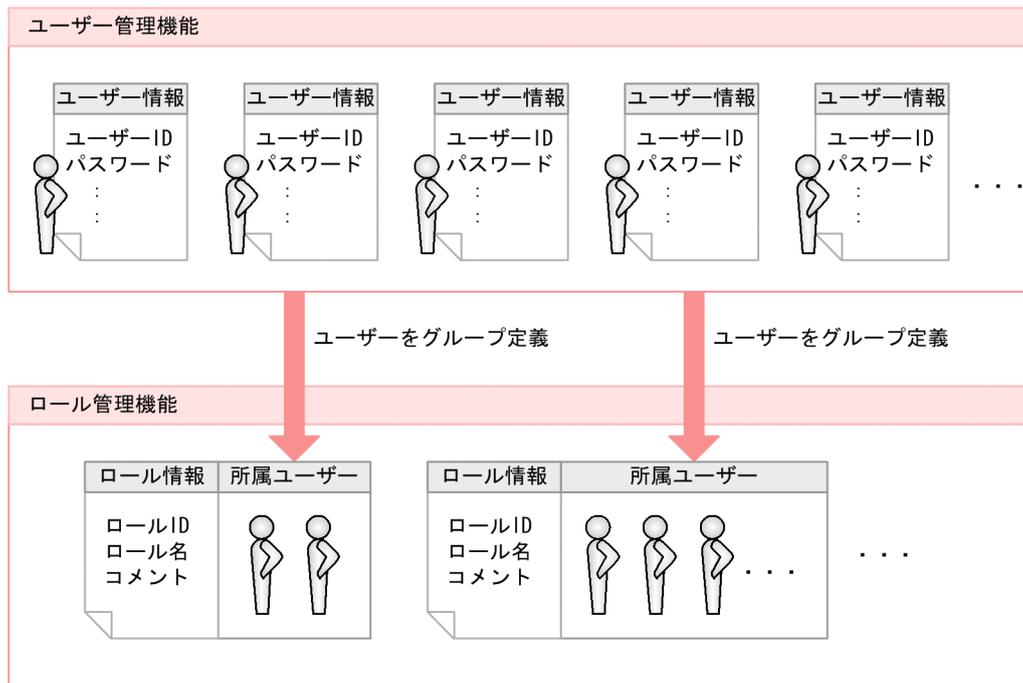
なお, レポート内のプロセス名は, プロセス表示名が出力されます。

3.17 ユーザーとロールの管理

JP1/Service Support には、JP1/Service Support を操作するユーザー情報を管理する機能があります。これを**ユーザー管理機能**と呼びます。また、ユーザー管理機能によって登録されたユーザーをグループ定義する機能があります。これを**ロール管理機能**と呼びます。

ユーザー管理機能とロール管理機能の関係を次の図に示します。

図 3-46 ユーザー管理機能とロール管理機能の関係



ユーザー管理機能では個々のユーザー情報を管理し、ロール管理機能では個々のロール情報とそのロールに所属するユーザーを管理します。

JP1/Service Support は、これらの機能が管理するユーザー情報、ロール情報を基に、各プロセスワークボードに対してアクセス権を設定し、ユーザーの用途に合わせた運用を実現します（アクセス権の詳細については、「[3.11 案件に対するアクセス権の管理](#)」を参照してください）。

ここでは、ユーザー管理、ロール管理について、次項以降で詳しく説明します。

3.17.1 ユーザー管理

JP1/Service Support のユーザー管理機能では、JP1/Service Support を操作するユーザーの情報を管理します。JP1/Service Support にログインする際に必要なユーザー ID、パスワードのほか、役職や電話番号などの業務情報も管理します。

(1) JP1/Service Support が管理するユーザー情報

JP1/Service Support が管理するユーザー情報を次の表に示します。

表 3-54 JP1/Service Support で管理できるユーザー情報

項目	説明
ユーザー ID	JP1/Service Support にログインするための ID。
パスワード	JP1/Service Support にログインするためのパスワード。
名前	登録ユーザー名。
英語名	登録ユーザーの英語名。
電話番号	登録ユーザーがメインとして使用している電話番号。
電話番号 2	登録ユーザーがサブとして使用している電話番号。
役職	登録ユーザーの会社組織での役職。
役職順位	役職に対して順位を付けるためのもの（画面でのソート時に適用される*）。
所属組織	登録ユーザーの会社での所属組織。
メールアドレス	登録ユーザーのメールアドレス。
コメント	登録ユーザーの補足情報。

注※

デフォルトの設定では、「役職順位」に記載した情報でソートされないで、「役職」に記載した情報でソートされます。「役職順位」に記載した情報でソートをするには、ユーザー管理プロパティファイルの設定を変更する必要があります。詳細については、「13. 定義ファイル」の「ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties)」を参照してください。

(2) ユーザー情報の追加, 編集, 削除

ユーザー情報は、JP1/Service Support の画面を使って追加、編集、削除できます。ただし、ユーザー情報を追加、編集、削除する場合には、ユーザー管理ロールと呼ばれるロール権限が必要となります。

ユーザー情報の追加、編集、削除で使用する画面を次の表に示します。

表 3-55 ユーザー情報の追加, 編集, 削除で使用する画面

目的	画面名
ユーザー情報の追加	[ユーザー作成] 画面 ([ユーザー管理] 画面から呼び出す)
ユーザー情報の編集	[ユーザー編集] 画面 ([ユーザー管理] 画面から呼び出す)
ユーザー情報の削除	[ユーザー管理] 画面

また、jssuserimport コマンドを使えば、複数人のユーザー情報を一括して追加できます。

画面を使っての設定の詳細については、「9.2 ユーザーの作成」を参照してください。コマンドを使っての設定の詳細については、「12. コマンド」の「jssuserimport (ユーザー情報インポート)」を参照してください。

(3) JP1/Service Support のシステム管理者ユーザー (jp1admin ユーザー)

JP1/Service Support は、デフォルトで次の表に示すシステム管理者ユーザーを登録しています。JP1/Service Support にユーザー情報を追加する場合、まず、このユーザーでログインして操作することになります。このユーザーの ID は変更できません。また、このユーザーは削除できません。

表 3-56 JP1/Service Support のシステム管理者ユーザー

項目	デフォルト値
ユーザー ID	jp1admin
パスワード	jp1admin*
名前	JP1 管理者
英語名	JP1 Administrator
電話番号	(なし)
電話番号 2	(なし)
役職	(なし)
役職順位	(なし)
所属組織	(なし)
メールアドレス	(なし)
コメント	JP1 管理者専用のユーザーです。

注※

パスワードは JP1/Service Support の環境構築時に必ず変更してください。

(4) ログインユーザーによる自身のユーザー情報の変更

JP1/Service Support にログインしたユーザーは、ユーザー管理ロールと呼ばれるロール権限を持っていない場合でも、次に示す自身のユーザー情報を変更できます。

- パスワード
- 電話番号
- 電話番号 2

これらの変更は、メイン画面 (案件一覧) のメニュー [オプション] - [自分の詳細情報の編集] を選択することで呼び出せる [ユーザー編集] 画面で行えます。

ログインユーザー情報（パスワード・電話番号）を変更する手順については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」を参照してください。

(5) ユーザー情報の確認

JP1/Service Support に登録されたユーザー情報は、次の画面で確認できます。

- [ユーザーの詳細情報] 画面：個々のユーザー情報が表示されます。
- [ロール一覧] 画面：ユーザーが所属するロールが一覧表示されます。

これらの画面は、メイン画面（案件一覧）の案件一覧や [案件参照] 画面などに表示されるユーザー名をクリックすることで表示できます。

3.17.2 ロール管理

JP1/Service Support のロール管理機能では、JP1/Service Support を操作する際に利用できるロールの情報と、そのロールに所属するユーザーを管理します。

ロールには、システムロールとユーザー作成ロールの2種類があります。

(1) システムロール

システムロールとは、システム管理者向けに用意されたロールです。システムロールのロール ID は変更できません。また、システムロールは、ユーザー作成ロールと異なり削除できません。

システムロールを次の表に示します。

表 3-57 システムロール一覧

システムロール種別 (ロール ID)	説明
ユーザー管理ロール (_jpluser)	このロールに所属するユーザーは、次の権限を持つ。 <ul style="list-style-type: none">• ユーザー情報の追加、編集、削除• ユーザー作成ロールの作成、編集、削除• ロールへの所属ユーザーの追加、削除
プロセスワークボード管理ロール (_jplITsystem)	このロールに所属するユーザーは、次の権限を持つ。 <ul style="list-style-type: none">• 対象システムの作成、編集、削除• 対象システム下へのプロセスワークボードの追加、編集、削除• プロセスワークボードへのユーザーのアクセス権限設定• プロセスワークボードで管理する案件に対するすべての操作• プロセスワークボードに登録された案件のステータスのカスタマイズ
作業管理ロール (_jplworkmgr)	このロールに所属するユーザーは、次の権限を持つ。 <ul style="list-style-type: none">• 全プロセスワークボードに対する案件の集計結果の確認

なお、jpladmin ユーザーは、システムロールすべてに所属しているため、これらのロールから削除することはできません。

(2) ユーザー作成ロール

ユーザー作成ロールとは、プロセスワークボードを管理する際の、作業分担、役割に応じてユーザーが任意に作成、定義できるロールのことです。

(a) ユーザー作成ロールの定義情報

ユーザー作成ロールとして定義できる情報を次の表に示します。

表 3-58 ユーザー作成ロールとして定義できる情報

項目	説明
ロール ID	ロールを識別するための ID
ロール名	ロールの表示名
コメント	ロールの補足情報

(b) ユーザー作成ロールの追加, 編集, 削除

ユーザー作成ロールは、JP1/Service Support の画面を使って追加、編集、削除できます。ただし、ユーザー作成ロールを追加、編集、削除する場合には、ユーザー管理ロールと呼ばれるロール権限が必要となります。

ユーザー作成ロールの追加、編集、削除で使用する画面を次の表に示します。

表 3-59 ユーザー作成ロールの追加, 編集, 削除で使用する画面

目的	画面名
ユーザー作成ロールの追加	[ロール作成] 画面 ([ロール管理] 画面から呼び出す)
ユーザー作成ロールの編集	[ロール編集] 画面 ([ロール管理] 画面から呼び出す)
ユーザー作成ロールの削除	[ロール管理] 画面

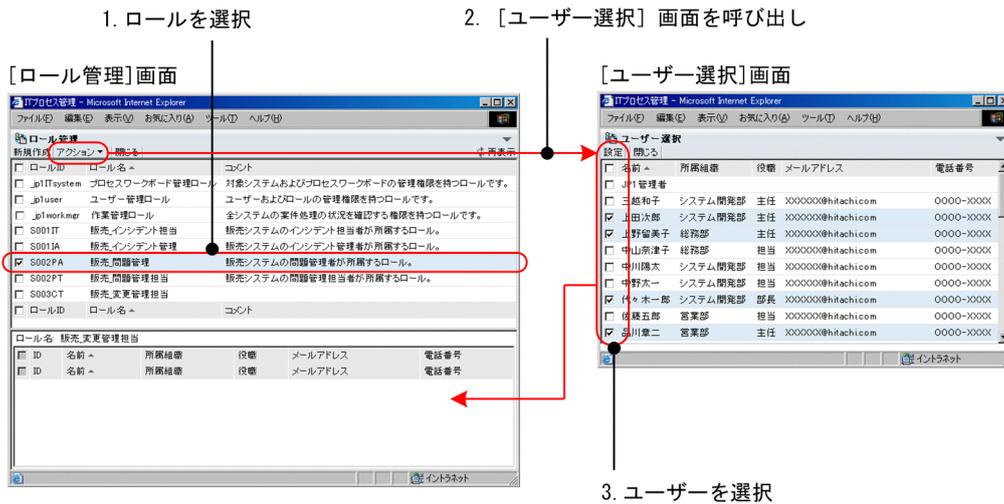
設定の詳細については、「[9.3 ロールの作成](#)」を参照してください。

(3) ロールとユーザーのマッピング

システムロール、およびユーザー作成ロールは、[ロール管理] 画面に表示されます。この画面上で各ロールに対し、所属ユーザーを割り当てていくことでロールとユーザーのマッピングができます。なお、ユーザーは、複数のロールに所属できます。

ロールとユーザーのマッピングを次の図に示します。

図 3-47 ロールとユーザーのマッピング



図中の番号に従って説明します。

1. ロールとユーザーをマッピングする場合、[ロール管理]画面の上部フレームでユーザーの割り当てを行うロールを選択します。選択すると、[ロール管理]画面の下部フレームにマッピングされているユーザーが一覧表示されます。
2. メニューから [アクション] - [メンバー追加] を選択し、[ユーザー選択]画面を呼び出します。
3. [ユーザー選択]画面で該当ロールに割り当てるユーザーを選択し、メニューから [設定] を選択すると、[ロール管理]画面の下部フレームにその設定が反映されます。

(4) ロール情報の確認

JP1/Service Support に登録されたロールの情報は、次の画面で確認できます。

- [ロール一覧]画面：登録済みのロールが一覧表示されます。
- [ロールの詳細情報]画面：各ロール情報の詳細が表示されます。
- [メンバー一覧]画面：各ロールに所属しているユーザーが一覧表示されます。

これらの画面は、メイン画面（案件一覧）の案件一覧や [案件参照]画面などに表示されるロール名をクリックすることで表示できます。

3.18 ファイアウォール環境への対応

JP1/Service Support は、ファイアウォール環境でもファイアウォールの設定をすることで運用できます。パケットフィルタリング型、NAT（スタティックモード）型のファイアウォール環境で使用できます。

JP1/Service Support は、ポートを利用して案件管理コンソール（WWW ブラウザー）と案件管理サーバ間で通信をします。その際に使用するポートは「24401/tcp」です。ファイアウォール環境で JP1/Service Support を運用する際には、このポートを通過させるようにしてください。

なお、使用するポートを変更する場合には、jsssetupinfo.bat コマンドを編集する必要があります。詳細については、「[6.3.2 新規インストール時のセットアップ手順](#)」を参照してください。

メモ

JP1/Service Support は、ローカルホスト内（JP1/Service Support の内部処理）でもポートを使用して通信をしています。その際に使用するポートを次に示します。

- 24400/tcp
- 24401/tcp
- 24402/tcp
- 24403/tcp
- 24404/tcp

これらのポートも、案件管理コンソール（WWW ブラウザー）と案件管理サーバ間で通信をする際に使用するポートと同様に設定を変更できます。詳細については、「[6.3.2 新規インストール時のセットアップ手順](#)」を参照してください。

メモ

連携製品との通信は、次のようになっています。これらの製品と連携する際に使用するポートについては、連携製品のマニュアルをお読みください。

JP1/IM - Manager

JP1/IM - Manager の自動アクションによる案件の自動登録時に、統合マネージャーと案件管理サーバ間で通信をします。JP1/IM - Manager、JP1/Base が使用しているポートを使用します。

JP1/NETM/AIM

案件管理コンソールと資産管理サーバ間で通信をします。JP1/NETM/AIM が使用している HTTP ポートを使用します。

JP1/UCMDB

案件管理コンソールと構成管理サーバ間で通信をします。JP1/UCMDB が使用している HTTP ポートを使用します。

JP1/NP

案件管理コンソールと JP1/NP のサーバ間で通信をします。JP1/NP が使用している HTTP ポートを使用します。

JP1/AO

案件管理コンソールと JP1/AO のサーバ間で通信をします。JP1/AO が使用している HTTP ポートを使用します。

JP1/Base

案件管理サーバと JP1/Base のサーバ間で通信をします。JP1/Base が使用しているポートを使用します。

JP1/ITDM2 - Asset Console

案件管理コンソールと資産管理サーバ間で通信をします。JP1/ITDM2 - Asset Console が使用している HTTP ポートを使用します。

JP1/AJS3 - Web Console

案件管理コンソールとジョブ管理マネージャー間で通信をします。JP1/AJS3 - Web Console が使用している HTTP ポートを使用します。

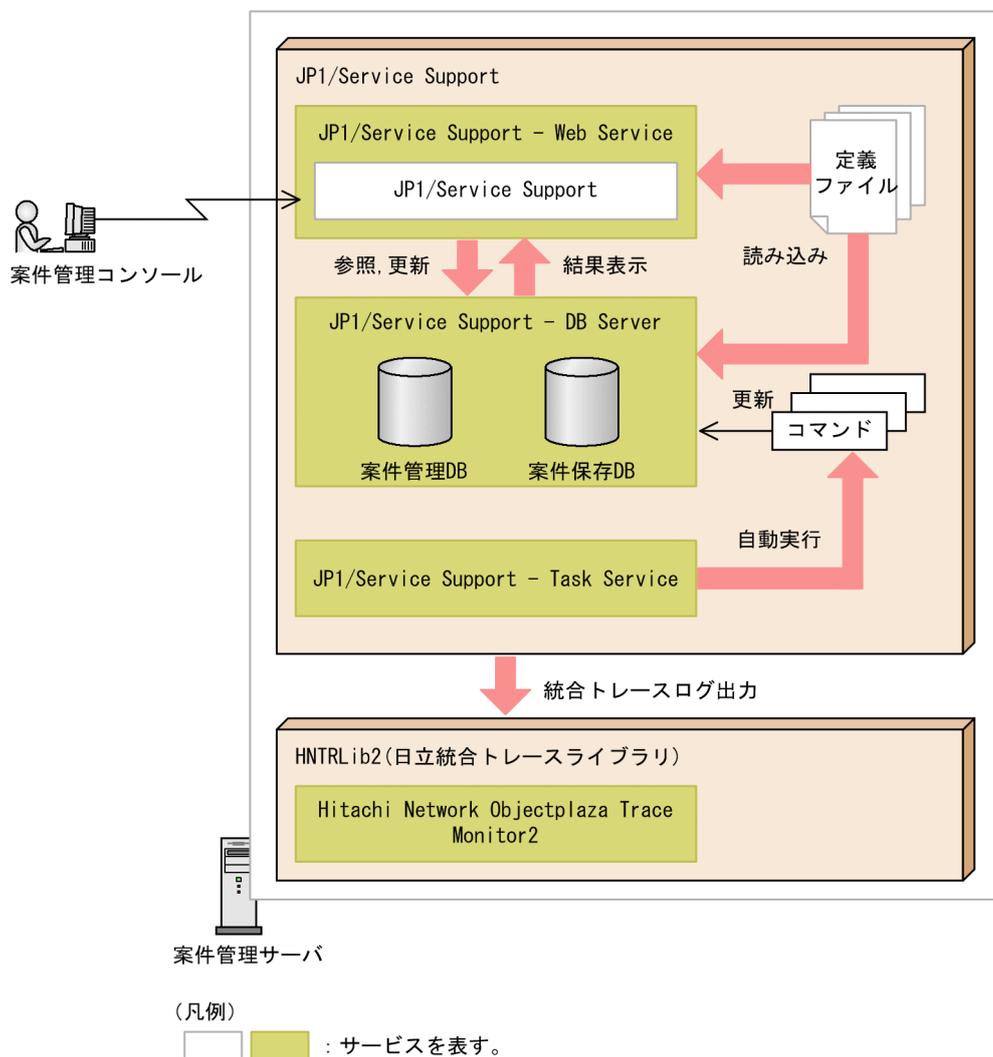
JP1/PFM - Web Console

案件管理コンソールと監視コンソールサーバ間で通信をします。JP1/PFM - Web Console が使用している HTTP ポートを使用します。

3.19 JP1/Service Support のサービス

JP1/Service Support は、次の図に示す四つのサービスで構成されています。

図 3-48 JP1/Service Support のサービス



これらのサービスは、JP1/Service Support インストール時に Windows Server 2016, Windows Server 2012 R2, または Windows Server 2012 の [サービス] ダイアログボックスに登録されます。各サービスについて次の表で説明します。

表 3-60 JP1/Service Support のサービス

表示名	サービス名	スタートアップの種類	説明
JP1/Service Support	JP1_Service Support	手動	WWW コンテナサーバ。画面の表示制御をする JP1/Service Support の内部コンポーネント。JP1/Service Support - Web Service サービスと依存関係を持つ。

表示名	サービス名	スタートアップの種類	説明
JP1/Service Support	JP1_Service Support	手動	案件管理コンソールから JP1/Service Support の操作をする際に必要となる。
JP1/Service Support - Web Service	JP1_Service Support-WebService	手動	WWW サーバ。案件管理コンソール (WWW ブラウザー) との通信の窓口となる JP1/Service Support の内部コンポーネント。 案件管理コンソールから JP1/Service Support の操作をする際に必要となる。
JP1/Service Support - DB Server	HiRDBEmbeddedEdition_JSO	自動	案件管理 DB サーバ。案件管理 DB の管理をする JP1/Service Support の内部コンポーネント。 案件管理コンソールからの操作、またはコマンドからの処理要求を受けて、案件管理 DB または案件保存 DB の内容を操作する。
JP1/Service Support - Task Service	JP1_ServiceSupport-TaskService	手動	指定した時刻や指定した間隔で次のコマンドを実行するためのサービス。 <ul style="list-style-type: none"> • jsscollectdata (案件情報集計) • jssinformperiod (期限前通知) • jssinformleave (滞留案件通知) • jssitementrybyemail (メールによる案件登録) 案件情報の集計、期限前通知、滞留案件通知、メールによる案件登録などの機能を利用する際に必要となる。*

注※

JP1/Service Support - Task Service サービスは、JP1/Service Support のインストール時に自動登録されますが、各コマンドを自動で実行するかどうかは、タスク実行サービス定義ファイルで設定する必要があります。定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「タスク実行サービス定義ファイル (jplimss_service_setting.conf)」を参照してください。

なお、JP1/Service Support を稼働させる場合には、JP1 製品が共通で利用している次のサービスも起動しておく必要があります。

- Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor2
Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor2 も、JP1/Service Support のインストール時に、Windows Server 2016、Windows Server 2012、または Windows Server 2012 R2 のサービスに、スタートアップの種類「自動」で登録されます。

! 重要

JP1/Service Support をインストールすると上記サービスのほか、JP1/Service Support - DB Cluster Service サービスも、Windows Server 2016、Windows Server 2012、または Windows Server 2012 R2 のサービスに登録されます。このサービスは、JP1/Service Support をクラスタシステムで運用する場合にだけ使用します。

3.20 コマンドを使用したデータベースの操作

JP1/Service Support を使ってユーザーが構築した対象システム、プロセスの情報や、登録、更新した案件情報など、ユーザーが JP1/Service Support を利用するために作成、定義した情報のすべてが案件管理 DB で管理されます。また、過去の案件を案件保存 DB に保存できます。

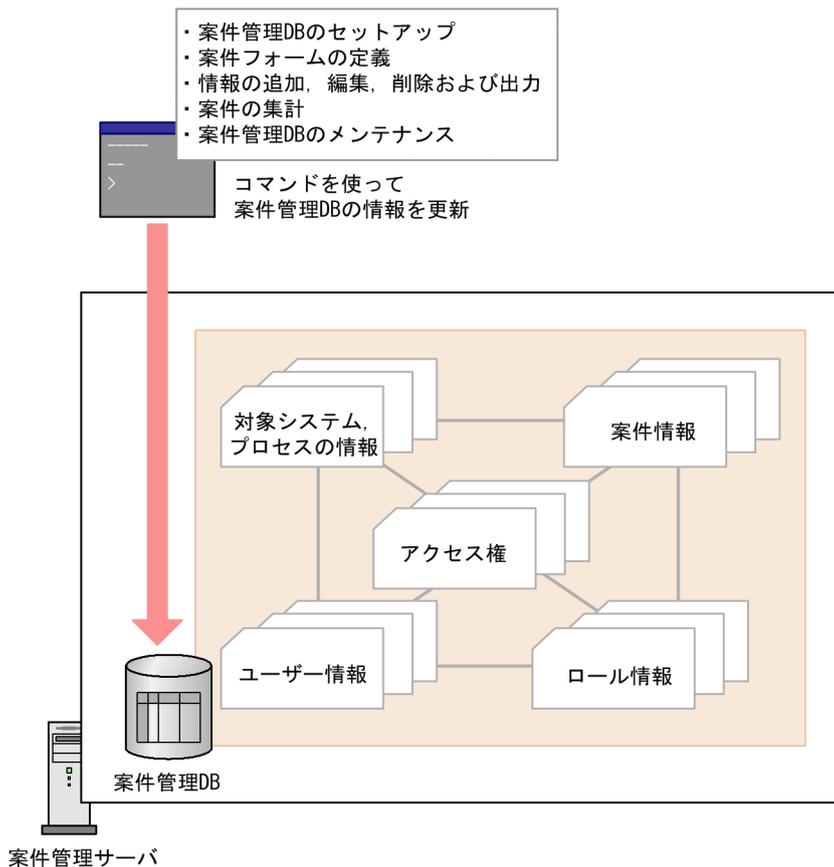
通常は、WWW ブラウザーからの操作によって案件管理 DB 内の情報を更新しますが、コマンドを使って情報を更新することもできます。

また、案件管理 DB や案件保存 DB のサイズ調整やバックアップ、リカバリーなど、案件管理 DB や案件保存 DB のメンテナンスを実施する場合にもコマンドを使用します。

3.20.1 コマンドを使用した案件管理 DB の操作

コマンドを使用した案件管理 DB の情報を更新する機能の概要を次の図に示します。

図 3-49 コマンドを使用した案件管理 DB の情報を更新する機能の概要



JP1/Service Support が案件管理 DB を操作するために用意しているコマンドを次の表に示します。

表 3-61 案件管理 DB を操作するためのコマンド

コマンドの種類	コマンド名	説明
セットアップ	jsssetup.bat ^{*1}	案件管理 DB をセットアップする。
	jssunsetup.bat ^{*1}	案件管理 DB をアンセットアップする。
	jsshasetup.bat ^{*1}	クラスタ環境用に案件管理 DB をセットアップする。
	jsshounsetup.bat ^{*1}	クラスタ環境用に案件管理 DB をアンセットアップする。
	jsschauthorityserver	JP1/Service Support で使用する認証サーバを切り替える。
	jssrefaclsetup	案件ごとに参照権限を設定できるようにする。
	jssauthusersetup	メール送信時およびメールによる案件登録時の認証のユーザー ID とパスワードを、メール定義ファイルに設定する。
案件フォーム定義	jssformdef	各作業プロセスの案件の入力項目をユーザーの運用に合わせてカスタマイズする場合に使用する。
	jssformcustomizer	案件フォームを GUI で編集する場合に使用する。
案件の情報の追加, 編集, 削除および出力	jssitemlist	JP1/Service Support に登録されている案件を一覧で出力する。
	jssitemhistory	JP1/Service Support に登録されている案件の履歴を出力する。
	jssitemedit	案件管理 DB に登録されている案件を編集する。
	jssitementry	案件管理 DB に案件を登録する。
	jssitementrybyemail	案件管理 DB にメールによって案件を登録する。
	jssitemexportEx	JP1/Service Support に登録されている案件の情報を出力する。
	jssitemimport	案件管理 DB の案件を一括登録する。
	jssitemimportEx	案件管理 DB に関連情報および添付ファイルを含めた案件を、一括登録する。
	jssitemdeletion	案件管理 DB の案件を一括で削除待ち状態にする。 ^{*2}
	jssrev	案件管理 DB の案件の削除待ち状態を一括で解除する。
	jssdelrec	画面操作や jssitemdeletion コマンドで削除待ち状態とした案件情報, 画面操作で削除待ち状態とした対象システムやプロセスワークボードを, 案件管理 DB から完全に削除 ^{*2} する。
案件情報の通知	jssinformperiod	案件の作業期限をチェックして, 作業期限が近づいていれば担当者にメールで通知する。
	jssinformleave	案件の処理状況をチェックして, 滞留していると見なされたら担当者にメールで通知する。
案件の集計	jsscollectdata	案件の集計データを案件管理 DB に登録, または更新する。
ユーザーやロールのメンバー情報およびアクセス	jssuserlist	ユーザー情報を一覧で出力する。
	jssuseredit	ユーザー情報を編集する。

コマンドの種類	コマンド名	説明
権情報の追加, 編集, 削除および出力	jssuserimport	ユーザー情報を一括登録する。
	jssrolelist	ロール情報を一覧で出力する。
	jssmemberlist	ロールに所属しているメンバー情報を一覧で出力する。
	jssmemberdelete	ロールに所属しているメンバー情報を削除する。
	jssmemberimport	ロールにメンバー情報を一括登録する。
	jssroleimport	ロール情報を一括登録する。
	jssacllexport	アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を出力する。
	jssaclimport	アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を一括登録する。
案件管理 DB のメンテナンス	jssdbinit.bat ^{*1}	案件管理 DB および案件保存 DB を初期化する。
	jssdbroorg.bat ^{*1}	案件管理 DB を再編成する。
	jssdbreclaim.bat ^{*1}	案件管理 DB の空き領域を解放する。
	jssdbbackup.bat ^{*1}	案件管理 DB および案件保存 DB をバックアップする。
	jssdbrecovery.bat ^{*1}	バックアップデータを基に, 案件管理 DB および案件保存 DB をリカバリーする。
	jsshadbinit.bat ^{*1}	クラスタ環境用の共有ディスクにある案件管理 DB および案件保存 DB を初期化する。
	jsscreatesysandpwb	マスターシステムと一時受付プロセスワークボードを作成する。
	jssitemstore	案件管理 DB に登録されている案件を案件保存 DB に格納する。また, 案件保存 DB に保存した案件を案件管理 DB から削除する。
	jssitemcount	案件管理 DB および案件保存 DB に登録されている案件数を確認する。
	jssdbstatchk.bat	案件管理 DB および案件保存 DB の状態を確認する。

注※1

JP1/Service Support が用意する「JP1_SS コマンド プロンプト」から実行する必要があります。

注※2

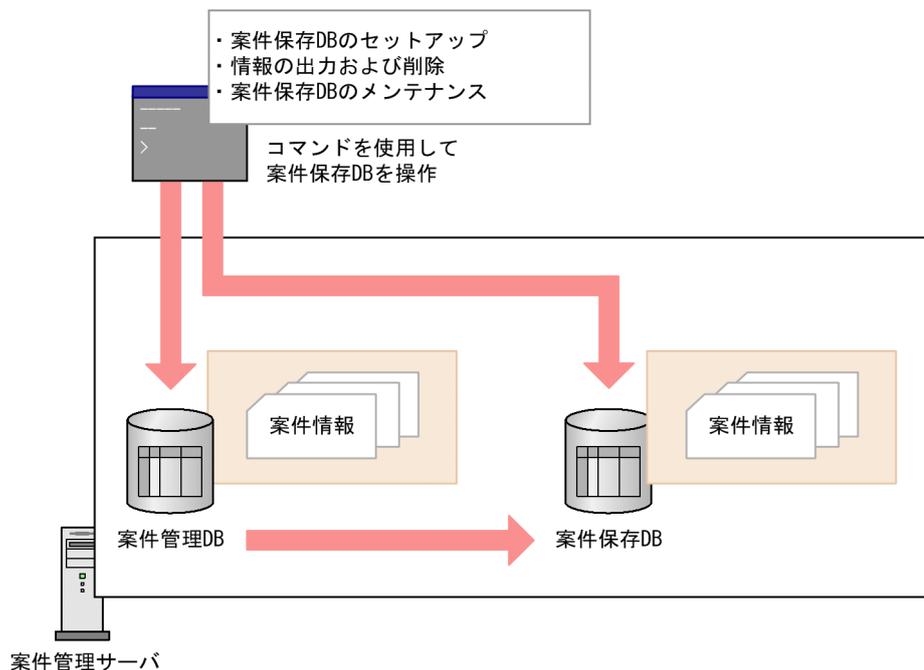
画面上での削除操作は, 画面に表示される情報を非表示にしたり, 画面での操作を制限したりするためのものです。また, jssitemdeletion コマンドは, 複数の案件を一括で削除待ち状態にするコマンドです。削除待ち状態となった情報は, 案件管理 DB には残ったままとなっています。案件管理 DB から該当する情報を完全に削除するには, jssdelrec コマンドを実行する必要があります。

各コマンドの詳細については, 「12. コマンド」を参照してください。なお, コマンドの中には, JP1/Service Support のサービスを一部停止してから実行する必要があるものがあります。これについては, 「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。

3.20.2 コマンドを使用した案件保存 DB の操作

コマンドを使って案件保存 DB を操作する機能の概要を次の図に示します。

図 3-50 コマンドを使用した案件保存 DB を操作する機能の概要



JP1/Service Support が案件保存 DB を操作するために用意しているコマンドを次の表に示します。

表 3-62 案件保存 DB を操作するためのコマンド

コマンドの種類	コマンド名	説明
セットアップ	jssitemstoredbsetup.bat	案件保存 DB をセットアップする。また、クラスタ環境用に案件保存 DB をセットアップする。
案件の情報の出力および削除	jssitemlist	JP1/Service Support に登録されている案件を一覧で出力する。
	jssitemhistory	JP1/Service Support に登録されている案件の履歴を出力する。
	jssitemexportEx	JP1/Service Support に登録されている案件の情報を出力する。
	jssstoreitemdel.bat	案件保存 DB に保存された案件を、保存エリア単位で削除する。
案件保存 DB のメンテナンス	jssdbinit.bat*	案件管理 DB および案件保存 DB を初期化する。
	jssdbbackup.bat*	案件管理 DB および案件保存 DB をバックアップする。
	jssdbrecovery.bat*	バックアップデータを基に、案件管理 DB および案件保存 DB をリカバリーする。
	jsshadbinit.bat*	クラスタ環境用の共有ディスクにある案件管理 DB および案件保存 DB を初期化する。
	jssitemstore	案件管理 DB に登録されている案件を案件保存 DB に格納する。また、案件保存 DB に保存した案件を案件管理 DB から削除する。

コマンドの種類	コマンド名	説明
案件保存 DB のメンテナンス	jssitemstoredbrotate	案件保存 DB のアクティブな保存エリアを切り替える。
	jssitemstoredbexpand.bat	案件保存 DB の容量を追加する。
	jssitemcount	案件管理 DB および案件保存 DB に登録されている案件数を確認する。
	jssdbstatchk.bat	案件管理 DB および案件保存 DB の状態を確認する。

注※

JP1/Service Support が用意する「JP1_SS コマンド プロンプト」から実行する必要があります。

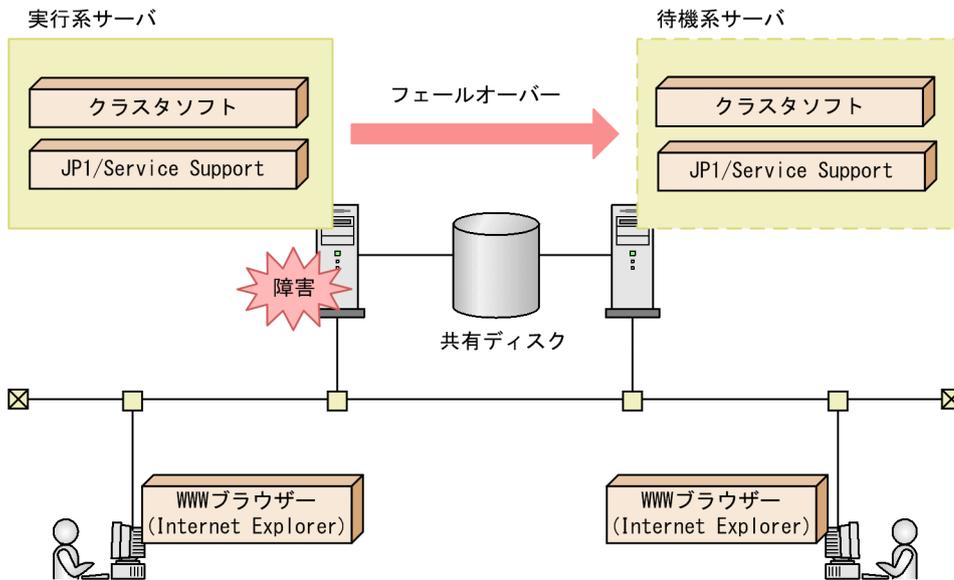
各コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」を参照してください。なお、コマンドの中には、JP1/Service Support のサービスを一部停止してから実行する必要があるものがあります。これについては、「[12. コマンド](#)」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。

3.21 クラスタシステムでの運用

JP1/Service Support は、クラスタシステムでの運用に対応します。JP1/Service Support をクラスタ運用することで、サーバ障害などが発生した場合でも実行系サーバから待機系サーバに処理を引き継いで、JP1/Service Support による運用を継続できます。

クラスタシステムで JP1/Service Support を運用する場合、次のような構成となります。

図 3-51 クラスタシステムでの JP1/Service Support の運用例



クラスタシステムでの運用の詳細、環境構築手順については、「10. クラスタシステムでの運用と環境構築」を参照してください。ここでは、フェールオーバー時の JP1/Service Support の動作と、実行系サーバ、待機系サーバで実行できるコマンドについてだけ説明します。

3.21.1 フェールオーバー時の JP1/Service Support の動作

実行系サーバの障害によって待機系サーバへフェールオーバーすると、クラスタソフトの制御によって、実行系サーバの JP1/Service Support のサービスがすべて停止し、待機系サーバの JP1/Service Support のサービスが起動します。この間、JP1/Service Support に接続していた WWW ブラウザー (Internet Explorer) では、ページを表示できない状態となります。

この場合、フェールオーバーの完了後、再度 JP1/Service Support にログインする必要があります。

3.21.2 実行系サーバ, 待機系サーバで実行できるコマンド

JP1/Service Support が提供するコマンドのうち, 待機系サーバ (JP1/Service Support が待機状態) で実行できるコマンドは, `jss_log.bat` コマンドだけです。そのほかのコマンドは, 次で説明する「JP1/IM からのコマンド実行」の場合を除き, 実行しないでください。

JP1/IM からのコマンド実行

JP1/IM からは, JP1/Service Support をクラスタ運用している, していないに関係なく, `jssitementry` コマンドだけ実行できます。

また, クラスタ運用の場合, JP1/Base が実行状態であれば, JP1/Service Support が待機状態であっても `jssitementry` コマンドを実行, JP1/Service Support に登録できます。クラスタ運用する場合の案件管理サーバでの JP1/Service Support, JP1/Base の構成については, 「[5.11.1\(3\) クラスタ運用での JP1/IM - Manager 連携](#)」を参照してください。

4

他製品との連携

この章では、JP1/Service Support と他製品が連携して実現できることについて説明します。

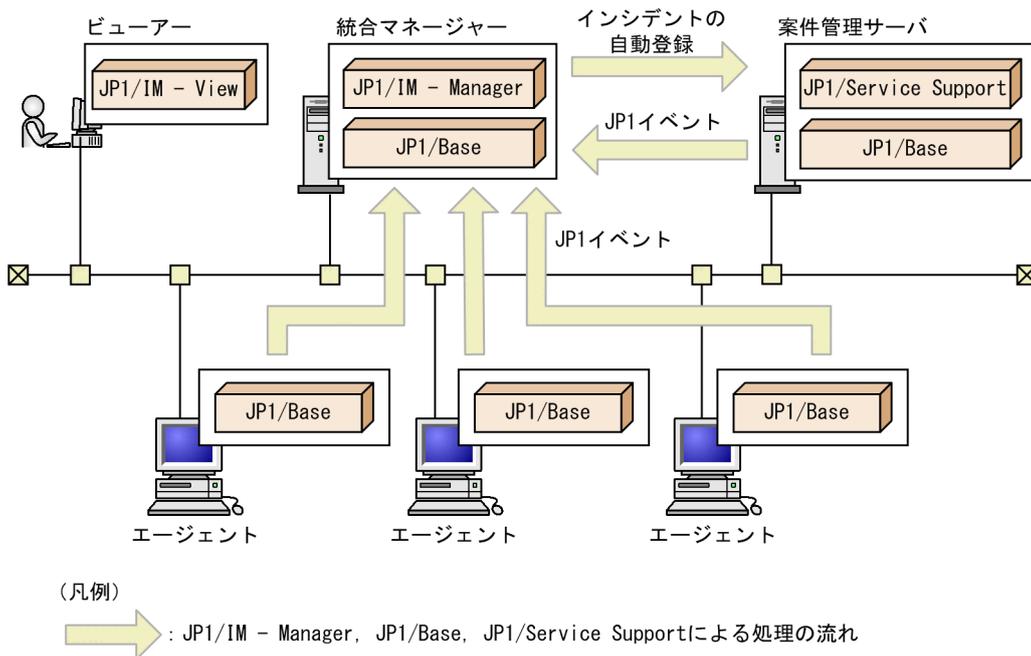
なお、他製品と連携する場合、JP1/Service Support 側での設定だけでなく、他製品側でも設定が必要になることがあります。他製品のマニュアルもあわせてお読みください。

4.1 JP1/IM - Manager との連携

JP1/Service Support は、JP1/IM - Manager と連携することで、JP1/IM - Manager が管理する JP1 イベントを JP1/Service Support のインシデント（案件）として自動登録できます。また、JP1/IM - Manager から自動登録された案件がクローズしたときに、JP1/Service Support から JP1 イベントを発行して、自動アクション経由で対処状況を「対処済」に変更することができます。さらに、案件のステータスが変更されたときに、案件情報を格納した JP1 イベントを発行して、JP1/IM - Manager 側で定義された自動アクションを実行することもできます。

JP1/IM - Manager 連携の概要を次の図に示します。

図 4-1 JP1/IM - Manager 連携の概要



エージェント上で発生した JP1 イベントを統合マネージャーの JP1/IM - Manager で集中管理します。JP1/IM - Manager は、インシデントとして管理が必要な JP1 イベントの発生を契機に、JP1/Service Support に対してインシデントを自動登録します。

JP1 イベントをインシデントとして自動登録するには、JP1/IM - Manager の自動アクション機能を利用します。

また、自動登録されたインシデント（案件）のステータスが「クローズ」に変更されたとき、案件の登録・編集時に案件のステータスが変更されたときなどには、JP1/Service Support から JP1 イベントを発行します。

4.1.1 自動アクションによる案件の自動登録

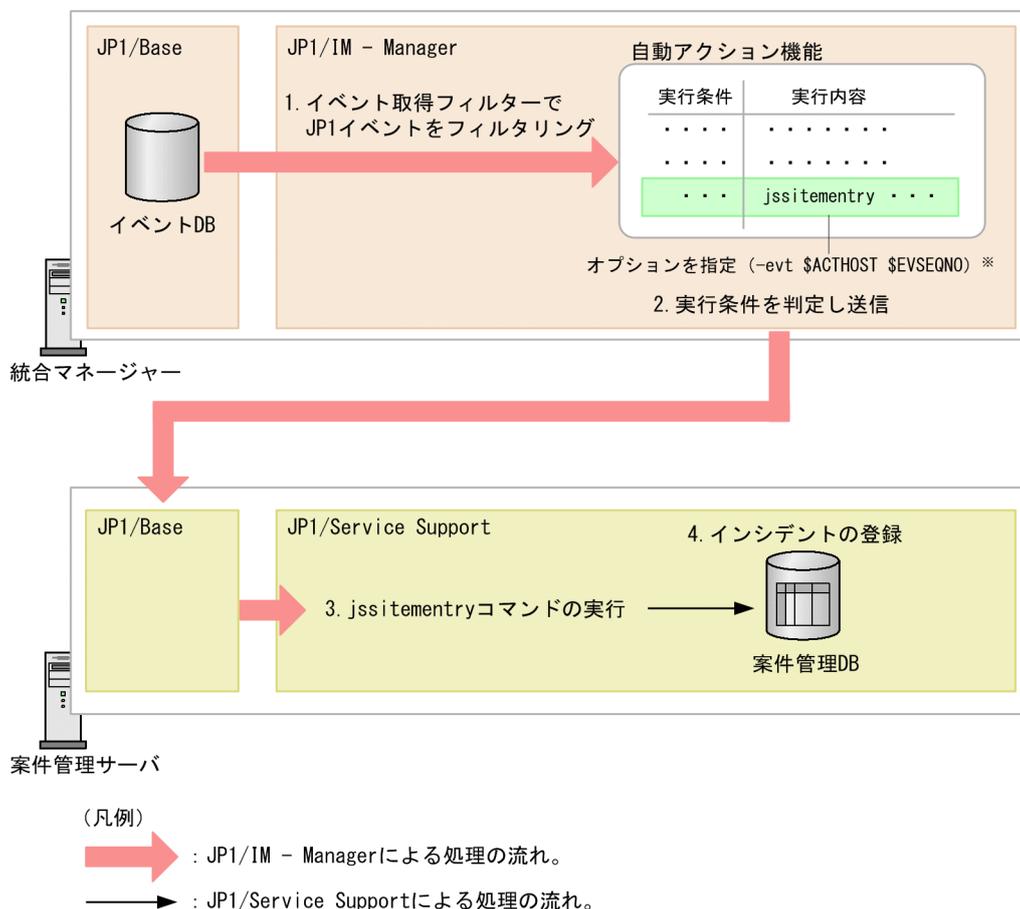
JP1/IM - Manager は、同ホスト上の JP1/Base から JP1 イベントを取得します。取得した JP1 イベントの中に、自動アクションの実行条件に合致する JP1 イベントがあった場合、自動アクションの実行内容に従ってコマンドを自動実行します。自動アクションの実行条件や実行内容は、JP1/IM - Manager で定義します。

JP1/Service Support は、この JP1/IM - Manager の機能を利用して `jsitementry` コマンドを自動実行し、案件管理 DB にインシデントを登録します。

`jsitementry` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jsitementry \(案件登録\)](#)」を参照してください。

JP1/IM - Manager の自動アクションを利用して、JP1/Service Support の案件管理 DB にインシデントを登録するまでの処理を次の図に示します。

図 4-2 自動アクションによるインシデントの登録処理



注※

必要に応じて、JP1/IM - Managerのホスト名とイベントDB内通し番号を指定できます。

図中の番号に従って説明します。

1. JP1/IM - Manager は、統合マネージャーの JP1/Base のイベント DB に登録された JP1 イベントを、イベント取得フィルターによってフィルタリングした状態で JP1 イベントを取得します。
2. JP1/IM - Manager の自動アクション機能は、取得した JP1 イベントが自動アクションの実行条件に合致するかを判定します。合致する JP1 イベントがあった場合、実行内容に従って実行先ホストにコマンド（アクション）の実行要求を送信します。
なお、ここでは案件管理サーバに対し、jssitementry コマンドの実行要求を送信しています。
自動登録された案件のステータスが「クローズ」に変更されたときに JP1/Service Support から JP1 イベントを受け取るには、jssitementry コマンドの -evt オプションの引数に JP1/IM - Manager のホスト名とイベント DB 内通し番号を指定しておく必要があります。
3. 統合マネージャーからの実行要求を受けて、案件管理サーバで jssitementry コマンドが実行されます。
4. 案件管理 DB にインシデントが登録されます。

メモ

自動アクションの実行先ホストになれるのは、JP1/IM - Manager の構成管理下のホストだけです。あらかじめ案件管理サーバを JP1/IM - Manager の管理対象ホストに指定しておく必要があります。

次に自動アクションの実行条件、実行内容について概略を説明します。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」、およびマニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」を参照してください。

(1) 自動アクションの実行条件

JP1/IM - Manager では、自動アクションを実行する条件として、JP1 イベントの ID やメッセージ、JP1 イベントの属性値を指定できます。この指定した内容を基に、JP1/IM - Manager では自動アクションを実行するかどうかを判定しています。

JP1/Service Support に自動アクションを実行する場合、正常運用を妨げる事象の発生を通知する JP1 イベントを実行条件に指定します。

(2) 自動アクションの実行内容

JP1/IM - Manager では、自動アクションの実行内容として、実行先や実行コマンド（アクション）、実行ユーザーなどを指定できます。この指定した内容を基に、JP1/IM - Manager では自動アクションを実行します。

JP1/IM - Manager と連携して JP1/Service Support にインシデントを自動登録する場合、実行先に案件管理サーバ名、実行コマンドとして jssitementry コマンドを指定します。

目録 メモ

jssitementry コマンドの引数には、JP1/IM - Manager の機能によって JP1 イベントの属性情報を埋め込みます。例えば、重大度を指定する -s オプションの値を「\$EVSEV」と指定すると、JP1 イベントの重大度に合わせて JP1/Service Support に登録される案件項目の重大度の値が変わります。

4.1.2 自動アクションを利用した JP1 製品とのイベント連携

各 JP1 製品は、自身の起動・終了や障害発生などの際、JP1 イベントを発行しています。JP1/Service Support は、これらの JP1 イベントの情報を、JP1/IM - Manager を介して受け取ることで、JP1 製品と連携できます。

JP1/Service Support では JP1 製品と連携するために、インシデント管理、問題管理の案件フォームに次の表に示す案件項目を用意しています。

表 4-1 JP1 連携用の案件項目

項目※	説明
プロダクト名 (-jp1)	JP1 製品用の共通項目。 JP1 イベントを発行したプロダクト名を指定する。JP1 イベント発行元製品の判別に利用する。
ジョブネット名 (-jobnet)	JP1/AJS 用の項目。 JP1/AJS のジョブネット名を指定する。どのジョブネットで障害が発生したかの判別に利用する。
ジョブ名 (-job)	JP1/AJS 用の項目。 JP1/AJS のジョブ名を指定する。どのジョブで障害が発生したかの判別に利用する。
SNMP ソース (-snmp)	JP1/NNMi または HP NNMi 用の項目。 JP1/Base の SNMP トラップ変換機能で発行された JP1 イベントの SNMP トラップの発生ソース名を指定する。どの SNMP ソースで障害が発生したかの判別に利用する。
監視ノード名 (-node)	JP1/IM - Manager の統合スコープ機能用の項目。 JP1/IM - Manager の統合スコープ機能で定義した監視ノード名を指定する。どの監視ノードで障害が発生したかの判別に利用する。
アラーム名 (-alarm)	JP1/PFM - Web Console 用の項目。 JP1/PFM - Web Console が発行する JP1 イベントのアラーム名を指定する。しきい値監視をしているリソースの、どのリソースで障害が発生したかの判別に利用する。
JP1/IM - Manager ホスト名、イベント DB 内通し番号 (-evt)	JP1/Service Support から JP1 イベントを発行するための項目。 自動登録された案件と関連する JP1 イベントの、JP1/IM - Manager のホスト名とイベント DB 内通し番号を指定する。

注※

() 内の値は、jssitementry コマンドのオプション値です。自動アクションの実行内容として jssitementry コマンドを指定する際、引数として指定します。

JP1 製品が発行する JP1 イベントの情報を、JP1/Service Support が案件として受け取るため、JP1/IM - Manager 側でどのように自動アクションを定義するかについては、「5.11.1(1) JP1 製品と連携する場合の自動アクション定義例」を参照してください。また、JP1/Service Support から JP1 イベントを発行して JP1/IM - Manager と連携するため、JP1/IM - Manager 側でどのように自動アクションを定義するかについては、「5.11.1(2) JP1/Service Support から JP1 イベントを発行する場合の自動アクション定義例」を参照してください。

4.1.3 案件のステータス変更に応じた JP1 イベントの対処状況の変更

JP1/Service Support では、次に示す場合に JP1 イベントを発行して JP1/IM - Manager に通知します。

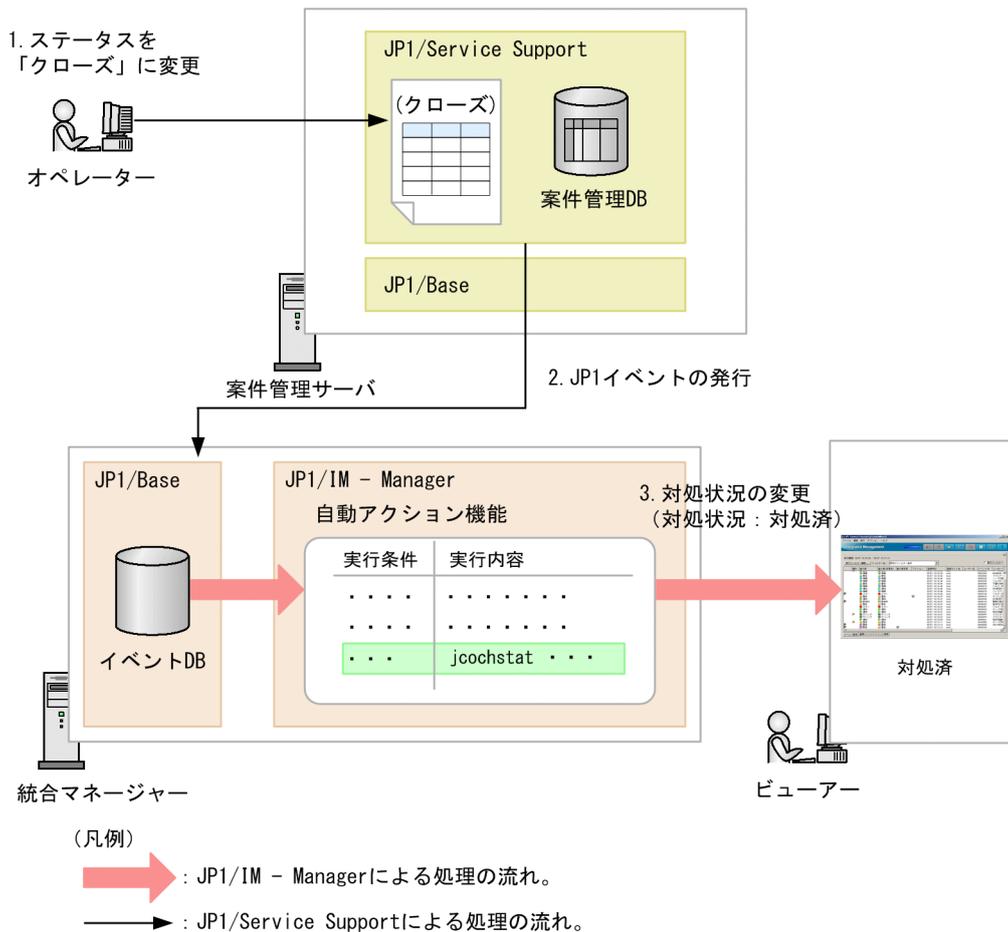
- JP1/IM - Manager の自動アクションによって自動登録されたインシデント（案件）、または JP1/IM - View 連携で登録したインシデント（案件）のステータスが [案件編集] 画面で「クローズ」に変更された場合。
- JP1/IM - Manager の自動アクションによって自動登録されたインシデント（案件）、または JP1/IM - View 連携で登録したインシデント（案件）のステータスが案件の一括操作で「クローズ」に変更された場合。

jssitemedit コマンドでステータスを「クローズ」に変更しても JP1 イベントは発行されません。この JP1 イベントを受け取った JP1/IM - Manager は、自動アクションを実行して対処状況を「対処済」に変更します。

なお、JP1/IM - Manager が JP1 イベントを受け取ったり、対処状況を「対処済」に変更したりするには、あらかじめ JP1/IM - Manager 側で定義しておく必要があります。

案件のステータスが「クローズ」に変更されたときに、JP1/IM - Manager の自動アクションを利用して、JP1 イベントの対処状況を「対処済」に変更するまでの処理を次の図に示します。

図 4-3 自動アクションによる対処状況の変更



図中の番号に従って説明します。

1. JP1/Service Support のオペレーターは、統合マネージャーからの要求を受けて自動登録された案件のステータスを「クローズ」に変更します。
 案件が JP1/IM - Manager から登録されたのか、JP1/Service Support の画面から登録されたのかを区別するためには、案件フォームをカスタマイズして「イベント DB 内通し番号」と「JP1/IM - Manager のホスト名」を参照できるように設定しておく必要があります。案件フォームのカスタマイズについては、「13. 定義ファイル」の「案件フォーム定義ファイル (任意)」を参照してください。
2. JP1/Service Support から JP1 イベントを発行する設定がされている場合は、JP1 イベント (JP1/IM - Manager のホスト名とイベント DB 内通し番号) が、統合マネージャーの JP1/Base のイベント DB に発行されます。
3. JP1/IM - Manager の自動アクション機能は、受け取った JP1 イベントに対応する JP1 イベントの対処状況を「対処済」に変更します。

注意事項

この JP1 イベントは、JP1/IM - Manager から自動登録された元の案件、または JP1/IM - View 連携で登録した元の案件のステータスが「クローズ」に変更されたときにだけ発行されます。エスカレーション先を指定して別のプロセスワークボードに登録した案件を「クローズ」に変更しても、JP1 イベント

ントは発行されないのでご注意ください。案件が、エスカレーションされていない元の案件かどうかは、プロセス間 ID のハイフン (-) 以降の値が「01」であるかどうかで確認できます。

4.1.4 JP1 イベントによるステータス変更の通知と自動アクション

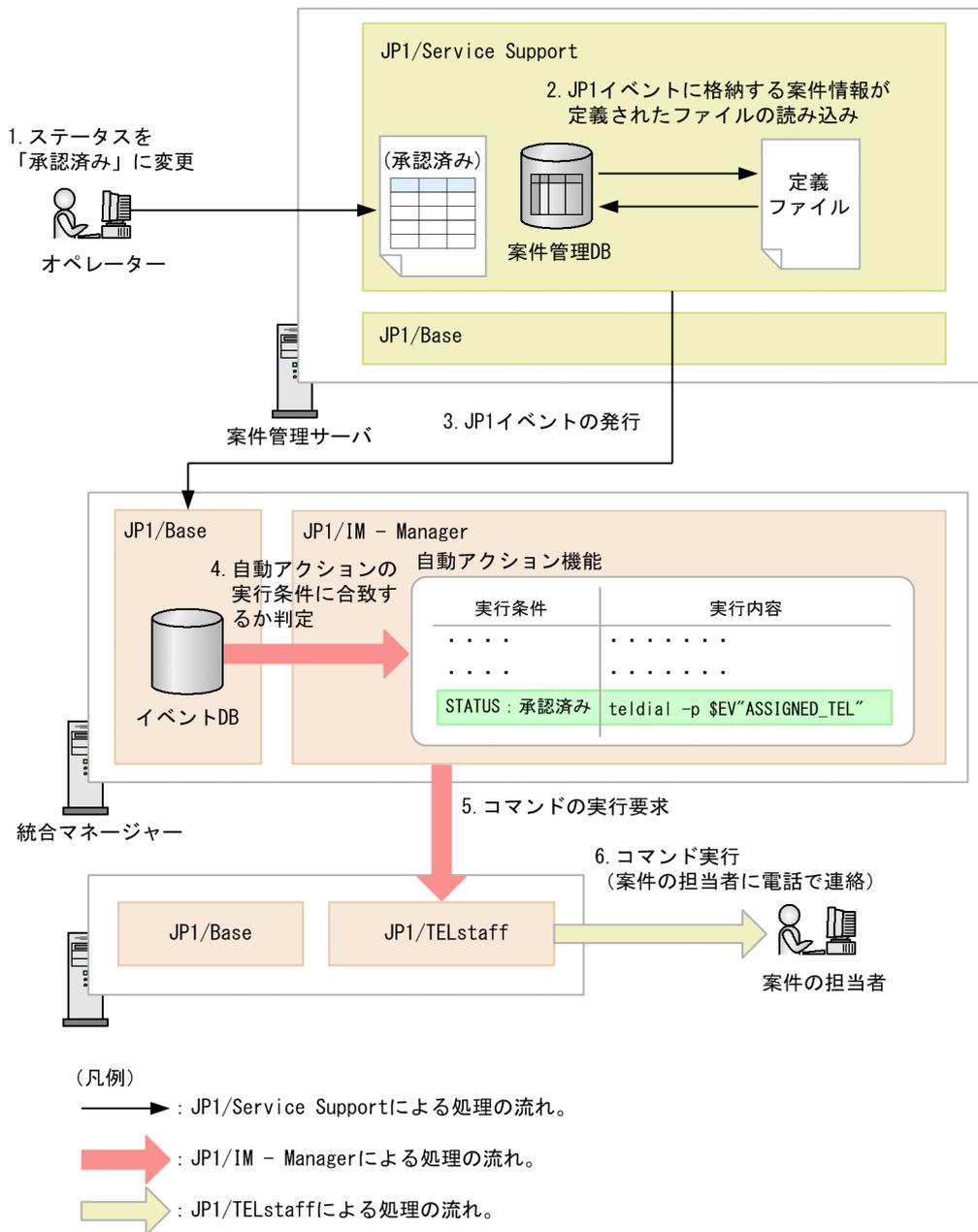
案件のステータスが変更されたとき、JP1/Service Support は JP1 イベントを発行して、JP1/IM - Manager にステータスの変更を通知します。JP1 イベントは [案件作成] 画面で案件を登録した場合、[案件編集] 画面で案件を編集した場合、または案件の一括操作で案件のステータスを編集した場合に、案件のステータスが JP1 イベントを発行する設定であるときに発行されます。コマンドを使って案件を登録または編集した場合には、JP1 イベントは発行されません。JP1/IM - Manager はこの通知 (JP1 イベント) を受け取って、さまざまな自動アクションを実行できます。

どのような条件の案件がどのようなステータスに変更されたときに、どのような自動アクションを実行するかは、あらかじめユーザーが定義しておく必要があります。

JP1 イベントを発行する契機となる案件のステータス (「調査中」, 「承認済み」, 「クローズ」など), および JP1 イベントに格納する案件情報 (プロセスワークボード名, 優先度, 担当者の電話番号など) については、JP1/Service Support 側で指定します。それぞれのステータスに応じて実行する自動アクションについては、JP1/IM - Manager 側で定義します。

案件のステータスが「承認済み」に変更されたときに、JP1/IM - Manager の自動アクションを利用して、案件の担当者へ電話で連絡するまでの処理を次の図に示します。

図 4-4 ステータス変更通知による自動アクション



図中の番号に従って説明します。

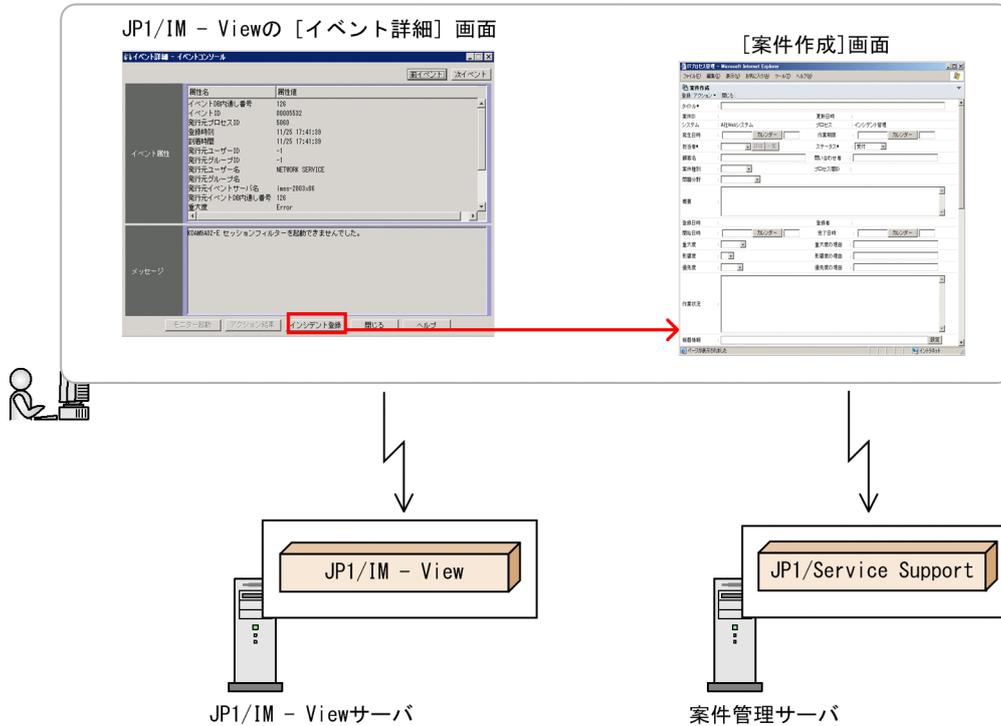
1. JP1/Service Support のオペレーターは、JP1/Service Support の案件が承認されると、ステータスを「承認済み」に変更します。
2. JP1/Service Support は、JP1 イベントに格納する案件を定義したステータス変更 JP1 イベント定義ファイルを読み込み、案件管理 DB から JP1 イベントに格納する案件情報を取得します。
3. 案件情報を格納した JP1 イベントが、統合マネージャーの JP1/Base のイベント DB に発行されます。
4. JP1/IM-Manager の自動アクション機能は、受け取った JP1 イベントが自動アクションの実行条件に合致するかを判定します。
5. 合致する場合、実行内容に従って実行先ホストにコマンド（アクション）の実行要求を送信します。

6. JP1/TELstaff の teldial コマンドを実行して、案件の担当者に案件が承認されたことを電話で連絡します。

4.2 JP1/IM - View との連携

JP1/Service Support は、JP1/IM - View と連携することで、JP1/IM - View の画面から JP1/Service Support の画面を呼び出し、案件を登録できます。

図 4-5 JP1/IM - View 連携の概要



JP1/IM - View のインシデント手動登録定義ファイル (incident.conf) に登録された情報から JP1/Service Support の [案件作成] 画面を呼び出せます。

4.2.1 JP1/IM - View からの案件登録

JP1/IM - View のインシデント手動登録定義ファイル (incident.conf) に JP1/Service Support の URL とインシデントの登録モードを設定することで、JP1/Service Support の [案件作成] 画面を起動できるようになります。そのため、JP1/IM - View から JP1/Service Support に案件を登録できるようになります。

JP1/IM - View から JP1/Service Support の [案件作成] 画面を起動させる手順について次に示します。

1. JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面から [インシデント登録] ボタンをクリックする。

JP1/Service Support の [登録先プロセスワークボード選択] 画面が表示されます。

なお、次に示す場合、JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面から [インシデント登録] ボタンをクリックすると、JP1/Service Support のログイン画面が表示されます。

- JP1/IM - View を操作しているユーザーが、JP1/Service Support のユーザーとして登録されていない。

- JP1/IM - View を操作しているユーザーのパスワードが、JP1/Service Support と JP1/IM - View で異なる。

JP1/Service Support のログイン画面が表示された場合、JP1/Service Support に登録されているユーザー ID およびパスワードを入力すると、[登録先プロセスワークボード選択] 画面が表示されます。

JP1/Service Support のログイン画面を表示しないで [登録先プロセスワークボード選択] 画面を表示するには、JP1/IM - View を操作しているユーザーを、JP1/Service Support に登録してください。登録する際、ユーザー ID とパスワードは、JP1/IM - View と同じにしてください。

2. JP1/Service Support の [登録先プロセスワークボード選択] 画面から、案件を登録したいプロセスワークボードを選択し、[OK] ボタンをクリックする。

JP1/Service Support の [案件作成] 画面が表示されます。

JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面から引き継がれる情報は、JP1/IM - Manager のインシデント手動登録定義ファイル (incident.conf) で設定しているインシデントの登録モード (SS_MODE) によって異なります。

インシデントの登録モードが 1 または 2 の場合は、JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面から引き継がれる項目と引き継ぎ先となる案件項目は固定です。詳細については、「[4.2.2 特定の JP1 イベントの属性をインシデントとして引き継ぐ](#)」を参照してください。

インシデントの登録モードが 3 の場合は、JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面から任意の JP1 イベントの属性や文字列を引き継ぐことができます。詳細については、「[4.2.3 任意の JP1 イベントの属性や文字列をインシデントとして引き継ぐ](#)」を参照してください。

インシデントの登録モードの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」、およびマニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」を参照してください。

(1) JP1/IM - View から案件登録する場合のバージョンの組み合わせ

JP1/IM - View から案件登録する場合のバージョンの組み合わせを次の表に示します。

表 4-2 JP1/IM - View から案件登録する場合のバージョンの組み合わせ (JP1/IM - View と JP1/Service Support の接続性)

JP1/IM - View のバージョン	インシデントの登録モード	JP1/Service Support のバージョン※1		
		09-50~10-00	10-10~11-10	11-50 以降
09-10 以前	—	—	—	—
09-50~10-00	1	○	○	○
10-10~11-10	1	○	○	○
	2	△※2	○	○
11-50 以降	1	○	○	○

JP1/IM - View のバージョン	インシデントの登録モード	JP1/Service Support のバージョン※1		
		09-50~10-00	10-10~11-10	11-50以降
11-50以降	2	△※2	○	○
	3	△※3	△※3	○

(凡例)

○：指定したモードでインシデント登録ができる

△：指定したモードが設定されるが、[案件作成]画面で表示される項目は指定したモードと異なる

－：JP1/IM - View との連携機能がない

注※1

バージョン 11-00 より前の製品名称は「JP1/Integrated Management - Service Support」です。

注※2

JP1/IM - View はインシデント登録モードが2の場合のURLでWWWブラウザを起動します。ただし、WWWブラウザ起動後の[案件作成]画面に引き継がれる項目は、インシデント登録モードが1の場合に引き継がれる項目だけになります。イベントID (B.IDBASE) は引き継がれません。

注※3

JP1/IM - View はインシデント登録モードが3の場合のURLでWWWブラウザを起動します。ただし、WWWブラウザ起動後の[案件作成]画面に引き継がれる項目は、イベントDB内通し番号 (B.SEQNO) とJP1/IM - View でログインしているJP1/IM - Managerのホスト名だけになります。任意のJP1イベントの属性や文字列は引き継がれません。

4.2.2 特定のJP1イベントの属性をインシデントとして引き継ぐ

インシデントの登録モードが1または2の場合、特定のJP1イベントの属性をインシデントとして引き継ぐことができます。

インシデントの登録モードが1または2の場合に、JP1/IM - Viewの[イベント詳細]画面から引き継がれる情報を次の表に示します。

表 4-3 JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面から引き継がれる情報 (インシデントの登録モードが1または2の場合)

引き継ぎ元の項目	引き継ぎ先の案件項目
イベントDB内通し番号 (B.SEQNO) ※1	JP1 イベントDB通し番号 (JIMSD_FORM_IMEVENTNO)
JP1/IM - View でログインしているJP1/IM - Managerのホスト名※1	JP1/IM - Managerのホスト名 (JIMSD_FORM_IMHOSTNAME)
メッセージ (B.MESSAGE)	概要 (JIMSD_FORM_SUMMARY)
JP1/IM - Managerの発生元ホストのマッピングが無効の場合 発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)	

引き継ぎ元の項目	引き継ぎ先の案件項目
JP1/IM - Manager の発生元ホストのマッピングが有効の場合 発生元ホスト名 (E.JP1_SOURCEHOST)	概要 (JIMSD_FORM_SUMMARY)
イベント ID (B.IDBASE) ※2	
重大度 (E.SEVERITY)	重大度 (JIMSD_FORM_SEVERITYCODE)
プロダクト名 (E.PRODUCT_NAME)	プロダクト名 (JIMSD_FORM_JP1PRODUCTNAME)

注※1 イベント DB 内通し番号 (B.SEQNO) および JP1/IM - View でログインしている JP1/IM - Manager のホスト名は、[案件作成] 画面に項目が表示されていなくても、案件の情報として情報が引き継がれます。そのほかの項目は、[案件作成] 画面に項目が表示されていないと、情報が引き継がれません。

注※2 インシデントの登録モードが 1 の場合は、イベント ID (B.IDBASE) は引き継がれません。

JP1/IM - View から案件を登録する場合、引き継ぎ先の案件項目の表示名称を変更していても、情報は引き継がれます。表示名称を変更する場合は、完全に意味の異なる名称に編集しないでください。

重大度 (E.SEVERITY) は重大度 (JIMSD_FORM_SEVERITYCODE) として引き継ぎます。引き継ぎ元の重大度 (E.SEVERITY) と引き継ぎ先の重大度 (JIMSD_FORM_SEVERITYCODE) の選択肢コードの関係を次の表に示します。

表 4-4 引き継ぎ元の重大度と引き継ぎ先の重要度の選択肢コードの関係

引き継ぎ元の重大度	引き継ぎ先の重大度の選択肢コード
緊急	1
警戒	2
致命的	3
エラー	4
警告	5
通知	6
情報	7
デバッグ	8

案件フォームをカスタマイズして、重大度 (JIMSD_FORM_SEVERITYCODE) の選択肢コードに対応する選択肢コード表示名を変更した場合、重大度 (E.SEVERITY) が意図した情報で正しく重大度 (JIMSD_FORM_SEVERITYCODE) に引き継がれません。

例えば、選択肢コード「1」に対応する選択肢コード表示名を「情報」と定義した場合、重大度 (E.SEVERITY) 「緊急」の情報が、重大度 (JIMSD_FORM_SEVERITYCODE) 「情報」として引き継がれます。

4.2.3 任意の JP1 イベントの属性や文字列をインシデントとして引き継ぐ

インシデントの登録モードが3の場合、任意の JP1 イベントの属性や文字列をインシデントとして引き継ぐことができます。JP1 イベントの属性や文字列を JP1/Service Support のどの案件項目に引き継ぐかは、JP1/IM - View のインシデント引き継ぎ情報設定ファイル (incident_info.conf) に定義します。

インシデントの登録モードが3の場合に、JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面から引き継がれる情報を次の表に示します。

表 4-5 JP1/IM - View の [イベント詳細] 画面から引き継がれる情報 (インシデントの登録モードが3の場合)

引き継ぎ元の項目	引き継ぎ先の案件項目
任意の JP1 イベントの属性	任意の案件項目
任意の文字列	任意の案件項目
イベント DB 内通し番号 (B.SEQNO) ※	JP1 イベント DB 通し番号 (JIMSD_FORM_IMEVENTNO)
JP1/IM - View でログインしている JP1/IM - Manager のホスト名※	JP1/IM - Manager のホスト名 (JIMSD_FORM_IMHOSTNAME)

注※ イベント DB 内通し番号 (B.SEQNO) および JP1/IM - View でログインしている JP1/IM - Manager のホスト名は、[案件作成] 画面に項目が表示されていなくても、案件の情報として情報が引き継がれます。そのほかの項目は、[案件作成] 画面に項目が表示されていないと、情報が引き継がれません。

(1) 指定できる案件項目

インシデント引き継ぎ情報設定ファイル (incident_info.conf) に、引き継ぎ先の案件項目として指定できる案件項目指定 ID を次の表に示します。なお、インシデント引き継ぎ情報設定ファイル (incident_info.conf) の定義内容については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」を参照してください。

表 4-6 引き継ぎ先の案件項目として指定できる案件項目指定 ID

項目名 (デフォルト表示名)	案件フォーム項目 ID	案件項目指定 ID	型	制限値 (バイト)	
				下限	上限
タイトル	JIMSD_FORM_TITLE	TITLE	text	1	512
重大度	JIMSD_FORM_SEVERITYCODE	SEVERITYCODE	code	—	—
重大度の理由	JIMSD_FORM_SEVERITYREASON	SEVERITYREASON	text	0	512
影響度の理由	JIMSD_FORM_IMPACTREASON	IMPACTREASON	text	0	512
優先度の理由	JIMSD_FORM_PRIORITYREASON	PRIORITYREASON	text	0	512

項目名 (デフォルト表示名)	案件フォーム項目 ID	案件項目指定 ID	型	制限値 (バイト)		
				下限	上限	
発生日時	JIMSD_FORM_ACCRUALDATE	ACCRUALDATE	datetime	—	—	
作業期限	JIMSD_FORM_DEADLINE	DEADLINE	datetime	—	—	
開始日時	JIMSD_FORM_STARTDATE	STARTDATE	datetime	—	—	
完了日時	JIMSD_FORM_COMPDATE	COMPDATE	datetime	—	—	
顧客名	JIMSD_FORM_CUSTOMENAME	CUSTOMERNAME	text	0	1,024	
問い合わせ者	JIMSD_FORM_INQUIRYNAME	INQUIRYNAME	text	0	255	
影響業務	JIMSD_FORM_EFFECTSERVICE	EFFECTSERVICE	textarea	0	255	
問題個所とバージョン	JIMSD_FORM_FAILURELOCATION	FAILURELOCATION	textarea	0	1,024	
関連情報※1	表示名	JIMSD_FORM_LINKURL	LINKURLDISP	url	0	255
		関連情報	LINKURL		0	4,096
概要	JIMSD_FORM_SUMMARY	SUMMARY	textarea	0	2,048	
回避策	JIMSD_FORM_AVOIDANCE	AVOIDANCE	textarea	0	4,096	
作業状況	JIMSD_FORM_SITUATION	SITUATION	textarea	0	4,096	
再発防止のための考察	JIMSD_FORM_MEASURES	MEASURES	textarea	0	4,096	
根本原因	JIMSD_FORM_ROOTCAUSE	ROOTCAUSE	textarea	0	4,096	
解決策	JIMSD_FORM_SOLUTION	SOLUTION	textarea	0	4,096	
スケジュール, 手順概要	JIMSD_FORM_SCHEDULE	SCHEDULE	textarea	0	4,096	
変更の影響評価	JIMSD_FORM_IMPACTEVAL	IMPACTEVAL	textarea	0	4,096	
審議結果	JIMSD_FORM_DELIBERATIONRST	DELIBERATIONRST	textarea	0	2,048	
フリー記入欄	JIMSD_FORM_FREEDESCRIPTION	FREEDESCRIPTION	textarea	0	4,096	
プロダクト名	JIMSD_FORM_JP1PRODUCTNAME	JP1PRODUCTNAME	text	0	1,024	
ジョブネット名	JIMSD_FORM_JP1JOBNETNAME	JP1JOBNETNAME	text	0	1,024	
ジョブ名	JIMSD_FORM_JP1JOBNAME	JP1JOBNAME	text	0	1,024	

4. 他製品との連携

項目名 (デフォルト表示名)	案件フォーム項目 ID	案件項目指定 ID	型	制限値 (バイト)		
				下限	上限	
SNMP ソース	JIMSD_FORM_JP1SNMP SRC	JP1SNMP SRC	text	0	1,024	
監視ノード名	JIMSD_FORM_JP1NODENAM E	JP1NODENAME	text	0	255	
アラーム名	JIMSD_FORM_JP1ALARMNA ME	JP1ALARMNAME	text	0	255	
ユーザ追加テキスト 項目	JIMSD_FORM_USERTEXT01 ~ JIMSD_FORM_USERTEXT05	USERTEXT01 ~ USERTEXT05	text または textarea	0	4,096	
	JIMSD_FORM_USERTEXT06 ~ JIMSD_FORM_USERTEXT15	USERTEXT06 ~ USERTEXT15		0	2,048	
	JIMSD_FORM_USERTEXT16 ~ JIMSD_FORM_USERTEXT20	USERTEXT16 ~ USERTEXT20		0	512	
ユーザ追加日時項目	JIMSD_FORM_USERTIME01 ~ JIMSD_FORM_USERTIME05	USERTIME01 ~ USERTIME05	datetime	-	-	
ユーザ追加 リンク項目 ※2	表示名	JIMSD_FORM_REFINFO01 ~ JIMSD_FORM_REFINFO05	REFINFO_LINKURLDIS P01 ~ REFINFO_LINKURLDIS P05	url	0	255
		関連 情報	REFINFO_LINKURL01 ~ REFINFO_LINKURL05		0	4,096

(凡例)

- : 該当なし

注※1

関連情報は、表示名と関連情報をセットで一つだけ指定できます。

注※2

ユーザ追加リンク項目は、各案件フォーム項目 ID (JIMSD_FORM_REFINFO01~JIMSD_FORM_REFINFO05) に、表示名と関連情報をセットで一つだけ指定できます。

(2) 指定方法

インシデント引き継ぎ情報設定ファイル (incident_info.conf) の基本的な指定方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」を参照してください。

ここでは、JP1 イベントの登録時刻など日時のイベント属性を引き継ぐ場合の指定例、および JP1/NP と連携する場合の指定例について説明します。

JP1 イベントの基本属性である「登録時刻 (TIME)」と「到着時刻 (ARRIVEDTIME)」を JP1/Service Support の datetime 型の案件項目に引き継ぐ場合は、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式で引き継ぎます。ただし、JP1/Service Support の案件項目の時刻を入力する項目には秒数を入力できないため、秒数は切り捨てます。JP1 イベントの「登録時刻 (TIME)」や「到着時刻 (ARRIVEDTIME)」を JP1/Service Support に引き継ぎたい場合は、インシデント引き継ぎ情報設定ファイル (incident_info.conf) に次のように指定します。

例：JP1 イベントの登録時刻を JP1/Service Support の案件項目「発生日時 (JIMSD_FORM_ACCRUALDATE)」に引き継ぐ場合

```
ACCRUALDATE=$EVDATE $EVTIME
```

なお、JP1 イベントの拡張属性である「開始時刻 (START_TIME)」と「終了時刻 (END_TIME)」には UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数が設定されるため、datetime 型の案件項目には引き継ぐことはできません。text 型、textarea 型の案件項目には引き継ぐことができます。

インシデントの登録モードが 2 のときと同様に JP1/NP と連携したい場合は、インシデント引き継ぎ情報設定ファイル (incident_info.conf) に次のように指定します。

例：JP1/IM - Manager の発生元ホストのマッピングが無効の場合

```
JP1PRODUCTNAME=$EV"PRODUCT_NAME"
SUMMARY=$EVMSG¥nJP1 イベントの発生ホスト:$EVHOST¥nJP1 イベントのイベントID:$EVIDBASE
```

例：JP1/IM - Manager の発生元ホストのマッピングが有効の場合

```
JP1PRODUCTNAME=$EV"PRODUCT_NAME"
SUMMARY=$EVMSG¥nJP1 イベントの発生ホスト:$EV"JP1_SOURCEHOST"¥nJP1 イベントのイベントID:$EVIDBASE
```

(3) 注意事項

任意の JP1 イベントの属性や文字列をインシデントとして引き継ぐ場合の注意事項を次に示します。

- JP1/Service Support の案件項目には型があり、設定できる文字が決まっています。引き継ぎ元の項目と引き継ぎ先となる案件項目の型の整合性がとれるように設定してください。

案件項目の型ごとに設定できる文字と設定できる文字以外が引き継がれた場合の動作を次の表に示します。

表 4-7 設定できる文字と設定できる文字以外が引き継がれた場合の動作

案件項目の型	設定できる文字	設定できる文字以外が引き継がれた場合の動作
text	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	制御文字が改行のときは、改行を無視する。 制御文字が改行以外のときは、その制御文字が半角スペースに置換される。
textarea	制御文字 (0x00~0x09, 0x0B~0x1F, 0x7F) 以外の文字	改行以外の制御文字は半角スペースに置換される。

案件項目の型	設定できる文字	設定できる文字以外が引き継がれた場合の動作
code※	<ul style="list-style-type: none"> Emergency Alert Critical Error Warning Notice Information Debug 	引き継がれた値を設定しない。
datetime	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列, または空文字	引き継がれた値を設定しない。
url	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	制御文字が改行のときは, 改行を無視する。 制御文字が改行以外のときは, その制御文字が半角スペースに置換される。

注※

code に設定できる文字の値は, 引き継ぎ先の重大度 (JIMSD_FORM_SEVERITYCODE) の選択肢コード (1~8) に対応します。[案件作成] 画面には, 選択肢コードに対応する選択肢コード表示名が表示されます。code に設定できる文字の値に対応する選択肢コードとデフォルトの選択肢コード表示名を次の表に示します。

code に設定できる文字	選択肢コード	デフォルトの選択肢コード表示名
Emergency	1	緊急
Alert	2	警戒
Critical	3	致命的
Error	4	エラー
Warning	5	警告
Notice	6	通知
Information	7	情報
Debug	8	デバッグ

- 案件フォームをカスタマイズして, 重大度 (JIMSD_FORM_SEVERITYCODE) の選択肢コードに対応する選択肢コード表示名を変更する場合, 重大度 (E.SEVERITY) が意図した情報で正しく重大度 (JIMSD_FORM_SEVERITYCODE) に引き継がれません。

例えば, 選択肢コード「1」に対応する選択肢コード表示名を「情報」と定義した場合, 重大度 (E.SEVERITY) 「緊急」の情報が, 重大度 (JIMSD_FORM_SEVERITYCODE) 「情報」として引き継がれます。

- 各案件項目に引き継がれる文字列の長さが, 各案件項目の上限より長い場合, [案件作成] 画面の [登録] ボタンをクリックしたときに, エラーとなります。ただし, 案件項目の型が「url」の場合は, 上限 (表示名: 255 バイト, 関連情報: 4,096 バイト) を超えた分を切り捨てて引き継ぎます。
- プロセスワークボードの案件自動入力機能を有効にしていた場合, JP1/IM - View 連携機能による案件作成時も案件自動入力機能は有効になります。JP1/IM - View からの情報の引き継ぎ先の案件項目

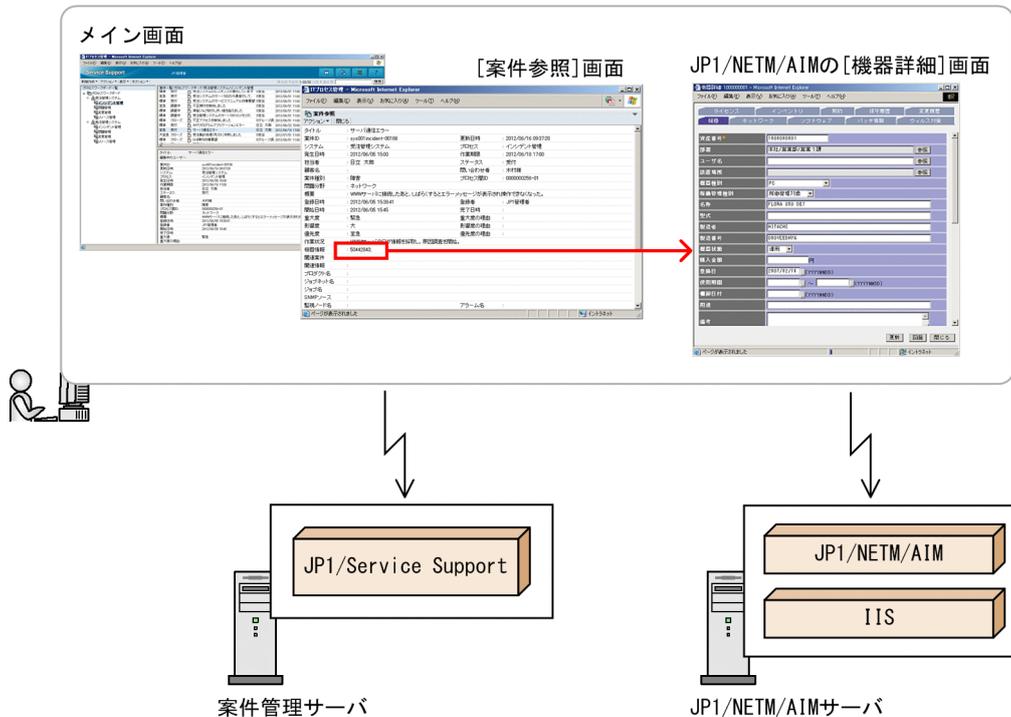
が、案件自動入力機能の対象となる案件項目だった場合、案件自動入力機能の値が優先されて設定されます。

4.3 JP1/NETM/AIM との連携

JP1/Service Support は、JP1/NETM/AIM と連携することで、JP1/Service Support の画面から JP1/NETM/AIM の画面を呼び出し、JP1/NETM/AIM が管理する機器情報を確認できます。

JP1/NETM/AIM 連携の概要を次の図に示します。

図 4-6 JP1/NETM/AIM 連携の概要



JP1/Service Support の [案件参照] 画面に表示される案件の項目「機器情報」に登録された情報から JP1/NETM/AIM の [機器詳細] 画面を呼び出せます。

4.3.1 JP1/NETM/AIM の管理する機器情報の表示

案件の項目「機器情報」に次の表に示す情報を設定することで、JP1/NETM/AIM の管理する機器情報を参照できるようになります。

表 4-8 JP1/NETM/AIM の管理する機器情報を参照するための設定

設定情報	説明
機器情報	JP1/NETM/AIM が管理する機器情報を指定する。
JP1/NETM/AIM サーバ	JP1/NETM/AIM がインストールされたサーバ名を指定する。 指定するには、あらかじめ JP1/NETM/AIM と連携するための環境設定をする必要がある。詳細については、「9.16.3 JP1/NETM/AIM と連携するための環境設定」を参照のこと。

設定情報	説明
種別	機器情報で指定した値の種別を設定する。次のどれかとなる。 <ul style="list-style-type: none"> • ホスト名 • IP アドレス • 資産番号

これらの情報は、案件の項目「機器情報」用の「リンク設定」画面で設定します。設定すると、「機器情報」に表示される情報にアンカーが設定されます。このアンカーをクリックすることで、JP1/NETM/AIMの「機器詳細」画面を呼び出し、機器情報の詳細を確認できます。

4.3.2 JP1/NETM/AIM への接続

JP1/NETM/AIM と連携する場合、JP1/Service Support 側で連携する JP1/NETM/AIM サーバ名を設定する必要があります。

JP1/Service Support 側の設定については、「9.14 定義ファイルによる環境設定」を参照してください。

JP1/NETM/AIM 側では、JP1/Service Support から接続できるよう、あらかじめ設定がされています。この設定の場合、JP1/Service Support の画面から JP1/NETM/AIM の画面を呼び出す際、JP1/NETM/AIM の「ログイン」画面が呼び出されます。この画面上で JP1/NETM/AIM に登録されているユーザー ID、パスワードを入力することで、「機器詳細」画面が呼び出せます。以降、JP1/Service Support の画面を閉じる（ログアウトする）までは、直接「機器詳細」画面を呼び出せるようになります。

また、JP1/NETM/AIM の設定を変更することで、接続の 1 回目から直接 JP1/NETM/AIM の「機器詳細」画面を呼び出せます。この場合には、JP1/NETM/AIM に登録されている JP1/Service Support 用のユーザーアカウント「サービスサポート管理者」のパスワードの設定が必要です。

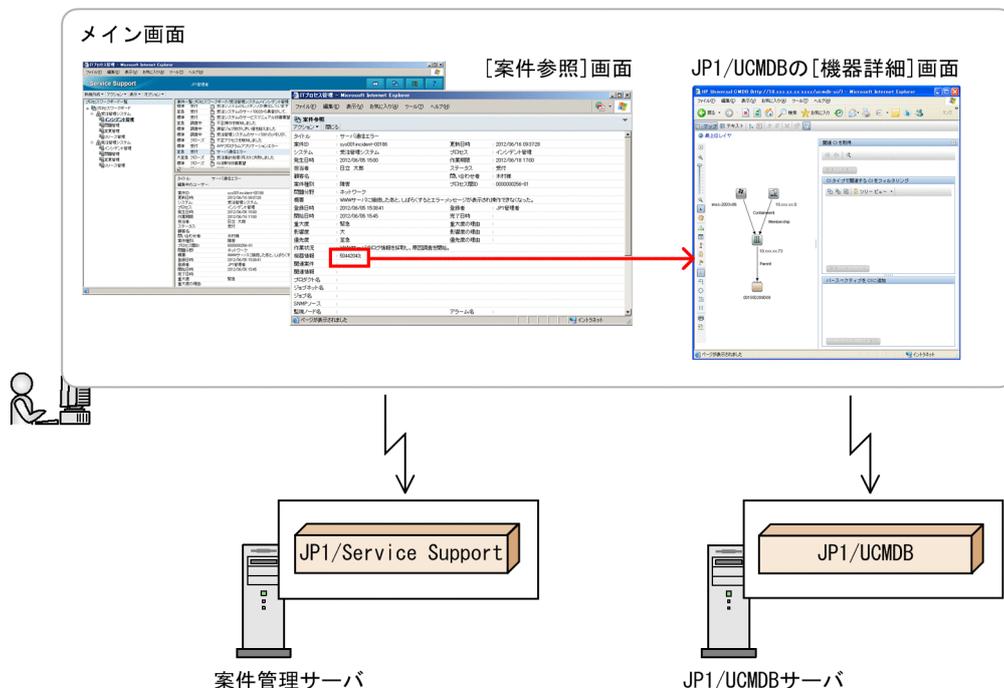
JP1/NETM/AIM 側の設定については、マニュアル「JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド」を参照してください。

4.4 JP1/UCMDB との連携

JP1/Service Support は、JP1/UCMDB と連携することで、JP1/Service Support の画面から JP1/UCMDB の画面を呼び出し、JP1/UCMDB が管理する機器情報を確認できます。

JP1/UCMDB 連携の概要を次の図に示します。

図 4-7 JP1/UCMDB 連携の概要



JP1/Service Support の [案件参照] 画面に表示される案件の項目「機器情報」に登録された情報から、JP1/UCMDB の機器詳細画面を呼び出せます。

4.4.1 JP1/UCMDB の管理する機器情報の表示

案件の項目「機器情報」に次の表に示す情報を設定することで、JP1/UCMDB の管理する機器情報を参照できるようになります。

表 4-9 JP1/UCMDB の管理する機器情報を参照するための設定

設定情報	説明
機器情報	JP1/UCMDB が管理する機器情報を指定する。
JP1/UCMDB サーバ	JP1/UCMDB がインストールされたサーバ名を指定する。 指定するには、あらかじめ JP1/UCMDB と連携するための環境設定をする必要がある。詳細については、「9.16.4 JP1/UCMDB と連携するための環境設定」を参照のこと。

設定情報	説明
種別	<p>機器情報で指定した値の種別を設定する。次のどれかとなる。ホスト名および IP アドレス以外のリソース（アプリケーションなど）とリンク設定する場合は、JP1/UCMDB の画面で ID を確認し、UCMDB ID として機器情報を設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホスト名 • IP アドレス • UCMDB ID

これらの情報は、案件の項目「機器情報」用の [リンク設定] 画面で設定します。設定すると、「機器情報」に表示される情報にアンカーが設定されます。このアンカーをクリックすることで、JP1/UCMDB の機器詳細画面を呼び出し、機器情報の詳細を確認できます。種別としてホスト名または IP アドレスを指定した場合、該当する機器情報が JP1/UCMDB に存在しないときは、「機器情報」に表示される情報にアンカーが設定されません。種別として UCMDB ID を指定した場合は、該当する機器情報が JP1/UCMDB に存在していなくても、「機器情報」に表示される情報にアンカーが設定されます。アンカーをクリックすると JP1/UCMDB の機器詳細画面が表示されますが、機器情報がない旨のメッセージが表示されます。

JP1/UCMDB への接続に失敗した場合、「機器情報」に表示される情報にアンカーが設定されません。

アンカーをクリックして、JP1/UCMDB の機器詳細画面を呼び出した場合、「凡例」を表示するタイミングで機器詳細画面が閉じてしまうことがあります。このとき、いったん凡例を閉じるためのボタンをクリックして「凡例」を閉じると機器詳細画面が表示されます。

参照する機器が複数存在する場合、機器選択画面が表示されます。機器選択画面で参照したい機器を選択することで、機器情報を参照できます。

4.4.2 JP1/UCMDB への接続

JP1/UCMDB と連携する場合、JP1/Service Support 側で連携する JP1/UCMDB サーバ名を設定する必要があります。

JP1/Service Support 側の設定については、「[9.14 定義ファイルによる環境設定](#)」を参照してください。

JP1/UCMDB 側では、JP1/Service Support から接続できるよう、あらかじめ設定されています。この設定の場合、JP1/Service Support の画面から JP1/UCMDB の画面を呼び出す際、JP1/UCMDB の [ログイン] 画面が呼び出されます。この画面上で JP1/UCMDB に登録されているユーザー ID、パスワードを入力することで、機器詳細画面が呼び出せます。

JP1/UCMDB のログインユーザーとパスワードを登録しておくことで、接続の 1 回目から直接 JP1/UCMDB の機器詳細画面を呼び出せます。

JP1/UCMDB 側の設定については、JP1/UCMDB のマニュアルを参照してください。

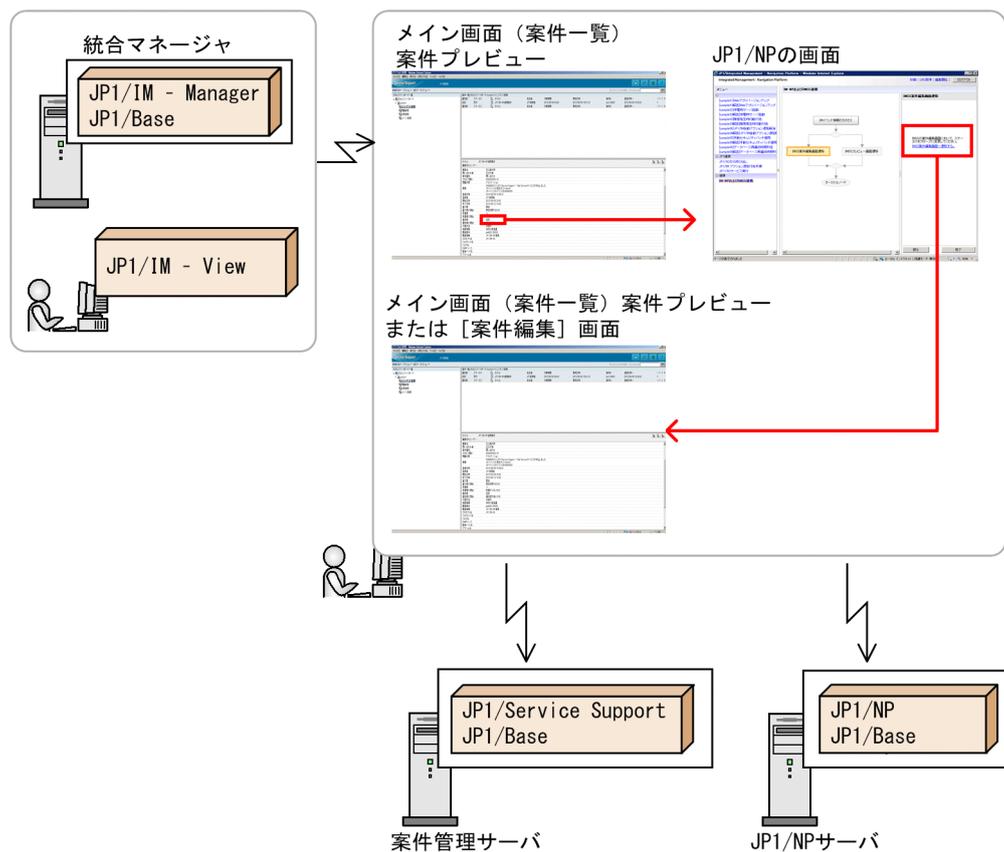
4.5 JP1/NP との連携

JP1/Service Support は、JP1/NP と連携することで、JP1/Service Support の画面からシングルサインオンで JP1/NP の画面を呼び出し、JP1/NP が管理する業務の流れなどの運用手順を参照できます。ただし、JP1/IM - Manager の自動アクション、および JP1/IM - View から JP1 イベントの情報を引き継いで案件を登録した場合は、該当する JP1 イベントに対応した JP1/NP の運用手順を参照できます。それ以外の方法で案件登録し、登録した案件が JP1 イベントの情報を持たない場合は、該当する JP1/NP の画面を表示できません。自動アクションの定義については、「5.11.1(1) JP1 製品と連携する場合の自動アクション定義例」を参照してください。JP1/IM - View からの案件登録については、「4.2.1 JP1/IM - View からの案件登録」を参照してください。

また、JP1/NP と連携する場合は、JP1/Base の認証機能を使用する必要があります。なお、JP1/Service Support と JP1/NP で同一の認証サーバにしてください。同一の認証サーバにしない場合は、JP1/NP と連携できません。JP1/Base のユーザー認証機能を利用する場合については、「4.13.2 JP1/Base との連携（認証機能）」を参照してください。

JP1/NP 連携の概要を、次の図に示します。

図 4-8 JP1/NP 連携の概要



JP1/Service Support の [案件参照] 画面およびメイン画面（案件一覧）の案件プレビューの「関連情報」や「関連リンク」から、JP1/NP の画面を表示できます。なお、JP1/Service Support の画面から JP1/NP の画面を表示したあとに、JP1/Service Support をログアウトしないでください。JP1/Service Support

をログアウトすると、表示した JP1/NP の画面から JP1/Service Support の [案件参照] 画面およびメイン画面（案件一覧）の案件プレビューをシングルサインオンで表示できません。

4.5.1 JP1/NP へ引き継がれる案件情報

JP1/Service Support から JP1/NP の画面を呼び出す際に、JP1/Service Support の案件情報が JP1/NP へ引き継がれ、JP1/NP の該当する画面を表示できます。

JP1/NP の画面を呼び出す際に、JP1/NP に引き継がれる情報を、次の表に示します。

表 4-10 JP1/NP に引き継がれる案件項目と引き継がれる情報

引き継がれる案件項目	引き継がれる情報
JP1 イベント DB 通し番号 (JIMSD_FORM_IMEVENTNO)	JP1 イベント DB 通し番号
JP1/IM - Manager のホスト名 (JIMSD_FORM_IMHOSTNAME)	JP1/IM - Manager のホスト名
概要 (JIMSD_FORM_SUMMARY) ※	JP1 イベントのメッセージ
	JP1 イベントの発行元ホスト名
	JP1 イベントのイベント ID
プロダクト名 (JIMSD_FORM_JP1PRODUCTNAME)	プロダクト名

注※

JP1/IM - View または JP1/IM - Manager から案件を登録した際、「概要 (JIMSD_FORM_SUMMARY)」内に「JP1 イベントのメッセージ」、「JP1 イベントの発行元ホスト名」、「JP1 イベントの発行元ホスト名」、および「JP1 イベントのイベント ID」が規定の形式で格納されます。格納された値を変更しないでください。変更した場合は、JP1/NP に正しく情報を引き継げないことがあります。

「概要 (JIMSD_FORM_SUMMARY)」に格納される情報の形式を、次に示します。「概要 (JIMSD_FORM_SUMMARY)」内の情報を変更しない場合は形式 1 を、その他の情報追加する場合は形式 2 を参照してください。

形式 1

JP1 イベントのメッセージ (改行)
JP1 イベントの発生ホスト:JP1 イベントの発生ホスト (改行)
JP1 イベントのイベント ID:JP1 イベントのイベント ID

形式 2

JP1 イベントのメッセージ (改行)
JP1 イベントの発生ホスト:JP1 イベントの発生ホスト (改行)

JP1 イベントのイベント ID:JP1 イベントのイベント ID (改行)
その他の入力したい情報

4.5.2 JP1/NP への接続

JP1/NP と連携する場合、JP1/Service Support 側で環境を設定する必要があります。JP1/Service Support 側の設定については、「[9.16.5 JP1/NP と連携するための環境設定](#)」を参照してください。

また、JP1/NP の運用手順を表示するためには、「関連情報」用の [リンク設定] 画面の「関連情報」に JP1/NP を呼び出すための URL を設定する必要があります。「関連情報」の設定については、マニュアル「[JP1/Service Support 操作ガイド](#)」の案件を作成する手順を参照してください。JP1/NP を呼び出すための URL については、JP1/Navigation Platform のマニュアルの、ほかの JP1 製品からナビゲーションプラットフォームを呼び出すための URL の説明を参照してください。

JP1/NP 側の設定については、JP1/Navigation Platform のマニュアルの、ほかの JP1 製品と連携するための設定の説明を参照してください。

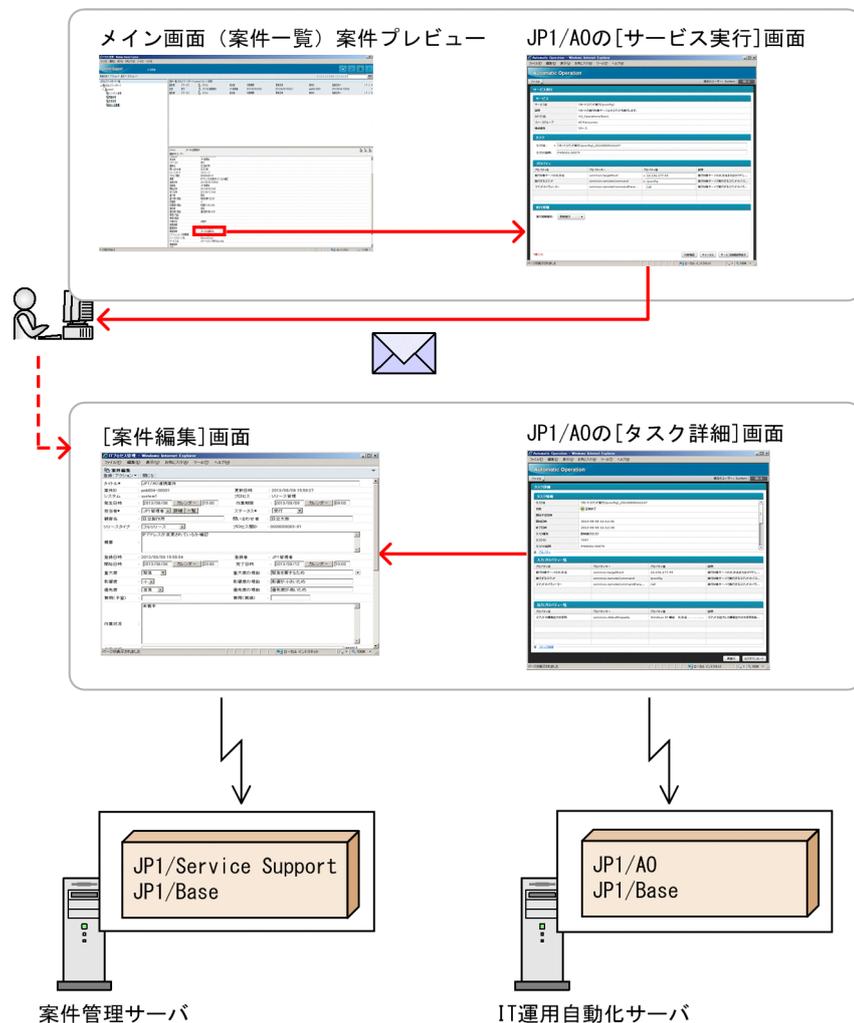
4.6 JP1/AO との連携

リリース管理では、サーバ機器のハードディスクの拡張や、メモリの増設などの作業が多く発生します。その際、JP1/AOと連携することで、メイン画面（案件一覧）の案件プレビューおよび「案件参照」画面からシングルサインオンでJP1/AOの「サービス実行」ダイアログボックスを呼び出し、JP1/AOに登録されているサービスを実行することで作業の効率化を図れます。

また、JP1/AOと連携する場合は、JP1/Baseの認証機能を使用する必要があります。なお、JP1/Service SupportとJP1/AOで同一の認証サーバにしてください。同一の認証サーバにしない場合は、JP1/AOと連携できません。JP1/Baseのユーザー認証機能を利用する場合は、「4.13.2 JP1/Base との連携（認証機能）」を参照してください。

JP1/AO連携の概要を、次の図に示します。

図 4-9 JP1/AO 連携の概要



JP1/Service Supportの「案件参照」画面およびメイン画面（案件一覧）の案件プレビューの「関連情報」や「関連リンク」から、JP1/AOの画面を表示できます。

なお、JP1/AO にサービスを登録する手順については、マニュアル「JP1/Automatic Operation 運用ガイド」のサービステンプレートの管理、およびサービスの管理の説明を参照してください。

4.6.1 JP1/AO へ引き継がれる案件情報

JP1/Service Support から JP1/AO の [サービス実行] ダイアログボックスを呼び出す際に、JP1/Service Support の案件情報が JP1/AO へ引き継がれ、該当する JP1/AO の [サービス実行] ダイアログボックスを表示できます。

JP1/AO の [サービス実行] ダイアログボックスを呼び出す際に、JP1/AO に引き継がれる情報を、次に示します。

- サービスのリソースグループ名
- サービス名
- タスク名

引き継がれる情報の各項目は、[案件作成] 画面や [案件編集] 画面で設定する必要があります。ただし、それらの項目は、案件フォームの項目 ID にありません。案件フォームの項目 ID のどれを引き継ぐ情報として使用するか、引き当てる必要があります。その際、「タスク名」に「案件 ID (JIMSD_FORM_ITEMID)」を引き当てると、JP1/AO 側でサービスを実行した案件を特定できます。どの項目 ID を引き継ぐかは、システムプロパティファイルの「hptl_jp1_imss_ao_item_info_\$n」で設定します。また、引き当てた該当の項目 ID の名称を「サービスのリソースグループ名」「サービス名」または「タスク名」に変更したい場合は、案件フォームをカスタマイズする必要があります。その際、「サービスのリソースグループ名」および「サービス名」は、入力補助機能を使用してプルダウンで選択できるようにしておくと、入力ミスを防げます。

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。案件フォームのカスタマイズについては、「9.9 案件フォームのカスタマイズ」を参照してください。入力補助機能については、「9.17 JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報と連携するための環境設定」を参照してください。

4.6.2 JP1/AO への接続

JP1/AO と連携する場合、JP1/Service Support 側で環境を設定する必要があります。JP1/Service Support 側の設定については、「9.16.6 JP1/AO と連携するための環境設定」を参照してください。

なお、JP1/AO の [サービス実行] ダイアログボックスを呼び出すには、「関連情報」用の [リンク設定] 画面の「関連情報」に JP1/AO の [サービス実行] ダイアログボックスを呼び出すためのラUNCH URL を設定する必要があります。「関連情報」の設定については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」の案件を作成する手順を参照してください。[サービス実行] ダイアログボックスを呼び出すためのラ

ウンチ URL については、マニュアル「JP1/Automatic Operation 運用ガイド」のダイレクトアクセス URL の説明を参照してください。

JP1/AO 側では、JP1/Service Support と連携するための設定は必要ありません。JP1/Service Support の画面から JP1/AO の画面を呼び出す際、JP1/AO の [サービス実行] ダイアログボックスが呼び出されます。

4.7 JP1/Audit - Manager との連携

JP1/Service Support は、JP1/Audit - Manager と連携することで、ほかの JP1 製品の操作ログと合わせて管理できます。また、JP1/NP および JP1/AO と連携している場合、JP1/Service Support、JP1/NP、および JP1/AO で操作した案件の操作履歴を一元管理できます。

4.7.1 JP1/Audit - Manager への接続

JP1/Audit - Manager と連携する場合、操作ログ設定ファイルを設定する必要があります。操作ログ定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[操作ログ設定ファイル \(hptl_jp1_imss_access_log.properties\)](#)」を参照してください。

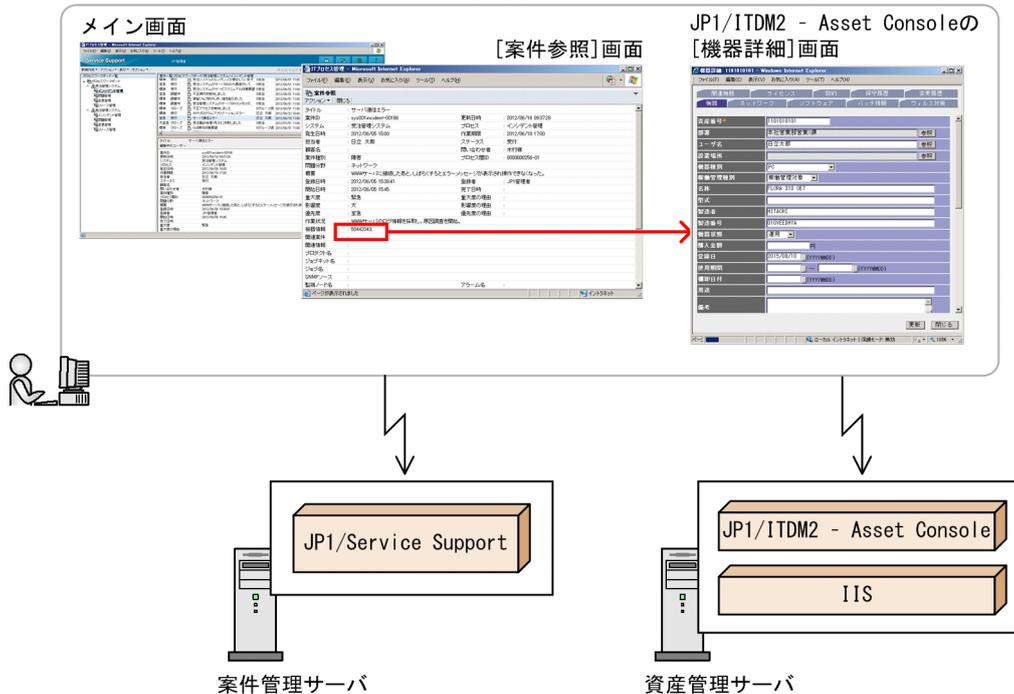
JP1/Audit - Manager 側の設定については、マニュアル「[JP1/Audit Management - Manager 構築・設計ガイド](#)」を参照してください。

4.8 JP1/ITDM2 - Asset Console との連携

JP1/Service Support は、JP1/ITDM2 - Asset Console と連携することで、JP1/Service Support の画面から JP1/ITDM2 - Asset Console の画面を呼び出し、JP1/ITDM2 - Asset Console が管理する機器情報を確認できます。

JP1/ITDM2 - Asset Console 連携の概要を次の図に示します。

図 4-10 JP1/ITDM2 - Asset Console 連携の概要



JP1/Service Support の [案件参照] 画面に表示される案件の項目「機器情報」に登録された情報から JP1/ITDM2 - Asset Console の [機器詳細] 画面を呼び出せます。

4.8.1 JP1/ITDM2 - Asset Console の管理する機器情報の表示

案件の項目「機器情報」に次の表に示す情報を設定することで、JP1/ITDM2 - Asset Console の管理する機器情報を参照できるようになります。

表 4-11 JP1/ITDM2 - Asset Console の管理する機器情報を参照するための設定

設定情報	説明
機器情報	JP1/ITDM2 - Asset Console が管理する機器情報を指定する。
資産管理サーバ	JP1/ITDM2 - Asset Console がインストールされたサーバ名を指定する。 指定するには、あらかじめ JP1/ITDM2 - Asset Console と連携するための環境設定をする必要がある。詳細については、「 9.16.7 JP1/ITDM2 - Asset Console と連携するための環境設定 」を参照のこと。

設定情報	説明
種別	機器情報で指定した値の種別を設定する。次のどれかとなる。 <ul style="list-style-type: none"> • ホスト名 • IP アドレス • 資産番号

これらの情報は、案件の項目「機器情報」用の［リンク設定］画面で設定します。設定すると、「機器情報」に表示される情報にアンカーが設定されます。このアンカーをクリックすることで、JP1/ITDM2 - Asset Console の［機器詳細］画面を呼び出し、機器情報の詳細を確認できます。

4.8.2 JP1/ITMD2 - Asset Console への接続

JP1/ITDM2 - Asset Console と連携する場合、JP1/Service Support 側で連携する資産管理サーバ名を設定する必要があります。

JP1/Service Support 側の設定については、「9.14 定義ファイルによる環境設定」を参照してください。

JP1/ITDM2 - Asset Console 側では、JP1/Service Support から接続できるよう、あらかじめ設定がされています。この設定の場合、JP1/Service Support の画面から JP1/ITDM2 - Asset Console の画面を呼び出す際、JP1/ITDM2 - Asset Console の［ログイン］画面が呼び出されます。この画面上で JP1/ITDM2 - Asset Console に登録されているユーザー ID、パスワードを入力することで、［機器詳細］画面が呼び出せます。以降、JP1/Service Support の画面を閉じる（ログアウトする）までは、直接［機器詳細］画面を呼び出せるようになります。

また、JP1/ITDM2 - Asset Console の設定を変更することで、接続の 1 回目から直接 JP1/ITDM2 - Asset Console の［機器詳細］画面を呼び出せます。この場合には、JP1/ITDM2 - Asset Console に登録されている JP1/Service Support 用のユーザーアカウント「サービスサポート管理者」のパスワードの設定が必要です。

JP1/ITDM2 - Asset Console 側の設定については、マニュアル「JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console 設計・構築ガイド」を参照してください。

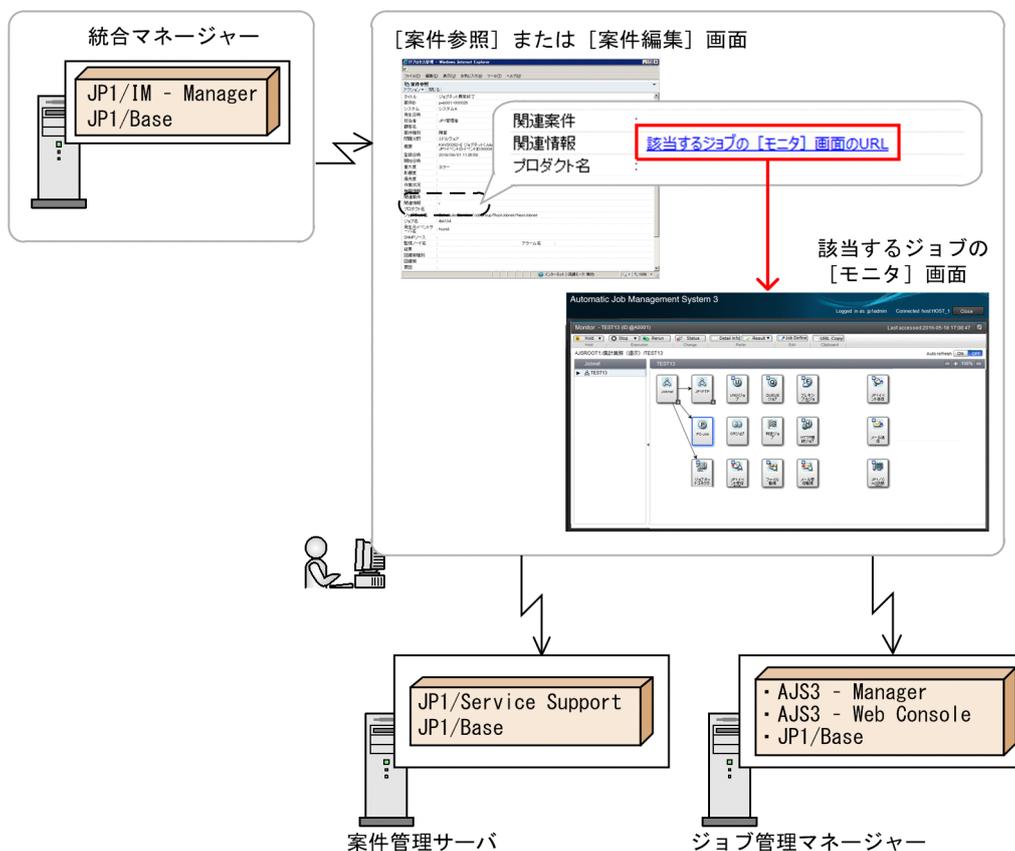
4.9 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携

ジョブ管理製品 (JP1/AJS3) から発生した JP1 イベントを、JP1/IM - Manager を経由して、JP1/Service Support に案件情報として登録する場合、案件項目の関連情報に JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携する URL を設定しているとき、関連情報にある URL をクリックすれば、発生した JP1 イベントに該当するジョブやジョブネットの [モニタ] 画面を表示できます。

JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携する場合は、JP1/Base の認証機能を使用する必要があります。この場合は、JP1/Service Support と JP1/AJS3 - Web Console で同一の認証サーバにしてください。同一の認証サーバにしない場合は、JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携できません。JP1/Base のユーザー認証機能を利用する場合については、「4.13.2 JP1/Base との連携 (認証機能)」を参照してください。

JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携の概要を、次の図に示します。

図 4-11 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携の概要



JP1/Service Support の [案件参照] 画面、メイン画面 (案件一覧) の案件プレビューの「関連情報」や「拡張リンク」から、JP1/AJS3 - Web Console の [モニタ] 画面を表示できます。

4.9.1 JP1/AJS3 - Web Console へ引き継がれる案件情報

JP1/Service Support から JP1/AJS3 - Web Console の [モニタ] 画面を呼び出す際に、JP1/Service Support の案件情報が JP1/AJS3 - Web Console へ引き継がれ、該当する JP1/AJS3 - Web Console の [モニタ] 画面を表示できます。

JP1/AJS3 - Web Console の [モニタ] 画面を呼び出す際に、JP1/AJS3 - Web Console に引き継がれる情報を、次の表に示します。

項番	ジョブ管理製品 (JP1/AJS3) から発生した JP1 イベント	JP1/AJS3 - Web Console に引き継がれる情報	案件項目名
1	基本属性の発生元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)	[モニタ] 画面表示対象のユニットがある JP1/AJS3 - Manager のホスト名	hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n に入力した案件項目の 1 番目
2	拡張属性の共通情報にあるオブジェクト名 (E.OBJECT_NAME)	[モニタ] 画面表示対象の「スケジューラサービス名:ユニット名」	hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n に入力した案件項目の 2 番目
3	拡張属性の固有情報にある実行 ID (E.A3)	[モニタ] 画面表示対象のユニットの実行 ID	hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n に入力した案件項目の 3 番目

情報を引き継ぐための検討例を、次に示します。

1. 前述の表にある JP1 イベントを、JP1/Service Support のどの案件項目に引き継ぐか検討してください。
2. 1. で決めた案件項目を、JP1/Service Support のシステムプロパティファイルの `hptl_jp1_imss_add_item_info_$n` に指定してください。

JP1/AJS3 で JP1 イベントが発生した場合、JP1/IM - Manager の自動アクションで案件登録コマンドが実行される設定がしてあるときは、引き継がれた情報を基に JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携する URL が作成されます。

JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携に必要な URL の情報、および `hptl_jp1_imss_add_item_info_$n` に入力した案件項目が案件フォームに存在しない場合、該当する案件項目を案件フォームに追加してください。

システムプロパティファイル (`hptl_jp1_imss_main_setting.properties`) の `hptl_jp1_imss_add_item_info_$n` については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (`hptl_jp1_imss_main_setting.properties`)」を参照してください。

案件フォームのカスタマイズについては、「9.9 案件フォームのカスタマイズ」を参照してください。

JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携できる JP1 イベントについては、「付録 E.2 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携できる JP1 イベント」を参照してください。

4.9.2 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI への接続

JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携する場合、JP1/Service Support 側で環境を設定する必要があります。JP1/Service Support 側の設定については、「9.16.8 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携するための環境設定」を参照してください。

「関連情報」用の「リンク設定」画面の「関連情報 (JIMSD_FORM_LINKURL)」または「拡張リンク (JIMSD_FORM_REFINFO01~JIMSD_FORM_REFINFO05)」に、JP1/AJS3 - Web Console の「モニタ」画面を呼び出すための URL を設定する必要があります。

```
http[s]://ホスト名:ポート番号/ajs/login.html
```

「関連情報」の設定については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」の案件を作成する手順を参照してください。

JP1/Service Support の画面から JP1/AJS3 - Web Console の画面を呼び出す際、JP1/AJS3 - Web Console の「モニタ」画面が呼び出されます。

4.9.3 自動アクションの定義例 (JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携の場合)

JP1/IM - Manager と連携して、JP1/IM - Manager が管理する JP1 イベントから JP1/Service Support のインシデント (案件) を自動登録できます。この自動アクションによる案件の自動登録を使用して、JP1/AJS3 - Web Console の「モニタ」画面を表示する案件項目を取得できます。

自動アクションの定義例を、次に示します。

```
act JP1/AJS3連携用イベントの案件登録
eid *
cnd
E.PRODUCT_NAME IN /HITACHI/JP1/AJS2
E.ROOT_OBJECT_TYPE IN JOBNET
B.ID NOTIN 4126 4131 4140 4141 4142
end-cnd

usr 実行ユーザー名
hst 実行ホスト名
cmd jssitementry -b プロセスワークボードID -t JP1/AJS3発行イベント -r 登録者ログインID -cht
担当者タイプ -ch 担当者ID -s $EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "$EVMSG" -
jp1 $EV"PRODUCT_NAME" -jobnet $EVOBNAM -job $EV"A3" -utext1 $EVHOST -url "AJS3-Web Console"
http://webconsole:22252/ajs/login.html -evt $ACTHOST $EVSEQNO
end-act
```

上記の例では、「モニタ」画面表示対象のユニットがある JP1/AJS3 - Manager のホスト名を「拡張テキストデータ 01」項目に、「モニタ」画面表示対象のスケジューラーサービス名とユニット名を「ジョブネット名」項目に、「モニタ」画面表示対象のユニットの実行 ID を「ジョブ名」項目に入力します。

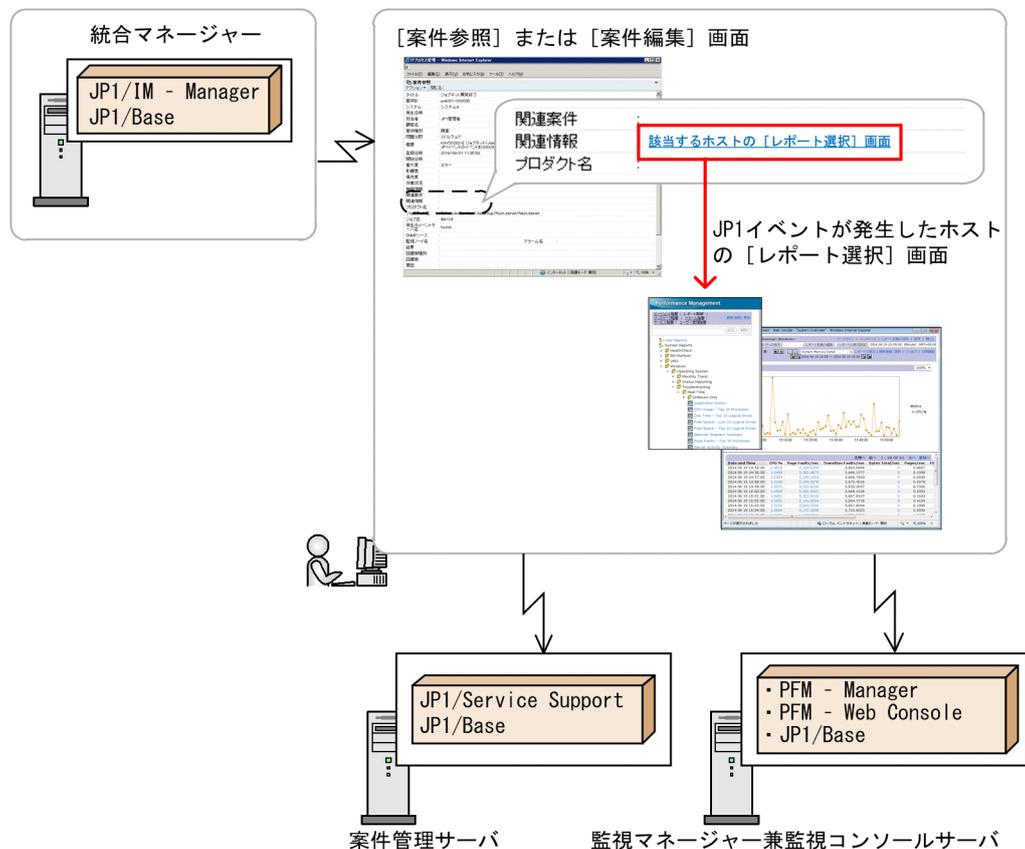
4.10 JP1/PFM - Web Console との連携

JP1/PFM が監視するホストが発行契機となる JP1 イベントを、JP1/IM - Manager を経由して JP1/Service Support に案件情報として登録する場合、案件項目の関連情報に JP1/PFM - Web Console と連携する URL を設定しているとき、関連情報にある URL をクリックすれば、JP1 イベントが発生したホストの [レポート選択] 画面を表示できます。

JP1/PFM - Web Console と連携する場合は、JP1/Base の認証機能を使用する必要があります。この場合は、JP1/Service Support と JP1/PFM - Web Console で同一の認証サーバにしてください。同一の認証サーバにしない場合は、JP1/PFM - Web Console と連携できません。JP1/Base のユーザー認証機能を利用する場合は、[4.13.2 JP1/Base との連携 (認証機能)] を参照してください。

JP1/PFM - Web Console との連携の概要を、次の図に示します。

図 4-12 JP1/PFM - Web Console との連携の概要



JP1/Service Support の [案件参照] 画面、メイン画面 (案件一覧) の案件プレビューの「関連情報」や「拡張リンク」から、JP1/PFM - Web Console の [レポート選択] 画面を表示できます。

4.10.1 JP1/PFM - Web Console へ引き継がれる案件情報

JP1/Service Support から JP1/PFM - Web Console の [レポート選択] 画面を呼び出す際に、JP1/Service Support の案件情報が JP1/PFM - Web Console へ引き継がれ、該当する JP1/PFM - Web Console の [レポート選択] 画面を表示できます。

JP1/PFM - Web Console の [レポート選択] 画面を呼び出す際に、JP1/PFM - Web Console に引き継がれる情報を、次の表に示します。

項番	パフォーマンス管理製品 (JP1/PFM) が監視するホストが発行契機となる JP1 イベント	JP1/PFM - Web Console に引き継がれる情報	案件項目名※
1	<ul style="list-style-type: none">発生元ホストマッピングが有効のとき 拡張属性 - 固有情報 発生元ホスト名 (E.JP1_SOURCEHOST)発生元ホストマッピングが無効のとき 基本属性 発行元イベントサーバ名 (B.SOURCESERVER)	事象が発生したホスト名	hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n キーに入力した案件項目の 2 番目
2	基本属性 登録時刻 (B.TIME)	事象が発生した日時	hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n キーに入力した案件項目の 3 番目

注※

hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n キーの 1 番目には、項目 ID 「JIMSD_LOGIN_USER_ID」を指定してください。案件項目に情報を入力する必要はありません。

情報を引き継ぐための検討例を、次に示します。

1. 前述の表にある JP1 イベントを、JP1/Service Support のどの案件項目に引き継ぐか検討してください。
2. 1. で決めた案件項目を、JP1/Service Support のシステムプロパティファイルの hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n に指定してください。

JP1/PFM が監視するホストが発行契機となる JP1 イベントが発生した場合、JP1/IM - Manager の自動アクションで案件登録コマンドが実行される設定がしてあるときは、引き継がれた情報を基に JP1/PFM - Web Console と連携する URL が作成されます。

JP1/PFM - Web Console との連携に必要な URL の情報、および hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n に入力した案件項目が案件フォームに存在しない場合、該当する案件項目を案件フォームに追加してください。

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

案件フォームのカスタマイズについては、「9.9 案件フォームのカスタマイズ」を参照してください。

4.10.2 JP1/PFM - Web Console への接続

JP1/PFM - Web Console と連携する場合、JP1/Service Support 側で環境を設定する必要があります。JP1/Service Support 側の設定については、「9.16.9 JP1/PFM - Web Console と連携するための環境設定」を参照してください。

「関連情報」用の「リンク設定」画面の「関連情報 (JIMSD_FORM_LINKURL)」または「拡張リンク (JIMSD_FORM_REFINFO01~JIMSD_FORM_REFINFO05)」に、JP1/PFM - Web Console の「レポート選択」画面を呼び出すための URL を設定する必要があります。

```
http[s]://ホスト名:ポート番号/PFMWebConsole/login.do
```

「関連情報」の設定については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」の案件を作成する手順を参照してください。

JP1/Service Support の画面から JP1/PFM - Web Console の画面を呼び出す際、JP1/PFM - Web Console の「レポート選択」画面が呼び出されます。

4.10.3 自動アクションの定義例 (JP1/PFM - Web Console との連携の場合)

JP1/IM - Manager と連携して、JP1/IM - Manager が管理する JP1 イベントから JP1/Service Support のインシデント (案件) を自動登録できます。この自動アクションによる案件の自動登録を使用して、JP1/PFM - Web Console の「レポート選択」画面を表示する案件項目を取得できます。

自動アクションの定義例を、次に示します。

```
jssitementry -b プロセスワークボードID -t PFMのアラート -r 登録者ログインID -cht 担当者タイプ -ch 担当者ID -s $EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "$EVMSG" -jp1 $EV"PRODUCT NAME" -url "PFM-Web Console" http://webconsole:20358/PFMWebConsole/login.do -evt $ACTHOST $EVSEQNO -acdate "$EVDATE $EVTIME" -utext1 $EVHOST
```

上記の例では、事象が発生したホスト名を「拡張テキストデータ 01」項目に、事象が発生した日時を「発生日時」項目に入力します。

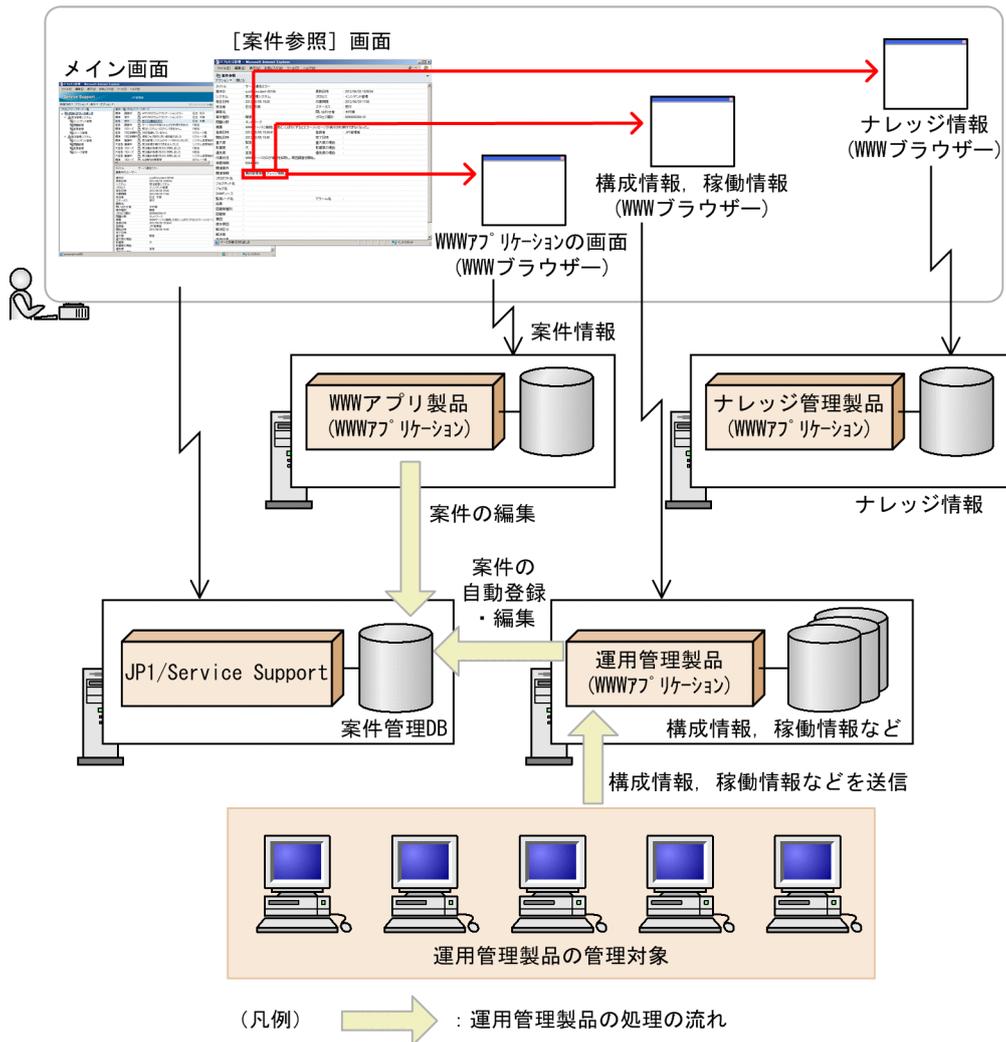
4.11 JP1 以外の運用管理製品との連携

JP1/Service Support は、JP1 以外の運用管理製品と次に示す連携ができます。

- 連携製品の管理情報を案件として JP1/Service Support に登録する。
- JP1/Service Support から連携製品の管理情報を参照する。
- WWW アプリケーションから JP1/Service Support の案件を編集する。

連携の概要を次の図に示します。

図 4-13 JP1 以外の運用管理製品との連携の概要



この図では、運用管理製品から JP1/Service Support に案件を自動登録しています。また、JP1/Service Support の画面から運用管理製品、ナレッジ管理製品の画面を呼び出し、各製品が管理する情報を参照しています。

4.11.1 連携製品からの案件の登録

JP1/Service Support に案件を登録する場合、画面から登録する方法と、jssitementry コマンドを使って登録する方法の二つがあります。連携製品から案件を登録する場合、jssitementry コマンドを使って登録することになります。jssitementry コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssitementry (案件登録)」を参照してください。

なお、連携製品側から jssitementry コマンドを実行するには、連携製品側でその機能を実装する必要があります。また、何らかの事象を契機に、その事象に関する情報を案件情報として自動登録するには、その機能も連携製品側で実装する必要があります (JP1 製品では JP1/IM - Manager がこれらの機能を実装しています)。

連携製品から案件を登録する場合には、連携製品側に該当する機能があるか確認してください。

4.11.2 連携製品の管理情報の参照

JP1/Service Support には、画面に表示される案件の項目「関連情報」から関連情報が掲載されている画面を呼び出す機能があります。この機能を利用して連携製品の管理情報を参照できます。

なお、JP1/Service Support は、WWW ブラウザーを利用する WWW アプリケーションです。このため、JP1/Service Support から連携製品の管理情報を参照する場合、連携製品が WWW ブラウザーから管理情報を参照できる機能を実装している必要があります。

JP1/Service Support からの連携製品の管理情報を参照する場合には、連携製品側に該当する機能があるか確認してください。

4.11.3 WWW アプリケーションとの連携

JP1/Service Support には、画面に表示される案件の項目「関連情報」から関連情報が掲載されている画面を呼び出す機能があります。この機能を利用して連携製品の管理情報を参照できます。

JP1/Service Support で管理している次の情報を WWW アプリケーションに引き継げるため、WWW アプリケーションから案件編集コマンドを実行して、案件情報の編集もできます。

- プロセスワークボード ID
- プロセスワークボード内通し番号

プロセスワークボード ID およびプロセスワークボード内通し番号は HttpRequest から取得できます。情報を取得するために使用するキー情報を次の表に示します。

表 4-12 HttpRequest から情報を取得するために使用するキー情報

WWW アプリケーションへ引き継ぐ情報	情報を取得するためのキー
プロセスワークボード ID	hptl_jpl_imss_pwbid
プロセスワークボード内通し番号	hptl_jpl_imss_itemno

案件編集コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jssitemedit \(案件編集\)](#)」を参照してください。

また、プロセスワークボード ID およびプロセスワークボード内通し番号のほかにも、JP1/Service Support から WWW アプリケーションへパラメーターを引き継ぐことができます。これによって、案件情報を WWW アプリケーションで利用できるようになります。

WWW アプリケーションに引き継ぐ案件情報は、次に示すシステムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties) のキーで設定します。

- hptl_jpl_imss_add_item_info_url_num
- hptl_jpl_imss_add_item_info_url_\$n
- hptl_jpl_imss_add_item_info_\$n^{※1}
- hptl_jpl_imss_add_item_info_product_\$n^{※1※2}
- hptl_jpl_imss_add_item_info_key_list_\$p^{※1※2}

注※1 プロセスワークボード ID とプロセスワークボード内通し番号だけを引き継ぐ場合は設定不要です。

注※2 WWW アプリケーションで引き継いだ情報を取得するために使用するキーを、変更したい場合に指定してください。

各キーの詳細や、WWW アプリケーションに引き継いだ案件情報を取得するために使用するキー情報については、「13. 定義ファイル」の「[システムプロパティファイル \(hptl_jpl_imss_main_setting.properties\)](#)」を参照してください。

WWW アプリケーションへパラメーターを引き継ぐためには、次の情報を案件項目に入力する必要があります。

項番	案件項目	入力する情報
1	関連情報 (JIMSD_FORM_LINKURL) または 拡張リンク (JIMSD_FORM_REFINFO01 ~ JIMSD_FORM_REFINFO05)	パラメーターを引き継ぐ WWW アプリケーションの URL
2	hptl_jpl_imss_add_item_info_\$n キーに入力した案件項目 ※1	WWW アプリケーションに引き継ぐ情報 ^{※2}

注※1

パラメーターを引き継ぐ際に案件項目が案件フォームに存在しない場合は、該当する案件項目を案件フォームに追加してください。

注※2

hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n キーを指定しなくても、プロセスワークボード ID およびプロセスワークボード内通し番号は WWW アプリケーションへパラメーターを引き継ぐことができます。

4.12 JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報との連携

JP1/Service Support 以外のシステムで管理している顧客や機器の情報を、案件の各項目への入力時に選択する入力候補値として利用できます。案件の作成または編集時には、あらかじめ登録した入力候補値から選択できるため、入力作業の手間を省けます。

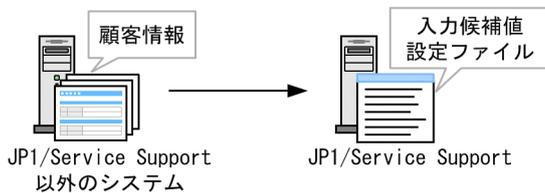
また、入力候補値はプロセスワークボードごとに設定できるので、対象システムに応じて入力候補値を変更するといった柔軟な運用もできます。

例えば、表計算ソフトで管理している顧客情報を基に、あらかじめ「顧客名」の入力候補値を登録しておくことで、表計算ソフトで情報を参照する手間や手入力での入力ミスなどを軽減できます。

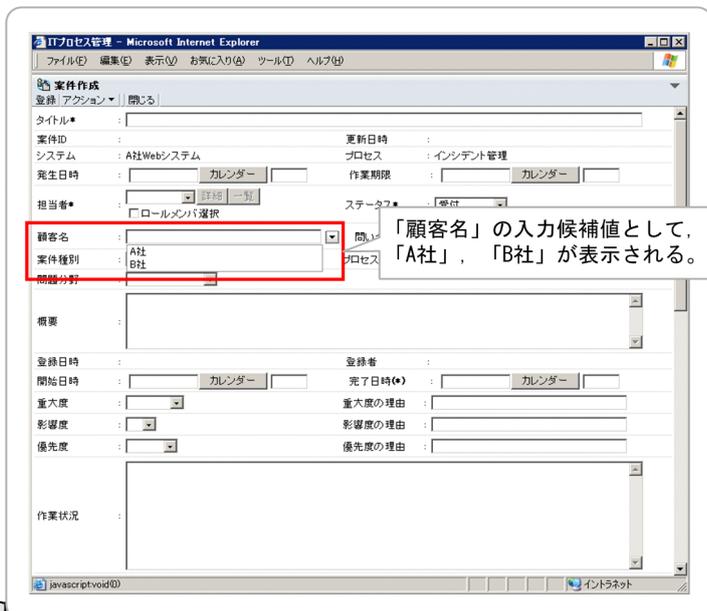
入力候補値が表示される仕組みについて次の図に示します。

図 4-14 入力候補値が表示される仕組み

1. 顧客情報を基に、入力候補値設定ファイルを使って「顧客名」の入力候補値を登録しておく。



2. [案件作成] 画面または [案件編集] 画面の表示時に、入力候補値設定ファイルが読み込まれ、「顧客名」に入力候補値が表示される。



さらに、複数ある項目の入力候補値同士を連動させて表示させることもできます。初めに選択した入力候補値にあわせて、そのあとに選択する入力候補値が絞り込まれるので、入力時の手間や入力ミスを軽減できます。

4. 他製品との連携

「顧客名」で選択した入力候補値にあわせて、「問い合わせ者」の入力候補値を絞り込む場合の例について、次の図に示します。

図 4-15 項目の連動による入力候補値の絞り込み



「顧客名」の入力候補値で「A社」を選択した場合、「問い合わせ者」の入力候補値は「日立太郎」、「日立次郎」、「日立三郎」に絞り込まれます。「顧客名」の入力候補値で「B社」を選択した場合、「問い合わせ者」の入力候補値は「日立四郎」、「日立五郎」に絞り込まれます。

入力候補値同士を連動させて表示させるよう設定できる機能を、**項目間連携**と呼びます。また、入力候補値および項目間連携を設定する機能を、まとめて**入力補助機能**と呼びます。

表示させる入力候補値や連動させる項目については、入力候補値設定ファイルで設定します。設定手順については、「[9.17 JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報と連携するための環境設定](#)」を参照してください。入力候補値設定ファイルの詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[入力候補値設定ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

入力候補値を表示させるプロセスワークボードや、入力候補値として表示できる最大文字数などはシステムプロパティファイルで設定します。詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[システムプロパティファイル \(hptl_jp1_imss_main_setting.properties\)](#)」を参照してください。

4.13 外部認証サーバとの連携

JP1/Service Support では、案件管理 DB を使用した認証のほかに、LDAP サーバを使用した認証、および JP1/Base の認証サーバを使用した認証ができます。

4.13.1 LDAP サーバとの連携

JP1/Service Support では、LDAP サーバを使用した認証ができます。JP1/Service Support でサポートしている LDAP サーバは Active Directory です。

ユーザーの認証に Active Directory を使用しますが、画面に表示されるユーザー情報やアクセス権の管理などは案件管理 DB に登録されている情報を使用します。そのため、Active Directory に登録されているユーザー情報を案件管理 DB にも登録する必要があります。

LDAP サーバを使用した認証は JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル (hptl_jpl_imss_ua_conf.properties) で設定します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル (hptl_jpl_imss_ua_conf.properties)」を参照してください。

4.13.2 JP1/Base との連携 (認証機能)

JP1/Service Support では、JP1/Base の認証サーバを使用した認証ができます。

JP1/Base の認証サーバを使用した認証の場合、ユーザーの認証に JP1/Base の認証サーバを使用しますが、画面に表示されるユーザー情報やアクセス権の管理などは、案件管理 DB に登録されている情報を使用します。そのため、JP1/Base の認証サーバに登録されているユーザー ID のユーザー情報を、案件管理 DB に登録する必要があります。

JP1/Base の認証機能を利用する場合の詳細については、「5.15 認証方法の検討」を参照してください。

5

JP1/Service Support の設計

JP1/Service Support は、システムで日々発生する問い合わせや障害事象、また、そこから派生する問題や検討課題などを管理対象とします。製品を稼働させる前に、管理対象や管理項目の設計、および運用方針を取り決める必要があります。

この章では、JP1/Service Support をサービスサポートに沿った運用に適用するための、設計方針の考え方について説明します。

5.1 JP1/Service Support の運用サイクル

JP1/Service Support によるサービスサポートに沿った運用を、円滑に実施していくためには、運用に入る前に次のことを策定し、取り決めておく必要があります。

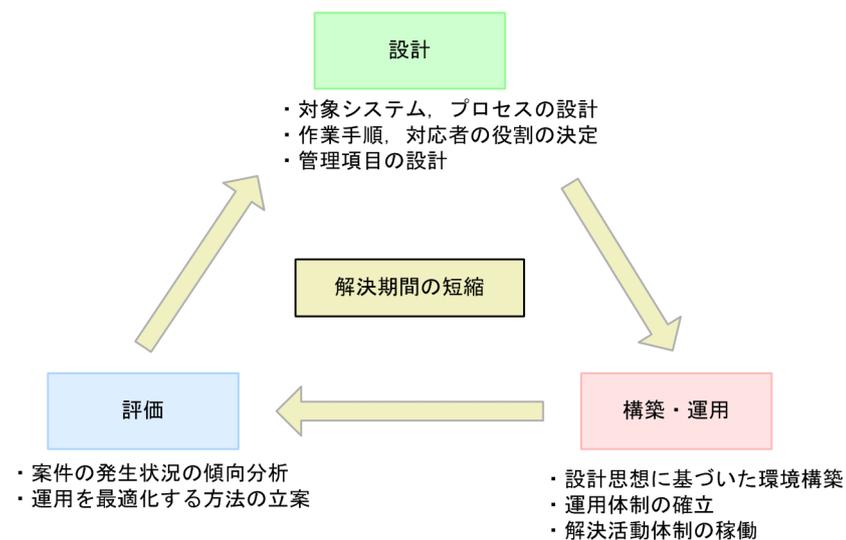
- 対象システム、プロセスの設計
- 各プロセスでの作業手順、対応者の役割分担など、作業ルールの設計
- 各プロセスの管理項目（重要度、優先度など、作業する上で必要な情報）の設計

これらのことを取り決めたあと、環境を構築、運用します。また、しばらく運用を続けたあと、蓄積された情報から案件の発生傾向や各プロセスでのボトルネックなどを分析し、運用をより良い状態へと進めていきます。

このように、JP1/Service Support の運用について継続的に改善する一連の流れを、JP1/Service Support の運用サイクルと呼びます。

JP1/Service Support の運用サイクルを次に示します。

図 5-1 JP1/Service Support の運用サイクル



5.2 対象システム、プロセスの決定と体制作り

JP1/Service Support を使って、サービスサポートに沿った運用を実施する場合、まず、どのシステムを対象とするか、また、どのプロセスを用いるかを定める必要があります。次に、各プロセスで、だれが、どのような作業をするのか、作業分担と作業の流れを決める必要があります。

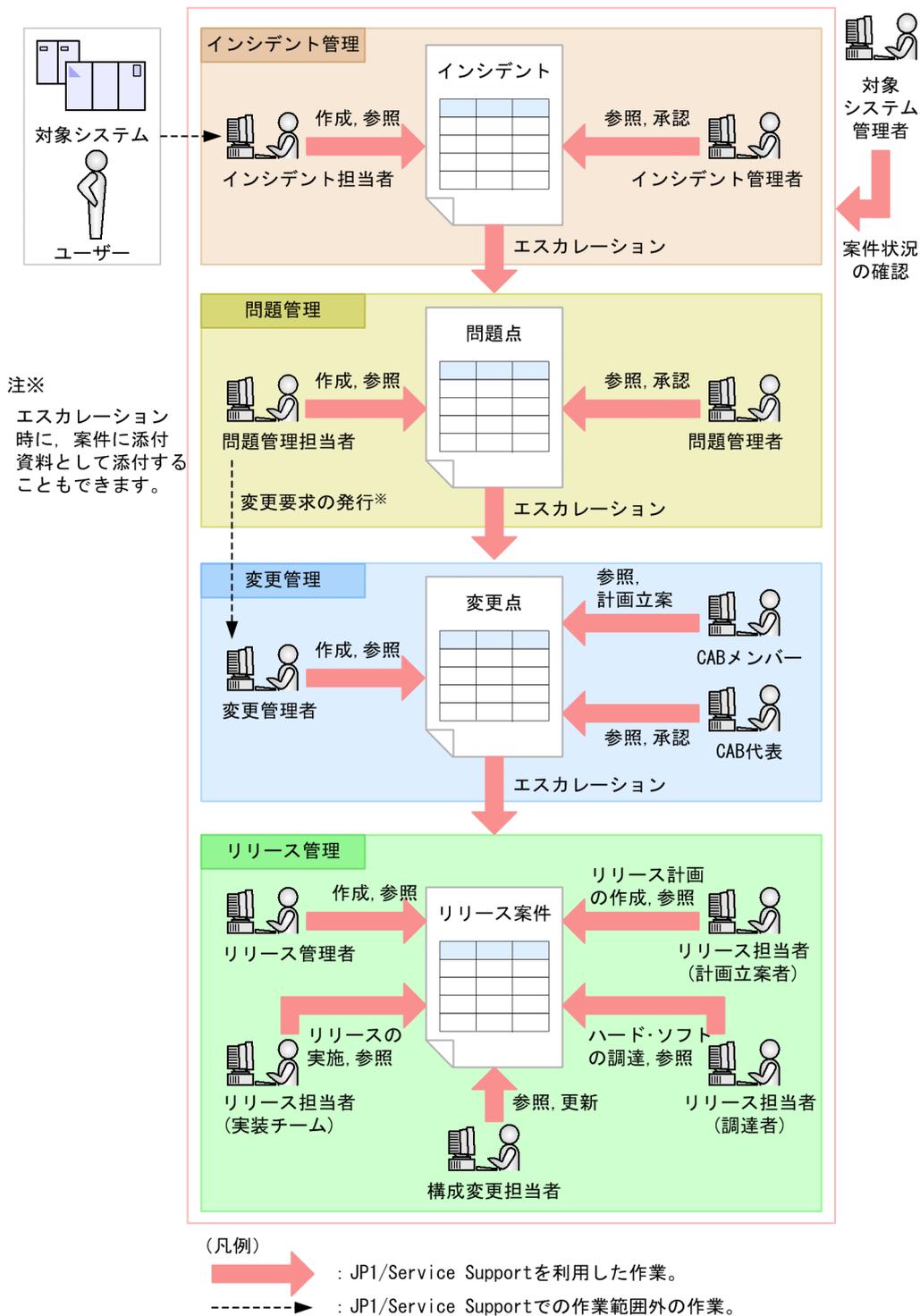
なお、プロセスやステータスをカスタマイズすることで、運用に合わせた案件の処理ルートを作成することもできます。プロセスのカスタマイズについて検討する場合は、「[5.2.2 対象システム、プロセスワークボードの設計](#)」を参照してください。ステータスのカスタマイズについて検討する場合は、「[5.3 案件のステータスの検討](#)」を参照してください。

また、この節で説明しているプロセスおよびステータスはデフォルトのもので、プロセスおよびステータスをカスタマイズする場合は、カスタマイズ後のステータスに置き換えてお読みください。

ここでは、JP1/Service Support を使って、あるシステムの運用を実施することを想定して説明します。実際に JP1/Service Support で環境を構築する際の参考にしてください。

まず、次の図に示すように、JP1/Service Support の管理対象となるシステムに対して、どのようなプロセスで案件を解決していくかを検討します。

図 5-2 対象システムに対応するプロセスの検討



次に、案件の状況を確認する作業担当と、その作業内容を次の表に示すように細かく検討します。

表 5-1 案件の状況を確認する作業担当，作業内容の検討

担当者	作業内容	作業内容詳細
情報システム管理者	システムを横断した案件状況の確認と対策	システムを横断して案件の状況を管理する。案件の滞留しているシステムの問題解決を図る。また、システム全体の状況を集計して評価し、運用を最適化する方法を検討する。
作業状況管理者	案件の状況管理	主に日程を管理するために、担当しているシステムでの案件の処理状況を確認する。問題のあるプロセスをフォローする。
対象システム管理者	システム内の案件状況の確認と対策	担当しているシステム内の各プロセスを管理する。案件の滞留しているプロセスの問題解決を図る。

また、各プロセス内での案件の処理の流れを作業担当，作業内容を含めて細かく検討します。

表 5-2 各プロセス内の処理の流れ，作業担当，作業内容の検討

プロセス	担当者	作業内容	作業内容詳細 (「 」はキーワード)	案件のステータス
インシデント管理	インシデント担当者	インシデント作成	ユーザーからの問い合わせやシステム障害の発生を管理するため、インシデントを作成する。インシデント管理プロセスの [案件作成] 画面でインシデント案件を作成する。	受付
		過去の事例検索，調査	過去同様の事例がないか検索する。同様の事例がある場合「関連案件」の設定をする。また、調査状況に合わせて案件を編集する。	調査中
		エスカレーション	長期の対策が必要な場合、問題管理へエスカレーションする。 担当者には問題管理担当者を設定する。	対応依頼中
		インシデントの調査結果記入	調査結果を「回避策」「解決策」に記入する。	調査中
		承認依頼	インシデント管理者にインシデント内容について承認依頼を実施する。依頼内容を「フリー記入欄」に記入する。 担当者をインシデント管理者にして、ステータスを審議中に変更する。	審議中
		インシデントの引き戻し*	承認依頼したインシデントに入力誤りなどがあった場合、このインシデントを引き戻す。	調査中
	インシデント管理者	インシデントの承認	インシデントの内容を確認する。 ステータスを承認済みにして、担当者をインシデント担当に変更する。	承認済み
	インシデントの差し戻し	承認依頼を受けたインシデントの内容に入力誤りなどがあった場合、このインシデントを差し戻す。	調査中	

プロセス	担当者	作業内容	作業内容詳細 (「 」はキーワード)	案件のステータス
インシデント管理	インシデント担当者	インシデントのクローズ	インシデント担当は、必要に応じて案件の作業履歴や進捗を確認し、問い合わせ者に随時報告したり、滞っている作業の担当者をフォローしたりする。 ステータスが承認済みとなった時点で、問い合わせ者に正式回答する。 「結果」を記入して案件をクローズする。	クローズ
問題管理	問題管理担当者	問題点作成	システム障害、問い合わせなどから傾向を分析し、問題点を作成する。 問題管理プロセスの「案件作成」画面で問題点を作成する。	受付
		調査	作成した問題点、またはインシデント管理からエスカレーションされた問題点を調査する。 <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて過去の問題点を検索する。 「機器情報」などのシステムの構成情報を参照する。 障害調査時には、ログなどを添付資料として登録する。 上記の調査結果から「根本原因」「解決策」などを記入する。	調査中
		承認依頼	問題管理者に調査内容や解決策の承認依頼を実施する。 依頼内容を「フリー記入欄」に記入する。 担当者を問題管理者にして、ステータスを審議中に変更する。	審議中
		問題点の引き戻し※	承認依頼した問題点に入力誤りなどがあった場合、この問題点を引き戻す。	調査中
	問題管理者	承認	問題点の内容を確認する。 担当者を問題管理担当にして、ステータスを承認済みに変更する。	承認済み
		問題点の差し戻し	承認依頼を受けた問題点の内容に入力誤りなどがあった場合、この問題点を差し戻す。	調査中
	問題管理担当者	エスカレーション	問題点に関連してシステム変更作業が必要な場合は、変更管理へエスカレーションする。 担当者には変更管理者を設定する。	対応依頼中
		クローズ	問題案件の最終的な結果を記入して、問題点のステータスをクローズに変更する(必要に応じてクローズの前に再度承認を依頼する)。	クローズ
変更管理	変更管理者	変更点作成	システム変更作業を変更点として作成する。 変更管理プロセスの「案件作成」画面で変更点を作成する。	受付

プロセス	担当者	作業内容	作業内容詳細 (「 」はキーワード)	案件のステータス
変更管理	変更管理者	計画依頼	作成した変更点，またはエスカレーションされてきた変更点の内容を確認する。 「フリー記入欄」に計画作成の旨記入し，担当者を CAB メンバーに変更する。	受付
	CAB メンバー	計画作成	影響評価と変更計画を作成する。	計画中
		承認依頼	担当者を CAB 代表にして，ステータスを審議中に変更する。	審議中
		変更計画の引き戻し※	承認依頼した変更計画に入力誤りなどがあった場合，このインシデント案件を引き戻す。	調査中
	CAB 代表	承認	変更計画の内容を確認し，必要に応じて CAB 会議を開催する。 計画の合議が取れた時点で，変更点のステータスを承認済みに変更する。	承認済み
		変更計画の差し戻し	承認依頼を受けた変更計画の内容に入力誤りなどがあった場合，この変更計画を差し戻す。	調査中
		エスカレーション	リリース管理に作業を依頼する場合は，リリース管理へエスカレーションする。 担当者にはリリース管理者を設定する。	対応依頼中
	変更管理者	レビュー	リリース完了から一定期間後，関係者を集めてレビューを実施する。	レビュー中
		クローズ	結果を記入して変更点をクローズする。	クローズ
	リリース管理	リリース管理者	リリース案件作成	リリース作業の案件を作成する。 リリース管理プロセスの [案件作成] 画面で変更点を作成する。リリース計画策定のため「フリー記入欄」に依頼事項を記入する。 担当者をリリース担当者(計画立案者)に変更する。
リリース担当者 (計画立案者)		計画作成	リリース計画を作成する。	計画中
		承認依頼	リリース計画の承認をもらうため担当者をリリース管理者にして，ステータスを審議中に変更する。	審議中
		リリース計画の引き戻し※	承認依頼したリリース計画に入力誤りなどがあった場合，このリリース計画を引き戻す。	計画中
リリース管理者		承認	計画の内容を確認する。担当者をリリース担当者(調達者)にして，ステータスを承認済みに変更する。	承認済み
		リリース計画の差し戻し	承認依頼を受けたリリース計画の内容に入力誤りなどがあった場合，このリリース計画を差し戻す。	計画中

プロセス	担当者	作業内容	作業内容詳細 (「 」はキーワード)	案件のステータス
リリース管理	リリース担当者 (調達者)	ハードウェア、ソフトウェアの調達	リリース案件の内容を確認し、必要となるソフトウェア、ハードウェアを調達する。 担当者をリリース担当者(実装チーム)に変更する。	承認済み
	リリース担当者 (実装チーム)	リリース作業の実施、構成情報の更新依頼	リリース作業を実施する。 「作業結果報告」に記入し、担当者を構成変更担当者に変更、対応を依頼する。	対応依頼中
	構成変更担当者	構成情報の更新	「作業結果報告」に基づいて、構成情報を更新する。担当者をリリース管理者に変更する。	承認済み
	リリース管理者	クローズ	リリース案件の作業内容を確認し、リリース案件をクローズする。	クローズ

注※

案件のステータスを「審議中」に変更したあとに「審議中」の担当者が編集した場合、その案件を引き戻すことはできません。

以上のような検討をした上で、各プロセスの、各作業で扱う情報を、管理が必要な項目（表 5-2 で出現したキーワードなど）として洗い出します。

次に、JP1/Service Support の設定項目と比較し、名称の変更や追加が必要な項目を整理します。

5.2.1 ユーザー、ロールの設計

JP1/Service Support にアクセスする必要がある人員すべてをユーザーとして登録する必要があります。JP1/Service Support にログインする際に必要となる ID、パスワードのほか、ユーザーの所属組織や電話番号、メールアドレスなども登録します。

初めて JP1/Service Support を導入する際には `jssuserimport` コマンドの使用を検討してください。複数のユーザーを一括登録できます。詳細については、「12. コマンド」の「`jssuserimport` (ユーザー情報インポート)」を参照してください。

JP1/Service Support の画面からはユーザーを一人ずつ登録できます。また、登録したユーザー情報の編集、削除ができます。

また、JP1/Service Support では、JP1/Service Support での各ユーザーの役割に応じてロールを定義し、該当ユーザーをそのロールに所属させられます。

「5.2 対象システム、プロセスの決定と体制作り」を例にすると、表 5-2 の担当者欄の内容をそのままロール名として定義できます。

ロール名の定義例：

インシデント担当者、インシデント管理者、問題管理担当者、問題管理者、変更管理者、CAB メンバー、CAB 代表、リリース管理者、リリース担当者（計画立案者）、リリース担当者（調達者）、リリース担当者（実装チーム）、構成変更担当者

ロールの利用についての検討

次のことに留意して、ロールを利用するかどうかを検討してください。

- 小規模なシステムで、運用に携わるユーザーが少ない場合には、ロールを使用しないで、ユーザー管理によるユーザー登録だけでも運用できます。
- 大規模なシステムで、運用に携わるユーザー、部署が多い場合には、ロールを活用することをお勧めします。ロールを活用することで、複数ユーザーに同じアクセス権を、まとめて与えられます。
- ユーザーの登録、更新ができるのは、ユーザー管理ロールに所属するユーザー、ロールだけです。また、プロセスワークボードの作成ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザー、ロールだけです。これらの管理者権限に最初から所属しているユーザーは、jpladmin ユーザーだけです。

管理者権限に所属するユーザー、ロールを厳密に管理することで、重要な情報を扱うプロセスワークボードを作成した場合でも、情報のセキュリティを向上できます。

- ロールを部署、役割、プロジェクトなどの観点で作成し、これらのロールにプロセスワークボードへのアクセス権を与えることで、ユーザーを意識しないでプロセスワークボードに関連するユーザーにアクセス権を与えられます。
- 複雑な管理をしたくない場合、アクセス権とロールの名称を合わせる（参照ロール、承認済みロールなど）ことで、複雑になりやすいアクセス権の設定をわかりやすく、単純な管理にできます。
- 案件ごとに参照権限を設定し、該当する案件を特定のユーザーだけに参照させたい場合、ロールを利用することで特定の複数のユーザーに案件の参照権限を設定できます。

注意事項

- JP1/Service Support の画面からユーザー情報、ロール情報を JP1/Service Support に登録するには、ユーザー管理ロール権限が必要です。
- ユーザーは、最大 1,000 登録できます。
- ロールは、最大 1,000 登録できます。また、各ロールに所属するユーザーは最大 1,000 定義できます。
- ユーザー、ロールを削除する場合は、削除対象のユーザー、ロールが担当者となっている案件がないか、確認が必要です。該当する案件があった場合、担当者を別の担当者に変更する必要があります。JP1/Service Support には、ユーザー、ロール削除時に、プロセスワークボード管理者の権限を持つすべてのユーザーにメールを通知する機能があります。この機能の使用についても検討してください。
詳細については、「[5.5 メール通知の検討](#)」を参照してください。
- システムとして予約されている「_jpl」で始まる名称は、ロール ID に使用できません。

- 案件の作業期限が迫っていることをメールで通知したり、メールの送信によって案件を作成したりするなど、メールを使った機能を使用する場合は、ユーザーのメールアドレスを必ず登録してください。

5.2.2 対象システム、プロセスワークボードの設計

管理の対象とするシステムを JP1/Service Support の画面を使って定義します。また、その対象システム下に適切なプロセスを設定します。

「5.2 対象システム、プロセスの決定と体制作り」を例に設定すると、メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧では、次のようなツリー構造となります。

```
[プロセスワークボード]
└─システム名※
   └─インシデント管理※
   └─問題管理※
   └─変更管理※
   └─リリース管理※
```

注※ システム名およびプロセス名（プロセス表示名）には、ユーザーが任意の名称を付けられます。

注意事項

- 対象システム、プロセスワークボードを作成する、またはプロセス表示名を編集するには、プロセスワークボード管理ロール権限が必要です。
- 対象システムのシステム ID、システム名は、ユーザーが管理しやすい名称を付けてください。
システム ID：半角英数字で 64 文字以内
システム名：制御文字 (0x00~0x1F と 0x7F) 以外の文字で 128 文字以内の半角英数字または約 40 文字以内の全角文字列
- プロセスワークボードのプロセスワークボード ID は、案件 ID にも利用されます。このため、ユーザーが管理しやすい名称を付けてください。
プロセスワークボード ID：半角英数字で 64 文字以内
- (削除待ち) の状態のものを含めて、対象システムの上限数は 200 です。対象システム下に設定できるプロセスワークボードの上限数は 4 です。上限数を超えないよう設計してください。
- 一つの対象システム下に同じプロセスは配置できません。
例えば、インシデント管理プロセスを 1 次サポート、2 次サポートのような形で分けて管理したい場合には、次に示すように、該当する対象システムを JP1/Service Support 上で二つ定義してください。

```
[プロセスワークボード]
└─販売システム
   └─インシデント管理
   └─問題管理
   └─変更管理
```

- プロセス表示名は、ユーザーが管理しやすい名称を付けてください。
プロセスの表示名：制御文字（0x00～0x1F と 0x7F）以外の文字で 128 文字以内の半角英数字または約 40 文字以内の全角文字列
なお、プロセス表示名がシステムプロパティファイルの
hptl_jp1_imss_process_name_display_characters に指定された文字数を超えた場合、JP1/Service Support の画面に表示されるプロセス名が省略されることがあります。詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。
- カスタマイズした案件フォームを複数登録して、プロセスワークボードごとに使い分けることもできます。案件フォームのカスタマイズも含めて検討してください。案件フォームのカスタマイズについては、「9.9 案件フォームのカスタマイズ」を参照してください。

5.2.3 アクセス権の割り当ての設計

JP1/Service Support では、プロセスワークボードごとに、ユーザー、ロールの役割に応じてアクセス権を割り当てられます。アクセス権には、案件の作成、編集、クローズなど、案件の操作に対するものと、案件のステータスに応じた細かな編集権限に対するものがあります。

「5.2 対象システム、プロセスの決定と体制作り」の表 5-1 を例に、各作業担当に必要なアクセス権を割り当てた場合、次のようになります。

- 情報システム管理者：
ロール「作業管理ロール」を割り当てる（アクセス権の割り当ては不要）。
- 作業状況管理者、対象システム管理者：
担当するシステム内のプロセスワークボードに対してアクセス権「案件の参照」権限を割り当てる。

また、「5.2 対象システム、プロセスの決定と体制作り」の表 5-2 を例に、各作業担当に必要なアクセス権を割り当てた場合、次の表のようになります。

表 5-3 アクセス権の割り当て例

プロセス	作業担当	アクセス対象の案件	アクセス権
インシデント管理	インシデント担当者	インシデント	案件の作成 案件の参照 案件ステータス(受付, 調査中, 対応依頼中, 承認済み, クローズ) 案件のクローズ
		問題点	案件の参照

プロセス	作業担当	アクセス対象の案件	アクセス権	
インシデント管理	インシデント担当者	問題点	エスカレーション	
	インシデント管理者	インシデント	案件の参照 案件ステータス(審議中) 案件の承認	
		問題点	案件の参照	
問題管理	問題管理担当者	インシデント	案件の参照	
		問題点	案件の作成 案件の参照 案件ステータス(受付, 調査中, 対応依頼中, 承認済み, クローズ) 案件のクローズ	
		変更点	案件の参照 エスカレーション	
	問題管理者	インシデント	案件の参照	
		問題点	案件の参照 案件ステータス(審議中) 案件の承認	
		変更点	案件の参照	
変更管理	変更管理者	問題点	案件の参照	
		変更点	案件の参照 案件の作成 案件のステータス(受付, 承認済み, レビュー中, クローズ) 案件のクローズ	
		リリース案件	案件の参照	
	CAB メンバー (変更諮問委員会メンバー)	変更点	案件の参照 案件ステータス(受付, 計画中)	
		CAB 代表 (変更諮問委員会代表)	変更点	案件の参照 案件の承認 案件ステータス(審議中, 対応依頼中)
			リリース案件	案件の参照 エスカレーション
リリース管理	リリース管理者	変更点	案件の参照	
		リリース案件	案件の参照 案件の作成 案件の承認	

プロセス	作業担当	アクセス対象の案件	アクセス権
リリース管理	リリース管理者	リリース案件	案件のステータス(受付, 審議中, 承認済み, クローズ) 案件のクローズ
	リリース担当者 (計画立案者)	リリース案件	案件の参照 案件ステータス(受付, 計画中)
	リリース担当者 (調達者)	リリース案件	案件の参照 案件ステータス(承認済み) 案件の承認
	リリース担当者 (実装チーム)	リリース案件	案件の参照 案件ステータス(承認済み)
	構成変更担当者	リリース案件	案件の参照 案件ステータス(対応依頼中) 案件の承認

なお、設定の際には、プロセスワークボード単位でアクセス権を設定することになります。このため、表 5-3 の内容をプロセスワークボードごとに整理し直す必要があります。表 5-3 のうち、インシデント管理プロセスに対するアクセス権を整理した表を次に示します。

表 5-4 インシデント管理プロセスへのアクセス権設定

アクセス権	割り当てユーザー, ロール	
プロセスワークボード管理者※1	JP1 管理者※2	
案件へのアクセス権※3	案件の作成	インシデント担当
	案件の編集	—
	案件の参照※4	インシデント担当, インシデント管理者, 問題管理担当, 問題管理者
	案件の削除	—
	エスカレーション	—
	案件の承認	インシデント管理者
	案件のクローズ	インシデント担当
	案件ステータス(受付)	インシデント担当
	案件ステータス(調査中)	インシデント担当
	案件ステータス(審議中)	インシデント管理者
	案件ステータス(承認済み)	インシデント担当
	案件ステータス(対応依頼中)	インシデント担当
	案件ステータス(クローズ)	インシデント担当

(凡例)

ー：割り当てユーザー，ロールなし

注※1

プロセスワークボード管理者は，[アクセス権編集] 画面で設定できるすべてのアクセス権を持ちます。プロセスワークボード管理者は，[プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面で設定します。

注※2

JP1/Service Support のシステム管理者向けのユーザーで，デフォルトで登録されています。

注※3

[アクセス権編集] 画面で設定します。

注※4

案件ごとに参照権限を設定する場合は，[案件作成] 画面または [案件編集] 画面で，該当する案件を参照できるユーザーまたはロールを設定します。案件ごとに参照権限を設定するには，あらかじめ設定が必要です。詳細については，「9.13 案件ごとに参照権限を設定するための環境設定」を参照してください。

(1) 運用に向けての検討

次に示す例を参考に，アクセス権の割り当てルールを決めてください。

- 問い合わせ者に問い合わせの状況を見せたい場合には，その問い合わせ者に，該当するプロセスワークボードへの「案件の参照」権限を与えます。

また，これの応用として外部への情報公開用と，内部での調査用にプロセスワークボードを分けて作成，管理することもできます。

外部への情報公開用のプロセスワークボードへのアクセス権

問い合わせ者：「案件の参照」権限を与えます。

問い合わせ対応者：「案件の参照」「案件の作成」「案件の編集」「案件のクローズ」権限を与えます。

問い合わせ対応者の作業承認者：「案件の参照」「案件の承認」権限を与えます。

内部での調査用のプロセスワークボードへのアクセス権

各プロセスの各作業者に，役割に応じて適切なアクセス権を与えます。

また，調査用のプロセスワークボードに案件をエスカレーションできるように，問い合わせ対応者には，該当するプロセスワークボードへの「エスカレーション」権限を与えます。

- ほかのプロセス担当者が関連案件として内容を参照できるように，そのプロセス担当者に，該当するプロセスワークボードへの「案件の参照」権限を与えます。
- 不特定多数からの案件の登録を防ぐため，特定のユーザー，またはロールだけに「案件の作成」や「エスカレーション」権限を与えます。
- 特定の職位の人だけが案件を承認できるように，その人だけに，該当するプロセスワークボードへの「案件の承認」権限を与えます。
- 案件のクローズを厳密に管理するために，プロセスワークボード管理者，または特定のユーザー，ロールだけに「案件のクローズ」権限を与えます。本当にクローズしてよいかをチェックしてからクローズできます。

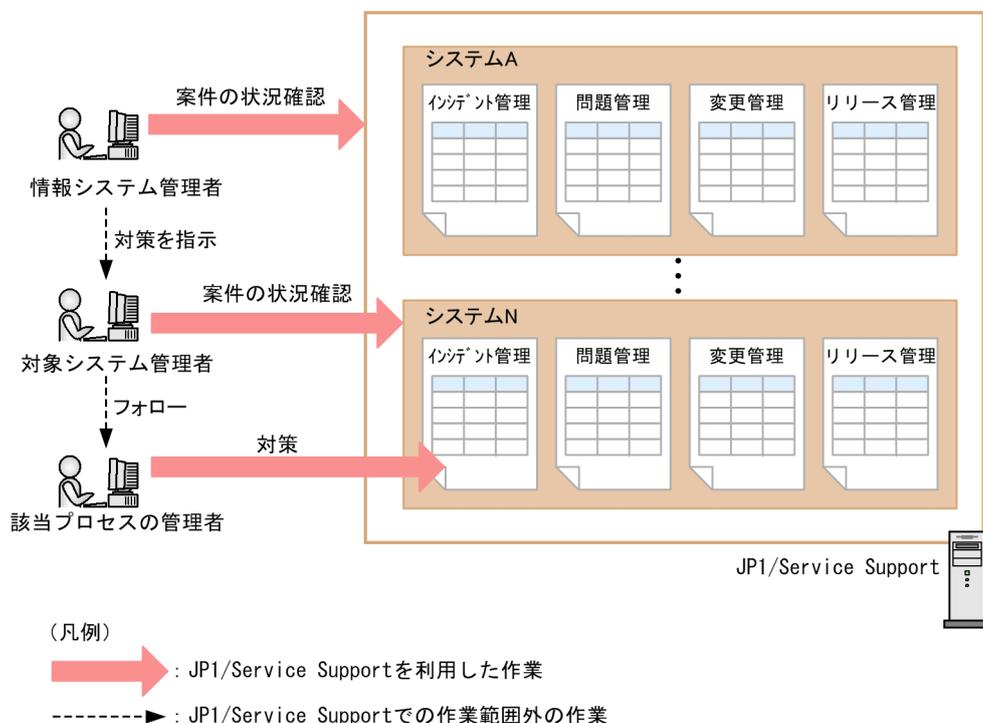
- 誤って登録した案件もすべて管理したい場合には、「案件の削除」権限をプロセスワークボード管理者、または特定の職位の人だけに与えます。
- 一時的に特定のプロセスワークボードへのアクセス権を与えたい場合には、アクセス権に該当するユーザーを追加します。役割や部署に応じてアクセス権を与えたい場合には、アクセス権に該当するロールを追加します。
- 共通な案件を処理するために各システムで共通な基盤システムを作成した場合、案件に関係のないユーザーも案件を参照できます。案件に関するユーザーだけに案件を参照させるためには、案件ごとに参照権限を設定する必要があります。案件ごとに参照権限を設定する場合のアクセス権の設定方法については、「(5) 運用例 (案件ごとに参照権限を設定する場合の運用例)」を参照してください。
- プロセスワークボードごとに、ステータスの初期担当者を決めてください。ステータスの初期担当者を設定することで、[案件作成] 画面や [案件編集] 画面で案件を作成したり編集したりする際、ステータスを入力すると、担当者にステータスの初期担当者が自動で入力されます。ステータスの初期担当者は、[アクセス権編集] 画面で設定してください。

(2) 運用例 (サービスサポートの運用状況管理)

企業内システムのインシデント管理、問題管理、変更管理、リリース管理をする情報管理部門の担当者や、さらにその上位の管理者などが、サービスサポートの運用状況を管理するためには、それぞれに適切な権限を割り当てる必要があります。

ここでは、次の図に示すとおり、企業内システムの情報管理部門の担当者を「対象システム管理者」、その上位組織の管理者を「情報システム管理者」として、それぞれの運用状況を確認する運用とした場合を例に説明します。

図 5-3 企業内システムの情報管理部門およびその上位組織での運用例



情報システム管理者は、企業内システム全体の案件の状況を参照して、問題のあるシステムがないかどうかを確認します。長期化している案件の目立つシステムなどの問題点があった場合は、該当するシステムの管理者に対策を指示します。

対象システム管理者は、担当しているシステムの案件の状況を参照して、問題のあるプロセスがないかどうかを確認します。審議中の案件が多いプロセスや、対策期限の迫っている案件があるプロセスなどを確認して、該当するプロセスの管理者をフォローします。

このような運用をする場合、それぞれの管理者に必要な権限を次の表に示します。

表 5-5 作業状況を管理するために必要な権限

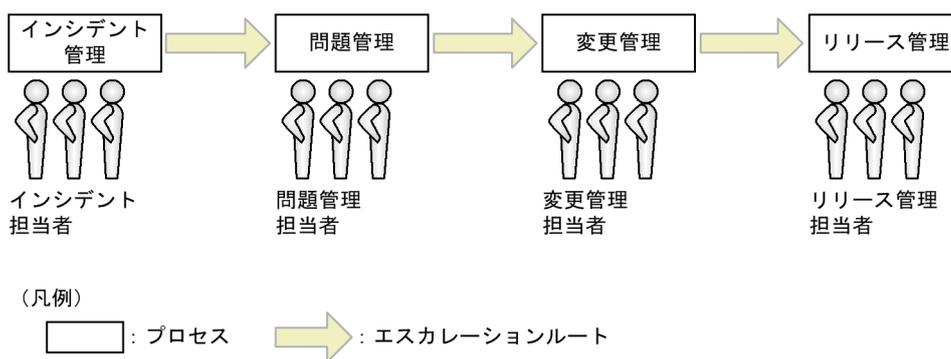
管理者名	必要な権限	説明
情報システム管理者	全システムを参照する権限	「作業管理ロール」に所属することで、JP1/Service Support で管理する対象システム、プロセスすべての作業状況を確認できる。
対象システム管理者	システム N 内の全プロセスの参照権限	システム N 内のプロセスワークボードすべてに対してアクセス権「案件の参照」権限が必要。
該当プロセスの管理者	担当プロセスの参照権限	システム N 内の該当するプロセスワークボードに対してアクセス権「案件の参照」権限が必要。

(3) 運用例（エスカレーションルート（エスカレーションの経路）の決定）

プロセス間のエスカレーションルート（エスカレーションの経路）は、各プロセス内での処理とは別に検討が必要です。エスカレーションルートは、各プロセスワークボードの担当者に「エスカレーション」権限を設定することで決められます。運用を開始する前にエスカレーションルートを決め、それに合わせた権限設定をしてください。

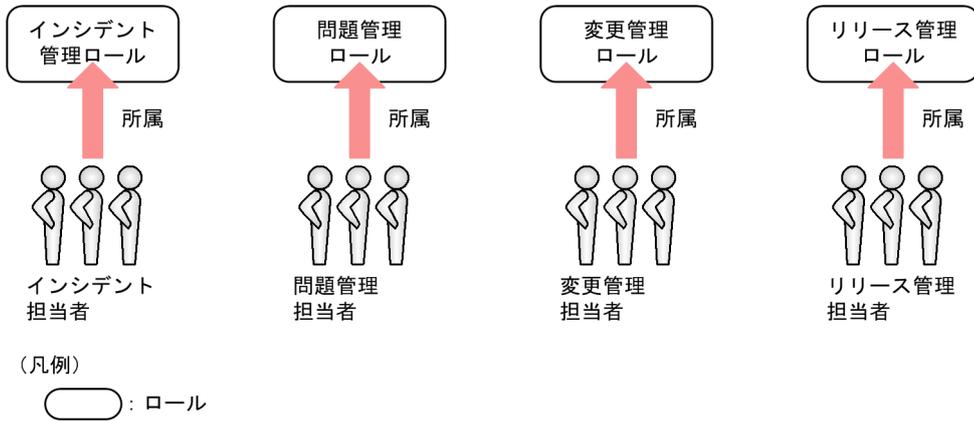
ここでは、次の図に示すエスカレーションルートで運用する場合を例に説明します。

図 5-4 エスカレーションルート例



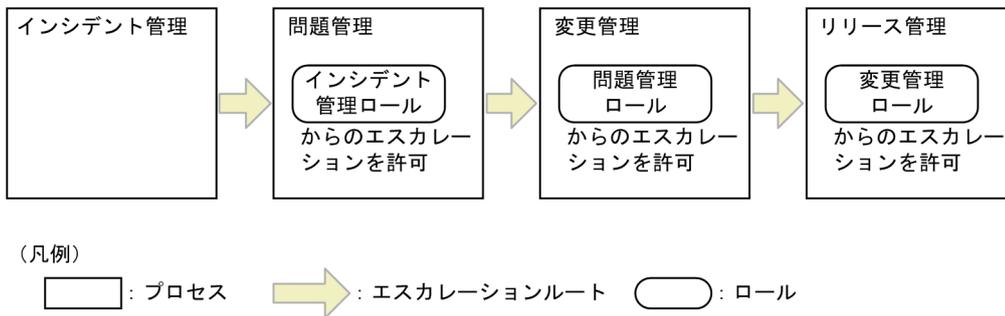
この例のエスカレーションルートは、インシデント管理、問題管理、変更管理、リリース管理の順で、エスカレーションできるユーザーは、各プロセス担当者全員となっています。この場合、次の流れで権限の設定をします。

1. 各プロセス用のロールを作成し、プロセス担当者をそれぞれのロールに所属させる。



担当者ごとに権限を分ける必要がない場合は、ロールを作成し、そのロールに担当者を所属させることをお勧めします。

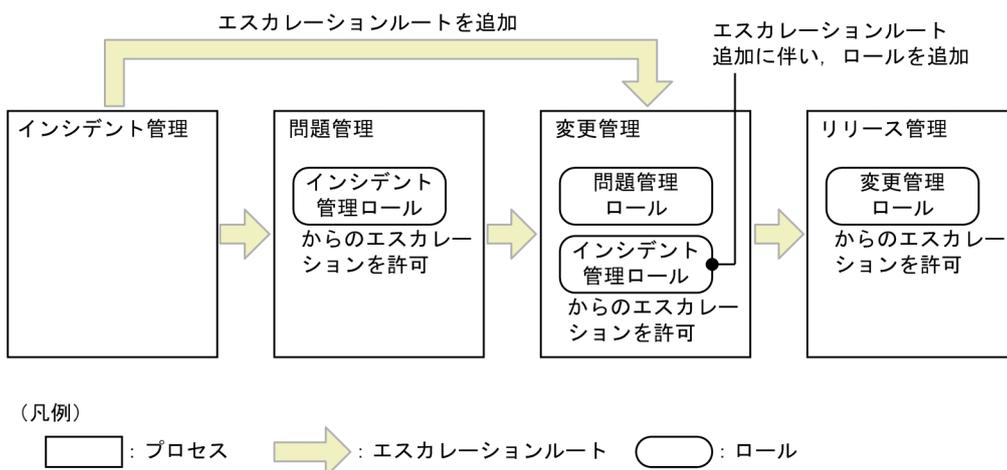
2. 各プロセスにだれからのエスカレーションを受け付けるかを設定する。



各プロセスでだれからのエスカレーションを許可するか設定（アクセス権を設定）することで、エスカレーションルートが決まります。

なお、エスカレーションルートが変更になった場合は、次の図に示すように、エスカレーション先の各プロセスでエスカレーションを許可するための設定を見直す必要があります。

図 5-5 エスカレーションルートの変更



(4) 運用例 (案件の処理)

案件の処理の流れに沿って異なる担当者を割り当てる運用とする場合、JP1/Service Support 上でスムーズに引き継ぎができるよう、アクセス権を適切に割り当てることが重要です。ここでは、案件を処理する体制に応じて、想定する運用例を四つ説明します。これらを参考に設計してください。

ヒント

担当者間で案件処理の引き継ぎをする場合、引き継ぎ先の担当者に、ステータス変更前の案件に対するアクセス権を割り当ててください。

例えば、ステータス「承認済み」の案件を、ステータス「クローズ」に変更する担当者には「案件のクローズ」権限のほか、「案件の編集」権限またはステータスのアクセス権「承認済み」権限※を割り当ててください。引き継ぎ元の担当者が編集を済ませ、ステータスを「承認済み」にしたときに、次の担当者として引き継ぎ先の担当者を指定できるようになります。

また、これとメール通知機能を組み合わせることで、スムーズな引き継ぎを実現できます。

注※

「案件の編集」を持つユーザーは、どのステータスの案件に対しても編集できます。ステータスのアクセス権を持つユーザーは、そのステータスのときにだけ編集できます。案件のステータスによって操作できるユーザーを厳密に管理したい場合はステータスのアクセス権を設定してください。

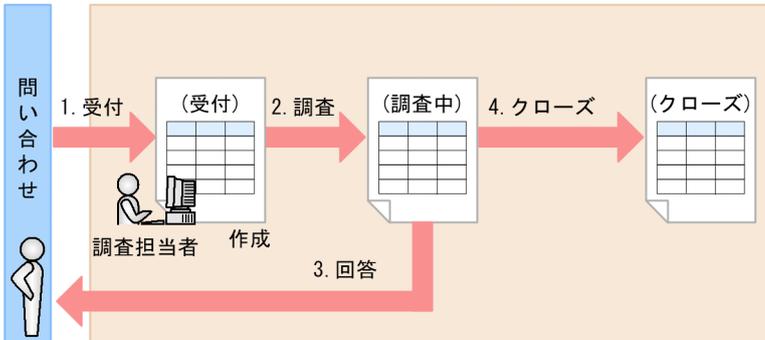
(a) 調査担当者が案件の受付からクローズまで対応する運用の場合

調査担当者だけで案件を処理する場合、次の図に示すようにアクセス権を割り当てます。この例では、個人の作業内容を自己管理する体制での案件処理を想定しています。

図 5-6 調査担当者だけで案件の処理をすべて実施する運用例

案件の担当者が持つ権限

調査担当者
<ul style="list-style-type: none"> ・案件の作成 ・案件の参照 ・案件の編集 ・案件のクローズ



(凡例)

→ : 処理の流れ

() : 案件のステータス

図 5-6 で示した案件処理ごとの、案件処理後の案件のステータスおよび担当者の対応を次に示します。

処理の順序	内容	案件のステータス	案件の担当者
1	調査担当者が問い合わせを受け付け、案件を作成する。	受付	調査担当者
2	調査担当者が調査状況に合わせて案件を更新する。	調査中	調査担当者
3	調査担当者が問い合わせ者に回答する。	調査中	調査担当者
4	調査担当者が問い合わせ者に回答後、案件をクローズする。	クローズ	調査担当者

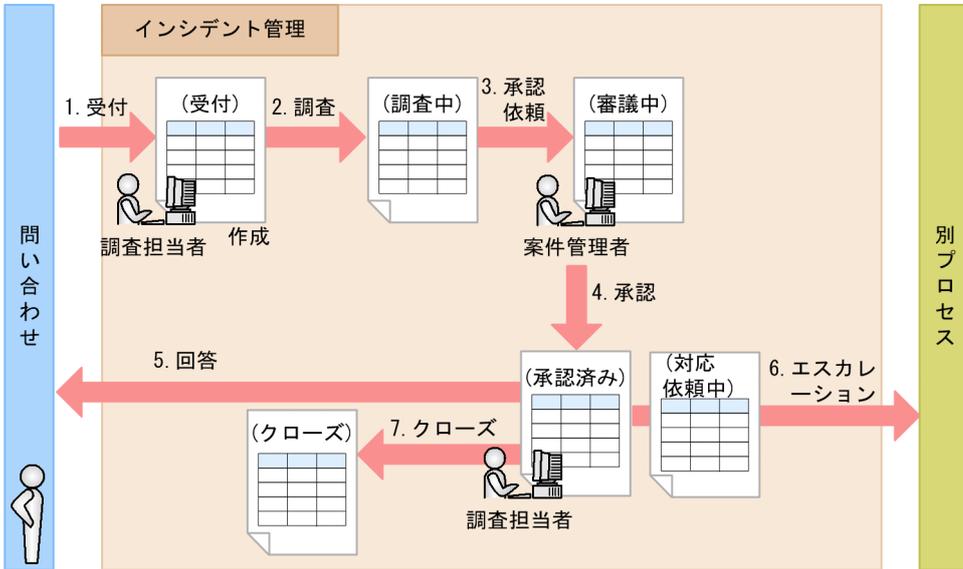
(b) 調査担当者が案件の処理をし、管理者が承認する運用の場合

調査担当者が案件の処理をし、管理者が承認する運用の場合、次の図に示すようにアクセス権を割り当てます。この例では、個人の作業内容を別の人が承認する体制での案件処理を想定しています。

図 5-7 調査担当者が案件の処理をし、管理者が承認する運用例

案件の担当者が持つ権限

調査担当者	案件管理者
<ul style="list-style-type: none"> ・案件の作成 ・案件の参照 ・案件の編集 ・案件のクローズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・案件の参照 ・案件の承認 ・ステータス「審議中」
別プロセスに対するアクセス権	
・エスカレーション	



(凡例)

- : 処理の流れ
- () : 案件のステータス

図 5-7 で示した案件処理ごとの、案件処理後の案件のステータスおよび担当者の対応を次に示します。

処理の順序	内容	案件のステータス	案件の担当者
1	調査担当者が問い合わせを受け付け、案件を作成する。	受付	調査担当者
2	調査担当者が調査状況に合わせて案件を更新する。	調査中	調査担当者
3	調査担当者が管理者に承認依頼をする。	審議中	管理者
4	管理者が案件を承認する。承認却下の場合は案件のステータスを「調査中」に変更する。	承認済み／調査中	調査担当者
5	調査担当者が問い合わせ者に回答する。	承認済み	調査担当者
6	エスカレーションが必要な場合、調査担当者が案件をエスカレーションする。	対応依頼中	調査担当者
7	調査担当者が問い合わせ者に回答後、案件をクローズする。	クローズ	調査担当者

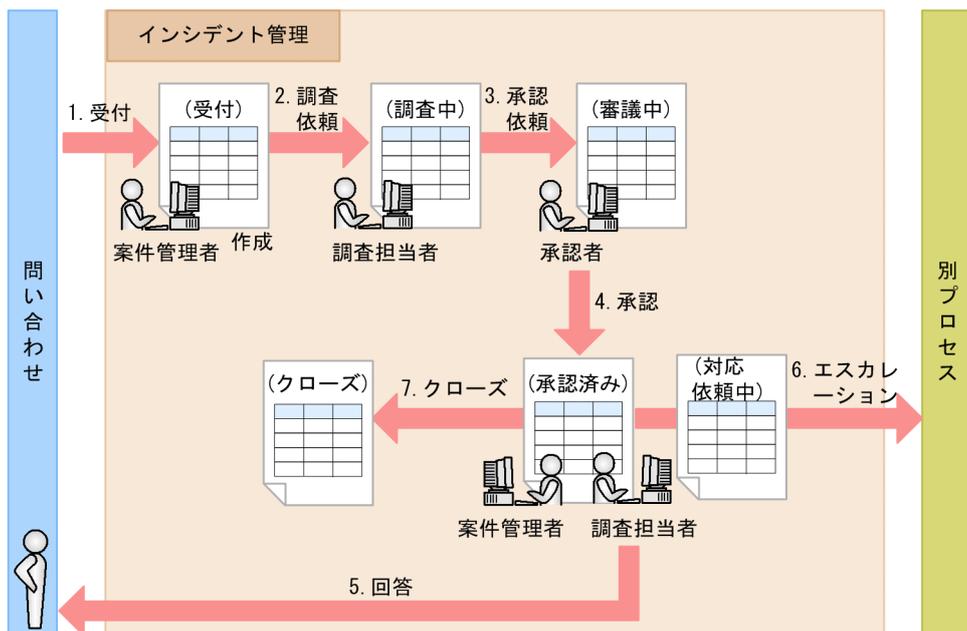
(c) 案件の受付、調査、承認をそれぞれ別の担当者が処理する運用の場合

案件の受付、調査、承認をそれぞれ別の担当者が処理する運用の場合、次の図に示すようにアクセス権を割り当てます。この例では、作業内容に合わせて対応者を細分化した体制での案件処理を想定しています。

図 5-8 案件の受付、調査、承認をそれぞれ別の担当者が処理する運用例

案件の担当者が持つ権限

案件管理者	調査担当者	承認者
<ul style="list-style-type: none"> ・案件の参照 ・案件のクローズ ・ステータス「受付」「承認済み」「クローズ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・案件の参照 ・ステータス「調査中」「承認済み」「対応依頼中」 別プロセスに対するアクセス権 <ul style="list-style-type: none"> ・エスカレーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・案件の参照 ・案件の承認 ・ステータス「審議中」



- (凡例)
- ➡ : 処理の流れ
 - () : 案件のステータス

図 5-8 で示した案件処理ごとの、案件処理後の案件のステータスおよび担当者の対応を次に示します。

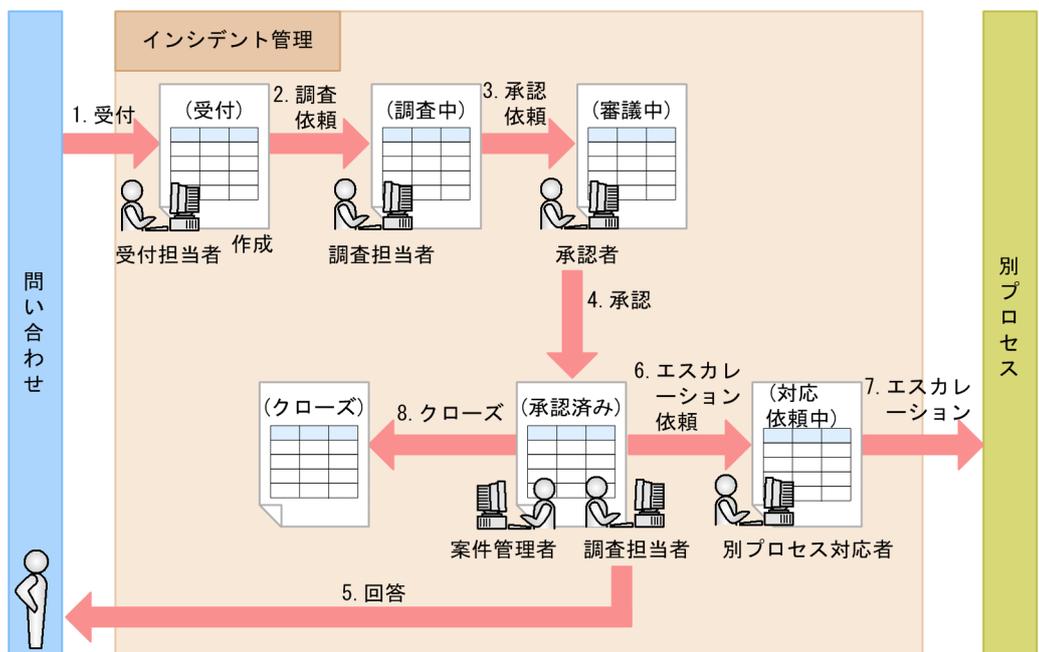
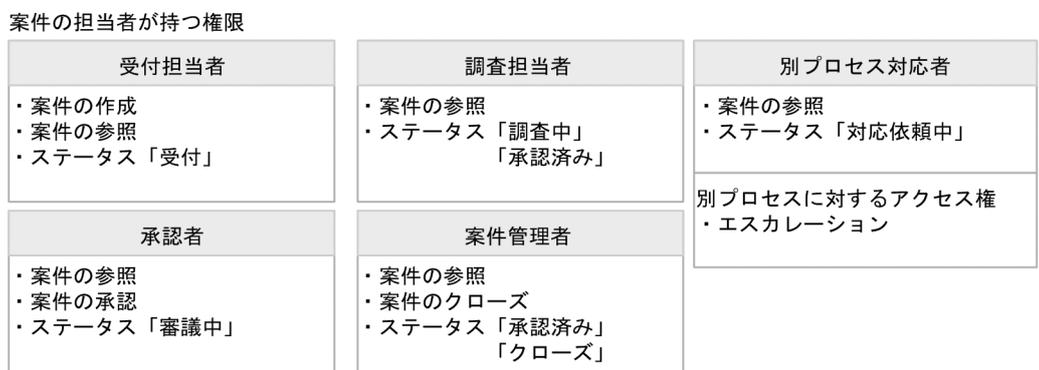
処理の順序	内容	案件のステータス	案件の担当者
1	案件管理者が問い合わせを受け付け、案件を作成する。	受付	案件管理者
2	案件管理者が調査担当者に調査を依頼する。 依頼を受けて、調査担当者が調査状況に合わせて案件を更新する。	調査中	調査担当者
3	調査担当者が承認者に承認依頼をする。	審議中	承認者
4	承認者が案件を承認する。承認却下の場合は案件のステータスを「調査中」に変更する。	承認済み／調査中	調査担当者

処理の順序	内容	案件のステータス	案件の担当者
5	調査担当者が問い合わせ者に回答する。	承認済み	案件管理者
6	エスカレーションが必要な場合、調査担当者が案件をエスカレーションする。	対応依頼中	調査担当者
7	調査担当者が問い合わせ者に回答後、案件をクローズする。	クローズ	案件管理者

(d) 案件の受付、調査、承認、クローズをそれぞれ別の担当者が処理する運用の場合

案件の受付、調査、承認、クローズをそれぞれ別の担当者が処理する運用の場合、次の図に示すようにアクセス権を割り当てます。この例では、「(c) 案件の受付、調査、承認をそれぞれ別の担当者が処理する運用の場合」の体制を、さらに細分化した体制での案件処理を想定しています。

図 5-9 案件の受付、調査、承認、クローズをそれぞれ別の担当者が処理する運用例



- (凡例)
- : 処理の流れ
 - () : 案件のステータス

図 5-9 で示した案件処理ごとの、案件処理後の案件のステータスおよび担当者の対応を次に示します。

処理の順序	内容	案件のステータス	案件の担当者
1	受付担当者が問い合わせを受け付け、案件を作成する。	受付	受付担当者
2	受付担当者が調査担当者に調査を依頼する。 依頼を受けて、調査担当者が調査状況に合わせて案件を更新する。	調査中	調査担当者
3	調査担当者が承認者に承認依頼をする。	審議中	承認者
4	承認者が案件を承認する。承認却下の場合は案件のステータスを「調査中」に変更する。	承認済み／調査中	調査担当者
5	調査担当者が問い合わせ者に回答する。	承認済み	案件管理者
6	エスカレーションが必要な場合、調査担当者が別プロセス対応者にエスカレーションを依頼する。	承認済み	別プロセス対応者
7	別プロセス対応者が案件をエスカレーションする。	対応依頼中	別プロセス対応者
8	調査担当者が問い合わせ者に回答後、案件をクローズする。	クローズ	案件管理者

(5) 運用例（案件ごとに参照権限を設定する場合の運用例）

複数のシステムに共通な案件を処理するために基盤システムを作成する場合、基盤システムのプロセスワークボードに対して案件ごとに参照権限を設定することによって、該当する案件を関係のないユーザーに参照させないようにすることができます。この場合、システムのプロセスワークボードに対してのアクセス権の設計のほかに、案件ごとに参照権限を所有するユーザーまたはロールを設計する必要があります。

案件ごとに参照権限を設定する場合の、プロセスワークボードのアクセス権の設計手順について説明します。ここでは、システム A, B, C, および基盤システム D のそれぞれのプロセスワークボード「インシデント管理」に対して、案件の処理に必要なロールおよびアクセス権を設計します。

1. システム A, B, C のインシデント管理に対して、案件の処理に必要なアクセス権を設計する。

システム A, B, C のインシデント管理に対して案件の処理に必要なアクセス権を設計した例を、次に示します。

システム名：プロセスワークボード名	ロール名	ロールに所属するユーザー	プロセスワークボードのアクセス権
システム A：インシデント管理	roleA1 (一般ロール)	UserA1, UserA2	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照 • 案件の編集 • エスカレーション
	roleA2 (管理者ロール)	UserA3, UserA4	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照 • 案件の編集 • エスカレーション • 案件の承認
システム B：インシデント管理	roleB1	UserB1, UserB2	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照

システム名：プロセスワークボード名	ロール名	ロールに所属するユーザー	プロセスワークボードのアクセス権
システム B：インシデント管理	(一般ロール)	UserB1, UserB2	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の編集 • エスカレーション
	roleB2 (管理者ロール)	UserB3, UserB4	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照 • 案件の編集 • エスカレーション • 案件の承認
システム C：インシデント管理	roleC1 (一般ロール)	UserC1, UserC2	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照 • 案件の編集 • エスカレーション
	roleC2 (管理者ロール)	UserC3, UserC4	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照 • 案件の編集 • エスカレーション • 案件の承認

2. 基盤システム D のインシデント管理に対して、案件の処理に必要なアクセス権を設計する。

ここでは、各システムからエスカレーションされた案件の処理を考慮する必要はありません。

基盤システム D のインシデント管理に対して案件の処理に必要なアクセス権を設計した例を、次に示します。

システム名：プロセスワークボード名	ロール名	ロールに所属するユーザー	プロセスワークボードのアクセス権
基盤システム D：インシデント管理	roleD1 (一般ロール)	UserD1, UserD2	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照 • 案件の編集 • エスカレーション
	roleD2 (管理者ロール)	UserD3, UserD4	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照 • 案件の編集 • エスカレーション • 案件の承認

3. 基盤システム D のインシデント管理で必要となるロールとメンバーを設計する。

各システムからエスカレーションされた案件を処理するためのロールを設計する必要があります。この手順では、システム A, B, C と基盤システム D のプロセスワークボードに設定したロールのメンバーを一つにまとめ、基盤システム D のインシデント管理で必要となるロールを設計します。

基盤システム D のインシデント管理に対して案件の処理に必要なロールとメンバーを設計した例を、次に示します。

ロール名	ロールに所属するユーザー	説明
roleAD (統合ロール)	UserA1, UserA2, UserA3, UserA4,	システム A と基盤システム D のユーザーを一つにまとめたロール。

ロール名	ロールに所属するユーザー	説明
roleAD (統合ロール)	UserD1, UserD2, UserD3, UserD4	システム A と基盤システム D のユーザーを一つにまとめたロール。
roleBD (統合ロール)	UserB1, UserB2, UserB3, UserB4, UserD1, UserD2, UserD3, UserD4	システム B と基盤システム D のユーザーを一つにまとめたロール。
roleCD (統合ロール)	UserC1, UserC2, UserC3, UserC4, UserD1, UserD2, UserD3, UserD4	システム C と基盤システム D のユーザーを一つにまとめたロール。

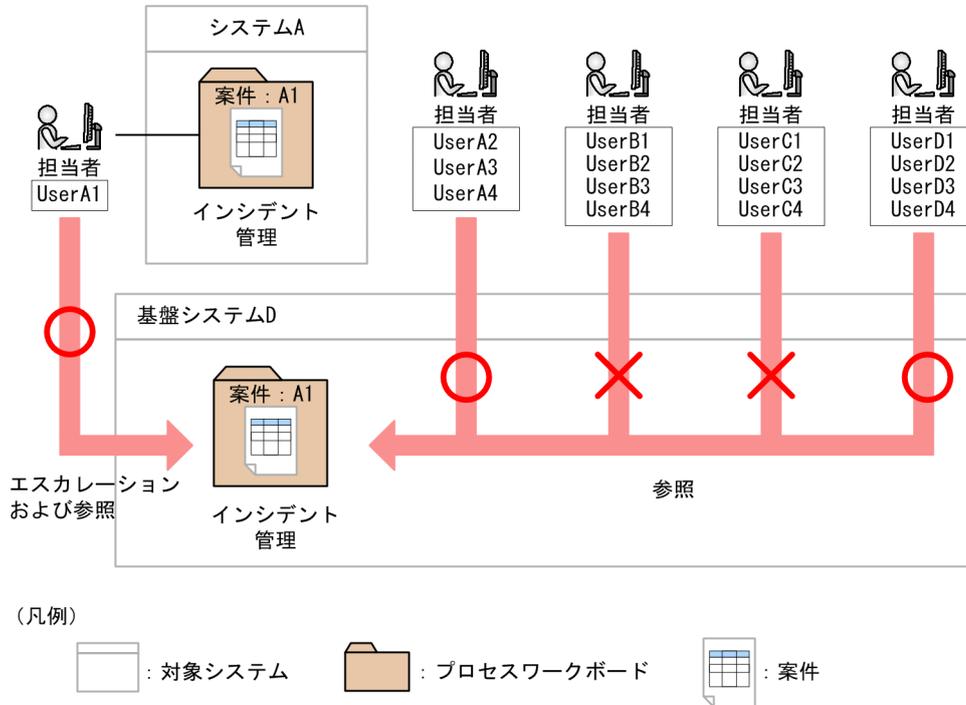
4. 手順 3 で設計した基盤システム D のインシデント管理に必要なロールに対して、案件の参照権限を設定する。

手順 1～3 で設計した各システムのロール，ロールに所属するメンバー，およびアクセス権を基に，基盤システム D のインシデント管理に必要なロール，メンバー，およびアクセス権を，再度設計します。再度設計した基盤システム D のインシデント管理に必要なロール，ロールに所属するメンバー，およびアクセス権の例を，次に示します。

システム名：プロセスワークボード名	ロール名	ロールに所属するユーザー	プロセスワークボードのアクセス権
基盤システム D：インシデント管理	roleD1	UserD1, UserD2	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照 • 案件の編集 • エスカレーション
	roleD2	UserD3, UserD4	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照 • 案件の編集 • エスカレーション • 案件の承認
	roleAD (統合ロール)	UserA1, UserA2, UserA3, UserA4, UserD1, UserD2, UserD3, UserD4	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照
	roleBD (統合ロール)	UserB1, UserB2, UserB3, UserB4, UserD1, UserD2, UserD3, UserD4	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照
	roleCD (統合ロール)	UserC1, UserC2, UserC3, UserC4, UserD1, UserD2, UserD3, UserD4	<ul style="list-style-type: none"> • 案件の参照

上記の手順で設計したアクセス権を適用した場合の運用例を、次の図に示します。この運用例では、システム A のインシデント管理の案件 A1 を基盤システム D にエスカレーションする際に、案件 A1 に対して案件の参照権限所有者として roleAD を設定しています。UserB1～UserB4 および UserC1～UserC4 は、基盤システム D のインシデント管理に登録されている案件の参照権限が設定されていますが、案件 A1 の参照権限が設定されていないため、基盤システム D のインシデント管理に登録された案件 A1 を参照できません。

図 5-10 案件ごとに参照権限を設定した場合の運用例



5.3 案件のステータスの検討

「5.2 対象システム、プロセスの決定と体制作り」の表 5-2 のような運用の検討結果を基に、案件の処理状況を示すステータスについて検討します。JP1/Service Support では、通常使用する 8 種類のステータスのほかに、ユーザー拡張用のステータスも用意しています。また、ステータスはユーザーの運用に合わせて次のカスタマイズができます。

- 使用するステータスの選択
- ステータスの表示順序変更
- ステータス名称の変更
- 遷移先ステータスの検討
- エスカレーションの禁止

運用に合わせてカスタマイズを検討してください。ステータスのカスタマイズは、プロセスやプロセスワークボードごとに、[ステータス管理] 画面から行います。ステータスをカスタマイズする手順については、[9.11 ステータスのカスタマイズ] を参照してください。

ステータスをカスタマイズする上で検討が必要な項目について、「5.3.1 通常使用するステータスをカスタマイズする場合」、「5.3.2 ユーザー拡張用のステータスをカスタマイズする場合」、および「5.3.3 ステータスの設定をカスタマイズする場合」で説明します。

注意事項

- ほかのステータスと同じステータス名称を設定するとエラーとなるため、名称は一意である必要があります。
- メイン画面（案件状況）での案件状況の確認に影響が出るため、「受付（ステータス ID：JIMSD_STAT_INQUIRY）」や「クローズ（ステータス ID：JIMSD_STAT_CLOSE）」など、通常使用するステータスは、完全に意味の異なる名称に変更しないでください。
- メイン画面（案件状況）での案件状況の確認のために集計されている案件は、ステータス ID で特定されています。例えば、ユーザー拡張用のステータスで新たに「審議中」というステータスを作成しても、「審議中」の案件としては集計されません。
- ステータスの名称を変更した場合は、案件情報インポートコマンドに影響が出るため、コードマッピングファイルもあわせて変更する必要があります。詳細については、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemimport_codemap.conf)」を参照してください。
- ステータスをカスタマイズする場合は、案件をどう処理していくかの処理ルートや案件へのアクセス権などについても考慮する必要があります。案件を処理していくための体制作りの段階で、ステータスをカスタマイズするかどうか検討してください。体制作りの検討については、「5.2 対象システム、プロセスの決定と体制作り」を参照してください。

5.3.1 通常使用するステータスをカスタマイズする場合

「受付」や「クローズ」など、通常使用するステータスをカスタマイズする場合に検討する項目について次に示します。

- 使用するステータスを検討する
「5.2 対象システム、プロセスの決定と体制作り」の表 5-2 のような運用の検討結果を基に、どのステータスを使用するか検討します。使用するステータスの選択は、プロセスおよびプロセスワークボードごとに設定できます。
- ステータス名称の変更を検討する
運用の検討結果を基に、ステータス名称を変更するかどうかを検討します。ステータス名称は、JP1/Service Support 全体で使用する名称となり、プロセスやプロセスワークボードごとに異なる名称を設定できません。
- ステータスの表示順序を検討する
運用の検討結果を基に、[案件作成] 画面または [案件編集] 画面で、ステータスを選択する際のプルダウンメニューの表示順序を検討します。プルダウンメニューの表示順序は、プロセスおよびプロセスワークボードごとに設定できます。なお、設定したステータスの表示順序は、[進捗表示] 画面に表示されるステータスの表示順序にも反映されます。案件を処理する流れに沿った表示順序にするなど、運用に合わせて変更してください。

5.3.2 ユーザー拡張用のステータスをカスタマイズする場合

ユーザー拡張用のステータスはデフォルトで 10 種類用意されています。それらを利用して新たにステータスを作成できます。また、プロセスワークボードごとにステータス名称をカスタマイズしたい場合にも、ユーザー拡張用ステータスを使うことで運用に合わせた名称のステータスを使用できます。ユーザー拡張用のステータスを使用してカスタマイズする場合に検討する項目について次に示します。

- 新たに作成するステータスを検討する
運用の検討結果を基に、新たにステータスを作成するかどうか検討します。「受付 (ステータス ID: JIMSD_STAT_INQUIRY)」や「クローズ (ステータス ID: JIMSD_STAT_CLOSE)」など、通常使用するステータスと、ユーザー拡張用のステータスを混在させて使用することもできます。新たなステータスはプロセスおよびプロセスワークボードごとに作成できます。
- ステータス名称を検討する
運用の検討結果を基に、新たに作成するステータス名称を検討します。ステータス名称は、JP1/Service Support 全体で使用する名称となり、プロセスやプロセスワークボードごとに異なる名称を設定できません。
- ステータスの表示順序を検討する
運用の検討結果を基に、[案件作成] 画面または [案件編集] 画面で、ステータスを選択する際のプルダウンメニューの表示順序を検討します。プルダウンメニューの表示順序は、プロセスおよびプロセスワークボードごとに設定できます。なお、設定したステータスの表示順序は、[進捗表示] 画面に表示

されるステータスの表示順序に反映されます。案件を処理する流れに沿った表示順序にするなど、運用に合わせて変更してください。

5.3.3 ステータスの設定をカスタマイズする場合

ステータスの設定をカスタマイズすることで、運用に合わせたステータスの管理ができるようになります。例えば、特定のステータスに遷移できるようにしたり、特定のステータスの案件をエスカレーションできないようにしたりできます。ステータスを制限して使用する場合に検討する項目について次に示します。

- 登録された案件のステータスを検討する

[案件作成] 画面から登録された案件のステータスを「受付」だけに制限するかどうか検討します。登録された案件のステータスを「受付」にするかどうかは、プロセスワークボードごとに設定できます。

- 遷移先のステータスを検討する

[案件編集] 画面で遷移できるステータスを制限するかどうか検討します。

遷移できるステータスの制限は、プロセスワークボードごとに設定できます。案件を処理する流れに合わせて設定してください。

遷移できるステータスを制限する場合は、[案件作成] 画面から登録された案件のステータスを「受付」だけに制限してください。「受付」だけに制限しない場合、意図しないステータスに遷移してしまうおそれがあります。

- エスカレーションの可否を検討する

エスカレーションできないステータスを設定するかどうか検討します。エスカレーションできないステータスの設定は、プロセスワークボードごとに設定できます。

遷移できるステータスを制限する方法については、「[9.11.4 ステータスの制限の設定](#)」を参照してください。エスカレーションできないステータスの設定については、「[9.11.5 エスカレーションの禁止の設定](#)」を参照してください。

5.4 案件で管理する項目と入力方法の検討

「5.2 対象システム，プロセスの決定と体制作り」の表 5-2 のような運用の検討結果を基に，案件で管理する項目を検討します。検討の結果，新たに追加したい案件の項目や情報の入力を必須にしたい項目などがあれば，案件フォームをカスタマイズすることで対応できます。

また，案件項目の自動入力や入力候補値の表示など，案件の作成または編集時に情報を入力する方法についても，利用するかどうか検討してください。

案件で管理する項目と入力方法の検討に必要な項目を次に示します。

5.4.1 案件フォームのカスタマイズの利用

JP1/Service Support では，JP1/Service Support で定義している各プロセスに合わせて，次に示す案件フォームを用意しています。

- インシデント管理用の案件フォーム
- 問題管理用の案件フォーム
- 変更管理用の案件フォーム
- リリース管理用の案件フォーム

これらの案件フォームで設定されている各プロセスの案件の項目は，ユーザーの運用に合わせて次のようなカスタマイズができます。

- 項目の追加
- 項目の変更
- 必須項目の設定

運用に合わせてカスタマイズを検討してください。詳細については，「9.9 案件フォームのカスタマイズ」を参照してください。

案件検索用の案件フォームのカスタマイズ

JP1/Service Support には，各プロセス用の案件フォームのほか，案件検索用の案件フォームがあります。これは，プロセスワークボード一覧から最上位の「プロセスワークボード」を選択した際の「案件共通項目検索条件指定」画面，または対象システムを選択した際の「案件検索条件指定」画面に表示される項目を決めるためのフォームです。次の場合にカスタマイズを検討してください。

- 各プロセス用の案件フォームをカスタマイズした場合
カスタマイズ内容に合わせて案件検索用の案件フォームをカスタマイズします。
- 検索条件に指定できる項目を減らしたい場合
検索条件として使用しないと考えられる，重要性の低い項目を表示項目から削除する目的でカスタマイズします。

案件検索用の案件フォームについては、「13. 定義ファイル」の「[案件検索用の案件フォーム定義ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

注意事項

- 選択肢コードは各プロセス間で統一してください。統一していない場合、エスカレーション時に意図しない選択肢コードに変換されたり、引き継がれなかったりします。

例えば、インシデント管理プロセスで「案件種別」に「<option value="4">情報</option>」を追加定義し、問題管理プロセスで「<option value="4">参考情報</option>」を追加定義していた場合、インシデント管理プロセスから問題管理プロセスへの引き継ぎで「情報」は「参考情報」に変換されます。また、ほかのプロセスで追加定義していなかった場合、「情報」は引き継がれません。

- 誤って作成した、または不要になった案件フォームは、手動で削除してください。案件フォームの削除手順については、「[9.9 案件フォームのカスタマイズ](#)」を参照してください。

5.4.2 カスタマイズした案件フォームの使い分けの利用

カスタマイズした案件フォームをプロセスワークボードごとに使い分けることもできます。運用に合わせて、案件フォームの使い分けについて検討してください。案件フォームの使い分けには、カスタマイズした案件フォームを複数登録し、[プロセスワークボード作成] 画面、および [プロセスワークボード編集] 画面で、使用する案件フォームを選択します。詳細については、「[9.6 プロセスワークボードの作成](#)」を参照してください。

注意事項

案件フォームを複数登録する場合、そのうちのどれか一つをプロセスの標準案件フォームにする必要があります。プロセスの標準案件フォームの設定手順については、「[9.9 案件フォームのカスタマイズ](#)」を参照してください。

5.4.3 案件項目の自動入力の利用

また、[プロセスワークボード作成] 画面、および [プロセスワークボード編集] 画面では、次に示す案件フォームの項目を案件作成時に自動入力するよう設定できます。運用に合わせて自動入力の設定を使用するかどうかを検討してください。

- 案件の発生日時
- 案件の開始日時
- 案件の優先度
- 案件の作業期限

詳細については、「[9.6 プロセスワークボードの作成](#)」を参照してください。なお、案件項目の自動入力は、案件自動入力プロパティファイルでも設定できます。案件自動入力プロパティファイルの詳細につい

では、「13. 定義ファイル」の「案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties)」を参照してください。

5.4.4 入力候補値および項目間連携の利用

JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報を基にして、入力候補値や項目間連携を設定できます。運用に合わせて入力候補値や項目間連携を使用するかどうかを検討してください。詳細については、「9.17 JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報と連携するための環境設定」を参照してください。

5.4.5 リンク設定の利用

デフォルトで表示される案件の項目の中には、次の表に示すように、リンク設定できるものがあります。運用に合わせて使用するかどうかを検討してください。

表 5-6 リンク設定できる項目

表示名	説明
機器情報	JP1/Service Support と JP1/NETM/AIM, JP1/UCMDB, または JP1/ITDM2 - Asset Console が連携することを前提としてリンク設定ができる。リンク設定をすると、JP1/NETM/AIM, JP1/UCMDB, または JP1/ITDM2 - Asset Console で管理する機器情報を参照できるようになる。 JP1/NETM/AIM, JP1/UCMDB, または JP1/ITDM2 - Asset Console と連携するための設定については、「9.14 定義ファイルによる環境設定」を参照のこと。
関連案件	JP1/Service Support が管理するほかの案件に対しリンク設定ができる。リンク設定をすると、JP1/Service Support が管理するほかの案件を、この項目から呼び出せる。
関連情報	参考となる WWW ページに対しリンク設定ができる。リンク設定をすると、参考となる WWW ページを、この項目から呼び出せる。

また、カスタマイズによってユーザーが追加できる項目にもリンク設定できるものがあります。これらには、表 5-6 にある 3 種類のリンクを、ユーザーの運用に合わせて設定できるようになっています。これらの利用も検討してください。

5.4.6 ファイル添付の利用

デフォルトで表示される案件の項目の中には、ファイルを添付できる項目「添付資料」があります。障害資料や用途に応じて作成されるフリーフォーマットのドキュメントなどを、案件に関する資料として登録できます。次の制限事項に留意し、運用に合わせてご利用ください。

ファイル添付の制限事項

- 一つの案件に対し、設定できる添付ファイルは最大 5 件。

- 添付ファイル 1 件当たりの最大サイズは 5 メガバイト。

5.5 メール通知の検討

メール通知の設定をすることで、次のタイミングでメール通知できます。

- 案件作成時に担当者あてにメール通知
- 案件エスカレーション時にエスカレーション先案件担当者あてにメール通知
- 担当者変更時に担当者あてにメール通知
- 案件の引き戻し時に引き戻し前の案件担当者あてにメール通知
- 案件の差し戻し時に差し戻し先の案件担当者あてにメール通知
- 作業期限前に、担当者およびプロセスワークボード管理者あてにメール通知
- 案件処理が滞留したと見なされた場合に、担当者およびプロセスワークボード管理者あてにメール通知
- 案件クローズ時に登録者あてにメール通知
- ユーザー、またはロール削除時に、そのユーザー、ロールが所属するプロセスワークボード管理者あてにメール通知

デフォルトではメール通知しない設定となっています。運用に合わせて設定を変更してください。なお、メールタイトル、メール本文の内容も運用に合わせて変更できます。メール通知する、しないの設定とあわせて検討してください。

また、メール通知する場合、認証方法をどのようにするかを検討してください。デフォルトでは、認証しない設定となっています。詳細については、「[5.5.1 メール送信時のユーザー認証の検討](#)」を参照してください。

メール通知の詳細については、次に示す定義ファイルおよび画面で設定します。

表 5-7 メール通知の詳細を設定する定義ファイルおよび画面の一覧

メール通知のタイミング	定義ファイルおよび画面
案件作成時に担当者あてにメール通知	• メール定義ファイル
案件エスカレーション時にエスカレーション先案件担当者あてにメール通知	
担当者変更時に担当者あてにメール通知	
案件の引き戻し時に引き戻し前の案件担当者あてにメール通知	
案件の差し戻し時に差し戻し先の案件の担当者あてにメール通知	
作業期限前に、担当者およびプロセスワークボード管理者あてにメール通知*	• [プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面 • メール定義ファイル • タスク実行サービス定義ファイル

メール通知のタイミング	定義ファイルおよび画面
案件処理が滞留したと見なされた場合に、担当者およびプロセスワークボード管理者あてにメール通知*	<ul style="list-style-type: none"> メール定義ファイル 滞留案件定義ファイル タスク実行サービス定義ファイル
案件クローズ時に登録者あてにメール通知	<ul style="list-style-type: none"> メール定義ファイル
ユーザー、またはロール削除時に、そのユーザー、ロールが所属するプロセスワークボード管理者あてにメール通知	

注※

コマンドを実行する時刻や間隔などのスケジュールを設定し、JP1/Service Support - Task Service サービスを起動することで、自動実行できます。詳細については、「9.8 コマンドの自動実行スケジュールの設定」を参照してください。

[プロセスワークボード作成] 画面、および [プロセスワークボード編集] 画面の詳細については、「9.6 プロセスワークボードの作成」を参照してください。定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」を参照してください。

また、JP1/Service Support をインストールしたサーバのスタートメニューから JP1/Service Support にログインし、操作する場合には、URL 定義ファイルを編集する必要があります。詳細については、「13. 定義ファイル」の「URL 定義ファイル (jsslogin.url)」を参照してください。

注意事項

- メール通知の設定は、JP1/Service Support のシステム全体に適用されます。
特定の作業担当者だけにメール通知を適用したい場合は、メール通知が不要なユーザーのユーザー情報から、メールアドレスの情報を削除してください。
- jssitemimport コマンドおよび jssitemimportEx コマンドを使って案件を登録した場合、メール通知の設定をしても担当者にメールは送信されません。
jssitemimport コマンドおよび jssitemimportEx コマンドを使って登録した案件については、既存システムで設定していた担当者が引き続き対応する運用としてください。
また、メールで登録先のプロセスワークボードを指定した場合は、「メールから登録された案件の担当者」に設定されているユーザーが案件を処理する運用としてください。

5.5.1 メール送信時のユーザー認証の検討

メール送信時に、メール送信時に認証方法をどのようにするかを検討してください。JP1/Service Support では、メールの送信時に使用できるユーザー認証として、次に示す認証方式があります。

- POP before SMTP
- SMTP-AUTH (PLAIN および LOGIN)
- 認証を利用しない

メールの送信に失敗した場合、メールの送信に失敗したことを示すメッセージが画面に表示されます。また、原因を示すメッセージはログファイルに出力されるため、原因を確認する場合は、ログファイルを確認してください。

ユーザー認証のためのユーザー ID およびパスワードは、`jssauthusersetup`（認証ユーザー設定）コマンドを実行して、メール定義ファイルに設定します。

メール送信時のユーザー認証についての設定は、あらかじめメール定義ファイルに設定しておく必要があります。デフォルトでは、認証しない設定となっています。運用に合わせて認証方法を検討し、設定を変更してください。

メール定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[メール定義ファイル \(jplimss_mail_setting.conf\)](#)」を参照してください。`jssauthusersetup` コマンドについては、「12. コマンド」の「`jssauthusersetup`（認証ユーザー設定）」を参照してください。

5.6 メールによる案件登録の検討

通常、案件を JP1/Service Support に登録する場合、[案件作成] 画面を使って登録しますが、登録したい案件の内容が記載されたメールを指定されたメールアドレスに送信することで登録することもできます。メールによる案件の登録は、JP1/Service Support を直接操作できないユーザーからも案件の登録を許可したい場合に利用できます。

メールによって案件を登録する運用にするかどうかを検討してください。また、メールによって登録された案件には、あらかじめプロセスワークボードごとに設定されているユーザーまたはロールが、担当者として設定されます。メールによって登録された案件はどのように処理するのか、その運用も含めて担当者を検討してください。

なお、メールによる案件登録を行うためには、事前に環境設定が必要です。環境設定については、「[9.15.1 メールで案件を登録するための環境設定](#)」を参照してください。

ここでは、メールによる案件登録する場合の、登録方法の検討および送信メールのテンプレート（ひな型）の検討について説明します。

5.6.1 メールによる案件の登録方法の検討

メールによって案件を登録する場合、次に示す動作モードによって登録方法が異なります。使用する動作モードを検討してください。

添付ファイルモード

メールの本文を添付ファイルとして案件に登録します。添付ファイルに案件の情報が登録されているため、案件の担当者は、添付ファイルの内容を案件の各項目に入力し直してください。

シングルモード

メールの本文のすべてを、一つの案件項目に設定して登録します。一つの項目に対して案件の情報が設定されるため、案件の担当者は、必要に応じて各項目に情報を入力し直してください。また、どの案件項目に設定するかによって、設定できる文字数などの制限があります。

マルチモード

メールの本文を XML 形式のフォーマットに従って記述します。開始タグと終了タグで囲んだ内容を、案件の各項目に設定して登録します。案件の項目に案件の情報が登録されるため、案件の担当者は入力し直す必要はありません。ただし、メールを作成するに当たり、XML 形式のフォーマット、開始タグおよび終了タグの指定時に必要な案件項目 ID、および設定できる案件項目についての知識が必要になります。このため、あらかじめテンプレート（ひな型）を作成しておき、メールを作成する際に必要な情報を入力することで案件を登録する運用を推奨します。

動作モードは、あらかじめメール定義ファイルで設定する必要があります。詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[メール定義ファイル \(jplimss_mail_setting.conf\)](#)」を参照してください。

なお、シングルモードおよびマルチモードで指定できる案件項目（案件項目指定 ID）については、「3.5.3 メールによる案件の作成」を参照してください。

5.6.2 送信メールのテンプレートの検討

マルチモードで案件を登録する場合、メールのテンプレート（ひな型）を作成しておくことで、XML 形式の開始タグおよび終了タグを意識しないで、案件を登録するためのメールを作成できます。運用に合わせてどのようなテンプレートを作成するかを検討してください。

ここでは、メールの作成例とテンプレートの作成例について説明します。

(1) メールの作成例

メールの作成例、案件の登録内容、および添付ファイルとして登録される内容の例を、次に示します。

障害連絡票 1

メールの作成例

```
主題：勤休管理システムにおいてログインエラー発生
送信元アドレス：taro.hitachi.hoge@hitachi.co.jp
送信先アドレス：it_management_team@hitachi.co.jp
本文：
■タイトル
<TITLE>勤休管理システムにおいてログインエラー発生</TITLE>
■概要
<SUMMARY>勤休管理システムにログイン不可。
ダイアログに表示されるメッセージは「xxxx-E ユーザー名もしくはパスワードが不正です」</SUMMARY>
■発生日時
<ACCRUALDATE>2015/01/26 08:50</ACCRUALDATE>
■フリー記入欄
<FREEDescription>昨日までは正常にログインできていたが、本日出社時にログインしようとしたら
上記エラーメッセージによりログインできなかった。</FREEDescription>
```

案件の登録内容

```
タイトル：勤休管理システムにおいてログインエラー発生
概要：勤休管理システムにログイン不可。
    ダイアログに表示されるメッセージは「xxxx-E ユーザー名もしくはパスワードが不正です」。
発生日時：2015/01/26 08:50
フリー記入欄：昨日までは正常にログインできていたが、本日出社時にログインしようとしたら
    上記エラーメッセージによりログインできなかった。
```

案件添付ファイルの内容

■タイトル

<TITLE>勤休管理システムにおいてログインエラー発生</TITLE>

■概要

<SUMMARY>勤休管理システムにログイン不可。

ダイアログに表示されるメッセージは「xxxx-E ユーザー名もしくはパスワードが不正です」 </SUMMARY>

■発生日時

<ACCRUALDATE>2015/01/26 08:50</ACCRUALDATE>

■フリー記入欄

<FREEDescription>昨日までは正常にログインできていたが、本日出社時にログインしようとしたら上記エラーメッセージによりログインできなかった。</FREEDescription>

障害連絡票 2

メールの作成例

主題：障害連絡票

送信元アドレス：taro.hitachi.hoge@hitachi.co.jp

送信先アドレス：it_management_team@hitachi.co.jp

本文：

■タイトル

<TITLE>

勤休管理システムにおいてログインエラー発生

</TITLE>

■概要

<SUMMARY>

勤休管理システムにログイン不可。

ダイアログに表示されるメッセージは「xxxx-E ユーザー名もしくはパスワードが不正です」

</SUMMARY>

■発生日時

<ACCRUALDATE>

2015/01/26 08:50

</ACCRUALDATE>

■フリー記入欄

<FREEDescription>

昨日までは正常にログインできていたが、本日出社時にログインしようとしたら

上記エラーメッセージによりログインできなかった。

</FREEDescription>

案件の登録内容

タイトル：△勤休管理システムにおいてログインエラー発生△

概要：

勤休管理システムにログイン不可。

ダイアログに表示されるメッセージは「xxxx-E ユーザー名もしくはパスワードが不正です」。

発生日時：2015/01/26 08:50

フリー記入欄：

昨日までは正常にログインできていたが、本日出社時にログインしようとしたら
上記エラーメッセージによりログインできなかった。

案件添付ファイルの内容

■タイトル

<TITLE>

勤休管理システムにおいてログインエラー発生

</TITLE>

■概要

<SUMMARY>

勤休管理システムにログイン不可。

ダイアログに表示されるメッセージは「xxxx-E ユーザー名もしくはパスワードが不正です」

</SUMMARY>

■発生日時

<ACCRUALDATE>

2015/01/26 08:50

</ACCRUALDATE>

■フリー記入欄

<FREEDESCRIPTION>

昨日までは正常にログインできていたが、本日出社時にログインしようとしたら
上記エラーメッセージによりログインできなかった。

</FREEDESCRIPTION>

(2) テンプレートの作成例

「(1) メールの作成例」の障害連絡票を基に作成したテンプレートの例を、次に示します。

以下の障害が発生したので、調査をお願いします。

■タイトル

<TITLE> 【障害名を記入してください】 </TITLE>

■概要

<SUMMARY> 【障害の概要を記入してください】 </SUMMARY>

■発生日時

yyyy/mm/dd hh:mm 形式で記入してください。

例：2015/03/20 08:09

<ACCRUALDATE> 【発生日時を記入してください】 </ACCRUALDATE>

■フリー記入欄

<FREEDESCRIPTION> 【他に記載する内容があれば記入してください】 </FREEDESCRIPTION>

----- メール送信時、この行より下は必ず削除してください -----

以下の文字は使用しないでください。

- &
- <

- >
- '
- "

上記文字を使用したい場合は、下記の代替文字を使用してください。

- 「&」の代替文字：「&」
- 「<」の代替文字：「<」
- 「>」の代替文字：「>」
- 「'」の代替文字：「'」
- 「"」の代替文字：「"」

例

記載したい文章：「<」という記号を入力したらエラーがでました。

代替文字を使用した文章：「<」という記号を入力したらエラーがでました。

5.7 案件の自動登録の検討

通常、案件を JP1/Service Support に登録する場合、[案件作成] 画面を使って登録しますが、jssitementry コマンドを使って登録することもできます。

このコマンドは、主に他製品と連携して、システム障害などの事象発生を契機に自動的に案件を JP1/Service Support に登録するために利用します。

詳細については、「12. コマンド」の「jssitementry (案件登録)」を参照してください。

注意事項

- JP1/Service Support は、システム障害を検知する機能やその検知を契機として jssitementry コマンドを自動実行する機能を提供していません。
システム障害の検知や jssitementry コマンドを自動実行する機能は、JP1/Service Support と連携する製品側で用意する必要があります。
- 連携製品から jssitementry コマンドを自動実行した場合でも、ログファイル (jssitementry_info 数字.log) を参照することで実行結果を確認できます。数字にはログファイルの面数が入ります。
詳細については、「13. 定義ファイル」の「ユーザーログ定義ファイル (jplitementry.conf)」を参照してください。
- コマンドの実行条件と登録内容については十分に検討してください。実行条件を絞り込めていない場合、登録が不要な情報も案件として自動登録されます。また、自動登録された内容から担当者が事象の内容を把握できるよう、登録内容を設計してください。
- コマンドによって登録された案件と画面操作によって登録された案件を明確に区別したい場合、コマンドによって登録される案件のタイトルの行頭に[コマンド]を入れたり、登録先プロセスワークボードを分けたりするなど、運用を検討してください。

5.8 案件情報の出力に関する検討

JP1/Service Support では、次に示す機能を使って、案件管理 DB から案件情報を CSV ファイルに出力できます。それぞれ出力する案件情報の対象範囲が異なるため、目的に合わせてご使用ください。

表 5-8 案件情報の出力機能一覧

出力方法	出力される情報
[案件検索結果一覧] 画面から出力	[案件検索結果一覧] 画面に表示され、かつ出力を選択した案件の詳細情報。[案件共通項目検索条件指定] 画面または [案件検索条件指定] 画面から検索した場合は、最大 1,000 件出力できる。簡易検索エリアから検索した場合は、最大 100 件出力できる。
jssitemlist コマンドによる出力	案件管理 DB に登録された案件の詳細情報。最大 65,530 件出力できる。
jssitemhistory コマンドによる出力	案件管理 DB に登録された案件の作業履歴情報。最大 65,530 件出力できる。
jssitemexportEx コマンドによる出力	案件管理 DB に登録された案件の情報。関連情報や添付ファイルの情報も出力できる。

[案件検索結果一覧] 画面の詳細については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」の、案件の検索結果を確認する章を参照してください。

また、コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssitemlist (案件一覧出力)」、[「jssitemhistory \(案件履歴出力\)」](#)、および「jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート)」を参照してください。

注意事項

jssitemlist コマンド、jssitemhistory コマンドまたは jssitemexportEx コマンドを実行すると、案件管理サーバおよび JP1/Service Support への負荷が高くなります。これらのコマンドは、案件管理サーバおよび JP1/Service Support の負荷が低くなる深夜などにコマンドを実行するようにしてください。

5.9 案件の集計と集計結果のファイル出力に関する検討

JP1/Service Support では、メイン画面（案件状況）から、権限や目的に応じて案件の状況を集計できます。メイン画面（案件状況）に表示される集計結果は、前日までの実績を `jssclectdata` コマンドで集計したデータから、目的に合わせた形で抽出されます。そのため、案件の状況を集計するためには、インストール時に Windows に登録された JP1/Service Support - Task Service サービスを起動して `jssclectdata` コマンドを定期的に行うようにしてください。

JP1/Service Support - Task Service サービスを起動する手順については、「[9.8 コマンドの自動実行スケジュールの設定](#)」を参照してください。

❗ 重要

Windows のタスクスケジュールを利用して `jssclectdata` コマンドを実行している場合は、JP1/Service Support - Task Service サービスに切り替えてください。

また、`jssclectdata` コマンドで集計したデータは、[集計データのファイル出力] 画面から CSV ファイルに出力することもできます。[集計データのファイル出力] 画面では、CSV ファイルからレポートを作成するためのマクロもダウンロードできるようになっています。

JP1/Service Support は、サンプルのマクロを提供しています。サンプルのマクロは、変更したり、ユーザーが作成したマクロに置き換えたりすることもできます。マクロのダウンロード、およびマクロで作成できるレポートについては、「[3.16.3\(2\) マクロのダウンロード](#)」を参照してください。

5.10 案件管理ウィンドウの検討

JP1/Service Support に登録された案件を画面で操作する場合、案件管理ウィンドウを使用するか検討する必要があります。この機能を使用すると特定の期間に登録された案件だけを運用できます。

案件管理ウィンドウを使用する場合は、案件管理ウィンドウのサイズの検討が必要です。案件管理ウィンドウで設定したサイズの期間に登録された案件が運用の対象となります。このため、案件管理ウィンドウのサイズは、日常的に運用する範囲を規定する必要があります。なお、案件管理ウィンドウのサイズは、年単位で設定します。案件管理ウィンドウについては、「[3.2.3 案件管理ウィンドウ](#)」を参照してください。

案件管理ウィンドウは、システムプロパティファイルで定義します。詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[システムプロパティファイル \(hptl_jp1_imss_main_setting.properties\)](#)」を参照してください。

5.11 他製品との連携の検討

次に示す JP1 製品と連携するかどうかを検討してください。連携する場合は、環境設定についても検討してください。

- JP1/IM - Manager
- JP1/IM - View
- JP1/NETM/AIM
- JP1/UCMDB
- JP1/NP
- JP1/AO
- JP1/ITDM2 - Asset Console
- JP1/AJS3 - Web Console
- JP1/PFM - Web Console

JP1 製品との連携については、「4. 他製品との連携」を参照してください。ここでは、環境設定について説明します。

5.11.1 JP1/IM - Manager 連携の検討

JP1/IM - Manager と連携する場合、JP1/IM - Manager 側で次の設定をする必要があります。

JP1/IM - Manager のシステム構成定義で案件管理サーバを定義する。

JP1/IM - Manager から自動アクションを実行するには、JP1/IM - Manager のシステム構成定義で、案件管理サーバを JP1/IM - Manager の管理対象に含める必要があります。

自動アクションを定義する。

案件の自動登録の実行契機となる JP1 イベントを自動アクションの実行条件に定義し、jssitementry コマンドを、実行するコマンドとして指定します。

詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」を参照してください。

また、案件管理サーバには JP1/Base をインストールする必要があります。案件管理サーバで使用している OS によって、必要な JP1/Base のバージョンが異なります。JP1/Base のサポートバージョンについては、リリースノートを参照してください。

(1) JP1 製品と連携する場合の自動アクション定義例

各 JP1 製品が発行する JP1 イベントを、JP1/IM - Manager を使って JP1/Service Support に案件として登録する場合、表 5-9～表 5-14 に示す定義例を参考に自動アクションを定義してください。また、

JP1/IM - Manager から自動登録された案件のステータスが「クローズ」になったときに、JP1/Service Support から JP1 イベントを発行して自動アクションによって対処状況を「対処済」に変えるためには、-evt オプションで発行先となる JP1/IM - Manager のホスト名とイベント DB 内通し番号を指定しておく必要があります。なお、この定義例で実行条件として指定している JP1 イベントは、正常運用を妨げる事象が発生したときに各 JP1 製品が発行する JP1 イベントとなっています。

表 5-9 自動アクション定義例 (JP1/AJS 連携)

実行条件	実行内容
【イベント ID】 00004104	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t ジョブネット異常終了のイベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jp1 \$EV"PRODUCT_NAME" -jobnet \$EV"ROOT_OBJECT_NAME" -job \$EV"OBJECT_ID" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EV"B3" -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO
【イベント ID】 00004108	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t ジョブネット警告終了のイベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jp1 \$EV"PRODUCT_NAME" -jobnet \$EV"ROOT_OBJECT_NAME" -job \$EV"OBJECT_ID" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EV"B3" -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO
【イベント ID】 00004107	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t ジョブ異常終了のイベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jp1 \$EV"PRODUCT_NAME" -jobnet \$EV"ROOT_OBJECT_NAME" -job \$EV"OBJECT_ID" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EV"B3" -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO
【イベント ID】 00004109	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t ジョブ警告終了のイベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jp1 \$EV"PRODUCT_NAME" -jobnet \$EV"ROOT_OBJECT_NAME" -job \$EV"OBJECT_ID" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EV"B3" -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO

表 5-10 自動アクション定義例 (JP1/NNMi または HP NNMi 連携)

実行条件	実行内容
【イベント ID】 00006100 【イベント拡張属性】 重大度が「緊急」「警戒」「致命的」「エラー」	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t NNMi 障害のイベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 -s \$EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jp1 \$EV"PRODUCT_NAME" -snmp \$EV"NNMI_SRC_NODE_NAME" -url 障害発生機器情報 \$EV"NNMI_PROTOCOL"://\$EV"NNMI_SERVER":\$EV"NNMI_PORT"/nrm/launch?cmd=showForm"&"objtype=Incident"&"menus=true"&"objuuid=\$EV"NNMI_UUID"

表 5-11 自動アクション定義例 (JP1/IM - Manager (統合スコープ) 連携)

実行条件	実行内容
【イベント ID】	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名

実行条件	実行内容
00003FB0 【イベント拡張属性】 <ul style="list-style-type: none"> MON_NODE_ID:業務に対応する監視 ID MON_NODE_STATUS:800 	【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t 監視ノードの障害イベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s Emergency -ipt 影響度 -itm FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jp1 \$EV"PRODUCT_NAME" -node \$EV"MON_NODE_NAME" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EV"JCS_B_EVHOST" -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO
【イベント ID】 00003FB0 【イベント拡張属性】 <ul style="list-style-type: none"> MON_NODE_ID:業務に対応する監視 ID MON_NODE_STATUS:700 	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t 監視ノードの障害イベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s Alert -ipt 影響度 -itm FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jp1 \$EV"PRODUCT_NAME" -node \$EV"MON_NODE_NAME" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EV"JCS_B_EVHOST" -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO
【イベント ID】 00003FB0 【イベント拡張属性】 <ul style="list-style-type: none"> MON_NODE_ID:業務に対応する監視 ID MON_NODE_STATUS:600 	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t 監視ノードの障害イベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s Critical -ipt 影響度 -itm FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jp1 \$EV"PRODUCT_NAME" -node \$EV"MON_NODE_NAME" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EV"JCS_B_EVHOST" -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO
【イベント ID】 00003FB0 【イベント拡張属性】 <ul style="list-style-type: none"> MON_NODE_ID:業務に対応する監視 ID MON_NODE_STATUS:500 	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t 監視ノードの障害イベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s Error -ipt 影響度 -itm FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jp1 \$EV"PRODUCT_NAME" -node \$EV"MON_NODE_NAME" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EV"JCS_B_EVHOST"
【イベント ID】 00003FB0 【イベント拡張属性】 <ul style="list-style-type: none"> MON_NODE_ID:業務に対応する監視 ID MON_NODE_STATUS:400 	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t 監視ノードの障害イベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s Warning -ipt 影響度 -itm FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jp1 \$EV"PRODUCT_NAME" -node \$EV"MON_NODE_NAME" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EV"JCS_B_EVHOST" -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO

表 5-12 自動アクション定義例 (JP1/PFM - Web Console 連携)

実行条件	実行内容
【イベント ID】 すべて 【イベント拡張属性】 <ul style="list-style-type: none"> 重大度が「緊急」「警戒」「致命的」「エラー」「警告」 PRODUCT_NAME:/PFM/ALARM_EVENT OBJECT_TYPE:ALARM 	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t PFMのアラート -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -itm FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jp1 \$EV"PRODUCT_NAME" -alarm \$EV"OBJECT_NAME" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EV"JPC_AGENT" -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO

表 5-13 自動アクション定義例 (JP1/NETM/DM 連携)

実行条件	実行内容
【イベント ID】 00010403	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t 指令異常終了のイベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jpl \$EV"PRODUCT_NAME" -job \$EV"S1" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EVHOST -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO
【イベント ID】 00010407	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t ジョブ異常終了のイベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jpl \$EV"PRODUCT_NAME" -job \$EV"S1" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EVHOST -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO
【イベント ID】 00010401	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t サーバダウンイベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jpl \$EV"PRODUCT_NAME" -job \$EV"S1" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EVHOST -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO
【イベント ID】 00010101	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t 中継ダウンイベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jpl \$EV"PRODUCT_NAME" -job \$EV"S1" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EVHOST -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO
【イベント ID】 00010410 または00010110	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t クライアントアラート -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jpl \$EV"PRODUCT_NAME" -job \$EV"S1" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EVHOST -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO
【イベント ID】 00010411 または00010111	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t クライアントアラート -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -itmc FAL -isuc MID -det "\$EVMSG" -jpl \$EV"PRODUCT_NAME" -job \$EV"S1" -aim JP1/NETM/AIM サーバ名 -cit HOST -ci \$EVHOST -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO

表 5-14 自動アクション定義例 (JP1/NP 連携)

実行条件	実行内容
【イベント ID】 すべて	【実行ホスト名】 案件管理サーバ名 【アクション】 jssitementry -b プロセスワークボード ID -t 障害イベント -r 登録者ログイン ID -cht 担当者タイプ -ch 担当者 ID -s \$EVSEV -det "\$EVMSG[¥r¥n]JP1イベントの発生ホスト:\$EVHOST[¥r¥n]JP1イベントのイベントID:\$EVIDBASE" -jpl \$EV"PRODUCT_NAME" -evt \$ACTHOST \$EVSEQNO※

注※

文字列置換設定ファイルを編集して、文字列「[$\$r\n]」を改行文字として登録する必要があります。文字列置換設定ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「文字列置換設定ファイル (jplimss_replace_string_setting.conf)」を参照してください。

指定が必要な項目だけ表に示しています。実行条件、実行内容で定義できるそのほかの項目は、ユーザーが任意に決めてください。

注意事項

- 各オプションの引数で半角スペースを含む場合は、" (ダブルクォーテーション) で引数を囲んで指定してください。
- 案件管理サーバ上で実行できるコマンドの同時実行数は JP1/Base の設定 (jcocmddef コマンドで設定) で変更できます (デフォルトは 1)。jcocmddef コマンドについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。
案件管理サーバ上でのコマンド同時実行数は、最大 6 としてください。
- 自動アクションの実行条件に定義した JP1 イベントが大量に発生すると、案件もその分大量に登録されます。実行条件を絞ることと、自動アクションで登録された案件ということがわかるよう、運用を検討してください。
- 「5.7 案件の自動登録の検討」の注意事項もあわせてお読みください。
- JP1/AJS3 から発生した JP1 イベントを JP1/Service Support にインシデントとして登録し、さらに JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携して [モニタ] 画面を表示するときの自動アクションの定義例については、「4.9.3 自動アクションの定義例 (JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携の場合)」を参照してください。
- JP1/PFM が監視するホストが発行契機となる JP1 イベントを JP1/Service Support にインシデントとして登録し、さらに JP1/PFM - Web Console と連携して [レポート選択] 画面を表示するときの自動アクションの定義例については、「4.10.3 自動アクションの定義例 (JP1/PFM - Web Console との連携の場合)」を参照してください。

(2) JP1/Service Support から JP1 イベントを発行する場合の自動アクション定義例

JP1/Service Support から JP1 イベントを発行するかどうかは、JP1/Service Support 側で定義します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jpl_imss_jplevent_setting.properties)」を参照してください。

JP1/Service Support から発行された JP1 イベントを使用して、JP1/IM - Manager と連携するには、JP1/IM - Manager 側で自動アクションを定義します。JP1/Service Support からは、次に示す JP1 イベントが発行されます。

- イベント ID : 00005F00 (対処済み連動用 JP1 イベント)
自動登録された案件がクローズしたときに、JP1/IM - Manager 側の対処状況を「対処済」に変えるために発行されます。

- イベント ID：00005F01（ステータス変更用 JP1 イベント）
 案件のステータスが変更されたことを通知して、自動アクションを実行するために発行されます。
- イベント ID：00005F02（対処済み連動用集約 JP1 イベント）
 JP1 イベントの集約が有効な場合、自動登録された案件を一括操作でクローズしたときに、JP1/IM - Manager 側の対処状況を「対処済」に変えるために発行されます。なお、対処済み連動用集約 JP1 イベントが発行された場合は、対処済み連動用 JP1 イベントは発行されません。また、案件の一括操作で、案件を 1 件だけクローズした場合は、対処済み連動用集約 JP1 イベントは発行されません。この場合、対処済み連動用 JP1 イベントが発行されます。案件の一括操作で発行される JP1 イベントの詳細については、「3.7 案件の一括操作」を参照してください。

ID 別の JP1 イベントの詳細については、「付録 E.1 JP1 イベント一覧」を参照してください。

それぞれの JP1 イベントに対する自動アクションの定義例について、次の表に示します。

表 5-15 自動アクション定義例（イベント ID：00005F00, 00005F01, 00005F02）

実行条件	実行内容
【イベント ID】 00005F00 【イベント拡張属性】 PRODUCT_NAME:/ HITACHI/JP1/IM/SS	【実行ホスト名】 \$EV"ITEMENTRY_ACTHOST" 【アクション】 jcochstat -h \$EV"ITEMENTRY_ACTHOST" -n \$EV"ITEMENTRY_SEQNO" -k PROCESSED* ¹
【イベント ID】 00005F01 【イベント拡張属性】 <ul style="list-style-type: none"> • PRODUCT_NAME:/ HITACHI/JP1/IM/SS • STATUS:クローズ 	【アクション】 teldial -p \$EV"RESPONDENT_TEL"* ²
【イベント ID】 00005F02 【イベント拡張属性】 PRODUCT_NAME:/ HITACHI/JP1/IM/SS	【実行ホスト名】 \$EV"ITEMENTRY_ACTHOST" 【アクション】 jcochstat -h \$EV"ITEMENTRY_ACTHOST" -n \$EV"ITEMENTRY_SEQNO" -k PROCESSED* ³

注※1
 自動登録された案件がクローズしたときに、JP1/Service Support から JP1 イベントを発行して JP1/IM - Manager 側の対処状況を「対処済」に変える例を示します。

注※2
 案件のステータスが「クローズ」に変更されたときに、JP1/Service Support から JP1 イベントを発行して、自動アクションで定義された JP1/TELstaff の teldial コマンドを実行して、案件の回答責任者へ電話で連絡する例を示します。

注※3
 JP1 イベントの集約が有効な場合、自動登録された案件を一括操作でクローズしたときに、JP1/Service Support から JP1 イベントを発行して JP1/IM - Manager 側の対処状況を「対処済」に変える例を示します。

注意事項

- 指定するステータスの詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」を参照してください。
- 実行条件、実行内容で定義できるそのほかの項目は、ユーザーが任意に決めてください。実行条件は、ステータス変更 JP1 定義ファイルで指定できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_status.properties)」を参照してください。
- JP1 イベントを集約するかどうかは、JP1 イベント発行設定ファイルで設定します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties)」を参照してください。
- JP1 イベントは、自ホストのイベントサーバに発行されたあと、転送設定ファイルの定義に従って別ホストに転送されます。詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

(3) クラスタ運用での JP1/IM - Manager 連携

JP1/Service Support をクラスタシステムで運用し、かつ、JP1/IM - Manager と連携して案件の自動登録をしたい場合、案件管理サーバ上の JP1/Base もクラスタシステムで運用する必要があります。クラスタシステムで運用する場合の構成を次に示します。

- 案件管理サーバ上で、JP1/Service Support の論理ホストと同じ論理ホストで JP1/Base を環境構築する（推奨構成）。

JP1/Service Support, JP1/Base のどちらかに障害が発生すると、それを契機に JP1/Service Support, JP1/Base 共に系が切り替わります。

- 案件管理サーバ上で、JP1/Service Support の論理ホストと別の論理ホストで JP1/Base を環境構築する。

この構成は、JP1/Base がほかの JP1 製品と連携を開始している場合だけとしてください。

JP1/Service Support, JP1/Base のどちらかに障害が発生しても、正常に稼働している方はそのまま稼働し続け、障害が発生した方だけ系が切り替わります。

この場合（一つのサーバ上で JP1/Service Support は待機系、JP1/Base は実行系となった場合）でも案件は、問題なく自動登録されます。

JP1/Base のクラスタシステムでの運用、環境構築については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

なお、フェールオーバー中に自動アクション（案件の自動登録）が実行されると、実行に失敗することがあります。これを検知したい場合には、JP1/IM - Manager の自動アクションの遅延監視機能を有効にしてください。遅延が発生したときに、JP1 イベントが発行されるため、それを契機に JP1/IM - Manager 側で調査を開始できます。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」を参照してください。

5.11.2 JP1/IM - View 連携の検討

JP1/IM - View と連携する場合、JP1/IM - View 側で設定が必要です。

JP1/Service Support 側の設定

JP1/Service Support では、JP1/IM - View と連携するための設定は必要ありません。

JP1/IM - View 側の設定

インシデント手動登録定義ファイル (incident.conf) の編集

インシデント手動登録定義ファイル (incident.conf) の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」を参照してください。

5.11.3 JP1/NETM/AIM 連携の検討

JP1/NETM/AIM と連携する場合、JP1/Service Support 側で設定が必要です。また、JP1/Service Support から JP1/NETM/AIM の画面を呼び出す際に、JP1/NETM/AIM の [ログイン] 画面を省略して直接 [機器詳細] 画面を呼び出したい場合には JP1/NETM/AIM 側の設定も変更する必要があります。

JP1/Service Support 側の設定

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の編集

システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

JP1/NETM/AIM 側の設定

JP1/NETM/AIM の業務メニュー「ユーザ組織管理」で、連携用に用意されているユーザー「サービスサポート管理者」のパスワードの設定（連携時に [ログイン] 画面を省略しない場合には設定は不要）

JP1/NETM/AIM 側の設定の詳細については、マニュアル「JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド」を参照してください。

なお、JP1/NETM/AIM と連携した場合、JP1/ITDM2 - Asset Console とは連携できません。

5.11.4 JP1/UCMDB 連携の検討

JP1/UCMDB と連携する場合、JP1/Service Support 側で設定が必要です。

JP1/Service Support 側の設定

機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties) の編集

機器情報外部参照プロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties)」を参照してください。

JP1/UCMDB 側の設定

JP1/UCMDB では、JP1/Service Support と連携するための設定は必要ありません。

5.11.5 JP1/NP 連携の検討

JP1/NP と連携する場合、JP1/Service Support 側と JP1/NP 側の両方で設定が必要です。

JP1/Service Support 側の設定

- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の編集
- JP1/Service Support および JP1/NP 間でシングルサインオンを行うための設定

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

JP1/Service Support および JP1/NP 間でシングルサインオンを行うための認証方法を検討してください。認証方法の検討については、「5.15 認証方法の検討」を参照してください。シングルサインオンするための設定については、「9.16.10 シングルサインオンするための環境設定」を参照してください。

JP1/NP 側の設定

- JP1/Service Support および JP1/NP 間でシングルサインオンを行うための設定

シングルサインオンするための設定については、JP1/Navigation Platform のマニュアルの、ほかの JP1 製品と連携するための設定の説明、および JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備の注意事項を参照してください。

5.11.6 JP1/AO 連携の検討

JP1/AO と連携する場合、JP1/Service Support 側と JP1/AO 側の両方で設定が必要です。

JP1/Service Support 側の設定

- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の編集
- JP1/Service Support および JP1/AO 間でシングルサインオンを行うための設定

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

JP1/Service Support および JP1/AO 間でシングルサインオンを行うための認証方法を検討してください。認証方法の検討については、「5.15 認証方法の検討」を参照してください。シングルサインオンするための設定については、「9.16.10 シングルサインオンするための環境設定」を参照してください。

JP1/AO 側の設定

- JP1/Service Support および JP1/AO 間でシングルサインオンを行うための設定
- JP1/Service Support から呼び出す JP1/AO のサービスの登録

シングルサインオンするための設定については、マニュアル「JP1/Automatic Operation 構築ガイド」の JP1/Base の認証機能との連携の説明を参照してください。JP1/AO にサービスを登録する手順

については、マニュアル「JP1/Automatic Operation 運用ガイド」のサービステンプレートの管理、およびサービスの管理の説明を参照してください。

5.11.7 JP1/ITMD2 - Asset Console 連携の検討

JP1/ITMD2 - Asset Console と連携する場合、JP1/Service Support 側で設定が必要です。また、JP1/Service Support から JP1/ITMD2 - Asset Console の画面を呼び出す際に、JP1/ITMD2 - Asset Console の [ログイン] 画面を省略して直接 [機器詳細] 画面を呼び出したい場合には JP1/ITMD2 - Asset Console 側の設定も変更する必要があります。

JP1/Service Support 側の設定

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の編集

システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

JP1/ITMD2 - Asset Console 側の設定

JP1/ITMD2 - Asset Console の業務メニュー「ユーザ組織管理」で、連携用に用意されているユーザー「サービスサポート管理者」のパスワードの設定（連携時に [ログイン] 画面を省略しない場合には設定は不要）

JP1/ITMD2 - Asset Console 側の設定の詳細については、マニュアル「JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console 設計・構築ガイド」を参照してください。

なお、JP1/ITMD2 - Asset Console と連携した場合、JP1/NETM/AIM とは連携できません。

5.11.8 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携の検討

JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携する場合、JP1/Service Support 側と JP1/AJS3 側の両方で設定が必要です。

JP1/Service Support 側の設定

- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の編集
- JP1/Service Support および JP1/AJS3 - Web Console 間でシングルサインオンを行うための設定

JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携するための環境設定については、「9.16.8 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携するための環境設定」を参照してください。

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

JP1/Service Support および JP1/AJS3 - Web Console 間でシングルサインオンを行うための認証方法を検討してください。認証方法の検討については、「5.15 認証方法の検討」を参照してください。

シングルサインオンするための設定については、「[9.16.10 シングルサインオンするための環境設定](#)」を参照してください。

JP1/AJS3 側の設定

- JP1/Service Support および JP1/AJS3 - Web Console 間でシングルサインオンを行うための設定

JP1/Service Support および JP1/AJS3 - Web Console 間でシングルサインオンするための環境設定については、JP1/Automatic Job Management System 3 のマニュアルの、ほかの JP1 製品と連携するための設定の説明、および JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備の注意事項を参照してください。

5.11.9 JP1/PFM - Web Console との連携の検討

JP1/PFM - Web Console と連携する場合、JP1/Service Support 側と JP1/PFM 側の両方で設定が必要です。

JP1/Service Support 側の設定

- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の編集
- JP1/Service Support および JP1/PFM - Web Console 間でシングルサインオンを行うための設定

JP1/PFM - Web Console と連携するための環境設定については、「[9.16.9 JP1/PFM - Web Console と連携するための環境設定](#)」を参照してください。

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の詳細については、「13. 定義ファイル」の「[システムプロパティファイル \(hptl_jp1_imss_main_setting.properties\)](#)」を参照してください。

JP1/Service Support および JP1/PFM - Web Console 間でシングルサインオンを行うための認証方法を検討してください。認証方法の検討については、「[5.15 認証方法の検討](#)」を参照してください。シングルサインオンするための設定については、「[9.16.10 シングルサインオンするための環境設定](#)」を参照してください。

JP1/PFM 側の設定

- JP1/Service Support および JP1/PFM - Web Console 間でシングルサインオンを行うための設定

JP1/Service Support および JP1/PFM - Web Console 間でシングルサインオンするための環境設定については、JP1/Performance Management のマニュアルの、ほかの JP1 製品と連携するための設定の説明、および JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備の注意事項を参照してください

5.12 案件管理 DB の運用についての検討

JP1/Service Support は、案件情報やユーザー情報、ロール情報などの各種情報をすべて案件管理 DB で管理しています。このため、JP1/Service Support 導入の際には、案件管理 DB の運用について十分な検討をしてください。

5.12.1 案件管理 DB のセットアップの検討

案件管理 DB は、JP1/Service Support インストール後、`jsssetup.bat` コマンドを実行することで、ほかの JP1/Service Support の環境設定（WWW サーバ関連の環境設定）とあわせてセットアップされます。

案件管理 DB のセットアップ時には、ユーザー情報、ロール情報、および案件情報などの各種情報を格納する領域が確保されるため、十分なディスク容量が必要となります。また、これらの情報を登録、更新していくと、案件管理 DB にデータが蓄積されていきます。案件管理 DB に格納できる総データ量は、セットアップ時に定義するデータベースサイズが上限値となります。S（5 ギガバイト）、M（30 ギガバイト）、L（71 ギガバイト）、LL（152 ギガバイト）、または XL（162 ギガバイト）から選択できます。システムの拡張性を考えて、余裕のあるサイズに設定してください。

詳細については、「12. コマンド」の「[jsssetup.bat（セットアップ）](#)」を参照してください。なお、案件管理 DB サイズの判断基準については、「[5.12.5 案件管理 DB のサイズの判断基準](#)」を参照してください。

注意事項

案件管理 DB をセットアップしたあとで、案件管理 DB 内に格納されたデータを保持したままサイズを変更することはできません。サイズを変更する場合、案件管理 DB の初期化をする必要があります。

詳細については、「[5.12.2 案件管理 DB の初期化の検討](#)」を参照してください。

5.12.2 案件管理 DB の初期化の検討

案件管理 DB のサイズ変更をする場合には、`jssdbinit.bat` コマンドによる初期化を検討してください。また、何らかの理由で案件管理 DB の動作が不正になった場合には、`jssdbinit.bat` コマンドによる案件管理 DB の初期化を検討してください。

補足：jsssetup.bat コマンドと jssdbinit.bat コマンドの違い

`jsssetup.bat` コマンドの場合、案件管理 DB の初期化のほか、WWW サーバ関連の環境設定も実施されます。`jssdbinit.bat` コマンドの場合、案件管理 DB の初期化だけが実施されます。

詳細については、「12. コマンド」の「[jsssetup.bat（セットアップ）](#)」、および「[jssdbinit.bat（データベース初期化）](#)」を参照してください。

注意事項

- jssdbinit.bat コマンドを使って案件管理 DB のサイズを拡張する場合には、次の手順で案件管理 DB 内の運用データのバックアップ、リカバリーを実施してください。

1. jssdbbackup.bat コマンドを使ってバックアップを取る。
2. jssdbinit.bat コマンドを使って案件管理 DB のサイズ拡張を実施する。
3. jssdbrecovery.bat コマンドを使ってバックアップデータを回復する。

なお、サイズを縮小する場合、または案件管理 DB の格納先フォルダがバックアップ時と異なる場合には、バックアップデータのリカバリーはできません。これらの場合には、jssitemlist コマンド、jssitemhistory コマンド、または jssitemexportEx コマンドを使って案件データを退避することを検討してください。

コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」を参照してください。

- 案件管理 DB の動作が不正になった場合には、次の手順で運用データのリカバリーをしてください。

1. 定期的にとっておいたバックアップデータを用意する。
2. jssdbinit.bat コマンドを使って案件管理 DB を初期化する。
3. jssdbrecovery.bat コマンドを使ってバックアップデータを回復する。

案件管理 DB の格納先フォルダがバックアップ時と異なる場合には、バックアップデータのリカバリーができないため、注意してください。

コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」を参照してください。

5.12.3 案件管理 DB からのデータの削除の検討

ユーザー情報、ロール情報は、画面から削除するだけで案件管理 DB から削除されますが、対象システム、プロセスワークボード、案件データ（添付ファイル含む）は画面からの操作だけでは、案件管理 DB から削除できません。別途、jssdelrec コマンドを実行し、案件管理 DB から削除する必要があります。

案件管理 DB にこれらのデータを保管しておく必要がない場合には、システムの定期見直しなどの際に、jssdelrec コマンドを実行して案件管理 DB から削除することをお勧めします。

詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssdelrec \(案件管理 DB データ削除\)](#)」を参照してください。

注意事項

- jssdelrec コマンドでデータを削除する場合、JP1/Service Support のサービスのうち、JP1/Service Support - DB Server サービスだけを起動した状態で実行してください。

なお、-b オプションを指定しないと、JP1/Service Support - Web Service サービスおよび JP1/Service Support サービスを停止した状態にする必要があります。-b オプションを指定すると、JP1/Service Support - Web Service サービスおよび JP1/Service Support サービスを停止した状態にする必要はありません。

- jssdelrec コマンドでデータを削除すると、該当するデータはすべてなくなりますが、この状態では「空き領域」となるだけで、解放しないと再利用されません。空き領域が増加すると、格納効率の低下（無効領域化）や性能劣化の原因となることがあります。

このため、データを削除したあと、必ず jssdbreclaim.bat コマンドを実行し、案件管理 DB に残った空き領域を解放してください。

詳細については、「12. コマンド」の「jssdbreclaim.bat（案件管理 DB 空き領域解放）」を参照してください。

- 不要になった案件を削除する場合、関連する案件の削除も検討してください。関連する案件を削除しなかった場合、「関連案件状態」画面などで案件同士の関連を確認するときに、関連が不明になります。

例えば、案件 A→案件 B→案件 C の流れでエスカレーションしたあと、jssdelrec コマンドで案件 B だけを削除した場合、「関連案件状態」画面で案件 A のエスカレーション先案件 ID、案件 C のエスカレーション元案件 ID が表示されなくなります（-で表示されます）。

- 大量の案件を一括で削除したい場合は、jssitemdeletion コマンドを使うと便利です。jssitemdeletion コマンドを実行すると、複数の案件を一括で削除待ち状態にできます。jssitemdeletion コマンドを使った案件の一括削除の手順については、「11.2.2 案件管理 DB からの案件の一括削除」を参照してください。

5.12.4 案件管理 DB の再編成の検討

日々の運用によって生じる案件管理 DB へのデータの追加，更新，および削除の繰り返しによって，案件管理 DB 中のデータ，インデックスの配置に乱れが生じ，格納効率の低下（無効領域化）や性能劣化を引き起こします。

この場合，次に示す方法でメンテナンスする必要があります。

- jssdbreclaim.bat コマンドを実行する。
定期的に格納効率の低下（無効領域化）を解消するために使用します。
jssdbreclaim.bat コマンドは運用中でも使用できます。
- jssdbrorg.bat コマンドを実行する。
メンテナンス時に格納効率の低下（無効領域化）および性能劣化を解消するために使用します。ただし，jssdbrorg.bat コマンドは案件管理 DB への負荷が高いため，運用を停止した状態のときにだけ使用できます。

詳細については、「12. コマンド」の「jssdbreclaim.bat（案件管理 DB 空き領域解放）」、および「jssdbrorg.bat（案件管理 DB 再編成）」を参照してください。

注意事項

jssdbrorg.bat コマンドを使用する場合，JP1/Service Support のサービスのうち，JP1/Service Support - DB Server サービスだけを起動した状態で実行してください。JP1/Service Support - Web

Service サービス, JP1/Service Support サービスおよび JP1/Service Support - Task Service サービスは停止した状態にしてください。

5.12.5 案件管理 DB のサイズの判断基準

jsssetup.bat (セットアップ) または jssdbinit.bat (案件管理 DB の初期化) コマンドの -s オプションで指定する案件管理 DB のサイズ (S/M/L/LL) の判断基準を次に示します。

S: 小規模向けのテスト環境もしくは社内の問い合わせ管理システム用

1 日 3~5 の案件を登録

使用ユーザー数 5~10 人を想定

登録できる案件数の目安: 約 7700 件^{※1}

登録できる添付ファイル数の目安: 約 3000 件^{※2}

案件と添付ファイルの格納領域のサイズ: 3GB^{※3}

M: 中規模向けの運用管理システム用

1 日 5~30 の案件を登録

使用ユーザー数 10~50 人を想定

登録できる案件数の目安: 約 45000 件^{※1}

登録できる添付ファイル数の目安: 約 17000 件^{※2}

案件と添付ファイルの格納領域のサイズ: 20GB^{※3}

L: 大規模向けの運用管理システム用

1 日 30 件以上の案件を登録

使用ユーザー数 50 人以上を想定

登録できる案件数の目安: 約 121000 件^{※1}

登録できる添付ファイル数の目安: 約 35000 件^{※2}

案件と添付ファイルの格納領域のサイズ: 50GB^{※3}

LL: 大規模向けの運用管理システム用 (20 以上のシステムを運用する場合)

1 日 30 件以上の案件を登録

使用ユーザー数 50 人以上を想定

登録できる案件数の目安: 約 200000 件^{※1}

登録できる添付ファイル数の目安: 約 110000 件^{※2}

案件と添付ファイルの格納領域のサイズ: 90GB^{※3}

注※1

登録できる案件数の目安は、1 案件のデータサイズを約 54 (KB) として見積もった件数になります。

注※ 2

登録できる添付ファイル数の目安は、1 添付ファイルのデータサイズを約 256 (KB) として見積もった件数になります。見積もりより大きなサイズのファイルを添付すると、登録できる添付ファイル数が減ります。

注※ 3

データの格納効率により、格納領域の中で使用できない領域ができる場合があります。

5.13 案件保存 DB の運用についての検討

案件管理 DB に登録されている案件のうち運用が終了した案件を、案件保存 DB に保存できます。案件保存 DB は、保存エリア単位で案件を管理します。案件を保存する際は、保存したい期間を指定するため、保存したい期間に応じた案件保存 DB の容量を見積もる必要があります。また、案件保存 DB のメンテナンスの計画も必要です。これらを考慮して、案件保存 DB の運用について十分な検討をしてください。

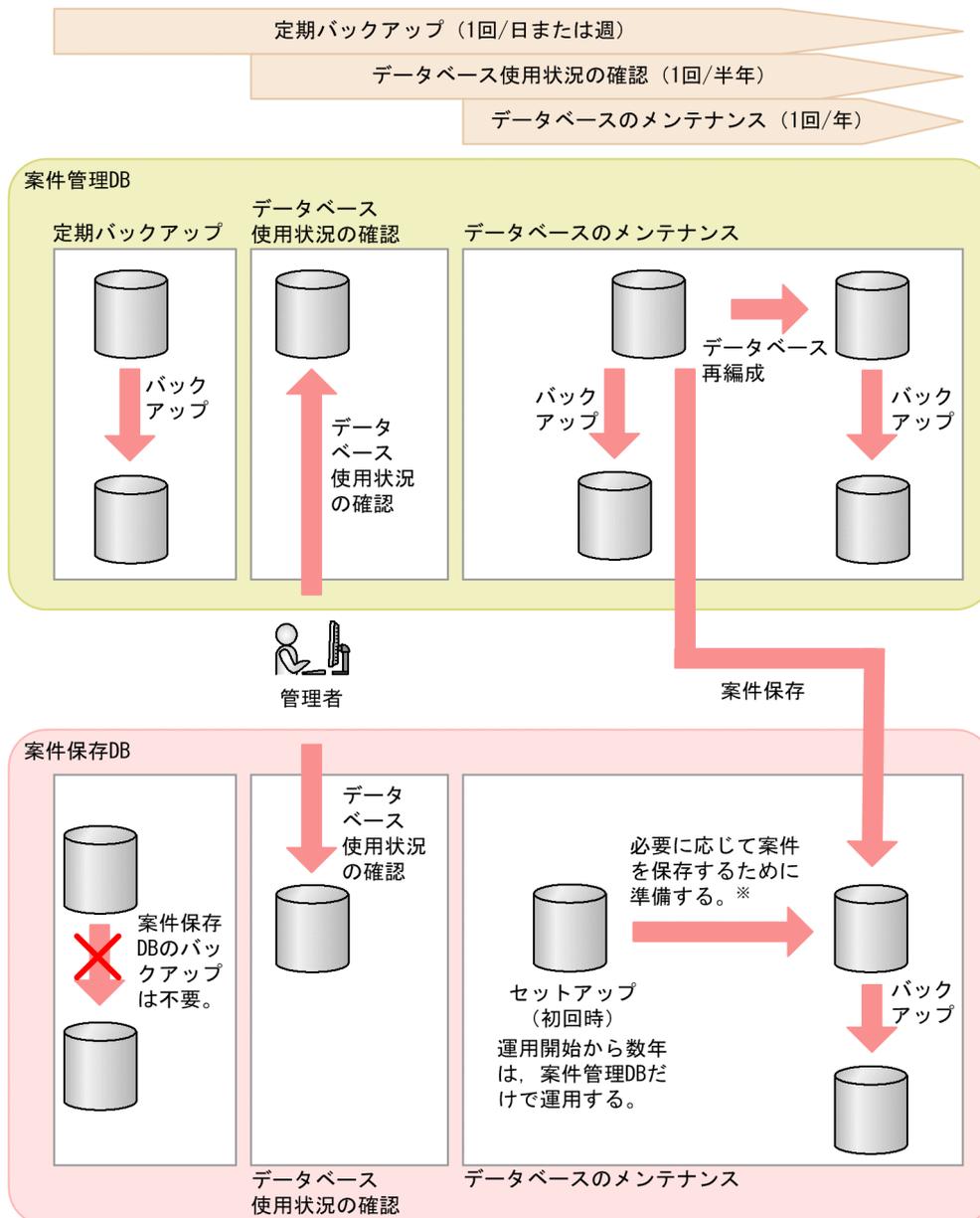
5.13.1 案件保存 DB の運用例

案件保存 DB の運用例として、次に示す運用を想定しています。

- 定期運用
案件管理 DB が満杯になる前に、定期的に案件を案件保存 DB に保管する。
- 臨時運用
案件管理 DB が満杯になるタイミングで、案件を案件保存 DB に保管する。

なお、案件を案件保存 DB に保管するためには、案件保存 DB のセットアップやディスクの用意が必要です。このため、あらかじめ運用を設計した定期運用を推奨します。案件保存 DB の定期運用例を次の図に示します。

図 5-11 案件保存 DB の定期運用例



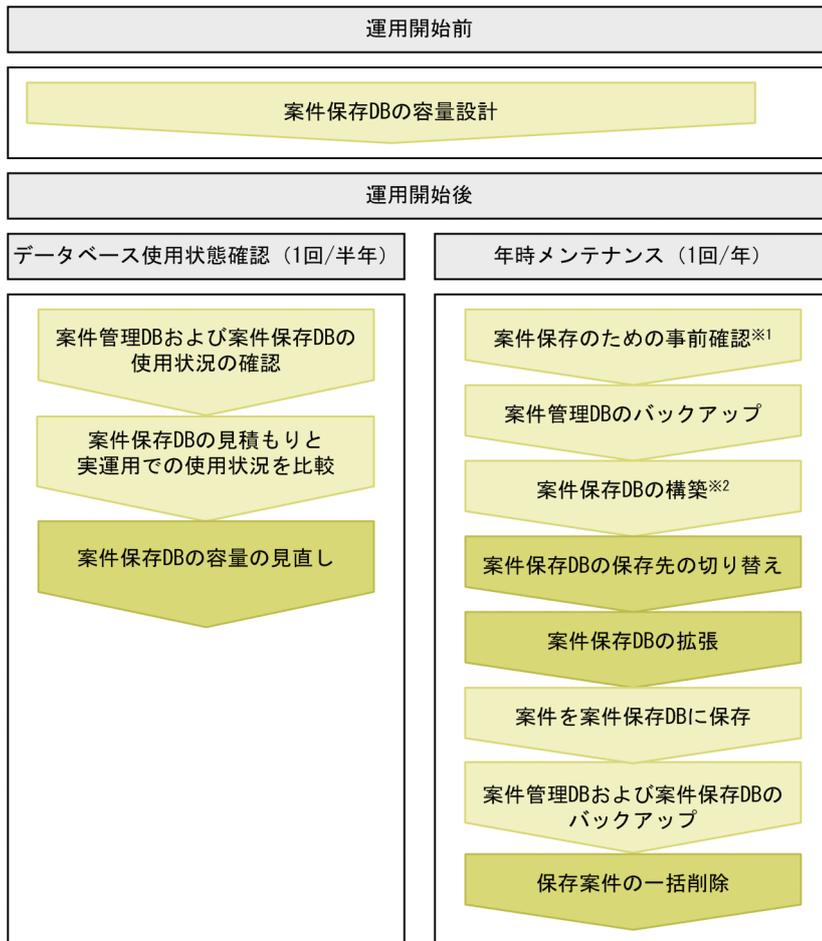
注※

- ・ 案件保存DBの保存先の切り替え
- ・ 案件保存DBの拡張
- ・ 案件保存DBの保存エリアのセットアップ
- ・ 保存案件の一括削除

5.13.2 案件保存 DB の運用の流れ

案件保存 DB を定期運用する場合の流れを、次の図に示します。

図 5-12 案件保存 DB の運用の流れ（定期運用）



(凡例)

: 必ず実施する作業
 : 必要に応じて実施する作業

注※1
案件保存DBの年次メンテナンスの前に実施する。

注※2
案件保存DBを構築していない場合に実施する。

案件保存 DB の容量設計および年次メンテナンスの詳細については、以降の項で説明します。データベース使用状態確認の詳細については「12. コマンド」の「jssdbstatchk.bat (データベース状態確認)」を参照してください。

5.13.3 案件保存 DB の容量設計

案件保存 DB を運用する前に、案件保存 DB に必要なディスク容量を見積もる必要があります。ディスク容量を見積もる際に、案件保存 DB の拡張や保存エリアの切り替え時期も設計します。

案件保存 DB の容量を設計する手順を、次に示します。

1. 案件の目標寿命を設定する。

2. 案件管理 DB に保存する案件の保管年数を見積もる。
3. 案件保存 DB の容量を見積もる。
4. 案件保存 DB の拡張および保存エリアを計画する。

案件保存 DB の容量を設計する手順について、以降で説明します。なお、ここで示している容量設計手順はおおよその見積もり手順です。個々の運用ケースでは、計算結果の容量と実際の容量で、差異が出る場合があります。実際の案件保存 DB の容量の推移については、定期的に `jssdbstatchk.bat`（データベース状態確認）コマンドを実行して確認してください。

(1) 案件の目標寿命を設定する

案件のライフサイクルとして、案件の保管年数（目標寿命）を設定します。過去何年分の案件を保管する必要があるか検討してください。なお、案件保存 DB では保存案件を保存エリア単位で削除するため、案件管理 DB と保存エリア 1 つ分で目標寿命分の案件を保管できるように見積もる必要があります。

(2) 案件管理 DB に保存する案件の保管年数を見積もる

すでに JP1/Service Support を運用している場合と、新規で JP1/Service Support を運用する場合で、見積もり方法が異なります。

すでに JP1/Service Support を運用している場合

運用中の案件管理 DB の状態を確認することで、案件管理 DB で案件を保管できる年数を見積もれます。案件領域と添付ファイル領域のそれぞれについて、見積もってください。

見積もり例を次に示します。

案件管理 DB の状態

運用開始からの期間：1 年

案件領域の使用率：33%

添付ファイル領域の使用率：10%

見積もり結果

案件領域：約 3 年分の案件を案件管理 DB に保管できることになります。

添付ファイル領域：約 10 年分の添付ファイルを案件管理 DB に保管できることになります。

新規で JP1/Service Support を運用する場合

運用開始前のテストで一定期間分の案件を登録したあと、案件管理 DB の状態を確認します。この案件管理 DB の状態を確認することで、案件管理 DB で保管できる年数を見積もれます。案件領域と添付ファイル領域のそれぞれについて、見積もってください。

見積もり例を次に示します。

案件管理 DB の状態

登録した案件の想定期間：1 か月分

案件領域の使用率：2%

添付ファイルの使用率：5%

見積もり結果

約 20 か月分の案件を案件管理 DB に保管できることとなります。

案件管理 DB の状態は、jssdbstatchk.bat (データベース状態確認) コマンドで確認できます。
jssdbstatchk.bat (データベース状態確認) コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbstatchk.bat (データベース状態確認)」を参照してください。

(3) 案件保存 DB の容量を見積もる

前述で検討した案件の目標寿命と案件管理 DB の見積もり結果を基に、案件保存 DB の容量を見積もります。案件保存 DB の見積もり手順を次に示します。

1. 案件保存 DB の容量が案件管理 DB の容量の何倍必要かを見積もる。

案件の目標寿命と案件管理 DB に保存できる案件の保存年数から算出します。見積もり例を次に示します。

条件

案件の目標寿命：8 年

案件管理 DB に案件を保管できる年数：3 年※

案件管理 DB に添付ファイルを保管できる年数 10 年※

注※ 「(2) 案件管理 DB に保存する案件の保存年数を見積もる」の見積もり例を参照してください。

見積もり結果

案件：案件保存 DB に 5 年分保存する必要がある。(案件管理 DB の 1.7 倍の容量が必要)

添付ファイル：案件管理 DB だけで目標とする保存年数分を保存できます。

2. 案件保存 DB の拡張回数を見積もる。

手順 1 の結果から、案件保存 DB の拡張回数を見積もります。案件管理 DB の容量、および案件保存 DB の 1 回で拡張できる容量を次に示します。

- 案件管理 DB の案件領域の容量：約 64GB
- 案件管理 DB の添付ファイル領域の容量：約 28GB
- 1 回で拡張できる案件領域の容量：約 48GB
- 1 回で拡張できる添付ファイル領域の容量：約 60GB

なお、案件保存 DB を 1 回拡張するためには、64GB 必要です。

見積もり例を次に示します。

案件領域

手順 1 の結果によって、案件管理 DB の 1.7 倍の容量が必要となります。

案件管理 DB の案件領域は 64GB なので、約 110GB 必要となります。

1 回で 48GB 拡張できるため、3 回拡張する必要があります。

添付ファイル領域

手順 1 の結果によって、拡張不要。

なお、案件管理 DB および案件保存 DB の容量の詳細については、jssdbstatchk.bat（データベース状態確認）コマンドで確認できます。jssdbstatchk.bat（データベース状態確認）コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbstatchk.bat（データベース状態確認）」を参照してください。

3. 案件保存 DB の容量を見積もる。

次に示す計算式を利用して、案件保存 DB の容量を見積もります。

案件保存 DB の容量 = (64GB * 案件領域の拡張回数※ + 64GB * 添付ファイル領域の拡張回数※) * 保存エリア数

注※ 拡張回数には、案件保存 DB のセットアップも 1 回として含まれます。

見積もり例を次に示します。

手順 2 までの見積もり結果

案件領域の拡張回数：3 回（セットアップ + 2 回拡張）

添付ファイル領域の拡張回数：1 回（添付ファイル領域として拡張は不要だが、案件保存 DB をセットアップすると 1 回拡張されてしまうため。）

見積もり結果

案件保存 DB の見積もり結果 = (64GB * 3 回 + 64GB * 1 回) * 2 保存エリア = 512GB

(4) 案件保存 DB の拡張および保存エリアを計画する

案件保存 DB に案件を保存したい年数と、保存するために必要な案件保存 DB の拡張回数から、案件保存 DB の拡張と保存エリアの切り替え時期を計画します。切り替え時期の見積もり例を次に示します。

拡張時期

案件領域：案件管理 DB（約 64GB）で 3 年分保存できる。案件保存 DB で 1 回拡張すると、約 2 年 3 か月分保存できます。このため、2 年ごとに拡張します。

添付ファイル領域：拡張は不要です。

切り替え時期

予定回数（3 回）拡張したあとは、5 年おきに保存エリアを切り替えます（保存エリアの一つに保存したい年数の案件が保存されたあとに、さらに案件を保存するタイミング）。

5.13.4 案件保存 DB の年次メンテナンス

案件保存 DB を定期運用する場合、運用を開始してから 1 年ごとに案件保存 DB をメンテナンスする必要があります。

案件保存 DB の年次メンテナンスに必要な作業を、次に示します。

- 案件保存のための事前確認※¹

- 案件管理 DB のバックアップ
- 案件保存 DB の構築^{※2}
- 案件保存 DB の保存先の切り替え^{※2}
- 案件保存 DB の拡張^{※2}
- 案件を案件保存 DB に保存
- 案件管理 DB および案件保存 DB のバックアップ
- 保存案件の一括削除^{※2}

注※1

案件保存 DB の年次メンテナンスの前に実施します。

注※2

必要に応じて作業します。

半年ごとにデータベースの使用状況を確認した結果を基に、どの作業を実施するか決定してください。

注意事項

年次メンテナンスでバックアップした案件保存 DB を使用して案件保存 DB をリカバリーする場合、案件保存 DB の拡張状況をバックアップ時の拡張状況（拡張回数、セットアップおよび拡張先のディレクトリ）に合わせる必要があります。

また、案件保存 DB をリカバリーする際に案件管理 DB を別にリカバリーすると、登録案件の重複や消失などのデータの不整合が起こるおそれがあります。このため、案件保存 DB のリカバリー時には案件管理 DB のリカバリーを考慮する必要があります。

案件保存 DB の年次メンテナンスで実施する作業については、「[11.2.9 案件保存のための事前確認](#)」,
「[11.2.10 案件保存 DB の構築](#)」, 「[11.2.11 案件保存 DB の保存先の切り替え](#)」, 「[11.2.12 案件保存 DB の拡張](#)」,
「[11.2.13 案件保存 DB に案件を保存](#)」, 「[11.2.14 案件保存 DB 使用時のバックアップ](#)」,
および「[12. コマンド](#)」の「[jssstoreitemdel.bat（保存案件一括削除）](#)」を参照してください。

5.14 データ移行に関する検討

JP1/Service Support は、JP1/Service Support 以外のシステムで管理していた案件データやユーザー情報、および既存の JP1/Service Support で管理していたデータからも移行できるようコマンドを用意しています。

5.14.1 JP1/Service Support 以外のシステムからの案件データの移行について

JP1/Service Support 以外のシステムで、サービスサポートに沿った運用を実施する環境を構築していて、その環境からデータを JP1/Service Support に移行する場合、データ形式を JP1/Service Support に合わせて修正する必要があります。また、修正後、`jssitemimport` コマンドまたは `jssitemimportEx` コマンドを使って JP1/Service Support に移行する必要があります。

移行の手順の詳細については、「[9.18 JP1/Service Support 以外のシステムからの案件データの移行](#)」を参照してください。

5.14.2 JP1/Service Support 以外のシステムからのユーザー情報の移行について

JP1/Service Support 以外のシステムでユーザー情報を管理していて、その環境からデータを JP1/Service Support に移行する場合、データ形式を JP1/Service Support に合わせて修正する必要があります。また、修正後、`jssuserimport` コマンドを使って JP1/Service Support に移行する必要があります。

移行の手順の詳細については、「[9.19 JP1/Service Support 以外のシステムからのユーザー情報の移行](#)」を参照してください。

5.14.3 既存の JP1/Service Support からのデータの移行について

既存の JP1/Service Support からデータを、異なるサーバの JP1/Service Support に移行する場合、`jssdbbackup.bat` コマンドと `jssdbrecovery.bat` コマンドを使って、案件管理 DB のデータを移行できます。

移行の手順の詳細については、「[9.20 既存の JP1/Service Support からのデータの移行](#)」を参照してください。

5.15 認証方法の検討

JP1/Service Support の認証方法をどのようにするか、連携する製品の認証も含めて検討する必要があります。運用方法に応じて、認証方法を検討してください。

JP1/Service Support のログイン認証には、次に示す方法があります。

- 案件管理 DB を使用したログイン認証
- LDAP サーバ (Active Directory) を使用したログイン認証
- JP1/Base の認証サーバを使用したログイン認証

なお、以降で説明する「特定の JP1 製品」を、次に示します。

- JP1/NP
- JP1/AO
- JP1/AJS3
- JP1/PFM

5.15.1 案件管理 DB を使用したログイン認証

(1) 特定の JP1 製品と連携しない場合

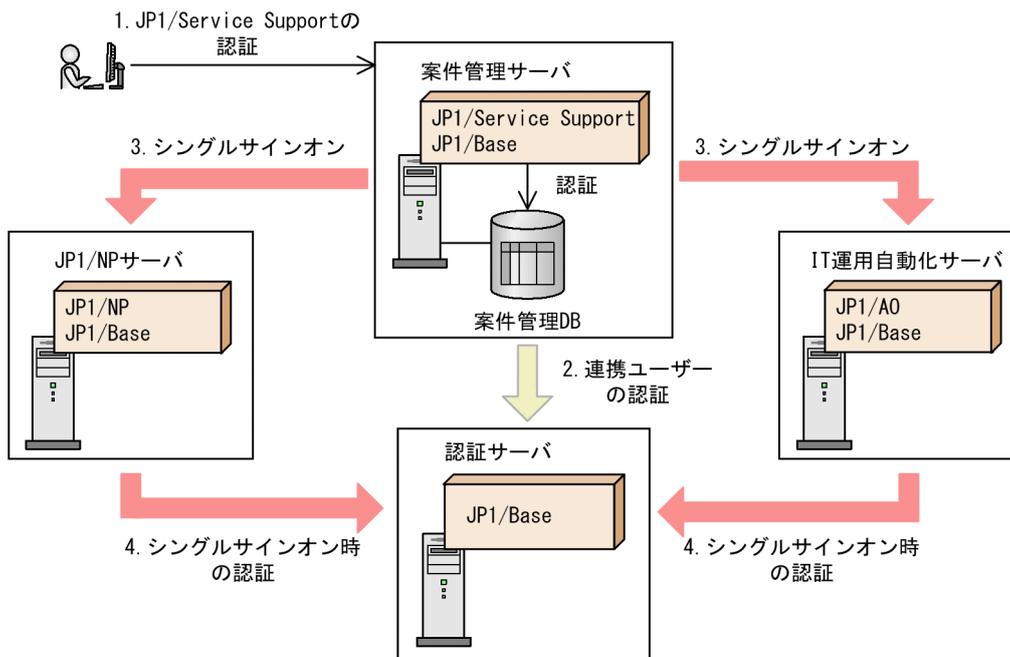
案件管理 DB で管理している JP1/Service Support 内のユーザー情報を使用して、ログイン認証します。

(2) 特定の JP1 製品と連携する場合

案件管理 DB で管理している JP1/Service Support 内のユーザー情報を使用して、ログイン認証します。また、案件管理 DB の認証に加えて、特定の JP1 製品と連携するユーザーの認証に、JP1/Base の認証サーバを使用します。JP1/Base の認証サーバを使用することで、JP1/Service Support から特定の JP1 製品の画面を呼び出す際、または、特定の JP1 製品から JP1/Service Support の画面を呼び出す際、ログイン認証が不要となります (シングルサインオン)。なお、連携するユーザーのユーザー ID およびパスワードは、JP1/Base の認証サーバでも管理されるため、それらを JP1/Base の認証サーバに登録または変更する必要があります。

特定の JP1 製品と連携した場合の案件管理 DB を使用したログイン認証の例を、次の図に示します。

図 5-13 案件管理 DB を使用したログイン認証の例 (特定の JP1 製品と連携した場合)



5.15.2 LDAP サーバを使用したログイン認証

(1) 特定の JP1 製品と連携しない場合

LDAP サーバ (Active Directory) で管理しているユーザー ID およびパスワードを使用して、ログイン認証します。この場合、LDAP サーバで管理しているユーザー ID およびパスワードを、JP1/Service Support で使用します。そのため、JP1/Service Support で独自のユーザー ID およびパスワードを管理する必要がありません。ただし、画面に表示されるユーザー情報やアクセス権の管理などは、案件管理 DB に登録されている情報を使用するため、LDAP サーバに登録されているユーザー ID を持つユーザーを案件管理 DB に登録する必要があります。

(2) 特定の JP1 製品と連携する場合

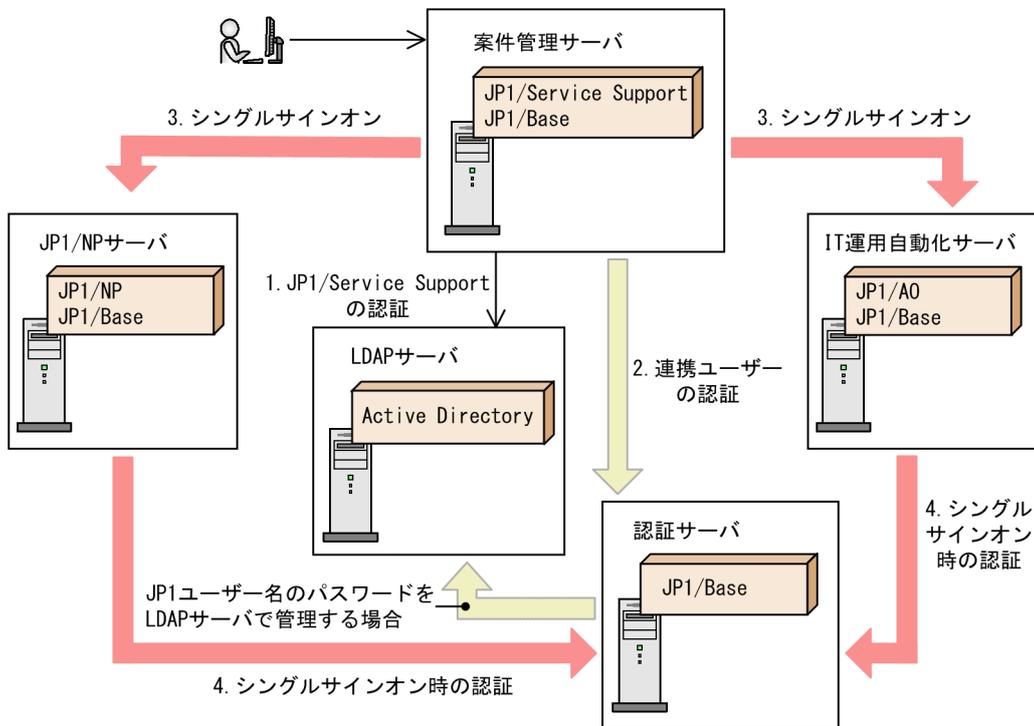
LDAP サーバ (Active Directory) で管理しているユーザー ID およびパスワードを使用して、ログイン認証します。また、LDAP サーバの認証に加えて、特定の JP1 製品と連携するユーザーの認証に、JP1/Base の認証サーバを使用します。JP1/Base の認証サーバを使用することで、JP1/Service Support から特定の JP1 製品の画面を呼び出す際、または特定の JP1 製品から JP1/Service Support の画面を呼び出す際、ログイン認証が不要となります (シングルサインオン)。また、連携するユーザーのユーザー ID およびパスワードは、JP1/Base の認証サーバでも管理されるため、それらを JP1/Base の認証サーバに登録または変更する必要があります。ただし、JP1/Base での認証に LDAP サーバを使用している場合は、JP1/Base の認証サーバのユーザー ID およびパスワードを変更する必要はありません。

なお、JP1/Service Support のログイン認証では、LDAP サーバで管理しているユーザー ID およびパスワードを使用するため、JP1/Service Support でパスワードを管理する必要がありません。ただし、画面

に表示されるユーザー情報やアクセス権の管理などは、案件管理 DB に登録されている情報を使用するため、LDAP サーバに登録されているユーザー ID を持つユーザーを案件管理 DB に登録する必要があります。

特定の JP1 製品と連携した場合の LDAP サーバを使用したログイン認証の例を、次の図に示します。

図 5-14 LDAP サーバを使用したログイン認証の例（特定の JP1 製品と連携した場合）



LDAP サーバを使用したログイン認証については、「4.13.1 LDAP サーバとの連携」を参照してください。

5.15.3 JP1/Base の認証サーバを使用したログイン認証

(1) 特定の JP1 製品と連携しない場合

JP1/Base の認証サーバで管理しているユーザー情報を使用して、ログイン認証します。この場合、ユーザーの認証に JP1/Base を使用しますが、画面に表示されるユーザー情報やアクセス権の管理などは、案件管理 DB に登録されている情報を使用するため、JP1/Base の認証サーバに登録されているユーザーのユーザー情報を案件管理 DB に登録する必要があります。

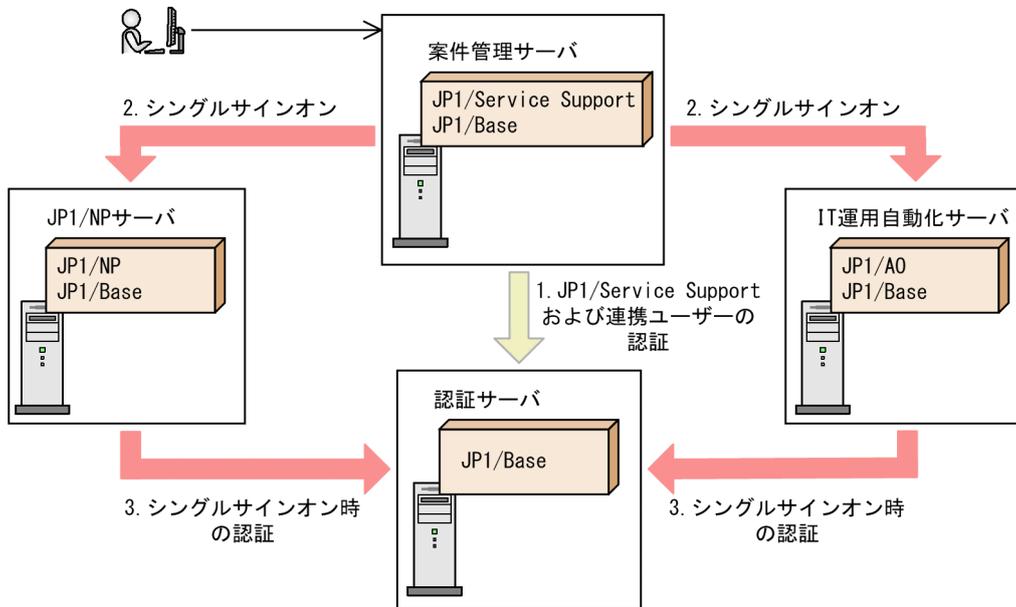
(2) 特定の JP1 製品と連携する場合

JP1/Service Support のログイン認証、および連携するユーザーの認証に、JP1/Base の認証サーバで管理しているユーザー情報を使用します。JP1/Base の認証サーバを使用することで、JP1/Service Support から特定の JP1 製品の画面を呼び出す際、または特定の JP1 製品から JP1/Service Support の画面を呼び出す際、ログイン認証が不要となります（シングルサインオン）。

なお、画面に表示されるユーザー情報やアクセス権の管理などは、案件管理 DB に登録されている情報を使用するため、JP1/Base の認証サーバに登録されているユーザー情報を案件管理 DB に登録する必要があります。

特定の JP1 製品と連携した場合の JP1/Base の認証サーバを使用したログイン認証の例を、次の図に示します。

図 5-15 JP1/Base の認証サーバを使用したログイン認証（特定の JP1 製品と連携した場合）



5.16 ウィルス対策ソフト実行時の注意事項

ウィルス対策ソフトの影響で、JP1/Service Support が使用しているファイルおよびフォルダに対するファイルアクセスに排他制御によるロックが掛かることがあります。その際、JP1/Service Support が正しく動作しないおそれがあります。

JP1/Service Support の起動中にウィルスチェックを実施する場合は、次に示すファイルおよびフォルダを対象から外してください。JP1/Service Support の停止中にウィルスチェックを実施して JP1/Service Support を再起動する場合は、次に示すファイルおよびフォルダに対してウィルスチェックが完了したことを確認してください。

JP1/Service Support のファイルおよびフォルダ

- JP1/SS パス¥以下すべて
- 案件管理 DB の格納先フォルダ以下すべて

論理ホスト環境の場合は、次に示す共有フォルダをウィルスチェック対象から外してください。

- 共有フォルダ¥db¥以下すべて
- 共有フォルダ¥dbms¥以下すべて
- 共有フォルダ¥log¥以下すべて
- 共有フォルダ¥tools¥以下すべて

6

インストールとセットアップ

この章では、JP1/Service Support のインストールとセットアップの手順、およびアンセットアップとアンインストールの手順について説明します。また、JP1/Service Support にマニュアルを組み込む手順についても説明します。

6.1 インストールとセットアップの流れ

JP1/Service Support のインストールには、新規インストール、上書きインストール、アップグレードインストールがあります。

JP1/Service Support のインストールとセットアップの流れについて、インストールの種類ごとに説明します。

新規インストール

JP1/Service Support がインストールされていないマシンにインストールします。新規インストールとセットアップの流れを次の表に示します。

表 6-1 新規インストールをセットアップの流れ

作業	作業の要否	参照先
1 JP1/Service Support のインストール	必須	6.3.1
2 JP1/Service Support のセットアップ	必須	6.3.2
3 HTML マニュアルの組み込み	任意	6.8
4 案件保存 DB のセットアップ	任意	11.2.10

上書きインストール

JP1/Service Support がインストールされているマシンにインストールします。バージョンアップ前とバージョンアップ後の JP1/Service Support の製品 (Edition) が同じ場合、上書きインストールできます。上書きインストールの種類と流れについて説明します。

バージョンアップインストール

新しいバージョンの JP1/Service Support をインストールします。

注意事項

- JP1/Service Support Advanced Edition から最新版の JP1/Service Support にする場合は、バージョンアップインストールとなります。
なお、JP1/Service Support Advanced Edition のバージョンは、10-50 です。
- 11-00 より前の JP1/Service Support Advanced Edition を除く JP1/Service Support がインストールされている場合は、アップグレードインストールとなります。

バージョンアップインストールとセットアップの流れを、次の表に示します。

表 6-2 バージョンアップインストールとセットアップの流れ

作業	作業の要否	参照先
1 環境のバックアップ	必須	6.2.3
2 JP1/Service Support のインストール	必須	6.4.1
3 JP1/Service Support のセットアップ	必須	6.4.2

作業	作業の要否	参照先
4 HTML マニュアルの上書き	任意	6.8

修復インストール

インストール済みの JP1/Service Support, またはインストール済みの JP1/Service Support の修正版をインストールします。

修復インストールとセットアップの流れを, 次の表に示します。

表 6-3 修復インストールとセットアップの流れ

作業	作業の要否	参照先
1 環境のバックアップ	必須	6.2.3
2 JP1/Service Support のインストール	必須	6.4.1
3 JP1/Service Support のセットアップ	必須	6.4.3
4 HTML マニュアルの上書き	任意	6.8

アップグレードインストール

JP1/Service Support Starter Edition から JP1/Service Support (Standard) にアップグレードできます。

アップグレードの流れを, 次の表に示します。

表 6-4 アップグレードインストールとセットアップの流れ

作業	作業の要否	参照先
1 環境のバックアップ	必須	6.2.3
2 JP1/Service Support のインストールとセットアップ	必須	6.5.1
3 HTML マニュアルの上書き	任意	6.8

なお, JP1/Service Support のバージョンアップまたはアップグレード時にインストール先マシンを変更する場合は, 「6.6 インストール先マシンのリプレース」を参照してください。

クラスタ環境での新規インストールとセットアップについては, 「10.2 クラスタ運用の環境設定 (新規インストールからの環境構築)」を参照してください。クラスタ環境でのバージョンアップインストールとセットアップについては, 「10.8 クラスタ環境でのバージョンアップ」を参照してください。

6.2 インストール前に必要な作業

JP1/Service Support をインストールする前に必要な作業について説明します。

6.2.1 環境を構築するための設計

インストール作業に入る前に、JP1/Service Support のセットアップ内容について検討し、設定する内容をまとめておいてください。

セットアップ内容の設計については、「[5. JP1/Service Support の設計](#)」を参照してください。

6.2.2 OS の環境構築

JP1/Service Support のインストール前に、次の条件を満たす OS の環境を構築してください。

- JP1/Service Support の前提バージョンの OS であること
- JP1/Service Support の前提とするサービスパックやパッチが適用されていること

6.2.3 環境のバックアップ

バージョンアップインストールの前に、リカバリー用として必ずインストール前の環境で `jssdbbackup.bat` コマンドを実行し、案件管理 DB のバックアップを取得してください。引数には `-maint` オプションを指定してください。バックアップ手順については、「[12. コマンド](#)」の「[jssdbbackup.bat \(データベースバックアップ\)](#)」を参照してください。また、定義情報についても必ずバックアップを取得してください。バックアップの対象となる定義情報は、「[11.1.1 定義情報のバックアップ](#)」の表 11-1 で示している「[環境設定コマンド](#)」、「[クラスタ用環境設定コマンド](#)」および「[環境設定ファイル](#)」以外のファイルです。

インストールに失敗した場合は、次に示す手順でインストール前の環境に戻してください。

1. インストールされている JP1/Service Support をアンインストールする。
アンインストールの手順については、「[6.7 JP1/Service Support のアンセットアップとアンインストール](#)」を参照してください。
2. インストール先フォルダをすべて削除する。
3. インストール前と同じバージョンの JP1/Service Support を新規にインストールする。
インストールの手順については、「[6.3.1 新規インストール手順](#)」を参照してください。
4. バックアップした定義情報をリカバリーする。
定義情報のリカバリーについては、「[11.1.2 定義情報のリカバリー](#)」を参照してください。

5. 新規の環境をセットアップする。

セットアップの手順については、「[6.3.2 新規インストール時のセットアップ手順](#)」を参照してください。

6. バックアップデータでリカバリーし、バージョンアップ前の環境に戻す。

リカバリーの手順については、「[12. コマンド](#)」の「[jssdbrecovery.bat \(データベースリカバリー\)](#)」を参照してください。

6.3 JP1/Service Support の新規インストールとセットアップ

JP1/Service Support の新規インストールとセットアップ手順について説明します。

6.3.1 新規インストール手順

JP1/Service Support の新規インストール手順について説明します。新規インストールの方法は次の 2 種類があります。

- 提供媒体を使った新規インストール
- JP1/NETM/DM, JP1/IT Desktop Management 2 および Job Management Partner 1/Software Distribution を使ったりモートインストール

それぞれの手順について説明します。この作業には、Administrators 権限が必要です。なお、JP1/Service Support の製品の違いによって、作業手順に差異はありません。

注意事項

JP1/Service Support と他の製品のインストール先フォルダを同じにしてインストールは行わないでください。

(1) 提供媒体を使った新規インストール

提供媒体を使って、JP1/Service Support を新規インストールする手順について次に示します。

1. 提供媒体を該当するドライブに入れ、インストールする。

自動的に起動するインストーラーの指示に従ってインストールしてください。

次の項目を指定してください。

- ユーザー情報
- インストール先フォルダ

指定したインストール先フォルダ下に「JP1SS」フォルダが作成され、「JP1SS」フォルダに製品がインストールされます。インストール先フォルダは、ドライブ名を含めて 38 バイト以内の絶対パスで指定してください。

使用できる文字は、半角英数字、および「[, ;, *, ?, ", <, >, !, \$, %, &, ', ` , /, ^, !, #, {, }, [,], +, -, =, @, ~, :, ¥」を除く半角記号です。2 バイトコード（全角文字）は使用できません。

デフォルトは、システムドライブ:¥Program files (x86)¥Hitachi¥JP1SS です。

❗ 重要

制限を含んだインストールフォルダを指定しエラーとなった後に、正しいインストール先フォルダを指定してインストールを正常に終了すると、エラーとなったフォルダが作

成される場合があります。エラーとなったフォルダが存在するか確認し、不要なフォルダである場合には削除してください。

- スタートメニューに表示されるプログラムフォルダ名
デフォルトは、「JP1_Service Support」です。

2.再起動を要求された場合は、OS を再起動する。

メモ

JP1/Service Support をインストールすると、スタートメニューには次のメニューが登録されます。

- JP1_SS コマンドプロンプト
- JP1_SS ログイン画面

(2) JP1/NETM/DM, JP1/IT Desktop Management 2 および Job Management Partner 1/Software Distribution を使ったリモートインストール

JP1/Service Support は、JP1/NETM/DM, JP1/IT Desktop Management 2 および Job Management Partner 1/Software Distribution を使ったリモートインストール（ソフトウェア配布）に対応しています。実際の操作・運用方法については、JP1/NETM/DM, JP1/IT Desktop Management 2 または Job Management Partner 1/Software Distribution のマニュアルを参照してください。JP1/Base をパッケージングする際は、必ず JP1/NETM/DM 09 -00 以降、Job Management Partner 1/Software Distribution 09 -00 以降、または JP1/IT Desktop Management 2 のパッケージャを使用してください。なお、JP1/NETM/DM は日本でだけ販売している製品です。

6.3.2 新規インストール時のセットアップ手順

JP1/Service Support を新規でインストールした場合は、次の手順でセットアップします。なお、JP1/Service Support の製品の違いによって、作業手順に差異はありません。セットアップの注意事項は「[6.9.2 セットアップ時の注意事項](#)」を参照してください。

重要

JP1/Service Support 11-00 以降、クライアント環境変数グループの設定が不要になりました。

1. jsssetupinfo.bat コマンドを編集する。

案件管理 DB の格納先や、JP1/Service Support で使用するポート番号を変更する場合は、jsssetupinfo.bat コマンドを編集します。jsssetupinfo.bat コマンドの格納先を次に示します。

JP1/SS パス¥conf¥setup¥jsssetupinfo.bat

jsssetupinfo.bat コマンドのファイル形式を次に示します。

```
@rem All Rights Reserved. Copyright (C) 2007, Hitachi, Ltd.
@rem Licensed Material of Hitachi, Ltd.

@rem データベース格納ディレクトリ
@set IMSSDBDIR =JP1/SSパス¥db

@rem データベースのポート番号
@set IMSSDBPORT =24400

@rem WebサーバのHTTPポート番号
@set IMSSHHTTPPORT =24401

@rem WebコンテナサーバのWebサーバ連携のポート番号
@set IMSSWEBCONPORT =24402

@rem Webコンテナサーバのシャットダウンのポート番号
@set IMSSWEBSHUPORT =24403

@rem システム設定用のWebサーバのHTTPポート番号
@set IMSSWEBHTTPPORT =24404
```

jsssetupinfo.bat コマンドでは、次の内容を編集できます。「項目」に示す値以外を変更すると、エラーになります。

表 6-5 jsssetupinfo.bat コマンドで編集できる内容

項目	説明	デフォルト値
IMSSDBDIR	案件管理 DB の格納先フォルダ名※1	JP1/SS パス¥db
IMSSDBPORT	案件管理 DB サーバとの通信用のポート番号※2	24400
IMSSHHTTPPORT	WWW サーバ、および WWW ブラウザとの通信用のポート番号※2	24401
IMSSWEBCONPORT	WWW コンテナサーバと WWW サーバの連携用のポート番号※2	24402
IMSSWEBSHUPORT	WWW コンテナサーバとの通信をシャットダウンするときに使用するポート番号※2	24403
IMSSWEBHTTPPORT	システム設定用の WWW サーバとの通信用ポート番号※2	24404

注※1

案件管理 DB の格納先フォルダ名を指定するときは、次の点に注意してください。

- ・133 バイト以内の絶対パスで指定してください。
- ・OS で使用できる文字を指定してください。
- ・使用できる文字は、半角英数字、[_ (アンダーバー)]、[¥ (円記号)]、[() (丸括弧)]、[. (ピリオド)] および半角空白です。
- ・フォルダ名の末尾に「¥ (円記号)」は指定しないでください。
- ・フォルダ名の前後に半角空白およびタブを使用しないでください。
- ・ネットワークドライブは指定できません。
- ・存在しないフォルダ名を指定した場合は、jsssetup.bat コマンドの実行時に作成されます。
- ・「D:¥」のように、ハードドライブの直下を指定しないでください。

注※2

IMSSDBPORT には、半角で 5001～65535 の数値を設定できます。IMSSHTTTPORT, IMSSWEBCONPORT, IMSSWEBSHUPORT, IMSSWEBHTTTPORT には、半角で 1～65535 の数値を設定できます。ただし、次の点に注意してください。

- ・それぞれのポート番号が重複しないようにしてください。
- ・他製品が使用しているポート番号と重複しないようにしてください。
- ・設定したポート番号の前後に半角空白およびタブを使用しないでください。

メモ

jsssetupinfo.bat コマンドでは、モデルファイル (JP1/SS パス¥conf¥setup ¥jsssetupinfo.bat.model) を提供しています。モデルファイルは jsssetupinfo.bat コマンドの内容をリセットする場合に利用してください。jsssetupinfo.bat コマンドを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで jsssetupinfo.bat コマンドとして使用できます。

2. jsssetup.bat コマンドを実行する。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jsssetup.bat コマンドを実行し、JP1/Service Support をセットアップします。引数には-s オプションを指定してください。

その他の引数は、運用に合わせて次のように指定してください。jsssetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jsssetup.bat \(セットアップ\)](#)」を参照してください。

- ・メールで案件を登録したい場合は、マスターシステムおよび一時受付プロセスワークボードを作成する、-t オプションを指定してください。なお、マスターシステムおよび一時受付プロセスワークボードは、セットアップ時以外にもマスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドで作成できます。詳細については、「12. コマンド」の「[jsscreatesysandpwb \(マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成\)](#)」を参照してください。

なお、案件管理 DB サイズの判断基準については、「[5.12.5 案件管理 DB のサイズの判断基準](#)」を参照してください。

また、ユーザーアカウント制御機能が有効で、Administrator 以外の Administrators 権限を持つユーザーの場合、管理者として実行する設定に変更してから、コマンドを実行してください。管理者として実行する設定への変更については、「12. コマンド」の「[コマンド一覧](#)」を参照してください。

3. ODBC データソースを設定する。

JP1/Service Support とデータベースを接続するために、ODBC データソースを設定します。

次のファイルを実行して、ODBC データソースアドミニストレータを起動します。

システムドライブ:¥WINDOWS¥SysWOW64¥odbcad32.exe

[システム DSN] タブを開いて、システムデータソースに「HiRDB ODBC3.0 Driver」を追加し、次の情報を設定します。

設定項目	設定内容
DSN	jplimss
PDHOST (HOST name)	-

設定項目	設定内容
PDNAMEPORT (HiRDB port number)	—
HiRDB Client environment definition file name (absolute path name)	JP1/SS パス¥dbms¥db¥CONF¥emb¥HiRDB. ini

(凡例)

—：指定しない

[OK] ボタンをクリックすると、データソースが登録されます。

4. jsschauthorityserver コマンドを実行する。

LDAP サーバを認証サーバとする、または JP1/Base の認証機能を使用する場合、jsschauthorityserver コマンドを実行し、認証サーバを切り替えてください。LDAP サーバを認証サーバとしない、または JP1/Base の認証機能を使用しない場合、この手順は不要です。

jsschauthorityserver コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)」を参照してください。

メイン画面の [ヘルプ] ボタンから HTML マニュアルを表示させたい場合は、JP1/Service Support にマニュアルを組み込む必要があります。組み込みの手順については、「6.8 マニュアルの組み込み手順」を参照してください。

なお、案件保存 DB を使用する場合、案件保存 DB も同時にセットアップできます。案件保存 DB のセットアップ手順については、「11.2.10 案件保存 DB の構築」を参照してください。

6.4 JP1/Service Support の上書きインストールとセットアップ

上書きインストールには、バージョンアップインストール、および修復インストールがあります。どちらもインストール手順は同じですが、セットアップ手順が異なります。

バージョンアップインストールをする場合は、上書きインストール後に「[6.4.2 バージョンアップインストール時のセットアップ手順](#)」を参照してセットアップをしてください。

修復インストールをする場合は、上書きインストール後に「[6.4.3 修復インストール時のセットアップ手順](#)」を参照してセットアップをしてください。なお、JP1/Service Support の製品の違いによって、作業手順に差異はありません。

6.4.1 上書きインストール手順

JP1/Service Support の上書きインストール手順について説明します。上書きインストールの方法には、次の種類があります。

- 提供媒体を使った上書きインストール
- JP1/NETM/DM, JP1/IT Desktop Management 2 および Job Management Partner 1/Software Distribution を使ったりリモートインストール

ここでは、提供媒体を使って JP1/Service Support を上書きインストールする手順について説明します。この作業には、Administrators 権限が必要です。JP1/NETM/DM を使ったりリモートインストールの手順については、「[6.3.1\(2\) JP1/NETM/DM, JP1/IT Desktop Management 2 および Job Management Partner 1/Software Distribution を使ったりリモートインストール](#)」を参照してください。なお、リモートインストールで上書きインストールする際は、前回と同じインストール先を指定してください。

注意事項

インストール後にインストールパスを変更する場合、一度アンインストールしてください。

1. 提供媒体を該当するドライブに入れ、インストールする。

自動的に起動するインストーラーの指示に従ってインストールしてください。

インストール先フォルダには、前回インストール時と同じインストール先が指定されます。

ユーザー情報、およびスタートメニューに表示されるプログラム名は、前回インストール時に設定した内容が引き継がれます。

2. 再起動を要求された場合は、OS を再起動する。

6.4.2 バージョンアップインストール時のセットアップ手順

バージョンアップインストール時のセットアップ手順について、バージョンアップ前のバージョンごとに説明します。なお、JP1/Service Support Starter Edition から JP1/Service Support (Standard) にアップグレードしたい場合は、「6.5 JP1/Service Support のアップグレード」を参照してください。

注意事項

- バージョンアップインストールの前には、作業失敗時のリカバリー用に案件管理 DB のバックアップを取得してください。詳細については、「6.2.3 環境のバックアップ」を参照してください。
- バージョンアップ時のセットアップ実行時には、一時ファイルが作成されます。そのため、JP1/Service Support のインストール先フォルダに、約 400 メガバイトの空き容量が必要です。
- バージョンアップ時のセットアップでは、案件管理 DB の内容を引き継いだ状態でサイズを変更することはできないため、案件管理 DB のサイズを変更したい場合は、「11.2.4 案件管理 DB のサイズ拡張」を参照してサイズを変更してください。なお、案件管理 DB サイズの判断基準については、「5.12.5 案件管理 DB のサイズの判断基準」を参照してください。
- HTML マニュアルを [ヘルプ] ボタンから参照できるよう設定している場合は、新しいバージョンのマニュアルを上書きする必要があります。上書きする手順については、「6.8 マニュアルの組み込み手順」を参照してください。
- バージョンアップインストール時に追加が必要な定義ファイルのキーについては、リリースノートを参照してください。
- JP1/Service Support のバージョンが 10-50 以前でメールによって案件を登録する運用にしている場合、-vup オプションを指定して jsssetup.bat コマンドを実行すると、自動で jssauthusersetup (認証ユーザー設定) コマンドが実行されるため、メール定義ファイルに設定している案件登録用メール送信先となるメールサーバのパスワード (hptl_jp1_imss_mail_pop3_password) が再設定されます。
- バージョンアップを行うと、案件管理 DB のサイズと、再編成コマンドに必要なディスクのサイズが増加しますので注意してください。
- バージョン 10-50 以前からバージョン 11-00 以降にバージョンアップする場合、次の仕様変更点があります。
 - 製品名を「JP1/Integrated Management - Service Support」から「JP1/Service Support」に変更しました。それに伴い、出力する CSV のヘッダ行の製品名やメッセージ本文に含まれる製品名称の一部を修正しています。
 - jssitementrybyemail コマンドを利用してメールサーバからメールの情報を取得する場合のユーザー認証を強化しました。ユーザー認証用のユーザー ID およびパスワードは、メール定義ファイル (jp1imss_mail_setting.conf) を直接編集せずに、jssauthusersetup コマンドを利用して設定してください。なお、バージョンアップ前にメール定義ファイル (jp1imss_mail_setting.conf) に設定していた認証ユーザーのパスワードは、jsssetup コマンド実行時に自動で更新されます。
 - メインサービスの公開ログを出力するようになりました。サービス起動時にプロパティに設定した値の情報が出力されますが、コメントアウトしているプロパティに関しては、警告メッセージが出力されます。

・JP1/Service Support の画面に表示する案件 ID の桁数を、5 桁から 6 桁に変更しました。なお、JP1/IM - Service Support Advanced Edition からバージョンアップした場合、案件 ID の表示は 6 桁のまま変更ありません。

- ・JP1/Service Support を上書きインストールした場合、新しいバージョンで追加されたプロパティキーは、既存の各定義ファイルに追加されません。

各バージョンで追加されたプロパティキーを次に示します。

表 6-6 各バージョンで追加されたプロパティキー

バージョン	定義ファイル名	プロパティキー
08-10	メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)	hptl_jp1_imss_mail_notice_charset
08-11	システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_itemformlist_initial_sort_key • hptl_jp1_imss_itemformlist_initial_sort_order • hptl_jp1_imss_login_working_manager • hptl_jp1_imss_login_pwb_manager • hptl_jp1_imss_login_user_manager • hptl_jp1_imss_login_else • hptl_jp1_imss_login_default
	メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)	hptl_jp1_imss_mail_notice_charset
08-50	システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)	hptl_jp1_imss_extstatus_number
	メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_notice_charset • hptl_jp1_imss_mail_form_name • hptl_jp1_imss_mail_charset • hptl_jp1_imss_mail_format • hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_mail_maximum_num • hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_title • hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text • hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text_rep • hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text_over • hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_pwb_title • hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_pwb_text • hptl_jp1_imss_mail_use_jssitementrybymail • hptl_jp1_imss_mail_pop3_server • hptl_jp1_imss_mail_pop3_port • hptl_jp1_imss_mail_send_address • hptl_jp1_imss_mail_pop3_domain • hptl_jp1_imss_mail_pop3_address • hptl_jp1_imss_mail_pop3_user

バージョン	定義ファイル名	プロパティキー
08-50	メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_mail_pop3_password • hptl_jpl_imss_mail_receive_number • hptl_jpl_imss_mail_messageid_maxlen • hptl_jpl_imss_mail_tmp_file_max_size • hptl_jpl_imss_mail_tmp_file_max_num • hptl_jpl_imss_mail_append_file_output_path • hptl_jpl_imss_mail_append_file_output_folder_max • hptl_jpl_imss_mail_append_file_output_max_size
08-51	システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_pwblast_tree_default • hptl_jpl_imss_item_edit_lock_cancel • hptl_jpl_imss_assigned_selection_checkbox • hptl_jpl_imss_assigned_selection_initial • hptl_jpl_imss_research_simple_string_number • hptl_jpl_imss_research_simple_target • hptl_jpl_imss_input_assist_target_max • hptl_jpl_imss_input_assist_nominate_max • hptl_jpl_imss_input_assist_nominate_string_max • hptl_jpl_imss_input_assist_pwb_list • hptl_jpl_imss_item_popup_display_characters
	メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)	hptl_jpl_imss_mail_notice_charset
09-50	システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_add_item_info_url_num • hptl_jpl_imss_add_item_info_url_\$n
	メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_mail_inform_leave_mail_maximum_num • hptl_jpl_imss_mail_inform_leave_assigned_title • hptl_jpl_imss_mail_inform_leave_assigned_text • hptl_jpl_imss_mail_inform_leave_assigned_text_rep • hptl_jpl_imss_mail_inform_leave_assigned_text_over • hptl_jpl_imss_mail_inform_leave_pwb_title • hptl_jpl_imss_mail_inform_leave_pwb_text
	案件自動入力プロパティファイル (hptl_jpl_imss_pwb_default_setting.properties)	hptl_jpl_imss_auto_deadline_start_time
	ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jpl_imss_usermgr.properties)	hptl_jpl_imss_usermgr_edit_user_password
	コードマッピングファイル (jplimss_itementry_codemap.conf)	[CITYTYPE]* UCMDBHOST=3 UCMDBIP=4 UCMDBID=5

バージョン	定義ファイル名	プロパティキー
09-50	コードマッピングファイル (jplimss_itementry_codemap.conf)	注※ CITYPE セクションに UCMDBHOST, UCMDBIP, UCMDBID を追加してください。
	関連リンクプロパティファイル (hptl_jpl_imss_link_setting.properties)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_main_link_info_num • hptl_jpl_imss_main_link_name_\$n • hptl_jpl_imss_main_link_url_\$n
	タスク実行サービス定義ファイル (jplimss_service_setting.conf)	<pre>[jssinformleave] use=false period=60 monitorStart=09:00 monitorEnd=17:00</pre>
	JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル (hptl_jpl_imss_ua_conf.properties)	<ul style="list-style-type: none"> • com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.userrdn.0 • com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.scope.0 • java.naming.security.principal.0 • java.naming.security.credentials.0
10-10	システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_np_item_info_\$n • hptl_jpl_imss_ao_item_info_\$n • hptl_jpl_imss_jplbase_virtual_hostname
10-50	システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_item_warning_threshold=5000 • hptl_jpl_imss_itemwindow_enable=Y • hptl_jpl_imss_itemwindow_size=3 • hptl_jpl_imss_batch_item_edit_max=100 • hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval=false • hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval_all_user_flag=false • hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval_userlist= • hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval_rolelist= • hptl_jpl_imss_item_batch_ope_close=false • hptl_jpl_imss_item_batch_ope_close_all_user_flag=false • hptl_jpl_imss_item_batch_ope_close_userlist= • hptl_jpl_imss_item_batch_ope_close_rolelist=
11-00	システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_research_display_number_list • hptl_jpl_imss_process_name_display_characters
	メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_mail_auth_method • hptl_jpl_imss_mail_smtp_auth_port • hptl_jpl_imss_mail_smtp_user • hptl_jpl_imss_mail_smtp_password • hptl_jpl_imss_mail_connect_timeout • hptl_jpl_imss_mail_socket_timeout • hptl_jpl_imss_mail_item_recall_flag

バージョン	定義ファイル名	プロパティキー
11-00	メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_mail_item_recall_title • hptl_jpl_imss_mail_item_recall_text • hptl_jpl_imss_mail_item_sendback_flag • hptl_jpl_imss_mail_item_sendback_title • hptl_jpl_imss_mail_item_sendback_text • hptl_jpl_imss_mail_operation_mode • hptl_jpl_imss_mail_source_address • hptl_jpl_imss_mail_itemdata_set_form • hptl_jpl_imss_mail_format_error_string
11-10	システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_add_item_info_\$n • hptl_jpl_imss_add_item_info_product_\$n • hptl_jpl_imss_add_item_info_key_list_\$p • hptl_jpl_imss_itemwindow_start_month

- JP1/Service Support を上書きインストールした場合、新しいバージョンで追加された案件フォーム定義ファイルに追加された XML タグは、既存の各案件フォーム定義ファイルに追加されません。

(1) JP1/Service Support バージョン 9, バージョン 10 またはバージョン 11 から JP1/Service Support バージョン 12 へのバージョンアップ

JP1/Service Support バージョン 9, バージョン 10 またはバージョン 11 から, JP1/Service Support バージョン 12 にバージョンアップした場合のセットアップ手順について次に示します。セットアップの注意事項は「[6.9.2 セットアップ時の注意事項](#)」を参照してください。

1. jsssetup.bat コマンドを実行する。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して, jsssetup.bat コマンドを実行し, JP1/Service Support をセットアップします。

案件管理 DB の内容を引き継いでセットアップするため, -vup オプションだけを指定してください。案件管理 DB が格納されているドライブに, 空き容量が必要です。必要な空き容量は, JP1/Service Support のバージョンと案件管理 DB のサイズによって異なります。

表 6-7 JP1/Service Support 09-00 または 09-50 からバージョンアップする場合

案件管理 DB のサイズ	必要な空き容量
S	0.3 ギガバイト
M	1.3 ギガバイト
L	2.5 ギガバイト
LL	4.7 ギガバイト
XL	09-00 および 09-50 に XL サイズは存在しないため対象外

表 6-8 JP1/Service Support 10-00 または 10-10 からバージョンアップする場合

案件管理 DB のサイズ	必要な空き容量
S	0.2 ギガバイト
M	1.2 ギガバイト
L	2.4 ギガバイト
LL	4.2 ギガバイト
XL	10-00 および 10-10 に XL サイズは存在しないため対象外

表 6-9 JP1/Service Support 10-50 または 11-00 からバージョンアップする場合

案件管理 DB のサイズ	必要な空き容量※
S	0.1 ギガバイト
M	0.4 ギガバイト
L	1.1 ギガバイト
LL	1.9 ギガバイト
XL	1.9 ギガバイト

注※

JP1/Service Support 10-50-03 以降または 11-00-02 以降からバージョンアップする場合、案件管理 DB が格納されているドライブに空き容量は不要です。

バージョンアップ時に必要なメモリ所要量については、リリースノートを参照してください。

その他の引数は、運用に合わせて次のように指定してください。jsssetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsssetup.bat (セットアップ)」を参照してください。

メールで案件を登録したい場合

メールで案件を登録したい場合は、-t オプションを指定してマスターシステムおよび一時受付プロセスワークボードを作成してください。なお、マスターシステムおよび一時受付プロセスワークボードは、セットアップ時以外にも jsscreatesysandpwb コマンドで作成できます。

jsscreatesysandpwb コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成)」を参照してください。

2. jsschauthorityserver コマンドを実行する。

LDAP サーバを認証サーバとする、または JP1/Base の認証機能を使用する場合、jsschauthorityserver コマンドを実行し、認証サーバを切り替えてください。LDAP サーバを認証サーバとしない、または JP1/Base の認証機能を使用しない場合、この手順は不要です。

jsschauthorityserver コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)」を参照してください。

3. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

jssdbbackup.bat コマンドを実行し、新しい環境のバックアップを取得してください。引数には-maint オプションを指定してください。

jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

6.4.3 修復インストール時のセットアップ手順

JP1/Service Support の修復インストール時のセットアップ手順について説明します。なお、JP1/Service Support の製品の違いによって、作業手順に差異はありません。セットアップの注意事項は「6.9.2 セットアップ時の注意事項」を参照してください。

1. jsssetup.bat コマンドを実行する。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jsssetup.bat コマンドを実行し、JP1/Service Support をセットアップします。引数には-r オプションを指定してください。

jsssetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsssetup.bat (セットアップ)」を参照してください。

2. jsschauthorityserver コマンドを実行する。

LDAP サーバを認証サーバとしていた、または JP1/Base の認証機能を使用していた場合、案件管理 DB が認証サーバになります。jsschauthorityserver コマンドを実行し、認証サーバを切り替えてください。LDAP サーバを認証サーバとしていない、または JP1/Base の認証機能を使用していない場合、この手順は不要です。

jsschauthorityserver コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)」を参照してください。

3. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

jssdbbackup.bat コマンドを実行し、新しい環境のバックアップを取得してください。引数には-maint オプションを指定してください。

jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

6.5 JP1/Service Support のアップグレード

JP1/Service Support Starter Edition から JP1/Service Support (Standard) にアップグレードできます。また、11-00 より前の JP1/Service Support Advanced Edition を除く JP1/Service Support から最新の JP1/Service Support にする場合もアップグレードとなります。JP1/Service Support Starter Edition から JP1/Service Support (Standard), または 11-00 より前の JP1/Service Support Advanced Edition を除く JP1/Service Support から最新の JP1/Service Support にアップグレードインストールする手順について説明します。

6.5.1 JP1/Service Support のアップグレード手順

JP1/Service Support をアップグレードする手順について説明します。なお、JP1/Service Support Starter Edition と JP1/Service Support (Standard) のバージョンが異なっても、アップグレードできます。また、アップグレードインストールの前に、作業失敗時のリカバリー用に案件管理 DB のバックアップを取得してください。詳細については、「[6.2.3 環境のバックアップ](#)」を参照してください。

1. 提供媒体を該当するドライブに入れ、インストールする。

自動的に起動するインストーラーの指示に従ってインストールしてください。

インストール先フォルダには、前回インストール時と同じインストール先が指定されます。

ユーザー情報、およびスタートメニューに表示されるプログラム名は、前回インストール時に設定した内容が引き継がれます。

2. 再起動を要求された場合は、OS を再起動する。

3. jsssetup.bat コマンドを実行する。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jsssetup.bat コマンドを実行し、JP1/Service Support をセットアップします。

案件管理 DB の内容を引き継いでセットアップするため、次に示すオプションを指定してください。

- 異なるバージョンの場合 (バージョンアップ)
 - vup オプションだけを指定する。
- 同じバージョンの場合
 - r オプションだけを指定する。

異なるバージョンの場合、案件管理 DB が格納されているドライブに、案件管理 DB のサイズによって次の空き容量が必要です。

表 6-10 JP1/Service Support 09-00 または 09-50 からアップグレードする場合

案件管理 DB のサイズ	必要な空き容量
S	0.3 ギガバイト
M	1.3 ギガバイト

案件管理 DB のサイズ	必要な空き容量
L	2.5 ギガバイト
LL	4.7 ギガバイト
XL	09-00 および 09-50 に XL サイズは存在しないため対象外

表 6-11 JP1/Service Support 10-00 または 10-10 からアップグレードする場合

案件管理 DB のサイズ	必要な空き容量
S	0.2 ギガバイト
M	1.2 ギガバイト
L	2.4 ギガバイト
LL	4.2 ギガバイト
XL	10-00 および 10-10 に XL サイズは存在しないため対象外

表 6-12 JP1/Service Support 10-50 または 11-00 からアップグレードする場合

案件管理 DB のサイズ	必要な空き容量※
S	0.1 ギガバイト
M	0.4 ギガバイト
L	1.1 ギガバイト
LL	1.9 ギガバイト
XL	1.9 ギガバイト

注※

JP1/Service Support Advanced Edition を除く JP1/Service Support 10-50-03 以降または 11-00-02 以降からアップグレードする場合、案件管理 DB が格納されているドライブに空き容量は不要です。

また、バージョンアップ時のセットアップ実行時には、一時ファイルが作成されます。そのため、上記の空き容量のほかに、JP1/Service Support (Standard) のインストール先フォルダに約 400 メガバイトの空き容量が必要になります。また、使用する製品によって必要なメモリ所要量が異なるため、リリースノートを参照して確認してください。

その他の引数は、運用に合わせて次のように指定してください。jsssetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsssetup.bat (セットアップ)」を参照してください。

メールで案件を登録したい場合

メールで案件を登録したい場合は、-t オプションを指定してマスターシステムおよび一時受付プロセスワークボードを作成してください。なお、マスターシステムおよび一時受付プロセスワークボードは、セットアップ時以外にも jsscreatesysandpwb コマンドで作成できます。

jsscreatesysandpwb コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成)」を参照してください。

4. jsschauthorityserver コマンドを実行する。

LDAP サーバを認証サーバとする、または JP1/Base の認証機能を使用する場合、jsschauthorityserver コマンドを実行し、認証サーバを切り替えてください。LDAP サーバを認証サーバとしない、または JP1/Base の認証機能を使用しない場合、この手順は不要です。

jsschauthorityserver コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)」を参照してください。

5. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

jssdbbackup.bat コマンドを実行し、新しい環境のバックアップを取得してください。引数には-o オプションおよび-maint オプションを指定してください。

jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

なお、案件管理 DB のサイズを XL に変更する手順については、「11.2.4 案件管理 DB のサイズ拡張」を参照してください。

なお、HTML マニュアルを [ヘルプ] ボタンから参照できるように設定している場合は、HTML マニュアルを上書きする必要があります。上書きする手順については、「6.8 マニュアルの組み込み手順」を参照してください。

6.6 インストール先マシンのリプレース

すでに JP1/Service Support がインストールされているマシンとは異なるマシンにリプレースする場合の、バージョンアップまたはアップグレード手順について説明します。なお、手順内の「旧環境」は、旧バージョンまたは旧製品 (Edition) の JP1/Service Support がインストールされている Windows を示しています。また、「新環境」は、新バージョンまたは新製品 (Edition) の JP1/Service Support をインストールする Windows を示しています。

バージョンアップまたはアップグレードインストールの前に、作業失敗時のリカバリー用に案件管理 DB のバックアップを取得してください。詳細については、「[6.2.3 環境のバックアップ](#)」を参照してください。

❗ 重要

旧環境の JP1/Service Support が新環境の OS をサポートしていない場合は、旧環境の JP1/Service Support のバージョンを新環境の OS をサポートしているバージョンにバージョンアップしてから、リプレースしてください。また、新環境は、64 ビット版 Windows が前提となります。なお、JP1/Service Support のバージョンと前提 OS については、リリースノートを参照してください。

1. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

jssdbbackup.bat コマンドを実行し、旧環境のバックアップを取得してください。引数には、-f オプションおよび -expand オプションを指定してください。

jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssdbbackup.bat \(データベースバックアップ\)](#)」を参照してください。

2. 旧環境の定義情報をバックアップする。

バックアップの対象となる定義情報は、「[11.1.1 定義情報のバックアップ](#)」の表 11-1 で示している「環境設定コマンド」、「クラスタ用環境設定コマンド」および「環境設定ファイル」以外のファイルです。定義情報は実行系および待機系で内容が同じなので、どちらで取得してもかまいませんが、実行系での取得をお勧めします。

3. 新環境に旧環境と同じ JP1/Service Support をインストールする。

インストール手順については、「[6.3.1 新規インストール手順](#)」を参照してください。

4. 新環境の JP1/Service Support をセットアップする。

セットアップする際、旧環境の案件管理 DB と同じサイズを指定してください。

セットアップ手順については、「[6.3.2 新規インストール時のセットアップ手順](#)」を参照してください。

5. 手順 1 で取得したバックアップを使って、jssdbrecovery.bat コマンドを実行し、データをリカバリーする。

引数には、-f オプションおよび -expand オプションを指定してください。

jssdbrecovery.bat コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssdbrecovery.bat \(データベースリカバリー\)](#)」を参照してください。

6. 新環境で定義情報をリカバリーする。

手順 2 でバックアップした定義情報を、新環境でリカバリーしてください。リカバリーしたあと、旧環境と同じように動作するかを確認してください。

7. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

jssdbbackup.bat コマンドを実行し、新環境のバックアップを取得します。取得したバックアップは、以降の手順でアップグレードに失敗した場合に使用します。引数には、-f オプションおよび-maint オプションを指定してください。

jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

8. JP1/Service Support をバージョンアップまたはアップグレードする。

バージョンアップについては、「6.4 JP1/Service Support の上書きインストールとセットアップ」を参照してください。

アップグレード手順については、「6.5.1 JP1/Service Support のアップグレード手順」を参照してください。

9. 旧環境の JP1/Service Support をアンセットアップする。

アンセットアップ手順については、「6.7.1 アンセットアップ手順」を参照してください。

10. 旧環境 JP1/Service Support をアンインストールする。

アンインストール手順については、「6.7.2 アンインストール手順」を参照してください。

なお、HTML マニュアルを [ヘルプ] ボタンから参照できるように設定している場合は、HTML マニュアルを上書きする必要があります。上書きする手順については、「6.8 マニュアルの組み込み手順」を参照してください。

6.7 JP1/Service Support のアンセットアップとアンインストール

JP1/Service Support をアンインストールするときは、まず JP1/Service Support をアンセットアップしてからアンインストールする必要があります。

JP1/Service Support をアンセットアップ、およびアンインストールする手順について説明します。なお、JP1/Service Support の製品の違いによって、作業手順に差異はありません。

6.7.1 アンセットアップ手順

JP1/Service Support のアンセットアップ手順を次に示します。

1. JP1/Service Support のサービスを停止する。

JP1/Service Support のサービスが起動している場合は、すべてのサービスを停止させます。

2. jssunsetup.bat コマンドを実行する。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jssunsetup.bat コマンドを実行し、案件管理 DB を削除します。jssunsetup.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssunsetup.bat (アンセットアップ)」を参照してください。

jssunsetup.bat コマンドを実行しないでアンインストールすると、案件管理 DB が削除されずに残ります。使用しない場合は、セットアップ時に設定した案件管理 DB 格納先フォルダを手動で削除してください。また、案件保存 DB を使用している場合は、案件保存 DB もアンセットアップされます。デフォルトの案件管理 DB 格納先フォルダは、JP1/SS パス¥db です。

3. ODBC データソースを削除する。

ODBC データソースアドミニストレータを起動するには、次のファイルを実行して起動します。

システムドライブ:¥WINDOWS¥SysWOW64¥odbcad32.exe

[システム DSN] タブを開いて、セットアップ時に追加したデータソース「HiRDB ODBC3.0 Driver」を削除します。

4. データベースの環境変数グループを削除する。

この手順は、バージョンが 11-00 より前の JP1/Service Support をアンセットアップする場合に実施してください。

HiRDB クライアント環境変数登録ツールを使用して、データベースのクライアント環境変数グループを削除します。

案件管理サーバの言語環境によって、HiRDB クライアント環境変数登録ツールを起動するための実行ファイルが次のように異なります。

- 日本語環境の場合：JP1/SS パス¥dbms¥db¥CLIENT¥UTL¥pdcltadm.exe
- 英語環境の場合：JP1/SS パス¥dbms¥db¥CLIENT¥UTL¥pdcltadm_e.exe
- 中国語環境の場合：JP1/SS パス¥dbms¥db¥CLIENT¥UTL¥pdcltadm_e.exe

なお、ユーザーアカウント制御機能が有効、かつ Administrator 以外の Administrators 権限を持つユーザーが操作する場合は、pdcltadm.exe または pdcltadm_e.exe を右クリックして表示されるプロパティから、[管理者として実行] を選択して実行してください。

セットアップ時に登録した環境変数グループ名「IMSS_ENV_GROUP」を選択して、[削除] ボタンで削除してください。

6.7.2 アンインストール手順

JP1/Service Support のアンインストール手順を次に示します。

1. スタート画面から、[コントロールパネル] – [プログラム] – [プログラムと機能] を選択する。
[プログラムの追加と削除] ダイアログボックスが表示されます。
2. 一覧から「JP1/Service Support」を選択し、[変更と削除] ボタンをクリックする。
指示に従ってアンインストールを進めると、プログラムがアンインストールされます。

注意事項

- JP1/Service Support のアンインストールは、[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除]で行ってください。また、削除後にコンピュータの再起動の指示がある場合は、必ずコンピュータを再起動してください。
- JP1/Service Support のアンインストール後に、ODBC データソースアドミニストレータから ODBC データソース (HiRDB ODBC3.0 Driver) を削除することができなくなります。必ず、JP1/Service Support のアンインストールを行う前に削除してください。

6.8 マニュアルの組み込み手順

所定のフォルダに HTML マニュアルをコピーすることで、メイン画面の [ヘルプ] ボタンからマニュアルを参照できます。

マニュアルの組み込み手順を次に示します。

1. プログラムプロダクトに標準添付されているマニュアル提供媒体を用意する。
2. マニュアル提供媒体から、次に示すフォルダに HTML マニュアルをコピーする。

- 日本語環境の場合：JP1/SS パス¥home¥public¥manual¥ja¥
- 英語環境の場合：JP1/SS パス¥home¥public¥manual¥en¥
- 中国語環境の場合：JP1/SS パス¥home¥public¥manual¥zh¥

フォルダには、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」をコピーしてください。コピーする際は、次に示すファイルおよびフォルダをすべてコピーしてください。

- HTM ファイル
- CSS ファイル
- GRAPHICS フォルダ

また、同フォルダ内にある INDEX.HTM は上書きしてください。バージョンアップインストールの場合は、格納されている HTM ファイル、CSS ファイル、および GRAPHICS フォルダを手動で削除してからコピーしてください。

6.9 インストールとセットアップの注意事項

インストールとセットアップの注意事項を示します。

6.9.1 インストール時およびアンインストール時の注意事項

インストール時およびアンインストール時の注意事項を示します。

- JP1/Service Support のアンインストール後、同じディレクトリに再インストールする場合は、インストールディレクトリを空にしてください。インストールディレクトリを空にしないで再インストールを行った場合、インストールに失敗するおそれがあります。

インストールに失敗した場合には、再度インストールを実行してください。

- JP1/Service Support をインストールする場合、「Windows Firewall」サービスの状態を「開始」にしてください。「Windows Firewall」サービスの状態が「停止」である場合、JP1/Service Support のインストールに失敗します。

JP1/Service Support のインストールに失敗した場合、「Windows Firewall」サービスの状態を「開始」にして再インストールを実行してください。

- JP1/Service Support は日本語版 Windows で日本語を、英語版 Windows で英語を、簡体字中国語版で中国語（簡体字）をそれぞれサポートしています。

JP1/Service Support をインストールする前に、Windows の言語設定が JP1/Service Support と互換性があることを確認してください。

設定内容	設定箇所	確認箇所
システムロケール	[コントロールパネル] - [地域と言語] - [管理]	[Unicode 対応でないプログラムの言語]
言語および地域の形式	[コントロールパネル] - [地域と言語] - [形式]	[形式]
	[コントロールパネル] - [地域と言語] - [場所]	[現在の場所]
既定の言語 (コンピュータ起動時の言語)	[コントロールパネル] - [地域と言語] - [キーボードと言語] - [キーボード の変更] - [テキストサービスと入力言 語]	[既定の言語]
インストールされているサービス (各言語の入力用のサービス)		[インストールされているサービス]

JP1/Service Support のインストール後は、言語設定を変更しないでください。インストール後に言語設定を変更した場合、設定変更前に保存されたテキストが文字化けする恐れがあります。

言語設定を変更する必要がある場合、JP1/Service Support をアンインストールし、言語設定を変更してから再インストールしてください。

6.9.2 セットアップ時の注意事項

セットアップ時の注意事項を次に示します。

- jsssetup.bat (セットアップ) または jssdbinit.bat (案件管理 DB の初期化) コマンド実行時に、「KNAB26109-E データベースの初期化に失敗しました。(詳細コード: 18)」のメッセージが出力された場合、メモリ不足が発生している可能性があります。
不要なプログラムを停止させ、次回プログラムが起動しないように設定し、マシンを再起動してから、コマンドを再実行してください。それでも同様のメッセージが出力される場合には、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。
- jsssetup.bat (セットアップ) または jssdbinit.bat (案件管理 DB の初期化) コマンドで指定する-s オプションの M, L, LL を指定した場合の注意事項ハードディスクの構成 (RAID 等) によっては、コマンドの実行終了に数時間かかる場合があります。十分な作業時間があるときに、コマンドの実行を行ってください。
- jsssetup.bat (セットアップ) コマンド実行時、データベースの初期化に失敗して、コマンドが異常終了した場合、次の要因が考えられます。
 - 案件管理 DB の格納先フォルダ名にネットワークドライブを指定した。上記に該当する場合は、案件管理 DB の格納先フォルダ名を変更して、再度コマンドを実行してください。

6.9.3 Windows ファイアウォール使用時の注意事項

Windows ファイアウォールをオンにした環境で本製品を使用する場合、実行に必要なプログラムを除外リストへ登録する必要があります。次の内容のバッチファイルを作成し、コマンドプロンプトから実行してください。

```
set PDDIR=JP1/SS/パス¥dbms¥db
set IMSSPATH=JP1/SS/パス

for %%p in ("%PDDIR%"¥bin¥*.exe) do netsh advfirewall firewall add rule name="JP1/Service Support" dir=in action=allow program="%%p"
for %%p in ("%PDDIR%"¥lib¥servers¥*.exe) do netsh advfirewall firewall add rule name="JP1/Service Support" dir=in action=allow program="%%p"
for %%p in ("%PDDIR%"¥SAMPLE¥sampleconf¥*.exe) do netsh advfirewall firewall add rule name="JP1/Service Support" dir=in action=allow program="%%p"
for %%p in ("%PDDIR%"¥SAMPLE¥tools¥*.exe) do netsh advfirewall firewall add rule name="JP1/Service Support" dir=in action=allow program="%%p"
for %%p in ("%PDDIR%"¥HiRDEF¥*.exe) do netsh advfirewall firewall add rule name="JP1/Service Support" dir=in action=allow program="%%p"
for %%p in ("%PDDIR%"¥PDISTUP¥bin¥*.exe) do netsh advfirewall firewall add rule name="JP1/Service Support" dir=in action=allow program="%%p"

netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%¥uCPSB¥CC¥web¥bin¥cjstartweb.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%¥uCPSB¥httpsd¥httpsd.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
```

```

netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssdelrec.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssformdef.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssitemlist.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssitemhistory.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssitementry.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssitemimport.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssuserimport.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jsscollectdata.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jsscreatesysandpwb.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssinformperiod.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssitementrybymail.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssitemdeletion.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin¥jssrev.exe"
name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssitemedit.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssschauthorityserver.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssformcustomizer.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssinformleave.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssmailnotification.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssvupdbdata.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssuserlist.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssuseredit.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssrolelist.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssroleimport.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssmemberlist.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssmemberimport.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssmemberdelete.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssitemimportEx.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssitemexportEx.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes

```

```
netsh advfirewall firewall add rule dir=in action=allow program="%IMSSPATH%\bin
¥jssrefaclsetup.exe" name="JP1/Service Support" enable=yes
```

6.9.4 その他の注意事項

- JP1/Service Support のインストールフォルダ以下のフォルダに JP1/Service Support の定義ファイル以外のファイルやフォルダの追加，アクセス権の変更は行なわないでください。
JP1/Service Support の定義ファイル以外のファイルやフォルダの追加，アクセス権の変更を行った場合，上書きインストール時に追加したファイルやフォルダが削除されたり，上書きインストールに失敗，またはコマンドの実行に失敗したりする場合があります。
- Application Experience サービスの「スタートアップの種類」を無効にしないでください。

7

障害に備えた設定

この章では、JP1/Service Support の障害に備えた設定について説明します。

7.1 障害発生時の資料採取の準備

JP1/Service Support では、障害発生時に一括して資料を採取するために資料採取ツール (jss_log.bat コマンド) を用意しています。資料採取ツールは、OS のシステム情報や JP1/Service Support の設定情報などを採取できます。ただし、ユーザーダンプは採取できません。このため、障害発生時には、資料採取ツールで採取した資料と合わせて、ユーザーダンプを採取する必要があります。

ここでは、ユーザーダンプを出力するための設定について説明します。資料採取ツールについては、「12. コマンド」の「jss_log.bat (資料採取)」を参照してください。

7.1.1 ユーザーダンプの出力設定

次に示す手順で、レジストリにユーザーダンプを出力するための設定をしてください。なお、レジストリの操作はマシン全体に影響を与える可能性があるため、慎重に実施してください。

1. [スタート] - [プログラムとファイルの検索] 欄に regedit と入力して、[Enter] キーを押す。
[ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックしてください。
2. 画面左のツリーから、次に示すキーを展開する。
キー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\Windows Error Reporting
3. Windows Error Reporting キーを右クリックして表示される、[新規] - [キー] を選択する。
4. 新しいキーに LocalDumps と入力する。
5. 作成した LocalDumps キーを選択して、次の表に示すレジストリを作成する。

項番	値の名前	値の種類	データ
1	DumpFolder	展開可能な文字列値 (REG_EXPAND_SZ)	任意のユーザーダンプ出力先パス 例：c:\dump
2	DumpCount	DWORD (32 ビット) 値 (REG_DWORD)	a (16 進数)
3	DumpType	DWORD (32 ビット) 値 (REG_DWORD)	2 (16 進数)

8

JP1/Service Support の起動と終了

この章では、JP1/Service Support を起動および終了する方法について説明します。

8.1 JP1/Service Support の起動

JP1/Service Support を起動するには、JP1/Service Support のサービスを起動させる必要があります。

サービスは、Windows Server 2016、Windows Server 2012 R2、または Windows Server 2012 のサービスコントロールマネージャから起動できます。サービスを起動するときは、次の順序で起動してください。

1. JP1/Service Support - DB Server サービス
2. JP1/Service Support サービス
3. JP1/Service Support - Web Service サービス
4. JP1/Service Support - Task Service サービス*

注※

案件情報の集計、期限前通知、滞留案件通知およびメールによる案件登録コマンドを自動実行したい場合は、JP1/Service Support - Task Service サービスを起動します。

これらのコマンドを自動実行する場合、タスク実行サービス定義ファイルに設定する必要があります。タスク実行サービス定義ファイルがデフォルトの状態では JP1/Service Support - Task Service サービスを起動させると、実行するコマンドがないので失敗します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「[タスク実行サービス定義ファイル \(jplimss_service_setting.conf\)](#)」を参照してください。

それぞれのサービスを起動する手順を次に示します。

1. スタート画面から、**【管理ツール】 - 【サービス】** を選択するか、スタート画面の **【すべてのアプリ】 - 【サービス】** を選択する。

【サービス】ダイアログボックスが表示されます。

2. 起動するサービスを右クリックし、ポップアップメニューから **【開始】** を選択する。

注意事項

JP1/Service Support が使用するポート番号が、他製品が使用しているポート番号と重複している場合は、「データベースの初期化に失敗する*」、「サービス起動に失敗する」または「WWW ブラウザーからの接続に失敗する」ことがあります。次のポート番号を確認して、ポート番号が重複している場合は、重複した自システムのポート番号のどちらかを変更してください。

- 案件管理 DB サーバとの通信用のポート番号
- WWW サーバ、および WWW ブラウザーとの通信用のポート番号
- WWW コンテナサーバと WWW サーバの連携用のポート番号
- WWW コンテナサーバとの通信をシャットダウンするとき使用するポート番号
- システム設定用の WWW サーバとの通信用ポート番号

注※

jsssetup.bat コマンドと jssdbinit.bat コマンドの実行時に次のメッセージが出力されます。

KNAB26109-E データベースの初期化に失敗しました。（詳細コード：18）

8.2 JP1/Service Support の終了

JP1/Service Support を終了するには、JP1/Service Support のサービスを停止させる必要があります。

サービスは、Windows Server 2016、Windows Server 2012 R2、または Windows Server 2012 のサービスコントロールマネージャで停止できます。サービスを終了するときは、次の順序で停止してください。

1. JP1/Service Support - Task Service サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス
3. JP1/Service Support サービス
4. JP1/Service Support - DB Server サービス

それぞれのサービスを停止する手順を次に示します。

1. スタート画面から、[管理ツール] - [サービス] を選択するか、スタート画面の [すべてのアプリ] - [サービス] を選択する。
[サービス] ダイアログボックスが表示されます。
2. サービス一覧から停止するサービスを右クリックし、ポップアップメニューから [停止] を選択する。
確認のメッセージが表示されます。
3. [OK] ボタンをクリックする。
サービスが停止します。

8.3 クラスタ運用時の JP1/Service Support の起動と終了

クラスタシステムで論理ホストの JP1/Service Support を運用する場合は、クラスタソフトの制御によって JP1/Service Support を起動、停止します。

クラスタシステムでは、実行系サーバでアプリケーションを実行し、システムダウンなどの障害発生時に待機系サーバへフェールオーバーするために、アプリケーションをクラスタソフトに登録して起動と停止を制御しています。JP1/Service Support をクラスタ運用する場合も、クラスタソフトが JP1/Service Support を制御するように登録して運用します。

また、クラスタ運用している JP1/Service Support は、クラスタソフトの操作によって起動、停止をしてください。Windows Server 2016, Windows Server 2012 R2, または Windows Server 2012 の [サービス] ダイアログボックスなどを使って手で起動、停止した場合は、クラスタソフトの管理する JP1/Service Support の動作状態と実際の動作状態が異なってしまい、障害と判定される場合があります。

サービスを起動するときは、次の順序で起動してください。

1. JP1/Service Support - DB Cluster サービス
2. JP1/Service Support - DB Server サービス
3. JP1/Service Support サービス
4. JP1/Service Support - Web Service サービス
5. JP1/Service Support - Task Service サービス*

注※

案件情報の集計、期限前通知、滞留案件通知、およびメールで案件登録コマンドを自動実行したい場合は、JP1/Service Support - Task Service サービスを起動します。これらのコマンドを自動実行する場合、タスク実行サービス定義ファイルに設定する必要があります。

タスク実行サービス定義ファイルが、デフォルトの状態 JP1/Service Support - Task Service サービスを起動させると失敗します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「[タスク実行サービス定義ファイル \(jplimss_service_setting.conf\)](#)」を参照してください。

サービスを終了するときは、次の順序で停止してください。

1. JP1/Service Support - Task Service サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス
3. JP1/Service Support サービス
4. JP1/Service Support - DB Server サービス
5. JP1/Service Support - DB Cluster サービス

クラスタ運用の詳細については、「10. [クラスタシステムでの運用と環境構築](#)」を参照してください。

8.4 JP1/Service Support を自動起動する場合の注意事項

JP1/Service Support を自動起動する場合の注意事項を示します。

- JP1/Service Support - Web Service サービス, JP1/Service Support サービス, および JP1/Service Support - Task Service サービスをマシン起動時に自動起動したい場合には, JP1/Service Support - Web Service サービスと, JP1/Service Support - Task Service サービスのスタートアップの種類を, [手動] から [自動] に変更してください。

ただし, クラスタ運用の環境では, 変更しないでください。クラスタ運用の環境では, クラスタソフトにて設定を行ってください。

JP1/Service Support から JP1 イベントを発行する際には, JP1/Base の起動順序定義ファイル (JP1SVRPR.DAT) で, サービスの起動順序を設定してください。また, この場合は JP1/Service Support - Web Service サービス, JP1/Service Support サービス, JP1/Service Support - Task Service サービス, および JP1/Service Support - DB Server のスタートアップの種類を, [手動] に設定してください。

滞留案件通知コマンドの実行タイミングを調整したい場合は, JP1/Service Support - Task Service サービスに対して自動起動の設定を行わず, 任意のタイミングで手動によって起動するようお願いいたします。

- サービス自動起動の設定は, セットアップが完了してから行ってください。

9

JP1/Service Support の環境構築

この章では、JP1/Service Support の環境構築をするために必要な設定について説明します。

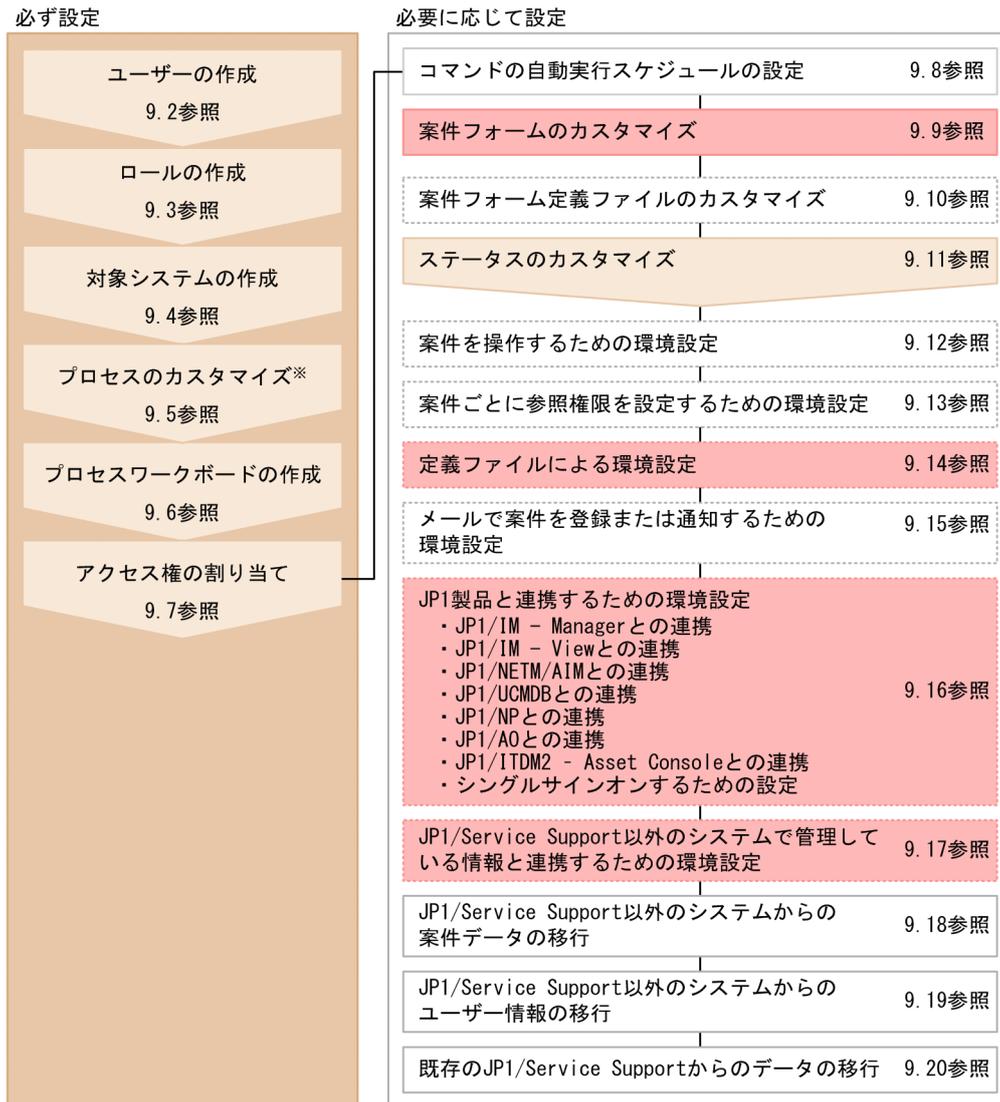
JP1/Service Support の環境構築は、JP1/Service Support がインストールおよびセットアップされていることを前提としています。JP1/Service Support のインストール・セットアップについては、「[6. インストールとセットアップ](#)」を参照してください。

9.1 環境構築の流れ

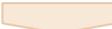
JP1/Service Support の環境構築の流れについて説明します。環境構築には、JP1/Service Support で提供する画面を使用する設定と、コマンド、またはプロパティファイルなどの定義ファイルを使用する設定があります。画面を使用する場合は、JP1/Service Support に、それぞれの作業ができる権限を持つユーザーでログインしてから、環境を構築してください。ログインについては、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」の JP1/Service Support へのログインとログアウトの説明を参照してください。

それぞれの設定の流れを次の図に示します。

図 9-1 環境構築の流れ



注※ 必要に応じて設定してください。

- (凡例)
-  : 画面による環境構築
 -  : コマンドによる環境構築
 -  : 画面および定義ファイルによる環境構築
 -  : コマンド、画面および定義ファイルによる環境構築
 -  : 定義ファイルによる環境構築

9.2 ユーザーの作成

[ユーザー管理] 画面からユーザーを追加したり、削除したりする手順を次に示します。この操作ができるのは、ユーザー管理ロールに所属しているユーザーです。

9.2.1 ユーザーの追加

ユーザーを追加する手順を次に示します。

1. メイン画面 (案件一覧) のメニューから [オプション] - [ユーザーの管理] を選択する。
[ユーザー管理] 画面が表示されます。[ユーザー管理] 画面を次の図に示します。

図 9-2 [ユーザー管理] 画面

<input type="checkbox"/>	ID	名前 ▲	所属組織	役職	メールアドレス	電話番号
<input type="checkbox"/>	jp1admin	JP1 管理者				
<input type="checkbox"/>	10013	三越和子	システム開発部	主任	XXXXXXXX@hitachi.com	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10012	上田次郎	システム開発部	主任	XXXXXXXX@hitachi.com	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10008	上野留美子	総務部	主任	XXXXXXXX@hitachi.com	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10023	中山奈津子	総務部	担当	XXXXXXXX@hitachi.com	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10017	中川陽太	システム開発部	担当	XXXXXXXX@hitachi.com	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10024	中野太一	システム開発部	担当	XXXXXXXX@hitachi.com	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10009	代々 木一郎	システム開発部	部長	XXXXXXXX@hitachi.com	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10002	佐藤五郎	営業部	担当	XXXXXXXX@hitachi.com	0000-XXXX

[ユーザー管理] 画面に表示されるユーザー情報の並び順は、表示項目名をクリックすることでその表示項目をキーにソートできます。初期ソートキーは「名前」です。ソートすると、並び順の基準となる項目に▲ (昇順) または▼ (降順) が表示されます。

2. メニューから [新規作成] を選択する。
[ユーザー作成] 画面が表示されます。[ユーザー作成] 画面を次の図に示します。

図 9-3 [ユーザー作成] 画面

属性	値
ID*	10000
名前*	日立太郎
英語名	Taro Hitachi
パスワード*	*****
パスワードの確認入力*	*****
所属組織	システム開発部
役職	担当
役職順位	A
メールアドレス	hitachitaro@hitachi.com
電話番号	0000-XXXX
電話番号2	
コメント	

3. ユーザー情報を入力する。

「ID」, 「名前」, 「パスワード」, および「パスワードの確認入力」は必ず入力してください。パスワードの変更ができない設定の場合は, 「パスワード」, および「パスワードの確認入力」は入力できません。このとき, パスワードは ID と同じ文字列で登録されます。パスワードの変更を抑止するかどうかは, ユーザー管理プロパティファイルで設定します。詳細については, 「13. 定義ファイル」の「ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jpl_imss_usermgr.properties)」を参照してください。

「ID」には, 1 文字以上 64 文字以内の半角英数字を入力できます。「名前」には, 1 文字以上 255 文字以内の半角英数字または 1 文字以上約 85 文字以内の全角文字列を入力できます。JP1/Base の認証機能を利用する場合は, 1 文字以上 31 文字以内で小文字の半角英数字を入力してください。

「パスワード」および「パスワードの確認入力」には, 1 文字以上 64 文字以内の半角英数字, 半角スペースおよび半角記号を入力できます。JP1/Base の認証機能を利用する場合は, パスワードに 6 文字以上 32 文字以内の半角英数字, および¥, ", :, スペース, タブを除く半角記号を入力してください。

「英語名」, 「役職」, 「役職順位」, 「メールアドレス」, 「電話番号」, 「電話番号 2」には, 255 文字以内の半角英数字または約 85 文字以内の全角文字列を入力できます。「所属組織」, 「コメント」には, 512 文字以内の半角英数字または約 170 文字以内の全角文字列を入力できます。

メールアドレスには, ASCII 文字コード表に掲載されている文字を指定できます。ただし, 次の条件があります。

- 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字。
- 「@ (単価記号)」が一つだけ含まれている。
- 「@ (単価記号)」の前後に文字がある。

- 先頭または最後尾に「. (ピリオド)」がない。
- () < > [] : ; ¥ , 半角スペース(0x20)がない。

4. メニューから [登録] を選択する。

ユーザーが追加され、[ユーザー管理] 画面に戻ります。

メモ

ユーザーは、jssuserimport コマンドでも追加できます。jssuserimport コマンドを使用するには、Administrators 権限が必要です。jssuserimport コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssuserimport (ユーザー情報インポート)」を参照してください。

9.2.2 ユーザー情報の編集

追加したユーザー情報を編集する手順を次に示します。

1. メイン画面 (案件一覧) のメニューから [オプション] - [ユーザーの管理] を選択する。
[ユーザー管理] 画面が表示されます。
2. 編集するユーザーをチェックし、メニューから [アクション] - [編集] を選択する。
[ユーザー編集] 画面が表示されます。[ユーザー編集] 画面を次の図に示します。

図 9-4 [ユーザー編集] 画面

属性	値
ID*	10000
名前*	日立太郎
英語名	Taro Hitachi
パスワード:	<input type="checkbox"/> パスワードを変更する パスワード*: <input type="text"/> パスワードの確認入力*: <input type="text"/>
所属組織	システム開発部
役職	担当
役職順位	A
メールアドレス	hitachitaro@hitachi.com
電話番号	0000-XXXX
電話番号2	<input type="text"/>
コメント	<input type="text"/>

3. ユーザー情報を編集する。

「ID」、「パスワード」は必要に応じて変更してください。なお、パスワードを変更する場合は、「パスワードを変更する」にチェックしてください。パスワードの変更ができない設定の場合は、「パスワードを変更する」はチェックできません。パスワードの変更を抑止するかどうかは、ユーザー管理プロパティファイルで設定します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties)」を参照してください。

「ID」には、1文字以上64文字以内の半角英数字を入力できます。JP1/Baseの認証機能を利用する場合は、1文字以上31文字以内で小文字の半角英数字を入力してください。

「名前」には、1文字以上255文字以内の半角英数字または1文字以上約85文字以内の全角文字列を入力できます。

「パスワード」および「パスワードの確認入力」には、1文字以上64文字以内の半角英数字、半角スペースおよび半角記号を入力できます。JP1/Baseの認証機能を利用する場合は、パスワードに6文字以上32文字以内の半角英数字、および¥, ", :, スペース, タブを除く半角記号を入力してください。

「英語名」、「役職」、「役職順位」、「メールアドレス」、「電話番号」、「電話番号2」には、255文字以内の半角英数字または約85文字以内の全角文字列を入力できます。「所属組織」、「コメント」には、512文字以内の半角英数字または約170文字以内の全角文字列を入力できます。

メールアドレスには、ASCII文字コード表に掲載されている文字を指定できます。ただし、次の条件があります。

- 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字。

- 「@ (単価記号)」が一つだけ含まれている。
- 「@ (単価記号)」の前後に文字がある。
- 先頭または最後尾に「. (ピリオド)」がない。
- () < > [] : ; ¥ , 半角スペース(0x20)がない。

4. メニューから [登録] を選択する。

ユーザー情報が登録され、[ユーザー管理] 画面に戻ります。ユーザー情報を編集した場合、編集した情報の反映は、案件の情報を編集したときに行われます。

注意事項

- 認証サーバとしてLDAPサーバを使用する場合、パスワードはLDAPサーバが管理しているため、JP1/Service Support でパスワードを変更してもLDAPサーバのパスワードは変更されません。認証サーバとしてLDAPサーバを使用する場合、JP1/Service Support でのパスワードの変更を抑止してください。パスワードの変更を抑止するには、ユーザー管理プロパティファイルで設定してください。詳細については、「13. 定義ファイル」の「ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties)」を参照してください。
- 特定のJP1製品と連携しJP1/Baseの認証機能を利用する場合、JP1/Baseの認証機能を使用する必要があります。この場合、JP1/Service Supportの認証方法によって、ユーザー情報およびパスワードの管理先が異なります。ユーザー情報およびパスワードの変更については、「5.15 認証方法の検討」を参照してください。また、ユーザー管理プロパティファイルでパスワードの変更を抑止する設定にしても、JP1製品連携プロパティファイルの「情報検索用ユーザーのユーザーID」に設定したユーザーのパスワードは変更できます。ユーザー管理プロパティファイルおよびJP1製品関連プロパティファイルについては、「13. 定義ファイル」の「ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties)」を参照してください。

メモ

ユーザー情報は、jssuseredit コマンドでも編集できます。jssuseredit コマンドを使用するには、Administrators 権限が必要です。jssuseredit コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssuseredit (ユーザー情報編集)」を参照してください。

9.2.3 ユーザーの削除

ユーザーを削除する手順を次に示します。

1. メイン画面 (案件一覧) のメニューから [オプション] - [ユーザーの管理] を選択する。
[ユーザー管理] 画面が表示されます。
2. 削除するユーザーをチェックする。

複数のユーザーを一度に削除できます。ユーザーを選択した場合の [ユーザー管理] 画面を次の図に示します。

図 9-5 [ユーザー管理] 画面 (ユーザー選択)

<input type="checkbox"/>	ID	名前 ▲	所属組織	役職	メールアドレス	電話番号
<input type="checkbox"/>	jp1admin	JP1 管理者				
<input type="checkbox"/>	10013	三越和子	システム開発部	主任	XXXXXXXX@hitachicom	0000-XXXX
<input checked="" type="checkbox"/>	10012	上田次郎	システム開発部	主任	XXXXXXXX@hitachicom	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10008	上野留美子	総務部	主任	XXXXXXXX@hitachicom	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10023	中山奈津子	総務部	担当	XXXXXXXX@hitachicom	0000-XXXX
<input checked="" type="checkbox"/>	10017	中川陽太	システム開発部	担当	XXXXXXXX@hitachicom	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10024	中野太一	システム開発部	担当	XXXXXXXX@hitachicom	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10009	代々 木一郎	システム開発部	部長	XXXXXXXX@hitachicom	0000-XXXX
<input type="checkbox"/>	10002	佐藤五郎	営業部	担当	XXXXXXXX@hitachicom	0000-XXXX

[ユーザー管理] 画面に表示されるユーザー情報の並び順は、表示項目名をクリックすることでその表示項目をキーにソートできます。初期ソートキーは「名前」です。ソートすると、並び順の基準となる項目に▲（昇順）または▼（降順）が表示されます。

ヘッダーのチェックボックスをチェックすると、表示されたすべてのユーザーを選択できます。ヘッダーのチェックを外すと、選択したユーザーのチェックが外れます。ただし、jpladmin ユーザーは削除できません。

3. メニューから [アクション] - [削除] を選択する。

削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、ユーザーが削除されます。ユーザー情報を削除した場合、削除した情報の反映は、案件の情報を編集したときに行われます。

9.3 ロールの作成

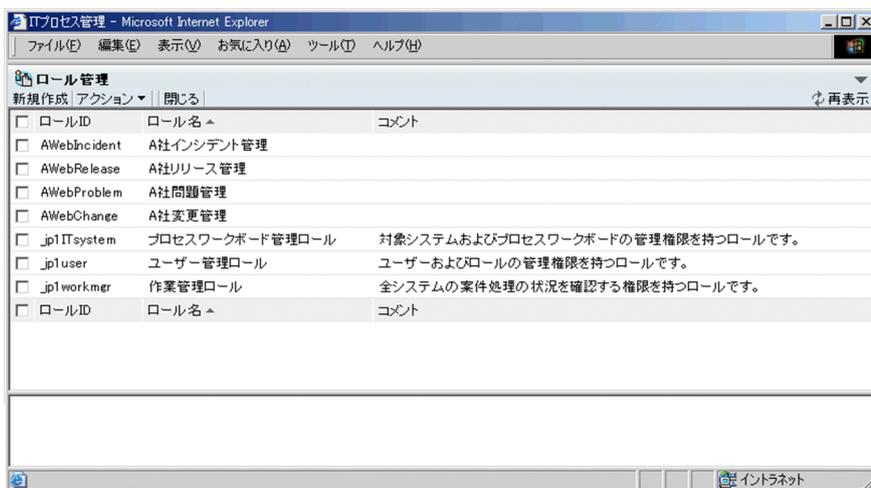
[ロール管理] 画面からロールを追加したり、削除したりする手順を次に示します。この操作ができるのは、ユーザー管理ロールに所属しているユーザーです。

9.3.1 ロールの追加

ロールを追加する手順を次に示します。

1. メイン画面（案件一覧）のメニューから [オプション] - [ロールの管理] を選択する。
[ロール管理] 画面が表示されます。[ロール管理] 画面を次の図に示します。

図 9-6 [ロール管理] 画面



[ロール管理] 画面に表示されるロール情報および所属ユーザーの並び順は、表示項目名をクリックすることでその表示項目をキーにソートできます。ロール情報の初期ソートキーは「ロール名」、所属ユーザーの初期ソートキーは「名前」です。ソートすると、並び順の基準となる項目に▲（昇順）または▼（降順）が表示されます。

2. メニューから [新規作成] を選択する。

[ロール作成] 画面が表示されます。[ロール作成] 画面を次の図に示します。

図 9-7 [ロール作成] 画面

属性	値
ロールID*	BFileIncident
ロール名*	B社インシデント管理

コメント:

3. ロール情報を入力する。

「ロール ID」および「ロール名」は必ず入力してください。

「ロール ID」には、1 文字以上 64 文字以内の半角英数字を入力できます。ただし、「_jp1」で始まるロール ID は登録できません。

「ロール名」には、1 文字以上 255 文字以内の半角英数字または約 85 文字以内の全角文字列を入力できます。「コメント」には、512 文字以内の半角英数字または約 170 文字以内の全角文字列を入力できます。

4. メニューから [登録] を選択する。

ロールが追加され、[ロール管理] 画面に戻ります。

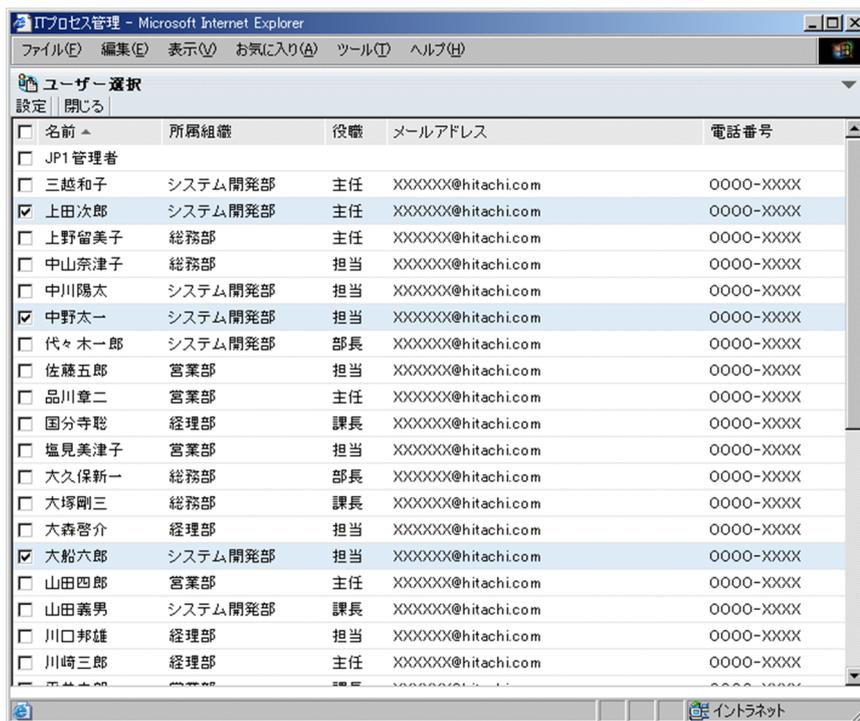
5. 追加したロールをチェックし、メニューから [アクション] - [メンバー追加] を選択する。

[ユーザー選択] 画面が表示されます。

6. ロールに登録するメンバーをチェックする。

ユーザーは複数選択できます。[ユーザー選択] 画面を次の図に示します。

図 9-8 [ユーザー選択] 画面



ヘッダーのチェックボックスをチェックすると、表示されたすべてのユーザーを選択できます。ヘッダーのチェックを外すと、選択したユーザーのチェックが外れます。

7. メニューから [設定] を選択する。

チェックしたユーザーがロールに登録されます。

メモ

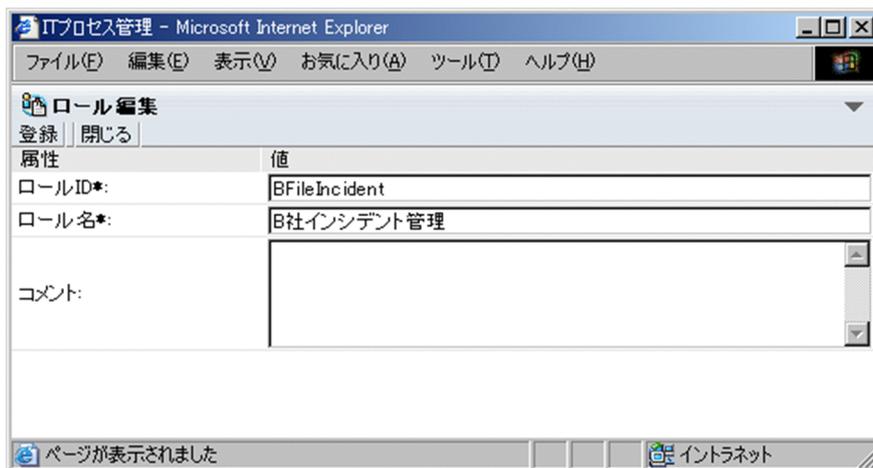
ロールは、jssroleimport コマンドでも追加できます。jssroleimport コマンドを使用するには、Administrators 権限が必要です。jssroleimport コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssroleimport (ロール情報インポート)」を参照してください。

9.3.2 ロールの編集

ロール情報を編集する手順を次に示します。

1. メイン画面 (案件一覧) のメニューから [オプション] - [ロールの管理] を選択する。
[ロール管理] 画面が表示されます。
2. 編集するロールをチェックし、メニューから [アクション] - [ロール編集] を選択する。
[ロール編集] 画面が表示されます。[ロール編集] 画面を次の図に示します。

図 9-9 [ロール編集] 画面



3. ロール情報を編集する。

「ロール ID」, 「ロール名」は必要に応じて変更してください。

「ロール ID」には、1 文字以上 64 文字以内の半角英数字を入力できます。ただし、「_jp1」で始まるロール ID は登録できません。

「ロール名」には、1 文字以上 255 文字以内の半角英数字または約 85 文字以内の全角文字列を入力できます。「コメント」には、512 文字以内の半角英数字または約 170 文字以内の全角文字列を入力できます。

4. メニューから [登録] を選択する。

ロール情報が編集され、[ロール管理] 画面に戻ります。ロール情報を編集した場合、編集した情報の反映は、案件の情報を編集したときに行われます。

9.3.3 メンバーの追加

ロールにメンバーを追加する手順を次に示します。

1. メイン画面 (案件一覧) のメニューから [オプション] - [ロールの管理] を選択する。

[ロール管理] 画面が表示されます。

2. メンバーを追加するロールにチェックを入れ、メニューから [アクション] - [メンバー追加] を選択する。

[ユーザー選択] 画面が表示されます。

3. ロールに登録するメンバーをチェックする。

追加するメンバーをチェックします。

ヘッダーのチェックボックスをチェックすると、表示されたすべてのユーザーを選択できます。ヘッダーのチェックを外すと、選択したユーザーのチェックが外れます。

4. メニューから [設定] を選択する。

チェックしたユーザーがロールに登録されます。

メモ

メンバーは、jssmemberimport コマンドでも追加できます。jssmemberimport コマンドを使用するには、Administrators 権限が必要です。jssmemberimport コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssmemberimport (メンバー情報インポート)」を参照してください。

9.3.4 メンバーの削除

ロールからメンバーを削除する手順を次に示します。

1. メイン画面 (案件一覧) のメニューから [オプション] - [ロールの管理] を選択する。
[ロール管理] 画面が表示されます。
2. メンバーを削除するロールを選択し、削除するメンバーをチェックする。
削除するメンバーをチェックします。
ヘッダーのチェックボックスをチェックすると、表示されたすべてのユーザーを選択できます。ヘッダーのチェックを外すと、選択したユーザーのチェックが外れます。
3. メニューから [アクション] - [メンバー削除] を選択する。
メンバーを削除するかどうか確認するメッセージが表示され、[OK] ボタンをクリックすると、チェックしたユーザーが削除されます。

メモ

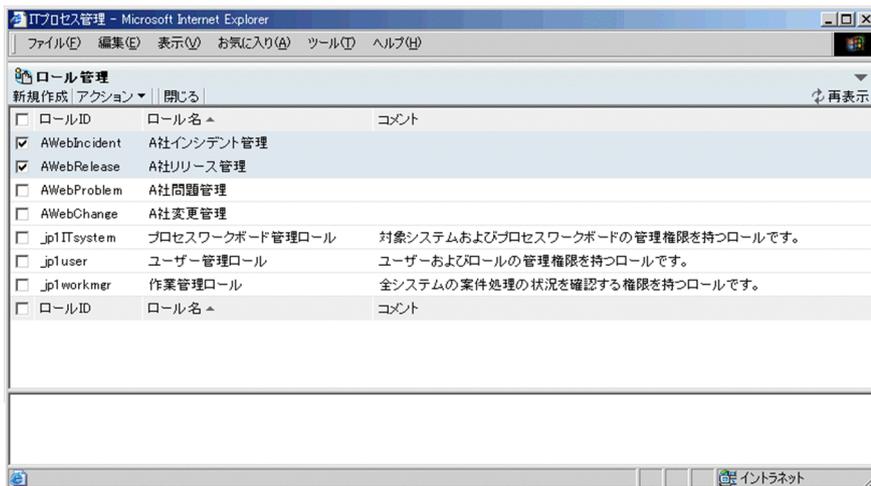
メンバーは、jssmemberdelete コマンドでも削除できます。jssmemberdelete コマンドを使用するには、Administrators 権限が必要です。jssmemberdelete コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssmemberdelete (メンバー情報削除)」を参照してください。

9.3.5 ロールの削除

ロールを削除する手順を次に示します。

1. メイン画面 (案件一覧) のメニューから [オプション] - [ロールの管理] を選択する。
[ロール管理] 画面が表示されます。
2. 削除するロールをチェックする。
複数のロールを一度に削除できます。ロールを選択した場合の [ロール管理] 画面を次の図に示します。

図 9-10 [ロール管理] 画面 (ロール選択)



[ロール管理] 画面に表示されるロール情報および所属ユーザーの並び順は、表示項目名をクリックすることでその表示項目をキーにソートできます。ロール情報の初期ソートキーは「ロール名」、所属ユーザーの初期ソートキーは「名前」です。ソートすると、並び順の基準となる項目に▲（昇順）または▼（降順）が表示されます。

ヘッダーのチェックボックスをチェックすると、表示されたすべてのロールを選択できます。ヘッダーのチェックを外すと、選択したロールのチェックが外れます。ただし、ロールIDが「_jpl」で始まるシステムロールは削除できません。

3. メニューから [アクション] - [ロール削除] を選択する。

削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、ロールが削除されます。ロール情報を削除した場合、削除した情報の反映は、案件の情報を編集したときに行われます。

9.4 対象システムの作成

対象システムを追加したり、削除したりする手順を次に示します。また、追加した対象システム情報を編集する手順についても説明します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属しているユーザーです。

9.4.1 対象システムの追加

対象システムを追加する手順を次に示します。

1. メイン画面（案件一覧）のメニューから [オプション] - [対象システムの管理] を選択する。

[対象システム管理] 画面が表示されます。[対象システム管理] 画面を次の図に示します。

図 9-11 [対象システム管理] 画面

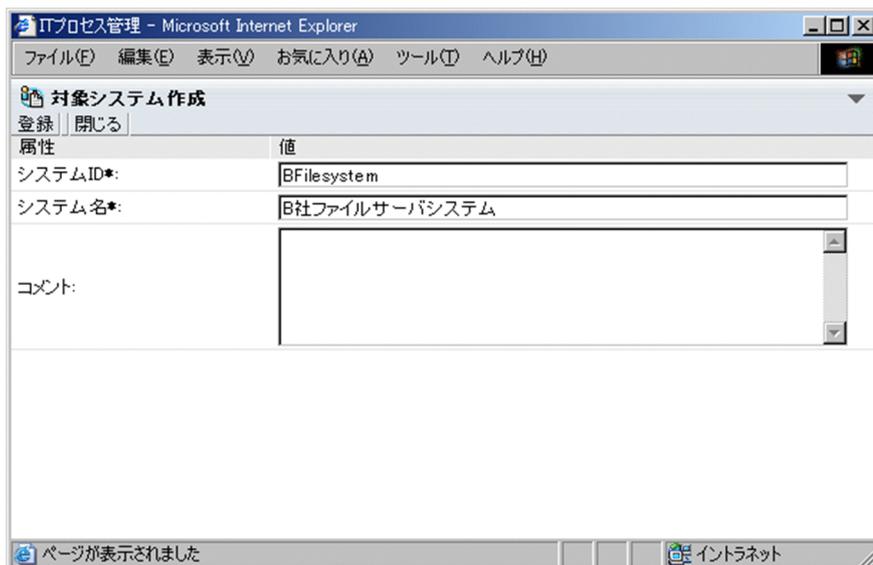


[対象システム管理] 画面に表示される対象システムの情報の並び順は、表示項目名「システム ID」および「システム名」をクリックすることでその表示項目をキーにソートできます。初期ソートキーは「システム ID」です。ソートすると、並び順の基準となる項目に▲（昇順）または▼（降順）が表示されます。

2. メニューから [新規作成] を選択する。

[対象システム作成] 画面が表示されます。[対象システム作成] 画面を次の図に示します。

図 9-12 [対象システム作成] 画面



3. 対象システム情報を入力する。

「システム ID」および「システム名」は必ず入力してください。システム ID には、1 文字以上 64 文字以内の半角英数字を入力できます。システム名には、1 文字以上 128 文字以内の半角英数字または約 40 文字以内の全角文字列を入力できます。コメントには、1,024 文字以内の半角英数字または約 340 文字以内の全角文字列を入力できます。

4. メニューから [登録] を選択する。

対象システムが追加され、[対象システム管理] 画面に戻ります。

9.4.2 対象システム情報の編集

追加した対象システム情報を編集する手順を次に示します。

1. メイン画面 (案件一覧) のメニューから [オプション] - [対象システムの管理] を選択する。

[対象システム管理] 画面が表示されます。

2. 編集する対象システムを選択する。

システム ID またはシステム名を選択すると、対象システムを選択できます。対象システムは一つだけ選択できます。対象システムを選択した場合の [対象システム管理] 画面を次の図に示します。

図 9-13 [対象システム管理] 画面 (対象システム選択)

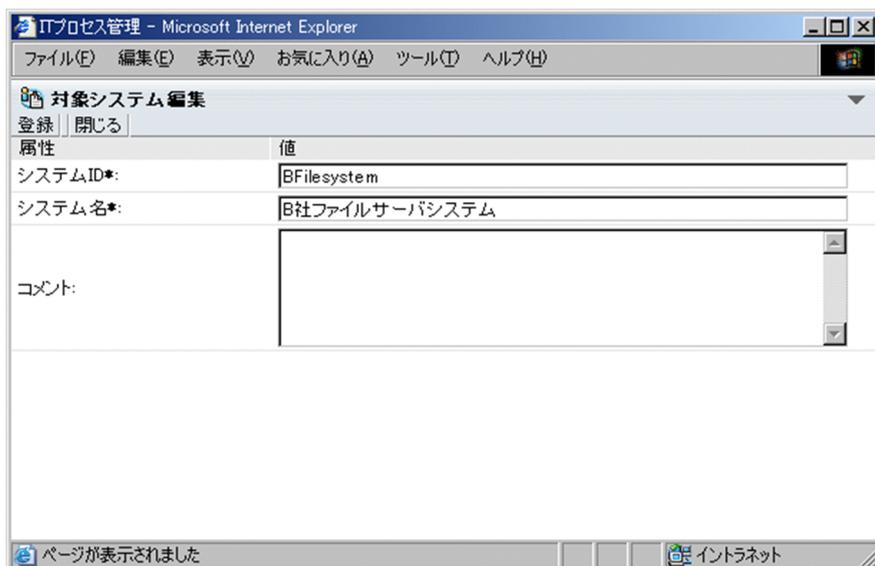


[対象システム管理] 画面に表示される対象システムの情報の並び順は、表示項目名「システム ID」および「システム名」をクリックすることでその表示項目をキーにソートできます。初期ソートキーは「システム ID」です。ソートすると、並び順の基準となる項目に▲（昇順）または▼（降順）が表示されます。

3. メニューから [アクション] - [対象システムの編集] を選択する。

[対象システム編集] 画面が表示されます。[対象システム編集] 画面を次の図に示します。

図 9-14 [対象システム編集] 画面



4. 対象システム情報を編集する。

「システム ID」, 「システム名」は必要に応じて変更してください。システム ID には、1 文字以上 64 文字以内の半角英数字を入力できます。システム名には、1 文字以上 128 文字以内の半角英数字または約 40 文字以内の全角文字列を入力できます。コメントには、1,024 文字以内の半角英数字または約 340 文字以内の全角文字列を入力できます。

5. メニューから [登録] を選択する。

対象システム情報が編集され、[対象システム管理] 画面に戻ります。

9.4.3 対象システムの削除

対象システムを削除する手順を次に示します。

1. メイン画面（案件一覧）のメニューから [オプション] - [対象システムの管理] を選択する。
[対象システム管理] 画面が表示されます。
2. 削除する対象システムを選択する。
システム ID またはシステム名を選択すると、対象システムを選択できます。対象システムは一つだけ選択できます。
3. メニューから [アクション] - [対象システムの削除] を選択する。
削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、対象システムが削除されます。

注意事項

対象システムを削除する場合、その配下のプロセスワークボードすべての状態を運用中以外の状態にする必要があります。

メモ

対象システムを画面から削除した状態では、削除を取り消して復元できます。対象システムの削除を取り消すときは、[対象システム管理] 画面で対象システムを選択した状態で [アクション] - [削除の取り消し] を実行してください。

案件管理 DB から完全に削除したい場合は、`jssdelrec` コマンドを実行してください。`jssdelrec` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jssdelrec \(案件管理 DB データ削除\)](#)」を参照してください。

9.5 プロセスのカスタマイズ

ユーザーの運用に合わせて、プロセスを次のようにカスタマイズできます。

- プロセス表示名の編集

プロセス表示名は、JP1/Service Support のすべてのシステムに適用されます。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属しているユーザーです。

9.5.1 プロセス表示名の編集

プロセス表示名を編集する手順を次に示します。

1. メイン画面（案件一覧）のメニューから [オプション] - [プロセス表示名編集] を選択する。
[プロセス表示名編集] 画面が表示されます。[プロセス表示名編集] 画面を次の図に示します。

図 9-15 [プロセス表示名編集] 画面



2. 運用に合わせて表示名を変更したいプロセス表示名を入力する。

表示名には、1文字以上128文字以内の半角英数字、または約40文字以内の全角文字列を入力できます。なお、JP1/Service Support の画面に表示されるプロセス表示名の長さは、システムプロパティファイルで設定します。システムプロパティファイルの `hptl_jp1_imss_process_name_display_characters` で設定した値を超えた長さの表示名を設定すると、JP1/Service Support の画面でプロセス表示名が省略されて表示されることがあります。詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (`hptl_jp1_imss_main_setting.properties`)」を参照してください。

3. メニューから [登録] を選択する。

プロセス表示名が変更され、メイン画面（案件一覧）に戻ります。

9.6 プロセスワークボードの作成

プロセスワークボードを追加したり、削除したりする手順を次に示します。また、追加したプロセスワークボード情報を編集する手順についても説明します。

9.6.1 プロセスワークボードの追加

プロセスワークボードを追加する手順を次に示します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属しているユーザーです。

1. メイン画面（案件一覧）のメニューから [新規作成] - [プロセスワークボードの作成] を選択する。
[プロセスワークボード作成] 画面が表示されます。[プロセスワークボード作成] 画面は、[基本設定] タブ、[案件自動入力設定] タブ、[しきい値設定] タブがあり、それぞれ設定できる項目が異なります。[プロセスワークボード作成] 画面を次の図に示します。

図 9-16 [プロセスワークボード作成] 画面

[基本設定] タブ

基本設定	案件自動入力設定	しきい値設定
属性	値	
プロセスワークボードID*		
システム*	受注管理システム	
プロセス*		
案件フォーム*	<input checked="" type="checkbox"/> プロセスの標準案件フォームを使用する	
状態*	準備中	
プロセスワークボード管理者*	JP1管理者	選択
期限前メール通知設定:	<input type="checkbox"/> 期限前にメール通知を行う	
期限前日数:	日前	
メール通知回数設定:	<input checked="" type="radio"/> 期限前日数の日に1回メール通知	
	<input checked="" type="radio"/> 期限前日数の日から作業期限日まで毎日メール通知	
メールから登録された案件の担当者*	JP1管理者	選択
案件ごとの参照権限の設定:	<input type="checkbox"/> 案件ごとに参照権限の設定を行う	
案件の引き戻し機能の設定:	<input checked="" type="checkbox"/> 案件の引き戻し機能を使用する	
コメント:		

[案件自動入力設定] タブ

[しきい値設定] タブ

2. プロセスワークボード情報を入力する。

[基本設定] タブ, [案件自動入力設定] タブ, [しきい値設定] タブの設定項目について次に示します。

[基本設定] タブ

[基本設定] タブで設定できる項目について次の表に示します。

表 9-1 [プロセスワークボード作成] 画面 ([基本設定] タブ) での設定項目

項目	説明
プロセスワークボード ID※1	プロセスワークボード ID を, 半角英数字で 1 文字以上 64 文字以下で入力する。
システム※1	プルダウンメニューからプロセスワークボードの登録先となる対象システムを選択する。
プロセス※1	プルダウンメニューから, プロセスワークボードのプロセスを選択する。
案件フォーム※1	使用する案件フォームを選択する。 プロセスごとに設定されている標準の案件フォームを使用する場合は, 「プロセスの標準案件フォームを使用する」をチェックする。

項目	説明
案件フォーム※1	プロセスワークボードごとに案件フォームを使い分けたい場合は、「プロセスの標準案件フォームを使用する」のチェックを外して、プルダウンメニューから任意の案件フォームを選択する。プルダウンメニューの下部には、選択した案件フォームのコメントが表示される。
状態※1	プルダウンメニューからプロセスワークボードの状態を選択する。
プロセスワークボード管理者※1	[選択] ボタンをクリックすると表示される [ユーザー・ロール選択] 画面から、プロセスワークボードの管理者を選択する。ユーザー、またはロールのどちらでも設定できる。
期限前メール通知設定	案件の作業期限が近づいていることを、担当者やプロセスワークボード管理者にメールで通知する場合は、「期限前にメール通知を行う」にチェックする。 「期限前日数」には、作業期限の何日前に通知するかの日数について、半角数字で1~365日の範囲内で入力する。 「メール通知回数設定」では、「期限前日数の日に1回メール通知」、または「期限前日数の日から作業期限日まで毎日メール通知」のどちらかを選択する。
JP1 イベント発行設定	JP1/Service Support から JP1 イベントを発行する設定の場合にだけ表示される。JP1/Service Support から JP1 イベントを発行させたい場合にチェックする。
メールから登録された案件の担当者※1	メールによる案件登録コマンドを使用する場合にだけ表示される。[選択] ボタンをクリックすると表示される [ユーザー・ロール選択] 画面から、メールから登録された案件の担当者を選択する。ユーザー、またはロールのどちらでも設定できる。
案件ごとの参照権限の設定※2	案件ごとの参照権限設定セットアップコマンドを実行した場合にだけ表示される。案件ごとに参照権限を設定したい場合は、「案件ごとに参照権限の設定を行う」をチェックする。
案件の引き戻し機能の設定	案件の引き戻し機能を設定したい場合は、「案件の引き戻し機能を使用する」をチェックする。
コメント	プロセスワークボードについてのコメントを、1,024文字以内の半角英数字または約340文字以内の全角文字列で入力する。

注※1

必ず設定する項目です。

注※2

案件ごとに参照権限を設定する場合は、あらかじめ設定が必要です。詳細については、「[9.13 案件ごとに参照権限を設定するための環境設定](#)」を参照してください。

なお、「JP1 イベント発行設定」および「メールから登録された案件の担当者」の項目は、定義ファイルで設定を変更すると表示されます。デフォルトでは表示されません。それぞれの項目の詳細は次のとおりです。

「JP1 イベント発行設定」は、JP1 イベント発行設定プロパティファイルで JP1 イベントを発行する設定にすると表示されます。JP1 イベント発行設定プロパティファイルの詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の、「[JP1 イベント発行設定ファイル](#)

([hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties](#))」を参照してください。

「メールから登録された案件の担当者」は、メール定義ファイルでメールによる案件登録コマンドを使用する設定にすると表示されます。メール定義ファイルの詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の、「[メール定義ファイル \(jplimss_mail_setting.conf\)](#)」を参照してください。

【案件自動入力設定】 タブ

案件の自動入力設定は、案件自動入力プロパティファイルでも設定できます。プロセスワークボードごとに設定したい場合は【プロセスワークボード作成】画面、または【プロセスワークボード編集】画面で設定してください。また、【案件自動入力設定】タブの設定についても、案件自動入力プロパティファイルで設定できます。案件自動入力プロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties)」を参照してください。

【案件自動入力設定】タブで設定できる項目について次の表に示します。

表 9-2 【プロセスワークボード作成】画面（【案件自動入力設定】タブ）での設定項目

項目	説明
案件自動入力プロパティファイルの設定値を使用する	案件自動入力プロパティファイルの設定値を使用する場合にチェックする。チェックすると、この項目以外の項目が非活性となり変更できなくなる。
案件の発生日時	案件の発生日時を自動入力させたい場合には、【設定する】を選択する。選択すると、【案件作成】画面を表示させた日時が自動的に入力される。
案件の開始日時	案件の開始日時を自動入力させたい場合には、【設定する】を選択する。選択すると、【案件作成】画面を表示させた日時が自動的に入力される。
案件の優先度	案件の優先度を自動入力させたい場合には、【設定する】を選択する。選択すると、入力された影響度、および重大度の組み合わせによって、案件登録時に優先度が自動入力される。優先度の自動入力の基となる影響度、および重大度の組み合わせについては、ユーザーの運用に合わせてプルダウンメニューで設定することもできる。 なお、影響度および重大度の組み合わせは、「未設定」を除いて、影響度は3個まで、重大度は8個まで設定できる。案件フォームをカスタマイズして、影響度または重大度の数を増やしても、組み合わせのプルダウンメニューには反映されないので注意すること。
案件の作業期限	案件の作業期限を自動入力させたい場合には、【設定する】を選択する。選択すると、案件の優先度に合わせて作業期限が自動で入力される。 作業期限は、優先度ごとに設定された時間数が、【案件作成】画面を表示させた時刻に加算されて自動入力される。加算される時間数は、半角数字で0~8,760時間の範囲内でテキストボックスに入力して設定する。また、時間数を設定しないで、空白のままにしておくこともできる。空白の場合、作業期限は自動入力されない。 なお、【案件編集】画面で案件の優先度を変更した場合、作業期限が自動入力される。作業期限の算出方法には、次のどちらかを選択できる。 <ul style="list-style-type: none">• テキストボックスに入力された時間数が、【案件編集】画面を表示させた時刻に加算される。• テキストボックスに入力された時間数が、案件の登録日時に加算される。 ただし、案件の登録日時が設定されていない案件を編集する場合は、【案件編集】画面を表示させた時刻に、テキストボックスに入力された時間数を加算した時刻を作業期限とする。 作業期限の算出方法の設定については、「13. 定義ファイル」の「案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties)」を参照のこと。 案件登録コマンドまたはメールによる案件登録コマンドで案件を作成した場合も、作業期限が自動入力される。また、案件編集コマンドで案件の優先度の変更された場合も、作業期限が自動更新される。

項目	説明
案件の作業期限	案件登録コマンドまたはメールによる案件登録コマンドで案件を作成した場合、案件編集コマンドで案件の優先度を変更された場合、作業期限は、テキストボックスに入力された時間数が、案件の登録日時に加算される。

案件登録コマンド、およびメールによる案件登録コマンドで案件が作成された場合、「案件の発生日時」および「案件の開始日時」は、コマンドが実行された日時が自動的に入力されます。

【しきい値設定】タブ

【しきい値設定】タブで設定できる項目について次の表に示します。

表 9-3 【プロセスワークボード作成】画面（【しきい値設定】タブ）での設定項目

項目	説明
案件集計プロパティファイルの設定値を使用する	案件集計プロパティファイルの設定値を使用する場合にチェックする。チェックすると、この項目以外の項目が非活性となり変更できなくなる。
長期化とする未解決時間	案件のステータスが「クローズ」以外で、かつ完了日時が設定されていない場合、案件の登録日時からここで設定した時間が超過すると、長期化した案件と見なされ、メイン画面（案件状況）の「長期化」の件数に含まれる。0~876,000 時間の範囲内で、半角数字の整数で入力する。
未処理案件のしきい値	未処理案件の件数がここで設定したしきい値を超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「未処理」部分が警告表示される。しきい値となる件数を、0~2,147,483,647 件の範囲内で、半角数字の整数で入力する。
未完了案件のしきい値	未完了案件の件数がここで設定したしきい値を超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「未完了」部分が警告表示される。しきい値となる件数を、0~2,147,483,647 件の範囲内で、半角数字の整数で入力する。
審議中案件のしきい値	審議中案件の件数がここで設定したしきい値を超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「審議中」部分が警告表示される。しきい値となる件数を、0~2,147,483,647 件の範囲内で、半角数字の整数で入力する。
長期化案件のしきい値	長期化案件の件数がここで設定したしきい値を超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「長期化」部分が警告表示される。しきい値となる件数を、0~2,147,483,647 件の範囲内で、半角数字の整数で入力する。
最優先案件のしきい値	最優先案件の件数がここで設定したしきい値を超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「最優先」部分が警告表示される。しきい値となる件数を、0~2,147,483,647 件の範囲内で、半角数字の整数で入力する。
当日期限案件のしきい値	当日期限案件の件数がここで設定したしきい値を超えると、メイン画面（案件状況）で該当するプロセスワークボードの「当日期限」部分が警告表示される。しきい値となる件数を、0~2,147,483,647 件の範囲内で、半角数字の整数で入力する。

各項目で空白を指定した場合は、案件集計プロパティファイルの値が設定されます。

3. メニューから【登録】を選択する。

プロセスワークボードが追加され、メイン画面（案件一覧）に戻ります。

9.6.2 プロセスワークボード情報の編集

追加したプロセスワークボード情報を編集する手順を次に示します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属しているユーザー、およびプロセスワークボード管理者です。

1. メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧から編集するプロセスワークボードを選択する。
プロセスワークボード名を選択すると、プロセスワークボードを選択できます。
2. メニューから [アクション] - [プロセスワークボードの編集] を選択する。
[プロセスワークボード編集] 画面が表示されます。[プロセスワークボード編集] 画面は、[基本設定] タブ、[案件自動入力設定] タブ、[しきい値設定] タブがあり、それぞれ編集できる項目が異なります。[プロセスワークボード編集] 画面を次の図に示します。

図 9-17 [プロセスワークボード編集] 画面

[基本設定] タブ

基本設定 | 案件自動入力設定 | しきい値設定

プロセスワークボード編集

属性

プロセスワークボードID*: sys001incident

システム: 受注管理システム

プロセス: インシデント管理

案件フォーム*: プロセスの標準案件フォームを使用する
インシデント管理フォーム(0)

状態*: 運用中

プロセスワークボード管理者*: JP1管理者

期限前にメール通知を行う
期限前日数: _____ 日前
メール通知回数設定: 期限前日数の日に1回メール通知
 期限前日数の日から作業期限日まで毎日メール通知

メールから登録された案件の担当者*: JP1管理者

案件ごとの参照権限の設定: 案件ごとに参照権限の設定を行う

案件の引き戻し機能の設定: 案件の引き戻し機能を使用する

コメント:

[案件自動入力設定] タブ

基本設定 | 案件自動入力設定 | しきい値設定

案件自動入力プロパティファイルの設定値を使用する

属性

案件の発生日時: 設定しない
 設定する

案件の開始日時: 設定しない
 設定する

案件の優先度:

	影響度			
	大	中	小	未設定
緊急	大至急	大至急	大至急	至急
警戒	大至急	大至急	至急	至急
致命的	大至急	至急	至急	至急
エラー	至急	至急	至急	標準
重大度	警告	至急	標準	標準
	通知	至急	標準	標準
	情報	標準	標準	標準
	デバッグ	標準	標準	標準
	未設定	標準	標準	標準

優先度は、重大度と影響度の組み合わせにより決まります。

案件の作業期限:

優先度	時間
大至急	24
至急	36
標準	48
未設定	60

作業期限の日時は、案件登録日時に優先度に指定した時間を足した日時になります。

[しきい値設定] タブ

属性	値	
長期化する未解決時間:	72	時間
未処理案件のしきい値:	10	件
未完了案件のしきい値:	30	件
審議中案件のしきい値:	10	件
長期化案件のしきい値:	10	件
最優先案件のしきい値:	10	件
当日期限案件のしきい値:	10	件

値を未入力で登録した場合、プロパティファイルのデフォルト値が設定されます。

3. プロセスワークボード情報を編集する。

各項目の詳細については、「9.6.1 プロセスワークボードの追加」を参照してください。なお、「システム」および「プロセス」は編集できません。

[基本設定] タブで使用する案件フォームを変更する場合

プロセスワークボードの状態を「停止中」にしてから変更してください。ほかのユーザーが[案件作成]画面や[案件検索条件指定]画面などを表示させている状態で案件フォームを変更すると、画面でエラーが発生する場合があります。

4. メニューから [登録] を選択する。

プロセスワークボード情報が編集され、メイン画面（案件一覧）に戻ります。

9.6.3 プロセスワークボードの削除

プロセスワークボードを削除する手順を次に示します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属しているユーザーです。

1. メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧から削除するプロセスワークボードを選択する。

プロセスワークボード名を選択すると、プロセスワークボードを選択できます。ただし、運用中のプロセスワークボードは削除できません。

2. メニューから [アクション] - [プロセスワークボードの削除] を選択する。

削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、プロセスワークボードが削除されます。

メモ

プロセスワークボードを画面から削除した状態では、削除を取り消して復元できます。プロセスワークボードの削除を取り消すときは、メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧で対象プロセスワークボードを選択した状態から [アクション] - [プロセスワークボードの削除取り消し] を実行してください。

案件管理 DB から完全に削除したい場合は、jssdelrec コマンドを実行してください。jssdelrec コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdelrec (案件管理 DB データ削除)」を参照してください。

9.6.4 プロセスワークボードの参照

プロセスワークボードを参照する手順を次に示します。この操作には、案件の参照権限が必要です。

1. メイン画面 (案件一覧) のプロセスワークボード一覧から参照するプロセスワークボードを選択する。
プロセスワークボード名を選択すると、プロセスワークボードを選択できます。
2. メニューから [アクション] - [プロセスワークボードの参照] を選択する。
[プロセスワークボード参照] 画面が表示されます。[プロセスワークボード参照] 画面は、[基本設定] タブ、[案件自動入力設定] タブ、[しきい値設定] タブがあり、それぞれ参照できる項目が異なります。[プロセスワークボード参照] 画面を次の図に示します。

図 9-18 [プロセスワークボード参照] 画面

[基本設定] タブ

プロセスワークボード参照		
閉じる		
基本設定	案件自動入力設定	しきい値設定
属性	値	
プロセスワークボードID:	sys001incident	
システム:	受注管理システム	
プロセス:	インシデント管理	
案件フォーム:	プロセスの標準案件フォームを使用する インシデント管理フォーム(0)	
状態:	運用中	
プロセスワークボード管理者:	JP1管理者	
期限前メール通知設定:	期限前にメール通知を行わない	
メールから登録された案件の担当者:	JP1管理者	
案件ごとの参照権限の設定:	案件ごとに参照権限の設定を行わない	
案件の引き戻し機能の設定:	案件の引き戻し機能を使用する	
コメント:		

[案件自動入力設定] タブ

プロセスワークボード参照		
閉じる		
基本設定	案件自動入力設定	しきい値設定
案件自動入力カプロパティファイルの設定値を使用する		
属性	値	
案件の発生日時:	設定しない	
案件の開始日時:	設定しない	
案件の優先度:	設定しない	
案件の作業期限:	設定しない	

[しきい値設定] タブ

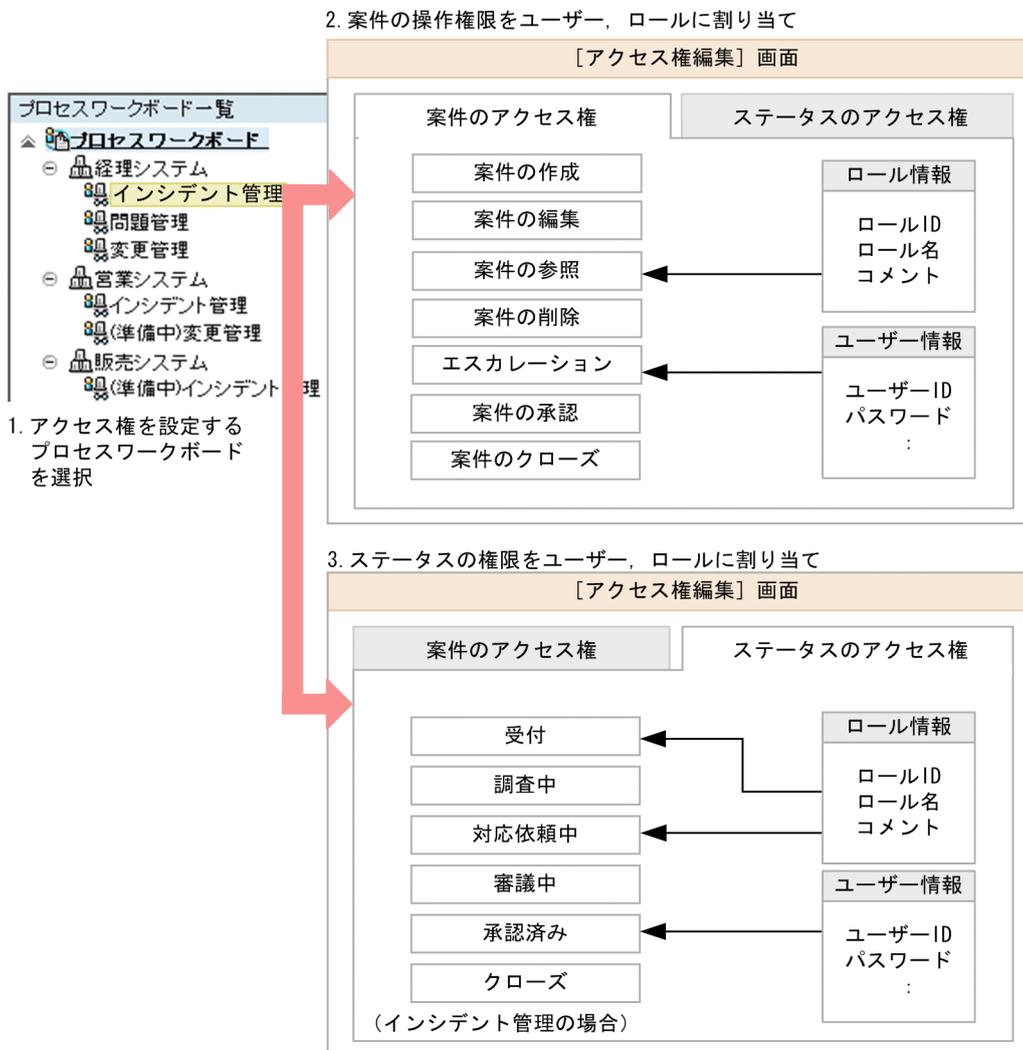
プロセスワークボード参照		
閉じる		
基本設定	案件自動入力設定	しきい値設定
案件集計プロパティファイルの設定値を使用する		
属性	値	
長期化とする未解決時間:	72 時間	
未処理案件のしきい値:	10 件	
未完了案件のしきい値:	30 件	
審議中案件のしきい値:	10 件	
長期化案件のしきい値:	10 件	
最後先案件のしきい値:	10 件	
当日期限案件のしきい値:	10 件	

9.7 アクセス権の割り当て

プロセスワークボードを選択し、[アクセス権編集] 画面でアクセス権を割り当てます。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属しているユーザーおよびプロセスワークボード管理者です。

アクセス権を設定する手順について、次の図に示します。

図 9-19 アクセス権の設定手順



[アクセス権編集] 画面で設定できるアクセス権を、次に示します。

案件のアクセス権

- 案件の作成 (案件を登録する権限)
- 案件の編集 (案件を編集する権限)
- 案件の参照 (案件を参照する権限)
- 案件の削除 (案件を削除する権限)
- エスカレーション (案件をエスカレーションする権限)

- 案件の承認（案件を承認する権限）
- 案件のクローズ（案件をクローズする権限）

ステータスのアクセス権

案件の編集権限には、受付やクローズなどのステータスごとにアクセス権を設定できます。ユーザーが新たに作成したステータスについても同様に、アクセス権を設定できます。また、ステータスのアクセス権を設定する際、そのステータスの初期担当者を設定できます。

ただし、プロセスによって、選択できるステータスは異なります。なお、ここで示しているステータスの種類は、デフォルトの名称です。ステータスのカスタマイズによって異なります。ステータスの種類を次の表に示します。

表 9-4 選択できるステータスの種類

ステータスの種類	説明	プロセス			
		インシデント管理	問題管理	変更管理	リリース管理
受付	ステータスが「受付」の案件を編集する権限。	○	○	○	○
計画中	ステータスが「計画中」の案件を編集する権限。	×	×	○	○
調査中	ステータスが「調査中」の案件を編集する権限。	○	○	×	×
対応依頼中	ステータスが「対応依頼中」の案件を編集する権限。	○	○	○	○
審議中	ステータスが「審議中」の案件を編集する権限。	○	○	○	○
承認済み	ステータスが「承認済み」の案件を編集する権限。	○	○	○	○
レビュー中	ステータスが「レビュー中」の案件を編集する権限。	×	×	○	×
クローズ	ステータスが「クローズ」の案件を編集する権限。	○	○	○	○

(凡例)

- ：選択できる
- ×：選択できない

ステータスのアクセス権を設定しない場合は、承認済み、クローズ以外のステータスの案件を編集できません。

これらの権限をユーザーやロールに割り当てることで、プロセスワークボードにアクセス権が設定できます。なお、アクセス権を設定したロールにユーザーが追加されると、そのユーザーにも自動的にアクセス権が設定されます。設定したユーザーやロールが削除された場合、自動的にアクセス権からも削除されます。

また、ステータスのアクセス権をユーザーやロールに割り当てる際、ステータスの初期担当者を設定することで、[案件作成] 画面または [案件編集] 画面の「担当者」に、設定したステータスに応じた初期担当者が自動で設定されます。ステータスの初期担当者は、ステータスのアクセス権を割り当てられたユーザーまたはロールから選択します。

メモ

アクセス権情報は、jssaclimport コマンドでも追加、変更、および削除できます。jssaclimport コマンドを使用するには、Administrators 権限が必要です。jssaclimport コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssaclimport (アクセス権情報インポート)」を参照してください。

9.7.1 アクセス権の追加

アクセス権を追加する手順を次に示します。

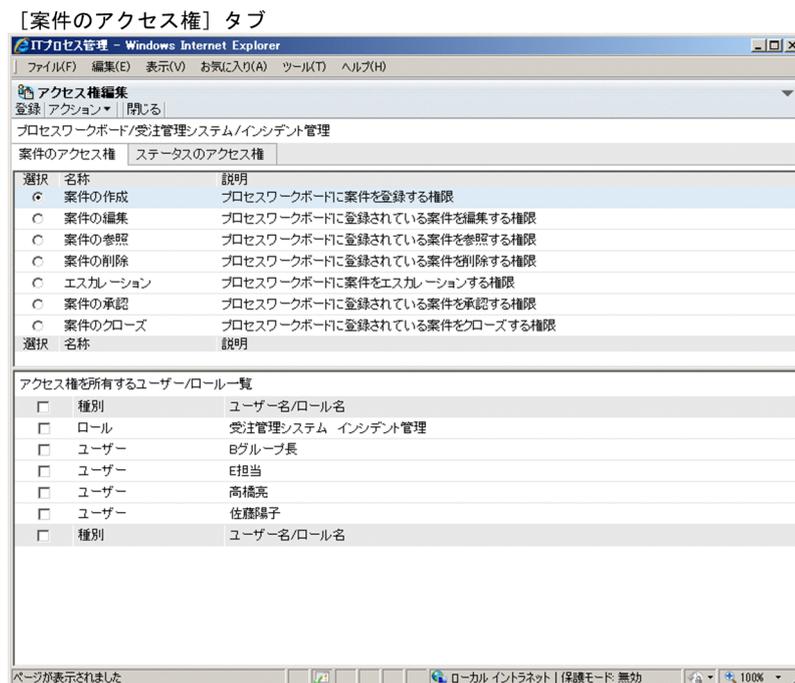
1. メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧からアクセス権を追加するプロセスワークボードを選択する。

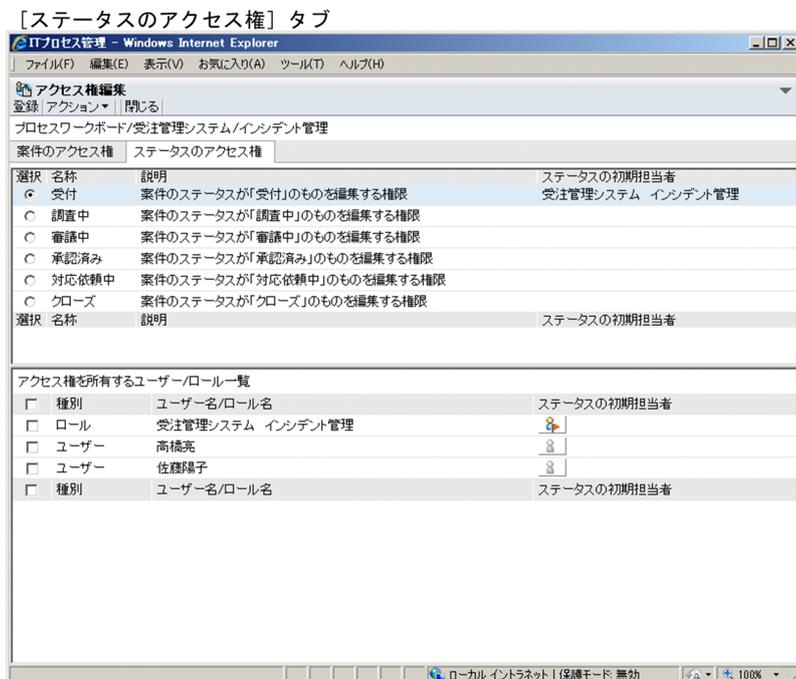
プロセスワークボード名を選択すると、プロセスワークボードを選択できます。

2. メニューから [アクション] - [アクセス権の編集] を選択する。

[アクセス権編集] 画面が表示されます。[アクセス権編集] 画面を次の図に示します。

図 9-20 [アクセス権編集] 画面





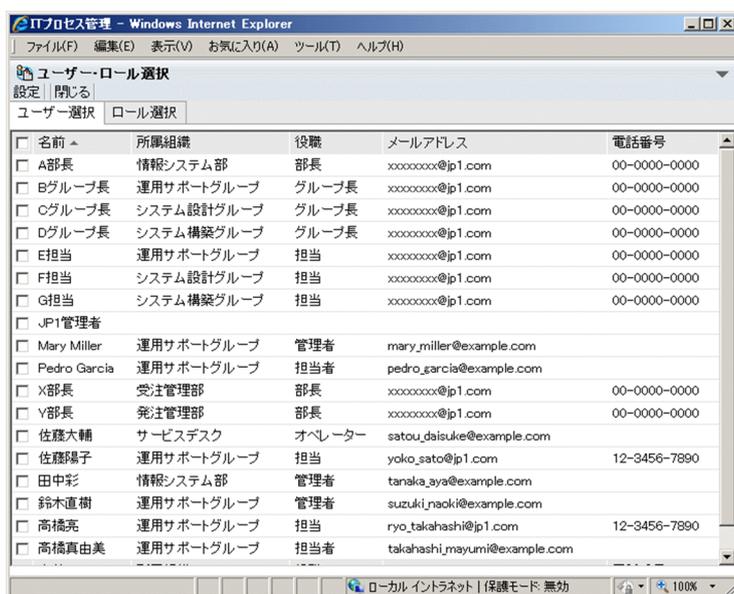
3. アクセス権の種類を選択する。

[案件のアクセス権] タブまたは [ステータスのアクセス権] タブを選択し、ユーザー・ロールを追加するアクセス権を選択します。アクセス権を選択すると、「アクセス権を所有するユーザー/ロール一覧」には、選択した権限を所有するユーザーまたはロールが表示されます。

4. メニューから [アクション] - [ユーザー・ロールの追加] を選択する。

[ユーザー・ロール選択] 画面が表示されます。[ユーザー・ロール選択] 画面を次の図に示します。

図 9-21 [ユーザー・ロール選択] 画面



5. 追加するユーザーまたはロールにチェックする。

ユーザーは [ユーザー選択] タブで、ロールは [ロール選択] タブでそれぞれ選択します。

6. メニューから [設定] を選択する。

[ユーザー・ロール選択] 画面で選択したユーザーまたはロールが、[アクセス権編集] 画面の「アクセス権を所有するユーザー/ロール一覧」に反映されます。

7. ステータスの初期担当者を選択する。

[ステータスのアクセス権] タブで、ステータスの初期担当者に設定するユーザーまたはロールの初期担当者を設定するアイコン () をクリックします。このアイコンをクリックすると、初期担当者を示すアイコン () に変わり、選択したユーザーまたはロールが初期担当者として設定されます。また、ステータスの初期担当者の設定を解除する場合は、初期担当者を示すアイコン () をクリックします。このアイコンをクリックすると、初期担当者を設定するアイコン () に変わり、ステータスの初期担当者の設定が解除されます。なお、ステータスの初期担当者を設定しない場合、この手順は不要です。

8. 必要に応じて [アクセス権編集] 画面で別のアクセス権を選択し、[ユーザー・ロール選択] 画面で手順 5 から手順 7 を繰り返す。

アクセス権ごとに、ユーザー・ロールを追加します。

9. [アクセス権編集] 画面のメニューから [登録] を選択する。

設定したアクセス権が追加され、メイン画面 (案件一覧) に戻ります。

9.7.2 アクセス権の削除

アクセス権を削除する手順を次に示します。

1. メイン画面 (案件一覧) のプロセスワークボード一覧からアクセス権を削除するプロセスワークボードを選択する。

プロセスワークボード名を選択すると、プロセスワークボードを選択できます。

2. メニューから [アクション] - [アクセス権の編集] を選択する。

[アクセス権編集] 画面が表示されます。

3. ユーザー・ロールを削除する権限を選択する。

[案件のアクセス権] タブ、または [ステータスのアクセス権] タブを選択し、ユーザー・ロールを削除する権限を選択します。アクセス権を選択すると、「アクセス権を所有するユーザー/ロール一覧」には、選択した権限を所有するユーザーまたはロールが表示されます。

4. 削除するユーザーまたはロールをチェックする。

5. メニューから [アクション] - [ユーザー・ロールの削除] を選択する。

チェックしたユーザー・ロールが削除されます。

6. メニューから [登録] を選択する。

チェックしたユーザー・ロールが削除され、メイン画面（案件一覧）に戻ります。

9.8 コマンドの自動実行スケジュールの設定

特定のコマンドを実行する時刻や間隔などのスケジュールを設定して、JP1/Service Support - Task Service サービスを起動することで、次のタスクを自動実行できます。

- 案件情報の集計 (jsscollectdata)
- 期限前通知 (jssinformperiod)
- 滞留案件通知 (jssinformleave)
- メールによる案件登録 (jssitementrybyemail)

次に、それぞれのコマンドを自動実行するための設定手順を説明します。

9.8.1 案件情報の集計 (jsscollectdata)

メイン画面（案件状況）で案件の状況を確認したり、案件を集計したレポートをファイル出力したりするために、jsscollectdata コマンドを定期的に行う必要があります。コマンドの定期実行には、JP1/Service Support - Task Service サービスを使用します。JP1/Service Support - Task Service サービスによって、jsscollectdata コマンドを定期的に行う手順を次に示します。

1. タスク実行サービス定義ファイル (jp1imss_service_setting.conf) を編集して、jsscollectdata コマンドを実行するように設定して、コマンド実行時刻 (hh:mm) を指定する。

jsscollectdata コマンドは前日分までのデータを集計するため、タスクは午前 0 時以降のアクセスが少ない時間帯に毎日実行することをお勧めします。デフォルトでは午前 2 時に実行するように指定されています。

タスク実行サービス定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「タスク実行サービス定義ファイル (jp1imss_service_setting.conf)」を参照してください。

2. スタート画面から、[管理ツール] - [サービス] を選択するか、スタート画面の [すべてのアプリ] - [サービス] を選択する。

[サービス] ダイアログボックスが表示されます。

3. [JP1/Service Support - Task Service サービス] を右クリックし、ポップアップメニューから [開始] を選択する。

サービスが起動し、指定した時刻に jsscollectdata コマンドが実行されます。

9.8.2 期限前通知 (jssinformperiod)

案件の作業期限が過ぎる前に、案件の担当者と案件が属するプロセスワークボードの管理者に「作業期限が近づいている」ことをメールで通知するには、jssinformperiod コマンドを定期的に行う必要があります。コマンドの定期実行には、JP1/Service Support - Task Service サービスを使用します。JP1/

Service Support - Task Service サービスによって、jssinformperiod コマンドを定期的に行う手順を次に示します。

1. タスク実行サービス定義ファイル (jp1imss_service_setting.conf) を編集して、jssinformperiod コマンドを実行するように設定して、コマンド実行時刻 (hh:mm) を指定する。

jssinformperiod コマンドは、案件の作業期限をチェックしてメールを送信するため、午前0時以降のアクセスが少ない時間帯に毎日実行することをお勧めします。デフォルトでは午前3時に実行するように指定されています。

タスク実行サービス定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「タスク実行サービス定義ファイル (jp1imss_service_setting.conf)」を参照してください。

2. スタート画面から、[管理ツール] - [サービス] を選択するか、スタート画面の [すべてのアプリ] - [サービス] を選択する。

[サービス] ダイアログボックスが表示されます。

3. [JP1/Service Support - Task Service サービス] を右クリックし、ポップアップメニューから [開始] を選択する。

サービスが起動し、指定した時刻に jssinformperiod コマンドが実行されます。

案件の作業期限の何日前にメールで通知するか、メールの通知回数などの情報は [プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面の [基本設定] タブで指定します。詳細については、「9.6 プロセスワークボードの作成」を参照してください。また、期限前通知メールのあて先やメールの形式などの情報はメール定義ファイル (jp1imss_mail_setting.conf) で指定します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル (jp1imss_mail_setting.conf)」を参照してください。

なお、次の条件を満たす案件が期限前通知の対象となります。

- 作業期限が設定されている。
- ステータスがクローズ以外である。
- 案件が登録されているプロセスワークボードが運用中である。

[プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面の「期限前メール通知設定」で「期限前日数」を3日前に指定している場合、jssinformperiod コマンド実行時刻から3日後の日付の23:59:59.999の期間に作業期限が設定されている案件が、期限前通知の対象となります。

9.8.3 滞留案件通知 (jssinformleave)

滞留案件と見なす放置時間を過ぎた場合、案件の担当者と案件が属するプロセスワークボードの管理者に「案件が滞留している」ことをメールで通知するには、jssinformleave コマンドを定期的に行う必要があります。コマンドの定期実行には、JP1/Service Support - Task Service サービスを使用します。JP1/Service Support - Task Service サービスによって、jssinformleave コマンドを定期的に行う手順を次に示します。

1. タスク実行サービス定義ファイル (`jp1imss_service_setting.conf`) を編集して、`jssinformleave` コマンドを実行するように設定して、コマンド実行間隔 (分単位)、監視開始時刻および監視終了時刻 (hh:mm) を指定する。

`jssinformleave` コマンドの実行中は、マシンに負荷が掛かります。実行間隔に注意してください。デフォルトでは 60 分間隔で実行するよう指定されています。

タスク実行サービス定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「タスク実行サービス定義ファイル (`jp1imss_service_setting.conf`)」を参照してください。

2. スタート画面から、[管理ツール] - [サービス] を選択するか、スタート画面の [すべてのアプリ] - [サービス] を選択する。

[サービス] ダイアログボックスが表示されます。

3. [JP1/Service Support - Task Service サービス] を右クリックし、ポップアップメニューから [開始] を選択する。

サービスが起動し、指定した間隔で `jssinformleave` コマンドが実行されます。

滞留案件通知コマンドを実行する場合に、案件処理が滞留されていると見なすための条件を滞留案件定義ファイル (`jp1informleave_setting.conf`) で指定します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「滞留案件定義ファイル (`jp1informleave_setting.conf`)」を参照してください。

滞留案件通知メールのあて先やメールの形式などの情報はメール定義ファイル (`jp1imss_mail_setting.conf`) で指定します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル (`jp1imss_mail_setting.conf`)」を参照してください。

9.8.4 メールによる案件登録 (`jssitementrybymail`)

メールで案件を登録するには、`jssitementrybymail` コマンドを定期的に行う必要があります。コマンドの定期実行には、JP1/Service Support - Task Service サービスを使用します。JP1/Service Support - Task Service サービスによって、`jssitementrybymail` コマンドを定期的に行う手順を次に示します。

1. タスク実行サービス定義ファイル (`jp1imss_service_setting.conf`) を編集して、`jssitementrybymail` コマンドを実行するように設定して、コマンド実行間隔 (分単位) を指定する。

`jssitementrybymail` コマンドは、特定のあて先に届いたメールの内容をチェックして、該当するプロセスワークボードに案件として登録します。デフォルトでは 60 分間隔で実行するよう指定されています。

タスク実行サービス定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「タスク実行サービス定義ファイル (`jp1imss_service_setting.conf`)」を参照してください。

2. スタート画面から、[管理ツール] - [サービス] を選択するか、スタート画面の [すべてのアプリ] - [サービス] を選択する。

[サービス] ダイアログボックスが表示されます。

3. [JP1/Service Support - Task Service サービス] を右クリックし、ポップアップメニューから [開始] を選択する。

サービスが起動し、指定した間隔で `jsitementrybymail` コマンドが実行されます。

このほかにも、メールによる案件登録に必要な情報を設定する必要があります。詳細については、「[9.15.1 メールで案件を登録するための環境設定](#)」を参照してください。

9.9 案件フォームのカスタマイズ

ユーザーの運用に合わせて、案件フォームを次のようにカスタマイズできます。

- 項目の追加
- 項目の変更
- 必須項目の設定

案件フォームのカスタマイズには、案件フォーム定義ファイルおよび `jssformdef` コマンドを使用します。`jssformdef` コマンドを使用するには、Administrators 権限が必要です。

案件フォーム定義ファイルは、GUI でカスタマイズできます。詳細については、「[9.10 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ](#)」を参照してください。

案件フォーム ID やバージョン、使用状況など、案件フォームの情報は、GUI から参照できます。また、不要な案件フォームは削除できます。複数登録された案件フォームの中から、プロセスの標準案件フォームを設定することもできます。設定した案件フォームは、次に作成する案件から有効になります。なお、この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属しているユーザーです。

次に、それぞれの操作手順を説明します。

9.9.1 案件フォームのカスタマイズ手順

案件フォームをカスタマイズする手順を次に示します。

1. 案件フォーム定義ファイルを作成する。

案件フォーム定義ファイルを作成して、案件フォームに表示する項目や項目名を設定します。案件フォーム定義ファイルについては、「[13. 定義ファイル](#)」の「[案件フォーム定義ファイル \(任意\)](#)」および「[案件検索性の案件フォーム定義ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

2. JP1/Service Support - DB Server サービス以外の JP1/Service Support のサービスを停止する。

`-n` オプションを指定した `jssformdef` コマンドを実行する場合は、この手順は不要です。

次の順番でサービスを停止します。

1. JP1/Service Support - Web Service サービス
2. JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動しておいてください。

3. `jssformdef` コマンドを実行する。

`jssformdef` コマンドを実行して、案件フォームをカスタマイズします。コマンドの実行中は、案件管理 DB をメンテナンスするコマンドや JP1/Service Support のサービスを起動しないでください。`jssformdef` コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssformdef \(案件フォーム登録\)](#)」を参照してください。

4. JP1/Service Support のサービスを起動する。

-n オプションを指定した jssformdef コマンドを実行した場合は、この手順は不要です。
次の順番でサービスを起動します。

1. JP1/Service Support サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス

9.9.2 案件フォーム情報の参照

案件フォーム情報を参照する手順を次に示します。

1. メイン画面（案件一覧）のメニューから [オプション] - [案件フォームの管理] を選択する。

[案件フォームの管理] 画面が表示されます。[案件フォームの管理] 画面の表示例を、次の図に示します。

図 9-22 [案件フォームの管理] 画面

プロセス名	標準	案件フォームID	バージョン	案件フォーム名	更新日時	コメント
マスタープロセス		JIMSD_FORM_MASTER	0	マスター表示項目	2007/01/01 00:00:00	案件検索用の案件フォーム
マスタープロセス		JIMSD_FORM_MASTER	1	マスター表示項目	2008/01/22 20:42:10	案件検索用の案件フォーム
マスタープロセス	✓	JIMSD_FORM_MASTER	2	マスター表示項目	2008/01/22 20:42:24	案件検索用の案件フォーム
インシデント管理		JIMSD_FORM_INCIDENT	0	インシデント管理フォーム	2007/01/01 00:00:00	
インシデント管理		JIMSD_FORM_INCIDENT	2	インシデント管理フォーム	2008/01/22 20:43:01	
インシデント管理		JIMSD_FORM_INCIDENT	1	インシデント管理フォーム	2008/01/22 20:42:54	
インシデント管理	✓	JIMSD_FORM_INCIDENT	3	インシデント管理フォーム	2008/01/22 20:43:08	
問題管理		JIMSD_FORM_PROBLEM	0	問題管理フォーム	2007/01/01 00:00:00	
問題管理	✓	JIMSD_FORM_PROBLEM	1	問題管理フォーム	2008/01/22 20:43:20	
変更管理		JIMSD_FORM_CHANGE	0	変更管理フォーム	2007/01/01 00:00:00	
変更管理		JIMSD_FORM_CHANGE	1	変更管理フォーム	2008/01/22 20:43:31	
変更管理	✓	JIMSD_FORM_CHANGE	2	変更管理フォーム	2008/01/22 20:43:35	
リリース管理		JIMSD_FORM_RELEASE	0	リリース管理フォーム	2007/01/01 00:00:00	
リリース管理	✓	JIMSD_FORM_RELEASE	1	リリース管理フォーム	2008/01/22 20:43:51	

2. 参照したい案件フォームを選択して、[案件フォームの管理] 画面のメニューから [アクション] - [案件フォームの詳細情報] を選択する。

案件フォームの ID、または案件フォーム名を選択すると、案件フォームを選択できます。

[案件フォームの詳細情報] 画面が表示されます。[案件フォームの詳細情報] 画面の表示例を、次の図に示します。

図 9-23 [案件フォームの詳細情報] 画面



メモ

案件フォームの情報は、右クリックメニューでも参照できます。[案件フォームの管理] 画面で、参照したい案件フォームの ID、または案件フォーム名を右クリックして、[案件フォームの詳細情報] を選択します。

9.9.3 案件フォームの削除

案件フォームを削除する手順を次に示します。

1. メイン画面 (案件一覧) のメニューから [オプション] - [案件フォームの管理] を選択する。
[案件フォームの管理] 画面が表示されます。

2. 削除したい案件フォームを選択する。

ただし、次の条件に当てはまる案件フォームは削除できません。

- プロセスワークボードで利用されている案件フォーム
- 案件で利用されている案件フォーム
- プロセスの標準案件フォームに設定されている案件フォーム

プロセスワークボードや案件で利用されているかどうかは [案件フォームの詳細情報] 画面で確認できます。プロセスの標準案件フォームかどうかは、[案件フォーム管理] 画面、および [案件フォームの詳細情報] 画面で確認できます。

なお、削除待ち状態のプロセスワークボードや案件が案件フォームを利用している場合、その案件フォームは削除できません。jssdelrec コマンドを実行して、削除待ち状態のプロセスワークボードや案件を

案件管理 DB から削除してください。jssdelrec コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdelrec (案件管理 DB データ削除)」を参照してください。

3. [案件フォームの管理] 画面のメニューから [アクション] - [案件フォームの削除] を選択する。
削除するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、案件フォームが削除されます。

メモ

案件フォームの削除は、右クリックメニューでも実行できます。[案件フォームの管理] 画面で、削除したい案件フォームの ID、または案件フォーム名を右クリックして、[案件フォームの削除] を選択します。

9.9.4 プロセスの標準案件フォームの設定

設定の前に、プロセスの標準案件フォームを使用しているプロセスワークボードの状態を、「停止中」にする必要があります。ほかのユーザーが [案件作成] 画面や [案件検索条件指定] 画面などを表示させている状態で案件フォームを変更すると、画面でエラーが発生する場合があります。プロセスワークボードの状態を変更する手順については、「9.6.2 プロセスワークボード情報の編集」を参照してください。

プロセスの標準案件フォームを設定する手順を次に示します。

1. メイン画面 (案件一覧) のメニューから [オプション] - [案件フォームの管理] を選択する。
[案件フォームの管理] 画面が表示されます。
2. プロセスの標準案件フォームに設定したい案件フォームを選択する。
すでにプロセスの標準案件フォームに設定されている案件フォームは選択できません。
3. [案件フォームの管理] 画面のメニューから [アクション] - [プロセスの標準案件フォームに設定] を選択する。
プロセスの標準案件フォームに設定するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、案件フォームがプロセスの標準案件フォームに設定されます。

メモ

プロセスの標準案件フォームの設定は、右クリックメニューでも実行できます。[案件フォームの管理] 画面で、設定したい案件フォームの ID、または案件フォーム名を右クリックして、[プロセスの標準案件フォームに設定] を選択します。

9.10 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ

ユーザーの運用に合わせて、[案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面で案件フォーム定義ファイルを次のようにカスタマイズできます。

- 項目の追加
- 項目位置の変更
- 項目の削除
- 項目の値の設定

ただし、案件フォーム定義ファイルのカスタマイズには注意事項があります。案件フォーム定義ファイルのカスタマイズする前に、案件フォーム定義ファイル（任意）および案件検索用の案件フォーム定義ファイル（任意）の注意事項をお読みください。詳細については、「13. 定義ファイル」の「案件フォーム定義ファイル（任意）」および「案件検索用の案件フォーム定義ファイル（任意）」を参照してください。

[案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面を起動させるには、`jssformcustomizer` コマンドを実行します。`jssformcustomizer` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「`jssformcustomizer`（案件フォーム定義ファイル編集）」を参照してください。

案件フォーム定義ファイルのカスタマイズでは次のショートカットを使用できます。

- [Ctrl] + [O] キー
案件フォーム定義ファイルを開きます。
- [Ctrl] + [A] キー
案件フォーム定義ファイルを保存します。
- [Ctrl] + [R] キー
[案件フォーム定義] 画面（案件フォーム定義）を開きます。
- [Ctrl] + [D] キー
該当項目を案件フォーム定義ファイルから削除します。
- [Ctrl] + [P] キー
案件フォーム定義情報を表示します。

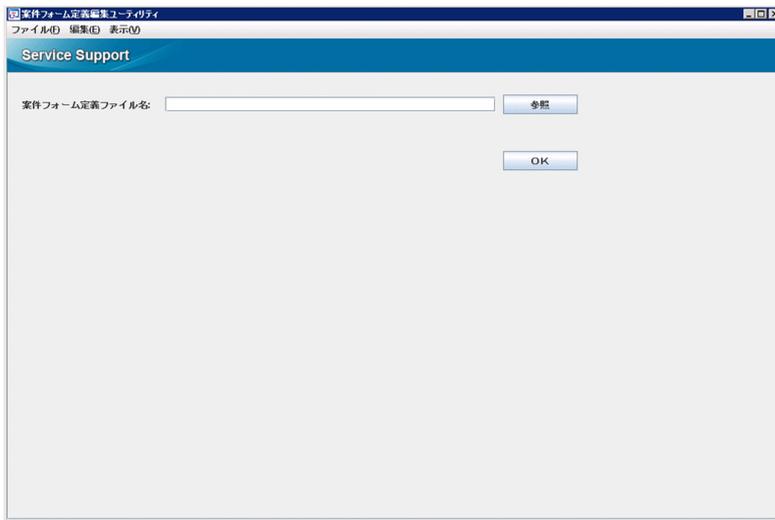
9.10.1 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ手順

案件フォーム定義ファイルのカスタマイズする手順を次に示します。

1. `jssformcustomizer` コマンドを実行する。

`jssformcustomizer` コマンドを実行すると、次の図に示す [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面（案件フォーム定義選択）が表示されます。

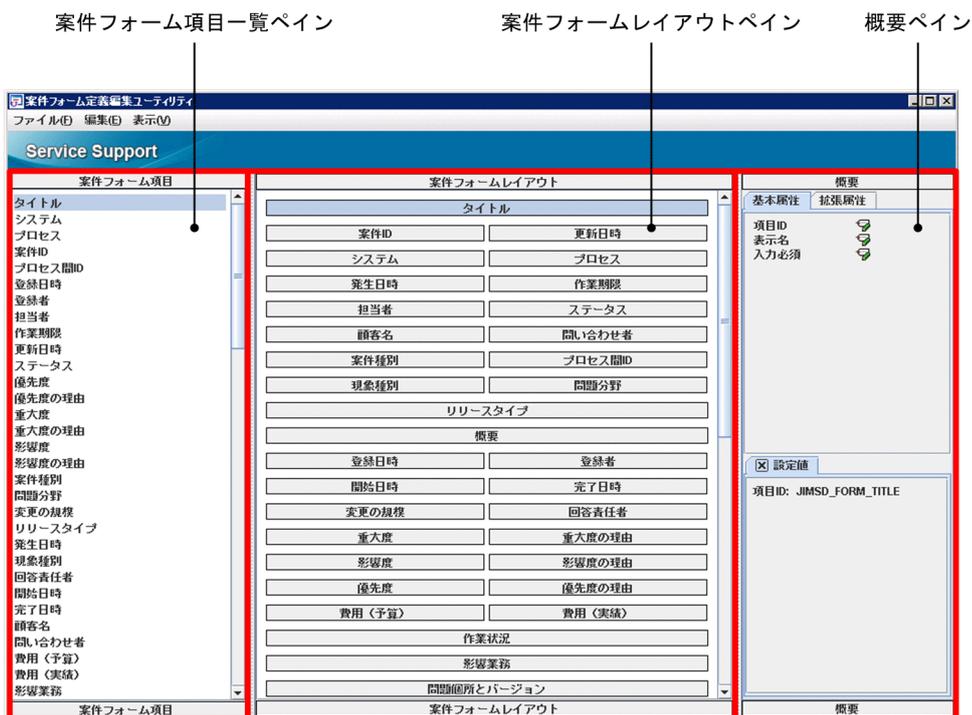
図 9-24 [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォーム定義選択)



2. [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォーム定義選択) で編集したい案件フォーム定義ファイルを選択する。

編集したい案件フォーム定義ファイルをフルパスで指定してください。また、[参照] ボタンをクリックすると、ファイル選択のダイアログボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、次の図に示す [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォームカスタマイズ) が表示されます。

図 9-25 [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォームカスタマイズ)



- 案件フォーム項目一覧ペイン
案件フォームに表示できる項目の一覧を表示されます。
- 案件フォームレイアウトペイン

案件フォーム定義ファイルに設定されている情報がレイアウト表示されます。この画面で案件フォーム定義ファイルを編集できます。

- **概要ペイン**

次のタブで構成されています。

基本属性タブ

案件フォーム項目一覧ペイン、または案件フォームレイアウトペインで選択した項目の次の属性が表示されます。

- ・ 項目 ID
- ・ 表示名
- ・ 選択肢コード
- ・ 入力必須

アイコンをクリックすると、設定値タブに情報が表示されます。

拡張属性タブ

案件フォーム項目一覧ペイン、または案件フォームレイアウトペインで選択した項目の「検索画面への表示」属性が表示されます。アイコンをクリックすると、設定値タブに情報が表示されます。

設定値タブ

案件フォーム項目一覧ペイン、または案件フォームレイアウトペインで選択した項目の属性名称と設定値が表示されます。また、設定値を編集できます。

編集したい案件フォーム定義ファイルを誤って選択した場合は、[案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォームカスタマイズ) のメニューから [ファイル] - [案件フォーム定義ファイルを開く] で、案件フォーム定義ファイルを選択し直せます。

3. [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォームカスタマイズ) で案件フォーム定義ファイルを編集する。

案件フォーム定義ファイルを次のとおり編集できます。

項目を追加する場合

表示項目を案件フォーム項目一覧ペインから案件フォームレイアウトペインにドラッグ&ドロップしてください。

項目の表示位置を変更する場合

案件フォームレイアウトペイン内の表示項目を任意の位置にドラッグ&ドロップしてください。

項目を削除する場合

案件フォーム項目一覧ペイン、または案件フォームレイアウトペインで削除したい項目を選択し、[案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォームカスタマイズ) のメニューから [編集] - [レイアウトから削除] を選択してください。

項目の値を設定する場合

案件フォーム項目一覧ペイン、または案件フォームレイアウトペインで値を設定したい項目を選択し、概要ペインの設定値タブで値を設定してください。

4. [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォームカスタマイズ) のメニューから [ファイル] - [案件フォーム定義] を選択し、案件フォーム名およびコメントを設定する。

次の図に示す [案件フォーム定義] 画面 (案件フォーム定義) が表示されます。必要に応じて案件フォーム名およびコメントを設定してください。

図 9-26 [案件フォーム定義] 画面 (案件フォーム定義)

案件フォーム名

案件フォーム名を 255 バイト以下の文字列で指定します。なお、制御文字は使用できません。

コメント

コメントを 1,024 バイト以下の文字列で指定します。なお、制御文字は使用できません。

5. [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォームカスタマイズ) のメニューから [ファイル] - [保存] を選択し、案件フォーム定義ファイルを保存する。

[案件フォーム定義ファイル保存] 画面 (案件フォーム定義ファイルの保存ダイアログ) が表示されます。保存した案件フォーム定義ファイルを JP1/Service Support に反映させるには、jssformdef コマンドを実行してください。jssformdef コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssformdef (案件フォーム登録)」を参照してください。

注意事項

- [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面で全角文字を指定した場合、全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。
- 案件フォーム定義ファイルの項目を追加する場合、案件フォーム定義ファイルで <item-def> と </item-def> の間に指定する項目情報の XML 形式は、項目の型によって異なります。項目 ID と項目の型との関係は、「表 13-21 各案件フォーム定義ファイルでの定義状態」を参照してください。また、項目の型と項目の XML 形式の関係を次に示します。追加したい項目 ID の型を確認し、その型に該当する項目の形式で XML を記述して下さい。

項目の形式	タグ名	項目の型
テキスト入力系の項目の形式	<item-text>	text, textarea
数値入力系の項目の形式	<item-number>	number
ユーザー、ロール指定系の項目	<item-user>	user, userrole
選択系の項目の形式	<item-code>	code

項目の形式	タグ名	項目の型
日時指定系の項目の形式	<item-datetime>	datetime
リンク指定系の項目の形式	<item-link>	aim, item, url

9.10.2 案件フォーム定義情報の参照

案件フォーム定義ファイルの情報を参照する手順を次に示します。

1. [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォームカスタマイズ) のメニューから [表示] - [プレビュー] を選択する。

[案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面を表示させる手順については、[9.10.1 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ手順] を参照してください。

次の図に示す [IT プロセス管理] 画面が表示されます。

図 9-27 [IT プロセス管理] 画面 (案件フォーム定義情報のプレビュー)

表示できる [IT プロセス管理] 画面は 1 画面だけです。新しく [IT プロセス管理] 画面を表示した場合は、表示していた [IT プロセス管理] 画面の情報は削除されます。複数画面を比較する場合は、新しく [IT プロセス管理] 画面を表示する前に、表示中の画面を html ファイルで保存してください。保存したファイルをブラウザで表示することで、内容を比較できます。

jsformcustomizer コマンドを終了させると、[IT プロセス管理] 画面も終了します。

確認できる内容は次のとおりです。

- 項目位置
- 項目名称

- 候補値
- 必須/クローズ時必須

注意事項

[IT プロセス管理] 画面を表示すると、セキュリティ保護のための警告メッセージが表示されることがあります。その場合、メッセージの内容に従ってコンテンツを許可してください。

9.11 ステータスのカスタマイズ

ユーザーの運用に合わせて、ステータスをカスタマイズできます。ステータスのカスタマイズ方法を、次に示します。

- 使用するステータスの選択
プロセス、またはプロセスワークボードごとに、使用するステータスを選択できます。ユーザー拡張用のステータスを使用することもできます。
- ステータスの表示順序変更
プロセス、またはプロセスワークボードごとに、使用できるステータスの表示順序を変更できます。ステータスの表示順序は、案件の処理の順番となります。このため、案件を処理する順番にステータスを並べる必要があります。案件は上から表示されているステータスから下に向かって処理されます。変更したステータスの表示順序は、ステータスを設定する画面に反映されます。なお、[進捗表示] 画面に表示されるステータスの表示順序にも反映されます。
- ステータス名称の編集
JP1/Service Support 全体で使用するステータスの名称を編集できます。
- ステータスの制限
プロセス、またはプロセスワークボードごとに、ステータスを制限できます。
- エスカレーションの禁止
ステータスごとの案件のエスカレーションを禁止できます。

ステータスは、次に示す画面からカスタマイズできます。

- [ステータス管理] 画面
プロセス共通の設定をする画面です。この画面を表示できるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザーです。
- [ステータス管理] 画面（プロセスワークボード固有）
プロセスワークボードごとの設定をする画面です。この画面を表示できるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザー、およびプロセスワークボード管理者です。

それぞれのカスタマイズ手順を次に示します。

9.11.1 使用するステータスの選択

使用するステータスは、次に示す方法で選択できます。

- プロセス共通で使用するステータスを選択する
- プロセスワークボードごとに使用するステータスを選択する

それぞれの手順を次に示します。

(1) プロセス共通で使用するステータスを選択する

プロセス共通で使用するステータスを選択する手順を次に示します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザーです。

1. メイン画面（案件一覧）で最上位の「プロセスワークボード」を選択して、メニューから「アクション」 - 「ステータスの管理」を選択する。

「ステータス管理」画面が表示されます。「ステータス管理」画面の表示例を、次の図に示します。

図 9-28 「ステータス管理」画面



2. 使用したいステータスの「使用」チェックボックスをチェックする。

「使用」チェックボックスがチェックされているステータスを、該当するプロセスで使用できます。なお、設定したいプロセスは、タブで選択してください。

3. メニューから「登録」を選択する。

使用するステータスが変更され、メイン画面（案件一覧）に戻ります。

注意事項

- 未使用に変更されたステータスのアクセス権は削除されます。
- 「受付（ステータス ID：JIMSD_STAT_INQUIRY）」、および「クローズ（ステータス ID：JIMSD_STAT_CLOSE）」のステータスは、メイン画面（案件状況）の案件状況の確認で使用するため、使用不可にできません。

📄 メモ

- メイン画面（案件一覧）で最上位の [プロセスワークボード] を選択して、右クリックメニューから [ステータスの管理] を選択しても、[ステータス管理] 画面を表示できます。
- ユーザー拡張用のステータスはデフォルトで 10 種類用意されていますが、ユーザーの運用に合わせて数を変更できます。ユーザー拡張用のステータスの数は、システムプロパティファイルで変更します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「[システムプロパティファイル \(hptl_jpl_imss_main_setting.properties\)](#)」を参照してください。
- JP1/Service Support から JP1 イベントを発行する設定の場合、[JP1 イベント発行] チェックボックスが表示され、案件のステータス変更時に JP1 イベントを発行するかどうかについて設定できます。

詳細については、「[9.16.1\(1\) JP1/Service Support での設定](#)」を参照してください。

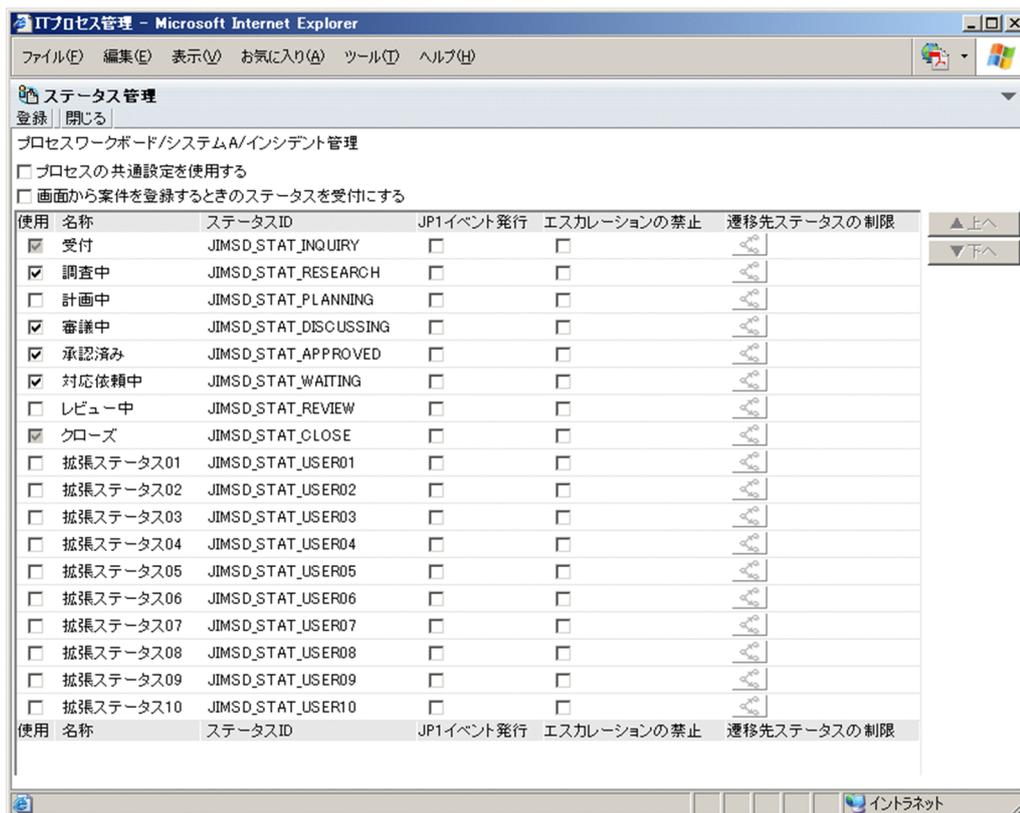
(2) プロセスワークボードごとに使用するステータスを選択する

プロセスワークボードごとに使用するステータスを選択する手順を次に示します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザー、およびプロセスワークボード管理者です。

1. メイン画面（案件一覧）で目的のプロセスワークボードを選択して、メニューから [アクション] - [ステータスの管理] を選択する。

[ステータス管理] 画面（プロセスワークボード固有）が表示されます。[ステータス管理] 画面（プロセスワークボード固有）の表示例を、次の図に示します。

図 9-29 [ステータス管理] 画面 (プロセスワークボード固有)



2. 使用したいステータスの [使用] チェックボックスをチェックする。

[使用] チェックボックスがチェックされているステータスを、該当するプロセスワークボードで使用できます。

[プロセスの共通設定を使用する] チェックボックスをチェックすると、[ステータス管理] 画面で設定したプロセス共通の設定が適用されます。

3. メニューから [登録] を選択する。

使用するステータスが変更され、メイン画面 (案件一覧) に戻ります。

注意事項

- プロセスワークボードの状態が「削除待ち」の場合は、[ステータス管理] 画面 (プロセスワークボード固有) を表示できません。
- 未使用に変更されたステータスのアクセス権は削除されます。
- [プロセスの共通設定を使用する] チェックボックスをチェックして [登録] を選択すると、[ステータス管理] 画面 (プロセスワークボード固有) で設定した情報は削除されます。そのあとに [プロセスの共通設定を使用する] チェックボックスからチェックを外した場合は、[ステータス管理] 画面で設定したプロセス共通の設定が適用されます。

メモ

- メイン画面（案件一覧）で目的のプロセスワークボードを選択して、右クリックメニューから [ステータスの管理] を選択しても、[ステータス管理] 画面を表示できます。
- JP1/Service Support から JP1 イベントを発行する設定の場合、[JP1 イベント発行] チェックボックスが表示され、案件のステータス変更時に JP1 イベントを発行するかどうかについて設定できます。
詳細については、「[9.16.1\(1\) JP1/Service Support での設定](#)」を参照してください。

9.11.2 ステータスの表示順序変更

ステータスの表示順序の変更方法を、次に示します。

- プロセス共通のステータスの表示順序を変更する
- プロセスワークボードごとにステータスの表示順序を変更する

それぞれの手順を次に示します。

(1) プロセス共通のステータスの表示順序を変更する

プロセス共通のステータスの表示順序を変更する手順を次に示します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザーです。

1. メイン画面（案件一覧）で最上位の [プロセスワークボード] を選択して、メニューから [アクション] - [ステータスの管理] を選択する。
[ステータス管理] 画面が表示されます。
2. 順序を変更したいステータスを選択して、[▲上へ] ボタン、または [▼下へ] ボタンをクリックする。
ステータスの名称、またはステータス ID をクリックすると、ステータスが選択できます。
[▲上へ] ボタンをクリックすると、選択したステータスが 1 段上に移動します。[▼下へ] ボタンをクリックすると、選択したステータスが 1 段下に移動します。[▲上へ] ボタン、および [▼下へ] ボタンを使って、ステータスを任意の位置に移動させてください。
なお、選択したいプロセスは、タブで選択してください。
3. ステータスを任意の表示順序に変更し終わったら、メニューから [登録] を選択する。
ステータスの表示順序が変更され、メイン画面（案件一覧）に戻ります。

(2) プロセスワークボードごとにステータスの表示順序を変更する

プロセスワークボードごとにステータスの表示順序を変更する手順を次に示します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザー、およびプロセスワークボード管理者です。

1. メイン画面（案件一覧）で目的のプロセスワークボードを選択して、メニューから [アクション] - [ステータスの管理] を選択する。
[ステータス管理] 画面（プロセスワークボード固有）が表示されます。
2. 順序を変更したいステータスを選択して、[▲上へ] ボタン、または [▼下へ] ボタンをクリックする。
ステータスの名称、またはステータス ID をクリックすると、ステータスが選択できます。
[▲上へ] ボタンをクリックすると、選択したステータスが 1 段上に移動します。[▼下へ] ボタンをクリックすると、選択したステータスが 1 段下に移動します。[▲上へ] ボタン、および [▼下へ] ボタンを使って、ステータスを任意の位置に移動させてください。
3. ステータスを任意の表示順序に変更し終わったら、メニューから [登録] を選択する。
ステータスの表示順序が変更され、メイン画面（案件一覧）に戻ります。

注意事項

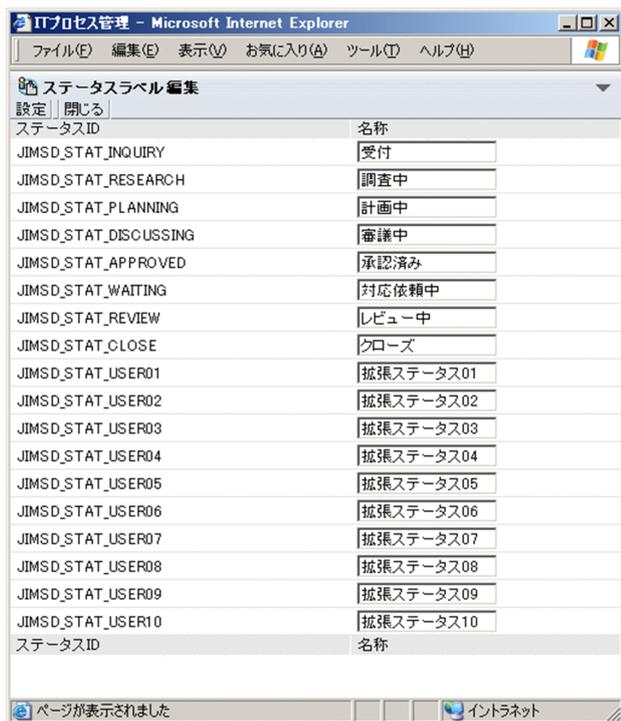
- プロセスワークボードの状態が「削除待ち」の場合は、[ステータス管理] 画面（プロセスワークボード固有）を表示できません。
- [プロセスの共通設定を使用する] チェックボックスをチェックして [登録] を選択すると、[ステータス管理] 画面（プロセスワークボード固有）で設定した情報は削除されます。そのあとに [プロセスの共通設定を使用する] チェックボックスからチェックを外した場合は、[ステータス管理] 画面で設定したプロセス共通の設定が適用されます。

9.11.3 ステータス名称の編集

ステータスの名称を編集する手順を次に示します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザーです。

1. メイン画面（案件一覧）で最上位の [プロセスワークボード] を選択して、メニューから [アクション] - [ステータスの管理] を選択する。
[ステータス管理] 画面が表示されます。
2. メニューから [ラベルの編集] を選択する。
[ステータスラベル編集] 画面が表示されます。

図 9-30 [ステータスラベル編集] 画面



3. ステータスの名称を編集する。

1 文字以上 255 文字以内の半角文字列または 1 文字以上約 85 文字以内の全角文字列で、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列を入力してください。

4. ステータスの名称をすべて編集し終わったら、[設定] を選択する。

編集されたステータスの名称が登録され、[ステータス管理] 画面に戻ります。

注意事項

- メイン画面（案件状況）での案件の状況確認に影響が出るため、「受付」や「クローズ」など、デフォルトで提供されているステータスは意味が大幅に異なる名称に編集しないでください。
- メイン画面（案件状況）での状況確認の集計対象となる案件は、ステータス ID で特定されています。例えば、ユーザー拡張用ステータスを使用して「審議中」という名称のステータスを新たに作成しても、「審議中」としては集計されません。
- 同じステータスの名称は登録できません。
- メイン画面（案件状況）での状況確認の集計単位「審議中」は、ステータス ID 「JIMSD_STAT_DISCUSSING」を集計対象としています。「審議中」の名称を編集する場合は、「審議中」として集計されることを考慮した名称に編集してください。
- ステータス名称を編集した場合は、案件情報インポートコマンドに影響が出るため、コードマッピングファイルもあわせて編集する必要があります。詳細については、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemimport_codemap.conf)」を参照してください。

9.11.4 ステータスの制限の設定

ステータスの制限として、次の機能があります。

- 登録された案件のステータスを「受付」だけに制限する
- 遷移先のステータスを制限する

それぞれの手順を次に示します。

(1) 登録された案件のステータスを「受付」だけに制限する

[案件作成] 画面から登録された案件のステータスを「受付」だけに制限する手順を次に示します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザー、およびプロセスワークボード管理者です。

1. メイン画面（案件一覧）で目的の [プロセスワークボード] を選択して、メニューから [アクション] - [ステータスの管理] を選択する。
[ステータス管理] 画面（プロセスワークボード固有）が表示されます。
2. [画面から案件を登録するときのステータスを受付にする] チェックボックスをチェックしたら、メニューから [登録] を選択する。
設定が適用され、メイン画面（案件一覧）に戻ります。

注意事項

[画面から案件を登録するときのステータスを受付にする] チェックボックスをチェックしているプロセスワークボードに対して、案件をエスカレーションする場合、選択できるステータスは「受付」だけです。

(2) 遷移先のステータスを制限する

遷移先のステータスを制限する手順を次に示します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザー、およびプロセスワークボード管理者です。

1. メイン画面（案件一覧）で目的の [プロセスワークボード] を選択して、メニューから [アクション] - [ステータスの管理] を選択する。
[ステータス管理] 画面（プロセスワークボード固有）が表示されます。
2. [プロセスの共通設定を使用する] チェックボックスのチェックを外す。
チェックを外すと、「使用」のチェックボックスがチェックされているステータスの設定項目が活性となります。
3. 目的のステータスの「遷移先ステータスの制限」の設定ありアイコン、または設定なしアイコンをクリックする。
 -  : 設定ありアイコン

遷移先ステータスが制限されていることを示します。

-  : 設定なしアイコン

遷移先ステータスが制限されていないことを示します。

[遷移先ステータス設定] 画面が表示されます。

図 9-31 [遷移先ステータス設定] 画面



4. [遷移先ステータスを制限しない] チェックボックスのチェックを外す。

チェックを外すと、「設定」のチェックボックスがチェックされているステータスの設定項目が活性となります。

5. 遷移先としたいステータスの「設定」のチェックボックスをチェックしたら、メニューから「設定」を選択する。

設定が適用され、メイン画面（案件一覧）に戻ります。

注意事項

- 遷移先として指定したステータスが、使用するステータスとして登録されていない場合、[案件編集] 画面で選択できるステータスとして表示されません。
- 遷移先として指定したすべてのステータスが、使用するステータスとして登録されていない場合、[案件編集] 画面で選択できるのは、使用できるステータスとして登録されているすべてのステータスです。

9.11.5 エスカレーションの禁止の設定

案件のエスカレーションを禁止する手順を次に示します。この操作ができるのは、プロセスワークボード管理ロールに所属するユーザー、およびプロセスワークボード管理者です。

1. メイン画面（案件一覧）で目的の「プロセスワークボード」を選択して、メニューから「アクション」－「ステータスの管理」を選択する。
「ステータス管理」画面（プロセスワークボード固有）が表示されます。
2. 「プロセスの共通設定を使用する」チェックボックスのチェックを外す。
チェックを外すと、「使用」のチェックボックスがチェックされているステータスの設定項目が活性となります。
3. 目的のステータスの「エスカレーションの禁止」のチェックボックスをチェックしたら、メニューから「登録」を選択する。
設定が適用され、メイン画面（案件一覧）に戻ります。

9.12 案件を操作するための環境設定

案件の操作に必要な環境設定について、「必ず設定」と「任意」に分けて表 9-5 と表 9-6 に示します。

表 9-5 案件を操作するための環境設定（必ず設定）

操作	操作の詳細および参照先
[ヘルプ] ボタンからのマニュアルの表示	[ヘルプ] ボタンからマニュアルを表示させるには、JP1/Service Support にマニュアルを組み込む必要がある。マニュアルの組み込み手順については、「6.8 マニュアルの組み込み手順」を参照のこと。

表 9-6 案件を操作するための環境設定（任意）

操作	操作の詳細および参照先
ログイン	ログイン後に表示されるメイン画面の切り替え ログイン後に表示されるメイン画面は、ログインしたユーザーが所属するロールによって変わる。デフォルトでは、作業管理ロールに所属するユーザーはメイン画面（案件状況）、それ以外のユーザーはメイン画面（案件一覧）が表示される。ロールごとのログイン後のメイン画面は、システムプロパティファイルで設定できる。 システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照のこと。
案件の検索	メイン画面での案件の簡易検索 次の二つの項目が変更できる。 <ul style="list-style-type: none"> 検索対象項目数の変更 メイン画面での案件の簡易検索で同時に指定できる検索項目数は、システムプロパティファイルで変更できる。システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照のこと。 検索対象項目の変更 デフォルトで設定されている検索対象項目（「タイトル」、「概要」、「作業状況」）は、システムプロパティファイルで変更できる。システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照のこと。
	[案件共通項目検索条件指定] 画面または [案件検索条件指定] 画面での案件の検索 「検索結果表示件数/頁」の値を設定する際、プルダウンメニューに表示される値は、システムプロパティファイルで変更できる。システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照のこと。
案件の登録	メールで案件を登録できるユーザーの設定 案件の不正な登録を防ぐため、メールで案件を登録できるユーザーをメール定義ファイルであらかじめ設定しておく必要がある。 メール定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル(jplimss_mail_setting.conf)」を参照のこと。

操作		操作の詳細および参照先
案件の登録	JP1/IM - Manager と連携した案件の登録	JP1/IM - Manager と連携すると、案件を自動で登録できる。案件の自動登録については、「9.16.1 JP1/IM - Manager と連携するための環境設定」を参照のこと。
	案件フォームのカスタマイズ	案件フォーム定義ファイルおよび jssformdef コマンドで案件フォームをカスタマイズできる。それぞれ、次を参照のこと。 <ul style="list-style-type: none"> 「12. コマンド」の「jssformdef (案件フォーム登録)」 「13. 定義ファイル」の「案件フォーム定義ファイル (任意)」
案件情報の編集	[ロールメンバ選択] チェックボックスのチェック	[案件作成] 画面または [案件編集] 画面で、[ロールメンバ選択] チェックボックスをチェックした場合、プルダウンメニューに表示されるメンバーが多過ぎると、表示性能が悪くなり操作に影響を与える。担当者に選択できるロール、ロールに所属するメンバー、ユーザーの合計数は 100 個程度とすること。ロールのメンバーを変更する手順については、「9.3 ロールの作成」を参照のこと。 また、選択できる担当者を変更するには、対象となるプロセスワークボードへのアクセス権を変更する必要がある。アクセス権の変更については、「9.7 アクセス権の割り当て」を参照のこと。 なお、[ロールメンバ選択] チェックボックスは、デフォルトでは表示されない。システムプロパティファイルで設定を変更すると表示される。システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照のこと。
案件の削除	案件の一括削除	コマンドを使うと、案件を一括で削除できる。コマンドを使った案件の一括削除の手順については、「11.2.2 案件管理 DB からの案件の一括削除」を参照のこと。
案件の詳細情報の出力	案件の詳細情報の CSV ファイル (案件詳細情報ファイル) への出力	案件詳細情報ファイルは、[案件検索結果一覧] 画面だけでなく、jssitemlist コマンドでも出力できる。jssitemlist コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssitemlist (案件一覧出力)」を参照のこと。
案件履歴の出力	案件履歴の CSV ファイル (案件履歴情報ファイル) への出力	案件履歴情報ファイルは、jssitemhistory コマンドで出力できる。jssitemhistory コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssitemhistory (案件履歴出力)」を参照のこと。
関連リンクの設定	<ul style="list-style-type: none"> メイン画面のオプションメニュー「関連リンク」の設定 メイン画面 (案件状況) のメニュー「関連リンク」の設定 	「関連リンク」に表示されるリンクの数、表示名および URL は、関連リンクプロパティファイルで設定できる。関連リンクプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「関連リンクプロパティファイル (hptl_jp1_imss_link_setting.properties)」を参照のこと。
案件のしきい値の設定	長期化案件と判断する時間数のしきい値や警告表示する案件数のしきい値の設定	長期化案件と判断する時間数のしきい値や、警告表示する案件数 (長期化案件など) のしきい値は、[プロセスワークボード作成] 画面および [プロセスワークボード編集] 画面で変更できる。詳細については、「9.6 プロセスワークボードの作成」を参照のこと。 また、各しきい値は、案件集計プロパティファイルでも変更できる。詳細については、「13. 定義ファイル」の「案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties)」を参照のこと。

操作	操作の詳細および参照先
<p>案件状況の集計データ出力</p>	<p>[集計データのファイル出力] 画面から、次の二つの CSV ファイルを出力できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 案件データ CSV ファイル (OutputItemData.csv) • コードデータ CSV ファイル (OutputItemCodeData.csv) <p>出力された CSV ファイルの出力項目については、「3.16.3(1) 出力される CSV ファイルの内容」を参照のこと。</p>
<p>案件の編集状態の解除</p>	<p>[案件編集] 画面を WWW ブラウザーの [×] ボタンで閉じた場合、案件の編集状態を解除するかどうかをシステムプロパティファイルで設定できる。システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)」を参照のこと。</p>
<p>案件管理ウィンドウの設定</p>	<p>特定の期間に登録された案件だけを操作対象とする案件管理ウィンドウの使用可否、および案件管理ウィンドウを使用する場合のウィンドウサイズ（特定の期間）を、システムプロパティファイルで設定できる。システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)」を参照のこと。</p>

9.13 案件ごとに参照権限を設定するための環境設定

案件ごとに参照権限を設定する場合、あらかじめ設定が必要です。案件ごとに参照権限を設定するための環境設定手順を、次に示します。

1. 案件ごとに参照権限を設定するプロセスワークボードを作成する。

プロセスワークボードの作成方法については、「9.6 プロセスワークボードの作成」を参照してください。

2. プロセスワークボード管理者を設定する。

プロセスワークボード管理者の設定については、「9.6 プロセスワークボードの作成」を参照してください。

3. 案件の参照権限を設定する項目として使用する拡張ユーザー情報を選定する。

案件の参照権限を設定する項目を、拡張ユーザー情報 01～05 から一つ選定します。

4. 案件フォームをカスタマイズする。

手順 1 で作成したプロセスワークボードで使用する案件フォームをカスタマイズします。

手順 3 で選定した拡張ユーザー情報を案件フォームに追加します。その際、項目の型を「userrole」にし、入力必須項目として設定してください。なお、拡張ユーザー情報の表示名は任意に設定できますが、このマニュアルでは「案件ごとの参照権限所有者」を表示名としています。

案件フォームのカスタマイズについては、「9.10 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ」を参照してください。

上記のように案件フォームをカスタマイズした場合の「案件作成」画面を、次に示します。

図 9-32 「案件作成」画面（案件ごとに参照権限を設定した場合）

The screenshot shows a web browser window titled "ITプロセス管理 - Windows Internet Explorer". The page content is a form for creating a case. The form is organized into several sections with labels and input fields. The top section includes "登録 | アクション | 閉じる" buttons. Below that are fields for "タイトル*", "案件ID", "システム" (set to "受注管理システム"), "プロセス" (set to "インシデント管理"), "発生日時", "作業期限", "担当者*", "ステータス*" (set to "受付"), "案件ごとの参照権限所有者*", "案件種別", "プロセスID", "顧客名", "問題分野", "概要", "登録日時", "登録者", "開始日時", "完了日時", "重大度", "重大度の理由", "影響度", "影響度の理由", "優先度", "優先度の理由", and "作業状況". The browser's status bar at the bottom shows "ページが表示されました", "信頼済みサイト | 保護モード 無効", and "100%".

5. プロセスワークボードにアクセス権を設定する。

手順 1 で作成したプロセスワークボードにアクセス権を設定します。アクセス権の設定については、「9.7 アクセス権の割り当て」を参照してください。

アクセス権は、あらかじめ設計が必要です。アクセス権の設計については、「5.2.3 アクセス権の割り当ての設計」を参照してください。

6. 案件管理 DB をバックアップする。

jssdbbackup.bat (データベースバックアップ) コマンドを実行して案件管理 DB をバックアップします。引数には、-maint オプションを指定してください。jssdbbackup.bat (データベースバックアップ) コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

7. 案件ごとの参照権限設定機能をセットアップする。

jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) コマンドを実行します。引数の-id オプションには、手順 3 で選定したユーザー拡張情報の案件フォーム項目 ID を指定してください。jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ)」を参照してください。

8. プロセスワークボードの案件ごとの参照権限設定機能を有効にする。

[プロセスワークボード編集] 画面の [案件ごとに参照権限の設定を行う] をチェックします。プロセスワークボードの編集については、「9.6.2 プロセスワークボード情報の編集」を参照してください。

9. 案件管理 DB をバックアップする。

案件ごとに参照権限を設定するための環境を設定したあとに案件管理 DB をバックアップし、このバックアップファイルを基にリカバリーすることによって、手順 7 以降の操作が不要となります。

jssdbbackup.bat (データベースバックアップ) コマンドを実行して案件管理 DB をバックアップします。引数には、-maint オプションを指定してください。jssdbbackup.bat (データベースバックアップ) コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

注意事項

プロセスワークボードの運用を開始する前に、案件ごとに参照権限を設定するための環境を設定してください。運用を開始したあとに、案件の参照権限を設定する項目として使用する拡張ユーザー情報を変更しないでください。

9.14 定義ファイルによる環境設定

JP1/Service Support の環境設定に使用する、プロパティファイルおよび定義ファイルを次の表に示します。

表 9-7 環境設定に使用するプロパティファイルと定義ファイル

ファイル名	説明
CSV カラム名マッピングファイル (jplimss_itemcsv_columnmap.conf)	jssitemexportEx コマンドで出力する案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルのヘッダー情報を設定できる。
CSV 設定ファイル (hptl_jp1_imss_csv_setting.properties)	jssitemexportEx コマンドおよび jssitemimportEx コマンドで扱う案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルで、改行文字をどのように扱うかを設定できる。
JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jpl_event_setting.properties)	JP1/Service Support からの JP1 イベント発行可否、および JP1 イベントを発行する JP1/Base のイベントサーバ名を設定できる。
JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jpl_product_cooperation_setting.properties)	特定の JP1 製品と連携の可否、およびその JP1 製品にアクセスできるユーザーを設定できる。
URL 定義ファイル (jsslogin.url)	JP1/Service Support の画面を表示する際の URL を定義できる。
案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties)	案件作成時の一部項目への自動入力可否、および自動入力する値について設定できる。
案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties)	メイン画面（案件状況）で、案件の状況を判断したり、警告表示したりするためのしきい値などを設定できる。
関連リンクプロパティファイル (hptl_jp1_imss_link_setting.properties)	メイン画面（案件状況）に表示される関連リンクについて設定できる。
機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties)	JP1/UCMDB サーバと接続するためのユーザー ID およびパスワードを定義するファイルです。
システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)	案件の表示や作成などで使用する画面の表示、案件の検索や入力補助機能、他製品との連携などについて設定できる。
ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jp1_imss_jpl_event_status.properties)	ステータス変更 JP1 イベントに格納する拡張属性について設定できる。
操作ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_access_log.properties)	操作ログについて設定できる。
滞留案件定義ファイル (jplinformleave_setting.conf)	jssinformleave コマンドを実行する場合に、案件処理が滞留されていると見なすための条件を定義できる。
タスク実行サービス定義ファイル (jplimss_service_setting.conf)	JP1/Service Support - Task Service サービスによるコマンドの実行可否や実行時刻などを設定できる。
入力候補値設定ファイル（任意）	入力補助機能で、入力候補値を表示するため、入力候補値を設定しておくファイル。

ファイル名	説明
入力補助機能プロパティファイル (hptl_jpl_imss_input_assist_plugin.properties)	入力候補値設定ファイルの解析結果を出力するログファイルについて設定できる。
メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル (hptl_jpl_imss_main_log.properties)	画面操作、および定義ファイル読み込み時の実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)	メールを送信するタイミングや認証方式、メールで通知するための情報（メールの主題や本文、送信者情報など）、およびメールで案件を登録するための情報を設定できる。
文字列置換設定ファイル (jplimss_replace_string_setting.conf)	jssitementry コマンドで案件を登録する際に、登録する案件の textarea 型の項目に含まれている任意の文字列を改行文字に置換するかどうかを設定できる。
ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jpl_imss_usermgr.properties)	[ユーザー管理] 画面, [ロール管理] 画面など, ユーザーやロールに関する画面の項目の初期ソートキーなどを設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplaclexport.conf)	jssaclexport コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplaclimport.conf)	jssaclimport コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplauthusersetup.conf)	jssauthusersetup コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplinformleave.conf)	jssinformleave コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplinformperiod.conf)	jssinformperiod コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplitemcount.conf)	jssitemcount コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplitemedit.conf)	jssitemedit コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplitementry.conf)	jssitementry コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplitementrybyemail.conf)	jssitementrybyemail コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplitemexportEx.conf)	jssitemexportEx コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplitemimportEx.conf)	jssitemimportEx コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplitemstore.conf)	jssitemstore コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。

ファイル名	説明
ユーザーログ定義ファイル (jplitemstoredbrotate.conf)	jssitemstoredbrotate コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplmailnotification.conf)	メール通知の実行結果を出力するログファイルについて設定できる。
ユーザーログ定義ファイル (jplrefaclsetup.conf)	jssrefaclsetup コマンドの実行結果を出力するログファイルについて設定できる。

プロパティファイルおよび定義ファイルを設定する手順については、「[13. 定義ファイル](#)」を参照してください。

9.15 メールで案件を登録または通知するための環境設定

メールで案件を登録したり，メールで通知したりする場合，事前に環境設定が必要です。それぞれに必要な環境設定について説明します。

9.15.1 メールで案件を登録するための環境設定

メールでの案件登録に必要な環境設定について次に示します。

- メール管理サーバの設置
- 添付ファイル管理フォルダの作成
- メールを送信するメールクライアントの設定
- コマンドによる一時受付プロセスワークボードおよびマスターシステムの作成
- メール定義ファイルでの設定
- タスク実行サービス定義ファイルでの設定※
- ユーザーログ定義ファイルでの設定※
- [プロセスワークボード作成] 画面，または [プロセスワークボード編集] 画面での設定

注※

設定は任意

それぞれの詳細な設定について説明します。

(1) メール管理サーバの設置

メールによる案件登録を行うためには，メールの送信先となるメール管理サーバが必要です。POP3 プロトコルを利用してメールを取得できるメールサーバを用意してください。

(2) 添付ファイル管理フォルダの作成

セキュリティ上の問題があるため，JP1/Service Support にはメールの添付ファイルを保存しません。案件登録のために送信するメールにはファイルを添付しない運用にしてください。ただし，メールにファイルが添付されていた場合に備えて，添付ファイルを保存するためのフォルダを案件管理サーバ上に作成してください。このフォルダは，担当者にも参照を許可してください。

(3) メールを送信するメールクライアントの設定

メールを送信するメールクライアントは，SMTP プロトコルを利用してメールを送信できるソフトウェアを使用してください。

(4) コマンドによる一時受付プロセスワークボードおよびマスターシステムの作成

メールから案件を登録する際、メールの主題で登録先のプロセスワークボード ID を指定しない場合、案件は一時受付プロセスワークボードに登録されます。

メールによる案件登録を行うには、一時受付プロセスワークボード、およびマスターシステムの作成が必要です。一時受付プロセスワークボード、およびマスターシステムはコマンドで作成します。セットアップ時に作成する場合はセットアップコマンドで、それ以外に作成する場合はマスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドで作成します。詳細については、「12. コマンド」の「jsssetup.bat (セットアップ)」および「jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成)」を参照してください。

(5) メール定義ファイルでの設定

メール定義ファイルで、次の表に示す項目を設定します。メール定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)」を参照してください。

表 9-8 メールによる案件登録に必要な、メール定義ファイルでの設定項目

項目	説明
メールによる案件登録の使用有無	メールによる案件登録を行うかどうかを設定する。
メールを取得するメール管理サーバの設定	メール管理サーバのアドレスとポート番号を設定する。
メールで案件を登録するユーザーの設定	メールで案件を登録するユーザーを設定する。次の二つの方法で設定できる。 <ul style="list-style-type: none">メールで案件を登録するユーザーのメールアドレスを設定する。メールで案件を登録するユーザーのドメインを設定する。
メールの送信先アドレス	メールから案件を登録するときに、あて先に指定するメールアドレスを設定する。
メールを取得するためのユーザー名とパスワード	メール管理サーバから送信されたメールを取得するために必要な、ユーザー名とパスワードを設定する。ユーザー名とパスワードは、jssauthusersetup コマンドを実行して設定する。なお、パスワードは、jssauthusersetup コマンドを実行するとプログラム変換される。
メール管理サーバから一度に取得するメールの件数	メール管理サーバから一度に取得するメールの件数を設定する。
メールの MessageID 長	メールの二重登録を防ぐために使用する、MessageID の長さを設定する。
メール一時退避ファイルの最大サイズと出力するファイルの上限数	メールによる案件登録に失敗した場合は、メールのヘッダー情報と本文の内容をメール一時退避ファイルとして出力する。メール一時退避ファイルを出力するときのファイルの最大サイズと出力するファイルの上限数を設定する。
添付ファイルの出力先フォルダ	送信されたメールの添付ファイルを保存するフォルダを設定する。
添付ファイルの出力先フォルダ数の上限と、添付ファイルのサイズの上限	メールに添付されたファイルの出力先フォルダ、および添付ファイルのサイズの上限を設定する。

項目	説明
添付ファイルの出力先フォルダ数の上限と、添付ファイルのサイズの上限	なお、案件として登録できるメールの全体サイズは、5メガバイトが上限となる。全体サイズには、タイトル、メール本文、メールヘッダー、および添付ファイルのサイズを含む。
メールによる案件登録の動作モード	メールによる案件登録の動作モードを設定する。設定できる動作モードを次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> 添付ファイルモード シングルモード マルチモード
メールの送信元アドレスを設定する案件項目の案件項目指定 ID	メールの送信元アドレスを設定する案件項目の案件項目指定 ID を設定する。
メール本文の内容を設定する案件項目の案件項目指定 ID	メールによる案件登録の動作モードがシングルモードの場合、メール本文の内容を設定する案件項目の案件項目指定 ID を設定する。
メール本文のフォーマットチェックでエラーとなった項目がある場合、案件のタイトルの冒頭に追加する文字列	メールによる案件登録の動作モードがシングルモードまたはマルチモードの場合、メール本文のフォーマットチェックでエラーとなった項目があるときに、案件のタイトルの冒頭に追加する文字列を設定する。

(6) タスク実行サービス定義ファイルでの設定

タスク実行サービス定義ファイルで、JP1/Service Support - Task Service サービスからメールによる案件登録コマンドを定期的に行わせるかどうか、およびコマンドが実行される間隔について設定します。デフォルトは 60 分です。

タスク実行サービス定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「タスク実行サービス定義ファイル (jplimss_service_setting.conf)」を参照してください。

なお、JP1/Service Support - Task Service サービスを利用してメールによる案件の登録コマンドを実行すると、案件の登録後に、案件が登録されたことを担当者にメールで通知されます。メールでの通知が不要な場合は、JP1/Service Support - Task Service サービスではなく、Windows のタスクスケジュールを利用し、-mail オプションを指定しないで jssitementrybyemail コマンドを実行してください。

(7) ユーザーログ定義ファイルでの設定

jssitementrybyemail コマンドの実行結果を、ログファイル (jssitementrybyemail_info 数字.log) に出力できます。また、jssitementrybyemail コマンド実行時にメール通知機能を使用する場合、メール通知の実行結果もログファイルに出力できます。

なお、メール定義ファイルのメールを取得するためのユーザー名とパスワードを設定するときに実行する、jssauthusersetup コマンドの実行結果もログファイル (jssauthusersetup_info 数字) .log に出力できます。

ログファイルを出力するためには、ユーザーログ定義ファイルの設定が必要です。jssitementrybyemail コマンドのログファイルについては、「13. 定義ファイル」の「ユーザーログ定義ファイル (jplitementrybyemail.conf)」を参照してください。jssitementrybyemail コマンドのメール通知のログファイルについては、「13. 定義ファイル」の「ユーザーログ定義ファイル (jplmailnotification.conf)」を

参照してください。jssauthusersetup コマンドのログファイルについては、「13. 定義ファイル」の「ユーザーログ定義ファイル (jplauthusersetup.conf)」を参照してください。

(8) [プロセスワークボード作成] 画面, または [プロセスワークボード編集] 画面での設定

[プロセスワークボード作成] 画面, または [プロセスワークボード編集] 画面で, 次の表に示す項目を設定します。詳細な設定手順については、「9.6 プロセスワークボードの作成」を参照してください。

表 9-9 メールによる案件登録に必要な, [プロセスワークボード作成] 画面, または [プロセスワークボード編集] 画面での設定項目

項目	説明
案件フォーム	メールによる案件登録には, 案件の添付ファイルを使用する。一時受付プロセスワークボード, およびメールによる案件の登録先となるプロセスワークボードでは, 使用する案件フォームに, 添付ファイルの使用が許可されている案件フォームを設定する必要がある。
メールから登録された案件の担当者	メールによる案件登録コマンドを使用する場合にだけ表示される。メールから登録された案件は, この項目であらかじめ決められているユーザーまたはロールが, 担当者として設定される。一時受付プロセスワークボードや, メールによる案件の登録先となるプロセスワークボードで, メールによる案件を処理する担当者を設定する必要がある。

9.15.2 メール通知するための環境設定

メール通知するために必要な環境設定について次に示します。

- メールを送信する SMTP サーバの設置
- メールを受信するメールクライアントの設定
- メール定義ファイルでの設定
- タスク実行サービス定義ファイルでの設定※
- ユーザーログ定義ファイルでの設定※
- [プロセスワークボード作成] 画面, または [プロセスワークボード編集] 画面での設定

注※

設定は任意

それぞれの詳細な設定について説明します。

(1) メールを送信する SMTP サーバの設置

メール通知するためには, メールの送信先となるメール管理サーバが必要です。SMTP プロトコルを利用できるメールサーバを用意してください。

(2) メールを受信するメールクライアントの設定

メールを受信するメールクライアントは、POP3 プロトコルを利用してメールを受信できるソフトウェアを使用してください。

(3) メール定義ファイルでの設定

メール定義ファイルで、次の表に示す項目を設定します。メール定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[メール定義ファイル \(jplimss_mail_setting.conf\)](#)」を参照してください。

表 9-10 メール通知に必要な、メール定義ファイルでの設定項目

項目	説明
メールを送信する SMTP サーバの設定	SMTP サーバのアドレス、およびポート番号を設定する。
送信できる最大ユーザー数	一度に送信できる最大ユーザー数を設定する。
メールの送信者	メールソフトで表示するためのメール送信者の名前とアドレスを設定する。
メール通知する場合の認証方式	メール通知する場合の認証方式を設定する。設定できる認証方式を次に示す。 <ul style="list-style-type: none">• 認証なし• POP before SMTP• SMTP-AUTH
POP3 サーバの設定	POP before SMTP 認証でメール通知する場合、POP3 サーバのアドレスおよびポート番号を設定する。
サブミッションポート番号	SMTP-AUTH 認証でメール通知する場合、サブミッション番号を設定する。
ユーザー認証するためのユーザー ID とパスワード	メール通知するときに必要な、ユーザー認証するためのユーザー ID とパスワードを設定する。ユーザー ID とパスワードは、jssauthusersetup コマンドを実行して設定する。なお、パスワードは、jssauthusersetup コマンドを実行するとプログラム変換される。
SMTP サーバおよび POP3 サーバとの接続完了を待つタイムアウト時間	SMTP サーバおよび POP3 サーバとの接続完了を待つタイムアウト時間を設定する。
SMTP サーバおよび POP3 サーバからの応答を受信するまでのタイムアウト時間	SMTP サーバおよび POP3 サーバからの応答を受信するまでのタイムアウト時間を設定する。
送信メールの文字コード	送信メールの文字コードを設定する。
各機能でメール通知を実施するかどうかの設定	機能ごとに、メール通知を実施するかどうかを設定する。なお、期限前通知および滞留案件通知の場合、この設定はない。 メール通知されるタイミングについては、「 3.12.1 メール送信のタイミング 」を参照のこと。
メールのタイトルおよび本文	機能ごとに、メールのタイトルおよび本文を設定する。
担当者あてのメール 1 通にまとめる案件の最大件数	期限前通知および滞留案件通知の場合、担当者あてに送信するメール 1 通にまとめる案件の最大件数を設定する。

項目	説明
1 通にまとめる案件の最大件数を超えた場合のメール本文	期限前通知および滞留案件通知の場合、担当者あてに送信するメール 1 通にまとめる案件の最大件数を超えたときのメール本文を設定する。

(4) タスク実行サービス定義ファイルでの設定

タスク実行サービス定義ファイルで、JP1/Service Support - Task Service サービスから滞留案件通知コマンドなどを定期的に行わせるかどうか、およびコマンドが実行される間隔について設定します。デフォルトは 60 分です。

タスク実行サービス定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「タスク実行サービス定義ファイル (jplimss_service_setting.conf)」を参照してください。

(5) ユーザーログファイル定義ファイルでの設定

ユーザー認証機能を使用する場合、ユーザー認証のためのユーザー ID およびパスワードを、jssauthusersetup (認証ユーザー設定) コマンドを実行して、メール定義ファイルに設定します。jssauthusersetup コマンドの実行結果を、ログファイル (jssauthusersetup_info 数字.log) に出力できます。

ログファイルを出力するためには、ユーザーログ定義ファイルの設定が必要です。jssauthusersetup コマンドのログファイルについては、「13. 定義ファイル」の「ユーザーログ定義ファイル (jplauthusersetup.conf)」を参照してください。

また、メール送信処理の開始および終了、およびメール送信失敗時の原因を示すメッセージが、メインサービスのユーザー公開ログに出力されます。メインサービスのユーザー公開ログの面数やサイズは、メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイルで変更できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル (hptl_jpl_imss_main_log.properties)」を参照してください。

(6) [プロセスワークボード作成] 画面、または [プロセスワークボード編集] 画面での設定

[プロセスワークボード作成] 画面、または [プロセスワークボード編集] 画面で、次の表に示す項目を設定します。詳細な設定手順については、「9.6 プロセスワークボードの作成」を参照してください。

表 9-11 メール通知に必要な、[プロセスワークボード作成] 画面、または [プロセスワークボード編集] 画面での設定項目

項目	説明
期限前メール通知設定	期限前通知コマンドを実行する場合、期限前通知するために必要な期限前日数やメール通知回数を設定する。

9.16 JP1 製品と連携するための環境設定

JP1/Service Support が、JP1 製品と連携するために必要な環境設定について説明します。

9.16.1 JP1/IM - Manager と連携するための環境設定

JP1/IM - Manager で検知した JP1 イベントを JP1/Service Support のインシデント（案件）として登録できます。また、登録された案件のステータスの状況に応じて、JP1/Service Support から JP1 イベントを発行することもできます。JP1/IM - Manager と連携するために、次の環境設定が必要です。

(1) JP1/Service Support での設定

JP1/Service Support では、JP1/IM - Manager と連携して JP1 イベントをインシデントとして登録するための環境設定は必要ありません。ただし、案件のステータスの状況に応じて JP1/Service Support から JP1 イベントを発行して JP1/IM - Manager と連携するためには、定義ファイルでの環境設定が必要です。

JP1/Service Support から JP1 イベントを発行する場合の、JP1/Service Support での設定を次に示します。

(a) 対処済み連動用 JP1 イベントの発行設定

プロセスワークボードごとに、自動登録された案件がクローズしたときに JP1/Service Support から JP1 イベントを発行するために設定する手順を次に示します。この手順を実行する前に、あらかじめ JP1/IM - Manager での設定が必要です。詳細については「(3) JP1/IM - Manager での設定」を参照してください。

1. JP1 イベント発行設定ファイルで必要な情報を設定する。

JP1 イベントを発行するために接続するイベントサーバも含めて設定します。JP1 イベント発行設定ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「JP1 イベント発行設定ファイル ([hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties](#))」を参照してください。

2. [プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面の [基本設定] タブで、[JP1 イベントの発行を行う] チェックボックスをチェックにする。

3. -evt オプションを指定して、jssitementry コマンドを実行する。

案件が登録されます。jssitementry コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jssitementry \(案件登録\)](#)」を参照してください。

登録された案件のステータスが「クローズ」に変更されたときに、JP1 イベントが発行されます。

(b) ステータス変更用 JP1 イベントの発行設定

プロセスまたはプロセスワークボードごとに、案件のステータスを変更したときに JP1/Service Support から JP1 イベントを発行するために設定する手順、および JP1 イベントに格納する案件情報を設定する手順を次に示します。

1. JP1 イベント発行設定ファイルで必要な情報を設定する。

JP1 イベントを発行するために接続するイベントサーバも含めて設定します。JP1 イベント発行設定ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties)」を参照してください。

2. ステータス変更 JP1 イベント定義ファイルで、発行する JP1 イベントに格納したい案件情報を設定する。

ユーザーが設定できるのは、0~90 個の合計サイズが 10,000 バイト未満の固有情報だけです。ステータス変更 JP1 イベント定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_status.properties)」を参照してください。

3. [プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面の [基本設定] タブで、[JP1 イベントの発行を行う] チェックボックスをチェックにする。

4. プロセス単位、またはプロセスワークボード単位の [ステータス管理] 画面で、JP1 イベントを発行するステータスを指定する。

使用中の案件ステータスに対応した [JP1 イベント発行] チェックボックスをチェックします。プロセスワークボード単位の [ステータス管理] 画面で [プロセスの共通設定を使用する] チェックボックスをチェックすると、対象のプロセスワークボードが属するプロセスで設定した案件ステータスが設定されます。

注意事項

JP1 イベントが大量に発行されると、転送遅延や転送先での登録遅延が発生する場合があります。このような場合は、JP1 イベントに格納する案件情報や上位ホストへの転送設定を見直してください。

(2) JP1/Base での設定

JP1 イベントは、JP1/Service Support から JP1/Base を経由して JP1/IM - Manager に発行されます。JP1/Service Support から JP1 イベントを発行する場合は、次に示す JP1/Base での設定が必要です。

- サービスの起動順序
- JP1 イベントの転送

(a) サービスの起動順序の設定

JP1/Service Support から JP1 イベントを発行するには、同一ホストに存在する JP1/Base のサービスを起動させる必要があります。JP1/Base のサービスが起動する前に JP1 イベントの発行を要求された場合、JP1/Base に登録できないためです。

JP1/Service Support のサービスを自動起動するように設定している場合は、JP1/Service Support のサービスより先に JP1/Base のサービスを起動させるために、JP1/Base の起動順序定義ファイル (JP1SVRPR.DAT) で、サービスの起動順序を設定してください。

起動順序定義ファイルの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

JP1/Base の起動順序定義ファイル (JP1SVRPR.DAT) の設定例を次に示します。

```
[Jp1ServiceSupportDB]
NAME=JP1/Service Support - DB Server
ServiceName=HiRDBEmbeddedEdition_JS0

[Jp1ServiceSupport]
NAME=JP1/Service Support
ServiceName=JP1_ServiceSupport

[Jp1ServiceSupportWeb]
NAME=JP1/Service Support - Web Service
ServiceName=JP1_ServiceSupport-WebService

[Jp1ServiceSupportTask]
NAME=JP1/ServiceSupport - Task Service
ServiceName=JP1_ServiceSupport-TaskService
```

注意事項

- 上記の内容は、必ず JP1/Base の定義 ([Jp1Base]セクション) よりあとに設定してください。また、各セクションは上記の順序どおりに設定してください。
- JP1/Service Support のクラスタ環境では、JP1/Base のサービス起動順序を設定しないでください。クラスタ環境でサービスの起動順序を設定したい場合は、Windows の WSFC でサービスの起動順序を設定してください。クラスタ環境での JP1 イベントの発行については、「[10.7 クラスタ環境での JP1 イベントの発行](#)」を参照してください。

(b) JP1 イベントの転送の設定

JP1/Base のデフォルトでは、重要な JP1 イベントだけを、JP1/IM - Manager の構成定義で定義された階層に従って上位のホストに転送する設定になっています。このため、重要度が「情報 (Information)」の場合に JP1/Service Support から発行される JP1 イベントは、上位のホストには転送されません。

したがって、JP1/Service Support と JP1/IM - Manager が別々のホストに存在する場合は、転送設定ファイル (forward) に転送条件を指定して、JP1 イベントを転送する必要があります。

転送設定ファイル (forward) の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

ステータス変更 JP1 イベント (イベント ID : 00005F01) を、上位のホストに転送するための設定例を次に示します。

```
to-upper
B.ID IN 5F01
E.PRODUCT_NAME IN /HITACHI/JP1/IM/SS
end-to
```

注意事項

上記の内容は、上位ホストに JP1/IM - Manager が、下位ホストに JP1/Service Support が存在すると仮定した場合の設定例です。

(3) JP1/IM - Manager での設定

JP1/IM - Manager の JP1 イベントの登録は、JP1/IM - Manager の自動アクション定義を使用して案件登録コマンドを実行します。

また、登録された案件がクローズしたときに JP1/Service Support から JP1 イベントを受け取って、自動アクションで JP1/IM - Manager 側での対処状況を「対処済」に変更したり、案件のステータスの変更に応じて定義された自動アクションを実行したりします。

なお、JP1/Service Support のユーザーが追加した拡張属性を JP1/IM - Manager 側 (JP1/IM - View) で表示させるためには、それらの拡張属性名を JP1/IM - Manager のイベント拡張属性定義ファイルに設定する必要があります。

JP1/IM - Manager の自動アクション定義、システム構成定義、およびイベント拡張属性定義の詳細については、それぞれ次のマニュアルを参照してください。

- マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」
- マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」
- マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」

(a) 自動アクションの定義

JP1/IM - Manager の自動アクション定義を設定する手順を次に示します。

1. システム構成定義情報を設定する。

JP1/IM - Manager の管理対象ホストに案件管理サーバを含めて設定します。JP1/Service Support と JP1/IM - Manager が別々のホストに存在する場合は、JP1/Service Support を JP1/IM - Manager の下位ホストとして定義します。

2. 案件を登録するための自動アクションを定義する。

インシデントとして登録する JP1 イベントなどを自動アクション定義で設定します。自動登録された案件がクローズしたときに、自動アクションによって対処状況を「対処済」にするためには、案件登録コマンドに -evt オプションを指定します。

(定義例)

```
jssitementry -b honssystem -r jp1admin -ch jp1admin -cht USER -t IM-Mentry -evt $ACTHOST $EVSEQNO
```

3. 案件の自動登録の契機となった JP1 イベントの対処状況を「対処済」にするための自動アクションを定義する。

案件がクローズしたときに対処状況を「対処済」にしたい場合に定義します。

4. 案件のステータスの変更に応じた自動アクションを定義する。

案件のステータス変更を契機に何らかのアクションを実行したい場合に定義します。

(b) イベント拡張属性の定義

JP1/Service Support では、ユーザーが追加した拡張属性を JP1/IM - View で表示させるために、イベント拡張属性定義ファイルのひな型を提供しています。必要に応じて、イベント拡張属性定義ファイルを編集して、JP1/IM - Manager の所定のフォルダにコピーしてください。例えば、案件フォームをカスタマイズして項目名称を変更した場合は、イベント拡張属性定義ファイルの項目名称も変更してください。

コピー元ファイル：

- JP1/SS パス¥conf¥event¥hitachi_jp1_im_ss_attr_ja.conf (日本語環境用)
- JP1/SS パス¥conf¥event¥hitachi_jp1_im_ss_attr_en.conf (英語環境用)
- JP1/SS パス¥conf¥event¥hitachi_jp1_im_ss_attr_zh.conf (中国語環境用)

コピー先フォルダ：

IM-M パス¥JP1cons¥conf¥console¥attribute

注意事項

- JP1/Service Support のイベント拡張属性定義ファイルを JP1/IM - Manager にコピーしたあとに、定義ファイルの設定を有効にするには、JP1/IM - Manager の JP1/IM-Manager サービスを再起動する必要があります。
- JP1/Service Support 10-50 より前のバージョンからバージョンアップした場合、対処済み連動用集約 JP1 イベントの固有情報を表示させるために、イベント拡張属性定義ファイルに項目を追加する必要があります。次に示す下線部を、イベント拡張属性定義ファイルに追加してください。なお、ここでは、設定に関係する部分だけを抜き出しています。

：

```
@define-block type="event-attr-def";
@file type="extended-attributes-definition", version="0300";
@product name="/HITACHI/JP1/IM/SS";
@define-block type="event-attr-def";
block lang="Japanese", platform="base", extended="false";
attr name="E.REGISTRANT", title="登録者";
attr name="E.ITEMENTRY_ACTHOST", title="IM-Mホスト名";
attr name="E.ITEMENTRY_SEQNO", title="連動元イベントDB内通し番号";
attr name="E.ITEMENTRY_ITEMID", title="案件IDリスト";
```

：

```
@define-block type="event-attr-group-def";
block platform="base", extended="false";
group name="ITEM_IMM", attrs="E.REGISTRANT|E.ITEMENTRY_ACTHOST|E.ITEMENTRY_SEQNO";
group name="ITEM_BATCHOPE", attrs="E.ITEMENTRY ACTHOST|E.ITEMENTRY SEQNO|
E.ITEMENTRY ITEMID";
```

：

```
@define-block type="event-attr-order-def";
block platform="base", extended="false";
order id="00005F00", attrs="ITEM_IMM";
order id="00005F01", attrs="ITEM_STATUS01|ITEM_STATUS02|ITEM_STATUS03|...";
order id="00005F02", attrs="ITEM_BATCHOPE";
@define-block-end;
```

9.16.2 JP1/IM - View と連携するための環境設定

JP1/IM - View と連携することで、JP1/IM - View の画面から JP1/Service Support に案件を登録できます。JP1/IM - View と連携するために、次の環境設定が必要です。

(1) JP1/Service Support での設定

JP1/Service Support では、JP1/IM - View と連携するための環境設定は必要ありません。

(2) JP1/IM - View での設定

インシデント手動登録定義ファイル (incident.conf) に JP1/Service Support の URL を設定します。

インシデント手動登録定義ファイル (incident.conf) の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」を参照してください。

9.16.3 JP1/NETM/AIM と連携するための環境設定

JP1/NETM/AIM と連携することで、JP1/Service Support で管理する案件と JP1/NETM/AIM で管理する機器情報を関連づけて、参照できます。JP1/Service Support は、JP1/NETM/AIM と連携するために、次の環境設定が必要です。

(1) JP1/Service Support での設定

システムプロパティファイルに、JP1/NETM/AIM サーバのホスト名を設定します。

JP1/NETM/AIM サーバのホスト名を設定する手順については、「[9.14 定義ファイルによる環境設定](#)」を参照してください。

(2) JP1/NETM/AIM での設定

JP1/NETM/AIM では、JP1/Service Support と連携するための環境設定は必要ありません。

ただし、接続の1回目から直接 JP1/NETM/AIM の [機器詳細] 画面を呼び出す場合は、JP1/NETM/AIM に登録されている JP1/Service Support 用のユーザーアカウント「サービスサポート管理者」のパスワードの設定が必要です。

JP1/NETM/AIM 側の設定については、マニュアル「JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド」を参照してください。

9.16.4 JP1/UCMDB と連携するための環境設定

JP1/UCMDB と連携することで、JP1/Service Support で管理する案件と JP1/UCMDB で管理する機器情報を関連づけて、参照できます。JP1/Service Support は、JP1/UCMDB と連携するために、次の環境設定が必要です。

(1) JP1/Service Support での設定

JP1/Service Support では、JP1/UCMDB と連携するために、次の環境設定が必要です。

- 機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties) の設定
機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties) に、JP1/UCMDB サーバに接続するためのユーザー ID およびパスワードを設定します。
機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties) の詳細については、「13. 定義ファイル」の「[機器情報外部参照プロパティファイル \(hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties\)](#)」を参照してください。

- 三つの jar ファイルのコピー

次のとおり、JP1/UCMDB から三つの jar ファイルを取得し、JP1/Service Support にコピーしてください。

1. JP1/UCMDB ライブラリを取得する。

次のファイルを取得します。

JP1/UCMDBパス¥deploy-api¥ucmdb-api-8.0.war

2. 三つの jar ファイルの名称を変更する。

手順.1 で取得した ucmdb-api-8.0.war ファイルを展開し、次のとおりファイル名を変更します。

変更前	変更後
api-client-80-9.0.2.139.jar*	api-client.jar
api-interfaces-80-9.0.2.139.jar*	api-interfaces.jar
api-server-80-9.0.2.139.jar*	api-server.jar

注※ JP1/UCMDB のバージョンが 09-50 の場合のファイル名です。数字の部分については、JP1/UCMDB のバージョンによって異なります。

3. 三つの jar ファイルを JP1/Service Support にコピーする。

手順.2 で名称を変更したファイルを次のフォルダにコピーします。

JP1/SSパス¥home¥public¥plugin¥ucmdb

(2) JP1/UCMDB での設定

JP1/UCMDB では、JP1/Service Support と連携するための環境設定は必要ありません。

9.16.5 JP1/NP と連携するための環境設定

JP1/NP と連携することで、JP1/Service Support の画面からシングルサインオンで該当する JP1/NP の画面を呼び出し、JP1/NP が管理する業務の流れなどの運用手順を参照できます。なお、JP1/IM - Manager の自動アクション、および JP1/IM - View から案件を登録した場合、該当する JP1/NP の運用手順を表示できます。そのため、JP1/IM - Manager および JP1/IM - View と連携してください。

また、JP1/NP と連携するためには、JP1/Base の認証機能を使用し、JP1/Service Support と JP1/NP で同一の認証サーバにしてください。同一の認証サーバにしない場合は、JP1/NP と連携できません。

JP1/IM - View と連携するための設定については、「[9.16.2 JP1/IM - View と連携するための環境設定](#)」を参照してください。JP1/IM - Manager の自動アクションについては、「[4.1 JP1/IM - Manager との連携](#)」、「[5.11.1 JP1/IM - Manager 連携の検討](#)」、および「[9.16.1 JP1/IM - Manager と連携するための環境設定](#)」を参照してください。

(1) JP1/Service Support での設定

JP1/Service Support では、JP1/NP と連携するために、次の環境設定が必要です。

- システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)
 - 指定キー「hptl_jpl_imss_np_item_info_\$n」に、「true」を設定します。
 - 指定キー「hptl_jpl_imss_add_item_info_url_num」に案件の情報を付加したい URL の個数を設定します。
 - 指定キー「hptl_jpl_imss_add_item_info_url_\$n」に案件の情報を付加したい URL の先頭文字を設定します。

システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties) の詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[システムプロパティファイル \(hptl_jpl_imss_main_setting.properties\)](#)」を参照してください。

- JP1/Service Support および JP1/NP 間でシングルサインオンを行うための環境を設定します。JP1/Service Support および JP1/NP 間でシングルサインオンするための環境設定については、「[9.16.10 シングルサインオンするための環境設定](#)」を参照してください。

(2) JP1/NP での設定

JP1/NP では、JP1/Service Support と連携するために、次の環境設定が必要です。

- JP1/Service Support および JP1/NP 間でシングルサインオンを行うための環境を設定します。
JP1/Service Support および JP1/NP 間でシングルサインオンするための環境設定については、JP1/Navigation Platform のマニュアルの、ほかの JP1 製品と連携するための設定の説明、および JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備の注意事項を参照してください。

9.16.6 JP1/AO と連携するための環境設定

JP1/AO と連携することで、JP1/Service Support の画面からシングルサインオンで該当する JP1/AO の [サービス実行] ダイアログボックスを呼び出し、JP1/AO に登録されているサービスを実行できます。

また、JP1/AO と連携するためには、JP1/Base の認証機能を使用し、JP1/Service Support と JP1/AO で同一の認証サーバにしてください。同一の認証サーバにしない場合は、JP1/AO と連携できません。

(1) JP1/Service Support での設定

JP1/Service Support では、JP1/AO と連携するために、次の環境設定が必要です。

- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
 - 指定キー「hptl_jp1_imss_ao_item_info_\$n」に、次の値を指定します。
 - サービスのリソースグループ名を入力する項目 ID
 - サービス名を入力する項目 ID
 - タスクを入力する項目 ID
 - 指定キー「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num」に案件の情報を付加したい URL の個数を設定します。
 - 指定キー「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n」に案件の情報を付加したい URL の先頭文字を設定します。

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

- JP1/Service Support および JP1/AO 間でシングルサインオンを行うための設定をします。
JP1/Service Support および JP1/AO 間でシングルサインオンするための環境設定については、「9.16.10 シングルサインオンするための環境設定」を参照してください。

(2) JP1/AO での設定

JP1/AO では、JP1/Service Support と連携するために、次の環境設定が必要です。

- JP1/Service Support および JP1/AO 間でシングルサインオンを行うための環境を設定します。
JP1/Service Support および JP1/AO 間でシングルサインオンするための環境設定については、マニュアル「JP1/Automatic Operation 構築ガイド」の JP1/Base の認証機能との連携の説明を参照してください。
- JP1/Service Support から呼び出す JP1/AO のサービスを登録します。
JP1/AO にサービスを登録する手順については、マニュアル「JP1/Automatic Operation 運用ガイド」のサービステンプレートの管理、およびサービスの管理の説明を参照してください。

9.16.7 JP1/ITDM2 - Asset Console と連携するための環境設定

JP1/ITDM2 - Asset Console と連携することで、JP1/Service Support で管理する案件と JP1/ITDM2 - Asset Console で管理する機器情報を関連づけて、参照できます。JP1/Service Support は、JP1/ITDM2 - Asset Console と連携するために、次の環境設定が必要です。

(1) JP1/Service Support での設定

システムプロパティファイルに、資産管理サーバのホスト名を設定します。

資産管理サーバのホスト名を設定する手順については、「[9.14 定義ファイルによる環境設定](#)」を参照してください。

(2) JP1/ITDM2 - Asset Console での設定

JP1/ITDM2 - Asset Console では、JP1/Service Support と連携するための環境設定は必要ありません。

ただし、接続の 1 回目から直接 JP1/ITDM2 - Asset Console の [機器詳細] 画面を呼び出す場合は、JP1/ITDM2 - Asset Console に登録されている JP1/Service Support 用のユーザーアカウント「サービスサポート管理者」のパスワードの設定が必要です。

JP1/ITDM2 - Asset Console 側の設定については、マニュアル「JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console 設計・構築ガイド」を参照してください。

9.16.8 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携するための環境設定

JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携することで、JP1/Service Support の画面からシングルサインオンで該当する JP1/AJS3 - Web Console の [モニタ] 画面を呼び出せます。異常が発生しているジョブやジョブネットに対応する JP1/AJS3 - Web Console の [モニタ] 画面を表示できます。JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携するためには、JP1/Base の認証機能を使用し、JP1/Service Support と JP1/AJS3 - Web Console で同一の認証サーバにしてください。同一の認証サーバにしない場合は、JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携できません。

(1) JP1/Service Support での設定

JP1/Service Support では、JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携するために、次の環境設定が必要です。

- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
 - 指定キー「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num」に案件の情報を付加したい URL の個数を設定します。
 - 指定キー「hptl_jp1_imss_add_item_info_product_\$n」に jp1_ajs を設定します。
 - 指定キー「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n」に案件の情報を付加したい URL の先頭文字を設定します。案件の情報を追加したい URL の先頭文字については、「[4.9.2 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI への接続](#)」を参照してください。
 - 指定キー「hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n」に、次の値を指定します。
 - ・[モニタ] 画面表示対象のユニットがある JP1/AJS3 - Manager のホスト名を入力する項目 ID
 - ・[モニタ] 画面表示対象の「スケジューラーサービス名:ユニット名」を入力する項目 ID
 - ・[モニタ] 画面表示対象のユニットの実行 ID を入力する項目 ID

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[システムプロパティファイル \(hptl_jp1_imss_main_setting.properties\)](#)」を参照してください。

- JP1/Service Support および JP1/AJS3 - Web Console 間でシングルサインオンを行うための設定をします。

JP1/Service Support および JP1/AJS3 - Web Console 間でシングルサインオンするための環境設定については、「[9.16.10 シングルサインオンするための環境設定](#)」を参照してください。

(2) JP1/AJS3 - Web Console での設定

JP1/AJS3 - Web Console では、JP1/Service Support と連携するために、次の環境設定が必要です。

- JP1/Service Support および JP1/AJS3 - Web Console 間でシングルサインオンを行うための環境を設定します。

JP1/Service Support および JP1/AJS3 - Web Console 間でシングルサインオンするための環境設定については、JP1/Automatic Job Management System 3 のマニュアルの、ほかの JP1 製品と連携するための設定の説明、および JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備の注意事項を参照してください。

9.16.9 JP1/PFM - Web Console と連携するための環境設定

JP1/PFM - Web Console と連携することで、JP1/Service Support の画面からシングルサインオンで該当する JP1/PFM - Web Console の [レポート選択] 画面を呼び出せます。これによって、JP1 イベントが発生したホストの [レポート選択] 画面を JP1/PFM - Web Console で表示できます。JP1/PFM - Web

Console と連携するためには、JP1/Base の認証機能を使用し、JP1/Service Support と JP1/PFM - Web Console で同一の認証サーバにしてください。同一の認証サーバにしない場合は、JP1/PFM - Web Console と連携できません。

(1) JP1/Service Support での設定

JP1/Service Support では、JP1/PFM - Web Console と連携するために、次の環境設定が必要です。

- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
 - 指定キー「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num」に案件の情報を付加したい URL の個数を設定します。
 - 指定キー「hptl_jp1_imss_add_item_info_product_\$n」に jp1_pfm を設定します。
 - 指定キー「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n」に案件の情報を付加したい URL の先頭文字を設定します。案件の情報を追加したい URL の先頭文字については、「[4.10.2 JP1/PFM - Web Console への接続](#)」を参照してください。
 - 指定キー「hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n」に、次の値を指定します。
 - JIMSD_LOGIN_USER_ID (ログインユーザ ID を引き継ぐ項目 ID)
 - 事象が発生したホスト名を入力する項目 ID
 - 事象が発生した日時を入力する項目 ID

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[システムプロパティファイル \(hptl_jp1_imss_main_setting.properties\)](#)」を参照してください。

- JP1/Service Support および JP1/PFM - Web Console 間でシングルサインオンを行うための設定をします。

JP1/Service Support および JP1/PFM - Web Console 間でシングルサインオンするための環境設定については、「[9.16.10 シングルサインオンするための環境設定](#)」を参照してください。

(2) JP1/PFM - Web Console での設定

JP1/PFM - Web Console では、JP1/Service Support と連携するために、次の環境設定が必要です。

- JP1/Service Support および JP1/PFM - Web Console 間でシングルサインオンを行うための環境を設定します。

JP1/Service Support および JP1/PFM - Web Console 間でシングルサインオンするための環境設定については、JP1/PFM のマニュアルの、ほかの JP1 製品と連携するための設定の説明、および JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備の注意事項を参照してください。

9.16.10 シングルサインオンするための環境設定

JP1/Service Support が特定の JP1 製品と連携する場合、その特定の JP1 製品にシングルサインオンする必要があります。特定の JP1 製品にシングルサインオンするには、JP1/Base の認証機能を利用する必要があります。

(1) JP1/Service Support での設定

JP1/Service Support が特定の JP1 製品と連携する場合、特定の JP1 製品にシングルサインオンするための設定を、次に示します。

(a) 認証方法の切り替え

jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え) コマンドを実行し、「5.15 認証方法の検討」で検討した認証方法に変更します。すでに検討した認証方法に変更している場合は、このコマンドを実行する必要はありません。

jsschauthorityserver コマンドについては、「12. コマンド」の「jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)」を参照してください。

(b) 環境を設定する

次に示す環境設定が必要です。

- JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties) 指定キー「hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_flag」に、「true」を設定します。
指定キー「hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_userlist」に、特定の JP1 製品にシングルサインオンするユーザーのユーザー ID を設定します。
指定キー「hptl_jp1_imss_information_search_userid」に、事前に登録されている情報検索用のユーザー ID を設定します。
なお、JP1/Service Support のユーザー認証の方法によって、設定が異なります。
JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties) の詳細については、「13. 定義ファイル」の「JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties)」を参照してください。
- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) 指定キー「hptl_jp1_imss_jp1base_virtual_hostname」に、論理ホスト名を設定します。この指定キーは、JP1/Service Support と同じサーバにある JP1/Base が論理ホスト環境の場合に指定します。物理ホスト環境の場合は、デフォルト値を指定します。
システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

(2) JP1/Base での認証設定

JP1/Base の認証サーバに、特定の JP1 製品にシングルサインオンするユーザーのユーザー ID を登録します。

JP1/Base 側の設定については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

9.17 JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報と連携するための環境設定

JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報を基にして、入力候補値や項目間連携を設定するための手順について説明します。入力候補値および項目間連携の設定は、入力候補値設定ファイル、システムプロパティファイルおよび入力補助機能プロパティファイルを使用します。設定手順について次に示します。

1. 入力候補値設定ファイルを作成する。

JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報を基に、入力候補値設定ファイルを作成して、表示させる入力候補値、連携させる項目などを設定します。入力候補値設定ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[入力候補値設定ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

2. システムプロパティファイルを編集する。

システムプロパティファイルを編集して、入力補助機能を使用するプロセスワークボード、入力候補値の最大文字数などを設定します。システムプロパティファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[システムプロパティファイル \(hptl_jp1_imss_main_setting.properties\)](#)」を参照してください。

3. 入力補助機能プロパティファイルを編集する。

入力補助機能プロパティファイルを編集して、入力補助機能のユーザー公開ログを出力するかどうか、ファイルの面数およびサイズを設定します。入力補助機能を使用する場合は、ユーザー公開ログを出力する設定をお勧めします。入力補助機能プロパティファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[入力補助機能プロパティファイル \(hptl_jp1_imss_input_assist_plugin.properties\)](#)」を参照してください。

システムプロパティファイルまたは入力補助機能プロパティファイルを編集した場合、手順 4 および手順 5 を実行してください。

入力候補値設定ファイルの作成または編集だけの場合、サービスを再起動する必要はありません。入力候補値設定ファイルでの設定内容を [案件作成] 画面または [案件編集] 画面へ反映させるには、画面をいったん閉じて再度表示してください。

4. JP1/Service Support - DB Server サービス以外の JP1/Service Support のサービスを停止する。

次の順番でサービスを停止します。

1. JP1/Service Support - Task Service サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス
3. JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動しておいてください。

5. JP1/Service Support のサービスを起動する。

次の順番でサービスを起動します。

1. JP1/Service Support サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス

3. JP1/Service Support - Task Service サービス

入力候補値設定ファイルで指定した内容が、[案件作成] 画面または [案件編集] 画面に反映されない場合
入力候補値設定ファイルで指定した内容に誤りがあるおそれがあります。入力補助機能のユーザー公開
ログを参照して修正してください。

9.18 JP1/Service Support 以外のシステムからの案件データの移行

JP1/Service Support 以外のシステムで使用していた案件のデータを、`jssitemimport` コマンドまたは `jssitemimportEx` コマンドで移行できます。移行する場合、あらかじめ案件データを CSV ファイルに出力し、案件情報入力ファイルまたは案件情報拡張入力ファイルの形式に変更する必要があります。

JP1/Service Support 以外のシステムから案件データを移行する手順を次に示します。

1. 案件データを CSV ファイルに出力する。

移行する案件データをあらかじめ CSV ファイルの形式に出力して用意しておいてください。

なお、CSV ファイルは、次に示す文字コードで作成してください。

- 日本語環境の場合：MS932
- 英語環境の場合：ISO-8859-1
- 中国語環境の場合：GB18030

2. 案件データの CSV ファイルを、案件情報入力ファイルまたは案件情報拡張入力ファイルの形式に変更する。

移行先の案件管理 DB で案件データとして使用できるように、案件データの CSV ファイルを、案件情報入力ファイルの形式または案件情報拡張入力ファイルに変更します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件情報入力ファイル \(任意\)](#)」または「[案件情報拡張入力ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

3. コードマッピングファイルを用意する。

`jssitemimport` コマンドを実行する場合、必要に応じて、コードマッピングファイルを使用して、次に示す項目の値をコードに変換します。

重大度、影響度、優先度、案件種別、問題分野、現象種別、要因、結果、解決区分、回避策種別、変更の規模

案件フォームをカスタマイズしていない場合は、JP1/Service Support が用意しているコードマッピングファイルをそのまま使用できます。カスタマイズしている場合は、専用のコードマッピングファイルを用意してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[コードマッピングファイル \(jplimss_itemimport_codemap.conf\)](#)」を参照してください。

4. JP1/Service Support - DB Server サービス以外の JP1/Service Support のサービスを停止する。

`jssitemimport` コマンドを実行する場合、次の順番でサービスを停止します。

1. JP1/Service Support - Task Service サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス
3. JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動しておいてください。

`jssitemimportEx` コマンドを実行する場合は、サービスを停止する必要はありません。

5. `jssitemimport` コマンドまたは `jssitemimportEx` コマンドを実行する。

案件情報入力ファイルの形式の CSV ファイルを作成した場合は `jssitemimport` コマンドを、案件情報拡張入力ファイルの形式の CSV ファイルを作成した場合は `jssitemimportEx` コマンドを実行して、案件データを移行します。コマンドの実行中は、案件管理 DB をメンテナンスするコマンドや JP1/Service Support のサービスを起動または停止しないでください。`jssitemimport` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jssitemimport \(案件情報インポート\)](#)」を参照してください。`jssitemimportEx` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jssitemimportEx \(案件情報拡張インポート\)](#)」を参照してください。

6. JP1/Service Support のサービスを起動する。

手順 4 でサービスを停止した場合は、次の順番でサービスを起動します。

1. JP1/Service Support サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス
3. JP1/Service Support - Task Service サービス

9.19 JP1/Service Support 以外のシステムからのユーザー情報の移行

JP1/Service Support 以外のシステムで使用していたユーザー情報を、`jssuserimport` コマンドで移行できます。移行する場合、あらかじめユーザー情報を CSV ファイルに出力し、ユーザー情報入力ファイルの形式に変更する必要があります。

JP1/Service Support 以外のシステムからユーザー情報を移行する手順を次に示します。

1. ユーザー情報を CSV ファイルに出力する。

移行するユーザー情報をあらかじめ CSV ファイルの形式に出力して用意しておいてください。

なお、CSV ファイルは、次に示す文字コードで作成してください。

- 日本語環境の場合：MS932
- 英語環境の場合：ISO-8859-1
- 中国語環境の場合：GB18030

2. ユーザー情報の CSV ファイルを、ユーザー情報入力ファイルの形式に変更する。

JP1/Service Support に登録できるように、ユーザー情報の CSV ファイルを、ユーザー情報入力ファイルの形式に変更します。ユーザー情報入力ファイルの詳細は、「13. 定義ファイル」の「[ユーザー情報入力ファイル（任意）](#)」を参照してください。

3. JP1/Service Support - DB Server サービス以外の JP1/Service Support のサービスを停止する。

次の順番でサービスを停止します。

1. JP1/Service Support - Task Service サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス
3. JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動しておいてください。

4. `jssuserimport` コマンドを実行する。

`jssuserimport` コマンドを実行して、ユーザー情報を移行します。コマンドの実行中は、案件管理 DB をメンテナンスするコマンドや JP1/Service Support のサービスを起動しないでください。

`jssuserimport` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jssuserimport（ユーザー情報インポート）](#)」を参照してください。

5. JP1/Service Support のサービスを起動する。

次の順番でサービスを起動します。

1. JP1/Service Support サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス
3. JP1/Service Support - Task Service サービス

9.20 既存の JP1/Service Support からのデータの移行

既存の JP1/Service Support で管理していたデータは、jssdbbackup.bat コマンドと jssdbrecovery.bat コマンドを使って、異なるサーバの JP1/Service Support へ移行できます。なお、移行先のサーバの言語は、移行元と同一にしてください。

既存の JP1/Service Support からデータを移行する手順を次に示します。

1. 移行元の JP1/Service Support のバージョンを、移行先の JP1/Service Support のバージョンに合わせる。

異なるバージョンの JP1/Service Support 間では、jssdbbackup.bat コマンドと jssdbrecovery.bat コマンドを使ってデータの移行はできません。このため、移行元と移行先のバージョンが異なる場合は、移行元の JP1/Service Support をバージョンアップして、移行先の JP1/Service Support のバージョンに合わせてください。バージョンアップの手順については、「[6.4 JP1/Service Support の上書きインストールとセットアップ](#)」を参照してください。

2. JP1/Service Support - DB Server サービス以外の JP1/Service Support のサービスを停止する。

次の順番でサービスを停止します。移行元と移行先の両方とも行います。

1. JP1/Service Support - Task Service サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス
3. JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動しておいてください。

3. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

移行元と移行先の両方とも行います。

4. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

移行元の JP1/Service Support で、jssdbbackup.bat コマンドの -expand オプションを指定して実行し、案件管理 DB をバックアップします。コマンドの実行中は、案件管理 DB をメンテナンスするコマンドや JP1/Service Support のサービスを起動しないでください。jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssdbbackup.bat \(データベースバックアップ\)](#)」を参照してください。

5. jssdbrecovery.bat コマンドを実行する。

移行先の JP1/Service Support で、jssdbrecovery.bat コマンドの -expand オプションを指定して実行し、手順 4 で取得したデータをリカバリーします。コマンドの実行中は、案件管理 DB をメンテナンスするコマンドや JP1/Service Support のサービスを起動しないでください。jssdbrecovery.bat コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssdbrecovery.bat \(データベースリカバリー\)](#)」を参照してください。

6. jssrefaclsetup コマンドを実行する。

案件ごとの参照権限設定機能をセットアップします。案件ごとの参照権限設定機能を使用していない場合、この手順は不要です。jssrefaclsetup コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ)」を参照してください。

7. JP1/Service Support のサービスを起動する。

次の順番でサービスを起動します。移行元と移行先の両方とも行います。

1. JP1/Service Support サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス
3. JP1/Service Support - Task Service サービス

10

クラスタシステムでの運用と環境構築

JP1/Service Support は、クラスタシステムでの運用に対応しています。JP1/Service Support をクラスタ運用することで、サーバ障害などが発生しても実行系から待機系に処理を引き継ぎ、JP1/Service Support による運用を継続できます。

この章では、JP1/Service Support のクラスタシステムでの運用およびセットアップ方法について説明します。

なお、JP1/Service Support をクラスタシステムで運用する場合には、ご使用になるクラスタソフトに、JP1/Service Support が対応しているか確認してから運用するようにしてください。

10.1 クラスタ運用の概要

ここでは、JP1/Service Support のクラスタシステムでの運用について、クラスタシステムの概要から JP1/Service Support の機能について順に説明します。

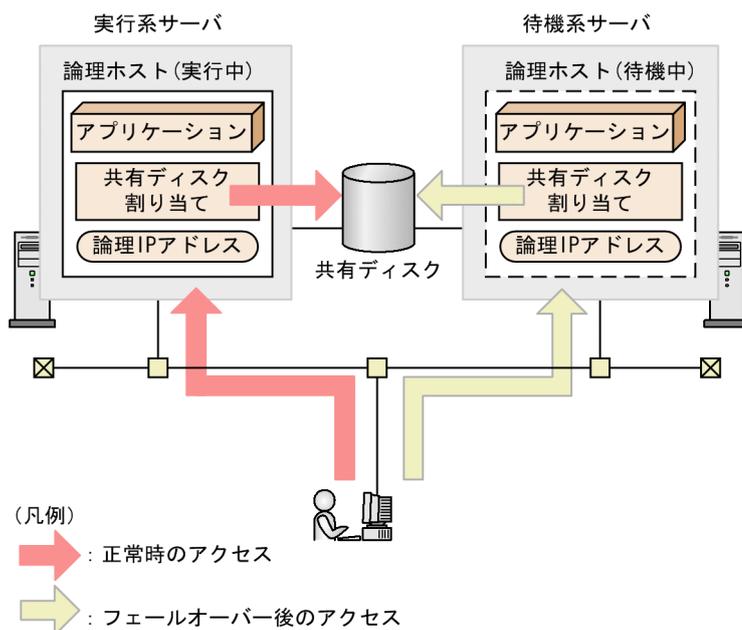
10.1.1 クラスタシステムの概要

クラスタシステムは、高可用性（HA：High Availability）の実現を目的としたシステムです。処理を実行する実行系サーバと、障害が発生したときに処理を引き継げるように待機している待機系サーバで構成します。障害発生時は、実行系から待機系に処理を引き継いで業務の停止を防ぎ、可用性を向上させることができます。この障害時に処理を引き継ぐことを「フェールオーバー」といいます。

クラスタシステム全体を制御するソフトウェアを「クラスタソフト」といいます。クラスタソフトは、システムが正常に動作しているかを監視し、異常を検知した場合にはフェールオーバーを行って業務が停止することを防ぎます。

備考：負荷分散などを目的としたクラスタシステムもありますが、ここでは説明していません。

図 10-1 正常時、フェールオーバー後のアクセス



JP1/Service Support のようなアプリケーションは「論理ホスト」で運用します。論理ホストは、クラスタソフトに制御された、論理的なサーバのことです。フェールオーバーする際は、論理ホストの単位で実行されます。論理ホストは、ホスト名として「論理ホスト名」を使い、実行系から待機系に引き継げる「共有ディスク」と「論理 IP アドレス」を持ちます。論理ホストで実行するアプリケーションは、共有ディスクにデータを格納し、論理 IP アドレスで通信することによって、物理的なサーバに依存しないで、フェールオーバーして実行できます。

JP1/Service Support を、クラスタシステムの論理ホスト環境で運用することを「クラスタ運用」といいます。

メモ

「論理ホスト」という用語

このマニュアルではフェールオーバーの単位を意味する用語として「論理ホスト」を使いますが、クラスタソフトやアプリケーションによっては「グループ」や「パッケージ」などの用語が使われています。クラスタソフトのマニュアルなどを参照し、対応する用語を確認してください。

なお、フェールオーバーの単位となる論理的なサーバを論理ホストというのに対して、物理的なサーバを「物理ホスト」といいます。物理ホストが使うホスト名 (hostname コマンドを実行したときに表示されるホスト名) を「物理ホスト名」、物理ホスト名に対応した IP アドレスを「物理 IP アドレス」といいます。また、ディスクは「ローカルディスク」を使います。これらはサーバ固有のものであり、ほかのサーバに引き継ぐことはできません。

メモ

「～系」という用語

このマニュアルでは、業務を処理しているサーバを**実行系**、障害に備えて待機しているサーバを**待機系**と呼びます。実行系と待機系は、フェールオーバーが発生するたびに入れ替わります。

また、システム構築時や環境設定時に二つの系を区別するため、最初に実行系として起動する系を**現用系**、待機系として起動する系を**予備系**と呼びます。運用開始後、障害発生などによって実行系、待機系は交代を繰り返しますが、現用系と予備系の関係は変わりません。

10.1.2 クラスタ運用の前提条件

JP1/Service Support は、クラスタシステムでは論理ホスト環境で動作し、フェールオーバーに対応します。論理ホスト環境で実行する場合の JP1/Service Support の前提条件は、共有ディスクや論理 IP アドレスの割り当て、削除、および動作監視がクラスタソフトによって正常に制御されていることです。

注意事項

JP1/Service Support がサポートしているクラスタソフトであっても、システム構成や環境設定によってはここで説明する前提条件を満たさない場合があります。前提条件を満たすよう、システム構成や環境設定を検討してください。

(1) 論理ホスト環境の前提条件

JP1/Service Support を論理ホスト環境で実行する場合、論理 IP アドレスと共有ディスクについて、次に示す前提条件があります。

表 10-1 論理ホスト環境の前提条件

論理ホストの構成要素	前提条件
共有ディスク	<ul style="list-style-type: none">• 実行系から待機系へ引き継ぎができる共有ディスクが使用できること。• JP1/Service Support をインストールする前に、共有ディスクが割り当てられること。• クラスタソフト以外から JP1/Service Support を実行中に、共有ディスクの割り当てが解除されないこと。• JP1/Service Support をアンインストールしたあとに、共有ディスクの割り当てが解除されること。• 共有ディスクが、複数のノードから使用されないよう制御されていること。• フェールオーバーしてもファイルに書き込んだ内容が保証されて引き継がれること。• フェールオーバー時に共有ディスクを使用中のプロセスがあっても、強制的にフェールオーバーができること。• 共有ディスクの障害を検知した場合の回復処置はクラスタソフトなどが制御し、回復処置を JP1/Service Support が意識する必要がないこと。回復処置の延長で JP1/Service Support の起動や停止が必要な場合は、クラスタソフトから JP1/Service Support に起動や停止の実行要求をすること。
論理 IP アドレス	<ul style="list-style-type: none">• 引き継ぎができる論理 IP アドレスを使って通信できること。• 論理ホスト名から論理 IP アドレスが一意に求まること。• JP1/Service Support をインストールする前に、論理 IP アドレスが割り当てられること。• JP1/Service Support を実行中に、論理 IP アドレスが削除されないこと。• JP1/Service Support を実行中に、論理ホスト名と論理 IP アドレスの対応が変更されないこと。• JP1/Service Support をアンインストールしたあとに、論理 IP アドレスが削除されること。• ネットワーク障害を検知した場合の回復処置はクラスタソフトなどが制御し、JP1/Service Support が回復処理を意識する必要がないこと。また、回復処置の延長で JP1/Service Support の起動や停止が必要な場合は、クラスタソフトから JP1/Service Support に起動や停止の実行要求をすること。

表 10-1 の条件が満たされていない場合は、JP1/Service Support の動作に問題が発生することがあります。例えば、次のような問題が発生します。

- 実行系で書き込んだデータが、フェールオーバーした時に壊れてしまう場合
JP1/Service Support でエラー、データ消失、起動失敗などの問題が発生し、正常に動作できません。
- LAN ボード障害が発生しても回復処理がされない場合
クラスタソフトなどの制御によって LAN ボードが切り替えられるか、または他サーバへフェールオーバーするまで、通信エラーが発生し JP1/Service Support は正常に動作できません。

(2) 物理ホスト環境の前提条件

JP1/Service Support を論理ホストで運用するクラスタシステムでは、各サーバの物理ホスト環境が次に示す前提条件を満たしている必要があります。

表 10-2 物理ホスト環境の前提条件

物理ホストの構成要素	前提条件
サーバ本体	<ul style="list-style-type: none"> • 2 台以上のサーバによるクラスタ構成になっていること。
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> • 物理ホスト名 (hostname コマンドの結果) に対応する IP アドレスで通信ができること。 (クラスタソフトなどによって通信ができない状態に変更されないこと) ※ • JP1/Service Support の動作中に、ホスト名と IP アドレスの対応が変更されないこと。 (クラスタソフトやネームサーバなどによって変更がされないこと) • ホスト名に対応した LAN ボードがネットワークのバインド設定で最優先になっていること。通常、この設定になっている。 (ハートビート用などほかの LAN ボードが優先になっていないこと)
OS, クラスタソフト	<ul style="list-style-type: none"> • JP1/Service Support がサポートするクラスタソフトおよびバージョンであること。 • フェールオーバーしても同じ処理ができるよう、各サーバの環境が適切に設定されていること。

注※

クラスタソフトによっては、物理ホスト名 (hostname コマンドで表示されるホスト名) に対応する IP アドレスで通信ができなくなる構成場合があります。

(3) JP1/Service Support がサポートする範囲

クラスタシステムで論理ホストの JP1/Service Support を運用する場合、JP1/Service Support が制御する範囲は、JP1/Service Support 自身の動作だけです。論理ホスト環境 (共有ディスクおよび論理 IP アドレス) の制御、および JP1/Service Support の起動や停止の契機はクラスタソフトの制御に依存します。

前述の論理ホスト環境および物理ホスト環境の前提条件が満たされていない、または論理ホスト環境の制御に問題がある場合は、JP1/Service Support の動作に発生した問題もサポートの対象外となります。この場合は、論理ホスト環境を制御しているクラスタソフトや OS で問題に対処してください。

10.1.3 JP1/Service Support をクラスタシステムで運用するための制限

JP1/Service Support は、セットアップをすることで物理ホスト環境で動作させるか論理ホスト環境で動作させるかが決まります。同時に物理ホスト環境、論理ホスト環境で動作させることはできません。jsssetup.bat コマンドでセットアップすると物理ホスト環境、jsshsetup.bat コマンドでセットアップすると論理ホスト環境での動作となります。

また、JP1/Service Support は、論理ホストの多重起動にも対応していません。これらに留意した上で JP1/Service Support をクラスタシステムで運用してください。

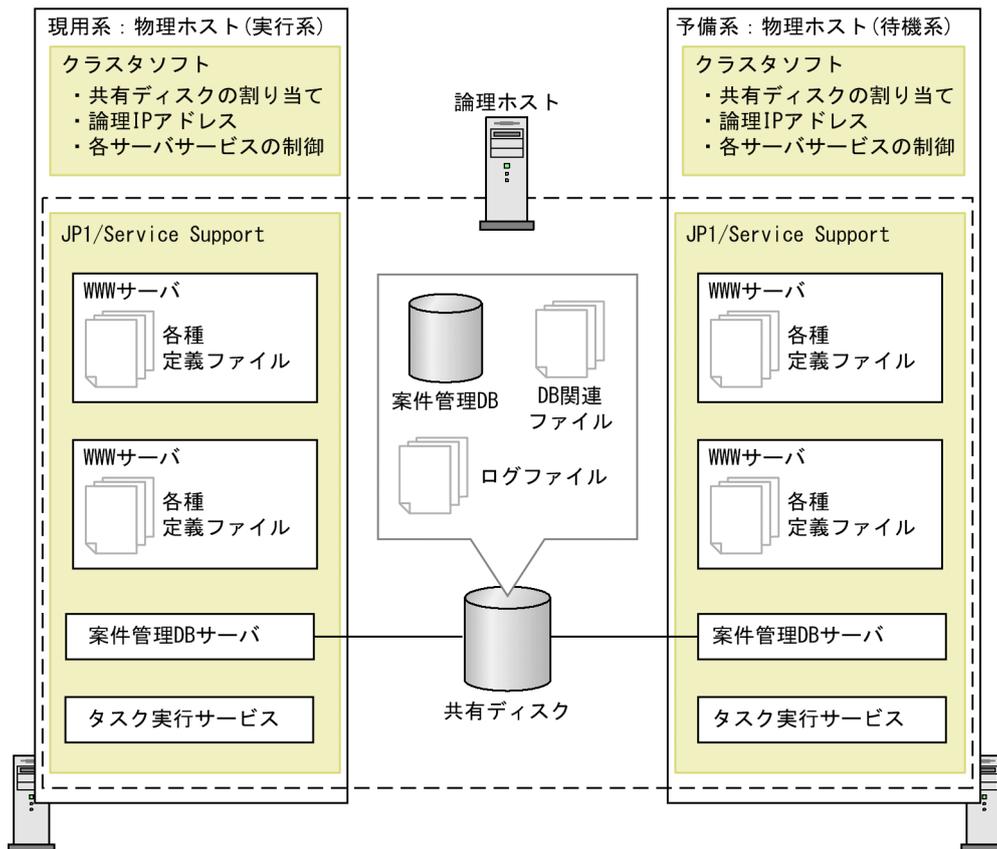
10.1.4 クラスタシステムでの JP1/Service Support の構成

クラスタシステムで JP1/Service Support を運用するには、クラスタソフトの制御によって論理ホストの JP1/Service Support を実行し、フェールオーバーに対応します。このときの JP1/Service Support の構成は次のようになります。

(1) クラスタ運用での JP1/Service Support の構成の概要

クラスタ運用での JP1/Service Support の構成例を次の図に示します。

図 10-2 クラスタ運用での JP1/Service Support の構成例



(凡例)

■ : アプリケーションプログラム

- JP1/Service Support は、アクティブ・スタンバイ構成に対応しています。アクティブ・アクティブ構成（各サーバ上での論理ホストの多重起動）には対応していません。
- 複数の物理ホストで構成され、これら全体で一つの論理ホスト、論理 IP アドレスを持ちます。また、クラスタソフトに登録するときは、前提リソースとして共有ディスクと論理 IP アドレスが必要です。
- フェールオーバーは、クラスタソフトが制御します。
- クラスタ運用の範囲は、次に示す JP1/Service Support の内部コンポーネントとなります。これらに対してクラスタソフトが状態監視をします。
 - WWW サーバ

- WWW コンテナサーバ
 - 案件管理 DB サーバ
 - タスク実行サービス
- 共有ディスクには、案件管理 DB とデータベース関連ファイル、ログファイルが格納されます。これらはフェールオーバー時に引き継がれます。
- なお、各種定義ファイルは、各物理ホストで管理されます。定義ファイルは、切り替わるたびに、稼働中のサーバ（物理ホスト）に格納された内容が参照されるため、ユーザーが定義ファイルの編集をした場合には、現用系、予備系それぞれに格納された定義ファイルを同じ内容にする必要があります。
- 案件保存 DB を使用している場合、共有ディスクに案件保存 DB を構築する必要があります。

(2) 共有ディスク上のファイル構成

JP1/Service Support をクラスタ環境用にセットアップすると、共有ディスク上に次のファイルが作成されます。これらは、論理ホストで JP1/Service Support を実行するために必要なファイルです。

表 10-3 共有ディスク上のファイル構成

共有ファイルの種類	フォルダ名
案件管理 DB	共有フォルダ¥db¥
データベース関連ファイル	共有フォルダ¥dbms¥Setup_Input_HA¥
ログファイル	共有フォルダ¥log¥
クラスタ環境ファイル	共有フォルダ¥tools¥setup¥

また、JP1/Service Support をクラスタ環境にセットアップしても案件保存 DB は作成されません。別途、構築する必要があります。

なお、共有ディスクは、現用系、予備系共に使用するため、何らかの原因で使用不能となった場合には、JP1/Service Support のクラスタ環境自体が使用できなくなります。このため、共有ディスクにはホストと別電源を利用するなどの対策が必要となります。

(3) JP1/Service Support のサービスおよびプロセス

JP1/Service Support の場合、JP1/IM - Manager や JP1/AJS, JP1/Base など、ほかの JP1 製品と異なり、クラスタ用の環境設定をしても論理ホスト専用のサービスは作成されません。インストール時に作成されたサービスをそのまま利用します。これらのサービスは、クラスタ環境用に JP1/Service Support をセットアップすることで、クラスタ環境用のサービスとして利用できるようになります。

クラスタ運用で使用する JP1/Service Support のサービスを次に示します。これらのサービスをクラスタソフトに登録して実行します。

表 10-4 JP1/Service Support のサービス

表示名称	サービス名	内部コンポーネント名
JP1/Service Support - Web Service	JP1_Service Support-WebService	WWW サーバ
JP1/Service Support	JP1_Service Support	WWW コンテナサーバ
JP1/Service Support - DB Server	HiRDBEmbeddedEdition_JS0	案件管理 DB サーバ
JP1/Service Support - DB Cluster Service	HiRDBClusterService_JS0	案件管理 DB サーバ (クラスタ用サービス)
JP1/Service Support - Task Service	JP1_ServiceSupport-TaskService	タスク実行サービス

表示名称の欄は、[コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で表示される名前です。また、クラスタソフトからサービスをnet コマンド (net start や net stop) で制御する場合は、この名前をnet コマンドに指定します。

サービス名の欄は、WSFC に登録する場合の名前です。これを WSFC の「サービス名」の設定項目に指定します。

注意事項

- JP1/Service Support をインストールすると、JP1/Service Support のサービスのうち、「JP1/Service Support - DB Server」だけ、スタートアップの種類「自動」で登録されます。クラスタシステムでこの設定のまま運用すると、フェールオーバーに失敗するため、現用系および予備系でのセットアップ実行後に、「自動」から「手動」に変更する必要があります。
- タスク実行サービス定義ファイル (jplimss_service_setting.conf) の各コマンド用のセクションで、use キーの値をすべて「false」に設定してクラスタ運用すると、JP1/Service Support - Task Service サービスの起動に失敗するため、フェールオーバーします。したがって、クラスタ環境では、必ず一つ以上のセクションで use キーの値を「true」に設定してください。また、クラスタ環境で JP1/Service Support - Task Service サービスを使用しない場合は、このサービスをクラスタソフトに登録しないでください。

メモ

JP1/Service Support のサービスとプロセスの関係性

JP1/Service Support の場合、サービスの異常終了がフェールオーバーの契機となります。JP1/Service Support のサービスは、関係の深いプロセスが異常終了したときに異常終了します。サービスに影響を与えるプロセスを次に示します。

表 10-5 サービスに影響を与えるプロセス

サービス (表示名称)	サービスに影響を与えるプロセス
JP1/Service Support - Web Service	httpsd.exe
JP1/Service Support	jss_service.exe, cjstartweb.exe
JP1/Service Support - DB Server	pdprcd.exe
JP1/Service Support - DB Cluster Service	pdsha.exe
JP1/Service Support - Task Service	jss_taskservice.exe

10.2 クラスタ運用の環境設定（新規インストールからの環境構築）

JP1/Service Support を新規インストールしたあと、クラスタ運用するための環境を構築する場合の環境設定について説明します。なお、JP1/Service Support の製品の違いによって、作業手順に差異はありません。ただし、案件保存 DB を使用する場合は、別途、案件保存 DB を構築する必要があります。

また、クラスタ環境の JP1/Service Support にマニュアルを組み込む手順についても説明します。メイン画面の [ヘルプ] ボタンからマニュアルを参照したい場合は、「[10.2.11 クラスタ環境でのマニュアルの組み込み手順](#)」を参照して、マニュアルを組み込んでください。

クラスタ環境で運用している JP1/Service Support をバージョンアップする手順については、「[10.8 クラスタ環境でのバージョンアップ](#)」を参照してください。

10.2.1 環境設定前に必要な作業

クラスタ運用の環境設定をする前に必要な作業について説明します。

(1) 共有ディスクの準備

実行系から待機系への切り替え時に情報を共有するため、共有ディスクが必要です。また、環境設定をする前に実行系、待機系から共有ディスクにアクセスできるよう、設定しておく必要があります。

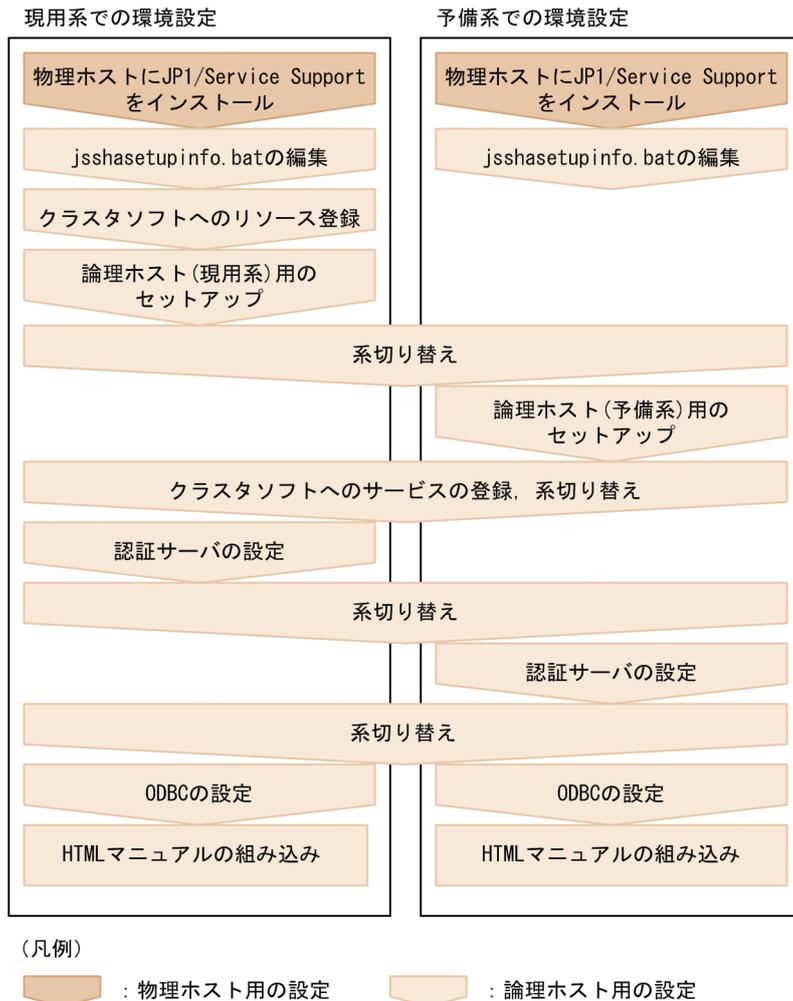
(2) ホスト名、IP アドレスの登録

DNS サーバを利用しない場合、物理ホストと論理ホストのホスト名、IP アドレスを現用系、予備系それぞれの hosts ファイルに登録する必要があります。

10.2.2 環境設定の流れ

JP1/Service Support をクラスタシステムで新規に環境構築する際の環境設定の流れを次の図に示します。なお、環境設定する際には Administrators 権限が必要です。

図 10-3 環境設定の流れ (クラスタ運用での新規環境の構築)



10.2.3 インストール

現用系と予備系それぞれのローカルディスク上に同一バージョンのJP1/Service Supportをインストールします。共有ディスクにはインストールしないでください。

また、現用系、予備系ともに同じ名称のドライブおよびフォルダにインストールしてください。例えば、現用系でJP1/Service SupportをD:\Program Files (x86)\Hitachi\にインストールした場合、予備系でも同様にD:\Program Files (x86)\Hitachi\にインストールする必要があります。

10.2.4 jsshasetupinfo.batの編集

クラスタ環境構築用のjsshasetupinfo.batコマンドの内容を編集します。ファイルの内容は、クラスタ構成となる実行系、待機系それぞれで同じにする必要があります。

jsshasetupinfo.batコマンドの格納先を次に示します。

JP1/SS パス¥conf¥setup¥jsshasetupinfo.bat

jsshasetupinfo.bat コマンドのファイル形式を次に示します。

```
@rem All Rights Reserved. Copyright (C) 2007, Hitachi, Ltd.
@rem Licensed Material of Hitachi, Ltd.

@rem ローカルデータベース格納ディレクトリ
@set IMSSDBDIR =JP1/SS¥パス¥db

@rem 共有ファイル格納ディレクトリ
@set IMSSSHAREDIR =xxxxx

@rem データベースのポート番号
@set IMSSDBPORT =24400

@rem WebサーバのHTTPポート番号
@set IMSSHTTPPORT =24401

@rem WebコンテナサーバのWebサーバ連携のポート番号
@set IMSSWEBCONPORT =24402

@rem Webコンテナサーバのシャットダウンのポート番号
@set IMSSWEBSHUPORT =24403

@rem システム設定用のWebサーバのHTTPポート番号
@set IMSSWEBHTTPPORT =24404

@rem 論理ホスト名
@set IMSSLOGICALHOST =xxxxx

@rem 現用系の物理ホスト名
@set IMSSPHYSICALHOST =xxxxx
```

jsshasetupinfo.bat コマンドでは、次の内容を編集できます。「項目」に示す個所以外を変更すると、エラーになります。

表 10-6 jsshasetupinfo.bat コマンドで編集できる内容

項目	説明	デフォルト値
IMSSDBDIR	ローカルディスク上の案件管理 DB の格納先フォルダ名※ 1	JP1/SS パス¥db
IMSSSHAREDIR	共有ディスク上の共有ファイル格納先フォルダ※ 1	—
IMSSDBPORT	案件管理 DB サーバとの通信用のポート番号※ 2	24400
IMSSHTTPPORT	WWW サーバ、および WWW ブラウザとの通信用の ポート番号※ 2	24401
IMSSWEBCONPORT	WWW コンテナサーバと WWW サーバの連携用のポ ート番号※ 2	24402
IMSSWEBSHUPORT	WWW コンテナサーバとの通信をシャットダウンする ときに使用するポート番号※ 2	24403
IMSSWEBHTTPPORT	システム設定用の WWW サーバとの通信用ポ ート番号※ 2	24404
IMSSLOGICALHOST	クラスタ運用で使用する論理ホスト名	—

項目	説明	デフォルト値
IMSSPHYSICALHOST	現用系の物理ホスト名	—

(凡例)

—：デフォルト値がない

注※1

案件管理 DB の格納先フォルダ名を指定するときは、次の点に注意してください。

- ・ 133 バイト以内の絶対パスで指定してください。
- ・ OS で使用できる文字を指定してください。
- ・ 使用できる文字は、半角英数字、[_ (アンダーバー)]、[¥ (円記号)]、[() (丸括弧)]、[. (ピリオド)] および半角空白です。
- ・ フォルダ名の末尾に [¥ (円記号)] は指定しないでください。
- ・ フォルダ名の前後に半角空白およびタブを使用しないでください。
- ・ ネットワークドライブは指定できません。
- ・ 存在しないフォルダ名を指定した場合は、jsshasetup.bat コマンドの実行時に作成されます。
- ・ [D:¥] のように、ハードドライブの直下を指定しないでください。

注※2

IMSSDBPORT には、半角で 5001~65535 の数値を設定できます。IMSSHTTPPORT, IMSSWEBCONPORT, IMSSWEBSHUPORT, IMSSWEBHTTPPORT には、半角で 1~65535 の数値を設定できます。ただし、次の点に注意してください。

- ・ それぞれのポート番号が重複しないようにしてください。
- ・ 他製品が使用しているポート番号と重複しないようにしてください。
- ・ 設定したポート番号の前後に半角空白およびタブを使用しないでください。

メモ

jsshasetupinfo.bat コマンドでは、モデルファイル (JP1/SS パス¥conf¥setup ¥jsshasetupinfo.bat.model) を提供しています。モデルファイルは jsshasetupinfo.bat コマンドの内容をリセットする場合に利用してください。jsshasetupinfo.bat コマンドを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで jsshasetupinfo.bat コマンドとして使用できます。

10.2.5 クラスタソフトへのリソースの登録

クラスタソフトに次の表に示す内容を登録します。なお、すでに登録されたものを再利用する場合は、新たに登録する必要はありません。

表 10-7 クラスタソフトへのリソース登録

項番	表示名称	登録内容	リソースの種類	プロパティ
1	任意	グループ名	—	優先所有者
2	任意	共有ディスク	物理ディスク	所有者, 依存関係, ディスクパラメータ

項番	表示名称	登録内容	リソースの種類	プロパティ
3	任意	論理 IP アドレス	IP アドレス	所有者, 依存関係, IP アドレス, サブネットマスク, ネットワークの種類
4	任意	論理ホスト名	ネットワーク名	所有者, 依存関係, ホスト名

(凡例)

－：グループであるため対象外

項番 2～項番 4 での登録内容は「リソースの種類」で選択します。プロパティの依存関係は、論理ホスト名が論理 IP アドレスに依存するよう設定します。

10.2.6 論理ホストのセットアップ (現用系)

次の手順でセットアップします。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス
- JP1/Service Support - DB Cluster Service サービス

2. jsshasetup.bat コマンドを実行する。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jsshasetup.bat コマンドを実行し、セットアップします。引数には -c online オプション、-s オプションを指定してください。jsshasetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ)」を参照してください。

3. JP1/Service Support - DB Server サービスを停止し、スタートアップの種類を「自動」から「手動」に変更する。

4. 現用系から予備系に切り替える。

クラスタソフトを使って系の切り替えを実施します。

10.2.7 論理ホストのセットアップ (予備系)

次の手順でセットアップします。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス
- JP1/Service Support - DB Cluster Service サービス

2. jsshasetup.bat コマンドを実行する。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jsshasetup.bat コマンドを実行し、セットアップします。引数には -c standby オプションを指定してください。jsshasetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ)」を参照してください。

3. JP1/Service Support - DB Server サービスを停止し、スタートアップの種類を「自動」から「手動」に変更する。

10.2.8 クラスタソフトへのサービスの登録

クラスタソフトに次の表に示すように JP1/Service Support のサービスを登録します。

表 10-8 クラスタソフトへのサービスの登録

項番	表示名称	サービス名	依存関係
1	JP1/Service Support - DB Cluster Service	HiRDBClusterService_JS0	JP1/IM - Manager, JP1/NP, JP1/AO, JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI, JP1/PFM - Web Console との連携機能, および JP1/Base の認証機能を使用しない場合： <ul style="list-style-type: none"> • IP アドレスリソース • 物理ディスクリソース • ネットワーク名リソース JP1/IM - Manager, JP1/NP, JP1/AO, JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI , JP1/PFM - Web Console との連携機能, および JP1/Base の認証機能を使用する場合： <ul style="list-style-type: none"> • 項番 7 のリソース
2	JP1/Service Support - DB Server	HiRDBEmbeddedEdition_JS0	項番 1 のリソース
3	JP1/Service Support	JP1_ServiceSupport	項番 2 のリソース
4	JP1/Service Support - Web Service	JP1_ServiceSupport-WebService	項番 3 のリソース
5	JP1/Service Support - Task Service	JP1_ServiceSupport-TaskService	項番 2 のリソース

項番	表示名称	サービス名	依存関係
6	JP1/Base Event 論理ホスト名※	JP1_Base_Event 論理ホスト名※	依存関係については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のクラスタソフトへの登録の説明を参照してください。
7	JP1/Base_論理ホスト名※	JP1_Base_論理ホスト名※	

注※

論理ホスト名とは、JP1/Base で設定する論理ホスト名です。JP1/IM - Manager, JP1/NP, JP1/AO, JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI, JP1/PFM - Web Console との連携機能, および JP1/Base の認証機能を使用する場合は、「[10.2.5 クラスタソフトへのリソースの登録](#)」の表の項番 4 で設定した論理ホスト名を設定してください。

ここで登録する際の「リソースの種類」は「汎用サービス」です。また、項番 1, 項番 2 については、サービスが停止した場合は、リトライしないですぐにフェールオーバーする設定としてください。項番 3, 項番 4, 項番 5 については、クラスタソフトの設定のままでかまいません。

作業完了後は、クラスタソフトを使って、予備系から現用系に系の切り替えを実施してください。

使用する OS が Windows Server 2016, Windows Server 2012 R2 または Windows Server 2012 で、WSFC を使用している場合

次の設定も併せて実施してください。

1. JP1/Service Support - Web Service サービスの [プロパティ] ダイアログボックスを表示させ、[全般] タブの「スタートアップパラメーター」の値を空白に設定し、[OK] ボタンをクリックする。

10.2.9 認証サーバの設定

LDAP サーバ, または JP1/Base の認証サーバを認証サーバとして使用する場合は、次の手順で `jsschauthorityserver` コマンドを実行してください。LDAP サーバ, または JP1/Base の認証サーバを認証サーバとしない場合、この手順は不要です。

1. 現用系で `jsschauthorityserver` コマンドを実行する。

`jsschauthorityserver` コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jsschauthorityserver \(認証サーバ切り替え\)](#)」を参照してください。

2. 現用系から予備系に切り替える。

3. 予備系で `jsschauthorityserver` コマンドを実行する。

`jsschauthorityserver` コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jsschauthorityserver \(認証サーバ切り替え\)](#)」を参照してください。

4. 予備系から現用系に切り替える。

10.2.10 ODBC の設定

現用系、予備系それぞれで ODBC の設定が必要です。設定内容は、物理ホストで設定した内容と同じです。

そのほかの設定については、「[6.3.2 新規インストール時のセットアップ手順](#)」の手順 3 を参照してください。

10.2.11 クラスタ環境でのマニュアルの組み込み手順

所定のフォルダに HTML マニュアルをコピーすることで、メイン画面の [ヘルプ] ボタンからマニュアルを参照できます。

マニュアルの組み込み手順については、「[6.8 マニュアルの組み込み手順](#)」を参照してください。クラスタ環境でマニュアルを組み込む場合は、現用系と予備系の両方で同じマニュアルを組み込んでください。

10.3 クラスタ運用の環境設定 (物理ホストからの移行)

既存の物理ホスト環境からクラスタ環境に移行する場合、次の手順で移行してください。なお、この手順では現用系に物理ホスト環境があったと仮定して説明しています。

❗ 重要

物理ホスト環境からクラスタ環境へ移行できるのは、同一バージョンで同一言語の JP1/Service Support の場合だけです。移行前と移行後の JP1/Service Support のバージョンが異なる場合は、`jssetup -vup` コマンドを実行して、移行前の物理ホスト環境を移行後の JP1/Service Support と同じバージョンにバージョンアップしてください。

1. 現用系で、次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

2. 現用系で、`jsdbbackup.bat` コマンドを実行して案件管理 DB をバックアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、`jsdbbackup.bat` コマンドを実行し、案件管理 DB をバックアップします。引数には `-expand` オプションを指定してください。`jsdbbackup.bat` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「`jsdbbackup.bat` (データベースバックアップ)」を参照してください。

3. 現用系で、JP1/Service Support をアンセットアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動し、`jsunsetup.bat` コマンドを実行してセットアップ前の状態にします。`jsunsetup.bat` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「`jsunsetup.bat` (アンセットアップ)」を参照してください。

4. クラスタ環境をセットアップする。

手順は、新規環境を構築する場合と同じです。「10.2 クラスタ運用の環境設定 (新規インストールからの環境構築)」を参照してください。

5. 現用系で、クラスタソフトを使って次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

6. 現用系で、`jsdbrecovery.bat` コマンドを実行して案件管理 DB をリカバリーする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jssdbrecovery.bat コマンドを実行し、手順 2 で取得した案件管理 DB をリカバリーします。引数には -expand オプションを指定してください。jssdbrecovery.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)」を参照してください。

7. 現用系で、jssrefaclsetup コマンドを実行する。

案件ごとの参照権限設定機能をセットアップします。案件ごとの参照権限設定機能を使用していない場合、この手順は不要です。jssrefaclsetup コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ)」を参照してください。

10.4 クラスタ環境での案件管理 DB のサイズ拡張

クラスタ環境で案件管理 DB のサイズを拡張する場合、次の手順で拡張してください。

1. 実行系サーバを現用系に切り替える。

クラスタソフトを使って系の切り替えを実施します。なお、現用系がすでに実行系サーバになっていた場合には、この操作は不要です。

2. 現用系で、次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

3. 現用系で、jssdbbackup.bat コマンドを実行して障害復旧用に案件管理 DB をバックアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jssdbbackup.bat コマンドを実行し、案件管理 DB をバックアップします。引数には -maint オプションを指定してください。jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

4. 現用系で、jssdbbackup.bat コマンドを実行してリカバリー用に案件管理 DB をバックアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jssdbbackup.bat コマンドを実行し、案件管理 DB をバックアップします。引数には -expand オプションを指定してください。また、引数 -f オプションに指定するバックアップファイル名は、手順 3 で指定したファイルとは別名で指定してください。jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

5. 現用系で、クラスタソフトを使って次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - DB Server サービス
- JP1/Service Support - DB Cluster Service サービス

6. 現用系で、jsshadbinit.bat コマンドを実行して案件管理 DB のサイズを大きくする。

jsshadbinit.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsshadbinit.bat (クラスタ環境用データベース初期化)」を参照してください。

7. 現用系のサービスコントロールマネージャで、案件管理 DB サーバの JP1/Service Support - DB Server サービスを停止する。

8. すべての予備系で、jsshasetup.bat コマンドを実行してセットアップする。

それぞれの予備系を実行系サーバに切り替えてから、jsshasetup.bat コマンドを実行してください。引数には -c standby オプションを指定してください。jsshasetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ)」を参照してください。

9. 予備系のサービスコントロールマネージャで、案件管理 DB サーバの JP1/Service Support - DB Server サービスを停止する。
10. 現用系で、クラスタソフトを使って次に示す順序でサービスを開始する。
 - JP1/Service Support - DB Cluster Service サービス
 - JP1/Service Support - DB Server サービス
11. 現用系で、手順 4 で取得したリカバリー用のバックアップファイルを、jssdbrecovery.bat コマンドを使ってリカバリーする。

引数には-expand オプションを指定してください。jssdbrecovery.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)」を参照してください。
12. 現用系で、jssrefaclsetup コマンドを実行する。

案件ごとの参照権限設定機能をセットアップします。案件ごとの参照権限設定機能を使用していない場合、この手順は不要です。jssrefaclsetup コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ)」を参照してください。

10.5 クラスタ環境での案件保存 DB の構築

クラスタ環境で案件保存 DB を構築する場合、案件保存 DB のセットアップおよび案件保存 DB の領域拡張が必要となります。それぞれの手順について説明します。

10.5.1 クラスタ環境での案件保存 DB のセットアップ

クラスタ環境で案件保存 DB をセットアップする場合、次の手順でセットアップしてください。

1. 実行系サーバを現用系に切り替える。

クラスタソフトを使って系の切り替えを実施します。なお、現用系がすでに実行系サーバになっていた場合には、この操作は不要です。

2. 現用系で、次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスおよび JP1/Service Support - DB Cluster Service サービスは、起動したままとしてください。

3. 現用系で、jssdbbackup.bat コマンドを実行して障害復旧用に案件管理 DB および案件保存 DB をバックアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jssdbbackup.bat コマンドを実行し、案件管理 DB および案件保存 DB をバックアップします。引数には -maint オプションを指定してください。jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

すでにバックアップを取得している場合、この手順は不要です。

4. 案件保存 DB のセットアップに必要な情報を、案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルに設定する。

案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (jssitemstoredbinfo.bat)」を参照してください。

5. 共有ディスクの空き容量が 128GB 以上あることを確認する。

6. 現用系で、jssitemstoredbsetup.bat コマンドを実行して、案件保存 DB をセットアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jssitemstoredbsetup.bat コマンドを実行し、案件保存 DB をセットアップします。引数には、-c online オプションを指定してください。jssitemstoredbsetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssitemstoredbsetup.bat (案件保存 DB セットアップ)」を参照してください。

7. 実行系サーバを予備系に切り替える。

クラスタソフトを使って系の切り替えを実施します。

8. 予備系で、jssitemstoredbsetup.bat コマンドを実行して、案件保存 DB をセットアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jssitemstoredbsetup.bat コマンドを実行し、案件保存 DB をセットアップします。引数には、-c standby オプションを指定してください。jssitemstoredbsetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssitemstoredbsetup.bat (案件保存 DB セットアップ)」を参照してください。

9. 実行系サーバを現用系に切り替える。

クラスタソフトを使って系の切り替えを実施します。

10.5.2 クラスタ環境での案件保存 DB の拡張

クラスタ環境で案件保存 DB の容量を拡張する場合、次の手順で拡張してください。

1. 実行系サーバを現用系に切り替える。

クラスタソフトを使って系の切り替えを実施します。なお、現用系がすでに実行系サーバになっていた場合には、この操作は不要です。

2. 現用系で、次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスおよび JP1/Service Support - DB Cluster Service サービスは、起動したままとしてください。

3. 現用系で、jssdbbackup.bat コマンドを実行して障害復旧用に案件管理 DB および案件保存 DB をバックアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jssdbbackup.bat コマンドを実行し、案件管理 DB および案件保存 DB をバックアップします。引数には -maint オプションを指定してください。jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

すでにバックアップを取得している場合、この手順は不要です。

4. 現用系で、jssdbstatchk.bat を実行して、案件保存 DB の拡張回数や保存先ディレクトリを確認する。

jssdbstatchk.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbstatchk.bat (データベース状態確認)」を参照してください。

5. 案件保存 DB の拡張に必要な情報を、案件保存 DB 拡張情報設定ファイルに設定する。

案件保存 DB 拡張情報設定ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件保存 DB 拡張情報設定ファイル \(jssitemstoredbexpandinfo.bat\)](#)」を参照してください。

6. 共有ディスクの空き容量が 64GB 以上あることを確認する。

7. 現用系で、jssitemstoredbexpand.bat コマンドを実行して、案件保存 DB の容量を拡張する。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jssitemstoredbexpand.bat コマンドを実行し、案件保存 DB を拡張します。引数には、-c online オプションを指定してください。なお、複数回拡張する場合は、jssitemstoredbexpand.bat コマンドを複数回実行してください。jssitemstoredbexpand.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jssitemstoredbexpand.bat \(案件保存 DB 領域拡張\)](#)」を参照してください。

8. 実行系サーバを予備系に切り替える。

クラスタソフトを使って系の切り替えを実施します。

9. 予備系で、jssitemstoredbexpand.bat コマンドを実行して、案件保存 DB を拡張する。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jssitemstoredbexpand.bat コマンドを実行し、案件保存 DB を拡張します。引数には、-c standby オプションを指定してください。jssitemstoredbexpand.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jssitemstoredbexpand.bat \(案件保存 DB 領域拡張\)](#)」を参照してください。手順 7 で複数回拡張した場合でも、この手順では jssitemstoredbexpand.bat コマンドの実行は 1 回です。

10. 実行系サーバを現用系に切り替える。

クラスタソフトを使って系の切り替えを実施します。

10.6 クラスタ環境からの論理ホスト削除

クラスタ環境から JP1/Service Support の論理ホストを削除する場合、次の手順で削除してください。

1. 現用系から予備系に切り替える。

クラスタソフトを使って系の切り替えを実施します。

2. 予備系で、クラスタソフトから登録サービスを削除する。

3. 予備系で、論理ホストをアンセットアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jsshaunsetup.bat コマンドを実行します。jsshaunsetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jsshaunsetup.bat \(クラスタ環境用アンセットアップ\)](#)」を参照してください。

4. 予備系から現用系に切り替える。

クラスタソフトを使って系の切り替えを実施します。

5. 現用系で、論理ホストをアンセットアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jsshaunsetup.bat コマンドを実行します。jsshaunsetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jsshaunsetup.bat \(クラスタ環境用アンセットアップ\)](#)」を参照してください。

6. クラスタソフトから登録リソースを削除する。

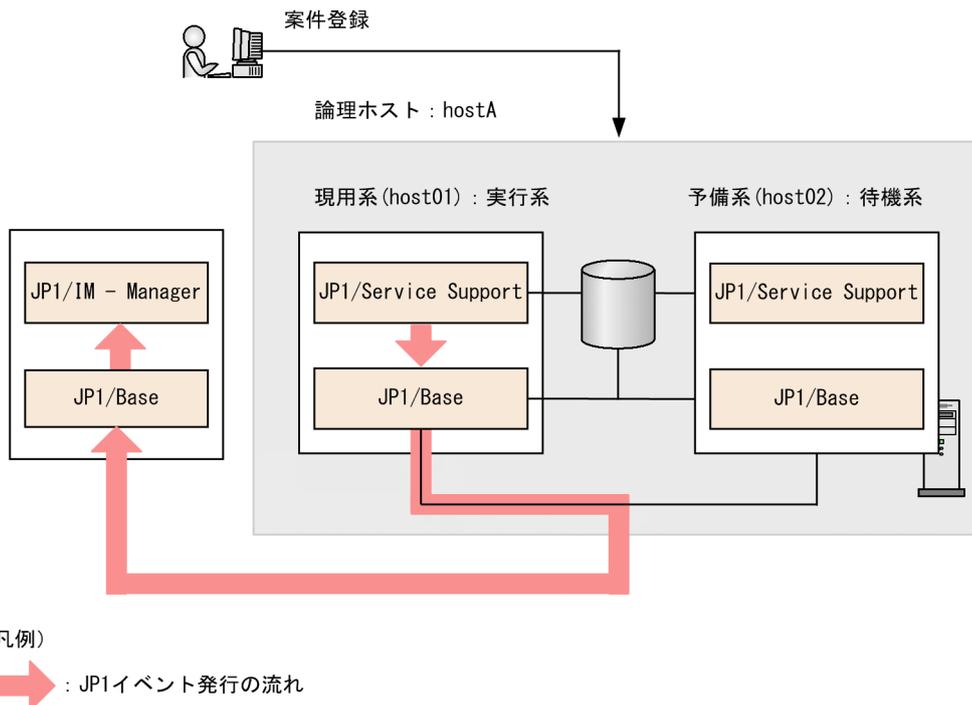
リソースを再利用する場合にはこの手順は不要です。

10.7 クラスタ環境での JP1 イベントの発行

JP1 イベントは、必ず JP1/Base を経由して JP1/Service Support から発行されます。このため、クラスタシステムで論理ホストの JP1/Service Support を運用する場合は、JP1/Base と同じ論理ホスト上に構築する必要があります。JP1/Service Support と JP1/Base を別々のホスト上に構築すると、JP1/Base の論理ホストだけのフェールオーバーが発生した場合に、JP1/Service Support から JP1 イベントを発行できなくなります。

クラスタ運用時の現用系での JP1 イベントの発行の流れを次の図に示します。

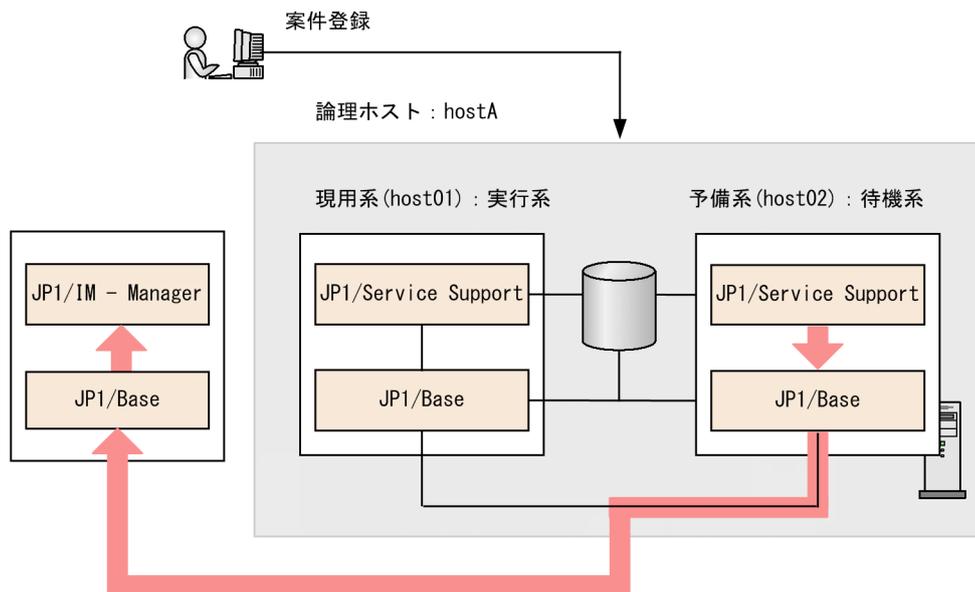
図 10-4 クラスタ運用時の JP1 イベントの発行（現用系での流れ）



上記の図では、物理ホストの現用系 (host01) が稼働中であることを仮定しています。この場合は、論理ホスト (hostA) に対して案件を登録すると、現用系で稼働中の JP1/Base を経由して JP1 イベントが発行されます。

クラスタ運用時の予備系での JP1 イベントの発行の流れを次の図に示します。

図 10-5 クラスタ運用時の JP1 イベントの発行（予備系での流れ）



(凡例)

➡ : JP1イベント発行の流れ

上記の図では、物理ホストの予備系（host02）が稼働中であることを仮定しています。この場合は、論理ホスト（hostA）に対して案件を登録すると、予備系で稼働中の JP1/Base を経由して JP1 イベントが発行されます。

10.8 クラスタ環境でのバージョンアップ

すでにクラスタ環境で運用中の JP1/Service Support を、最新版の JP1/Service Support にバージョンアップする場合は、いったん JP1/Service Support の運用を停止する必要があります。また、共有ディスクにはバージョンアップ後に必要な容量を確保しておく必要があります。

注意事項

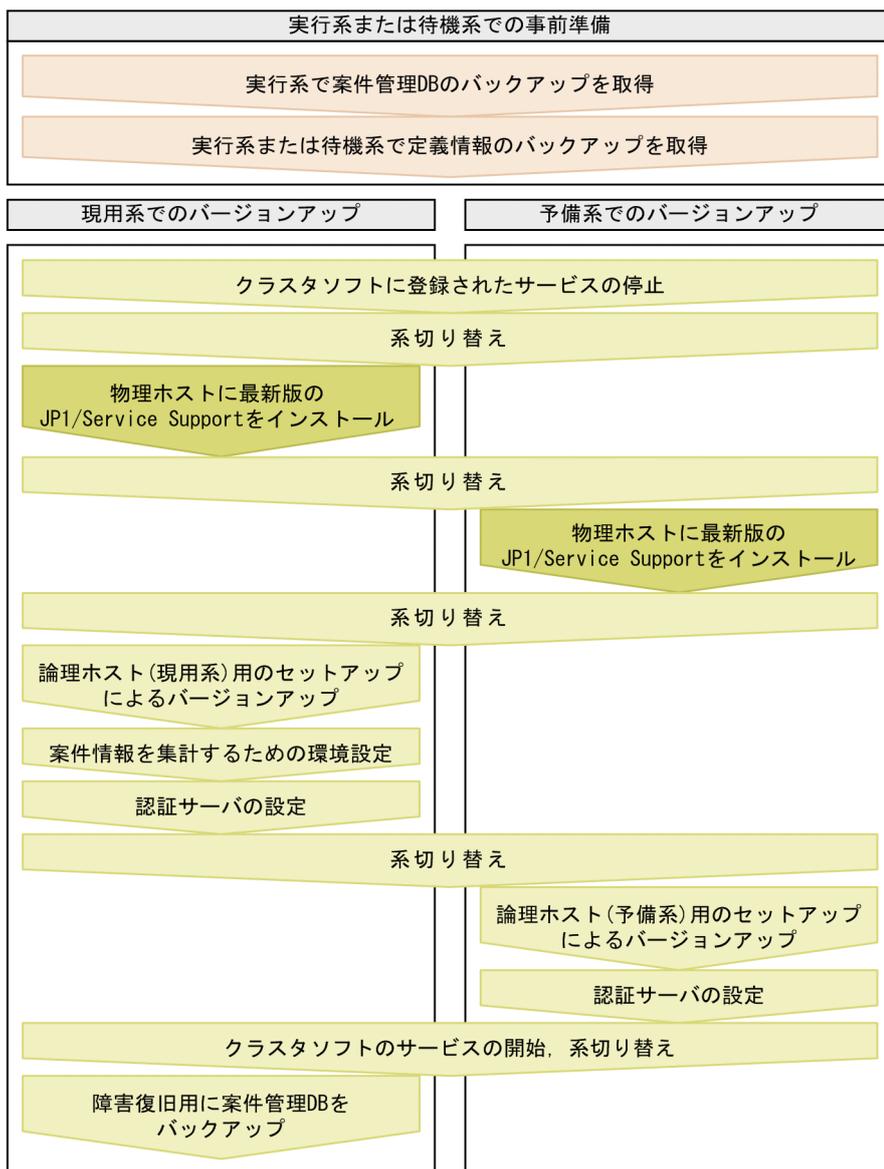
- JP1/Service Support Advanced Edition から最新版の JP1/Service Support にする場合は、バージョンアップインストールとなります。詳細については、「[10.8.1 クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support のバージョンアップ手順](#)」を参照してください。
なお、JP1/Service Support Advanced Edition のバージョンは、10-50 です。
- 11-00 より前の JP1/Service Support Advanced Edition を除く JP1/Service Support がインストールされている場合は、アップグレードインストールとなります。詳細については、「[10.9 クラスタ環境でのアップグレード](#)」を参照してください。

なお、JP1/Service Support のバージョンアップ時にインストール先マシンを変更する場合は、「[10.10 クラスタ環境でのインストール先マシンのリプレース](#)」を参照してください。

10.8.1 クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support のバージョンアップ手順

クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support を最新版にバージョンアップする際の環境設定の流れについて、次の図に示します。

図 10-6 クラスタ運用時のバージョンアップの流れ



(凡例)

: 物理ホスト用の設定
 : 論理ホスト用の設定

クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support を、最新版の JP1/Service Support にバージョンアップする場合、次の手順でバージョンアップしてください。

1. 実行系のバージョンアップ前の環境で `jssdbbackup.bat` コマンドを実行して、障害復旧用に案件管理 DB をバックアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、`jssdbbackup.bat` コマンドを実行し、案件管理 DB をバックアップします。引数には `-maint` オプションを指定してください。`jssdbbackup.bat` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「`jssdbbackup.bat` (データベースバックアップ)」を参照してください。

2. 実行系または待機系のバージョンアップ前の環境で、障害復旧用に定義情報をバックアップする。

バックアップの対象となる定義情報は、「11.1.1 定義情報のバックアップ」の表 11-1 で示している「環境設定コマンド」、「クラスタ用環境設定コマンド」および「環境設定ファイル」以外のファイルです。定義情報の内容は、実行系および待機系で同じですが、実行系での取得をお勧めします。

3. 次に示す順序で、クラスタソフトに登録されているサービスを停止する。

なお、IP アドレスリソース、物理ディスクリソースは停止しないでください。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス
- JP1/Service Support - DB Cluster Service サービス

4. 予備系から現用系に切り替える。

現在の実行系が予備系の場合は、現用系に切り替えます。

5. 現用系で、最新版の JP1/Service Support を上書きインストールする。

6. 現用系から予備系に切り替える。

7. 予備系で、最新版の JP1/Service Support を上書きインストールする。

8. 予備系から現用系に切り替える。

9. 現用系のサービスコントロールマネージャで、案件管理 DB サーバの JP1/Service Support - DB Server サービスを開始する。

10. 現用系で、論理ホストをセットアップして環境をバージョンアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動し、jsshasetup.bat コマンドを実行します。引数には-vup オプションを指定してください。jsshasetup.bat コマンドを実行するときには、案件管理 DB が格納されているドライブに、空き容量が必要です。必要な空き容量は、JP1/Service Support のバージョンと案件管理 DB のサイズによって異なります。

表 10-9 JP1/Service Support 09-00 または 09-50 からバージョンアップする場合

案件管理 DB のサイズ	必要な空き容量
S	0.2 ギガバイト
M	0.9 ギガバイト
L	1.4 ギガバイト
LL	2.9 ギガバイト
XL	09-00 および 09-50 に XL サイズは存在しないため対象外

表 10-10 JP1/Service Support 10-00 または 10-10 からバージョンアップする場合

案件管理 DB のサイズ	必要な空き容量
S	0.2 ギガバイト
M	0.8 ギガバイト
L	1.3 ギガバイト
LL	2.3 ギガバイト
XL	10-00 および 10-10 に XL サイズは存在しないため対象外

なお、JP1/Support Service 10-50 以降からバージョンアップする場合、案件管理 DB が格納されているドライブに空き容量は不要です。

また、バージョンアップ時に必要なメモリ所要量については、リリースノートを参照してください。その他の引数は、運用に合わせて次のように指定してください。jsshasetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ)」を参照してください。

メールで案件を登録したい場合

メールで案件を登録したい場合は、-t オプションを指定してマスターシステムおよび一時受付プロセスワークボードを作成してください。なお、マスターシステムおよび一時受付プロセスワークボードは、セットアップ時以外にも jsscreatesysandpwb コマンドで作成できます。

jsscreatesysandpwb コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成)」を参照してください。

11. 認証サーバを設定する。

LDAP サーバ、または JP1/Base の認証サーバを認証サーバとする場合、jsschauthorityserver コマンドを実行し、認証サーバを切り替えてください。LDAP サーバ、または JP1/Base の認証サーバを認証サーバとしない場合、この手順は不要です。

jsschauthorityserver コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)」を参照してください。

12. 現用系から予備系に切り替える。

実行系を予備系に切り替えます。

13. 予備系のサービスコントロールマネージャで、案件管理 DB サーバの JP1/Service Support - DB Server サービスを開始する。

14. 予備系で、論理ホストをセットアップして環境をバージョンアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動し、jsshasetup.bat コマンドを実行します。引数には-vup オプションを指定してください。

jsshasetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ)」を参照してください。

15. 認証サーバを設定する。

LDAP サーバ、または JP1/Base の認証サーバを認証サーバとする場合、jsschauthorityserver コマンドを実行し、認証サーバを切り替えてください。LDAP サーバ、または JP1/Base の認証サーバを認証サーバとしない場合、この手順は不要です。

jsschauthorityserver コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)」を参照してください。

16. 現用系および予備系のサービスコントロールマネージャで、案件管理 DB サーバの JP1/Service Support - DB Server サービスを停止する。

17. クラスタソフトでサービスを開始する。

まず、予備系でサービスが起動することを確認します。次に、予備系から現用系に切り替えて、現用系でサービスが起動することを確認します。

18. 現用系で、jssdbbackup.bat コマンドを実行して、障害復旧用に案件管理 DB をバックアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jssdbbackup.bat コマンドを実行し、案件管理 DB をバックアップします。引数には -maint オプションを指定してください。jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

注意事項

JP1/Service Support のバージョンが 10-50 以前でメールによって案件を登録する運用にしている場合、-vup オプションを指定して jsshasetup.bat コマンドを実行すると、自動で jssauthusersetup (認証ユーザー設定) コマンドが実行されるため、メール定義ファイルに設定している案件登録用メール送信先となるメールサーバのパスワード (hptl_jp1_imss_mail_pop3_password) が再設定されます。

バージョンアップに失敗した場合

バージョンアップに失敗した場合は、次に示す手順でバージョンアップ前の環境に戻してください。

1. インストールされている JP1/Service Support をアンインストールする。

アンインストールの手順については、「6.7 JP1/Service Support のアンセットアップとアンインストール」を参照してください。

2. インストール先フォルダ、および共有ディスク上の共有フォルダの配下にあるフォルダおよびファイルをすべて削除する。

3. バージョンアップ前と同じバージョンの JP1/Service Support を新規にインストールする。

インストールの手順については、「6.3.1 新規インストール手順」を参照してください。

4. バックアップした定義情報をリカバリーする。

定義情報のリカバリーについては、「11.1.2 定義情報のリカバリー」を参照してください。

5. 新規にクラスタ環境をセットアップする。

6. バックアップデータでリカバリーし、バージョンアップ前の環境に戻す。

バージョンアップ時の手順 1 で取得した、バージョンアップ前のバックアップデータでリカバリーしてください。リカバリーの手順については、「12. コマンド」の「jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)」を参照してください。

HTML マニュアルを [ヘルプ] ボタンから参照できるように設定している場合

新しいバージョンのマニュアルを上書きする必要があります。上書きする手順については、「[10.2.11 クラスタ環境でのマニュアルの組み込み手順](#)」を参照してください。

10.9 クラスタ環境でのアップグレード

すでにクラスタ環境で運用中の JP1/Service Support Starter Edition を、JP1/Service Support (Standard) にアップグレードする場合は、いったん JP1/Service Support の運用を停止する必要があります。また、共有ディスクには、アップグレード後に必要な容量を確保しておく必要があります。

クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support Starter Edition を JP1/Service Support (Standard) にアップグレードする手順について説明します。

注意事項

- JP1/Service Support Advanced Edition から最新版の JP1/Service Support にする場合は、バージョンアップインストールとなります。
なお、JP1/Service Support Advanced Edition のバージョンは、10-50 です。
- 11-00 より前の JP1/Service Support Advanced Edition を除く JP1/Service Support がインストールされている場合は、アップグレードインストールとなります。

また、JP1/Service Support のアップグレード時にインストールマシンを変更する場合は、「[10.10 クラスタ環境でのインストール先マシンのリプレース](#)」を参照してください。

10.9.1 クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support のアップグレード手順

クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support Starter Edition, または 11-00 より前の JP1/Service Support Advanced Edition を除く JP1/Service Support を、JP1/Service Support (Standard) にアップグレードする手順を次に示します。

1. 実行系のアップグレード前の環境で `jssdbbackup.bat` コマンドを実行して、障害復旧用に案件管理 DB をバックアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、`jssdbbackup.bat` コマンドを実行し、案件管理 DB をバックアップします。引数には `-maint` オプションを指定してください。`jssdbbackup.bat` コマンドの詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssdbbackup.bat \(データベースバックアップ\)](#)」を参照してください。

2. 実行系または待機系のアップグレード前の環境で、障害復旧用に定義情報をバックアップする。

バックアップの対象となる定義情報は、「[11.1.1 定義情報のバックアップ](#)」の表 11-1 で示している「環境設定コマンド」、「クラスタ用環境設定コマンド」および「環境設定ファイル」以外のファイルです。定義情報の内容は、実行系および待機系で同じですが、実行系での取得をお勧めします。

3. 次に示す順序で、クラスタソフトに登録されているサービスを停止する。

なお、IP アドレスリソース、物理ディスクリソースは停止しないでください。

- JP1/Service Support - Web Service サービス

- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス
- JP1/Service Support - DB Cluster Service サービス

4. 予備系から現用系に切り替える。

現在の実行系が予備系の場合は、現用系に切り替えます。

5. 現用系で、提供媒体を該当するドライブに入れ、JP1/Service Support (Standard) をインストールする。

自動的に起動するインストーラの指示に従ってインストールしてください。

インストール先フォルダには、JP1/Service Support Starter Edition のインストール時と同じインストール先が指定されます。

ユーザー情報、およびスタートメニューに表示されるプログラム名は、JP1/Service Support Starter Edition のインストール時に設定した内容が引き継がれます。

6. 再起動を要求された場合は、OS を再起動する。

7. 現用系から予備系に切り替える。

8. 予備系で、提供媒体を該当するドライブに入れ、JP1/Service Support (Standard) をインストールする。

現用系のインストール手順（手順 5）と同じです。

9. 予備系から現用系に切り替える。

10. 現用系のサービスコントロールマネージャで、案件管理 DB サーバの JP1/Service Support - DB Server サービスを開始する。

11. 現用系で、論理ホストをセットアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動し、jsshasetup.bat コマンドを実行します。引数には-vup オプションを指定してください。異なるバージョンの場合、jsshasetup.bat コマンドを実行するときには、案件管理 DB が格納されているドライブに、案件管理 DB のサイズによって次の空き容量が必要です。

表 10-11 JP1/Service Support 09-00 または 09-50 からアップグレードする場合

案件管理 DB のサイズ	必要な空き容量
S	0.2 ギガバイト
M	0.9 ギガバイト
L	1.4 ギガバイト
LL	2.9 ギガバイト
XL	09-00 および 09-50 に XL サイズは存在しないため対象外

表 10-12 JP1/Service Support 10-00 または 10-10 からアップグレードする場合

案件管理 DB のサイズ	必要な空き容量
S	0.2 ギガバイト
M	0.8 ギガバイト
L	1.3 ギガバイト
LL	2.3 ギガバイト
XL	10-00 および 10-10 に XL サイズは存在しないため対象外

なお、JP1/Service Support Advanced Edition を除く JP1/Service Support 10-50 以降からアップグレードする場合、案件管理 DB が格納されているドライブに空き容量は不要です。

また、アップグレード時に必要なメモリ所要量については、リリースノートを参照してください。

その他の引数は、運用に合わせて次のように指定してください。jsshasetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ)」を参照してください。

メールで案件を登録したい場合

メールで案件を登録したい場合は、-t オプションを指定してマスターシステムおよび一時受付プロセスワークボードを作成してください。なお、マスターシステムおよび一時受付プロセスワークボードは、セットアップ時以外にも jsscreatesysandpwb コマンドで作成できます。

jsscreatesysandpwb コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成)」を参照してください。

12. 認証サーバを設定する。

LDAP サーバ、または JP1/Base の認証サーバを認証サーバとする場合、jsschauthorityserver コマンドを実行し、認証サーバを切り替えてください。LDAP サーバ、または JP1/Base の認証サーバを認証サーバとしない場合、この手順は不要です。

jsschauthorityserver コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)」を参照してください。

13. 現用系から予備系に切り替える。

実行系を予備系に切り替えます。

14. 予備系のサービスコントロールマネージャで、案件管理 DB サーバの JP1/Service Support - DB Server サービスを開始する。

15. 予備系で、論理ホストをセットアップして環境をアップグレードする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動し、jsshasetup.bat コマンドを実行します。引数には-vup オプションを指定してください。

jsshasetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ)」を参照してください。

16. 認証サーバを設定する。

LDAP サーバ，または JP1/Base の認証サーバを認証サーバとする場合，jsschauthorityserver コマンドを実行し，認証サーバを切り替えてください。LDAP サーバ，または JP1/Base の認証サーバを認証サーバとしない場合，この手順は不要です。

jsschauthorityserver コマンドの詳細については，「12. コマンド」の「jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)」を参照してください。

17. 現用系および予備系のサービスコントロールマネージャで，案件管理 DB サーバの JP1/Service Support - DB Server サービスを停止する。

18. クラスタソフトでサービスを開始する。

まず，予備系でサービスが起動することを確認します。次に，予備系から現用系に切り替えて，現用系でサービスが起動することを確認します。

19. 現用系で，jssdbbackup.bat コマンドを実行して，障害復旧用に案件管理 DB をバックアップする。

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して，jssdbbackup.bat コマンドを実行し，案件管理 DB をバックアップします。引数には -maint オプションを指定してください。jssdbbackup.bat コマンドの詳細については，「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

20. 案件管理 DB のサイズを XL に拡張する。

案件管理 DB のサイズを XL にしない場合，この手順は不要です。

案件管理 DB のサイズの変更については，「10.4 クラスタ環境での案件管理 DB のサイズ拡張」を参照してください。

なお，「10.4 クラスタ環境での案件管理 DB のサイズ拡張」の手順とは引数が異なるコマンドがあります。次に示す引数を指定してください。

- リカバリー用の案件管理 DB のバックアップ (jssdbbackup.bat コマンド) (「10.4 クラスタ環境での案件管理 DB のサイズ拡張」の手順 4)
 - o オプション
 - mdb オプション
 - expand オプション
- 案件管理 DB のサイズの変更 (jsshadbinit.bat コマンド) (「10.4 クラスタ環境での案件管理 DB のサイズ拡張」の手順 6)
 - s XL
- 案件管理 DB のリカバリー (jssdbrecovery.bat コマンド) (「10.4 クラスタ環境での案件管理 DB のサイズ拡張」の手順 11)
 - i オプション
 - mdb オプション
 - expand オプション

注意事項

JP1/Service Support のバージョンが 10-50 以前でメールによって案件を登録する運用にしている場合、-vup オプションを指定して jsshasetup.bat コマンドを実行すると、自動で jssauthusersetup コマンドが実行されるため、メール定義ファイルに設定している案件登録用メールの送信先となるメールサーバのパスワード (hptl_jp1_imss_mail_pop3_password) が再設定されます。

アップグレードに失敗した場合

アップグレードに失敗した場合は、次に示す手順でアップグレード前の環境に戻してください。

1. インストールされている JP1/Service Support をアンインストールする。
アンインストールの手順については、「[6.7 JP1/Service Support のアンセットアップとアンインストール](#)」を参照してください。
2. インストール先フォルダ、および共有ディスク上の共有フォルダの配下にあるフォルダおよびファイルをすべて削除する。
3. アップグレード前と同じバージョンの JP1/Service Support を新規にインストールする。
インストールの手順については、「[6.3.1 新規インストール手順](#)」を参照してください。
4. バックアップした定義情報をリカバリーする。
定義情報のリカバリーについては、「[11.1.2 定義情報のリカバリー](#)」を参照してください。
5. 新規にクラスタ環境をセットアップする。
6. バックアップデータでリカバリーし、アップグレード前の環境に戻す。
アップグレード時の手順 1 で取得した、アップグレード前のバックアップデータでリカバリーしてください。リカバリーの手順については、「[12. コマンド](#)」の「[jssdbrecovery.bat \(データベースリカバリー\)](#)」を参照してください。

HTML マニュアルを [ヘルプ] ボタンから参照できるように設定している場合

アップグレード後のマニュアルを上書きする必要があります。上書きする手順については、「[10.2.11 クラスタ環境でのマニュアルの組み込み手順](#)」を参照してください。

10.10 クラスタ環境でのインストール先マシンのリプレース

すでに JP1/Service Support がインストールされているマシンとは異なるマシンにリプレースし、JP1/Service Support をバージョンアップまたはアップグレードする手順について説明します。なお、手順内の「旧環境」は、旧バージョンまたは旧製品 (Edition) の JP1/Service Support がインストールされている Windows を示しています。また、「新環境」は、新バージョンまたは新製品 (Edition) の JP1/Service Support をインストールする Windows を示しています。

❗ 重要

旧環境の JP1/Service Support が新環境の OS をサポートしていない場合は、旧環境の JP1/Service Support のバージョンを新環境の OS をサポートしているバージョンにバージョンアップしてから、リプレースしてください。また、新環境は、64 ビット版 Windows が前提となります。なお、JP1/Service Support のバージョンと前提 OS については、リリースノートを参照してください。

1. 旧環境の実行系で `jssdbbackup.bat` コマンドを実行して、リカバリー用の案件管理 DB をバックアップする。
スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、`jssdbbackup.bat` コマンドを実行し、案件管理 DB をバックアップします。引数には `-f` オプションおよび `-expand` オプションを指定してください。`jssdbbackup.bat` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jssdbbackup.bat \(データベースバックアップ\)](#)」を参照してください。
2. 旧環境の実行系または待機系で、定義情報をバックアップする。
バックアップの対象となる定義情報は、「11.1.1 定義情報のバックアップ」の表 11-1 で示している「環境設定コマンド」、「クラスタ用環境設定コマンド」および「環境設定ファイル」以外のファイルです。定義情報の内容は、実行系および待機系で同じですが、実行系での取得をお勧めします。
3. 新環境に旧環境と同じ JP1/Service Support をインストールし、環境を設定する。
クラスタ運用の場合のインストールおよび環境設定の手順については、「10.2 クラスタ運用の環境設定 (新規インストールからの環境構築)」を参照してください。
4. 実行系の新環境で、`jssdbrecovery.bat` コマンドを実行し、データをリカバリーする。
手順 1 で取得したバックアップを使用します。引数には、`-f` オプションおよび `-expand` オプションを指定してください。
`jssdbrecovery.bat` コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「[jssdbrecovery.bat \(データベースリカバリー\)](#)」を参照してください。
5. 新環境の現用系および予備系で、定義情報をリカバリーする。
手順 2 でバックアップした定義情報を、新環境でリカバリーしてください。リカバリーしたあと、旧環境と同じように動作するかを確認してください。
6. 旧環境を現用系から予備系に切り替える。

7. 旧環境で、予備系の JP1/Service Support をアンセットアップする。
スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動して、jsshaunsetup.bat コマンドを実行し、旧環境の JP1/Service Support (Standard) をアンセットアップしてください。jsshaunsetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsshaunsetup.bat (クラスタ環境用アンセットアップ)」を参照してください。
8. 旧環境で、予備系の JP1/Service Support をアンインストールする。
アンインストール手順については、「6.7.2 アンインストール手順」を参照してください。
9. 旧環境を予備系から現用系に切り替える。
10. 旧環境で、現用系の JP1/Service Support をアンセットアップする
スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS] を起動して、jsshaunsetup.bat コマンドを実行し、旧環境の JP1/Service Support をアンセットアップしてください。jsshaunsetup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jsshaunsetup.bat (クラスタ環境用アンセットアップ)」を参照してください。
11. 旧環境で、現用系の JP1/Service Support をアンインストールする。
アンインストール手順については、「6.7.2 アンインストール手順」を参照してください。
12. 新環境の JP1/Service Support を、バージョンアップまたはアップグレードする。
バージョンアップ手順については、「10.8.1 クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support のバージョンアップ手順」を参照してください。
アップグレード手順については、「10.9.1 クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support のアップグレード手順」を参照してください。

10.11 クラスタ運用時の注意事項

- クラスタ環境をアンセットアップした際に、共有ディスクに案件管理 DB ファイルが残ることがあります。不要な場合は手動で削除してください。
- クラスタ環境をアンセットアップしなかった場合、クラスタソフトに JP1/Service Support のクラスタ環境設定が残ります。また、共有ディスク、ローカルディスクに案件管理 DB が残ります。不要な場合は手動で削除してください。
- 案件管理 DB のサイズを変更した場合、ほかのクラスタ環境内のホストもスタンバイ指定でセットアップしてください。
- クラスタ環境で、現用系としてセットアップしたホストを予備系に、予備系としてセットアップしたホストを現用系にセットアップし直す場合には、必ずアンセットアップしたあとでセットアップし直してください。
- 次に示すファイルを編集、または格納した場合、現用系、予備系で内容が同じになるようにしてください。
 - JP1/Service Support の HTML マニュアル
 - CSV カラム名マッピングファイル (jplimss_itemcsv_columnmap.conf)
 - CSV 設定ファイル (hptl_jp1_imss_csv_setting.properties)
 - JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jpl_event_setting.properties)
 - JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jplproduct_cooperation_setting.properties)
 - URL 定義ファイル (jsslogin.url)
 - 案件検索用の案件フォーム定義ファイル (任意)
 - 案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties)
 - 案件自動入力プロパティファイル (jplimss_itementry_default.conf)
 - 案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties)
 - 案件フォーム定義ファイル (任意)
 - 案件保存 DB 拡張情報設定ファイル (jssitemstoredbexpandinfo.bat)
 - 案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (jssitemstoredbinfo.bat)
 - 関連リンクプロパティファイル (hptl_jp1_imss_link_setting.properties)
 - システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
 - ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jp1_imss_jpl_event_status.properties)
 - 操作ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_access_log.properties)
 - タスク実行サービス定義ファイル (jplimss_service_setting.conf)
 - 入力候補値設定ファイル (任意)

- 入力補助機能プロパティファイル (hptl_jp1_imss_input_assist_plugin.properties)
- メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_main_log.properties)
- メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
- 文字列置換設定ファイル (jplimss_replace_string_setting.conf)
- ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties)
- ユーザーログ定義ファイル (jplaclexport.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplaclimport.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplauthusersetup.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplinformleave.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplinformperiod.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitemcount.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitemedit.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitementry.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitementrybymail.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitemexportEx.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitemimportEx.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitemstore.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitemstoredbrotate.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplmailnotification.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplrefaclsetup.conf)
- JP1/Service Support をクラスタ環境で運用している場合は、JP1/Base のサービス起動順序を設定しないでください。クラスタ環境で JP1/Service Support と JP1/Base のサービス起動・停止の順序を設定する場合は、Windows の WSFC を使用してサービスの起動順序を設定するようにしてください。
- クラスタシステムでの運用でサービスの起動、停止の操作を行う場合、次に示すサービスのうち、「JP1/Service Support - DB Server」だけの停止、起動を行わないでください。「JP1/Service Support - DB Server」だけの停止、起動を行った場合、コマンドの実行に失敗、ログインできない現象が発生します。
 - JP1/Service Support - DB Server
 - JP1/Service Support - DB Cluster Service

「JP1/Service Support - DB Server」のサービスを停止し、現象が発生した場合、クラスタソフトから次の手順を実行してください。

1. 「JP1/Service Support - DB Cluster Service」を停止する
2. 「JP1/Service Support - DB Cluster Service」を起動する
3. 「JP1/Service Support - DB Server」を起動する

11

JP1/Service Support のメンテナンス

この章では、JP1/Service Support のメンテナンスについて説明します。

JP1/Service Support を安定して運用するために、定義ファイルのバックアップやデータベースの管理など、定期的にメンテナンス作業を計画してください。

11.1 定義情報のバックアップ・リカバリー

ここでは、JP1/Service Support の定義情報のバックアップおよびリカバリーについて説明します。ここでの説明を基に、システム全体のバックアップ計画の一環として、JP1/Service Support のバックアップおよびリカバリーを検討してください。

注意事項

クラスタシステムで運用する場合、現用系と予備系の両方でバックアップおよびリカバリーを行ってください。対象となるファイルはクラスタシステムでない場合と同じです。

11.1.1 定義情報のバックアップ

JP1/Service Support の定義情報のバックアップについて説明します。

JP1/Service Support の設定を変更した場合に、バックアップを取得してください。

バックアップは、ファイルをコピーするなど、任意の方法で取得してください。バックアップの取得は、できるだけ JP1/Service Support のサービスを停止した状態で行ってください。

JP1/Service Support のバックアップ対象ファイルを次に示します。

表 11-1 JP1/Service Support のバックアップ対象ファイル

ファイル名※1	内容
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1acllexport.conf	ユーザーログ定義ファイル
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1aclimport.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1authusersetup.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1informleave.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1informperiod.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemcount.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemedit.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itementry.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itementrybymail.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemexportEx.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemimportEx.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemstore.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemstoredbrotate.conf	
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1mailnotification.conf	

ファイル名※1	内容
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1refaclsetup.conf	ユーザーログ定義ファイル
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1imss_itemedit_codemap.conf	案件編集コマンド用コードマッピングファイル
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1imss_itementry_codemap.conf	案件登録コマンド用コードマッピングファイル
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1imss_itemimport_codemap.conf	案件情報インポート用コードマッピングファイル
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1informleave_setting.conf	滞留案件定義ファイル
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1imss_itemcsv_columnmap.conf	CSV カラム名マッピングファイル
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1imss_replace_string_setting.conf	文字列置換設定ファイル
JP1/SS パス¥conf¥login¥jsslogin.url※2	URL 定義ファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_ci_link_setting.properties	機器情報外部参照プロパティファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_csv_setting.properties	CSV 設定ファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_link_setting.properties	関連リンクプロパティファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_main_log.properties	メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_main_setting.properties	システムプロパティファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_main_setting_kpi.properties	案件集計プロパティファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_usermgr.properties	ユーザー管理プロパティファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_pwb_default_setting.properties	案件自動入力プロパティファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_input_assist_plugin.properties	入力補助機能プロパティファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_ua_conf.properties	JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties	JP1 製品連携設定プロパティファイル
JP1/SS パス¥conf¥hptl¥jp1_imss_access_log.properties	操作ログ設定ファイル
JP1/SS パス¥conf¥jp1imss_mail_setting.conf※2	メール定義ファイル
JP1/SS パス¥conf¥jp1imss_service_setting.conf	タスク実行サービス定義ファイル
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jssitemstoredbexpandinfo.bat	案件保存 DB 拡張情報設定ファイル
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jssitemstoredbinfo.bat	案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jsssetupinfo.bat	環境設定コマンド
JP1/SS パス¥tools¥setup¥jsscminfo.bat	
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jsshasetupinfo.bat	クラスタ用環境設定コマンド

ファイル名※1	内容
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties	JP1 イベント発行設定ファイル
JP1/SS パス¥conf¥event¥hptl_jp1_imss_jplevent_status.properties	ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル
JP1/SS パス¥dbms¥db¥CONF¥pdsys	環境設定ファイル
JP1/SS パス¥dbms¥db¥CONF¥emb¥HiRDB.ini	
JP1/SS パス¥uCPsB¥httpsd¥conf¥httpsd.conf	
JP1/SS パス¥uCPsB¥CC¥web¥containers¥jp1ss¥usrconf¥usrconf.properties	
JP1/SS パス¥uCPsB¥CC¥web¥redirector¥workers.properties	
JP1/SS パス¥uCPsB¥CC¥web¥web¥workers¥workers.properties	
ユーザー任意のファイル名	アクセス権情報入力ファイル
ユーザー任意のファイル名	案件情報インポート用コードマッピングファイル
ユーザー任意のファイル名	案件情報入力ファイル
Item_PWB_プロセスワークボード ID.csv ItemRefInfo_PWB_プロセスワークボード ID.csv	案件情報拡張入力ファイル
ユーザー任意のファイル名	案件登録コマンド用コードマッピングファイル
ユーザー任意のファイル名	案件編集コマンド用コードマッピングファイル
ユーザー任意のファイル名	案件フォーム定義ファイル
ユーザー任意のファイル名	案件検索用の案件フォーム定義ファイル
ユーザー任意のファイル名	ユーザー情報入力ファイル
ユーザー任意のファイル名	ユーザー情報編集ファイル
ユーザー任意のファイル名	メンバー情報入力ファイル
ユーザー任意のファイル名	ロール情報入力ファイル
ユーザー任意のファイル名	入力候補値設定ファイル

注※1

ユーザーが編集または作成していない場合は、バックアップは不要です。

注※2

異なる環境に移行したり、JP1/Service Support をアップグレードしたりする場合、サーバ名や添付ファイルの出力先フォルダのパスの修正が必要です。

11.1.2 定義情報のリカバリー

JP1/Service Support の設定情報のリカバリーについて説明します。

(1) ユーザーが編集した定義ファイルのリカバリー

ユーザーが編集した定義ファイルの情報をリカバリーする場合は、次の前提条件を確認した上で、バックアップファイルを、元の位置にリカバリーしてください。

前提条件

- JP1/Service Support がインストール済みであること。
- JP1/Service Support のサービスが停止していること。

(2) ユーザーが作成した定義ファイルのリカバリー

ユーザーが作成した定義ファイルの情報をリカバリーする場合は、JP1/Service Support がインストール済みであることを確認してから、「[13. 定義ファイル](#)」を参照して、リカバリーしてください。

11.2 データベースのメンテナンス

ここでは、JP1/Service Support のデータベースについて説明します。ここでの説明を基に、システム全体のメンテナンス計画の一環として、JP1/Service Support のデータベースのメンテナンスを検討してください。

注意事項

クラスタシステムで運用する場合、サービスの停止と再起動は実行系のサーバで実行してください。また、コマンドは現用系かつ実行系のサーバで実行してください。

11.2.1 案件管理 DB のバックアップとリカバリー

ディスク障害などが発生してシステムが動作しなくなった場合、JP1/Service Support で使用する案件管理 DB が回復できないことがあります。このような不測の事態に備えて、定期的に案件管理 DB のバックアップデータを取得しておく必要があります。

案件管理 DB のバックアップ、リカバリーは、JP1/Service Support の運用を停止した状態で実施してください。

なお、案件保存 DB を使用している場合は、案件保存 DB に更新（案件の保存など、年次メンテナンスでの案件保存 DB の操作）があったときは、案件保存 DB のバックアップが必要です。案件保存 DB を使用している場合のデータベースのバックアップについては「[11.2.14 案件保存 DB 使用時のバックアップ](#)」を、リカバリーについては「[11.2.15 案件保存 DB 使用時のリカバリー](#)」を参照してください。

案件管理 DB のバックアップ手順、およびリカバリー手順を次に示します。

バックアップ手順

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

2. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

3. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

引数には -maint オプションを指定して実行してください。詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jssdbbackup.bat \(データベースバックアップ\)](#)」を参照してください。

リカバリー手順

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

2. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

3. jssdbrecovery.bat コマンドを実行する。

引数には -maint オプションを指定して実行してください。詳細については、「12. コマンド」の「jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)」を参照してください。

11.2.2 案件管理 DB からの案件の一括削除

案件管理 DB から案件を一括で削除したい場合に使用してください。

なお、JP1/Service Support の運用状態によって、手順が異なります。

JP1/Service Support の運用を停止できる場合

「(1) JP1/Service Support の運用を停止して案件を一括削除する」を参照してください。この場合、案件管理 DB をバックアップできます。

JP1/Service Support の運用を停止できない場合

「(2) JP1/Service Support の運用中に案件を一括削除する」を参照してください。この場合、削除対象案件を CSV ファイルに退避できます。

(1) JP1/Service Support の運用を停止して案件を一括削除する

JP1/Service Support の運用を停止して案件管理 DB から案件を一括削除する手順を次に示します。

なお、案件管理 DB にすでに削除待ちとなっている案件がある場合、削除待ちとなっている案件と、これから一括削除する案件の区別がつかなくなることがあります。このため、ここでは、すでに削除待ち状態となっている案件を削除してから、不要な案件を一括削除する手順について説明します。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

2. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。
3. jssdbbackup.bat コマンドを実行し、案件管理 DB のバックアップを取得する。
削除待ち状態のデータを削除する前に、案件管理 DB のバックアップを取得します。引数には-maint オプションを指定して実行してください。詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。
4. jssdelrec コマンドを実行し、削除待ち状態のデータを削除する。
詳細については、「12. コマンド」の「jssdelrec (案件管理 DB データ削除)」を参照してください。
5. jssitemdeletion コマンドを実行し、案件を一括で削除待ち状態にする。
詳細については、「12. コマンド」の「jssitemdeletion (案件一括削除)」を参照してください。
6. jssitemlist コマンドを実行する。
jssitemlist コマンドを-d オプション付きで実行し、不要な案件が削除待ち状態となっているかどうか確認してください。詳細については、「12. コマンド」の「jssitemlist (案件一覧出力)」を参照してください。
誤ったオプションを指定して jssitemdeletion コマンドを実行するなど、削除不要な案件が削除待ち状態となっている場合、jssrev コマンドを実行することで削除待ち状態が解除できます。詳細については、「12. コマンド」の「jssrev (案件一括削除取り消し)」を参照してください。
7. jssdelrec コマンドを実行し、削除待ち状態の案件を削除する。
詳細については、「12. コマンド」の「jssdelrec (案件管理 DB データ削除)」を参照してください。
8. jsscollectdata コマンドを実行する。
集計データをすべて取り直したい場合は、引数に-a オプションを指定して実行してください。詳細については、「12. コマンド」の「jsscollectdata (案件情報集計)」を参照してください。
9. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。
10. jssdbreclaim.bat コマンドを実行する。
詳細については、「12. コマンド」の「jssdbreclaim.bat (案件管理 DB 空き領域解放)」を参照してください。
11. 次に示す順序でサービスを再起動する。
 - JP1/Service Support サービス
 - JP1/Service Support - Web Service サービス
 - JP1/Service Support - Task Service サービス

(2) JP1/Service Support の運用中に案件を一括削除する

古い案件（システム ID が sys01 の案件で、2012/01/01～2013/01/01 の間に登録した案件）、かつクローズしている案件を、案件管理 DB から一括削除する手順を次に示します。

1. jssitemexportEx コマンドを実行し、削除対象案件を CSV ファイルに退避する。

jssitemexportEx コマンドを実行する際、対象の案件を絞り込みます。実行例を次に示します。

```
jssitemexportEx -o "c:%exportData" -s -id sys01 -ct 2012/01/01-2013/01/01
```

詳細については、「12. コマンド」の「jssitemexportEx（案件情報拡張エクスポート）」を参照してください。

2. jssdelrec コマンドを実行し、削除待ち状態のデータを削除する。

実行例を次に示します。

```
jssdelrec -a -b
```

詳細については、「12. コマンド」の「jssdelrec（案件管理 DB データ削除）」を参照してください。

3. 手順 1 で絞り込んだ条件と同じ条件で jssitemdeletion コマンドを実行し、案件を削除待ちにする。

実行例を次に示します。

```
jssitemdeletion -s -id sys01 -ct 2012/01/01-2013/01/01
```

詳細については、「12. コマンド」の「jssitemdeletion（案件一括削除）」を参照してください。

4. jssitemlist コマンドを実行する。

jssitemlist コマンドを -d オプション付きで実行し、不要な案件が削除待ち状態となっているかどうか確認してください。詳細については、「12. コマンド」の「jssitemlist（案件一覧出力）」を参照してください。

誤ったオプションを指定して jssitemdeletion コマンドを実行するなど、削除不要な案件が削除待ち状態となっている場合、jssrev コマンドを実行することで削除待ち状態が解除できます。詳細については、「12. コマンド」の「jssrev（案件一括削除取り消し）」を参照してください。

5. jssdelrec コマンドを実行し、手順 3 で削除待ちにした案件を削除する。

実行例を次に示します。

```
jssdelrec -a -b
```

詳細については、「12. コマンド」の「jssdelrec（案件管理 DB データ削除）」を参照してください。

6. jsscollectdata を実行し、案件情報を収集する。

集計データをすべて取り直したい場合は、引数に -a オプションを指定して実行してください。詳細については、「12. コマンド」の「jsscollectdata（案件情報集計）」を参照してください。

7. jssdbreclaim.bat コマンドを実行する。

詳細については、「12. コマンド」の「jssdbreclaim.bat (案件管理 DB 空き領域解放)」を参照してください。

11.2.3 案件管理 DB からのデータ削除

削除待ち状態の対象システム、プロセスワークボードなど、不要となったデータを案件管理 DB から削除したい場合に使用してください。

案件管理 DB からデータを削除する手順を次に示します。

1. jssdelrec コマンドを実行する。

JP1/Service Support の運用中にコマンドを実行する場合は、-b オプションを指定して実行してください。-b オプションを指定しないでコマンドを実行する場合は、次の順序でサービスを停止してからコマンドを実行してください。

1. JP1/Service Support - Task Service サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス
3. JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

詳細については、「12. コマンド」の「jssdelrec (案件管理 DB データ削除)」を参照してください。

2. jsscollectdata コマンドを実行する。

集計データをすべて取り直したい場合は、引数に-a オプションを指定して実行してください。詳細については、「12. コマンド」の「jsscollectdata (案件情報集計)」を参照してください。

3. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

4. jssdbreclaim.bat コマンドを実行する。

詳細については、「12. コマンド」の「jssdbreclaim.bat (案件管理 DB 空き領域解放)」を参照してください。

11.2.4 案件管理 DB のサイズ拡張

案件管理 DB のサイズを拡張したい場合、次に示す手順で案件管理 DB のサイズを変更してください。

1. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

案件管理 DB のバックアップを取得します。引数に-maint オプションを指定してください。[バックアップファイル:maintA]

jssdbbackup.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

2. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

案件管理 DB のバックアップを取得します。*¹ [バックアップファイル：expandA]
指定する引数を、次に示します。

案件管理 DB のサイズを XL に拡張する場合

-o オプション、-mdb オプション、-expand オプションを指定してください。

なお、-f オプションを指定してバックアップすると、手順 4 でリカバリーできません。

上記以外の場合

-f オプション、-expand オプションを指定してください。

jssdbbackup.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

3. jssdbinit.bat コマンドを実行する。

案件管理 DB のサイズを拡張します。

jssdbinit.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbinit.bat (データベース初期化)」を参照してください。

4. jssdbrecovery.bat コマンドを実行する。

手順 2 で作成した [バックアップファイル：expandA] をリカバリーします。

指定する引数を、次に示します。*², *³

案件管理 DB のサイズを XL に拡張する場合

-i オプション、-mdb オプション、-expand オプションを指定してください。

上記以外の場合

-f オプション、-expand オプションを指定してください。

jssdbrecovery.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)」を参照してください。

注※1

KNAB26102-E のエラーメッセージが出力された場合、エラー要因を取り除き再度コマンドを実行してください。それでも上記エラーが出力される場合は、引数-maint オプションを指定した jssdbrecovery.bat コマンド実行して、手順 1 で作成した [バックアップファイル：maintA] をリカバリーしてください。そのあと、再度コマンドを実行してください。

注※2

KNAB26103-E のエラーメッセージが出力された場合、エラー要因を取り除いたあと、再度コマンドを実行してください。それでも上記エラーが出力される場合は、手順 3 から再度実行してください。再度実行しても問題が解決しない場合には、システム管理者に連絡してください。

注※3

jssdbrecovery.bat コマンドに-maint オプションを指定して [バックアップファイル：maintA] をリカバリーしても、データベースのサイズは拡張されません。

11.2.5 案件管理 DB の再編成

エラーメッセージ KNAB12001-E が出力され、このメッセージの詳細コードが「-756」の場合、案件管理 DB の容量が不足しています。不要なデータを削除してから、案件管理 DB を再編成してください。

案件管理 DB を再編成する場合、JP1/Service Support の運用を停止した状態で実施してください。

案件管理 DB を再編成する手順を次に示します。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

2. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

3. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

引数には -maint オプションを指定して実行してください。詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

4. jssdborg.bat コマンドを実行する。

詳細については、「12. コマンド」の「jssdborg.bat (案件管理 DB 再編成)」を参照してください。

なお、案件管理 DB を再編成した場合、データベースの空き容量を解放する必要はありません。

11.2.6 案件管理 DB の空き領域解放

案件管理 DB には、運用を続けていくうちに「空き領域」と呼ばれる領域が発生します。この領域は、「解放」しないかぎり再利用されません。案件管理 DB の空き領域の解放は、JP1/Service Support を運用中でも実施できます。案件管理 DB へのデータ削除が頻繁に行われた時期のあとを見計らって、案件管理 DB に発生した空き領域を解放するようにしてください。

案件管理 DB の空き領域を解放する手順を次に示します。

1. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

2. jssdbreclaim.bat コマンドを実行する。

詳細については、「12. コマンド」の「jssdbreclaim.bat (案件管理 DB 空き領域解放)」を参照してください。

11.2.7 案件管理 DB の初期化

案件管理 DB の初期化は、案件管理 DB を新規インストールでのセットアップ直後の状態へ戻したい場合に使用してください。案件管理 DB を初期化する場合、JP1/Service Support の運用を停止した状態で実施してください。

なお、案件保存 DB を使用している場合、案件管理 DB を初期化すると、同時に案件保存 DB も削除されます。データベースを初期化するには、jssdbinit.bat コマンドを実行します。jssdbinit.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbinit.bat (データベース初期化)」を参照してください。

案件管理 DB を初期化する手順を次に示します。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

2. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

3. jssdbinit.bat コマンドまたは jsshadbinit.bat コマンドを実行する。

詳細については、「12. コマンド」の「jssdbinit.bat (データベース初期化)」または「jsshadbinit.bat (クラスタ環境用データベース初期化)」を参照してください。

11.2.8 案件情報の再登録

あらかじめ、jssitemexportEx コマンドを実行し保存しておいた案件情報を再登録できます。再登録できるデータは、添付ファイルおよび関連情報を含めた案件に設定できる項目です。

(1) 案件情報を再登録する

案件情報を再登録する手順を、次に示します。

1. jssitemexportEx コマンドを実行する。

案件情報を出力します。エスカレーションおよび関連案件を引き継ぐ場合は、関連する案件をすべて出力してください。

詳細については、「12. コマンド」の「jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート)」を参照してください。

2. 手順 1 で出力したデータをバックアップする。

手順 1 で出力したデータを編集しない場合、この手順および次の手順は不要です。

3. 手順 1 で出力したデータ (CSV ファイル) を編集する。

必要に応じて、不要な案件情報を削除したり、案件情報 (「タイトル」や「概要」など) を編集したりします。CSV ファイルを Excel などのソフトウェアで編集すると、編集した CSV ファイルを整形する必要があります。CSV ファイルの整形については、「(2) CSV ファイルを整形する」を参照してください。

4. 案件管理 DB と手順 1 で出力したデータまたは手順 3 で編集したデータの整合性を確認する。

案件管理 DB に登録されているかどうかを確認します。

確認が必要なデータと案件管理 DB に登録されていない場合の対応を、次に示します。

- システム、プロセス、プロセスワークボード

案件管理 DB に登録されていない場合は、登録する案件情報のデータを修正する、または案件管理 DB に登録してください。

- 案件フォーム

手順 1 の `jssitemexportEx` コマンド実行時の案件フォームを登録する必要があります。ただし、選択系の項目も含めて登録対象の案件の項目をすべて使用している案件フォームの場合は、手順 1 の `jssitemexportEx` コマンド実行時と異なる案件フォームでも登録できます。

また、案件フォームが案件管理 DB に登録されていない場合は、条件を満たす案件フォームを案件管理 DB に登録したあと、案件情報 CSV ファイルの「案件フォームのバージョン番号」の値を、登録した案件フォームのバージョン番号に変更してください。

- ユーザー、ロール

案件管理 DB に登録されていなくても、登録できます。ただし、ユーザー情報またはロール情報は設定されません。それらの情報を設定したい場合は、案件の登録前に、ユーザー情報またはロール情報を案件管理 DB に登録しておいてください。ユーザー情報またはロール情報を登録するには、画面から登録するか、次に示すコマンドを使用して情報を登録してください。

- `jssroledlist` (ロール一覧出力)
- `jssroleimport` (ロール情報インポート)
- `jssuserlist` (ユーザー一覧出力)
- `jssuserimport` (ユーザー情報インポート)
- `jssmemberlist` (メンバー一覧出力)
- `jssmemberimport` (メンバー情報インポート)

- エスカレーションの関連

`jssitemimportEx` コマンドが 1 回で処理対象とするデータにエスカレーション元とエスカレーション先の案件が含まれている場合、エスカレーション情報が保持されます。また、`jssitemimportEx` コマンドで案件を登録する場合、エスカレーション情報を示すプロセス間 ID が変更されるため、エスカレーション元とエスカレーション先の案件のプロセス間 ID が変更され、登録されます。

- 関連案件

関連案件には、案件 ID を指定する必要があります。`jssitemimportEx` コマンドが 1 回で処理対象とするデータに関連案件元と関連案件先の案件が含まれている場合、関連案件情報を保持します。`jssitemimportEx` コマンドで案件を登録する場合、案件 ID は変更されるため、関連案件先を登録

する案件 ID で関連案件の情報が登録されます。フォーマット不正や関連先のプロセスワークボードが存在しない場合、そのままの値で登録されます。

5. 登録対象のプロセスワークボードの状態が運用中であることを確認する。

6. 案件のアクセス権を見直す。

jssitemimportEx コマンドでは、案件のアクセス権を確認しないため、案件の作成もしくは編集の権限がないユーザーまたはロールが担当者に設定されていても案件を登録できます。登録した案件を操作したい場合は、ユーザーまたはロールに案件を参照もしくは編集できる権限を割り当てる必要があります。

7. jssitemimportEx コマンドを実行する。

手順 1 または手順 3 で作成した案件情報を、案件管理 DB に登録します。

詳細については、「12. コマンド」の「jssitemimportEx (案件情報拡張インポート)」を参照してください。

8. jsscollectdata コマンドを実行する。

集計情報を更新します。

詳細については、「12. コマンド」の「jsscollectdata (案件情報集計)」を参照してください。

(2) CSV ファイルを整形する

jssitemexportEx コマンドで出力した CSV ファイルの各カラムの値は、「" (ダブルクォーテーション)」で囲まれています。この CSV ファイルを Excel などのソフトウェアで編集した場合、各カラムの「" (ダブルクォーテーション)」が外れてしまうことがあります。「" (ダブルクォーテーション)」が外れたデータは、jssitemimportEx コマンドで登録できません。JP1/Service Support では、jssitemexportEx コマンドで出力した CSV ファイルを整形するサンプルのマクロを提供しています。

CSV ファイルを整形するサンプルのマクロの格納先、ファイル名、および使用方法を、次に示します。

格納先

JP1/SS パス¥home¥public¥macro

ファイル名

jss_csv_edit.xlsm (CSV ファイルを整形するサンプルのマクロ)

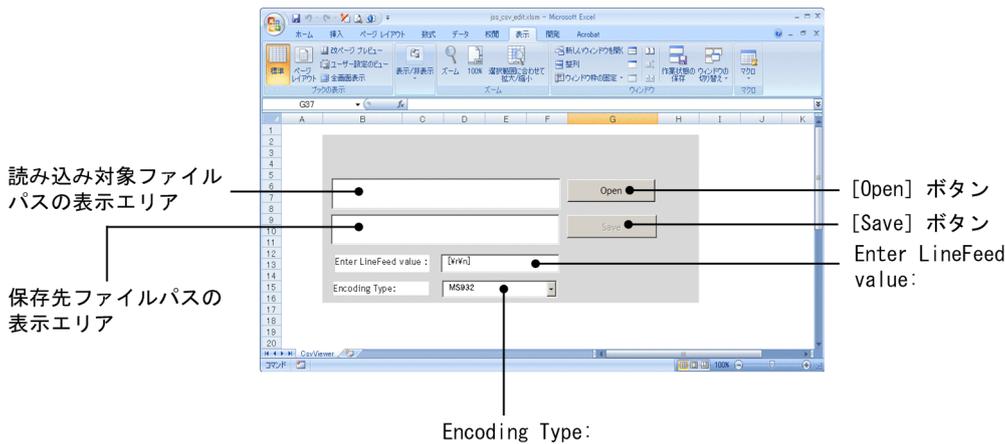
jss_csv_edit.xlsm.model (CSV ファイルを整形するサンプルのマクロのモデルファイル)

モデルファイルは、編集した jss_csv_edit.xlsm をリセットする場合に使用してください。その際、モデルファイルをコピーし、リネームすることで jss_csv_edit.xlsm として使用できます。

CSV ファイルを整形するサンプルのマクロの使用方法

jss_csv_edit.xlsm を開くと、次に示すマクロが起動します。

図 11-1 CSV ファイルを整形するサンプルのマクロ



各項目について説明します。

読み込み対象ファイルパスの表示エリア

[Open] ボタンを使用して指定した、整形する CSV ファイルのパスが表示されます。
直接入力しても、無効となります。

[Open] ボタン

[Open] ボタンをクリックすると、整形する CSV ファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。

CSV ファイルを選択すると、読み込んだ CSV ファイルの内容が、「temp」シートに表示されます。
CSV ファイルの読み込み時に、CSV ファイルが整形されます。また、「Enter LineFeed Value:」で指定した文字列がセル内の改行と判断して表示されます。

CSV ファイルを選択するダイアログボックスで CSV ファイルを選択するたびに、「temp」シートのデータが上書きされます。

保存先ファイルパスの表示エリア

[Save] ボタンを使用して指定した、CSV ファイルの保存先のパスが表示されます。
直接入力しても、無効となります。

[Save] ボタン

[Save] ボタンをクリックすると、整形した CSV ファイル（「temp」シートに表示された CSV ファイル）の保存先を選択するダイアログボックスが表示されます。

[Save] ボタンは、[Open] ボタンで CSV を読み込むと、活性化します。

Enter LineFeed Value:

セル内の改行として表示する文字列を指定します。

Encoding Type:

エンコードの種類を選択します。

11.2.9 案件保存のための事前確認

案件保存 DB に案件を保存する場合、保存したい案件が案件保存 DB に保存できるかを、事前に確認する必要があります。案件保存 DB に保存できる案件の条件を、次に示します。

- 削除待ちのプロセスワークボードが存在しない。*
- 保存したい期間に登録された案件に、未クローズの案件が存在しない。
- 保存したい期間に登録された案件に、削除待ちの案件が存在しない。

注※

JP1/Service Support に登録されたすべてのプロセスワークボードが対象となります。

保存したい案件を案件保存 DB に保存できるかを確認するために、案件管理 DB の状態を確認します。案件管理 DB の状態確認の手順を、次に示します。

1. jssitemstore コマンドを実行する。

保存したい案件を案件保存 DB に保存できるかどうかを確認するために、案件管理 DB の状態を確認します。

引数には、-ct オプションおよび-ch オプションを指定してください。jssitemstore コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssitemstore (案件保存)」を参照してください。

2. jssitemstore コマンドの実行結果を確認する。

エラーメッセージが出力されていた場合は、原因を取り除いたあと、再度手順 1 を実行してください。

11.2.10 案件保存 DB の構築

案件保存 DB を使用する場合は、事前に案件保存 DB をセットアップする必要があります。なお、案件保存 DB は、任意のタイミングでセットアップできます。JP1/Service Support の新規インストール時に案件保存 DB をセットアップできますが、この時点で案件保存 DB をセットアップすると、案件を保存しないにもかかわらず、案件保存 DB の保存場所を確保するためのディスクが必要になります。初回の年次メンテナンスで案件を案件保存 DB に保存する前にセットアップすると、ディスクを効率良く使用できます。

案件保存 DB のセットアップ手順を次に示します。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

2. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

3. jssitemstoredbsetup.bat コマンドを実行する。

jssitemstoredbsetup.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssitemstoredbsetup.bat (案件保存 DB セットアップ)」を参照してください。

なお、案件保存 DB の保存先を切り替える際、切り替え先の保存エリアのセットアップが必要です。案件保存 DB の保存先の切り替えについては、「11.2.11 案件保存 DB の保存先の切り替え」を参照してください。

11.2.11 案件保存 DB の保存先の切り替え

すでに保存したい年数分の案件をアクティブな保存エリアに保存した状態で、さらに案件を保存する場合、案件の保存先 (保存エリア) を切り替える必要があります。切り替え先に保存案件がある場合は、切り替え先の保存案件を一括で削除する必要があります。なお、切り替え先の保存案件は、削除する前に CSV ファイルに出力できます。

案件保存 DB の保存先を切り替える手順を、次に示します。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

2. jssdbstatchk.bat コマンドを実行する。

アクティブな保存エリアの保存案件の状態を確認します。アクティブな保存エリアに案件を保存できる場合、以降の手順は不要です。jssdbstatchk.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbstatchk.bat (データベース状態確認)」を参照してください。

3. jssitemstoredbsetup.bat コマンドを実行する。

切り替え先の保存エリアがセットアップされていない場合、jssitemstoredbsetup.bat コマンドを実行して保存エリアをセットアップします。切り替え先の保存エリアがセットアップされている場合、この手順は不要です。jssitemstoredbsetup.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssitemstoredbsetup.bat (案件保存 DB セットアップ)」を参照してください。

4. jssitemstoredbrotate コマンドを実行する。

jssitemstoredbrotate コマンドを実行して保存エリアを切り替えます。手順 1 で確認した結果、アクティブな保存エリアに保存したい年数分の案件が保存されていない場合、この手順は不要です。jssitemstoredbrotate コマンドについては、「12. コマンド」の「jssitemstoredbrotate (案件保存 DB 切り替え)」を参照してください。

5. jssitemexportEx コマンドを実行する。

切り替え先の保存エリアに保存したい年数分の案件が保存されている場合、jssitemexportEx コマンドを実行して案件情報を CSV ファイルに出力します。jssitemexportEx コマンドを実行する際、開始年

月日と終了年月日を指定することで、切り替え先保存エリアの案件を特定できます。切り替え先の保存エリアの保存案件を一括で削除しない場合、この手順は不要です。jssitemexportEx コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssitemexportEx \(案件情報拡張エクスポート\)](#)」を参照してください。

6. jssstoreitemdel.bat コマンドを実行する。

jssstoreitemdel.bat コマンドを実行して、切り替え先の保存エリアの保存案件を一括で削除します。切り替え先の保存エリアの保存案件を一括で削除しない場合、この手順は不要です。jssstoreitemdel.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssstoreitemdel.bat \(保存案件一括削除\)](#)」を参照してください。

11.2.12 案件保存 DB の拡張

案件を保存するときに案件保存 DB の案件領域または添付ファイル領域の容量が不足した場合、案件保存 DB の容量を拡張する必要があります。なお、案件保存 DB の容量を拡張する場合は、保存対象案件のデータサイズを見積もる必要があります。

注意事項

異なるドライブに案件保存 DB を格納すると、どれか一つのドライブにハード障害が発生した場合、JP1/Service Support を運用できなくなります。

案件保存 DB の容量を拡張する手順を、次に示します。

1. jssitemcount コマンドを実行する。

JP1/Service Support に登録されている案件数を確認するため、引数には-ALL オプションを指定して実行してください。jssitemcount コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssitemcount \(案件数確認\)](#)」を参照してください。

2. jssitemcount コマンドを実行する。

案件保存 DB に保存する対象となる案件数を確認するため、引数には-ct オプションを指定してください。その際、開始年月日と終了年月日には、保存対象となる案件の期間を指定してください。jssitemcount コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssitemcount \(案件数確認\)](#)」を参照してください。

3. jssdbstatchk.bat コマンドを実行する。

jssdbstatchk.bat コマンドを実行し、案件管理 DB および案件保存 DB の案件領域と添付ファイル領域のデータベース容量と使用率を確認します。jssdbstatchk.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssdbstatchk.bat \(データベース状態確認\)](#)」を参照してください。

4. 保存対象案件のデータサイズを見積もる。

手順 1~3 で確認した値から、保存対象案件のデータサイズを見積もります。見積もり例を次に示します。

案件管理 DB の状態

JP1/Service Support に登録されている案件数：20 万件

保存対象となる案件数：10 万件

案件管理 DB の案件領域のデータベース容量と使用率：40GB, 80%

案件管理 DB の添付ファイルのデータベース容量と使用率：30GB, 50%

見積もり結果

保存対象案件のデータサイズ： $40 * 0.8 * 10 / 20 = 16\text{GB}$

保存対象添付ファイルのデータサイズ： $30 * 0.5 * 10 / 20 = 7.5\text{GB}$

5. 案件保存 DB の空き領域を算出する。

手順 3 で確認した値から、案件保存 DB の案件領域と添付ファイルの空き領域を算出します。

案件保存 DB の状態

案件保存 DB の案件領域のデータベース容量と使用率：128GB, 90%

案件保存 DB の添付ファイル領域のデータベース容量と使用率：64GB, 70%

算出結果

案件保存 DB の案件領域の空き容量：12.8GB

案件保存 DB の添付ファイル領域の空き容量：19.2GB

6. 案件保存 DB に保存できるデータサイズを確認する。

手順 4 と手順 5 で見積もりおよび算出した値から、保存対象案件が案件保存 DB に格納できるか確認します。

見積もりおよび算出結果

保存対象案件のデータサイズ：16GB

保存対象添付ファイルのデータサイズ：7.5GB

案件保存 DB の案件領域の空き容量：12.8GB

案件保存 DB の添付ファイル領域の空き容量：19.2GB

確認結果

案件保存 DB の案件領域空き容量より保存対象案件のデータサイズが上回るため、案件領域が容量不足ということになります。なお、ここで示しているデータサイズの見積もりは概算です。個々の運用ケースでは、計算結果の容量と実際の容量で、差異が出る場合があります。

7. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

なお、jssitemstoredbexpand.bat コマンドを実行して、案件保存 DB を拡張しない場合、この手順は不要です。

8. jssitemstoredbexpand.bat コマンドを実行する。

jssitemstoredbexpand.bat コマンドを実行して、案件保存 DB を拡張します。なお、手順 6 で確認した結果、案件保存 DB を拡張しないで保存対象案件を保存できる場合、この手順は不要です。

jssitemstoredbexpand.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssitemstoredbexpand.bat (案件保存 DB 領域拡張)」を参照してください。

11.2.13 案件保存 DB に案件を保存

指定した期間に案件管理 DB に登録されたクローズ済みの案件を、案件保存 DB に保存します。案件管理 DB から案件保存 DB に案件を保存する場合、保存対象となった案件は案件管理 DB から案件保存 DB に移動されます。また、移動された案件は、案件管理 DB に戻すことはできないので、注意が必要です。

案件管理 DB から案件保存 DB に案件を保存する手順を、次に示します。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

2. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

3. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

jssdbbackup.bat コマンドを実行して、案件管理 DB および案件保存 DB をバックアップします。引数には -maint オプションを指定してください。jssdbbackup.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

4. jssitemstore コマンドを実行する。

jssitemstore コマンドを実行して、案件管理 DB のクローズ済みの案件を、案件保存 DB に保存します。保存対象案件は、年単位となるように指定してください。jssitemstore コマンドについては、「12. コマンド」の「jssitemstore (案件保存)」を参照してください。

5. jssdbroorg.bat コマンドを実行する。

jssitemstore コマンドを実行して案件を保存すると、保存対象案件が案件管理 DB から削除されます。このため、jssdbroorg.bat コマンドを実行して、案件管理 DB を再編成します。jssdbroorg.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbroorg.bat (案件管理 DB 再編成)」を参照してください。

11.2.14 案件保存 DB 使用時のバックアップ

案件保存 DB を年次メンテナンスした場合、メンテナンスの最後に案件管理 DB と案件保存 DB をバックアップしてください。

案件管理 DB および案件保存 DB のバックアップ手順を、次に示します。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

2. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

3. jssdbbackup.bat コマンドを実行する。

jssdbbackup.bat コマンドを実行して、案件管理 DB および案件保存 DB をバックアップします。引数には、-o オプションおよび-maint オプションを指定してください。jssdbbackup.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。なお、-o オプションを指定してバックアップすると、バックアップ取得時の案件管理 DB および案件保存 DB の格納先ディレクトリの情報が出力されます。この情報は、バックアップ出力先ディレクトリに dbpath.txt として保存されます。dbpath.txt は、案件保存 DB のリカバリー時に必要です。dbpath.txt には、バックアップ取得時に指定したオプション情報、バックアップ取得時の案件管理 DB のデータベースサイズ、および案件保存 DB の拡張先フォルダ情報 (-dbpath オプションを指定した jssdbstatchk.bat コマンドを実行したときに出力される情報と同様) が出力されます。

メモ

案件保存 DB だけをバックアップする場合は、サービスを起動したまま jssdbbackup.bat コマンドを実行できます。バックアップ時間が長い場合は、案件管理 DB のバックアップを取得してからサービスを起動し、JP1/Service Support を運用しながら案件保存 DB のバックアップを実行できます。jssdbbackup.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

11.2.15 案件保存 DB 使用時のリカバリー

案件保存 DB をリカバリーする場合、バックアップ取得時の環境に回復する必要があります。また、案件保存 DB をリカバリーする際に案件管理 DB を別にリカバリーすると、登録案件の重複や消失などのデータの不整合が起こるおそれがあります。それらの対処手順を説明します。

(1) 案件保存 DB 使用時の環境の回復手順

案件保存 DB をリカバリーする場合、案件保存 DB の拡張状況をバックアップ取得時の拡張状況（拡張回数、セットアップおよび拡張先のディレクトリ）に合わせる必要があります。

案件保存 DB の拡張状況をバックアップ取得時の拡張状況に回復する手順を、次に示します。

1. JP1/Service Support のサービスを停止する。

JP1/Service Support のサービスが起動している場合は、すべてのサービスを停止させます。

2. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

3. jssdbstatchk.bat コマンドを実行する。

jssdbstatchk.bat コマンドを実行して、案件管理 DB および案件保存 DB の状態を確認します。

jssdbstatchk.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbstatchk.bat (データベース状態確認)」を参照してください。

4. 案件管理 DB および案件保存 DB の拡張状況を確認する。

手順 3 で確認した案件管理 DB および案件保存 DB の状態と、バックアップ取得時に取得した dbpath.txt を基に、環境が一致しているかを確認します。dbpath.txt は、案件保存 DB のバックアップファイル出力先ディレクトリに保存されています。

5. 案件保存 DB の領域を拡張する。

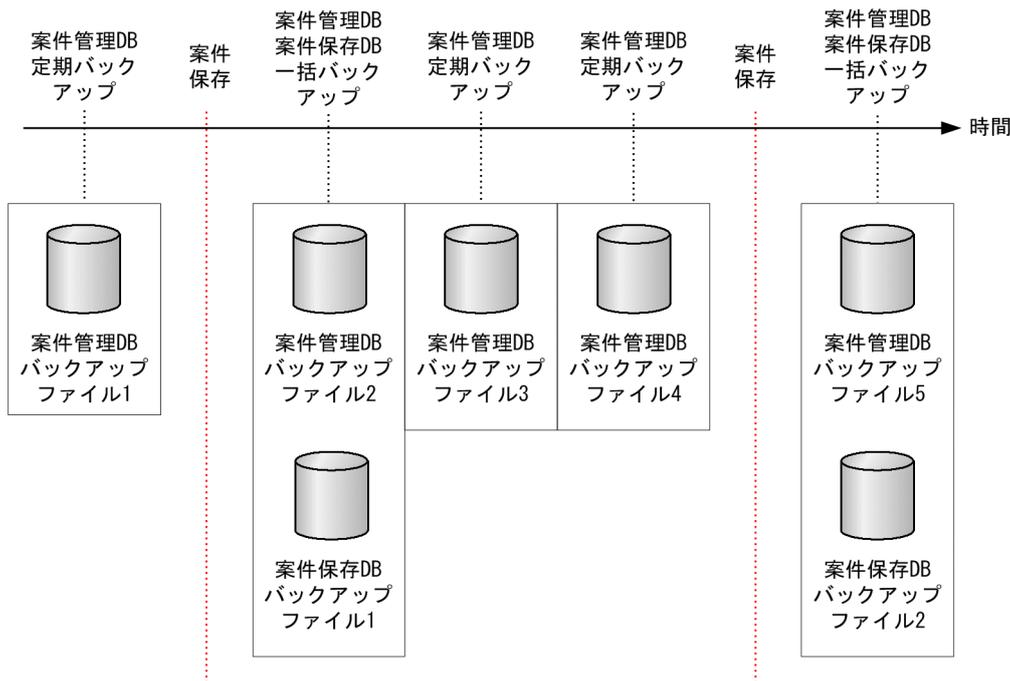
手順 4 で確認した案件保存 DB の拡張回数に差異がある場合、バックアップ取得時の案件保存 DB の拡張状況（拡張回数および拡張先のディレクトリのパス）と一致するように、案件保存 DB を拡張します。案件保存 DB の拡張手順については、「11.2.12 案件保存 DB の拡張」を参照してください。

なお、案件保存 DB の作成先および拡張先のディレクトリのパスが合致していない場合は、案件保存 DB を削除してから、バックアップ取得時と同じ環境に案件保存 DB を再作成する必要があります。案件保存 DB の削除については、「12. コマンド」の「jssunsetup.bat (アンセットアップ)」を参照してください。案件保存 DB の再作成については、「11.2.10 案件保存 DB の構築」を参照してください。

(2) 案件保存 DB 使用時のリカバリー手順

案件管理 DB と案件保存 DB は別々にリカバリーできます。しかし、案件を保存する前のバックアップファイルと、案件を保存したあとのバックアップファイルでそれぞれのデータベースをリカバリーすると、登録案件の重複や消失など、データの不整合が起こるおそれがあります。このため、案件保存 DB をリカバリーする際は、リカバリーしたい案件保存 DB のバックアップファイル取得時から次に案件を保存するまでに取得した案件管理 DB のバックアップファイルを指定する必要があります。案件保存 DB リカバリー時にデータの不整合が発生しないバックアップファイルの組み合わせを、次の図に示します。

図 11-2 案件保存 DB リカバリー時にデータの不整合が発生しないバックアップファイルの組み合わせ



案件保存DBのリカバリー時に不整合が発生しない組み合わせ

- ・ 案件管理DBバックアップファイル2 + 案件保存DBバックアップファイル1
- ・ 案件管理DBバックアップファイル3 + 案件保存DBバックアップファイル1
- ・ 案件管理DBバックアップファイル4 + 案件保存DBバックアップファイル1
- ・ 案件管理DBバックアップファイル5 + 案件保存DBバックアップファイル2

案件保存 DB のリカバリー手順を、次に示します。なお、この手順では、上記の図の案件管理 DB バックアップファイル 4 と案件保存 DB バックアップファイル 1 でリカバリーします。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- ・ JP1/Service Support - Task Service サービス
- ・ JP1/Service Support - Web Service サービス
- ・ JP1/Service Support サービス

JP1/Service Support - DB Server サービスは起動したままとしてください。

2. スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] を起動する。

3. jssdbrecovery.bat コマンドを実行する。

案件管理 DB バックアップファイル 2 と案件保存 DB バックアップファイル 1 を基に、一括で案件管理 DB と案件保存 DB をリカバリーします。引数には -i オプションおよび -ALL オプションを指定してください。jssdbrecovery.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)」を参照してください。

4. jssdbrecovery.bat コマンドを実行する。

案件管理 DB バックアップファイル 4 を基に、案件管理 DB をリカバリーします。引数には -i オプションおよび -mdb オプションを指定してください。jssdbrecovery.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)」を参照してください。

11.3 JP1/Service Support の環境見直し

JP1/Service Support が稼働する環境で次に示す設定を変更した場合、JP1/Service Support のサービスを再起動したり、設定を変更したりする作業が発生します。

- IP アドレスの変更
- JP1/Service Support が使用するポート番号の変更
- ホスト名の変更
- システム日時の変更
- JP1/Service Support の格納先フォルダの変更

11.3.1 IP アドレスの変更

JP1/Service Support 起動中の IP アドレスおよび論理 IP アドレス（クラスタ運用している場合）の変更は、サポートしていません。変更する場合は、次に示す手順で変更してください。

IP アドレスの変更手順

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス

2. IP アドレスを変更する。

3. 次に示す順序でサービスを起動する。

- JP1/Service Support - DB Server サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support - Task Service サービス

論理 IP アドレス（クラスタ運用している場合）の変更手順

1. 実行系サーバを現用系に切り替える。

クラスタソフトを使用して系を切り替えます。なお、すでに現用系が実行系サーバになっている場合は、この操作は不要です。

2. 現用系でクラスタソフトを使用して、次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス
- JP1/Service Support - DB Cluster Service サービス

3. 現用系で論理 IP アドレスを変更する。

4. 現用系から予備系に切り替える。

クラスタソフトを使用して系を切り替えます。

5. 予備系で論理 IP アドレスを変更する。

6. 予備系から現用系に切り替える。

クラスタソフトを使用して系を切り替えます。

7. 現用系でクラスタソフトを使用して、次に示す順序でサービスを起動する。

- JP1/Service Support - DB Cluster Service サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support - Task Service サービス

11.3.2 ポート番号の変更

JP1/Service Support 起動中のポート番号の変更は、サポートしていません。変更する場合は、次に示す手順で変更してください。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス

2. ポート番号を変更する。

なお、ポート番号の変更手順は、次の表に示すように変更するポートによって異なります。

表 11-2 ポート番号の変更手順

ポート番号のデフォルト値	使用目的	変更手順
24400	<p>案件管理 DB サーバのデータを更新するために使用する。</p>	<p>1. JP1/Service Support を停止後、次のファイルに記載された左記ポート番号の値を変更する。 () 内は各ファイル内での該当箇所となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JP1/SS パス¥conf¥setup¥jsssetupinfo.bat (@set IMSSDBPORT=24400) ・ JP1/SS パス¥tools¥setup¥jsscminfo.bat (@set IMSSDBPORT=24400) ・ JP1/SS パス¥dbms¥db¥CONF¥pdsys (set pd_name_port=24400) ・ JP1/SS パス¥dbms¥db¥CONF¥emb¥HiRDB.ini (PDNAMEPORT=24400) ・ JP1/SS パス¥dbms¥db¥CONF¥emb¥HiRDB_JDBC.ini (PDNAMEPORT=24400) <p>2. 変更後、JP1/Service Support を起動する。</p>
24401	<p>WWW ブラウザーから JP1/Service Support(WWW サーバ)への接続で使用する。 また、WWW サーバの内部処理で使用する。</p>	<p>1. JP1/Service Support を停止後、次のファイルに記載された左記ポート番号の値を変更する。 () 内は各ファイル内での該当箇所となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JP1/SS パス¥conf¥setup¥jsssetupinfo.bat (@set IMSSHTTPPORT=24401) ・ JP1/SS パス¥tools¥setup¥jsscminfo.bat (@set IMSSHTTPPORT=24401) ・ JP1/SS パス¥uCPsB¥httpd¥conf¥httpd.conf (Listen 24401) ・ JP1/SS パス¥conf¥login¥jsslogin.url (BASEURL=http://localhost:24401/jplss/index.jsp) (URL=http://localhost:24401/jplss/index.jsp) <p>2. 変更後、JP1/Service Support を起動する。</p>
24402	<p>WWW サーバと WWW コンテナサーバ間の通信で使用する。</p>	<p>1. JP1/Service Support を停止後、次のファイルに記載された左記ポート番号の値を変更する。 () 内は各ファイル内での該当箇所となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JP1/SS パス¥conf¥setup¥jsssetupinfo.bat (@set IMSSWEBCONPORT=24402) ・ JP1/SS パス¥tools¥setup¥jsscminfo.bat (@set IMSSWEBCONPORT=24402) ・ JP1/SS パス¥uCPsB¥CC¥web¥containers¥jplss¥usrconf¥usrconf.properties (webserver.connector.ajp13.port=24402) ・ JP1/SS パス¥uCPsB¥CC¥web¥redirector¥workers.properties (worker.worker1.port=24402) <p>2. 変更後、JP1/Service Support を起動する。</p>

ポート番号のデフォルト値	使用目的	変更手順
24403	WWW コンテナサーバのシャットダウンで使用する。	<ol style="list-style-type: none"> JP1/Service Support を停止後、次のファイルに記載された左記ポート番号の値を変更する。 () 内は各ファイル内での該当箇所となる。 <ul style="list-style-type: none"> JP1/SS パス<code>%conf%setup%jsssetupinfo.bat</code> (@set IMSSWEBSHUPORT=24403) JP1/SS パス<code>%tools%setup%jsscinfo.bat</code> (@set IMSSWEBSHUPORT=24403) JP1/SS パス<code>%uCPB%CC%web%containers%jp1ss%usrconf%usrconf.properties</code> (webserver.shutdown.port=24403) 変更後、JP1/Service Support を起動する。
24404	WWW コンテナサーバのシステム設定で使用する。	<ol style="list-style-type: none"> JP1/Service Support を停止後、次のファイルに記載された左記ポート番号の値を変更する。 () 内は各ファイル内での該当箇所となる。 <ul style="list-style-type: none"> JP1/SS パス<code>%conf%setup%jsssetupinfo.bat</code> (@set IMSSWEBHTTPORT=24404) JP1/SS パス<code>%tools%setup%jsscinfo.bat</code> (@set IMSSWEBHTTPORT=24404) JP1/SS パス<code>%uCPB%CC%web%containers%jp1ss%usrconf%usrconf.properties</code> (webserver.connector.http.port=24404) 変更後、JP1/Service Support を起動する。

3. 次に示す順序でサービスを起動する。

- JP1/Service Support - DB Server サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support - Task Service サービス

11.3.3 ホスト名の変更

JP1/Service Support 起動中のホスト名および論理ホスト名（クラスタ運用している場合）の変更は、サポートしていません。変更する場合には、次の手順で JP1/Service Support の設定も変更してください。

ホスト名の変更手順

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス

- JP1/Service Support サービス

2. jssdbbackup.bat コマンドを実行し、案件管理 DB のデータのバックアップを取る。

引数には -maint オプションを指定して実行してください。コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。

3. 次に示すサービスで、スタートアップの種類が「自動」になっているサービスを「手動」に変更する。

- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support - Task Service サービス

注意事項

ホスト名を変更後に元に戻す必要があるため、変更するサービスのスタートアップの種類を控えておいてください。

4. ホスト名を変更する。

5. 変更後、OS を再起動する。

6. jssdbinit.bat コマンドを実行し、案件管理 DB を初期化する。

コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbinit.bat (データベース初期化)」を参照してください。

注意事項

-s オプションの引数 (案件管理 DB のサイズ) には、必ず手順 2 で取得した案件管理 DB のサイズを指定してください。

7. jssdbrecovery.bat コマンドを実行し、案件管理 DB をリカバリーする。

引数には -maint オプションを指定して実行してください。コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)」を参照してください。

注意事項

-f オプションの引数 (バックアップファイル名) には、必ず手順 2 で取得した案件管理 DB のバックアップファイルを指定してください。

8. メール通知の設定をしている場合、URL 定義ファイル (jsslogin.url) に記載されたサーバ名を変更する。

9. 次に示す順序でサービスを起動する。

- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support - Task Service サービス

10. 手順 3 で「手動」に変更したサービスを、「自動」に戻す。

論理ホスト名（クラスタ運用している場合）の変更手順

1. 実行系サーバを現用系に切り替える。

クラスタソフトを使用して系を切り替えます。なお、すでに現用系が実行系サーバになっている場合は、この操作は不要です。

2. 現用系でクラスタソフトを使用して、次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

3. 現用系で `jssdbbackup.bat` コマンドを実行し、案件管理 DB のデータのバックアップを取る。

引数には `-maint` オプションを指定してください。コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「`jssdbbackup.bat`（データベースバックアップ）」を参照してください。

4. クラスタ環境から論理ホストを削除する。

クラスタ環境から論理ホストを削除する手順については、「10.6 クラスタ環境からの論理ホスト削除」を参照してください。

5. 実行系および待機系の `jsshasetupinfo.bat` の論理ホスト名を編集する。

「`IMSSLOGICALHOST`」の値を、新しい論理ホスト名に変更します。その際、「`IMSSLOGICALHOST`」以外の値を変更しないでください。

`jsshasetupinfo.bat` の編集については、「10.2.4 `jsshasetupinfo.bat` の編集」を参照してください。

6. クラスタソフトのリソース（論理ホスト名）を変更する。

論理ホスト名を、新しい論理ホスト名に変更します。クラスタソフトのリソースについては、「10.2.5 クラスタソフトへのリソースの登録」を参照してください。

7. 現用系の論理ホストをセットアップする。

現用系の論理ホストのセットアップ手順については、「10.2.6 論理ホストのセットアップ（現用系）」を参照してください。

8. 予備系の論理ホストをセットアップする。

予備系の論理ホストのセットアップ手順については、「10.2.7 論理ホストのセットアップ（予備系）」を参照してください。

9. クラスタソフトへサービスを登録する。

クラスタソフトへのサービスの登録については、「10.2.8 クラスタソフトへのサービスの登録」を参照してください。

10. 現用系でクラスタソフトを使用して、次に示す順序でサービスを起動する。

- JP1/Service Support - DB Cluster Service サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス

11. 現用系で jssdbrecovery.bat コマンドを実行し、案件管理 DB をリカバリーする。

案件管理 DB のバックアップファイルを使用して案件管理 DB をリカバリーします。

引数には、-maint オプションを指定してください。また、-f オプションのバックアップファイル名には、必ず手順 3 で取得した案件管理 DB のバックアップファイルを指定してください。

jssdbrecovery.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)」を参照してください。

12. メール通知設定をしている場合、URL 定義ファイル (jsslogin.url) のサーバ名を変更する。

URL 定義ファイル (jsslogin.url) の詳細については、「13. 定義ファイル」の「URL 定義ファイル (jsslogin.url)」を参照してください。

次に連携製品側への影響について説明します。

(1) JP1/IM - Manager と連携している場合

JP1/IM - Manager と連携している場合、JP1/IM - Manager 側で次の設定変更をする必要があります。

- 構成定義ファイルの修正と更新

構成定義ファイルに記述したホスト名を変更後のホスト名に変更し、JP1/IM - Manager にその設定を反映してください。

- 自動アクション定義の修正と更新

「実行ホスト名」を変更前から変更後のホスト名に変更してください。

(2) JP1/NETM/AIM と連携している場合

JP1/NETM/AIM と連携している場合、JP1/NETM/AIM 側での設定変更は必要ありません。

(3) JP1/NP と連携している場合

JP1/NP と連携している場合、JP1/NP 側で設定を変更する必要があります。JP1/NP 側の設定については、JP1/Navigation Platform のマニュアルを参照してください。

(4) JP1/AO と連携している場合

JP1/AO と連携している場合、JP1/AO 側での設定変更は必要ありません。

(5) JP1/ITDM2 - Asset Console と連携している場合

JP1/ITDM2 - Asset Console と連携している場合、JP1/ITDM2 - Asset Console 側での設定変更は必要ありません。

(6) JP1/Base (認証機能) を利用している場合

JP1/Base の認証機能を利用している場合、JP1/Base 側で設定を変更する必要があります。JP1/Base 側の設定については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

11.3.4 システム日時の変更

JP1/Service Support が稼働するサーバのシステム日時を変更する場合、日時を進めるときと日時を戻すときで作業手順が異なります。

日時を進めるときの手順を次に示します。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス

2. 日時を変更する。

3. 次に示す順序でサービスを起動する。

- JP1/Service Support - DB Server サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support - Task Service サービス

日時を戻すときの手順を次に示します。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- JP1/Service Support - Task Service サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - DB Server サービス

2. 日時を変更する。

3. 手順 2 を操作した時間まで、サービスを停止させておく。

4. 次に示す順序でサービスを起動する。

- JP1/Service Support - DB Server サービス

- JP1/Service Support サービス
- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support - Task Service サービス

11.3.5 JP1/Service Support のインストール先フォルダの変更

運用途中での JP1/Service Support のインストール先フォルダの変更はサポートしていません。インストール先フォルダを変更する場合は、JP1/Service Support をアンインストールし、変更後のフォルダにインストールしてください。

注意事項

アンインストールすると、案件管理 DB も使えなくなります。運用データを退避したい場合には、`jssdbbackup.bat` コマンドを使って案件管理 DB のバックアップを取得し、`jssdbrecovery.bat` コマンドを使ってリカバリーしてください。それぞれのコマンド実行時には、引数に `-expand` オプションを指定してください。また、案件ごとの参照権限設定機能を使用している場合は、リカバリーしたあとに `jssrefaclsetup` コマンドを実行して、案件ごとの参照権限設定機能をセットアップしてください。コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「`jssdbbackup.bat` (データベースバックアップ)」, 「`jssdbrecovery.bat` (データベースリカバリー)」, および「`jssrefaclsetup` (案件ごとの参照権限設定セットアップ)」を参照してください。

12

コマンド

この章では、JP1/Service Support が提供するコマンドの文法について説明します。

コマンドの文法

コマンドの説明で使用する記号を、次のように定義します。

表 12-1 コマンドの説明で使用する記号

記号	意味
 (ストローク)	複数の項目に対し、項目間の区切りを示し、「または」の意味を示す。 例 「A B C」は、「A, B または C」を示す。
{ } (波括弧)	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず 1 組の項目を選択する。項目の区切りは で示す。 例 {A B C} は「A, B または C のどれかを指定する」ことを示す。
[] (角括弧)	この記号で囲まれている項目は任意に指定できる(省略してもよい)。 複数の項目が記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択する。 例 [A]は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示す。 [B C]は「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示す。
... (点線)	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できる。 例 「A, B, ...」は「A のあとに B を必要個数指定する」ことを示す。
— (下線)	括弧内のすべてを省略したときに、システムが取る標準値を示す。標準値がない場合は、指定した項目だけが有効である。 例 [A B]はこの項目を指定しなかった場合に、A を選択したと見なすことを示す。

また、コマンドの文法については基本的に次の形式で説明しています。

機能

コマンドの機能について説明します。

形式

コマンドの入力形式を示します。

実行権限

コマンドを実行できる権限を示します。

格納先フォルダ

コマンドの格納先フォルダを示します。

引数

コマンドの引数について説明します。

戻り値

コマンドの戻り値について説明します。

実行時の前提条件

コマンドの実行時の前提条件について説明します。

注意事項

コマンドを実行する上での注意事項について説明します。

使用例

コマンドの使用例を示します。

コマンド一覧

コマンドを実行するには、Administrators 権限が必要です。

ユーザーアカウント制御機能が有効で、Administrator 以外の Administrators 権限を持つユーザーの場合、次のどちらかの手順でコマンドを実行してください。

- Administrator で Windows Server 2016, Windows Server 2012 R2 または Windows Server 2012 にログインしてから、コマンドを実行する。
- スタート画面から [JP1_SS コマンドプロンプト] を右クリックし、「管理者として実行」を選択したあと、コマンドを実行する。

Administrator でログインしない場合は、次の手順で、常に管理者として実行されるように設定してください。

1. [JP1_SS コマンドプロンプト] を右クリックして、プロパティを表示させる。
2. [詳細設定] ボタンをクリックする。
3. 「管理者として実行」チェックボックスをチェックする。

なお、上書きインストールを実行すると、常に管理者として実行されるように設定した内容が無効になります。上書きインストールを実行した場合は、再度、常に管理者として実行されるように設定してください。

注意事項

パスを指定するときは、ネットワークドライブは指定できません。

JP1/Service Support で使用するコマンドの一覧を、次の表に示します。

表 12-2 JP1/Service Support で使用するコマンドの一覧

コマンドの使用時期	コマンド名	機能概要
運用時	jss_log.bat ^{※1}	JP1/Service Support 障害発生時の資料を採取する。
	jssaclexport	アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を CSV ファイルで出力する。
	jssaclimport	アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報をインポートする。
	jssauthusersetup	メール送信時の認証方式が、POP before SMTP 認証または SMTP-AUTH 認証のユーザー ID とパスワードをメール定義ファイルに設定する。 また、メールによる案件登録に POP3 プロトコルを使用したメール取得時の認証のユーザー ID とパスワードを設定する。
	jsschauthorityserver	JP1/Service Support で使用する認証サーバを切り替える。
	jsscollectdata	案件管理 DB に登録されている案件の集計データを作成する。
	jssdelrec	案件管理 DB 上にある削除待ち状態のプロセスワークボードおよび案件を削除する。

コマンドの使用時期	コマンド名	機能概要	
運用時	jssformcustomizer	案件フォームを編集するための GUI ツールを起動する。	
	jssformdef	案件フォーム定義ファイルを登録する。	
	jssinformleave	案件が滞留していることを知らせるメールを送信する。	
	jssinformperiod	案件の作業期限前にメールで通知する。	
	jssitemcount	JP1/Service Support に登録されている案件の件数を確認する。	
	jssitemdeletion	不要な案件を一括で削除待ち状態にする。	
	jssitemedit	案件を編集する。	
	jssitementry	案件を登録する。	
	jssitementrybyemail	メールで案件を登録する。	
	jssitemexportEx	JP1/Service Support に登録されている案件情報を CSV ファイルで出力する。	
	jssitemhistory	JP1/Service Support に登録されている案件の更新履歴を CSV ファイルで出力する。	
	jssitemimport	案件情報をインポートする。	
	jssitemimportEx	関連情報および添付ファイルを含めた案件情報をインポートする。	
	jssitemlist	JP1/Service Support に登録されている案件を CSV ファイルで出力する。	
	jssmemberdelete	JP1/Service Support のロールに登録されているメンバー情報を削除する。	
	jssmemberimport	JP1/Service Support に登録されているロールに、新しくメンバー情報を登録する。	
	jssmemberlist	JP1/Service Support に登録されているロールに所属するユーザー（メンバー）の一覧を CSV ファイルで出力する。	
	jssnodecount	JP1/Service Support に登録されている管理ノード数の件数を確認する。	
	jssrev	削除待ち状態になっている案件を削除待ち状態から解除する。	
	jssroleimport	JP1/Service Support に、新しくロール情報を登録する。	
	jssrolemist	JP1/Service Support に登録されているロールの一覧を CSV ファイルで出力する。	
	jssuseredit	JP1/Service Support に登録されているユーザー情報を編集する。	
	jssuserimport	ユーザー情報をインポートする。	
	jssuserlist	JP1/Service Support に登録されているユーザーの一覧を CSV ファイルで出力する。	
	環境構築時	jsscreatesysandpwb	マスターシステムおよび一時受付プロセスワークボードを作成する。
		jssdbbackup.bat ^{※1, ※2}	案件管理 DB および案件保存 DB をバックアップする。
jssdbinit.bat ^{※1, ※2}		案件管理 DB および案件保存 DB を初期化する。	

コマンドの使用時期	コマンド名	機能概要
環境構築時	jssdbreclaim.bat ^{※1}	案件管理 DB の使用中空き領域を解放する。
	jssdbrecovery.bat ^{※1, ※2}	案件管理 DB および案件保存 DB をリカバリーする。
	jssdbroorg.bat ^{※1}	案件管理 DB を再編成する。
	jssdbstatchk.bat ^{※1, ※2}	案件管理 DB および案件保存 DB の状態を確認する。
	jsshadbinit.bat ^{※1, ※2}	クラスタ環境用の案件管理 DB および案件保存 DB を初期化する。
	jsshasetup.bat ^{※1, ※2}	クラスタ環境用に JP1/Service Support をセットアップする。
	jsshaunsetup.bat ^{※1, ※2}	クラスタ環境の JP1/Service Support をアンセットアップする。
	jssitemstore	案件管理 DB の指定された期間にクローズした案件を、保存案件として案件保存 DB に保存する。また、指定した期間の案件を保存案件として保存できるかどうかを確認する。
	jssitemstoredbexpand.bat ^{※1}	案件保存 DB の容量を拡張する。
	jssitemstoredbrotate	案件保存 DB のアクティブな保存エリアを切り替える。
	jssitemstoredbsetup.bat ^{※1}	案件保存 DB をセットアップする。
	jssrefaclsetup	案件ごとの参照権限設定機能をセットアップする。
	jsssetup.bat ^{※1}	JP1/Service Support をセットアップする。
	jssstoreitemdel.bat ^{※1}	案件保存 DB のアクティブな保存エリアの保存案件を、一括で削除する。
jssunsetup.bat ^{※1, ※2}	JP1/Service Support をアンセットアップする。	

注※1

このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。Windows Server 2016 または Windows Server 2012 の場合は、スタート画面の [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

注※2

案件保存 DB を使用している場合、案件管理 DB だけでなく、案件保存 DB に関する処理も実行します。

同時に実行できないコマンド

JP1/Service Support で使用するコマンドには、コマンドの実行中に同時に実行できないコマンドがあります。コマンドの実行中に同時に実行できないコマンドを実行した場合は、エラーとなります。コマンド実行中に同時に実行できないコマンドを、次の表に示します。

表 12-3 コマンド実行中に同時に実行できないコマンド

項番	分類	実行中のコマンド	同時に実行できないコマンド
1	データベースメンテナンス	ssdbbackup.bat	ssdbbackup.bat
2		jssdbreclaim.bat	jssdbreclaim.bat
3		jssdbrecovery.bat	jssdbrecovery.bat
4		jssdbrorg.bat	jssdbrorg.bat
5		jssitemstoredbexpand.bat	jssitemstoredbexpand.bat
6		jssitemstoredbsetup.bat	jssitemstoredbsetup.bat
7		jssstoreitemdel.bat	jssstoreitemdel.bat
8	管理ノード数カウント	jssnodecount	jssnodecount

コマンド実行時のサービスの状態

コマンドによって、実行時に必ず起動するサービス、必ず停止するサービスが異なります。コマンド実行時のサービスの状態を次の表に示します。

表 12-4 コマンド実行時のサービスの状態

コマンド名	サービス				
	JP1/Service Support - Web Service	JP1/Service Support	JP1/Service Support - DB Server	JP1/Service Support - DB Cluster Service	JP1/Service Support - Task Service
jss_log.bat	—	—	—	—※1	—
jssaclexport	—	—	○	○※1	—
jssaclimport	—	—	○	○※1	—
jssauthusersetup	×	×	—	—※	—
jsschauthorityserver	—	—	—	—※1	—
jsscollectdata	—	—	○	○※1	—
jssdelrec	×※2	×※2	○	○※1	—
jssformcustomizer	—	—	—	—	—
jssformdef	×※2	×※2	○	○※1	—
jssinformleave	—	—	○	○※1	—
jssinformperiod	—	—	○	○※1	—
jssitemcount	—	—	○	○※1	—
jssitemdeletion	×※2	×※2	○	○※1	×※2
jssitemedit	—	—	○	○※1	—
jssitementry	—	—	○	○※1	—
jssitementrybyemail	—	—	○	○※1	—
jssitemexportEx	—	—	○	○※1	—
jssitemhistory	△	△	○	○※1	—
jssitemimport	△	△	○	○※1	△
jssitemimportEx	—	—	○	○※1	—
jssitemlist	△	△	○	○※1	—
jssmemberdelete	△	△	○	○※1	△

コマンド名	サービス				
	JP1/Service Support - Web Service	JP1/Service Support	JP1/Service Support - DB Server	JP1/Service Support - DB Cluster Service	JP1/Service Support - Task Service
jssmemberimport	△	△	○	○※1	△
jssmemberlist	△	△	○	○※1	△
jssnodecount	—	—	○	○※1	—
jssrev	×※3	×※3	○	○※1	×※3
jssroleimport	△	△	○	○※1	△
jssrolelist	△	△	○	○※1	△
jssuseredit	△	△	○	○※1	△
jssuserimport	△	△	○	○※1	△
jssuserlist	△	△	○	○※1	△
jsscreatesysandpwb	△	△	○	○※1	—
jssdbbackup.bat (-sdb オプション指定なし)	×※3	×※3	○	○※1	×※3
jssdbbackup.bat (-sdb オプション指定あり)	—	—	○	○※1	—
jssdbinit.bat	×※3	×※3	—	×※1	×※3
jssdbreclaim.bat	—	—	○	○※1	—
jssdbrecovery.bat	×※3	×※3	○	○※1	×※3
jssdbrorg.bat	×※3	×※3	○	○※1	×※3
jssdbstatchk.bat	—	—	○	○※1	—
jsshadbinit.bat	×	×	—	×※1	×
jsshasetup.bat	×	×	○※4	×※1	×
jsshaunsetup.bat	×	×	—	×※1	×
jssitemstore	—	—	○	○※1	—
jssitemstoredbexpand.bat	×	—×	○	○※1	—×
jssitemstoredbrotate	×	×	○	○※1	×
jssitemstoredbsetup.bat	—×	—×	○	○※1	—×
jssrefaclsetup	×※2	×※2	○	○※1	×※2

コマンド名	サービス				
	JP1/Service Support - Web Service	JP1/Service Support	JP1/Service Support - DB Server	JP1/Service Support - DB Cluster Service	JP1/Service Support - Task Service
jsssetup.bat	×※3	×※3	○※4	×※1	×※3
jssstoreitemdel.bat	×	×	○	○※1	×
jssunsetup.bat	×※3	×※3	—	×※1	×※3

(凡例)

- ：必ず起動する
- ×：必ず停止する
- △：サービスの起動状態に依存しないが、停止を推奨する
- ：サービスの起動状態に依存しない

注※1

クラスタ環境の場合だけ、サービスの状態を適用してください。物理ホスト環境の場合は、サービスの状態はコマンドの実行に影響しません。

注※2

サービスの起動状態を確認しないオプションを指定したコマンドを実行する場合は、サービスを停止する必要はありません。サービスの起動状態を確認しないオプションを指定しないでコマンドを実行する場合は、コマンドの実行が完了するまで、サービスを停止させてください。

注※3

コマンドの実行が完了するまで、サービスを停止させてください。

注※4

新規セットアップの場合、JP1/Service Support-DB Server サービスの起動状態に依存しません。

jss_log.bat (資料採取)

機能

JP1/Service Support に障害が発生したときに資料を採取します。JP1/Service Support の保守資料や OS のシステム情報などを採取します。

このツールを実行すると、資料を採取する対象フォルダやファイルは一次資料および二次資料に区分けされ、資料格納フォルダ下に作成されたjp1_default¥imss_1st フォルダとjp1_default¥imss_2nd フォルダに格納されます。

必要に応じて採取した資料を圧縮ツールなどで圧縮してください。

このツールを使って採取できる資料の詳細については、「[15.3 トラブル発生時に採取が必要な資料](#)」を参照してください。

資料格納フォルダ下に格納された資料のフォルダ構成および資料内容を表 12-5 および表 12-6 に示します。

表 12-5 一次資料のフォルダ構成

フォルダ名	格納される資料
資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_1st¥	JP1/Service Support の製品情報
資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_1st¥conf¥	JP1/Service Support の環境設定ファイル
資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_1st¥tools¥	JP1/Service Support のコマンド環境設定ファイル
資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_1st¥log¥	JP1/Service Support のログファイル
資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_1st¥dbms¥	案件管理 DB および案件保存 DB の設定情報およびログ情報
資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_1st¥uCPSB¥	WWW サーバ・WWW コンテナサーバの設定情報およびログ情報
資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_1st¥oslog¥	OS のシステム情報
資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_1st¥hnt¥	統合トレースログの情報
資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_1st¥work¥	JP1/Service Support のセットアップ情報ファイル
資料格納フォルダ¥logical_host¥imss_1st¥	クラスタ環境の設定情報、ログ情報※

注※

クラスタ運用時にだけ採取される資料です。

表 12-6 二次資料のフォルダ構成

フォルダ名	格納される資料
資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_2nd¥dbms¥	案件管理 DB および案件保存 DB のログの詳細情報
資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_2nd¥uCPSB¥	uCosminexus のログ情報

形式

```
jss_log.bat -f 資料格納フォルダ名  
            [-t]  
            [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-f 資料格納フォルダ名

採取した資料を格納するフォルダ名を絶対パスまたはこのコマンドを実行した場所からの相対パスで指定します。パスに空白を含む場合は、「" (ダブルクォーテーション)」で囲んで指定します。

存在しないフォルダを指定した場合は、その名称でフォルダが新規作成されます。

すでに存在するフォルダを指定した場合は、いったんフォルダを削除してから再度作成します。削除したくないファイルが格納されているフォルダと同じフォルダ名は指定しないでください。

-t

次の情報を採取しない場合に設定します。

- マシンに設定されているホスト名の設定情報 (資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_1st¥oslog¥hosts)
- サービスポートの設定情報 (資料格納フォルダ¥jp1_default¥imss_1st¥oslog¥services)

-q

応答メッセージを表示しないで、資料採取を続行する場合に指定します。-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

注意事項

- jss_log.bat コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、一部の資料収集に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実

行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。

- ユーザーダンプは手動で採取してください。
- jss_log.bat コマンドの実行中にシステム情報を更新する旨のダイアログが表示されますが、[キャンセル] ボタンをクリックしないでください。[キャンセル] ボタンをクリックすると、OS の情報の一部が採取できないおそれがあります。なお、このダイアログが表示されても、実際は OS の情報を採取するだけで更新していないため、問題ありません。
- -f オプションに「[[ドライブ文字]:」を指定した場合、次の現象が発生するおそれがあります。このため、-f オプションに「[[ドライブ文字]:」を指定しないでください。
 - 資料の格納個所が不正になる
 - 一部の資料採取に失敗する

使用例

マシンに設定されているホスト名の設定情報と、サービスポートの設定情報を除いた資料をc:¥log フォルダに出力する場合の指定例を次に示します。

```
jss_log.bat -f c:¥log -t
```

jssaclexport (アクセス権情報エクスポート)

機能

プロセスワークボード単位に設定されているアクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を、CSVファイルで出力します。

形式

```
jssaclexport -o アクセス権情報ファイル名  
             {-ALL | -s -id システムID | -p -id プロセスワークボードID}  
             [-f]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-o アクセス権情報ファイル名

アクセス権情報ファイル名には、アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を出力するファイル名を 255 バイト以下で指定します。このとき、半角文字を 1 バイト、全角文字を 2 バイトとして換算します。ファイル名は、絶対パスまたは相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。なお、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。

-ALL

すべてのシステムを対象として、アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を出力する場合に指定します。この場合、マスターシステムも対象になります。

-s -id システム ID

システムを選択して、アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を出力する場合に指定します。システム ID は、1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-p -id プロセスワークボード ID

プロセスワークボードを選択して、アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を出力する場合に指定します。プロセスワークボード ID は、1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-f

ファイルを上書きする場合に指定します。

-o オプションで指定したアクセス権情報ファイルが存在しないときは、-o オプションで指定したアクセス権情報ファイルが作成されます。また、このオプションを省略し、-o オプションで指定したアクセス権情報ファイルが存在するときは、アクセス権情報ファイルを出力しないで処理が終了します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

アクセス権情報ファイルの内容

アクセス権情報ファイルには、次のような形式でデータが出力されます。

ヘッダー部	#"JP1/Service Support", "105000", "MS932", "ACLEXPOR"
ボディ部	#"システムID", "プロセスワークボードID", "ユーザー/ロールID種別", "ユーザー/ロールID", "アクセス権" "system0001", "pwb001", "USER", "user001", "CREATE", "REFER", "ST_INQUIRY" "system0001", "pwb001", "ROLE", "role001", "REFER", "CLOSE", "APPROVE", "ST_CLOSE" ⋮

なお、アクセス権情報ファイルに出力されるボディ部の1行目には、属性名が出力されます。

出力される内容について説明します。

ヘッダー部

出力順	項目の内容	出力する値
1	製品名	JP1/Service Support
2	出力されるファイルのバージョン	出力されるファイルのバージョンを6けたの文字列で表す
3	アクセス権情報ファイルの文字コード	出力されるファイルの文字コード
4	出力データの種別	ACLEXPOR

ボディ部

出力順	項目名	説明
1	対象システムのシステム ID	アクセス権が設定されているシステムのシステム ID
2	プロセスワークボード ID	アクセス権が設定されているプロセスのプロセスワークボード ID
3	ユーザー/ロール ID 種別	ユーザー ID またはロール ID のどちらかを示す種別 <ul style="list-style-type: none"> ユーザー ID の場合：USER ロール ID の場合：ROLE
4	ユーザー/ロール ID	ユーザー ID またはロール ID

出力順	項目名	説明
5	アクセス権	ユーザーまたはロールが持つ、すべてのアクセス権とステータスの初期担当者※

注※

出力されるアクセス権を次に示します。

表 12-7 出力されるアクセス権

出力順	出力する値	説明
1	CREATE	案件に対する「案件の作成」権限
2	EDIT	案件に対する「案件の編集」権限
3	REFER	案件に対する「案件の参照」権限
4	DELETE	案件に対する「案件の削除」権限
5	ESCALATE	案件に対する「エスカレーション」権限
6	APPROVE	案件に対する「案件の承認」権限
7	CLOSE	案件に対する「案件のクローズ」権限
8	ST_INQUIRY	ステータスが「受付」の案件に対する「案件の編集」権限
9	ST_INQUIRY_DEF	ステータスが「受付」の案件に対する「案件の編集」権限、および「受付」のステータスの初期担当者
10	ST_RESEARCH	ステータスが「調査中」の案件に対する「案件の編集」権限
11	ST_RESEARCH_DEF	ステータスが「調査中」の案件に対する「案件の編集」権限、および「調査中」のステータスの初期担当者
12	ST_PLANNING	ステータスが「計画中」の案件に対する「案件の編集」権限
13	ST_PLANNING_DEF	ステータスが「計画中」の案件に対する「案件の編集」権限、および「計画中」のステータスの初期担当者
14	ST_DISCUSSING	ステータスが「審議中」の案件に対する「案件の編集」権限
15	ST_DISCUSSING_DEF	ステータスが「審議中」の案件に対する「案件の編集」権限、および「審議中」のステータスの初期担当者
16	ST_APPROVED	ステータスが「承認済み」の案件に対する「案件の編集」権限
17	ST_APPROVED_DEF	ステータスが「承認済み」の案件に対する「案件の編集」権限、および「承認済み」のステータスの初期担当者
18	ST_WAITING	ステータスが「対応依頼中」の案件に対する「案件の編集」権限
19	ST_WAITING_DEF	ステータスが「対応依頼中」の案件に対する「案件の編集」権限、および「対応依頼中」のステータスの初期担当者
20	ST_REVIEW	ステータスが「レビュー中」の案件に対する「案件の編集」権限
21	ST_REVIEW_DEF	ステータスが「レビュー中」の案件に対する「案件の編集」権限、および「レビュー中」のステータスの初期担当者

出力順	出力する値	説明
22	ST_CLOSE	ステータスが「クローズ」の案件に対する「案件の編集」権限
23	ST_CLOSE_DEF	ステータスが「クローズ」の案件に対する「案件の編集」権限、および「クローズ」のステータスの初期担当者
24	ST_USER01～ST_USER40	「拡張ステータス 01」～「拡張ステータス 40」のステータスが設定された案件に対する「案件の編集」権限
25	ST_USER01_DEF～ ST_USER40_DEF	「拡張ステータス 01」～「拡張ステータス 40」のステータスが設定された案件に対する「案件の編集」権限、および「拡張ステータス 01」～「拡張ステータス 40」のステータスの初期担当者

アクセス権情報（ボディ部）のソート順

アクセス権情報は、次に示すソート順で出力されます。

1. システム ID：昇順
2. プロセス※1：昇順
3. ユーザー/ロール ID 種別※2：降順
4. ユーザー/ロール ID：昇順

注※1

システム内に複数のプロセスワークボードがある場合は、次に示すプロセス順にソートして出力されません。なお、プロセス名はデフォルトの名称です。

1. インシデント管理
2. 問題管理
3. 変更管理
4. リリース管理

注※2

ロールのアクセス権情報が出力されたあとに、ユーザーのアクセス権情報が出力されます。ただし、マスターシステム（一時受付プロセスワークボード）の情報は、最後に出力されます。

また、jpladmin ユーザーおよびシステムロールに対してアクセス権を設定した場合、それらのアクセス権情報は出力されます。ただし、システムロールがデフォルトで設定されているアクセス権については出力されません。システムロールの詳細については、「[3.17.2 ロール管理](#)」のシステムロールの説明を参照してください。

システムおよびプロセスワークボードの状態に応じたコマンドの実行結果

jssaclexport コマンドは、実行する際のシステムおよびプロセスワークボードの状態によって動作が異なります。システムおよびプロセスワークボードの状態に応じた jssaclexport コマンドの実行結果を、次の表に示します。

表 12-8 システムおよびプロセスワークボードの状態に応じた jssaclexport コマンドの実行結果

項番	システムの状態	プロセスワークボードの状態	実行結果
1	削除待ち	—	対象システム内のアクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を出力しない。
2	運用中	準備中	対象プロセスワークボード内のアクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を出力する。
3		運用中	
4		停止中	
5		削除待ち	

(凡例)

—：該当なし

実行時の前提条件

- ・ コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。

注意事項

- ・ jssaclexport コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、アクセス権情報の出力に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- ・ エラーなどによって jssaclexport コマンドの実行が中断した場合、出力ファイルの内容が不完全になるおそれがあります。
- ・ jssaclexport コマンドの実行中に対象となるプロセスワークボードに設定されているアクセス権を変更した場合、出力対象に含まれないおそれがあります。そのため、プロセスワークボードの状態を停止中にしてから実行することを推奨します。
- ・ jssaclexport コマンドで一度に出力できるアクセス権情報（属性名の行を除いたボディ部の行数）の上限は、1,000,000 行です。これを超える場合は、アクセス権情報の出力条件を見直してから、コマンドを再度実行してください。

使用例

すべてのシステムを対象としたアクセス権情報を、アクセス権情報ファイル（c:¥accesspermission ¥accesspermissioninfo.csv）に出力する場合の指定例を次に示します。

```
jssaclexport -o c:¥accesspermission¥accesspermissioninfo.csv -ALL
```

jssaclimport (アクセス権情報インポート)

機能

JP1/Service Support に、アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を設定します。なお、jssaclexport コマンドで出力した CSV ファイルを利用して、アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を設定することもできます。

jssaclimport コマンドを実行すると、すべてのアクセス権情報入力ファイルの内容が正しいか確認され、そのあとにアクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報の設定処理が開始されます。アクセス権情報入力ファイルに不正なデータが存在した場合、アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報は設定されません。

形式

```
jssaclimport -i アクセス権情報入力ファイル名
[-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-i アクセス権情報入力ファイル名

アクセス権情報入力ファイル（アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を入力した CSV ファイル）のファイル名を、255 バイト以下で指定します。このとき、半角文字を 1 バイト、全角文字を 2 バイトとして換算します。ファイル名は、絶対パスまたは相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。なお、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。アクセス権情報入力ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[アクセス権情報入力ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

-q

応答メッセージを表示しないで、アクセス権情報の設定処理を続行する場合に指定します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

システムおよびプロセスワークボードの状態に応じたコマンドの実行結果

jssaclimport コマンドは、実行する際のシステムおよびプロセスワークボードの状態によって動作が異なります。システムおよびプロセスワークボードの状態に応じた jssaclimport コマンドの実行結果を、次の表に示します。

表 12-9 システムおよびプロセスワークボードの状態に応じた jssaclimport コマンドの実行結果

項番	システムの状態	プロセスワークボードの状態	実行結果
1	削除待ち	—	アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を設定できない。
2	運用中	準備中	-i オプションで指定したアクセス権情報入力ファイルを基に、アクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を設定する。
3		運用中	
4		停止中	
5		削除待ち	

(凡例)

—：該当なし

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。

注意事項

- jssaclimport コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、アクセス権情報の設定に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jssaclimport コマンドの実行中に、プロセスワークボード、ロール、およびユーザーを変更または削除しないでください。それらを変更または削除した場合、jssaclimport コマンドの実行に失敗するおそれがあります。また、jssaclimport コマンドの実行に成功しても、アクセス権情報入力ファイルの内容が、正しく反映されないおそれがあります。
- 一度に大量のアクセス権情報を登録する場合、コマンドの実行に時間が掛かり、案件管理サーバおよび JP1/Service Support への負荷が高くなります。案件管理サーバおよび JP1/Service Support の負荷が低くなる深夜などにコマンドを実行するようにしてください。
- 入力するファイルは、JP1/ervice Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成したファイルを指定してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1

- 中国語環境の場合：GB18030

使用例

アクセス権情報ファイル（c:¥accesspermission¥accesspermissioninfo.csv）を，応答メッセージを出力しないで設定する場合の指定例を次に示します。

```
jssacli import -i c:¥accesspermission¥accesspermissioninfo.csv -q
```

jssauthusersetup (認証ユーザー設定)

機能

メール送信時の認証方式が、POP before SMTP 認証または SMTP-AUTH 認証のユーザー ID とパスワードを、メール定義ファイルに設定します。また、メールによる案件登録で POP3 プロトコルを使用したメール取得時の認証のユーザー ID とパスワードを、メール定義ファイルに設定します。

形式

```
jssauthusersetup {-smtp | -pop3}
                 -u ユーザー認証のユーザーID
                 -p ユーザー認証のパスワード
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-smtp

メール送信時に、次に示す認証方式のユーザー認証のユーザー ID およびパスワードを指定する場合に指定します。

- POP before SMTP 認証
- SMTP-AUTH 認証

-pop3

メールによる案件登録時の、ユーザー認証のユーザー ID を指定する場合に指定します。

-u ユーザー認証のユーザー ID

ユーザー認証のユーザー ID を指定します。ユーザー認証のユーザー ID は、1 バイト以上 255 バイト以下の制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の半角英数字および半角記号で指定します。なお、大文字と小文字は区別されます。

-p ユーザー認証のパスワード

ユーザー認証のパスワードを指定します。ユーザー認証のパスワードは、1 バイト以上 127 バイト以下の制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の半角英数字および半角記号で指定します。なお、大文字と小文字は区別されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。

注意事項

- メール定義ファイルにユーザー認証のためのユーザー ID とパスワードがすでに設定されている場合は、上書きされます。メール定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[メール定義ファイル \(jplimss_mail_setting.conf\)](#)」を参照してください。
- jssauthusersetup コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キー、または [Ctrl] + [Break] キーでコマンドの実行を打ち切った場合、メール定義ファイルの設定に失敗するおそれがあります。
- jssauthusersetup コマンドが実行途中で終了した場合、メール定義ファイルの情報に不整合が起こるおそれがあります。この場合は、再度 jssauthusersetup コマンドを実行してください。
- jssauthusersetup コマンドの実行中に、次に示すコマンドを同時に実行しないでください。同時に実行した場合、あとから実行したコマンドのメールの送信または受信が失敗するおそれがあります。
 - jssitementry (案件登録) コマンド
 - jssitemedit (案件編集) コマンド
 - jssitementrybyemail (メールによる案件登録) コマンド
 - jssinformperiod (期限前通知) コマンド
 - jssinformleave (滞留案件通知) コマンド

jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)

機能

JP1/Support で使用する認証方法を切り替えます。使用できる認証方法を次に示します。

- 案件管理 DB を使用した認証
- LDAP サーバを使用した認証
- JP1/Base の認証サーバを利用した認証

形式

```
jsschauthorityserver {-imss | -ldap LDAPサーバ種別 | -base | -state}
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-imss

案件管理 DB を使用した認証とする場合に指定します。

-ldap LDAP サーバ種別

LDAP サーバを使用した認証とする場合に指定します。

JP1/Service Support でサポートしている LDAP サーバは Active Directory です。指定できるのは、Active Directory を表す「AD」だけです。

このオプションを指定する場合、JAAS 対応ユーザ管理定義ファイルに情報を設定する必要があります。JAAS 対応ユーザ管理定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル \(hptl_jp1_imss_ua_conf.properties\)](#)」を参照してください。

-base

JP1/Base の認証サーバを利用した認証とする場合に指定します。

-state

現在の認証サーバを確認する場合に指定します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。

注意事項

- jsschauthorityserver コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キー、または [Ctrl] + [Break] キーでコマンドの実行を打ち切った場合、認証サーバの切り替えに失敗するおそれがあります。
- jsschauthorityserver コマンドは、二つ以上同時に実行できません。
- jsschauthorityserver コマンドで認証サーバを切り替えた場合、JP1/Service Support サービスおよび JP1/Service Support - Web Service サービスを再起動してください。再起動をしなかった場合、ログイン後の画面が正常に表示されないことがあります。ログイン後の画面が正常に表示されないときは、サービスを再起動してから再度ログインしてください。
- 修復インストールした場合、案件管理 DB が認証サーバとなります。LDAP サーバを認証サーバとしていた場合は、コマンドを再実行して認証サーバを切り替えてください。
- LDAP サーバ、または JP1/Base の認証サーバを認証サーバとして使用している場合、パスワードは LDAP サーバ、または JP1/Base の認証サーバで管理されます。そのため、JP1/Support でパスワードを変更しても、それぞれの認証サーバのパスワードは変更されません。この場合、JP1/Service Support でのパスワードの変更を抑止してください。パスワードの変更を抑止するには、ユーザー管理プロパティファイルで設定してください。詳細については、「13. 定義ファイル」の「[ユーザー管理プロパティファイル \(hptl_jp1_imss_usermgr.properties\)](#)」を参照してください。
- ユーザーアカウント制御機能が有効で、Administrator 以外の Administrators 権限を持つユーザーが jsschauthorityserver コマンドを実行した場合、コマンドの実行には成功しますが、認証サーバの切り替えは行われません。
ユーザーアカウント制御機能が有効で、Administrator 以外の Administrators 権限を持つユーザーがコマンドを実行する手順については、「[コマンド一覧](#)」を参照してください。
- jsschauthorityserver コマンドで認証サーバを切り替えた場合、JP1/Service Support サービスおよび JP1/Service Support - Web Service サービスを再起動してください。再起動をしなかった場合、ログイン後の画面が正常に表示されない場合があります。ログイン後の画面が正常に表示されない場合は上記サービスを再起動して、再度ログインしてください。

jsscollectdata (案件情報集計)

機能

案件の状況を集計します。プロセスワークボードの状態に関係なく、JP1/Service Support が管理するプロセスワークボードすべてが集計対象となります。なお、保存案件は集計の対象となりません。

メイン画面（案件状況）での案件の状況の一覧表示、および [集計データのファイル出力] 画面でのファイル出力は、jsscollectdata コマンドの集計結果が基になります。

集計データは、用途によって保持する期間が異なります。集計データの保持期間を、用途別に次の表に示します。

表 12-10 集計データの保持期間

集計データの用途	保持期間
メイン画面（案件状況）の表示用	コマンド実行日の前日から 30 日間
日単位のレポート出力用	コマンド実行日の前日から 62 日間
月単位のレポート出力用	コマンド実行日の前日から 96 か月間

このコマンドは、JP1/Service Support - Task Service サービスからも自動実行できます。

形式

```
jsscollectdata {-s | -a}
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-s

日々の集計データを更新する場合に指定します。データベースに格納されている集計データと比較して、保持期間内の集計データで足りない部分だけを追加登録します。また、保持期間を超過した集計データを削除します。

-a

バージョンアップ直後、データ移行直後、集計データをすべて取り直したい場合などに指定します。初回実行時を除いて、このオプションを指定して jsscollectdata コマンドを実行した場合、jssdbreclaim.bat

コマンドを実行して、データベースの空き領域を解放することをお勧めします。なお、日々のデータ更新には、このオプションを指定しないでください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- -a オプションを指定して jsscollectedata コマンドを実行する場合、JP1/Service Support - DB Server サービスだけが起動している状態で実行することをお勧めします。

注意事項

- jsscollectedata コマンドを毎日実行することで、集計データの削除と追加を繰り返すため、データベースを再編成する必要があります。1年に1回程度、jssdborg.bat（案件管理 DB 再編成）コマンドを実行してください。
- jsscollectedata は、二つ以上同時に実行できません。
- jsscollectedata コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、案件情報の集計に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- JP1/Service Support - Task Service サービスから jsscollectedata コマンドの実行中に、JP1/Service Support - Task Service サービスが停止すると、このコマンドも強制終了します。この場合、案件情報の集計に失敗するおそれがあります。
- 集計対象となるコードデータが多くなると案件管理 DB の容量が上限に達し、jsscollectedata コマンドが実行できなくなる場合があります。この場合は、案件の集計データを CSV ファイルに出力し、不要な案件を削除してから jsscollectedata コマンドを実行してください。
- jsscollectedata コマンドは、登録されている案件数、案件更新回数、および案件フォーム数によって時間がかかることがあります。jsscollectedata コマンドの実行は、アクセスが少ない夜間などに実行してください。

jssdelrec (案件管理 DB データ削除)

機能

削除待ち状態のデータを，案件管理 DB から削除します。

形式

```
jssdelrec -a [-b]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-a

削除待ち状態となっているすべてのシステム，プロセスワークボード，および案件を案件管理 DB から削除する場合に指定します。プロセスワークボードが削除対象の場合は，削除対象のプロセスワークボードに関連する案件，および添付ファイルも削除されます。

-a オプションは必ず指定してください。

-b

-b オプションを指定した場合は，JP1/Service Support サービスおよび JP1/Service Support - Web Service サービスを停止しないで jssdelrec コマンドを実行できます。-b オプションを省略した場合は，それらのサービスを停止しておく必要があります。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については，「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。
- jssdelrec コマンドの実行中に，ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。

- jssdelrec コマンドを実行すると、削除待ち状態のデータは案件管理 DB から削除されます。このため、削除する案件の更新履歴または案件情報を保存したい場合は、jssdelrec コマンドの実行前に jssitemhistory コマンドまたは jssitemexportEx コマンドを実行してください。

注意事項

- jssdelrec コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、削除待ち状態のデータの削除に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jssdelrec コマンドを実行してプロセスワークボードを削除した場合、削除したプロセスワークボードに登録されている案件の集計情報を削除するために、jsscollectdata コマンドに -a オプションを指定して実行してください。
- コマンドを実行する手順の詳細については、「[11.2.3 案件管理 DB からのデータ削除](#)」を参照してください。

jssformcustomizer (案件フォーム定義ファイル編集)

機能

案件フォーム定義ファイルを編集するための GUI ツールを起動します。

GUI ツールの操作については、「[9.10 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ](#)」を参照してください。

形式

```
jssformcustomizer -sys
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-sys

案件フォーム定義ファイルを編集するための GUI ツールを起動する場合に指定します。この引数は必ず指定してください。

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「[12. コマンド](#)」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。

注意事項

- jssformcustomizer コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キー、または [Ctrl] + [Break] キーでコマンドの実行を打ち切った場合、GUI ツールの実行に失敗するおそれがあります。

jssformdef (案件フォーム登録)

機能

ユーザーがカスタマイズした案件フォーム定義ファイルを登録します。

形式

```
jssformdef -f 案件フォーム定義ファイル名  
[-n]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-f 案件フォーム定義ファイル名

案件フォーム定義ファイル名を指定します。ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できます。案件フォーム定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件フォーム定義ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

-n

プロセスごとに指定している案件フォームへ適用するかどうかを指定します。-n オプションを指定した場合は、登録された案件フォームは、プロセスごとの案件フォームへは適用されません。-n オプションを省略した場合は、登録された案件フォームは、案件フォーム ID に対応するプロセスの、プロセスごとの案件フォームへ適用されます。

また、-n オプションを指定した場合は、JP1/Service Support サービスおよび JP1/Service Support - Web Service サービスを停止しないで jssformdef コマンドを実行できます。-n オプションを省略した場合は、それらのサービスを停止しておく必要があります。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。
- jssformdef コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。

注意事項

- jssformdef コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、案件フォームの登録に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- 入力するファイルは、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成したファイルを指定してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：UTF-8
 - 英語環境の場合：UTF-8
 - 中国語環境の場合：UTF-8
- -f オプションで指定する案件フォーム定義ファイルのファイル名および定義内容に Unicode の補助文字を使用した場合、案件フォーム登録コマンドが異常終了することがあります。案件フォーム定義ファイルのファイル名、および定義内容に Unicode の補助文字を使用しないでください。

Unicode の補助文字とは、次の文字のことです。

- 基本多言語面 (BMP) 以外の文字
- Unicode のコードポイント U+10000~U+10FFFF の範囲の文字
- UTF-16 エンコーディングのサロゲート・ペアで表される文字

使用例

カスタマイズした案件フォーム定義ファイル (c:¥customize¥form01.xml) を登録する場合の指定例を次に示します。

```
jssformdef -f c:¥customize¥form01.xml
```

jssinformleave (滞留案件通知)

機能

案件の担当者に案件が滞留していることを知らせるメールを送信します。

このコマンドは、JP1/Service Support - Task Service サービスからも自動実行できます。

形式

```
jssinformleave -sys
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-sys

案件が滞留していることを知らせるメールを送信する場合に指定します。この引数は必ず指定してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	監視対象なし
2	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssinformleave コマンドを使用するには、滞留案件定義ファイルに必要な情報を設定する必要があります。滞留案件定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[滞留案件定義ファイル \(jplinformleave_setting.conf\)](#)」を参照してください。
- jssinformleave コマンドの実行中は、マシンに負荷が掛かります。JP1/Service Support - Task Service サービスから実行する場合は実行間隔に注意してください。

注意事項

- jssinformleave コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キー, または [Ctrl] + [Break] キーでコマンドの実行を打ち切った場合, メールの送信に失敗するおそれがあります。
- JP1/Service Support - Task Service サービスから jssinformleave コマンドの実行中に, JP1/Service Support - Task Service サービスが停止すると, このコマンドも強制終了します。この場合, 通知対象者全員にメールが送信されないおそれがあります。
- jssinformleave コマンドのメール送信状況はユーザー公開用のログファイルで確認できます。詳細については, 「13. 定義ファイル」の「[ユーザーログ定義ファイル \(jplinformleave.conf\)](#)」を参照してください。
- jssinformleave コマンドの監視対象によっては, 実行時間が実行する間隔を超える場合があります。監視するプロセスワークボードとステータスを多く指定する場合は実行する間隔を十分に長く設定してください。

実行する間隔 15 分で可能な対象の目安を示します。

- プロセスワークボードあたりの案件登録数：800
- 監視するプロセスワークボード数：5
- 監視するステータス数：15

jssinformperiod (期限前通知)

機能

案件の作業期限をチェックし、案件の担当者に作業期限が近づいていることを知らせるメールを送信します。

このコマンドは、JP1/Service Support - Task Service サービスからも自動実行できます。

形式

```
jssinformperiod -sys
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。
- jssinformperiod コマンドは、二つ以上同時に実行できません。
- jssinformperiod コマンドの実行中は、マシンに負荷が掛かります。JP1/Service Support - DB Server サービスだけが起動している状態で実行するか、夜間などマシンの負荷が小さい時間帯に実行することをお勧めします。

注意事項

- jssinformperiod コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、メールの送信に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- JP1/Service Support - Task Service サービスから jssinformperiod コマンドの実行中に、JP1/Service Support - Task Service サービスが停止すると、このコマンドも強制終了します。この場合、通知対象者全員にメールが送信されないおそれがあります。

- jssinformperiod コマンドの実行結果をログファイルに出力して確認できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「ユーザーログ定義ファイル (jplinformperiod.conf)」を参照してください。

jssitemcount (案件数確認)

機能

JP1/Service Support に登録されている管理案件と保存案件の件数を表示します。また、プロセスワークボードに追加登録できる案件数がしきい値を下回った場合、およびプロセスワークボードに登録できる案件数の上限に達した場合、警告メッセージを出力します。プロセスワークボードに追加登録できる案件数のしきい値は、システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties) で設定します。詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

形式

```
jssitemcount {-ALL | -s -id システムID | -p -id プロセスワークボードID}
               [-ct 開始年月日-終了年月日]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-ALL

すべてのプロセスワークボードに登録されている案件数を確認する場合に指定します。

-s -id システム ID

システムを選択して、そのシステムに登録されている案件数を確認する場合に指定します。システム ID は、1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-p -id プロセスワークボード ID

プロセスワークボードを選択して、そのプロセスワークボードに登録されている案件数を確認する場合に指定します。プロセスワークボード ID は、1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-ct 開始年月日-終了年月日

特定の期間内に登録された案件の件数を確認するために、登録日の範囲を「YYYY/MM/DD」の形式の文字列で指定します。開始年月日と終了年月日の間には「-」を挿入します。

開始年月日、および終了年月日には 1970/01/01~2107/01/01 の値を指定できます。開始年月日には、終了年月日より前の値を指定してください。開始年月日、および終了年月日について次に説明します。

開始年月日

この値で指定した日付以降に登録された案件の件数をカウントします。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、エラーとなります。

終了年月日

この値で指定した日付以前に登録された案件の件数をカウントします。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、エラーとなります。

例えば、「2013/01/01-2013/12/31」を指定した場合、案件の登録日時が「2013/01/01 00:00:00(.000)」から「2013/12/31 23:59:59(.999)」の範囲の案件がカウントの対象になります。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了、警告メッセージの出力なし
1	正常終了、警告メッセージを出力
2	異常終了

対象システムおよび対象プロセスワークボードの状態

jssitemcount コマンドは、プロセスワークボードが1件以上登録されているシステムを対象とします。プロセスワークボードが1件でも登録されていれば、システム、プロセスワークボード、および案件の状態に依存しないで案件がカウントの対象となります。また、削除待ち状態の案件もカウントの対象になります。なお、プロセスワークボードに登録されている案件が0件の場合は、0件で表示されます。

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssitemcount コマンドは、二つ以上同時に実行できません。

注意事項

- jssitemcount コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、案件数のカウントに失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jssitemcount コマンドの実行中にカウント対象の案件を削除 (jssdelrec コマンドを実行) したり、案件を新規に登録したり、案件をエスカレーションしたりすると、それらを行ったタイミングによっては、カウントされない場合があります。
- jssitemcount コマンドの実行結果をログファイルに出力して確認できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「[ユーザーログ定義ファイル \(jplitemcount.conf\)](#)」を参照してください。

使用例

2013年1月1日～2013年12月31日の期間に登録された案件のうち、プロセスワークボードIDが「pwb001」の案件の件数を確認する場合の指定例を、次に示します。

```
jssitemcount -p -id pwb001 -ct 2013/01/01-2013/12/31
```

jssitemdeletion (案件一括削除)

機能

案件管理 DB に登録されている不要な案件を一括で削除待ち状態にします。案件管理 DB から削除はしません。

形式

```
jssitemdeletion {-s -id ID | -p -id ID [-pi プロセスワークボード内通し番号]}  
                [-n 更新年月日 |  
                -ct 開始年月日-終了年月日 |  
                -et 開始年月日-終了年月日]  
                [-a]  
                [-q]  
                [-b]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-s

対象システムを選択して、案件を削除するときに指定します。システム ID は-id オプションの引数で指定します。

-p

プロセスワークボードを選択して、案件を削除するときに指定します。プロセスワークボード ID は-id オプションの引数で指定します。

-id ID

ID を指定します。ID として指定できる文字列は、1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字です。-s オプションを指定している場合は、システム ID となります。-p オプションを指定している場合は、プロセスワークボード ID となります。

-pi プロセスワークボード内通し番号

-p オプションで指定したプロセスワークボードから、一つの案件を削除するときに、プロセスワークボード内通し番号を指定します。

-n 更新年月日

-n オプションを指定した場合は、指定した更新年月日以前の案件がすべて削除待ち状態になります。更新年月日には、削除待ち状態にしたい案件の更新日時を「YYYY/MM/DD」の形式にして指定します。例えば、更新年月日に「2008/04/01」を指定した場合、案件の更新日時が「2008/04/01 23:59:59(.999)」以前の案件が削除待ち状態になります。

更新年月日には、1970/01/01～2107/01/01 の値を指定できます。

-n, -ct, および-et オプションを省略した場合は、すべての案件が削除待ち状態になります。

jssrev コマンドで削除待ち状態を解除した案件を、再度 jssitemdeletion コマンドで削除する場合

jssrev コマンドで削除待ち状態を解除した案件は、更新日時が jssrev コマンドの実行日時に更新されているため、-n オプションで指定する年月日が、削除したい案件の更新日時を正しく指定しているかどうか確認してください。

-ct 開始年月日-終了年月日

特定の期間内に登録された案件を削除待ち状態にするために、登録日の範囲を「YYYY/MM/DD」の形式の文字列で指定します。開始年月日と終了年月日の間には「-」を挿入します。

開始年月日、および終了年月日には 1970/01/02～2036/12/31 の値を指定できます。開始年月日には、終了年月日より前の値を指定してください。

開始年月日、および終了年月日について次に説明します。

開始年月日

この値で指定した日付以降に登録された案件を削除待ち状態にします。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、実際に存在する日付まで進め、それ以降に更新された案件を出力します。

終了年月日

この値で指定した日付以前に登録された案件を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、実際に存在する日付まで戻り、それ以前に登録された案件を出力します。

例えば、「2013/04/01-2013/04/07」を指定した場合、案件の登録日時が「2013/04/01 00:00:00(.000)」から「2013/04/07 23:59:59(.999)」の範囲の案件が削除待ち状態になります。

-n, -ct, および-et オプションを省略した場合は、すべての案件が削除待ち状態になります。

-et 開始年月日-終了年月日

特定の期間内に更新された案件を削除待ち状態にするために、登録日の範囲を「YYYY/MM/DD」の形式の文字列で指定します。開始年月日と終了年月日の間には「-」を挿入します。

開始年月日、および終了年月日には 1970/01/02～2036/12/31 の値を指定できます。開始年月日には、終了年月日より前の値を指定してください。

開始年月日、および終了年月日について次に説明します。

開始年月日

この値で指定した日付以降に更新された案件を削除待ち状態にします。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、実際に存在する日付まで進め、それ以降に更新された案件を出力します。

終了年月日

この値で指定した日付以前に登録された案件を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、実際に存在する日付まで戻り、それ以前に登録された案件を出力します。

例えば、「2013/04/01-2013/04/07」を指定した場合、案件の登録日時が「2013/04/01 00:00:00(.000)」から「2013/04/07 23:59:59(.999)」の範囲の案件が削除待ち状態になります。

-n, -ct, および-et オプションを省略した場合は、すべての案件が削除待ち状態になります。

-a

-a オプションを指定した場合は、すべてのステータスの案件が削除待ち状態になります。-a オプションを省略した場合は、ステータスがクローズの案件が削除待ち状態になります。

-q

-q オプションを指定した場合は、応答メッセージを表示しないで案件を削除待ち状態にします。-q オプションを省略した場合は、処理を続行するかを確認するメッセージが表示されます。

-b

-b オプションを指定した場合は、JP1/Service Support サービス、JP1/Service Support - Web Service サービス、JP1/Service Support - Task Service サービスを停止しないで jssitemdeletion コマンドを実行できます。-b オプションを省略した場合は、それらのサービスを停止しておく必要があります。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssitemdeletion コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。
- jssitemdeletion コマンドは、二つ以上同時に実行できません。

注意事項

- jssitemdeletion コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、その時点までの案件を削除待ち状態にしてコマンドが終了します。
- jssitemdeletion コマンドを実行すると、対象システムやプロセスワークボードの状態に関係なく、該当する案件を削除待ち状態にします。また、編集集中の案件であっても削除待ち状態にします。このとき、この案件の編集状態は解除されません。
- jssitemdeletion コマンドで案件を削除待ち状態にする場合、更新日時が jssitemdeletion コマンドの実行日時に更新されます。jssitemdeletion コマンドの実行によって、更新日時が更新されたことで問題がある場合、あらかじめ取得しておいたバックアップファイルでリカバリーしてください。jssrev コマンドで削除待ち状態を解除しても、更新日時は元に戻らないで、jssrev コマンドの更新日時に更新されるので注意してください。
- 案件保存 DB に保存されている案件は、削除されません。

jssitemedit (案件編集)

機能

プロセスワークボード内通し番号またはイベント DB 内通し番号をキーに案件管理 DB を検索して、指定した案件データを編集します。案件データを編集した場合、指定を省略した情報は、コマンド実行前の設定値から変更されません。また、このコマンドを実行して案件データを編集した場合も、案件データの履歴は案件管理 DB に保存されます。

形式

```
jssitemedit -b プロセスワークボードID
-r 登録者ID
-cht 担当者種別
-ch 担当者ID
{-pi プロセスワークボード内通し番号
 [-evt JP1/IM - Managerホスト名 イベントDB内通し番号] |
 -evt JP1/IM - Managerホスト名 イベントDB内通し番号}
[-st ステータス]
[-ctdate 完了日時]
[-causc 要因コード]
[-rsltc 結果コード]
[-avodc 回避策種別コード]
[-soltc 解決区分コード]
[-chsc 変更の規模]
[-rtyp リリースタイプ]
[-phem 現象種別]
[-fail 問題個所とバージョン]
[-solt 解決策]
[-avod 回避策]
[-rcaus 根本原因]
[-s 重大度]
[-ipt 影響度]
[-pr 優先度]
[-srsn 重大度の理由]
[-iptrsn 影響度の理由]
[-prrsn 優先度の理由]
[-itmc 案件種別]
[-isuc 問題分野]
[-t タイトル]
[-det 概要]
[-sit 作業状況]
[-ins 影響業務]
[-cus 顧客名]
[-reqp 問い合わせ者]
[-shdl スケジュール/手順概要]
[-eval 変更の影響評価]
[-dlrst 審議結果]
[-mesu 再発防止のための考察]
[-free フリー記述欄]
[-ecost 費用(予算)]
[-acost 費用(実績)]
[-acdate 発生日時]
[-stdate 開始日時]
```

```
[-deadline 作業期限]
[-jpl プロダクト名]
[-jobnet ジョブネット名]
[-job ジョブ名]
[-snmp SNMPソース]
[-node 監視ノード名]
[-alarm アラーム名]
[-utextn 拡張テキストデータn]
[-utimen 拡張時刻データn]
[-ucoden 拡張コードデータn]
[-uintn 拡張数値データn]
[-uurinfor ユーザー／ロール種別n ユーザー／ロールIDn]
[-m コードマッピングファイル名]
[-f]
[-mail]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-b プロセスワークボード ID

案件を登録するプロセスワークボードのプロセスワークボード ID を、64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-r 登録者 ID

案件の登録者となるユーザーの ID を、64 バイト以下の半角英数字で指定します。

次の場合はエラーになります。

- 指定した ID のユーザーが存在しない場合
- 指定した ID のユーザーが、登録先プロセスワークボードで案件の登録権限を持っていない場合

-cht 担当者種別

案件の担当者の種別として、「USER」または「ROLE」のどちらかを指定します。大文字、小文字は区別されません。

-ch 担当者 ID

案件の担当者となるユーザーの ID、またはロールのロール ID を 64 バイト以下の半角英数字と「_ (アンダーバー)」で指定します。

-pi プロセスワークボード内通し番号

編集する案件のプロセスワークボード内通し番号を、数値で指定します。

jssitemedit コマンドでは、-pi オプションまたは-evt オプションのどちらかを指定する必要があります。

両方指定した場合は、-pi オプションに指定したプロセスワークボード内通し番号が検索キーとして使用されて、-evt オプションに指定した JP1/IM - Manager ホスト名およびイベント DB 内通し番号で案件が更新されます。

プロセスワークボード内通し番号の確認方法については、「[3.2.2\(1\) 案件一覧](#)」を参照してください。

-evt JP1/IM - Manager ホスト名 イベント DB 内通し番号

編集する案件の JP1 イベントの JP1/IM - Manager のホスト名とイベント DB 内通し番号を、0～2,147,483,647 の半角数字（整数）で指定します。

jssitemedit コマンドでは、-pi オプションまたは-evt オプションのどちらかを指定する必要があります。

両方指定した場合は、-pi オプションに指定したプロセスワークボード内通し番号が検索キーとして使用されて、-evt オプションに指定した JP1/IM - Manager ホスト名およびイベント DB 内通し番号で案件が更新されます。-evt オプションだけを指定した場合は、-evt オプションに指定した JP1/IM - Manager ホスト名およびイベント DB 内通し番号が検索キーとして使用されて、-evt オプションに指定した JP1/IM - Manager ホスト名およびイベント DB 内通し番号で案件が更新されます。また、-evt オプションだけを指定した場合は、JP1/IM - Manager ホスト名およびイベント DB 内通し番号では案件が特定できなくて、エラーとなることがあります。

-st ステータス

案件に設定するステータスを指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 受付
- 調査中
- 計画中
- 審議中
- 対応依頼中
- レビュー中
- 承認済み
- クローズ
- 拡張ステータス※

注※

任意に設定できます。デフォルトは、「拡張ステータス 01」～「拡張ステータス 40」です。

なお、ステータスの名称をカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-ctdate 完了日時

案件の完了日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」または「YYYY/MM/DD hh:mm」形式で指定します。完了日時には、1970/01/02 00:00:00～2036/12/31 23:59:59 の値を指定できます。

なお、案件の完了日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式で指定しても、[案件参照] 画面、[案件編集] 画面、およびメイン画面の案件プレビューでは、「YYYY/MM/DD hh:mm」の形式で表示されます。ただし、案件を CSV ファイルに出力すると、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式となります。

-causc 要因コード

案件に設定する要因を指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 空白
- 新規ソフトウェア不良
- 既知ソフトウェア不良
- 新規ハードウェア不良
- 既知ハードウェア不良
- ドキュメント不良
- 資料不足
- ユーザーミス
- 仕様
- 他社問題
- プロセス不良
- 顧客要望
- 機能拡張
- 業務要件
- インシデント・問題修正
- プロセス改善

なお、要因コードをカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-rsltc 結果コード

案件に設定する結果を指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 空白
- 完了
- 打ち切り
- 未確認
- 変更完了
- 既知の問題
- 原因不明
- 成功
- 失敗（計画ミス）
- 失敗（人的ミス）
- 失敗（その他）

なお、結果コードをカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[コードマッピングファイル \(jplimss_itemedit_codemap.conf\)](#)」を参照してください。

-avodc 回避策種別コード

案件に設定する回避策種別を指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 空白
- なし
- 運用回避
- 縮退運転
- 再起動
- ファイル回復
- 変更の戻し
- その他

なお、回避策種別コードをカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[コードマッピングファイル \(jplimss_itemedit_codemap.conf\)](#)」を参照してください。

-soltc 解決区分コード

案件に設定する解決区分を指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 空白
- ナレッジ

- ドキュメント
- ユーザー解決
- 二次サポート
- 問題管理
- 他社調査

なお、解決区分コードをカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-chsc 変更の規模

案件に設定する変更の規模を指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 空白
- 小規模
- 中規模
- 大規模

なお、変更の規模をカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-rtyp リリースタイプ

案件に設定するリリースタイプを指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 空白
- パッケージリリース
- フルリリース
- デルタリリース

なお、リリースタイプをカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-phem 現象種別

案件に設定する現象種別を指定します。デフォルトでは指定できる値がありません。指定する場合は、案件フォームに合わせて、コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf) を作成してください。また、作成したコードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-fail 問題個所とバージョン

案件に設定する問題個所とバージョンを 1,024 バイト以内の文字列で指定します。問題個所とバージョンには、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-solt 解決策

案件に設定する解決策を 4,096 バイト以内の文字列で指定します。解決策には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-avod 回避策

案件に設定する回避策を 4,096 バイト以内の文字列で指定します。回避策には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-rcaus 根本原因

案件に設定する根本原因を 4,096 バイト以内の文字列で指定します。根本原因には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-s 重大度

案件に設定する重大度を指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 空白
- 緊急
- 警戒
- 致命的
- エラー
- 警告
- 通知
- 情報
- デバッグ

なお、重大度をカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを `-m` オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[コードマッピングファイル \(jplimss_itemedit_codemap.conf\)](#)」を参照してください。

-ipt 影響度

案件に設定する影響度を指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 空白
- 小

- 中
- 大

なお、影響度をカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-pr 優先度

案件に設定する優先度を指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 空白
- 標準
- 至急
- 大至急

なお、優先度をカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-pr に値を指定しなかった場合は、案件の自動入力機能が有効になっていても、優先度は更新されません。

-srsn 重大度の理由

案件に設定する重大度の理由を 512 バイト以内の文字列で指定します。重大度の理由には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-iptrsn 影響度の理由

案件に設定する影響度の理由を 512 バイト以内の文字列で指定します。影響度の理由には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-prrsn 優先度の理由

案件に設定する優先度の理由を 512 バイト以内の文字列で指定します。優先度の理由には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-itmc 案件種別

案件種別を指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 空白
- 問い合わせ
- 障害
- 顧客要望

なお、案件種別をカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-isuc 問題分野

案件の問題分野を指定します。デフォルトでは、次の値を指定できます。

- 空白
- アプリケーション
- ミドルウェア
- OS
- ハードウェア
- ネットワーク
- プロセス

なお、問題分野をカスタマイズしている場合は、コードマッピングファイルを-m オプションに指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-t タイトル

案件のタイトルを 512 バイト以内の文字列で指定します。案件のタイトルには、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-det 概要

案件に設定する概要を 2,048 バイト以内の文字列で指定します。概要には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-sit 作業状況

案件に設定する作業状況を 4,096 バイト以内の文字列で指定します。作業状況には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-ins 影響業務

案件に設定する影響業務を 255 バイト以内の文字列で指定します。影響業務には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-cus 顧客名

案件に設定する顧客名を 1,024 バイト以内の文字列で指定します。顧客名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-reqp 問い合わせ者

案件に設定する問い合わせ者を 255 バイト以内の文字列で指定します。問い合わせ者には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-shdl スケジュール／手順概要

案件に設定するスケジュールまたは手順概要を 4,096 バイト以内の文字列で指定します。スケジュール、手順概要には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-eval 変更の影響評価

案件に設定する変更の影響評価を 4,096 バイト以内の文字列で指定します。変更の影響評価には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-dlrst 審議結果

案件に設定する審議結果を 2,048 バイト以内の文字列で指定します。審議結果には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-mesu 再発防止のための考察

案件に設定する再発防止のための考察を 4,096 バイト以内の文字列で指定します。再発防止のための考察には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-free フリー記述欄

案件のフリー記述欄に設定する 4,096 バイト以内の文字列を指定します。フリー記述欄には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-ecost 費用 (予算)

案件に設定する費用 (予算) を 0~2,147,483,647 の半角数字 (整数) で指定します。

-acost 費用 (実績)

案件に設定する費用 (実績) を 0~2,147,483,647 の半角数字 (整数) で指定します。

-acdate 発生日時

案件の発生日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」または「YYYY/MM/DD hh:mm」形式で指定します。発生日時には 1970/01/02 00:00:00~2036/12/31 23:59:59 の値を指定できます。

なお、案件の発生日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式で指定しても、[案件参照] 画面、[案件編集] 画面、およびメイン画面の案件プレビューでは、「YYYY/MM/DD hh:mm」の形式で表示されます。ただし、案件を CSV ファイルに出力すると、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式となります。

-startdate 開始日時

案件の開始日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」または「YYYY/MM/DD hh:mm」形式で指定します。開始日時には 1970/01/02 00:00:00~2036/12/31 23:59:59 の値を指定できます。

なお、案件の開始日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式で指定しても、[案件参照] 画面、[案件編集] 画面、およびメイン画面の案件プレビューでは、「YYYY/MM/DD hh:mm」の形式で表示されます。ただし、案件を CSV ファイルに出力すると、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式となります。

-deadline 作業期限

案件の作業期限を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」または「YYYY/MM/DD hh:mm」形式で指定します。作業期限には 1970/01/02 00:00:00~2036/12/31 23:59:59 の値を指定できます。-deadline に値を指定しなかった場合は、案件の自動入力機能が有効になっていても、作業期限は更新されません。

なお、案件の作業期限を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式で指定しても、[案件参照] 画面、[案件編集] 画面、およびメイン画面の案件プレビューでは、「YYYY/MM/DD hh:mm」の形式で表示されます。ただし、案件を CSV ファイルに出力すると、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式となります。

-jp1 プロダクト名

JP1 のプロダクト名を 1,024 バイト以内の文字列で指定します。JP1 プロダクト名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-jobnet ジョブネット名

ジョブネットの名称を 1,024 バイト以内の文字列で指定します。ジョブネット名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-job ジョブ名

ジョブの名称を 1,024 バイト以内の文字列で指定します。ジョブ名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-snmp SNMP ソース

SNMP ソース名を 1,024 バイト以内の文字列で指定します。SNMP ソースには、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-node 監視ノード名

監視ノード名を 255 バイト以内の文字列で指定します。監視ノード名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-alarm アラーム名

アラーム名を 255 バイト以内の文字列で指定します。アラーム名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-utextn 拡張テキストデータ n (n : 1~20)

ユーザーがカスタマイズした文字列型の項目を、「" (ダブルクォーテーション)」で囲んで 20 個まで指定します。指定できる文字数は、 n の値によって次のように変わります。

- n の値が 1~5 の場合：4,096 バイト以下の文字列で指定します。
- n の値が 6~15 の場合：2,048 バイト以下の文字列で指定します。
- n の値が 16~20 の場合：512 バイト以下の文字列で指定します。

拡張テキストデータには、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列を指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-utimen 拡張時刻データ n (n : 1~5)

ユーザーがカスタマイズした DATE 型の項目を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」または「YYYY/MM/DD hh:mm」形式で 5 個まで指定します。拡張時刻データには 1970/01/02 00:00:00~2036/12/31 23:59:59 の値を指定できます。

なお、カスタマイズした DATE 型の項目を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式で指定しても、[案件参照] 画面、[案件編集] 画面、およびメイン画面の案件プレビューでは、「YYYY/MM/DD hh:mm」の形式で表示されます。ただし、案件を CSV ファイルに出力すると、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式となります。

-ucoden 拡張コードデータ n (n : 1~5)

ユーザーがカスタマイズしたコード型の項目を、5 個まで指定します。拡張コードデータを使用する場合は、必ずコードマッピングファイルを作成して定義します。作成したコードマッピングファイルは -m オプションで指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-uintn 拡張数値データ n (n : 1~5)

ユーザーがカスタマイズした数値型の項目を、0~2,147,483,647 の半角数字 (整数) で 5 個まで指定します。

-uurinfon ユーザー/ロール種別 n ユーザー/ロール ID n (n : 1~5)

ユーザーがカスタマイズしたユーザー/ロール型項目を、5 個まで指定します。ユーザー/ロール種別として、「USER」または「ROLE」のどちらかを指定します。大文字、小文字は区別されません。ユーザー/ロール ID として、ユーザー/ロール管理に登録されている ID を、64 バイト以下の半角英数字と「_ (アンダーバー)」で指定します。

なお、案件の登録先のプロセスワークボードが案件ごとに参照権限を設定している場合、拡張ユーザー情報 01~05 (uurinfo1~5) のうちどれか一つを、案件の参照権限を設定する項目として使用します。この場合、該当する拡張ユーザー情報 n (uurinfo n) のユーザー/ロール種別 n およびユーザー/ロール ID n に、案件の参照権限所有者を指定してください。

-m コードマッピングファイル名

ユーザーが定義したコードマッピングファイルを使用する場合、コードマッピングファイル名を 255 バイト以下の文字列で指定します。ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf)」を参照してください。

-f

案件がほかのユーザーによって編集中の状態でも編集する場合に指定します。

編集者に指定したユーザーがプロセスワークボード管理ロールに属している場合、または編集者に指定したユーザーがプロセスワークボード管理者である場合は、このオプションを指定すると、編集中の案件を編集できます。

-mail

メール通知機能を使用する場合に指定します。

メール通知の実行結果は、ログファイル (jssmailnotification_info 数字.log) を参照することで確認できます。数字にはログファイルの面数が入ります。詳細については、「13. 定義ファイル」の「ユーザーログ定義ファイル (jplmailnotification.conf)」を参照してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

案件の自動入力機能について

jssitemedit コマンドでは、案件の自動入力機能が有効な場合に、優先度と作業期限を自動で更新できます。

優先度は、次の三つの条件のどれかを満たす場合に自動で更新されます。

- jssitemedit コマンド実行時に-s オプションを指定している
- jssitemedit コマンド実行時に-ipt オプションを指定している
- jssitemedit コマンド実行時に-s オプションおよび-ipt オプションを指定している

ただし、-pr オプションを指定して値を指定していない場合は、以上の条件を満たしていても、優先度の更新は行われません。

作業期限は、次の二つの条件のどちらかを満たす場合に自動で更新されます。

- jssitemedit コマンド実行時に-pr オプションと値を指定し、-deadline オプションを指定していない場合

- 案件の自動入力機能によって優先度が更新される条件を満たし、かつ jssitemedit コマンド実行時に -deadline オプションを指定していない

ただし、-deadline オプションを指定して値を指定していない場合、案件の自動入力機能が有効でも、作業期限は更新されません。

作業期限は、案件登録日時に各優先度の作業時間を足した時間です。

実行時の前提条件

- JP1/Service Support - DB Server サービスを必ず起動してください。クラスタ構成時は、JP1/Service Support - DB Server サービスと JP1/Service Support - DB Cluster Service サービスを必ず起動してください。ほかのサービスは任意です。
- 複数の jssitemedit を同時に実行しないでください。同時に実行すると、コマンドの実行に失敗するおそれがあります。
- jssitemedit コマンドの実行中に、jssitemedit コマンド以外の JP1/Service Support のコマンドを同時に実行しないでください。同時に実行すると、コマンドの実行に失敗するおそれがあります。
- jssitemedit コマンドの実行時に、入力した文字列がコマンドプロンプトで認識できる文字列の長さを超えた場合、案件を登録できません。それぞれの引数の指定値が正しくても、コマンドを実行できません。認識できる文字列の長さを超えないように注意して入力してください。
- jssitemedit コマンドの実行時に、コマンドプロンプトで認識できない文字列を入力した場合、案件を編集できません。コマンドプロンプトで認識できない文字列を入力しないように注意してください。例えば” △(ブランク)” を含む文字列は「" (ダブルクォーテーション)」で囲う必要があります。
- 拡張コードデータを使用する場合は、必ずマッピングファイルを作成してください。
- コマンドプロンプトの特殊文字は入力時にエスケープする必要があります。例えば、「" (ダブルクォーテーション)」で囲った引数の内部に、「" (ダブルクォーテーション)」を使用する場合は、「¥”」と指定する必要があります。

注意事項

- jssitemedit コマンドの実行時に指定するオプションは、画面に表示される項目だけを指定してください。オプションで指定した項目はすべて案件管理 DB に登録されますが、画面に表示されない項目は確認できません。
- jssitemedit コマンドの実行中に処理を中止した場合、データは編集されません。
- jssitemedit コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、データの登録に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jssitemedit コマンドで案件を編集した場合、JP1 イベントによるステータス変更の通知は行われません。
- jssitemedit コマンドの実行結果は、ログファイルに出力して確認できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「ユーザーログ定義ファイル (jplitemedit.conf)」を参照してください。

- `jssitemedit` コマンドでは、次の操作について、内容が正しいかどうかのチェックが行われません。コマンド実行者が正しい値を設定するか、案件編集後にプロセスワークボードなどで定義を修正してください。
 - 案件のステータスをクローズにする場合、案件をクローズするために必須の項目に値が設定されていなくても、案件が更新されます。
 - 案件のステータスを指定する場合、指定したプロセスワークボードで使用されていないステータスを指定しても、案件が更新されます。
 - 案件のステータスを指定する場合、遷移先のステータスを制限する機能で制限されたステータスを指定しても、案件が更新されます。
 - コードマッピングファイルを指定する場合、コードマッピングファイルによって変換されたコードが案件フォームファイルで定義されているコードと一致していなくても、案件が更新されます。
 - 案件の担当者を指定する場合、編集後の案件を処理する権限を持たない担当者を指定しても、案件が更新されます。
- `-m` オプションに指定した文字列が全角文字を含む場合、全角文字は2バイトに換算されます。そのほかのオプションで全角文字が指定できる場合、全角文字は3バイトまたは4バイトに換算されます。
- 案件の更新先のプロセスワークボードが案件ごとに参照権限を設定している場合、`-uurinfor` オプションに案件の参照権限所有者を指定しないで案件を更新すると、プロセスワークボード管理者以外のユーザーは、この案件を参照できなくなります。プロセスワークボード管理者以外のユーザーが案件を参照できなくなった場合、プロセスワークボード管理者は次に示すどちらかの方法で、案件ごとに参照権限を設定する必要があります。
 - `-uurinfor` オプションに案件の参照権限所有者を指定して、`jssitemedit` コマンドを再度実行する。
 - [案件編集] 画面で案件の参照権限所有者を設定する。

使用例

プロセスワークボード ID が「honsyasystem」の案件のうち、プロセスワークボード内通し番号が「000001」の案件のステータスを、「クローズ」に変更する場合の指定例を次に示します。

```
jssitemedit -b honsyasystem -pi 000001 -r user001 -cht USER -ch jp1admin -st クローズ
```

jssitementry (案件登録)

機能

案件管理 DB に新しく案件データを登録します。登録した案件の「ステータス」には、「受付」が自動的に設定されます。

案件データのうち、指定を省略した情報は案件管理 DB には登録されません。登録した案件データを参照した場合、指定を省略した情報は空白で表示されます。

形式

```
jssitementry -b プロセスワークボードID
-t タイトル
-r 登録者ID
-cht 担当者種別
-ch 担当者ID
[-s 重大度]
[-ipt 影響度]
[-pr 優先度]
[-itmc 案件種別]
[-isuc 問題分野]
[-cus 顧客名]
[-reqp 問い合わせ者]
[-ins 影響業務]
[-det 概要]
[-jp1 プロダクト名]
[-jobnet ジョブネット名]
[-job ジョブ名]
[-snmp SNMPソース]
[-node 監視ノード名]
[-alarm アラーム名]
[-url 関連情報 URL文字列 | -urlfile 関連情報定義ファイル]
[-evt JP1/IM - Managerホスト名 イベントDB内通し番号]
[-aim JP1/NETM/AIMサーバ名, JP1/UCMDBサーバ名, または資産管理サーバ名]
-cit 機器種別
-ci サーバ名1 [サーバ名2 ...]
[-linkitem 案件ID1 [案件ID2 ...]]
[-acdate 発生日時]
[-stdate 開始日時]
[-deadline 作業期限]
[-utextn 拡張テキストデータn]
[-utimen 拡張時刻データn]
[-ucoden 拡張コードデータn]
[-uintn 拡張数値データn]
[-uurinfor ユーザー/ロール種別n ユーザー/ロールIDn]
[-ulinkn 種別 リンク情報詳細 | -ulinkfilen 関連情報定義ファイル]
[-m コードマッピングファイル名]
[-mail]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-b プロセスワークボード ID

案件を登録するプロセスワークボードのプロセスワークボード ID を、64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-t タイトル

案件のタイトルを 512 バイト以内の文字列で指定します。案件のタイトルには、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-r 登録者 ID

案件の登録者となるユーザーの ID を、64 バイト以下の半角英数字で指定します。

次の場合はエラーになります。

- 指定した ID のユーザーが存在しない場合
- 指定した ID のユーザーが、登録先プロセスワークボードで案件の登録権限を持っていない場合

-cht 担当者種別

案件の担当者の種別として、「USER」または「ROLE」のどちらかを指定します。大文字、小文字は区別されません。

-ch 担当者 ID

案件の担当者となるユーザーの ID、またはロールのロール ID を 64 バイト以下の半角英数字と「_ (アンダーバー)」で指定します。

-s 重大度

案件に設定する重大度を指定します。指定できる値を次の表に示します。大文字、小文字は区別されません。

重大度に設定できる値	意味
Emergency	緊急
Alert	警戒
Critical	致命的
Error	エラー
Warning	警告
Notice	通知

重大度に設定できる値	意味
Information	情報
Debug	デバッグ

-ipt 影響度

案件に設定する影響度を指定します。指定できる値を次の表に示します。大文字、小文字は区別されません。

影響度に設定できる値	意味
S	小
M	中
B	大

-pr 優先度

案件に設定する優先度を指定します。指定できる値を次の表に示します。大文字、小文字は区別されません。

優先度に設定できる値	意味
N	標準
M	至急
H	大至急

プロセスワークボードで案件自動入力設定が有効な場合は、-pr オプションを省略すると、コマンド用の案件自動入力プロパティファイルに指定されている値が設定されます。コマンド用の案件自動入力プロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件自動入力プロパティファイル \(jplimss_itementry_default.conf\)](#)」を参照してください。

-itmc 案件種別

案件種別を指定します。指定できる値を次の表に示します。大文字、小文字は区別されません。

案件種別に設定できる値	意味
QUE	問い合わせ
FAL	障害
CR	顧客要望

-isuc 問題分野

案件の問題分野を指定します。指定できる値を次の表に示します。大文字、小文字は区別されません。

問題分野に設定できる値	意味
APP	アプリケーション

問題分野に設定できる値	意味
MID	ミドルウェア
OS	OS
HRD	ハードウェア
NET	ネットワーク
PRO	プロセス

-cus 顧客名

案件に設定する顧客名を 1,024 バイト以内の文字列で指定します。顧客名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-reqp 問い合わせ者

案件に設定する問い合わせ者を 255 バイト以内の文字列で指定します。問い合わせ者には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-ins 影響業務

案件に設定する影響業務を 255 バイト以内の文字列で指定します。影響業務には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

なお、文字列置換設定ファイルを設定することで、任意の文字列を改行に置換して登録することができます。文字列置換設定ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「文字列置換設定ファイル (jplimss_replace_string_setting.conf)」を参照してください。

-det 概要

案件の概要を 2,048 バイト以内の文字列で指定します。概要には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

なお、文字列置換設定ファイルを設定することで、任意の文字列を改行に置換して登録することができます。文字列置換設定ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「文字列置換設定ファイル (jplimss_replace_string_setting.conf)」を参照してください。

-jp1 プロダクト名

JP1 のプロダクト名を 1,024 バイト以内の文字列で指定します。JP1 プロダクト名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-jobnet ジョブネット名

ジョブネットの名称を 1,024 バイト以内の文字列で指定します。ジョブネット名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-job ジョブ名

ジョブの名称を 1,024 バイト以内の文字列で指定します。ジョブ名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-snmp SNMP ソース

SNMP ソース名を 1,024 バイト以内の文字列で指定します。SNMP ソースには、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-node 監視ノード名

監視ノード名を 255 バイト以内の文字列で指定します。監視ノード名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-alarm アラーム名

アラーム名を 255 バイト以内の文字列で指定します。アラーム名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-url 関連情報 URL 文字列

関連情報として、関連情報の表示名と URL 文字列を指定します。関連情報の表示名は 255 バイト以内の文字列で指定します。URL 文字列は 2,048 バイト以内の文字列で指定します。関連情報の表示名と URL 文字列には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-evt JP1/IM - Manager ホスト名 イベント DB 内通し番号

案件と関連のある JP1 イベントの JP1/IM - Manager のホスト名とイベント DB 内通し番号を、0~2,147,483,647 の半角数字 (整数) で指定します。

-urlfile 関連情報定義ファイル

「関連情報 (JIMSD_FORM_LINKURL)」に対して複数の関連情報を登録したい場合に指定します。関連情報定義ファイルの指定方法について、次の表に示します。

関連情報定義ファイルの指定方法	相対パス, 絶対パスのどちらも指定可能
パスとして使用できる文字列	ファイル名・ディレクトリ名として指定可能な文字列を指定する。
パスとして指定できる文字列長	255 バイト以下とする。 半角文字を 1 バイト, 全角文字を 2 バイトとして換算する。相対パスを指定した場合, 絶対パスに変換した文字列で文字列長をチェックする。

関連情報定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[関連情報定義ファイル](#)」を参照してください。

-aim JP1/NETM/AIM サーバ名, JP1/UCMDB サーバ名, または資産管理サーバ名

案件と関連のある機器情報のリンクを設定するための JP1/NETM/AIM サーバ名, または JP1/UCMDB サーバ名, または資産管理サーバ (JP1/ITDM2 - Asset Console), およびポート番号を 255 バイト以内

の文字列で指定します。サーバ名には半角英数字と「.」「:」「-」を使用できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-cit 機器種別

案件と関連のある機器情報の種別を指定します。-aim を指定した場合は必ず指定してください。大文字、小文字は区別されません。

機器種別に設定できる値	意味
HOST	ホスト (JP1/NETM/AIM または JP1/ITDM2 - Asset Console)
IP	IP アドレス (JP1/NETM/AIM または JP1/ITDM2 - Asset Console)
ASSETID	資産 ID (JP1/NETM/AIM または JP1/ITDM2 - Asset Console)
UCMDBHOST	ホスト (JP1/UCMDB)
UCMDBIP	IP アドレス (JP1/UCMDB)
UCMDBID	JP1/UCMDB ID

-ci サーバ名 1 [サーバ名 2 ...]

案件と関連のある機器情報を持つサーバの名称を、それぞれ 255 バイト以下の文字列で 10 個まで指定します。指定するサーバ名は、機器情報のリンク先情報です。-ci オプションの引数は-cit のあとに必ず指定してください。指定するサーバ名は、直前に指定した-cit オプションの引数によって異なります (IP アドレス、ミドルウェアまたは資産 ID)。サーバ名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-linkitem 案件 ID1 [案件 ID2 ...]

関連する案件へリンクさせるため、関連する案件の ID を、それぞれ 128 バイト以下の文字列で 10 個まで指定します。

-acdate 発生日時

案件の発生日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」または「YYYY/MM/DD hh:mm」形式で指定します。発生日時には 1970/01/02 00:00:00~2036/12/31 23:59:59 の値を指定できます。プロセスワークボードの案件自動入力設定が有効な場合は、-acdate オプションを省略すると、コマンド実行時刻が設定されます。案件自動入力設定が無効な場合に-acdate オプションを省略すると、発生日時は設定されません。発生日時を完全に省略するには、-acdate オプションを指定して引数を省略します。

なお、案件の発生日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式で指定しても、[案件参照] 画面、[案件編集] 画面、およびメイン画面の案件プレビューでは、「YYYY/MM/DD hh:mm」の形式で表示されます。ただし、案件を CSV ファイルに出力すると、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式となります。

-stdate 開始日時

案件の開始日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」または「YYYY/MM/DD hh:mm」形式で指定します。開始日時には 1970/01/02 00:00:00~2036/12/31 23:59:59 の値を指定できます。プロセスワークボードの案件自動入力設定が有効な場合は、-stdate オプションを省略すると、コマンド実行時刻が設定されます。案件自動入力設定が無効な場合に -stdate オプションを省略すると、開始日時は設定されません。開始日時を完全に省略するには、-stdate オプションを指定して引数を省略します。

なお、案件の開始日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式で指定しても、[案件参照] 画面、[案件編集] 画面、およびメイン画面の案件プレビューでは、「YYYY/MM/DD hh:mm」の形式で表示されます。ただし、案件を CSV ファイルに出力すると、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式となります。

-deadline 作業期限

案件の作業期限を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」または「YYYY/MM/DD hh:mm」形式で指定します。作業期限には 1970/01/02 00:00:00~2036/12/31 23:59:59 の値を指定できます。プロセスワークボードの案件自動入力設定が有効な場合は、-deadline オプションを省略すると、コマンド実行時刻に、設定時間が加算された値が設定されます。加算される設定時間は優先度によって異なります。なお、案件自動入力設定で、案件自動入力プロパティファイルを使用するかどうかによって、加算される設定時間が次のように異なります。

- 案件自動入力プロパティファイルを使用する設定の場合
案件自動入力プロパティファイル (jplimss_itementry_default.conf) に設定された時間が加算されます。
- 案件自動入力プロパティファイルを使用しない設定の場合
[プロセスワークボード作成] 画面、または [プロセスワークボード編集] 画面で設定された時間が加算されます。

案件自動入力設定が無効な場合に -deadline オプションを省略すると、作業期限は設定されません。作業期限を完全に省略するには、-deadline オプションを指定して引数を省略します。

なお、案件の作業期限を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式で指定しても、[案件参照] 画面、[案件編集] 画面、およびメイン画面の案件プレビューでは、「YYYY/MM/DD hh:mm」の形式で表示されます。ただし、案件を CSV ファイルに出力すると、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式となります。

-utextn 拡張テキストデータ n (n : 1~20)

ユーザーがカスタマイズした文字列型の項目を、「" (ダブルクォーテーション)」で囲んで 20 個まで指定します。指定できる文字数は、 n の値によって次のように変わります。

- n の値が 1~5 の場合：4,096 バイト以下の文字列で指定します。
- n の値が 6~15 の場合：2,048 バイト以下の文字列で指定します。
- n の値が 16~20 の場合：512 バイト以下の文字列で指定します。

拡張テキストデータには、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列を指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-utimen 拡張時刻データ n (n : 1~5)

ユーザーがカスタマイズした DATE 型の項目を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」または「YYYY/MM/DD hh:mm」形式で 5 個まで指定します。拡張時刻データには 1970/01/02 00:00:00~2036/12/31 23:59:59 の値を指定できます。

なお、カスタマイズした DATE 型の項目を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式で指定しても、[案件参照] 画面、[案件編集] 画面、およびメイン画面の案件プレビューでは、「YYYY/MM/DD hh:mm」の形式で表示されます。ただし、案件を CSV ファイルに出力すると、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式となります。

-ucoden 拡張コードデータ n (n : 1~5)

ユーザーがカスタマイズしたコード型の項目を、5 個まで指定します。拡張コードデータを使用する場合は、必ずコードマッピングファイルを作成して定義します。作成したコードマッピングファイルは -m オプションで指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「コードマッピングファイル (jplimss_itementry_codemap.conf)」を参照してください。

-uintn 拡張数値データ n (n : 1~5)

ユーザーがカスタマイズした数値型の項目を、0~2,147,483,647 の半角数字（整数）で 5 個まで指定します。

-uurinfon ユーザー/ロール種別 n ユーザー/ロール ID n (n : 1~5)

ユーザーがカスタマイズしたユーザー/ロール型項目を、5 個まで指定します。ユーザー/ロール種別として、「USER」または「ROLE」のどちらかを指定します。大文字、小文字は区別されません。ユーザー/ロール ID として、ユーザー/ロール管理に登録されている ID を、64 バイト以下の半角英数字と「_ (アンダーバー)」で指定します。

なお、案件の登録先のプロセスワークボードが案件ごとに参照権限を設定している場合、拡張ユーザー情報 01~05 (uurinfo1~5) のうちどれか一つを、案件の参照権限を設定する項目として使用します。この場合、該当する拡張ユーザー情報 n (uurinfon) のユーザー/ロール種別 n およびユーザー/ロール ID n に、案件の参照権限所有者を指定してください。

-ulinkn 種別 リンク情報詳細 (n : 1~5)

案件と関連のあるリンク情報の詳細を、5 個まで指定します。指定するリンク情報の詳細は、種別によって異なります。

- 接続先サーバ名：JP1/NETM/AIM サーバ名、JP1/UCMDB サーバ名、または資産管理サーバ (JP1/ITDM2 - Asset Console)、およびポート番号を 255 バイト以下の文字列で指定します。
- サーバ名：255 バイト以下の文字列で 10 個まで指定できます。
- 案件 ID：255 バイト以下の文字列で 10 個まで指定できます。

種別が「aim」の場合

接続先サーバ名 -lcitn CI種別 -lcin サーバ名1 [サーバ名2 ...]

- 接続先サーバ名には、案件と関連のある CI 情報のリンク設定を行うための JP1/NETM/AIM サーバ、JP1/UCMDB サーバ、または資産管理サーバ (JP1/ITDM2 - Asset Console) の名称を指定します。
- n は `ulink n` の n と一致させる必要があります。
- CI 種別には、コードマッピングファイルで定義された値を指定します。大文字・小文字は区別されません。
- サーバ名には、案件と関連のある CI 情報を持つサーバの名称を、10 個まで指定します。指定するサーバ名は、直前に指定した `-cit` オプションの引数によって異なります (IP アドレス、ミドルウェアまたは資産 ID)。サーバ名には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

種別が「linkitem」の場合

案件ID1 [案件ID2 ...]

関連する案件の ID を、それぞれ 128 バイト以下の文字列で 10 個まで指定します。

種別が「url」の場合

表示名 URL文字列

関連情報の表示名と URL 文字列を指定します。関連情報の表示名は 255 バイト以内の文字列で指定します。URL 文字列は 2,048 バイト以内の文字列で指定します。関連情報の表示名と URL 文字列には、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できますが、「-」で始まる文字列は指定できません。

-m コードマッピングファイル名

ユーザーが定義したコードマッピングファイルを使用する場合、コードマッピングファイル名を 255 バイト以下の文字列で指定します。ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[コードマッピングファイル \(jplimss_itementry_codemap.conf\)](#)」を参照してください。

-ulinkfile n 関連情報定義ファイル (n : 1~5)

「拡張リンク (JIMSD_FORM_REFINFO01~JIMSD_FORM_REFINFO05)」に対して複数の関連情報を登録したい場合に指定します。関連情報定義ファイルの指定方法について、次の表に示します。

関連情報定義ファイルの指定方法	相対パス, 絶対パスのどちらも指定可能
パスとして使用できる文字列	ファイル名・ディレクトリ名として指定可能な文字列を指定する。
パスとして指定できる文字列長	255 バイト以下とする。 半角文字を 1 バイト, 全角文字を 2 バイトとして換算する。相対パスを指定した場合, 絶対パスに変換した文字列で文字列長をチェックする。

関連情報定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[関連情報定義ファイル](#)」を参照してください。

-mail

メール通知機能を使用する場合に指定します。

メール通知の実行結果は、ログファイル (jssmailnotification_info **数字**.log) を参照することで確認できます。**数字**にはログファイルの面数が入ります。詳細については、「13. 定義ファイル」の「ユーザーログ定義ファイル (jplmailnotification.conf)」を参照してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- このコマンドは五つまで同時に実行できます。六つ以上同時に実行すると、コマンドの実行に失敗するおそれがあります。
- jssitementry コマンドの実行中に jssitementry コマンド以外の JP1/Service Support のコマンドを同時実行すると、jssitementry コマンドの実行に失敗するおそれがあるため、同時実行しないでください。
- jssitementry コマンドの実行時に、入力した文字列がコマンドプロンプトで認識できる文字列の長さを超えた場合、案件を登録できません。認識できる文字列の長さを超えないように注意して入力してください。
- jssitementry コマンドの実行時に指定するオプションは、画面に表示される項目だけを指定してください。オプションで指定した項目はすべて案件管理 DB に登録されますが、画面に表示されない項目は確認できません。
- 拡張コードデータを使用する場合は、必ずマッピングファイルを作成してください。
- コマンドプロンプトの特殊文字は入力時にエスケープする必要があります。例えば、「" (ダブルクォーテーション)」で囲った引数の内部に、「" (ダブルクォーテーション)」を使用する場合は、「¥」と指定する必要があります。

ただし、JP1/IM - Manager と連携する場合、JP1/IM - Manager のイベント引き継ぎ情報の変換機能を使用することで、コマンドプロンプトの特殊文字は自動でエスケープすることもできます。JP1/IM - Manager のイベント引き継ぎ情報の変換機能の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」を参照してください。

注意事項

- jssitementry コマンドの実行中に処理を中止した場合、データは登録されません。
- jssitementry コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、データの登録に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実

行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。

- `jssitementry` コマンドの実行結果をログファイルに出力して確認できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「[ユーザーログ定義ファイル \(jplitementry.conf\)](#)」を参照してください。
- `jssitementry` コマンドからは、登録時に必ず入力する項目またはクローズ時に必ず入力する項目が未入力でも、案件を登録できます。
- `-m` オプションに指定した文字列が全角文字を含む場合、全角文字は2バイトに換算されます。そのほかのオプションで全角文字が指定できる場合、全角文字は3バイトまたは4バイトに換算されます。
- タブは制御文字に含まれるので、制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) を指定できない引数には指定しないでください。また、JP1/IM - Manager と連携する場合、JP1/IM - Manager のイベント引き継ぎ情報の変換機能を使用すると、タブをスペースなどに変換して案件を登録することができます。JP1/IM - Manager のイベント引き継ぎ情報の変換機能の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」を参照してください。
- 文字列置換設定ファイルで、案件の `textarea` 型の項目に含まれる任意の文字列を改行文字に置換する設定をしている場合、案件フォームの項目 ID が「JIMSD_FORM_USERTEXT01~JIMSD_FORM_USERTEXT20」の値に、置換文字列を挿入しないでください。置換文字列を挿入して `jssitementry` コマンドを実行した場合、動作は保障されません。文字列置換設定ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[文字列置換設定ファイル \(jplimss_replace_string_setting.conf\)](#)」を参照してください。
- 案件の登録先のプロセスワークボードが案件ごとに参照権限を設定している場合、`-uurinfor` オプションに案件の参照権限所有者を指定しないで案件を登録すると、プロセスワークボード管理者以外のユーザーは、この案件を参照できなくなります。プロセスワークボード管理者以外のユーザーが案件を参照できなくなった場合、プロセスワークボード管理者は次に示すどちらかの方法で、案件ごとに参照権限を設定する必要があります。
 - `-uurinfor` オプションに案件の参照権限所有者を指定して、`jssitemedit` コマンドを実行する。
`jssitemedit` コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssitemedit \(案件編集\)](#)」を参照のこと。
 - [案件編集] 画面で案件の参照権限所有者を設定する。
- `jssitementry` コマンドで設定する案件の担当者 ID には、案件登録先に指定したプロセスワークボードの編集、および各ステータスの権限を保持していなくても設定できます。その場合には、該当する案件を操作できるユーザーでログインし適切な担当者に変更してください。

使用例

「サーバアクセス過多」というタイトルの案件情報を登録する場合の指定例を次に示します。

```
jssitementry -b honsyasystem -t サーバアクセス過多 -r user0001 -cht user -ch user0002 -s Warning -ipt S -pr N -itmc FAL -isuc APP -cus ABC株式会社 -reqp 山田花子 -ins 影響業務 -jpl /HITACHI/JP1/CentralConsole -jobnet net1 -job KEISAN-1 -snmp XXXX -node 監視ノード -alarm alarm01 -url 関連情報 http://www.xxxx.html -aim server01 -cit HOST -ci server10 server11 -m jplimss_itementry_codemap.conf
```

jssitementrybymail (メールによる案件登録)

機能

特定のメールアドレスに対してユーザーが送信したメールを取得し、メールの主題、本文、メッセージ ID などの情報を基に、案件として登録します。

このコマンドは、JP1/Service Support - Task Service サービスからも自動実行できます。

このコマンドを使用するには、事前にプロパティファイルに必要な情報を設定する必要があります。プロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[メール定義ファイル \(jplimss_mail_setting.conf\)](#)」を参照してください。

形式

```
jssitementrybymail -sys [-mail]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-sys

メールの情報を案件として登録する場合に指定します。この引数は必ず指定してください。

-mail

メール通知機能を使用する場合に指定します。

メール通知の実行結果は、ログファイル (jssmailnotification_info 数字.log) を参照することで確認できます。数字にはログファイルの面数が入ります。詳細については、「13. 定義ファイル」の「[ユーザーログ定義ファイル \(jplmailnotification.conf\)](#)」を参照してください。

戻り値

戻り値	意味
0	取得したすべてのメールの案件登録に成功
1	取得したすべてのメールの案件登録に成功し、メールに添付されたファイルの保存に失敗したファイルがある
2	取得したすべてのメールのうち、幾つかのメールで案件登録に失敗

戻り値	意味
3	取得したすべてのメールのうち、幾つかのメールで案件登録に失敗し、メールに添付されたファイルの保存に失敗したファイルがある
4	取得したすべてのメールの案件登録に失敗
5	取得したすべてのメールの案件登録に失敗し、メールに添付されたファイルの保存に失敗したファイルがある
6	メールの取得処理以前の処理でエラーが発生した
7	メールサーバにメールが登録されていない状態でコマンドを実行した

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssitementrybyemail コマンドは、二つ以上同時に実行できません。
- メールサーバに大量のメールがある状態で jssitementrybyemail コマンドを実行すると、マシンに負荷が掛かります。負荷を低くするために、jssitementrybyemail コマンドの実行間隔を短く設定してください。

注意事項

- 次のどれかに該当する場合は、jssitementrybyemail コマンドを実行してもメールは取得されません。
 - ユーザーに Administrator 権限がない場合
 - コマンド実行時に -sys オプションが指定されていない場合
 - 関連するプロパティファイルの定義に誤りがある場合
 - メールサーバに接続できない場合
 - メール全体のサイズが 5 メガバイトを超える場合（メール全体のサイズには、タイトル、メール本文、メールヘッダー、および添付ファイルのサイズを含む）
- jssitementrybyemail コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、メールによる案件の登録に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- JP1/Service Support - Task Service サービスから jssitementrybyemail コマンドの実行中に、JP1/Service Support - Task Service サービスが停止すると、このコマンドも強制終了します。この場合、メールによる案件登録に失敗するおそれがあるため、JP1/Service Support - Task Service サービスを停止しないでください。
- jssitementrybyemail コマンドの実行結果をログファイルに出力して確認できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「[ユーザーログ定義ファイル \(jplitementrybyemail.conf\)](#)」を参照してください。

- メールに添付されているファイルの出力に失敗した場合、そのメールの添付ファイルの出力を中止します。また、メールに複数のファイルが添付されている場合、そのうちの一つでもファイルの出力に失敗したら、そのメールに添付されたすべてのファイルを出力しません。
- 次のどれかのエラーが発生した場合、案件が登録されているにもかかわらず KNAB26043-E が発生する場合があります。
 - KNAB24003-E
 - KNAB24104-E
 - KNAB26039-E

KNAB24003-E, KNAB24104-E, KNAB26039-E のどれかが発生した原因を取り除き、再度メールによる案件登録コマンドを実行すると、KNAB26036-E が発生する場合があります。これは以前のコマンド実行時に、すでに案件として登録されているため発生しますが、送信されたメールは案件として登録され、メールサーバから削除されるため問題ありません。

- jssitementrybymail コマンドでメールから案件を登録するには、pop3 プロトコルをサポートするメールサーバが必要です。

jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート)

機能

JP1/Service Support に登録されている案件情報および履歴情報を、CSV ファイルで出力します。また、案件に任意のファイルを添付している場合は、添付ファイルも併せて出力します。なお、コマンドの実行中に処理を中止すると、中止する直前までの案件情報を出力します。このコマンドには、jssitemlist (案件一覧出力) コマンドおよび jssitemhistory (案件履歴出力) コマンドの機能が含まれています。

形式

```
jssitemexportEx -o 出力先フォルダ名
                  {-ALL | -s -id システムID | -p -id プロセスワークボードID
                  [-pi プロセスワークボード内通し番号]}
                  {-ct 開始年月日-終了年月日 | -et 開始年月日-終了年月日}
                  [-a]
                  [-f]
                  [-m CSVカラム名マッピングファイル名]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-o 出力先フォルダ名

出力先フォルダ名には、案件情報を出力するフォルダ名を 80 バイト以下で指定します。このとき、半角文字を 1 バイト、全角文字を 2 バイトとして換算します。フォルダ名は、絶対パスまたは相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 80 バイト以下になるように指定してください。また、指定したフォルダ名が存在しない場合は、指定したフォルダ名のフォルダを作成します。

指定した出力先フォルダには、次に示すファイルが出力されます。

- Item_PWB_プロセスワークボード ID.csv
案件情報を出力した CSV ファイル (案件情報 CSV ファイル) です。
プロセスワークボード単位に、履歴情報を含めた案件情報が出力されます。対象となる案件が 0 件の場合でも、ファイルが出力されます。なお、-s -id オプションでシステムを選択した場合でも、プロセスワークボード単位にファイルが出力されます。
- ItemRefInfo_PWB_プロセスワークボード ID.csv
関連情報を出力した CSV ファイル (関連情報 CSV ファイル) です。

プロセスワークボード単位に、関連情報が出力されます。対象となる案件が0件の場合でも、ファイルが出力されます。なお、-s -id オプションでシステムを選択した場合でも、プロセスワークボード単位にファイルが出力されます。

- 添付ファイル

案件に添付されているファイルです。

プロセスワークボードのプロセスワークボード内通し番号単位に出力されます。

添付ファイル名の先頭には、添付ファイル ID が付与されます。案件情報 CSV ファイルには、出力された添付ファイルの添付ファイル ID と添付ファイル名が出力されるため、添付ファイル ID を基に、添付ファイルを特定できます。なお、添付ファイルが出力されるプロセスワークボード内通し番号フォルダ名は、プロセスワークボード内通し番号が5けた未満の場合はゼロパディングされます。

案件情報 CSV ファイル、関連情報 CSV ファイル、および添付ファイルの出力先の例を、次に示します。

出力先フォルダ名	
system01	システムID
├ Item_PWB_pwb001.csv	案件情報CSVファイル
├ ItemRefInfo_PWB_pwb001.csv	関連情報CSVファイル
└ pwb001	プロセスワークボードID
└ 000001	プロセスワークボード内通し番号
├ 000001_添付ファイル01.txt	添付ファイル1
├ 000002_添付ファイル02.txt	添付ファイル2
└ 000003_添付ファイル03.txt	添付ファイル3
system02	システムID
├ Item_PWB_pwb002.csv	
└ ItemRefInfo_PWB_pwb002.csv	
⋮	
⋮	

-ALL

すべてのシステムを対象として、案件情報を出力する場合に指定します。この場合、マスターシステムも対象になります。

-s id システム ID

システムを選択して、案件情報を出力する場合に指定します。システム ID は、1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-p -id プロセスワークボード ID

プロセスワークボードを選択して、案件情報を出力する場合に指定します。プロセスワークボード ID は、1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-pi プロセスワークボード内通し番号

選択したプロセスワークボードから一つの案件を選択して、案件情報を出力する場合に指定します。プロセスワークボード内通し番号については、「[3.2.2\(1\) 案件一覧](#)」を参照してください。

-ct 開始年月日-終了年月日

特定の期間内に作成された案件情報を出力するために、作成日の範囲を YYYY/MM/DD 形式の文字列で指定します。開始年月日と終了年月日の間には、「-」を指定します。

開始年月日および終了年月日には、1970/01/01～2107/01/01 の値を指定できます。開始年月日には、終了年月日より前の値を指定してください。

開始年月日および終了年月日について、次に説明します。

開始年月日

この値で指定した日付以降に作成された案件情報を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、エラーとなります。

終了年月日

この値で指定した日付以前に作成された案件情報を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、エラーとなります。

例えば、「2013/04/01-2013/04/07」を指定した場合、案件の登録日時が「2013/04/01 00:00:00(.000)」から「2013/04/07 23:59:59(.999)」の範囲の案件が、出力の対象になります。

-et 開始年月日-終了年月日

特定の期間内に更新された案件情報を出力するために、更新日の範囲を YYYY/MM/DD 形式の文字列で指定します。開始年月日と終了年月日の間には、「-」を指定します。

開始年月日および終了年月日には、1970/01/01～2107/01/01 の値を指定できます。開始年月日には、終了年月日より前の値を指定してください。

開始年月日および終了年月日について、次に説明します。

開始年月日

この値で指定した日付以降に更新された案件情報を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、エラーとなります。

終了年月日

この値で指定した日付以前に更新された案件情報を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、エラーとなります。

例えば、「2013/04/01-2013/04/07」を指定した場合、案件の更新日時が「2013/04/01 00:00:00(.000)」から「2013/04/07 23:59:59(.999)」の範囲の案件が、出力の対象になります。

-a

すべてのステータスの案件情報を出力する場合に指定します。-a オプションを省略した場合は、ステータスが「クローズ」の案件情報が出力されます。

-f

ファイルを上書きする場合に指定します。出力先フォルダにファイルがないときは、ファイルが作成されます。

-m CSV カラム名マッピングファイル名

ユーザーが定義した CSV カラム名マッピングファイルを使用する場合、CSV カラム名マッピングファイル名を 255 バイト以下の文字列で指定します。このとき、半角文字を 1 バイト、全角文字を 2 バイトで換算します。CSV カラム名マッピングファイル名は、絶対パスまたは相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。CSV カラム名マッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「CSV カラム名マッピングファイル (jplimss_itemcsv_columnmap.conf)」を参照してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	不完全な CSV ファイルを出力した。
2	異常終了

案件情報 CSV ファイルの内容

案件情報 CSV ファイルには、次のような形式でデータが出力されます。

The diagram shows a CSV file structure with three sections:

- ヘッダー部 (Header):** A red-bordered box containing the text: `#"JP1/Service Support", "110000", "MS932", "ITEMEXPORTEX_ITEM"`
- ボディ部 (Body):** A blue-bordered box containing the text: `#"対象システムのID", "対象システムのシステム名", ...` followed by several rows of data: `"1", "1", "1", ...`, `"2", "1", "1", ...`, and a vertical ellipsis.
- フッター部 (Footer):** A green-bordered box containing the text: `#"Closed Item Number : 45"` and `#"Unclosed Item Number : 5"`

なお、案件情報 CSV ファイルに出力されるボディ部の 1 行目には、属性名が出力されます。

出力される内容について説明します。

ヘッダー部

出力順	項目の内容	出力する値
1	製品名	JP1/Service Support
2	出力されるファイルのバージョン	出力されるファイルのバージョンを 6 けたの文字列で表す
3	案件情報 CSV ファイルの文字コード	出力されるファイルの文字コード

出力順	項目の内容	出力する値
4	出力データの種別	ITEMEXPORTEX_ITEM

ボディ部

出力順	項目名※1	説明	案件フォームとの対応
1	対象システムのシステム ID	案件が登録されているシステムの ID	—
2	対象システムのシステム名	案件が登録されているシステムの名称	JIMSD_FORM_SYSTEM
3	プロセス名	案件が登録されているプロセスワークボードのプロセス表示名	JIMSD_FORM_PROCESS
4	プロセスワークボード ID	案件が登録されているプロセスワークボードの ID	JIMSD_FORM_ITEMID※2
5	プロセスワークボード内通し番号	案件のプロセスワークボード内通し番号	
6	バージョン番号	案件の履歴を表す番号	—
7	関連案件通し番号	案件の関連案件通し番号	JIMSD_FORM_PROCESSITEMID※2
8	エスカレーション番号	案件のエスカレーション回数を表す番号	
9	案件フォーム ID	案件が使用している案件フォームを表す ID	—
10	案件フォームのバージョン番号	案件が使用している案件フォームの履歴を表す番号	—
11	案件ステータス ID	案件のステータスを表す ID	—
12	案件ステータス名	案件のステータスの名称	JIMSD_FORM_ITEMSTATUSID
13	編集状態	jssitemexportEx コマンド実行時に該当する案件が編集中であるかを表す項目	—
14	データ種別	案件の状態を表す項目	—
15	エスカレーション元プロセスワークボード ID	エスカレーションされた案件の場合、エスカレーション元となったプロセスワークボードの ID	—
16	エスカレーション元関連案件通し番号	エスカレーションされた案件の場合、エスカレーション元となった案件の関連案件通し番号	—
17	エスカレーション元エスカレーション番号	エスカレーションされた案件の場合、エスカレーション元となった案件のエスカレーション番号	—
18	エスカレーション先関連案件通し番号	エスカレーションされた案件の場合、エスカレーション先の案件の関連案件通し番号	—

出力順	項目名※1	説明	案件フォームとの対応
19	エスカレーション先エスカレーション番号	エスカレーションされた案件の場合、エスカレーション先の案件のエスカレーション番号	—
20	エスカレーション先プロセスワークボード ID	エスカレーションされた案件の場合、エスカレーション先の案件が登録されているプロセスワークボードの ID	—
21	エスカレーション先システム ID	エスカレーションされた案件の場合、エスカレーション先の案件が登録されているシステムの ID	—
22	エスカレーション先システム名	エスカレーションされた案件の場合、エスカレーション先の案件が登録されているシステムの名称	—
23	エスカレーション先プロセス名	エスカレーションされた案件の場合、エスカレーション先の案件が登録されているプロセスワークボードのプロセス表示名	—
24	連動元イベント DB 内通し番号	自動登録された案件と関連する JP1 イベントのイベント DB 内通し番号	JIMSD_FORM_IMEVENTNO
25	JP1/IM - Manager のホスト名	自動登録された案件と関連する JP1 イベントの JP1/IM - Manager のホスト名	JIMSD_FORM_IMHOSTNAME
26	重大度	案件の重大度	JIMSD_FORM_SEVERITYCODE
27	影響度	案件の影響度	JIMSD_FORM_IMPACTCODE
28	優先度	案件の優先度	JIMSD_FORM_PRIORITYCODE
29	案件種別	案件の種別	JIMSD_FORM_ITEMCATEGORYCODE
30	問題分野	案件の問題分野	JIMSD_FORM_ISSUECATEGORYCODE
31	現象種別	案件の現象種別	JIMSD_FORM_PHENOMENONCODE
32	要因	案件の要因	JIMSD_FORM_CAUSECODE
33	結果	案件の結果	JIMSD_FORM_RESULTCODE
34	解決区分コード	案件の解決区分コード	JIMSD_FORM_SOLUTIONCODE
35	回避策種別	案件の回避策種別	JIMSD_FORM_AVOIDANCECODE
36	変更の規模	案件の変更規模	JIMSD_FORM_CHANGESCALECODE
37	リリースタイプ	案件のリリースタイプ	JIMSD_FORM_RELEASETYPECODE

出力順	項目名※1	説明	案件フォームとの対応
38	発生日時	案件の発生日時	JIMSD_FORM_ACCRUALDATE
39	作業期限	案件の作業期限	JIMSD_FORM_DEADLINE
40	開始日時	案件の開始日時	JIMSD_FORM_STARTDATE
41	完了日時	案件の完了日時	JIMSD_FORM_COMPDATE
42	タイトル	案件のタイトル	JIMSD_FORM_TITLE
43	概要	案件の概要	JIMSD_FORM_SUMMARY
44	影響業務	案件が影響する業務	JIMSD_FORM_EFFECTSERVICE
45	重大度の理由	案件の重大度の設定理由	JIMSD_FORM_SEVERITYREASON
46	影響度の理由	案件の影響度の設定理由	JIMSD_FORM_IMPACTREASON
47	優先度の理由	案件の優先度の設定理由	JIMSD_FORM_PRIORITYREASON
48	回避策	案件の回避策	JIMSD_FORM_AVOIDANCE
49	作業状況	案件の作業状況	JIMSD_FORM_SITUATION
50	根本原因	案件の根本原因	JIMSD_FORM_ROOTCAUSE
51	解決策	案件の解決策	JIMSD_FORM_SOLUTION
52	問題個所とバージョン	案件の問題個所とバージョン	JIMSD_FORM_FAILURELOCATION
53	スケジュール, 手順概要	案件のスケジュール, 手順概要	JIMSD_FORM_SCHEDULE
54	変更の影響評価	変更の影響評価	JIMSD_FORM_IMPACTEVAL
55	審議結果	案件の審議結果	JIMSD_FORM_DELIBERATIONRESULT
56	再発防止のための考察	再発防止策のための考察	JIMSD_FORM_MEASURES
57	フリー記入欄	フリー記入欄	JIMSD_FORM_FREEDESCRIPTION
58	プロダクト名	JP1 イベントを発行したプロダクト名	JIMSD_FORM_JP1PRODUCTNAME
59	ジョブネット名	JP1/AJS のジョブネット名	JIMSD_FORM_JP1JOBNETNAME
60	ジョブ名	JP1/AJS のジョブ名	JIMSD_FORM_JP1JOBNAME
61	SNMP ソース	JP1/Base の SNMP トラップ変換機能で発行された JP1 イベントの SNMP トラップの発生ソース名	JIMSD_FORM_JP1SNMPSRC
62	監視ノード名	JP1/IM - Manager の統合スコープ機能で定義した監視ノード名	JIMSD_FORM_JP1NODENAME
63	アラーム名	JP1/PFM Web Console が発行した JP1 イベントのアラーム名	JIMSD_FORM_JP1ALARMNAME

出力順	項目名※1	説明	案件フォームとの対応
64	顧客名	顧客名	JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME
65	費用（予算）	費用（予算）	JIMSD_FORM_ESTIMATEDCOST
66	費用（実績）	費用（実績）	JIMSD_FORM_ACTUALCOST
67	問い合わせ者名	問い合わせ者名	JIMSD_FORM_INQUIRYNAME
68	登録者 ID	案件を登録したユーザーの ID	—
69	登録者名	案件を登録したユーザーの名称	JIMSD_FORM_REGISTRANT
70	登録者（英語）	案件を登録したユーザーの名称（英語）	—
71	担当者種別	案件担当者の種別（ユーザーまたはロール）	—
72	担当者 ID	案件担当者のユーザー ID	—
73	担当者名	案件担当者の名称	JIMSD_FORM_ASSIGNED
74	担当者名（英語）	案件担当者の名称（英語）	—
75	回答責任者種別	案件回答責任者の種別（ユーザーまたはロール）	—
76	回答責任者 ID	案件回答責任者のユーザー ID	—
77	回答責任者名	案件回答責任者の名称	JIMSD_FORM_RESPONDENT
78	回答責任者名（英語）	案件回答責任者の名称（英語）	—
79	拡張テキストデータ 1	ユーザーが案件フォームで定義したテキストデータの追加項目（1～20 個）	JIMSD_FORM_USERTEXT01～ JIMSD_FORM_USERTEXT20
80	拡張テキストデータ 2		
81	拡張テキストデータ 3		
82	拡張テキストデータ 4		
83	拡張テキストデータ 5		
84	拡張テキストデータ 6		
85	拡張テキストデータ 7		
86	拡張テキストデータ 8		
87	拡張テキストデータ 9		
88	拡張テキストデータ 10		
89	拡張テキストデータ 11		
90	拡張テキストデータ 12		
91	拡張テキストデータ 13		
92	拡張テキストデータ 14		

出力順	項目名※1	説明	案件フォームとの対応
93	拡張テキストデータ 15	ユーザーが案件フォームで定義したテキストデータの追加項目 (1~20 個)	JIMSD_FORM_USERTEXT01~ JIMSD_FORM_USERTEXT20
94	拡張テキストデータ 16		
95	拡張テキストデータ 17		
96	拡張テキストデータ 18		
97	拡張テキストデータ 19		
98	拡張テキストデータ 20		
99	拡張時刻データ 1	ユーザーが案件フォームで定義した時刻データの追加項目 (1~5 個)	JIMSD_FORM_USERTIME01~ JIMSD_FORM_USERTIME05
100	拡張時刻データ 2		
101	拡張時刻データ 3		
102	拡張時刻データ 4		
103	拡張時刻データ 5		
104	拡張コードデータ 1	ユーザーが案件フォームで定義したコードデータの追加項目 (1~5 個)	JIMSD_FORM_USERCODE01~ JIMSD_FORM_USERCODE05
105	拡張コードデータ 2		
106	拡張コードデータ 3		
107	拡張コードデータ 4		
108	拡張コードデータ 5		
109	拡張数値データ 1	ユーザーが案件フォームで定義した数値データの追加項目 (1~5 個)	JIMSD_FORM_USERINT01~ JIMSD_FORM_USERINT05
110	拡張数値データ 2		
111	拡張数値データ 3		
112	拡張数値データ 4		
113	拡張数値データ 5		
114	拡張ユーザー情報種別 1	ユーザーが案件フォームで定義したユーザーデータの追加項目 (1~5 個) 拡張ユーザー情報種別 ユーザー種別 (ユーザーまたはロール) 拡張ユーザー情報 ユーザーの ID 拡張ユーザー名 ユーザーの名称	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE01~ JIMSD_FORM_USEREXTTYPE05
115	拡張ユーザー情報 1		
116	拡張ユーザー名 1		
117	拡張ユーザー情報種別 2		
118	拡張ユーザー情報 2		
119	拡張ユーザー名 2		
120	拡張ユーザー情報種別 3		
121	拡張ユーザー情報 3		
122	拡張ユーザー名 3		

出力順	項目名※1	説明	案件フォームとの対応
123	拡張ユーザー情報種別 4	ユーザーが案件フォームで定義したユーザーデータの追加項目 (1~5 個) 拡張ユーザー情報種別 ユーザー種別 (ユーザーまたはロール) 拡張ユーザー情報 ユーザーの ID 拡張ユーザー名 ユーザーの名称	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE01~ JIMSD_FORM_USEREXTTYPE05
124	拡張ユーザー情報 4		
125	拡張ユーザー名 4		
126	拡張ユーザー情報種別 5		
127	拡張ユーザー情報 5		
128	拡張ユーザー名 5		
129	編集者 ID	案件を作成, 更新したユーザーの ID	—
130	編集者名	案件を作成, 更新したユーザーの名称	—
131	編集者名 (英語)	案件を作成, 更新したユーザーの名称 (英語)	—
132	登録日時	案件を登録した日時	JIMSD_FORM_REGISTDATE
133	更新日時	案件を最後に更新した日時	JIMSD_FORM_LASTUPDATE
134	メッセージ ID	jssitementrybyemail コマンドを使用して登録した案件の場合に設定される項目 (案件の二重登録を防ぐための項目)	—
135	関連情報 ID	案件の関連情報を表す ID	—
136	添付ファイル ID	添付ファイルの ID	—
137	添付ファイル	添付ファイルの名称	JIMSD_FORM_ATTACHED
138	操作履歴	案件に対して行われた操作 (登録, 編集, 引き戻し, 差し戻し) を表す項目	—

(凡例)

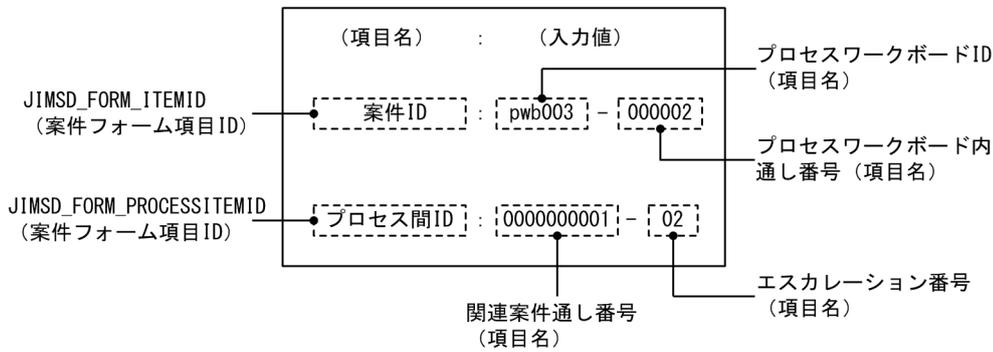
— : 該当なし

注※1

案件の内容が改行を含む場合, 改行文字は CSV 設定ファイルに設定した `hptl_jp1_imss_replace_linefeed_string` の値に基づき変換されます。CSV 設定ファイルについては, 「13. 定義ファイル」の「[CSV 設定ファイル \(hptl_jp1_imss_csv_setting.properties\)](#)」を参照してください。

注※2

2つの案件フォームの項目 ID で構成されています。詳細を, 次の図に示します。



フッター部

出力順	項目の内容	出力する値
1	ステータスが「クローズ」の案件数	Closed Item Number : 件数※
2	ステータスが「クローズ」以外の案件数	Unclosed Item Number : 件数※

注※

データ種別が「最新」の案件の合計数です。

関連情報 CSV ファイルの内容

関連情報 CSV ファイルには、次のような形式でデータが出力されます。

ヘッダー部	CSV 形式
ヘッダー部	#"JP1/Service Support", "110000", "MS932", "ITEMEXPORTEX_ITEMREF"
ボディ部	#"プロセスワークボードID", "プロセスワークボード内通し番号", ... "2", "2", "2", ... "3", "3", "3", ... ⋮

なお、関連情報 CSV ファイルに出力されるボディ部の 1 行目には、属性名が出力されます。

出力される内容について説明します。

ヘッダー部

出力順	項目の内容	出力する値
1	製品名	JP1/Service Support
2	出力されるファイルのバージョン	出力されるファイルのバージョンを 6 けたの文字列で表す
3	関連情報 CSV ファイルの文字コード	出力されるファイルの文字コード
4	出力データの種別	ITEMEXPORTEX_ITEMREF

ボディ部

出力順	項目名※	説明
1	プロセスワークボード ID	関連元の案件が登録されているプロセスワークボードの ID
2	プロセスワークボード内通し番号	関連元の案件のプロセスワークボード内通し番号
3	バージョン番号	関連元の案件の履歴を表す番号
4	関連情報 ID	関連情報を識別するための ID
5	案件フォーム項目 ID	案件フォームの項目を識別するための ID
6	関連情報種別	関連情報の種別を表す項目
7	関連情報詳細	関連情報の詳細を表す項目
8	関連情報 1	登録した関連情報の値
9	関連情報 2	登録した関連情報の値

注※

案件の内容に改行文字が含まれる場合、改行文字は CSV 設定ファイルに設定した `hptl_jp1_imss_replace_linefeed_string` の値に基づき変換されます。CSV 設定ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[CSV 設定ファイル \(hptl_jp1_imss_csv_setting.properties\)](#)」を参照してください。

添付ファイルの内容

案件の添付ファイルをそのまま出力します。

なお、添付ファイルのパスが 255 バイトを超えている場合、次に示す順序でファイル名が変更されます。

1. 拡張子を削除する。
2. 出力ファイルのパスが 255 バイトになるように、末尾からファイル名を 1 文字ずつ削除する。
その際、半角文字を 1 バイト、全角文字を 2 バイトとして計算します。

システムおよびプロセスワークボードの状態に応じたコマンドの実行結果

`jssitemexportEx` コマンドは、実行する際のシステムおよびプロセスワークボードの状態によって動作が異なります。システムおよびプロセスワークボードの状態に応じた `jssitemexportEx` コマンドの実行結果を、次の表に示します。

表 12-11 システムおよびプロセスワークボードの状態に応じた `jssitemexportEx` コマンドの実行結果

項番	システムの状態	プロセスワークボードの状態	実行結果
1	削除待ち	—	システム内の案件は出力しない。
2	運用中	準備中	プロセスワークボード内の案件は出力しない。

項番	システムの状態	プロセスワークボードの状態	実行結果
3	運用中	運用中	プロセスワークボード内の案件を出力する。ただし、削除待ちの案件は出力しない。*
4		停止中	
5		削除待ち	プロセスワークボード内の案件は出力しない。

(凡例)

－：該当なし

注※

プロセスワークボードの状態が運用中の場合、jssitemexportEx コマンドの実行中に案件を操作できます。そのため、ステータスが「クローズ」(処理が完了している)の案件を、jssitemexportEx コマンドの対象にすることを推奨します。

実行時の前提条件

コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。

注意事項

- jssitemexportEx コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、案件情報の出力に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- エラーなどによって jssitemexportEx コマンドの実行が中断した場合、出力ファイルの内容が不完全になるおそれがあります。
- jssitemexportEx コマンドの実行中に対象となるプロセスワークボードの案件を操作した場合、出力対象に含まれないおそれがあります。そのため、プロセスワークボードの状態を停止中にしてから実行することを推奨します。
- jssitemexportEx コマンドの実行中に入力元フォルダ配下のフォルダおよびファイルを操作しないでください。操作した場合、コマンドが異常終了します。なお、入力元フォルダを指定して、jssitemimportEx コマンドを実行しないでください。

使用例

使用例 1

案件を格納するデータベースの容量を削減する目的で案件を削除する前に、案件情報を退避したい場合：2012年1月1日～2013年1月1日の期間に更新された案件のうち、プロセスワークボード ID が「pwb001」でステータスが「クローズ」の案件情報を出力し、そのあと、案件一括削除コマンド(jssitemdeletion)を実行する場合の指定例を、次に示します。

```
jssitemexportEx -o C:%export -p -id pwb001 -et 2012/01/01-2013/01/01
jssitemdeletion -p -id pwb001 -n 2012/01/01-2013/01/01
```

使用例 2

監査用のログとして、すべての案件の情報を定期的に退避したい場合：

2012年1月1日～2013年1月1日の期間に作成された案件のうち、すべてのシステムを対象に、すべてのステータスの案件を出力する場合の指定例を、次に示します。

```
jssitemexportEx -o C:¥export -ALL -et 2012/12/01-2013/01/01 -a
```

この場合、プロセスワークボードの状態を「停止中」にしてから実行してください。

使用例 3

管理していたプロセスワークボードの運用を終了する場合：

運用開始日が2012年1月1日で、運用終了日が2013年1月1日であるプロセスワークボードIDが「pwb001」の案件をすべて出力する場合の指定例を、次に示します。

```
jssitemexportEx -o C:¥export -p -id pwb001 -ct 2012/01/01-2013/01/01 -a
```

この場合、プロセスワークボードの状態を「停止中」にしてから実行してください。

jssitemhistory (案件履歴出力)

機能

案件データの履歴情報を CSV ファイルで出力します。画面から削除した案件と、jssitemdeletion コマンドで削除待ち状態にした案件も出力します。コマンドの実行中に処理を中止すると、中止する直前までの履歴情報を出力します。

形式

```
jssitemhistory -o 案件履歴情報ファイル名  
               -r 開始年月日-終了年月日  
               [-b プロセスワークボードID | -i 関連案件通し番号]  
               [-e]  
               [-f]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-o 案件履歴情報ファイル名

JP1/Service Support に登録されている案件データの履歴情報を出力する案件履歴情報ファイル名を 255 バイト以下で指定します。案件履歴情報ファイル名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。また、ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。なお、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。

-r 開始年月日-終了年月日

特定の期間内に更新された案件を出力するために、更新日の範囲を YYYY/MM/DD 形式の文字列で指定します。開始年月日と終了年月日の間には「-」を挿入します。

開始年月日、および終了年月日には 1970/01/02~2036/12/31 の値を指定できます。開始年月日には、終了年月日より前の値を指定してください。

開始年月日、および終了年月日について次に説明します。

開始年月日

この値で指定した日付以降に更新された案件を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、実際に存在する日付まで進め、それ以降に更新された案件を出力します。例えば、開始年月日に 2006/04/31 を指定した場合は、2006/05/01 以降に更新された案件を出力します。

終了年月日

この値で指定した日付以前に更新された案件を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、実際に存在する日付まで戻り、それ以前に更新された案件を出力します。例えば、終了年月日に 2006/06/31 を指定した場合は、2006/06/30 以前に更新された案件を出力します。

-b プロセスワークボード ID

案件履歴情報を出力するプロセスワークボードを特定したい場合、対象となるプロセスワークボードの ID を 64 バイト以下の半角英数字で指定します。-b オプションと-i オプションの両方を省略すると、JP1/Service Support 内のすべての案件を出力します。

-i 関連案件通し番号

案件履歴情報を出力する案件を特定したい場合、対象となる案件の関連案件通し番号を 16 バイトの半角数字（整数）で指定します。-b オプションと-i オプションの両方を省略すると、案件管理 DB 内のすべての案件を出力します。関連案件通し番号については、「[3.3.5 関連案件の表示](#)」を参照してください。

-e

このオプションを指定すると、出力対象にユーザーがカスタマイズした項目が含まれます。このオプションを省略すると、出力対象にはユーザーがカスタマイズした項目が含まれません。

-f

ファイルを上書きする場合に指定します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

案件履歴情報ファイルの内容

案件履歴情報ファイルには次のような形式でデータが出力されます。登録されていないデータがある場合は、「"（ダブルクォーテーション）」が二つ出力されます。

ヘッダー部	#"JP1/Service Support","085100","MS932","ITEMHISTORY"
ボディ部	"#システムID","システム名","プロセスワークボードID",... "AWebsystem","A社Webシステム","AWebProblem",... "BFilesystem","B社ファイルサーバシステム","BFileIncident",...

なお、CSV ファイルに出力されるボディ部の 1 行目は、案件フォームのカスタマイズに依存しないで、常に固定の文字列が出力されます。

出力される内容について説明します。

ヘッダー部

出力順	項目の内容	出力する値
1	製品名	JP1/Service Support
2	出力されるファイルのバージョン	出力されるファイルのバージョンを6けたの文字列で表す
3	案件履歴情報ファイルの文字コード	出力されるファイルの文字コード
4	出力データの種別	<ul style="list-style-type: none"> 拡張項目がない場合 ITEMHISTORY 拡張項目がある場合 ITEMHISTORY△拡張項目あり (注 △は半角スペースを示す)

ボディ部

出力順	項目の内容※1	対応する案件フォーム項目
1	対象システムのシステム ID	—
2	対象システムのシステム名	JIMSD_FORM_SYSTEM
3	プロセスワークボード ID	—
4	プロセス名※2	JIMSD_FORM_PROCESS
5	関連案件通し番号	—
6	エスカレーション番号	—
7	バージョン番号※3	—
8	プロセスワークボード内通し番号	—
9	エスカレーション先システム名	—
10	エスカレーション先プロセス名	—
11	タイトル	JIMSD_FORM_TITLE
12	重大度	JIMSD_FORM_SEVERITYCODE
13	影響度	JIMSD_FORM_IMPACTCODE
14	優先度	JIMSD_FORM_PRIORITYCODE
15	案件種別	JIMSD_FORM_ITEMCATEGORYCODE
16	問題分野	JIMSD_FORM_ISSUECATEGORYCODE
17	ステータス	JIMSD_FORM_ITEMSTATUSID
18	作業状況	JIMSD_FORM_SITUATION
19	結果	JIMSD_FORM_RESULTCODE
20	更新日時	JIMSD_FORM_LASTUPDATE

出力順	項目の内容※1	対応する案件フォーム項目
21	編集者※4	—
22	登録者のユーザー名	JIMSD_FORM_REGISTRANT
23	登録者の ID	—
24	発生日時	JIMSD_FORM_ACCRUALDATE
25	登録日時	JIMSD_FORM_REGISTDATE
26	開始日時	JIMSD_FORM_STARTDATE
27	担当者の種別「USER」または「ROLE」	—
28	担当者のユーザー名, またはロール名	JIMSD_FORM_ASSIGNED
29	担当者の ID, またはロール ID	—
30	作業期限	JIMSD_FORM_DEADLINE
31	回答責任者の種別「USER」または「ROLE」	—
32	回答責任者のユーザー名	JIMSD_FORM_RESPONDENT
33	回答責任者の ID, またはロール ID	—
34	完了日時	JIMSD_FORM_COMPDATE
35	顧客名	JIMSD_FORM_CUSTOMERSNAME
36	問い合わせ者	JIMSD_FORM_INQUIRYNAME
37	費用 (予算)	JIMSD_FORM_ESTIMATEDCOST
38	費用 (実績)	JIMSD_FORM_ACTUALCOST
39	影響業務	JIMSD_FORM_EFFECTSERVICE
40	概要	JIMSD_FORM_SUMMARY
41	現象種別	JIMSD_FORM_PHENOMENONCODE
42	要因	JIMSD_FORM_CAUSECODE
43	根本原因	JIMSD_FORM_ROOTCAUSE
44	回避策種別	JIMSD_FORM_AVOIDANCECODE
45	回避策	JIMSD_FORM_AVOIDANCE
46	解決区分	JIMSD_FORM_SOLUTIONCODE
47	解決策	JIMSD_FORM_SOLUTION
48	問題個所とバージョン	JIMSD_FORM_FAILURELOCATION
49	再発防止のための考察	JIMSD_FORM_MEASURES
50	スケジュール, 手順概要	JIMSD_FORM_SCHEDULE
51	変更の影響評価	JIMSD_FORM_IMPACTEVAL

出力順	項目の内容※1	対応する案件フォーム項目
52	変更の規模	JIMSD_FORM_CHANGESCALECODE
53	リリースタイプ	JIMSD_FORM_RELEASETYPECODE
54	審議結果	JIMSD_FORM_DELIBERATIONRST
55	フリー記入欄	JIMSD_FORM_FREEDESCRIPTION
56	重大度の理由	JIMSD_FORM_SEVERITYREASON
57	影響度の理由	JIMSD_FORM_IMPACTREASON
58	優先度の理由	JIMSD_FORM_PRIORITYREASON
59	プロダクト名	JIMSD_FORM_JP1PRODUCTNAME
60	ジョブネット名	JIMSD_FORM_JP1JOBNETNAME
61	ジョブ名関連	JIMSD_FORM_JP1JOBNAME
62	SNMP ソース	JIMSD_FORM_JP1SNMPSRC
63	監視ノード名	JIMSD_FORM_JP1NODENAME
64	アラーム名	JIMSD_FORM_JP1ALARMNAME
65	イベント DB 通し番号	JIMSD_FORM_IMEVENTNO
66	JP1/IM - Manager ホスト名	JIMSD_FORM_IMHOSTNAME
67	機器情報の表示名（それぞれの値のあとに「;」を追加して連結する）	JIMSD_FORM_LINKAIM
68	関連案件 ID（それぞれの値のあとに「;」を追加して連結する）	—
69	関連 URL の表示名（それぞれの値のあとに「;」を追加して連結する）	JIMSD_FORM_LINKURL
70	拡張テキストデータ 1（1～4,096 バイトの制御コード以外の文字列）	JIMSD_FORM_USERTEXT01
71	拡張テキストデータ 2（1～4,096 バイトの制御コード以外の文字列）	JIMSD_FORM_USERTEXT02
72	拡張テキストデータ 3（1～4,096 バイトの制御コード以外の文字列）	JIMSD_FORM_USERTEXT03
73	拡張テキストデータ 4（1～4,096 バイトの制御コード以外の文字列）	JIMSD_FORM_USERTEXT04
74	拡張テキストデータ 5（1～4,096 バイトの制御コード以外の文字列）	JIMSD_FORM_USERTEXT05
75	拡張テキストデータ 6（1～2,048 バイトの制御コード以外の文字列）	JIMSD_FORM_USERTEXT06

出力順	項目の内容※1	対応する案件フォーム項目
76	拡張テキストデータ 7 (1~2,048 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT07
77	拡張テキストデータ 8 (1~2,048 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT08
78	拡張テキストデータ 9 (1~2,048 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT09
79	拡張テキストデータ 10 (1~2,048 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT10
80	拡張テキストデータ 11 (1~2,048 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT11
81	拡張テキストデータ 12 (1~2,048 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT12
82	拡張テキストデータ 13 (1~2,048 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT13
83	拡張テキストデータ 14 (1~2,048 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT14
84	拡張テキストデータ 15 (1~2,048 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT15
85	拡張テキストデータ 16 (1~512 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT16
86	拡張テキストデータ 17 (1~512 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT17
87	拡張テキストデータ 18 (1~512 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT18
88	拡張テキストデータ 19 (1~512 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT19
89	拡張テキストデータ 20 (1~512 バイトの制御コード以外の文字列)	JIMSD_FORM_USERTEXT20
90	拡張時刻データ 1 (「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式)	JIMSD_FORM_USERTIME01
91	拡張時刻データ 2 (「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式)	JIMSD_FORM_USERTIME02
92	拡張時刻データ 3 (「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式)	JIMSD_FORM_USERTIME03
93	拡張時刻データ 4 (「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式)	JIMSD_FORM_USERTIME04
94	拡張時刻データ 5 (「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式)	JIMSD_FORM_USERTIME05
95	拡張コードデータ 1	JIMSD_FORM_USERCODE01
96	拡張コードデータ 2	JIMSD_FORM_USERCODE02
97	拡張コードデータ 3	JIMSD_FORM_USERCODE03

出力順	項目の内容※1	対応する案件フォーム項目
98	拡張コードデータ 4	JIMSD_FORM_USERCODE04
99	拡張コードデータ 5	JIMSD_FORM_USERCODE05
100	拡張数値データ 1	JIMSD_FORM_USERINT01
101	拡張数値データ 2	JIMSD_FORM_USERINT02
102	拡張数値データ 3	JIMSD_FORM_USERINT03
103	拡張数値データ 4	JIMSD_FORM_USERINT04
104	拡張数値データ 5	JIMSD_FORM_USERINT05
105	拡張ユーザー情報種別 1 「USER」, 「ROLE」 または空白	—
106	拡張ユーザー情報 1	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE01
107	拡張ユーザー情報 ID1 のユーザー ID, またはロール ID	—
108	拡張ユーザー情報種別 2 「USER」, 「ROLE」 または空白	—
109	拡張ユーザー情報 2	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE02
110	拡張ユーザー情報 ID2 のユーザー ID, またはロール ID	—
111	拡張ユーザー情報種別 3 「USER」, 「ROLE」 または空白	—
112	拡張ユーザー情報 3	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE03
113	拡張ユーザー情報 ID3 のユーザー ID, またはロール ID	—
114	拡張ユーザー情報種別 4 「USER」, 「ROLE」 または空白	—
115	拡張ユーザー情報 4	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE04
116	拡張ユーザー情報 ID4 のユーザー ID, またはロール ID	—
117	拡張ユーザー情報種別 5 「USER」, 「ROLE」 または空白	—
118	拡張ユーザー情報 5	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE05
119	拡張ユーザー情報 ID5 のユーザー ID, またはロール ID	—
120	拡張ユーザーリンク 1 (それぞれの値のあとに「;」を追加して連結する) ※5	JIMSD_FORM_REFINFO01
121	拡張ユーザーリンク 2 (それぞれの値のあとに「;」を追加して連結する) ※5	JIMSD_FORM_REFINFO02
122	拡張ユーザーリンク 3 (それぞれの値のあとに「;」を追加して連結する) ※5	JIMSD_FORM_REFINFO03

出力順	項目の内容※1	対応する案件フォーム項目
123	拡張ユーザーリンク 4 (それぞれの値のあとに「;」を追加して連結する) ※5	JIMSD_FORM_REFINFO04
124	拡張ユーザーリンク 5 (それぞれの値のあとに「;」を追加して連結する) ※5	JIMSD_FORM_REFINFO05

(凡例)

— : 該当なし

注※1

案件の内容に改行文字が含まれている場合、半角スペースに変換して出力します。また、案件の内容に「" (ダブルクォーテーション)」が含まれている場合、「"」に変換して出力します。

注※2

案件が登録されているプロセスワークボードのプロセスの表示名が出力されます。

注※3

バージョン番号は、案件を編集するたびに 1 ずつ増えます。

注※4

-d オプションを指定して、jssitemlist コマンドで出力した場合、「編集者」ではなく、「削除者」になります。

注※5

リンク項目の種別が関連案件の場合は「案件 ID」、機器情報の場合は「サーバ名」、「IP アドレス」または「資産番号」、関連情報の場合は「表示名」となります。

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「**コマンド実行時のサービスの状態**」を参照してください。
- jssitemhistory コマンドの実行中に次のコマンドを同時実行すると、jssitemhistory コマンドの実行に失敗するおそれがあるため、同時実行しないでください。
 - jssformdef コマンド
 - jssdelrec コマンド
 - jssdbinit.bat コマンド
 - jssdbrorg.bat コマンド
 - jssdbreclaim.bat コマンド
 - jssdbbackup.bat コマンド
 - jssdbrecovery.bat コマンド
 - jssitemstore コマンド
 - jssitemstoredbexpand.bat コマンド
 - jssitemstoredbsetup.bat コマンド
 - jssrefaclsetup コマンド
 - jssstoreitemdel.bat コマンド

- -f オプションを指定した jssitemhistory コマンドを複数実行した場合、出力先ファイルのファイル名にはそれぞれ異なるファイル名を指定してください。同じファイル名を指定した場合、案件詳細情報ファイルの内容が不完全になることがあります。

注意事項

- jssitemhistory コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、案件履歴の出力に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- 出力する案件履歴情報の中に、選択枝コードの値に対応した文字列が存在しない場合、ファイルには選択枝コードの値がそのまま出力されます。
- 案件履歴情報ファイルの「1970/01/01 23:59:59」以前、または「2037/01/01 00:00:00」以降の日時データは正しく出力されない場合があります。
- jssitemhistory コマンドで一度に出力できる案件の履歴数は最大 65,530 件です。65,531 件以上の案件の履歴情報を出力したい場合は、-b オプションまたは-r オプションで対象範囲を絞り込み、jssitemhistory コマンドを複数回実行してください。
- 案件データの履歴情報を大量に CSV ファイルに出力する場合、案件管理 DB の作業領域不足、または案件管理 DB のログファイル不足が発生することがあります。この場合、KNAB24002-E のエラーメッセージに詳細コード「-722」または「-1703」が出力されます。案件情報を減らしてから再度実行してください。設定している案件管理 DB のサイズごとに、入力できる案件情報の目安を次に示します。
 - S サイズ：約 2,000 件
 - M サイズ：約 5,000 件
 - L サイズ：約 5,000 件
 - LL サイズ：約 5,000 件
 - XL サイズ：約 5,000 件
- 削除ユーザーが含まれている案件情報を jssitemhistory コマンドで出力した場合、出力した案件情報のユーザー ID 出力個所には、削除ユーザーは出力されません。
- jssitemhistory コマンドで大量の案件情報を出力しようとする、データベースの作業領域が不足し、「KNAB24002-E JP1/Service Support のデータベースでエラーが発生しました。(-713)」のメッセージが出力されるおそれがあります。その場合には、開始年月日、終了年月日などを指定し、案件情報を絞り込んで、コマンドを実行してください。
- 出力される情報に、UTF-8 にはマッピングされていて、Shift-JIS にはマッピングされていない文字を含む場合、出力される CSV ファイルの該当文字は「?」に変換されます。

使用例

2007 年 4 月 1 日～2007 年 6 月 30 日に更新された案件のうち、プロセスワークボード ID が「honsyasystem」の案件の履歴情報を CSV ファイル (c:¥anken¥ankenhistory.csv) に出力する場合の指定例を次に示します。

```
jssitemhistory -o c:¥anken¥ankenhistory.csv -r 2007/04/01-2007/06/30 -b honssystem
```

jssitemimport (案件情報インポート)

機能

JP1/Service Support の案件管理 DB に、新しく案件情報を登録します。

形式

```
jssitemimport -i 案件情報入力ファイル名
               -r 登録者ID
               [-f]
               [-m コードマッピングファイル名]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-i 案件情報入力ファイル名

案件情報入力ファイルのファイル名を 255 バイト以下の文字列で指定します。案件情報入力ファイル名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。また、ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。なお、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。案件情報入力ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件情報入力ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

-r 登録者 ID

案件の登録者となるユーザーの ID を 64 バイト以下の半角英数字で指定します。

次の場合はエラーになります。

- 指定した ID のユーザーが存在しない場合
- 指定した ID のユーザーが、登録先プロセスワークボードで案件の登録権限を持っていない場合

-f

データ内容に誤りがある場合も処理を継続する場合に指定します。-f オプションを指定すると、データ中の案件情報が不正な場合でも処理を継続して、次の案件情報を登録します。

-f オプションを省略した場合は、案件情報を登録する途中で一つでも案件情報の登録に失敗すると、処理は中断され、すべての案件情報が登録されません。

-m コードマッピングファイル名

ユーザーが定義したコードマッピングファイルを使用する場合、コードマッピングファイル名を 255 バイト以下の文字列で指定します。コードマッピングファイル名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。また、ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。コードマッピングファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[コードマッピングファイル \(jplimss_itemimport_codemap.conf\)](#)」を参照してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssitemimport コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。
- jssitemimport コマンドのオプションは、画面で表示される項目だけを指定してください。オプションで指定した項目はすべて案件管理 DB に登録されますが、画面で表示されない項目は確認できません。

注意事項

- jssitemimport コマンドの実行中に処理を中止すると、案件情報入力ファイルで指定した案件情報はすべて登録されません。
- jssitemimport コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、案件情報入力ファイルで指定した案件情報の登録に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- 入力ファイルとして 0 バイトのファイルを指定した場合、インポートした件数が 0 件で正常終了します。
- 担当者 ID や回答責任者 ID に指定したユーザー、またはロールが存在しない場合は、KNAB22002-W または KNAB26013-E のエラーが発生します。案件情報入力ファイルの内容を見直してください。案件情報入力ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[案件情報入力ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。
- 案件情報入力ファイルで更新日時を指定しても、JP1/Service Support には、jssitemimport コマンドを実行した時間で登録されます。
- 入力ファイルの項目を 103 項目以上指定した場合は、102 番目の項目までが登録されます。53~102 番目の項目は任意のため、省略すると空欄になります。
- 入力ファイルの項目数が 52 未満の場合は、KNAB26103-E のエラーが発生します。

- 案件情報入力ファイルに大量の案件情報が入力されている場合、案件管理 DB の作業領域不足、または案件管理 DB のログファイル不足が発生することがあります。この場合、KNAB24002-E のエラーとともに詳細コード「-722」または「-1703」が出力されるので、案件情報を減らして再度実行してください。

設定している案件管理 DB のサイズごとに、入力できる案件情報の目安を示します。

- S サイズ：約 2,000 件
 - M サイズ：約 5,000 件
 - L サイズ：約 5,000 件
 - LL サイズ：約 5,000 件
 - XL サイズ：約 5,000 件
- jssitemimport コマンドからは、登録時に必ず入力する項目またはクローズ時に必ず入力する項目が未入力でも、案件を登録できます。
 - 入力するファイルは、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じたファイルを指定してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030
 - jssitemimport コマンドで設定する案件の担当者 ID には、案件登録先に指定したプロセスワークボードの編集、および各ステータスの権限を保持していなくても設定できます。その場合には、該当する案件を操作できるユーザーでログインし適切な担当者に変更してください。

使用例

案件情報ファイル (c:¥anken¥ankenimport.csv) を登録する場合の指定例を次に示します。

```
jssitemimport -i c:¥anken¥ankenimport.csv -r user0001
```

jssitemimportEx (案件情報拡張インポート)

機能

JP1/Service Support の案件管理 DB に、新しく案件情報を登録します。なお、jssitemexportEx コマンドで出力した CSV ファイルも登録できます。

jssitemimportEx コマンドを実行すると、すべての案件情報拡張入力ファイルの内容が正しいか確認され、そのあとに案件の登録処理が開始されます。案件情報拡張入力ファイルに不正なデータが存在した場合、案件は登録されません。

形式

```
jssitemimportEx -i 入力元フォルダ名  
                 {-ALL | -s -id システムID | -p -id プロセスワークボードID}  
                 [-latest]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-i 入力元フォルダ名

入力元ファイルの格納先フォルダ名を、80 バイト以下の文字列で指定します。このとき、半角文字を 1 バイト、全角文字を 2 バイトとして換算します。フォルダ名は、絶対パスまたは相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 80 バイト以下になるように指定してください。なお、UNC パスは指定できません。

入力元フォルダは、jssitemexportEx コマンドの出力先フォルダと同じ構成にする必要があります。また、案件情報の入力元となるファイル（案件情報 CSV ファイル、関連情報 CSV ファイル、および添付ファイル※）も、jssitemexportEx コマンドで出力されるファイルと同じ形式にしてください。なお、案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルには、ファイル名称に規則があります。

注※

案件情報 CSV ファイル、関連情報 CSV ファイル、および添付ファイルを総称して、案件情報拡張入力ファイルと呼びます。

jssitemexportEx コマンドでの案件情報の出力先フォルダ、および入力元となるファイルの形式については、「12. コマンド」の「jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート)」を参照してください。案件情

報 CSV ファイル、関連情報 CSV ファイル、および添付ファイルの形式とファイル名称の詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件情報拡張入力ファイル（任意）](#)」を参照してください。

-ALL

すべてのシステムを対象として、案件情報を登録する場合に指定します。この場合、マスターシステムも対象になります。

-s id システム ID

システムを選択して、案件情報を登録する場合に指定します。システム ID は、1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-p -id プロセスワークボード ID

プロセスワークボードを選択して、案件情報を登録する場合に指定します。プロセスワークボード ID は、1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-latest

-i オプションで指定した入力対象のうち、最新のデータ（「DATATYPE」が最新）だけを登録する場合に指定します。この場合、エスカレーション情報は、登録されません。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	案件登録中に失敗
2	案件登録前に失敗

案件情報 CSV ファイルに指定する項目

案件情報 CSV ファイルのボディ部には、指定が必須な項目があります。案件情報 CSV ファイルの項目および項目の説明については、「13. 定義ファイル」の「[案件情報拡張入力ファイル（任意）](#)」を参照してください。

なお、案件情報の入力元となる案件情報 CSV ファイルを作成する際、ヘッダー部、ボディ部の 1 行目（属性名）、およびフッター部を省略しても、案件情報を登録できます。

関連情報 CSV ファイルに指定する項目

関連情報 CSV ファイルのボディ部の項目は、すべて任意で指定します。また、ヘッダー部を省略できます。なお、関連情報 CSV ファイルの項目および項目の説明については、「13. 定義ファイル」の「[案件情報拡張入力ファイル（任意）](#)」を参照してください。

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- 指定したシステムおよびプロセスワークボードの状態によって、コマンドが異常終了します。システムおよびプロセスワークボードの状態とコマンドの実行結果を、次の表に示します。

項番	システムの状態	プロセスワークボードの状態	コマンドの実行結果
1	削除待ち	該当なし	異常終了 (状態不正)
2	運用中	準備中	異常終了 (状態不正)
3		運用中	正常終了
4		停止中	異常終了 (状態不正)
5		削除待ち	異常終了 (状態不正)

- jssitemimportEx コマンドでは、案件情報拡張入力ファイルに記載している案件情報だけ登録できません。プロセスワークボード情報や案件フォーム、ユーザー情報などは別途登録する必要があります。詳細については、「[11.2.8\(1\) 案件情報を再登録する](#)」の手順 4 を参照してください。
- 大量の案件情報を登録する場合、案件管理 DB の容量不足などによって jssitemimportEx コマンドが異常終了することがあります。これに備えて、jssitemimportEx コマンドを実行する前に jssbackup コマンドまたは jssitemexportEx コマンドを実行して、案件の情報を保存しておいてください。

注意事項

- 一度に大量の案件情報を登録する場合、コマンドの実行に時間が掛かり、案件管理サーバおよび JP1/Service Support への負荷が高くなります。案件管理サーバおよび JP1/Service Support の負荷が低くなる深夜などにコマンドを実行するようにしてください。
- jssitemimportEx コマンドの実行中に処理を中止すると、入力元フォルダに格納した案件情報はすべて登録されません。
- jssitemimportEx コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、入力元フォルダに格納した案件情報の登録に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。
- 入力元フォルダ内に不要なフォルダやファイルが存在した場合、意図しないデータが登録されたり、エラーが発生したりします。
- jssitemimportEx コマンドの実行中に入力元フォルダ配下のフォルダおよびファイルを操作しないでください。操作した場合、コマンドが異常終了します。なお、入力元フォルダを指定して、jssitemexportEx コマンドを実行しないでください。
- jssitemimportEx コマンドは、過去に作成した案件を登録します。登録した案件情報を集約したい場合は、-a オプションを指定した jsscollectdata コマンドを実行してください。
- jssitemexportEx コマンドで出力した案件情報（案件情報 CSV ファイル、関連情報 CSV ファイル、および添付ファイル）を、編集の有無に関わらず jssitemimportEx コマンドで登録した場合、出力デー

タと登録データのデータサイズが異なります。登録データは、出力データよりも大きいデータサイズになることがあります。このため、登録データから不要な案件を削除してから `jssitemimportEx` コマンドを実行してください。

- 同一の添付ファイル ID で、プロセスワークボード内通し番号フォルダに格納した添付ファイル名（添付ファイル ID を除く）と、案件情報 CSV ファイルの「添付ファイル」の値が異なる場合、案件情報 CSV の「添付ファイル名」の値のファイル名で登録されます。
- 次に示すコマンドを使用して案件情報を登録または編集すると、案件フォームに存在しない項目を持つ案件情報を登録できますが、案件フォームに存在しない項目を持つ案件情報を `jssitemimportEx` コマンドで登録すると、エラーとなります。
 - `jssitementry`（案件登録）コマンド
 - `jssitemedit`（案件編集）コマンド
 - `jssitemimport`（案件情報インポート）コマンド

この場合、次に示す対処をしたあと、再度コマンドを実行してください。

- 新たに登録したい項目を設定した案件フォームを案件管理 DB に登録し、案件情報 CSV ファイルの「案件フォームのバージョン番号」を新たに登録した案件フォームのバージョン番号に変更してください。
- 案件フォームに存在しない案件情報 CSV ファイルの項目を削除してください。
- 入力するファイルは、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じたファイルを指定してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

使用例

`jssitemexportEx` コマンドで `C:¥tmp` に案件情報を出力し、その案件情報のすべてのシステムを対象として登録する場合の指定例を次に示します。

```
jssitemimportEx -i c:¥tmp -all
```

jssitemlist (案件一覧出力)

機能

JP1/Service Support に登録されている案件の一覧を CSV ファイルで出力します。コマンドの実行中に処理を中止すると、中止する直前までの案件一覧を出力します。

形式

```
jssitemlist -o 案件詳細情報ファイル名  
             [-b プロセスワークボードID  
              [-pi プロセスワークボード内通し番号]]  
             [-ct 開始年月日-終了年月日 | -r 開始年月日-終了年月日]  
             [-e]  
             [-a]  
             [-f]  
             [-d]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-o 案件詳細情報ファイル名

JP1/Service Support に登録されている案件の案件一覧を出力する案件詳細情報ファイル名を 255 バイト以内で指定します。ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。また、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。なお、案件詳細情報ファイル名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。

案件詳細情報ファイルには、ステータスが「クローズ」以外の案件一覧が出力されます。ステータスが「クローズ」の案件を含めた案件一覧を出力したい場合は、-a オプションを指定してください。

-b プロセスワークボード ID

案件一覧を出力するプロセスワークボードを特定したい場合、プロセスワークボードの ID を 64 バイト以下の半角英数字で指定します。このオプションを省略すると、案件管理 DB 内のすべての案件を出力します。

-pi プロセスワークボード内通し番号

-b オプションで指定したプロセスワークボードから、出力したい案件のプロセスワークボード内通し番号を指定します。

このオプションを指定する場合は、-b オプションを必ず指定してください。-pi オプションを省略した場合は、-b オプションで指定したプロセスワークボードの案件一覧が出力されます。

プロセスワークボード内通し番号については、「3.2.2(1) 案件一覧」を参照してください。

-ct 開始年月日-終了年月日

特定の期間内に登録された案件を出力するために、登録日の範囲を YYYY/MM/DD 形式の文字列で指定します。開始年月日と終了年月日の間には「-」を挿入します。

開始年月日、および終了年月日には 1970/01/02~2036/12/31 の値を指定できます。開始年月日には、終了年月日より前の値を指定してください。

開始年月日、および終了年月日について次に説明します。

開始年月日

この値で指定した日付以降に登録された案件を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、実際に存在する日付まで進め、それ以降に更新された案件を出力します。

終了年月日

この値で指定した日付以前に登録された案件を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、実際に存在する日付まで戻り、それ以前に登録された案件を出力します。

例えば、「2013/04/01-2013/04/07」を指定した場合、案件の登録日時が「2013/04/01 00:00:00(.000)」から「2013/04/07 23:59:59(.999)」の範囲の案件が出力対象となります。

-ct および-r オプションを省略した場合は、すべての案件が出力対象となります。

-r 開始年月日-終了年月日

特定の期間内に更新された案件を出力するために、更新日の範囲を YYYY/MM/DD 形式の文字列で指定します。開始年月日と終了年月日の間には「-」を挿入します。

開始年月日、および終了年月日には 1970/01/02~2036/12/31 の値を指定できます。開始年月日には、終了年月日より前の値を指定してください。

開始年月日、および終了年月日について次に説明します。

開始年月日

この値で指定した日付以降に更新された案件を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、実際に存在する日付まで進め、それ以降に更新された案件を出力します。

終了年月日

この値で指定した日付以前に更新された案件を出力します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、実際に存在する日付まで戻り、それ以前に更新された案件を出力します。

例えば、「2013/04/01-2013/04/07」を指定した場合、案件の更新日時が「2013/04/01 00:00:00(.000)」から「2013/04/07 23:59:59(.999)」の範囲の案件が出力対象となります。

-ct および-r オプションを省略した場合は、すべての案件が出力対象となります。

-e

このオプションを指定すると、出力対象にユーザーがカスタマイズした項目が含まれます。このオプションを省略すると、出力対象にはユーザーがカスタマイズした項目が含まれません。

-a

「クローズ」も含めたすべてのステータスの案件を出力する場合に指定します。このオプションを省略すると、ステータスが「クローズ」以外の案件を出力します。

-f

ファイルを上書きする場合に指定します。

-d

削除待ち状態になっている案件だけを出力する場合に指定します。このオプションが指定されたとき、案件詳細情報ファイルボディ部の「編集者」の項目は、「削除者」に変更され、案件を削除待ち状態にしたユーザーが確認できます。同様に、「更新日時」の項目では、案件を削除待ち状態にした日時が確認できます。ただし、削除待ち状態の対象システムやプロセスワークボードに登録されている案件は出力に含まれません。また、ステータスが「クローズ」の案件を含める場合は、-a オプションをあわせて指定してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

案件詳細情報ファイルの内容

案件詳細情報ファイルには次のような形式でデータが出力されます。

ヘッダー部	<pre>#"JP1/Service Support", "085100", "MS932", "ITEMLIST" #"Closed Item Number : 45" #"Unclosed Item Number : 5"</pre>
ボディ部	<pre>"システムID", "システム名", "プロセスワークボードID", ... "AWebsystem", "A社Webシステム", "AWebProblem", ... "BFilesystem", "B社ファイルサーバシステム", "BFileIncident", ...</pre>

出力される内容について説明します。

ヘッダー部

出力順	項目の内容	出力する値
1	製品名	JP1/Service Support

出力順	項目の内容	出力する値
2	出力されるファイルのバージョン	出力されるファイルのバージョンを6けたの文字列で表す
3	案件詳細情報ファイルの文字コード	出力されるファイルの文字コード
4	出力データの種別	<ul style="list-style-type: none"> • 拡張項目がない場合 ITEMLIST • 拡張項目がある場合 ITEMLIST△拡張項目あり (注 △は半角スペースを示す)
5	出力した案件のうち、ステータスが「クローズ」の案件の件数	Closed Item Number : 件数 (出力例) Closed Item Number : 45
6	出力した案件のうち、ステータスが「クローズ」以外の案件の件数	Unclosed Item Number : 件数 (出力例) Unclosed Item Number : 5

ボディ部

ボディ部では、jssitemhistory コマンドと同じ内容が出力されます。出力される内容については、「[jssitemhistory \(案件履歴出力\)](#)」を参照してください。

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssitemlist コマンドの実行中に次のコマンドを同時実行すると、jssitemlist コマンドの実行に失敗するおそれがあるため、同時実行しないでください。
 - jssformdef コマンド
 - jssdelrec コマンド
 - jssdbinit.bat コマンド
 - jssdbbrorg.bat コマンド
 - jssdbreclaim.bat コマンド
 - jssdbbackup.bat コマンド
 - jssdbrecovery.bat コマンド
 - jssitemstore コマンド
 - jssitemstoredbexpand.bat コマンド
 - jssitemstoredbsetup.bat コマンド
 - jssrefaclsetup コマンド
 - jssstoreitemdel.bat コマンド

- -f オプションを指定した jssitemlist コマンドを複数実行した場合、出力先ファイルのファイル名にはそれぞれ異なるファイル名を指定してください。同じファイル名を指定した場合、案件詳細情報ファイルの内容が不完全になることがあります。

注意事項

- jssitemlist コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、案件一覧の出力に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- 出力する案件情報の中に、選択肢コードの値に対応した文字列が存在しない場合、ファイルには選択肢コードの値がそのまま出力されます。
- 案件詳細情報ファイルの「1970/01/01 23:59:59」以前、または「2037/01/01 00:00:00」以降の日時データは正しく出力されない場合があります。
- jssitemlist コマンドで一度に出力できる案件数は最大 65,530 件です。65,531 件以上の案件の情報を出力したい場合は、-b オプションまたは-r オプションで案件数を絞り込み、jssitemlist コマンドを複数回実行してください。
- 削除ユーザーが含まれている案件情報を jssitemlist コマンドで出力した場合、出力した案件情報のユーザー ID 出力個所には、削除ユーザーは出力されません。
- jssitemlist コマンドで大量の案件情報を出力しようとする時、データベースの作業領域が不足し、「KNAB24002-E JP1/Service Support のデータベースでエラーが発生しました。(-713)」のメッセージが出力されるおそれがあります。その場合には、開始年月日、終了年月日などを指定し、案件情報を絞り込んで、コマンドを実行してください。
- 出力される情報に、UTF-8 にはマッピングされていて、Shift-JIS にはマッピングされていない文字を含む場合、出力される CSV ファイルの該当文字は「?」に変換されます。

使用例

プロセスワークボード ID が「honsyasystem」の案件のうち、2007 年 4 月 1 日～2007 年 7 月 31 日に登録された案件の詳細情報を、ファイルを上書きして案件詳細情報ファイル (c:¥anken¥ankeninfo.csv) に出力する場合の指定例を次に示します。

```
jssitemlist -o c:¥anken¥ankeninfo.csv -b honsyasystem -r 2007/04/01-2007/07/31 -a -f
```

jssmemberdelete (メンバー情報削除)

機能

JP1/Service Support のロールに登録されているメンバー情報を削除します。

形式

```
jssmemberdelete -i メンバー情報入力ファイル名
                  [-f]
                  [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-i メンバー情報入力ファイル名

メンバー情報入力ファイル名を 255 バイト以内で指定します。メンバー情報入力ファイル名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。また、ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。なお、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。メンバー情報入力ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[メンバー情報入力ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

-f

データ内容に誤りがある場合も処理を継続する場合に指定します。-f オプションを指定すると、データ中のメンバー情報が不正な場合でも処理を継続して、次のメンバー情報を削除します。

-f オプションを省略した場合は、メンバー情報を削除する途中で一つでもメンバー情報の削除に失敗すると、処理は中断され、その時点以降のメンバー情報は削除されません。

-q

応答メッセージを表示しないで、ロールに登録されているメンバー情報の削除を続行する場合に指定します。-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了

戻り値	意味
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。
- jssmemberdelete コマンドは、二つ以上同時に実行できません。また jssmemberimport コマンドと同時に実行できません。

注意事項

- jssmemberdelete コマンドの実行中に処理を中止すると、その時点以降のメンバー情報は削除されません。
- jssmemberdelete コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、メンバー情報の削除に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- 入力ファイルとして 0 バイトのファイルを指定した場合、削除した件数が 0 件で正常終了します。
- メンバー情報入力ファイルは 2,000 行を上限とします。ただし、コメント行は 1 行と数えません。2,000 行以上のメンバー情報を削除する場合、メンバー情報入力ファイルを分割して実行してください。
- ロールに登録されていないユーザーを指定した場合は、エラーメッセージまたはワーニングメッセージを出力しないで処理を続行します。また、削除メンバー数にはカウントしません。

使用例

メンバー情報入力ファイル (c:¥member¥member01.csv) を、応答メッセージを表示しないで削除する場合の指定例を次に示します。

```
jssmemberdelete -i c:¥member¥member01.csv -q
```

jssmemberimport (メンバー情報インポート)

機能

JP1/Service Support に登録されているロールに、新しくメンバー情報を登録します。

形式

```
jssmemberimport -i メンバー情報入力ファイル名
                  [-f]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-i メンバー情報入力ファイル名

メンバー情報入力ファイル名を 255 バイト以内で指定します。メンバー情報入力ファイル名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。また、ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。なお、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。メンバー情報入力ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[メンバー情報入力ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

-f

データ内容に誤りがある場合も処理を継続する場合に指定します。-f オプションを指定すると、データ中のメンバー情報が不正な場合でも処理を継続して、次のメンバー情報を登録します。

-f オプションを省略した場合は、メンバー情報を登録する途中で一つでもメンバー情報の登録に失敗すると、処理は中断され、その時点以降のメンバー情報は登録されません。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。

- jssmemberimport コマンドは、二つ以上同時に実行できません。また jssmemberdelete コマンドと同時に実行できません。

注意事項

- jssmemberimport コマンドの実行中に処理を中止すると、その時点以降のメンバー情報は登録されません。
- jssmemberimport コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、メンバー情報のインポートに失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- 入力ファイルとして 0 バイトのファイルを指定した場合、インポートした件数が 0 件で正常終了します。
- メンバー情報入力ファイルは 2,000 行を上限とします。ただし、コメント行は 1 行と数えません。2,000 行以上のメンバー情報を登録する場合、メンバー情報入力ファイルを分割して実行してください。
- ロールに登録済みのユーザーを指定した場合は、エラーメッセージまたはワーニングメッセージを出力しないで処理を続行します。また、登録メンバー数にはカウントしません。

使用例

メンバー情報入力ファイル (c:¥member¥member01.csv) を、メンバー情報の内容に誤りがある場合も続けて登録する場合の指定例を次に示します。

```
jssmemberimport -i c:¥member¥member01.csv -f
```

jssmemberlist (メンバー一覧出力)

機能

JP1/Service Support に登録されているロールに所属するユーザー（メンバー）の一覧を CSV ファイルで出力します。コマンドの実行中に処理を中止すると、中止する直前までのメンバー一覧を出力します。

形式

```
jssmemberlist -o メンバー一覧ファイル名
                [-roleid ロールID]
                [-f]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-o メンバー一覧ファイル名

出力するメンバー一覧ファイル名を 255 バイト以内で指定します。ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。また、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。なお、メンバー一覧ファイル名に全角文字が含まれる場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。

-roleid ロール ID

特定のロールに登録されているメンバー一覧だけを出力する場合に、そのロールのロール ID を 1~64 バイトの半角英数字またはシステムロールのロール ID で指定します。

-f

ファイルを上書きする場合に指定します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

メンバー一覧ファイルの内容

メンバー一覧ファイルには次のような形式でデータが出力されます。

ヘッダー部	<pre>#"JP1/Service Support","100000","MS932","MEMBERLIST" #"Total Count of Members : 2"</pre>
ボディ部	<pre>#"ロールID","ユーザーID","名前","英語名","所属組織","役職","役職順位","メールアドレス","電話番号","電話番号2","コメント" "Role1","10009","代々木一郎","Ichiro Yoyogi","システム開発部", "部長","1","XXXXXX@hitachi.com","〇〇〇-△△△- ××××","","" "Role2","10010","戸塚友三","Tomozo Totsuka","システム開発部"," 課長","2","XXXXXX@hitachi.com","〇〇〇-△△△- ××××","",""</pre>

なお、CSV ファイルに出力されるボディ部の 1 行目には、属性名が出力されます。

出力される内容について説明します。

ヘッダー部

出力順	項目の内容	出力する値
1	製品名	JP1/Service Support
2	出力されるファイルのバージョン	出力されるファイルのバージョンを 6 けたの文字列で表す
3	文字コード	出力されるファイルの文字コード
4	出力データの種別	MEMBERLIST
5	出力したメンバー数	Total Count of Members : 件数 (出力例) Total Count of Members : 2

ボディ部

出力順	項目の内容
1	ロール ID
2	ユーザー ID
3	名前
4	英語名
5	所属組織
6	役職
7	役職順位
8	メールアドレス
9	電話番号
10	電話番号 2
11	コメント

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssmemberlist コマンドは、二つ以上同時に実行できません。

注意事項

- jssmemberlist コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、メンバー一覧の出力に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jssmemberlist コマンドで一度に出力できるメンバー数は最大 65,530 件です。65,531 件以上のメンバー情報を出力したい場合は、-roleid オプションでメンバー数を絞り込み、jssmemberlist コマンドを複数回実行してください。
- 出力される情報に、UTF-8 にはマッピングされていて、Shift-JIS にはマッピングされていない文字を含む場合、出力される CSV ファイルの該当文字は「?」に変換されます。

使用例

ロール ID が「Role1」のロールに所属するユーザーの一覧を、メンバー一覧ファイル（c:¥member¥member01.csv）に出力する場合の実行例を次に示します。

```
jssmemberlist -o c:¥member¥member01.csv -roleid Role1
```

jssnodecount (管理ノード数のカウント)

機能

JP1/Service Support に登録されている管理ノード数をカウントして、結果を出力します。なお、管理ノードとは、プロセスワークボードに対して「案件の参照」以外のアクセス権を持つユーザーおよびロールのメンバーです。複数のプロセスワークボードに対して「案件の参照」以外のアクセス権を持つユーザーは、一人としてカウントします。

形式

```
jssnodecount
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
42	管理ノード数の取得に失敗
43	すでに同じコマンドを実行中
85	必要な権限が OS ユーザーにない
86	JP1/SS との接続に失敗
127	コマンドの実行に失敗

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssnodecount コマンドは、二つ以上同時に実行できません。
- クラスタ環境の場合は、実行系で実行してください。

注意事項

- jssnodecount コマンドは、jssaclexport (アクセス権情報エクスポート) コマンドおよび jssmemberlist (メンバー一覧出力) コマンドと同時に実行できません。同時に実行した場合は、あとから実行したコマンドが失敗します。

- jssnodecount コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、管理ノード数は出力されません。
- jssnodecount コマンドの実行中に次の操作を実施した場合、出力される管理ノード数に操作結果が反映されないことがあります。
 - ユーザーの削除
 - ロールに所属するメンバーの追加
 - ロールに所属するメンバーの削除
 - ユーザーのアクセス権の変更

使用例

JP1/Service Support に登録されている管理ノード数をカウントする場合のコマンドの指定例を次に示します。

```
jssnodecount
```

jssrev (案件一括削除取り消し)

機能

削除待ち状態の案件を削除待ち状態から解除します。

形式

```
jssrev [{"-s -id システムID | -p -id プロセスワークボードID  
[-n プロセスワークボード内通し番号]]  
-item
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-s -id システム ID

対象システムを選択して、案件の削除待ち状態を解除するときに指定します。システム ID は 1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-p -id プロセスワークボード ID

プロセスワークボードを選択して、案件の削除待ち状態を解除するときに指定します。プロセスワークボード ID は 1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字で指定します。

-n プロセスワークボード内通し番号

選択したプロセスワークボードから、一つの案件を選択して削除待ち状態を解除するときに指定します。プロセスワークボード内通し番号については、「[3.2.2 プロセスワークボードに登録された案件の一覧表示](#)」を参照してください。

-item

削除待ち状態を解除するときに指定します。必ず指定してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssrev コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。
- jssrev コマンドは、二つ以上同時に実行できません。

注意事項

- jssrev コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、その時点までの案件の削除待ち状態を解除してコマンドが終了します。
- jssrev コマンドで案件の削除待ち状態を解除する場合、更新日時が jssrev コマンドの実行日時に更新されます。jssrev コマンドの実行によって、更新日時が更新されたことで問題がある場合、jssitemdeletion コマンドの実行前に取得しておいたバックアップファイルでリカバリーしてください。

jssroleimport (ロール情報インポート)

機能

JP1/Service Support に、新しくロール情報を登録します。

形式

```
jssroleimport -i ロール情報入力ファイル名
[-f]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-i ロール情報入力ファイル名

ロール情報入力ファイル名を 255 バイト以内で指定します。ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。また、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。なお、ロール情報入力ファイル名に全角文字が含まれる場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。ロール情報入力ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[ロール情報入力ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

-f

データ内容に誤りがある場合も処理を継続する場合に指定します。-f オプションを指定すると、データ中のロール情報が不正な場合でも処理を継続して、次のロール情報を登録します。

-f オプションを省略した場合は、ロール情報を登録する途中で一つでもロール情報の登録に失敗すると、処理は中断され、その時点以降のロール情報は登録されません。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。

- jssroleimport コマンドは、二つ以上同時に実行できません。

注意事項

- jssroleimport コマンドの実行中に処理を中止すると、その時点以降のロール情報は登録されません。
- jssroleimport コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、ロール情報のインポートに失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- 入力ファイルとして 0 バイトのファイルを指定した場合、インポートした件数が 0 件で正常終了します。

使用例

ロール情報入力ファイル (c:¥role¥role01.csv) を、ロール情報の内容に誤りがある場合も続けて登録するときの指定例を次に示します。

```
jssroleimport -i c:¥role¥role01.csv -f
```

jssrolelist (ロール一覧出力)

機能

JP1/Service Support に登録されているロールの一覧を CSV ファイルで出力します。コマンドの実行中に処理を中止すると、中止する直前までのロール一覧を出力します。

形式

```
jssrolelist -o ロール一覧ファイル名
[-f]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-o ロール一覧ファイル名

出力するロール一覧の CSV ファイルのファイル名を 255 バイト以内で指定します。ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。また、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。なお、ロール一覧ファイル名に全角文字が含まれる場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。

-f

ファイルを上書きする場合に指定します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

ロール一覧ファイルの内容

ロール一覧ファイルには次のような形式でデータが出力されます。

ヘッダー部	#"JP1/Service Support","100000","MS932","ROLELIST" #"Total Count of Roles : 3"
ボディ部	#"ロールID","ロール名","コメント" "Role1","Role Name 1","First Role" "Role2","Role Name 2","Second Role" "Role3","Role Name 3","Third Role"

なお、CSV ファイルに出力されるボディ部の 1 行目には、属性名が出力されます。

出力される内容について説明します。

ヘッダー部

出力順	項目の内容	出力する値
1	製品名	JP1/Service Support
2	出力されるファイルのバージョン	出力されるファイルのバージョンを 6 けたの文字列で表す
3	ロール一覧ファイルの文字コード	出力されるファイルの文字コード
4	出力データの種別	ROLELIST
5	出力したロール数	Total Count of Roles : 件数 (出力例) Total Count of Roles : 3

ボディ部

出力順	項目の内容
1	ロール ID
2	ロール名
3	コメント

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssroledlist コマンドは、二つ以上同時に実行できません。

注意事項

- jssroledlist コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、ロール一覧の出力に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- 出力される情報に、UTF-8 にはマッピングされていて、Shift-JIS にはマッピングされていない文字を含む場合、出力される CSV ファイルの該当文字は「?」に変換されます。

使用例

ファイルを上書きしてロール一覧ファイル (c:¥role¥role01.csv) に出力する場合の実行例を次に示します。

```
jssrolelist -o c:¥role¥role01.csv -f
```

jssuseredit (ユーザー情報編集)

機能

JP1/Service Support に登録されているユーザー情報を編集します。

形式

```
jssuseredit -i ユーザー情報編集ファイル名  
[-f]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-i ユーザー情報編集ファイル名

ユーザー情報編集ファイル名を 255 バイト以内で指定します。ユーザー情報編集ファイル名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。また、ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。なお、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。ユーザー情報編集ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「ユーザー情報編集ファイル (任意)」を参照してください。

-f

データ内容に誤りがある場合も処理を継続する場合に指定します。-f オプションを指定すると、データ中のユーザー情報が不正な場合でも処理を継続して、次のユーザー情報を編集します。

-f オプションを省略した場合は、ユーザー情報を編集する途中で一つでもユーザー情報の編集に失敗すると、処理は中断され、その時点以降のユーザー情報は編集されません。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。

- jssuseredit コマンドは、二つ以上同時に実行できません。

注意事項

- jssuseredit コマンドの実行中に処理を中止すると、その時点以降のユーザー情報は編集されません。
- jssuseredit コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、ユーザー情報の編集に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- 入力ファイルとして 0 バイトのファイルを指定した場合、編集した件数が 0 件で正常終了します。
- 入力するファイルは、コマンド実行時のシステムロケールに応じたファイルを指定してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

使用例

ユーザー情報編集ファイル (c:¥user¥user01.csv) で、ユーザーを編集する場合の実行例を次に示します。

```
jssuseredit -i c:¥user¥user01.csv
```

jssuserimport (ユーザー情報インポート)

機能

JP1/Service Support に、新しくユーザー情報を登録します。

形式

```
jssuserimport -i ユーザー情報入力ファイル名  
[-f]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-i ユーザー情報入力ファイル名

ユーザー情報入力ファイル名を 255 バイト以下の文字列で指定します。ユーザー情報入力ファイル名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。また、ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。なお、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。ユーザー情報入力ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「ユーザー情報入力ファイル (任意)」を参照してください。

-f

データ内容に誤りがある場合も処理を継続する場合に指定します。-f オプションを指定すると、データ中のユーザー情報が不正な場合でも処理を継続して、次のユーザー情報を登録します。

-f オプションを省略した場合は、ユーザー情報を登録する途中で一つでもユーザー情報の登録に失敗すると、処理は中断され、その時点以降のユーザー情報は登録されません。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssuserimport コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。

注意事項

- jssuserimport コマンドの実行中に処理を中止すると、その時点以降のユーザー情報は登録されません。
- jssuserimport コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、ユーザー情報入力ファイルで指定したユーザーの登録に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- 入力ファイルとして 0 バイトのファイルを指定した場合、インポートした件数が 0 件で正常終了します。
- 入力するファイルは、コマンド実行時のシステムロケールに応じたファイルを指定してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

使用例

ユーザー情報入力ファイル (c:¥user¥user01.csv) を、ユーザー情報の内容に誤りがある場合も続けて登録する場合の指定例を次に示します。

```
jssuserimport -i c:¥user¥user01.csv -f
```

jssuserlist (ユーザー一覧出力)

機能

JP1/Service Support に登録されているユーザーの一覧を CSV ファイルで出力します。コマンドの実行中に処理を中止すると、中止する直前までのユーザー一覧を出力します。

形式

```
jssuserlist -o ユーザー一覧ファイル名  
                [-format {import | edit}]  
                [-f]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-o ユーザー一覧ファイル名

出力するユーザー一覧の CSV ファイルのファイル名を 255 バイト以内で指定します。ユーザー一覧ファイル名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。また、ファイル名は絶対パス、または相対パスで指定できますが、相対パスで指定した場合も、絶対パスに変換したあとの文字列が 255 バイト以下になるように指定してください。なお、ファイル名に「-」で始まる文字列は指定できません。

-format {import | edit}

出力するユーザー一覧の CSV ファイルのフォーマットを指定します。

import を指定した場合、jssuserimport (ユーザー情報インポート) コマンドでそのまま使用できるフォーマットで出力します。

edit を指定した場合は、jssuseredit (ユーザー情報編集) コマンドでそのまま使用できるフォーマットで出力します。

このオプションを省略すると、import が指定されたものとして動作します。

-f

ファイルを上書きする場合に指定します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

ユーザー一覧ファイルの内容

-format の指定がない、または-format で import を指定した場合の出力ファイルの形式

-format の指定がない、または-format で import を指定した場合の出力ファイルは、jssuserimport (ユーザー情報インポート) コマンドの入力ファイルとしてそのまま使用できます。

ユーザー一覧ファイルには次のような形式でデータが出力されます。

ヘッダー部	<pre>#"JP1/Service Support","100000","MS932","USERLIST" #"Total Count of Users : 2"</pre>
ボディ部	<pre>"ID","名前","英語名","所属組織","役職","役職順位","メールアドレス","電話番号","電話番号2","コメント" "10009","代々木一郎","Ichiro Yoyogi","システム開発部","部長","1","XXXXXX@hitachi.com","〇〇〇-△△△-××××","","" "10010","戸塚友三","Tomozo Totsuka","システム開発部","課長","2","XXXXXX@hitachi.com","〇〇〇-△△△-××××","",""</pre>

なお、CSV ファイルに出力されるボディ部の 1 行目には、属性名が出力されます。出力される内容について説明します。

ヘッダー部

出力順	項目の内容	出力する値
1	製品名	JP1/Service Support
2	出力されるファイルのバージョン	出力されるファイルのバージョンを 6 けたの文字列で表す
3	ユーザー一覧ファイルの文字コード	出力されるファイルの文字コード
4	出力データの種別	USERLIST
5	出力したユーザー数	Total Count of Users : 件数 (出力例) Total Count of Users : 2

ボディ部

出力順	項目の内容
1	ユーザー ID
2	名前
3	英語名
4	所属組織
5	役職

出力順	項目の内容
6	役職順位
7	メールアドレス
8	電話番号
9	電話番号 2
10	コメント

-format で edit を指定した場合の出力ファイルの形式

-format で edit を指定した場合の出力ファイルは、jssuseredit (ユーザー情報編集) コマンドの入力ファイルとしてそのまま使用できます。

ユーザー一覧ファイルには次のような形式でデータが出力されます。

ヘッダー部	<pre>#"JP1/Service Support","100000","MS932","USERLIST" #"Total Count of Users : 2"</pre>
ボディ部	<pre>#"編集対象ID","ID","名前","英語名","所属組織","役職","役職順位" ,"メールアドレス","電話番号","電話番号2","コメント" "10009","10009","代々木一郎","Ichiro Yoyogi","システム開発部" ,"部長","1","XXXXXX@hitachi.com","〇〇〇-△△△- ××××","","" "10010","10010","戸塚友三","Tomozo Totsuka","システム開発部"," 課長","2","XXXXXX@hitachi.com","〇〇〇-△△△- ××××","",""</pre>

なお、CSV ファイルに出力されるボディ部の 1 行目には、属性名が出力されます。

出力される内容について説明します。

ヘッダー部

ヘッダー部については、「-format の指定がない、または -format で import を指定した場合」と同じ内容が出力されます。

ボディ部

出力順	項目の内容
1	編集対象ユーザー ID
2	ユーザー ID
3	名前
4	英語名
5	所属組織
6	役職
7	役職順位
8	メールアドレス
9	電話番号

出力順	項目の内容
10	電話番号 2
11	コメント

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssuserlist コマンドは、二つ以上同時に実行できません。

注意事項

- jssuserlist コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、ユーザー一覧の出力に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- 出力される情報に、UTF-8 にはマッピングされていて、Shift-JIS にはマッピングされていない文字を含む場合、出力される CSV ファイルの該当文字は「?」に変換されます。

使用例

ユーザー情報インポートコマンドの入力ファイルとして使用できる形式のユーザー一覧を CSV (c:¥user ¥user01.csv) に出力する場合の実行例を次に示します。

```
jssuserlist -o c:¥user¥user01.csv
```

jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成)

機能

メールによる案件登録に必要な、マスターシステムと一時受付プロセスワークボードを作成します。

形式

```
jsscreatesysandpwb {-s | -p} -id ID
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-s

マスターシステムを作成するときに指定します。すでにマスターシステムが登録されている場合に-s オプションを指定すると、エラーになります。

マスターシステムを作成すると、次の項目が設定されます。

項目	設定される値
システム ID	コマンドの-id オプションの引数で指定された文字列
システム名	マスターシステム
コメント	メールによる案件機能のためのマスターシステム
状態	「使用中」

-p

一時受付プロセスワークボードを作成するときに指定します。一時受付プロセスワークボードを作成するには、マスターシステムが必要です。一時受付プロセスワークボードが使用するフォームは、インシデント管理プロセスに設定されたフォームになります。すでに一時受付プロセスワークボードが登録されている場合に-p オプションを指定すると、エラーになります。

一時受付プロセスワークボードを作成すると、次の項目が設定されます。

項目	設定される値
プロセスワークボード ID	コマンドの-id オプションの引数で指定された文字列
システム名	マスターシステム
プロセス	インシデント管理プロセスの表示名
状態	「運用中」
プロセスワークボード管理者	JP1 管理者
メールから登録された案件の担当者	JP1 管理者
コメント	メールによる案件機能のための一時受付プロセスワークボード
案件集計に関する設定	プロパティファイルの設定
案件自動入力に関する設定	プロパティファイルの設定
使用するフォーム	インシデントプロセスの標準フォーム
JP1 イベント発行に関する設定	JP1 イベントは発行しない設定
期限前通知に関する設定	期限前通知は行わない設定

-id ID

ID を指定します。ID として指定できる文字列は、1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字です。-s オプションを指定している場合は、システム ID となります。-p オプションを指定している場合は、プロセスワークボード ID となります。

すでに登録されているシステム ID、またはプロセスワークボード ID を指定すると、エラーになります。

戻り値

戻り値	意味
0	コマンドの実行に成功
1	システム ID が重複しているため、マスターシステムの作成に失敗
2	プロセスワークボード ID が重複しているため、一時受付プロセスワークボードの作成に失敗
3	すでにマスターシステムが存在するため、マスターシステムの作成に失敗
4	すでに一時受付プロセスワークボードが存在するため、一時受付プロセスワークボードの作成に失敗
5	不正なシステム ID が設定されているため、マスターシステムの作成に失敗
6	不正なプロセスワークボード ID が設定されているため、一時受付プロセスワークボードの作成に失敗
7	マスターシステムが存在しないため、一時受付プロセスワークボードの作成に失敗
8	マスターシステムの状態が「削除待ち」のため、一時受付プロセスワークボードの作成に失敗
9	すでにコマンドが起動中のため、コマンドの実行に失敗

戻り値	意味
10	そのほかの要因で、コマンドの実行に失敗
11	「マスターシステム」と同じ名前のシステムがすでに存在しているため作成に失敗

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jsscreatesysandpwb コマンドは、二つ以上同時に実行できません。

注意事項

- jsscreatesysandpwb コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、マスターシステム・一時受付プロセスワークボードの作成に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。

jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)

機能

JP1/Service Support のデータベースのバックアップを取得します。なお、案件保存 DB を使用している場合、案件管理 DB だけでなく案件保存 DB のバックアップも取得します。

このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jssdbbackup.bat {-f バックアップファイル名 | -o バックアップファイル出力先フォルダ
                 {-ALL | -mdb | -sdb} [-ow]}
                 {-maint | -expand}
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-f バックアップファイル名

バックアップした JP1/Service Support のデータベースを出力するファイル名を絶対パスで指定します。案件管理 DB だけでなく、案件保存 DB もバックアップされます。バックアップファイルの出力先フォルダは、コマンド実行前に作成しておいてください。

バックアップファイル名を指定するときは、次のことに注意してください。

- バックアップファイルの出力先には、必ずローカルドライブを指定してください。ネットワークドライブは指定できません。
- UNC パスでは指定できません。
- バックアップファイルのパスは、259 バイト以内の絶対パスで指定してください。また、フォルダに出力するバックアップファイル名は、255 バイト以内で指定してください。バックアップファイル名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。
- バックアップファイル名にマルチバイト文字は指定できません。また、OS で指定できない文字列も指定できません。
- 出力先のフォルダに、指定したバックアップファイル名と同一名称のファイルがある場合、同一名称のファイルを上書きしてバックアップファイルを作成します。ファイルを上書きしたくない場合は、別のバックアップファイル名を指定してコマンドを実行してください。

-o バックアップファイル出力先フォルダ

バックアップした JP1/Service Support のデータベースの出力先フォルダ名を絶対パスで指定します。バックアップファイル出力先フォルダは、コマンド実行前に作成しておいてください。なお、jssdbbackup.bat コマンドを実行すると、バックアップ取得時の状態を記録したファイル (dbpath.txt) が、バックアップ出力先フォルダに格納されます。dbpath.txt には、バックアップ取得時に指定したオプション情報、バックアップ取得時の案件管理 DB のデータベースサイズ、および案件保存 DB の拡張先フォルダ情報 (-dbpath オプションを指定した jssdbstatchk.bat (データベース状態確認) コマンドを実行したときに出力される情報と同様) が出力されます。指定したバックアップ出力先フォルダは、次に示すフォルダ構成となります。

バックアップファイル出力先フォルダ名

└ dbpath.txt	バックアップファイル取得時のデータベースの状態を記録したファイル
└ mdb_オプション※	案件管理DBのバックアップファイル出力先フォルダ
└ sdb_オプション※	案件保存DBのバックアップファイル出力先フォルダ

注※

maint または expand のどちらかとなります。

バックアップファイル出力先フォルダ名を指定するときは、次のことに注意してください。

- バックアップファイルの出力先には、必ずローカルドライブを指定してください。ネットワークドライブは指定できません。
- UNC パスは指定できません。
- バックアップファイル出力先フォルダのパスは、80 バイト以内の絶対パスで指定してください。バックアップファイル出力先フォルダ名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。

-ALL

案件管理 DB と案件保存 DB の両方をバックアップしたい場合に指定します。

-mdb

案件管理 DB だけをバックアップしたい場合に指定します。また、案件管理 DB のバックアップ出力先フォルダだけでなく、案件保存 DB のバックアップ出力先フォルダも作成されます。ただし、ファイルは作成されません。

-sdb

案件保存 DB だけをバックアップしたい場合に指定します。また、案件保存 DB のバックアップ出力先フォルダだけでなく、案件管理 DB のバックアップ出力先フォルダも作成されます。ただし、ファイルは作成されません。

-maint

JP1/Service Support のデータベースの障害復旧をするために、バックアップファイルを作成する場合に指定します。

-expand

JP1/Service Support のデータベースを拡張または異なるサーバ間で移行するために、バックアップファイルを作成する場合に指定します。

-ow

-o オプションで指定したバックアップファイル出力先フォルダにすでにバックアップファイルが存在した場合、バックアップファイルを上書きするときに指定します。-o オプションで指定したバックアップファイル出力先フォルダにすでにバックアップファイルが存在した場合にこのオプションを省略してコマンドを実行すると、エラー終了します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。
- jssdbbackup.bat コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。
- jssdbbackup.bat コマンドで -expand オプションを指定する場合、次の事項に注意してください。
 - -expand オプションを指定してバックアップを取得する前に、-maint オプションを指定してバックアップを取得してください。
 - 同サイズのデータベースへリカバリーしようとする、リカバリーに失敗するおそれがあります。同サイズのデータベースへのバックアップ・リカバリー時は -maint オプションを使用してください。
- 異なるバージョンの環境で取得したバックアップファイルはリカバリーできません。同じバージョンの環境でバックアップとリカバリーを実行してください。異なるバージョンの環境で取得したバックアップファイルを使って、jssdbrecovery コマンドを実行し、JP1/Service Support を運用し続けた場合、その間にデータベースに登録されたデータやデータベースの状態が異常となります。

注意事項

- jssdbbackup.bat コマンドを実行すると、システム内部で複数の子プロセスが起動します。[Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合も、子プロセスは実行を継続します。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、maint オプション指定時は「pdcopy」というプロセスが実行していないこと、expand オプション指定時は「pdrorg」というプロセスが実行していないことを確認し、しばらく時間を置いてから JP1/Service Support - DB Service サービスを再起動してください。

- jssdbbackup.bat コマンドの実行時に KNAB26102-E のエラーメッセージが出力された場合は、次の原因に該当するかどうかを調査し、該当する場合は対策を実施してからコマンドを再実行してください。
 - ファイル名を相対パスで指定している。
 - バックアップファイル名にフォルダを指定している。
 - UNC パス指定になっている。
 - 絶対パスで指定したバックアップファイル名が、259 バイトを超えている。
 - フォルダに出力するバックアップファイル名が 255 バイトを超えている。
 - ファイル名にマルチバイト文字を指定している、または OS で指定できない文字列を指定している。
 - ファイルを出力するドライブの空き容量が足りない。
- jssdbbackup.bat コマンドの -maint オプションを指定した場合、次の事項に注意してください。
 - -f オプションで指定するバックアップファイル名に大文字が含まれていた場合、小文字に変換されたファイル名でバックアップファイルが作成されます。
- 案件管理 DB を拡張する場合の手順は、「11.2.4 案件管理 DB のサイズ拡張」を参照してください。
- -expand オプションを指定して jssdbbackup.bat コマンドを実行してバックアップファイルを取得する場合、データベースの再編成も同時に実行されます。そのため、バックアップファイルを jssdbrecovery.bat コマンドを使用してリカバリーする場合、バックアップ前にデータベースで使用していた容量よりも多くの容量が必要となるときがあり、リカバリーに失敗するおそれがあります。この場合、次の手順を実行してください。
 1. -maint オプションを指定して取得したバックアップファイルを、jssdbrecovery.bat コマンドを使用してリカバリーする。
 2. jssitemdeletion コマンドを実行し、不要な案件データを削除待ち状態にする。
 3. jssdelrec コマンドを実行し、削除待ち状態のデータを削除する。
 4. -expand オプションを指定して jssdbbackup.bat コマンドを実行する。
 5. 4 の手順で取得したバックアップファイルをリカバリーする。
- -o オプションを指定して jssdbbackup.bat コマンドを実行する場合、毎回別の出力先フォルダ（空のフォルダ）を用意してください。また、バックアップファイル出力先フォルダに格納されたフォルダやファイルの名称を変更しないでください。それらを変更すると、リカバリーに失敗するおそれがあります。
- JP1/Service Support サービスおよび JP1/Service Support-Web Service サービスの実行中に -sdb オプションを指定した jssdbbackup.bat コマンドを実行する場合、次の事項に注意してください。
 - jssdbbackup.bat コマンドの実行中に、サービスを起動したり停止したりしないでください。
 - jssdbbackup.bat コマンドの実行中に、案件保存 DB を更新する操作（jssitemstore（案件保存）コマンドおよび jssstoreitemdel.bat（保存案件一括削除）コマンドの実行）をしないでください。案件保存 DB を更新するコマンドを実行した場合は、それらのコマンドがエラー終了します。

使用例

バックアップファイル (c:¥backup¥backup) を作成する場合の指定例を次に示します。

```
jssdbbackup.bat -f c:¥backup¥backup -maint
```

jssdbinit.bat (データベース初期化)

機能

JP1/Service Support のデータベースを初期化します。なお、案件保存 DB を使用している場合、案件管理 DB の初期化だけでなく、案件保存 DB を削除します。このため、案件保存 DB を再度使用するには、案件保存 DB を構築する必要があります。

このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。また、JP1/Service Support の製品によって、指定できる引数が異なります。

形式

```
jssdbinit.bat -s {S | M | L | LL | XL}
                [-t] [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-s {S | M | L | LL | XL}

案件管理 DB のサイズを指定します。

それぞれの値を指定した場合のサイズを次の表に示します。

サイズに指定する値	サイズ
S	5 ギガバイト
M	30 ギガバイト
L	71 ギガバイト
LL	152 ギガバイト
XL	162 ギガバイト

案件管理 DB サイズの判断基準については、「[5.12.5 案件管理 DB のサイズの判断基準](#)」を参照してください。

-t

メールによる案件登録をする場合にだけ指定します。-t オプションを指定すると、メールによる案件登録に必要なマスターシステムと一時受付プロセスワークボードが作成されます。-t オプションを省略すると、マスターシステムと一時受付プロセスワークボードは作成されません。

なお、セットアップコマンドの実行後にマスターシステムと一時受付プロセスワークボードを作成する場合は、jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成) コマンドを実行してマスターシステム・一時受付プロセスワークボードを作成してください。jsscreatesysandpwb の詳細については、「12. コマンド」の「jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成)」を参照してください。

-q

応答メッセージを表示しないで、データベースの初期化を続行する場合に指定します。

-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。
- jssdbinit.bat コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。

注意事項

- jssdbinit.bat コマンドを実行すると、システム内部で複数の子プロセスが起動します。[Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合も、子プロセスは実行を継続します。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jssdbinit.bat コマンドを実行する際、案件管理 DB のサイズごとにメモリ必要量が異なります。メモリ必要量の詳細については、リリースノートを参照してください。

使用例

案件管理 DB を M サイズで初期化する場合の指定例を次に示します。

```
jssdbinit.bat -s M
```

jssdbreclaim.bat (案件管理 DB 空き領域解放)

機能

案件管理 DB からデータを削除した際に発生する、空き領域を解放します。このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jssdbreclaim.bat -sys
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-sys

案件管理 DB の空き領域を解放するときに指定します。この引数は必ず指定してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssdbreclaim.bat コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。
- jssdbreclaim.bat コマンドは、参照および更新が少ない時間帯に実行することをお勧めします。

注意事項

- jssdbreclaim.bat コマンドを実行すると、システム内部で子プロセスが起動します。[Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合も、子プロセスは実行を継続します。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。

jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)

機能

JP1/Service Support のデータベースをリカバリーします。このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jssdbrecovery.bat {-f バックアップファイル名 |  
-i バックアップファイル出力先フォルダ名 {-ALL | -mdb | -sdb}}  
{-maint | -expand}
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-f バックアップファイル名

JP1/Service Support のデータベースのバックアップファイル名を絶対パスで指定します。案件保存 DB を使用している場合、案件管理 DB だけでなく、案件保存 DB もリカバリーされます。

バックアップファイル名を指定するときは、次のことに注意してください。

- JP1/Service Support のデータベースの格納先フォルダは、バックアップ時と同じフォルダを指定してください。
- バックアップファイルの格納先には、必ずローカルドライブを指定してください。ネットワークドライブは指定できません。
- UNC パスでは指定できません。
- バックアップファイルのパスは、259 バイト以内の絶対パスで指定してください。また、フォルダに格納したバックアップファイル名は、255 バイト以内で指定してください。バックアップファイル名が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。
- バックアップファイル名にマルチバイト文字は指定できません。また、OS で指定できない文字列も指定できません。
- jssdbbackup.bat コマンドに -o オプションを指定して取得したバックアップファイルは、jssdbrecovery.bat コマンドの -f オプションのバックアップファイルに指定できません。

-i バックアップファイル出力先フォルダ名

JP1/Service Support のデータベースのバックアップファイル出力先フォルダ名を絶対パスで指定します。jssdbbackup.bat コマンドに-o オプションを指定して作成したバックアップファイルをリカバリーするときに指定します。

バックアップファイル出力先フォルダ名を指定するときは、次のことに注意してください。

- バックアップファイル出力先フォルダは、jssdbbackup コマンドの-o オプションを指定してバックアップしたバックアップ出力先と同じフォルダを指定してください。また、このバックアップ出力先フォルダ内のファイル名およびフォルダ名は変更しないでください。
- バックアップファイルの格納先には、必ずローカルドライブを指定してください。ネットワークドライブは指定できません。
- UNC パスでは指定できません。

-ALL

-i オプションで指定したバックアップファイル出力先フォルダに格納されている案件管理 DB と案件保存 DB のバックアップファイルをリカバリーしたい場合に指定します。

-mdb

-i オプションで指定したバックアップファイル出力先フォルダに格納されている案件管理 DB のバックアップファイルをリカバリーしたい場合に指定します。

-sdb

-i オプションで指定したバックアップファイル出力先フォルダに格納されている案件保存 DB のバックアップファイルをリカバリーしたい場合に指定します。

-maint

jssdbbackup.bat コマンドの-maint オプションを指定して作成したバックアップファイルをリカバリーするときに指定します。

-expand

jssdbbackup.bat コマンドの-expand オプションを指定して作成したバックアップファイルをリカバリーするときに指定します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。
- jssdbrecovery.bat コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。
- -f オプションで指定するバックアップファイル名の、大文字・小文字は区別されません。
- jssdbbackup.bat コマンド実行時に指定したバックアップオプションによって、取得できるバックアップファイルが異なります。このため、jssdbbackup.bat コマンド実行時に指定したバックアップオプションによって、jssdbrecovery.bat コマンドで指定できるオプションが異なります。jssdbbackup.bat コマンドで指定したバックアップオプションごとに jssdbrecovery.bat コマンドで指定できるリカバリーオプションを、次の表に示します。

表 12-12 バックアップオプション (jssdbbackup.bat コマンド) ごとに指定できるリカバリーオプション (jssdbrecovery.bat コマンド)

項番	バックアップオプション (jssdbbackup.bat コマンド)		リカバリーオプション (jssdbrecovery.bat コマンド)								
			-f		-i						
			-maint	-expand	-ALL		-mdb		-sdb		
					-maint	-expand	-maint	-expand	-maint	-expand	
1	-f	-maint	○	×	×	×	×	×	×	×	
2		-expand	×	○*	×	×	×	×	×	×	
3	-o	-ALL	-maint	×	×	○	×	○	×	○	×
4			-expand	×	×	×	○*	×	○	×	○*
5		-mdb	-maint	×	×	×	×	○	×	×	×
6			-expand	×	×	×	×	×	○	×	×
7		-sdb	-maint	×	×	×	×	×	×	○	×
8			-expand	×	×	×	×	×	×	×	○

(凡例)

- ：指定できる
- ×：指定できない

注※

次に示すデータベースサイズで取得したバックアップデータを使用して「XL」サイズにリカバリーできません。

- ・S
- ・M
- ・L

・LL

-maint オプションを指定してリカバリーする場合、バックアップ取得時と同じデータベースサイズにする必要があります。また、案件保存 DB をリカバリーする場合は、バックアップ取得時と同じデータベース構成（拡張回数および拡張先ディレクトリ）にする必要があります。

-expand オプションを指定してリカバリーする場合、バックアップ取得時のデータベースサイズよりも小さいサイズのデータベースにリカバリーしないでください。

- jssdbrecovery.bat コマンドの実行時には一時ファイルが作成されます。そのため、JP1/Service Support のインストール先フォルダには、案件管理 DB のサイズによって次の空き容量が必要です。
 - 案件管理 DB が S サイズの場合：250 メガバイト
 - 案件管理 DB が M サイズの場合：450 メガバイト
 - 案件管理 DB が L サイズの場合：900 メガバイト
 - 案件管理 DB が LL サイズの場合：1.8 ギガバイト
 - 案件管理 DB が XL サイズの場合：1.8 ギガバイト
- 異なるバージョンの環境で取得したバックアップファイルはリカバリーできません。同じバージョンの環境でバックアップとリカバリーを実行してください。異なるバージョンの環境で取得したバックアップファイルを使って、jssdbrecovery コマンドを実行し、JP1/Service Support を運用し続けた場合、その間にデータベースに登録されたデータやデータベースの状態が異常となります。
- 案件管理 DB と案件保存 DB は別々にリカバリーできますが、jssitemstore（案件保存）コマンド実行前のバックアップファイルと実行後のバックアップファイルでそれぞれのデータベースをリカバリーするとデータの不整合が起こるおそれがあります。このため、案件管理 DB と案件保存 DB の両方をリカバリーする場合は、jssitemstore（案件保存）コマンドの実行前と実行後のバックアップファイルを使用しないでください。案件保存 DB のリカバリーについては、「11.2.15 案件保存 DB 使用時のリカバリー」を参照してください。

注意事項

- jssdbrecovery.bat コマンドを実行すると、システム内部で複数の子プロセスが起動します。[Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合も、子プロセスは実行を継続します。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、maint オプション指定時は「pdrstr」というプロセスが実行していないこと、expand オプション指定時は「pdrorg」というプロセスが実行していないことを確認し、しばらく時間を置いてから JP1/Service Support - DB Service を再起動してください。
- jssdbrecovery.bat コマンドの実行時に KNAB26103-E のエラーメッセージが出力された場合は、次の原因に該当するかどうかを調査し、該当する場合は対策を実施してからコマンドを再実行してください。
 - ファイル名を相対パスで指定している。
 - バックアップファイル名にフォルダを指定している。
 - UNC パス指定になっている。

- 絶対パスで指定したバックアップファイル名が、259 バイトを超えている。
 - フォルダに格納したバックアップファイル名が 255 バイトを超えている。
 - ファイル名にマルチバイト文字が含まれている、または OS で指定できない文字列を指定している。
- KNAB26103-E のエラーメッセージが出力された場合、次の要因が挙げられます。原因を取り除き、コマンドを再度実行してください。
 - jssdbbackup.bat コマンドの-maint オプションを指定して作成したバックアップファイルを、-expand を指定してリカバリーした場合。
 - jssdbbackup.bat コマンドの-expand オプションを指定して作成したバックアップファイルを、-maint を指定してリカバリーした場合。
 - バックアップを行ったデータベースのサイズより、小さいサイズのデータベースにリカバリーした場合。
 - 案件管理 DB を拡張する場合の手順は、「11.2.4 案件管理 DB のサイズ拡張」を参照してください。
 - リカバリー後は、JP1/Service Support の運用時にメイン画面（案件状況）が表示されるかどうかを確認してください。
 - -expand オプションを指定して jssdbbackup.bat コマンドを実行してバックアップファイルを取得する場合、データベースの再編成も同時に実行されます。そのため、バックアップファイルを jssdbrecovery.bat コマンドを使用してリカバリーする場合、バックアップ前に案件管理 DB で使用していた容量よりも多くの容量が必要となるときがあり、リカバリーに失敗するおそれがあります。この場合、次の手順を実行してください。
 1. -maint オプションを指定して取得したバックアップファイルを、jssdbrecovery.bat コマンドを使用してリカバリーする。
 2. jssdelrec コマンドを実行し、削除待ち状態のデータを削除する。
 3. jssitemdeletion コマンドを実行し、不要な案件データを削除する。
 4. -expand オプションを指定して jssdbbackup.bat コマンドを実行する。
 5. 4 の手順で取得したバックアップファイルをリカバリーする。

使用例

バックアップファイル (c:¥backup¥backup) を使用して案件管理 DB のデータをリカバリーするときの指定例を次に示します。

```
jssdbrecovery.bat -f c:¥backup¥backup -maint
```

jssdborg.bat (案件管理 DB 再編成)

機能

案件管理 DB からデータを追加・削除したときに断片化された空き領域を再編成します。このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jssdborg.bat -sys
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-sys

案件管理 DB の再編成を実行するときに指定します。この引数は必ず指定してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。
- jssdborg.bat コマンド実行前に、-maint を指定して jssdbbackup.bat コマンドを実行し、バックアップファイルを取得してください。jssdbbackup.bat コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssdbbackup.bat (データベースバックアップ)」を参照してください。
- jssdborg.bat コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。
- jssdborg.bat コマンドの実行時には一時ファイルが作成されます。そのため、JP1/Service Support のインストール先フォルダには、案件管理 DB のサイズによって次の空き容量が必要です。
 - 案件管理 DB が S サイズの場合：2.8 ギガバイト

- 案件管理 DB が M サイズの場合：16.5 ギガバイト
- 案件管理 DB が L サイズの場合：40.5 ギガバイト
- 案件管理 DB が LL サイズの場合：80.0 ギガバイト
- 案件管理 DB が XL サイズの場合：80.0 ギガバイト

注意事項

- jssdborg.bat コマンドを実行すると、システム内部で複数の子プロセスが起動します。[Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合も、子プロセスは実行を継続します。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、「pdrorg」というプロセスが実行していないことを確認し、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jssdborg.bat コマンドの実行時に、JP1/Service Support をインストールしたディスクに再編成実行用の領域が確保できない場合は、次の手順で再編成実行用の一時ファイルの出力先フォルダを変更してください。

1. JP1/SS パス¥conf¥setup¥jssdborgpath.bat を開く。

2. 6 行目の「@set CHANGEPATH=」の後ろに、一時ファイルを出力するフォルダを、絶対パスで指定する。

3. 7 行目の先頭にある「@rem」を削除する。

4. ファイルを上書きして保存する。

出力先フォルダを変更しない場合は、次のパスが出力先フォルダになります。

- 単体構成運用の場合：JP1/SS パス¥log¥command
- クラスタ運用の場合：共有ディスクでの共有ファイル格納先フォルダ¥log¥command
- 再編成実行用の一時ファイルの出力先フォルダを変更しているときに、KNAB26105-E のエラーメッセージが出力された場合、次の要因が挙げられます。
 - 出力先フォルダに指定したドライブの空き容量が不足している。
 - 出力先フォルダに、ファイルを指定している。
 - 出力先フォルダに、ディスクドライブ直下を指定している。
 - 出力先フォルダに、ネットワークドライブを指定している。
 - 出力先フォルダに、マルチバイト文字を含む文字列、または OS で指定できない文字列を指定している。
 - 出力先フォルダに、次に示す文字列以外を含む文字列を指定している。
 - 半角英数字
 - 半角スペース
 - 半角記号
 - ¥, @, #, ., ()

- 出力先フォルダに指定したドライブが存在しない。
- 出力先フォルダに、UNC パスを指定している。
- 出力先フォルダに、180 バイト以上の文字列を指定している。

これらのどれかに該当する場合は、まず、jssdborg.bat コマンドを実行する前に取得したバックアップファイルでリカバリーを実行してください。次にエラー要因を取り除き、再度 jssdborg.bat コマンドを実行してください。

- 案件管理 DB の容量が上限に近い状態で、jssdborg.bat コマンドを実行すると、データベースの再編成に失敗する場合があります。jssdelrec コマンドを実行し、不要な案件を削除してからコマンドを再実行してください。

jssdbstatck.bat (データベース状態確認)

機能

案件管理 DB および案件保存 DB の状態を確認できます。次に示す情報が、標準出力に出力されます。なお、案件保存 DB の情報は、案件管理 DB のサイズが XL の場合に確認できます。

- 案件管理 DB および案件保存 DB の案件領域と添付ファイル領域のデータベース容量。
- 案件管理 DB および案件保存 DB の案件領域と添付ファイル領域のデータベース使用率。
- 案件保存 DB の保存エリアの状況 (active/inactive)。
- 案件保存 DB の案件領域と添付ファイル領域の拡張回数。
- 案件管理 DB および案件保存 DB に保存されている案件の登録日時の範囲。
- 案件管理 DB と案件保存 DB の格納先ディレクトリのパス。

このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jssdbstatck.bat {-state | -dbpath}
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-state

案件管理 DB と案件保存 DB の状態を確認したい場合に指定します。

-dbpath

案件管理 DB と案件保存 DB の格納先ディレクトリを確認したい場合に指定します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

戻り値	意味
2	コマンドが実行中

出力されるデータベース状態の内容

指定するオプションによって、出力されるデータベース状態の情報が異なります。データベース状態の出力情報を、次の表に示します。

表 12-13 データベース状態の出力情報

項番	出力情報※1	説明	指定オプション
1	データベース名 (DBtype)	対象のデータベース名がヘッダーとして出力されます。出力されるデータベース名を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • itemmanageDB：案件管理 DB • itemstoreDB(A)※2：案件保存 DB 	—
2	データベース容量 (dbcapacity)	対象データベースの案件領域と添付ファイル領域のデータベース容量 (GB) が出力されます。なお、案件保存 DB がセットアップされていない場合は、「N/A」が出力されます。	-state
3	データベース容量使用率 (dbusage)	対象データベースの案件領域と添付ファイル領域のデータベースの使用率 (%) が出力されます。なお、案件保存 DB がセットアップされていない場合は、「N/A」が出力されます。	-state
4	案件保存 DB の保存エリアの状態 (active/inactive)	対象データベースが案件保存 DB の場合、保存エリアの状態が表示されます。出力される状態を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • active：使用中の保存エリア（更新操作の対象となる保存エリア） • inactive：使用していない保存エリア • N/A：セットアップされていない保存エリア 	-state
5	案件保存 DB の拡張回数 (expandtime)	対象データベースが案件保存 DB の場合、保存エリアの案件領域および添付ファイル領域の拡張回数が表示されます。なお、案件保存 DB の保存エリアがセットアップされていない場合は、「N/A」が表示されます。セットアップされていても拡張されていない場合は、「0」が表示されます。	-state
6	登録案件内容 (itemrange)	対象のデータベースに登録されている案件の登録日時の範囲が出力されます。登録日時の範囲は、最も古い登録日時と最も新しい登録日時が、「yyyy/mm/dd-yyyy/mm/dd」の形式で出力されます。 なお、案件管理 DB の場合、次に示す案件は対象外となります。 <ul style="list-style-type: none"> • 削除待ち案件 • 削除待ちプロセスワークボードに登録されている案件 	-state
7	データベースの格納先ディレクトリ	対象のデータベースの格納先ディレクトリが出力されます。案件管理 DB の場合、案件管理 DB のセットアップ先ディレクトリが出力されます。案件保存 DB の場合は、案件保存 DB	-dbpath

項番	出力情報※1	説明	指定オプション
7	(dbsetupdir, dbsetupdir[local], dbsetupdir[share], dbexpanddir, または dbexpanddir[share])	<p>のセットアップ先ディレクトリと拡張先ディレクトリ情報が出力されます。</p> <p>クラスタ構成の場合、次に示す案件管理 DB のセットアップディレクトリ情報が出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルディスク上の案件管理 DB の格納先ディレクトリ (ヘッダー名: dbsetupdir[local]) 共有ディスク上の案件管理 DB の格納先ディレクトリ (ヘッダー名: dbsetupdir[share]) <p>また、クラスタ構成の場合、案件保存 DB のセットアップ先ディレクトリおよび拡張先ディレクトリ情報のヘッダー名に [share] が付きます。</p> <p>データベースがセットアップされていない場合は、「N/A」が出力されます。この場合、拡張先ディレクトリ情報は出力されません。</p>	-dbpath

(凡例)

－：該当なし

注※1

括弧内は、データベース情報のヘッダー名です。項目によってヘッダーのあとに単位が出力されます。また、データベース情報が案件領域と添付ファイル領域で区別される場合、ヘッダー名のあとに次に示す情報が出力されます。

- ・案件領域の場合：(item)
- ・添付ファイル領域の場合：(apdfiler)

注※2

括弧内は、保存エリアを示します。

-state オプション指定時の出力結果の例を、次に示します。

```
[DBtype] itemmanageDB
dbcapacity(GB)(item) : 67
dbusage(%) (item) : 70.3
dbcapacity(GB)(apdfiler): 32
dbusage(%) (apdfiler) : 73.3
itemrange : 2015/01/01-2016/02/24
```

```
[DBtype] itemstoreDB(A)
active/inactive : inactive
dbcapacity(GB)(item) : 128
dbusage(%) (item) : 90.2
expandtime(item) : 2
dbcapacity(GB)(apdfiler): 64
dbusage(%) (apdfiler) : 72.6
expandtime(apdfiler) : 1
itemrange : 2001/04/01-2007/12/31
```

```
[DBtype] itemstoreDB(B)
active/inactive : active
dbcapacity(GB)(item) : 128
dbusage(%) (item) : 25.3
expandtime(item) : 2
```

```
dbcapacity(GB)(apdfiler): 64
dbusage(%) (apdfiler) : 10.2
expandtime(apdfiler) : 1
itemrange : 2008/01/01-2014/12/31
```

-dbpath オプション指定時の出力結果の例を、次に示します。

```
[DBtype] itemmanageDB
dbsetupdir : C:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥db

[DBtype] itemstoreDB(A)
dbsetupdir : D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredbA
dbexpanddir1(item) : D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredbA
dbexpanddir2(item) : D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredbA
dbexpanddir1(apdfiler) : D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredbA

[DBtype] itemstoreDB(B)
dbsetupdir : D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredbB
dbexpanddir1(item) : D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredbB
dbexpanddir2(item) : D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredbB
dbexpanddir1(apdfiler) : D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredbB
```

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssdbstatchk.bat コマンドは、二つ以上同時に実行できません。

注意事項

- -state オプションを指定して jssdbstatchk.bat コマンドを実行した場合に表示される「データベース容量(dbcapacity)」は、案件または添付ファイルのデータを格納する領域の容量です。案件管理 DB および案件保存 DB には、案件または添付ファイルのデータを格納するための領域以外に、それらのデータを管理するための領域が含まれています。このため、案件管理 DB および案件保存 DB で使用しているファイル容量と「データベース容量(dbcapacity)」で表示される値には、差異があります。
- -state オプションを指定して jssdbstatchk.bat コマンドを実行した場合に表示される「データベース容量使用率(dbusage)」は、無効領域を含む値が表示されます。このため、案件または添付ファイルを削除するだけでは、使用率の値は変わりません。使用率を下げたい場合は、データを削除したあとに、jssdbbrorg.bat コマンドを実行して、無効領域を再編成する必要があります。jssdbbrorg.bat コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssdbbrorg.bat \(案件管理 DB 再編成\)](#)」を参照してください。

使用例

データベースの状態を出力する場合の指定例を、次に示します。

```
jssdbstatchk.bat -state
```

jsshadbinit.bat (クラスタ環境用データベース初期化)

機能

クラスタ環境用のデータベースを初期化します。なお、案件保存 DB を使用している場合、案件管理 DB の初期化だけでなく、案件保存 DB を削除します。このため、案件保存 DB を再度使用するには、案件保存 DB を構築する必要があります。

このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jsshadbinit.bat -s {S | M | L | LL | XL} [-t]
                [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-s {S | M | L | LL | XL}

クラスタ環境用の案件管理 DB のサイズを指定します。

それぞれの値を指定した場合のサイズを次の表に示します。

サイズに指定する値	ローカルディスクのサイズ	共有ディスクのサイズ
S	1.4 ギガバイト	5.2 ギガバイト
M	1.4 ギガバイト	29.2 ギガバイト
L	1.5 ギガバイト	71.1 ギガバイト
LL	1.7 ギガバイト	150.9 ギガバイト
XL	1.7 ギガバイト	161.5 ギガバイト

案件管理 DB サイズの判断基準については、「[5.12.5 案件管理 DB のサイズの判断基準](#)」を参照してください。

-q

応答メッセージを表示しないで、データベースの初期化を続行する場合に指定します。

-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

-t

メールによる案件登録をする場合にだけ指定します。-t オプションを指定すると、メールによる案件登録に必要なマスターシステムと一時受付プロセスワークボードが作成されます。-t オプションを省略すると、マスターシステムと一時受付プロセスワークボードは作成されません。

なお、セットアップコマンドの実行後にマスターシステムと一時受付プロセスワークボードを作成する場合は、jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成) コマンドを実行してマスターシステム・一時受付プロセスワークボードを作成してください。jsscreatesysandpwb の詳細については、「12. コマンド」の「jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成)」を参照してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jsshadbinit.bat コマンドの実行時には、JP1/Service Support - Web Service サービス、JP1/Service Support サービス、JP1/Service Support - DB Server サービス、JP1/Service Support - DB Cluster Service サービス、および JP1/Service Support - Task Service サービスを、クラスタソフトからの操作でオフラインにしてください。
- jsshadbinit.bat コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。
- jsshadbinit.bat コマンドは、現用系かつ実行系のサーバで実行してください。

注意事項

- jsshadbinit.bat コマンドを実行すると、システム内部で複数の子プロセスが起動します。[Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合も、子プロセスは実行を継続します。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jsshadbinit.bat コマンドの実行後は、コマンドを実行したホストのサービスコントロールマネージャで案件管理 DB サーバの JP1/Service Support - DB Server サービスが開始されるため、JP1/Service Support - DB Server サービスを停止してください。
- jsshadbinit.bat コマンドを実行する際、案件管理 DB のサイズごとにメモリ必要量が異なります。メモリ必要量の詳細については、リリースノートを参照してください。

使用例

クラスタ環境用の案件管理 DB を，M サイズで初期化する場合の指定例を次に示します。

```
jsshadbinit.bat -s M
```

jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ)

機能

JP1/Service Support をクラスタ環境で運用できるようセットアップします。このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jsshasetup.bat {{-c {online -s {S | M | L | LL | XL} [-t]} | standby}  
                | -vup [-t] | -r}  
                [-q]}
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-c online -s {S | M | L | LL | XL}

クラスタ環境用に、現用系の JP1/Service Support をセットアップするときに指定します。-s オプションで案件管理 DB のサイズを指定します。「S」、「M」、「L」、「LL」、「XL」は、半角英大文字で指定してください。

それぞれの値を指定した場合のサイズを次の表に示します。

サイズに指定する値	ローカルディスクのサイズ	共有ディスクのサイズ
S	1.4 ギガバイト	5.2 ギガバイト
M	1.4 ギガバイト	29.2 ギガバイト
L	1.5 ギガバイト	71.1 ギガバイト
LL	1.7 ギガバイト	150.9 ギガバイト
XL	1.7 ギガバイト	161.5 ギガバイト

-s オプションを指定した場合はすべてのセットアップ処理が実行され、作成済みの案件管理 DB も初期化されます。また、案件管理 DB 格納先フォルダやポート番号を変更した場合は、最新の情報でセットアップが実行されます。

案件管理 DB の格納先やポート番号を変更する方法については、「[10.2.4 jsshasetupinfo.bat の編集](#)」を参照してください。

案件管理 DB サイズの判断基準については、「[5.12.5 案件管理 DB のサイズの判断基準](#)」を参照してください。

-t

メールによる案件登録をする場合にだけ指定します。`-t` オプションを指定すると、メールによる案件登録に必要なマスターシステムと一時受付プロセスワークボードが作成されます。`-t` オプションを省略すると、マスターシステムと一時受付プロセスワークボードは作成されません。

`-t` オプションは、`-c standby` オプションを指定している場合は指定しないでください。また、現用系の JP1/Service Support をセットアップする場合にだけ指定してください。予備系の JP1/Service Support をセットアップする場合に指定するとエラーになります。

なお、セットアップコマンドの実行後にマスターシステムと一時受付プロセスワークボードを作成する場合は、`jsscreatesysandpwb` (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成) コマンドを実行してマスターシステム・一時受付プロセスワークボードを作成してください。`jsscreatesysandpwb` の詳細については、「[12. コマンド](#)」の「[jsscreatesysandpwb \(マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成\)](#)」を参照してください。

-c standby

クラスタ環境用に、予備系の JP1/Service Support をセットアップするときに指定します。

-vup

最新の JP1/Service Support にバージョンアップするため、上書きインストールしたあとのセットアップ時に指定します。また、JP1/Service Support Starter Edition から JP1/Service Support (Standard) にアップグレードする際にも指定します。このオプションは、旧バージョンの JP1/Service Support からバージョンアップする場合、または JP1/Service Support Starter Edition から JP1/Service Support (Standard) にアップグレードする場合を除いて、指定しないでください。

`-vup` オプションを指定した場合、データベースの初期化、および WWW コンテナサーバの環境設定の更新は行われません。バージョンアップおよびアップグレードに伴い機能が拡張された個所だけが更新されます。なお、案件管理 DB 格納先フォルダやポート番号は、前回セットアップ時の情報が使用されます。

また、JP1/Service Support のバージョンが 10-50 以前でメールによって案件を登録する運用にしている場合、`-vup` オプションを指定して `jsshasetup.bat` コマンドを実行すると、自動で `jssauthusersetup` コマンドが実行されるため、メール定義ファイルに設定している案件登録用メールの送信先となるメールサーバのパスワード (`hptl_jp1_imss_mail_pop3_password`) が再設定されます。

-r

同一バージョンの JP1/Service Support を上書きインストールしたあとのセットアップ時に指定します。JP1/Service Support を初めてセットアップするときは指定しないでください。

`-r` オプションを指定した場合、データベースの初期化、および WWW コンテナサーバの環境設定の更新は行われません。また、案件管理 DB 格納先フォルダやポート番号は、前回セットアップ時の情報が使用されます。

-q

応答メッセージを表示しないで、データベースの初期化を続行する場合に指定します。

-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- クラスタ環境を新規に構築、または既存のクラスタ環境を上書きするときに、必ず実行してください。
- jsshasetup.bat コマンドは、必ず現用系サーバから実行してください。
- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- -vup オプションを指定してバージョンアップまたはアップグレードする場合は、JP1/Service Support - DB Server サービスが起動している必要があります。
- jsshasetup.bat コマンドの実行時には、JP1/Service Support - Web Service サービス、JP1/Service Support サービス、JP1/Service Support - DB Server サービス、および JP1/Service Support - DB Cluster Service サービスを、クラスタソフトからの操作でオフラインにしてください。
- jsshasetup.bat コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。
- 現用系で -c オプションで online を指定した場合、予備系では必ず -c オプションで standby を指定してください。
- JP1/Service Support のバージョンアップ、または JP1/Service Support (Standard) へのアップグレード時に、jsshasetup.bat コマンドを実行するときには、案件管理 DB が格納されているドライブに、空き容量が必要です。必要な空き容量は、JP1/Service Support のバージョンと案件管理 DB のサイズによって異なります。
詳細は、「[10.8.1 クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support のバージョンアップ手順](#)」を参照してください。
- jsshasetup.bat コマンドの実行時には、一時ファイルが作成されます。そのため、バージョンアップまたはアップグレード時に必要な空き容量のほかに、JP1/Service Support のインストール先フォルダに、約 400 メガバイトの空き容量が必要です。

注意事項

- jsshasetup.bat コマンドを実行すると、システム内部で複数の子プロセスが起動します。[Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合も、子プロセスは実行を継続します。このため、コマンド

の実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。

- -vup オプションを指定して予備系をバージョンアップまたはアップグレードしたあとは、-vup オプションを使用したコマンドを再実行しないでください。
- jsshasetup.bat コマンドが異常終了した場合、JP1/Service Support サービスが起動しているときがあります。コマンドを再実行する場合は、JP1/Service Support サービスを停止させてから実行してください。
- jsshasetup.bat コマンドの実行後は、コマンドを実行したホストのサービスコントロールマネージャで案件管理 DB サーバの JP1/Service Support - DB Server サービスが開始されるため、JP1/Service Support - DB Server サービスを停止してください。
- jsshasetup.bat コマンド実行時に、KNAB22018-W、または KNAB26148-W のワーニングメッセージが表示されることがあります。この場合、すでに JP1/Service Support のセットアップは完了しています。KNAB22018-W、または KNAB26148-W の対処を実施してください。

使用例

現用系のサーバに対して、クラスタ環境を新規構築する場合の指定例を次に示します。なお、この指定例では案件管理 DB のサイズを M サイズに設定しています。

```
jsshasetup.bat -c online -s M
```

jsshaunsetup.bat (クラスタ環境用アンセットアップ)

機能

クラスタ環境で動作している JP1/Service Support をアンセットアップして、データベースを削除します。なお、案件保存 DB を使用している場合、案件管理 DB だけでなく、案件保存 DB も削除します。

このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jsshaunsetup.bat -sys [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-sys

JP1/Service Support をアンセットアップするときに指定します。この引数は必ず指定してください。

-q

応答メッセージを表示しないで、データベースの削除を続行する場合に指定します。

-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- jsshaunsetup.bat コマンドは、クラスタ環境から JP1/Service Support を削除する場合にだけ実行してください。また、アンインストール前に実行してください。
- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。

- jsshaunsetup.bat コマンドの実行時には、JP1/Service Support - Web Service サービス、JP1/Service Support サービス、JP1/Service Support - DB Server サービス、JP1/Service Support - DB Cluster Service サービス、および JP1/Service Support - Task Service サービスを、クラスタソフトからの操作でオフラインにしてください。
- jsshaunsetup.bat コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。
- jsshaunsetup.bat コマンドを実行する場合は、共有ディスクをオンラインにしてください。
- jsshaunsetup.bat コマンドは、jsshasetup.bat コマンドで構築した環境に対してだけ実行できます。

注意事項

- jsshaunsetup.bat コマンドを実行すると、システム内部で複数の子プロセスが起動します。[Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合も、子プロセスは実行を継続します。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jsshaunsetup.bat コマンドを実行しないで JP1/Service Support をアンインストールした場合は、JP1/Service Support のデータベースが残ります。不要な場合は、共有ディスク上の JP1/Service Support のデータベースを手動で削除してください。

jssitemstore (案件保存)

機能

案件管理 DB に登録されている案件のうち、指定された期間の「クローズ」の案件を保存案件として、案件保存 DB のアクティブな保存エリアに保存します。案件保存 DB に保存された案件は、案件管理 DB に登録されている案件と同様に画面から参照できますが、編集や削除はできません。また、保存案件として案件保存 DB に保存した案件は、元の管理案件として案件管理 DB に戻せません。

形式

```
jssitemstore -ct 開始年月日-終了年月日 [-ch] [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-ct 開始年月日-終了年月日

特定の期間内に登録された案件のうち「クローズ」の案件を案件保存 DB に保存するために、登録日の範囲を YYYY/MM/DD 形式の文字列で指定します。開始年月日と終了年月日の間には「-」を挿入します。

開始年月日、および終了年月日には 1970/01/01~2107/01/01 の値を指定できます。開始年月日には、終了年月日より前の値を指定してください。

開始年月日、および終了年月日について次に説明します。

開始年月日

この値で指定した日付以降に登録された案件のうち、「クローズ」の案件を案件保存 DB に保存します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、エラーとなります。

終了年月日

この値で指定した日付以前に登録された案件のうち、「クローズ」の案件を案件保存 DB に保存します。指定範囲内の値で存在しない日付が指定された場合は、エラーとなります。

例えば、「2013/01/01-2013/12/31」を指定した場合、案件の登録日時が「2013/01/01 00:00:00(.000)」から「2013/12/31 23:59:59(.999)」の範囲の案件が、案件保存 DB への保存対象となります。

-ch

指定した期間に登録された案件が、案件保存 DB に保存できるかどうかを確認する場合に指定します。

-q

応答メッセージを表示しないで、案件の保存処理を続行する場合に指定します。-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

案件の保存条件

案件保存 DB に案件を保存する際、指定した期間に登録された案件の中にクローズしていない案件や削除待ちの案件が存在する場合は、案件保存 DB に保存できません。また、案件が登録されているシステムやプロセスワークボードの状態によっても、案件保存 DB に保存できません。案件の状態と案件保存 DB への保存可否を、次の表に示します。

表 12-14 案件の状態と案件保存 DB への保存可否

項番	案件が登録されているシステムの状態	案件が登録されているプロセスワークボードの状態	案件の状態	案件のステータス	案件保存 DB への保存可否
1	削除待ち	削除待ち	—	—	×※1
2	運用中	削除待ち	—	—	×※1
3		準備中	—	—	×※2
4		停止中	削除待ち	—	×※1
5		—	クローズ以外	×※1	
6		削除待ち以外	クローズ	○※3	
7		運用中	削除待ち	—	×※1
8	—	クローズ以外	×※1		
9	削除待ち以外	クローズ	○※3		

(凡例)

- ：案件保存 DB に保存する
- ×：案件保存 DB に保存しない
- ：状態に依存しない

注※1

jssitemstore コマンドが、エラーで終了します。

注※2

案件が登録されていないため、案件を保存できません。

案件の編集状態に関係なく、案件 DB に保存します。案件保存 DB に保存するすると、編集できなくなります。

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssitemstore コマンドを実行する前に、案件保存 DB をセットアップしてください。案件保存 DB のセットアップについては、「[11.2.10 案件保存 DB の構築](#)」を参照してください。

注意事項

- jssitemstore コマンドの実行前にバックアップを取得してください。バックアップについては、「[11.2.13 案件保存 DB に案件を保存](#)」を参照してください。
- 案件保存 DB に保存した案件は、管理案件に戻せません。このため、編集が完了した案件を保存対象にしてください。保存案件を編集したい場合は、該当する案件を流用して新規案件として再度作成してください。
- jssitemstore コマンドを実行すると、案件管理 DB から対象の案件が削除されるため、案件管理 DB の空き領域が断片化されます。このため、案件管理 DB を再編成することをお勧めします。案件管理 DB の再編成については、「12. コマンド」の「[jssdbroorg.bat \(案件管理 DB 再編成\)](#)」を参照してください。
- jssitemstore コマンドの実行時に KNAB24002-E のエラーメッセージ（詳細コード：-756）が出力され、データベース容量不足で異常終了した場合、案件保存 DB を拡張したあと、同じ引数を指定してコマンドを再実行してください。案件保存 DB の拡張が上限に達している場合は、案件保存 DB の保存エリアを切り替えてください。

案件保存 DB の拡張については、「[11.2.12 案件保存 DB の拡張](#)」を、案件保存 DB の保存エリアの切り替えについては、「[11.2.11 案件保存 DB の保存先の切り替え](#)」を参照してください。

- jssitemstore コマンドの実行に失敗した場合、保存に失敗した案件については、履歴情報と最新情報が分かれて保存されるため、このあとに保存案件を一括で削除すると、履歴情報だけが削除されるおそれがあります。この場合、同じ引数を指定して jssitemstore コマンドを再実行することをお勧めします。
- jssitemstore コマンドと jssdbbackup.bat コマンドの実行が重ならないようにしてください。コマンドの実行が重なった場合、あとから実行したコマンドがエラー終了します。
- jssitemstore コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、コマンドの処理に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。
- jssitemstore コマンドの実行中に、保存対象の案件、および保存対象の案件が登録されているシステムやプロセスワークボードの状態を変更しないでください。案件を保存できない状態に変更した場合、コマンドがエラー終了します。
- jssitemstore コマンドの実行中に、JP1/Service Support サービスを操作しないでください。操作した場合、コマンドの処理に失敗するおそれがあります。

- jssitemstore コマンドは、二つ以上同時に実行できません。
- jssitemstore コマンドの実行結果は、ログファイルに出力して確認できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「ユーザーログ定義ファイル (jplitemstore.conf)」を参照してください。

使用例

使用例 1

登録日が「2013/01/01～2013/12/31」の案件を案件保存 DB に保存する場合：

```
jssitemstore -ct 2013/01/01-2013/12/31
```

使用例 2

登録日が「2013/01/01～2013/12/31」の案件を案件保存 DB に保存できるかどうか確認する場合：

```
jssitemstore -ct 2013/01/01-2013/12/31 -ch
```

jssitemstoredbexpand.bat (案件保存 DB 領域拡張)

機能

案件保存 DB の容量を拡張します。案件保存 DB の案件領域および添付ファイル領域をそれぞれ拡張できます。このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jssitemstoredbexpand.bat {-i 案件保存DB拡張情報設定ファイル名 [-c online] | -c standby} [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-i 案件保存 DB 拡張情報設定ファイル名

案件保存 DB 拡張情報設定ファイルのファイル名を、絶対パスで指定します。案件保存 DB 拡張情報設定ファイルのパスは、255 バイト以下の文字列で指定します。このとき、半角文字を 1 バイト、全角文字を 2 バイトとして換算します。なお、UNC パスは指定できません。案件保存 DB 拡張情報設定ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件保存 DB 拡張情報設定ファイル \(jssitemstoredbexpandinfo.bat\)](#)」を参照してください。

-c online | -c standby

案件保存 DB を拡張する系を指定します。現用系の場合は online を、予備系の場合は standby を指定してください。

-q

応答メッセージを表示しないで、案件保存 DB の容量の拡張処理を続行する場合に指定します。-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了 (リトライする場合、アンセットアップが不要)

戻り値	意味
2	異常終了（リトライする場合、アンセットアップが必要）※

注※

戻り値が「2」の場合、エラーの原因を取り除いたあとに次の手順で環境を回復してください。そのあと、再度コマンドを実行してください。

1. 次に示す順序でサービスを停止する。

- ・ JP1/Service Support - Task Service サービス
- ・ JP1/Service Support - Web Service サービス
- ・ JP1/Service Support サービス

2. JP1/Service Support のデータベースを初期化する。

jssdbinit.bat（データベース初期化）コマンドを実行し、案件管理 DB と案件保存 DB を初期化します。jssdbinit.bat（データベース初期化）コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssdbinit.bat（データベース初期化）](#)」を参照してください。

3. 案件保存 DB をセットアップする。

jssitemstoredbsetup.bat（案件保存 DB セットアップ）コマンドを実行し、案件保存 DB をセットアップしてください。jssitemstoredbsetup.bat（案件保存 DB セットアップ）コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssitemstoredbsetup.bat（案件保存 DB セットアップ）](#)」を参照してください。

4. バックアップファイル取得時と同じ環境に拡張を実施する。

jssitemstoredbexpand.bat（案件保存 DB 領域拡張）コマンドを実行して、バックアップファイル取得時と同じ環境になるように、案件保存 DB の領域を拡張します。バックアップファイル取得時の環境は、バックアップファイル出力先ディレクトリに格納されている dbpath.txt を参照してください。

5. JP1/Service Support のデータベースをリカバリーする。

jssitemstoredbexpand.bat コマンドを実行する前に取得したバックアップファイルから、jssdbrecovery.bat（データベースリカバリー）コマンドを実行して、案件管理 DB および案件保存 DB をリカバリーします。jssdbrecovery.bat（データベースリカバリー）コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssdbrecovery.bat（データベースリカバリー）](#)」を参照してください。

案件保存 DB の拡張状態の管理

jssitemstoredbexpand.bat コマンドは、案件保存 DB の状態を取得し、案件保存 DB の状態に応じて容量を拡張します。案件保存 DB の拡張状態は、案件管理 DB で管理されます。案件管理 DB で管理する案件保存 DB の状態を、次に示します。

• 拡張回数

jssitemstoredbexpand.bat コマンドの実行時に、案件保存 DB の拡張回数を確認します。拡張回数が増え、上限に達していない場合は、案件保存 DB を拡張し、案件管理 DB で管理している案件保存 DB の拡張回数を更新します。上限に達している場合は、エラーとなり、案件保存 DB を拡張しません。

なお、案件保存 DB は保存エリアごとに、次に示す回数分を拡張できます。

案件領域：7 回

添付ファイル領域：7 回

- 拡張用ファイルパス

jssitemstoredbexpand.bat コマンド実行時には、案件保存 DB 拡張情報設定ファイルを変更することで案件保存 DB の拡張領域の格納先を任意に指定できます。案件管理 DB は、この案件保存 DB の拡張領域の格納先を管理します。案件保存 DB の拡張領域の格納先（パス）は、障害時に必要となります。

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- 案件保存 DB の各領域を拡張する際、1 回の拡張ごとにメモリ所要量が増加します。メモリ所要量の詳細については、リリースノートを参照してください。
- jssitemstoredbexpand.bat コマンドを実行して案件保存 DB を 1 回拡張するには、案件保存 DB 拡張情報設定ファイルで指定した拡張する案件保存 DB の格納先フォルダに、64 ギガバイトの空き容量が必要です。案件保存 DB 拡張情報設定ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[案件保存 DB 拡張情報設定ファイル \(jssitemstoredbexpandinfo.bat\)](#)」を参照してください。
- jssitemstoredbexpand.bat コマンドを実行する前に、案件保存 DB をセットアップしてください。案件保存 DB のセットアップについては、「[11.2.10 案件保存 DB の構築](#)」を参照してください。
- jssitemstoredbexpand.bat コマンドの実行中に同時に実行できないコマンドについては、「[同時に実行できないコマンド](#)」を参照してください。

注意事項

- jssitemstoredbexpand.bat コマンドを実行する前に、jssitemstoredbexpand.bat コマンドの実行失敗時の障害回復用に案件管理 DB と案件保存 DB のバックアップを取得してください。バックアップについては、「[11.2.14 案件保存 DB 使用時のバックアップ](#)」を参照してください。
- jssitemstoredbexpand.bat コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、「戻り値」が「2」の場合と同じ手順で環境を回復してください。
- -i オプションで UNC パスを指定しないでください。UNC パスを指定した場合、通信エラーなどでコマンドが異常終了するおそれがあります。
- 案件保存 DB のリカバリーは、バックアップファイル取得時と同じ環境にする必要があります。このため、案件管理 DB や案件保存 DB を再セットアップした環境では、同じ環境になるように、再度案件保存 DB を拡張する必要があります。案件保存 DB のリカバリーについては、「[11.2.15 案件保存 DB 使用時のリカバリー](#)」を参照してください。
- jssitemstoredbexpand.bat コマンドの実行結果は、ユーザー公開用のログファイルに出力されます。詳細については、「[付録 A.2 JP1/Service Support が出力するログファイルの一覧](#)」の JP1/Service Support のユーザー公開ログおよびフォルダの説明を参照してください。

使用例

使用例 1

案件保存 DB 拡張情報設定ファイル (c:¥setup¥jssitemstoredbexpandinfo.bat) を使用して案件保存 DB の領域を拡張する場合：

```
jssitemstoredbexpand.bat -i c:¥setup¥jssitemstoredbexpandinfo.bat
```

使用例 2

クラスタ運用していて、案件保存 DB 拡張情報設定ファイル (c:¥setup ¥jssitemstoredbexpandinfo.bat) を使用して、現用系の案件保存 DB の領域を拡張する場合：

```
jssitemstoredbexpand.bat -i c:¥setup¥jssitemstoredbexpandinfo.bat -c online
```

使用例 3

クラスタ運用していて、予備系の案件保存 DB の領域を拡張する場合：

```
jssitemstoredbexpand.bat -c standby
```

jssitemstoredbrotate (案件保存 DB 切り替え)

機能

案件保存 DB のアクティブな保存エリアを切り替えます。保存エリアの状態は、jssdbstatchk.bat (データベース状態確認) コマンドで確認できます。詳細については、「12. コマンド」の「jssdbstatchk.bat (データベース状態確認)」を参照してください。

形式

```
jssitemstoredbrotate -rotate [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-rotate

案件保存 DB のアクティブな保存エリアを切り替えます。案件保存 DB の保存エリアは、次に示す規則に従って切り替えられます。

- 2 個ある保存エリアのうち、保存エリア A から保存エリア B に切り替わる。
- 保存エリア B から切り替える場合、保存エリア A に切り替わる。
- 未セットアップの保存エリアがある場合、その保存エリアには切り替わらない。

-q

応答メッセージを表示しないで、案件保存 DB の容量の切り替え処理を続行する場合に指定します。-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「コマンド実行時のサービスの状態」を参照してください。

- jssitemstoredbrotate コマンドを実行する前に、案件保存 DB をセットアップしてください。案件保存 DB のセットアップについては、「[11.2.10 案件保存 DB の構築](#)」を参照してください。
- jssitemstoredbrotate コマンドは、二つ以上同時に実行できません。

注意事項

- jssitemstoredbrotate コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、コマンドの処理に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。
- jssitemstoredbrotate コマンドの実行結果は、ログファイルに出力して確認できます。詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[ユーザーログ定義ファイル \(jplitemstoredbrotate.conf\)](#)」を参照してください。

jssitemstoredbsetup.bat (案件保存 DB セットアップ)

機能

案件保存 DB をセットアップします。このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jssitemstoredbsetup.bat {-i 案件保存DBセットアップ情報設定ファイル名  
[-c online] | -c standby} [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-i 案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル名

案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルのファイル名を、絶対パスで指定します。案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルのパスは、255 バイト以下の文字列で指定します。このとき、半角文字を 1 バイト、全角文字を 2 バイトとして換算します。なお、UNC パスは指定できません。案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (jssitemstoredbinfo.bat)」を参照してください。

-c online | -c standby

案件保存 DB をセットアップする系を指定します。現用系の場合は online を、予備系の場合は standby を指定してください。

-q

応答メッセージを表示しないで、案件保存 DB のセットアップを続行する場合に指定します。-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了 (リトライする場合、アンセットアップが不要)
2*	異常終了 (リトライする場合、アンセットアップが必要)

注※

戻り値が「2」の場合、エラーの原因を取り除いたあとに次の手順で環境を回復してください。そのあと、再度コマンドを実行してください。

1. JP1/Service Support のデータベースを初期化する。

jssdbinit.bat (データベース初期化) コマンドを実行し、案件管理 DB と案件保存 DB を初期化します。jssdbinit.bat (データベース初期化) コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbinit.bat (データベース初期化)」を参照してください。

2. JP1/Service Support のデータベースをリカバリーする。

jssitemstoredbsetup.bat コマンドを実行する前に取得したバックアップファイルから、jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー) コマンドを実行して、案件管理 DB および案件保存 DB をリカバリーします。jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー) コマンドについては、「12. コマンド」の「jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー)」を参照してください。

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- 案件保存 DB をセットアップする際、1つの保存エリアのセットアップごとにメモリ所要量が増加します。メモリ所要量の詳細については、リリースノートを参照してください。
- jssitemstoredbsetup.bat コマンドを実行して案件保存 DB の保存エリアをセットアップするには、案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルで指定した案件保存 DB 格納先フォルダに、128 ギガバイトの空き容量が必要です。案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル \(jssitemstoredbinfo.bat\)](#)」を参照してください。
- セットアップされていない保存エリアに対してコマンドを実行してください。
- 保存エリア B をセットアップする場合は、保存エリア A のセットアップが完了している必要があります。
- 案件管理 DB が XL サイズでセットアップされている必要があります。
- jssitemstoredbsetup.bat コマンドの実行中に同時に実行できないコマンドについては、「[同時に実行できないコマンド](#)」を参照してください。

注意事項

- 案件保存 DB は、jssunsetup.bat コマンドを実行してアンセットアップします。このため、誤って案件保存 DB をセットアップしてしまった場合に備えて、jssitemstoredbsetup.bat コマンドを実行する前に、案件管理 DB をバックアップしてください。案件管理 DB のバックアップについては、「11.2.1 [案件管理 DB のバックアップとリカバリー](#)」を参照してください。
- jssitemstoredbsetup.bat コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、「戻り値」が「2」の場合と同じ手順で環境を回復してください。
- jssitemstoredbsetup.bat コマンドの実行結果は、ユーザー公開用のログファイルに出力されます。詳細については、「[付録 A.2 JP1/Service Support が出力するログファイルの一覧](#)」の JP1/Service Support のユーザー公開ログおよびフォルダの説明を参照してください。

使用例

使用例 1

案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (c:¥setup¥jssitemstoredbinfo.bat) を使用して案件保存 DB をセットアップする場合：

```
jssitemstoredbsetup.bat -i c:¥setup¥jssitemstoredbinfo.bat
```

使用例 2

クラスタ運用していて、案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (c:¥setup¥jssitemstoredbinfo.bat) を使用して、現用系の案件保存 DB をセットアップする場合：

```
jssitemstoredbsetup.bat -i c:¥setup¥jssitemstoredbinfo.bat -c online
```

使用例 3

クラスタ運用していて、予備系の案件保存 DB をセットアップする場合：

```
jssitemstoredbsetup.bat -c standby
```

jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ)

機能

案件ごとの参照権限設定機能をセットアップします。

形式

```
jssrefaclsetup {-id 案件フォーム項目ID | -state}
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥bin¥

引数

-id 案件フォーム項目 ID

案件の参照権限を設定する項目として使用する、拡張ユーザー情報の案件フォーム項目 ID を指定します。指定できる案件フォーム項目 ID を、次の表に示します。

表 12-15 案件の参照権限を設定する項目として指定できる案件フォーム項目 ID

項番	項目名 (表示名)	案件フォーム項目 ID
1	拡張ユーザー情報 01	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE01
2	拡張ユーザー情報 02	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE02
3	拡張ユーザー情報 03	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE03
4	拡張ユーザー情報 04	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE04
5	拡張ユーザー情報 05	JIMSD_FORM_USEREXTTYPE05

なお、このオプションを指定する場合は、JP1/Service Support サービスおよび JP1/Service Support - Web Service サービスを停止してください。

-state

案件の参照権限を設定する項目として指定されている拡張ユーザー情報の案件フォーム項目 ID を表示する場合に指定します。-state オプションを指定すると、案件の参照権限を設定する項目として指定されている案件フォーム項目 ID を示すメッセージが表示されます。なお、このオプションを指定する場合は、JP1/Service Support サービスおよび JP1/Service Support - Web Service サービス、および JP1/Service Support - Task Service サービスを停止する必要はありません。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssrefaclsetup コマンドの実行時には、一時ファイルが作成されます。そのため、JP1/Service Support のインストール先フォルダに、約 510 メガバイトの空き容量が必要です。

注意事項

- jssrefaclsetup コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jssrefaclsetup コマンドの実行前に、案件管理 DB をバックアップしてください。また、jssrefaclsetup コマンドの実行後も、案件管理 DB をバックアップしてください。案件ごとの参照権限設定を使用するための手順については、「[9.13 案件ごとに参照権限を設定するための環境設定](#)」を参照してください。
- 案件管理 DB のサイズを変更する場合、-expand オプションを指定した jssdbbackup.bat コマンドを実行して取得したバックアップファイルを使用してリカバリーするため、案件ごとの参照権限の設定に必要な情報はリカバリーされません。このため、案件管理 DB のサイズを変更したあとに、jssrefaclsetup コマンドを実行してください。
- jssrefaclsetup コマンドの実行結果をログファイルに出力して確認できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「[ユーザーログ定義ファイル \(jplrefaclsetup.conf\)](#)」を参照してください。

使用例

案件の参照権限を設定する項目として「拡張ユーザー情報 01」を選定した場合の指定例を、次に示します。

```
jssrefaclsetup -id JIMSD_FORM_USEREXTTYPE01
```

jsssetup.bat (セットアップ)

機能

JP1/Service Support をセットアップします。このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jsssetup.bat {-s {S | M | L | LL | XL} [-t] | [-s {S | M | L | LL | XL}]  
              -vup [-t] | -r}  
              [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-s {S | M | L | LL | XL}

案件管理 DB のサイズを指定します。「S」、「M」、「L」、「LL」、「XL」は、半角英大文字で指定してください。

それぞれの値を指定した場合のサイズを次の表に示します。

サイズに指定する値	サイズ
S	5 ギガバイト
M	30 ギガバイト
L	71 ギガバイト
LL	152 ギガバイト
XL	162 ギガバイト

-s オプションを指定した場合はすべてのセットアップ処理が実行され、作成済みの案件管理 DB も初期化されます。また、案件管理 DB 格納先フォルダやポート番号を変更した場合は、最新の情報でセットアップが実行されます。

案件管理 DB の格納先やポート番号を変更する方法については、「[6.3.2 新規インストール時のセットアップ手順](#)」を参照してください。

案件管理 DB サイズの判断基準については、「5.12.5 案件管理 DB のサイズの判断基準」を参照してください。

-t

メールによる案件登録をする場合にだけ指定します。-t オプションを指定すると、メールによる案件登録に必要なマスターシステムと一時受付プロセスワークボードが作成されます。-t オプションを省略すると、マスターシステムと一時受付プロセスワークボードは作成されません。

なお、セットアップコマンドの実行後にマスターシステムと一時受付プロセスワークボードを作成する場合は、jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成) コマンドを実行してマスターシステム・一時受付プロセスワークボードを作成してください。jsscreatesysandpwb の詳細については、「12. コマンド」の「jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成)」を参照してください。

-vup

最新の JP1/Service Support にバージョンアップするため、上書きインストールしたあとのセットアップ時に指定します。また、JP1/Service Support Starter Edition から JP1/Service Support (Standard) にアップグレードする際にも指定します。このオプションは、旧バージョンの JP1/Service Support からバージョンアップする場合、または JP1/Service Support Starter Edition から JP1/Service Support (Standard) にアップグレードする場合を除いて、指定しないでください。

-vup オプションを指定した場合、データベースの初期化、および WWW コンテナサーバの環境設定の更新は行われません。バージョンアップまたはアップグレードに伴い機能が拡張された個所だけが更新されます。なお、案件管理 DB 格納先フォルダやポート番号は、前回セットアップ時の情報が使用されます。

指定したオプションの組み合わせによって、セットアップ時の処理が異なります。処理の差異について次の表に示します。

表 12-16 指定したオプションによるセットアップ処理の差異

コマンド実行時に指定したオプション		セットアップの処理
-s オプションだけを指定		指定したデータベースサイズでデータベースが初期化される。
-s および -vup オプションを指定	バージョンアップ前と同じデータベースサイズを指定	エラーメッセージ (KNAB26151-W) が出力され、バージョンアップ前のバージョンのデータベースサイズでデータベースが拡張される。
	バージョンアップ前と異なるデータベースサイズを指定	
-vup オプションだけを指定		バージョンアップ前のバージョンのデータベースサイズでデータベースが拡張される。

また、JP1/Service Support のバージョンが 10-50 以前でメールによって案件を登録する運用にしている場合、-vup オプションを指定して jsssetup.bat コマンドを実行すると、自動で jssauthusersetup コマンドが実行されるため、メール定義ファイルに設定している案件登録用メールの送信先となるメールサーバのパスワード (hptl_jp1_imss_mail_pop3_password) が再設定されます。

-r

同一バージョンの JP1/Service Support を上書きインストールしたあとのセットアップ時に指定します。新規インストール、バージョンアップ、またはアップグレード後のセットアップではこのオプションを指定しないでください。

-r オプションを指定した場合、データベースの初期化、および WWW コンテナサーバの環境設定の更新は行われません。また、案件管理 DB 格納先フォルダやポート番号は、前回セットアップ時の情報が使用されます。

-q

応答メッセージを表示しないで、データベースの初期化を続行する場合に指定します。

-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- jsssetup.bat コマンドは、JP1/Service Support を新規インストール、または上書きインストールしたあとに必ず実行してください。
- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- -vup オプションを指定してバージョンアップまたはアップグレードする場合は、JP1/Service Support - DB Server サービスが起動している必要があります。
- jsssetup.bat コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。
- JP1/Service Support を初めてセットアップするときは、-r オプションを指定しないでください。
- JP1/Service Support のバージョンアップ、または JP1/Service Support (Standard) へのアップグレード時に、jsssetup.bat コマンドを実行するときには、案件管理 DB が格納されているドライブに、空き容量が必要です。必要な空き容量は、JP1/Service Support のバージョンと案件管理 DB のサイズによって異なります。
詳細は、「[6.4.2\(1\) JP1/Service Support バージョン 9、バージョン 10 またはバージョン 11 から JP1/Service Support バージョン 12 へのバージョンアップ](#)」を参照してください。
- jsssetup.bat コマンドの実行時には、一時ファイルが作成されます。そのため、バージョンアップまたはアップグレード時に必要な空き容量のほかに、JP1/Service Support のインストール先フォルダに、約 400 メガバイトの空き容量が必要です。

注意事項

- jsssetup.bat コマンドを実行すると、システム内部で複数の子プロセスが起動します。[Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合も、子プロセスは実行を継続します。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jsssetup.bat コマンドが異常終了した場合、JP1/Service Support サービスが起動していることがあります。コマンドを再実行する場合は、JP1/Service Support サービスを停止させてから実行してください。
- jsssetup.bat コマンド実行時に、KNAB22018-W、または KNAB26148-W のワーニングメッセージが表示されることがあります。この場合、すでに JP1/Service Support のセットアップは完了しています。KNAB22018-W、または KNAB26148-W の対処を実施してください。
- jsssetup.bat コマンドを実行する際、案件管理 DB のサイズごとにメモリ所要量が異なります。メモリ所要量の詳細については、リリースノートを参照してください。

使用例

案件管理 DB のサイズを M サイズに設定し、案件管理 DB を初期化するときに応答メッセージを出力してセットアップする場合の指定例を次に示します。

```
jsssetup.bat -s M
```

jssstoreitemdel.bat (保存案件一括削除)

機能

案件保存 DB のアクティブな保存エリアに格納されている保存案件を、一括で削除します。このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jssstoreitemdel.bat -active [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-active

案件保存 DB のアクティブな保存エリアに保存されている案件を、一括で削除します。

-q

応答メッセージを表示しないで、案件保存 DB の容量の拡張処理を続行する場合に指定します。-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- jssstoreitemdel.bat コマンドを実行する前に、案件保存 DB をセットアップしてください。案件保存 DB のセットアップについては、「[11.2.10 案件保存 DB の構築](#)」を参照してください。
- jssstoreitemdel.bat コマンドの実行中に同時に実行できないコマンドについては、「[同時に実行できないコマンド](#)」を参照してください。

注意事項

- jssstoreitemdel.bat コマンドと jssdbbackup.bat コマンドを、同時に実行しないでください。実行した場合は、あとから実行したコマンドがエラー終了します。
- jssstoreitemdel.bat コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合、コマンドの処理に失敗するおそれがあります。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jssstoreitemdel.bat コマンドの実行結果は、ログファイルで確認できます。

jssunsetup.bat (アンセットアップ)

機能

JP1/Service Support をアンセットアップして、JP1/Service Support のデータベースを削除します。なお、案件保存 DB を使用している場合、案件管理 DB だけでなく、案件保存 DB も削除します。

このコマンドは、スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] から実行します。

形式

```
jssunsetup.bat -sys [-q]
```

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥tools¥

引数

-sys

JP1/Service Support をアンセットアップするときに指定します。この引数は必ず指定してください。

-q

応答メッセージを表示しないで、データベースの削除を続行する場合に指定します。

-q オプションを指定しない場合は、処理を続行するかどうかを選択するメッセージが表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
1	異常終了

実行時の前提条件

- コマンド実行時のサービスの状態については、「12. コマンド」の「[コマンド実行時のサービスの状態](#)」を参照してください。
- jssunsetup.bat コマンドの実行中に、ほかの JP1/Service Support のコマンドを実行しないでください。

注意事項

- jssunsetup.bat コマンドを実行すると、システム内部で複数の子プロセスが起動します。[Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合も、子プロセスは実行を継続します。このため、コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切らないでください。もし実行を打ち切った場合は、しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。
- jssunsetup.bat コマンドを実行しないで JP1/Service Support をアンインストールした場合は、JP1/Service Support のデータベースが残ります。
この場合は、セットアップ時に設定した JP1/Service Support のデータベースの格納先フォルダを手動で削除してください。

コマンドプロンプトを使用したコマンドの実行方法

コマンドプロンプトを使用して、JP1/Service Support のコマンドを実行する方法を説明します。

コマンドプロンプトを使用して、JP1/Service Support のコマンドを実行するにはバッチファイルを作成しておく必要があります。

形式

```
@set IMSSPATH=JP1/SSパス  
@set IMSSDRIVE=JP1/SSパスのシステムドライブ  
@%IMSSDRIVE%  
@CD %IMSSPATH%\tools  
実行するコマンド
```

説明

@set IMSSPATH=JP1/SS パス

JP1/SS パスを指定します。

@set IMSSDRIVE=JP1/SS パスのシステムドライブ

JP1/SS パスのシステムドライブを指定します。

実行するコマンド

バッチファイルから実行できる JP1/Service Support のコマンドを指定します。実行できるコマンドを次に示します。

- jssdbrog.bat コマンド (案件管理 DB 再編成)
- jssdbbackup.bat コマンド (案件管理 DB バックアップ)
- jssdbreclaim.bat コマンド (案件管理 DB 空き領域解放)

記述例

JP1/SS パスが「D:\Hitachi\JP1SS」(システムドライブが D ドライブ) の場合に、jssdbbackup.bat コマンドを実行するためのバッチファイルの記述例を次に示します。

```
@set IMSSPATH=D:\Hitachi\JP1SS  
@set IMSSDRIVE=D:  
@%IMSSDRIVE%  
@CD %IMSSPATH%\tools  
jssdbbackup -f D:\tmp\DB_Backup.bak -maint
```

注意事項

- バッチファイルで指定できる JP1/Service Support のコマンドは一つだけです。複数のコマンドを実行したい場合は、コマンドごとに作成したバッチファイルを実行するバッチファイルが必要です。
- バッチファイルからコマンドを実行する場合、次のどちらかの方法で実行してください。
 - ユーザーアカウント制御機能が有効で、Administrator 以外の Administrators 権限を持つユーザーの場合、Administrator で Windows Server 2016, Windows Server 2012 R2, または Windows Server 2012 にログインし直してから、コマンドを実行する。
 - 管理者として実行する設定に変更してから、コマンドを実行する。
管理者として実行する設定への変更については、「[コマンド一覧](#)」を参照してください。

13

定義ファイル

この章では、JP1/Service Support の定義ファイルの形式および文法について説明します。

定義ファイルの説明形式

定義ファイルについて、次の形式で説明しています。

説明

定義ファイルの概要について説明します。

形式

定義ファイルの入力形式を示します。

ファイル名

定義ファイルのファイル名を示します。

格納先フォルダ

定義ファイルの格納先フォルダを示します。

定義の反映時期

定義ファイルの反映時期を示します。

記述内容

定義ファイルの記述内容について説明します。

注意事項

定義ファイルを編集する上での注意事項について説明します。

定義例

定義ファイルの定義例を示します。

❗ 重要

- すべての定義ファイルで上記の項目をすべて説明しているわけではありません。また、上記以外に、各定義ファイルの固有情報を記載している場合があります。
- 次に示す場合に指定キーに設定される値を「デフォルト値」と表記しています。
 - ・ 指定キーに不正値を設定した場合。
 - ・ 指定キーに値を設定していない場合。
 - ・ 指定キーを設定していない（省略している）場合。

定義ファイル一覧

JP1/Service Support の定義ファイルを次の表に示します。

表 13-1 定義ファイル一覧

定義ファイル名	説明
CSV カラム名マッピングファイル (jplimss_itemcsv_columnmap.conf)	jssitemexportEx コマンドを使って、案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルを出力する際に、各ファイルのヘッダー情報を定義したファイル。
CSV 設定ファイル (hptl_jp1_imss_csv_setting.properties)	jssitemexportEx コマンドを使って、案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルを出力する際に、出力する案件の情報に含まれている改行文字を置換する形式を定義したファイル。
JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル (hptl_jp1_imss_ua_conf.properties)	LDAP 認証に必要な設定を定義したファイル。
JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jpl_event_setting.properties)	JP1/Service Support から JP1 イベントを発行するかどうか、また、JP1 イベントを発行するために接続するイベントサーバ名を定義したファイル。
JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jpl_product_cooperation_setting.properties)	特定の JP1 製品と連携するかどうか、また、その JP1 製品と連携するユーザーを定義したファイル。
URL 定義ファイル (jsslogin.url)	JP1/Service Support をインストールしたサーバのスタートメニューから JP1/Service Support にログインする際の URL を定義するファイル。
アクセス権情報入力ファイル (任意)	アクセス権情報を入力した CSV ファイル。 jssaclimport コマンドを使って、JP1/Service Support にアクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を設定する際に使用する。
案件検索用の案件フォーム定義ファイル (任意)	[案件共通項目検索条件指定] 画面に表示される案件の項目を定義するファイル。各プロセス用の案件フォーム定義ファイルをカスタマイズした際や検索で使用する案件の項目を減らす際に使用する。
案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties)	画面およびメールで案件を登録するときに一部項目への自動入力の可否、および自動入力する値について設定するファイル。
案件自動入力プロパティファイル (jplimss_itementry_default.conf)	コマンドで案件を登録するときに一部項目への自動入力の可否、および自動入力する値について設定するファイル。
案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties)	メイン画面（案件状況）で案件の集計結果を表示する際の各種しきい値、対象案件一覧に表示する内容を定義したファイル。
案件情報入力ファイル (任意)	複数の案件情報を入力した CSV ファイル。 jssitemimport コマンドを使って、JP1/Service Support に複数の案件を一括登録する際に使用する。
案件情報拡張入力ファイル (任意)	複数の案件情報および案件情報の関連情報を、それぞれ入力した CSV ファイル。

定義ファイル名	説明
案件情報拡張入力ファイル (任意)	jssitemimportEx コマンドを使って、JP1/Service Support に複数の案件を一括登録する際に使用する。
案件フォーム定義ファイル (任意)	各プロセスで扱う案件の項目を定義するファイル。 jssformdef コマンドを使って、案件の項目をカスタマイズする際に使用する。
案件保存 DB 拡張情報設定ファイル (jssitemstoredbexpandinfo.bat)	案件保存 DB の容量を拡張するために必要な情報を定義したファイル。 jssitemstoredbexpand.bat コマンドを使って、案件保存 DB の容量を拡張する際に使用する。
案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (jssitemstoredbinfo.bat)	案件保存 DB をセットアップするために必要な情報を定義したファイル。 jssitemstoredbsetup.bat コマンドを使って、案件保存 DB をセットアップする際に使用する。
関連情報定義ファイル	WWW アプリケーションなどと連携するために必要な情報を定義したファイル。
関連リンクプロパティファイル (hptl_jp1_imss_link_setting.properties)	メイン画面 (案件状況) のメニュー「関連リンク」に登録するリンク先を定義したファイル。
機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties)	JP1/UCMDB サーバと接続するための JP1/UCMDB サーバ、ユーザー ID、パスワード、結果を出力するユーザー公開用のログファイルのサイズおよび面数を定義したファイル。
コードマッピングファイル (jp1imss_itemedit_codemap.conf)	jssitemedit コマンドで指定した選択肢コードとステータスを案件の項目に表示される情報を関連づけるための定義ファイル。 jssitemedit コマンドを使って、案件を登録する際に使用する。
コードマッピングファイル (jp1imss_itementry_codemap.conf)	jssitementry コマンドで指定したオプション情報と選択式の案件の項目に表示される情報を関連づけるための定義ファイル。 jssitementry コマンドを使って、案件を登録する際に使用する。
コードマッピングファイル (jp1imss_itemimport_codemap.conf)	jssitemimport コマンドで指定した案件情報入力ファイルと選択式の案件の項目に表示される情報を関連づけるための定義ファイル。 jssitemimport コマンドを使って、案件を一括登録する際に使用する。
システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)	案件の表示や作成などで使用する画面の表示、案件の検索や入力補助機能、他製品との連携などを定義したファイル。
ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jp1_imss_jp1event_status.properties)	ステータス変更 JP1 イベントの拡張属性に、案件が保持する情報を定義するファイル。このファイルを編集することで、JP1 イベントに格納する案件情報を定義できる。
操作ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_access_log.properties)	操作ログを出力するかどうか、また操作ログのサイズ、面数を定義したファイル。
滞留案件定義ファイル (jp1informleave_setting.conf)	案件を監視する条件を定義したファイル。 jssinformleave コマンドを使って、案件が滞留しているかどうかを確認する際に使用する。

定義ファイル名	説明
タスク実行サービス定義ファイル (jplimss_service_setting.conf)	jssclectdata, jssitementrybyemail, jssinformperiod および jssinformleave コマンドを自動実行する場合に、実行時刻や実行間隔を定義するファイル。このファイルを編集して、JP1/Service Support - Task Service サービスを起動することで、各コマンドを自動実行できる。
入力候補値設定ファイル (任意)	入力補助機能で、画面に項目ごとの入力候補値を表示したり、項目間で連携して入力候補値を表示したりするため、あらかじめ入力候補値を設定しておくファイル。
入力補助機能プロパティファイル (hptl_jpl_imss_input_assist_plugin.properties)	入力候補値設定ファイルの解析結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイル。
メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル (hptl_jpl_imss_main_log.properties)	画面操作、および定義ファイル読み込み時の実行結果を出力するメインサービスのユーザー公開ログファイルの面数およびサイズを定義したファイル。
メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)	メールを送信するタイミングや認証方式、メールで通知するための情報（メールの主題や本文、送信者情報など）、およびメールで案件を登録するための情報を定義したファイル。
メンバー情報入力ファイル (任意)	ロール別にメンバー情報を入力した CSV ファイル。 jssmemberimport コマンドまたは jssmemberdelete コマンドを使って、JP1/Service Support に登録されているロールのメンバー情報を一括登録、または一括削除する際に使用する。
文字列置換設定ファイル (jplimss_replace_string_setting.conf)	jssitementry コマンドで案件を登録する際に、登録する案件の textarea 型の項目に含まれている任意の文字列を改行文字に置換する形式を定義したファイル。
ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jpl_imss_usermgr.properties)	画面に表示されるユーザー一覧、ロール一覧の情報のソート規則などを定義したファイル。
ユーザー情報入力ファイル (任意)	複数のユーザー情報を入力した CSV ファイル。 jssuserimport コマンドを使って、JP1/Service Support に複数のユーザー情報を一括登録する際に使用する。
ユーザー情報編集ファイル (任意)	ユーザー情報を入力した CSV ファイル。 jssuseredit コマンドを使って、JP1/Service Support に登録されているユーザー情報を一括編集する際に使用する。
ユーザーログ定義ファイル (jplaclexport.conf)	jssaclexport コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplaclimport.conf)	jssaclimport コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplauthusersetup.conf)	jssauthusersetup コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイル。

定義ファイル名	説明
ユーザーログ定義ファイル (jplinformleave.conf)	jssinformleave コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplinformperiod.conf)	jssinformperiod コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplitemcount.conf)	jssitemcount コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplitemedit.conf)	jssitemedit コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplitementry.conf)	jssitementry コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplitementrybymail.conf)	jssitementrybymail コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplitemexportEx.conf)	jssitemexportEx コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、画面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplitemimportEx.conf)	jssitemimportEx コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力する際、そのログファイルのサイズ、画面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplitemstore.conf)	jssitemstore コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、画面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplitemstoredbrotate.conf)	jssitemstoredbrotate コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、画面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplmailnotification.conf)	メール通知の実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイル。
ユーザーログ定義ファイル (jplrefaclsetup.conf)	jssrefaclsetup コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイルに出力する際、そのログファイルのサイズ、画面数を定義したファイル。
ロール情報入力ファイル (任意)	ロール情報を入力した CSV ファイル。 jssroleimport コマンドを使って、JP1/Service Support に複数のロール情報を一括登録する際に使用する。

定義ファイル変更時の定義内容の反映時期

JP1/Service Support の定義ファイルを変更した場合、サービスの再起動またはコマンドを実行することによって、定義内容が反映されます。また、定義ファイルによって定義内容の反映時期が異なります。定義ファイル変更時の定義内容の反映時期について、次の表に示します。

表 13-2 定義ファイル変更時の定義内容の反映時期

定義ファイル名	サービスの再起動					コマンドの実行
	JP1/ Service Support - Web Service	JP1/ Service Support	JP1/ Service Support - DB Server	JP1/ Service Support - DB Cluster Service	JP1/ Service Support - Task Service	
CSV カラム名マッピングファイル (jplimss_itemcsv_columnmap.conf)	—	—	—	—	—	○
CSV 設定ファイル (hptl_jp1_imss_csv_setting.properties)	—	—	—	—	—	○
JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル (hptl_jp1_imss_ua_conf.properties)	—	—	—	—	—	○
JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties)	○	○	—	—	—	—
JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jplproduct_cooperation_setting.properties)	—	○	—	—	—	—
URL 定義ファイル (jsslogin.url)	—	—	—	—	—	○
アクセス権情報入力ファイル (任意)	—	—	—	—	—	○
案件検索用の案件フォーム定義ファイル (任意)	—	—	—	—	—	○
案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties)	○	○	—	—	—	—
案件自動入力プロパティファイル (jplimss_itementry_default.conf)	—	—	—	—	—	○
案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties)	○	○	—	—	—	—
案件情報入力ファイル (任意)	—	—	—	—	—	○

定義ファイル名	サービスの再起動					コマンドの実行
	JP1/ Service Support - Web Service	JP1/ Service Support	JP1/ Service Support - DB Server	JP1/ Service Support - DB Cluster Service	JP1/ Service Support - Task Service	
案件情報拡張入力ファイル (任意)	—	—	—	—	—	○
案件フォーム定義ファイル (任意)	—	—	—	—	—	○
案件保存 DB 拡張情報設定ファイル (jssitemstoredbexpandinfo.bat)	—	—	—	—	—	○
案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (jssitemstoredbinfo.bat)	—	—	—	—	—	○
関連情報定義ファイル	—	—	—	—	—	○
関連リンクプロパティファイル (hptl_jp1_imss_link_setting.properties)	○	○	—	—	—	—
機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties)	○	○	—	—	—	—
コードマッピングファイル (jp1imss_itemedit_codemap.conf)	—	—	—	—	—	○
コードマッピングファイル (jp1imss_itementry_codemap.conf)	—	—	—	—	—	○
コードマッピングファイル (jp1imss_itemimport_codemap.conf)	—	—	—	—	—	○
システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)	○	○	—	—	—	—
ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_status.properties)	○	○	—	—	—	—
操作ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_access_log.properties)	○	○	—	—	—	—
滞留案件定義ファイル (jp1informleave_setting.conf)	—	—	—	—	—	—
タスク実行サービス定義ファイル (jp1imss_service_setting.conf)	—	—	—	—	○	—
入力候補値設定ファイル (任意)	—	—	—	—	—	○

定義ファイル名	サービスの再起動					コマンドの実行
	JP1/ Service Support - Web Service	JP1/ Service Support	JP1/ Service Support - DB Server	JP1/ Service Support - DB Cluster Service	JP1/ Service Support - Task Service	
入力補助機能プロパティファイル (hptl_jp1_imss_input_assist_plugin.pr operties)	○	○	—	—	—	—
メインサービスのユーザー公開ログ設定 ファイル (hptl_jp1_imss_main_log.properties)	○	○	—	—	—	—
メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)	○	○	—	—	—	—
メンバー情報入力ファイル (任意)	—	—	—	—	—	○
文字列置換設定ファイル (jplimss_replace_string_setting.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties)	○	○	—	—	—	—
ユーザー情報入力ファイル (任意)	—	—	—	—	—	○
ユーザー情報編集ファイル (任意)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplaclexport.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplaclimport.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplauthusersetup.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplinformleave.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplinformperiod.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplitemcount.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplitemedit.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplitementry.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplitementrybymail.conf)	—	—	—	—	—	○

定義ファイル名	サービスの再起動					コマンドの 実行
	JP1/ Service Support - Web Service	JP1/ Service Support	JP1/ Service Support - DB Server	JP1/ Service Support - DB Cluster Service	JP1/ Service Support - Task Service	
ユーザーログ定義ファイル (jplitemexportEx.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplitemstore.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplitemstoredbrotate.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplitemimportEx.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplmailnotification.conf)	—	—	—	—	—	○
ユーザーログ定義ファイル (jplrefaclsetup.conf)	—	—	—	—	—	○
ロール情報入力ファイル (任意)	—	—	—	—	—	○

(凡例)

- ：サービス再起動またはコマンドの実行が必要
- ：サービス再起動またはコマンドの実行は不要

CSV カラム名マッピングファイル (jp1imss_itemcsv_columnmap.conf)

説明

jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート) コマンドで出力する案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルのヘッダー情報を定義するファイルです。

CSV カラム名マッピングファイルでは、ヘッダー情報 (各ファイルのボディ部の 1 行目) に表示される項目の名称を変更できます。表示、非表示、および出力順序は、変更できません。なお、定義を省略した場合は、あらかじめ設定されている名称で出力されます。

出力される案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルについては、「12. コマンド」の「jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート)」を参照してください。

形式

```
#Item CSV hedder
I. SYSTEMID=対象システムのシステムIDの名称
I. SYSTEMNAME=対象システムのシステム名の名称
I. PROCESS=プロセス名の名称
I. PWBID=プロセスワークボードIDの名称
:
#ItemRef CSV hedder
R. PWBID=プロセスワークボードIDの名称
R. PITEMNO=プロセスワークボード内通し番号の名称
R. VERN0=バージョン番号の名称
R. REFINFOID=関連情報IDの名称
:
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

ファイル名

- jplimss_itemcsv_columnmap.conf (CSV カラム名マッピングファイル)
- jplimss_itemcsv_columnmap.conf.model (CSV カラム名マッピングファイルのモデルファイル) ※
注※

モデルファイルは、CSV カラム名マッピングファイルの内容をリセットする場合に利用してください。CSV カラム名マッピングファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで、CSV カラム名マッピングファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート) コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

ヘッダー項目の名称を変更する場合、該当するプロパティキーの値を変更してください。プロパティキーの値を変更する際、プロパティキーを変更または削除しないでください。プロパティキーを変更または削除すると、該当するプロパティキーは未定義と判断され、あらかじめ設定されている値（デフォルト値）になります。

なお、プロパティキーの値を指定する際は、次に示す規則に従ってください。

指定できる文字と条件

制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字で指定する。

指定できるバイト数

1～255 バイト

なお、文字列長のバイトは UTF-8 で換算されます。全角文字は、3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。

CSV カラム名マッピングファイルで設定できるプロパティキーの一覧を、ファイル別に次の表に示します。

表 13-3 CSV カラム名マッピングファイルで設定できるプロパティキー一覧（案件情報 CSV ファイル）

項番	プロパティキー	項目名（デフォルト値）
1	I.SYSTEMID	対象システムのシステム ID
2	I.SYSTEMNAME	対象システムのシステム名
3	I.PROCESS	プロセス名
4	I.PWBID	プロセスワークボード ID
5	I.PITEMNO	プロセスワークボード内通し番号
6	I.VERNO	バージョン番号
7	I.ITEMNO	関連案件通し番号
8	I.EITEMNO	エスカレーション番号
9	I.FORMID	案件フォーム ID
10	I.FORMNO	案件フォームのバージョン番号
11	I.ITEMSTATUSID	案件ステータス ID
12	I.ITEMSTATUSNAME	案件ステータス名
13	I.EDITSTATUS	編集状態
14	I.DATATYPE	データ種別
15	I.ORGFWBID	エスカレーション元プロセスワークボード ID
16	I.ORGITEMNO	エスカレーション元関連案件通し番号

項番	プロパティキー	項目名 (デフォルト値)
17	I.ORGEITEMNO	エスカレーション元エスカレーション番号
18	I.ESCITEMNO	エスカレーション先関連案件通し番号
19	I.ESCEITEMNO	エスカレーション先エスカレーション番号
20	I.ESCPWBID	エスカレーション先プロセスワークボード ID
21	I.ESCSYSTEMID	エスカレーション先システム ID
22	I.ESCSYSTEMNAME	エスカレーション先システム名
23	I.ESCPROCESS	エスカレーション先プロセス名
24	I.ITEMENTRY_SEQNO	連動元イベント DB 内通し番号
25	I.ITEMENTRY_ACTHOST	JP1/IM - Manager のホスト名
26	I.ITEMSEVERITY	重大度
27	I.IMPACT	影響度
28	I.PRIORITY	優先度
29	I.ITEM_CATEGORY	案件種別
30	I.ISSUE_CATEGORY	問題分野
31	I.PHENOMENON	現象種別
32	I.CAUSE	要因
33	I.RESULT	結果
34	I.SOLUTIONCODE	解決区分コード
35	I.AVOIDANCETYPE	回避策種別
36	I.CHANGE_SCALE	変更の規模
37	I.RELEASE_TYPE	リリースタイプ
38	I.ACCRUALDATE	発生日時
39	I.DEADLINE	作業期限
40	I.STARTDATE	開始日時
41	I.COMPDATE	完了日時
42	I.TITLE	タイトル
43	I.SUMMARY	概要
44	I.EFFECTSRV	影響業務
45	I.ITEMSEVERITY_REASON	重大度の理由
46	I.IMPACT_REASON	影響度の理由
47	I.PRIORITY_REASON	優先度の理由

項番	プロパティキー	項目名 (デフォルト値)
48	I.AVOIDANCE	回避策
49	I.SITUATION	作業状況
50	I.ROOTCAUSE	根本原因
51	I.SOLUTION	解決策
52	I.FAILLOCATION	問題個所とバージョン
53	I.SCHEDULE	スケジュール, 手順概要
54	I.IMPACTEVAL	変更の影響評価
55	I.DELIBERATIONRST	審議結果
56	I.MEASURES	再発防止策のための考察
57	I.FREEDESC	フリー記入欄
58	I.PRODUCTNAME	プロダクト名
59	I.JOBNETNAME	ジョブネット名
60	I.JOBNAME	ジョブ名
61	I.SNMPSRC	SNMP ソース
62	I.NODENAME	監視ノード名
63	I.ALARMNAME	アラーム名
64	I.CUSTOMER	顧客名
65	I.ESTIMATEDCOST	費用 (予算)
66	I.ACTUALCOST	費用 (実績)
67	I.INQUIRY	問合せ者名
68	I.REGISTRANTID	登録者 ID
69	I.REGISTRANTNAME	登録者名
70	I.REGISTRANTNAMEEN	登録者名 (英語)
71	I.ASSIGNEDTYPE	担当者種別
72	I.ASSIGNEDID	担当者 ID
73	I.ASSIGNED	担当者名
74	I.ASSIGNEDNAMEEN	担当者名 (英語)
75	I.RESPONDENTTYPE	回答責任者種別
76	I.RESPONDENTID	回答責任者 ID
77	I.RESPONDENT	回答責任者名
78	I.RESPONDENTNAMEEN	回答責任者名 (英語)

項番	プロパティキー	項目名 (デフォルト値)
79	I.USERTEXT01	拡張テキストデータ 1
80	I.USERTEXT02	拡張テキストデータ 2
81	I.USERTEXT03	拡張テキストデータ 3
82	I.USERTEXT04	拡張テキストデータ 4
83	I.USERTEXT05	拡張テキストデータ 5
84	I.USERTEXT06	拡張テキストデータ 6
85	I.USERTEXT07	拡張テキストデータ 7
86	I.USERTEXT08	拡張テキストデータ 8
87	I.USERTEXT09	拡張テキストデータ 9
88	I.USERTEXT10	拡張テキストデータ 10
89	I.USERTEXT11	拡張テキストデータ 11
90	I.USERTEXT12	拡張テキストデータ 12
91	I.USERTEXT13	拡張テキストデータ 13
92	I.USERTEXT14	拡張テキストデータ 14
93	I.USERTEXT15	拡張テキストデータ 15
94	I.USERTEXT16	拡張テキストデータ 16
95	I.USERTEXT17	拡張テキストデータ 17
96	I.USERTEXT18	拡張テキストデータ 18
97	I.USERTEXT19	拡張テキストデータ 19
98	I.USERTEXT20	拡張テキストデータ 20
99	I.USERTIME01	拡張時刻データ 1
100	I.USERTIME02	拡張時刻データ 2
101	I.USERTIME03	拡張時刻データ 3
102	I.USERTIME04	拡張時刻データ 4
103	I.USERTIME05	拡張時刻データ 5
104	I.USERCODE01	拡張コードデータ 1
105	I.USERCODE02	拡張コードデータ 2
106	I.USERCODE03	拡張コードデータ 3
107	I.USERCODE04	拡張コードデータ 4
108	I.USERCODE05	拡張コードデータ 5
109	I.USERINT01	拡張数値データ 1

項番	プロパティキー	項目名 (デフォルト値)
110	I.USERINT02	拡張数値データ 2
111	I.USERINT03	拡張数値データ 3
112	I.USERINT04	拡張数値データ 4
113	I.USERINT05	拡張数値データ 5
114	I.USEREXTTYPE01	拡張ユーザー情報種別 1
115	I.USEREXTINFO01	拡張ユーザー情報 1
116	I.USEREXTNAME01	拡張ユーザー名 1
117	I.USEREXTTYPE02	拡張ユーザー情報種別 2
118	I.USEREXTINFO02	拡張ユーザー情報 2
119	I.USEREXTNAME02	拡張ユーザー名 2
120	I.USEREXTTYPE03	拡張ユーザー情報種別 3
121	I.USEREXTINFO03	拡張ユーザー情報 3
122	I.USEREXTNAME03	拡張ユーザー名 3
123	I.USEREXTTYPE04	拡張ユーザー情報種別 4
124	I.USEREXTINFO04	拡張ユーザー情報 4
125	I.USEREXTNAME04	拡張ユーザー名 4
126	I.USEREXTTYPE05	拡張ユーザー情報種別 5
127	I.USEREXTINFO05	拡張ユーザー情報 5
128	I.USEREXTNAME05	拡張ユーザー名 5
129	I.CREATOR_ID	編集者 ID
130	I.CREATORNAME	編集者名
131	I.CREATORNAMEEN	編集者名 (英語)
132	I.CREATIONDATE	登録日時
133	I.LASTUPDATE	更新日時
134	I.MESSAGEID	メッセージ ID
135	I.REFINFOID	関連情報 ID
136	I.APDFILEID	添付ファイル ID
137	I.FILENAME	添付ファイル
138	I.OPERATIONHISTORY	操作履歴

表 13-4 CSV カラム名マッピングファイルで設定できるプロパティキー一覧 (関連情報 CSV ファイル)

項番	プロパティキー	項目名 (デフォルト値)
1	R.PWBID	プロセスワークボード ID
2	R.PITEMNO	プロセスワークボード内通し番号
3	R.VERNO	バージョン番号
4	R.REFINFOID	関連情報 ID
5	R.PARTID	案件フォーム項目 ID
6	R.INFOTYPE	関連情報種別
7	R.REFDETAIL	関連情報詳細
8	R.REFINFO1	関連情報 1
9	R.REFINFO2	関連情報 2

注意事項

- CSV カラム名マッピングファイル (jplimss_itemcsv_columnmap.conf) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

定義例を次に示します。

```
#Item CSV hedder
I. SYSTEMID=対象システムのシステムID. No1
I. SYSTEMNAME=対象システムのシステム名. No2
I. PROCESS=プロセス名. No1
I. PWBID=プロセスワークボードID. No2
:
#ItemRef CSV hedder
R. PWBID=プロセスワークボードID. No2
R. PITEMNO=プロセスワークボード内通し番号. No2
R. VERNO=バージョン番号. No3
R. REFINFOID=関連情報ID. No3
:
```

CSV 設定ファイル (hptl_jp1_imss_csv_setting.properties)

説明

jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート) コマンドおよび jssitemimportEx (案件情報拡張インポート) コマンドで扱う案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルで、改行文字をどのように扱うかを定義するファイルです。

出力される案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルについては、「12. コマンド」の「jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート)」を参照してください。

形式

```
#Replace Linefeed code of CSV file
hptl_jp1_imss_replace_linefeed_flag=特定の文字を改行に変換する, または変換しない
hptl_jp1_imss_replace_linefeed_string="改行文字の置換文字"
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

ファイル名

- hptl_jp1_imss_csv_setting.properties (CSV 設定ファイル)
- hptl_jp1_imss_csv_setting.properties.model (CSV 設定ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは、CSV 設定ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。CSV 設定ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで、CSV カラム名マッピングファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート) コマンド、または jssitemimportEx (案件情報拡張インポート) コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キー以外は編集しないでください。指定キーと値は「= (イコール)」でつなぎます。

表 13-5 CSV 設定ファイルで設定できるプロパティキー一覧

プロパティキー	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_replace_linefeed_flag	jssitemimportEx コマンドで案件情報を登録する場合、入力ファイルの特定の文字列	true

プロパティキー	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_replace_linefeed_flag	<p>(hptl_jp1_imss_replace_linefeed_string で指定した値) を改行文字に変換してから登録するかどうかを指定する。なお、改行文字を指定できない項目では変換されない。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true：改行文字に変更する • false：改行文字に変更しない。 <p>jssitemexportEx コマンドで案件情報を出力する場合、このプロパティキーの指定に関係なく、改行文字が hptl_jp1_imss_replace_linefeed_string で指定した値に変換される。</p>	true
hptl_jp1_imss_replace_linefeed_string	<p>jssitemimportEx コマンドで案件情報を登録する場合、入力ファイルに含まれている特定の文字列を改行文字に置換したいとき、改行文字に置換したい文字列を指定する。</p> <p>jssitemexportEx コマンドで案件情報を出力する場合、案件情報に含まれている改行文字を特定の文字列に置換したいとき、置換後の文字列を指定する。</p> <p>指定できる値は 1～32 バイトの範囲の文字列で、制御文字 (0x00～0x1F, 0x7F), " (ダブルクォーテーション), および、(コンマ) 以外の文字で指定する。</p> <p>また、指定した文字列は、正規表現に対応しない。</p>	[¥r¥n]

注意事項

- CSV 設定ファイル (hptl_jp1_imss_csv_setting.properties) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

定義例を次に示します。

```
#Replace Linefeed code of CSV file
hptl_jp1_imss_replace_linefeed_flag=true
hptl_jp1_imss_replace_linefeed_string="¥n"
```

JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル (hptl_jp1_imss_ua_conf.properties)

説明

LDAP 認証を行う場合に設定する内容を定義するファイルです。

形式

```
java.naming.provider.url.0=LDAPサーバのURL
com.jp1.imss.admin.auth.ldap.basedn.0=LDAPサーバのベースDN
com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.userdn.0=階層構造の組織単位 (OU) を使用した認証の可否
com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.scope.0=階層構造の組織単位 (OU) を使用した認証の可否
java.naming.security.principal.0=LDAPディレクトリサーバにアクセスする際の認証者の識別子
java.naming.security.credentials.0=java.naming.security.principal.0に対応するパスワード
com.jp1.imss.admin.auth.ldap.attr.userid.0=ユーザーのログインIDを表す属性名
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

ファイル名

- hptl_jp1_imss_ua_conf.properties (JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル)
- hptl_jp1_imss_ua_conf.properties.model (JAAS 対応ユーザ管理定義ファイルのモデルファイル) ※
注※

モデルファイルは JAAS 対応ユーザ管理定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。JAAS 対応ユーザ管理定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで JAAS 対応ユーザ管理定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

jsschauthorityserver コマンドを実行し、JP1/Service Support サービスを再起動すると、JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キー以外は編集しないでください。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-6 JAAS 対応ユーザ管理定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
java.naming.provider.url.0	LDAP ディレクトリサーバの URL を指定する。 指定できる値は 1~4096 バイトの範囲の文字列。	—

指定キー名	説明	デフォルト値
com.jp1.imss.admin.auth.ldap.basedn.0	LDAP ディレクトリサーバのベース DN を半角英数字の文字列で指定する。 指定できる値は 1~512 バイトの範囲の文字列。	—
com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.user.rdn.0*	階層構造の組織単位 (OU) を使用した認証をする場合は「true」を指定する。	—
com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.scope.0*	階層構造の組織単位 (OU) を使用した認証をする場合は「subtree」を指定する。	—
java.naming.security.principal.0*	LDAP ディレクトリサーバにアクセスする際の認証者の識別子を、半角英数字の文字列で指定する。 指定できる値は 1~512 バイトの範囲の文字列。	—
java.naming.security.credentials.0	java.naming.security.principal.0 に対応するパスワードを文字列で指定する。	—
com.jp1.imss.admin.auth.ldap.attr.userid.0	ユーザーのログイン ID を表す属性名を文字列で指定する。 <ul style="list-style-type: none"> フルネームで連携する場合：CN ユーザーログオン名 (Windows 2000 よりも前) で連携する場合：sAMAccountName 	CN

(凡例)

—：設定値なし

注※

指定キー「com.jp1.imss.admin.auth.ldap.attr.userid.0」で「sAMAccountName」を指定した場合は、必ず指定してください。

注意事項

- JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル (hptl_jp1_imss_ua_conf.properties) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

定義例 1

Active Directory のドメインが「jp1.imss」で、コンテナ「Users」にいるユーザーを使用して認証する場合の定義例を次に示します。

```
java.naming.provider.url.0=ldap://ldap-server:389
com.jp1.imss.admin.auth.ldap.basedn.0=CN=Users,DC=jp1,DC=imss
```

定義例 2

Active Directory のドメインが「jp1.imss」で、OU「userGroup」にパスワード「jp1admin」のユーザー「jp1admin」が登録されており、OU「userGroup」に配置したユーザー「user01」とOU「userGroup」配下のOU「subGroup」に配置したユーザー「user02」の両方を認証する場合の定義例を次に示します。

```
java.naming.provider.url.0=ldap://ldap-server:389
com.jp1.imss.admin.auth.ldap.basedn.0=OU=userGroup,DC=jp1,DC=imss
com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.userrdn.0=true
com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.scope.0=subtree
java.naming.security.principal.0=CN=jp1admin,OU=userGroup,DC=imss,DC=com
java.naming.security.credentials.0=jp1admin
```

JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties)

説明

次に示す特定の JP1 製品と連携するかどうか、また、その JP1 製品にアクセスできるユーザーを定義したファイルです。

- JP1/NP
- JP1/AO
- JP1/AJS3
- JP1/PFM

形式

```
hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_flag=特定のJP1製品と連携する, または連携しない  
hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_userList=特定のJP1製品にアクセスできるユーザーのユーザーID  
hptl_jp1_imss_information_search_userid=情報検索用のユーザーID
```

ファイル名

- hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties (JP1 製品連携設定プロパティファイル)
- hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties.model (JP1 製品連携設定プロパティファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは JP1 製品連携設定プロパティファイルの内容をリセットする場合に利用してください。JP1 製品連携設定プロパティファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで JAAS 対応ユーザ管理定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

JP1/Service Support サービスを再起動したあと反映されます。

記述内容

次で説明する指定キー以外は編集しないでください。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつなぎます。

表 13-7 JP1 製品連携設定プロパティファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_flag	<p>特定の JP1 製品と連携するかどうかを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true：特定の JP1 製品と連携する。 • false：特定の JP1 製品と連携しない。 <p>指定を省略、または指定できる値以外を指定した場合は、「false」が指定される。</p>	false
hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_userlist	<p>JP1/Service Support の認証が、案件管理 DB または LDAP サーバの場合、特定の JP1 製品と連携を行うユーザーのユーザー ID を指定する。</p> <p>指定できるユーザー数は 1,000。</p> <p>複数のユーザー ID を指定する場合は、「, (コンマ)」で区切って指定する。</p> <p>指定できる値は 1~31 バイトで小文字の半角英数字の文字列。</p> <p>指定できるユーザー数を越えた分のユーザー ID、または不正なユーザー ID は、無視される。</p>	—
hptl_jp1_imss_information_search_userid	<p>JP1/Service Support の認証が、LDAP サーバの場合、事前に登録されている情報検索用のユーザーのユーザー ID を指定する。情報検索用のユーザーとは、特定の JP1 製品と連携する場合、JP1 製品にアクセスできるユーザーを検索するためのユーザーである。なお、ユーザー ID が変更または削除されるのを防ぐため、使用しているユーザー ID ではなく、専用のユーザー ID を用意する。</p> <p>指定できるユーザー数は 1。</p> <p>指定できる値は 1~64 文字で半角英数字の文字列。</p>	—

(凡例)

—：設定値なし

指定キーの設定要否

認証サーバと特定の JP1 製品と連携するかどうかによって、指定キーの設定が異なります。JP1 製品連携設定プロパティファイルの指定キーの設定を、次の表に示します。

表 13-8 JP1 製品連携設定プロパティファイルの指定キーの設定 (特定の JP1 製品と連携する場合)

指定キー名	認証サーバ		
	案件管理 DB	LDAP サーバ	JP1/Base の認証サーバ
hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_flag	true	true	true
hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_userlist	特定の JP1 製品と連携を行うユーザーのユーザー ID	特定の JP1 製品と連携を行うユーザーのユーザー ID	設定不要

指定キー名	認証サーバ		
	案件管理 DB	LDAP サーバ	JP1/Base の認証サーバ
hptl_jp1_imss_information_search_userid	設定不要	事前に登録されている情報 検索用のユーザーのユーザー ID	設定不要

表 13-9 JP1 製品連携設定プロパティファイルの指定キーの設定（特定の JP1 製品と連携しない場合）

指定キー名	認証サーバ		
	案件管理 DB	LDAP サーバ	JP1/Base の認証サーバ
hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_flag	false		
hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_userlist	設定不要		
hptl_jp1_imss_information_search_userid	設定不要		

注意事項

- JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

JP1/NP と連携し、連携するユーザーに「user01」「user02」を、情報検索用のユーザーに「kensaku01」を設定した場合の定義例を、次に示します。

```
hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_flag=true
hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_userlist=user01,user02
hptl_jp1_imss_information_search_userid=kensaku01
```

JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jp1event_setting.properties)

説明

JP1/Service Support から JP1 イベントを発行するかどうか、また、JP1 イベントを発行するために接続するイベントサーバ名、JP1 イベント発行機能用のログファイルの面数、JP1 イベント発行機能用のログファイル 1 面の最大サイズ、および JP1 イベントを集約するかどうかを定義したファイルです。

次のような場合に、JP1/Service Support から JP1 イベントを発行するためには、このファイルを編集する必要があります。

- JP1/IM - Manager から自動登録された案件のステータスが「クローズ」に変更されたときに、連動して（自動アクション経由で）対処状況を「対処済」に変更する
- 案件のステータスに変更されたときに、外部のシステムに通知する
- 案件の一括操作で案件を「クローズ」したときに、JP1 イベントを集約する

なお、JP1 イベントの詳細については、「付録 E.1 JP1 イベント一覧」を参照してください。

形式

```
hptl_jp1_imss_je_def_flag=発行する, または発行しない  
hptl_jp1_imss_je_def_jp1base=イベントサーバ名  
hptl_jp1_imss_je_log_file_num=ログファイルの面数  
hptl_jp1_imss_je_log_file_size=ログファイル1面の最大サイズ  
hptl_jp1_imss_je_def_batch=JP1イベントを集約する, または集約しない
```

ファイル名

- hptl_jp1_imss_jp1event_setting.properties
- hptl_jp1_imss_jp1event_setting.properties.model (JP1 イベント発行設定ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは JP1 イベント発行設定ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。JP1 イベント発行設定ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで JP1 イベント発行設定ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

次の JP1/Service Support のサービスを再起動したあと、反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

記述内容

次で説明する指定キー以外は編集しないでください。指定キーと値は「= (イコール)」でつなぎます。

表 13-10 JP1 イベント発行設定ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_je_def_flag	<p>JP1/Service Support から JP1 イベントを発行するかどうかを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • false：発行しない false を指定した場合、すべてのプロセスおよびプロセスワークボードから JP1 イベントは発行されない。 • true：発行する true を指定した場合、プロセスワークボード単位で JP1 イベントを発行するかどうかを設定できる。また、プロセス単位およびプロセスワークボード単位で、ステータス変更 JP1 イベントを発行するステータスを設定できる。 	false
hptl_jp1_imss_je_def_jp1base	<p>JP1 イベントを発行するために接続する JP1/Service Support が動作しているホスト上のイベントサーバ名を指定する。指定されたイベントサーバに接続し、JP1 イベントを発行する。JP1/Base をクラスタ運用している場合は、論理ホスト名を指定する。省略した場合は、JP1/Service Support が動作しているホスト名が仮定される。</p>	—
hptl_jp1_imss_je_log_file_num	<p>JP1 イベント発行機能用ログファイル (jp1imssevent[n].log) の面数を指定する。指定できる値は 1~16 の半角数字 (整数)。</p>	8
hptl_jp1_imss_je_log_file_size	<p>JP1 イベント発行機能用ログファイル (jp1imssevent[n].log) 1 面の最大サイズをバイト換算で指定する。指定できる値は 4096~2147483647 の半角数字 (整数)。</p>	4194304
hptl_jp1_imss_je_def_batch	<p>案件の一括操作で発行される対処済み連動用 JP1 イベントを集約するかどうかを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • false：集約しない false を指定した場合、一括操作の対象となる案件に対して、それぞれ対処済み連動用 JP1 イベントが発行される。 • true：集約する true を指定した場合、一括操作の対象となる案件のうち、JP1/IM - Manager ホスト名 (項目 ID : JIMSD_FORM_IMHOSTNAME) が同じ案件の対処済み連動用 JP1 イベントを集約した対処済み連動用集約 JP1 イベントが発行される。 	true

(凡例)

—：設定値なし

定義例

サーバ名を「Server」と仮定した場合の定義例を次に示します。

```
hptl_jp1_imss_je_def_flag=true  
hptl_jp1_imss_je_def_jp1base=Server  
hptl_jp1_imss_je_log_file_num=8  
hptl_jp1_imss_je_log_file_size=4194304  
hptl_jp1_imss_je_def_batch=false
```

注意事項

- JP1/Service Support と JP1/IM - Manager が別々のホストに存在する場合は、JP1/Base の転送設定ファイル (forward) に転送条件を指定して、JP1 イベントを転送する必要があります。
- hptl_jp1_imss_je_def_jp1base に指定するイベントサーバ名は、JP1/Service Support が動作しているホスト上のイベントサーバ名を指定してください。別のホストのイベントサーバ名を指定した場合、イベントの発行に失敗します。
- JP1 イベントの集約を有効にしても、案件の一括操作で案件を 1 件だけクローズした場合、対処済み連動用 JP1 イベントは集約されません。この場合、対処済み連動用 JP1 イベントが発行されます。案件の一括操作で発行される JP1 イベントの詳細については、「[3.7 案件の一括操作](#)」を参照してください。
- JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

URL 定義ファイル (jsslogin.url)

説明

スタート画面の [すべてのアプリ] に登録された [JP1_SS ログイン画面] から JP1/Service Support にログインする際の URL を定義したファイルです。次の場合に編集が必要です。

- JP1/Service Support の使用するポート番号を変更した場合
- ホスト名を変更した場合
- メール通知設定をした場合

形式

```
[DEFAULT]
BASEURL=http://サーバ名:ポート番号/jp1ss/index.jsp
[InternetShortcut]
URL=http://サーバ名:ポート番号/jp1ss/index.jsp
```

ファイル名

- jsslogin.url
- jsslogin.url.model (URL 定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは URL 定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。URL 定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで URL 定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥login¥

定義の反映時期

次回、[JP1_SS ログイン画面] から JP1/Service Support を起動したときに反映されます。

記述内容

次で説明するパラメーター以外は編集しないでください。

サーバ名

JP1/Service Support をインストールしたサーバ名を指定します。デフォルトは「localhost」です。変更する場合は、BASEURL、URL それぞれで指定されているサーバ名部分を同じ名称に変更してください。

ポート番号

JP1/Service Support と WWW ブラウザーを介して通信するためのポート番号を指定します。セットアップ時に使用するポート番号を変更しなかった場合には、変更不要です。デフォルトは「24401」です。変更する場合は、BASEURL, URL それぞれで指定されているポート番号部分を同じ数字に変更してください。

注意事項

- URL 定義ファイル (jsslogin.url) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

サーバ名を Server1 (JP1/Service Support をインストールしたサーバ名) に変更した場合の定義例を次に示します。

```
[DEFAULT]
BASEURL=http://Server1:24401/jp1ss/index.jsp
[InternetShortcut]
URL=http://Server1:24401/jp1ss/index.jsp
```

アクセス権情報入力ファイル（任意）

説明

JP1/Service Support に設定するアクセス権情報およびステータスの初期担当者の情報を入力したファイルです。このファイルは、CSV 形式で作成する必要があります。このファイルの内容を、JP1/Service Support に設定するには、jssaclimport コマンドを実行する必要があります。

形式

```
#コメント文（改行）
"システムID","プロセスワークボードID","ユーザー/ロールID種別","ユーザー/ロールID","アクセス権","アクセス権",...（改行）
"システムID","プロセスワークボードID","ユーザー/ロールID種別","ユーザー/ロールID","アクセス権","アクセス権",...（改行）
:
:
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

(凡例)

(改行)：改行を示す

ファイル名

任意のファイル名を使用します。

格納先フォルダ

jssaclimport コマンドを実行するホストの任意のフォルダ

定義反映時期

jssaclimport コマンドを実行すると、このファイルの内容が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次の表に示す順序に従ってアクセス権情報を指定してください。

表 13-11 アクセス権情報入力ファイルで指定するアクセス権情報（行単位）

指定順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数	指定要否
1	システム ID	半角英数字	1~64 バイト	○
2	プロセスワークボード ID	半角英数字	1~64 バイト	○
3	ユーザー/ロール ID 種別	「USER」または「ROLE」のどちらか 大文字と小文字は区別しない	—	○

指定順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数	指定要否
4	ユーザー/ロール ID	半角英数字	1~64 バイト	○
5	アクセス権※	半角英数字	—	△

(凡例)

—：指定できる値が決まっているため、その値が設定できるバイト数となる

○：指定が必要な項目

△：必要に応じて指定する項目

注※

ステータスの初期担当者を含みます。

1行でプロセスワークボードに設定できるユーザーまたはロールのアクセス権の情報となります。アクセス権情報の各項目は、「" (ダブルクォーテーション)」で囲み、「, (コンマ)」で区切ります。なお、アクセス権は複数設定できます。アクセス権を複数設定する場合は、「, (コンマ)」で区切ってください。

アクセス権に設定できる値

アクセス権に設定できる値を、次の表に示します。

表 13-12 アクセス権に設定できる値

設定できる値※1	説明
CREATE	案件に対する「案件の作成」権限
EDIT	案件に対する「案件の編集」権限
REFER	案件に対する「案件の参照」権限
DELETE	案件に対する「案件の削除」権限
ESCALATE	案件に対する「エスカレーション」権限
APPROVE	案件に対する「案件の承認」権限
CLOSE	案件に対する「案件のクローズ」権限
ST_INQUIRY※2	ステータスが「受付」の案件に対する「案件の編集」権限
ST_INQUIRY_DEF※2	ステータスが「受付」の案件に対する「案件の編集」権限および「受付」のステータスの初期担当者
ST_RESEARCH※2	ステータスが「調査中」の案件に対する「案件の編集」権限
ST_RESEARCH_DEF※2	ステータスが「調査中」の案件に対する「案件の編集」権限および「調査中」のステータスの初期担当者
ST_PLANNING※2	ステータスが「計画中」の案件に対する「案件の編集」権限
ST_PLANNING_DEF※2	ステータスが「計画中」の案件に対する「案件の編集」権限および「計画中」のステータスの初期担当者
ST_DISCUSSING※2	ステータスが「審議中」の案件に対する「案件の編集」権限

設定できる値※1	説明
ST_DISCUSSING_DEF※2	ステータスが「審議中」の案件に対する「案件の編集」権限および「審議中」のステータスの初期担当者
ST_APPROVED※2	ステータスが「承認済み」の案件に対する「案件の編集」権限
ST_APPROVED_DEF※2	ステータスが「承認済み」の案件に対する「案件の編集」権限および「承認済み」のステータスの初期担当者
ST_WAITING※2	ステータスが「対応依頼中」の案件に対する「案件の編集」権限
ST_WAITING_DEF※2	ステータスが「対応依頼中」の案件に対する「案件の編集」権限および「対応依頼中」のステータスの初期担当者
ST_REVIEW※2	ステータスが「レビュー中」の案件に対する「案件の編集」権限
ST_REVIEW_DEF※2	ステータスが「レビュー中」の案件に対する「案件の編集」権限および「レビュー中」のステータスの初期担当者
ST_CLOSE※2	ステータスが「クローズ」の案件に対する「案件の編集」権限
ST_CLOSE_DEF※2	ステータスが「クローズ」の案件に対する「案件の編集」権限および「クローズ」のステータスの初期担当者
ST_USER01～ST_USER40※2	「拡張ステータス 01」～「拡張ステータス 40」のステータスが設定された案件に対する「案件の編集」権限
ST_USER01_DEF～ ST_USER40_DEF※2	「拡張ステータス 01」～「拡張ステータス 40」のステータスが設定された案件に対する「案件の編集」権限および「拡張ステータス 01」～「拡張ステータス 40」のステータスの初期担当者

注※1

アクセス権を設定する際、大文字と小文字は区別しません。

注※2

ステータスに対するアクセス権を設定する場合、プロセスワークボードで使用しているステータスを設定できます。

対象のプロセスワークボードのユーザーまたはロールに設定されたアクセス権を削除する場合は、アクセス権の項目に何も設定しないでください。この場合、対象のプロセスワークボードのユーザーまたはロールに設定されたアクセス権がすべて削除されます。アクセス権の追加または変更（アクセス権の一部の削除を含む）をする場合は、変更後のアクセス権をすべて設定してください。なお、アクセス権の項目に「"」が存在する場合、「"」は無視されます。

また、対象のプロセスワークボードのステータスに対するアクセス権を設定する場合、同一のステータスに設定できるステータスの初期担当者は、1 ユーザーまたは 1 ロールです。

注意事項

- アクセス権情報入力ファイルは、1,000,000 行を上限とします。ただし、コメント行は 1 行と数えません。1,000,000 行を超えるアクセス権情報を設定する場合、アクセス権情報入力ファイルを分割して実行してください。
- 同じアクセス権を複数設定した場合、エラーとなります。

- 「システム ID」, 「プロセスワークボード ID」, 「ユーザー/ロール ID 種別」, および 「ユーザー/ロール ID」 が同じ行が複数存在する場合, 最後に設定した行が有効となります。
- 同一ステータスに対してステータスごとのアクセス権 (例: ST_INQUIRY) とステータスごとのアクセス権と初期担当者 (例: ST_INQUIRY_DEF) を同じ行に設定した場合, エラーとなります。
- アクセス権情報入力ファイルの 1 行に 60 項目以上指定した場合, 59 番目の項目までが登録されます。
- アクセス権情報入力ファイルは, JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合: MS932
 - 英語環境の場合: ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合: GB18030

定義例

定義例 1

アクセス権の新規追加

システム ID 「system0001」, プロセスワークボード ID 「pwb0001」 に対して, ユーザー 「user0001」 とロール 「role0001」 にアクセス権を新規に追加する場合の定義例を, 次に示します。

```
"system0001", "pwb0001", "USER", "user0001", "CREATE", "REFER", "ST_INQUIRY_DEF"
"system0001", "pwb0001", "ROLE", "role0001", "REFER", "CLOSE", "ST_APPROVED", "ST_CLOSE"
```

この例の場合, 次に示すアクセス権を新規に登録します。

- 「user0001」 に設定するアクセス権
 案件の作成権限, 案件の参照権限, ステータスが受付の案件の編集権限およびステータスが受付の初期担当者
- 「role0001」 に設定するアクセス権
 案件の参照権限, 案件のクローズ権限, ステータスが承認済みの案件の編集権限, ステータスがクローズの案件の編集権限,

定義例 2

アクセス権の変更

システム ID 「system0001」, プロセスワークボード ID 「pwb0001」 に対して, ユーザー 「user0002」 に設定されているアクセス権を変更する場合の定義例を, 次に示します。

```
"system0001", "pwb0001", "USER", "user0002", "REFER", "CLOSE"
```

この例の場合, 次に示すアクセス権を変更します。

- 「user0002」 に設定されているアクセス権 (変更前)
 案件の作成権限, 案件の参照権限
- 「user0002」 の変更後のアクセス権

定義例 3

アクセス権の削除

システム ID 「system0001」、プロセスワークボード ID 「pwb0001」に対して、ユーザー「user0003」に設定されているアクセス権を削除する場合の定義例を、次に示します。

```
"system0001", "pwb0001", "USER", "user0003"
```

この例の場合、次に示すアクセス権を削除します。

- 「user0003」に設定されているアクセス権（変更前）
案件の作成権限, 案件の参照権限, ステータスが受付の案件の編集権限およびステータスが受付の初期担当者
- 変更後の「user0003」のアクセス権
なし

案件検索用の案件フォーム定義ファイル（任意）

説明

メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧で、最上位の [プロセスワークボード] やシステムを選択した際の [案件共通項目検索条件指定] 画面に表示される案件の項目を定義するファイルです。また、[案件検索結果一覧] 画面から CSV ファイルを出力するときに、選択肢コードを表示名に変換するために使用します。JP1/Service Support に定義を反映すると、それ以降、最上位の [プロセスワークボード] やシステム選択時に検索条件として表示される案件の項目が、このファイルで定義した項目に変わります。

各プロセス用の案件フォーム定義ファイルをカスタマイズしたときや検索で使用する案件の項目を減らしたいときにカスタマイズしてください。各プロセス用の案件フォーム定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件フォーム定義ファイル（任意）](#)」を参照してください。

デフォルトで提供されている案件検索用の案件フォーム定義ファイルを次の表に示します。これらのファイルの内容を参考に定義ファイルを作成、カスタマイズしてください。

表 13-13 デフォルトで提供されている案件検索用の案件フォーム定義ファイル

ファイル名	説明
JP1/SS パス¥itemform¥jssdefault.xml	案件検索用の案件フォーム定義ファイル
JP1/SS パス¥itemform¥jssdefault.xml.model	案件検索用の案件フォーム定義ファイルのモデルファイル

形式

```
<!-- xmlの宣言 -->
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>

<!-- 案件フォーム定義 -->
<form-def xmlns="http://www.hitachi.co.jp/jp1/im-ss/jimss_form-1.0">
  <fid>JIMSD_FORM_MASTER</fid>
  <fname value="案件フォーム名" />
  <description>コメント</description>

<!-- 表示項目 -->
<display-def>
  <position>
    <row><col fiid="項目ID" /></row>
    <row><col fiid="項目ID" /><col fiid="項目ID" /></row>
    <row><col fiid="項目ID" /></row>
    :
  </position>
</display-def>

<!-- 項目情報 -->
<item-def>
  <item-text fiid="項目ID" search="true" >
    <label labelname="表示名" />
  </item-text>
```

```
      :
      <item-code fiid="項目ID" search="true" >
      <label labelname="表示名" />
      <options>
      <option value="0"></option>
      <option value="1">選択肢コード表示名</option>
      <option value="2">選択肢コード表示名</option>
      <option value="3">選択肢コード表示名</option>
      </options>
      </item-code>
      :
    </item-def>
  </form-def>
```

「<!--」 「-->」 で囲んだ内容は、コメント扱いとなります。

ファイル名

任意のファイル名を使用します。

格納先フォルダ

jssformdef コマンドを実行するホストの任意のフォルダ

定義の反映時期

jssformdef コマンドで案件フォーム定義ファイルの内容を反映したあとに有効になります。

記述内容

ここで説明しないパラメーターについては、変更しないでください。

xmlの宣言

ファイルの先頭行に次の宣言文を定義します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
```

案件フォーム定義

次の4行を定義（<description>タグだけは省略可能）したあと、表示項目、項目情報をそれぞれ定義します。また、ファイルの最後の行に</form-def>を定義します。

```
<form-def xmlns="http://www.hitachi.co.jp/jp1/im-ss/jimss_form-1.0">
  <fid>案件フォームID</fid>
  <fname value="案件フォーム名" />
  <description>コメント</description>
```

次に各タグで指定する値について説明します。

案件フォーム ID

案件検索用の案件フォームに指定できる案件フォーム ID は、JIMSD_FORM_MASTER です。これ以外は指定できません。

案件フォーム名

案件フォーム名を 255 バイト以内で指定します。デフォルトは「マスター表示項目」です。

コメント

案件フォームに対するコメントを 1,024 バイト以内で指定します。デフォルトは「案件検索用の案件フォーム」です。

なお、案件フォーム ID、案件フォーム名、コメントに指定した内容は、[案件フォームの管理] 画面、[案件フォームの詳細情報] 画面で確認できます。

表示項目

画面に表示する案件の項目を定義します。

<position>タグと</position>タグの間に次の形で項目を定義します。

```
<row><col fiid="項目ID" /></row>
<row><col fiid="項目ID" /><col fiid="項目ID" /></row>
<row><col fiid="項目ID" /></row>
:
```

<row>タグと</row>タグで一つの行を表しています。タグ内には、一つまたは二つの<col>タグを指定できます。<col>タグには表示する案件項目の項目 ID を指定します。各プロセス用の案件フォームで定義した項目をすべて定義します。なお、各プロセス用の案件フォームと異なり、記載順序は関係ありません。

項目 ID の詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件フォーム定義ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

項目情報

項目の属性を定義します。各プロセス用の案件フォームで定義した項目をすべて定義します。項目の属性の詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件フォーム定義ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。なお、定義の際には、「fiid="項目ID"」のあとに「search="true"」または「search="false"」を追記します。「search="true"」を追記した項目は、案件を検索する際に画面表示されます。「search="false"」を追記した項目は、案件を検索する際に画面表示されません。

指定例

```
<item-text fiid="JIMSD_FORM_SUMMARY" search="true" >
  <label labelname="概要" />
</item-text>
```

注意事項

- 項目情報に選択系の項目を指定する場合には、各プロセスで定義されているすべての選択肢コードを指定する必要があります。例えば、案件の項目「要因」のように各プロセスで選択肢コードが異なるものがあった場合、各プロセスで定義されている「要因」の選択肢コードすべてを指定する必要があります。指定されていないと、[案件共通項目検索条件指定] 画面に表示できない場合や、[案件検索結果一覧] 画面から出力した CSV ファイルの選択肢コードを表示名に変換できない場合があります。
- 案件フォーム名、コメント、表示名、および選択肢コード表示名に指定した文字列が全角文字を含む場合、全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。
- 案件検索用の案件フォーム定義ファイルは、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：UTF-8
 - 英語環境の場合：UTF-8
 - 中国語環境の場合：UTF-8
- 各プロセスで同じ項目 ID の選択肢コードに異なる表示名を設定してある場合でも、[案件検索結果一覧] 画面から CSV ファイルを出力するときは、変換される表示名は案件検索用の案件フォーム定義ファイルに設定されているものになります。プロセスごとに変換される表示名を変えることはできません。

定義例

定義例 1

各プロセス用の案件フォーム定義ファイルで案件の項目「案件種別」に表示順序「4」、選択肢コード「情報」を追加した場合の、案件検索用の案件フォームでの定義例を次に示します。なお、この例では、案件の項目「案件種別」に関する部分だけを抜き出しています。

```
<item-code fiid="JIMSD_FORM_ITEMCATEGORYCODE" search="true" >
  <label labelname="案件種別" />
  <options>
    <option value="0"></option>
    <option value="1">問い合わせ</option>
    <option value="2">障害</option>
    <option value="3">顧客要望</option>
    <option value="4">情報</option>
  </options>
</item-code>
```

定義例 2

インシデント管理プロセス用の案件フォーム定義ファイルにテキスト入力（4,096 バイト）の案件の項目「覚書」を追加した場合の、案件検索用の案件フォームでの定義例を次に示します。なお、この例では、案件の項目「覚書」に関する部分だけを抜き出しています。

```
<!-- 表示項目 -->
<row><col fiid="JIMSD_FORM_USERTEXT01" /></row>

<!-- 項目情報 -->
<item-text fiid="JIMSD_FORM_USERTEXT01" search="true" type="textarea" >
  <label labelname="覚書" />
</item-text>
```

案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties)

説明

プロセスワークボード単位に、案件の発生日時、開始日時、優先度、作業期限などの値を自動入力するかどうか、また、案件の優先度に自動入力される値を指定します。

hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties ファイルは、画面から案件を登録または編集する場合と、メールによる案件登録コマンドから案件を登録する場合に使用されます。

画面で [案件自動入力プロパティファイルの設定値を使用する] チェックボックスをチェックしている場合は、案件自動入力プロパティファイルに設定している値で、案件を登録するときに「発生日時」「開始日時」「優先度」「作業期限」が自動で登録されます。また、案件を編集するときに、案件自動入力プロパティファイルに設定している値で、「優先度」「作業期限」が自動で登録されます。案件自動入力プロパティファイルで自動入力を設定していない項目は、自動で登録されません。

[プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面からも、案件の自動入力を設定できます。

案件自動入力プロパティファイルには、2種類のファイルがあるため、両ファイルとも同じ設定にしてください。案件登録コマンドで案件を登録する場合のファイルについては、「13. 定義ファイル」の「案件自動入力プロパティファイル (jplimss_itementry_default.conf)」を参照してください。

注意事項

2種類の案件自動入力プロパティファイルの設定が異なると、案件の登録方法によって、自動で入力される値が異なるのでご注意ください。

形式

```
hptl_jp1_imss_pwb_default XXXX auto_priority=案件の優先度の自動入力の可否  
hptl_jp1_imss_pwb_default XXXX priority_YY ZZ=優先度 (重大度と影響度)  
hptl_jp1_imss_pwb_default XXXX auto_accrual_date=案件の発生日時の自動入力の可否  
hptl_jp1_imss_pwb_default XXXX auto_start_date=案件の開始日時の自動入力の可否  
hptl_jp1_imss_pwb_default XXXX auto_deadline=案件の作業期限の自動入力の可否  
hptl_jp1_imss_pwb_default XXXX deadline_pri_high=優先度が大至急の場合の加算時間  
hptl_jp1_imss_pwb_default XXXX deadline_pri_middle=優先度が至急の場合の加算時間  
hptl_jp1_imss_pwb_default XXXX deadline_pri_normal=優先度が標準の場合の加算時間  
hptl_jp1_imss_pwb_default XXXX deadline_pri_nothing=優先度が未設定の場合の加算時間  
hptl_jp1_imss_auto_deadline_start_time=作業時間の算出方法  
:
```

上記は、画面用の案件自動入力プロパティファイルの形式です。

ファイル名

- hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties (画面用)

- hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties.model (画面用のモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは案件自動入力プロパティファイルの内容をリセットする場合に利用してください。案件自動入力プロパティファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで案件自動入力プロパティファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

案件の自動入力設定で、案件自動入力プロパティファイルの設定値を使用する場合、次の JP1/Service Support のサービスを再起動したあと、案件の登録時に反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-14 案件自動入力プロパティファイルで設定できる指定キー一覧 (画面用)

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_pwb_default_XXXX_auto_priority*	対象のプロセスワークボードで、案件を作成する際に、「案件の優先度」に値を自動入力するかどうかを指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • false：設定しない • true：設定する 優先度に設定する値は、「重大度」と「影響度」の組み合わせによって異なる。	false
hptl_jp1_imss_pwb_default_XXXX_priority_YY_ZZ*	案件の優先度に設定する値を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • high：大至急 • middle：至急 • normal：標準 • nothing：未設定 (なし) 優先度は、YY_ZZ (「重大度」と「影響度」の値の組み合わせ) によって決定する。 YY (重大度) には次の整数を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • 1：緊急 • 2：警戒 • 3：致命的 • 4：エラー • 5：警告 	1_3=high 1_2=high 1_1=high 1_0=middle 2_3=high 2_2=high 2_1=middle 2_0=middle 3_3=high 3_2=middle 3_1=middle 3_0=middle 4_3=middle

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_pwb_default_XXXX_priority_YY_ZZ*	<ul style="list-style-type: none"> • 6：通知 • 7：情報 • 8：デバッグ • 0：未設定 <p>案件フォームをカスタマイズし、重大度の選択肢コードを追加しても、追加した選択肢コードは優先度を決定する際には使用されない。</p> <p>ZZ（影響度）には次の整数を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3：大 • 2：中 • 1：小 • 0：未設定 <p>案件フォームをカスタマイズし、影響度の選択肢コードを追加しても、追加した選択肢コードは優先度を決定する際には使用されない。</p>	4_2=middle 4_1=middle 4_0=normal 5_3=middle 5_2=middle 5_1=normal 5_0=normal 6_3=middle 6_2=normal 6_1=normal 6_0=normal 7_3=normal 7_2=normal 7_1=normal 7_0=nothing 8_3=normal 8_2=normal 8_1=nothing 8_0=nothing 0_3=normal 0_2=nothing 0_1=nothing 0_0=nothing
hptl_jp1_imss_pwb_default_XXXX_auto_accru_date*	<p>対象のプロセスワークボードで案件を作成する際に、「案件の発生日時」に値を自動入力するかどうかを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • false：設定しない • true：設定する <p>自動入力を設定して【案件作成】画面で案件を作成した場合は、画面を開いた日時が自動的に設定される。</p>	false
hptl_jp1_imss_pwb_default_XXXX_auto_start_date*	<p>対象のプロセスワークボードで、案件を作成する際に、「案件の開始日時」に値を自動入力するかどうかを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • false：設定しない • true：設定する <p>自動入力を設定して【案件作成】画面で案件を作成した場合は、画面を開いた日時が自動的に設定される。</p>	false
hptl_jp1_imss_pwb_default_XXXX_auto_deadline*	<p>対象のプロセスワークボードで、案件を作成する際に、「案件の作業期限」に値を自動入力するかどうかを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • false：設定しない 	false

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_pwb_default_XXXX_auto_deadline*	<ul style="list-style-type: none"> • true：設定する 自動入力を設定して [案件作成] 画面で案件を作成した場合は、画面を開いた日時に加算時間が追加された日時が自動的に設定される。自動入力を設定して [案件編集] 画面で案件を編集した場合は、案件の優先度の設定が変更されたときにかぎり、画面を開いた日時、または案件登録日時に加算時間が追加された日時が自動的に設定される。加算される時間は優先度によって異なる。	false
hptl_jpl_imss_pwb_default_XXXX_deadline_pri_high*	作業期限を自動入力する場合に加算する時間数を指定する。優先度が「大至急」の場合に、案件の登録日時にこのキーで指定した時間数を加算して作業期限へ自動入力する。0~8760の半角数字で指定する(単位：時間数)。	24
hptl_jpl_imss_pwb_default_XXXX_deadline_pri_middle*	作業期限を自動入力する場合に加算する時間数を指定する。優先度が「至急」の場合に、案件の登録日時にこのキーで指定した時間数を加算して作業期限へ自動入力する。0~8760の半角数字で指定する(単位：時間数)。	36
hptl_jpl_imss_pwb_default_XXXX_deadline_pri_normal*	作業期限を自動入力する場合に加算する時間数を指定する。優先度が「標準」の場合に、案件の登録日時にこのキーで指定した時間数を加算して作業期限へ自動入力する。0~8760の半角数字で指定する(単位：時間数)。	48
hptl_jpl_imss_pwb_default_XXXX_deadline_pri_nothing*	作業期限を自動入力する場合に加算する時間数を指定する。優先度が設定されていない場合に、案件の登録日時にこのキーで指定した時間数を加算して作業期限へ自動入力する。0~8760の半角数字で指定する(単位：時間数)。	60
hptl_jpl_imss_auto_deadline_start_time	作業期限を自動入力する計算方法を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • create：案件の登録日時に対して、優先度に応じた作業時間を足す方法 • open：[案件編集] 画面を表示した日時に対して、作業時間を足す方法 このプロパティのデフォルト値は create のため、バージョンアップ前後で動作が変更になる。バージョンアップ前の動作と同様にしたい場合は、このプロパティに open を設定すること。	create

注※

- 「XXXX」には次のプロセス名を指定します。
- 「incident」(インシデント管理)
 - 「problem」(問題管理)
 - 「change」(変更管理)
 - 「release」(リリース管理)

定義例

インシデント管理の案件項目を自動入力する場合の定義例を次に示します。

```
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_auto_priority=false
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_priority_1_3=high
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_priority_1_2=high
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_priority_1_1=high
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_priority_1_0=middle
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_priority_2_3=high
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_priority_2_2=high
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_priority_2_1=middle
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_priority_2_0=middle
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_priority_3_3=high
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_priority_3_2=middle
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_auto_accrual_date=false
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_auto_start_date=false
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_auto_deadline=false
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_deadline_pri_high=24
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_deadline_pri_middle=36
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_deadline_pri_normal=48
hptl_jp1_imss_pwb_default_incident_deadline_pri_nothing=60
hptl_jp1_imss_auto_deadline_start_time=create
:
```

案件自動入力プロパティファイル (jp1imss_itementry_default.conf)

説明

案件登録コマンドを実行する場合に、プロセスワークボード単位に、案件の発生日時、開始日時、優先度、作業期限などの値を自動入力するかどうか、また、案件の優先度に自動入力される値を指定します。

jp1imss_itementry_default.conf ファイルは、案件登録コマンドで案件を登録する場合、および案件編集コマンドから案件を編集する場合に使用されます。案件編集コマンドで案件を編集する場合は、「優先度」「作業期限」が自動で登録されます。

案件自動入力プロパティファイルには、2種類のファイルがあるため、両ファイルとも同じ設定にしてください。画面から案件を登録する場合と、メールによる案件登録コマンドで案件を登録する場合のファイルについては、「13. 定義ファイル」の「案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties)」を参照してください。

注意事項

2種類の案件自動入力プロパティファイルの設定が異なると、案件の登録方法によって、自動で入力される値が異なるのでご注意ください。

形式

```
XXXX auto_accrual_date=案件の発生日時の自動入力の可否
XXXX auto_start_date=案件の開始日時の自動入力の可否
XXXX auto_priority=案件の優先度の自動入力の可否
XXXX priority_YY ZZ=優先度 (重大度と影響度)
XXXX auto_deadline=案件の作業期限の自動入力の可否
XXXX deadline_pri_high=優先度が大至急の場合の加算時間
XXXX deadline_pri_middle=優先度が至急の場合の加算時間
XXXX deadline_pri_normal=優先度が標準の場合の加算時間
XXXX deadline_pri_nothing=優先度が未設定の場合の加算時間
:
```

上記は、コマンド用の案件自動入力プロパティファイルの形式です。

ファイル名

- jp1imss_itementry_default.conf (コマンド用)
- jp1imss_itementry_default.conf.model (コマンド用のモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは案件自動入力プロパティファイルの内容をリセットする場合に利用してください。案件自動入力プロパティファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで案件自動入力プロパティファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

案件の自動入力設定で、案件自動入力プロパティファイルの設定値を使用する場合は、案件登録時に定義内容が反映されます。

表 13-15 案件自動入力プロパティファイルで設定できる指定キー一覧（コマンド用）

指定キー名	説明	デフォルト値
XXXX_auto_accrual_date*	<p>対象のプロセスワークボードで案件を作成する際に、「案件の発生日時」に値を自動入力するかどうかを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • false：設定しない • true：設定する <p>自動入力を設定した場合は、コマンドが実行された日時が自動的に設定される。</p>	false
XXXX_auto_start_date*	<p>対象のプロセスワークボードで、案件を作成する際に、「案件の開始日時」に値を自動入力するかどうかを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • false：設定しない • true：設定する <p>自動入力を設定した場合は、コマンドが実行された日時が自動的に設定される。</p>	false
XXXX_auto_priority*	<p>対象のプロセスワークボードで、案件を作成する際に、「案件の優先度」に値を自動入力するかどうかを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • false：設定しない • true：設定する <p>優先度に設定する値は、「重大度」と「影響度」の組み合わせによって異なる。</p>	false
XXXX_priority_YY_ZZ*	<p>案件の優先度に設定する値を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3：大至急 • 2：至急 • 1：標準 • 0：未設定（なし） <p>優先度は、YY_ZZ（「重大度」と「影響度」の値の組み合わせ）によって決定する。</p> <p>YY（重大度）には次の整数を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1：緊急 • 2：警戒 • 3：致命的 • 4：エラー • 5：警告 • 6：通知 • 7：情報 	1_3=3 1_2=3 1_1=3 1_0=2 2_3=3 2_2=3 2_1=2 2_0=2 3_3=3 3_2=2 3_1=2 3_0=2 4_3=2 4_2=2 4_1=2

指定キー名	説明	デフォルト値
XXXX_priority_YY_ZZ*	<ul style="list-style-type: none"> • 8：デバッグ • 0：未設定 ZZ（影響度）には次の整数を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • 3：大 • 2：中 • 1：小 • 0：未設定 	4_0=1 5_3=2 5_2=2 5_1=1 5_0=1 6_3=2 6_2=1 6_1=1 6_0=1 7_3=1 7_2=1 7_1=1 7_0=0 8_3=1 8_2=1 8_1=0 8_0=0 0_3=1 0_2=0 0_1=0 0_0=0
XXXX_auto_deadline*	対象のプロセスワークボードで、案件を作成する際に、「案件の作業期限」に値を自動入力するかどうかを指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • false：設定しない • true：設定する 自動入力を設定した場合は、コマンド実行日時に加算時間が追加された日時が、自動的に設定される。加算される時間は優先度によって異なる。	false
XXXX_deadline_pri_high*	作業期限を自動入力する場合に加算する時間数を指定する。優先度が「大至急」の場合に、案件の登録日時にこのキーで指定した時間数を加算して作業期限へ自動入力する。0~8760の半角数字で指定する（単位：時間数）。	24
XXXX_deadline_pri_middle*	作業期限を自動入力する場合に加算する時間数を指定する。優先度が「至急」の場合に、案件の登録日時にこのキーで指定した時間数を加算して作業期限へ自動入力する。0~8760の半角数字で指定する（単位：時間数）。	36
XXXX_deadline_pri_normal*	作業期限を自動入力する場合に加算する時間数を指定する。優先度が「標準」の場合に、案件の登録日時にこのキーで指定した時間数を加算して作業期限	48

指定キー名	説明	デフォルト値
XXXX_deadline_pri_normal*	へ自動入力する。0～8760の半角数字で指定する（単位：時間数）。	48
XXXX_deadline_pri_nothing*	作業期限を自動入力する場合に加算する時間数を指定する。優先度が設定されていない場合に、案件の登録日時にこのキーで指定した時間数を加算して作業期限へ自動入力する。0～8760の半角数字で指定する（単位：時間数）。	60

注※

「XXXX」には次のプロセス名を指定します。

「incident」（インシデント管理）

「problem」（問題管理）

「change」（変更管理）

「release」（リリース管理）

注意事項

- 案件自動入力プロパティファイル (jplimss_itementry_default.conf) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

変更管理の案件項目を自動入力する場合の定義例を次に示します。

```
change_auto_accrual_date=false
change_auto_start_date=false
change_auto_priority=true
change_priority_1_3=3
change_priority_1_2=3
change_priority_1_1=3
change_priority_1_0=2
change_priority_2_3=3
change_priority_2_2=3
change_priority_2_1=2
change_priority_2_0=2
change_priority_3_3=3
change_priority_3_2=2
change_auto_deadline=true
change_deadline_pri_high=24
change_deadline_pri_middle=36
change_deadline_pri_normal=48
change_deadline_pri_nothing=60
:
```

案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties)

説明

メイン画面（案件状況）で案件の集計結果を表示する際の各種しきい値、対象案件一覧に表示する内容を定義したファイルです。

次に示す情報が定義されています。運用に合わせて編集してください。

- 長期化と判断する未解決期間
- 未処理案件を警告表示するためのしきい値
- 未完了案件を警告表示するためのしきい値
- 審議中案件を警告表示するためのしきい値
- 長期化案件を警告表示するためのしきい値
- 最優先案件を警告表示するためのしきい値
- 当日期限の案件を警告表示するためのしきい値
- システム選択時に対象案件一覧に表示する案件の種別
- プロセス選択時に対象案件一覧に表示する案件の種別

[プロセスワークボード作成] 画面または [プロセスワークボード編集] 画面からも、メイン画面（案件状況）で警告表示するための案件のしきい値を設定できます。

形式

```
hptl_jp1_imss_kpi_term_incident=長期化と判断する未解決期間（インシデント管理）
hptl_jp1_imss_kpi_term_problem=長期化と判断する未解決期間（問題管理）
hptl_jp1_imss_kpi_term_change=長期化と判断する未解決期間（変更管理）
hptl_jp1_imss_kpi_term_release=長期化と判断する未解決期間（リリース管理）
:
hptl_jp1_imss_kpi_system_default_list=システム選択時に対象案件一覧に表示する案件の種別
hptl_jp1_imss_kpi_process_default_list=プロセス選択時に対象案件一覧に表示する案件の種別
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

ファイル名

- hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties
- hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties.model（案件集計プロパティファイルのモデルファイル）
※

注※

モデルファイルは案件集計プロパティファイルの内容をリセットする場合に利用してください。案件集計プロパティファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで案件集計プロパティファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

jssclectdata コマンドの実行時に反映されます。

また、メイン画面（案件状況）には、次に示す JP1/Service Support のサービスを再起動したあとに、反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

記述内容

次で説明する指定キー以外は編集しないでください。指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-16 案件集計プロパティファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_kpi_term_incident	インシデント管理で長期化と判断する未解決期間を時間（単位：時間）で指定する。 指定できる値は 0～876000 の半角数字（整数）。	72
hptl_jp1_imss_kpi_term_problem	問題管理で長期化と判断する未解決期間を時間（単位：時間）で指定する。 指定できる値は 0～876000 の半角数字（整数）。	168
hptl_jp1_imss_kpi_term_change	変更管理で長期化と判断する未解決期間を時間（単位：時間）で指定する。 指定できる値は 0～876000 の半角数字（整数）。	480
hptl_jp1_imss_kpi_term_release	リリース管理で長期化と判断する未解決期間を時間（単位：時間）で指定する。 指定できる値は 0～876000 の半角数字（整数）。	480
hptl_jp1_imss_kpi_term_for_XXX	特定のプロセスワークボードで長期化と判断する未解決期間を変更する場合に、未解決期間を時間（単位：時間）で指定する。 この指定キーは、複数指定できる。 デフォルトではコメントアウト（行頭に#）されているため、設定したい場合にはコメントを外すか、この指定キーを追記し、次の設定をすること。	—

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_kpi_term_for_XXX	<ul style="list-style-type: none"> 指定キー名の XXX に、未解決期間を変更するプロセスワークボードのプロセスワークボード ID を指定する。 値を指定する。 <p>この指定キーでの指定は、各プロセスでの指定よりも優先される。ただし、不正なプロセスワークボード ID を指定したり、不正な値（次に説明する値以外の値）を指定したりした場合は、各プロセスで指定した値が適用される。</p> <p>指定できる値は 0～876000 の半角数字（整数）。</p>	—
hptl_jpl_imss_kpi_unprocessed_incident	<p>インシデント管理で未処理案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。</p> <p>指定できる値は 0～2147483647 の半角数字（整数）。</p>	10
hptl_jpl_imss_kpi_unprocessed_problem	<p>問題管理で未処理案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。</p> <p>指定できる値は 0～2147483647 の半角数字（整数）。</p>	10
hptl_jpl_imss_kpi_unprocessed_change	<p>変更管理で未処理案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。</p> <p>指定できる値は 0～2147483647 の半角数字（整数）。</p>	10
hptl_jpl_imss_kpi_unprocessed_release	<p>リリース管理で未処理案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。</p> <p>指定できる値は 0～2147483647 の半角数字（整数）。</p>	10
hptl_jpl_imss_kpi_unprocessed_for_XXX	<p>特定のプロセスワークボードで、未処理案件を警告表示するためのしきい値を変更する場合、しきい値を案件数で指定する。</p> <p>この指定キーは、複数指定できる。</p> <p>デフォルトではコメントアウト（行頭に#）されているため、設定したい場合にはコメントを外すか、この指定キーを追記し、次の設定をすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定キー名の XXX に、しきい値を変更するプロセスワークボードのプロセスワークボード ID を指定する。 値を指定する。 <p>この指定キーでの指定は、各プロセスでの指定よりも優先される。ただし、不正なプロセスワークボード ID を指定したり、不正な値（次に説明する値以外の値）を指定したりした場合は、各プロセスで指定した値が適用される。</p> <p>指定できる値は 0～2147483647 の半角数字（整数）。</p>	—

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_kpi_processing_incident	インシデント管理で未完了案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は0~2147483647の半角数字（整数）。	30
hptl_jpl_imss_kpi_processing_problem	問題管理で未完了案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は0~2147483647の半角数字（整数）。	30
hptl_jpl_imss_kpi_processing_change	変更管理で未完了案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は0~2147483647の半角数字（整数）。	30
hptl_jpl_imss_kpi_processing_release	リリース管理で未完了案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は0~2147483647の半角数字（整数）。	30
hptl_jpl_imss_kpi_processing_for_XXX	特定のプロセスワークボードで未完了案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 この指定キーは、複数指定できる。 デフォルトではコメントアウト（行頭に#）されているため、設定したい場合にはコメントを外すか、この指定キーを追記し、次の設定をすること。 <ul style="list-style-type: none"> 指定キー名のXXXに、しきい値を変更するプロセスワークボードのプロセスワークボードIDを指定する。 値を指定する。 この指定キーでの指定は、各プロセスでの指定よりも優先される。ただし、不正なプロセスワークボードIDを指定したり、不正な値（次に説明する値以外の値）を指定したりした場合は、各プロセスで指定した値が適用される。 指定できる値は0~2147483647の半角数字（整数）。	—
hptl_jpl_imss_kpi_judging_incident	インシデント管理で審議中案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は0~2147483647の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_judging_problem	問題管理で審議中案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は0~2147483647の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_judging_change	変更管理で審議中案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。	10

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_kpi_judging_change	指定できる値は0～2147483647の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_judging_release	リリース管理で審議中案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は0～2147483647の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_judging_for_XXX	特定のプロセスワークボードで審議中案件を警告表示するためのしきい値を変更する場合、しきい値を案件数で指定する。 この指定キーは、複数指定できる。 デフォルトではコメントアウト（行頭に#）されているため、設定したい場合にはコメントを外すか、この指定キーを追記し、次の設定をすること。 <ul style="list-style-type: none"> 指定キー名のXXXに、しきい値を変更するプロセスワークボードのプロセスワークボードIDを指定する。 値を指定する。 この指定キーでの指定は、各プロセスでの指定よりも優先される。ただし、不正なプロセスワークボードIDを指定したり、不正な値（次に説明する値以外の値）を指定したりした場合は、各プロセスで指定した値が適用される。 指定できる値は0～2147483647の半角数字（整数）。	—
hptl_jpl_imss_kpi_longterm_incident	インシデント管理で長期化案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は0～2147483647の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_longterm_problem	問題管理で長期化案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は0～2147483647の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_longterm_change	変更管理で長期化案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は0～2147483647の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_longterm_release	リリース管理で長期化案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は0～2147483647の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_longterm_for_XXX	特定のプロセスワークボードで長期化案件を警告表示するためのしきい値を変更する場合、しきい値を案件数で指定する。	—

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_kpi_longterm_for_XXX	<p>この指定キーは、複数指定できる。</p> <p>デフォルトではコメントアウト（行頭に#）されているため、設定したい場合にはコメントを外すか、この指定キーを追記し、次の設定をすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定キー名の XXX に、しきい値を変更するプロセスワークボードのプロセスワークボード ID を指定する。 値を指定する。 <p>この指定キーでの指定は、各プロセスでの指定よりも優先される。ただし、不正なプロセスワークボード ID を指定したり、不正な値（次に説明する値以外の値）を指定したりした場合は、各プロセスで指定した値が適用される。</p> <p>指定できる値は 0~2147483647 の半角数字（整数）。</p>	—
hptl_jpl_imss_kpi_priority_incident	<p>インシデント管理で最優先案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。</p> <p>指定できる値は 0~2147483647 の半角数字（整数）。</p>	10
hptl_jpl_imss_kpi_priority_problem	<p>問題管理で最優先案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。</p> <p>指定できる値は 0~2147483647 の半角数字（整数）。</p>	10
hptl_jpl_imss_kpi_priority_change	<p>変更管理で最優先案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。</p> <p>指定できる値は 0~2147483647 の半角数字（整数）。</p>	10
hptl_jpl_imss_kpi_priority_release	<p>リリース管理で最優先案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。</p> <p>指定できる値は 0~2147483647 の半角数字（整数）。</p>	10
hptl_jpl_imss_kpi_priority_for_XXX	<p>特定のプロセスワークボードで最優先案件を警告表示するためのしきい値を変更する場合は、しきい値を案件数で指定する。</p> <p>この指定キーは、複数指定できる。</p> <p>デフォルトではコメントアウト（行頭に#）されているため、設定したい場合にはコメントを外すか、この指定キーを追記し、次の設定をすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定キー名の XXX に、しきい値を変更するプロセスワークボードのプロセスワークボード ID を指定する。 値を指定する。 <p>この指定キーでの指定は、各プロセスでの指定よりも優先される。ただし、不正なプロセスワーク</p>	—

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_kpi_priority_for_XXX	ボード ID を指定したり、不正な値（次に説明する値以外の値）を指定したりした場合は、各プロセスで指定した値が適用される。 指定できる値は 0～2147483647 の半角数字（整数）。	—
hptl_jpl_imss_kpi_today_incident	インシデント管理で当日期限の案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は 0～2147483647 の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_today_problem	問題管理の当日期限の案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は 0～2147483647 の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_today_change	変更管理の当日期限の案件を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は 0～2147483647 の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_today_release	リリース管理の当日期限を警告表示するためのしきい値を、案件数で指定する。 指定できる値は 0～2147483647 の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_kpi_today_for_XXX	特定のプロセスワークボードで当日期限の案件を警告表示するためのしきい値を変更する場合、しきい値を案件数で指定する。 この指定キーは、複数指定できる。 デフォルトではコメントアウト（行頭に#）されているため、設定したい場合にはコメントを外すか、この指定キーを追記し、次の設定をすること。 <ul style="list-style-type: none"> 指定キー名の XXX に、しきい値を変更するプロセスワークボードのプロセスワークボード ID を指定する。 値を指定する。 この指定キーでの指定は、各プロセスでの指定よりも優先される。ただし、不正なプロセスワークボード ID を指定したり、不正な値（次に説明する値以外の値）を指定したりした場合は、各プロセスで指定した値が適用される。 指定できる値は 0～2147483647 の半角数字（整数）。	—
hptl_jpl_imss_kpi_system_default_list	メイン画面（案件状況）の状況確認で、システム視点の案件状況を表示したときに、対象案件一覧に表示される案件の種別を指定する。なお、表示されるのは状況確認で一番上に表示されている対象システムの案件となる。	priority

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_kpi_system_default_list	指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • process：未完了 • long：長期化 • priority：最優先 	priority
hptl_jpl_imss_kpi_process_default_list	メイン画面（案件状況）の状況確認で、プロセス視点の案件状況を表示したときに、対象案件一覧に表示される案件の種別を指定する。なお、表示されるのはインシデント管理の案件となる。 指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • process：未完了 • unprocess：未処理 • judging：審議中 • long：長期化 • priority：最優先 • today：当日期限 	priority

(凡例)

－：設定値なし

注意事項

案件集計プロパティファイルの定義内容を変更した場合は、jsscocollectdata コマンドを実行して、新しい定義内容で集計データを作成してください。

案件情報入力ファイル（任意）

説明

JP1/Service Support に登録する案件情報を入力したファイルです。このファイルは、CSV 形式で作成する必要があります。このファイルの内容を JP1/Service Support に登録するには、jssitemimport コマンドを実行する必要があります。

形式

```
#コメント文（改行）
"プロセスワークボードID", "タイトル", "重大度", "影響度", "優先度", . . .（改行）
"プロセスワークボードID", "タイトル", "重大度", "影響度", "優先度", . . .（改行）
:
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

(凡例)

(改行)：改行を示す

ファイル名

任意のファイル名を使用します。

格納先フォルダ

jssitemimport コマンドを実行するホストの任意のフォルダ

定義の反映時期

jssitemimport コマンドを実行すると、このファイルの内容が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次の表に示す順序に従って案件情報を指定してください。

表 13-17 案件情報入力ファイルで指定する案件情報（行単位）

指定順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数※1	指定要否
1	プロセスワークボード ID	半角英数字	1～64 バイト	○
2	タイトル	制御文字 (0x00～0x1F, 0x7F) 以外	1～512 バイト	○
3	重大度	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
4	影響度	コードマッピングファイルで定義された値	—	△

指定 順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数※1	指定 要否
5	優先度	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
6	案件種別	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
7	問題分野	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
8	ステータス	コードマッピングファイルで定義された値	—	○
9	作業状況	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
10	結果	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
11	更新日時※2	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列※3	—	△
12	発生日時	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列※3	—	△
13	登録日時	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列※3	—	△
14	開始日時	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列※3	—	△
15	担当者種別	「USER」または「ROLE」のどちらか	—	○
16	担当者	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	255 バイト以内	○
17	担当者 ID	半角英数字と「_ (アンダーバー)」	64 バイト以内	○
18	作業期限	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列※3	—	△
19	回答責任者種別	「USER」または「ROLE」のどちらか	—	△※4
20	回答責任者	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	255 バイト以内	△※4
21	回答責任者 ID	半角英数字	64 バイト以内	△※4
22	完了日時	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列※3	—	△
23	顧客名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	1,024 バイト以内	△
24	問い合わせ者	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	255 バイト以内	△
25	費用 (予算)	0~2147483647 の整数	—	△
26	費用 (実績)	0~2147483647 の整数	—	△
27	影響業務	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	255 バイト以内	△

指定 順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数※1	指定 要否
28	概要	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
29	現象種別	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
30	要因	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
31	根本原因	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
32	回避策種別	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
33	回避策	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
34	解決区分	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
35	解決策	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
36	問題個所とバージョン	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	1,024 バイト以内	△
37	再発防止のための考察	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
38	スケジュール, 手順概要	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
39	変更の影響評価	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
40	変更の規模	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
41	リリースタイプ	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
42	審議結果	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
43	フリー記入欄	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
44	重大度の理由	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	512 バイト以内	△
45	影響度の理由	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	512 バイト以内	△
46	優先度の理由	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	512 バイト以内	△
47	プロダクト名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	1,024 バイト以内	△
48	ジョブネット名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	1,024 バイト以内	△
49	ジョブ名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	1,024 バイト以内	△
50	SNMP ソース	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	1,024 バイト以内	△
51	監視ノード名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	255 バイト以内	△
52	アラーム名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	255 バイト以内	△
53	拡張テキストデータ 01	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△

指定 順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数 ^{※1}	指定 要否
54	拡張テキストデータ 02	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
55	拡張テキストデータ 03	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
56	拡張テキストデータ 04	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
57	拡張テキストデータ 05	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	4,096 バイト以内	△
58	拡張テキストデータ 06	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
59	拡張テキストデータ 07	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
60	拡張テキストデータ 08	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
61	拡張テキストデータ 09	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
62	拡張テキストデータ 10	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
63	拡張テキストデータ 11	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
64	拡張テキストデータ 12	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
65	拡張テキストデータ 13	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
66	拡張テキストデータ 14	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
67	拡張テキストデータ 15	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	2,048 バイト以内	△
68	拡張テキストデータ 16	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	512 バイト以内	△
69	拡張テキストデータ 17	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	512 バイト以内	△
70	拡張テキストデータ 18	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	512 バイト以内	△
71	拡張テキストデータ 19	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	512 バイト以内	△
72	拡張テキストデータ 20	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	512 バイト以内	△
73	拡張時刻データ 01	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ^{※3}	—	△
74	拡張時刻データ 02	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ^{※3}	—	△
75	拡張時刻データ 03	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ^{※3}	—	△
76	拡張時刻データ 04	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ^{※3}	—	△
77	拡張時刻データ 05	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ^{※3}	—	△
78	拡張コードデータ 01	コードマッピングファイルで定義された値	—	△

指定 順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数※1	指定 要否
79	拡張コードデータ 02	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
80	拡張コードデータ 03	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
81	拡張コードデータ 04	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
82	拡張コードデータ 05	コードマッピングファイルで定義された値	—	△
83	拡張数値データ 01	0~2147483647 の整数または空白	—	△
84	拡張数値データ 02	0~2147483647 の整数または空白	—	△
85	拡張数値データ 03	0~2147483647 の整数または空白	—	△
86	拡張数値データ 04	0~2147483647 の整数または空白	—	△
87	拡張数値データ 05	0~2147483647 の整数または空白	—	△
88	拡張ユーザ情報種別 01※5	「USER」または「ROLE」のどちらか	—	△※6
89	拡張ユーザ情報 01※5	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	255 バイト以内	△
90	拡張ユーザ情報 ID01※5	半角英数字	64 バイト以内	△
91	拡張ユーザ情報種別 02※5	「USER」または「ROLE」のどちらか	—	△※6
92	拡張ユーザ情報 02※5	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	255 バイト以内	△
93	拡張ユーザ情報 ID02※5	半角英数字	64 バイト以内	△
94	拡張ユーザ情報種別 03※5	「USER」または「ROLE」のどちらか	—	△※6
95	拡張ユーザ情報 03※5	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	255 バイト以内	△
96	拡張ユーザ情報 ID03※5	半角英数字	64 バイト以内	△
97	拡張ユーザ情報種別 04※5	「USER」または「ROLE」のどちらか	—	△※6
98	拡張ユーザ情報 04※5	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	255 バイト以内	△
99	拡張ユーザ情報 ID04※5	半角英数字	64 バイト以内	△
100	拡張ユーザ情報種別 05※5	「USER」または「ROLE」のどちらか	—	△※6
101	拡張ユーザ情報 05※5	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	255 バイト以内	△
102	拡張ユーザ情報 ID05※5	半角英数字	64 バイト以内	△

(凡例)

- ：指定できる値が決まっているため、その値が設定できるバイト数となる
- ：指定が必要な項目
- △：必要に応じて指定する項目

注※1

指定した文字列に全角文字が含まれる場合、全角文字は3バイトまたは4バイトに換算されます。

注※2

案件情報入力ファイルで更新日時を指定しても、JP1/Service Support には、jssitemimport コマンドを実行した時間で登録されます。

注※3

YYYY は年、MM は月、DD は日、hh は時、mm は分、ss は秒を表します。指定できる範囲は 1970/01/02 00:00:00～2036/12/31 23:59:59 です。例えば、2007 年 5 月 10 日の 10 時 30 分 25 秒を設定する場合、「2007/05/10 10:30:25」となります。

注※4

回答責任者に関連する項目を入力する場合、回答責任者種別、回答責任者、回答責任者 ID すべてを入力する必要があります。すべて入力されていない場合、エラーとなります。

注※5

案件ごとに参照権限を設定した場合、案件の参照権限を設定する項目として、拡張ユーザー情報 01～05 から一つ選定されています。選定した拡張ユーザー情報には、案件の参照権限所有者を設定してください。なお、拡張ユーザー情報は、拡張ユーザー情報種別、拡張ユーザー情報、および拡張ユーザー情報 ID で構成されています。

案件ごとに参照権限を設定する場合の環境設定については、「[9.13 案件ごとに参照権限を設定するための環境設定](#)」を参照してください。

注※6

拡張ユーザー情報 ID との組み合わせによって、存在しないユーザーまたはロールが指定されていた場合は、エラーとなります。

1 行で 1 案件の情報となります。案件情報の各項目は「" (ダブルクォーテーション)」で囲み、「, (コンマ)」で区切ります。プロセスワークボード ID、タイトル、ステータス、担当者種別、担当者、および担当者 ID 以外は任意指定ですが、項目は省略できません。指定しない場合でも「" (ダブルクォーテーション)」で該当項目を囲んでください。また、各項目の指定順序も決まっています。

「重大度」を省略した場合の例を次に示します。

"プロセスワークボード ID","タイトル","","影響度","優先度",... (改行)

注意事項

- プロセスワークボード ID、タイトル、ステータス、担当者種別、担当者、および担当者 ID は指定する必要があります。また、このファイルの内容を JP1/Service Support に反映する前に、該当するプロセスワークボード ID を持つプロセスワークボードを作成しておく必要があります。
- 次に示す項目に情報を指定する場合、コードマッピングファイルで定義した値と同期を取る必要があります。
重大度、影響度、優先度、案件種別、問題分野、ステータス、結果、現象種別、回避策種別、解決区分、変更の規模、リリースタイプ
詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[コードマッピングファイル \(jplimss_itemimport_codemap.conf\)](#)」を参照してください。
- 項目名は、カスタマイズによって変わることがあります。詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[案件フォーム定義ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。カスタマイズした場合は、カスタマイズ後

の項目名に置き換えて、表 13-17 をお読みください。なお、カスタマイズによって項目名を変更した場合でも、指定順序は変わりません。

- 入力ファイルの項目を 103 項目以上指定した場合は、102 番目の項目までが登録されます。53～102 番目の項目は任意のため、省略すると空欄になります。

- 入力ファイルの各項目の設定に制御文字 (0x00) を指定した場合、不正な定義となりません。この場合、指定した文字列のうち制御文字 (0x00) までの文字列が指定されたと見なされます。

例えば、ユーザー名に「日立△太郎※」と指定すると、表示名は「日立」となります。

注※ 「△」は、制御文字 (0x00) と仮定します。

- 案件情報入力ファイルは、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。

- 日本語環境の場合：MS932
- 英語環境の場合：ISO-8859-1
- 中国語環境の場合：GB18030

定義例

プロセスワークボード ID 「AWebSystem」に複数の案件情報を登録する場合の定義例を次に示します。

```
"AWebSystem", "システム障害", "緊急", "小", "標準", "障害", "アプリケーション", "受付", "作業着手前", "未確認", "登録", "2006/10/30 10:15:30", "2006/10/29 23:55:40", "2006/10/30 10:15:30" . . .  
(改行)  
"AWebSystem", "システム障害", "警告", "中", "標準", "障害", "ミドルウェア", "受付", "作業着手前", "未確認", "登録", "2006/10/30 10:15:30", "2006/10/30 08:30:30", "2006/10/30 10:15:30" . . . (改行)  
"AWebSystem", "プロセス異常終了", "致命的", "大", "至急", "障害", "アプリケーション", "受付", "作業着手前", "未確認", "登録", "2006/10/30 10:15:30", "2006/10/30 09:14:40", "2006/10/30 10:15:30" . . . (改行)  
:
```

案件情報拡張入力ファイル（任意）

説明

JP1/Service Support に登録する案件情報および案件の関連情報を入力したファイルです。案件情報拡張入力ファイルには、案件情報 CSV ファイルと関連情報 CSV ファイルがあります。これらのファイルは、CSV 形式で作成する必要があります。これらのファイルの内容を JP1/Service Support に登録するには、jssitemimportEx コマンドを実行する必要があります。

形式（案件情報 CSV ファイル）

```
#コメント文（改行）
#製品名,出力されるファイルのバージョン,・・・（改行）
#"対象システムのシステムID", "対象システムのシステム名",・・・（改行）
"システムID", "システム名", "プロセスワークボードID", "プロセス名",・・・（改行）
"システムID", "システム名", "プロセスワークボードID", "プロセス名",・・・（改行）
:
:
#"Closed Item Number : 件数"
#"UnClosed Item Number : 件数"
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

(凡例)

(改行)：改行を示す

形式（関連情報 CSV ファイル）

```
#コメント文（改行）
#製品名,出力されるファイルのバージョン,・・・（改行）
#"プロセスワークボードID", "プロセスワークボード内通し番号",・・・（改行）
"プロセスワークボードID", "プロセスワークボード内通し番号",・・・（改行）
"プロセスワークボードID", "プロセスワークボード内通し番号",・・・（改行）
:
:
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

(凡例)

(改行)：改行を示す

ファイル名

- Item_PWB_プロセスワークボード ID.csv（案件情報 CSV ファイル）
- ItemRefInfo_PWB_プロセスワークボード ID.csv（関連情報 CSV ファイル）

格納先フォルダ

jssitemimportEx コマンドを実行するホストの任意のフォルダ

ただし、フォルダ構成は、jssitemexportEx コマンドで出力した場合の出力先フォルダと同じ構成にする必要があります。フォルダ構成の詳細は、「12. コマンド」の「jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート)」を参照してください。

定義の反映時期

jssitemimportEx コマンドを実行すると、案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルの内容が、JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルの形式は、案件情報を jssitemexportEx コマンドで出力した場合と同じです。また、両ファイルのヘッダー部、ボディ部の 1 行目 (属性名)、およびフッター部は省略できます。案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルの形式については、「12. コマンド」の「jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート)」を参照してください。

次の表に示す順序に従って、案件情報 (案件情報 CSV ファイル) を作成してください。

表 13-18 案件情報入力ファイル (案件情報 CSV ファイル) で指定する案件情報 (行単位)

指定順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数 ^{*1}	指定要否
1	対象システムのシステム ID ^{*2, *3}	半角英数字	1~64 バイト	○
2	対象システムのシステム名 ^{*3}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 ただし、案件管理 DB に登録されている「対象システムのシステム ID」のシステム名称であること。	1~128 バイト	○
3	プロセス名 ^{*3}	登録対象のプロセスワークボードのプロセス (プロセス表示名) 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	1~128 バイト	○
4	プロセスワークボード ID ^{*2, *3}	半角英数字	1~64 バイト	○
5	プロセスワークボード内通し番号 ^{*4}	1~2147483647 の整数	—	○
6	バージョン番号	1~2147483647 の整数	—	○
7	関連案件通し番号 ^{*3}	1~2147483647 の整数 ただし、「エスカレーション番号」と合わせてプロセス間 ID として、異なる案件で一意になること。	—	○

指定 順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数※1	指定 要否
8	エスカレーション番号	1~99 の整数 ただし、「関連案件通し番号」と合わせてプロセス間 ID として、異なる案件で一意となること。	—	○
9	案件フォーム ID※2, ※3	プロセスワークボードで使用している案件フォーム 次に示すどれかを指定 <ul style="list-style-type: none"> • JIMSD_FORM_INCIDENT • JIMSD_FORM_PROBLEM • JIMSD_FORM_CHANGE • JIMSD_FORM_RELEASE • JIMSD_FORM_MASTER ただし、「プロセス名」で指定したプロセス表示名のデフォルトのプロセスに対応した案件フォームを指定すること。	—	○
10	案件フォームのバージョン番号※2, ※3	0~255 の整数	—	○
11	案件ステータス ID	次に示すどれかを指定 <ul style="list-style-type: none"> • JIMSD_STAT_INQUIRY • JIMSD_STAT_RESEARCH • JIMSD_STAT_PLANNING • JIMSD_STAT_DISCUSSING • JIMSD_STAT_APPROVED • JIMSD_STAT_WAITING • JIMSD_STAT_REVIEW • JIMSD_STAT_CLOSE • JIMSD_STAT_USER01~ JIMSD_STAT_USER40 案件を登録するプロセスワークボードで未使用のステータスでも登録できる。	—	○
12	案件ステータス名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 案件を登録するプロセスワークボードで使用している案件ステータス ID の名称と異なっても登録できる。	1~255 バイト以内	○
13	編集状態	空文字または「編集中」のどちらか ただし、案件管理 DB には登録されない。	—	△
14	データ種別	次に示すどれかを指定 <ul style="list-style-type: none"> • 最新 • 履歴 • 削除 	—	○

指定 順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数 ^{※1}	指定 要否
14	データ種別	ただし、同一の「プロセスワークボード内通し番号」内で「最新」または「削除」の場合、「バージョン番号」が最大であること。「履歴」の場合は、「バージョン番号」が最大でないこと。	—	○
15	エスカレーション元プロセスワークボード ID ^{※2, ※5}	半角英数字	0~64 バイト以内	△
16	エスカレーション元関連案件通し番号 ^{※5}	1~2147483647 の整数、または空文字 ただし、「関連案件通し番号」と同じ値であること。	—	△
17	エスカレーション元エスカレーション番号 ^{※5}	1~98 の整数、または空文字 ただし、「エスカレーション番号」よりも小さい値であること。	—	△
18	エスカレーション先関連案件通し番号 ^{※5}	1~2147483647 の整数、または空文字 ただし、「関連案件通し番号」と同じ値であること。	—	△
19	エスカレーション先エスカレーション番号 ^{※5}	2~99 の整数、または空文字 ただし、「エスカレーション番号」よりも大きい値であること。	—	△
20	エスカレーション先プロセスワークボード ID ^{※2, ※5}	半角英数字	0~64 バイト以内	△
21	エスカレーション先システム ID ^{※5}	半角英数字 ただし、案件管理 DB に登録されている「エスカレーション先プロセスワークボード ID」のプロセスワークボードが所属するシステムの ID であること。	0~64 バイト以内	△
22	エスカレーション先システム名 ^{※5}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 ただし、案件管理 DB に登録されている「エスカレーション先システム ID」のシステム名であること。	0~128 バイト以内	△
23	エスカレーション先プロセス名 ^{※5}	エスカレーション先のプロセスワークボードのプロセス (プロセス表示名) 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 ただし、案件管理 DB に登録されている「エスカレーション先プロセスワークボード ID」のプロセス表示名であること。	—	△
24	連動元イベント DB 内通し番号	0~2147483647 の整数	—	△

指定 順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数 ^{※1}	指定 要否
24	連動元イベント DB 内通 し番号	案件フォームに存在しない場合でも情報を登 録する。	—	△
25	JP1/IM - Manager のホ スト名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 案件フォームに存在しない場合でも情報を登 録する。	0~255 バイト以内	△
26	重大度 ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
27	影響度 ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
28	優先度 ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
29	案件種別 ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
30	問題分野 ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
31	現象種別 ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
32	要因 ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
33	結果 ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
34	解決区分コード ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
35	回避策種別 ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
36	変更の規模 ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
37	リリースタイプ ^{※6}	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
38	発生日時	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ※7, または空文字	—	△
39	作業期限	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ※7, または空文字	—	△
40	開始日時	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ※7, または空文字	—	△
41	完了日時	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ※7, または空文字	—	△
42	タイトル	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	1~512 バイト以内	○
43	概要	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
44	影響業務	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
45	重大度の理由	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~512 バイト以内	△
46	影響度の理由	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~512 バイト以内	△
47	優先度の理由	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~512 バイト以内	△
48	回避策	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△

指定 順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数※1	指定 要否
49	作業状況	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
50	根本原因	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
51	解決策	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
52	問題個所とバージョン	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~1,024 バイト以内	△
53	スケジュール, 手順概要	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
54	変更の影響評価	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
55	審議結果	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
56	再発防止策のための考察	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
57	フリー記入欄	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
58	プロダクト名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~1,024 バイト以内	△
59	ジョブネット名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~1,024 バイト以内	△
60	ジョブ名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~1,024 バイト以内	△
61	SNMP ソース	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~1,024 バイト以内	△
62	監視ノード名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
63	アラーム名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
64	顧客名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~1,024 バイト以内	△
65	費用 (予算)	0~2147483647 の整数または空文字	—	△
66	費用 (実績)	0~2147483647 の整数または空文字	—	△
67	問合せ者名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
68	登録者 ID※3	半角英数字	0~64 バイト以内	△
69	登録者名※3	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	1~255 バイト以内	○
70	登録者名 (英語) ※3	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	0~255 バイト以内	△
71	担当者種別※8	「ユーザー」または「ロール」のどちらかの値	—	○
72	担当者 ID※9	半角英数字	0~64 バイト以内	△
73	担当者名※8	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	1~255 バイト以内	○
74	担当者名 (英語)	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	0~255 バイト以内	△

指定 順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数※1	指定 要否
75	回答責任者種別※8	「ユーザー」または「ロール」のどちらかの値, または空文字	—	△
76	回答責任者 ID※9	半角英数字	0~64 バイト以内	△
77	回答責任者名※8	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	0~255 バイト以内	△
78	回答責任者名 (英語)	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	0~255 バイト以内	△
79	拡張テキストデータ 1	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
80	拡張テキストデータ 2	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
81	拡張テキストデータ 3	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
82	拡張テキストデータ 4	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
83	拡張テキストデータ 5	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~4,096 バイト以内	△
84	拡張テキストデータ 6	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
85	拡張テキストデータ 7	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
86	拡張テキストデータ 8	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
87	拡張テキストデータ 9	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
88	拡張テキストデータ 10	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
89	拡張テキストデータ 11	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
90	拡張テキストデータ 12	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
91	拡張テキストデータ 13	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
92	拡張テキストデータ 14	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
93	拡張テキストデータ 15	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~2,048 バイト以内	△
94	拡張テキストデータ 16	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~512 バイト以内	△
95	拡張テキストデータ 17	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~512 バイト以内	△
96	拡張テキストデータ 18	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~512 バイト以内	△
97	拡張テキストデータ 19	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~512 バイト以内	△
98	拡張テキストデータ 20	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~512 バイト以内	△
99	拡張時刻データ 1	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ※7, または空文字	—	△
100	拡張時刻データ 2	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ※7, または空文字	—	△

指定 順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数※1	指定 要否
101	拡張時刻データ 3	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ※7, または空文字	—	△
102	拡張時刻データ 4	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ※7, または空文字	—	△
103	拡張時刻データ 5	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ※7, または空文字	—	△
104	拡張コードデータ 1	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
105	拡張コードデータ 2	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
106	拡張コードデータ 3	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
107	拡張コードデータ 4	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
108	拡張コードデータ 5	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	0~255 バイト以内	△
109	拡張数値データ 1	0~2147483647 の整数, または空文字	—	△
110	拡張数値データ 2	0~2147483647 の整数, または空文字	—	△
111	拡張数値データ 3	0~2147483647 の整数, または空文字	—	△
112	拡張数値データ 4	0~2147483647 の整数, または空文字	—	△
113	拡張数値データ 5	0~2147483647 の整数, または空文字	—	△
114	拡張ユーザー情報種別 1 ※8, ※9	「ユーザー」または「ロール」のどちらかの 値, または空文字	—	△
115	拡張ユーザー情報 1※9, ※10	半角英数字	0~64 バイト以内	△
116	拡張ユーザー名 1※8, ※9	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	0~255 バイト以内	△
117	拡張ユーザー情報種別 2 ※8, ※9	「ユーザー」または「ロール」のどちらかの 値, または空文字	—	△
118	拡張ユーザー情報 2※9, ※10	半角英数字	0~64 バイト以内	△
119	拡張ユーザー名 2※8, ※9	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	0~255 バイト以内	△
120	拡張ユーザー情報種別 3 ※8, ※9	「ユーザー」または「ロール」のどちらかの 値, または空文字	—	△
121	拡張ユーザー情報 3※9, ※10	半角英数字	0~64 バイト以内	△
122	拡張ユーザー名 3※8, ※9	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	0~255 バイト以内	△

指定 順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数 ^{※1}	指定 要否
123	拡張ユーザー情報種別 4 ※8, ※9	「ユーザー」または「ロール」のどちらかの 値, または空文字	—	△
124	拡張ユーザー情報 4※9, ※10	半角英数字	0~64 バイト以内	△
125	拡張ユーザー名 4※8, ※9	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	0~255 バイト以内	△
126	拡張ユーザー情報種別 5 ※8, ※9	「ユーザー」または「ロール」のどちらかの 値, または空文字	—	△
127	拡張ユーザー情報 5※9, ※10	半角英数字	0~64 バイト以内	△
128	拡張ユーザー名 5※8, ※9	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	0~255 バイト以内	△
129	編集者 ID	半角英数字	0~64 バイト以内	△
130	編集者名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	1~255 バイト以内	○
131	編集者名 (英語)	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	0~255 バイト以内	△
132	登録日時 ^{※3}	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ※7 または空文字	—	△
133	更新日時	「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」形式の文字列 ※7 または空文字 ただし, 同一の「プロセスワークボード内通 し番号」の案件内で「バージョン番号」の昇 順で新しい日時になっていること。	—	△
134	メッセージ ID	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 スペースだけは不可	0~255 バイト以内	△
135	関連情報 ID	100~2147483647 の整数を「 (ストロー ク)」区切りで 0~160 個 ただし, 一つの関連情報種別につき指定でき る個数は 20 個。 また, 同一レコード内で関連情報 ID が重複 しないこと。なお, 関連情報 CSV ファイル に, 詳細情報が存在すること。	—	△
136	添付ファイル ID ^{※11}	1~2147483647 の整数を「 (ストローク)」 区切りで 0~5 個 10 桁未満の場合, 先頭を「0 (ゼロ)」で埋 めた値にすること。	—	△

指定順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数※1	指定要否
136	添付ファイル ID※11	該当する添付ファイルのファイル名の「添付ファイル ID」と同じにすること。 なお、同一レコード内で添付ファイル ID が重複しないこと。 また、該当する「添付ファイル名」と同じ順序で「 (ストローク)」区切りで並べること。	—	△
137	添付ファイル※11	添付ファイル名を「 (ストローク)」区切りで 0~5 個 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 また、該当する「添付ファイル ID」と同じ順序で、「 (ストローク)」区切りで並べること。 なお、「プロセスワークボード ID」が同じ案件内で、該当する「添付ファイル ID」が同じでも「添付ファイル名」が異なるようにすること。	—	△
138	操作履歴	次に示すどれかを指定 <ul style="list-style-type: none"> 作成・編集 引き戻し 差し戻し 「バージョン番号」が 1 の場合は、「作成・編集」だけを指定できる。 なお、空文字も指定できる。空文字を指定した場合、「0」で登録される。	—	△

(凡例)

- ：指定できる値が決まっているため、その値が設定できるバイト数となる
- ：指定が必要な項目
- △：必要に応じて指定する項目

注※1

UTF-8 で換算した値。指定した文字列に全角文字が含まれる場合、全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。

注※2

案件情報 CSV ファイルの内容を JP1/Service Support に反映する前に、案件管理 DB に登録されている必要があります。なお、「エスカレーション先システム ID」には、「エスカレーション先プロセスワークボード ID」で指定した値のプロセスワークボードが所属するシステムのシステム ID を指定する必要があります。

注※3

同一ファイル内で同じ値を指定する必要がある項目があります。同じ値を指定する必要がある項目を、次の表に示します。

項番	項目名	説明
1	システム ID	同一のファイル内では、すべて同じ値を指定する。
2	システム名	
3	プロセス名	
4	プロセスワークボード ID	
5	関連案件通し番号	同一ファイル内の同一プロセスワークボード内通し番号の場合、すべて同じ値を指定する。
6	案件フォーム ID	同一ファイル内の同一案件※の場合、すべてのバージョンで同一の案件フォームとなるように指定する。
7	案件フォームのバージョン番号	
8	登録者 ID	同一ファイルの同一案件内※では、すべて同じ値を指定する。
9	登録者名	
10	登録者名 (英語)	
11	登録日時	

注※

同一案件とは、次に示す項目が同じ案件のことです。

- 関連案件通し番号
- エスカレーション番号
- プロセスワークボード ID
- プロセスワークボード内通し番号

注※4

プロセスワークボード内通し番号および関連案件通し番号は、新しい番号に変更されます。なお、通し番号は、公開ログで何番に変わったかを確認できます。このため、公開ログは上書きされる前に保存してください。

注※5

エスカレーション元とエスカレーション先の項目は、同時に指定できません。また、エスカレーション先またはエスカレーション元のプロセスワークボード ID を指定する場合、エスカレーション元またはエスカレーション先の項目の単位でまとめて指定する必要があります。

注※6

案件フォームで使用している選択肢コード表示名である必要があります。

注※7

YYYY は年、MM は月、DD は日、hh は時、mm は分、ss は秒を表します。指定できる範囲は 1970/01/02 00:00:00～2107/01/01 23:59:59 です。例えば、2013 年 5 月 10 日の 10 時 30 分 25 秒を設定する場合、「2013/05/10 10:30:25」となります。なお、存在しない日付を指定した場合は、エラーになります。

注※8

それぞれの種別および名称の単位でまとめて指定する必要があります。

注※9

案件ごとに参照権限を設定した場合、案件の参照権限を設定する項目として、拡張ユーザー情報 01～05 から一つ選定されています。選定した拡張ユーザー情報には、案件の参照権限所有者を設定してください。なお、拡張ユーザー情報は、拡張ユーザー情報種別、拡張ユーザー情報、および拡張ユーザー名で構成されています。

案件ごとに参照権限を設定する場合の環境設定については、「9.13 案件ごとに参照権限を設定するための環境設定」を参照してください。

注※10

それぞれの種別に「ロール」の値を指定した場合、該当する ID には次に示すシステムロールを指定できません。

- _jplITsystem
- _jpluser
- _jplworkmgr

注※11

案件情報の添付ファイルは、「添付ファイル ID_添付ファイル名」の形式の名称にする必要があります。また、添付ファイルの添付ファイル ID は、「添付ファイル ID」の指定と同じ値にする必要があります。例えば、添付ファイルが「00001_file1.txt」の場合、「添付ファイル ID」および「添付ファイル」は次のようになります。

添付ファイル ID：00001

添付ファイル：file1.txt

なお、jssitemexportEx コマンドの実行時に添付ファイル名のパス長が 255 バイト以上になる場合は、ファイル名が先頭から 255 バイトまでに収まる長さに省略されます。そのような添付ファイルを案件管理 DB に登録する場合は、案件情報 CSV ファイルで指定した添付ファイル名で登録されます。

次の表に示す順序に従って、案件情報（関連情報 CSV ファイル）を作成してください。

表 13-19 案件情報入力ファイル（関連情報 CSV ファイル）で指定する案件情報（行単位）

指定順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数※1	指定要否
1	プロセスワークボード ID※2	半角英数字	1～64 バイト	△
2	プロセスワークボード内 通し番号	1～2147483647 の整数	—	△
3	バージョン番号	1～2147483647 の整数	—	△
4	関連情報 ID	100～2147483647 の整数	—	△
5	案件フォーム項目 ID	関連情報として登録可能な項目※3	—	△

指定順序	項目名	設定できる文字	設定できるバイト数※1	指定要否
6	関連情報種別	次に示すどれかを指定 <ul style="list-style-type: none"> • 関連案件 • 機器情報 • 関連情報 「案件フォーム項目 ID」に対応する値を指定すること。※3	—	△
7	関連情報詳細	「関連情報種別」が「関連案件」の場合、次に示すどれかの値を指定 <ul style="list-style-type: none"> • サーバ名 • IP アドレス • 資産番号 • UCMDB のサーバ名 • UCMDB の IP アドレス • UCMDB の ID 「関連情報種別」が「関連案件」以外の場合、空文字を指定すること。	—	△
8	関連情報 1	「関連情報種別」の値によって異なる 「関連案件」の場合 半角英数字および「- (ハイフン)」 「機器情報」の場合 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 「関連情報」の場合 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	「関連案件」の場合 1~128 バイト 「機器情報」の場合 1~255 バイト 「関連情報」の場合 1~255 バイト	△
9	関連情報 2	「関連情報種別」の値によって異なる 「関連案件」の場合 指定不可 「機器情報」の場合 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外 「関連情報」の場合 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外	「機器情報」の場合 「関連情報詳細」に指定した値によって異なる※4 「関連情報」の場合 0~4,096 バイト	△

(凡例)

—：指定できる値が決まっているため、その値が設定できるバイト数となる

△：必要に応じて指定する項目

注※1

UTF-8 で換算した値。指定した文字列に全角文字が含まれる場合、全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。

注※2

関連情報 CSV ファイルの内容を JP1/Service Support に反映する前に、案件管理 DB に登録されている必要があります。

注※3

関連情報として指定できる案件フォーム項目 ID を、次の表に示します。

項番	案件フォーム項目名	案件フォーム項目 ID	指定できる関連情報種別
1	関連情報 (AIM)	JIMSD_FORM_LINKAIM	機器情報
2	関連情報 (案件)	JIMSD_FORM_LINKITEM	関連案件
3	関連情報 (URL)	JIMSD_FORM_LINKURL	関連情報
4	追加項目：リンク 01	JIMSD_FORM_REFINFO01	案件フォームに定義されている種別 次に示す値のどれか <ul style="list-style-type: none"> • 機器情報 • 関連案件 • 関連情報
5	追加項目：リンク 02	JIMSD_FORM_REFINFO02	
6	追加項目：リンク 03	JIMSD_FORM_REFINFO03	
7	追加項目：リンク 04	JIMSD_FORM_REFINFO04	
8	追加項目：リンク 05	JIMSD_FORM_REFINFO05	

注※4

「関連情報詳細」に「サーバ名」,「IP アドレス」,または「資産番号」を指定した場合、1~64バイト (UTF-8) となります。
「関連情報詳細」に「UCMDB のサーバ名」,「UCMDB の IP アドレス」,または「UCMDB の ID」を指定した場合、1~250バイト (UTF-8) となります。

案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルは、1 行で 1 案件の情報となります。案件情報の各項目は「" (ダブルクォーテーション)」で囲み、「, (コンマ)」で区切ります。必要に応じて指定する項目は、省略できません。指定しない場合でも「" (ダブルクォーテーション)」で該当項目を囲んでください。また、各項目の指定順序も決まっています。

案件情報 CSV ファイルの「編集状態」を省略した場合の例を次に示します。

"対象システムのシステム ID","対象システムのシステム名","プロセス名","プロセスワークボード ID","プロセスワークボード内通し番号","バージョン番号","関連案件通し番号","エスカレーション番号","案件フォーム ID","案件フォームのバージョン番号","案件ステータス ID","案件ステータス名","","データ種別",... (改行)

なお、案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイルは、次に示す順序でソートされている必要があります。

- 第一ソートキー：プロセスワークボード内通し番号
- 第二ソートキー：バージョン番号

注意事項

- 項目名は、カスタマイズによって変わることがあります。詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件フォーム定義ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。なお、カスタマイズによって項目名を変更した場合も、指定順序は変わりません。
- 項目の値に改行文字を入れたい場合、案件情報を登録する前に、CSV 設定ファイルを次のように設定してください。
 - hptl_jp1_imss_replace_linefeed_flag : true
 - hptl_jp1_imss_replace_linefeed_string : 改行文字に変換する文字列

CSV 設定ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「CSV 設定ファイル (hptl_jpl_imss_csv_setting.properties)」を参照してください。

- 案件情報拡張入力ファイル（案件情報 CSV ファイルおよび関連情報 CSV ファイル）は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

定義例 1

複数の案件情報を登録する場合の案件情報 CSV ファイルの定義例を次に示します。

```
#"JP1/IM-Service Support","#101000","MS932","ITEMEXPORT_ITEM"  
#"対象システムのシステムID","対象システムのシステム名",... (改行)  
"1","1","1",... (改行)  
"2","1","1",... (改行)  
#"Closed Item Number : 45"  
#"UnClosed Item Number : 5"  
:
```

定義例 2

複数の案件情報に関連情報を登録する場合の関連情報 CSV ファイルの定義例を次に示します。

```
#"JP1/IM-Service Support","#101000","MS932","ITEMEXPORT_REF"  
#"プロセスワークボードID","プロセスワークボード内通し番号",... (改行)  
"pwb01","1",... (改行)  
"pwb01","1",... (改行)  
:
```

案件フォーム定義ファイル（任意）

説明

各プロセスの案件の項目を定義するファイルです。JP1/Service Support に定義を反映すると、それ以降、登録する案件の項目が、このファイルで定義した項目に変わります。

デフォルトで提供されている案件フォーム定義ファイルを次の表に示します。これらのファイルの内容を参考に定義ファイルを作成、カスタマイズしてください。カスタマイズした定義ファイルは、jssformcustomizer コマンドで読み込めるため、保存してください。

表 13-20 デフォルトで提供されている案件フォーム定義ファイル

ファイル名	説明
JP1/SS パス¥itemform¥jssincident.xml	インシデント管理用の案件フォーム定義ファイル
JP1/SS パス¥itemform¥jssincident.xml.model	インシデント管理用の案件フォーム定義ファイルのモデルファイル
JP1/SS パス¥itemform¥jssproblem.xml	問題管理用の案件フォーム定義ファイル
JP1/SS パス¥itemform¥jssproblem.xml.model	問題管理用の案件フォーム定義ファイルのモデルファイル
JP1/SS パス¥itemform¥jsschange.xml	変更管理用の案件フォーム定義ファイル
JP1/SS パス¥itemform¥jsschange.xml.model	変更管理用の案件フォーム定義ファイルのモデルファイル
JP1/SS パス¥itemform¥jssrelease.xml	リリース管理用の案件フォーム定義ファイル
JP1/SS パス¥itemform¥jssrelease.xml.model	リリース管理用の案件フォーム定義ファイルのモデルファイル
JP1/SS パス¥itemform¥jssdefault.xml*	案件検索用の案件フォーム定義ファイル
JP1/SS パス¥itemform¥jssdefault.xml.model*	案件検索用の案件フォーム定義ファイルのモデルファイル

注※

各プロセス用の案件フォームをカスタマイズした場合、それに合わせて案件検索用の案件フォームもカスタマイズしてください。カスタマイズの指定が一致していないと、[案件検索条件指定] 画面に項目を表示できない場合や、[案件検索結果一覧] 画面から出力した CSV ファイルの選択肢コードを表示名に変換できない場合があります。案件検索用の案件フォームの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[案件検索用の案件フォーム定義ファイル（任意）](#)」を参照してください。[案件検索条件指定] 画面の詳細については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」の案件を検索する手順について説明している章を参照してください。

形式

```
<!-- xmlの宣言 -->
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>

<!-- 案件フォーム定義 -->
<form-def xmlns="http://www.hitachi.co.jp/jp1/im-ss/jimss_form-1.0">
  <fid>案件フォームID</fid>
  <fname value="案件フォーム名" />
  <description>コメント</description>
<!-- 表示位置 -->
  <display-def>
```

```

<position>
  <row><col fiid="項目ID" /></row>
  <row><col fiid="項目ID" /><col fiid="項目ID" /></row>
  <row><col fiid="項目ID" /></row>
  :
</position>
</display-def>

<!-- 項目情報 -->
<item-def>
  <item-text fiid="項目ID" search="【案件検索条件指定】画面への表示有無" >
    <label labelname="表示名" />
    <validate required="入力必須" />
  </item-text>
  :
  <item-code fiid="項目ID" search="【案件検索条件指定】画面への表示有無" >
    <label labelname="表示名" />
    <options>
      <option value="0"></option>
      <option value="1">選択肢コード表示名</option>
      <option value="2">選択肢コード表示名</option>
      <option value="3">選択肢コード表示名</option>
    </options>
    <validate required="入力必須" />
  </item-code>
  :
</item-def>
</form-def>

```

「<!--」 「-->」 で囲んだ内容は、コメント扱いとなります。

ファイル名

任意のファイル名を使用します。

格納先フォルダ

jssformdef コマンドを実行するホストの任意のフォルダ

定義の反映時期

jssformdef コマンドで案件フォーム定義ファイルの内容を反映したあとに有効になります。

記述内容

ここで説明しないパラメーターについては、変更しないでください。

xmlの宣言

ファイルの先頭行に次の宣言文を定義します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
```

案件フォーム定義

次の 4 行を定義（<description>タグだけは省略可能）したあと、表示位置、項目情報をそれぞれ定義します。また、ファイルの最後の行に</form-def>を定義します。

```
<form-def xmlns="http://www.hitachi.co.jp/jp1/im-ss/jimss_form-1.0">
  <fid>案件フォームID</fid>
  <fname value="案件フォーム名" />
  <description>コメント</description>
```

次に各タグで指定する値について説明します。

案件フォーム ID

指定できる ID は、プロセスごとに異なります。次に示す値を指定してください。

インシデント管理用の案件フォームの場合：JIMSD_FORM_INCIDENT

問題管理用の案件フォームの場合：JIMSD_FORM_PROBLEM

変更管理用の案件フォームの場合：JIMSD_FORM_CHANGE

リリース管理用の案件フォームの場合：JIMSD_FORM_RELEASE

案件フォーム名

案件フォーム名を 255 バイト以内で指定します。デフォルトでは次に示す値が指定されています。

インシデント管理用の案件フォームの場合：インシデント管理フォーム

問題管理用の案件フォームの場合：問題管理フォーム

変更管理用の案件フォームの場合：変更管理フォーム

リリース管理用の案件フォームの場合：リリース管理フォーム

コメント

案件フォームに対するコメントを 1,024 バイト以内で指定します。

なお、案件フォーム ID、案件フォーム名、コメントに指定した内容は、[案件フォームの管理] 画面、[案件フォームの詳細情報] 画面で確認できます。

表示位置

画面での案件の項目の表示位置を定義します。

<position>タグと</position>タグの間に次の形で項目を定義します。

```
<row><col fiid="項目ID" /></row>
<row><col fiid="項目ID" /><col fiid="項目ID" /></row>
<row><col fiid="項目ID" /></row>
:
```

<row>タグと</row>タグで一つの行を表しています。タグ内には、一つまたは二つの<col>タグを指定できます。<col>タグには表示する案件項目の項目 ID を指定します。この定義によって、画面に表示する項目の位置を決めています。画面での表示順序は、本定義ファイルでの記載順序と同じです。

項目 ID については、表 13-21 で確認してください。

注意事項

- 次の情報は、表示位置の定義から削除しないでください。() は項目 ID を表しています。
タイトル (JIMSD_FORM_TITLE), プロセス (JIMSD_FORM_PROCESS), システム (JIMSD_FORM_SYSTEM), 案件 ID (JIMSD_FORM_ITEMID), プロセス間 ID (JIMSD_FORM_PROCESSITEMID), 優先度 (JIMSD_FORM_PRIORITYCODE), ステータス (JIMSD_FORM_ITEMSTATUSID), 登録者 (JIMSD_FORM_REGISTRANT), 登録日時 (JIMSD_FORM_REGISTDATE), 担当者 (JIMSD_FORM_ASSIGNED), 作業期限 (JIMSD_FORM_DEADLINE), 更新日時 (JIMSD_FORM_LASTUPDATE)
- ここで定義していない項目は、以降の「項目情報」で定義した項目であっても画面に表示されません。
- 案件フォーム名, コメント, 表示名, および選択肢コード表示名に指定した文字列が全角文字を含む場合, 全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。
- 案件フォーム定義ファイルで指定する項目には, 制御コード (0x00~0x1F, 0x7F) を使用しないでください。

項目情報

項目の属性を定義します。<item-def>と</item-def>の間に次の形で複数定義します。なお、説明文中のゴシック (太字) 部分だけが変更できます。

テキスト入力系の項目の形式

```
<item-text fiid="項目ID" type="型" search="【案件検索条件指定】画面への表示有無" >  
<label labelname="表示名" />  
<validate required="入力必須" />  
</item-text>
```

項目 ID

案件の各項目で固定となっています。表 13-21 を参照してください。

型

項目 ID が「JIMSD_FORM_USERTEXT01~JIMSD_FORM_USERTEXT20」のものだけ指定, 値を変更できます (ここで説明する項目 ID 以外の場合は「type="型"」は指定不要です)。text または textarea のどちらかを指定します。省略した場合は text が仮定されます。

text: テキストの入力行が単一行となります。

textarea: テキストの入力行が複数行となります。

【案件検索条件指定】画面への表示有無

【案件検索条件指定】画面に項目を表示するかを指定します。true または false のどちらかを指定します。省略した場合は true が仮定されます。

true: 【案件検索条件指定】画面に表示されます。

false: 【案件検索条件指定】画面に表示されません。

[案件検索条件指定] 画面に項目を表示する場合、キーワード条件指定のプルダウンに表示名が表示されます。

表示名

画面に表示される項目名を 255 バイト以内で指定します。

入力必須

項目を必須入力にするか、任意入力にするか、クローズ時に必須入力にするかを指定します。入力必須の指定が必要な場合に追加してください。指定が省略された場合は、none が仮定されます。

all：入力が必須になります。

none：入力が任意になります。

close：ステータスをクローズにして登録する場合に必須になります。

数値入力系の項目の形式

```
<item-number fiid="項目ID" search="【案件検索条件指定】画面への表示有無" >  
<label labelname="表示名" />  
<validate required="入力必須" />  
</item-number>
```

項目 ID

案件の各項目で固定となっています。表 13-21 を参照してください。

[案件検索条件指定] 画面への表示有無

[案件検索条件指定] 画面に項目を表示するかを指定します。true または false のどちらかを指定します。省略した場合は true が仮定されます。

true：[案件検索条件指定] 画面に表示されます。

false：[案件検索条件指定] 画面に表示されません。

[案件検索条件指定] 画面に項目を表示する場合、属性条件指定に項目が追加されます。

表示名

画面に表示される項目名を 255 バイト以内で指定します。

入力必須

項目を必須入力にするか、任意入力にするか、クローズ時に必須入力にするかを指定します。入力必須の指定が必要な場合に追加してください。指定が省略された場合は、none が仮定されます。

all：入力が必須になります。

none：入力が任意になります。

close：ステータスをクローズにして登録する場合に必須になります。

ユーザー、ロール指定系の項目の形式

```
<item-user fiid="項目ID" type="型" search="【案件検索条件指定】画面への表示有無" >  
<label labelname="表示名" />  
<validate required="入力必須" />  
</item-user>
```

項目 ID

案件の各項目で固定となっています。表 13-21 を参照してください。

型

項目 ID が「JIMSD_FORM_USEREXTTYPE01～JIMSD_FORM_USEREXTTYPE05」のものだけ指定、値を変更できます（ここで説明する項目 ID 以外のときは「type="型"」は指定不要です）。user または userrole のどちらかを指定します。省略した場合は user が仮定されます。

user：入力個所横の [参照] ボタンから [ユーザー選択] 画面を呼び出せます。

userrole：入力個所横の [参照] ボタンから [ユーザー・ロール選択] 画面を呼び出せます。

[案件検索条件指定] 画面への表示有無

[案件検索条件指定] 画面に項目を表示するかを指定します。true または false のどちらかを指定します。省略した場合は true が仮定されます。

true：[案件検索条件指定] 画面に表示されます。

false：[案件検索条件指定] 画面に表示されません。

[案件検索条件指定] 画面に項目を表示する場合、キーワード条件指定のプルダウンに表示名が表示されます。また、属性条件指定にも項目が追加されます。

表示名

画面に表示される項目名を 255 バイト以内で指定します。

入力必須

項目を必須入力にするか、任意入力にするか、クローズ時に必須入力にするかを指定します。入力必須の指定が必要な場合に追加してください。指定が省略された場合は、none が仮定されます。

all：入力が必須になります。

none：入力が任意になります。

close：ステータスをクローズにして登録する場合に必須になります。

選択系の項目の形式

```
<item-code fiid="項目ID" search=" [案件検索条件指定] 画面への表示有無" >
<label labelname="表示名" />
<options>
<option value="選択肢コード">選択肢コード表示名</option>
<option value="選択肢コード">選択肢コード表示名</option>
<option value="選択肢コード">選択肢コード表示名</option>
:
</options>
<validate required="入力必須" />
</item-code>
```

項目 ID

案件の各項目で固定となっています。表 13-21 を参照してください。

[案件検索条件指定] 画面への表示有無

[案件検索条件指定] 画面に項目を表示するかを指定します。true または false のどちらかを指定します。省略した場合は true が仮定されます。

true：[案件検索条件指定] 画面に表示されます。

false：[案件検索条件指定] 画面に表示されません。

[案件検索条件指定] 画面に項目を表示する場合、属性条件指定に項目が追加されます。

表示名

画面に表示される項目名を 255 バイト以内で指定します。

選択肢コード

0 から順に数字を指定します。

画面上では指定した数字順にプルダウンに選択肢コードが表示されます。

備考：<option>タグは最大 30 指定できます。「<option value="0"></option>」は「<option value="0" />」と指定することもできます。

選択肢コード表示名

画面に表示される選択肢コードを 255 バイト以内で指定します。指定しなかった（空白とした）場合、画面上でも空白で表示されます。

なお、画面では、数字に 0 を指定した選択肢コードが初期表示されます。

入力必須

項目を必須入力にするか、任意入力にするか、クローズ時に必須入力にするかを指定します。入力必須の指定が必要な場合に追加してください。指定が省略された場合は、none が仮定されます。

all：入力が必須になります。

none：入力が任意になります。

close：ステータスをクローズにして登録する場合に必須になります。

日時指定系の項目の形式

```
<item-datetime fiid="項目ID" search="【案件検索条件指定】画面への表示有無" >  
<label labelname="表示名" />  
<validate required="入力必須" />  
</item-datetime>
```

項目 ID

案件の各項目で固定となっています。表 13-21 を参照してください。

[案件検索条件指定] 画面への表示有無

[案件検索条件指定] 画面に項目を表示するかを指定します。true または false のどちらかを指定します。省略した場合は true が仮定されます。

true：[案件検索条件指定] 画面に表示されます。

false：[案件検索条件指定] 画面に表示されません。

[案件検索条件指定] 画面に項目を表示する場合、属性条件指定に項目が追加されます。

表示名

画面に表示される項目名を 255 バイト以内で指定します。

入力必須

項目を必須入力にするか、任意入力にするか、クローズ時に必須入力にするかを指定します。入力必須の指定が必要な場合に追加してください。指定が省略された場合は、none が仮定されます。

all：入力が必要になります。

none：入力が任意になります。

close：ステータスをクローズにして登録する場合に必須になります。

リンク指定系の項目の形式

```
<item-link fiid="項目ID" type="型" search="[案件検索条件指定] 画面への表示有無" >
  <label labelname="表示名" />
  <validate required="入力必須" />
</item-link>
```

項目 ID

案件の各項目で固定となっています。表 13-21 を参照してください。

型

項目 ID が「JIMSD_FORM_REFINFO01～JIMSD_FORM_REFINFO05」のものだけ指定、値を変更できます（ここで説明する項目 ID 以外のときは「type="型"」は指定不要です）。aim, item, url のどれかを指定します。省略した場合は url が仮定されます。

aim：JP1/NETM/AIM, JP1/UCMDB, または JP1/ITDM2 - Asset Console の管理情報にリンクをはる場合に指定します。

item：ほかの案件にリンクを付ける場合に指定します。

url：URL にリンクを付ける場合に指定します。

[案件検索条件指定] 画面への表示有無

[案件検索条件指定] 画面に項目を表示するかを指定します。true または false のどちらかを指定します。省略した場合は true が仮定されます。

true：[案件検索条件指定] 画面に表示されます。

false：[案件検索条件指定] 画面に表示されません。

[案件検索条件指定] 画面に項目を表示する場合、キーワード条件指定のプルダウンに表示名が表示されます。また、属性条件指定にも項目が追加されます。

表示名

画面に表示される項目名を 255 バイト以内で指定します。

入力必須

項目を必須入力にするか、任意入力にするか、クローズ時に必須入力にするかを指定します。入力必須の指定が必要な場合に追加してください。指定が省略された場合は、none が仮定されます。

all：入力が必要になります。

none：入力が任意になります。

close：ステータスをクローズにして登録する場合に必須になります。

添付ファイル用の項目の形式

```
<item-attached fiid="JIMSD_FORM_ATTACHED" search="【案件検索条件指定】画面への表示有無” >
<label labelname="添付ファイル" />
</item-attached>
```

【案件検索条件指定】画面への表示有無

【案件検索条件指定】画面に項目を表示するかを指定します。true または false のどちらかを指定します。省略した場合は true が仮定されます。

true：【案件検索条件指定】画面に表示されます。

false：【案件検索条件指定】画面に表示されません。

【案件検索条件指定】画面に項目を表示する場合、キーワード条件指定のプルダウンに表示名が表示されます。

ステータス用の項目の形式

```
<item-status fiid="JIMSD_FORM_ITEMSTATUSID" search="【案件検索条件指定】画面への表示有無” >
<label labelname="ステータス" />
</item-status>
```

【案件検索条件指定】画面への表示有無

【案件検索条件指定】画面に項目を表示するかを指定します。true または false のどちらかを指定します。省略した場合は true が仮定されます。

true：【案件検索条件指定】画面に表示されます。

false：【案件検索条件指定】画面に表示されません。

【案件検索条件指定】画面に項目を表示する場合、属性条件指定に項目が追加されます。

案件フォーム定義ファイルでの定義状態

デフォルトで提供されている案件フォーム定義ファイルには、ユーザーがーから作成しなくてもいいように、各プロセスで必要と思われる項目を定義しています。各案件フォーム定義ファイルでの定義状態を次の表に示します。これを参考にカスタマイズしてください。

表 13-21 各案件フォーム定義ファイルでの定義状態

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所 ^{*1}	影響箇所
			I	P	C	R		
タイトル (JIMSD_FORM_TITLE)	テキスト (512 バイト)	text	○	○	○	○	• 表示位置の変更 • 【案件検索条件指定】画面への表示有無	特になし。
システム (JIMSD_FORM_SYSTEM)	自動生成	text	○	○	○	○	• 表示位置の変更	特になし。
プロセス	自動生成	text	○	○	○	○	• 表示位置の変更	特になし。

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
(JIMSD_FORM_PROCESS)	自動生成	text	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 	特になし。
案件 ID (JIMSD_FORM_ITEMID)	自動生成	text	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 	特になし。
プロセス間 ID (JIMSD_FORM_PROCESSITEMID)	自動生成	text	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 	特になし。
重大度 (JIMSD_FORM_SEVERITYCODE)	次から選択 緊急, 警戒, 致命的, エラー, 警告, 通知, 情報, デバッグ	code	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序変更 選択肢コード変更 	<ul style="list-style-type: none"> 案件項目の自動入力 詳細については、「5.4.3 案件項目の自動入力の利用」を参照のこと。 JP1/IM - View からの案件登録 詳細については、「4.2.1 JP1/IM - View からの案件登録」を参照のこと。
重大度の理由 (JIMSD_FORM_SEVERITYREASON)	テキスト (512 バイト)	text	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
影響度 (JIMSD_FORM_IMPACTCODE)	次から選択 小, 中, 大	code	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序変更 選択肢コード変更 	<ul style="list-style-type: none"> 案件項目の自動入力 詳細については、「5.4.3 案件項目の自動入力の利用」を参照のこと。
影響度の理由	テキスト (512 バイト)	text	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 	特になし。

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
(JIMSD_FORM_IMPACTREASON)	テキスト (512バイト)	text	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 	特になし。
優先度 (JIMSD_FORM_PRIORITYCODE)	次から選択 標準, 至急, 大至急	code	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 必須・任意設定 	特になし。
優先度の理由 (JIMSD_FORM_PRIORITYREASON)	テキスト (512バイト)	text	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 	特になし。
案件種別 (JIMSD_FORM_ITEMCATEGORYCODE)	次から選択 問い合わせ, 障害, 顧客要望	code	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 • 選択肢コードの表示順序変更 • 選択肢コード変更 	特になし。
問題分野 (JIMSD_FORM_ISSUECATEGORYCODE)	次から選択 アプリケーション, ミドルウェア, OS, ハードウェア, ネットワーク, プロセス	code	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 • 選択肢コードの表示順序変更 • 選択肢コード変更 	案件の集計データをファイル出力する際の次の項目。 <ul style="list-style-type: none"> • 案件データ CSV ファイル • サンプルのマクロで作成できるレポート 詳細については、 [3.16.3(1) 出力される CSV ファイルの内容] 、および [3.16.3(2) マクロのダウンロード] を参照のこと。
変更の規模 (JIMSD_FORM_CHANGE)	次から選択 小規模, 中規模, 大規模	code	—	—	○	—	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 	特になし。

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
SCALECODE)	次から選択 小規模, 中規模, 大規模	code	-	-	○	-	<ul style="list-style-type: none"> 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序変更 選択肢コード変更 	特になし。
リリースタイプ (JIMSD_FOR M_RELEASE TYPECODE)	次から選択 パッケージリリース, フルリリース, デルタリリース	code	-	-	-	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序変更 選択肢コード変更 	特になし。
ステータス (JIMSD_FOR M_ITEMSTA TUSID)	次から選択 インシデント管理の場合 受付, 調査中, 対応依頼中, 審議中, 承認済み, クローズ 問題管理の場合 受付, 調査中, 審議中, 承認済み, 対応依頼中, クローズ 変更管理の場合 受付, 計画中, 審議中, 承認済み, 対応依頼中, レビュー中, クローズ リリース管理の場合 受付, 計画中, 審議中, 承認済み, 対応依頼中, クローズ	status	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更*3 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 	特になし。
結果 (JIMSD_FOR M_RESULTC ODE)	次から選択 インシデント管理の場合 完了, 打ち切り, 未確認 問題管理の場合 変更完了, 既知の問題, 原因不明	code	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序変更 選択肢コード変更 	案件の集計データをファイル出力する際の次の項目。 <ul style="list-style-type: none"> 案件データ CSV ファイル サンプルのマクロで作成できるレポート 詳細については, [3.16.3(1) 出力さ

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
結果 (JIMSD_FOR M_RESULTC ODE)	変更管理, リリース管理 の場合 成功, 失敗 (計画ミ ス), 失敗 (人的ミ ス), 失敗 (その他)	cod e	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序 変更 選択肢コード変更 	れる CSV ファイル の内容], および 「3.16.3(2) マクロ のダウンロード」を 参照のこと。
発生日時 (JIMSD_FOR M_ACCRUA LDATE)	日付, 時刻	dat eti me	○	—	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> 案件項目の自動 入力 詳細については, 「5.4.3 案件項目 の自動入力の利 用」を参照のこ と。
現象種別*2 (JIMSD_FOR M_PHENOM ENONCODE)	選択肢は定義されてい ない ユーザーによるカスタ マイズが前提	cod e	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序 変更 選択肢コード変更 	特になし。
解決区分 (JIMSD_FOR M_SOLUTIO NCODE)	次から選択 ナレッジ, ドキュメント, ユーザー解決, 二次サ ポート, 問題管理, 他社 調査	cod e	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序 変更 選択肢コード変更 	<p>案件の集計データを ファイル出力する際 の次の項目。</p> <ul style="list-style-type: none"> 案件データ CSV ファイル サンプルのマクロ で作成できるレ ポート <p>詳細については, 「3.16.3(1) 出力さ れる CSV ファイル の内容], および 「3.16.3(2) マクロ のダウンロード」を 参照のこと。</p>
登録者	自動生成	use r	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 	特になし。

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
(JIMSD_FOR M_REGISTR ANT)	自動生成	use r	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 	特になし。
登録日時 (JIMSD_FOR M_REGISTD ATE)	自動生成	dat eti me	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 	特になし。
担当者 (JIMSD_FOR M_ASSIGNE D)	選択によるユーザー, ロールの指定	use rrol e	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 	特になし。
作業期限 (JIMSD_FOR M_DEADLIN E)	日付, 時刻	dat eti me	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 必須・任意設定 	特になし。
回答責任者*2 (JIMSD_FOR M_RESPOND ENT)	選択によるユーザー, ロールの指定	use rrol e	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
開始日時 (JIMSD_FOR M_STARTDA TE)	日付, 時刻	dat eti me	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> 案件項目の自動入力 詳細については, 「5.4.3 案件項目 の自動入力の利 用」を参照のこ と。
完了日時 (JIMSD_FOR M_COMPDA TE)	日付, 時刻	dat eti me	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
顧客名 (JIMSD_FOR M_CUSTOM ERNAME)	テキスト (1,024 バイト)	text	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
問い合わせ者 (JIMSD_FOR M_INQUIRY NAME)	テキスト (255 バイト)	text	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
費用 (予算) (JIMSD_FOR M_ESTIMAT EDCOST)	0~2147483647 の整 数値	nu mb er	—	—	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
費用 (実績) (JIMSD_FOR M_ACTUAL COST)	0~2147483647 の整 数値	nu mb er	—	—	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	案件の集計データを ファイル出力する際 の次の項目。 <ul style="list-style-type: none"> 案件データ CSV ファイル サンプルのマクロ で作成できるレ ポート 詳細については、 「3.16.3(1) 出力さ れる CSV ファイル の内容」、および 「3.16.3(2) マクロ のダウンロード」を 参照のこと。
影響業務*2 (JIMSD_FOR M_EFFECTS SERVICE)	テキスト (255 バイト)	text are a	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
機器情報 (JIMSD_FOR M_LINKAIM)	JP1/NETM/AIM, JP1/ UCMDB, JP1/ITDM2 - Asset Console への参 照設定	aim	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> JP1/ NETM/AIM と の連携 詳細については、 「4.3 JP1/ NETM/AIM と の連携」を参照の こと。

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
機器情報 (JIMSD_FOR M_LINKAIM)	JP1/NETM/AIM, JP1/ UCMDB, JP1/ITDM2 - Asset Console への参 照設定	aim	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> JP1/UCMDB と の連携 詳細については, [4.4 JP1/ UCMDB との連 携] を参照のこ と。 JP1/ITDM2 - Asset Console との連携につい ては, [4.8 JP1/ ITDM2 - Asset Console との連 携] を参照のこ と。
問題箇所と バージョン (JIMSD_FOR M_FAILUREL OCATION)	テキスト (1,024 バイト)	text area	-	-	○	-	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
関連案件 (JIMSD_FOR M_LINKITE M)	関連案件への参照設定	ite m	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
関連情報 (JIMSD_FOR M_LINKURL)	URL への参照設定	url	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> WWW アプリ ケーションとの 連携 詳細については [4.11.3 WWW アプリ ケーションとの連 携] を参照のこ と。
概要 (JIMSD_FOR M_SUMMAR Y)	テキスト (2,048 バイト)	text area	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> JP1/IM - View からの案件登録 詳細については, [4.2.1 JP1/IM - View からの案件 登録] を参照のこ と。

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
回避策種別 (JIMSD_FOR M_AVOIDA NCECODE)	次から選択 なし, 運用回避, 縮退運 転, 再起動, ファイル回 復, 変更の戻し, その他	cod e	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序 変更 選択肢コード変更 	特になし。
回避策 (JIMSD_FOR M_AVOIDA NCE)	テキスト (4,096 バイト)	text are a	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
作業状況 (JIMSD_FOR M_SITUATI ON)	テキスト (4,096 バイト)	text are a	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> 案件の作業状況の 表示 詳細については, 「3.3.4 案件の作 業状況の表示」を 参照のこと。
再発防止のた めの考察*2 (JIMSD_FOR M_MEASURE S)	テキスト (4,096 バイト)	text are a	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
要因 (JIMSD_FOR M_CAUSEC ODE)	次から選択 インシデント管理, 問題 管理の場合 新規ソフトウェア不 良, 既知ソフトウェア 不良, 新規ハードウ ェア不良, 既知ハード ウェア不良, ドキュメ ント不良, 資料不足, ユーザーミス, 仕様, 他社問題, プロセス 不良	cod e	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序 変更 選択肢コード変更 	<p>案件の集計データを ファイル出力する際 の次の項目。</p> <ul style="list-style-type: none"> 案件データ CSV ファイル サンプルのマクロ で作成できるレ ポート <p>詳細については, 「3.16.3(1) 出力さ れる CSV ファイル の内容」, および 「3.16.3(2) マクロ のダウンロード」を 参照のこと。</p>

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
要因 (JIMSD_FOR M_CAUSEC ODE)	変更管理, リリース管理 の場合 顧客要望, 機能拡張, 業務要件, インシデ ント・問題修正, プロセ ス改善	cod e	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序 変更 選択肢コード変更 	案件の集計データを ファイル出力する際 の次の項目。 <ul style="list-style-type: none"> 案件データ CSV ファイル サンプルのマクロ で作成できるレ ポート 詳細については, [3.16.3(1) 出力さ れる CSV ファイル の内容], および [3.16.3(2) マクロ のダウンロード] を 参照のこと。
根本原因 (JIMSD_FOR M_ROOTCA USE)	テキスト (4,096 バイト)	text are a	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
解決策 (JIMSD_FOR M_SOLUTIO N)	テキスト (4,096 バイト)	text are a	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
スケジュール, 手順概要 (JIMSD_FOR M_SCHEDUL E)	テキスト (4,096 バイト)	text are a	—	—	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
変更の影響 評価 (JIMSD_FOR M_IMPACTE VAL)	テキスト (4,096 バイト)	text are a	—	—	○	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面 への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
審議結果	テキスト (2,048 バイト)	text are a	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 	特になし。

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
(JIMSD_FORM_DELIBERATIONRST)	テキスト (2,048 バイト)	text area	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 	特になし。
フリー記入欄 (JIMSD_FORM_FREEDESCRIPTION)	テキスト (4,096 バイト)	text area	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 	特になし。
プロダクト名 (JIMSD_FORM_JP1PRODUCTNAME)	テキスト (1,024 バイト)	text	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> • JP1 製品とのイベント連携 詳細については、「4.1.2 自動アクションを利用した JP1 製品とのイベント連携」を参照のこと。 • JP1/IM - View からの案件登録 詳細については、「4.2.1 JP1/IM - View からの案件登録」を参照のこと。
ジョブネット名 (JIMSD_FORM_JP1JOBNETNAME)	テキスト (1,024 バイト)	text	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> • JP 製品とのイベント連携 詳細については、「4.1.2 自動アクションを利用した JP1 製品とのイベント連携」を参照のこと。
ジョブ名 (JIMSD_FORM_JP1JOBNAME)	テキスト (1,024 バイト)	text	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> • JP1 製品とのイベント連携 詳細については、「4.1.2 自動アクションを利用した JP1 製品とのイベント連携」を参照のこと。
SNMP ソース	テキスト (1,024 バイト)	text	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 	<ul style="list-style-type: none"> • JP1 製品とのイベント連携

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
(JIMSD_FOR M_JP1SNMP SRC)	テキスト (1,024 バイト)	text	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 	詳細については、 「4.1.2 自動アクションを利用した JP1 製品とのイベント連携」を参照のこと。
監視ノード名 (JIMSD_FOR M_JP1NODE NAME)	テキスト (255 バイト)	text	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> • JP1 製品とのイベント連携 詳細については、 「4.1.2 自動アクションを利用した JP1 製品とのイベント連携」を参照のこと。
アラーム名 (JIMSD_FOR M_JP1ALAR MNAME)	テキスト (255 バイト)	text	○	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> • JP1 製品とのイベント連携 詳細については、 「4.1.2 自動アクションを利用した JP1 製品とのイベント連携」を参照のこと。
添付ファイル (JIMSD_FOR M_ATTACH ED)	ファイル (最大 5 件, 1 件につき最大 5 メガバイト)	attach ed	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 	特になし。
更新日時 (JIMSD_FOR M_LASTUPD ATE)	自動生成	dat eti me	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 	特になし。
イベント DB 内通し番号*2 (JIMSD_FOR M_IMEVENT NO)	テキスト (64 バイト)	text	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 表示位置の変更 • 表示・非表示設定 • [案件検索条件指定] 画面への表示有無 • 表示名変更 • 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> • JP1 製品とのイベント連携 詳細については、 「4.1.2 自動アクションを利用した JP1 製品とのイベント連携」を参照のこと。 <ul style="list-style-type: none"> • JP1/IM - View からの案件登録 詳細については、 「4.2.1 JP1/IM -

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所※1	影響箇所
			I	P	C	R		
イベント DB 内通し番号※2 (JIMSD_FOR M_IMEVENT NO)	テキスト (64 バイト)	text	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	View からの案件登録を参照のこと。
JP1/IM - Manager のホ スト名※2 (JIMSD_FOR M_IMHOST NAME)	テキスト (1,024 バイト)	text	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	<ul style="list-style-type: none"> JP1 製品とのイベント連携 詳細については、「4.1.2 自動アクションを利用した JP1 製品とのイベント連携」を参照のこと。 JP1/IM - View からの案件登録 詳細については、「4.2.1 JP1/IM - View からの案件登録」を参照のこと。
追加項目：テ キスト※2 (JIMSD_FOR M_USERTEX T01～ JIMSD_FOR M_USERTEX T05)	テキスト (4,096 バイト)	text text area	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 型の変更 	特になし。
追加項目：テ キスト※2 (JIMSD_FOR M_USERTEX T06～ JIMSD_FOR M_USERTEX T15)	テキスト (2,048 バイト)	text text area	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 型の変更 	特になし。
追加項目：テ キスト※2 (JIMSD_FOR M_USERTEX T16～ JIMSD_FOR	テキスト (512 バイト)	text text area	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
M_USERTEXT20)	テキスト (512 バイト)	text area	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 型の変更 	特になし。
追加項目： 数値*2 (JIMSD_FORM_USERINT01～ JIMSD_FORM_USERINT05)	0～2147483647 の整数値	number	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
追加項目： ユーザー*2 (JIMSD_FORM_USEREXTTYPE01～ JIMSD_FORM_USEREXTTYPE05)	選択によるユーザー、 ロールの指定	user role	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 型の変更 	特になし。
追加項目： コード*2 (JIMSD_FORM_USERCODE01～ JIMSD_FORM_USERCODE05)	選択肢は定義されていない ユーザーによるカスタマイズが前提	code	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 選択肢コードの表示順序変更 選択肢コード変更 	特になし。
追加項目： 日時*2 (JIMSD_FORM_USERTIME01～ JIMSD_FORM_USERTIME05)	日付, 時刻	datetime	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。
追加項目：リンク*2 (JIMSD_FORM_REFINFO01～ JIMSD_FOR	URL への参照設定	aim item url	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 表示位置の変更 表示・非表示設定 [案件検索条件指定] 画面への表示有無 表示名変更 必須・任意設定 	特になし。

表示名 (項目 ID)	画面での入力形式 (最大値)	型	定義状態				カスタマイズ できる箇所*1	影響箇所
			I	P	C	R		
M_REFINFO 05)	URL への参照設定	url	-	-	-	-	• 型の変更	特になし。

(凡例)

I：インシデント管理用の案件フォーム定義ファイル

P：問題管理用の案件フォーム定義ファイル

C：変更管理用の案件フォーム定義ファイル

R：リリース管理用の案件フォーム定義ファイル

○：デフォルトで表示設定されている項目

-：デフォルトで非表示設定（定義されていない）となっている項目

注※1

表示位置の変更、表示・非表示設定は、「記述内容」記載の「表示位置」で定義します。それ以外は、「記述内容」記載の「項目情報」で定義します。

注※2

ユーザーの作成が前提の項目です。

注※3

その他のカスタマイズ方法については、「3.15 ステータスの管理」を参照してください。

注意事項

- 選択肢コードは各プロセス間で統一してください。統一していない場合、エスカレーション時に意図しない選択肢コードに変換されたり、引き継がれなかったりします。例えば、インシデント管理プロセスで「案件種別」に「<option value="4">情報</option>」を追加定義し、問題管理プロセスで「<option value="4">参考情報</option>」を追加定義していた場合、インシデント管理プロセスから問題管理プロセスへの引き継ぎで「情報」は「参考情報」に変換されます。また、ほかのプロセスで追加定義していなかった場合、「情報」は引き継がれません。
- 各プロセス用の案件フォームや案件検索用の案件フォームをカスタマイズする場合、今まで使っていた選択肢コードの名称は変更しないでください。運用を始めてから選択肢コードの名称を変更すると、[案件検索結果一覧] 画面の検索結果や [案件検索結果一覧] 画面から出力した CSV ファイルの選択肢コードが正しく表示できなくなります。
- 各プロセス用の案件フォームから選択肢コードを削除した場合、案件検索用の案件フォームからは削除しないでください。案件検索用の案件フォームから選択肢コードを削除すると、削除した選択肢コードを使っている案件が検索できなくなります。
- 案件の項目を削除する場合、削除したい項目の表示位置の定義を削除した案件フォーム定義ファイルを作成し、JP1/Service Support に定義を反映してください。削除したい項目の情報については、削除する必要はありませんが、案件フォーム定義ファイルの内容をわかりやすくするため、あわせて削除することをお勧めします。
- 選択系の項目の案件は、選択肢コードで検索されます。

- 案件フォーム定義ファイル (jssincident.xml, jssproblem.xml, jsschange.xml, jssrelease.xml, および jssdefault.xml) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：UTF-8
 - 英語環境の場合：UTF-8
 - 中国語環境の場合：UTF-8

定義例

定義例 1

デフォルトで提供されているインシデント管理用の案件フォーム定義ファイルから SNMP ソース、監視ノード名、アラーム名を削除した場合の定義例を次に示します。なお、この例では、表示位置の変更に関係する部分だけを抜き出しています。

```

<display-def>
  <position>
    <row><col fiid="JIMSD_FORM_TITLE" /></row>
    <row><col fiid="JIMSD_FORM_ITEMID" /><col fiid="JIMSD_FORM_LASTUPDATE" /></row>
    <row><col fiid="JIMSD_FORM_SYSTEM" /><col fiid="JIMSD_FORM_PROCESS" /></row>
    <row><col fiid="JIMSD_FORM_ACCRUALDATE" /><col fiid="JIMSD_FORM_DEADLINE" /></row>
    <row><col fiid="JIMSD_FORM_ASSIGNED" /><col fiid="JIMSD_FORM_ITEMSTATUSID" /></row>
    <row><col fiid="JIMSD_FORM_CUSTOMENAME" /><col fiid="JIMSD_FORM_INQUIRYNAME" /></row>
    <row><col fiid="JIMSD_FORM_ITEMCATEGORYCODE" /><col fiid="JIMSD_FORM_PROCESSITEMID" /></row>
  </position>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_SUMMARY" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_REGISTDATE" /><col fiid="JIMSD_FORM_REGISTRANT" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_STARTDATE" /><col fiid="JIMSD_FORM_COMPDATE" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_SEVERITYCODE" /><col fiid="JIMSD_FORM_SEVERITYREASON" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_IMPACTCODE" /><col fiid="JIMSD_FORM_IMPACTREASON" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_PRIORITYCODE" /><col fiid="JIMSD_FORM_PRIORITYREASON" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_SITUATION" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_LINKAIM" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_LINKITEM" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_LINKURL" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_JP1PRODUCTNAME" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_JP1JOBNETNAME" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_JP1JOBNAME" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_RESULTCODE" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_AVOIDANCECODE" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_AVOIDANCE" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_CAUSECODE" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_ROOTCAUSE" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_SOLUTIONCODE" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_SOLUTION" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_DELIBERATIONRST" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_FREEDESCRIPTION" /></row>
  <row><col fiid="JIMSD_FORM_ATTACHED" /></row>
</display-def>

```

定義例 2

案件フォーム定義ファイルで案件の項目「案件種別」に表示順序「4」、選択肢コード「情報」を追加した場合の定義例を次に示します。なお、この例では、案件の項目「案件種別」に関する部分だけを抜き出しています。

```
<item-code fiid="JIMSD_FORM_ITEMCATEGORYCODE" search="true">
  <label labelname="案件種別" />
  <options>
    <option value="0"></option>
    <option value="1">問い合わせ</option>
    <option value="2">障害</option>
    <option value="3">顧客要望</option>
    <option value="4">情報</option>
  </options>
</item-code>
```

定義例 3

案件フォーム定義ファイルにテキスト入力（4,096 バイト）の案件の項目「覚書」を追加した場合の定義例を次に示します。なお、この例では、案件の項目「覚書」に関する部分だけを抜き出しています。

```
<!-- 表示位置 -->
<row><col fiid="JIMSD_FORM_USERTEXT01" /></row>

<!-- 項目情報 -->
<item-text fiid="JIMSD_FORM_USERTEXT01" search="true" type="textarea" >
  <label labelname="覚書" />
</item-text>
```

案件保存 DB 拡張情報設定ファイル (jssitemstoredbexpandinfo.bat)

説明

案件保存 DB の容量を拡張するために必要な情報を定義したファイルです。

形式

```
@set ADD_AREA=拡張する案件保存DBの保存エリア
@set ADD_AREA_CATEGORY=案件情報のカテゴリー
@set ADD_AREA_DIRECTORY=拡張する案件保存DBの格納先フォルダ名
```

ファイル名

- jssitemstoredbexpandinfo.bat (案件保存 DB 拡張情報設定ファイル)
- jssitemstoredbexpandinfo.bat.model (案件保存 DB 拡張情報設定ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは案件保存 DB 拡張情報設定ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。なお、案件保存 DB 拡張情報設定ファイルは、拡張子 (.bat) 以外は任意のファイル名に変更できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥setup¥

定義の反映時期

jssitemstoredbexpand.bat コマンドの実行時に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-22 案件保存 DB 拡張情報設定ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
@set ADD_AREA	拡張する案件保存 DB の保存エリアを指定する。 <ul style="list-style-type: none">• A：保存エリア A• B：保存エリア B	—
@set ADD_AREA_CATEGORY	拡張するカテゴリーを指定する。 <ul style="list-style-type: none">• item：案件領域• apdfile：添付ファイル領域	—
@set ADD_AREA_DIRECTORY	拡張する案件保存 DB の格納先フォルダのパスを、133 バイト以内の絶対パスで指定する。	—

指定キー名	説明	デフォルト値
@set ADD_AREA_DIRECTORY	<p>指定できる文字は、半角英数字、[. (ピリオド)], [_ (アンダーバー)], [,], [¥] および半角スペース。なお、パスの最後に [¥] を指定できない。</p> <p>クラスタ環境の場合は、共有ディスク以外のフォルダは指定できない。</p> <p>指定したフォルダが存在しない場合は、jssitemstoredbexpand.bat コマンドの実行時に作成される。</p>	—

(凡例)

—：設定値なし

注意事項

- 同一のキーを複数指定した場合は、最後に指定された設定内容が適用されます。

定義例

案件保存 DB の保存エリア A の案件領域を、D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredb に拡張する場合の定義例を次に示します。

```
@set ADD_AREA=A
@set ADD_AREA_CATEGORY=item
@set ADD_AREA_DIRECTORY=D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredb
```

案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (jssitemstoredbinfo.bat)

説明

案件保存 DB をセットアップするために必要な情報を設定した定義ファイルです。

形式

```
@set ADD_AREA=A  
@setADD_AREA_DIRECTORY=案件保存DB格納先フォルダ名
```

ファイル名

- jssitemstoredbinfo.bat (案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル)
- jssitemstoredbinfo.bat.model (案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。なお、案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルは、拡張子 (.bat) 以外は任意のファイル名に変更できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥setup¥

定義の反映時期

jssitemstoredbsetup.bat コマンドの実行時に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-23 案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
@set ADD_AREA	セットアップする案件保存 DB の保存エリアを指定する。 <ul style="list-style-type: none">• A : 保存エリア A• B : 保存エリア B	—
@set ADD_AREA_DIRECTORY	セットアップする案件保存 DB の格納先フォルダのパスを、133 バイト以内の絶対パスで指定する。なお、同一のフォルダに対して複数回拡張できる。 指定できる文字は、半角英数字、[.] (ピリオド)、[_] (アンダーバー)、[,], [¥] および半角スペース。なお、次に示すフォルダは指定できない。 <ul style="list-style-type: none">• 存在しないフォルダ	—

指定キー名	説明	デフォルト値
@set ADD_AREA_DIRECTORY	<ul style="list-style-type: none"> フォルダ名の末尾が「¥」 ネットワークドライブ ドライブ直下 予約デバイス名 また、クラスタ環境の場合は、共有ディスク以外のフォルダは指定できない。	—

(凡例)

—：設定値なし

注意事項

- 案件管理 DB と案件保存 DB を同じディスクに格納すると、ディスク I/O の競合が発生することがあります。ディスク I/O 競合を避けて効率よく運用するために、案件保存 DB は、案件管理 DB と異なるディスクに格納することをお勧めします。
- 案件保存 DB の格納先フォルダがあるディスクには、案件保存 DB をセットアップするための空き領域が必要です。

定義例

案件保存 DB (D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredb) に保存エリア A をセットアップする場合の定義例を次に示します。

```
@set ADD_AREA=A
@set ADD_AREA_DIRECTORY=D:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥JP1SS¥itemstoredb
```

関連情報定義ファイル

説明

JP1/Service Support から WWW アプリケーションなどの画面に接続するための情報を定義するファイルです。このファイルは、CSV 形式で作成する必要があります。このファイルの内容を、JP1/Service Support に設定するには、jssitementry コマンドを実行する必要があります。

形式

```
#url表示名,url文字列 (改行)
"url表示名","url文字列" (改行)
"url表示名","url文字列" (改行)
:
:
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

(凡例)

(改行)：改行を示す

url 表示名

UTF-8 で換算し、1~255 バイトの文字列（制御文字以外）が指定できます。

url 文字列

UTF-8 で換算し、4,096 バイト以内の文字列（制御文字以外）が指定できます。

ファイルの解析

- CSV ファイルの一つ目の項目を「url 表示名」、二つ目の項目を「url 文字列」と解釈します。
- CSV ファイルに指定された項目は、「"」で囲まれた部分を設定値と解釈します。「"」で囲まれた部分にスペースが含まれていても、スペースが含まれたままの値を設定値と解釈します。設定値として「"」が指定されている場合は、「"」が指定されたと解釈します。
例：CSV ファイルの記載「"ab"c"」 コマンドでの解釈「ab"c」
- 関連情報定義ファイルは、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030
- 関連情報は、CSV ファイルの先頭から順に登録します。

- 「url 表示名」, 「url 文字列」に制御文字 (0x00) が指定された場合, 指定された文字列のうち制御文字 (0x00) までの文字列が指定されたと解釈します。「url 表示名」に"日立△サイト" (△は制御文字 (0x00)) と指定した場合, 表示名は"日立"となります。

関連情報定義ファイルの例

```
#url表示名,url文字列  
"日立製作所", "http://www.hitachi.co.jp"  
"JP1", "http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/jp1/"  
"JP1 V11マニュアル", "http://itdoc.hitachi.co.jp/Pages/document_list/manuals/jp1v11.html"
```

関連リンクプロパティファイル (hptl_jp1_imss_link_setting.properties)

説明

メイン画面（案件状況）のメニュー「関連リンク」およびメイン画面（案件一覧）のオプションメニューに、追加するリンクを定義するファイルです。

形式

```
#関連リンク（メイン画面（案件状況）のメニュー「関連リンク」用）の設定
hptl_jp1_imss_link_info_num=リンク数
hptl_jp1_imss_link_name_n=表示名
hptl_jp1_imss_link_url_n=URL
#関連リンク（メイン画面（案件一覧）のオプションメニュー用）の設定
hptl_jp1_imss_main_link_info_num=リンク数
hptl_jp1_imss_main_link_name_$n=表示名
hptl_jp1_imss_main_link_url_$n=URL
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

ファイル名

- hptl_jp1_imss_link_setting.properties（関連リンクプロパティファイル）
- hptl_jp1_imss_link_setting.properties.model（関連リンクプロパティファイルのモデルファイル）※

注※

モデルファイルは関連リンクプロパティファイルの内容をリセットする場合に利用してください。
関連リンクプロパティファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで関連リンクプロパティファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

次のJP1/Service Support のサービスを再起動したあと、反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

記述内容

次で説明する指定キー以外は編集しないでください。指定キーと値は「=（イコール）」でつなぎます。

表 13-24 関連リンクプロパティファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_link_info_num	<p>メイン画面（案件状況）のメニュー「関連リンク」に表示するリンクの数を指定する。</p> <p>ここに指定した数だけ、「hptl_jpl_imss_link_name_n」と「hptl_jpl_imss_link_url_n」をセットで定義する。</p> <p>「hptl_jpl_imss_link_name_n」と「hptl_jpl_imss_link_url_n」が、指定した数より多く定義されている場合は、指定された数までの定義が有効となる。</p> <p>指定できる値は、0～100の範囲の半角数字（整数）。</p>	0
hptl_jpl_imss_link_name_n	<p>メイン画面（案件状況）のメニュー「関連リンク」に表示するリンクの表示名を指定する。</p> <p>指定できる値は、1～255バイトの範囲の文字列。</p> <p>指定キー名のnには、1から「hptl_jpl_imss_link_info_num」に指定した数までの半角数字（整数）を指定する。</p>	—
hptl_jpl_imss_link_url_n	<p>メイン画面（案件状況）のメニュー「関連リンク」に表示するリンクのURLを指定する。</p> <p>指定できる値は、1～4,096バイトの範囲の文字列。</p> <p>指定キー名のnには、1から「hptl_jpl_imss_link_info_num」に指定した数までの半角数字（整数）を指定する。</p>	—
hptl_jpl_imss_main_link_info_num	<p>メイン画面（案件一覧）のオプションメニューに表示するリンクの数を指定する。</p> <p>ここに指定した数だけ、「hptl_jpl_imss_main_link_name_\$n」と「hptl_jpl_imss_main_link_url_\$n」をセットで定義する。</p> <p>「hptl_jpl_imss_main_link_name_\$n」と「hptl_jpl_imss_main_link_url_\$n」が、指定した数より多く定義されている場合は、指定された数までの定義が有効となる。</p> <p>指定できる値は、0～10の範囲の半角数字（整数）。</p>	0
hptl_jpl_imss_main_link_name_\$n	<p>メイン画面（案件一覧）のオプションメニューに表示するリンクの表示名を指定する。</p> <p>指定できる値は、1～255バイトの範囲の文字列。</p> <p>指定キー名の\$nには、1から「hptl_jpl_imss_main_link_info_num」に指定した数までの半角数字（整数）を指定する。</p>	—
hptl_jpl_imss_main_link_url_\$n	<p>メイン画面（案件一覧）のオプションメニューに表示するリンクのURLを指定する。</p> <p>指定できる値は、1～4,096バイトの範囲の文字列。</p> <p>指定キー名の\$nには、1から「hptl_jpl_imss_main_link_info_num」に指定した数までの半角数字（整数）を指定する。</p>	—

（凡例）

—：設定値なし

注意事項

- 表示名および URL に指定した文字列が全角文字を含む場合、全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。
- 関連リンクプロパティファイル (hptl_jp1_imss_link_setting.properties) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

JP1/NETM/AIM と連携するため、JP1/NETM/AIM のログイン画面をリンクに設定した場合の定義例を次に示します。なお、この定義例では、設定に必要な部分だけを抜き出しています。

```
hptl_jp1_imss_link_info_num=1  
hptl_jp1_imss_link_name_1=JP1/NETM/AIM  
hptl_jp1_imss_link_url_1=http://Server1/jp1asset/login.htm
```

機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties)

説明

JP1/UCMDB サーバと接続するための JP1/UCMDB サーバ、ユーザー ID、パスワード、結果を出力するユーザー公開用のログファイルのサイズおよび面数を定義するファイルです。

形式

```
hptl_jp1_imss_ci_log_file_num=ログファイルの面数  
hptl_jp1_imss_ci_log_file_size=ログファイル1面の最大サイズ  
hptl_jp1_imss_ucmdb=JP1/UCMDBサーバ  
hptl_jp1_imss_ucmdb_user=ユーザーID  
hptl_jp1_imss_ucmdb_pass=パスワード
```

ファイル名

- hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties (機器情報外部参照プロパティファイル)
- hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties.model (機器情報外部参照プロパティファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは機器情報外部参照プロパティファイルの内容をリセットする場合に利用してください。機器情報外部参照プロパティファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで機器情報外部参照プロパティファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

次の JP1/Service Support のサービスを再起動したあと、反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

記述内容

次で説明する指定キー以外は編集しないでください。指定キーと値は「= (イコール)」でつなぎます。

表 13-25 機器情報外部参照プロパティファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_ci_log_file_num	ログファイル (jss_pluginlog_info 数字.log) の面数を指定する。指定できる値は 1~16 の半角数字 (整数)。 出力先フォルダ: JP1/SS パス¥Log¥public¥	2
hptl_jpl_imss_ci_log_file_size	ログファイル (jss_pluginlog_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
hptl_jpl_imss_ucmdb	JP1/UCMDB がインストールされた JP1/UCMDB サーバを指定する。 「サーバ名または IP アドレス: ポート番号」の形式で指定する。 指定できる文字は、半角英数字と 「. (ピリオド)」 「: (コロン)」 「- (ハイフン)」。 一つの JP1/UCMDB サーバ名は、1~250 バイトの文字列が指定でき、「, (コンマ)」区切りで最大 255 指定できる。	—
hptl_jpl_imss_ucmdb_user	JP1/UCMDB サーバから情報を取得するためのユーザー ID を指定する。	—
hptl_jpl_imss_ucmdb_pass	JP1/UCMDB サーバから情報を取得するためのパスワードを指定する。	—

(凡例)

—: 設定値なし

注意事項

- hptl_jpl_imss_ucmdb_user に指定するユーザーの ID は、JP1/UCMDB サーバの情報を参照できるユーザーの ID を指定してください。JP1/UCMDB サーバの情報を更新できるユーザーの ID である必要はありません。
- 機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jpl_imss_ci_link_setting.properties) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合: ISO-8859-1
 - 英語環境の場合: ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合: ISO-8859-1

定義例

定義例を次に示します。

```
hptl_jp1_imss_ci_log_file_num=2  
hptl_jp1_imss_ci_log_file_size=8192  
hptl_jp1_imss_ucmdb=ucmdb-server:8080,10.208.40.28:8080  
hptl_jp1_imss_ucmdb_user=guest  
hptl_jp1_imss_ucmdb_pass=password
```

コードマッピングファイル (jp1imss_itemedit_codemap.conf)

説明

jssitemedit コマンドで指定した選択肢コードとステータスを案件の項目に表示される情報を関連づけるための定義ファイルです。なお、このファイルは、デフォルトで定義されている選択式の案件の項目に対応しているため、編集しないでください。

案件の項目やステータス名などをカスタマイズした場合には、そのカスタマイズ内容に合わせ、ファイルを新規に作成してください。

なお、新規にコードマッピングファイルを作成する場合は、絶対パスで 255 バイト以下のファイル名にしてください。

形式

```
;コメント文
[SEVERITY]
緊急=1
:
[IMPACT]
小=1
:
[PRIORITY]
標準=1
:
[ITEMCATEGORY]
問い合わせ=1
:
[ISSUECATEGORY]
アプリケーション=1
:
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jplimss_itemedit_codemap.conf (コードマッピングファイル)
- jplimss_itemedit_codemap.conf.model (コードマッピングファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは、コードマッピングファイルの内容をリセットする場合に利用してください。コードマッピングファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでコードマッピングファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitemedit コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

コードマッピングファイルの形式は、次のようになっています。

```
[セクション]  
キー=値  
キー=値  
:
```

セクションには、案件の項目を表す名称を指定します。これはコードマッピングファイル内で決まった名称となります。キーには jssitemedit コマンドのオプションで指定する値を指定します。キーに指定できる文字列は、半角英数字または全角文字です。値には案件フォーム定義ファイルで定義されている選択肢コードの表示順序を指定します。

JP1/Service Support をデフォルトの案件フォームで運用する場合には、製品が提供するコードマッピングファイルをそのまま使用できます。ファイル内に定義可能なセクション、キー、値は次の表のとおりです。

ただし、案件フォームをカスタマイズした場合には、そのカスタマイズに合わせて、内容を編集したコードマッピングファイルを新規に作成する必要があります。

表 13-26 コードマッピングファイルに定義可能なセクション、キー、値

セクション	説明	キー	案件項目での 選択肢コード	値
STATUS	案件項目「ステータス」の選 択値を決定するためのセク ション	受付	受付	JIMSD_STAT _INQUIRY
		クローズ	クローズ	JIMSD_STAT _CLOSE
		調査中	調査中	JIMSD_STAT _RESEARCH
		計画中	計画中	JIMSD_STAT _PLANNING
		審議中	審議中	JIMSD_STAT _DISCUSSIN G
		承認済み	承認済み	JIMSD_STAT _APPROVED
		対応依頼中	対応依頼中	JIMSD_STAT _WAITING
		レビュー中	レビュー中	JIMSD_STAT _REVIEW

セクション	説明	キー	案件項目での 選択肢コード	値
STATUS	案件項目「ステータス」の選択値を決定するためのセクション	拡張ステータス 01～拡張ステータス 40	拡張ステータス 01～拡張ステータス 40	JIMSD_STAT_USER01～JIMSD_STAT_USER40
CAUSE	案件項目「要因」の選択値を決定するためのセクション	空白	△（ブランク）	0
		新規ソフトウェア不良	新規ソフトウェア不良	1
		既知ソフトウェア不良	既知ソフトウェア不良	2
		新規ハードウェア不良	新規ハードウェア不良	3
		既知ハードウェア不良	既知ハードウェア不良	4
		ドキュメント不良	ドキュメント不良	5
		資料不足	資料不足	6
		ユーザーミス	ユーザーミス	7
		仕様	仕様	8
		他社問題	他社問題	9
		プロセス不良	プロセス不良	10
		顧客要望	顧客要望	11
		機能拡張	機能拡張	12
		業務要件	業務要件	13
		インシデント・問題修正	インシデント・問題修正	14
プロセス改善	プロセス改善	15		
RESULT	案件項目「結果」の選択値を決定するためのセクション	空白	△（ブランク）	0
		完了	完了	1
		打ち切り	打ち切り	2
		未確認	未確認	3
		変更完了	変更完了	4
		既知の問題	既知の問題	5
		原因不明	原因不明	6
		成功	成功	7
		失敗（計画ミス）	失敗（計画ミス）	8
		失敗（人的ミス）	失敗（人的ミス）	9

セクション	説明	キー	案件項目での 選択肢コード	値
RESULT	案件項目「結果」の選択値を決定するためのセクション	失敗（その他）	失敗（その他）	10
AVOIDANCE	案件項目「回避策種別」の選択値を決定するためのセクション	空白	△（ブランク）	0
		なし	なし	1
		運用回避	運用回避	2
		縮退運転	縮退運転	3
		再起動	再起動	4
		ファイル回復	ファイル回復	5
		変更の戻し	変更の戻し	6
		その他	その他	7
SOLUTION	案件項目「解決区分」の選択値を決定するためのセクション	空白	△（ブランク）	0
		ナレッジ	ナレッジ	1
		ドキュメント	ドキュメント	2
		ユーザー解決	ユーザー解決	3
		二次サポート	二次サポート	4
		問題管理	問題管理	5
		他社調査	他社調査	6
CHANGESCALE	案件項目「変更の規模」の選択値を決定するためのセクション	空白	△（ブランク）	0
		小規模	小規模	1
		中規模	中規模	2
		大規模	大規模	3
RELEASETYPE	案件項目「リリースタイプ」の選択値を決定するためのセクション	空白	△（ブランク）	0
		パッケージリリース	パッケージリリース	1
		フルリリース	フルリリース	2
		デルタリリース	デルタリリース	3
PHENOMENON	案件項目「現象種別」の選択値を決定するためのセクション	空白	△（ブランク）	0
SEVERITY	案件項目「重大度」の選択値を決定するためのセクション	空白	△（ブランク）	0
		緊急	緊急	1
		警戒	警戒	2

セクション	説明	キー	案件項目での 選択肢コード	値
SEVERITY	案件項目「重大度」の選択値 を決定するためのセクション	致命的	致命的	3
		エラー	エラー	4
		警告	警告	5
		通知	通知	6
		情報	情報	7
		デバッグ	デバッグ	8
IMPACT	案件項目「影響度」の選択値 を決定するためのセクション	空白	△ (ブランク)	0
		小	小	1
		中	中	2
		大	大	3
PRIORITY	案件項目「優先度」の選択値 を決定するためのセクション	空白	△ (ブランク)	0
		標準	標準	1
		至急	至急	2
		大至急	大至急	3
ITEMCATEGORY	案件項目「案件種別」の選択 値を決定するためのセク ション	空白	△ (ブランク)	0
		問い合わせ	問い合わせ	1
		障害	障害	2
		顧客要望	顧客要望	3
ISSUECATEGORY	案件項目「問題分野」の選択 値を決定するためのセク ション	空白	△ (ブランク)	0
		アプリケーション	アプリケーション	1
		ミドルウェア	ミドルウェア	2
		OS	OS	3
		ハードウェア	ハードウェア	4
		ネットワーク	ネットワーク	5
		プロセス	プロセス	6
USERCODE01	ユーザー拡張コード	任意	任意	任意
USERCODE02				
USERCODE03				
USERCODE04				
USERCODE05				

注意事項

- jssitemedit コマンドで指定できる優先度コードは 0~3 です。0~3 以外の値を「PRIORITY」のセクションに指定した場合は、KNAB28006-E のエラーが発生します。
- jssitemedit コマンドで指定できるステータスは、JP1/Service Support がデフォルトで提供している 8 個と、ユーザーがカスタマイズできる 40 個の合計 48 個です。この 48 個以外の値を指定した場合は、KNAB28006-E のエラーが発生します。
- コードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

デフォルトで提供しているコードマッピングファイル (jplimss_itemedit_codemap.conf) の内容を次に示します。

```
[STATUS]
受付=JIMSD_STAT_INQUIRY
調査中=JIMSD_STAT_RESEARCH
計画中=JIMSD_STAT_PLANNING
審議中=JIMSD_STAT_DISCUSSING
対応依頼中=JIMSD_STAT_WAITING
レビュー中=JIMSD_STAT_REVIEW
承認済み=JIMSD_STAT_APPROVED
クローズ=JIMSD_STAT_CLOSE
拡張ステータス01=JIMSD_STAT_USER01
拡張ステータス02=JIMSD_STAT_USER02
拡張ステータス03=JIMSD_STAT_USER03
拡張ステータス04=JIMSD_STAT_USER04
拡張ステータス05=JIMSD_STAT_USER05
拡張ステータス06=JIMSD_STAT_USER06
拡張ステータス07=JIMSD_STAT_USER07
拡張ステータス08=JIMSD_STAT_USER08
拡張ステータス09=JIMSD_STAT_USER09
拡張ステータス10=JIMSD_STAT_USER10
拡張ステータス11=JIMSD_STAT_USER11
拡張ステータス12=JIMSD_STAT_USER12
拡張ステータス13=JIMSD_STAT_USER13
拡張ステータス14=JIMSD_STAT_USER14
拡張ステータス15=JIMSD_STAT_USER15
拡張ステータス16=JIMSD_STAT_USER16
拡張ステータス17=JIMSD_STAT_USER17
拡張ステータス18=JIMSD_STAT_USER18
拡張ステータス19=JIMSD_STAT_USER19
拡張ステータス20=JIMSD_STAT_USER20
拡張ステータス21=JIMSD_STAT_USER21
拡張ステータス22=JIMSD_STAT_USER22
```

拡張ステータス23=JIMSD_STAT_USER23
拡張ステータス24=JIMSD_STAT_USER24
拡張ステータス25=JIMSD_STAT_USER25
拡張ステータス26=JIMSD_STAT_USER26
拡張ステータス27=JIMSD_STAT_USER27
拡張ステータス28=JIMSD_STAT_USER28
拡張ステータス29=JIMSD_STAT_USER29
拡張ステータス30=JIMSD_STAT_USER30
拡張ステータス31=JIMSD_STAT_USER31
拡張ステータス32=JIMSD_STAT_USER32
拡張ステータス33=JIMSD_STAT_USER33
拡張ステータス34=JIMSD_STAT_USER34
拡張ステータス35=JIMSD_STAT_USER35
拡張ステータス36=JIMSD_STAT_USER36
拡張ステータス37=JIMSD_STAT_USER37
拡張ステータス38=JIMSD_STAT_USER38
拡張ステータス39=JIMSD_STAT_USER39
拡張ステータス40=JIMSD_STAT_USER40

[CAUSE]

空白=0
新規ソフトウェア不良=1
既知ソフトウェア不良=2
新規ハードウェア不良=3
既知ハードウェア不良=4
ドキュメント不良=5
資料不足=6
ユーザーミス=7
仕様=8
他社問題=9
プロセス不良=10
顧客要望=11
機能拡張=12
業務要件=13
インシデント・問題修正=14
プロセス改善=15

[RESULT]

空白=0
完了=1
打ち切り=2
未確認=3
変更完了=4
既知の問題=5
原因不明=6
成功=7
失敗（計画ミス）=8
失敗（人的ミス）=9
失敗（その他）=10

[AVOIDANCE]

空白=0
なし=1
運用回避=2
縮退運転=3
再起動=4
ファイル回復=5
変更の戻し=6

その他=7

[SOLUTION]

空白=0

ナレッジ=1

ドキュメント=2

ユーザー解決=3

二次サポート=4

問題管理=5

他社調査=6

[CHANGESCALE]

空白=0

小規模=1

中規模=2

大規模=3

[RELEASETYPE]

空白=0

パッケージリリース=1

フルリリース=2

デルタリリース=3

[PHENOMENON]

空白=0

[SEVERITY]

空白=0

緊急=1

警戒=2

致命的=3

エラー=4

警告=5

通知=6

情報=7

デバッグ=8

[IMPACT]

空白=0

小=1

中=2

大=3

[PRIORITY]

空白=0

標準=1

至急=2

大至急=3

[ITEMCATEGORY]

空白=0

問い合わせ=1

障害=2

顧客要望=3

[ISSUECATEGORY]

空白=0

アプリケーション=1

ミドルウェア=2
OS=3
ハードウェア=4
ネットワーク=5
プロセス=6

[USERCODE01]

[USERCODE02]

[USERCODE03]

[USERCODE04]

[USERCODE05]

コードマッピングファイル (jp1imss_itementry_codemap.conf)

説明

jssitementry コマンドで指定したオプション情報と案件フォームの選択肢コードの案件の項目に表示される情報を関連づけるための定義ファイルです。なお、このファイルは、デフォルトで定義されている選択式の案件の項目に対応しているため、編集しないでください。

案件の項目やステータス名などをカスタマイズした場合には、そのカスタマイズ内容に合わせ、ファイルを新規に作成してください。

なお、新規にコードマッピングファイルを作成する場合は、絶対パスで 255 バイト以下のファイル名にしてください。

形式

```
;コメント文
[SEVERITY]
Emergency=1
:
[IMPACT]
S=1
:
[PRIORITY]
N=1
:
[ITEMCATEGORY]
QUE=1
:
[ISSUECATEGORY]
APP=1
:
[CITYTYPE]
HOST=0
:
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jplimss_itementry_codemap.conf (コードマッピングファイル)
- jplimss_itementry_codemap.conf.model (コードマッピングファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは、コードマッピングファイルの内容をリセットする場合に利用してください。コードマッピングファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでコードマッピングファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitementry コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

コードマッピングファイルの形式は、次のようになっています。

[セクション]

キー=値

キー=値

:

セクションには、案件の項目を表す名称を指定します。これはコードマッピングファイル内で決まった名称となります。キーには jssitementry コマンドのオプションで指定する値を指定します。キーに指定できる文字列は、半角英数字または全角文字です。値には案件フォーム定義ファイルで定義されている選択肢コードの表示順序を指定します。

JP1/Service Support をデフォルトの案件フォームで運用する場合には、製品が提供するコードマッピングファイルをそのまま使用できます。ファイル内に定義可能なセクション、キー、値は次の表のとおりです。

ただし、案件フォームをカスタマイズした場合には、そのカスタマイズに合わせて、内容を編集したコードマッピングファイルを新規に作成する必要があります。

表 13-27 コードマッピングファイルに定義可能なセクション、キー、値

セクション	説明	キー	案件項目での 選択肢コード	値
SEVERITY	案件項目「重大度」の選択値 を決定するためのセクション	Emergency	緊急	1
		Alert	警戒	2
		Critical	致命的	3
		Error	エラー	4
		Warning	警告	5
		Notice	通知	6
		Information	情報	7
		Debug	デバッグ	8
IMPACT	案件項目「影響度」の選択値 を決定するためのセクション	S	小	1
		M	中	2
		B	大	3

セクション	説明	キー	案件項目での 選択肢コード	値
PRIORITY	案件項目「優先度」の選択値を決定するためのセクション	N	通常	1
		M	至急	2
		H	大至急	3
ITEMCATEGORY	案件項目「案件種別」の選択値を決定するためのセクション	QUE	問い合わせ	1
		FAL	障害	2
		CR	顧客要望	3
ISSUECATEGORY	案件項目「問題分野」の選択値を決定するためのセクション	APP	アプリケーション	1
		MID	ミドルウェア	2
		OS	OS	3
		HRD	ハードウェア	4
		NET	ネットワーク	5
		PRO	プロセス	6
CITYPE	案件項目「資産種別」の選択値を決定するためのセクション	HOST	ホスト名 (JP1/ NETM/AIM または JP1/ITDM2 - Asset Console)	0
		IP	IP アドレス (JP1/ NETM/AIM または JP1/ITDM2 - Asset Console)	1
		ASSETID	資産番号	2
		UCMDBHOST	ホスト名 (JP1/ UCMDB)	3
		UCMDBIP	IP アドレス (JP1/ UCMDB)	4
		UCMDBID	JP1/UCMDB ID	5
USERCODE01	ユーザー拡張コード	任意	任意	任意
USERCODE02				
USERCODE03				
USERCODE04				
USERCODE05				

注意事項

- 「PRIORITY」のセクションは、カスタマイズしないでください。カスタマイズして案件を登録した場合、カスタマイズした情報で案件管理 DB に登録されますが、画面には表示されません。
- 案件フォーム定義ファイルで定義済みの選択式の項目に対し、選択肢コードを増減した場合には、コードマッピングファイルで定義しているキー、および値も、それに合わせて修正する必要があります。例えば、案件フォーム定義ファイルで項目「影響度」に選択肢コードの表示順序「4」、選択肢コード「極大」を追加した場合、コードマッピングファイルでは次のように定義する必要があります。

```
[IMPACT]
S=1
M=2
B=3
BB=4
```

なお、ここで定義した「BB」は jssitementry コマンドの -ipt オプションの指定値としても使用することになります。

jssitementry コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssitementry \(案件登録\)](#)」を参照してください。

案件フォーム定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[案件フォーム定義ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

- コードマッピングファイル (jplimss_itementry_codemap.conf) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

デフォルトで提供しているコードマッピングファイル (jplimss_itementry_codemap.conf) の内容を次に示します。

```
[SEVERITY]
Emergency=1
Alert=2
Critical=3
Error=4
Warning=5
Notice=6
Information=7
Debug=8

[IMPACT]
S=1
M=2
B=3
```

[PRIORITY]

N=1

M=2

H=3

[ITEMCATEGORY]

QUE=1

FAL=2

CR=3

[ISSUECATEGORY]

APP=1

MID=2

OS=3

HRD=4

NET=5

PRO=6

[CITYPE]

HOST=0

IP=1

ASSETID=2

UCMDBHOST=3

UCMDBIP=4

UCMDBID=5

[USERCODE01]

[USERCODE02]

[USERCODE03]

[USERCODE04]

[USERCODE05]

コードマッピングファイル (jp1imss_itemimport_codemap.conf)

説明

jssitemimport コマンドで指定した案件情報入力ファイルの内容と、案件フォームの選択肢コードの案件の項目に表示される情報を関連づけるための定義ファイルです。なお、このファイルは、デフォルトで定義されている選択式の案件の項目に対応しているため、編集しないでください。

案件の項目やステータス名などをカスタマイズした場合には、そのカスタマイズ内容に合わせ、ファイルを新規に作成してください。

なお、新規にコードマッピングファイルを作成する場合は、絶対パスで 255 バイト以下のファイル名にしてください。

形式

```
;コメント文
[SEVERITY]
緊急=1
:
[IMPACT]
小=1
:
[PRIORITY]
標準=1
:
[ITEMCATEGORY]
問い合わせ=1
:
[ISSUECATEGORY]
アプリケーション=1
:
[PHENOMENON]
-
[STATUS]
受付=JIMSS_STAT_INQUIRY
:
[CAUSE]
新規ソフトウェア不良=1
:
[RESULT]
完了=1
:
[SOLUTION]
ナレッジ=1
:
[AVOIDANCE]
なし=1
:
[CHANGESCALE]
小規模=1
:
[RELEASETYPE]
```

```
パッケージリリース=1
:
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

(凡例)

– : 指定なし

ファイル名

- jplimss_itemimport_codemap.conf (コードマッピングファイル)
- jplimss_itemimport_codemap.conf.model (コードマッピングファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは、コードマッピングファイルの内容をリセットする場合に利用してください。コードマッピングファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでコードマッピングファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitemimport コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

コードマッピングファイルの形式は、次のようになっています。

```
[セクション]
キー=値
キー=値
:
```

セクションには、案件の項目を表す名称を指定します。これはコードマッピングファイル内で決まった名称となります。キーには jssitemimport コマンドのオプションで指定する案件情報入力ファイルの中で定義した値を指定します。キーに指定できる文字列は、半角英数字または全角文字です。値には案件フォーム定義ファイルで定義されている選択肢コードの表示順序を指定します。

JP1/Service Support をデフォルトの案件フォームで運用する場合には、製品が提供するコードマッピングファイルをそのまま使用できます。ファイル内に定義可能なセクション、キー、値は次の表のとおりです。

ただし、案件フォームをカスタマイズした場合には、そのカスタマイズに合わせて、内容を編集したコードマッピングファイルを新規に作成する必要があります。

表 13-28 コードマッピングファイルに定義可能なセクション、キー、値

セクション	説明	キー	案件項目での 選択肢コード	値
SEVERITY	案件項目「重大度」の選択値を決定するためのセクション	緊急	緊急	1
		警戒	警戒	2
		致命的	致命的	3
		エラー	エラー	4
		警告	警告	5
		通知	通知	6
		情報	情報	7
		デバッグ	デバッグ	8
IMPACT	案件項目「影響度」の選択値を決定するためのセクション	小	小	1
		中	中	2
		大	大	3
PRIORITY	案件項目「優先度」の選択値を決定するためのセクション	標準	標準	1
		至急	至急	2
		大至急	大至急	3
ITEMCATEGORY	案件項目「案件種別」の選択値を決定するためのセクション	問い合わせ	問い合わせ	1
		障害	障害	2
		顧客要望	顧客要望	3
ISSUECATEGORY	案件項目「問題分野」の選択値を決定するためのセクション	アプリケーション	アプリケーション	1
		ミドルウェア	ミドルウェア	2
		OS	OS	3
		ハードウェア	ハードウェア	4
		ネットワーク	ネットワーク	5
		プロセス	プロセス	6
PHENOMENON	案件項目「現象種別」の選択値を決定するためのセクション	- (コードなし)	- (コードなし)	-
STATUS	案件項目「ステータス」の選択値を決定するためのセクション	受付	受付	JIMSD_STAT_INQUIRY
		クローズ	クローズ	JIMSD_STAT_CLOSE

セクション	説明	キー	案件項目での 選択肢コード	値
STATUS	案件項目「ステータス」の選 択値を決定するためのセク ション	調査中	調査中	JIMSD_STA T_RESEARC H
		計画中	計画中	JIMSD_STA T_PLANNIN G
		審議中	審議中	JIMSD_STA T_DISCUSSI NG
		承認済み	承認済み	JIMSD_STA T_APPROVE D
		対応依頼中	対応依頼中	JIMSD_STA T_WAITING
		レビュー中	レビュー中	JIMSD_STA T_REVIEW
		拡張ステータス 01 ~ 拡張 ステータス 40	拡張ステータス 01 ~ 拡張ステータス 40	JIMSD_STA T_USER01 ~ JIMSD_STA T_USER40
CAUSE	案件項目「要因」の選択値を 決定するためのセクション	新規ソフトウェア不良	新規ソフトウェア不良	1
		既知ソフトウェア不良	既知ソフトウェア不良	2
		新規ハードウェア不良	新規ハードウェア不良	3
		既知ハードウェア不良	既知ハードウェア不良	4
		ドキュメント不良	ドキュメント不良	5
		資料不足	資料不足	6
		ユーザーミス	ユーザーミス	7
		仕様	仕様	8
		他社問題	他社問題	9
		プロセス不良	プロセス不良	10
		顧客要望	顧客要望	11
		機能拡張	機能拡張	12
		業務要件	業務要件	13
		インシデント・問題修正	インシデント・問題 修正	14

セクション	説明	キー	案件項目での 選択肢コード	値
CAUSE	案件項目「要因」の選択値を決定するためのセクション	プロセス改善	プロセス改善	15
RESULT	案件項目「結果」の選択値を決定するためのセクション	完了	完了	1
		打ち切り	打ち切り	2
		未確認	未確認	3
		変更完了	変更完了	4
		既知の問題	既知の問題	5
		原因不明	原因不明	6
		成功	成功	7
		失敗（計画ミス）	失敗（計画ミス）	8
		失敗（人的ミス）	失敗（人的ミス）	9
		失敗（その他）	失敗（その他）	10
SOLUTION	案件項目「解決区分」の選択値を決定するためのセクション	ナレッジ	ナレッジ	1
		ドキュメント	ドキュメント	2
		ユーザー解決	ユーザー解決	3
		二次サポート	二次サポート	4
		問題管理	問題管理	5
		他社調査	他社調査	6
AVOIDANCE	案件項目「回避策種別」の選択値を決定するためのセクション	なし	なし	1
		運用回避	運用回避	2
		縮退運転	縮退運転	3
		再起動	再起動	4
		ファイル回復	ファイル回復	5
		変更の戻し	変更の戻し	6
		その他	その他	7
CHANGESCALE	案件項目「変更の規模」の選択値を決定するためのセクション	小規模	小規模	1
		中規模	中規模	2
		大規模	大規模	3
RELEASETYPE	案件項目「リリースタイプ」の選択値を決定するためのセクション	パッケージリリース	パッケージリリース	1
		フルリリース	フルリリース	2

セクション	説明	キー	案件項目での 選択肢コード	値
RELEASETYPE	案件項目「リリースタイプ」 の選択値を決定するためのセ クション	デルタリリース	デルタリリース	3
USERCODE01	ユーザー拡張コード	任意	任意	任意
USERCODE02				
USERCODE03				
USERCODE04				
USERCODE05				

注意事項

- 「PRIORITY」のセクションは、カスタマイズしないでください。カスタマイズして案件をインポートした場合、カスタマイズした情報で案件管理 DB に登録されますが、画面には表示されません。
- jssitemimport コマンドでインポート時に指定できるステータスは、JP1/Service Support がデフォルトで提供している 8 個のステータスと、ユーザーがカスタマイズできる 40 個のステータスです。この 48 個のステータス以外の文字列が指定されていた場合は、KNAB26013-E のエラーが発生します。jssitemimport コマンドから登録する案件のステータスは、登録先のプロセスワークボードで使用されているか、または使用されていないかに関係なく登録できます。
- 案件フォーム定義ファイルで定義済みの選択式の項目に対し、選択肢コードを増減した場合には、コードマッピングファイルで定義しているキー、および値も、それに合わせて修正する必要があります。例えば、案件フォーム定義ファイルで項目「影響度」に選択肢コードの表示順序「4」、選択肢コード「極大」を追加した場合、コードマッピングファイルでは次のように定義する必要があります。

[IMPACT]

小=1
中=2
大=3
極大=4

なお、ここで定義した「極大」は jssitemimport コマンドの引数として使用する案件情報ファイルに入力する「影響度」の指定値としても使用することになります。

jssitemimport コマンドについては、「12. コマンド」の「[jssitemimport \(案件情報インポート\)](#)」を参照してください。

案件フォーム定義ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「[案件フォーム定義ファイル \(任意\)](#)」を参照してください。

- ステータスの名称を編集した場合、次の順番でコードマッピングファイル、および案件情報入力ファイルを編集してください。
 - ステータスの名称を編集する
 - コードマッピングファイルを編集する

3. 案件情報入力ファイルを編集する

コードマッピングファイルでは、編集後のステータスの名称に合わせて、定義しているキーを編集します。例えば、「クローズ」を「終了」に編集した場合、コードマッピングファイルでは次のように定義する必要があります。

```
[STATUS]
受付=JIMSD_STAT_INQUIRY
終了=JIMSD_STAT_CLOSE
```

なお、ステータスの名称とコードマッピングファイルで定義したキーが異なる場合でも、エラーにはなりません。ただし、コードマッピングファイルと案件情報入力ファイルのキーが異なる場合はエラーとなります。

- コードマッピングファイル (jplimss_itemimport_codemap.conf) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

デフォルトで提供しているコードマッピングファイル (jplimss_itemimport_codemap.conf) の内容を次に示します。

```
[SEVERITY]
緊急=1
警戒=2
致命的=3
エラー=4
警告=5
通知=6
情報=7
デバッグ=8
```

```
[IMPACT]
小=1
中=2
大=3
```

```
[PRIORITY]
標準=1
至急=2
大至急=3
```

```
[ITEMCATEGORY]
問い合わせ=1
障害=2
顧客要望=3
```

```
[ISSUECATEGORY]
```

アプリケーション=1
ミドルウェア=2
OS=3
ハードウェア=4
ネットワーク=5
プロセス=6

[PHENOMENON]

[STATUS]

受付=JIMSD_STAT_INQUIRY
クローズ=JIMSD_STAT_CLOSE

[CAUSE]

新規ソフトウェア不良=1
既知ソフトウェア不良=2
新規ハードウェア不良=3
既知ハードウェア不良=4
ドキュメント不良=5
資料不足=6
ユーザーミス=7
仕様=8
他社問題=9
プロセス不良=10
顧客要望=11
機能拡張=12
業務要件=13
インシデント・問題修正=14
プロセス改善=15

[RESULT]

完了=1
打ち切り=2
未確認=3
変更完了=4
既知の問題=5
原因不明=6
成功=7
失敗（計画ミス）=8
失敗（人的ミス）=9
失敗（その他）=10

[SOLUTION]

ナレッジ=1
ドキュメント=2
ユーザー解決=3
二次サポート=4
問題管理=5
他社調査=6

[AVOIDANCE]

なし=1
運用回避=2
縮退運転=3
再起動=4
ファイル回復=5
変更の戻し=6
その他=7

[CHANGESCALE]

小規模=1

中規模=2

大規模=3

[RELEASETYPE]

パッケージリリース=1

フルリリース=2

デルタリリース=3

[USERCODE01]

[USERCODE02]

[USERCODE03]

[USERCODE04]

[USERCODE05]

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)

説明

案件の表示や作成などで使用する画面の表示，案件の検索や入力補助機能，他製品との連携などを定義したファイルです。

形式

```
#Properties (システムの設定)
hptl_jp1_imss_doubleclick_timeout=マウスのダブルクリック間隔
hptl_jp1_imss_item_list_initial_sort_key=初期ソートキー
hptl_jp1_imss_item_list_initial_sort_order=初期ソート順序
hptl_jp1_imss_item_list_display_characters=案件一覧の表示文字数
hptl_jp1_imss_item_list_display_number=案件一覧の表示件数
:
hptl_jp1_imss_itemformlist_initial_sort_key=初期ソートキー
hptl_jp1_imss_itemformlist_initial_sort_order=初期ソート順序
:
hptl_jp1_imss_extstatus_number=拡張ステータスの数
hptl_jp1_imss_pwblast_tree_default=初期表示時のツリー展開状態
hptl_jp1_imss_item_warning_threshold=プロセスワークボードに新規で登録できる案件数のしきい値
:

#Log Information (ログの設定)
hptl_jp1_imss_log_file_num=ログファイル面数
hptl_jp1_imss_log_file_size=ログファイルサイズ
:

#Login Information (ログインの設定)
hptl_jp1_imss_login_working_manager=ログイン後のメイン画面 (作業管理ロール)
hptl_jp1_imss_login_pwb_manager=ログイン後のメイン画面 (プロセスワークボード管理ロール)
hptl_jp1_imss_login_user_manager=ログイン後のメイン画面 (ユーザー管理ロール)
hptl_jp1_imss_login_else=ログイン後のメイン画面 (システムロール以外)
hptl_jp1_imss_login_default=切り替え後メイン画面 (案件状況) の視点

#Item Information (案件の設定)
hptl_jp1_imss_item_edit_lock_cancel=案件の編集状態
hptl_jp1_imss_assigned_selection_checkbox=チェックボックスの表示
hptl_jp1_imss_assigned_selection_initial=担当者の選択
hptl_jp1_imss_assigned_sort_compatible=担当者の表示状態
hptl_jp1_imss_assigned_sort_key=担当者の表示順のソートキー

#Search Information (検索の設定)
hptl_jp1_imss_research_display_number_list=[案件検索結果一覧] 画面の1ページの表示件数を指定
する際に選択できる値

#Simple Search Information (簡易検索の設定)
hptl_jp1_imss_research_simple_string_number=簡易検索の検索対象項目数
hptl_jp1_imss_research_simple_target=簡易検索の検索対象項目

#Input Assist Information (入力補助機能の設定)
hptl_jp1_imss_input_assist_target_max=入力補助機能を設定できる案件フォームの項目数
hptl_jp1_imss_input_assist_nominate_max=入力候補値の上限数
```

```

hptl_jp1_imss_input_assist_nominate_string_max=入力候補値の最大文字数
hptl_jp1_imss_input_assist_pwb_list=入力補助機能を使用するプロセスワークボードID
hptl_jp1_imss_item_popup_display_characters=入力候補値の表示文字数

#KPI Information (案件集計機能の設定)
hptl_jp1_imss_kpi_priority_code=「優先度」のコード値

#Other Products Cooperation (他製品連携の設定)
hptl_jp1_imss_jp1_aim=JP1/NETM/AIMのサーバまたは資産管理サーバ (JP1/ITDM2 - Asset Console)
hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num=案件の情報を付加したいURLの個数
hptl_jp1_imss_add_item_info_url $n=案件の情報を付加したいURLの先頭文字列
hptl_jp1_imss_np_item_info $n=JP1/NP連携の可否
hptl_jp1_imss_ao_item_info $n=サービスのリソースグループ名を入力する項目ID, サービス名を入力する項目ID, タスク名を入力する項目ID
hptl_jp1_imss_add_item_info $n=関連情報あるいは関連リンクに指定したURLに付加したい案件の情報を入力する項目ID
hptl_jp1_imss_add_item_info_product $n=連携する製品を表す文字列を指定
hptl_jp1_imss_add_item_info_key_list $p=項目IDの情報を取得するためのキー
hptl_jp1_imss_jp1base_virtual_hostname=JP1/Baseの論理ホスト名

#Item Management Window (案件管理ウィンドウの設定)
hptl_jp1_imss_itemwindow_enable=案件管理ウィンドウ機能の使用可否
hptl_jp1_imss_itemwindow_size=案件管理ウィンドウのウィンドウサイズ
hptl_jp1_imss_itemwindow_start_month=案件管理ウィンドウの範囲の開始月

#Item Batch Operation (案件の一括操作の設定)
hptl_jp1_imss_batch_item_edit_max=案件の一括操作で一度に編集できる案件数
hptl_jp1_imss_item_batch_ope_approval=案件の一括承認の使用可否
hptl_jp1_imss_item_batch_ope_approval_all_user_flag=案件の一括承認の使用権限 (すべてのユーザーが使用するかどうか)
hptl_jp1_imss_item_batch_ope_approval_userlist=案件の一括承認の使用権限 (ユーザー単位)
hptl_jp1_imss_item_batch_ope_approval_rolelist=案件の一括承認の使用権限 (ロール単位)
hptl_jp1_imss_item_batch_ope_close=案件の一括クローズの使用可否
hptl_jp1_imss_item_batch_ope_close_all_user_flag=案件の一括クローズの使用権限 (すべてのユーザーが使用するかどうか)
hptl_jp1_imss_item_batch_ope_close_userlist=案件の一括クローズの使用権限 (ユーザー単位)
hptl_jp1_imss_item_batch_ope_close_rolelist=案件の一括クローズの使用権限 (ロール単位)

#Process Information (プロセスの設定)
hptl_jp1_imss_process_name_display_characters=JP1/Service Supportの画面で表示するプロセス表示名の文字数

```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

ファイル名

- hptl_jp1_imss_main_setting.properties (システムプロパティファイル)
- hptl_jp1_imss_main_setting.properties.model (システムプロパティファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはシステムプロパティファイルの内容をリセットする場合に利用してください。システムプロパティファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでシステムプロパティファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

次の JP1/Service Support のサービスを再起動したあと、反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

記述内容

次で説明する指定キー以外は編集しないでください。また、指定キーと値は「= (イコール)」でつないでください。

システムの設定 (Properties)

表 13-29 システムプロパティファイルで設定できる指定キー一覧 (システムの設定)

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_doubleclick_timeout	[案件一覧] 画面操作時の、マウスのダブルクリック間隔のタイムアウト値 (ミリ秒) を指定する。 指定できる値は 1~2000 の半角数字 (整数)。 デフォルトではコメントアウト (行頭に#) されているため、値を変更する場合には、コメントを外し、値を変更すること。	300
hptl_jp1_imss_item_list_initial_sort_key	案件一覧を表示するときの、初期ソート項目を指定する。 指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none">• priority: 優先度• status: ステータス• editStatus: 編集状態• title: タイトル• chargeUser: 担当者• workTimeLimit: 作業期限• updateTime: 更新日時• systemName: システム名• processName: プロセス名• id: 案件の ID• registrationTime: 登録日時	registrationTime
hptl_jp1_imss_item_list_initial_sort_order	案件一覧を表示するときの、初期ソートの順序を指定する。 指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none">• asc: 昇順• desc: 降順	desc

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_item_list_display_characters	次に示す画面の「タイトル」に表示する文字数を指定する。この文字数を超える部分については画面上「...」と表される。 <ul style="list-style-type: none"> メイン画面（案件一覧） メイン画面（案件状況）の対象案件一覧 〔履歴の表示〕画面 〔案件検索結果一覧〕画面 〔一括操作結果一覧〕画面 指定できる値は1～512の半角数字（整数）。	20
hptl_jpl_imss_item_list_display_number	案件一覧に表示する、案件の件数を指定する。 指定できる値は1～255の半角数字（整数）。ただし、デフォルト値の50のまま運用することを推奨する。	50
hptl_jpl_imss_itemformlist_initial_sort_key	案件フォーム一覧を表示するときの、初期ソート項目を指定する。 指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> itemFormProcessName：プロセス名 itemFormStandard：標準 itemFormId：案件フォームID itemFormVersion：バージョン itemFormName：案件フォーム itemFormUpdateDate：更新日時 	itemFormProcessName
hptl_jpl_imss_itemformlist_initial_sort_order	案件フォーム一覧を表示するときの、初期ソートの順序を指定する。 指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> asc：昇順 desc：降順 	asc
hptl_jpl_imss_extstatus_number	使用できる拡張ステータスの数を指定する。 指定できる値は0～40の範囲の半角数字（整数）。	10
hptl_jpl_imss_pwblast_tree_default	メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧で、初期表示時のツリーの展開状態を指定する。 指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> open：ツリーを展開した状態で表示する close：ツリーを閉じた状態で表示する 	open
hptl_jpl_imss_item_warning_threshold	プロセスワークボードに新規で登録できる案件数のしきい値を設定する。 この項目は、案件数確認コマンド実行時に警告メッセージを表示するしきい値となる。プロセスワークボードに新規で登録できる案件数がこの値を下回った場合、警告メッセージが表示される。 指定できる値は0～プロセスワークボードに登録できる案件の上限値までの半角数字（整数）。	5000

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_item_warning_threshold	プロセスワークボードに登録できる案件の上限は、JPI/Service Support の製品によって異なる。詳細については、「付録 D 制限値一覧」を参照のこと。	5000

(凡例)

－：設定値なし

ログの設定 (Log Information)

表 13-30 システムプロパティファイルで設定できる指定キー一覧 (ログの設定)

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_log_file_num	ログファイル (jplimssmain 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1～16 の半角数字 (整数)。	8
hptl_jpl_imss_log_file_size	ログファイル (jplimssmain 数字.log) のサイズをバイト換算で指定する。 指定できる値は 4096～2147483647 の半角数字 (整数)。	4194304

ログインの設定 (Login Information)

表 13-31 システムプロパティファイルで設定できる指定キー一覧 (ログインの設定)

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_login_working_manager	作業管理ロールのユーザーがログインした場合に表示されるメイン画面を指定する。 指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • kpi：メイン画面 (案件状況) • item：メイン画面 (案件一覧) 	kpi
hptl_jpl_imss_login_pwb_manager	プロセスワークボード管理ロールのユーザーがログインした場合に表示されるメイン画面を指定する。 指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • kpi：メイン画面 (案件状況) • item：メイン画面 (案件一覧) 	item
hptl_jpl_imss_login_user_manager	ユーザー管理ロールのユーザーがログインした場合に表示されるメイン画面を指定する。 指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • kpi：メイン画面 (案件状況) • item：メイン画面 (案件一覧) 	item
hptl_jpl_imss_login_else	システムロールに属さないユーザーがログインした場合に表示されるメイン画面を指定する。 指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • kpi：メイン画面 (案件状況) 	item

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_login_else	<ul style="list-style-type: none"> item：メイン画面（案件一覧） 	item
hptl_jpl_imss_login_default	<p>メイン画面（案件状況）に切り替えたときに表示される視点を指定する。</p> <p>指定できる値を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> system：システム視点 process：プロセス視点 	system

案件の設定 (Item Information)

表 13-32 システムプロパティファイルで設定できる指定キー一覧（案件の設定）

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_item_edit_lock_cancel	<p>[案件編集] 画面を WWW ブラウザーの [×] ボタンから閉じた場合、案件の編集状態を解除するかどうかを指定する。</p> <p>指定できる値を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> true：案件の編集状態を解除する false：案件の編集状態を解除しない 	true
hptl_jpl_imss_assigned_selection_checkbox*	<p>[案件作成] 画面、[案件編集] 画面を表示したときに、「ロールメンバ選択」チェックボックスを表示するかどうかを指定する。</p> <p>指定できる値を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> display：「ロールメンバ選択」チェックボックスを表示する hide：「ロールメンバ選択」チェックボックスを表示しない 	hide
hptl_jpl_imss_assigned_selection_initial*	<p>[案件作成] 画面、[案件編集] 画面を表示したときに、担当者をロールから選択するか、ロールに所属するメンバーから選択するかどうかを指定する。</p> <p>指定できる値を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> role：担当者をロールから選択する member：担当者をロールメンバーから選択する <p>hptl_jpl_imss_assigned_selection_checkbox の設定値が display の場合、member を指定しても、role が指定されたとして動作する。</p>	role
hptl_jpl_imss_assigned_sort_compatible	<p>[案件作成] 画面および [案件編集] 画面の「担当者」の選択時に、プルダウンで表示される「担当者」の表示状態を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> true：編集権限、ステータス権限、ロール、ユーザーの順序で表示する（日本語環境の場合、09-50 以前のバージョンと同じ表示）。 false：「hptl_jpl_imss_assigned_sort_key」で指定した値に従いソートした順序で表示する。 	true

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_assigned_sort_key	<p>[案件作成] 画面および [案件編集] 画面の「担当者」の選択時に、プルダウンで表示される「担当者」のソートキーを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • create：ユーザー、ロールの順序で表示する。 • id：ユーザーはユーザー ID の昇順で、ロールはロール ID の昇順で表示する。 • name：ユーザー名およびロール名を昇順で表示する。 <p>なお、 「hptl_jp1_imss_assigned_sort_compatible」で「true」を指定した場合は、「create」を指定する。</p>	create

(凡例)

－：設定値なし

注※

hptl_jp1_imss_assigned_selection_checkbox と hptl_jp1_imss_assigned_selection_initial の組み合わせによって、担当者の設定が次のように異なります。

hptl_jp1_imss_assigned_selection_checkbox の設定値	hptl_jp1_imss_assigned_selection_initial の設定値	担当者の選択
hide	role	<p>担当者を、ロールまたは個別のユーザーから選択できます。</p> <p>なお、ロールに所属するメンバーからは、選択できません。</p>
hide	member	<p>担当者を、ロールに所属するメンバーまたは個別のユーザーから選択できます。</p> <p>なお、ロールは選択できません。</p>
display	role	<p>担当者を、ロールから選択するか、ロールに所属するメンバーから選択するかを、案件ごとに切り替えることができます。また、個別のユーザーも選択できます。</p>
display	member	

検索の設定 (Search Information)

表 13-33 システムプロパティファイルで設定できる指定キー一覧 (検索の設定)

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_research_display_number_list	<p>[案件検索結果一覧] 画面の 1 ページの表示件数を指定する際に選択できる値を指定する。表示件数は「, (コンマ)」で区切って 6 個まで指定できる。最初に指定した値が [案件共通項目検索条件指定] 画面または [案件検索条件指定] 画面の「検索結果表示件数/頁」に初期値として設定される。2 個目以降がプルダウンメニューで選択できる値となるため、初期値は 2 個目以降にも設定する必要がある。7 個以上</p>	100,100,500,100 0

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_research_display_number_list	指定した場合は、デフォルト値が設定される。指定した順序でプルダウンメニューに表示される。 指定できる値は、10～1000の半角数字（整数）。	100,100,500,1000

簡易検索の設定 (Simple Search Information)

表 13-34 システムプロパティファイルで設定できる指定キー一覧（簡易検索の設定）

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_research_simple_string_number	簡易検索時に指定できる項目数を指定する。 指定できる値は1～5の半角数字（整数）。	3
hptl_jpl_imss_research_simple_target	簡易検索時の検索対象項目を指定する。項目は「, (コンマ)」で区切って5個まで指定できる。 指定できる項目を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • title：タイトル • severityReason：重大度の理由 • impactReason：影響度の理由 • priorityReason：優先度の理由 • registrant：登録者* • assigned：担当者* • respondent：回答責任者* • customerName：顧客名 • inquiryName：問い合わせ者 • effectService：影響業務 • failureLocation：問題個所とバージョン • summary：概要 • avoidance：回避策 • situation：作業状況 • measures：再発防止のための考察 • rootcause：根本原因 • solution：解決策 • schedule：スケジュール, 手順概要 • impactEval：変更の影響評価 • deliberationRST：審議結果 • freeDescription：フリー記入欄 • productName：プロダクト名 • jobnetName：ジョブネット名 • jobName：ジョブ名 • SNMPSRC：SNMP ソース • nodeName：監視ノード名 • alarmName：アラーム名 • userText_XX (XX は, 01～20)：追加項目（テキスト） 	title,summary,situation

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_research_simple_target	<ul style="list-style-type: none"> userExtName_XX (XX は, 01~05) : 追加項目 (ユーザー, ロール) IMEventNo : イベント DB 内通し番号 IMHostName : JP1/IM-M ホスト名 	title,summary,situation

注※

登録者, 担当者, 回答責任者は名前だけを検索します。ID, 英語名は検索しません。

入力補助機能の設定 (Input Assist Information)

表 13-35 システムプロパティファイルで設定できる指定キー一覧 (入力補助機能の設定)

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_input_assist_target_max	一つのプロセスワークボードで入力補助機能が設定できる案件フォームの項目数を指定する。 指定できる値は 1~100 の半角数字 (整数)。	10
hptl_jpl_imss_input_assist_nominate_max	一つの場合フォーム項目 ID に対して指定できる入力候補値の上限数を指定する。 指定できる値は 1~100 の半角数字 (整数)。	30
hptl_jpl_imss_input_assist_nominate_string_max	入力候補値として指定できる最大文字数を, バイト数に変換して指定する。 指定できる値は 1~512 の半角数字 (整数)。	128
hptl_jpl_imss_input_assist_pwb_list	入力補助機能を使用するプロセスワークボード ID を [,] 区切りで指定する。存在しない ID を指定した場合は, 存在しない ID を無視する。	—
hptl_jpl_imss_item_popup_display_characters	[案件作成] 画面, [案件編集] 画面で表示される入力候補値の文字数を指定する。この文字数を超える部分については画面上「...」と表される。文字数は半角, 全角を区別しないで, それぞれ 1 文字と数える。指定できる値は 1~255 までの半角数字 (整数)。ただし, [案件作成] 画面, [案件編集] 画面の大きさを考慮し, デフォルト値で指定することを推奨する。	15

(凡例)

— : 設定値なし

案件集計機能の設定 (KPI Information)

表 13-36 システムプロパティファイルで設定できる指定キー一覧 (案件集計機能の設定)

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_kpi_priority_code	「最優先」の案件として集計する「優先度」のコード値を指定する。 この項目は, 案件フォームをカスタマイズしたときに, 必要に応じて指定する。	3

他製品連携の設定 (Other Products Cooperation)

これらの指定キーの一部は、デフォルトではコメントアウト（行頭に#）されています。必要に応じてコメントを外してください。

表 13-37 システムプロパティファイルで設定できる指定キー一覧（他製品連携の設定）

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_jp1_aim	<p>案件項目「機器情報」を参照するため、JP1/NETM/AIM がインストールされた JP1/NETM/AIM サーバまたは JP1/ITDM2 - Asset Console がインストールされた資産管理サーバを指定する。なお、JP1/NETM/AIM サーバまたは資産管理サーバのポート番号を、JP1/NETM/AIM または JP1/ITDM2 - Asset Console のインストール時に設定されるポート番号から変更している場合は、「サーバ名：ポート番号」の形式で指定する。</p> <p>指定できる文字は、半角英数字と「.（ピリオド）」「:（コロン）」「-（ハイフン）」。</p> <p>一つの JP1/NETM/AIM サーバ名または資産管理サーバ名は、1～64 バイトの文字列が指定でき、「,（コンマ）」区切りで最大 255 指定できる。</p>	—
hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num	<p>関連情報の URL に案件の情報を付加したい場合、案件の情報を付加したい URL の数を指定する。※4</p> <p>指定できる値は 0～100 の半角数字（整数）。</p>	0
hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n	<p>関連情報の URL に案件の情報を付加したい場合、案件の情報を付加したい URL の先頭文字列を指定する。※4</p> <p>指定できる値は 1～4,096 バイトの文字列。URL に指定した文字列が全角文字を含む場合、全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算される。</p> <p>なお、「\$n」には 1 から「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num」で指定した値までの数値を指定する。※1</p>	—
hptl_jp1_imss_np_item_info_\$n	<p>JP1/NP と連携する場合は、「true」を指定する。「true」を指定する際、大文字と小文字は区別しない。</p> <p>なお、「\$n」には 1 から「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num」で指定した値までの数値を指定する※1。</p>	—
hptl_jp1_imss_ao_item_info_\$n	<p>JP1/AO と連携する場合、次に示す項目に引き当てる項目 ID※2 を「,（コンマ）」で区切り指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サービスのリソースグループ名 • サービス名 • タスク名 <p>「タスク名」を省略した場合、項目 ID「JIMSD_FORM_ITEMID」が設定される。</p>	—

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_ao_item_info_{\$n}	なお、「{\$n}」には 1 から 「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num」で指定した値までの数値を指定する*1。	—
hptl_jp1_imss_add_item_info_{\$n}	<p>関連情報または拡張リンクに指定した URL に付加したい案件情報を定義する。「{\$n}」には 1 から 「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num」で指定した値までの数値を指定する*1*4。</p> <p>JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携する場合</p> <p>次に示す項目に引き当てる JP1/Service Support の項目 ID*3 を「, (コンマ)」で区切り指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [モニタ] 画面表示対象のユニットがある JP1/AJS3 - Manager のホスト名 • [モニタ] 画面表示対象の「スケジューラー サービス名:ユニット名」 • [モニタ] 画面表示対象のユニットの実行 ID <p>JP1/PFM - Web Console と連携する場合</p> <p>次に示す項目に引き当てる JP1/Service Support の項目 ID*3 を「, (コンマ)」で区切り指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • JIMSD_LOGIN_USER_ID (ログインユーザ ID を引き継ぐ項目 ID) • 事象が発生したホスト名 • 事象が発生した日時 	—
hptl_jp1_imss_add_item_info_product_{\$n}	<p>連携する製品を表す文字列を指定する。*4</p> <ul style="list-style-type: none"> • JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携する場合：jp1_ajs • JP1/PFM - Web Console と連携する場合：jp1_pfm • WWW アプリケーションと連携する場合：WWW アプリケーションを表す製品名 <p>指定できる値は 1~16 バイトの小文字の半角英数字および半角アンダーバー。「{\$n}」には 1 から 「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num」で指定した値までの数値を指定する*1。</p> <p>なお、WWW アプリケーションと連携する場合に指定する値には、「jp1_」で始まる値を指定できない。</p>	—
hptl_jp1_imss_add_item_info_key_list_{\$p}	<p>関連情報あるいは拡張リンクに指定した URL に付加した引き継ぎ情報を取得するために使用するキーを変更したい場合に指定する。*4</p> <p>hptl_jp1_imss_add_item_info_product_{\$n} キーで指定した JP1/Service Support の項目の ID の順番で、項目 ID の情報を取得するためのキーを指定する。項目 ID の情報を取得するためのキーは「,」で区切って指定する。</p>	—

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_add_item_info_key_list_\$p	なお、「\$p」には hptl_jp1_imss_add_item_info_product_\$n キーで 指定した製品名を指定する。	—
hptl_jp1_imss_jp1base_virtual_hostname	JP1/Service Support と同じサーバにある JP1/Base が論理ホストの場合、JP1/Base の論理ホスト名を指 定する。JP1/Base の論理ホスト名を指定する際、大 文字と小文字は区別しない。 物理ホストの場合は、JP1_DEFAULT を指定する。 特定の JP1 製品と連携しない場合は、デフォルト値 のまま変更する必要はない。	JP1_DEFAULT

注※1

「\$n」の値は、「hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n」での指定と、「hptl_jp1_imss_ao_item_info_\$n」,
「hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n」または「hptl_jp1_imss_np_item_info_\$n」での指定をそれぞれ一致させてください。
また、「\$n」の値を「hptl_jp1_imss_ao_item_info_\$n」,「hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n」および
「hptl_jp1_imss_np_item_info_\$n」で重複しないように指定してください。

指定例を次に示します。

```
hptl_jp1_imss_add_item_info_url_1=JP1/AO の URL
hptl_jp1_imss_ao_item_info_1=JIMSD_FORM_USERTEXT01, JIMSD_FORM_USERTEXT02, JIMSD_FORM_ITEMID
hptl_jp1_imss_add_item_info_url_2=JP1/NP の URL
hptl_jp1_imss_np_item_info_2=true
hptl_jp1_imss_add_item_info_url_3=JP1/AJS3 - Web Console の URL
hptl_jp1_imss_add_item_info_3=JIMSD_FORM_USERTEXT01, JIMSD_FORM_JP1JOBNETNAME, JIMSD_FORM_JP1JOBNAME
hptl_jp1_imss_add_item_info_product_3=jp1_ajs
hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num=4
hptl_jp1_imss_add_item_info_url_4=JP1/PFM-Web Console への URL
hptl_jp1_imss_add_item_info_4=JIMSD_LOGIN_USER_ID, JIMSD_FORM_USERTEXT01, JIMSD_FORM_ACCRUALDATE
hptl_jp1_imss_add_item_info_product_4=jp1_pfm
hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num=5
hptl_jp1_imss_add_item_info_url_5=WWW アプリケーションの URL
hptl_jp1_imss_add_item_info_5=JIMSD_FORM_TITLE, JIMSD_FORM_CUSTOMENAME, JIMSD_FORM_INQUIRYNAME
hptl_jp1_imss_add_item_info_product_5=wwwapp
hptl_jp1_imss_add_item_info_key_list_wwwapp=www_title, www_customer_name, www_inquiry_name
```

注※2

hptl_jp1_imss_ao_item_info_\$n に指定できる項目 ID を、次の表に示します。

項番	項目 ID	説明
1	JIMSD_FORM_TITLE	案件のタイトル。
2	JIMSD_FORM_SYSTEM	案件が登録されているシステムの名称。
3	JIMSD_FORM_PROCESS	案件が登録されているプロセスワークボードのプロセス名。
4	JIMSD_FORM_ITEMID	案件が登録されているプロセスワークボードの表示 ID (JIMSD_FORM_PWBID) と案件のプロセスワークボード

項番	項目 ID	説明
4	JIMSD_FORM_ITEMID	内案件通し番号 (JIMSD_FORM_PWB_ITEMID) を「- (ハイフン)」で接続した項目。
5	JIMSD_FORM_PROCESSITEMID	案件の関連案件通し番号 (JIMSD_FORM_ITEMID) と案件のエスカレーション回数 (JIMSD_FORM_ESCNO) を「- (ハイフン)」で接続した項目。
6	JIMSD_FORM_ITEMSERIALNO	案件の関連案件通し番号。
7	JIMSD_FORM_ESCNO	案件のエスカレーション回数。
8	JIMSD_FORM_SEVERITYREASON	案件の重大度の設定理由。
9	JIMSD_FORM_IMPACTREASON	案件の影響度の設定理由。
10	JIMSD_FORM_PRIORITYREASON	案件の優先度の設定理由。
11	JIMSD_FORM_ACCRUALDATE	案件の発生日時。
12	JIMSD_FORM_REGISTDATE	案件の登録日時。
13	JIMSD_FORM_DEADLINE	案件の作業期限。
14	JIMSD_FORM_STARTDATE	案件の開始日時。
15	JIMSD_FORM_COMPDATE	案件の完了日時。
16	JIMSD_FORM_CUSTOMENAME	顧客名。
17	JIMSD_FORM_INQUIRYNAME	問い合わせ者名。
18	JIMSD_FORM_EFFECTSERVICE	案件が影響する業務。
19	JIMSD_FORM_FAILURELOCATION	案件の問題個所とバージョン。
20	JIMSD_FORM_SUMMARY	案件の概要。
21	JIMSD_FORM_AVOIDANCE	案件の回避策種別。
22	JIMSD_FORM_SITUATION	案件の作業状況。
23	JIMSD_FORM_MEASURES	再発防止策のための考察。
24	JIMSD_FORM_ROOTCAUSE	案件の根本原因。
25	JIMSD_FORM_SOLUTION	案件の解決策。
26	JIMSD_FORM_SCHEDULE	案件のスケジュールおよび手順概要。
27	JIMSD_FORM_IMPACTEVAL	変更の影響評価。
28	JIMSD_FORM_DELIBERATIONRST	案件の審議結果。
29	JIMSD_FORM_FREEDescription	フリー記入欄。
30	JIMSD_FORM_JP1PRODUCTNAME	JP1 イベントを発行したプログラム名。
31	JIMSD_FORM_JP1JOBNETNAME	JP1/AJS のジョブネット名。
32	JIMSD_FORM_JP1JOBNAME	JP1/AJS のジョブ名。

項番	項目 ID	説明
33	JIMSD_FORM_JP1SNMPSRC	JP1/Base の SNMP トラップ変換機能で発行された JP1 イベントの SNMP トラップの発生ソース名。
34	JIMSD_FORM_JP1NODENAME	JP1/IM - Manager の統合スコープ機能で定義した監視ノード名。
35	JIMSD_FORM_JP1ALARMNAME	JP1/PFM - Web Console が発行する JP1 イベントのアラーム名。
36	JIMSD_FORM_LASTUPDATE	案件の更新日時。
37	JIMSD_FORM_IMEVENTNO	JP1 イベントのイベント DB 内通し番号。
38	JIMSD_FORM_IMHOSTNAME	JP1/IM - Manager のホスト名。
39	JIMSD_FORM_USERTEXT01～ JIMSD_FORM_USERTEXT05	ユーザーが案件フォームで定義したテキストデータの追加項目。
40	JIMSD_FORM_USERTEXT06～ JIMSD_FORM_USERTEXT15	
41	JIMSD_FORM_USERTEXT16～ JIMSD_FORM_USERTEXT20	
42	JIMSD_FORM_USERTIME01～ JIMSD_FORM_USERTIME05	ユーザーが案件フォームで定義した時刻データの追加項目。
43	JIMSD_PWB_SYS_ID	システム内のプロセスワークボードの通し番号。
44	JIMSD_JP1EVENT_MESSAGE	JP1 イベントのメッセージ。
45	JIMSD_JP1ORIGIN_HOSTNAME	JP1 イベントの発行元ホスト名。
46	JIMSD_JP1EVENT_ID	JP1 イベントのイベント ID。

指定できる項目 ID 以外を指定した場合、hptl_jp1_imss_ao_item_info_\$n の値が無効となり、JP1/AO に引き継がれません。なお、hptl_jp1_imss_ao_item_info_\$n の値は、次に示す順序で指定してください。

- ・サービスのリソースグループ名を入力する項目 ID
- ・サービス名を入力する項目 ID
- ・タスク名を入力する項目 ID

注※3

hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n に指定できる項目 ID と、hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n を使用したときに案件情報を取得するためのキーを、次の表に示します。

項番	項目 ID	説明	情報を取得するためのキー
1	JIMSD_FORM_TITLE	案件のタイトル。	hptl_jp1_imss_title
2	JIMSD_FORM_SYSTEM	案件が登録されているシステムの名称。	hptl_jp1_imss_system_name
3	JIMSD_FORM_PROCESS	案件が登録されているプロセスワークボードのプロセス名。	hptl_jp1_imss_process_name

項番	項目 ID	説明	情報を取得するためのキー
4	JIMSD_FORM_ITEMID	案件が登録されているプロセスワークボードの表示 ID (JIMSD_FORM_PWBID) と案件のプロセスワークボード内案件通し番号 (JIMSD_FORM_PWB_ITEMID) を「- (ハイフン)」で接続した項目。	hptl_jp1_imss_itemid
5	JIMSD_FORM_PWBID	案件が登録されているプロセスワークボードの表示 ID。	hptl_jp1_imss_pwbid
6	JIMSD_FORM_PWB_ITEMID	案件のプロセスワークボード内案件通し番号。	hptl_jp1_imss_itemno
7	JIMSD_FORM_PROCESSITEMID	案件の関連案件通し番号 (JIMSD_FORM_ITEMID) と案件のエスカレーション回数 (JIMSD_FORM_ESCNO) を「- (ハイフン)」で接続した項目。	hptl_jp1_imss_processitemid
8	JIMSD_FORM_ITEMSERIALNO	案件の関連案件通し番号。	hptl_jp1_imss_itemserialno
9	JIMSD_FORM_ESCNO	案件のエスカレーション回数。	hptl_jp1_imss_escno
10	JIMSD_FORM_SEVERITYREASON	案件の重大度の設定理由。	hptl_jp1_imss_severity_reason
11	JIMSD_FORM_IMPACTREASON	案件の影響度の設定理由。	hptl_jp1_imss_impact_reason
12	JIMSD_FORM_PRIORITYREASON	案件の優先度の設定理由。	hptl_jp1_imss_priority_reason
13	JIMSD_FORM_ITEMSTATUSID	案件のステータスの名称。	hptl_jp1_imss_item_status_id
14	JIMSD_FORM_ACCRUALDATE	案件の発生日時。	hptl_jp1_imss_accrual_date
15	JIMSD_FORM_REGISTDATE	案件の登録日時。	hptl_jp1_imss_regist_date
16	JIMSD_FORM_DEADLINE	案件の作業期限。	hptl_jp1_imss_deadline
17	JIMSD_FORM_STARTDATE	案件の開始日時。	hptl_jp1_imss_start_date
18	JIMSD_FORM_COMPDATE	案件の完了日時。	hptl_jp1_imss_comp_date
19	JIMSD_FORM_CUSTOMENAME	顧客名。	hptl_jp1_imss_customer_name
20	JIMSD_FORM_INQUIRYNAME	問い合わせ者名。	hptl_jp1_imss_inquiry_name
21	JIMSD_FORM_ESTIMATEDCOST	費用 (予算)。	hptl_jp1_imss_estimated_cost
22	JIMSD_FORM_ACTUALCOST	費用 (実績)。	hptl_jp1_imss_actual_cost
23	JIMSD_FORM_EFFECTSERVICE	案件が影響する業務。	hptl_jp1_imss_effect_service
24	JIMSD_FORM_FAILURELOCATION	案件の問題個所とバージョン。	hptl_jp1_imss_failure_location
25	JIMSD_FORM_SUMMARY	案件の概要。	hptl_jp1_imss_summary

項番	項目 ID	説明	情報を取得するためのキー
26	JIMSD_FORM_AVOIDANCE	案件の回避策種別。	hptl_jp1_imss_avoidance
27	JIMSD_FORM_SITUATION	案件の作業状況。	hptl_jp1_imss_situation
28	JIMSD_FORM_MEASURES	再発防止策のための考察。	hptl_jp1_imss_measures
29	JIMSD_FORM_ROOTCAUSE	案件の根本原因。	hptl_jp1_imss_root_cause
30	JIMSD_FORM_SOLUTION	案件の解決策。	hptl_jp1_imss_solution
31	JIMSD_FORM_SCHEDULE	案件のスケジュールおよび手順概要。	hptl_jp1_imss_schedule
32	JIMSD_FORM_IMPACTEVAL	変更の影響評価。	hptl_jp1_imss_impact_eval
33	JIMSD_FORM_DELIBERATIONRST	案件の審議結果。	hptl_jp1_imss_deliberation_rst
34	JIMSD_FORM_FREEDESCRIPTION	フリー記入欄。	hptl_jp1_imss_free_description
35	JIMSD_FORM_JP1PRODUCTNAME	JP1 イベントを発行したプログラム名。	hptl_jp1_imss_jp1product_name
36	JIMSD_FORM_JP1JOBNETNAME	JP1/AJS のジョブネット名。	hptl_jp1_imss_jp1jobnet_name
37	JIMSD_FORM_JP1JOBNAME	JP1/AJS のジョブ名。	hptl_jp1_imss_jp1job_name
38	JIMSD_FORM_JP1SNMPSRC	JP1/Base の SNMP トラップ変換機能で発行された JP1 イベントの SNMP トラップの発生ソース名。	hptl_jp1_imss_jp1snmp_src
39	JIMSD_FORM_JP1NODENAME	JP1/IM - Manager の統合スコープ機能で定義した監視ノード名。	hptl_jp1_imss_jp1node_name
40	JIMSD_FORM_JP1ALARMNAME	JP1/PFM - Web Console が発行する JP1 イベントのアラーム名。	hptl_jp1_imss_jp1alarm_name
41	JIMSD_FORM_LASTUPDATE	案件の更新日時。	hptl_jp1_imss_lastup_date
42	JIMSD_FORM_IMEVENTNO	JP1 イベントのイベント DB 内通し番号。	hptl_jp1_imss_imeventno
43	JIMSD_FORM_IMHOSTNAME	JP1/IM - Manager のホスト名。	hptl_jp1_imss_imhostname
44	JIMSD_FORM_USERTEXT01 ~ JIMSD_FORM_USERTEXT05	ユーザーが案件フォームで定義したテキストデータの追加項目。	hptl_jp1_imss_usertext01 ~ hptl_jp1_imss_usertext05
45	JIMSD_FORM_USERTEXT06 ~ JIMSD_FORM_USERTEXT15		hptl_jp1_imss_usertext06 ~ hptl_jp1_imss_usertext15
46	JIMSD_FORM_USERTEXT16 ~ JIMSD_FORM_USERTEXT20		hptl_jp1_imss_usertext16 ~ hptl_jp1_imss_usertext20
47	JIMSD_FORM_USERINT01 ~ JIMSD_FORM_USERINT05	ユーザーが案件フォームで定義した数値データの追加項目。	hptl_jp1_imss_userint01 ~ hptl_jp1_imss_userint05
48	JIMSD_FORM_USERTIME01 ~ JIMSD_FORM_USERTIME05	ユーザーが案件フォームで定義した時刻データの追加項目。	hptl_jp1_imss_usertime01 ~ hptl_jp1_imss_usertime05

項番	項目 ID	説明	情報を取得するためのキー
49	JIMSD_PWB_SYS_ID	システム内のプロセスワークボードの通し番号。	hptl_jp1_imss_sys_pwbid
50	JIMSD_LOGIN_USER_ID	ログインしているユーザーの ID。	hptl_jp1_imss_login_userid

指定できる項目 ID 以外を指定した場合、hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n の値が無効となり、引き継がれません。

なお、hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n の値は、次に示す順序で指定してください。

JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI に引き継ぐ場合

- ・ [モニタ] 画面表示対象のユニットがある JP1/AJS3 - Manager のホスト名を入力する項目 ID
- ・ [モニタ] 画面表示対象のスケジューラサービス名とユニット名を入力する項目 ID
- ・ [モニタ] 画面表示対象のユニットの実行 ID を入力する項目 ID

JP1/PFM - Web Console に引き継ぐ場合

- ・ ログインユーザ ID を引き継ぐ項目 ID (JIMSD_LOGIN_USER_ID)
- ・ 事象が発生したホスト名を入力する項目 ID
- ・ 事象が発生した日時を入力する項目 ID

注※4

指定するプロパティキーの種類によって引き継がれる情報を、次の表に示します。

項番	指定したプロパティキー	引き継がれる情報
1	hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロセスワークボード ID ・ プロセスワークボード内通し番号
2	hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロセスワークボード ID ・ プロセスワークボード内通し番号 ・ hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n キーで指定した項目 ID の情報 (情報を取得するためのキーは JP1/Service Support 固有)
3	hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n hptl_jp1_imss_add_item_info_product_\$n hptl_jp1_imss_add_item_info_key_list_\$p	hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n キーで指定した項目 ID の情報 (情報を取得するためのキーは hptl_jp1_imss_add_item_info_key_list_\$p キーで指定した内容)

案件管理ウィンドウの設定 (Item Management Window)

表 13-38 システムプロパティファイルで設定できる指定キー一覧 (案件管理ウィンドウの設定)

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_itemwindow_enable	<p>案件管理ウィンドウ機能を使用するかどうかを指定する。</p> <p>指定できる値を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Y：使用する。 ・ N：使用しない。 	N

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_itemwindow_size	案件管理ウィンドウ機能を使用する場合、案件管理ウィンドウのウィンドウサイズを年単位で指定する。指定できる値は1～5の半角数字（整数）。	3
hptl_jpl_imss_itemwindow_start_month	案件管理ウィンドウの範囲の開始月を指定する。指定できる値は1～12の半角数字（整数）。	1

案件の一括操作の設定 (Item Batch Operation)

表 13-39 システムプロパティファイルで設定できる指定キー（案件の一括操作の設定）

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_batch_item_edit_max	一括操作で一度に編集できる案件数を指定する。指定できる値は、1～100の半角数字（整数）。ただし、メイン画面（案件一覧）から案件を一括で操作する場合、案件一覧に表示できる案件の上限※以上の案件は指定できない。 注※ システムプロパティファイルの hptl_jpl_imss_item_list_display_number キーの指定値。デフォルト値は 50。	100
hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval	一括操作で案件のステータスを「承認済み」にするかどうかを指定する。指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • true：一括操作で案件のステータスを「承認済み」にする • false：一括操作で案件のステータスを「承認済み」にしない 	false
hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval_all_user_flag	一括操作で案件のステータスを「承認済み」にする場合、すべてのユーザーがこの一括操作を実行できるようにするかどうかを指定する。指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • true：すべてのユーザーが一括操作で案件のステータスを「承認済み」にする • false：すべてのユーザーが一括操作で案件のステータスを「承認済み」にしない 	false
hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval_user_list	一括操作で案件のステータスを「承認済み」にする場合、この一括操作を実行するユーザーのユーザーIDを指定する。この一括操作を実行できるユーザーを限定する場合に指定する。指定できる文字は、小文字の半角英数字。一つのユーザーIDは、1～64バイトの文字列が指定でき、[, (コンマ)] 区切りで最大1,000個指定できる。	—

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval_userlist	<p>なお、指定できるユーザー数を越えた分のユーザー ID や不正なユーザー ID は、この一括操作を実行できるユーザーに含まれない。重複したユーザー ID や不正なユーザー ID は、指定できるユーザー ID 数に含まれない。</p> <p>また、hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval_all_user_flag で「true」を指定した場合は、hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval_userlist で指定したユーザー ID は無効となる。</p>	—
hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval_rolelist	<p>一括操作で案件のステータスを「承認済み」にする場合、この一括操作を実行するロールのロール ID を指定する。この一括操作を実行できるユーザーを限定する場合に指定する。</p> <p>指定できる文字は、小文字の半角英数字。</p> <p>一つのロール ID は、1~64 バイトの文字列が指定でき、「, (コンマ)」区切りで最大 1,000 個指定できる。</p> <p>なお、指定できるロール数を越えた分のロール ID や不正なロール ID は、この一括操作を実行できるロールに含まれない。重複したロール ID や不正なロール ID は、指定できるロール ID 数に含まれない。</p> <p>また、hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval_all_user_flag で「true」を指定した場合は、hptl_jpl_imss_item_batch_ope_approval_rolelist で指定したロール ID は無効となる。</p>	—
hptl_jpl_imss_item_batch_ope_close	<p>一括操作で案件のステータスを「クローズ」にするかどうかを指定する。</p> <p>指定できる値を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true：一括操作で案件のステータスを「クローズ」にする • false：一括操作で案件のステータスを「クローズ」にしない 	false
hptl_jpl_imss_item_batch_ope_close_all_user_flag	<p>一括操作で案件のステータスを「クローズ」にする場合、すべてのユーザーがこの一括操作を実行できるようにするかどうかを指定する。</p> <p>指定できる値を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true：すべてのユーザーが一括操作で案件のステータスを「クローズ」にする • false：すべてのユーザーが一括操作で案件のステータスを「クローズ」にしない 	false
hptl_jpl_imss_item_batch_ope_close_userlist	<p>一括操作で案件のステータスを「クローズ」にする場合、この一括操作を実行するユーザーのユーザー</p>	—

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_item_batch_ope_close_userlist	<p>ID を指定する。この一括操作を実行できるユーザーを限定する場合に指定する。</p> <p>指定できる文字は、小文字の半角英数字。</p> <p>一つのユーザー ID は、1~64 バイトの文字列が指定でき、「, (コンマ)」区切りで最大 1,000 個指定できる。</p> <p>なお、指定できるユーザー数を越えた分のユーザー ID や不正なユーザー ID は、この一括操作を実行できるユーザーに含まれない。重複したユーザー ID や不正なユーザー ID は、指定できるユーザー ID 数に含まれない。</p> <p>また、 hptl_jp1_imss_item_batch_ope_close_all_user_flag で「true」を指定した場合は、 hptl_jp1_imss_item_batch_ope_close_userlist で指定したユーザー ID は無効となる。</p>	—
hptl_jp1_imss_item_batch_ope_close_rolelist	<p>一括操作で案件のステータスを「クローズ」にする場合、この一括操作を実行するロールのロール ID を指定する。この一括操作を実行できるユーザーを限定する場合に指定する。</p> <p>指定できる文字は、小文字の半角英数字。</p> <p>一つのロール ID は、1~64 バイトの文字列が指定でき、「, (コンマ)」区切りで最大 1,000 個指定できる。</p> <p>なお、指定できるロール数を越えた分のロール ID や不正なロール ID は、この一括操作を実行できるロールに含まれない。重複したロール ID や不正なロール ID は、指定できるロール ID 数に含まれない。</p> <p>また、 hptl_jp1_imss_item_batch_ope_close_all_user_flag で「true」を指定した場合は、 hptl_jp1_imss_item_batch_ope_close_rolelist で指定したロール ID は無効となる。</p>	—

プロセスの設定 (Process Information)

表 13-40 システムプロパティファイルで設定できる指定キー (プロセスの設定)

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_process_name_display_characters	<p>次に示す JP1/Service Support の画面で表示するプロセス表示名の文字数を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メイン画面 (案件一覧) • メイン画面 (案件状況) の対象案件一覧 • メイン画面 (案件状況) のシステム視点の案件状況 • [プロセスワークボード作成] 画面 	<p>日本語環境の場合：11</p> <p>英語環境の場合：26</p> <p>中国語環境の場合：11</p>

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_process_name_display_characters	<ul style="list-style-type: none"> • [関連案件状態] 画面 • [案件共通項目検索条件指定] 画面 • [案件検索条件指定] 画面 • [案件検索結果一覧] 画面 • [履歴の表示] 画面 • [集計データのファイル出力] 画面 • [ステータス管理] 画面 <p>プロセス表示名が指定した文字数を越えた部分は省略して表示される。</p> <p>指定できる値は、1～128の半角数字（整数）。ただし、デフォルト値を超える値を設定すると、上記の画面に表示する際に表示し切れない場合がある。このため、デフォルト値以下の値を指定することを推奨する。</p>	<p>日本語環境の場合：11</p> <p>英語環境の場合：26</p> <p>中国語環境の場合：11</p>

注意事項

- 「記述内容」で説明した指定キー以外の個所は編集しないでください。
- hptl_jp1_imss_extstatus_number で使用できる拡張ステータス数を変更した場合、指定した数を超えて使用できなくなった拡張ステータスは検索できなくなります。検索できなくなった拡張ステータスを再度検索したいときは、使用できる拡張ステータス数を変更する必要があります。
- hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n で指定した URL の個数は、hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num で指定した値と一致させてください。
- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：ISO-8859-1
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：ISO-8859-1

定義例

定義例 1

JP1/NETM/AIM と連携するため、JP1/NETM/AIM サーバ（サーバ名：Server1）の設定をした場合の定義例を次に示します。なお、この定義例では、設定に必要な部分だけを抜き出しています。

```
#JP1/NETM/AIM連携の設定
hptl_jp1_imss_jp1_aim=Server1
```

定義例 2

JP1/NETM/AIM と連携するため、JP1/NETM/AIM のインストール時に設定されるポート番号から「8080」に変更されている JP1/NETM/AIM サーバ（サーバ名：Server1）を設定する場合の定義例を、次に示します。なお、この定義例では、設定に必要な部分だけを抜き出しています。

```
#JP1/NETM/AIM連携の設定  
hptl_jp1_imss_jp1_aim=Server1:8080
```

定義例 3

案件管理ウィンドウを使用し、ウィンドウサイズを 4 年、範囲の開始月を 4 月とする場合の定義例を、次に示します。なお、この定義例では、設定に必要な部分だけを抜き出しています。

```
#案件管理ウィンドウの設定  
hptl_jp1_imss_itemwindow_enable=Y  
hptl_jp1_imss_itemwindow_size=4  
hptl_jp1_imss_itemwindow_start_month=4
```

定義例 4

[案件検索結果一覧] 画面の 1 ページの表示件数を指定する際に使用するプルダウンメニューの値を、初期設定が「200」、プルダウンメニューで選択できる値を「200」、「300」、「500」、「1000」にする場合の定義例を、次に示します。なお、この定義例では、設定に必要な部分だけを抜き出しています。

```
#検索の設定  
hptl_jp1_imss_research_display_number_list=200,200,300,500,1000
```

ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jp1_imss_jp1event_status.properties)

説明

ステータス変更 JP1 イベントの拡張属性に、案件が保持する情報を定義するファイルです。このファイルを編集することで、JP1 イベントに格納する案件情報を定義できます。

なお、JP1 イベントの詳細については、「付録 E.1 JP1 イベント一覧」を参照してください。

形式

```
hptl_jp1_imss_je_status_num=拡張属性の数(インデックスの値)  
hptl_jp1_imss_je_status_extattr_インデックスの値=拡張属性名
```

ファイル名

- hptl_jp1_imss_jp1event_status.properties (ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル)
- hptl_jp1_imss_jp1event_status.properties.model (ステータス変更 JP1 イベント定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは、ステータス変更 JP1 イベント定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ステータス変更 JP1 イベント定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでステータス変更 JP1 イベント定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥event¥

定義の反映時期

次の JP1/Service Support のサービスを再起動したあと、反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-41 ステータス変更 JP1 イベント定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_je_status_num	hptl_jp1_imss_je_status_extattr_n が有効となる n の値を、0~90 の範囲の整数で指定する。指定範囲を超えた場合は、0 が仮定される。	0
hptl_jp1_imss_je_status_extattr_n	案件項目に対応した拡張属性名を指定する。指定した項目が JP1 イベントの拡張属性として格納される。それぞれの拡張属性のプロパティは「#」でコメントアウトできる。指定できる値については、表 13-42 を参照のこと。	—

(凡例)

—：設定値なし

表 13-42 指定できる拡張属性名一覧

項番	案件に関する項目	拡張属性	格納先 拡張属性	指定 可否	備考
1	タイトル (案件名)	TITLE	固有	○	—
2	システム名	SYSTEM	固有	○	—
3	システム ID	SYSTEMID	固有	○	—
4	プロセス名	PROCESS	固有	○	—
5	プロセスワークボード ID	PWBID	固有	○	—
6	案件 ID	OBJECT_ID	共通	×	定義ファイルに指定できない (必ず JP1 イベントに格納される)。
7	プロセス間 ID	PROCESS_SEPID	固有	○	—
8	エスカレーション元案件 ID	FRESC_ITEMID	固有	○	—
9	エスカレーション先案件 ID	TOESC_ITEMID	固有	○	複数のエスカレーション先がある場合はコンマ区切りで格納。
10	重大度	ITEMSEVERITY	固有	○	—
11	重大度の理由	ITEMSEVERITY_REASON	固有	○	—
12	影響度	IMPACT	固有	○	—
13	影響度の理由	IMPACT_REASON	固有	○	—
14	優先度	PRIORITY	固有	○	—
15	優先度の理由	PRIORITY_REASON	固有	○	—
16	案件種別	ITEM_CATEGORY	固有	○	—
17	問題分野	ISSUE_CATEGORY	固有	○	—

項番	案件に関する項目	拡張属性	格納先 拡張属性	指定 可否	備考
18	変更の規模	CHANGE_SCALE	固有	○	—
19	リリースタイプ	RELEASE_TYPE	固有	○	—
20	ステータス	STATUS	固有	○	—
21	結果	RESULT	固有	○	—
22	発生日時	ACCRUALDATE	固有	○	—
23	現象種別※1	PHENOMENON	固有	○	—
24	解決区分	SOLUTIONCODE	固有	○	—
25	登録者	REGISTRANT	固有	○	—
26	登録者 ID	REGISTRANT ID	固有	○	—
27	登録者のメールアドレス	REGISTRANT_ADDRESS	固有	○	—
28	登録者の電話番号※2	REGISTRANT_TEL	固有	○	—
29	登録日時	CREATIONDATE	固有	○	—
30	担当者	ASSIGNED	固有	○	—
31	担当者種別	ASSIGNEDTYPE	固有	○	—
32	担当者 ID	ASSIGNEDID	固有	○	—
33	担当者のメールアドレス ※3	ASSIGNED_ADDRESS	固有	○	—
34	担当者の電話番号※2※3	ASSIGNED_TEL	固有	○	—
35	作業期限	DEADLINE	固有	○	—
36	回答責任者	RESPONDENT	固有	○	—
37	回答責任者種別	RESPONDENTTYPE	固有	○	—
38	回答責任者 ID	RESPONDENTID	固有	○	—
39	回答責任者のメールアドレス ※3	RESPONDENT_ADDRESS	固有	○	—
40	回答責任者の電話番号※2 ※3	RESPONDENT_TEL	固有	○	—
41	編集者	USER_NAME	共通	×	定義ファイルに指定できない (必ず JP1 イベントに格納される)。
42	編集者 ID	CREATOR_ID	固有	○	—
43	編集者のメールアドレス	CREATOR_ADDRESS	固有	○	—

項番	案件に関する項目	拡張属性	格納先 拡張属性	指定 可否	備考
44	編集者の電話番号※2	CREATOR_TEL	固有	○	—
45	プロセスワークボード管理者	PWB_ADMIN	固有	○	—
46	プロセスワークボード管理者 ID	PWB_ADMINID	固有	○	—
47	プロセスワークボード管理者のメールアドレス※3	PWB_ADMIN_ADDRESS	固有	○	—
48	プロセスワークボード管理者の電話番号※2※3	PWB_ADMIN_TEL	固有	○	—
49	開始日時	STARTDATE	固有	○	—
50	完了日時	COMPDATE	固有	○	—
51	顧客名	CUSTOMER	固有	○	—
52	問い合わせ者	INQUIRY	固有	○	—
53	費用（予算）	ESTIMATEDCOST	固有	○	—
54	費用（実績）	ACTUALCOST	固有	○	—
55	影響業務※1	EFFECTSRV	固有	○	—
56	機器情報 01～20※4※5	EQUIPMENT01～ EQUIPMENT20	固有	○	—
57	機器種別 01～20※4※5	EQUIPMENTTYPE01～ EQUIPMENTTYPE20	固有	○	—
58	サーバ名 01～20※4※5	AIMSRV01～AIMSRV20	固有	○	—
59	問題個所とバージョン	FAILLOCATION	固有	○	—
60	関連案件 01～20※4※5	REFITEM01～REFITEM20	固有	○	—
61	関連情報（表示名） 01～20※4※5	REFINFODISP01～ REFINFODISP20	固有	○	—
62	関連情報 01～20※4※5	REFINF01～REFINF20	固有	○	—
63	概要	SUMMARY	固有	○	—
64	回避策種別	AVOIDANCETYPE	固有	○	—
65	回避策	AVOIDANCE	固有	○	—
66	作業状況	SITUATION	固有	○	—
67	再発防止のための考察※1	MEASURES	固有	○	—
68	要因	CAUSE	固有	○	—

項番	案件に関する項目	拡張属性	格納先 拡張属性	指定 可否	備考
69	根本原因	ROOTCAUSE	固有	○	—
70	解決策	SOLUTION	固有	○	—
71	スケジュール, 手順概要	SCHEDULE	固有	○	—
72	変更の影響評価	IMPACTEVAL	固有	○	—
73	審議結果	DELIBERATIONRST	固有	○	—
74	フリー記入欄	FREEDESC	固有	○	—
75	プロダクト名	PRODUCTNAME	固有	○	—
76	ジョブネット名	JOBNETNAME	固有	○	—
77	ジョブ名	JOBNAME	固有	○	—
78	SNMP ソース	SNMPSRC	固有	○	—
79	監視ノード名	NODENAME	固有	○	—
80	アラーム名	ALARMNAME	固有	○	—
81	更新日時	LASTUPDATE	共通	×	定義ファイルに指定できない (必ず JP1 イベントに格納される)。
82	連動元イベント DB 内通し番号	ITEMENTRY_SEQNO	固有	○	—
83	JP1/IM - Manager のホスト名	ITEMENTRY_ACTHOST	固有	○	—
84	拡張テキストデータ 01～05※4	USERTEXT01～USERTEXT05	固有	○	—
85	拡張テキストデータ 06～15※4	USERTEXT06～USERTEXT15	固有	○	—
86	拡張テキストデータ 16～20※4※5	USERTEXT16～USERTEXT20	固有	○	—
87	拡張数値データ 01～05※4	USERINT01～USERINT05	固有	○	—
88	拡張ユーザー/ロール種別 01～05※4 または拡張ユーザー/ロール ID01～05※4	USEREXTNAME01～USEREXTNAME05	固有	○	—
89	拡張ユーザー情報 ID01～05※4	USEREXTINF01～USEREXTINF05	固有	○	—

項番	案件に関する項目	拡張属性	格納先 拡張属性	指定 可否	備考
90	拡張ユーザー種別 01～05※4	USEREXTTYPE01～ USEREXTTYPE05	固有	○	—
91	拡張コードデータ 01～05※4	USERCODE01～USERCODE05	固有	○	—
92	拡張時刻データ 01～05※4	USERTIME01～USERTIME 05	固有	○	—
93	拡張リンクデータ 機器 情報 1～5_01～20※4※5	USERLINK_EQUIPMENT01_01 ～ USERLINK_EQUIPMENT01_20 USERLINK_EQUIPMENT02_01 ～ USERLINK_EQUIPMENT05_20	固有	○	—
94	拡張リンクデータ 機器 種別 1～5_01～20※4※5	USERLINK_EQUIPMENTTYPE0 1_01～ USERLINK_EQUIPMENTTYPE0 1_20 USERLINK_EQUIPMENTTYPE0 2_01～ USERLINK_EQUIPMENTTYPE0 5_20	固有	○	—
95	拡張リンクデータ サー バ名 1～5_01～20※4※5	USERLINK_AIMSRV01_01～ USERLINK_AIMSRV01_20 USERLINK_AIMSRV02_01～ USERLINK_AIMSRV05_20	固有	○	—
96	拡張リンクデータ 関連 案件 1～5_01～20※4※5	USERLINK_REFITEM01_01～ USERLINK_REFITEM01_20 USERLINK_REFITEM02_01～ USERLINK_REFITEM05_20	固有	○	—
97	拡張リンクデータ 関連 情報(表示名)1～5_01～ 20※4※5	USERLINK_REFINFODISP01_0 1～ USERLINK_REFINFODISP01_2 0 USERLINK_REFINFODISP02_0 1～ USERLINK_REFINFODISP05_2 0	固有	○	—
98	拡張リンクデータ 関連 情報 1～5_01～20※4※5	USERLINK_REFINFO01_01～ USERLINK_REFINFO01_20 USERLINK_REFINFO02_01～ USERLINK_REFINFO05_20	固有	○	—

(凡例)

○：定義ファイルに指定できる項目

×：定義ファイルに指定できない項目

－：なし

注※1

案件の初期表示では、表示されない項目です。

注※2

ユーザー情報の「電話番号」の情報が設定されます。「電話番号 2」の情報は設定されません。

注※3

案件の担当者、回答責任者およびプロセスワークボード管理者がロールだった場合、情報は格納されません。

注※4

複数の拡張属性をまとめて示しています。

注※5

案件に指定している項番に対応しています。

注意事項

- hptl_jp1_imss_je_status_num で指定した値より大きいインデックスの値 (n) を持つ拡張属性のプロパティ (hptl_jp1_imss_je_status_extattr_n) は、無視されます。
- 拡張属性のプロパティ (hptl_jp1_imss_je_status_extattr_n) のインデックスが hptl_jp1_imss_je_status_num で指定した値より小さい場合、n までのプロパティが有効になります。
- 同じ拡張属性のプロパティ (hptl_jp1_imss_je_status_extattr_n) が指定された場合は、あとから指定された値が有効になります。
- 「#」で始まる行はコメントアウトされるため、無視されます。
- hptl_jp1_imss_je_status_extattr_n に、存在しない拡張属性名を指定した場合は無視されます。
- 発行する JP1 イベントの基本属性値と拡張属性値の合計サイズが 10,000 バイト以上の場合、イベント発行時にエラー画面とログにエラーメッセージが出力されます。指定した文字列が全角文字を含む場合、全角文字は 2 バイトに換算されます。ただし、案件は正常に案件 DB に登録されます。
- JP1 イベントの発行に失敗しても、案件は正常に案件 DB に登録されます。
- 拡張属性に格納された案件項目に、改行文字、タブ文字および制御文字が含まれている場合は、JP1 イベントに格納される際に、スペースに置き換えられます。

定義例

JP1 イベントに格納する案件情報（拡張属性）の定義例を次に示します。

```
#発行するJP1イベントに格納する拡張属性の数
hptl_jp1_imss_je_status_num=5
#案件のタイトル
hptl_jp1_imss_je_status_extattr_1=TITLE
#案件の優先度
hptl_jp1_imss_je_status_extattr_2=PRIORITY
#案件の担当者の電話番号
hptl_jp1_imss_je_status_extattr_3=ASSIGNED_TEL
#案件の問題分野
hptl_jp1_imss_je_status_extattr_4=ISSUE_CATEGORY
```

```
#案件の発生日時  
hptl_jp1_imss_je_status_extattr_5=ACCRUALDATE
```

操作ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_access_log.properties)

説明

操作ログを出力するかどうか、また、操作ログのサイズ、面数を定義したファイルです。デフォルトでは、出力しない設定となっています。

形式

```
hptl_jp1_imss_access_log_enable=操作ログを出力する, または出力しない  
hptl_jp1_imss_access_log_file_size=操作ログのファイルサイズ  
hptl_jp1_imss_access_log_file_num=操作ログの面数
```

ファイル名

- hptl_jp1_imss_access_log.properties (操作ログ設定ファイル)
- hptl_jp1_imss_access_log.properties.model (操作ログ設定ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは操作ログ設定ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。操作ログ設定ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで操作ログ設定ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

次の JP1/Service Support のサービスを再起動したあと、反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-43 操作ログ設定ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_access_log_enable	操作ログ (jplimssaccesslog 数字.log) を出力するかどうかを指定する。設定が不正な場合は、操作ログは出力されない。 出力先フォルダ: JP1/SS パス¥log¥public ¥accesslog	N

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_access_log_enable	指定できる値は Y (出力する), または N (出力しない)。	N
hptl_jp1_imss_access_log_file_size	操作ログ (jplimssaccesslog 数字.log) のサイズを, キロバイト換算で指定する。 指定できる値は, 4~2097152 の半角数字 (整数)。	16384
hptl_jp1_imss_access_log_file_num	操作ログ (jplimssaccesslog 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は, 1~32 の半角数字 (整数)。	24

定義例

操作ログを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例では, 操作ログのサイズを 20 メガバイト (20,480 キロバイト), 面数を 20 に変更しています。

```
hptl_jp1_imss_access_log_enable=Y
hptl_jp1_imss_access_log_file_size=20480
hptl_jp1_imss_access_log_file_num=20
```

滞留案件定義ファイル (jp1informleave_setting.conf)

説明

滞留案件通知コマンドを実行する場合に、案件処理が滞留されていると見なすための条件を定義するファイルです。

形式

```
hptl_jp1_imss_target_pwb_list=プロセスワークボードID
hptl_jp1_imss_target_priority_code=優先度
hptl_jp1_imss_target_range=更新日時をさかのぼって監視する範囲
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_INQUIRY=ステータスが「受付」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_RESEARCH=ステータスが「調査中」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_PLANNING=ステータスが「計画中」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_DISCUSSING=ステータスが「審議中」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_APPROVED=ステータスが「承認済み」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_WAITING=ステータスが「対応依頼中」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_REVIEW=ステータスが「レビュー中」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_USER01=ユーザー拡張ステータスの案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間
:
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_USER40=ユーザー拡張ステータスの案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間
```

ファイル名

- jp1informleave_setting.conf (滞留案件定義ファイル)
- jp1informleave_setting.conf.model (滞留案件定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは滞留案件定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。滞留案件定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで滞留案件定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssinformleave コマンドの実行時に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-44 滞留案件定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_target_pwb_list	監視するプロセスワークボードのプロセスワークボード ID を指定する。複数のプロセスワークボード ID を指定する場合は、「, (コンマ)」区切りで指定する。存在しない ID を指定した場合は、存在しない ID を無視する。	—
hptl_jpl_imss_target_priority_code	ステータスごとに滞留案件の監視対象となる優先度を指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • 3：大至急 • 2：至急 • 1：標準 • 0：未設定 (なし) 複数の優先度を指定する場合は、「, (コンマ)」区切りで指定する。	3 (大至急)
hptl_jpl_imss_target_range	案件の更新日時をさかのぼって監視する期間を 1～168 (7 日) の半角数字で指定する (単位：時間)。	24
hptl_jpl_imss_JIMSD_STAT_INQUIRY	ステータスが「受付」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間を、0～1440 (24*60) の半角数字で指定する (単位：分)。 指定がない場合はそのステータスは監視対象から除外する。 0～1440 以外の値、または hptl_jpl_imss_target_range を超えた値を指定した場合は、60 (1 時間) が適用される。	—
hptl_jpl_imss_JIMSD_STAT_RESEARCH	ステータスが「調査中」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間を 0～1440 (24*60) の半角数字で指定する (単位：分)。 指定がない場合はそのステータスは監視対象から除外する。 0～1440 以外の値、または hptl_jpl_imss_target_range を超えた値を指定した場合は、60 (1 時間) が適用される。	—
hptl_jpl_imss_JIMSD_STAT_PLANNING	ステータスが「計画中」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間を 0～1440 (24*60) の半角数字で指定する (単位：分)。 指定がない場合はそのステータスは監視対象から除外する。 0～1440 以外の値、または hptl_jpl_imss_target_range を超えた値を指定した場合は、60 (1 時間) が適用される。	—

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jpl_imss_JIMSD_STAT_DISCUSSING	<p>ステータスが「審議中」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間を 0~1440 (24*60) の半角数字で指定する (単位:分)。</p> <p>指定がない場合はそのステータスは監視対象から除外する。</p> <p>0~1440 以外の値, または hptl_jpl_imss_target_range を超えた値を指定した場合は, 60 (1 時間) が適用される。</p>	—
hptl_jpl_imss_JIMSD_STAT_APPROVED	<p>ステータスが「承認済み」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間を 0~1440 (24*60) の半角数字で指定する (単位:分)。</p> <p>指定がない場合はそのステータスは監視対象から除外する。</p> <p>0~1440 以外の値, または hptl_jpl_imss_target_range を超えた値を指定した場合は, 60 (1 時間) が適用される。</p>	—
hptl_jpl_imss_JIMSD_STAT_WAITING	<p>ステータスが「対応依頼中」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間を 0~1440 (24*60) の半角数字で指定する (単位:分)。</p> <p>指定がない場合はそのステータスは監視対象から除外する。</p> <p>0~1440 以外の値, または hptl_jpl_imss_target_range を超えた値を指定した場合は, 60 (1 時間) が適用される。</p>	—
hptl_jpl_imss_JIMSD_STAT_REVIEW	<p>ステータスが「レビュー中」の案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間を 0~1440 (24*60) の半角数字で指定する (単位:分)。</p> <p>指定がない場合はそのステータスは監視対象から除外する。</p> <p>0~1440 以外の値, または hptl_jpl_imss_target_range を超えた値を指定した場合は, 60 (1 時間) が適用される。</p>	—
hptl_jpl_imss_JIMSD_STAT_USER01 ~ hptl_jpl_imss_JIMSD_STAT_USER40	<p>ユーザー拡張ステータスの案件に対して滞留案件と見なす案件処理の放置時間を 0~1440 (24*60) の半角数字で指定する (単位:分)。</p> <p>指定がない場合はそのステータスは監視対象から除外する。</p> <p>0~1440 以外の値, または hptl_jpl_imss_target_range を超えた値を指定した場合は, 60 (1 時間) が適用される。</p>	—

(凡例)

— : 設定値なし

定義例

優先度が「大至急」、ステータスが「調査中」および「計画中」の案件で、処理を 60 分以上放置した案件を 24 時間の範囲で監視対象とした場合の定義例を次に示します。

```
hptl_jp1_imss_target_pwb_list=pwb01,pwb02
hptl_jp1_imss_target_priority_code=3
hptl_jp1_imss_target_range=24

hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_INQUIRY=
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_RESEARCH=60
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_PLANNING=60
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_DISCUSSING=
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_APPROVED=
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_WAITING=
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_REVIEW=
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_USER01=
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_USER02=
      :
hptl_jp1_imss_JIMSD_STAT_USER40=
```

上記の設定で、12 時に jssinformleave コマンドを実行した場合、滞留案件と見なされる案件と見なされない案件の例を次に示します。

ステータス	案件の更新日時	判定
「調査中」および「計画中」	前日 12:00 以降, 11:00 以前	滞留案件と見なされる
「調査中」および「計画中」	11:00 より後	滞留案件と見なされない

注意事項

- クラスタ環境では現用系および予備系両方の定義ファイルを設定する必要があります。

タスク実行サービス定義ファイル (jp1imss_service_setting.conf)

説明

案件情報の集計 (jsscollectdata) コマンド、メールによる案件登録 (jssitementrybymail) コマンド、期限前通知 (jssinformperiod) コマンド、および滞留案件通知 (jssinformleave) コマンドを自動実行する場合に、実行時刻や実行間隔を定義したりします。このファイルを編集して、JP1/Service Support - Task Service サービスを起動することで、各コマンドを自動実行できるようになります。

形式

```
;コメント文
[jsscollectdata]
use=false
basetime=02:00
:
[jssitementrybymail]
use=false
period=60
:
[jssinformperiod]
use=false
basetime=03:00
:
[jssinformleave]
use=false
period=60
monitorStart=08:00
monitorEnd=18:000
:
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jplimss_service_setting.conf (タスク実行サービス定義ファイル)
- jplimss_service_setting.conf.model (タスク実行サービス定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはタスク実行サービス定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。タスク実行サービス定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでタスク実行サービス定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

JP1/Service Support - Task Service サービスを再起動したあと、反映されます。

記述内容

タスク実行サービス定義ファイルの形式は、次のようになっています。

[セクション]

キー=値

キー=値

:

各セクションには、次の表に示す指定キーを指定できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつなぎます。

表 13-45 タスク実行サービス定義ファイルで指定するセクションおよび指定キー一覧

項目		説明	デフォルト値
セクション名	<ul style="list-style-type: none"> • [jsscollectdata] • [jssitementrybyemail] • [jssinformperiod] • [jssinformleave] 	実行したいコマンドを識別する名称を指定する。左記の値以外は指定できない。	モデルファイルには各セクション名が記述されている。
指定キー名	use	コマンドを実行するかどうかを指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • false = 実行しない • true = 実行する 	false
	basetime	セクション名が jsscollectdata と jssinformperiod の場合は、コマンドを実行する時刻を 00:00～23:59 の範囲で hh:mm 形式で指定する。指定した時刻にコマンドを実行するには、事前にサービスを起動する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> • jsscollectdata : 02:00 • jssinformperiod : 03:00
	period	セクション名が jssitementrybyemail または jssinformleave の場合は、コマンドを実行する間隔を分単位の数字で指定する。指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • jssitementrybyemail : 5～120 • jssinformleave : 15～1440 	60
	monitorStart	セクション名が jssinformleave の場合は、監視開始時刻を 00:00～24:00 の範囲で hh:mm 形式で指定する。	なし
	monitorEnd	セクション名が jssinformleave の場合は、監視終了時刻を 00:00～24:00 の範囲で hh:mm 形式で指定する。monitorStart より前の時刻は、翌日の時刻と見なす。	なし

項目		説明	デフォルト値
指定キー名	monitorEnd	<p>例えば、monitorStart が 21 : 00、monitorEnd が 08 : 00 の場合は、21 : 00 ~ 翌日の 08 : 00 の間、監視する。</p> <p>monitorStart と同じ時刻の場合は、常に監視する。</p> <p>例えば、monitorStart が 00 : 00、monitorEnd が 00 : 00 または 24:00 の場合は、常に監視する。</p>	なし

注意事項

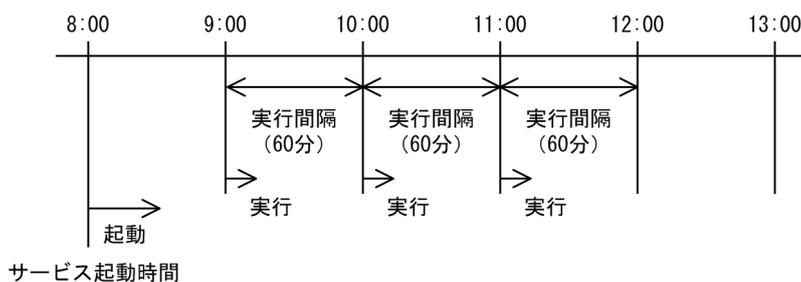
- jssrev コマンドや jssdbbackup.bat コマンドなど、JP1/Service Support - Task Service サービスが停止している状態で実行するコマンドを、ほかのプログラムから定期的に行う場合、それらの実行時刻を考慮して、JP1/Service Support - Task Service サービスによるコマンドの実行時刻を設定してください。
- 指定した時刻にコマンドが実行されると、そのコマンドの処理が終わるまでは、次の指定時刻になってもコマンドは実行されません。このため、コマンドの処理に時間が掛かると、次のコマンドの開始が指定時刻よりも遅れることがあります。
- JP1/Support Service - Task Service サービスを起動したあとに、タスク実行定義ファイル (jplimss_service_setting.conf) を変更した場合は、サービスを再起動してください。
- すべての use キーの値が「false」の状態 JP1/Service Support - Task Service サービスを起動すると、サービスの起動に失敗します。JP1/Service Support - Task Service サービスを起動する場合は、必ず一つの use キーに「true」を設定して、サービスを起動してください。

定義例

滞留案件通知 (jssinformleave) コマンドを、9:00 から 12:00 までの間に 60 分間隔で実行する場合の定義例を次に示します。

```
[jssinformleave]
use=true
period=60
monitorStart=09:00
monitorEnd=12:00
```

図 13-1 動作イメージ



「monitorStart」には滞留案件の監視開始時刻、「monitorEnd」には監視終了時刻を設定します。滞留案件通知 (jssinformleave) コマンドは、JP1/Service Support - Task Service サービスを起動した時間を起点として、「period」に指定したコマンド実行間隔ごとに実行されます。滞留案件通知 (jssinformleave) コマンドの実行タイミングを調整したい場合は、「monitorStart」、「monitorEnd」、および「period」と JP1/Service Support - Task Service サービスの起動のタイミングを考慮する必要があります。この例のように滞留案件通知 (jssinformleave) コマンドの実行開始を 9 時に設定したい場合は、JP1/Service Support - Task Service サービスを 8 時に起動してください。

入力候補値設定ファイル（任意）

説明

案件フォームの項目に表示される入力候補値，および案件フォームの項目を連動させて表示させる項目間連携について定義するファイルです。入力候補値設定ファイルは，入力補助機能を使用するプロセスワークボードごとに作成してください。

デフォルトで提供されているサンプルの入力候補値設定ファイルを，次の表に示します。これらのファイルの内容を参考に定義ファイルを作成，カスタマイズしてください。

表 13-46 デフォルトで提供されているサンプルの入力候補値設定ファイル

ファイル名	説明
JP1/SS パス¥home¥public¥inputassist¥jss_input_assist_sample.txt	サンプルの入力候補値設定ファイル
JP1/SS パス¥home¥public¥inputassist¥jss_input_assist_sample.txt.model	サンプルの入力候補値設定ファイルのモデルファイル

形式

```
#コメント文
#<キー値> = <値>

#入力候補値を設定する項目IDの設定
JIMSD_INPUT_ASSIST_n=項目ID
:
#入力候補値の値の設定
項目ID_n=入力候補値
項目ID_n=入力候補値
:
#項目間連携の設定
関連元の項目ID_n RELATION 関連先の項目ID=n[,n...]
関連元の項目ID_n RELATION 関連先の項目ID=n[,n...]
:
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

ファイル名

入力補助機能を使用するプロセスワークボードの ID に「.txt」を付けたものがファイル名となります。例えば，プロセスワークボードの ID が「pwb」の場合，ファイル名は「pwb.txt」になります。プロセスワークボードの ID に「.txt」以外の拡張子が付いているファイル，または拡張子がないファイルは，入力候補値設定ファイルと見なされません。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥home¥public¥inputassist

定義の反映時期

[案件作成] 画面または [案件編集] 画面を表示するときに、定義内容が反映されて画面が表示されます。

記述内容

入力候補値設定ファイルの形式は、次のようになっています。

```
<キー値> = <値>  
:
```

入力候補値設定ファイルでは、次の三つの内容をキー値と値を使って設定します。

- 入力候補値を設定する項目 ID の設定
- 入力候補値の値の設定
- 項目間連携の設定

それぞれで指定するキー値および値について次に説明します。

入力候補値を設定する項目 ID の設定

ここでは、入力候補値を設定したい項目の項目 ID について設定します。

キー値

「JIMSD_INPUT_ASSIST_n」を指定します。「n」にはキー値内でユニークかつ 0 以上の整数を指定してください。

値

案件フォームの項目 ID を指定します。指定できる項目とその項目 ID を次の表に示します。なお、次の表にない項目 ID を指定した場合は無効となります。

表 13-47 入力候補値を設定できる案件項目および項目 ID の一覧

案件項目	項目 ID
タイトル	JIMSD_FORM_TITLE
重大度の理由	JIMSD_FORM_SEVERITYREASON
影響度の理由	JIMSD_FORM_IMPACTREASON
優先度の理由	JIMSD_FORM_PRIORITYREASON
顧客名	JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME
問い合わせ者	JIMSD_FORM_INQUIRYNAME
プロダクト名	JIMSD_FORM_JP1PRODUCTNAME
ジョブネット名	JIMSD_FORM_JP1JOBNETNAME
ジョブ名	JIMSD_FORM_JP1JOBNAME

案件項目	項目 ID
SNMP ソース	JIMSD_FORM_JP1SNMPSRC
監視ノード名	JIMSD_FORM_JP1NODENAME
アラーム名	JIMSD_FORM_JP1ALARMNAME
イベント DB 内通し番号	JIMSD_FORM_IMEVENTNO
JP1/IM - Manager のホスト名	JIMSD_FORM_IMHOSTNAME
追加項目：テキスト※	JIMSD_FORM_USERTEXT01~05
	JIMSD_FORM_USERTEXT06~15
	JIMSD_FORM_USERTEXT16~20

注※

ユーザーの作成が前提の項目です。なお、ユーザーが作成したテキスト入力系の項目は、単一行の項目（項目の型が item-text となっているもの）だけに入力候補値を設定でき、複数行の項目（項目の型が item-textarea となっているもの）には設定できません。複数行の項目に入力候補値を設定した場合、動作は保障されません。項目の型については、「13. 定義ファイル」の「[案件フォーム定義ファイル（任意）](#)」を参照してください。

設定例

入力候補値を設定したい項目が「タイトル」、「顧客名」の場合の設定例について次に示します。

```
JIMSD_INPUT_ASSIST_0=JIMSD_FORM_TITLE
JIMSD_INPUT_ASSIST_1=JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME
```

入力候補値の値の設定

ここでは、表示させる入力候補値について設定します。

キー値

「項目 ID_n」を指定します。「項目 ID」には「入力候補値を設定する項目 ID の設定」で指定した項目 ID を指定してください。「n」にはキー値内でユニークかつ 0 以上の整数を指定してください。

指定した項目 ID が誤っている場合、または「入力候補値を設定する項目 ID の設定」で指定した項目 ID でない場合は、指定した内容が無効となります。

値

表示させる入力候補値を指定します。指摘できる文字列長は、システムプロパティの hptl_jpl_imss_input_assist_nominate_string_max で定義します。入力候補値が全角文字を含む場合、全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。

設定例

「顧客名」の入力候補値に「A 社」、「B 社」を設定したい場合の設定例について次に示します。

```
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_0=A社
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_1=B社
```

項目間連携の設定

ここでは、項目間連携について設定します。項目を連携させることで、関連元の項目で指定した選択肢にあわせて、関連先の項目の入力候補値を絞り込むことができます。

関連元には、案件フォームの項目の形式がテキスト入力系および選択系の項目を設定できます。関連先には、項目の形式がテキスト入力系の項目を設定できます。

ただし、テキスト入力系の項目に項目間連携を設定する場合、関連元および関連先のどちらのときでも、項目に入力候補値を設定する必要があります。項目間の連携では関連元の項目で指定した選択肢にあわせて、関連先の項目の入力候補値を絞り込むので、関連元および関連先の項目が選択形式である必要があるためです。

また、テキスト入力系の項目は単一行の項目（項目の型が item-text となっているもの）だけに項目間連携を設定でき、複数行の項目（項目の型が item-textarea となっているもの）には設定できません。複数行の項目に入力候補値を設定した場合、動作は保証されません。関連元および関連先に設定できる項目の一覧については、表 13-48 および表 13-49 を参照してください。

なお、項目間連携では、項目を次のように関連づけることもできます。

- 一つの関連元に対して複数の関連先を設定できます。
例えば、関連元に「顧客名」を設定して、関連先に「タイトル」と「問い合わせ者」を設定することもできます。ただし、複数の関連元に対して一つの関連先を設定することはできません。この設定をした場合は無効となります。
- 関連先となった項目を関連元の項目に設定できます。
例えば、関連元の「顧客名」に対して関連先を「問い合わせ者」と設定し、かつ「問い合わせ者」を関連元としてその関連先を「タイトル」に設定することもできます。
- 一つの関連元で選択肢が決まると、関連しているすべての項目の入力候補値が決まるよう設定できます。
例えば、「顧客名」、「問い合わせ者」、「タイトル」の三つを関連づけると、次のように入力候補値が決まります。
 - 「顧客名」での選択にあわせて、「問い合わせ者」と「タイトル」の入力候補値が決まる。
 - 「問い合わせ者」での選択にあわせて、「顧客名」と「タイトル」の入力候補値が決まる。
 - 「タイトル」での選択にあわせて、「顧客名」と「問い合わせ者」の入力候補値が決まる。このように関連づけたい場合は、関連元に「顧客名」で関連先に「問い合わせ者」、関連元に「問い合わせ者」で関連先に「タイトル」、関連元に「タイトル」で関連先に「顧客名」を設定します。

キー値

関連元と関連先の項目をマッピングさせるために、「関連元の項目 ID_n_RELATION_関連先の項目 ID」の形式でキー値を指定します。

「関連元の項目 ID」および「n」は、関連元の項目の形式がテキスト入力系か選択系かによって、指定する値が異なります。「関連先の項目 ID」には、関連先となる項目の項目 ID を指定します。

「関連元の項目 ID」および「n」で指定する値について、関連元の項目の形式がテキスト入力系の場合と選択系の場合に分けて説明します。

テキスト入力系の場合

「関連元の項目 ID_n」には、関連元の入力候補値を設定したときに「入力候補値の値の設定」のキー値で指定した「項目 ID_n」を指定します。

選択系の場合

「関連元の項目 ID」には案件フォームの項目 ID、「n」には、案件フォーム定義ファイルの「選択系の項目の形式」にある「option value="表示順序"」の表示順序に入力されている値と同じ値を指定します。

選択系の項目の項目 ID は表 13-49 を参照してください。「option value="表示順序"」の値については、「13. 定義ファイル」の「案件フォーム定義ファイル (任意)」を参照してください。

値

関連先の項目の入力候補値を絞り込むために、「n[n….]」の形式で値を指定します。

「n」には、関連先の項目で入力候補値を設定するために指定した、「入力候補値の値の設定」のキー値の「n」を指定します。「入力候補値の値の設定」のキー値の「n」以外の値が指定された場合は無効となります。

複数の値を指定したい場合は半角のコンマで区切ります。

設定例

関連元に「顧客名」、関連先に「問い合わせ者」を指定して、項目間連携を設定する場合の設定例を次に示します。

```
JIMSD_FORM_CUSTOMENAME_0_RELATION_JIMSD_FORM_INQUIRYNAME=0,1,2
JIMSD_FORM_CUSTOMENAME_1_RELATION_JIMSD_FORM_INQUIRYNAME=3,4
```

関連元および関連先に設定できる項目の一覧について、関連元の項目の形式がテキスト入力系または選択系ごとに次の表に示します。

表 13-48 関連元および関連先に設定できる項目の一覧（関連元がテキスト入力系の場合）

関連元の案件項目 (項目 ID)	関連先に設定できる案件項目
タイトル (JIMSD_FORM_TITLE)	重大度の理由、影響度の理由、優先度の理由、顧客名、問い合わせ者、プロダクト名、ジョブネット名、ジョブ名、SNMP ソース、監視ノード名、アラーム名、イベント DB 内通し番号、JP1/IM-Manager のホスト名、追加項目：テキスト (01~20)
重大度の理由 (JIMSD_FORM_SEVERITYREASON)	タイトル、影響度の理由、優先度の理由、顧客名、問い合わせ者、プロダクト名、ジョブネット名、ジョブ名、SNMP ソース、監視ノード名、アラーム名、イベント DB 内通し番号、JP1/IM-Manager のホスト名、追加項目：テキスト (01~20)
影響度の理由 (JIMSD_FORM_IMPACTREASON)	タイトル、重大度の理由、優先度の理由、顧客名、問い合わせ者、プロダクト名、ジョブネット名、ジョブ名、SNMP ソース、監視ノード名、アラーム名、イベント DB 内通し番号、JP1/IM-Manager のホスト名、追加項目：テキスト (01~20)

関連元の案件項目 (項目 ID)	関連先に設定できる案件項目
優先度の理由 (JIMSD_FORM_PRIORITYREASON)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
顧客名 (JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
問い合わせ者 (JIMSD_FORM_INQUIRYNAME)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
プロダクト名 (JIMSD_FORM_PRODUCTNAME)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
ジョブネット名 (JIMSD_FORM_JOBNETNAME)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
ジョブ名 (JIMSD_FORM_JOBNAME)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
SNMP ソース (JIMSD_FORM_SNMPSRC)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
監視ノード名 (JIMSD_FORM_NODENAME)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
アラーム名 (JIMSD_FORM_ALARMNAME)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
イベント DB 内通し番号 (JIMSD_FORM_EVENTNO)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
JP1/IM - Manager のホスト名 (JIMSD_FORM_HOSTNAME)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, 追加項目: テキスト (01~20)
追加項目: テキスト (JIMSD_FORM_USETEXT01~05)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (06~20)
追加項目: テキスト (JIMSD_FORM_USETEXT06~15)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~05, 16~20)

関連元の案件項目 (項目 ID)	関連先に設定できる案件項目
追加項目：テキスト (JIMSD_FORM_USE RTEXT 16~20)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目：テキスト (01~15)

表 13-49 関連元および関連先に設定できる項目の一覧 (関連元が選択系の場合)

関連元の案件項目 (項目 ID)	関連先に指定できる案件項目
重大度 (JIMSD_FORM_SEV ERITYCODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目：テキスト (01~20)
影響度 (JIMSD_FORM_IMP ACTCODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目：テキスト (01~20)
優先度 (JIMSD_FORM_PRI ORITYCODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目：テキスト (01~20)
案件種別 (JIMSD_FORM_ITE MCATEGORYCODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目：テキスト (01~20)
問題分野 (JIMSD_FORM_ISSU ECATEGORYCODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目：テキスト (01~20)
変更の規模 (JIMSD_FORM_CHA NGESCALECODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目：テキスト (01~20)
リリースタイプ (JIMSD_FORM_REL EASETYPECODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目：テキスト (01~20)
結果 (JIMSD_FORM_RES ULTCODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目：テキスト (01~20)
現象種別 (JIMSD_FORM_PHE NOMENONCODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目：テキスト (01~20)
解決区分 (JIMSD_FORM_SOL UTIONCODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目：テキスト (01~20)

関連元の案件項目 (項目 ID)	関連先に指定できる案件項目
回避策種別 (JIMSD_FORM_AVO IDANCECODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
要因 (JIMSD_FORM_CAU SECODE)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)
ユーザー追加コード項目 (JIMSD_FORM_USE RCODE01~05)	タイトル, 重大度の理由, 影響度の理由, 優先度の理由, 顧客名, 問い合わせ者, プロダクト名, ジョブネット名, ジョブ名, SNMP ソース, 監視ノード名, アラーム名, イベント DB 内通し番号, JP1/IM - Manager のホスト名, 追加項目: テキスト (01~20)

注意事項

- キー値と値では制御文字以外の文字を使用してください。制御文字を使用した場合は無効な設定となります。
- キー値と値で使用する「n」は、ユニークな数であれば連番でなくても有効となります。また、一けたの数字を設定する場合は一けた、二けたの数字を設定する場合は二けたで設定してください。一けたの数字を設定する場合に、「01」のように二けたで設定すると無効となります。
- キー値が次の条件のどれかを満たした場合、その設定は無効となります。
 - キー値に含まれる固定の文字列（「項目間連携の設定」の「_RELATION_」など）が誤っている場合。
 - 「_」を使って、キー値を構成する文字列以上の項目を指定している場合。
 - キー値が「JIMSD_INPUT_ASSIST」または「JIMSD_FORM」以外の文字列で始まっている場合。
- 「入力候補値を設定する項目 ID の設定」での設定内容が正しくても、「入力候補値の値の設定」での設定内容が誤っている、または設定されていない場合、「入力候補値を設定する項目 ID の設定」での設定内容も無効となります。「入力候補値を設定する項目 ID の設定」で指定している案件の項目に対して、入力補助機能を使用できません。
- キー値と値で使用する「n」の上限値や入力候補値の最大文字数などはシステムプロパティファイルで変更できます。詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)」を参照してください。
- 「入力候補値の値の設定」の値で同じ文字列を複数指定している場合、「項目間連携の設定」では、「関連元の項目 ID_n」の「n」の値が最も小さいものがキー値として使用されます。
- 入力候補値設定ファイルは、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

定義例 1

「顧客名」に入力候補値を表示する場合の入力候補値設定ファイルの定義例を示します。「顧客名」の入力候補値は「A社」、「B社」、「C社」です。

```
#入力候補値を設定する案件項目IDの設定
JIMSD_INPUT_ASSIST_0=JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME

#入力候補値の値の設定
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_0=A社
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_1=B社
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_2=C社
```

定義例 2

関連元と関連先ともにテキスト入力系の形式である項目に対し、項目間連携を設定する場合の入力候補値設定ファイルの定義例を示します。

関連元を「顧客名」、関連先を「問い合わせ者」として設定します。「顧客名」の入力候補値は「A社」、「B社」、「C社」、「D社」です。「問い合わせ者」の入力候補値は「日立太郎」、「日立次郎」、「日立三郎」、「日立四郎」、「日立五郎」です。

関連元で「A社」が選択された場合は、関連先の入力候補値として「日立太郎」、「日立次郎」が表示されます。関連元で「B社」が選択された場合は、関連先の入力候補値として「日立次郎」、「日立三郎」が表示されます。関連元で「C社」が選択された場合は、関連先の入力候補値として「日立三郎」、「日立四郎」が表示されます。関連元で「D社」が選択された場合は、関連先の入力候補値として「日立四郎」、「日立五郎」が表示されます。

```
#入力候補値を設定する案件項目IDの設定
JIMSD_INPUT_ASSIST_0=JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME
JIMSD_INPUT_ASSIST_1=JIMSD_FORM_INQUIRYNAME

#入力候補値の値の設定
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_0=A社
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_1=B社
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_2=C社
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_3=D社
JIMSD_FORM_INQUIRYNAME_0=日立太郎
JIMSD_FORM_INQUIRYNAME_1=日立次郎
JIMSD_FORM_INQUIRYNAME_2=日立三郎
JIMSD_FORM_INQUIRYNAME_3=日立四郎
JIMSD_FORM_INQUIRYNAME_4=日立五郎

#項目間連携の設定
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_0_RELATION_JIMSD_FORM_INQUIRYNAME=0,1
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_1_RELATION_JIMSD_FORM_INQUIRYNAME=1,2
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_2_RELATION_JIMSD_FORM_INQUIRYNAME=2,3
JIMSD_FORM_CUSTOMERNAME_3_RELATION_JIMSD_FORM_INQUIRYNAME=3,4
```

定義例 3

関連元が選択系の形式、関連先がテキスト入力系の形式である項目に対し、項目間連携を設定する場合の入力候補値設定ファイルの定義例を示します。

関連元を「重大度」、関連先を「重大度の理由」として設定します。「重大度」は、案件フォーム定義ファイルで次のように定義されています。

```
<item-code fiid="JIMSD_FORM_SEVERITYCODE" search="true" >
  <label labelname="重大度" />
  <options>
    <option value="0"></option>
    <option value="1">緊急</option>
    <option value="2">警戒</option>
    <option value="3">致命的</option>
  </options>
</item-code>
```

「重大度の理由」の入力候補値は、「理由」、「理由 1」、「理由 2」、「理由 3」、「理由 4」、「理由 5」です。

関連元で「選択なし」の場合は、関連先の入力候補値として「理由」、「理由 1」、「理由 2」が表示されます。関連元で「緊急」が選択された場合は、関連先の入力候補値として「理由 3」、「理由 4」、「理由 5」が表示されます。関連元で「警戒」が選択された場合は、関連先の入力候補値として「理由 1」、「理由 3」、「理由 5」が表示されます。

```
#入力候補値を設定する案件項目IDの設定
JIMSD_INPUT_ASSIST_0=JIMSD_FORM_SEVERITYREASON
```

```
#入力候補値の値の設定
JIMSD_FORM_SEVERITYREASON_0=理由
JIMSD_FORM_SEVERITYREASON_1=理由1
JIMSD_FORM_SEVERITYREASON_2=理由2
JIMSD_FORM_SEVERITYREASON_3=理由3
JIMSD_FORM_SEVERITYREASON_4=理由4
JIMSD_FORM_SEVERITYREASON_5=理由5
```

```
#項目間連携の設定
JIMSD_FORM_SEVERITYCODE_0_RELATION_JIMSD_FORM_SEVERITYREASON=0,1,2
JIMSD_FORM_SEVERITYCODE_1_RELATION_JIMSD_FORM_SEVERITYREASON=3,4,5
JIMSD_FORM_SEVERITYCODE_2_RELATION_JIMSD_FORM_SEVERITYREASON=1,3,5
```

入力補助機能プロパティファイル (hptl_jp1_imss_input_assist_plugin.properties)

説明

入力補助機能プロパティファイルは、ユーザー公開用のログファイルに関する情報を定義したファイルです。ログファイルは、入力補助機能で使用する入力候補値設定ファイルを解析した結果を出力するログです。

形式

```
hptl_jp1_imss_input_assist_log=ログファイルを出力する、または出力しない  
hptl_jp1_imss_input_assist_log_file_size=ログファイルサイズ  
hptl_jp1_imss_input_assist_log_file_num=ログファイル面数
```

ファイル名

- hptl_jp1_imss_input_assist_plugin.properties
- hptl_jp1_imss_input_assist_plugin.properties.model (入力補助機能プロパティファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは入力補助機能プロパティファイルの内容をリセットする場合に利用してください。入力補助機能プロパティファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで入力補助機能プロパティファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

次の JP1/Service Support のサービスを再起動したあと、反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

記述内容

次で説明する指定キー以外は編集しないでください。指定キーと値は「= (イコール)」でつなぎます。

表 13-50 入力補助機能プロパティファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_input_assist_log	ログファイル (jssinputassist_info 数字.log) を出力するかどうかを指定する。 出力先フォルダ：JP1/SS パス¥log¥public¥	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_input_assist_log	Yが指定された場合は、ログを出力する。 Y以外の文字列が指定された場合は、ログを出力しない。	Y
hptl_jp1_imss_input_assist_log_file_size	ログファイル (jssinputassist_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は4~16384の半角数字 (整数)。	8192
hptl_jp1_imss_input_assist_log_file_num	ログファイル (jssinputassist_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は1~16の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

- 入力補助機能プロパティファイルに記述した設定内容が正しくない場合、入力補助機能のログファイルにメッセージを出力します。

定義例

デフォルトの定義例を次に示します。

```
hptl_jp1_imss_input_assist_log=Y
hptl_jp1_imss_input_assist_log_file_size=8192
hptl_jp1_imss_input_assist_log_file_num=2
```

メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_main_log.properties)

説明

画面操作、および定義ファイル読み込み時の実行結果をメインサービスのユーザー公開用ログファイル (jplimssmain_info 数字.log) に出力する際、そのログファイルの面数およびサイズを定義したファイルです。

メインサービスのユーザー公開用ログファイル (jplimssmain_info 数字.log) の出力先を、次に示します。

出力先フォルダ：JP1/SS パス¥log¥public

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
hptl_jp1_imss_main_log_file_num=ログファイル面数  
hptl_jp1_imss_main_log_file_size=ログファイルサイズ
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- hptl_jp1_imss_main_log.properties (メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル)
- hptl_jp1_imss_main_log.properties.model (メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはメインサービスのユーザー公開ログ設定ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでメインサービスのユーザー公開ログ設定ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

次の JP1/Service Support のサービスを再起動したあと、反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-51 メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_main_log_file_num	ログファイル (jplimssmain_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~16 の半角数字 (整数)。	16
hptl_jp1_imss_main_log_file_size	ログファイル (jplimssmain_info 数字.log) のサイズをバイト換算で指定する。 指定できる値は 4096~16777216 の半角数字 (整数)。	4194304

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「14.1 メッセージの出力先」を参照してください。

注意事項

- メインサービスのユーザー公開用ログファイルの出力先フォルダ (JP1/SS パス¥log¥public¥) 下に、mmap フォルダが作成されます。運用開始後、メインサービスのユーザー公開用ログファイルの面数とサイズを変更する場合には、この mmap フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。
- メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_main_log.properties) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：Windows-31J
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

メインサービスのユーザー公開用ログファイルの面数を 12 に変更した場合の定義例を次に示します。

```
[LOG]
hptl_jp1_imss_main_log_file_num=12
hptl_jp1_imss_main_log_file_size=4194304
```

メール定義ファイル (jp1imss_mail_setting.conf)

説明

メールサーバ、メール送信のタイミング、メールの送信者、メール送信できる機能でのメール送信可否や送信メールのタイトルと本文、メールによる案件登録の可否や登録時の動作モード、期限前通知および滞留案件通知に関する設定、送信メールのユーザー認証に関する設定などを定義するファイルです。

形式

```
hptl_jp1_imss_mail_server=メールサーバ
hptl_jp1_imss_mail_port=メール送信での使用ポート
hptl_jp1_imss_mail_user_max=一度に送信できる最大ユーザー数
hptl_jp1_imss_mail_form_name=メール送信者名
hptl_jp1_imss_mail_form_address=メール送信者のアドレス

hptl_jp1_imss_mail_auth_method=メール送信時の認証方式
hptl_jp1_imss_mail_smtp_auth_port=SMTP-AUTH認証でメール送信する際のサブミッションポート番号
hptl_jp1_imss_mail_smtp_user=POP before SMTP認証またはSMTP-AUTH認証でメール送信する際のユーザーID
hptl_jp1_imss_mail_smtp_password=POP before SMTP認証またはSMTP-AUTH認証でメール送信する際のパスワード
hptl_jp1_imss_mail_connect_timeout=SMTPサーバおよびPOP3サーバとの接続完了を待つタイムアウト時間
hptl_jp1_imss_mail_socket_timeout=SMTPサーバおよびPOP3サーバからの応答を受信するまでのタイムアウト時間

hptl_jp1_imss_mail_charset=期限前通知用のメールの文字コード
hptl_jp1_imss_mail_notice_charset=期限前通知メール以外のメールの文字コード
hptl_jp1_imss_mail_format=メールの形式
hptl_jp1_imss_mail_failure_display_flag=メール送信失敗時の画面へのメッセージ表示可否

hptl_jp1_imss_mail_user_delete_flag=ユーザー削除時の送信可否
hptl_jp1_imss_mail_user_delete_title=ユーザー削除時のメールタイトル
hptl_jp1_imss_mail_user_delete_text=ユーザー削除時のメール本文

hptl_jp1_imss_mail_role_delete_flag=ロール削除時の送信可否
hptl_jp1_imss_mail_role_delete_title=ロール削除時のメールタイトル
hptl_jp1_imss_mail_role_delete_text=ロール削除時のメール本文

hptl_jp1_imss_mail_item_create_flag=案件作成時の送信可否
hptl_jp1_imss_mail_item_create_title=案件作成時のメールタイトル
hptl_jp1_imss_mail_item_create_text=案件作成時のメール本文

hptl_jp1_imss_mail_item_escalation_flag=案件エスカレーション時の送信可否
hptl_jp1_imss_mail_item_escalation_title=案件エスカレーション時のメールタイトル
hptl_jp1_imss_mail_item_escalation_text=案件エスカレーション時のメール本文

hptl_jp1_imss_mail_item_charge_flag=案件担当者変更時の送信可否
hptl_jp1_imss_mail_item_charge_title=案件担当者変更時のメールタイトル
hptl_jp1_imss_mail_item_charge_text=案件担当者変更時のメール本文

hptl_jp1_imss_mail_item_close_flag=案件クローズ時の送信可否
hptl_jp1_imss_mail_item_close_title=案件クローズ時のメールタイトル
hptl_jp1_imss_mail_item_close_text=案件クローズ時のメール本文
```

hptl_jp1_imss_mail_item_recall_flag=案件の引き戻し時の送信可否
hptl_jp1_imss_mail_item_recall_title=案件の引き戻し時のメールタイトル
hptl_jp1_imss_mail_item_recall_text=案件の引き戻し時のメール本文

hptl_jp1_imss_mail_item_sendback_flag=案件の差し戻し時の送信可否
hptl_jp1_imss_mail_item_sendback_title=案件の差し戻し時のメールタイトル
hptl_jp1_imss_mail_item_sendback_text=案件の差し戻し時のメール本文

hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_mail_maximum_num=担当者あての1通のメールにまとめる案件の最大数 (期限前通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_title=担当者あてメールのタイトル (期限前通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text=担当者あてメールの本文 (期限前通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text_rep=担当者あてメールの本文 (繰り返し部分) (期限前通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text_over=担当者あてメールの本文 (1通にまとめる最大数を越えた場合) (期限前通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_pwb_title=プロセスワークボード管理者あてメールのタイトル (期限前通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_pwb_text=プロセスワークボード管理者あてメールの本文 (期限前通知)

hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_mail_maximum_num=担当者あての1通のメールにまとめる案件の最大数 (滞留案件通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_title=担当者あてメールのタイトル (滞留案件通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_text=担当者あてメールの本文 (滞留案件通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_text_rep=担当者あてメールの本文 (繰り返し部分) (滞留案件通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_text_over=担当者あてメールの本文 (1通にまとめる最大数を越えた場合) (滞留案件通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_pwb_title=プロセスワークボード管理者あてメールのタイトル (滞留案件通知)
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_pwb_text=プロセスワークボード管理者あてメールの本文 (滞留案件通知)

hptl_jp1_imss_mail_use_jssitementrybymail=メールによる案件登録の運用可否
hptl_jp1_imss_mail_pop3_server=POP3サーバのアドレス
hptl_jp1_imss_mail_pop3_port=POP3サーバのポート番号
hptl_jp1_imss_mail_pop3_domain=メールから案件登録するユーザーのドメイン
hptl_jp1_imss_mail_pop3_address=メールから案件登録するユーザーのメールアドレス
hptl_jp1_imss_mail_pop3_user=メールによる案件登録用メールの送信先となるメールサーバのユーザーアカウント
hptl_jp1_imss_mail_pop3_password=メールによる案件登録用メールの送信先となるメールサーバのパスワード
hptl_jp1_imss_mail_receive_number=メールサーバから一度に取得するメールの件数
hptl_jp1_imss_mail_messageid_maxlen=二重登録抑止に使用するメールのMessageID長
hptl_jp1_imss_mail_tmp_file_max_size=メール一時退避ファイルの最大サイズ
hptl_jp1_imss_mail_tmp_file_max_num=メール一時退避ファイルの最大出力数
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_path=添付ファイルの出力先フォルダのパス
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_folder_max=添付ファイル出力先の最大フォルダ数
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_max_size=出力する添付ファイルの最大サイズ
hptl_jp1_imss_mail_operation_mode=メールによる案件登録の動作モード
hptl_jp1_imss_mail_source_address=メールの送信元アドレスを設定する案件項目の案件項目指定ID
hptl_jp1_imss_mail_itemdata_set_form=メール本文の内容を設定する案件項目の案件項目指定ID
hptl_jp1_imss_mail_format_error_string=メール本文のフォーマットチェックでエラーとなった項目がある場合、案件のタイトルの冒頭に追加する文字列

#で始まる行はコメント扱いとなります。

ファイル名

- jplimss_mail_setting.conf
- jplimss_mail_setting.conf.model (メール定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはメール定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。メール定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでメール定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf

定義の反映時期

次の JP1/Service Support のサービスを再起動したあと、反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

次のコマンドについては、実行時に反映されます。

- jssitementrybymail (メールによる案件登録) コマンド
- jssinformleave (滞留案件通知) コマンド
- jssinformperiod (期限前通知) コマンド
- jssitementry (案件登録) コマンド※
- jssitemedit (案件編集) コマンド※
- jssauthusersetup (認証ユーザー設定) コマンド

注※

jssitementry (案件登録) コマンドおよび jssitemedit (案件編集) コマンドでは、-mail オプションを指定して実行したときに反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。また、指定キーと値は「= (イコール)」でつないでください。

メールサーバ, メール送信設定

表 13-52 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧 (メールサーバ, メール送信設定)

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_server	メールを送信する SMTP サーバ名を指定する。	localhost	△
hptl_jpl_imss_mail_port	メールを送信する SMTP サーバのポート番号を指定する。 1~65535 の範囲で指定する。	25	△
hptl_jpl_imss_mail_user_max	一度に送信できる最大ユーザー数を指定する。 ここで指定した数を超えるユーザーにメールを送信する場合, ここで指定した数でユーザー数を区切ってメールを送信する。 0~1000 の範囲で指定する。 0 を定義した場合, 送信する最大ユーザー数の制限をしない。	256	△
hptl_jpl_imss_mail_form_name	メールソフトで表示するためのメール送信者の名前を指定する。	JP1/SS	△
hptl_jpl_imss_mail_form_address	メールソフトで表示するためのメール送信者のメールアドレスを指定する。 例: administrator@hitachi.com 誤ったメールアドレスを指定した場合でも, そのまま送信されるため, 注意すること。	—	○
hptl_jpl_imss_mail_charset	期限前通知用および滞留案件通知用のメールの文字コードを指定する。次のコードから指定できる。 <ul style="list-style-type: none"> us-ascii: ANSI コード iso-8859-1: Latin 1 コード iso-2022-jp: JIS コード shift_jis: シフト JIS euc-jp: EUC utf-8: Unicode UTF-8 Windows-31J: Windows-31J GB18030: GB18030 コード GB2312: GB2312 コード GBK: GBK コード 	日本語環境の場合: iso-2022-jp 英語環境の場合: ISO-8859-1 中国語環境の場合: GB18030	△
hptl_jpl_imss_mail_notice_charset	期限前通知メールおよび滞留案件通知メール以外の, 次の操作をする際に送信されるメールの文字コードを指定する。 <ul style="list-style-type: none"> 案件の作成 案件のエスカレーション 案件の担当者の変更 案件のクローズ 	日本語環境の場合: Windows-31J 英語環境の場合: ISO-8859-1 中国語環境の場合: GB18030	△

指定キー名	説明	デフォルト値	指定 要否
hptl_jpl_imss_mail_notice_charaset	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザーの削除 • ロールの削除 次のコードから指定できる。 <ul style="list-style-type: none"> • us-ascii : ANSI コード • iso-8859-1 : Latin 1 コード • iso-2022-jp : JIS コード • shift_jis : シフト JIS • euc-jp : EUC • utf-8 : Unicode UTF-8 • Windows-31J : Windows-31J • GB18030 : GB18030 コード • GB2312 : GB2312 コード • GBK : GBK コード 	日本語環境の場合 : Windows-31J 英語環境の場合 : ISO-8859-1 中国語環境の場合 : GB18030	△
hptl_jpl_imss_mail_format	メールの形式を指定する。	text/plain	△
hptl_jpl_imss_mail_failure_display_flag	次に示すメール送信に失敗した場合に、画面にメール送信に失敗したことを通知するメッセージを表示するかどうかを指定する。 ON のときに表示する。ON 以外のときは表示しない。 <ul style="list-style-type: none"> • 案件作成通知※ • 案件エスカレーション通知 • 案件の担当者変更通知※ • 案件クローズ通知※ • 案件の引き戻し通知 • 案件の差し戻し通知 注※ メール通知するオプションを指定してコマンドを実行しメール送信に失敗した場合、hptl_jpl_imss_mail_failure_display_flag に ON を指定していても画面にメッセージは表示されない。	OFF	△

(凡例)

- : 必ず指定する
- △ : 必要に応じて指定する
- : 設定値なし

メール送信時のユーザー認証設定

表 13-53 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧 (メール送信時のユーザー認証設定)

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_auth_method	<p>メール送信時の認証方式を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • none：認証なし メール送信時にユーザー認証しない。 • pop-before-smtp：POP before SMTP 認証 POP before SMTP 認証を使用してユーザー認証する。 • smtp-auth：SMTP-AUTH 認証 SMTP-AUTH 認証を使用してユーザー認証する。 	none	○
hptl_jpl_imss_mail_smtp_auth_port	SMTP-AUTH 認証でユーザー認証する場合、メール送信する際のサブミッションポート番号を指定する。	587	△
hptl_jpl_imss_mail_smtp_user	POP before SMTP 認証または SMTP-AUTH 認証でユーザー認証する場合、メール送信する際のユーザー ID を指定する。 ただし、hptl_jpl_imss_mail_smtp_user の値は、jssauthusersetup コマンドを実行して設定する。jssauthusersetup コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「 jssauthusersetup (認証ユーザー設定) 」参照のこと。	—	△
hptl_jpl_imss_mail_smtp_password	POP before SMTP 認証または SMTP-AUTH 認証でユーザー認証する場合、メール送信する際のパスワードを指定する。 ただし、hptl_jpl_imss_mail_smtp_password の値は、jssauthusersetup コマンドを実行して設定する。jssauthusersetup コマンドを実行すると、プログラム変換された値に変更される。jssauthusersetup コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「 jssauthusersetup (認証ユーザー設定) 」参照のこと。	—	△
hptl_jpl_imss_mail_connect_timeout	SMTP サーバおよび POP3 サーバとの接続完了を待つタイムアウト時間を、ミリ秒単位で指定する。 1000～3600000 の範囲で指定する。	10000	△
hptl_jpl_imss_mail_socket_timeout	SMTP サーバおよび POP3 サーバからの応答を受信するまでのタイムアウト時間を、ミリ秒単位で指定する。	10000	△

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_socket_timeout	1000～3600000 の範囲で指定する。	10000	△

(凡例)

- ：必ず指定する
- △：必要に応じて指定する
- －：設定値なし

ユーザー削除時のメール送信設定

表 13-54 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧 (ユーザー削除時のメール送信設定)

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_user_delete_flag	ユーザー削除時にメールを送信するかどうかを指定する。ON のとき送信する。ON 以外のときは送信しない。	OFF	△
hptl_jpl_imss_mail_user_delete_title	ユーザー削除時に送信するメールのタイトルを指定する。 制御文字 (0x00～0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できる。変数によるタイトルの置き換えができる。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 「¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合は、表示されない。	【ユーザー削除通知】	△
hptl_jpl_imss_mail_user_delete_text	ユーザー削除時に送信するメールの本文を指定する。 変数による本文の置き換えができる。* 制御文字 (0x00～0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できる。 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 改行を使用したい場合は「¥n」と指定する。 タブを使用したい場合は「¥t」と指定する。 「¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合(次の文字が n, t, ¥以外)は、表示されない。	ユーザー「%USERID% (%USERNAME%)」が削除されました。¥n ユーザー「%USERID% (%USERNAME%)」に関する案件の確認をお願いします。	△

(凡例)

- △：必要に応じて指定する

注※

変数については、次の「変数による情報の変換について」を参照してください。

ロール削除時のメール送信設定

表 13-55 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧（ロール削除時のメール送信設定）

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_role_delete_flag	ロール削除時にメールを送信するかどうかを指定する。ON のとき送信する。ON 以外のときは送信しない。	OFF	△
hptl_jpl_imss_mail_role_delete_title	ロール削除時に送信するメールのタイトルを指定する。 制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字列が指定できる。変数によるタイトルの置き換えができる。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 「¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合は、表示されない。	【ロール削除通知】	△
hptl_jpl_imss_mail_role_delete_text	ロール削除時に送信するメールの本文を指定する。 制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字列が指定できる。変数による本文の置き換えができる。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 改行を使用したい場合は「¥n」と指定する。 タブを使用したい場合は「¥t」と指定する。 「¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合(次の文字が n, t, ¥以外)は、表示されない。	ロール「%ROLEID% (%ROLENAMENAME%)」が削除されました。¥n ロール「%ROLEID% (%ROLENAMENAME%)」に関する案件の確認をお願いします。	△

(凡例)

△：必要に応じて指定する

注※

変数については、次の「変数による情報の変換について」を参照してください。

案件作成時のメール送信設定

表 13-56 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧（案件作成時のメール送信設定）

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_item_create_flag	案件作成時にメールを送信するかどうかを指定する。ON のとき送信する。ON 以外のときは送信しない。	OFF	△
hptl_jpl_imss_mail_item_create_title	案件作成時に送信するメールのタイトルを指定する。	【案件作成通知 %ITEMID% %TITLE%】	△

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_item_create_title	制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字列が指定できる。変数によるタイトルの置き換えができる。＊ 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 「¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合は、表示されない。	【案件作成通知 %ITEMID%】 %TITLE%	△
hptl_jpl_imss_mail_item_create_text	案件作成時に送信するメールの本文を指定する。 制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字列が指定できる。変数による本文の置き換えができる。＊ 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 改行を使用したい場合は「¥n」と指定する。 タブを使用したい場合は「¥t」と指定する。 「¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合(次の文字が n, t, ¥以外)は、表示されない。	「%SYSTEM%」システムの 「%PROCESS%」プロセスで新規案件が作成されました。¥n 案件 ID： %ITEMID%¥n タイトル：%TITLE %¥n 優先度：%PRIORITY%¥n ステータス：%STATUS%¥n 担当者： %CHARGE%¥n 作業期限： %PERIOD%¥n	△

(凡例)

△：必要に応じて指定する

注※

変数については、次の「変数による情報の変換について」を参照してください。

案件エスカレーション時のメール送信設定

表 13-57 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧（案件エスカレーション時のメール送信設定）

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_item_escalation_flag	案件エスカレーション時にメールを送信するかどうかを指定する。ON のとき送信する。ON 以外のときは送信しない。	OFF	△
hptl_jpl_imss_mail_item_escalation_title	案件エスカレーション時に送信するメールのタイトルを指定する。 制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字列が指定できる。変数によるタイトルの置き換えができる。＊ 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 「¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合は、表示されない。	【案件エスカレーション通知 %ITEMID%】 %TITLE%	△

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_item_escalation_text	<p>案件エスカレーション時に送信するメールの本文を指定する。</p> <p>制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できる。変数による本文の置き換えができる。*</p> <p>「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。</p> <p>改行を使用したい場合は「%n」と指定する。</p> <p>タブを使用したい場合は「%t」と指定する。</p> <p>「%¥」を指定した場合は「¥」に変換される。</p> <p>「¥」だけを指定した場合(次の文字が n, t, ¥以外)は、表示されない。</p>	<p>「%SYSTEM%」システムの</p> <p>「%PROCESS%」プロセスに案件がエスカレーションされました。¥n 案件 ID : %ITEMID%¥n タイトル : %TITLE%¥n 優先度 : %PRIORITY%¥n ステータス : %STATUS%¥n 担当者 : %CHARGE%¥n 作業期限 : %PERIOD%¥n</p>	△

(凡例)

△ : 必要に応じて指定する

注※

変数については、次の「変数による情報の変換について」を参照してください。

案件担当者変更時のメールタイトル, 本文

表 13-58 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧 (案件担当者変更時のメールタイトル, 本文)

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_item_charge_flag	<p>案件担当者変更時にメールを送信するかどうかを指定する。ON のとき送信する。ON 以外のときは送信しない。</p>	OFF	△
hptl_jpl_imss_mail_item_charge_title	<p>案件担当者変更時に送信するメールのタイトルを指定する。</p> <p>制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できる。変数によるタイトルの置き換えができる。*</p> <p>「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。</p> <p>「%¥」を指定した場合は「¥」に変換される。</p> <p>「¥」だけを指定した場合は、表示されない。</p>	【案件担当者変更通知 %ITEMID%】%TITLE%	△
hptl_jpl_imss_mail_item_charge_text	<p>案件担当者変更時に送信するメールの本文を指定する。</p> <p>制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できる。変数による本文の置き換えができる。*</p> <p>「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。</p>	<p>「案件 ID : %ITEMID%」の案件の担当者が変更になりました。¥n システム : %SYSTEM%¥n プロセス : %PROCESS%¥n タイトル : %TITLE%¥n 優先度 : %PRIORITY%¥n ステータス : %STATUS%¥n 担当者 :</p>	△

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_item_charge_text	改行を使用したい場合は「¥n」と指定する。 タブを使用したい場合は「¥t」と指定する。 「¥¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合(次の文字が n, t, ¥以外)は、表示されない。	%CHARGE%¥n 作業期限： %PERIOD%¥n	△

(凡例)

△：必要に応じて指定する

注※

変数については、次の「変数による情報の変換について」を参照してください。

案件クローズ時のメールタイトル、本文

表 13-59 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧 (案件クローズ時のメールタイトル、本文)

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_item_close_flag	案件クローズ時にメールを送信するかどうかを指定する。ON のとき送信する。ON 以外のときは送信しない。	OFF	△
hptl_jpl_imss_mail_item_close_title	案件クローズ時に送信するメールのタイトルを指定する。 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できる。変数によるタイトルの置き換えができる。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 「¥¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合は、表示されない。	【案件クローズ通知 %ITEMID%】 %TITLE%	△
hptl_jpl_imss_mail_item_close_text	案件クローズ時に送信するメールの本文を指定する。 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字列が指定できる。変数による本文の置き換えができる。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 改行を使用したい場合は「¥n」と指定する。 タブを使用したい場合は「¥t」と指定する。 「¥¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合(次の文字が n, t, ¥以外)は、表示されない。	「案件 ID：%ITEMID%」の案件がクローズになりました。¥n システム：%SYSTEM%¥n プロセス：%PROCESS%¥n タイトル：%TITLE%¥n 優先度：%PRIORITY%¥n ステータス：%STATUS%¥n 担当者：%CHARGE%¥n 作業期限：%PERIOD%¥n	△

(凡例)

△：必要に応じて指定する

注※

変数については、次の「変数による情報の変換について」を参照してください。

メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧（案件の引き戻し時のメールタイトル，本文）

表 13-60 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧（案件の引き戻し時のメールタイトル，本文）

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_item_rec all_flag	案件の引き戻し時にメールを送信するかどうかを指定する。ON のとき送信する。ON 以外のときは送信しない。	OFF	△
hptl_jpl_imss_mail_item_rec all_title	案件の引き戻し時に送信するメールのタイトルを指定する。 制御文字（0x00～0x1F，0x7F）以外の文字列が指定できる。変数によるタイトルの置き換えができる。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 「¥¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合は、表示されない。	【案件引き戻し通知 %ITEMID%】 %TITLE%	△
hptl_jpl_imss_mail_item_rec all_text	案件の引き戻し時に送信するメールの本文を指定する。 制御文字（0x00～0x1F，0x7F）以外の文字列が指定できる。変数による本文の置き換えができる。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 改行を使用したい場合は「¥n」と指定する。 タブを使用したい場合は「¥t」と指定する。 「¥¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合(次の文字が n, t, ¥以外)は、表示されない。	「案件 ID：%ITEMID%」の案件が引き戻されました。¥n システム：%SYSTEM%¥n プロセス：%PROCESS%¥n タイトル：%TITLE%¥n 優先度：%PRIORITY%¥n ステータス：%STATUS%¥n 担当者：%CHARGE%¥n 作業期限：%PERIOD%¥n	△

(凡例)

△：必要に応じて指定する

注※

変数については、次の「変数による情報の変換について」を参照してください。

メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧（案件の差し戻し時のメールタイトル、本文）

表 13-61 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧（案件の差し戻し時のメールタイトル、本文）

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_item_sendback_flag	案件の差し戻し時にメールを送信するかどうかを指定する。ON のとき送信する。ON 以外の場合は送信しない。	OFF	△
hptl_jpl_imss_mail_item_sendback_title	案件の差し戻し時に送信するメールのタイトルを指定する。 制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字列が指定できる。変数によるタイトルの置き換えができる。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 「¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合は、表示されない。	【案件差し戻し通知 %ITEMID%】 %TITLE%	△
hptl_jpl_imss_mail_item_sendback_text	案件の差し戻し時に送信するメールの本文を指定する。 制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字列が指定できる。変数による本文の置き換えができる。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。 改行を使用したい場合は「¥n」と指定する。 タブを使用したい場合は「¥t」と指定する。 「¥」を指定した場合は「¥」に変換される。 「¥」だけを指定した場合(次の文字が n, t, ¥以外)は、表示されない。	「案件 ID：%ITEMID%」の案件が差し戻されました。¥n システム： %SYSTEM%¥n プロセス： %PROCESS%¥n タイトル： %TITLE%¥n 優先度： %PRIORITY%¥n ステータス： %STATUS%¥n 担当者： %CHARGE%¥n 作業期限： %PERIOD%¥n	△

（凡例）

△：必要に応じて指定する

注※

変数については、次の「変数による情報の変換について」を参照してください。

期限前通知のための設定

表 13-62 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧（期限前通知のための設定）

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_inform_deadline_mail_maximum_number	期限前通知の担当者あてに送る 1 通のメールにまとめる案件の最大数を指定する。 指定できる値は 1～100 の半角数字（整数）。	20	△

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_inform_deadline_assigned_title	期限前通知の担当者あてメールのタイトルを指定する。	【作業期限通知 担当者向け】 案件の作業期限が迫っています	△
hptl_jpl_imss_mail_inform_deadline_assigned_text	期限前通知の担当者あてメールの本文を指定する。＊ 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。改行を使用したい場合は「%n」と指定する。	作業期限が近づいている案件は%ITEMNUM_ASSIGNED%件です。%n 優先度が大至急の案件は%ITEMNUM_PRIHIGH_ASSIGNED%件です。%n 優先度が至急の案件は%ITEMNUM_PRIMID_ASSIGNED%件です。%n 優先度が標準の案件は%ITEMNUM_PRINOR_ASSIGNED%件です。%n システム：%SYSTEM% プロセス：%PROCESS% -----%n	△
hptl_jpl_imss_mail_inform_deadline_assigned_text_rep	期限前通知の担当者あてメールの本文（繰り返し部分）を指定する。＊ 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。改行を使用したい場合は「%n」と指定する。	%ITEMID%の案件の作業期限が近づいています。%n タイトル：%TITLE% 優先度：%PRIORITY% ステータス：%STATUS% 担当者：%CHARGE% 作業期限：%PERIOD% -----%n	△
hptl_jpl_imss_mail_inform_deadline_assigned_text_overflow	1通にまとめる案件の最大数を越えたときに出力される、期限前通知の担当者あてメールの本文を指定する。＊ 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。改行を使用したい場合は「%n」と指定する。	本通知に記載できる案件の上限数を超過しました。%n 期限が近づいている案件が残り%ITEMNUM_ASSIGNED_REMAIN%件あります。%n	△
hptl_jpl_imss_mail_inform_deadline_pwb_title	期限前通知のプロセスワークボード管理者あてメールのタイトルを指定する。＊ 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。改行を使用したい場合は「%n」と指定する。	【作業期限通知 プロセスワークボード管理者向け】 %ITEMNUM_PWB%件の案件の作業期限が迫っています	△
hptl_jpl_imss_mail_inform_deadline_pwb_text	期限前通知のプロセスワークボード管理者あてメールの本文を指定する。＊ 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。改行を使用したい場合は「%n」と指定する。	作業期限が近い案件数をお知らせします。%n 期限前日数：%BEFORE_DAYS% %n メール通知回数設定： %SEND_FREQUENCY% システム：%SYSTEM% %n	△

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_inform_deadline_pwb_text	期限前通知のプロセスワークボード管理者あてメールの本文を指定する。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。改行を使用したい場合は「¥n」と指定する。	プロセス：%PROCESS%¥n 案件数：%ITEMNUM_PWB%¥n 優先度が大至急の案件は%ITEMNUM_PRIHIGH_PWB%¥n件です。¥n 優先度が至急の案件は%ITEMNUM_PRIMID_PWB%¥n件です。¥n 優先度が標準の案件は%ITEMNUM_PRINOR_PWB%¥n件です。¥n	△

(凡例)

△：必要に応じて指定する

注※

変数については、次の「変数による情報の変換について」を参照してください。

滞留案件通知のための設定

表 13-63 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧 (滞留案件通知のための設定)

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_inform_leave_mail_maximum_num	滞留案件通知の担当者あてに送る 1 通のメールにまとめる案件の最大数を指定する。 指定できる値は 1~100 の半角数字 (整数)。	20	△
hptl_jpl_imss_mail_inform_leave_assigned_title	滞留案件通知の担当者あてメールのタイトルを指定する。	【滞留案件通知 担当者向け】 案件の処理が遅れています	△
hptl_jpl_imss_mail_inform_leave_assigned_text	滞留案件通知の担当者あてメールの本文を指定する。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。改行を使用したい場合は「¥n」と指定する。	処理が遅れている案件は%ITEMNUM_ASSIGNED%¥n件です。¥n %ITEMNUM_LEAVE_DETAIL%¥n 監視対象となる優先度： %PRIORITY_LIST%¥n 更新されていない時間：¥n %ITEM_LEAVE_THRESHOLD%¥n システム：%SYSTEM%¥n プロセス：%PROCESS%¥n-----¥n	△
hptl_jpl_imss_mail_inform_leave_assigned_text_rep	滞留案件通知の担当者あてメールの本文 (繰り返し部分) を指定する。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。改行を使用したい場合は「¥n」と指定する。	%ITEMID%の案件の処理が遅れています。¥n タイトル：%TITLE%¥n 優先度：%PRIORITY%¥n ステータス：%STATUS%¥n 担当者：%CHARGE%¥n 更新日時：%LASTUPDATE%¥n-----¥n	△

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_inform_1 eave_assigned_text_over	1 通にまとめる案件の最大数を越えたときに出力される、滞留案件通知の担当者あてメールの本文を指定する。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。改行を使用したい場合は「%n」と指定する。	本通知に記載できる案件の上限数を越えました。%n 処理が遅れている案件が残 り%ITEMNUM_ASSIGNED_RE MAIN%件あります。%n	△
hptl_jpl_imss_mail_inform_1 eave_pwb_title	滞留案件通知のプロセスワークボード管理者あてメールのタイトルを指定する。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。改行を使用したい場合は「%n」と指定する。	【滞留案件通知 プロセスワークボード管理者向け】 %ITEMNUM_PWB %件の案件の処理が遅れています	△
hptl_jpl_imss_mail_inform_1 eave_pwb_text	滞留案件通知のプロセスワークボード管理者あてメールの本文を指定する。* 「%」を使用したい場合は「%%」と指定する。改行を使用したい場合は「%n」と指定する。	処理が遅れている案件数をお知らせします。%n 処理が遅れている案件は%ITEMNUM_PWB%件です。%n %ITEMNUM_LEAVE_DETAIL% %n 監視対象となる優先度： %PRIORITY_LIST% %n 更新されていない時間：%n %ITEM_LEAVE_THRESHOLD% %n システム：%SYSTEM% %n プロセス：%PROCESS% %n	△

(凡例)

△：必要に応じて指定する

注※

変数については、次の「変数による情報の変換について」を参照してください。

メールによる案件登録のための設定

表 13-64 メール定義ファイルで設定できる指定キー一覧 (メールによる案件登録のための設定)

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jpl_imss_mail_use_jssitementryb ymail	メールによる案件登録コマンドを使用するかどうかを設定する。ON 以外のときは、メールによる案件登録コマンドは使用できない。	OFF	○
hptl_jpl_imss_mail_pop3_server	POP3 サーバのアドレスを指定する。	localhost	△
hptl_jpl_imss_mail_pop3_port	POP3 サーバのポート番号を指定する。 指定できる値は 1~65535 の半角数字 (整数)。	110	○
hptl_jpl_imss_mail_pop3_domain	メールから案件を登録できるユーザーをドメインで指定する。複数指定する場合は「;」で区切って記述する。最大 100 のドメイン (RFC822 に準拠した文字列) を指定できる。*1	-	△

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jp1_imss_mail_pop3_address	メールから案件を登録できるユーザーのメールアドレスを指定する。複数指定する場合は「;」で区切って記述する。最大 1,000 のメールアドレス (RFC822 に準拠した文字列) を指定できる。 ※1	—	○
hptl_jp1_imss_mail_pop3_user	メールによる案件登録用メールの送信先となるメールサーバのユーザーアカウントを指定する。ただし、hptl_jp1_imss_mail_pop3_user の値は、jssauthusersetup コマンドを実行して設定する。jssauthusersetup コマンドの詳細については、「12. コマンド」の「jssauthusersetup (認証ユーザー設定)」参照のこと。	—	○
hptl_jp1_imss_mail_pop3_password	メールによる案件登録用メールの送信先となるメールサーバのパスワードを指定する。ただし、hptl_jp1_imss_mail_pop3_password の値は、jssauthusersetup コマンドを実行して設定する。jssauthusersetup コマンドを実行すると、プログラム変換された値に変更される。	—	○
hptl_jp1_imss_mail_receive_number	メールサーバから一度に取得するメールの件数を指定する。 指定できる値は 1~100 の半角数字 (整数)。	50	○
hptl_jp1_imss_mail_messageid_maxlen	二重登録を抑止するために使用するメールの MessageID 長を、バイト単位で指定する。 指定できる値は 1~255 の半角数字 (整数)。	64	○
hptl_jp1_imss_mail_tmp_file_max_size	メール一時退避ファイルの最大ファイルサイズを、メガバイト単位で指定する。 指定できる値は 1~10 の半角数字 (整数)。	5	○
hptl_jp1_imss_mail_tmp_file_max_num	メール一時退避ファイルとして出力する最大ファイル数を指定する。 指定できる値は 1~200 の半角数字 (整数)。	100	○
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_path	添付ファイルの出力先フォルダのパスを 100 文字以内で指定する。パスは「/ (スラント)」で区切る。	—	○
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_folder_max	添付ファイルの出力先となる最大フォルダ数を指定する。 指定できる値は 1~999 の半角数字 (整数)。	200	○
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_max_size	出力できる添付ファイルの最大サイズを、メガバイト単位で指定する。 指定できる値は 1~5 の半角数字 (整数)	5	○
hptl_jp1_imss_mail_operation_mode	メールによる案件登録の動作モードを指定する。 • apd : 添付ファイルモード	apd	○

指定キー名	説明	デフォルト値	指定要否
hptl_jp1_imss_mail_operation_mode	<p>メール本文の内容を、添付ファイルとして案件に登録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • single：シングルモード メール本文の内容を、一つの案件項目に設定して登録する。 • multi：マルチモード メールの本文を XML 形式に従って記述することで開始タグと終了タグで囲んだ内容を、案件の各項目に設定して登録する。 	apd	○
hptl_jp1_imss_mail_source_address	<p>メールの送信元アドレスを設定する案件項目の案件項目指定 ID を指定する。^{※2}</p> <p>案件項目が text 型または textarea 型の案件項目指定 ID を指定できる。</p>	—	△
hptl_jp1_imss_mail_itemdata_set_form	<p>メールによる案件登録の動作モードがシングルモードの場合、メール本文の内容を設定する案件項目の案件項目指定 ID を指定する。^{※2}</p> <p>案件項目が textarea 型の案件項目指定 ID を指定できる。</p>	SUMMARY	△
hptl_jp1_imss_mail_format_error_string	<p>メールによる案件登録の動作モードがシングルモードまたはマルチモードの場合、メール本文のフォーマットチェックでエラーとなった項目があるときに、案件のタイトルの冒頭に追加する文字列を、20 バイト以内で指定する。なお、文字列に全角文字を含む場合、全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。</p>	[!]	△

(凡例)

- ：必ず指定する
- △：必要に応じて指定する
- ：設定値なし

注※1

「hptl_jp1_imss_mail_pop3_domain」および「hptl_jp1_imss_mail_pop3_address」を同時に指定した場合、両方の指定内容でメールによる案件登録ができます。

注※2

指定できる案件項目と案件項目指定 ID については、「3.5.3 メールによる案件の作成」を参照してください。

変数による情報の変換について

メールタイトル、メール本文には、変数を使って案件情報に含まれる情報を指定できます。メール送信時に、変数が案件情報中の情報に変換されて送信されます。変数を記述する場合は、「%USERID%」のような形式で指定します。使用できる変数および変換後の内容を次に示します。

表 13-65 メールタイトル, メール本文で使用できる変数

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
ユーザー削除	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_user_delete_title • hptl_jp1_imss_mail_user_delete_text 	%USERID%
		%USERNAME%
ロール削除	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_role_delete_title • hptl_jp1_imss_mail_role_delete_text 	%ROLEID%
		%ROLENAME%
案件の作成	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_create_title • hptl_jp1_imss_mail_item_create_text 	%ITEMID%
		%TITLE%
		%SYSTEM%
		%PROCESS%
		%PROCESSITEMID%
		%SEVERITY%
		%SEVERITYREASON%
		%IMPACT%
		%IMPACTREASON%
		%PRIORITY%
		%PRIORITYREASON%
		%ITEMCATEGORY%
		%ISSUECATEGORY%
		%CHANGESCALE%
		%RELEASETYPE%
		%STATUS%
		%RESULT%
		%ACCRUALDATE%
		%PHENOMENON%
		%SOLUTION%
%REGISTRANT%		
%REGISTDATE%		
%CHARGE%		
%PERIOD%		
%RESPONDENT%		
%STARTDATE%		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件の作成	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_create_title • hptl_jp1_imss_mail_item_create_text 	%COMPDATE%
		%CUSTOMERNAME%
		%INQUIRYNAME%
		%ESTIMATEDCOST%
		%ACTUALCOST%
		%EFFECTSERVICE% (メールタイトルには指定できません。)
		%FAILURELOCATION% (メールタイトルには指定できません。)
		%SUMMARY% (メールタイトルには指定できません。)
		%AVOIDANCECODE%
		%AVOIDANCE% (メールタイトルには指定できません。)
		%SITUATION% (メールタイトルには指定できません。)
		%MEASURES% (メールタイトルには指定できません。)
		%CAUSE%
		%ROOTCAUSE% (メールタイトルには指定できません。)
		%SOLUTION% (メールタイトルには指定できません。)
		%SCHEDULE% (メールタイトルには指定できません。)
		%IMPACTEVAL% (メールタイトルには指定できません。)
		%DELIBERATIONRST% (メールタイトルには指定できません。)
%FREEDESCRIPTION% (メールタイトルには指定できません。)		
%JP1PRODUCTNAME%		
%JP1JOBNETNAME%		
%JP1JOBNAME%		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件の作成	<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_item_create_title hptl_jp1_imss_mail_item_create_text 	%JP1SNMPSRC%
		%JP1NODENAME%
		%JP1ALARMNAME%
		%LASTUPDATE%
		%IMEVENTNO%
		%IMHOSTNAME%
		%USERTEXT01%~%USERTEXT20% (メールタイトルには指定できません。)
		%USERINT01%~%USERINT05%
		%USEREXTTYPE01%~%USEREXTTYPE05%
		%USERCODE01%~%USERCODE05%
%USERTIME01%~%USERTIME05%		
案件のエスカレーション	<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_item_escalation_title hptl_jp1_imss_mail_item_escalation_text 	%ITEMID%
		%TITLE%
		%SYSTEM%
		%PROCESS%
		%PROCESSITEMID%
		%SEVERITY%
		%SEVERITYREASON%
		%IMPACT%
		%IMPACTREASON%
		%PRIORITY%
		%PRIORITYREASON%
		%ITEMCATEGORY%
		%ISSUECATEGORY%
		%CHANGESCALE%
		%RELEASESTYPE%
		%STATUS%
%RESULT%		
%ACCRUALDATE%		
%PHENOMENON%		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件のエスカレーション	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_escalation_title • hptl_jp1_imss_mail_item_escalation_text 	%SOLUTION%
		%REGISTRANT%
		%REGISTDATE%
		%CHARGE%
		%PERIOD%
		%RESPONDENT%
		%STARTDATE%
		%COMPDATE%
		%CUSTOMERNAME%
		%INQUIRYNAME%
		%ESTIMATEDCOST%
		%ACTUALCOST%
		%EFFECTSERVICE% (メールタイトルには指定できません。)
		%FAILURELOCATION% (メールタイトルには指定できません。)
		%SUMMARY% (メールタイトルには指定できません。)
		%AVOIDANCECODE%
		%AVOIDANCE% (メールタイトルには指定できません。)
		%SITUATION% (メールタイトルには指定できません。)
		%MEASURES% (メールタイトルには指定できません。)
		%CAUSE%
%ROOTCAUSE% (メールタイトルには指定できません。)		
%SOLUTION% (メールタイトルには指定できません。)		
%SCHEDULE% (メールタイトルには指定できません。)		
%IMPACTEVAL%		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件のエスカレーション	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_escalation_title • hptl_jp1_imss_mail_item_escalation_text 	(メールタイトルには指定できません。)
		%DELIBERATIONRST% (メールタイトルには指定できません。)
		%FREEDESCRIPTION% (メールタイトルには指定できません。)
		%JP1PRODUCTNAME%
		%JP1JOBNETNAME%
		%JP1JOBNAME%
		%JP1SNMPSRC%
		%JP1NODENAME%
		%JP1ALARMNAME%
		%LASTUPDATE%
		%IMEVENTNO%
		%IMHOSTNAME%
		%USERTEXT01%~%USERTEXT20% (メールタイトルには指定できません。)
		%USERINT01%~%USERINT05%
		%USEREXTTYPE01%~%USEREXTTYPE05%
%USERCODE01%~%USERCODE05%		
%USERTIME01%~%USERTIME05%		
案件の担当者変更	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_charge_title • hptl_jp1_imss_mail_item_charge_text 	%ITEMID%
		%TITLE%
		%SYSTEM%
		%PROCESS%
		%PROCESSITEMID%
		%SEVERITY%
		%SEVERITYREASON%
		%IMPACT%
		%IMPACTREASON%
		%PRIORITY%
		%PRIORITYREASON%

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件の担当者変更	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jpl_imss_mail_item_charge_title • hptl_jpl_imss_mail_item_charge_text 	%ITEMCATEGORY%
		%ISSUECATEGORY%
		%CHANGESCALE%
		%RELEASESTYPE%
		%STATUS%
		%RESULT%
		%ACCRUALDATE%
		%PHENOMENON%
		%SOLUTION%
		%REGISTRANT%
		%REGISTDATE%
		%CHARGE%
		%PERIOD%
		%RESPONDENT%
		%STARTDATE%
		%COMPDATE%
		%CUSTOMERNAME%
		%INQUIRYNAME%
		%ESTIMATEDCOST%
		%ACTUALCOST%
%EFFECTSERVICE%		
(メールタイトルには指定できません。)		
%FAILURELOCATION%		
(メールタイトルには指定できません。)		
%SUMMARY%		
(メールタイトルには指定できません。)		
%AVOIDANCECODE%		
%AVOIDANCE%		
(メールタイトルには指定できません。)		
%SITUATION%		
(メールタイトルには指定できません。)		
%MEASURES%		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件の担当者変更	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_charge_title • hptl_jp1_imss_mail_item_charge_text 	(メールタイトルには指定できません。)
		%CAUSE%
		%ROOTCAUSE%
		(メールタイトルには指定できません。)
		%SOLUTION%
		(メールタイトルには指定できません。)
		%SCHEDULE%
		(メールタイトルには指定できません。)
		%IMPACTEVAL%
		(メールタイトルには指定できません。)
		%DELIBERATIONRST%
		(メールタイトルには指定できません。)
		%FREEDESCRIPTION%
		(メールタイトルには指定できません。)
		%JP1PRODUCTNAME%
		%JP1JOBNETNAME%
		%JP1JOBNAME%
		%JP1SNMPSRC%
		%JP1NODENAME%
		%JP1ALARMNAME%
%LASTUPDATE%		
%IMEVENTNO%		
%IMHOSTNAME%		
%USERTEXT01%~%USERTEXT20%		
(メールタイトルには指定できません。)		
%USERINT01%~%USERINT05%		
%USEREXTTYPE01%~%USEREXTTYPE05%		
%USERCODE01%~%USERCODE05%		
%USERTIME01%~%USERTIME05%		
案件のクローズ	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_close_title • hptl_jp1_imss_mail_item_close_text 	%ITEMID%
		%TITLE%
		%SYSTEM%
		%PROCESS%

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件のクローズ	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_close_title • hptl_jp1_imss_mail_item_close_text 	%PROCESSITEMID%
		%SEVERITY%
		%SEVERITYREASON%
		%IMPACT%
		%IMPACTREASON%
		%PRIORITY%
		%PRIORITYREASON%
		%ITEMCATEGORY%
		%ISSUECATEGORY%
		%CHANGESCALE%
		%RELEASETYPE%
		%STATUS%
		%RESULT%
		%ACCRUALDATE%
		%PHENOMENON%
		%SOLUTION%
		%REGISTRANT%
		%REGISTDATE%
		%CHARGE%
		%PERIOD%
		%RESPONDENT%
		%STARTDATE%
		%COMPDATE%
		%CUSTOMERNAME%
		%INQUIRYNAME%
		%ESTIMATEDCOST%
%ACTUALCOST%		
%EFFECTSERVICE%		
(メールタイトルには指定できません。)		
%FAILURELOCATION%		
(メールタイトルには指定できません。)		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件のクローズ	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_close_title • hptl_jp1_imss_mail_item_close_text 	%SUMMARY% (メールタイトルには指定できません。)
		%AVOIDANCECODE%
		%AVOIDANCE% (メールタイトルには指定できません。)
		%SITUATION% (メールタイトルには指定できません。)
		%MEASURES% (メールタイトルには指定できません。)
		%CAUSE%
		%ROOTCAUSE% (メールタイトルには指定できません。)
		%SOLUTION% (メールタイトルには指定できません。)
		%SCHEDULE% (メールタイトルには指定できません。)
		%IMPACTEVAL% (メールタイトルには指定できません。)
		%DELIBERATIONRST% (メールタイトルには指定できません。)
		%FREEDESCRIPTION% (メールタイトルには指定できません。)
		%JP1PRODUCTNAME%
		%JP1JOBNETNAME%
		%JP1JOBNAME%
		%JP1SNMPSRC%
		%JP1NODENAME%
		%JP1ALARMNAME%
%LASTUPDATE%		
%IMEVENTNO%		
%IMHOSTNAME%		
%USERTEXT01%~%USERTEXT20% (メールタイトルには指定できません。)		
%USERINT01%~%USERINT05%		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件のクローズ	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_close_title • hptl_jp1_imss_mail_item_close_text 	%USEREXTTYPE01%~USEREXTTYPE05
		%USERCODE01%~%USERCODE05%
		%USERTIME01%~%USERTIME05%
案件の引き戻し	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_recall_title • hptl_jp1_imss_mail_item_recall_text 	%ITEMID%
		%TITLE%
		%SYSTEM%
		%PROCESS%
		%PROCESSITEMID%
		%SEVERITY%
		%SEVERITYREASON%
		%IMPACT%
		%IMPACTREASON%
		%PRIORITY%
		%PRIORITYREASON%
		%ITEMCATEGORY%
		%ISSUECATEGORY%
		%CHANGESCALE%
		%RELEASETYPE%
		%STATUS%
		%RESULT%
		%ACCRUALDATE%
		%PHENOMENON%
		%SOLUTION%
%REGISTRANT%		
%REGISTDATE%		
%CHARGE%		
%PERIOD%		
%RESPONDENT%		
%STARTDATE%		
%COMPDATE%		
%CUSTOMERNAME%		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件の引き戻し	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_recall_title • hptl_jp1_imss_mail_item_recall_text 	%INQUIRYNAME%
		%ESTIMATEDCOST%
		%ACTUALCOST%
		%EFFECTSERVICE% (メールタイトルには指定できません。)
		%FAILURELOCATION% (メールタイトルには指定できません。)
		%SUMMARY% (メールタイトルには指定できません。)
		%AVOIDANCECODE%
		%AVOIDANCE% (メールタイトルには指定できません。)
		%SITUATION% (メールタイトルには指定できません。)
		%MEASURES% (メールタイトルには指定できません。)
		%CAUSE%
		%ROOTCAUSE% (メールタイトルには指定できません。)
		%SOLUTION% (メールタイトルには指定できません。)
		%SCHEDULE% (メールタイトルには指定できません。)
		%IMPACTEVAL% (メールタイトルには指定できません。)
		%DELIBERATIONRST% (メールタイトルには指定できません。)
		%FREEDESCRIPTION% (メールタイトルには指定できません。)
		%JP1PRODUCTNAME%
%JP1JOBNETNAME%		
%JP1JOBNAME%		
%JP1SNMPSRC%		
%JP1NODENAME%		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件の引き戻し	<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_item_recall_title hptl_jp1_imss_mail_item_recall_text 	%JP1ALARMNAME%
		%LASTUPDATE%
		%IMEVENTNO%
		%IMHOSTNAME%
		%USERTEXT01%~%USERTEXT20% (メールタイトルには指定できません。)
		%USERINT01%~%USERINT05%
		%USEREXTTYPE01%~%USEREXTTYPE05%
		%USERCODE01%~%USERCODE05%
%USERTIME01%~%USERTIME05%		
案件の差し戻し	<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_item_sendback_title hptl_jp1_imss_mail_item_sendback_text 	%ITEMID%
		%TITLE%
		%SYSTEM%
		%PROCESS%
		%PROCESSITEMID%
		%SEVERITY%
		%SEVERITYREASON%
		%IMPACT%
		%IMPACTREASON%
		%PRIORITY%
		%PRIORITYREASON%
		%ITEMCATEGORY%
		%ISSUECATEGORY%
		%CHANGESCALE%
		%RELEASETYPE%
		%STATUS%
		%RESULT%
		%ACCRUALDATE%
%PHENOMENON%		
%SOLUTION%		
%REGISTRANT%		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件の差し戻し	<ul style="list-style-type: none"> • hptl_jp1_imss_mail_item_sendback_title • hptl_jp1_imss_mail_item_sendback_text 	%REGISTDATE%
		%CHARGE%
		%PERIOD%
		%RESPONDENT%
		%STARTDATE%
		%COMPDATE%
		%CUSTOMERNAME%
		%INQUIRYNAME%
		%ESTIMATEDCOST%
		%ACTUALCOST%
		%EFFECTSERVICE% (メールタイトルには指定できません。)
		%FAILURELOCATION% (メールタイトルには指定できません。)
		%SUMMARY% (メールタイトルには指定できません。)
		%AVOIDANCECODE%
		%AVOIDANCE% (メールタイトルには指定できません。)
		%SITUATION% (メールタイトルには指定できません。)
		%MEASURES% (メールタイトルには指定できません。)
%CAUSE%		
%ROOTCAUSE% (メールタイトルには指定できません。)		
%SOLUTION% (メールタイトルには指定できません。)		
%SCHEDULE% (メールタイトルには指定できません。)		
%IMPACTEVAL% (メールタイトルには指定できません。)		
%DELIBERATIONRST% (メールタイトルには指定できません。)		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件の差し戻し	<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_item_sendback_title hptl_jp1_imss_mail_item_sendback_text 	%FREEDESCRIPTION% (メールタイトルには指定できません。)
		%JP1PRODUCTNAME%
		%JP1JOBNETNAME%
		%JP1JOBNAME%
		%JP1SNMPSRC%
		%JP1NODENAME%
		%JP1ALARMNAME%
		%LASTUPDATE%
		%IMEVENTNO%
		%IMHOSTNAME%
		%USERTEXT01%~%USERTEXT20% (メールタイトルには指定できません。)
		%USERINT01%~%USERINT05%
		%USEREXTTYPE01%~%USEREXTTYPE05%
		%USERCODE01%~%USERCODE05%
%USERTIME01%~%USERTIME05%		
作業の期限前通知	<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_title hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text_over hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text 	%SYSTEM%
		%PROCESS%
		%ITEMNUM_ASSIGNED%
		%ITEMNUM_PRIHIGH_ASSIGNED%
		%ITEMNUM_PRIMID_ASSIGNED%
		%ITEMNUM_PRINOR_ASSIGNED%
		%ITEMNUM_ASSIGNED_REMAIN%
		%ITEMNUM_PWB%
		%ITEMNUM_PRIHIGH_PWB%
		%ITEMNUM_PRIMID_PWB%
		%ITEMNUM_PRINOR_PWB%
		<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_pwb_title hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_pwb_text
	%PROCESS%	
	%ITEMNUM_ASSIGNED%	

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
作業の期限前通知	<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_pwb_title hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_pwb_text 	%ITEMNUM_PRIHIGH_ASSIGNED%
		%ITEMNUM_PRIMID_ASSIGNED%
		%ITEMNUM_PRINOR_ASSIGNED%
		%ITEMNUM_PWB%
		%BEFORE_DAYS%
		%SEND_FREQUENCY%
		%ITEMNUM_PRIHIGH_PWB%
		%ITEMNUM_PRIMID_PWB%
	%ITEMNUM_PRINOR_PWB%	
	<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text_rep 	%ITEMID%
		%TITLE%
		%PRIORITY%
		%STATUS%
		%CHARGE%
%PERIOD%		
%ITEMURL%		
案件の滞留通知	<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_title hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_text hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_text_over 	%ITEMNUM_ASSIGNED%
		%ITEM_LEAVE_THRESHOLD%
		%PRIORITY_LIST%
		%ITEMNUM_LEAVE_DETAIL%
		%SYSTEM%
		%PROCESS%
		%ITEMNUM_ASSIGNED_REMAIN%
		%ITEMNUM_PWB%
	<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_pwb_title hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_pwb_text 	%ITEMNUM_ASSIGNED%
		%ITEM_LEAVE_THRESHOLD%
		%PRIORITY_LIST%
		%ITEMNUM_LEAVE_DETAIL%
		%SYSTEM%
		%PROCESS%
%ITEMNUM_PWB%		

送信情報	変数が指定可能なキー名	指定可能な変数名
案件の滞留通知	<ul style="list-style-type: none"> hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_text_rep 	%ITEMID%
		%TITLE%
		%PRIORITY%
		%CHARGE%
		%LASTUPDATE%
		%PERIOD%
		%ITEMURL%

表 13-66 変数の変換後の内容

指定可能な変数名	変換後の内容
%USERID%	削除対象ユーザーの「ユーザー ID」に変換される。
%USERNAME%	削除対象ユーザーの「ユーザー名」に変換される。
%ROLEID%	削除対象ロールの「ロール ID」に変換される。
%ROLENAME%	削除対象ロールの「ロール名」に変換される。
%ITEMID%	該当する案件の「案件 ID」の内容に変換される。
%TITLE%	該当する案件の「タイトル」の内容に変換される。
%SYSTEM%	該当する案件の「システム」の内容に変換される。
%PROCESS%	該当する案件の「プロセス」の内容に変換される。
%PROCESSITEMID%	該当する案件の「プロセス間 ID」の内容に変換される。
%SEVERITY%	該当する案件の「重大度」の内容に変換される。
%SEVERITYREASON%	該当する案件の「重大度の理由」の内容に変換される。
%IMPACT%	該当する案件の「影響度」の内容に変換される。
%IMPACTREASON%	該当する案件の「影響度の理由」の内容に変換される。
%PRIORITY%	該当する案件の「優先度」の内容に変換される。
%PRIORITYREASON%	該当する案件の「優先度の理由」の内容に変換される。
%ITEMCATEGORY%	該当する案件の「案件種別」の内容に変換される。
%ISSUECATEGORY%	該当する案件の「問題分野」の内容に変換される。
%CHANGESCALE%	該当する案件の「変更の規模」の内容に変換される。
%RELEASETYPE%	該当する案件の「リリースタイプ」の内容に変換される。
%STATUS%	該当する案件の「ステータス」の内容に変換される。
%RESULT%	該当する案件の「結果」の内容に変換される。

指定可能な変数名	変換後の内容
%ACCRUALDATE%	該当する案件の「発生日時」の内容に変換される。
%PHENOMENON%	該当する案件の「現象種別」の内容に変換される。
%SOLUTION%	該当する案件の「解決区分」の内容に変換される。
%REGISTRANT%	該当する案件の「登録者」の内容に変換される。
%REGISTDATE%	該当する案件の「登録日時」の内容に変換される。
%CHARGE%	該当する案件の「担当者」の内容に変換される。
%PERIOD%	該当する案件の「作業期限」の内容に変換される。
%ITEMURL%	該当する案件の「URL」の内容に変換される。
%RESPONDENT%	該当する案件の「回答責任者」の内容に変換される。
%STARTDATE%	該当する案件の「開始日時」の内容に変換される。
%COMPDATE%	該当する案件の「完了日時」の内容に変換される。
%CUSTOMERNAME%	該当する案件の「顧客名」の内容に変換される。
%INQUIRYNAME%	該当する案件の「問い合わせ者」の内容に変換される。
%ESTIMATEDCOST%	該当する案件の「費用（予算）」の内容に変換される。
%ACTUALCOST%	該当する案件の「費用（実績）」の内容に変換される。
%EFFECTSERVICE%	該当する案件の「影響業務」の内容に変換される。
%FAILURELOCATION%	該当する案件の「問題個所とバージョン」の内容に変換される。
%SUMMARY%	該当する案件の「概要」の内容に変換される。
%AVOIDANCECODE%	該当する案件の「回避策種別」の内容に変換される。
%AVOIDANCE%	該当する案件の「回避策」の内容に変換される。
%SITUATION%	該当する案件の「作業状況」の内容に変換される。
%MEASURES%	該当する案件の「再発防止のための考察」の内容に変換される。
%CAUSE%	該当する案件の「要因」の内容に変換される。
%ROOTCAUSE%	該当する案件の「根本原因」の内容に変換される。
%SOLUTION%	該当する案件の「解決策」の内容に変換される。
%SCHEDULE%	該当する案件の「スケジュール，手順概要」の内容に変換される。
%IMPACTEVAL%	該当する案件の「変更の影響評価」の内容に変換される。
%DELIBERATIONRST%	該当する案件の「審議結果」の内容に変換される。
%FREEDESCRIPTION%	該当する案件の「フリー記入欄」の内容に変換される。
%JP1PRODUCTNAME%	該当する案件の「プロダクト名」の内容に変換される。
%JP1JOBNETNAME%	該当する案件の「ジョブネット名」の内容に変換される。

指定可能な変数名	変換後の内容
%JP1JOBNAME%	該当する案件の「ジョブ名」の内容に変換される。
%JP1SNMPSRC%	該当する案件の「SNMP ソース」の内容に変換される。
%JP1NODENAME%	該当する案件の「監視ノード名」の内容に変換される。
%JP1ALARMNAME%	該当する案件の「アラーム名」の内容に変換される。
%LASTUPDATE%	該当する案件の「更新日時」の内容に変換される。
%IMEVENTNO%	該当する案件の「イベント DB 内通し番号」の内容に変換される。
%IMHOSTNAME%	該当する案件の「JP1/IM - Manager のホスト名」の内容に変換される。
%USERTEXT01%~%USERTEXT20%	該当する案件の「追加テキスト 01」 ~ 「追加テキスト 20」の内容に変換される。
%USERINT01%~%USERINT05%	該当する案件の「追加数値 01」 ~ 「追加数値 05」の内容に変換される。
%USEREXTTYPE01%~ USEREXTTYPE05	該当する案件の「追加ユーザー 01」 ~ 「追加ユーザー 05」の内容に変換される。
%USERCODE01%~%USERCODE05%	該当する案件の「追加コード 01」 ~ 「追加コード 05」の内容に変換される。
%USERTIME01%~%USERTIME05%	該当する案件の「追加日時 01」 ~ 「追加日時 05」の内容に変換される。
%ITEMNUM_ASSIGNED%	担当者のすべての対象案件数に変換される。
%ITEMNUM_PRIHIGH_ASSIGNED%	担当者の優先度が大至急の案件数に変換される。
%ITEMNUM_PRIMID_ASSIGNED%	担当者の優先度が至急の案件数に変換される。
%ITEMNUM_PRINOR_ASSIGNED%	担当者の優先度が標準の案件数に変換される。
%ITEMNUM_ASSIGNED_REMAIN%	担当者あてのメールに含まれていない案件の残数に変換される。
%ITEMNUM_PWB%	プロセスワークボード管理者のすべての対象案件数に変換される。
%ITEMNUM_PRIHIGH_PWB%	プロセスワークボード管理者の優先度が大至急の案件数に変換される。
%ITEMNUM_PRIMID_PWB%	プロセスワークボード管理者の優先度が至急の案件数に変換される。
%ITEMNUM_PRINOR_PWB%	プロセスワークボード管理者の優先度が標準の案件数に変換される。
%BEFORE_DAYS%	期限前通知の対象とする日数に変換される。
%SEND_FREQUENCY%	メールで通知する頻度に変換される。
%ITEM_LEAVE_THRESHOLD%	ステータスごとの滞留案件と見なされる時間のリストに変換される。
%PRIORITY_LIST%	監視対象の優先度のリストに変換される。
%ITEMNUM_LEAVE_DETAIL%	ステータスごとの滞留案件の件数に変換される。
%LASTUPDATE%	該当する案件の「更新日時」の内容に変換される。

注意事項

- 前方の%だけがある場合（例：%USERID）は、変換されないでそのまま送信されます。
- 変数名に誤りがある場合は、変換されないでそのまま送信されます。

注意事項

- メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf) は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

案件の担当者変更時にメール送信する設定をした場合の定義例を次に示します。なお、この定義例では、設定に必要な部分だけを抜き出しています。

```
hptl_jp1_imss_mail_server=MailServer1
hptl_jp1_imss_mail_port=25
hptl_jp1_imss_mail_user_max=256
hptl_jp1_imss_mail_form_address=administrator@hitachi.com
hptl_jp1_imss_mail_notice_charset=Windows-31J
hptl_jp1_imss_mail_failure_display_flag=0N
hptl_jp1_imss_mail_item_charge_flag=0N
hptl_jp1_imss_mail_item_charge_title=【案件担当者変更通知 %ITEMID%】%TITLE%
hptl_jp1_imss_mail_item_charge_text=「案件ID：%ITEMID%」の案件の担当者変更になりました。
システム：%SYSTEM%
プロセス：%PROCESS%
タイトル：%TITLE%
優先度：%PRIORITY%
ステータス：%STATUS%
担当者：%CHARGE%
作業期限：%PERIOD%
```

期限前通知に使用するメールの定義例を次に示します。

```
hptl_jp1_imss_mail_form_name=JP1/SS
hptl_jp1_imss_mail_form_address=administrator@hitachi.com
hptl_jp1_imss_mail_charset=iso-2022-jp
hptl_jp1_imss_mail_format=text/plain
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_mail_maximum_num=20
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_title=【作業期限通知 担当者向け】案件の作業期限が迫っています
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text=作業期限が近づいている案件は%ITEMNUM ASSIGNED%件です。
優先度が至急の案件は%ITEMNUM PRIHIGH ASSIGNED%件です。
優先度が標準の案件は%ITEMNUM PRINOR ASSIGNED%件です。
システム：%SYSTEM%
プロセス：%PROCESS%
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text_rep=%ITEMID%の案件の作業期限が近づいています。
タイトル：%TITLE%
優先度：%PRIORITY%
ステータス：%STATUS%
担当者：%CHARGE%
作業期限：%PERIOD%
案件のURL：%ITEMURL%
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text_over=本通知に記載できる案件の上限数を超過しました。
期限が近づいている案件が残り%ITEMNUM ASSIGNED REMAIN%件あります。
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_pwb_title=【作業期限通知 プロセスワークボード管理者向け】%ITEMNUM_PWB%件の案件の作業期限が迫っています
hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_pwb_text=作業期限が近い案件数をお知らせします。
期限前日数：%BEFORE_HOURS%
メール通知回数設定：%SEND_FREQUENCY%
システム：%SYSTEM%
プロセス：%PROCESS%
案件数：%ITEMNUM_PWB%
優先度が至急の案件は%ITEMNUM_PRIHIGH_ASSIGNED%件で
```

す。¥n 優先度が至急の案件は%ITEMNUM_PRIMID_ASSIGNED%件です。¥n 優先度が標準の案件は%ITEMNUM_PRINOR_ASSIGNED%件です。¥n

滞留案件通知に使用するメールの定義例を次に示します。

```
hptl_jp1_imss_mail_form_name=JP1/SS
hptl_jp1_imss_mail_form_address=administrator@hitachi.com
hptl_jp1_imss_mail_charset=iso-2022-jp
hptl_jp1_imss_mail_format=text/plain
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_mail_maximum_num=20
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_title=【滞留案件通知 担当者向け】 案件の処理が遅れています
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_text=処理が遅れている案件は%ITEMNUM_ASSIGNED%件です。¥n%ITEMNUM_LEAVE_DETAIL%¥n監視対象となる優先度：%PRIORITY_LIST%¥n更新されていない時間：¥n%ITEM_LEAVE_THRESHOLD%¥nシステム：%SYSTEM%¥nプロセス：%PROCESS%¥n-----¥n
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_text_rep=%ITEMID%の案件の処理が遅れています。¥nタイトル：%TITLE%¥n優先度：%PRIORITY%¥nステータス：%STATUS%¥n担当者：%CHARGE%¥n更新日時：%LASTUPDATE%¥n案件のURL：%ITEMURL%¥n-----¥n
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_text_over=本通知に記載できる案件の上限数を超過しました。¥n処理が遅れている案件が残り%ITEMNUM_ASSIGNED_REMAIN%件あります。¥n
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_pwb_title=【作業期限通知 プロセスワークボード管理者向け】%ITEMNUM_PWB%件の案件の作業が遅れています
hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_pwb_text=処理が遅れている案件数をお知らせします。¥n処理が遅れている案件は%ITEMNUM_PWB%件です。¥n%ITEMNUM_LEAVE_DETAIL%¥n監視対象となる優先度：%PRIORITY_LIST%¥n更新されていない時間：¥n%ITEM_LEAVE_THRESHOLD%¥nシステム：%SYSTEM%¥nプロセス：%PROCESS%¥n
```

メールによる案件登録（動作モード：添付ファイルモード）に使用するメールの定義例を次に示します。なお、この定義例では、設定に必要な部分だけを抜き出しています。

```
hptl_jp1_imss_mail_use_jssitementrybymail=ON
hptl_jp1_imss_mail_pop3_server=MailServer2
hptl_jp1_imss_mail_pop3_port=110
hptl_jp1_imss_mail_pop3_user=sender@hitachi.co.jp
hptl_jp1_imss_mail_pop3_password=sender_pswd
hptl_jp1_imss_mail_receive_number=50
hptl_jp1_imss_mail_messageid_maxlen=64
hptl_jp1_imss_mail_tmp_file_max_size=5
hptl_jp1_imss_mail_tmp_file_max_num=100
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_path=C:/jp1_imss/mail/append_file
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_folder_max=200
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_max_size=5
hptl_jp1_imss_mail_operation_mode=apd
hptl_jp1_imss_mail_source_address=JIMSD_FORM_USERTEXT01
```

メールによる案件登録（動作モード：シングルモード）に使用するメールの定義例を次に示します。なお、この定義例では、設定に必要な部分だけを抜き出しています。

```
hptl_jp1_imss_mail_use_jssitementrybymail=ON
hptl_jp1_imss_mail_pop3_server=MailServer2
hptl_jp1_imss_mail_pop3_port=110
hptl_jp1_imss_mail_pop3_address=user1@hitachi.com;user2@hitachi.com
hptl_jp1_imss_mail_pop3_domain=hitachi.co.jp
hptl_jp1_imss_mail_receive_number=50
```

```
hptl_jp1_imss_mail_messageid_maxlen=64
hptl_jp1_imss_mail_tmp_file_max_size=5
hptl_jp1_imss_mail_tmp_file_max_num=100
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_path=C:/jp1_imss/mail/append_file
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_folder_max=200
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_max_size=5
hptl_jp1_imss_mail_operation_mode=single
hptl_jp1_imss_mail_source_address=JIMSD_FORM_USERTEXT01
hptl_jp1_imss_mail_itemdata_set_form=JIMSD_FORM_SUMMARY
hptl_jp1_imss_mail_format_error_string=[!]
```

メールによる案件登録（動作モード：マルチモード）に使用するメールの定義例を次に示します。なお、この定義例では、設定に必要な部分だけを抜き出しています。

```
hptl_jp1_imss_mail_use_jssitementrybymail=0N
hptl_jp1_imss_mail_pop3_server=MailServer2
hptl_jp1_imss_mail_pop3_port=110
hptl_jp1_imss_mail_pop3_address=user1@hitachi.com;user2@hitachi.com
hptl_jp1_imss_mail_pop3_domain=hitachi.co.jp
hptl_jp1_imss_mail_receive_number=50
hptl_jp1_imss_mail_messageid_maxlen=64
hptl_jp1_imss_mail_tmp_file_max_size=5
hptl_jp1_imss_mail_tmp_file_max_num=100
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_path=C:/jp1_imss/mail/append_file
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_folder_max=200
hptl_jp1_imss_mail_append_file_output_max_size=5
hptl_jp1_imss_mail_operation_mode=multi
hptl_jp1_imss_mail_source_address=JIMSD_FORM_USERTEXT01
hptl_jp1_imss_mail_format_error_string=[!]
```

メール送信時に POP before SMTP 認証を使用する設定にした場合の定義例を次に示します。なお、この定義例では、設定に必要な部分だけを抜き出しています。

```
hptl_jp1_imss_mail_auth_method=pop-before-smtp
hptl_jp1_imss_mail_connect_timeout=12000
hptl_jp1_imss_mail_socket_timeout=12000
```

メンバー情報入力ファイル（任意）

説明

JP1/Service Support に登録されているロールから削除するメンバー情報、または JP1/Service Support に登録されているロールに追加するメンバー情報を入力したファイルです。

これらのファイルは、CSV 形式で作成する必要があります。このファイルを使用して、メンバー情報を削除するには jssmemberdelete コマンド、メンバー情報を追加するには jssmemberimport コマンドを実行する必要があります。

形式

```
#コメント文（改行）
"ロールID","ユーザーID"（改行）
"ロールID","ユーザーID"（改行）
:
:
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

（凡例）

（改行）：改行を示す

ファイル名

任意のファイル名を使用します。

格納先フォルダ

Jssmemberdelete コマンドまたは jssmemberimport コマンドを実行するホストの任意のフォルダ

定義の反映時期

Jssmemberdelete コマンドまたは jssmemberimport コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次の表に示す順序に従ってメンバー情報を指定してください。

表 13-67 メンバー情報入力ファイルで指定するメンバー情報（行単位）

指定順序	項目名	指定できる文字と条件	指定できるバイト数	指定要否
1	ロール ID	半角英数字またはシステムロール ID	1～64 バイト	○
2	ユーザー ID	半角英数字	1～64 バイト	○

(凡例)

○：指定が必要な項目

1 行で 1 メンバーの情報となります。メンバー情報の各項目は「" (ダブルクォーテーション)」で囲み、「, (コンマ)」で区切ります。ロール ID, ユーザー ID は省略できません。

注意事項

- 1 メンバー分の情報として、誤って 3 項目以上指定した場合、先頭から 2 項目までが登録され、3 項目以降は登録されません。

定義例

ロール ID 「Role1」のロールからユーザー ID 「10009」および「10010」のメンバー二人を削除する場合、またはロール ID 「Role1」のロールにユーザー ID 「10009」および「10010」のメンバー二人を追加する場合の定義例を次に示します。

```
"Role1", "10009"  
"Role1", "10010"
```

文字列置換設定ファイル (jp1imss_replace_string_setting.conf)

説明

案件登録 (jssitementry) コマンドで案件を登録する際に、登録する案件の textarea 型の項目に含まれている任意の文字列を改行文字に置換するかどうかを定義するファイルです。

形式

```
;コメント文 (改行)
[REPLACE]
REPLACE_FLAG=任意の文字列を改行文字に変換する, またはしない (改行)
REPLACE_STRING=改行文字に置換する任意の文字列 (改行)
```

; (セミコロン) で始まる行はコメント扱いとなります。

(凡例)

(改行) : 改行を示す

ファイル名

- jplimss_replace_string_setting.conf (文字列置換設定ファイル)
- jplimss_replace_string_setting.conf.model (文字列置換設定ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルは文字列置換設定ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。文字列置換設定ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることで文字列置換設定ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitementry コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-68 文字列置換設定ファイルで指定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
REPLACE_FLAG	jssitementry コマンドで案件を登録する場合、案件の textarea 型の項目に含まれる任意の文字列 (REPLACE_STRING で指定した値) を改行文字に置換してから登録するかどうかを指定する。な	false

指定キー名	説明	デフォルト値
REPLACE_FLAG	<p>お、改行文字を指定できない項目（textarea 型以外）では置換されない。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true：改行文字に変換する • false：改行文字に変換しない 	false
REPLACE_STRING	<p>jssitementry コマンドで案件を登録する場合、案件の textarea 型の項目に含まれる任意の文字列を改行文字に置換したいとき、改行文字に置換したい文字列を指定する。</p> <p>指定できる値は、1～32バイトの範囲で、制御コード、"（ダブルクォーテーション）、および、（コンマ）以外の文字列。</p>	[¥r¥n]

注意事項

- 文字列置換設定ファイルで、案件の textarea 型の項目に含まれる任意の文字列を改行文字に置換する設定をしている場合、案件フォームの項目 ID が「JIMSD_FORM_USERTEXT01～JIMSD_FORM_USERTEXT20」の値に、置換文字列を挿入しないでください。置換文字列を挿入して jssitementry コマンドを実行した場合、動作は保障されません。
- 文字列置換設定ファイル（jplimss_replace_string_setting.conf）は、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

「[¥r¥n]」を改行文字に置換する場合の定義例を次に示します。

```
[REPLACE]
REPLACE_FLAG=true
REPLACE_STRING=[¥r¥n]
```

ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties)

説明

次に示す設定情報が定義されたファイルです。運用に合わせて編集してください。

1. ログファイル (jplimssuser 数字.log) の面数, サイズ, 出力レベル
2. 画面に表示されるユーザー一覧, ロール一覧の情報のソート規則

これらは, JP1/Service Support のデフォルトでの動作が定義されていますが, カスタマイズできる設定情報です。

形式

```
#ユーザー一覧の設定
hptl_jp1_imss_usermgr_userlist_initial_sort_key=初期ソートキー
hptl_jp1_imss_usermgr_userlist_initial_sort_order=初期ソート順序
hptl_jp1_imss_usermgr_userlist_post_sort_flg=役職のソート順序

#ロール一覧の設定
hptl_jp1_imss_usermgr_rolelist_initial_sort_key=初期ソートキー
hptl_jp1_imss_usermgr_rolelist_initial_sort_order=初期ソート順序

#システムの設定
hptl_jp1_imss_usermgr_log_file_num=ログファイル面数
hptl_jp1_imss_usermgr_log_file_size=ログファイルサイズ

#パスワード変更の設定
hptl_jp1_imss_usermgr_edit_user_password=パスワードの変更可否
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

ファイル名

- hptl_jp1_imss_usermgr.properties (ユーザー管理プロパティファイル)
- hptl_jp1_imss_usermgr.properties.model (ユーザー管理プロパティファイルのモデルファイル) ※
注※

モデルファイルはユーザー管理プロパティファイルの内容をリセットする場合に利用してください。
ユーザー管理プロパティファイルを削除し, モデルファイルをコピー, リネームすることでユーザー管理プロパティファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥

定義の反映時期

次の JP1/Service Support のサービスを再起動したあと, 反映されます。

- JP1/Service Support - Web Service サービス
- JP1/Service Support サービス

記述内容

次で説明する指定キー以外は編集しないでください。また、指定キーと値は「= (イコール)」でつないでください。

ユーザー一覧の設定

表 13-69 ユーザー管理プロパティファイルで設定できる指定キー一覧 (ユーザー一覧の設定)

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_usermgr_userlist_initial_sort_key	ユーザー一覧を表示するときの初期ソートキーを指定する。指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • name：名前 • org：所属組織 • post：役職 • telNo：電話番号 • mail：メールアドレス post を指定した場合、hptl_jp1_imss_usermgr_userlist_post_sort_flg に従いソートされる。	name
hptl_jp1_imss_usermgr_userlist_initial_sort_order	ユーザー一覧を表示するときの初期ソート順序を指定する。指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • asc：昇順 • desc：降順 	asc
hptl_jp1_imss_usermgr_userlist_post_sort_flg	ユーザー一覧を役職順でソートするときの、ソート方法を指定する。指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • postName：役職名の文字コード (UTF-8) でソート • postOrderAsc：役職順位の文字コード (UTF-8) の昇順でソート • postOrderDesc：役職順位の文字コード (UTF-8) の降順でソート 	postName

ロール一覧の設定

表 13-70 ユーザー管理プロパティファイルで設定できる指定キー一覧 (ロール一覧の設定)

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_usermgr_rolelist_initial_sort_key	ロール一覧を表示するときの、初期ソートキーを指定する。指定できる値を次に示す。 <ul style="list-style-type: none"> • roleId：ロール ID • roleName：ロール名 	roleName

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_usermgr_rolelist_initial_sort_order	<p>ロール一覧を表示するときの、初期ソートの順序を指定する。指定できる値を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • asc：昇順 • desc：降順 	asc

システムの設定

表 13-71 ユーザー管理プロパティファイルで設定できる指定キー一覧（システムの設定）

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_usermgr_log_file_num	<p>ログファイル (jplimssuser 数字.log) の面数を指定する。</p> <p>指定できる値は 1～16 の半角数字（整数）。</p>	8
hptl_jp1_imss_usermgr_log_file_size	<p>ログファイル (jplimssuser 数字.log) のサイズをバイト換算で指定する。</p> <p>指定できる値は 4096～2147483647 の半角数字（整数）。</p>	4194304

パスワード変更の設定

表 13-72 ユーザー管理プロパティファイルで設定できる指定キー一覧（パスワード変更の設定）

指定キー名	説明	デフォルト値
hptl_jp1_imss_usermgr_edit_user_password	<p>ユーザー情報の編集時にパスワードを変更できるかどうかを指定する。</p> <p>指定できる値を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true:パスワードの変更が可能 • false:パスワードの変更が不可能 <p>ただし、JP1 製品連携設定プロパティファイルの「hptl_jp1_imss_information_search_userid」に指定されたユーザーは、false を指定してもパスワードを変更できる。</p> <p>認証サーバとしてLDAPサーバを使用している場合、ユーザー情報のパスワードを変更してもLDAPサーバ上のパスワードは変更されない。LDAPサーバを使用する場合は、パスワードの変更を抑制するためfalseを指定すること。</p>	true

注意事項

- 「記述内容」で説明した指定キー以外の個所は編集しないでください。

定義例

ユーザー一覧を表示する際の初期ソートキーを役職に変更した場合の定義例を次に示します。なお、この定義例では、設定に必要な部分だけを抜き出しています。

hptl_jp1_imss_usermgr_userlist_initial_sort_key=post

ユーザー情報入力ファイル（任意）

説明

JP1/Service Support に登録するユーザー情報を入力したファイルです。このファイルは、CSV 形式で作成する必要があります。このファイルの内容を JP1/Service Support に登録するには、jssuserimport コマンドを実行する必要があります。

形式

```
#コメント文（改行）
"ID","名前","英語名","所属組織","役職","役職順位","メールアドレス","電話番号","電話番号
2","コメント"（改行）
"ID","名前","英語名","所属組織","役職","役職順位","メールアドレス","電話番号","電話番号
2","コメント"（改行）
:
:
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

（凡例）

（改行）：改行を示す

ファイル名

任意のファイル名を使用します。

格納先フォルダ

jssuserimport コマンドを実行するホストの任意のフォルダ

定義の反映時期

jssuserimport コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次の表に示す順序に従ってユーザー情報を指定してください。

表 13-73 ユーザー情報入力ファイルで指定するユーザー情報（行単位）

指定順序	項目名	指定できる文字と条件	指定できるバイト数※	指定要否
1	ID	半角英数字	1～64 バイト	○
2	名前	制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字	1～255 バイト	○
3	英語名	制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字	255 バイト以内	△
4	所属組織	制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字	512 バイト以内	△

指定順序	項目名	指定できる文字と条件	指定できるバイト数※	指定要否
5	役職	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	255 バイト以内	△
6	役職順位	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	255 バイト以内	△
7	メールアドレス	ASCII 文字コード表に掲載されている文字。ただし、次の条件がある。 <ul style="list-style-type: none"> • 制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字 • 「@ (単価記号)」が一つだけ含まれている。 • 「@ (単価記号)」の前後に文字がある。 • 先頭または最後尾に「. (ピリオド)」がない。 • () < > [] ; ¥, 半角スペース(0x20)がない。 	255 バイト以内	△
8	電話番号	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	255 バイト以内	△
9	電話番号 2	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	255 バイト以内	△
10	コメント	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	512 バイト以内	△

(凡例)

○：指定が必要な項目

△：必要に応じて指定する項目

注※

指定した文字列が全角文字を含む場合、全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。

1 行で 1 ユーザーの情報となります。ユーザー情報の各項目は「" (ダブルクォーテーション)」で囲み、「, (コンマ)」で区切ります。ID, 名前以外は任意指定ですが、項目は省略できません。指定しない場合でも「" (ダブルクォーテーション)」で該当項目を囲んでください。また、各項目の指定順序も決まっています。

「役職順位」を省略した場合の例を次に示します。

"ID","名前","英語名","所属組織","役職","","メールアドレス","電話番号","電話番号 2","コメント" (改行)

注意事項

- この定義ファイルで設定したユーザーのパスワードには、ID と同じ文字が設定されます。
- 1 ユーザー分の情報として、誤って 11 項目以上指定した場合、先頭から 10 項目までが登録され、11 項目以降は登録されません。
- 入力ファイルの各項目の設定に制御文字 (0x00) を指定した場合、不正な定義となりません。この場合、指定した文字列のうち制御文字 (0x00) までの文字列が指定されたと見なされます。
例えば、ユーザー名に「日立△太郎※」と指定すると、表示名は「日立」となります。
注※ 「△」は、制御文字 (0x00) と仮定します。
- ユーザー情報入力ファイルは、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。

- 日本語環境の場合：MS932
- 英語環境の場合：ISO-8859-1
- 中国語環境の場合：GB18030

定義例

ユーザー情報入力ファイルに 10 人のユーザー情報を入力した場合の定義例を次に示します。

```
"10009", "代々木一郎", "Ichiro Yoyogi", "システム開発部", "部長", "1", "XXXXXX@hitachi.com", "〇〇
〇-△△△-××××", "", ""
"10010", "戸塚友三", "Tomozo Totsuka", "システム開発部", "課長", "2", "XXXXXX@hitachi.com", "〇〇〇
-△△△-××××", "", ""
"10011", "山田義男", "Yoshio Yamada", "システム開発部", "課長", "2", "XXXXXX@hitachi.com", "〇〇〇
-△△△-××××", "", ""
"10012", "上田次郎", "Jiro Ueda", "システム開発部", "主任", "3", "XXXXXX@hitachi.com", "〇〇〇-△△
△-××××", "", ""
"10013", "三越和子", "Kazuko Mitsukoshi", "システム開発部", "主任", "3", "XXXXXX@hitachi.com", "〇
〇〇-△△△-××××", "", ""
"10014", "相原良子", "Yoshiko Aihara", "システム開発部", "担当", "4", "XXXXXX@hitachi.com", "〇〇〇
-△△△-××××", "", ""
"10015", "片倉将太", "Shota Katakura", "システム開発部", "担当", "4", "XXXXXX@hitachi.com", "〇〇〇
-△△△-××××", "", ""
"10016", "渋谷幹司", "Kanji Shibuya", "システム開発部", "担当", "4", "XXXXXX@hitachi.com", "〇〇〇
-△△△-××××", "", ""
"10017", "中川陽太", "Yota Nakagawa", "システム開発部", "担当", "4", "XXXXXX@hitachi.com", "〇〇〇
-△△△-××××", "", ""
"10018", "中野太一", "Taichi Nakano", "システム開発部", "担当", "4", "XXXXXX@hitachi.com", "〇〇〇
-△△△-××××", "", ""
```

ユーザー情報編集ファイル（任意）

説明

JP1/Service Support に登録されているユーザー情報を編集する際に使用する、ユーザー情報を入力したファイルです。このファイルは、CSV 形式で作成する必要があります。このファイルの内容を JP1/Service Support に登録するには、jssuseredit コマンドを実行する必要があります。

形式

```
#コメント文（改行）
"編集対象ID","ID","名前","英語名","所属組織","役職","役職順位","メールアドレス","電話番号",
"電話番号2","コメント"（改行）
"編集対象ID","ID","名前","英語名","所属組織","役職","役職順位","メールアドレス","電話番号",
"電話番号2","コメント"（改行）
:
:
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

（凡例）

（改行）：改行を示す

ファイル名

任意のファイル名を使用します。

格納先フォルダ

jssuseredit コマンドを実行するホストの任意のフォルダ

定義の反映時期

jssuseredit コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次の表に示す順序に従ってユーザー情報を指定してください。

表 13-74 ユーザー情報編集ファイルで指定するユーザー情報（行単位）

指定順序	項目名	指定できる文字と条件	指定できるバイト数※	指定要否
1	編集対象ユーザー ID	半角英数字	1～64 バイト	○
2	ユーザー ID	半角英数字 ユーザー ID を変更する場合、編集対象ユーザー ID で指定したユーザーの ID を、この項目で指定した値に変更できます。	1～64 バイト	○

指定順序	項目名	指定できる文字と条件	指定できるバイト数※	指定要否
3	名前	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	1~255 バイト	○
4	英語名	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	255 バイト以内	△
5	所属組織	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	512 バイト以内	△
6	役職	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	255 バイト以内	△
7	役職順位	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	255 バイト以内	△
8	メールアドレス	ASCII 文字コード表に掲載されている文字。ただし、次の条件がある。 <ul style="list-style-type: none"> 制御コード (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字 「@ (単価記号)」が一つだけ含まれている。 「@ (単価記号)」の前後に文字がある。 先頭または最後尾に「. (ピリオド)」がない。 () < > [] ; ¥ , 半角スペース(0x20)がない。 	255 バイト以内	△
9	電話番号	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	255 バイト以内	△
10	電話番号 2	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	255 バイト以内	△
11	コメント	制御文字 (0x00~0x1F, 0x7F) 以外の文字	512 バイト以内	△

(凡例)

○：指定が必要な項目

△：必要に応じて指定する項目

注※

指定した文字列が全角文字を含む場合、全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに換算されます。

1 行で 1 ユーザーの情報となります。ユーザー情報の各項目は「" (ダブルクォーテーション)」で囲み、「, (コンマ)」で区切ります。編集対象ユーザー ID、ユーザー ID、名前以外は任意指定ですが、項目は省略できません。指定しない場合でも「" (ダブルクォーテーション)」で該当項目を囲んでください。また、各項目の指定順序も決まっています。

「役職順位」を省略した場合の例を次に示します。

"編集対象 ID","ID","名前","英語名","所属組織","役職","","メールアドレス","電話番号","電話番号 2","コメント" (改行)

注意事項

- 1 ユーザー分の情報として、誤って 12 項目以上指定した場合、先頭から 11 項目までが登録され、12 項目以降は登録されません。
- ユーザー情報編集ファイルは、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932

- 英語環境の場合：ISO-8859-1
- 中国語環境の場合：GB18030

定義例

ユーザー情報編集ファイルに編集対象ユーザー ID が"10009"と"10010"の 2 人のユーザー情報を入力した場合の定義例を次に示します。

```
"10009", "10009", "代々木一郎", "Ichiro Yoyogi", "システム開発部", "部長", "1", "XXXXXX@hitachi.com", "〇〇〇-△△△-××××", "", ""  
"10010", "10010", "戸塚友三", "Tomozo Totsuka", "システム開発部", "課長", "2", "XXXXXX@hitachi.com", "〇〇〇-△△△-××××", "", ""
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1aclexport.conf)

説明

jssaclexport コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssaclexport_info 数字.log) に出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。デフォルトでは、出力する設定となっています

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
ACLEXPOR_T_LOG=ログファイルを出力する, または出力しない  
ACLEXPOR_T_FILESIZE=ログファイルサイズ  
ACLEXPOR_T_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jp1aclexport.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jp1aclexport.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssaclexport (アクセス権情報エクスポート) コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつなぎます。

表 13-75 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
ACLEXPOR_T_LOG	ログファイル (jssaclexport_info 数字.log) を出力するかどうかを指定する。設定が不正な場合は、ログファイルは出力されない。 出力先フォルダ: JP1/SS パス¥log¥public¥	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
ACLEXPORT_LOG	指定できる値は Y (出力する), または N (出力しない)。	Y
ACLEXPORT_FILESIZE	ログファイル (jssaclexport_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
ACLEXPORT_FILENUM	ログファイル (jssaclexport_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ (JP1/SS パス¥log¥public¥) 下に mmap フォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この mmap フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例では、面数を 4 に変更しています。

```
[LOG]
ACLEXPORT_LOG=Y
ACLEXPORT_FILESIZE=8192
ACLEXPORT_FILENUM=4
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1aclimport.conf)

説明

jssaclimport コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssaclimport_info 数字.log) に出力する際、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
ACLIMPORT_FILESIZE=ログファイルサイズ  
ACLIMPORT_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jp1aclimport.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jp1aclimport.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssaclimport (アクセス権情報インポート) コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-76 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
ACLIMPORT_FILESIZE	ログファイル (jssaclimport_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
ACLIMPORT_FILENUM	ログファイル (jssaclimport_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ（JP1/SS パス¥log¥public¥）下に mmap フォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この mmap フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例では、面数を 4 に変更しています。

```
[LOG]
ACLIMPORT_FILESIZE=8192
ACLIMPORT_FILENUM=4
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1authusersetup.conf)

説明

jssauthusersetup コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssauthusersetup_info 数字.log) に出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。デフォルトでは、出力する設定となっています

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
AUTHUSERSETUP_LOG=ログファイルを出力する, または出力しない  
AUTHUSERSETUP_FILESIZE=ログファイルサイズ  
AUTHUSERSETUP_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jp1authusersetup.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jp1authusersetup.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssauthusersetup コマンドの実行時に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつなぎます。

表 13-77 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
AUTHUSERSETUP_LOG	ログファイル (jssauthusersetup_info 数字.log) を出力するかどうかを指定する。設定が不正な場合は、ログファイルは出力されない。 出力先フォルダ: JP1/SS パス¥log¥public¥ 指定できる値は Y (出力する), または N (出力しない)。	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
AUTHUSERSETUP_FILE SIZE	ログファイル (jssauthusersetup_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
AUTHUSERSETUP_FILE NUM	ログファイル (jssauthusersetup_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ (JP1/SS パス¥log¥public¥) 下に mmap フォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この mmap フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例ではログファイルのサイズを 10 メガバイト (10,240 キロバイト)、面数を 4 に変更しています。

```
[LOG]
AUTHUSERSETUP_LOG=Y
AUTHUSERSETUP_FILESIZE=10240
AUTHUSERSETUP_FILENUM=4
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1informleave.conf)

説明

jssinformleave コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssinformleave_info 数字.log) に出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。デフォルトでは、出力する設定となっています。JP1/Service Support - Task Service サービスを起動して jssinformleave コマンドを自動実行する場合には、ログファイルに実行結果を出力する運用にしてください。

形式

```
;コメント文
[LOG]
INFORMLE_LOG=ログファイルを出力する, または出力しない
INFORMLE_FILESIZE=ログファイルサイズ
INFORMLE_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jp1informleave.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jp1informleave.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssinformleave コマンドの実行時に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-78 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
INFORMLE_LOG	ログファイル (jssinformleave_info 数字.log) を出力するかどうかを指定する。設定が不正な場合は、ログファイルは出力されない。 出力先フォルダ: JP1/SS パス¥log¥public¥	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
INFORMLE_LOG	指定できる値は Y (出力する), または N (出力しない)。	Y
INFORMLE_FILESIZE	ログファイル (jssinformleave_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
INFORMLE_FILENUM	ログファイル (jssinformleave_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ (JP1/SS パス¥log¥public¥) 下に mmap フォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この mmap フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例ではログファイルのサイズを 10 メガバイト (10,240 キロバイト)、面数を 4 に変更しています。

```
[LOG]
INFORMLE_LOG=Y
INFORMLE_FILESIZE=10240
INFORMLE_FILENUM=4
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1informperiod.conf)

説明

jssinformperiod コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssinformperiod_info 数字.log) に出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。デフォルトでは、出力する設定となっています。JP1/Service Support - Task Service サービスを起動して jssinformperiod コマンドを自動実行する場合には、ログファイルに実行結果を出力する運用にしてください。

形式

```
;コメント文
[LOG]
INFORM_LOG=ログファイルを出力する, または出力しない
INFORM_FILESIZE=ログファイルサイズ
INFORM_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jp1informperiod.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jp1informperiod.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssinformperiod (期限前通知) コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-79 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
INFORM_LOG	ログファイル (jssinformperiod_info 数字.log) を出力するかどうかを指定する。設定が不正な場合は、ログファイルは出力されない。 出力先フォルダ: JP1/SS パス¥log¥public¥	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
INFORM_LOG	指定できる値は Y (出力する), または N (出力しない)。	Y
INFORM_FILESIZE	ログファイル (jssinformperiod_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
INFORM_FILENUM	ログファイル (jssinformperiod_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ (JP1/SS パス¥log¥public¥) 下に mmap フォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この mmap フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例ではログファイルのサイズを 10 メガバイト (10,240 キロバイト)、面数を 4 に変更しています。

```
[LOG]
INFORM_LOG=Y
INFORM_FILESIZE=10240
INFORM_FILENUM=4
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1itemcount.conf)

説明

jssitemcount コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssitemcount_info 数字.log) に出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。デフォルトでは、出力する設定となっています。

形式

```
;コメント文
[LOG]
ITEMCOUNT_LOG=ログファイルを出力する, または出力しない
ITEMCOUNT_FILESIZE=ログファイルサイズ
ITEMCOUNT_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jplitemcount.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jplitemcount.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitemcount コマンドを実行すると反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつなぎます。

表 13-80 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
ITEMCOUNT_LOG	ログファイル (jssitemcount_info 数字.log) を出力するかどうかを指定する。設定が不正な場合は、ログファイルは出力されない。 出力先フォルダ: JP1/SS パス¥log¥public¥ 指定できる値は Y (出力する), または N (出力しない)。	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
ITEMCOUNT_FILESIZE	ログファイル (jssitemcount_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
ITEMCOUNT_FILENUM	ログファイル (jssitemcount_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ (JP1/SS パス¥log¥public¥) 下に mmap フォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この mmap フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例では、ログファイルのサイズを 10 メガバイト (10,240 キロバイト)、面数を 10 に変更しています。

```
[LOG]
ITEMCOUNT_LOG=Y
ITEMCOUNT_FILESIZE=10240
ITEMCOUNT_FILENUM=10
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1itemedit.conf)

説明

jssitemedit コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssitemedit_info 数字.log) に出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。デフォルトでは、出力する設定となっています。JP1/IM - Manager などの連携製品から jssitemedit コマンドを自動実行する場合には、ログファイルに実行結果を出力する運用にしてください。

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
EDIT_LOG=ログファイルを出力する, または出力しない  
EDIT_FILESIZE=ログファイルサイズ  
EDIT_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jp1itemedit.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jp1itemedit.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitemedit コマンドを実行すると反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-81 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
EDIT_LOG	ログファイル (jssitemedit_info 数字.log) を出力するかどうかを指定する。 設定が不正な場合は、ログファイルは出力されない。 出力先フォルダ: JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemedit¥	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
EDIT_LOG	指定できる値は Y (出力する), または N (出力しない)。	Y
EDIT_FILESIZE	ログファイル (jssitemedit_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
EDIT_FILENUM	ログファイル (jssitemedit_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ (JP1/SS パス¥log¥command ¥jssitemedit¥) 下に mmap フォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この mmap フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。

```
[LOG]
EDIT_LOG=Y
EDIT_FILESIZE=8192
EDIT_FILENUM=2
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1itementry.conf)

説明

jssitementry コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssitementry_info 数字.log) に出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。デフォルトでは、出力する設定となっています。JP1/IM - Manager などの連携製品から jssitementry コマンドを自動実行する場合には、ログファイルに実行結果を出力する運用にしてください。

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
ENTRY_LOG=ログファイルを出力する, または出力しない  
ENTRY_FILESIZE=ログファイルサイズ  
ENTRY_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jp1itementry.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jp1itementry.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitementry コマンドの実行時に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつなぎます。

表 13-82 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
ENTRY_LOG	ログファイル (jssitementry_info 数字.log) を出力するかどうかを指定する。設定が不正な場合は、ログファイルは出力されない。 出力先フォルダ: JP1/SS パス¥log¥command¥jssitementry¥	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
ENTRY_LOG	指定できる値は Y (出力する), または N (出力しない)。	Y
ENTRY_FILESIZE	ログファイル (jssitementry_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
ENTRY_FILENUM	ログファイル (jssitementry_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ (JP1/SS パス¥log¥command ¥jssitementry¥) 下に mmap フォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この mmap フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例ではログファイルのサイズを 10 メガバイト (10,240 キロバイト)、面数を 4 に変更しています。

```
[LOG]
ENTRY_LOG=Y
ENTRY_FILESIZE=10240
ENTRY_FILENUM=4
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1itementrybymail.conf)

説明

jssitementrybymail コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssitementrybymail_info 数字.log) に出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。デフォルトでは、出力する設定となっています。JP1/Service Support - Task Service サービスを起動して jssitementrybymail コマンドを自動実行する場合には、ログファイルに実行結果を出力する運用にしてください。

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
ENTRY_LOG=ログファイルを出力する, または出力しない  
ENTRY_FILESIZE=ログファイルサイズ  
ENTRY_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jplitementrybymail.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jplitementrybymail.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitementrybymail コマンドの実行時に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-83 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
ENTRY_LOG	ログファイル (jssitementrybymail_info 数字.log) を出力するかどうかを指定する。設定が不正な場合は、ログファイルは出力されない。	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
ENTRY_LOG	出力先フォルダ：JP1/SS パス¥log¥public¥ 指定できる値は Y（出力する）、または N（出力しない）。	Y
ENTRY_FILESIZE	ログファイル（jssitementrybyemail_info 数字.log）のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4～16384 の半角数字（整数）。	8192
ENTRY_FILENUM	ログファイル（jssitementrybyemail_info 数字.log）の面数を指定する。 指定できる値は 1～64 の半角数字（整数）。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ（JP1/SS パス¥log¥public¥）下に mmap フォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この mmap フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例ではログファイルのサイズを 10 メガバイト（10,240 キロバイト）、面数を 4 に変更しています。

```
[LOG]
ENTRY_LOG=Y
ENTRY_FILESIZE=10240
ENTRY_FILENUM=4
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1itemexportEx.conf)

説明

jssitemexportEx（案件情報拡張エクスポート）コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル（jssitemexportEx_info 数字.log）に出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。デフォルトでは、出力する設定となっています。

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
EXPORT_LOG=ログファイルを出力する, または出力しない  
EXPORT_FILESIZE=ログファイルサイズ  
EXPORT_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jplitemexportEx.conf（ユーザーログ定義ファイル）
- jplitemexportEx.conf.model（ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル）※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitemexportEx（案件情報拡張エクスポート）コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「=（イコール）」でつながります。

表 13-84 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
EXPORT_LOG	ログファイル（jssitemexportEx_info 数字.log）を出力するかどうかを指定する。設定が不正な場合は、ログファイルは出力されない。 出力先フォルダ：JP1/SS パス¥log¥public¥ 指定できる値は Y（出力する）、または N（出力しない）。	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
EXPORT_FILESIZE	ログファイル (jssitemexportEx_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
EXPORT_FILENUM	ログファイル (jssitemexportEx_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	8

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ (JP1/SS パス¥log¥public¥) 下に「mmap」という名称のフォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この「mmap」フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例ではログファイルのサイズを 10 メガバイト (10,240 キロバイト)、面数を 10 に変更しています。

```
[LOG]
EXPORT_LOG=Y
EXPORT_FILESIZE=10240
EXPORT_FILENUM=10
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1itemimportEx.conf)

説明

jssitemimportEx (案件情報拡張インポート) コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssitemimportEx_info 数字.log) に出力する際、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
IMPORTEX_FILESIZE=ログファイルサイズ  
IMPORTEX_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jplitemimportEx.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jplitemimportEx.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitemimportEx (案件情報拡張インポート) コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-85 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
IMPORTEX_FILESIZE	ログファイル (jssitemimportEx_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
IMPORTEX_FILENUM	ログファイル (jssitemimportEx_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	8

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する際、ログファイル出力先フォルダ（JP1/SS パス¥log¥public¥）下に「mmap」という名称のフォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この「mmap」フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルのサイズおよび面数を変更した場合の定義例を次に示します。この定義例ではログファイルのサイズを 10 メガバイト（10,240 キロバイト）、面数を 10 に変更しています。

```
[LOG]
IMPORTEX_FILESIZE=10240
IMPORTEX_FILENUM=10
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1itemstore.conf)

説明

jssitemstore コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssitemstore_info 数字.log) に出力する際、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
ITEMSTORE_FILESIZE=ログファイルサイズ  
ITEMSTORE_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jplitemstore.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jplitemstore.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitemstore コマンドの実行時に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-86 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
ITEMSTORE_FILESIZE	ログファイル (jssitemstore_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
ITEMSTORE_FILENUM	ログファイル (jssitemstore_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	8

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ（JP1/SS パス¥log¥public¥）下に「mmap」という名称のフォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この「mmap」フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例では、ログファイルのサイズを10メガバイト（10,240キロバイト）、面数を6に変更しています。

```
[LOG]
ITEMSTORE_FILESIZE=10240
ITEMSTORE_FILENUM=6
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1itemstoredbrotate.conf)

説明

jssitemstoredbrotate コマンドの実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssitemstoredbrotate_info 数字.log) に出力するかどうか、また、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
ITEMSTOREDBROTATE_LOG=ログファイルを出力する, または出力しない  
ITEMSTOREDBROTATE_FILESIZE=ログファイルサイズ  
ITEMSTOREDBROTATE_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jp1itemstoredbrotate.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jp1itemstoredbrotate.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitemstoredbrotate コマンドの実行時に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-87 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
ITEMSTOREDBROTATE_LOG	ログファイル (jssitemstoredbrotate_info 数字.log) を出力するかどうかを指定する。設定が不正な場合は、ログファイルは出力されない。 出力先フォルダ: JP1/SS パス¥log¥public¥ 指定できる値は Y (出力する)、または N (出力しない)。	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
ITEMSTOREDBROTATE_FILESIZE	ログファイル (jssitemstoredbrotate_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
ITEMSTOREDBROTATE_FILENUM	ログファイル (jssitemstoredbrotate_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ (JP1/SS パス¥log¥public¥) 下に「mmap」という名称のフォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この「mmap」フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例では、ログファイルのサイズを 10 メガバイト (10,240 キロバイト)、面数を 4 に変更しています。

```
[LOG]
ITEMSTOREDBROTATE_LOG=Y
ITEMSTOREDBROTATE_FILESIZE=10240
ITEMSTOREDBROTATE_FILENUM=4
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1mailnotification.conf)

説明

jssitementry コマンド, jssitementrybyemail コマンドおよび jssitemedit コマンドからのメール通知の実行結果をユーザー公開用のログファイル (jssmailnotification_info 数字.log) に出力するかどうか, また, そのログファイルのサイズ, 面数を定義したファイルです。

形式

```
;コメント文
[LOG]
MAILNOTIF_LOG=ログファイルを出力する, または出力しない
MAILNOTIF_FILESIZE=ログファイルサイズ
MAILNOTIF_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は, コメント扱いとなります。

ファイル名

- jp1mailnotification.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jp1mailnotification.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユーザーログ定義ファイルを削除し, モデルファイルをコピー, リネームすることでユーザーログ定義ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssitemedit コマンド, jssitementry コマンドおよび jssitementrybyemail コマンドで-mail オプションを指定して実行したときに反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお, 指定キーと値は「= (イコール)」でつながります。

表 13-88 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
MAILNOTIF_LOG	ログファイル (jssmailnotification_info 数字.log) を出力するかどうかを指定する。設定が不正な場合は, ログファイルは出力されない。 出力先フォルダ: JP1/SS パス¥log¥public¥	Y

指定キー名	説明	デフォルト値
MAILNOTIF_LOG	指定できる値は Y (出力する), または N (出力しない)。	Y
MAILNOTIF_FILESIZE	ログファイル (jssmailnotification_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
MAILNOTIF_FILENUM	ログファイル (jssmailnotification_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ (JP1/SS パス¥log¥public¥) 下に「mmap」という名称のフォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この「mmap」フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルを出力する設定に変更した場合の定義例を次に示します。この定義例ではログファイルのサイズを 10 メガバイト (10,240 キロバイト)、面数を 4 に変更しています。

```
[LOG]
MAILNOTIF_LOG=Y
MAILNOTIF_FILESIZE=10240
MAILNOTIF_FILENUM=4
```

ユーザーログ定義ファイル (jp1refaclsetup.conf)

説明

jssrefaclsetup コマンドの実行結果をユーザー公開用ログファイル (jssrefaclsetup_info 数字.log) に出
力する際、そのログファイルのサイズ、面数を定義したファイルです。

形式

```
;コメント文  
[LOG]  
REFACLSETUP_FILESIZE=ログファイルサイズ  
REFACLSETUP_FILENUM=ログファイル面数
```

; (セミコロン) で始まる行は、コメント扱いとなります。

ファイル名

- jp1refaclsetup.conf (ユーザーログ定義ファイル)
- jp1refaclsetup.conf.model (ユーザーログ定義ファイルのモデルファイル) ※

注※

モデルファイルはユーザーログ定義ファイルの内容をリセットする場合に利用してください。ユー
ザーログ定義ファイルを削除し、モデルファイルをコピー、リネームすることでユーザーログ定義
ファイルとして使用できます。

格納先フォルダ

JP1/SS パス¥conf¥command¥

定義の反映時期

jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) コマンドを実行すると、定義が JP1/Service
Support に反映されます。

記述内容

次で説明する指定キーが編集できます。なお、指定キーと値は「= (イコール)」でつなぎます。

表 13-89 ユーザーログ定義ファイルで設定できる指定キー一覧

指定キー名	説明	デフォルト値
REFACLSETUP_FILESIZE	ログファイル (jssrefaclsetup_info 数字.log) のサイズをキロバイト換算で 指定する。 指定できる値は 4~16384 の半角数字 (整数)。	8192
REFACLSETUP_FILENUM M	ログファイル (jssrefaclsetup_info 数字.log) の面数を指定する。 指定できる値は 1~64 の半角数字 (整数)。	2

ログファイルに出力されるメッセージ

ログファイルに出力されるメッセージについては、「[14.1 メッセージの出力先](#)」を参照してください。

注意事項

ログファイルを出力する設定にすると、ログファイル出力先フォルダ（JP1/SS パス¥log¥public¥）下に「mmap」という名称のフォルダが作成されます。運用開始後、ログファイルのサイズと面数を変更する場合には、この「mmap」フォルダを削除してください。削除しないと変更が有効になりません。

定義例

ログファイルのサイズおよび面数を変更した場合の定義例を次に示します。この定義例ではログファイルのサイズを 10 メガバイト（10,240 キロバイト）、面数を 4 に変更しています。

```
[LOG]
REFACLSETUP_FILESIZE=10240
REFACLSETUP_FILENUM=4
```

ロール情報入力ファイル（任意）

説明

JP1/Service Support に登録するロール情報を入力したファイルです。このファイルは、CSV 形式で作成する必要があります。このファイルの内容を JP1/Service Support に登録するには、jssroleimport コマンドを実行する必要があります。

形式

```
#コメント文（改行）
"ロールID","ロール名","コメント"（改行）
"ロールID","ロール名","コメント"（改行）
:
:
```

#で始まる行はコメント扱いとなります。

(凡例)

(改行)：改行を示す

ファイル名

任意のファイル名を使用します。

格納先フォルダ

jssroleimport コマンドを実行するホストの任意のフォルダ

定義の反映時期

jssroleimport コマンドを実行すると、定義が JP1/Service Support に反映されます。

記述内容

次の表に示す順序に従ってロール情報を指定してください。

表 13-90 ロール情報入力ファイルで指定するロール情報（行単位）

指定順序	項目名	指定できる文字と条件	指定できるバイト数※	指定要否
1	ロール ID	半角英数字	1～64 バイト	○
2	ロール名	制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字	1～255 バイト	○
3	コメント	制御文字（0x00～0x1F, 0x7F）以外の文字	512 バイト以内	△

(凡例)

○：指定が必要な項目

△：必要に応じて指定する項目

注※

指定した文字列が全角文字を含む場合、全角文字は3バイトまたは4バイトに換算されます。

1行で1ロールの情報となります。ロール情報の各項目は「" (ダブルクォーテーション)」で囲み、「, (コンマ)」で区切ります。ロールID、ロール名以外は任意指定ですが、項目は省略できません。指定しない場合でも「" (ダブルクォーテーション)」で該当項目を囲んでください。また、各項目の指定順序も決まっています。

「コメント」を省略した場合の例を次に示します。

"ロールID","ロール名","" (改行)

注意事項

- 1ロール分の情報として、誤って4項目以上指定した場合、先頭から3項目までが登録され、4項目以降は登録されません。
- ロール情報入力ファイルは、JP1/Service Support がインストールされているマシンのシステムロケールに応じた文字コードで作成または編集してください。使用できる文字コードを次に示します。
 - 日本語環境の場合：MS932
 - 英語環境の場合：ISO-8859-1
 - 中国語環境の場合：GB18030

定義例

ロール情報入力ファイルに三つのロール情報を入力した場合の定義例を次に示します。

```
"Role1","Role Name 1","First Role"  
"Role2","Role Name 2","Second Role"  
"Role3","Role Name 3","Third Role"
```

14

メッセージ

この章では、JP1/Service Support が出力するメッセージについて説明します。

14.1 メッセージの出力先

JP1/Service Support が出力する KNAB メッセージの出力先を次の表に示します。

表 14-1 メッセージの出力先

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイアログ	標準エラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メインサービスのユーザー公開ログ	プロセス別ログ
KNAB00002-E	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB00003-E	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB00004-E	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB00005-E	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB00006-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB00007-E	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB00008-E	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB01001-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB01002-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB01003-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB01004-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB01005-E	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB01006-E	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB01007-E	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB01008-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB01009-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB01010-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB02002-E	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB02003-E	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB02004-E	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB03001-W	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB03002-W	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB04005-I	-	-	○	○	-	-	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB04006-I	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB04007-I	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB05017-W	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB05059-I	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB10005-E	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB10013-E	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB10017-E	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB10035-E	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB11001-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11002-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11003-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11004-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11005-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11006-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11007-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11008-E	-	-	○	○	-	-	-	-	○
KNAB11009-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11010-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11011-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11012-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11013-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11015-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11016-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11017-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11018-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11021-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11022-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB11023-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11025-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11026-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11027-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11028-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11030-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11031-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11032-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11033-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11035-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11037-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11038-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11039-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11040-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11041-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11042-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11043-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11044-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11045-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11046-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11047-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB11048-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB12001-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB12002-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB12003-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB12013-E	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB12014-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB13003-W	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB13004-W	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB13005-W	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB14007-I	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB15027-W	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB15042-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15061-W	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB15064-W	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15065-W	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15066-W	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15067-W	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15068-W	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15069-I	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KNAB15070-I	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KNAB15071-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15072-W	-	-	-	-	-	-	-	○	-
KNAB15074-W	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15075-W	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15076-W	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15077-W	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15078-W	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15079-W	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15080-W	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15081-W	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15082-W	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15084-W	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15087-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB15088-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15091-E	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB15093-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15094-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15095-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15096-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB15098-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15099-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15100-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15101-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15102-W	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB15103-I	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB15104-I	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB15105-W	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB15106-W	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB15107-W	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB15108-W	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB15109-W	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB15110-W	-	-	○	-	-	-	-	○	○
KNAB15111-W	-	-	○	-	-	-	-	○	○
KNAB15112-I	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB15113-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15114-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB15115-I	-	-	-	-	-	-	-	○	○
KNAB15117-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15118-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15119-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB15121-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15122-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15123-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15124-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15125-E	-	-	○	-	-	-	-	-	○
KNAB15126-E	-	-	○	-	-	-	-	-	-
KNAB16001-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB16002-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB16003-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB16004-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB16005-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB16006-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB16007-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB16008-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB20001-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20002-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20003-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20004-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20005-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20006-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20007-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20008-I	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB20010-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20011-I	○	○	-	-	-	-	-	-	-
KNAB20012-I	○	○	-	-	-	-	-	-	-
KNAB20013-W	-	○	-	-	-	-	-	-	-
KNAB20014-E	-	○	-	-	-	-	-	-	-

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB20020-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20021-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20022-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20023-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20024-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20025-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20026-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20028-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20029-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20030-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20031-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20032-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20033-I	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB20034-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20035-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20036-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20037-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20038-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20041-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20042-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20043-I	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB20103-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20104-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20105-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20106-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20107-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20108-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○

メッセージID	出力先								
	HNTR Lib2	イベントログ	画面	ダイアログ	標準エラー出力	標準出力	公開ログ※1	メインサービスのユーザー公開ログ	プロセス別ログ
KNAB20109-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20110-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20111-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20112-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20114-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20115-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20116-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20117-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20118-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20119-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20120-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20121-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20122-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20123-I	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB20124-I	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB20125-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20128-I	○	○	-	-	-	-	-	-	-
KNAB20129-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20130-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20131-I	○	○	-	-	-	-	-	-	-
KNAB20133-I	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB20134-I	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB20135-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20136-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20137-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20138-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20139-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○

メッセージID	出力先								
	HNTR Lib2	イベントログ	画面	ダイアログ	標準エラー出力	標準出力	公開ログ※1	メインサービスのユーザー公開ログ	プロセス別ログ
KNAB20140-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20141-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20142-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20143-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20144-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20145-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20146-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20147-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20148-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20149-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20150-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20151-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20201-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20202-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20203-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20204-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20216-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20217-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20221-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20222-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20223-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20224-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20225-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20226-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20228-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20229-I	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB20230-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB20231-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20232-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20233-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20234-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20235-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20236-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20237-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20238-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20239-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20240-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20241-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20242-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20243-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20244-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20251-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20257-I	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB20258-I	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB20259-I	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB20260-I	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB20263-I	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB20264-I	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB20265-I	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB20266-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20267-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20268-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20269-I	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB20270-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○

メッセージID	出力先								
	HNTR Lib2	イベントログ	画面	ダイアログ	標準エラー出力	標準出力	公開ログ※1	メインサービスのユーザー公開ログ	プロセス別ログ
KNAB20271-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20272-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20273-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20275-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20277-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20278-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20279-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20280-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20281-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20282-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20283-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20284-I	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB20285-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20286-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20287-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20288-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20289-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20290-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20291-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20292-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20293-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20294-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20295-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20296-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20297-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20298-I	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB20299-I	-	-	-	-	-	-	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB20300-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20301-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20302-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20303-I	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB20306-I	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB20307-I	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB22001-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22002-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22003-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22004-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22005-W	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB22006-W	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB22007-W	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB22008-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB22009-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB22010-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB22011-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB22012-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB22013-W	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB22014-W	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB22015-W	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB22016-W	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB22017-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB22018-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22020-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22021-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22022-W	-	-	-	-	-	○	○	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB22023-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22024-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22025-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22026-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22027-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22028-W	-	-	-	-	○	○	○	-	○
KNAB22029-W	-	-	-	-	○	○	○	-	○
KNAB22101-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22103-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22104-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22105-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22106-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22107-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22108-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22109-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22110-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22111-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22112-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22113-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22114-W	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB22115-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB22116-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB22121-W	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB22122-W	○	-	-	-	-	-	-	-	-
KNAB22123-W	○	-	-	-	-	-	-	-	-
KNAB22124-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB24001-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB24002-E	-	-	-	-	○	○	○	-	○
KNAB24003-E	-	-	-	-	○	○	○	-	○
KNAB24004-E	-	-	-	-	○	○	○	-	○
KNAB24005-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24006-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB24007-E	-	○	-	-	-	-	-	-	-
KNAB24008-E	-	-	-	-	○	○	-	-	-
KNAB24101-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24102-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24103-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24104-E	-	-	-	-	○	○	○	-	○
KNAB24105-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24106-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24107-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB24108-E	○	○	-	-	-	-	-	-	-
KNAB24110-E	-	○	-	-	-	-	-	-	-
KNAB24114-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24115-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24201-E	-	-	-	-	○	○	-	-	○
KNAB24202-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24203-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24204-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24205-E	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB24206-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24207-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24208-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24209-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB24210-E	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB24211-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24212-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24213-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24214-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24215-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24216-E	-	-	-	-	-	-	-	-	○
KNAB24217-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24218-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24219-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24220-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB24221-E	-	-	-	-	○	-	○	-	-
KNAB24222-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24223-E	○	-	-	-	-	-	-	-	-
KNAB24224-E	○	-	-	-	-	-	-	-	-
KNAB24225-E	○	-	-	-	-	-	-	-	-
KNAB24226-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24227-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24228-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24229-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24230-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24231-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24232-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24233-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB24234-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26001-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26002-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB26003-E	-	-	-	-	○※2	○	-	-	○
KNAB26004-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26005-E	-	-	-	-	○	○	-	-	○
KNAB26006-E	-	-	-	-	○	○	-	-	○
KNAB26007-E	-	-	-	-	○	○	-	-	○
KNAB26008-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26009-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26011-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26012-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26013-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26015-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26016-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26017-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26019-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26020-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26021-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26022-E	-	○	-	-	-	-	-	-	-
KNAB26023-E	-	○	-	-	-	-	-	-	-
KNAB26024-E	-	○	-	-	-	-	-	-	-
KNAB26025-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26026-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26027-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26028-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26029-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26030-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26031-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26032-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB26033-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26034-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26036-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26037-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26038-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26039-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26040-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26041-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26042-E	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB26043-E	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB26044-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26045-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26047-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26048-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26049-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26050-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26051-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26052-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26054-E	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB26055-E	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB26056-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26057-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26058-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26059-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26060-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26061-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26062-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB26063-E	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB26064-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26065-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26068-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26069-E	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB26070-E	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB26071-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26072-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26073-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26074-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26081-E	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB26082-E	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB26083-E	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB26084-E	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB26085-E	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB26086-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26087-E	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB26088-E	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB26089-E	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB26090-E	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB26091-E	-	-	-	-	-	-	○	-	-
KNAB26093-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26094-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26095-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26096-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26097-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26098-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB26101-E	-	-	-	-	○	-	-	-	-
KNAB26102-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26103-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26104-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26105-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26106-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26107-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26108-E	-	-	-	-	○	-	-	-	-
KNAB26109-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26110-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26111-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26112-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26113-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26114-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26115-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26116-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26117-E	-	-	-	-	○	○	○	-	○
KNAB26118-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26119-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26120-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26121-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26122-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26123-E	-	-	-	-	○	○	-	-	○
KNAB26124-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26125-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26126-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26127-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB26128-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26129-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26130-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26131-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26132-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26133-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26134-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26135-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26136-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26137-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26138-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26139-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26140-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26141-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26142-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26143-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26144-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26145-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26146-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26147-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26148-W	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26149-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26150-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26151-W	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26152-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26153-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26154-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB26155-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26156-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26157-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26159-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26160-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26161-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26163-E	-	-	-	-	○	-	○	-	-
KNAB26166-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26167-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26168-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26170-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26171-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26172-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26173-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26174-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26176-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26178-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26179-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26180-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26181-E	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB26182-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26183-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26185-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26186-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26188-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26189-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26190-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB26191-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26192-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26193-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26194-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26195-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26196-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26197-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26198-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26201-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26202-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26203-E	-	-	-	-	-	○	○	-	○
KNAB26204-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26205-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26208-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26209-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26210-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB26211-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26213-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26214-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26215-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB26219-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26221-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26223-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26224-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB26225-W	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26226-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB26227-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB28001-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28002-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28003-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28004-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28005-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28006-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28007-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB28008-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB28010-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28011-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB28012-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB28013-E	-	-	-	-	○	-	-	-	-
KNAB28014-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28015-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28016-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28017-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28018-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28020-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28021-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28022-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB28023-E	-	-	-	-	○	○	○	-	○
KNAB28024-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28025-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28026-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28027-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28028-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28029-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB28030-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28031-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28032-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28033-E	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28034-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28035-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28036-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28037-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28038-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28039-W	-	-	-	-	-	-	○	-	○
KNAB28040-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28101-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB28102-E	-	-	-	-	○	-	-	-	○
KNAB28103-E	-	-	-	-	○	○	-	-	-
KNAB28104-Q	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB28105-E	-	-	-	-	-	○	○	-	-
KNAB28107-I	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB28108-Q	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB28109-I	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB28110-E	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB28111-E	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB28112-E	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB28113-I	-	-	-	-	-	○	-	-	-
KNAB28114-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB28115-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB28116-E	-	-	-	-	-	○	-	-	○
KNAB28117-E	○	-	-	-	○	○	○	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB28118-E	○	-	-	-	○	○	-	-	○
KNAB28121-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28122-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28123-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28124-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB28125-E	-	-	-	-	○	-	○	-	○
KNAB30002-E	-	-	-	○	-	-	-	-	-
KNAB30003-E	-	-	-	○	-	-	-	-	-
KNAB30004-E	-	-	-	○	-	-	-	-	-
KNAB30005-I	-	-	-	○	-	-	-	-	-
KNAB30006-E	-	-	-	○	-	-	-	-	-
KNAB30007-E	-	-	-	○	-	-	-	-	-
KNAB30008-E	-	-	-	○	-	-	-	-	-
KNAB30012-I	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30013-I	-	-	-	○	-	-	-	-	-
KNAB30105-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30106-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30107-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30108-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30109-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30111-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30112-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30114-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30155-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30202-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30205-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30208-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB30210-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30211-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB30214-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99001-W	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99002-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99003-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99006-W	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99007-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99008-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99009-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99010-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99011-W	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99012-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99013-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99014-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99015-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99017-W	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99019-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99025-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99027-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99028-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99030-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99031-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99032-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99034-W	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99035-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99037-W	-	-	-	○	-	-	-	-	○

メッセージ ID	出力先								
	HNTR Lib2	イベント ログ	画面	ダイア ログ	標準エ ラー出力	標準出力	公開ログ ※1	メイン サービスのユー ザー公開 ログ	プロセス 別ログ
KNAB99040-W	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99041-W	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99042-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99043-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99044-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99045-W	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99046-W	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99047-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99048-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99049-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99050-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99051-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99090-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99091-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99098-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○
KNAB99099-E	-	-	-	○	-	-	-	-	○

(凡例)

HNTRLib2：統合トレースログ

○：出力する

-：出力しない

注※1

jssinformperiod コマンド, jssitementry コマンド, jssitemedit コマンド, jssitementrybyemail コマンド, jssinformleave コマンド, jssitemexportEx コマンド, jssitemimportEx コマンド, jssaclexport コマンド, jssaclimport コマンド, jssnodecount コマンドの実行結果, jssitementry コマンド, jssitemedit コマンド, jssitementrybyemail コマンドに-mail オプションを指定した場合の実行結果, および入力候補値設定ファイルの解析結果が出力されるログファイルです。

jssnodecount コマンド以外のコマンドについては, ユーザーログ定義ファイルおよび入力補助機能プロパティファイルで出力設定をした場合にだけ出力されます。

詳細については, それぞれ「13. 定義ファイル」の「ユーザーログ定義ファイル (jplinformperiod.conf)」, 「ユーザーログ定義ファイル (jplitementry.conf)」, 「ユーザーログ定義ファイル (jplitemedit.conf)」, 「ユーザーログ定義ファイル (jplitementrybyemail.conf)」, 「ユーザーログ定義ファイル (jplinformleave.conf)」, 「ユーザーログ定義ファイル (jplitemexportEx.conf)」, 「ユーザーログ定義ファイル (jplitemimportEx.conf)」, 「ユーザーログ定義ファイル (jplaclexport.conf)」, 「ユーザーログ定義ファイル (jplaclimport.conf)」 「入力補助機能プロパティファイル (hptl_jpl_imss_input_assist_plugin.properties)」を参照してください。

注※2

バックアップ時およびリカバリー時だけ出力する。

14.2 イベントログの一覧

JP1/Service Support が出力するイベントログは、[イベントビューア] ウィンドウのアプリケーションログに表示されます。

[イベントビューア] ウィンドウは、スタート画面の [管理ツール] - [イベントビューア]、またはスタート画面の [すべてのアプリ] - [イベントビューア] から表示できます。

14.2.1 JP1/Service Support が出力する Windows イベントログ

[ソース] に識別子「JP1/Service Support」と表示されるものが、JP1/Service Support が出力する Windows イベントログです。

JP1/Service Support が Windows イベントログに出力するメッセージ情報の一覧を次の表に示します。

表 14-2 Windows イベントログ出力メッセージ情報一覧

メッセージ ID	イベント ID	種類
KNAB20011	1	情報
KNAB20012	1	情報
KNAB20013	2	警告
KNAB20014	3	エラー
KNAB20128	1	情報
KNAB20131	1	情報
KNAB24007	3	エラー
KNAB24108	3	エラー
KNAB26022	3	エラー
KNAB26023	3	エラー
KNAB26024	3	エラー

14.2.2 JP1/Service Support のデータベースがイベントログに出力するメッセージ

[ソース] に識別子「JP1/Service Support - DB Server」と表示されるものが、JP1/Service Support のデータベースが出力するメッセージです。JP1/Service Support のデータベースがイベントログに出力するメッセージ情報の一覧を次の表に示します。

表 14-3 JP1/Service Support のデータベースがイベントログに出力するメッセージ

メッセージ ID	イベント ID	種類	説明	対処
KFPS01850-I	30000	情報	案件管理 DB が停止しました。	—
KFPS05210-I	30000	情報	案件管理 DB の起動が完了しました。	「JP1/Service Support - DB Server」サービスを開始した直後は、案件管理 DB の起動処理が完了していないため、起動が完了したかどうかを正確に判断したいときは、このメッセージが出力されているかどうかで判断してください。
KFPH00211-I	30000	情報	データベースの残り容量が少なくなっています。データベースの使用容量が全容量の 80%, 90%, 100% になったタイミングで出力されます。	<p>案件保存 DB を使用していない場合</p> <p>不要なデータを削除して、次の操作を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. jssdelrec コマンドを実行し、削除待ち状態のデータを削除する。 2. jssdbroorg.bat コマンドを実行し、案件管理 DB の空き領域を再編成する。 <p>同じメッセージが再度表示される場合は、次の手順で案件管理 DB のサイズを大きくしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. jssdbbackup.bat コマンドで案件管理 DB をバックアップ（拡張用）する。 2. jsssetup.bat コマンドで案件管理 DB のサイズを大きくする。 3. jssdbrecovery.bat コマンドで、手順 1 で取得したバックアップデータをリカバリーする。 <p>案件保存 DB を使用している場合</p> <p>案件管理 DB または案件保存 DB の容量が不足しています。jssdbstatchk.bat コマンドを実行して、案件管理 DB と案件保存 DB のデータベース容量の使用率を確認してください。</p> <p>案件管理 DB の容量が不足している場合は、不要なデータを削除するか、案件を保存してください。それぞれの手順を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 不要なデータの削除 <ol style="list-style-type: none"> 1. 不要なデータを削除する。 2. jssdelrec コマンドを実行し、削除待ち状態のデータを削除する。 3. jssdbroorg.bat コマンドを実行し、案件管理 DB の空き領域を再編成する。 <ul style="list-style-type: none"> • 案件の保存 <ol style="list-style-type: none"> 1. jssitemstore コマンドを実行し、クローズ済みの古い案件を案件保存 DB に保存する。 2. jssdbroorg.bat コマンドを実行し、案件管理 DB の空き領域を再編成する。
KFPH00212-I	30000	情報	データベースの再編成が必要です。	
KFPH00213-W	30001	警告	データベースの容量が不足しています。データベースの領域を使い切った場合に出力されます。	

メッセージ ID	イベント ID	種類	説明	対処
KFPH00213-W	30001	警告	データベースの容量が不足しています。データベースの領域を使い切った場合に出力されます。	案件保存 DB の容量が不足している場合は、事前に設計した案件保存 DB の運用に従って、案件保存 DB の拡張や保存エリアの切り替えなどを実施して対処してください。それらの手順については、「11.2.11 案件保存 DB の保存先の切り替え」、または「11.2.12 案件保存 DB の拡張」を参照してください。

(凡例)

－：該当しない

これ以外の「KFP」で始まるメッセージが表示された場合は、案件管理 DB で障害が発生したおそれがあります。資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

14.3 メッセージの形式

JP1/Service Support が出力するメッセージの形式を示します。

14.3.1 メッセージの出力形式

メッセージはメッセージ ID と、それに続くメッセージテキストで構成されています。出力されるメッセージの形式を次に示します。

KNABnnnnn-Z メッセージテキスト

メッセージ ID は次の内容で構成されています。

K

システム識別子を示します。

NAB

JP1/Service Support のメッセージであることを示します。

nnnnn

メッセージの通し番号を示します。

Z

メッセージの種類を表します。

E：エラーメッセージを示します。処理は中断されます。

W：警告メッセージを示します。メッセージ出力後、処理は続行されます。

I：通知メッセージを示します。ユーザーに情報を知らせます。

Q：通知メッセージを示します。ユーザーに実行の選択を促します。

14.3.2 メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を次に示します。

メッセージ ID

メッセージテキスト※

メッセージの説明文

(S)

システムの処置を示します。

(O)

メッセージが出力されたときに、オペレーターの取る処置を示します。

なお、JP1/Service Support のマニュアルでは、メッセージの対処で 2 種類の管理者を使い分けています。それぞれの管理者について次に示します。

- システム管理者

このマニュアルのメッセージの対処にある「システム管理者」とは、案件管理サーバやメールサーバなどの JP1/Service Support を運用するために必要なシステムを管理するユーザーのことです。

- JP1/Service Support の運用管理者

マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」のメッセージの対処にある「JP1/Service Support の運用管理者」とは、このマニュアルを参考にして、プロセスワークボードの作成やアクセス権の付与などの JP1/Service Support の運用を管理するユーザーのことです。

注※

メッセージテキストが斜体で記載されていた場合は、その文字列が状態に応じて変更になることを示します。

14.4 画面操作時（ユーザー管理，ロール管理）のメッセージ (KNAB00002～KNAB05059)

画面操作時（ユーザー管理，ロール管理）に出力されるメッセージを次に示します。

KNAB00002-E

入力項目名に設定されている値は長過ぎます。入力できるバイト数バイト以内の文字列で入力してください

入力文字数が最大値を超えています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り，入力文字数を見直してください。なお，JP1/Service Support に登録されるデータは UTF-8 で換算されます。そのため，全角文字は 3 バイトまたは 4 バイトに相当するので注意してください。

KNAB00003-E

入力項目名は半角英数字で入力してください

半角英数字以外の文字が使われています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り，入力文字を見直してください。

KNAB00004-E

入力項目名はメールアドレスに指定できる文字で入力してください

メールアドレスに指定できない文字が入力されています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り，入力文字を見直してください。

KNAB00005-E

入力項目名はパスワードに指定できる文字で入力してください

パスワードに指定できない文字が入力されています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、入力文字を見直してください。

KNAB00006-E

パスワードとパスワードの確認入力一致していません

パスワードとパスワードの確認入力一致していません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

パスワードを確認してください。

KNAB00007-E

_jp1 で始まる文字列はシステムで予約されています

ロール ID に _jp1 で始まる文字列を指定しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、入力文字を見直してください。

KNAB00008-E

入力項目名に指定できる文字で入力してください

指定できない文字が入力されています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、入力文字を見直してください。

KNAB01001-E

選択したユーザー・ロールは存在しません

選択したユーザーまたはロールが見つかりません。すでに削除されたユーザーまたはロールを選択している可能性があります。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、ユーザーまたはロールが削除されていないかを確認してください。

KNAB01002-E

権限がないため、画面名画面を開けません

操作しているユーザーにアクセス権がありません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

操作しているユーザーに権限を割り当てるか、権限があるユーザーで操作してください。

KNAB01003-E

権限がないため、ユーザー・ロールの登録はできません

操作しているユーザーにユーザーまたはロールを登録する権限がありません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

操作しているユーザーに権限を割り当てるか、権限があるユーザーで操作してください。

KNAB01004-E

権限がないため、ユーザー・ロールの削除はできません

操作しているユーザーにユーザーまたはロールを削除する権限がありません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

操作しているユーザーに権限を割り当てるか、権限があるユーザーで操作してください。

KNAB01005-E

JP1 管理者 (jpladmin) は削除できません

JP1 管理者 (jpladmin ユーザー) は削除できません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

JP1 管理者 (jpladmin ユーザー) を選択しないで、ユーザーを削除してください。

KNAB01006-E

JP1 管理者 (jpladmin) はシステムロールから削除できません

jpladmin ユーザーはシステムロールから削除できません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

jpladmin ユーザーを選択しないで、ユーザーを削除してください。

KNAB01007-E

システムロールは削除できません

システムロールは削除できません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

システムロールを選択しないで、ロールを削除してください。

KNAB01008-E

ID が重複しています

ID が重複しています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

別の ID を入力してください。

KNAB01009-E

旧パスワードが異なっています

旧パスワードが間違っています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

パスワードを確認してください。

KNAB01010-E

ユーザー・ロールの上限数（上限値）を超えたため、登録はできません

登録できるユーザー、ロールの最大値を超えました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

不要なユーザー、ロール、およびロールのメンバーを削除してください。

KNAB02002-E

サーバ側で障害が発生しました

サーバで障害が発生しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

エラーが発生したことを、システム管理者に連絡してください。

KNAB02003-E

リクエストに不正な値が設定されました

URL から直接起動した場合、クライアントから WWW サーバへのリクエストデータに不正があります。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面操作からエラーが発生した場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB02004-E

データベースで障害が発生しました。(詳細コード)

データベースへのアクセスに失敗しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

詳細コードに-756 が出力された場合

データベースの容量が不足しています。不要なデータを削除して、次の操作を実行してください。

1. jssdelrec コマンドを実行し、削除待ち状態のデータを削除する。
2. jssdborg.bat コマンドを実行し、データベースの空き領域を再編成する。

同じメッセージが再度発生する場合は、次の手順でデータベースのサイズを大きくしてください。

1. jssdbbackup.bat コマンドでデータベースをバックアップする。
2. jsssetup.bat コマンドでデータベースのサイズを大きくする。
3. jssdbrecovery.bat コマンドで、バックアップデータをリカバリーする。

詳細コードに-770 が出力された場合

データベースに処理が集中しています。しばらく時間を空けてから、再度実行してください。

それ以外の場合

jssdbbackup.bat コマンド、jssdbrecovery.bat コマンド、jssdborg.bat コマンド、または jssdbreclaim.bat コマンドを実行していないか確認してください。コマンドを実行している場合はコマンドを終了してから、もう一度操作してください。

また、マシンに負荷が掛かっているおそれがあります。しばらく時間を空けてから、再度実行してください。

同じエラーが再度発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB03001-W

ユーザー・ロール名は、すでに削除されています

すでに削除されたユーザー名、ロール名を削除しようとしてしました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、ユーザーまたはロールが削除されているかを確認してください。

KNAB03002-W

ユーザー名は、すでに登録されています

すでに登録されているメンバーをロールに追加しようとしてしました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、メンバーがロールに追加されているかを確認してください。

KNAB04005-I

ユーザー・ロールが選択されていません

[ユーザー選択] 画面または [ユーザー・ロール選択] 画面で、ユーザー、ロールを選択しないで [設定] を選択しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

ユーザーまたはロールを選択して再度実行してください。

KNAB04006-I

画面を閉じてください

サーバ障害時、または再ログイン後に表示されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を閉じてください。

KNAB04007-I

[戻る]ボタンを押してください

サーバ障害時、または再ログイン後に表示されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、操作してください。再度同じメッセージが表示される場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB05017-W

プロパティキー（プロパティキー名）にデフォルト値（デフォルト値）を設定しました

ログに出力される詳細情報メッセージです。

(S)

ログを出力します。

(O)

プロパティキーの指定値が正しいか見直してください。

KNAB05059-I

プロパティキー（プロパティキー名）に（設定値）を設定しました

使用したプロパティキーの値が出力されます。

(S)

ログを出力します。

14.5 画面操作時（案件管理）のメッセージ（KNAB10005～KNAB16008）

画面操作時（案件管理）に出力されるメッセージを次に示します。

KNAB10005-E

指定された入力項目の名称は長過ぎます。上限値バイト以内の文字列で入力してください

入力チェックで入力文字数が最大値を超えた場合に表示します。入力文字数は、UTF-8 で換算してからチェックします。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、入力文字数が最大値を超えないように見直してください。

KNAB10013-E

添付ファイルを登録できません。添付ファイルの最大サイズは上限値 MB までです

添付ファイルとして登録できる 1 ファイルサイズが、上限値を超えました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

ファイルを分割するなど、ファイルサイズを上限値より小さくしてから、添付し直してください。

KNAB10017-E

指定したプロセスワークボードはすでに存在します

指定したシステム、プロセスと同じ組み合わせのプロセスワークボードがすでに作成されています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、システム、またはプロセスの指定を見直してください。

KNAB10035-E

一括操作できる案件数の上限値（上限値件）を超えています

選択された案件の数が、一括操作できる案件数の上限値を超えています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、選択されている案件の数を上限値まで減らしてください。

KNAB11001-E

選択された選択対象が見つかりません

データベースにない項目を選択しました。選択した項目がほかのユーザーに削除された可能性があります。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、項目が削除されているかを確認してください。

KNAB11002-E

権限がないため、参照対象の参照はできません

選択した項目を参照する権限がありません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

操作しているユーザーに権限を割り当てるか、権限があるユーザーで操作してください。

KNAB11003-E

権限がないため、検索対象の検索はできません

指定した項目を参照する権限がありません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

操作しているユーザーに権限を割り当てるか、権限があるユーザーで操作してください。

KNAB11004-E

権限がないため、登録対象の登録はできません

指定した項目を登録する権限がありません。

- (S)
ユーザーの操作を待ちます。
- (O)
操作しているユーザーに権限を割り当てるか、権限があるユーザーで操作してください。

KNAB11005-E

権限がないため、更新対象の更新はできません

指定した項目を更新する権限がありません。

- (S)
ユーザーの操作を待ちます。
- (O)
操作しているユーザーに権限を割り当てるか、権限があるユーザーで操作してください。

KNAB11006-E

権限がないため、削除対象の削除はできません

指定した項目を削除する権限がありません。

- (S)
ユーザーの操作を待ちます。
- (O)
操作しているユーザーに権限を割り当てるか、権限があるユーザーで操作してください。

KNAB11007-E

権限がないため、操作内容はできません

指定した内容进行操作する権限がありません。

- (S)
ユーザーの操作を待ちます。
- (O)
操作しているユーザーに権限を割り当てるか、権限があるユーザーで操作してください。

KNAB11008-E

登録対象の上限数（上限値）を超えたため、登録はできません

登録できるシステム、プロセスワークボードまたは案件の最大値を超えました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

不要なシステム、プロセスワークボードまたは案件を削除してから、システム、プロセスワークボードまたは案件を登録してください。

案件の編集回数が最大値に達した場合、対象の案件の編集およびエスカレーション、案件の引き戻し、および案件の差し戻しはできません。対象の案件の内容を、新規案件として登録してください。

KNAB11009-E

システムまたはプロセスワークボードの状態が更新されています。再表示して最新の状態を確認してください

システムまたはプロセスワークボードがほかのユーザーに更新された可能性があります。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、システムまたはプロセスワークボードの状態を確認してください。

KNAB11010-E

案件が編集中ではないため、操作内容はできません

案件の状態が編集中ではないため、指定した操作ができません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、案件の状態を確認してください。

KNAB11011-E

ほかのユーザー（*編集中のユーザー名*）が案件を編集中のため、操作内容はできません

ほかのユーザーが編集中の案件を操作しようとしてしました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

ほかのユーザーが編集を終えてから、操作を実行してください。

KNAB11012-E

編集中の案件は、削除できません

編集中の案件を削除しようとした。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

ほかのユーザーが編集を終えてから、削除してください。

KNAB11013-E

指定した案件のプロセスワークボードが見つかりません

案件の作成元、参照元または登録先のプロセスワークボードがありません。ほかのユーザーにすでに削除された可能性があります。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、プロセスワークボードが削除されていないかを確認してください。

KNAB11015-E

指定した案件のエスカレーション元の案件が見つかりません

エスカレーション元の案件がありません。ほかのユーザーにすでに削除された可能性があります。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、エスカレーション元の案件が削除されていないかを確認してください。

KNAB11016-E

指定した案件のエスカレーション元のプロセスワークボードが見つかりません

エスカレーション元の場合のプロセスワークボードがありません。ほかのユーザーにすでに削除された可能性があります。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、エスカレーション元のプロセスワークボードが削除されていないかを確認してください。

KNAB11017-E

ユーザー ID またはパスワードに誤りがあります

ユーザー ID またはパスワードが間違っています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

登録されているユーザー ID または正しいパスワードを指定して、もう一度操作してください。

正しいユーザー ID およびパスワードを入力しても、このメッセージが表示される場合は、次の内容を確認して、ログインし直してください。

認証サーバとして案件管理 DB を使用している場合

- 「JP1/Service Support - DB Server」サービス、または「JP1/Service Support - DB Cluster Service」サービス（クラスタ運用時）が起動しているか確認する。
- jssdbbackup.bat コマンド、jssdbrecovery.bat コマンド、jssdbroorg.bat コマンドおよび jssdbreclaim.bat コマンドを実行していないか確認する。

認証サーバとしてサービスが起動している場合

接続先の LDAP サーバまたは JP1/Base の認証サーバの状態を確認してください。また、接続先が LDAP サーバの場合は、該当ユーザアカウントがアカウントロックされていないか確認してください。

これらの内容を確認しても同じエラーが再度発生する場合は、資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

特定の JP1 製品から JP1/Service Support 画面を表示した際に、このメッセージが表示された場合は、次の内容を見直し、または確認してください。

- 連携元の JP1 製品で、JP1/Service Support と連携するための設定を見直してください。
- JP1 製品連携設定プロパティファイルの内容を見直してください。
- JP1 製品連携設定プロパティファイルの「hptl_jp1_imss_information_search_userid」に指定したユーザー ID が、案件管理 DB や LDAP サーバに登録されているか確認してください。
- 認証サーバとして LDAP サーバを使用している場合、JP1 製品連携設定プロパティファイルの「hptl_jp1_imss_information_search_userid」に指定したユーザー ID のパスワードが、案件管理 DB と LDAP サーバで一致しているか確認してください。

JP1 製品連携設定プロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties)」を参照してください。

JP1/IM - View を経由して JP1/Service Support にログインする際に、このメッセージが表示された場合は、JP1/IM - View にログインしたユーザーのユーザー ID が JP1/Service Support に登録されているか確認してください。登録されている場合は、JP1/IM - View にログインしたユーザーのパスワードと JP1/Service Support に登録されているユーザーのパスワードが一致しているか確認してください。

これらの内容を確認しても同じエラーが再度発生する場合は、資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAB11018-E

プロセスワークボードの状態が運用中ではないため、**編集**はできません

運用中ではないプロセスワークボードを編集しようとしてしました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、プロセスワークボードが運用中であることを確認してから、操作してください。

KNAB11021-E

エスカレーション先のプロセスワークボードが見つかりません

エスカレーション先の案件のプロセスワークボードがありません。ほかのユーザーにすでに削除された可能性があります。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、エスカレーション先のプロセスワークボードが削除されていないかを確認してください。

KNAB11022-E

ほかのユーザーが案件を編集のため、**登録**・**編集**はできません

ほかのユーザーが編集中の案件を登録または編集しようとしてしました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

ほかのユーザーが編集を終えてから、操作してください。

KNAB11023-E

ID が重複しています

ID が重複しています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、ID が重複しないよう入力し直してください。

KNAB11025-E

プロセスワークボードの状態が運用中のため、*操作内容はできません*

運用中のプロセスワークボードではできない操作をしようとしてしました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

プロセスワークボードの状態を変更してから操作してください。

KNAB11026-E

すでに更新されています

編集中にほかのユーザーが更新しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、更新されていることを確認してから、操作してください。

KNAB11027-E

操作対象が削除されているため、操作内容はできません

すでに削除されている項目を操作しようとしてしました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、操作対象が削除されていることを確認してください。

KNAB11028-E

操作対象が最新ではありません。再表示して最新の状態を確認してください

表示されている項目が最新ではありません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、最新の状態を確認してください。

KNAB11030-E

システム名が重複しています

同じシステム名がすでに登録されています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、システム名が重複しないよう入力し直してください。

KNAB11031-E

対象システムが存在しないため、プロセスワークボードを作成できません

対象システムを作成する前に、プロセスワークボードを作成しようとしてしました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

対象システムを作成してください。

KNAB11032-E

添付ファイルが取得できません。添付ファイルのファイル名称に誤りがないか確認してください。また、ファイルサイズが1バイト以上であるか確認してください

存在しないファイル、または0バイトのファイルを指定しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

指定したファイルがあるかどうか、0バイト以上のファイルかを確認してください。

KNAB11033-E

ファイルの添付に失敗しました。[戻る]ボタンをクリックし、再度実行してください

添付ファイルの取得に失敗しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

[戻る] ボタンをクリックして、入力画面でファイルを添付し直してください。

KNAB11035-E

選択された案件フォームは使用中のため、削除できません

使用中の案件フォームを削除しようとした場合に表示されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

案件フォームが使用されています。次に示す対処をしてから、案件フォームを削除してください。

- 案件フォームを使用している案件をすべて削除してください。
- 案件フォームをプロセスワークボードに設定している場合は、変更してください。
- 案件フォームをプロセスの標準案件フォームに使用している場合は、変更してください。

KNAB11037-E

マクロファイルが存在しません

JP1/Service Support のマクロ格納先フォルダ (JP1/SS パス¥home¥public¥report¥) にマクロファイルがありません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

JP1/Service Support のマクロ格納先フォルダ (JP1/SS パス¥home¥public¥report¥) を確認し、マクロファイルがない場合はマクロファイルを配置してください。

KNAB11038-E

出力対象のシステムまたはプロセスが存在しません

[集計データのファイル出力] 画面で、出力対象となる対象システム、プロセスが存在しない場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

対象システム、プロセスを作成してから再度画面を開いてください。

KNAB11039-E

登録内容が重複しています。異なる名称を入力してください。(名称：重複した名称)

重複を許可しない名称を入力した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

異なる名称を指定してください。

KNAB11040-E

検索条件は検索条件の個数つ以内で入力してください。

メイン画面（案件一覧）の簡易検索エリアで、一定個数以上の検索条件を指定した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

メイン画面（案件一覧）の簡易検索エリアで、検索条件を減らして再度検索してください。

KNAB11041-E

案件のステータスにエスカレーションの禁止設定があるため、案件をエスカレーションできません

案件のステータスに、エスカレーション禁止の設定がある案件をエスカレーションした場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

エスカレーション禁止の設定がない案件をエスカレーションしてください。エスカレーション禁止の設定がある案件をエスカレーションしたい場合は、エスカレーション禁止の設定を見直してください。

KNAB11042-E

案件を登録するプロセスワークボードが見つかりません

案件の登録先のプロセスワークボードが見つからない場合に出力されます。

- (S)
ユーザーの操作を待ちます。
- (O)
案件を登録するプロセスワークボードを作成し、案件を登録できる権限を割り当ててください。

KNAB11043-E

使用している案件フォームが切り替えられたため、検索できません

検索中に使用している案件フォームが切り替えられた場合に出力されます。

- (S)
ユーザーの操作を待ちます。
- (O)
[案件共通項目検索条件指定] 画面または [案件検索条件指定] 画面を起動して、検索し直してください。

KNAB11044-E

指定した引き継ぎ元の案件が見つかりません

引き継ぎ元（流用元）の案件が存在しません。

- (S)
ユーザーの操作を待ちます。
- (O)
引き継ぎ元（流用元）の案件が削除されていないか確認してください。

KNAB11045-E

指定した引き継ぎ元案件のプロセスワークボードが見つかりません

引き継ぎ元（流用元）の案件が登録されているプロセスワークボードが存在しません。

- (S)
ユーザーの操作を待ちます。
- (O)
引き継ぎ元（流用元）の案件が登録されているプロセスワークボードが削除されていないか確認してください。

KNAB11046-E

指定した案件フォームにおいて、案件の参照権限を設定する項目の定義が不正、あるいは存在していません

「案件ごとの参照権限の設定」が有効、かつ指定した案件フォームが次に示すどれかの条件に該当する場合に出力されます。

- 案件の参照権限を指定する項目の「型」が「userrole」となっていない。
- 案件の参照権限を指定する項目の必須項目となっていない。
- 指定した案件フォームに、案件の参照権限を指定する項目が存在しない。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

指定した案件フォームに、案件の参照権限を指定する項目として使用する拡張ユーザー情報項目が追加されているか確認してください。追加されている場合、使用する拡張ユーザー情報項目の「型」が「userrole」に設定、かつ必須項目となっていることを確認してください。

KNAB11047-E

指定したプロセスの標準案件フォームにおいて、案件の参照権限を設定する項目の定義が不正、あるいは存在していません

「案件ごとの参照権限の設定」が有効、かつ指定したプロセスの標準案件フォームが次に示すどれかの条件に該当する場合に出力されます。

- 案件の参照権限を指定する項目の「型」が「userrole」となっていない。
- 案件の参照権限を指定する項目の必須項目となっていない。
- 指定した案件フォームに、案件の参照権限を指定する項目が存在しない。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

指定したプロセスの標準案件フォームに、案件の参照権限を指定する項目として使用する拡張ユーザー情報項目が追加されているか確認してください。追加されている場合、使用する拡張ユーザー情報項目の「型」が「userrole」に設定、かつ必須項目となっていることを確認してください。

KNAB11048-E

選択した案件は保存案件のため、*操作内容はできません*

保存案件に対して、操作内容で示す操作をしました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

選択した案件が、ほかのユーザーによって保存された可能性があります。画面を最新の状態にして、選択対象が保存されているか確認してください。

KNAB12001-E

データベースで障害が発生しました。(詳細コード)

データベースへのアクセスに失敗しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

詳細コードに-756 が出力された場合

案件管理 DB の容量が不足しています。不要なデータの削除、案件管理 DB のサイズの変更、または案件を保存してください。それぞれの手順を次に示します。

- 不要なデータの削除

1. 不要なデータを削除する。
2. jssdelrec コマンドを実行し、削除待ち状態のデータを削除する。
3. jssdborg.bat コマンドを実行し、案件管理 DB の空き領域を再編成する。

- 案件管理 DB のサイズの変更

1. jssdbbackup.bat コマンドを実行し、案件管理 DB をバックアップ（拡張用）する。
2. jssdbinit.bat コマンドを実行し、案件管理 DB のサイズを大きくする。
3. jssdbrecovery.bat コマンドを実行し、手順 1 で取得したバックアップデータをリカバリーする。

- 案件の保存

1. jssitemstore コマンドを実行し、クローズ済みの古い案件を案件保存 DB に保存する。
2. jssdborg.bat コマンドを実行し、案件管理 DB の空き領域を再編成する。

詳細コードに-205 が出力された場合

-vup オプションを指定しないで JP1/Service Support をセットアップした可能性があります。その場合は、-vup オプションを指定して、再度セットアップしてください。

詳細コードに-204 が出力された場合

旧バージョンの環境で採取したバックアップファイルを、最新バージョンの環境にリカバリーした可能性があります。その場合は次の手順で対処してください。

1. 最新バージョンをアンインストールする。

2. バックアップファイルを採取した際のバージョンの JP1/Service Support を新規インストールする。
3. セットアップする。
4. 旧バージョンの環境で採取したバックアップファイルをリカバリーする。
5. 最新バージョンを上書きインストールする。
6. -vup オプションを指定してセットアップする。

それ以外の場合

jssdbbackup.bat コマンド、jssdbrecovery.bat コマンド、jssdbrorg.bat コマンド、jssdbreclaim.bat コマンド、および jssrefaclsetup コマンドを実行していないか確認してください。コマンドを実行している場合はコマンドを終了してから、もう一度操作してください。

また、マシンに負荷が掛かっているおそれがあります。しばらく時間を空けてから、再度実行してください。

同じエラーが再度発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB12002-E

サーバ側で障害が発生しました。(エラーコード)

サーバで障害が発生しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

環境構築が正しく行われているかを確認し、再度実行してください。同じエラーが再度発生する場合は、エラーが発生したことを、システム管理者に連絡してください。

KNAB12003-E

リクエストに不正な値が設定されました

URL から直接起動したときに、クライアントから WWW サーバへのリクエストデータに不正があります。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

エラーが発生した画面を閉じ、新規に画面を表示して、再度処理を実行してください。画面操作からエラーが発生した場合は、最新バージョンの環境で採取したバックアップファイルを、旧バージョンの環境にリカバリーした可能性があります。その場合は、次の手順で対処してください。

1. 最新バージョンを上書きインストールする。
2. -vup オプションを指定してセットアップする。

3. 最新バージョンの環境で採取したバックアップファイルをリカバリーする。
同じエラーが再度発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB12013-E

セッションが切断されています。ログイン後、再度実行してください

予期しないセッション切断時に表示されます。

- (S)
ユーザーの操作を待ちます。
- (O)
ログイン後、再度実行してください。

KNAB12014-E

案件ごとの参照権限設定機能を使用するための環境が不正です。案件ごとの参照権限設定セットアップコマンドを再実行してください

案件ごとの参照権限設定機能を使用するための環境が不正です。

- (S)
ユーザーの操作を待ちます。
- (O)
次に示す状態になっていないかを確認してください。該当する場合は、-id オプションを指定して jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) コマンドを、再度実行してください。
- -expand オプションを指定した案件管理 DB バックアップコマンドを実行して取得したバックアップファイルを使用して、jssdbrecovery.bat (データベーススリカバリー) コマンドを実行してリカバリーしたあとに jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) コマンドを実行していない場合。
 - -id オプションを指定した jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) コマンドの実行に失敗した場合。
- jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) コマンドの実行が正常に終了したあとに、再度このメッセージが出力される場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB13003-W

案件が参照できません

案件が案件管理 DB から削除されています。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

画面を再表示して、案件があるかどうかを確認してください。

KNAB13004-W

検索が一定時間を越えたため、タイムアウトが発生しました

検索が一定時間を越え、タイムアウトが発生した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

[案件共通項目検索条件指定] 画面または [案件検索条件指定] 画面で、検索範囲指定、キーワード条件指定、属性条件指定、[すべての条件を満たす] ラジオボタンを選択するなどの操作を行い、検索範囲を絞り込んでから再度検索してください。

KNAB13005-W

操作ログの出力に失敗しました。(事象は成功しました。)

操作ログの出力に失敗しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

出力先フォルダに十分な空きがあるかどうか、出力先フォルダに書き込み権限があるかどうかを確認してください。確認したあと、JP1/Service Support のサービスを再起動してください。

再度このメッセージが出力される場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB14007-I

ヘルプファイルが存在しません

HTML マニュアルが JP1/Service Support にありません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

提供している HTML マニュアルが JP1/SS パス¥home¥public¥manual¥ja¥, JP1/SS パス¥home¥public¥manual¥en¥, または JP1/SS パス¥home¥public¥manual¥zh¥に正しく組み込まれているか確認してください。組み込みの手順については、「6.8 マニュアルの組み込み手順」を参照してください。

KNAB15027-W

プロパティキープロパティキー名の値を、デフォルト値（デフォルト値）に設定しました

プロパティ値の取得に失敗したため、デフォルト値を設定しました。

(S)

ログを出力します。

(O)

プロパティキーの指定値が正しいか見直してください。

KNAB15042-E

ユーザー情報の取得に失敗しました

ユーザー情報の取得に失敗しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

認証サーバとして LDAP サーバまたは JP1/Base の認証サーバを使用している場合は、案件管理 DB にユーザー情報を登録してください。認証サーバとして案件管理 DB を使用している場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB15061-W

プロパティキープロパティキー名が不正です

プロパティキーに、不正なプロセスワークボード ID を指定しました。

(O)

プロパティキーの指定値が正しいか見直してください。

KNAB15064-W

JP1 イベントの発行に失敗しました。JP1/Base が同一ホストに存在しません。イベント ID : イベント ID 案件 ID : 案件 ID (操作内容は成功しました)

JP1/Base が同一ホストに存在しないため、JP1 イベントを発行できませんでした。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

ログを出力します。

(O)

JP1/Base を同一ホストにインストールしているか確認してください。または、JP1 イベント発行設定ファイルで指定したイベントサーバ名が正しいか見直してください。操作内容の結果は、画面の再表示で確認できます。

KNAB15065-W

JP1 イベントの発行に失敗しました。JP1 イベント送信先サーバに接続できません。イベント ID：イベント ID 案件 ID：案件 ID (操作内容は成功しました)

JP1/Base のイベントサーバが起動していないため、JP1 イベントを発行できませんでした。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

ログを出力します。

(O)

JP1/Base のイベントサーバを起動してください。操作内容の結果は、画面の再表示で確認できます。

KNAB15066-W

JP1 イベントの発行に失敗しました。JP1 イベントに格納できる属性値の合計が上限値（10,000 バイト）を超えています。イベント ID：イベント ID 案件 ID：案件 ID (操作内容は成功しました)

JP1 イベントの属性値の合計が上限 10,000 バイトを超えたため、JP1 イベントを発行できませんでした。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

ログを出力します。

(O)

ステータス変更 JP1 イベント定義ファイルに設定した拡張属性を見直してください。操作内容の結果は、画面の再表示で確認できます。

KNAB15067-W

JP1 イベントの発行処理中にエラーが発生しました。イベント ID：イベント ID 案件 ID：案件 ID (操作内容は成功しました)

JP1 イベントの発行処理に失敗しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

ログを出力します。

(O)

エラーが発生したことを、システム管理者に連絡してください。

KNAB15068-W

JP1 イベントの送信処理中にエラーが発生しました。イベント ID：イベント ID 案件 ID：案件 ID (操作内容は成功しました)

JP1 イベントの送信処理に失敗しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

ログを出力します。

(O)

エラーが発生したことを、システム管理者に連絡してください。

KNAB15069-I

案件のステータスがクローズで登録されました

案件のステータスが「クローズ」で登録されました。

JP1 イベントの基本属性 MESSAGE に格納するメッセージです。

KNAB15070-I

案件が JP1 イベント発行対象のステータスで登録されました

案件が JP1 イベント発行対象のステータスで登録されました。

JP1 イベントの基本属性 MESSAGE に格納するメッセージです。

KNAB15071-I

JP1 イベントの発行に成功しました。イベント ID：イベント ID 案件 ID：案件 ID

JP1 イベントの発行に成功しました。

KNAB15072-W

プロパティキープロパティキー名が重複しています

プロパティキーまたはプロパティの値が重複しています。

(O)

プロパティキーまたはプロパティの値を確認してください。

KNAB15074-W

入力候補値設定ファイル（設定ファイル名）の値が不正です。設定を無視します。（Key：キー値，Value：値，ErrorType：エラーの種別）

入力候補値設定ファイルに指定した値が不正な場合に出力されます。エラーの種別の意味を次の表に示します。

表 14-4 エラーの種別の意味

エラーの種別	意味
1	値に制御文字が含まれている。
2	案件項目 ID ではない文字列が指定されている。
3	案件項目 ID のタイプとして指定できないタイプの案件項目 ID が指定されている。
4	指定できる最大文字列長を超えた文字列が指定されている。
5	「入力候補値を設定する案件項目 ID の設定」で定義した案件項目 ID 以外の文字列が指定されている。

(S)

ログを出力します。設定を無視して処理を続行します。

(O)

入力候補値設定ファイルとシステムプロパティファイルの内容を見直してください。

KNAB15075-W

入力候補値設定ファイル（設定ファイル名）のキー値が不正です。設定を無視します。キー値の「n」の値が指定可能な数値ではありません。（Key：キー値）

入力候補値設定ファイルに指定したキー値の「n」の値が指定可能な数値ではない場合に出力されます。

(S)

ログを出力します。設定を無視して処理を続行します。

(O)

入力候補値設定ファイルの内容を見直してください。

KNAB15076-W

入力候補値設定ファイル（設定ファイル名）の設定が不正です。設定を無視します。「入力候補値を設定する案件項目 ID の設定」に対する「入力候補値の値の設定」がありません。（Key：キー値，Value：値）

「入力候補値を設定する案件項目 ID の設定」で設定した案件項目 ID 値に対する入力候補値が定義されていない場合に出力されます。

(S)

ログを出力します。設定を無視して処理を続行します。

(O)

入力候補値設定ファイルの内容を見直してください。

KNAB15077-W

入力候補値設定ファイル（設定ファイル名）の設定が不正です。設定を無視します。キー名のフォーマットが不正です。（Key：キー値）

入力候補値設定ファイルに指定したキー名のフォーマットが不正な場合に表示します。

(S)

ログを出力します。設定を無視して処理を続行します。

(O)

入力候補値設定ファイルの内容を見直してください。

KNAB15078-W

入力候補値設定ファイル（設定ファイル名）の設定が不正です。設定を無視します。同一のキー値で複数の定義が行われています。（Key：キー値，Value：値）

同一のキー値で複数の定義が行われている場合に出力されます。設定ファイルの最も下の行の定義が有効となります。

(S)

ログを出力します。設定を無視して処理を続行します。

(O)

入力候補値設定ファイルの内容を見直してください。

KNAB15079-W

入力候補値設定ファイル（設定ファイル名）の設定が不正です。設定を無視します。一つの関連先に対して複数の関連元が定義されています。（Key：キー値，Value：値）

一つの関連先に対して複数の関連元が定義されている場合に出力されます。

(S)

ログを出力します。設定を無視して処理を続行します。

(O)

入力候補値設定ファイルの内容を見直してください。

KNAB15080-W

入力候補値設定ファイル（設定ファイル名）の値が不正です。設定を無視します。（Key：キー値，ErrorType：エラーの種別）

入力候補値設定ファイルに指定した値が不正な場合に表示します。エラーの種別の意味を次の表に示します。

表 14-5 エラーの種別の意味

エラーの種別	意味
1	入力候補値を設定する案件項目 ID の設定で、指定した案件項目 ID 以外の文字列がキー値に含まれる。
2	関連元に案件項目 ID ではない文字列が指定されている。
3	関連元に案件項目 ID のタイプとして指定できないタイプの案件項目 ID が指定されている。
4	関連元に入力候補値を設定する案件項目 ID の設定で、定義した案件項目 ID 以外の文字列が指定されている。
5	関連先に案件項目 ID ではない文字列が指定されている。
6	関連先に案件項目 ID のタイプとして指定できないタイプの案件項目 ID が指定されている。
7	関連先に入力候補値を設定する案件項目 ID の設定で、定義した案件項目 ID 以外の文字列が指定されている。

(S)

ログを出力します。設定を無視して処理を続行します。

(O)

入力候補値設定ファイルの内容を見直してください。

KNAB15081-W

入力候補値設定ファイルが存在しません。（プロセスワークボード ID：プロセスワークボード ID）

「hptl_jpl_imss_input_assist_pwb_list」に指定してあるプロセスワークボードの入力候補値設定ファイルが存在しない場合に出力されます。

(S)

ログを出力します。設定を無視して処理を続行します。

(O)

システムプロパティファイルの指定キーである hptl_jpl_imss_input_assist_pwb_list の定義内容を見直してください。案件の入力補助機能を使用したい場合は、入力候補値設定ファイルを作成してください。

KNAB15082-W

入力候補値設定ファイルのサイズが上限を超えています。ファイルサイズの上限は上限値 kbyte です。(ファイル名：設定ファイル名)

入力候補値設定ファイルのサイズが上限を超えている場合に出力されます。

(S)

ログを出力します。設定を無視して処理を続行します。

(O)

入力候補値設定ファイルの内容を見直してください。

KNAB15084-W

入力候補値設定ファイルの読み込みに失敗しました。(要因：要因)

入力候補値設定ファイルの読み込みに失敗した場合に出力されます。

(S)

ログを出力します。設定を無視して処理を続行します。

(O)

ファイルの読み込みに失敗した要因を取り除いて再度実行してください。要因を取り除いても読み込みに失敗する場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB15087-I

入力候補値設定ファイルの解析処理を開始します

入力候補値設定ファイルの解析処理を開始した場合に出力されます。

KNAB15088-I

入力候補値設定ファイルの解析処理を終了しました

入力候補値設定ファイルの解析処理を終了した場合に出力されます。

KNAB15091-E

JP1/UCMDB 連携の環境に誤りがあります

JP1/UCMDB 連携の環境設定に誤りがある場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

「[9.16.4 JP1/UCMDB と連携するための環境設定](#)」を参照して、三つの jar ファイルのコピーを見直してください。

KNAB15093-I

JP1/UCMDB サーバとの接続処理を開始します

JP1/UCMDB サーバとの接続処理を開始した場合に出力されます。

(S)

処理を続行します。

KNAB15094-I

JP1/UCMDB サーバに接続しました (*JP1/UCMDB バージョン, 内部コード*)

JP1/UCMDB サーバに接続した場合に出力されます。

(S)

処理を続行します。

KNAB15095-I

JP1/UCMDB リソースの検索を開始します (*種別, 機器情報*)

JP1/UCMDB リソースの検索を開始した場合に出力されます。

(S)

処理を続行します。

KNAB15096-I

JP1/UCMDB リソースの検索が終了しました (*検索した数*)

JP1/UCMDB リソースの検索が終了した場合に出力されます。

(S)

処理を続行します。

KNAB15098-E

パラメタが不正です (詳細メッセージ, 補足情報)

指定値が正しくない場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties) の指定値を見直してください。

KNAB15099-E

JP1/UCMDB サーバとの接続に失敗しました (詳細メッセージ)

JP1/UCMDB サーバとの接続に失敗した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

「[9.16.4 JP1/UCMDB と連携するための環境設定](#)」を参照して、設定を見直してください。設定が正しい場合は、JP1/UCMDB の運用管理者に連絡し、サーバの状態を確認してください。

KNAB15100-E

JP1/UCMDB から情報の取得に失敗しました

JP1/UCMDB から情報の取得に失敗した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

指定した機器情報を確認して再度実行してください。指定した機器情報が正しい場合は、JP1/UCMDB の運用管理者に連絡し、サーバの状態を確認してください。

KNAB15101-E

JP1/UCMDB のバージョンが正しくありません

接続できないバージョンの JP1/UCMDB と接続しようとしている場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

JP1/UCMDB の運用管理者に連絡し、バージョンを確認してください。

KNAB15102-W

プロパティキー (不正なプロパティキー名) に (設定値) を設定しました

プロパティキーの設定値に不正なものがあつた場合に、その不正な設定値以外を設定します。ただし、不正な設定値しかなかつた場合はプロパティキーには何も設定しません。

(S)

ログを出力します。

(O)

プロパティキーの指定値が正しいか見直してください。

KNAB15103-I

操作内容 (案件 ID, ユーザー ID, またはロール ID=案件 ID, ユーザー ID, またはロール ID) のメール通知処理を開始します

メール通知処理を開始します。

(S)

ログを出力します。

KNAB15104-I

メール通知処理を終了します

メール通知処理を終了します。

(S)

ログを出力します。

KNAB15105-W

メールサーバへの接続に失敗しました

メールサーバに接続できないため、メールを送信できませんでした。タイムアウトが発生して、メールサーバに接続できませんでした。

(S)

ログを出力します。

(O)

次の内容を確認してください。

- メールサーバが起動しているか。
- メールサーバと案件管理サーバとの接続状態。
- 通信障害が発生していないか。

KNAB15106-W

メールサーバへのログインに失敗しました

メールサーバへログインできないため、メールを送信できませんでした。

(S)

ログを出力します。

(O)

認証ユーザー設定コマンドで設定したユーザー ID とパスワードを確認してください。

KNAB15107-W

送信対象者 (ユーザー名=ユーザー名) にメールアドレスが設定されていません

送信対象のユーザーにメールアドレスが設定されていません。

(S)

ログを出力します。

(O)

メール送信に失敗したユーザーのメールアドレスの設定を確認してください。

KNAB15108-W

送信対象者 (ユーザー名=ユーザー名) にメールを送信できませんでした

送信対象のユーザーに設定したメールアドレスが不正です。

送信対象のユーザーにメールを送信できませんでした。

(S)

ログを出力します。

(O)

メール送信に失敗したユーザーに設定しているメールアドレスを見直してください。

次の内容を確認してください。

- メール送信に失敗したユーザーに設定しているメールアドレスが正しいか。
- メールサーバと案件管理サーバの認証設定が一致しているか。
- メールサーバが起動しているか。

- 通信障害が発生していないか。

KNAB15109-W

メール送信処理中にエラーが発生しました。(エラーコード:エラーコード(詳細情報))

メール送信処理中にエラーが発生しました。

なお、(詳細情報)は、出力されない場合があります。

(S)

ログを出力します。

(O)

(詳細情報)に次に示す情報が出力される場合は、メール送信者がメールサーバからアクセスを拒否されている可能性があります。メール送信者の設定またはメールサーバの設定を見直してください。

- com.sun.mail.smtp.SMTPSendFailedException: 530 5.7.1 Client was not authenticated
- com.sun.mail.smtp.SMTPSendFailedException: 550 5.7.1 Client does not have permissions to send as this sender

そのほかの場合は、エラーが発生したことを、システム管理者に連絡してください。

KNAB15110-W

全ての送信対象ユーザーに対するメールの送信に失敗しました。(操作内容は成功しました)

すべての送信対象ユーザーに対するメールの送信に失敗しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

ログを出力します。

(O)

このメッセージの直前に出力されたメッセージを参照してください。

KNAB15111-W

メールの送信に失敗したユーザーがいます。(操作内容は成功しました)

一部の送信対象ユーザーに対するメールの送信に失敗しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

ログを出力します。

(O)

このメッセージの直前に出力されたメッセージを参照してください。

KNAB15112-I

案件の操作内容を行います。よろしいですか？（操作内容後のステータス：ステータス、担当者：担当者）

操作を実行する前の確認メッセージです。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

KNAB15113-E

案件がすでに操作内容されているため、操作内容できません

案件が現在のステータスに遷移したあとに編集またはエスカレーションされた状態で、この案件の引き戻しまたは差し戻しを実行した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

KNAB15114-E

登録時のステータスから遷移していないため、操作内容できません

案件が登録時のステータスから次のステータスへ遷移していない状態で、案件の引き戻しまたは差し戻しを実行した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

KNAB15115-I

プロパティキー（プロパティキー名）に（設定値）を設定しました

使用するプロパティキーの値が出力されます。

(S)

ログを出力します。

KNAB15117-E

プロセスワークボード（プロセスワークボードID）で引き戻しはできません

案件の引き戻し機能を使用しない設定のプロセスワークボードで、案件の引き戻しを実行した場合に出力されません。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

プロセスワークボードの案件の引き戻し機能の設定を見直してください。

KNAB15118-E

担当者名を担当者に設定できないため、操作内容できません

担当者を、案件の引き戻しまたは差し戻し後のステータスの担当者に設定できない状態で、案件の引き戻しまたは差し戻しを実行した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

案件の引き戻しまたは差し戻し後の担当者に、対象の案件を操作できる権限を割り当ててください。

KNAB15119-E

引き戻しできる担当者ではありません

直前に出力される KNAB15112-I のメッセージに表示された担当者ではないユーザーが、案件の引き戻しを実行した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

KNAB15121-E

登録時のステータスよりも前に差し戻しできません

案件の登録時のステータスまで引き戻しまたは差し戻した状態で、差し戻しを実行した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

KNAB15122-E

ステータス (ステータス名) からステータス (ステータス名) へ遷移できないため、操作名できません

現在のステータスから、引き戻しまたは差し戻し後のステータスへの遷移が制限されているプロセスワークボードで、引き戻しまたは差し戻しを実行しました。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

プロセスワークボードのステータスの制限の設定を見直してください。

KNAB15123-E

操作名後のステータス(ステータス名)の必須項目が入力されていないため、操作名できません

案件に引き戻し後のステータスの必須項目が入力されていない状態で、引き戻しを実行した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

KNAB15124-E

案件が現在のステータスに操作名で遷移しているため、引き戻しできません。

案件が現在のステータスに引き戻しまたは差し戻しで遷移している状態で、案件を引き戻した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

KNAB15125-E

案件の履歴情報が不正のため、差し戻しできません

履歴情報が不正な案件に対して案件を差し戻した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

案件の編集機能を使用して、案件を変更してください。

KNAB15126-E

以下の処理に失敗しました。

[詳細情報](#)

メール送信処理, JP1 イベントの発行処理, 操作ログのどれかの処理に失敗しました。詳細情報には, 失敗した処理のメッセージが複数出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

詳細情報に出力されているメッセージを参照してください。

KNAB16001-I

案件を作成しました。(案件 ID : 案件 ID)

案件を作成した場合に出力されます。

(S)

操作ログを出力します。

KNAB16002-I

案件を編集しました。(案件 ID : 案件 ID, 案件のバージョン番号 : 案件のバージョン番号)

案件を編集した場合に出力されます。

(S)

操作ログを出力します。

KNAB16003-I

案件を削除しました。(案件 ID : 案件 ID)

案件を削除した場合に出力されます。

(S)

操作ログを出力します。

KNAB16004-I

案件をエスカレーションしました。(エスカレーション先の案件 ID : エスカレーション先の案件 ID, エスカレーション元の案件 ID : エスカレーション元の案件 ID, 案件のバージョン番号 : 案件のバージョン番号)

案件をエスカレーションした場合に出力されます。

(S)

操作ログを出力します。

KNAB16005-I

案件を引き戻しました。(案件 ID : 案件 *ID*, 案件のバージョン番号 : バージョン番号, 引き戻し前のステータス : 引き戻し前のステータス, 引き戻し後のステータス : 引き戻し後のステータス, 引き戻し前の担当者 : 引き戻し前の担当者, 引き戻し後の担当者 : 引き戻し後の担当者)

案件を引き戻した場合に出力されます。

(S)

操作ログを出力します。

KNAB16006-I

案件を差し戻しました。(案件 ID : 案件 *ID*, 案件のバージョン番号 : バージョン番号, 差し戻し前のステータス : 差し戻し前のステータス, 差し戻し後のステータス : 差し戻し後のステータス, 差し戻し前の担当者 : 差し戻し前の担当者, 差し戻し後の担当者 : 差し戻し後の担当者)

案件を差し戻した場合に出力されます。

(S)

操作ログを出力します。

KNAB16007-I

ユーザーがログインしました。(ユーザー ID : ユーザー *ID*, アクセス元サーバ : アクセス元サーバ, セッション ID : セッション *ID*)

ユーザーがログインした場合に出力します。

(S)

操作ログを出力します。

KNAB16008-I

ユーザーがログアウトしました。(ユーザー ID : ユーザー *ID*)

ユーザーがログアウトした場合に出力します。

(S)

操作ログを出力します。

14.6 セットアップ・コマンド実行時のメッセージ (KNAB20001～KNAB28125)

セットアップ・コマンド実行時のメッセージを次に示します。

KNAB20001-I

処理名を開始します

コマンドの処理を開始します。

KNAB20002-I

しばらくお待ちください

コマンド実行中です。

KNAB20003-I

案件一覧出力が正常に終了しました

案件一覧出力コマンドが正常に終了しました。

KNAB20004-I

案件登録が正常に終了しました

案件登録コマンドが正常に終了しました。

KNAB20005-I

インポートしたユーザー情報の件数件のユーザー情報をインポートしました

ユーザー情報インポートコマンドが正常終了しました。

KNAB20006-I

インポートした案件情報の件数件の案件情報をインポートしました

案件情報インポートコマンドが正常終了しました。

KNAB20007-I

案件履歴出力が正常に終了しました

案件履歴出力コマンドが正常に終了しました。

KNAB20008-I

案件編集は正常に終了しました

案件編集コマンドが正常に終了しました。

KNAB20010-I

コマンドパラメータ (コマンドの実行内容)

コマンドの実行内容でコマンドが実行されたことを示すメッセージです。

KNAB20011-I

JP1/Service Support - Task Service サービスが起動しました

「JP1/Service Support - Task Service」 サービスが起動したことを通知するメッセージです。

KNAB20012-I

JP1/Service Support - Task Service サービスが停止しました

「JP1/Service Support - Task Service」 サービスが停止したことを通知するメッセージです。

KNAB20013-W

プロパティファイルのセクション名(セクション名)が不正です

タスク実行サービス定義ファイル (jplimss_service_setting.conf) に指定されたセクション名[※]が不正です。

注※ セクション名は、32 バイトまで表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

このセクションは有効ではありません。タスク実行サービス定義ファイルを見直し、再度「JP1/Service Support - Task Service」 サービスを開始してください。同じエラーが再度発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB20014-E

プロパティファイルの内容が不正です。(詳細:詳細)

タスク実行サービス定義ファイル (jplimss_service_setting.conf) の指定内容に不正があります。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-6 詳細情報

詳細情報	要因
セクション数が多過ぎます。	セクション数が多い。
同一のセクション名セクションが存在します。	同一のセクション名が存在する。
セクション名セクションのキー名キーの指定が正しくありません。	<ul style="list-style-type: none"> • use キーが存在しないか、use キーの値が値域外である。 • period キーが存在しないか、period キーの値が値域外である。 • basetime キーが存在しないか、basetime キーの値が値域外である。
プロパティファイルが存在しない、または、有効なセクションが一つも存在しません。	タスク実行サービス定義ファイルが存在しない、または、有効なセクションが一つも存在しない。

(S)

サービス起動の処理を中止します。

(O)

タスク実行サービス定義ファイル (jplimss_service_setting.conf) の指定を見直し、再度「JP1/Service Support - Task Service」サービスを開始してください。同じエラーが再度発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB20020-I

リソース名一覧出力は正常に終了しました

一覧出力コマンドが正常に終了しました。

KNAB20021-I

件数件のロール情報をインポートしました

ロール情報インポートコマンドが正常に終了しました。

KNAB20022-I

件数件のメンバー情報をインポートしました

メンバー情報インポートコマンドが正常に終了しました。

KNAB20023-I

件数件のメンバー情報を削除しました

メンバー情報削除コマンドが正常に終了しました。

KNAB20024-I

処理名は正常に終了しました

コマンドの処理が正常に終了しました。

KNAB20025-I

件数件のユーザー情報を編集しました

ユーザー情報編集コマンドが正常に終了しました。

KNAB20026-I

出力対象をエクスポートしました

案件情報拡張エクスポートコマンドまたはアクセス権情報エクスポートコマンドがファイルを出力しました。
実行したコマンドおよび出力対象別に、出力対象の表示が異なります。

案件情報拡張エクスポートコマンドを実行

システムの案件を出力した場合

出力対象：システム (表示 ID) の案件

表示 ID には、システムの表示 ID が表示されます。

プロセスワークボードの案件を出力した場合

出力対象：プロセスワークボード (表示 ID) の案件 (件数件)

表示 ID には、プロセスワークボードの表示 ID が表示されます。

件数には、出力した案件の件数が表示されます。なお、件数は、出力した件数ではなく案件の件数です。

アクセス権情報エクスポートコマンドを実行

システムのアクセス権を出力した場合

出力対象：システム (表示 ID) のアクセス権

表示 ID には、システムの表示 ID が表示されます。

プロセスワークボードのアクセス権を出力した場合

出力対象：プロセスワークボード (表示 ID) のアクセス権

表示 ID には、プロセスワークボードの表示 ID が表示されます。

KNAB20028-I

出力対象をエクスポートします

案件情報拡張エクスポートコマンドまたはアクセス権情報エクスポートコマンドの処理を開始します。

実行したコマンドおよび出力対象別に、*出力対象*の表示が異なります。

案件情報拡張エクスポートコマンドを実行

システムの案件を出力する場合

出力対象：システム (*表示 ID*) の案件

表示 ID には、システムの表示 ID が表示されます。

プロセスワークボードの案件を出力する場合

出力対象：プロセスワークボード (*表示 ID*) の案件

表示 ID には、プロセスワークボードの表示 ID が表示されます。

アクセス権情報エクスポートコマンドを実行

システムのアクセス権を出力した場合

出力対象：システム (*表示 ID*) のアクセス権

表示 ID には、システムの表示 ID が表示されます。

プロセスワークボードのアクセス権を出力した場合

出力対象：プロセスワークボード (*表示 ID*) のアクセス権

表示 ID には、プロセスワークボードの表示 ID が表示されます。

KNAB20029-I

プロセスワークボード(*プロセスワークボードの表示 ID*)のインポートデータのチェック処理を開始します

案件情報拡張インポートコマンドで、インポート対象のデータに不正なデータが含まれないかチェックする処理を開始します。

KNAB20030-I

プロセスワークボード(*プロセスワークボードの表示 ID*)のインポートデータのチェック処理が終了しました

案件情報拡張インポートコマンドで、インポート対象のデータに不正なデータが含まれないかチェックする処理が終了しました。

KNAB20031-I

システム(*システムの表示 ID*)またはプロセスワークボード(*プロセスワークボードの表示 ID*)をインポートします

案件情報拡張インポートコマンドで、システムまたはプロセスワークボードの処理を開始します。

KNAB20032-I

ID を変更しました (変更対象: 変更した ID 種別, 変更前: 変更前の ID, 変更後: 変更後の ID)

ID を再採番した場合に出力されます。

次に示す ID を変更した場合, 公開ログに出力されます。

- 関連案件通し番号
- プロセスワークボード内通し番号

変更した ID 種別には, 次に示す値が表示されます。

- 関連案件通し番号
- プロセスワークボード内通し番号
- 関連情報 ID
- 添付ファイル ID

KNAB20033-I

案件をインポートしました (インポート前: インポート前の案件 ID, インポート後: インポート後の案件 ID)

案件情報拡張インポートコマンドで, 案件のインポートが完了しました。

KNAB20034-I

システム(システムの表示 ID)の案件またはプロセスワークボード(プロセスワークボードの表示 ID)の案件(案件の件数)をインポートしました

案件情報拡張インポートコマンドで, インポートが完了しました。

KNAB20035-I

インポートデータのチェックを開始します

案件情報拡張インポートコマンドで, インポート対象のデータに不正なデータが含まれないかチェックする処理を開始します。

KNAB20036-I

インポートデータのチェックが終了しました

案件情報拡張インポートコマンドで, インポート対象のデータに不正なデータが含まれないかチェックする処理が終了しました。

KNAB20037-I

案件の登録処理を開始します

案件情報拡張インポートコマンドで、案件の登録処理を開始します。

KNAB20038-I

案件の登録処理が終了しました

案件情報拡張インポートコマンドで、案件の登録処理が終了しました。

KNAB20041-I

アクセス権の設定処理を開始します

アクセス権情報インポートコマンドで、アクセス権の設定処理を開始します。

KNAB20042-I

アクセス権の設定処理が終了しました

アクセス権情報インポートコマンドで、アクセス権の設定処理が終了しました。

KNAB20043-I

プロセスワークボード (プロセスワークボード ID) に対してユーザー (ユーザー ID) またはロール (ロール ID) にアクセス権を設定しました

アクセス権情報インポートコマンドで、アクセス権の設定処理が完了しました。

KNAB20103-I

バックアップ処理を開始します

バックアップを開始します。

KNAB20104-I

データベースのバックアップは正常に終了しました

バックアップが正常終了しました。

KNAB20105-I

リカバリー処理を開始します

リカバリーを開始します。

KNAB20106-I

データベースのリカバリーは正常に終了しました

リカバリーが正常終了しました。

KNAB20107-I

再編成処理を開始します

再編成を開始します。

KNAB20108-I

データベースの再編成は正常に終了しました

再編成が正常終了しました。

KNAB20109-I

空き領域解放処理を開始します

空き領域解放を開始します。

KNAB20110-I

データベースの空き領域解放は正常に終了しました

空き領域解放が正常終了しました。

KNAB20111-I

データベースの初期化を開始します

案件管理 DB の初期化コマンドを実行します。

KNAB20112-I

データベースの初期化は正常に終了しました

案件管理 DB の初期化コマンドが終了しました。

KNAB20114-I

セットアップを開始します

JP1/Service Support のセットアップを開始します。

KNAB20115-I

データベースを初期化します

JP1/Service Support のセットアップで案件管理 DB の初期化処理を開始します。

KNAB20116-I

定義ファイルを更新します

JP1/Service Support のセットアップで定義ファイルの更新処理を開始します。

KNAB20117-I

コネクションプーリングを設定します

JP1/Service Support のセットアップでコネクションプーリングの設定処理を開始します。

KNAB20118-I

WWW アプリケーションを登録します

JP1/Service Support のセットアップで WWW アプリケーションの登録処理を開始します。

KNAB20119-I

セットアップは正常に終了しました

JP1/Service Support のセットアップが正常に終了しました。

KNAB20120-I

アンセットアップを開始します

JP1/Service Support のアンセットアップを開始します。

KNAB20121-I

データベースを削除します

JP1/Service Support のアンセットアップで案件管理 DB の削除処理を開始します。

KNAB20122-I

アンセットアップは正常に終了しました

JP1/Service Support のアンセットアップが正常に終了しました。

KNAB20123-I

JP1/Service Support をセットアップします

セットアップコマンドを実行します。

KNAB20124-I

JP1/Service Support をアンセットアップします

アンセットアップコマンドを実行します。

KNAB20125-I

データベースを初期化します。(サイズ: データベースサイズ (S | M | L | LL | XL))

案件管理 DB の初期化コマンドを実行します。

KNAB20128-I

JP1/Service Support サービスが起動しました

JP1/Service Support サービスが正常に起動しました。

KNAB20129-I

資料の採取処理を開始します

資料の採取処理を開始します。

KNAB20130-I

資料の採取を正常に終了しました

資料採取ツールが正常終了しました。

KNAB20131-I

JP1/Service Support サービスが停止しました

JP1/Service Support サービスが停止しました。

KNAB20133-I

データベースは初期化されます。(サイズ: データベースサイズ (S | M | L | LL | XL))

JP1/Service Support のセットアップ時に、データベースを初期化します。

KNAB20134-I

データベースは初期化されません

JP1/Service Support のセットアップ時に、データベースを初期化しません。

KNAB20135-I

JP1/Service Support のクラスタ構成をセットアップします

JP1/Service Support のクラスタセットアップ開始時に出力されるメッセージです。

KNAB20136-I

クラスタセットアップは正常に終了しました

JP1/Service Support のクラスタセットアップが正常に終了した場合に出力されるメッセージです。

KNAB20137-I

クラスタ用の定義ファイルを更新します

JP1/Service Support のクラスタセットアップでクラスタ用に定義ファイルを更新する際に出力されるメッセージです。

KNAB20138-I

共有ディレクトリパスの格納レジストリを登録します

JP1/Service Support のクラスタセットアップでレジストリを登録する際に出力されるメッセージです。

KNAB20139-I

セットアップ種類情報ファイルを更新します

JP1/Service Support のセットアップで今回のセットアップに合わせてセットアップ種類情報ファイルを更新する際に出力されるメッセージです。

KNAB20140-I

共有ディスク上のデータベースを削除します

JP1/Service Support のクラスタアンセットアップで共有フォルダのデータベースを削除する際に出力されるメッセージです。

KNAB20141-I

共有ディレクトリパスの格納レジストリを削除します

JP1/Service Support のクラスタアンセットアップでレジストリを削除する際に出力されるメッセージです。

KNAB20142-I

JP1/Service Support のクラスタ構成をアンセットアップします

JP1/Service Support のクラスタアンセットアップ開始時に出力されるメッセージです。

KNAB20143-I

クラスタアンセットアップは正常に終了しました

JP1/Service Support のクラスタアンセットアップが正常に終了した場合に出力されるメッセージです。

KNAB20144-I

バージョンアップを開始します

JP1/Service Support のバージョンアップ開始時に出力されるメッセージです。

KNAB20145-I

バージョンアップは正常に終了しました

JP1/Service Support のバージョンアップが正常に終了した場合に出力されるメッセージです。

KNAB20146-I

JP1/Service Support をバージョンアップします

セットアップコマンド実行時に出力されるメッセージです。

KNAB20147-I

データベースをバージョンアップします

JP1/Service Support のバージョンアップでデータベースの更新処理を開始するときに出力されるメッセージです。

KNAB20148-I

WWW アプリケーションをバージョンアップします

JP1/Service Support のバージョンアップで WWW アプリケーションの更新処理を開始するときに出力されるメッセージです。

KNAB20149-I

データベースの環境を設定します

JP1/Service Support のクラスタセットアップで待機系のデータベースを設定するときに出力されるメッセージです。

KNAB20150-I

データベース種別のバックアップが完了しました

JP1/Service Support のデータベースのバックアップが完了しました。

KNAB20151-I

データベース種別のリカバリーが完了しました

JP1/Service Support のデータベースのリカバリーが完了しました。

KNAB20201-I

案件フォーム登録処理を開始します

案件フォーム登録を開始します。

KNAB20202-I

案件フォーム登録は正常に終了しました

案件フォーム登録が正常終了しました。

KNAB20203-I

削除待ちデータの削除処理を開始します

削除待ちデータの削除を開始します。

KNAB20204-I

削除待ちデータの削除は正常に終了しました

削除待ちデータの削除が正常終了しました。

KNAB20216-I

案件情報の集計を開始します

集計テーブル更新開始時に表示されるメッセージです。

KNAB20217-I

案件情報の集計を終了しました

集計テーブルの更新が正常終了した場合に表示されるメッセージです。

KNAB20221-E

すでに案件情報の集計中であるため、案件情報の集計に失敗しました

案件情報集計コマンドを実行している状態で、新たに案件情報集計コマンドを実行したときに表示されるメッセージです。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行中の案件情報集計コマンドが終了するのを待ってから、再度実行してください。

KNAB20222-I

メールによる案件登録処理を開始します

メールによる案件登録処理開始時に表示されます。

KNAB20223-I

メールによる案件登録処理を終了しました

メールによる案件登録処理終了時に表示されます。

KNAB20224-I

マスターシステム/一時受付プロセスワークボード作成処理を開始します

マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成処理開始時に表示されます。

KNAB20225-I

マスターシステム/一時受付プロセスワークボード作成処理を終了します

マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成処理終了時に表示されます。

KNAB20226-I

すべてのメールで案件の登録に成功しました

メールによる案件登録コマンドで、すべてのメールの案件登録処理に成功した場合に表示されます。

KNAB20228-I

添付ファイルの保存に成功しました

添付ファイルを保存に成功した場合に出力されます。

KNAB20229-I

メール一時退避ファイルの保存に成功しました

メール一時退避ファイルを保存に成功した場合に出力されます。

KNAB20230-I

期限前メール通知処理を開始します

期限前通知コマンドによる、期限前メール通知処理開始時に表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20231-I

期限前メール通知処理を終了します

期限前通知コマンドによる、期限前メール通知処理終了時に表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20232-I

期限前案件のチェックを行います

期限前通知コマンドによる、案件の作業期限チェック処理開始時に表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20233-I

期限前通知対象の案件は案件数件です

期限前通知コマンドによる、案件の作業期限チェック処理終了時に表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20234-I

担当者(ユーザー ID=ユーザー ID)にメールを送信しました

期限前通知コマンドが担当者にメールを送信するときに表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20235-I

プロセスワークボード管理者(ユーザー ID=ユーザー ID)にメールを送信しました(PWBID=プロセスワークボード ID)

期限前通知コマンドによってプロセスワークボード管理者にメールが送信されるときに表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20236-I

マスターシステムまたは一時受付プロセスワークボードの作成に成功しました

マスターシステムまたは一時受付プロセスワークボードの作成に成功したときに表示されます。

KNAB20237-I

案件の削除を開始します

案件削除処理開始時に表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20238-I

案件の削除が正常に終了しました

案件削除処理終了時に表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20239-I

案件数件の案件を削除しました

案件削除処理終了時に処理した案件の数を表示します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20240-I

案件を削除します

案件削除処理開始時に表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20241-I

削除取り消し処理を開始します

削除取り消し処理開始時に表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20242-I

削除取り消し処理は正常に終了しました

削除取り消し処理終了時に表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20243-I

案件数件の削除を取り消しました

削除取り消し処理終了時に処理した案件の数を表示します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20244-I

削除を取り消します

削除取り消し処理開始時に表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20251-I

メールサーバにメールが登録されていませんでした

メールによる案件登録コマンドを実行した場合、メールサーバにメールが登録されていないときに表示されます。

(S)

処理を続行します。

KNAB20257-I

滞留案件メール通知処理を開始します

滞留案件メール通知処理開始時に表示されます。

KNAB20258-I

滞留案件メール通知処理を終了します

滞留案件メール通知処理終了時に表示されます。

KNAB20259-I

滞留案件のチェックを行います

滞留案件のチェック時に表示されます。

KNAB20260-I

滞留案件通知対象の案件は案件数件です

滞留案件通知コマンドによる、案件のチェック処理終了時に表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20263-I

メール発行処理を開始します

メール発行処理開始時に表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20264-I

メール発行処理は正常に終了しました

メール発行処理終了時に表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20265-I

メール通知を行う設定ではありません

メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf) で、該当のタイミングでのメール通知が設定されていない場合に表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を終了します。

KNAB20266-I

認証サーバ切り替え処理を開始します

認証サーバ切り替え処理開始時に表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20267-I

認証サーバ切り替え処理を終了します

認証サーバ切り替え処理終了時に表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を終了します。

KNAB20268-I

認証にLDAP, JP1/Service Support または JP1/Base の認証サーバを使用しています

認証に使用しているサーバの情報出力時に表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20269-I

メールで通知する変更内容がありません

メール通知を実行したが、ユーザーに通知する変更内容がない場合に表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を終了します。

KNAB20270-I

認証サーバ確認処理を開始します

現在の認証に使用しているサーバの確認処理開始時に表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20271-I

認証サーバ確認処理を終了します

現在の認証に使用しているサーバの確認処理終了時に表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を終了します。

KNAB20272-I

エクスポート対象の出力対象がありません

案件情報拡張エクスポートコマンドまたはアクセス権情報エクスポートコマンドを実行したが、出力対象がありません。

実行したコマンドおよび出力対象別に、出力対象の表示が異なります。

案件情報拡張エクスポートコマンドを実行

対象のシステムがなかった場合

出力対象：システム

対象のプロセスワークボードがなかった場合

出力対象：プロセスワークボード

対象の案件がなかった場合

出力対象：案件

アクセス権情報エクスポートコマンドを実行

対象のアクセス権情報がなかった場合

出力対象：アクセス権情報

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20273-I

添付ファイルの名称を省略して出力しました。(案件 ID：案件 ID ファイル名：ファイル名)

出力パスの制限によって、添付ファイルの名称を省略して出力しました。

出力対象別に、出力対象の表示が異なります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB20275-I

案件の履歴情報と関連情報を削除しています

案件の履歴情報と関連情報を削除しています。

KNAB20277-I

下記設定内容で案件保存 DB の領域を拡張します

領域拡張対象：領域拡張対象の保存エリア

拡張領域カテゴリ：拡張領域カテゴリ(item/apdfiler)

案件保存 DB の拡張領域作成先ディレクトリ：案件保存 DB の拡張領域作成先ディレクトリ

作成するファイル：HiRDB システム領域ファイルのファイル名

案件保存 DB 拡張情報設定ファイルに記載されている情報が表示されます。

KNAB20278-I

設定するアクセス権の件数は（追加：アクセス権を追加する新規ユーザー数件，更新：アクセス権を更新するユーザー数件，削除：アクセス権をすべて削除するユーザー数件）です

アクセス権情報入力ファイルに設定したアクセス権の追加，更新，および削除の件数を表示します。

件数は，次のようにカウントされます。

追加

アクセス権が設定されていないユーザーに対してアクセス権を設定した場合，ユーザー単位でカウントされます。該当するユーザーに複数のアクセス権を設定しても，1件としてカウントされます。

更新

アクセス権がすでに設定されているユーザーに対してアクセス権を変更した場合，ユーザー単位でカウントされます。該当するユーザーの一部のアクセス権を追加または削除したり，同じアクセス権を設定したりした場合は，これに該当します。この場合，該当するユーザーに設定されているアクセス権を複数変更しても，1件としてカウントされます。

削除

アクセス権がすでに設定されているユーザーに対してすべてのアクセス権を削除した場合，ユーザー単位でカウントされます。該当するユーザーに複数のアクセス権が設定されていても，1件としてカウントされます。

KNAB20279-I

現在登録されている全案件数は *JP1/Service Support* に登録されている全案件数件です

案件数確認コマンドを実行した際に，*JP1/Service Support* に登録されている全案件数が表示されます。

KNAB20280-I

システム名（システム ID）の登録案件数は対象システムに登録されている案件数件です

案件数確認コマンドを実行した際に，システムに登録されている案件数が表示されます。

KNAB20281-I

システム名（システム ID）のプロセス名（プロセスワークボード ID）の登録案件数は対象プロセスワークボードに登録されている案件数件です

案件数確認コマンドを実行した際に，プロセスワークボードに登録されている案件数が表示されます。

KNAB20282-I

案件数確認対象のプロセスワークボードがありません

案件数確認コマンドを実行した際に、確認対象のプロセスワークボードが存在しなかった場合に表示されます。

KNAB20283-I

下記設定内容でセットアップします

セットアップ対象：セットアップ対象の保存エリア

案件保存 DB のセットアップ先ディレクトリ：案件保存 DB のセットアップ先ディレクトリ

案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルに記載されている情報が表示されます。

KNAB20284-I

領域名(案件領域/添付ファイル領域)のセットアップが完了しました

案件管理 DB の各領域のセットアップが完了しました。

KNAB20285-I

下記設定内容で案件を保存します

保存エリア：保存対象が保存される保存エリア名

保存対象案件：[-ct] 指定内容 (yyyy/mm/dd-yyyy/mm/dd)

案件保存コマンドのオプションで指定した内容が表示されます。

KNAB20286-I

案件を保存しました (案件数：案件数件)

案件を保存したことを通知します。

KNAB20287-I

案件を保存しました (進捗：進捗%)

案件保存処理の進捗を 25%ごとに通知します。

KNAB20288-I

下記内容で保存案件を削除します

削除対象の保存エリア：削除対象となる保存エリア名

保存案件一括削除コマンドの削除対象となる保存エリアが表示されます。

KNAB20289-I

下記内容で案件保存 DB を切り替えます

切り替え前の Active な保存エリア：切り替え前の保存エリア名

切り替え後の Active な保存エリア：切り替え先の保存エリア名

切り替え先となる保存エリアが表示されます。

KNAB20290-I

拡張 DB 作成先ディレクトリに作成するファイルと同名のファイルが存在します

案件保存 DB の拡張領域作成先ディレクトリに作成するファイルと同名のファイルが存在します。

KNAB20291-I

処理を続行した場合ファイルを上書きします(ファイル名：ファイル名)

処理を続行した場合にファイル名に示すファイルに上書きします。

KNAB20292-I

案件フォーム項目 ID を案件の参照権限を指定する項目として設定します

案件の参照権限を指定する項目の設定処理を開始します。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20293-I

案件フォーム項目 ID を案件の参照権限を指定する項目として設定しています

案件の参照権限を指定する項目として設定している案件フォーム項目 ID が表示されます。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20294-I

案件フォーム項目 ID を案件の参照権限を指定する項目として設定しました

案件の参照権限を指定する項目の設定処理を終了します。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20295-I

既に案件フォーム項目 ID を案件の参照権限を指定する項目として設定しています

指定した拡張ユーザー情報項目は、すでに案件の参照権限を指定する項目として設定されています。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20296-I

案件の参照権限を指定する項目の確認処理を開始します

案件の参照権限を指定する項目の確認処理を開始します。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20297-I

案件の参照権限を指定する項目の確認処理を終了します

案件の参照権限を指定する項目の確認処理を終了します。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20298-I

案件の参照権限を指定する項目として使用する拡張ユーザー情報項目が設定されていません

案件ごとの参照権限設定セットアップコマンドによって、案件の参照権限を指定する項目として使用する拡張ユーザー情報項目が指定されていません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

KNAB20299-I

次の案件を保存しました(案件 ID : 案件 ID)

案件保存コマンドで保存した案件を通知します。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20300-I

対象の案件とプロセスワークボードを確認します

対象の案件とプロセスワークボードを確認することを通知します。

KNAB20301-I

対象の案件を全て保存できます (案件数 : 案件数)

対象の案件がすべて保存できることを通知します。

(S)

jssitemstore (案件保存) コマンドで-ch オプションを指定した場合
メッセージを出力して処理を終了します。

jssitemstore (案件保存) コマンドで-ch オプションを指定しなかった場合
メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20302-I

処理名を実行中です

時間が掛かる処理を実行していることを通知するメッセージです。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20303-I

保存案件は削除していません

指定した範囲に保存案件が含まれていた場合、保存案件を削除していないことを通知します。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20306-I

ユーザー ID は参照権限以外のアクセス権が設定されています

対象のユーザーが jssnodecount (管理ノード数のカウント) コマンドの集計対象であることを通知します。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB20307-I

管理ノード数：管理ノード数

管理ノード数 (参照権限以外の権限を持つユーザーの数) を通知します。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

KNAB22001-W

ユーザー情報のインポートに失敗しました。(詳細情報：詳細情報)

ユーザーインポートコマンドで、CSV ファイル中のユーザー情報のインポートに失敗しました。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-7 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
ユーザー (ユーザー ID) はすでに存在します	指定したユーザー ID を持つユーザーがすでに存在する。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

インポートに失敗したユーザー情報を修正して、ユーザー情報インポートコマンドを実行してください。

KNAB22002-W

案件情報のインポートに失敗しました。(詳細情報：詳細情報)

案件情報インポートコマンドで、CSV ファイルの案件情報のインポートに失敗しました。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-8 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
プロセスワークボード (プロセスワークボード ID) は存在しません	指定したプロセスワークボードがない。
プロセスワークボード (プロセスワークボード ID) は運用中ではありません	指定したプロセスワークボードが運用中でない。
ユーザー ID またはロール ID は存在しません	指定したユーザー, またはロールがない。

- (S)
メッセージを出力して処理を続行します。
- (O)
インポートに失敗した案件情報を修正して, 案件情報インポートコマンドを実行してください。

KNAB22003-W

指定した ID (ユーザー ID) を持つユーザーはすでに存在します

ユーザー情報インポートコマンドで, CSV ファイル中のユーザー情報のログイン ID がすでに案件管理 DB に登録されています。

- (S)
メッセージを出力して処理を続行します。
- (O)
インポートしようとしたユーザーのログイン ID を修正するか, 既存のユーザーを削除してからユーザー情報インポートコマンドを実行してください。

KNAB22004-W

出力対象の案件数が上限値を超えているため, CSV ファイルへの出力上限値件だけ出力しました

案件一覧出力コマンド, 案件履歴出力コマンドで, 出力対象となる案件の数がコマンドで出力できる上限値を超えています。

- (S)
メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

出力対象データの指定条件を変えてコマンドを再度実行してください。

KNAB22005-W

JP1/Service Support に登録されているユーザー数が最大値（登録できるユーザーの最大値件）に達しているため登録できません

登録されているユーザーが最大値に達しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

JP1/Service Support に登録されているユーザーを削除してから再度コマンドを実行してください。

KNAB22006-W

JP1/Service Support に登録されている案件数が最大値（登録できる案件の最大値件）に達しているため登録できません

登録されている案件が最大値に達しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

JP1/Service Support に登録されている案件を削除してから、再度コマンドを実行してください。

KNAB22007-W

プロセスワークボードに登録されている案件数が最大値（登録できる案件の最大値件）に達しているため登録できません

プロセスワークボードに登録されている案件が最大値に達しています。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

プロセスワークボードの削除待ちの案件を `jssdelrec` コマンドで削除してから、再度コマンドを実行してください。削除待ちの案件がない場合は、必要がない案件を画面から削除し、`jssdelrec` コマンドでデータベースから削除してから、再度コマンドを実行してください。

KNAB22008-W

メールに主題が設定されていないので、案件の主題を「No Subject」とします

メールの主題が設定されていない場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB22009-W

案件の登録先のプロセスワークボードの状態が運用中ではないため、案件の登録に失敗しました。一時受付プロセスワークボードへ案件を登録します。

案件の登録先のプロセスワークボードが「運用中」ではないために、案件の登録に失敗した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB22010-W

案件の登録先が存在しません。一時受付プロセスワークボードへ案件を登録します。

案件の登録先が存在しない場合に、出力されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB22011-W

案件の登録先のプロセスワークボードに、添付ファイル付の案件が登録できません。一時受付プロセスワークボードへ案件を登録します。

案件の登録先のプロセスワークボードが使用している案件フォームに、添付ファイルの項目が含まれていない場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB22012-W

メールの送信者のアドレスに不正なアドレスが含まれています。*不正なメールアドレス*

メールの送信者に指定したメールアドレスが不正な場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

メールの送信者のアドレスを見直してください。

KNAB22013-W

担当者またはプロセスワークボード管理者(ユーザー ID=ユーザー ID)にメールアドレスが設定されていません

担当者またはプロセスワークボード管理者にメールアドレスが設定されていないときに表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

送信対象ユーザーにメールアドレスを設定してください。

KNAB22014-W

ユーザー名またはロール名が存在しません

送信対象のユーザー名またはロール名が存在しないときに表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

ユーザー情報を見直してください。

KNAB22015-W

担当者またはプロセスワークボード管理者(ユーザー ID=ユーザー ID)にメールを送信できませんでした

送信対象のユーザーのメールアドレスが不正のときに表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

送信対象ユーザーに正しいメールアドレスを設定してください。

KNAB22016-W

プロパティファイル(プロパティファイル名)の値が不正です。デフォルト値を使用します(Key:プロパティキー名,Value:設定したデフォルトの値)

プロパティファイルの設定値が不正の場合に、デフォルトの値を設定します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティファイルの設定値を見直してください。「= (イコール)」のあとにスペースがある場合は、スペースを削除してください。

KNAB22017-W

案件の登録に失敗しました。一時受付プロセスワークボードへ案件を登録します。

特定のプロセスワークボードへ案件を登録する場合に、内部エラーの発生によって案件の登録に失敗したときに表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB22018-W

データの最適化処理に失敗しました

データの最適化処理に失敗したときに表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KNAB22020-W

メンバー情報のインポートに失敗しました。(詳細情報: [詳細情報](#))

メンバー情報インポートコマンドで、CSV ファイル中のメンバー情報のインポートに失敗しました。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-9 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
行番号行目に指定したロール (ロール ID) は存在しません	指定したロール ID を持つロールが存在しない。

詳細情報	要因
行番号行目に指定したユーザー（ユーザー ID）は存在しません	指定したユーザー ID を持つユーザーが存在しない。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

インポートに失敗したメンバー情報を修正して、メンバー情報インポートコマンドを再度実行してください。

KNAB22021-W

メンバー情報の削除に失敗しました。（詳細情報：詳細情報）

メンバー情報削除コマンドで、CSV ファイル中のメンバー情報の削除に失敗しました。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-10 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の（項目名）の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ（項目データ）の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
行番号行目に指定したロール（ロール ID）は存在しません	指定したロール ID を持つロールが存在しない。
行番号行目に指定したユーザー（ユーザー ID）は存在しません	指定したユーザー ID を持つユーザーが存在しない。
行番号行目に指定した JP1 管理者（jpladmin）はシステムロールから削除できません	JP1 管理者をシステムロールから削除しようとした。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

削除に失敗したメンバー情報を修正して、メンバー情報削除コマンドを再度実行してください。

KNAB22022-W

出力対象の処理名数が上限値を超えているため、CSV ファイルへの出力上限値件だけ出力しました

出力対象となる処理名数がコマンドで出力できる上限値を超えています。

実行したコマンドによって、処理名の表示が異なります。

- jssuserlist コマンドの場合：ユーザー
- jssrolelist コマンドの場合：ロール
- jssmemberlis コマンドの場合：メンバー
- jssaclexport コマンドの場合：アクセス権

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

出力対象データの指定条件を変えてコマンドを再度実行してください。

KNAB22023-W

登録されているロール数が最大値（登録可能なロールの最大値件）に達しているため登録できません

登録されているロールが最大値に達しています。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

JP1/Service Support に登録されているロールを削除してから再度コマンドを実行してください。

KNAB22024-W

ロールロール ID に登録されているメンバー数が最大値（ロールに追加可能なメンバーの最大値件）に達しているため追加できません

指定したロールに登録されているメンバーが最大値に達しています。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

ロールに登録されている不要なメンバーを削除してから、再度コマンドを実行してください。

KNAB22025-W

ロール情報のインポートに失敗しました。（詳細情報：詳細情報）

ロール情報インポートコマンドで、CSV ファイル中のロール情報のインポートに失敗しました。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-11 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
行番号行目に指定したロール (ロール ID) はすでに存在します	指定したロール ID を持つロールがすでに存在する。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

インポートに失敗したロール情報を修正して、ロール情報インポートコマンドを再度実行してください。

KNAB22026-W

入力ファイルが上限値を超えたためメンバー情報入力ファイルまたはメンバー情報編集ファイルの上限件だけ処理しました

メンバー情報インポートコマンド、メンバー情報削除コマンド、またはユーザー情報編集コマンドで、メンバー情報入力ファイルまたはユーザー情報編集ファイルの上限を超えました。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

メンバー情報入力ファイルまたはユーザー情報編集ファイルの上限値を超えないようレコードを減らしてください。またはファイルを分割して実行してください。

KNAB22027-W

ユーザー情報の編集に失敗しました。(詳細情報: [詳細情報](#))

ユーザー情報編集コマンドで、CSV ファイル中のユーザー情報の編集に失敗しました。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-12 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。

詳細情報	要因
行番号行目に指定したユーザー (ユーザー ID) は存在しません	指定したユーザー ID を持つユーザーが存在しない。
行番号行目に指定した JP1 管理者 (jp1admin) のユーザー ID は変更できません	JP1 管理者のユーザー ID を変更しようとした。
行番号行目に指定したユーザー ID (ユーザー ID) を持つユーザーがすでに存在します	変更後のユーザー ID と同じユーザー ID を持つユーザーが存在する。

- (S)
メッセージを出力して処理を続行します。
- (O)
編集に失敗したユーザー情報を修正して、ユーザー情報編集コマンドを再度実行してください。

KNAB22028-W

システム名(システム ID)のプロセス名(プロセスワークボード ID)の残り登録可能案件数は該当 PWB の残り登録可能案件数です

案件数をカウントした際に、プロセスワークボードの残り登録可能案件数がユーザーの設定したしきい値以下に到達していて、かつ上限値に満たない場合に表示されます。

- (S)
メッセージを出力して処理を続行します。
- (O)
残り登録可能案件数を確認し、必要があれば不要な案件を削除してください。

KNAB22029-W

システム名(システム ID)のプロセス名(プロセスワークボード ID)の登録案件数は上限値に到達しています

案件数をカウントした際に、案件数が上限値に到達している場合に表示されます。

- (S)
メッセージを出力して処理を続行します。
- (O)
該当プロセスワークボードで新規に案件を登録する予定があれば、不要な案件を削除した上で案件を登録してください。

KNAB22101-W

マシンのシステム情報が正常に採取できません

マシンのシステム情報を正常に取得できません。

(S)

マシンのシステム情報を採取しないで、コマンドの処理を続行します。

(O)

マシンのシステム情報を個別に採取してください。

KNAB22103-W

バージョン情報が正常に採取できません

バージョン情報を正常に取得できません。

(S)

バージョン情報を採取しないで、コマンドの処理を続行します。

(O)

バージョン情報を個別に採取してください。

KNAB22104-W

統合トレースログが正常に採取できません

統合トレースログを正常に取得できません。

(S)

統合トレースログを採取しないで、コマンドの処理を続行します。

(O)

統合トレースログを個別に採取してください。

KNAB22105-W

マシンに設定されているホスト名の設定が正常に採取できません

Hosts ファイルを正常に取得できません。

(S)

マシンに設定されているホスト名の設定を採取しないで、コマンドの処理を続行します。

(O)

マシンに設定されているホスト名の設定を個別に採取してください。

KNAB22106-W

マシンに設定されているサービスポートの設定の資料が正常に採取できません

Services ファイルを正常に取得できません。

- (S) マシンに設定されているサービスポートの設定を採取しないで、コマンドの処理を続行します。
- (O) マシンに設定されているサービスポートの設定を個別に採取してください。

KNAB22107-W

レジストリ情報が正常に採取できません

- レジストリ情報を正常に取得できません。
- (S) レジストリ情報を採取しないで、コマンドの処理を続行します。
 - (O) レジストリ情報を個別に採取してください。

KNAB22108-W

JP1/Service Support のバインド状況が正常に採取できません

- JP1/Service Support のバインド状況を正常に取得できません。
- (S) JP1/Service Support のバインド状況を採取しないで、コマンドの処理を続行します。
 - (O) JP1/Service Support のバインド状況を個別に採取してください。

KNAB22109-W

NIC の実装状況が正常に採取できません

- NIC の実装状況を正常に取得できません。
- (S) NIC の実装状況を採取しないで、コマンドの処理を続行します。
 - (O) NIC の実装状況を個別に採取してください。

KNAB22110-W

起動サービス一覧の資料が正常に採取できません

起動サービス一覧情報を正常に取得できません。

(S)

起動サービス一覧の資料を採取しないで、コマンドの処理を続行します。

(O)

起動サービス一覧の資料を個別に採取してください。

KNAB22111-W

マシンの環境変数が正常に採取できません

マシンの環境変数を正常に取得できません。

(S)

マシンの環境変数を採取しないで、コマンドの処理を続行します。

(O)

マシンの環境変数を個別に採取してください。

KNAB22112-W

取得資料名の資料が正常に採取できません

資料を正常に取得できません。

(S)

資料を採取しないで、コマンドの処理を続行します。

(O)

資料を個別に採取してください。

KNAB22113-W

ロケールの設定に失敗したため、ロケールはCを仮定します

ロケールの設定に失敗しました。Cに仮定されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KNAB22114-W

Windows イベントログ (イベントログ名) のサイズが イベントログサイズ キロバイトを超えているため、採取しません

Windows イベントログのサイズが、取得できる最大値を超えています。イベントログを取得できません。

(S)

Windows イベントログを採取しないで、コマンドの処理を続行します。

(O)

Windows イベントログ (イベントログ名) を個別に採取してください。

KNAB22115-W

指定したプロセスワークボード ID (プロセスワークボード ID) が存在しません

滞留案件定義ファイル (jplinformleave_setting.conf) で指定しているプロセスワークボード ID が存在しない場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

滞留案件定義ファイル (jplinformleave_setting.conf) の hptl_jpl_imss_target_pwb_list に存在するプロセスワークボード ID を指定しているかどうか、設定を見直してください。

KNAB22116-W

滞留案件しきい値が監視範囲を超えているため、滞留案件しきい値にデフォルト値を使用します (Key : プロパティキー名, Value : 設定したデフォルトの値)

滞留案件と見なす案件処理の放置時間が監視範囲を超えている場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

滞留案件定義ファイル (jplinformleave_setting.conf) の設定を見直してください。

KNAB22121-W

出力対象の状態が不正です

出力の対象となるシステムまたはプロセスワークボードの状態が不正です。

出力対象別に、出力対象の表示が異なります。

システムを指定した場合

出力対象：システム(システム ID)

システム ID には、システムの表示 ID が表示されます。

プロセスワークボードを指定した場合

出力対象：プロセスワークボード(PWBID)

PWBID には、プロセスワークボードの表示 ID が表示されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

システムまたはプロセスワークボードの状態を確認して、状態を修正してください。そのあと、コマンドを再実行してください。

KNAB22122-W

There is an error in the definition file. error code:詳細コード

定義ファイルの設定値に不正がありました。デフォルトの値を設定、または不正な値を無効にしました。

(S)

処理を継続します。

(O)

詳細コードに 001 が出力された場合

JP1 製品連携設定プロパティファイルの次に示すキーの値を確認し、再度設定してください。

- hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_flag キー（特定の JP1 製品と連携するかどうかを指定するキー）
キーに設定された値が不正だった場合、「false」が設定されます。
- hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_userlist キー（特定の JP1 製品にアクセスできるユーザーのユーザー ID を指定するキー）
キーに設定された値の中に不正なユーザー ID が含まれていた場合、その不正なユーザー ID は無効となります。
- hptl_jp1_imss_information_search_userid キー（情報検索用のユーザーのユーザー ID を指定するキー）
キーに設定された値が不正だった場合、その値は無効となります。

KNAB22123-W

JP1/Base authentication failed. error code:詳細コード

JP1/Base の認証が失敗しました。

(S)

処理を継続します。

(O)

詳細コードに 008 が出力された場合

登録されているユーザー ID または正しいパスワードを指定して、再度操作してください。

正しいユーザー ID およびパスワードを入力しても、このメッセージが表示される場合は、JP1/Base の認証サーバの状態を確認し、再度操作してください。それでも JP1/Base の認証に失敗する場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者へ連絡してください。

KNAB22124-W

案件登録時に欠損した情報があります。

メールによる案件登録コマンドを実行して案件を登録した際に、メール本文に不正な情報があったため、欠損した情報があります。

(S)

処理を継続します。

(O)

案件の添付ファイルとして登録されているメール本文の情報と、登録された案件の項目等を比較してください。必要に応じて、欠損した情報を登録してください。

KNAB24001-E

サーバでシステムエラーが発生しました

サーバでシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24002-E

JP1/Service Support のデータベースでエラーが発生しました。(詳細コード)

JP1/Service Support のデータベースでエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

詳細コードに-713 が出力された場合

データベースの作業領域が不足しています。jssitemhistory コマンド、または jssitemlist コマンドで大量の案件情報を出力する場合は、案件情報を絞り込んで（開始年月日、終了年月日の指定など）、再度実行してください。それ以外の場合は、しばらく時間を空けてから、再度実行してください。同じエラーが再度発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

詳細コードに-722 が出力された場合

データベースのログエリアが不足しています。jssitemimport コマンドまたは jssitemimportEx コマンドで大量の案件を一度に登録している可能性があります。登録する案件情報の数を減らして再度実行してください。それ以外の場合は、システム管理者に連絡してください。

詳細コードに-756 が出力された場合

案件管理 DB または案件保存 DB の容量が不足しています。jssdbstatchk.bat コマンドを実行して、案件管理 DB と案件保存 DB のデータベース容量の使用率を確認してください。

案件管理 DB の容量が不足している場合は、不要なデータの削除、案件管理 DB のサイズの変更、または案件を保存してください。それぞれの手順を次に示します。

- 不要なデータの削除

1. 不要なデータを削除する。
2. jssdelrec コマンドを実行し、削除待ち状態のデータを削除する。
3. jssdbroorg.bat コマンドを実行し、案件管理 DB の空き領域を再編成する。

- 案件管理 DB のサイズの変更

1. jssdbbackup.bat コマンドを実行し、案件管理 DB をバックアップ（拡張用）する。
2. jssdbinit.bat コマンドを実行し、案件管理 DB のサイズを大きくする。
3. jssdbrecovery.bat コマンドを実行し、手順 1 で取得したバックアップデータをリカバリーする。

- 案件の保存

1. jssitemstore コマンドを実行し、クローズ済みの古い案件を案件保存 DB に保存する。
2. jssdbroorg.bat コマンドを実行し、案件管理 DB の空き領域を再編成する。

案件保存 DB の容量が不足している場合は、事前に設計した案件保存 DB の運用に従って、案件保存 DB の拡張や保存エリアの切り替えなどを実施して対処してください。それらの手順については、「[11.2.11 案件保存 DB の保存先の切り替え](#)」、または「[11.2.12 案件保存 DB の拡張](#)」を参照してください。

詳細コードに-770 が出力された場合

データベースに処理が集中しています。しばらく時間を空けてから、再度実行してください。

詳細コードに-1703 が出力された場合

データベースで新しいトランザクションの開始が抑止されています。jssitemimport コマンドまたは jssitemimportEx コマンドで大量の案件を一度に登録している場合は、登録する案件情報の数を

減らして、しばらく時間を空けてから再度実行してください。それ以外の場合は、システム管理者に連絡してください。

それ以外の場合

jssdbbackup.bat コマンド、jssdbrecovery.bat コマンド、jssdbrorg.bat コマンド、jssdbreclaim.bat コマンド、および jssrefaclsetup コマンドを実行していないか確認してください。コマンドを実行している場合はコマンドを終了してから、もう一度操作してください。

また、マシンに負荷が掛かっているおそれがあります。しばらく時間を空けてから、再度実行してください。

同じエラーが再度発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB24003-E

コマンドで内部エラーが発生しました

コマンドで内部エラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドの実行中に [Ctrl] + [C] キーなどでコマンドの実行を打ち切った場合に表示されることがあります。しばらく時間を置いてからコマンドを再実行してください。コマンドの実行を打ち切っていない場合に表示されたときは、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24004-E

JP1/Service Support のデータベースに接続できません

JP1/Service Support のデータベースに接続できません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

JP1/Service Support のデータベースの起動状態、ネットワークの接続状態を確認して、実行できる状態にしてください。

jssdbbackup.bat コマンド、jssdbrecovery.bat コマンド、jssdbrorg.bat コマンド、jssdbreclaim.bat コマンドを同時に実行していないか確認して再実行してください。再度エラーが発生する場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24005-E

JP1/Service Support のデータベースとの接続が切断されました

コマンド実行中に、JP1/Service Support のデータベースとの接続が切断されました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件管理 DB の起動状態、ネットワークの接続状態を確認し、実行できる状態にして再実行してください。改善されない場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24006-E

ディスク容量が不足しています

コマンド実行中に、ディスク容量不足でファイルなどが出力できません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行ホストのディスク容量を確認し、必要なディスク容量を確保してから再実行してください。

KNAB24007-E

システムエラーが発生しました。(詳細コード:保守用コード)

[JP1/Service Support - Task Service] サービスの実行中に、致命的なエラーが発生した場合に出力されます。

(S)

サービス起動時：サービス起動の処理を中止します。
サービス実行中：メッセージを出力して処理を続行します。
サービス停止時：サービスを停止します。

(O)

資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB24008-E

コマンドの初期化に失敗しました

コマンドの初期化に失敗したときに表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ログの出力先のアクセス権限、ディスク容量などを確認してください。

KNAB24101-E

「JP1/Service Support - DB Server」 サービスが起動していません

「JP1/Service Support - DB Server」 サービスが起動していません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「JP1/Service Support - DB Server」 サービスを起動して、再実行してください。

KNAB24102-E

データベースが動作していません

データベースが起動していません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「JP1/Service Support - DB Server」 サービスを再起動して、しばらくしてから再実行してください。

KNAB24103-E

セットアップコマンド実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因)

セットアップコマンド実行中に予期できない障害を検出しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24104-E

メモリ不足が発生しました

メモリ不足が発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

メモリ容量を増やしてください。

jssitementrybymail コマンド実行時にメモリ不足が発生した場合、メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf) の hptl_jpl_imss_mail_receive_number の値を小さくしてから、コマンドを再実行してください。値を小さくしてもメモリ不足が発生する場合は、メールサーバからメールを取得し、メールの内容を画面から登録してください。

KNAB24105-E

「JP1/Service Support」サービスの起動に失敗しました

JP1/Service Support サービスの起動に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

サービスが起動するかを確認し、コマンドを再実行してください。

起動できなかった場合、セットアップが実行済みかどうかを確認してください。セットアップが実行済みでこのメッセージが表示される場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24106-E

「JP1/Service Support」サービスの停止に失敗しました

JP1/Service Support サービスの停止に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

サービスが停止するかを確認し、コマンドを再実行してください。

停止できなかった場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24107-E

ロケールの設定でシステムエラーが発生しました

ロケールを設定したときにシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KNAB24108-E

JP1/Service Support サービスの起動に失敗しました

JP1/Service Support サービスの起動に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次に示す項目について確認してください。

- セットアップが実施済みかどうか。
- JP1/NP, JP1/AO, JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI, または JP1/PFM - Web Console と連携し, JP1/Base の認証機能を使用している場合, システムプロパティファイルと JP1 製品連携設定プロパティファイルの内容に問題がないかどうか。

また, 操作ログを出力する設定の場合, 次に示す項目について確認してください。

物理ホスト環境の場合

- JP1/Service Support をインストールしているシステムドライブに, 十分なディスク容量の空きがあるかどうか。
- JP1/SS パス¥log¥public¥accesslog フォルダを作成できる権限があるかどうか。
- JP1/SS パス¥log¥public¥accesslog フォルダにファイルの作成および書き込みできる権限があるかどうか。

クラスタ環境の場合

- 共有フォルダにアクセスできるかどうか。
- 共有フォルダが存在するシステムドライブに, 十分なディスク容量の空きがあるかどうか。
- 共有フォルダ¥log¥public¥accesslog フォルダを作成できる権限があるかどうか。
- 共有フォルダ¥log¥public¥accesslog フォルダファイルの作成および書き込みできる権限があるかどうか。

これらの内容を確認しても同じエラーが再度発生する場合は, 資料採取ツールで資料を採取し, システム管理者に連絡してください。

KNAB24110-E

製品情報の取得に失敗しました。(詳細コード:保守用コード)

製品情報の取得に失敗したため, 起動に失敗しました。

(S)

サービス起動の処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24114-E

案件保存 DB 領域拡張コマンド実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因)

案件保存 DB 領域拡張コマンド実行中に予期できない障害を検出しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24115-E

案件保存 DB セットアップコマンド実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因)

案件保存 DB セットアップコマンド実行中に予期できない障害を検出しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24201-E

案件フォーム登録中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

案件フォーム登録中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24202-E

削除待ちデータの削除処理中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

削除待ちデータの削除処理中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24203-E

案件情報の集計中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

案件情報の集計中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24204-E

期限前通知メールの配信処理中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

期限前通知メールの配信中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24205-E

データベースのバージョンアップ中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因)

データベースのバージョンアップ中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24206-E

案件の削除中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

案件の削除中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24207-E

削除取り消し中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

削除取り消し中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24208-E

メールからの案件登録中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

メールからの案件登録中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24209-E

マスターシステム・一時受付プロセスワークボードの作成中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

マスターシステム・一時受付プロセスワークボードの作成中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24210-E

メール発行処理中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

メール発行処理中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24211-E

滞留案件通知メールの配信処理中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

滞留案件通知メールの配信中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24212-E

認証サーバ切り替えコマンド実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

認証サーバ切り替えコマンド実行中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24213-E

ロールインポートの実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

ロールインポートコマンドの実行中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24214-E

メンバーインポートの実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

メンバーインポートコマンドの実行中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24215-E

メンバー削除の実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

メンバー削除コマンドの実行中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24216-E

案件フォーム定義編集ユーティリティの実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

案件フォーム定義編集ユーティリティの実行中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24217-E

ユーザー一覧出力の実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

ユーザー一覧出力コマンドの実行中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24218-E

ロール一覧出力の実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

ローラー一覧出力コマンドの実行中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24219-E

メンバー一覧出力の実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因, 詳細：詳細)

メンバー一覧出力コマンドの実行中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24220-E

ユーザー情報編集の実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因, 詳細：詳細)

ユーザー編集コマンドの実行中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24221-E

案件情報拡張エクスポート実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因, 詳細：詳細)

案件情報拡張エクスポートコマンドの実行中に、システムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24222-E

案件情報拡張インポート実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因, 詳細：要因)

案件情報拡張インポートコマンドの実行中に、システムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24223-E

An error occurred in starting the service. error code:詳細コード

設定が不正のため、サービスの起動に失敗しました。

(S)

サービスの起動を中止します。

(O)

詳細コードに 001 が出力された場合：

次の原因が考えられます。JP1 製品連携設定プロパティファイルとシステムプロパティファイルを確認し、再度サービスを起動してください。

- ファイルが存在しない。
- ファイルのアクセス権がない。
- ファイルがほかのプログラムで使用されている。

再度サービスの起動に失敗した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

詳細コードに 002 が出力された場合：

hptl_jp1_imss_jp1base_virtual_hostname キー (JP1/Base の論理ホスト名を指定するキー) の値を確認し、再度サービスを起動してください。

詳細コードに 003 が出力された場合：

システムプロパティファイルの hptl_jp1_imss_jp1base_virtual_hostname キー (JP1/Base の論理ホスト名を指定するキー) に指定した JP1/Base の論理ホストが存在するかを確認し、再度サービスを起動してください。再度サービスの起動に失敗した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

詳細コードに 010 が出力された場合：

JP1/Base が同一ホストにインストールされているかを確認し、再度サービスを起動してください。

KNAB24224-E

There is an error in the definition file. error code:詳細コード

設定が不正のため、エラーが発生しました。

(S)

操作を中止します。

(O)

詳細コードに 004 が出力された場合：

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

詳細コードに 005 が出力された場合：

JP1/Service Support にシングルサインオンする場合は、JP1 製品連携設定プロパティファイルの hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_flag キー（特定の JP1 製品と連携するかどうかを指定するキー）の値を確認し、設定し直してください。

詳細コードに 007 が出力された場合：

JP1/Service Support にシングルサインオンしようとしているユーザーが、JP1 連携製品設定プロパティファイルの hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_userlist キー（特定の JP1 製品と連携を行うユーザーのユーザー ID を指定するキー）に設定されていません。設定を見直してください。

KNAB24225-E

JP1/Base authentication failed. error code:詳細コード

JP1/Base の認証が失敗しました。

(S)

操作を中止します。

(O)

詳細コードに 006 が出力された場合：

JP1/Base の認証サーバの起動状態を確認し、再度操作してください。再度失敗した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

詳細コードに 008 が出力された場合：

登録されているユーザー ID または正しいパスワードを指定して、再度操作してください。

正しいユーザー ID およびパスワードを入力しても、このメッセージが表示される場合は、JP1/Base の認証サーバの状態を確認し、再度操作してください。それでも JP1/Base の認証に失敗する場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者へ連絡してください。

KNAB24226-E

アクセス権情報エクスポート実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

アクセス権情報エクスポートコマンドの実行中に、システムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24227-E

アクセス権インポート実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

アクセス権情報インポートコマンドの実行中に、システムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24228-E

案件数確認実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

案件数確認コマンドの実行中に、システムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24229-E

案件保存実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

案件保存コマンドの実行中に、システムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24230-E

保存案件一括削除実行中にエラーが発生しました

保存案件一括削除コマンドの実行中に、エラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

再度コマンドを実行してください。改善されない場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24231-E

案件保存 DB 切り替え実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

案件保存 DB 切り替えコマンドの実行中に、システムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24232-E

案件ごとの参照権限設定セットコマンド実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

案件ごとの参照権限設定セットアップコマンドの実行中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24233-E

レジストリ情報の取得に失敗しました

レジストリ情報の取得に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB24234-E

認証ユーザー設定コマンド実行中にシステムエラーが発生しました。(要因：要因，詳細：詳細)

認証ユーザー設定コマンドの実行中にシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26001-E

指定したファイル（ファイルパス）はすでに存在します

引数で指定したパスにすでに同名のファイルがあります。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

重複しないファイル名を指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26002-E

指定したファイル（ファイルパス）は存在しません

引数で指定したパスにファイルがありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

存在するファイル名を指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26003-E

指定したディレクトリ（ディレクトリのパス）は存在しません

引数で指定したディレクトリがありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

存在するディレクトリ名を指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26004-E

（ファイルパス）はディレクトリです

読み込み対象としてディレクトリが指定されています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ファイル名を指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26005-E

ファイル（ファイルパス）を作成できません

ファイルを作成できません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ファイル名、作成先フォルダのアクセス権限などを見直して、ファイルを作成できる状態にしてから、コマンドを再実行してください。

また、実行ホストのディスク容量を確認し、必要なディスク容量を確保してから再実行してください。

KNAB26006-E

指定したプロセスワークボード（プロセスワークボード名）は存在しません

指定したプロセスワークボードがありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

存在するプロセスワークボードを指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26007-E

指定した案件（案件のタイトル、プロセスワークボード内通し番号）は存在しません

指定した案件（案件履歴出力コマンドの場合：案件のタイトル、案件一括削除取り消しコマンドまたはメール通知処理の場合：プロセスワークボード内通し番号）が存在しない場合に出力します。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

存在する案件を指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26008-E

指定したユーザー ID・ロール ID は存在しません

指定したユーザーまたはロールがありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

存在するユーザー、またはロールを指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26009-E

登録者ログイン ID には案件登録権限がありません

登録者に案件の登録権限がありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

登録者に案件の登録権限を持つユーザーを指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26011-E

指定した ID (ユーザーのログイン ID) を持つユーザーはすでに存在します

ユーザー情報インポートコマンドで、CSV ファイル中のユーザーのログイン ID が、すでに案件管理 DB に登録されています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

インポートしようとしたユーザーのログイン ID を修正するか、既存のユーザーを削除してからユーザー情報インポートコマンドを実行してください。

KNAB26012-E

ユーザー情報のインポートに失敗しました。(詳細情報: [詳細情報](#))

ユーザー情報インポートコマンドで、CSV ファイル中のユーザー情報のインポートに失敗しました。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-13 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
ユーザー (ユーザー ID) はすでに存在します	指定したユーザー ID を持つユーザーがすでに存在する。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

インポートに失敗したユーザー情報を修正して、ユーザー情報インポートコマンドを実行してください。

KNAB26013-E

案件情報のインポートに失敗しました。(詳細情報：詳細情報)

案件情報インポートコマンドで、CSV ファイル中の案件情報のインポートに失敗しました。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-14 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
プロセスワークボード (プロセスワークボード ID) は存在しません	指定したプロセスワークボードがない。
プロセスワークボード (プロセスワークボード ID) は運用中ではありません	指定したプロセスワークボードが運用中でない。
ユーザー ID またはロール ID は存在しません	指定したユーザー、またはロールがない。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

インポートに失敗した案件情報を修正して、案件情報インポートコマンドを実行してください。

KNAB26015-E

指定したプロセスワークボード (プロセスワークボード ID) は運用中ではありません

指定したプロセスワークボードが運用中ではありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

プロセスワークボードの状態を運用中にして、コマンドを実行してください。

KNAB26016-E

JP1/Service Support に登録されているユーザー数が最大値（登録できるユーザーの最大値件）に達しているため登録できません

登録されているユーザーが最大値を超えました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

必要がないユーザーを削除してから、コマンドを実行してください。

KNAB26017-E

JP1/Service Support に登録されている案件数が最大値（登録できる案件の最大値件）に達しているため登録できません

登録されている案件が最大値を超えました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

jssdelrec コマンドで削除待ちの案件をデータベースから削除してから、再度コマンドを実行してください。

削除待ちの案件がない場合は、必要がない案件を画面から削除し、jssdelrec コマンドで案件をデータベースから削除してから、再度コマンドを実行してください。

KNAB26019-E

プロセスワークボードに登録されている案件数が最大値（プロセスワークボードに登録できる案件の最大値件）に達しているため登録できません

プロセスワークボードに登録されている案件が最大値を超えました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

プロセスワークボードの削除待ちの案件を `jssdelrec` コマンドで削除してから、再度コマンドを実行してください。

削除待ちの案件がない場合は、必要がない案件を画面から削除し、`jssdelrec` コマンドでデータベースから削除してから、再度コマンドを実行してください。

KNAB26020-E

出力対象の案件情報が多いため、データベースの作業領域が不足しています

出力対象の案件情報が多く、データベースの作業領域が不足している場合に出力されるメッセージです。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

データベースの作業領域が不足しています。`jssitemhistory` コマンド、または `jssitemlist` コマンドで大量の案件情報を出力しようとしている場合は、開始年月日-終了年月日を指定するなどして、案件情報を絞り込んでから再度実行してください。これ以外の場合は、しばらく時間を空けてから再度実行してください。同じエラーが再度発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB26021-E

案件情報入力ファイルに指定する案件情報が多いため、データベースの作業領域が不足しています

案件情報入力ファイルに指定する案件情報が多く、データベースの作業領域が不足している場合に出力されるメッセージです。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

データベースの作業領域が不足しています。`jssitemimport` コマンドで大量の案件を一度に登録しようとしていることが考えられます。案件情報入力ファイルに入力する案件情報の数を減らして再度実行してください。これ以外の場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB26022-E

コマンドの起動に失敗しました。(コマンド名:失敗したコマンド名,詳細コード:保守用エラーコード)

運用コマンドの起動に失敗した場合に出力されます。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26023-E

コマンドが正常に終了しませんでした。(コマンド名:失敗したコマンド名,詳細コード:コマンドの戻り値)

実行したコマンドが正常に終了しなかった場合に出力されます。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

対処方法については、「12. コマンド」の「[jsscollectdata \(案件情報集計\)](#)」,「[jssinformperiod \(期限前通知\)](#)」または「[jssitementrybymail \(メールによる案件登録\)](#)」を参照してください。

KNAB26024-E

コマンドの停止に失敗しました。(コマンド名:失敗したコマンド名,詳細コード:保守用エラーコード)

実行中の運用コマンドの停止に失敗した場合に出力されます。

(S)

メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26025-E

マスターシステムまたは一時受付プロセスワークボードの作成に失敗しました。

マスターシステムまたは一時受付プロセスワークボードの作成に失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このエラー以外に別のエラーが起きている場合は、別のエラーについての対処法を参照してください。別のエラーが起きていない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26026-E

メールサーバへの接続に失敗しました

メールサーバへ接続できない場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf) の指定キー (hptl_jp1_imss_mail_pop3_server, hptl_jp1_imss_mail_pop3_port, hptl_jp1_imss_mail_pop3_user, hptl_jp1_imss_mail_pop3_password) の設定値を見直した後、認証ユーザー設定コマンドを再実行してください。

問題が解決しない場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26027-E

すでにメールによる案件登録コマンドが実行中であるため、メールによる案件登録コマンドを新たに実行できません

メールによる案件登録コマンドを実行中に、新たにメールによる案件登録コマンドを実行した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行中のメールによる案件登録コマンドが終了するのを待ってから、再度実行してください。

KNAB26028-E

登録されていないユーザー/ドメインからのメールを受信しました。(Mail Address:メール送信者のメールアドレス)

事前に登録されていないユーザーまたはドメインから、メールを受信した場合に出力されます。

(S)

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)

メールによる案件登録ができるユーザーまたはドメインの設定を見直してください。

KNAB26029-E

サポートされていないエンコード文字列を指定しています

メールの主題に、サポートされていないエンコード文字列が指定されている場合に出力されます。

(S)

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)

送信したメールのエンコード文字列を見直してください。サポートできるエンコード形式は「ISO-2022-JP」です。

KNAB26030-E

添付ファイルの出力先が見つかりません

メールに添付されたファイルの出力先のフォルダが存在しない場合に出力されます。

(S)

処理中のメールについて、添付ファイル出力処理を中止します。

(O)

メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf) のプロパティキー (hptl_jpl_imss_mail_append_file_output_path) の設定値を見直してください。

KNAB26031-E

添付ファイルの出力先サブフォルダの作成に失敗しました

作成できる添付ファイルの出力先サブフォルダの上限に達したため、フォルダの作成に失敗した場合に出力されます。

(S)

処理中のメールについて、添付ファイル出力処理を中止します。

(O)

添付ファイルの出力先フォルダにある不要なサブフォルダを削除してください。

KNAB26032-E

添付ファイルの出力に失敗しました

添付ファイルの出力処理で、保存できるファイルサイズの上限を超えた場合に出力されます。また、メールに添付されたファイル名が長過ぎる場合に出力されます。

(S)

処理中のメールについて、添付ファイル出力処理を中止します。

(O)

添付するファイルのサイズを小さくして、メールを再送してください。保存できるファイルの上限を見直してください。メールに添付するファイルの名称は 100 文字以内としてください。

KNAB26033-E

一時受付プロセスワークボードの状態が運用中ではないため、案件の登録に失敗しました

一時受付プロセスワークボードの状態が運用中ではないために、案件の登録に失敗した場合に出力されます。

(S)

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)

一時受付プロセスワークボードの状態を見直してください。

KNAB26034-E

一時受付プロセスワークボードが存在しません

一時受付プロセスワークボードが存在しないため、案件の登録に失敗した場合に出力されます。

(S)

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)

一時受付プロセスワークボードを作成してください。

KNAB26036-E

すでに案件として登録されているため、案件の登録に失敗しました

すでにメールによる案件登録コマンドによって、同じ内容のメールが案件として登録されている場合に出力されます。

(S)

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)

案件の登録に失敗したメールを案件として登録したい場合は、メールサーバにあるメールを一度受信し、案件の内容を画面から登録してください。

KNAB26037-E

一時受付プロセスワークボードに、添付ファイル付の案件が登録できません

一時受付プロセスワークボードが使用する案件フォームに、添付ファイルの項目がない場合に出力されます。

(S)

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)

一時受付プロセスワークボードが使用するフォームに、添付ファイルの項目を追加してください。

KNAB26038-E

メール一時退避ファイルの出力に失敗しました。(詳細情報)

メール一時退避ファイルの出力に失敗した場合に出力します。

詳細情報：

- 1：出力できるファイルの数の上限を超えた場合
- 2：出力できるファイルサイズの上限を超えた場合

(S)

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)

資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26039-E

メールサーバからメールを削除する処理に失敗しました

メールサーバからメールを削除する処理に失敗した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26040-E

すでにマスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドが実行中であるため、マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドを新たに実行できません

マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドを実行中に、新たにマスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドを実行した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行中のマスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドが終了するのを待ってから、再度実行してください。

KNAB26041-E

マスターシステムが存在しないため、一時受付プロセスワークボードは作成できません

マスターシステムが存在しない場合に、一時受付プロセスワークボードを作成する場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

マスターシステムを作成後、再度一時受付プロセスワークボードを作成してください。

KNAB26042-E

案件の登録に失敗したメールが幾つかあります

案件の登録に失敗したメールがある場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ユーザー公開ログを参照し、エラーになった原因を取り除いてください。原因が取り除けない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26043-E

すべてのメールで案件の登録に失敗しました

すべてのメールで案件の登録に失敗した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ユーザー公開ログを参照し、エラーになった原因を取り除いてください。原因が取り除けない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26044-E

マスターシステムまたは一時受付プロセスワークボードは、すでに存在しています

マスターシステム、または一時受付プロセスワークボードが存在するときに、新たにマスターシステム、または一時受付プロセスワークボードを作成する場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

KNAB26045-E

メールの送信者のアドレスとドメインの指定がどちらも無効です

メールの送信者のアドレスとドメインの指定がどちらも無効の場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

メールの送信者のアドレスとドメインに正しい値を設定してください。

KNAB26047-E

マスターシステムの状態が削除待ちであるため、一時受付プロセスワークボードの作成はできません

一時受付プロセスワークボードを作成するときに、マスターシステムが削除待ちの状態である場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

マスターシステムの状態を運用中に変更して、コマンドを再度実行してください。

KNAB26048-E

案件フォームの(追加項目：リンク)の定義と一致しません。(不一致のオプション (*ulink\$*))

指定した拡張リンク項目の型と案件フォームの型が異なる場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

項目の型を確認してください。

KNAB26049-E

すでに期限前通知コマンドが実行中であるため、期限前通知コマンドを新たに実行できません

期限前通知コマンドを実行中に、新たに期限前通知コマンドを実行した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行中の期限前通知コマンドが終了するのを待ってから、再度実行してください。

KNAB26050-E

幾つかの案件について期限前通知に失敗しました

期限前通知に失敗した案件がある場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ユーザー公開ログを参照し、エラーになった原因を取り除いてください。原因が取り除けない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26051-E

すべての案件について期限前通知に失敗しました

すべての案件で期限前通知に失敗した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ユーザー公開ログを参照し、エラーになった原因を取り除いてください。原因が取り除けない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26052-E

案件の登録に失敗しました

一時受付プロセスワークボードに案件を登録する場合に、内部エラーの発生によって案件の登録に失敗したときに表示されます。

(S)

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26054-E

ファイルが添付されている一部のメールで、ファイルの出力に失敗しました

ファイルが添付されている一部のメールで、ファイルの出力に失敗した場合に表示されます。

(S)

添付ファイルの出力処理を中止します。メールによる案件登録コマンドの処理は継続します。

(O)

ユーザー公開ログを参照し、エラーになった原因を取り除いてください。原因が取り除けない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26055-E

ファイルが添付されているすべてのメールで、ファイルの出力に失敗しました

ファイルが添付されているすべてのメールで、ファイルの出力に失敗した場合に表示されます。

(S)

添付ファイルの出力処理を中止します。メールによる案件登録コマンドの処理は継続します。

(O)

ユーザー公開ログを参照し、エラーになった原因を取り除いてください。原因が取り除けない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26056-E

指定したシステム（システム名）は存在しません

指定したシステムが存在しない場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

存在するシステムを指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26057-E

案件の削除に失敗しました

案件の削除に失敗した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

設定を見直し、再度実行してください。

KNAB26058-E

削除取り消しに失敗しました

削除取り消しに失敗した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

設定を見直し、再度実行してください。

KNAB26059-E

すでに案件削除コマンドが実行中であるため、案件削除コマンドを新たに実行できません

案件一括削除コマンドを実行中に、新たに案件一括削除コマンドを実行した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行中の案件一括削除コマンドが終了するのを待ってから、再度実行してください。

KNAB26060-E

すでに削除取り消しコマンドが実行中であるため、削除取り消しを新たに実行できません

案件一括削除取り消しコマンドを実行中に、新たに案件一括削除取り消しコマンドを実行した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行中の案件一括削除取り消しコマンドが終了するのを待ってから、再度実行してください。

KNAB26061-E

削除取り消しコマンドが実行中であるため、案件削除コマンドを実行できません

案件一括削除取り消しコマンドの実行中に、案件一括削除コマンドを実行した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行中の案件一括削除取り消しコマンドが終了するのを待ってから、再度実行してください。

KNAB26062-E

案件削除コマンドが実行中であるため、削除取り消しコマンドを実行できません

案件一括削除コマンドの実行中に、案件一括削除取り消しコマンドを実行した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行中の案件一括削除コマンドが終了するのを待ってから、再度実行してください。

KNAB26063-E

滞留案件通知コマンドが実行中であるため、滞留案件通知コマンドを実行できません

滞留案件通知コマンドの実行中に、滞留案件通知コマンドを実行した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行中の滞留案件通知コマンドが終了するのを待ってから、再度実行してください。

KNAB26064-E

メンバー情報のインポートに失敗しました。(詳細情報：詳細情報)

メンバー情報インポートコマンドで、CSV ファイル中のメンバー情報のインポートに失敗しました。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-15 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
行番号行目に指定したロール (ロール ID) は存在しません	指定したロール ID を持つロールが存在しない。
行番号行目に指定したユーザー (ユーザー ID) は存在しません	指定したユーザー ID を持つユーザーが存在しない。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

インポートに失敗したメンバー情報を修正して、メンバー情報インポートコマンドを再度実行してください。

KNAB26065-E

メンバー情報の削除に失敗しました。(詳細情報：詳細情報)

メンバー情報削除コマンドで、CSV ファイル中のメンバー情報の削除に失敗しました。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-16 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
行番号行目に指定したロール (ロール ID) は存在しません	指定したロール ID を持つロールが存在しない。
行番号行目に指定したユーザー (ユーザー ID) は存在しません	指定したユーザー ID を持つユーザーが存在しない。
行番号行目に指定した JP1 管理者 (jpladmin) はシステムロールから削除できません	JP1 管理者をシステムロールから削除しようとした。

- (S) コマンドの処理を中止します。
- (O) 削除に失敗したメンバー情報を修正して、メンバー情報削除コマンドを再度実行してください。

KNAB26068-E

指定したロール (ロール ID) は存在しません

指定したロールが存在しません。

- (S) コマンドの処理を中止します。
- (O) 指定したロールを修正して、再度コマンドを実行してください。

KNAB26069-E

処理名コマンドが実行中であるため、処理名コマンドを実行できません

同時に実行できないコマンド、または同じコマンドを実行しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行中のコマンドの終了後、再度コマンドを実行してください。

KNAB26070-E

処理名に失敗しました

コマンドの処理に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

直前に出力されるメッセージ、および該当するコマンドの注意事項を参照し、対処してください。その後、再度コマンドを実行してください。

KNAB26071-E

編集者ログイン ID には案件編集権限がありません

編集者に案件の編集権限がない場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

編集者に案件の編集権限を持つユーザーを指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26072-E

編集者ログイン ID には案件承認または案件クローズ権限がありません

編集者に案件の承認権限またはクローズ権限がない場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

編集者に案件の承認権限またはクローズ権限を持つユーザーを指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26073-E

指定した案件 (イベント DB 内通し番号) が複数存在します

指定したイベント DB 内通し番号を持つ案件が複数存在する場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

-pi オプションにプロセスワークボード内通し番号を指定して、コマンドを再実行してください。また、イベント DB 内通し番号が重複している案件を削除してコマンドを再実行するか、画面から案件を編集することもできます。

なお、画面から案件を編集する際、対象の案件が使用している案件フォームにイベント DB 内通し番号などの編集したい項目が存在しない場合は、編集したい項目を含む案件フォームを登録し、その案件フォームを使用して新たに案件を登録してください。

KNAB26074-E

指定した案件(プロセスワークボード内通し番号またはイベント DB 内通し番号)は他のユーザーが編集集中です

指定した案件がほかのユーザーによって編集集中の場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件の編集が完了してから、コマンドを再実行してください。または、-f オプションを指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26081-E

「担当者」または「登録者」(ユーザー名)が存在しません

送信対象のユーザーがデータベースに存在しない場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

送信対象のユーザー情報を確認してください

KNAB26082-E

「担当者」または「プロセスワークボード管理者」(ユーザー ID=ユーザー ID)にメールアドレスが設定されていません

送信対象のユーザーにメールアドレスが設定されていない場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

送信対象ユーザーにメールアドレスを設定してください。

KNAB26083-E

幾つかの案件について滞留案件通知に失敗しました

滞留案件通知に失敗した案件がある場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ユーザー公開ログを参照し、エラーになった原因を取り除いてください。原因が取り除けない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26084-E

すべての案件について滞留案件通知に失敗しました

すべての案件で滞留案件通知に失敗した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ユーザー公開ログを参照し、エラーになった原因を取り除いてください。原因が取り除けない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26085-E

メールの発行に失敗しました

メール通知処理でメールの発行に失敗した場合に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このエラー以外に別のエラーが起きている場合は、別のエラーについての対処法を参照してください。別のエラーが起きていない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26086-E

すでに認証サーバ切り替えコマンドが実行中であるため、認証サーバ切り替えコマンドを新たに実行できません

認証サーバ切り替えコマンドを実行中に、新たに認証サーバ切り替えコマンドを実行した場合に出力されます。

- (S)
コマンドの処理を中止します。
- (O)
実行中の認証サーバ切り替えコマンドが終了するのを待ってから、再度実行してください。

KNAB26087-E

チェック対象のプロセスワークボードが設定されていません

滞留案件定義ファイル (jplinformleave_setting.conf) で監視対象に指定しているプロセスワークボードに対して、プロセスワークボード ID が設定されていない場合に出力されます。

- (S)
メッセージを出力して処理を終了します。
- (O)
滞留案件定義ファイル (jplinformleave_setting.conf) の設定内容を確認してから、滞留案件通知コマンドを実行してください。

KNAB26088-E

チェック対象のステータスが設定されていません

滞留案件定義ファイル (jplinformleave_setting.conf) で監視対象に指定しているステータスに対して、滞留案件と見なす案件処理の放置時間が設定されていない場合に出力されます。

- (S)
メッセージを出力して処理を終了します。
- (O)
滞留案件定義ファイル (jplinformleave_setting.conf) の設定内容を確認してから、滞留案件通知コマンドを実行してください。

KNAB26089-E

監視対象が存在しません

滞留案件通知コマンドを実行した際に、監視対象に指定したプロセスワークボードまたはステータスが
ない場合に出力されます。

(S)

メッセージを出力して処理を終了します。

(O)

滞留案件定義ファイル (jplinformleave_setting.conf) を編集してから、滞留案件通知コマンドを実
行してください。また、JP1/Service Support - Task Service サービスによる滞留案件通知コマンド
の実行が不要な場合は、JP1/Service Support - Task Service サービスの設定で、滞留案件通知コマ
ンドを使用しないようにしてから、JP1/Service Support - Task Service サービスを再起動してくだ
さい。

KNAB26090-E

認証サーバの設定が不正です

認証サーバの設定が不正な場合に出力されます。

(S)

メッセージを出力して処理を終了します。

(O)

-ldap オプション、-imss オプション、または-base オプションを指定してコマンドを再実行してくだ
さい。再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26091-E

有効なプロセスワークボード ID が指定されていません

滞留案件通知コマンドを実行した際に、監視対象に指定したプロセスワークボード ID がデータベースに
ない場合に出力されます。

(S)

メッセージを出力して処理を終了します。

(O)

滞留案件定義ファイル (jplinformleave_setting.conf) を編集してから、滞留案件通知コマンドを実
行してください。

KNAB26093-E

ロール情報のインポートに失敗しました。(詳細情報：[詳細情報](#))

ロール情報インポートコマンドで、CSV ファイル中のロール情報のインポートに失敗しました。

詳細情報は次のように出力されます。

表 14-17 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
行番号行目に指定したロール (ロール ID) はすでに存在します	指定したロール ID を持つロールがすでに存在する。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

インポートに失敗したロール情報を修正して、ロール情報インポートコマンドを実行してください。

KNAB26094-E

入力ファイルがメンバー情報入力ファイルまたはメンバー情報編集ファイルの上限値を超えたため処理を中止しました。

メンバー情報インポートコマンド、メンバー情報削除コマンド、またはユーザー情報編集コマンドで、メンバー情報入力ファイルまたはユーザー情報編集ファイルの上限を超えました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

メンバー情報入力ファイルまたはメンバー情報編集ファイルの上限値を超えないようレコードを減らしてください。またはファイルを分割して実行してください。

KNAB26095-E

出力対象のメンバーが存在しません

指定した条件の出力対象が存在しません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

条件を見直して再度コマンドを実行してください。

KNAB26096-E

ユーザー情報の編集に失敗しました。(詳細情報: [詳細情報](#))

ユーザー情報編集コマンドで、CSV ファイル中のユーザー情報の編集に失敗しました。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-18 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
行番号行目に指定したユーザー (ユーザー ID) は存在しません	指定したユーザー ID を持つユーザーが存在しない。
行番号行目に指定した JP1 管理者 (jpladmin) のユーザー ID は変更できません	JP1 管理者のユーザー ID を変更しようとした。
行番号行目に指定したユーザー ID (ユーザー ID) を持つユーザーがすでに存在します	変更後のユーザー ID と同じユーザー ID を持つユーザーが存在する。

- (S)
コマンドの処理を中止します。
- (O)
編集に失敗したユーザー情報を修正して、ユーザー情報編集コマンドを実行してください。

KNAB26097-E

エクスポートファイルの出力先フォルダ(出力先フォルダ)に同名のファイルまたはフォルダ(出力ファイル名)があります

エクスポートファイルの出力先と同じ名前のファイルまたはフォルダがすでに存在しています。

- (S)
コマンドの処理を中止します。
- (O)
出力先フォルダを変更するか、出力先フォルダに存在するファイルまたはフォルダを削除してから、再度コマンドを実行してください。

KNAB26098-E

エクスポート対象の出力対象が存在しません

出力対象に指定したシステムまたはプロセスワークボードが存在しません。

出力対象別に、出力対象の表示が異なります。

システムを指定した場合

出力対象：システム(システム ID)

システム ID には、システムの表示 ID が表示されます。

プロセスワークボードを指定した場合

出力対象：プロセスワークボード(PWBID)

PWBID には、プロセスワークボードの表示 ID が表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

指定したシステム ID またはプロセスワークボード ID を見直してから、再度コマンドを実行してください。

KNAB26101-E

JP1/Service Support のコマンドプロンプトから実行してください

コマンドを JP1/Service Support のコマンドプロンプト以外から実行しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

スタートメニューの [プログラム] - [JP1_Service Support] - [JP1_SS コマンドプロンプト] でコマンドを実行してください。

KNAB26102-E

データベースのバックアップに失敗しました

データベースのバックアップコマンドが失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

jssdbbackup.bat コマンドの注意事項、または次の原因が該当していないか確認してください。該当する場合は原因を解決したあと、コマンドを再実行してください。

オプション共通

- バックアップファイルをネットワークドライブ上に指定している。
- UNC パス指定になっている。
- バックアップファイルの出力先に指定したドライブがない、またはメディアが挿入されていない。
- バックアップファイルの出力先に指定したドライブが使用できる状態になっていない。

- ファイルを格納するドライブの空き領域が足りない。
- コマンド実行中に「JP1/Service Support」サービスを起動した。
- コマンド実行中に「JP1/Service Support - DB Server」サービスを停止した。
- コマンド実行中にほかの JP1/Service Support のコマンドを実行した。

-f オプションを指定した場合

- ファイル名を絶対パスで指定していない。
- バックアップファイル名にフォルダを指定している。
- 絶対パスで指定したバックアップファイル名が、259 バイトを超えている。
- バックアップファイルのファイル名が 255 バイトを超えている。
- ファイル名にマルチバイト文字を指定している、または OS で指定できない文字列を指定している。

-o オプションを指定した場合

- フォルダ名を絶対パスで指定していない。
- バックアップファイル出力先フォルダ名に、ファイル名を指定している。

これらに該当しない場合は資料を収集して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26103-E

データベースのリカバリーに失敗しました

データベースのリカバリーコマンドが失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

jsddbbackup.bat コマンドの注意事項、または次の原因が該当していないか確認してください。

障害用リカバリー実行時で該当する場合は原因を除去し再実行してください。

拡張用リカバリー実行時で該当する場合はコマンド実行前に採取した障害用バックアップファイルで障害用リカバリーを実行して、原因を除去し再実行してください。

オプション共通

- バックアップファイルをネットワークドライブ上に指定している。
- UNC パス指定になっている。
- バックアップファイルの出力先に指定したドライブがない、またはメディアが挿入されていない。
- バックアップファイルの出力先に指定したドライブが使用できる状態になっていない。
- コマンド実行中に「JP1/Service Support」サービスを起動した。
- コマンド実行中に「JP1/Service Support - DB Server」サービスを停止した。
- コマンド実行中にほかの JP1/Service Support のコマンドを実行した。

- 障害用バックアップで採取したファイルで拡張用リカバリーを実行した。また、拡張用バックアップで採取したファイルで障害用リカバリーを実行した。*
- 拡張用バックアップ実行時のサイズより小さいサイズで拡張用リカバリーを実行した。またはバックアップ実行時のデータベース再編成によって、リカバリー先の案件管理 DB のサイズに格納できなかった。*
- 案件保存 DB のセットアップ状況および拡張回数が、バックアップ実行時と異なっている。*

注※

-o オプションを指定して取得したバックアップデータの場合は、バックアップ取得時の次に示す情報を、バックアップファイル出力先フォルダに出力されている dbpath.txt に保存しています。エラー要因を特定する場合に確認してください。

- jssdbbackup.bat コマンド実行時に指定したオプション
- データベースのサイズ
- 案件管理 DB および案件保存 DB のセットアップと拡張先ディレクトリの情報

-f オプションを指定した場合

- ファイル名を絶対パスで指定していない。
- バックアップファイル名にフォルダを指定している。
- 絶対パスで指定したバックアップファイル名が、259 バイトを超えている。
- バックアップファイルのファイル名が 255 バイトを超えている。
- ファイル名にマルチバイト文字を指定している、または OS で指定できない文字列を指定している。

-i オプションを指定した場合

- フォルダ名を絶対パスで指定していない。
- バックアップファイル出力先フォルダ名に、ファイル名を指定している。
- フォルダ名にマルチバイト文字を指定している、または OS で指定できない文字列を指定している。

また、異なるバージョンの環境で採取したバックアップファイルを使ってリカバリーした場合は次の手順を実行してください。

最新バージョンの環境で採取したバックアップファイルを、旧バージョンの環境にリカバリーした場合

1. 最新バージョンに上書きインストールする。
2. -vup オプションを指定してセットアップする。
3. 最新バージョンの環境で採取したバックアップファイルをリカバリーする。

旧バージョンの環境で採取したバックアップファイルを、最新バージョンの環境にリカバリーした場合

1. 最新バージョンをアンインストールする。
2. バックアップファイルを採取した際のバージョンの JP1/Service Support を新規インストールする。
3. セットアップする。

- 4.旧バージョンの環境で採取したバックアップファイルをリカバリーする。
- 5.最新バージョンを上書きインストールする。
- 6.-vup オプションを指定してセットアップする。

これらに該当しない場合は資料を収集して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26104-E

コマンド実行に必要なファイル (必要なファイルのパス) がありません

コマンド実行に必要なファイルがありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ファイルを移動した場合はファイルを元の場所に戻してください。削除した場合は JP1/Service Support を再インストールしてください。

KNAB26105-E

データベースの再編成に失敗しました

案件管理 DB の再編成コマンドが失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の状態になっていないか確認し、該当する場合は原因を解決してから実行してください。

- コマンド実行中に「JP1/Service Support」サービスを起動した。
- コマンド実行中に「JP1/Service Support - DB Server」サービスを停止した。
- コマンド実行中にほかの JP1/Service Support のコマンドを実行した。

また、jssdborg.bat (案件管理 DB 再編成) コマンド実行時に、再編成実行用の一時ファイルの出力先フォルダを指定している場合は、次の原因が該当するかを確認してください。

- 出力先フォルダに指定したドライブの空き容量が不足している。
- 出力先フォルダに、ファイルを指定している。
- 出力先フォルダに、ディスクドライブ直下を指定している。
- 出力先フォルダに、ネットワークドライブを指定している。
- 出力先フォルダに、マルチバイト文字を含む文字列、または OS で指定できない文字列を指定している。
- 出力先フォルダに、次に示す文字列以外を含む文字列を指定している。

- ・半角英数字
- ・半角スペース
- ・半角記号
- ・¥, @, #, ., ()
- ・出力先フォルダに指定したドライブが存在しない。
- ・出力先フォルダに、UNC パスを指定している。
- ・出力先フォルダに、180 バイト以上の文字列を指定している。

これらのどれかに該当する場合は、まず、jssdborg.bat コマンドを実行する前に取得したバックアップファイルでリカバリーを実行してください。次にエラーの原因を取り除き、再度 jssdborg.bat コマンドを実行してください。

また、データベースの再編成によるデータの格納効率変更によって、再編成前のサイズよりも大きいサイズが必要になっています。あらかじめ、jssitemdeletion コマンドおよび jssdelrec コマンドを実行して不要な案件を削除してから、jssdborg.bat コマンドを実行してください。

これらに該当しない場合は資料を収集して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26106-E

データベースの空き領域解放に失敗しました

案件管理 DB の空き領域解放コマンドが失敗しました。

- (S)
コマンドの処理を中止します。
- (O)
次の状態になっていないか確認し、該当する場合は原因を解決してから実行してください。
- ・ コマンド実行中に「JP1/Service Support - DB Server」サービスを停止した。
 - ・ コマンド実行中にほかの JP1/Service Support のコマンドを実行した。
- これらに該当しない場合は資料を収集して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26107-E

データベースのセットアップが完了していません

セットアップコマンドが完了されていない、またはデータベースの初期化が完了していません。

- (S)
コマンドの処理を中止します。
- (O)
セットアップが完了していない場合はセットアップコマンドを実行してください。案件管理 DB の初期化が完了していない場合は初期化コマンドを実行してください。

KNAB26108-E

「JP1/Service Support」サービスが起動しています

JP1/Service Support サービスが起動しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

JP1/Service Support サービスを終了してから再実行してください。また、サービスの起動を確認しないオプションを持つコマンドの場合は、そのオプションを指定してコマンドを再実行してください。

KNAB26109-E

データベースの初期化に失敗しました。(詳細コード：詳細コード)

案件管理 DB の初期化に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを再実行してください。

再度エラーが発生した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26110-E

セットアップ情報ファイルに指定した値が不正です。(詳細コード：詳細コード)

セットアップ情報ファイルに指定した値が不正です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

セットアップ情報ファイルに指定した値を見直してください。

KNAB26111-E

指定したポート番号はすでに使用されています。(ポート番号：ポート番号)

指定したポート番号はすでに使用されています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

他製品と競合しないポート番号を指定してください。

KNAB26112-E

指定したディスクに必要な容量がありません。(詳細コード：詳細コード)

指定したディスクに必要な容量がありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ディスク容量を見直してください。

KNAB26113-E

既存のデータベースの削除に失敗しました。(詳細コード：詳細コード)

案件管理 DB の削除に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを実行したホストにリソース（共有ディスク、論理 IP アドレス、論理ホスト名）が割り当てられていません。コマンドを実行するホストにリソースを割り当てて、コマンドを再実行してください。

再度エラーが発生した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26114-E

メモリ不足が発生しました。(詳細コード：詳細コード)

メモリ不足が発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

メモリ容量を増やしてください。

KNAB26115-E

初期データの格納に失敗しました。(詳細コード：詳細コード)

初期データの格納に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを再実行してください。

再度エラーが発生した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26116-E

テーブルの作成に失敗しました。(詳細コード: 詳細コード)

テーブルの作成に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを再実行してください。

再度エラーが発生した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26117-E

Administrators 権限がありません

コマンドを実行したユーザーに Administrators 権限がありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

Administrators 権限を持つユーザーでコマンドを実行してください。

KNAB26118-E

ファイル (ファイルパス) のコピーに失敗しました

ファイルのコピーに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

jsshasetup コマンドを実行した場合

コマンドを実行したホストにリソース (共有ディスク, 論理 IP アドレス, 論理ホスト名) が割り当てられていないおそれがあります。コマンドを実行したホストのリソースを確認してください。リソースが割り当てられていないときは、リソースを割り当てて、コマンドを再実行してください。

上記以外の場合

エラーメッセージに表示されたファイルを確認し、コマンドを再実行してください。
再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26119-E

コネクションプーリングの設定に失敗しました。(詳細コード: *詳細コード*)

コネクションプーリングの設定に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

-r オプションを指定した場合

-s オプションを指定したセットアップ (すべてのセットアップ) が正常に実行されていることを確認してください。正常に実行されていない場合は、-s オプションを指定したセットアップを実施してください。

上記以外の場合

コマンドを再実行してください。同じエラーが発生する場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26120-E

WWW アプリケーションの削除に失敗しました

WWW アプリケーションの削除に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26121-E

セットアップに失敗しました

セットアップに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このエラーメッセージの前に出力されているメッセージに従って対処し、再度セットアップコマンドを実行してください。

KNAB26122-E

ファイル（ファイルパス）が存在しません

ファイルが存在しません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26123-E

ファイル（ファイルパス）の読み込みに失敗しました

ファイルの読み込みに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の原因が考えられます。

- ファイルが存在しない。
- ファイルのアクセス権がない。
- ファイルが他プログラムによって使用されている。

エラーメッセージに表示されたファイルを確認し、コマンドを再実行してください。

再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26124-E

ファイル（ファイルパス）の書き込みに失敗しました

ファイルの書き込みに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

エラーメッセージに表示されたファイルを確認し、コマンドを再実行してください。

再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26125-E

アンセットアップに失敗しました

アンセットアップに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このエラーメッセージの前に出力されているメッセージに従って対処し、再度アンセットアップコマンドを実行してください。

KNAB26126-E

指定した案件フォーム定義ファイルの形式が不正です

案件フォーム定義ファイルの形式または XML の記述に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件フォーム定義ファイルの形式を見直して再実行してください。

KNAB26127-E

取得情報名の情報取得できません

情報を取得できません。

(S)

メッセージに表示された情報を取得しないで、コマンドの処理を続行します。

(O)

取得情報名を個別に採取してください。

KNAB26128-E

ディレクトリ (ディレクトリ名) を作成できません

ディレクトリを作成できません。

(S)

一部の資料を採取しません。

(O)

ディレクトリ名、アクセス権限を見直し再設定を行って再実行してください。

KNAB26129-E

内部コマンドオプションが不正です

内部コマンドオプションが不正です。

(S)

一部の資料を採取しません。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KNAB26130-E

Windows イベントログ (イベントログ名) は採取できません

イベントログを取得できません。

(S)

Windows イベントログを採取しないで、コマンドの処理を続行します。

(O)

Windows イベントログ (イベントログ名) を個別に採取してください。

KNAB26131-E

データベースの初期化に失敗しました

データベースの初期化に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このエラーメッセージの前に出力されているメッセージに従って対処し、コマンドを再実行してください。

再度エラーが発生した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26132-E

一部の資料が採取できません

資料採取ツールで採取できなかった資料があります。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KNAB26133-E

データベースの{バックアップ | リカバリー}には成功しましたが、データベースの再起動に失敗しました

データベースのバックアップ、またはリカバリーの内部コマンド実行後、データベースの再起動に失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

データベースの状態を確認し、データベースを再起動してください。

バックアップ実行時に生成されたファイルは、そのまま使用できます。

データベースの再起動に失敗する場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26134-E

データベースの{バックアップ | リカバリー}、およびデータベースの再起動に失敗しました

データベースのバックアップ、またはリカバリーの内部コマンド実行、およびデータベースの再起動が共に失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

マニュアルに記載されている注意事項、または下記の原因が該当していないか確認してください。

- ファイル名を絶対パスかつフルパスで指定していない。
- バックアップファイルをネットワークドライブ上に指定している。
- バックアップファイル名にフォルダを指定している。
- UNC パス指定になっている。
- バックアップファイル名がフルパスで 259 バイト以内になっていない。
- フォルダに格納されているバックアップファイルのファイル名が 255 バイト以内になっていない。
- ファイル名にマルチバイト文字を指定しているか、OS で指定できない文字列を指定している。
- バックアップファイルの出力先に指定したドライブが存在しない。
- バックアップファイルの出力先に指定したドライブにメディアが挿入されていない。

- バックアップファイルの出力先に指定したドライブが使用できる状態になっていない。
- コマンド実行中に「JP1/Service Support」サービスを起動した。
- コマンド実行中に「JP1/Service Support - DB Server」サービスを終了した。
- コマンド実行中にそのほかの JP1/Service Support のコマンドを実行した。
- 障害用バックアップで採取したファイルで拡張用リカバリーを実行した。また、拡張用バックアップで採取したファイルで障害用リカバリーを実行した。
- 拡張用バックアップ実行時のサイズより小さいサイズで拡張用リカバリーを実行した。

該当しない場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

障害用リカバリー実行時で該当する場合は原因を除去し、データベースを再起動してから、コマンドを再実行してください。

拡張用リカバリー実行時で該当する場合は、次の手順に従って操作してください。

1. データベースを再起動する。
2. コマンド実行前に採取した障害用バックアップファイルで障害用リカバリーを実行する。
3. 拡張用リカバリー実行失敗の原因を除去し、拡張用リカバリーを再実行する。

データベースの再起動に失敗する場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26135-E

「-c online」を指定してセットアップコマンドを実行してください

クラスタ環境で初めてセットアップする場合に「-c standby」指定でコマンドを実行すると表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

引数に「-c online」を指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26136-E

共有ディレクトリの格納レジストリの登録に失敗しました

共有フォルダ格納先のレジストリを登録できなかった場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを再実行してください。

再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26137-E

セットアップ種類情報ファイルの更新に失敗しました

ローカルセットアップ種類情報ファイル，またはクラスタセットアップ種類情報ファイルの更新に失敗した場合に表示されます。

- (S) コマンドの処理を中止します。
- (O) コマンドを再実行してください。
再度失敗した場合，資料採取ツールで資料を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAB26138-E

異なる構成で用いるコマンドを実行しています

単体構成の際に「jsshaxxxxx.bat」形式のコマンド，またはクラスタ構成の際に「jssxxxxx.bat」形式のコマンドを実行した場合に表示されます。

- (S) コマンドの処理を中止します。
- (O) 単体構成の場合は「jssxxxxx.bat」形式のコマンド，クラスタ構成の場合は「jsshaxxxxx.bat」形式のコマンドを実行してください。

KNAB26139-E

共有ディレクトリの格納レジストリの削除に失敗しました

共有フォルダ格納先のレジストリを削除できなかった場合に表示されます。

- (S) コマンドの処理を中止します。
- (O) コマンドを再実行してください。
再度失敗した場合，資料採取ツールで資料を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAB26140-E

クラスタセットアップに失敗しました

クラスタセットアップに失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このエラーメッセージの前に出力されているメッセージに従って対処し、再度クラスタセットアップコマンドを実行してください。

KNAB26141-E

クラスタアンセットアップに失敗しました

クラスタアンセットアップに失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このエラーメッセージの前に出力されているメッセージに従って対処し、再度クラスタアンセットアップコマンドを実行してください。

KNAB26142-E

バージョンアップに失敗しました

バージョンアップに失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このエラーメッセージの前に出力されているメッセージに従って対処し、再度更新セットアップコマンドを実行してください。

KNAB26143-E

データベースのバージョンアップに失敗しました

データベースのバージョンアップに失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「[6.2.3 環境のバックアップ](#)」のインストールに失敗した場合の手順に従い、バージョンアップ前の環境に回復したあと、コマンドを再実行してください。

クラスタ環境の場合は、「[10.8 クラスタ環境でのバージョンアップ](#)」のバージョンアップに失敗した場合の手順に従い、バージョンアップ前の環境に回復したあと、コマンドを再実行してください。

再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26144-E

WWW アプリケーションのバージョンアップに失敗しました

WWW アプリケーションのバージョンアップに失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

-vup オプションを指定した場合

「6.2.3 環境のバックアップ」のインストールに失敗した場合の手順に従い、バージョンアップ前の環境に回復したあと、コマンドを再実行してください。

クラスタ環境の場合は、「10.8 クラスタ環境でのバージョンアップ」のバージョンアップに失敗した場合の手順に従い、バージョンアップ前の環境に回復したあと、コマンドを再実行してください。再度失敗した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

-r オプションを指定した場合

次に示す手順で環境を回復したあと、コマンドを再実行してください。

• 単体構成の場合

1. jssunsetup.bat (アンセットアップ) コマンドを実行する。
2. 事前に取得した案件管理 DB のバックアップデータのサイズに合わせて jsssetup.bat (セットアップ) コマンドを実行する。
3. jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー) コマンドを実行し、事前に取得していた案件管理 DB のバックアップデータでリカバリーする。

• クラスタ構成の場合

1. 実行系を現用系に切り替える。
2. jsshaunsetup.bat (アンセットアップ) コマンドを実行する。
3. 実行系を待機系に切り替える。
4. jsshaunsetup.bat (アンセットアップ) コマンドを実行する。
5. 実行系を現用系に切り替える。
6. 事前に取得した案件管理 DB のバックアップデータのサイズに合わせて -c online -s オプションを指定して jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ) コマンドを実行する。
7. 実行系を待機系に切り替える。
8. -c standby オプションを指定して jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ) コマンドを実行する。
9. 実行系を現用系に切り替える。

10. jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー) コマンドを実行し、事前を取得していた案件管理 DB のバックアップデータでリカバリーする。

再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26145-E

既に最新版の JP1/Service Support がセットアップされています

すでに最新版の JP1/Service Support がセットアップされている場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

JP1/Service Support サービスを開始できない場合は、-r オプションを指定して JP1/Service Support をセットアップしてください。それ以外の場合は、対処する必要はありません。

KNAB26146-E

構成をアンセットアップしてから、セットアップしてください

構成を変更する際に、アンセットアップしていない場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行したホストが単体構成の場合は、単体構成をアンセットアップし、コマンドを再実行してください。それ以外の場合は、クラスタ環境を構成するすべてのホストでクラスタ構成をアンセットアップしてください。そのあと、クラスタ環境を作成し直してください。

KNAB26147-E

セットアップ環境が不正です

セットアップ環境が不正の場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

jssshdbinit.bat コマンドを実行した場合

コマンドを実行したホストにリソース (共有ディスク, 論理 IP アドレス, 論理ホスト名) が割り当てられていないおそれがあります。コマンドを実行したホストのリソースを確認してください。リソースが割り当てられていないときは、リソースを割り当てて、コマンドを再実行してください。

上記以外の場合

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26148-W

一時受付プロセスワークボードの作成に失敗しました。(詳細コード：詳細コード)

マスターシステム・一時受付プロセスワークボードの作成に失敗しました。

詳細コードの内容を次に示します。

- 1：システム ID が重複しています。
- 2：プロセスワークボード ID が重複しています。
- 3：すでにマスターシステムが存在します。
- 4：すでに一時受付プロセスワークボードが存在します。
- 5：不正なシステム ID が指定されています。
- 6：不正なプロセスワークボード ID が指定されています。
- 7：マスターシステムが存在しません。
- 8：マスターシステムが削除待ちの状態です。
- 9：コマンドが起動中です。
- 10：そのほかの要因によって作成に失敗しました。
- 11：「マスターシステム」と同じ名前のシステムがすでに存在します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

詳細コードに表示されたエラーの要因を取り除き、マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドを実行してください。

詳細コードの値が 5, 6, 10 の場合はシステム管理者に連絡してください。

KNAB26149-E

「JP1/Service Support - Task Service」サービスが起動しています

「JP1/Service Support - Task Service」サービスが起動しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「JP1/Service Support - Task Service」サービスを停止してからコマンドを再実行してください。また、サービスの起動を確認しないオプションを持つコマンドの場合は、そのオプションを指定してコマンドを再実行してください。

KNAB26150-E

バージョン 08-10 からのバージョンアップは「-s {S | M | L}」オプションを省略できません

バージョン 08-10 からバージョンアップする場合は、-s {S | M | L}オプションを省略できません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

バージョンアップ前のバージョンで作成したデータベースのサイズを-s {S | M | L}オプションに指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26151-W

前回作成したデータベースのサイズを設定します。(サイズ:サイズ)

バージョン 08-11 以降からバージョンアップする場合は、「-s {S | M | L | LL}」オプションに指定した値は無効となります。前回作成したデータベースのサイズが設定されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB26152-E

「JP1/Service Support-DB Cluster Service」サービスが起動しています

「JP1/Service Support-DB Cluster Service」サービスが起動している場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「JP1/Service Support-DB Cluster Service」サービスを停止してからコマンドを再実行してください。

KNAB26153-E

予備系のバージョンアップでは引数「-t」を指定できません

予備系のバージョンアップでは、引数にマスターシステム・一時受付プロセスワークボードを作成する-t オプションを指定できません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

-t オプションを削除して、コマンドを再実行してください。

KNAB26154-E

バージョン 08-10 からのバージョンアップは「LL」サイズおよび「XL」サイズを指定できません

バージョン 08-10 からのバージョンアップは「LL」サイズ、および「XL」サイズを指定できません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

バージョンアップ前のバージョンで作成したデータベースサイズを「-s {S | M | L}」に指定して、コマンドを再実行してください。

KNAB26155-E

案件の編集回数が最大値（案件の編集回数の最大値回）に達しているため編集できません

案件の編集回数が最大値に達しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

対象の案件の編集およびエスカレーションはできません。対象の案件の内容を、新規案件として登録してください。

KNAB26156-E

データベースの設定ファイルの更新に失敗しました。（詳細コード：詳細コード）

データベースの設定ファイルの更新に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを再実行してください。再度エラーが発生した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26157-E

案件保存 DB 拡張用のファイルの作成に失敗しました

案件保存 DB 拡張用のファイルの作成に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の原因が考えられます。

- 案件保存 DB の拡張領域作成先ディレクトリ、または案件保存 DB 作成先ディレクトリに指定したドライブの空き容量が不足している。
- 案件保存 DB の拡張領域作成先ディレクトリ、または案件保存 DB 作成先ディレクトリのアクセス権がない。
- 案件保存 DB の拡張領域作成先ディレクトリに、ネットワークドライブを指定している。
- 案件保存 DB の拡張領域作成先ディレクトリに、UNC パスを指定している。

これらに該当する場合は、エラーの原因を取り除き、コマンドを再実行してください。該当しない場合は資料を収集して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26159-E

案件保存 DB(案件保存 DB の保存エリア(A/B))のセットアップが完了していません

指定された案件保存 DB のセットアップが完了していません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件保存 DB のセットアップコマンドを実行してください。

KNAB26160-E

指定された領域は拡張の上限数(拡張の上限数)を超えたため拡張できません(領域拡張対象：拡張対象領域、拡張領域カテゴリ：拡張領域カテゴリ)

指定された案件保存 DB の領域拡張対象、領域カテゴリの拡張回数が上限に達しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

KNAB26161-E

案件保存 DB の構成変更失敗しました

案件保存 DB の構成変更 に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

JP1/Service Support のデータベースの起動状態、ネットワークの接続状態を確認し、実行可能な状態にしてコマンドを再実行してください。再度失敗した場合は資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26163-E

案件保存 DB 拡張状態の更新に失敗しました

案件保存 DB の拡張回数の更新に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の手順でコマンドを再実行してください。

1. 案件管理 DB のアンセットアップ
2. 案件管理 DB のセットアップ
3. 案件保存 DB のセットアップ
4. バックアップファイル出力先ディレクトリに格納されている dbpath.txt を参照し、バックアップファイル取得時と同一の環境に拡張を実施。
5. バックアップデータをリカバリー
6. 案件保存 DB 拡張コマンドの再実行

再度失敗した場合は資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26166-E

案件の参照権限を指定する項目を変更するためには、プロセスワークボードにおける「案件ごとの参照権限の設定」を無効にする必要があります

「案件ごとの参照権限の設定」を有効にしているプロセスワークボードが存在します。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ユーザー公開ログを参照し、KNAB26167-E メッセージの対処方法を実施してください。

KNAB26167-E

プロセスワークボード（プロセスワークボード ID）における「案件ごとの参照権限の設定」が有効になっています

「案件ごとの参照権限の設定」を有効にしているプロセスワークボードが存在します。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

対象プロセスワークボードの「案件ごとの参照権限の設定」を無効にしたあと、再度コマンドを実行してください。

KNAB26168-E

案件フォーム項目 ID を案件の参照権限を指定する項目として設定できませんでした

「案件ごとの参照権限の設定」を有効にしているプロセスワークボードが存在します。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

直前に出力されるメッセージ、および該当するコマンドの注意事項を参照し、対処してください。

KNAB26170-E

領域名(案件領域/添付ファイル領域)のセットアップに失敗しました

案件保存 DB のセットアップが失敗した領域があります。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

エラーの原因を取り除き、再度コマンドを実行してください。すでに一部の領域のセットアップが完了している場合は、案件保存 DB アンセットアップコマンドを実行したあと、再度コマンドを実行してください。

KNAB26171-E

セットアップされている DB サイズが不正です

次の場合に出力します。

- 案件管理 DB がセットアップされていない。

- 案件管理 DB が XL サイズ以外でセットアップされている。

- (S)
コマンドの処理を中止します。
- (O)
案件管理 DB の DB サイズを XL にセットアップしたあと、再度コマンドを実行してください。

KNAB26172-E

データベース名称がセットアップされていません

前提となるデータベースがセットアップされていません。

- (S)
コマンドの処理を中止します。
- (O)
前提となるデータベースをセットアップしたあと、再度コマンドを実行してください。

KNAB26173-E

指定した期間にクローズしていない案件が存在します

指定した期間にクローズしていない案件が含まれています。

- (S)
コマンドの処理を中止します。
- (O)
公開ログに出力されている未クローズの案件について、クローズにしてから再度コマンドを実行してください。

KNAB26174-E

案件の保存に失敗しました (案件 ID : 案件 ID)

案件の保存に失敗しました。

- (S)
コマンドの処理を中止します。
- (O)
対処方法については、直前に出力されたメッセージ、および各コマンドの注意事項を参照してください。

KNAB26176-E

次の案件をクローズしていません (案件 ID : 案件 ID)

案件 ID で示す案件がクローズされていません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件 ID で示す案件をクローズにしてから再度コマンドを実行してください。

KNAB26178-E

案件保存 DB のアンセットアップ中にエラーが発生しました

案件保存 DB のアンセットアップ処理に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを再実行してください。再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26179-E

案件保存 DB の削除に失敗しました

案件保存 DB の削除処理に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを再実行してください。再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26180-E

指定した案件は保存案件のためコマンド名は実行できません

保存案件が実行対象外のコマンドを、保存案件に対して実行しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

KNAB26181-E

案件の参照権限を指定する項目の確認処理に失敗しました

案件の参照権限を指定する項目の確認処理に失敗しました

(S)

コマンドの処理を中止します。

KNAB26182-E

データベース定義ファイルの更新に失敗しました

データベース定義ファイルの更新に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを再実行してください。再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26183-E

データベース情報の取得に失敗しました

データベース情報の取得に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを再実行してください。再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

クラスタ構成で実行した場合は、実行したホストにリソース（共有ディスク、論理 IP アドレス、および論理ホスト名）が割り当てられていないことが考えられます。リソースの状態を確認して、コマンドを実行するホストにリソースを移動してください。そのあと、コマンドを再実行してください。

KNAB26185-E

指定した保存エリア（保存エリア名）はすでにセットアップ済みです

セットアップで指定した保存エリアがすでにセットアップ済みです。

(S)

コマンドの処理を中止します。

KNAB26186-E

指定したディレクトリ（ディレクトリのパス）配下の構成が不正です

引数で指定したディレクトリ配下のディレクトリ構成やファイル構成が不正です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

データベースバックアップコマンドを実行した場合

過去のバックアップデータが残っている可能性があります。

バックアップデータを上書きしてもよい場合は、「-ow」オプションを指定して再度コマンドを実行してください。

上記以外の場合は、ほかのディレクトリを指定して再度コマンドを実行してください。

データベースリカバリーコマンドを実行した場合

データベースバックアップコマンドの「-o」オプションで指定したディレクトリを指定してください。

KNAB26188-E

次の案件が案件保存コマンドの実行中に保存できない状態に変更されました（案件 ID：案件 ID）

案件保存コマンドの実行中に案件のステータスをクローズ以外に変更する、案件を削除待ちにするなど、案件を保存できない状態に変更しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件を保存できる状態に変更して、再度コマンドを実行してください。

KNAB26189-E

切り替え先の保存エリアが存在しません

保存エリア B がセットアップされていない状態で、案件保存 DB 切り替えコマンドを実行しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件保存 DB の保存エリア B をセットアップしたあとに、再度コマンドを実行してください。

KNAB26190-E

指定した期間に削除待ち状態の案件が存在します

指定した期間に削除待ち状態の案件が存在します。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

公開ログに出力されている案件をデータベースから削除、または削除待ち状態を解除してから再度コマンドを実行してください。

削除待ち状態を解除する場合は、次の手順を実行してから再度コマンドを実行してください

1. 案件の削除待ち状態を解除する。
2. 削除待ち状態を解除した案件のステータスを確認する。
3. 案件のステータスが「クローズ」でない場合は、ステータスを「クローズ」に変更する。

KNAB26191-E

次の案件は削除待ち状態です（案件 ID：案件 ID）

指定した期間の削除待ち状態の案件の案件 ID を出力します。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

出力された案件 ID の案件を削除、または削除待ち状態を解除してから再度コマンドを実行してください。

KNAB26192-E

削除待ち状態のプロセスワークボードが存在します。公開ログを確認してください

削除待ち状態のプロセスワークボードが存在します。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

公開ログに出力されているプロセスワークボードをデータベースから削除、または削除待ち状態を解除してから再度コマンドを実行してください。

削除待ち状態を解除する場合は、次の手順を実行してから再度コマンドを実行してください。

1. プロセスワークボードの削除待ち状態を解除する。
2. 指定した期間の案件でステータスが「クローズ」でない案件が、プロセスワークボードに存在しないか確認する。
3. 手順 2 の条件に該当する案件が存在した場合は、該当案件のステータスを「クローズ」に変更する。

KNAB26193-E

次のプロセスワークボードは削除待ち状態です（プロセスワークボード ID：プロセスワークボード ID）

削除待ち状態のプロセスワークボードのプロセスワークボード ID を出力します。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

出力されているプロセスワークボード ID のプロセスワークボードを削除、または削除待ち状態を解除してから再度コマンドを実行してください。

KNAB26194-E

次のプロセスワークボードが案件保存コマンドの実行中に案件を保存できない状態に変更されました（プロセスワークボード ID：プロセスワークボード ID）

案件保存コマンドの実行中にプロセスワークボードを削除待ちにするなど、案件を保存できない状態に変更しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

プロセスワークボードを案件が保存できる状態に変更して、再度コマンドを実行してください。

KNAB26195-E

案件を保存できません。詳細はログ（ファイルパス）を確認してください。

保存案件の対象となる案件、およびプロセスワークボードの状態が、保存条件を満たしていません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

公開ログに出力されているメッセージに従って対処したあと、再度コマンドを実行してください。

KNAB26196-E

案件保存 DB の状態が不正です。

案件保存 DB の状態が不正です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件保存 DB セットアップコマンドの公開ログを参照し、エラーメッセージがないことを確認してください。また、案件保存 DB セットアップコマンドが正常に終了しているかを確認してください。

案件保存 DB セットアップコマンドが正常に終了していない場合は、再度コマンドを実行してください。

案件保存 DB セットアップコマンドが正常に終了している場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB26197-E

対象の案件とプロセスワークボードの確認に失敗しました

対象の案件とプロセスワークボードの確認中に、エラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

直前に出力されるメッセージ、および該当するコマンドの注意事項を参照し、対処してください。そのあと、再度コマンドを実行してください。

KNAB26198-E

処理を中止します。対象案件の一部を保存しました（案件数：案件数件）

案件保存コマンドの処理を中止しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

直前に出力されるメッセージ、および該当するコマンドの注意事項を参照し、対処してください。そのあと、再度コマンドを実行してください。

KNAB26201-E

コマンド環境定義ファイルの内容が不正です

コマンド環境定義ファイルの内容が不正です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

セットアップが正常に実施されていることを確認してください。

セットアップが不完全である場合は再度セットアップを実施してください。

セットアップが正常の場合は、システム管理者に連絡してください。

案件フォーム定義ファイルの解析中にエラーが発生しました。(詳細コード: *詳細コード*, 詳細情報: *詳細情報*)

案件フォーム定義ファイルの解析中にエラーが発生しました。

詳細コードの意味を次の表に示します。

表 14-19 詳細コードの意味

詳細コード	意味
0	詳細情報。
1	指定できない範囲の値を指定した。
2	必ず指定する項目が指定されていない。
3	指定できない要素数が指定された。
4	指定された値は, "/form-def/item-def/*/@fiid"に指定された案件フォーム項目 ID に対応していない。
5	存在しないユーザ ID またはロール ID が指定された。
6	"/form-def/display-def/position/row/col/@fiid"に指定されていない案件フォーム項目 ID が指定された。

また, 詳細コードが 0 の場合, 詳細情報は詳細エラーメッセージが出力されます。詳細コードが 1 以上の場合, エラーを検知した要素, または属性の絶対パスが出力されます。

絶対パスの出力例を次の表に示します。

表 14-20 絶対パスの出力例

出力例	意味
"/AAA"	要素名が AAA であるルート要素。
"/AAA/BBB"	要素名が BBB であるルート要素の子要素。
"/AAA/*"	要素名が任意であるルート要素の子要素。
"/AAA/@CCC"	属性名が CCC であるルート要素の属性。
"/AAA/BBB(2)"	ルート要素の子要素であり, 要素名が BBB である 2 番目の要素。(n)は同名の要素を複数指定できる場合にだけ出力する。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

エラーの原因を取り除き, 再度コマンドを実行してください。

コマンド環境定義ファイルの読み込みに失敗しました

コマンド環境定義ファイルの読み込みに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

セットアップが正常に実施されていることを確認してください。

セットアップが不完全である場合は、再度セットアップを実施してください。

セットアップが正常の場合は、次に示す内容を確認し、定義ファイルを見直してから、再度コマンドを実行してください。

認証サーバ切り替えコマンドを実行した場合

JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル (hptl_jp1_imss_ua_conf.properties) が、次に示す原因に該当していないかを確認してください。

- ファイルが JP1/SS パス¥conf フォルダに存在していない。
- ファイル名と同一名のフォルダが存在する。
- ファイルが読み込み可能ではない。

滞留案件通知コマンドを実行した場合

メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf) および滞留案件定義ファイル (jplinformleave_setting.conf) が、次に示す原因に該当していないか確認してください。

- メール定義ファイルが JP1/SS パス¥conf フォルダに存在していない。
- 滞留案件定義ファイルが JP1/SS パス¥conf¥command フォルダに存在していない。
- ファイル名と同一名のフォルダが存在する。
- ファイルが読み込み可能ではない。

メールによる案件登録コマンドを実行した場合

メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf) および案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties) が、次に示す原因に該当していないかを確認してください。

- ファイルが JP1/SS パス¥conf フォルダに存在していない。
- ファイル名と同一名のフォルダが存在する。
- ファイルが読み込み可能ではない。

案件情報拡張エクスポートコマンドを実行した場合

CSV 設定ファイル (hptl_jp1_imss_csv_setting.properties) および -m オプションで指定した CSV カラム名マッピングファイル (jplimss_itemcsv_columnmap.conf) が、次に示す原因に該当していないかを確認してください。

- CSV 設定ファイルが JP1/SS パス¥conf フォルダに存在していない。
- CSV カラム名マッピングファイルが-m オプションで指定したファイルパスに存在していない。
- ファイル名と同一名のフォルダが存在する。
- ファイルが読み込み可能ではない。
- CSV カラム名マッピングファイルのファイル名が、予約デバイス名である。

メール発行コマンドを実行した場合

メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf) が、次に示す原因に該当していないかを確認してください。

- ファイルが JP1/SS パス¥conf フォルダに存在していない。
- ファイル名と同一名のフォルダが存在する。
- ファイルが読み込み可能ではない。

上記以外のコマンドを実行した場合は、システム管理者に連絡してください。

KNAB26204-E

案件フォーム登録に失敗しました

案件フォーム登録が失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このメッセージの直前までに出力されているメッセージによって、対応するオペレーターの取る処置を行ってください。

KNAB26205-E

削除待ちデータの削除に失敗しました

削除待ちデータが削除できません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このメッセージの直前までに出力されているメッセージによって、対応するオペレーターの取る処置を行ってください。

KNAB26208-E

同一の案件フォーム ID を持つ案件フォームは (同一案件フォーム ID の案件フォームの最大数) 個しか登録できません

同一の案件フォーム ID を持つ案件フォームがデータベース内に (同一案件フォーム ID の案件フォームの最大数) 個以上あるため、登録できません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

使用していない案件フォームを削除して、再度コマンドを実行してください。

KNAB26209-E

出力対象の案件が存在しません

指定した条件で出力対象となる案件がありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26210-E

案件情報の集計に失敗しました

案件情報の集計に失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26211-E

ファイル (ファイルパス) が存在しないか、読み込めません

ファイルの読み込みに失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ファイルが存在するかを確認してください。存在した場合、ファイルを読み込む権限があるかを確認してください。再度このメッセージが出力される場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26213-E

認証サーバ切り替え処理に失敗しました

認証サーバ切り替え処理に失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26214-E

認証サーバ確認処理に失敗しました

認証サーバ確認処理に失敗した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26215-E

認証サーバ切り替えコマンドの実行に失敗しました

認証サーバ切り替えコマンドの実行中に、問題が発生した場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

セットアップが正常に実施されていることを確認してください。

セットアップが不完全である場合は再度セットアップを実施してください。

セットアップが完全である場合はコマンドを再実行してください。

再度失敗した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB26219-E

出力対象の状態が不正です。

出力の対象となるシステムまたはプロセスワークボードの状態が不正です。

出力対象別に、出力対象の表示が異なります。

システムを指定した場合

出力対象：システム(システム ID)

システム ID には、システムの表示 ID が表示されます。

プロセスワークボードを指定した場合

出力対象：プロセスワークボード(PWBID)

PWBID には、プロセスワークボードの表示 ID が表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

システムまたはプロセスワークボードの状態を確認して、状態を修正してください。そのあと、コマンドを再実行してください。

KNAB26221-E

案件のインポートに失敗しました (案件 ID:案件 ID)

案件のインポートに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ユーザー公開ログを参照し、エラーになった原因を取り除いてください。原因が取り除けない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB26223-E

同時に実行できないコマンドが実行中のためコマンドを実行できません

同時に実行できないコマンドを実行しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ほかのコマンドの処理が終了してから、再度コマンドを実行してください。

KNAB26224-E

メールサーバへのログインに失敗しました

メールサーバへログインできないため、メールを送信できませんでした。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

認証ユーザー設定コマンドで設定したユーザー名とパスワードを確認してください。

KNAB26225-W

メールによる案件登録のパスワードの設定に失敗しました

バージョン 10-50 以前からバージョン 11-00 以降へバージョンアップ中に、メールによる案件登録のためのユーザー認証の設定に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

メールによる案件登録機能を利用する場合は、実行中のセットアップコマンドが終了するのを待ってから、認証ユーザー設定 (jssauthusersetup) コマンドを実行し、ユーザー ID とパスワードを再設定してください。

KNAB26226-E

メール送信処理中にエラーが発生しました。(エラーコード:エラーコード(詳細情報))

メール送信処理中にエラーが発生しました。

なお、(詳細情報)は、出力されない場合があります。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

(詳細情報)に次に示す情報が出力される場合は、メール送信者がメールサーバからアクセスを拒否されている可能性があります。メール送信者の設定またはメールサーバの設定を見直してください。

- com.sun.mail.smtp.SMTPSendFailedException: 530 5.7.1 Client was not authenticated
- com.sun.mail.smtp.SMTPSendFailedException: 550 5.7.1 Client does not have permissions to send as this sender

そのほかの場合は、エラーが発生したことを、システム管理者に連絡してください。

KNAB26227-E

管理ノードの取得に失敗しました

管理ノードの取得に失敗した場合に出力します。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次のコマンドが実行中でないかを確認してください。

- jssnodecount（管理ノード数のカウント）コマンド
- jssaclexport（アクセス権情報のエクスポート）コマンド
- jssmemberlist（メンバー一覧出力）コマンド

上記のコマンドを実行中でない場合は、jssnodecount（管理ノード数のカウント）コマンドを再実行してください。再度失敗した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB28001-E

コマンドを実行する権限がありません

実行ユーザーに Administrators 権限がありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

Administrators 権限を持つユーザーでコマンドを実行してください。

KNAB28002-E

引数に指定できない文字が指定されています

引数の値に指定できない文字を指定しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

エラーのあった引数の値を指定できる値に修正して再実行してください。

KNAB28003-E

コマンドの引数が不正です

引数の形式が不正です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドの引数を見直してください。

KNAB28004-E

(オプションの値) は指定できるバイト数を超えています

オプションの値に指定できるバイト数を超えました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

エラーのあったオプションの値を指定できる値に修正して再実行してください。

KNAB28005-E

コマンド環境設定ファイルの内容が不正です

コマンド環境設定ファイルの値が不正です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB28006-E

マッピングファイルの内容が不正です

マッピングファイルの内容が不正です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

エラーのあったマッピングファイルの内容を、指定できる内容に修正して再実行してください。

KNAB28007-E

終了年月日が開始年月日よりも前に指定されています

出力範囲を指定するための終了年月日が、開始年月日より前に指定されています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

年月日の範囲を指定できる値に修正して再実行してください。

KNAB28008-E

ファイルを読み込めません

指定されたファイルを読み込めません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

読み込み権限があるファイルを指定して再実行してください。

KNAB28010-E

オプション（オプション名）が重複しています

コマンドの実行時に指定したオプションが重複しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

エラーメッセージのあとに出力される Usage に従って、正しい引数を指定してください。

KNAB28011-E

引数に指定できない日付が指定されています

日時を設定するオプションに、指定できない値を指定しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

エラーメッセージのあとに出力される Usage に従って、正しい引数を指定してください。

KNAB28012-E

引数に指定できない値が指定されています

設定するオプションに、指定できない値を指定しています。

- (S) コマンドの処理を中止します。
- (O) エラーメッセージのあとに出力される Usage に従って、正しい引数を指定してください。

KNAB28013-E

ログ設定ファイルの内容が不正です

ログ設定ファイルに記載された内容が不正です。

- (S) コマンドの処理を中止します。
- (O) ログ設定ファイルに記載されている値を修正し、再度コマンドを実行してください。

KNAB28014-E

コマンド環境設定ファイルの内容が不正です(不正な値が設定されているキー名)

コマンド環境設定ファイルの値が不正な場合に出力されます。

- (S) コマンドの処理を中止します。
- (O) 資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB28015-E

メールによる案件登録コマンドを使用しない設定になっているため、コマンドが実行できません

メール定義ファイルでメールによる案件登録コマンドを使用しない設定が行われています。

- (S) コマンドの処理を中止します。
- (O) 資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB28016-E

メールの主題,メールの本文,メールの *MessageID* が取得できません

メールから情報が取得できない場合に出力されます。

(S)
案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)
資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB28017-E

メールの主題,メールの本文,メールの *MessageID* が長過ぎます

メールから取得した情報のサイズが長過ぎる場合に出力されます。

(S)
案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)
メールの主題または本文が長過ぎる場合は、主題または本文を短くしてメールを送信してください。
メールのメッセージ ID が長過ぎる場合は、メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf) の指定キー (hptl_jpl_imss_mail_messageid_maxlen) の設定を見直してください。

KNAB28018-E

メールのフォーマットが不正です

メールのフォーマットが不正な場合に出力されます。

このメッセージが出力される例を、次に示します。

- メールヘッダーの項目に不正がある。
- メール MIME パートの開始と終了の対応が取れていない。
- メール定義ファイルに設定した値に不正がある。

(S)
案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)
メール定義ファイルに設定した値が誤っていないか確認してください。
また、メールを送信したクライアントの処理に不正がある場合があります。この場合は、メールを送信するクライアントを変更してから、再度メールを送信してください。

KNAB28020-E

メールの MIME パートのネストの階層が深過ぎるため、解析できません

受信したメールの MIME のネストの回数が多いため、メールを解析できない場合に出力されます。何度も転送を繰り返したメールを案件として登録しようとする場合などに発生します。

(S)

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)

新規メールを作成し、再度メールを送信してください。

KNAB28021-E

メールの送信者 (From) に複数のアドレスを指定しています

メールの送信者 (From) に複数のアドレスを指定している場合に出力されます。

(S)

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)

メールの送信者 (From) に複数のアドレスを指定しないで、メールを送信してください。

KNAB28022-E

システム名, システム ID, またはプロセスワークボード ID が重複しています

指定したシステム名, システム ID またはプロセスワークボード ID がすでに存在する場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

異なる ID を指定して、再度コマンドを実行してください。または、すでに存在する「マスターシステム」というシステム名を変更して、再度コマンドを実行してください。

KNAB28023-E

メールの主題, システム ID またはプロセスワークボード ID が不正です

メールサーバから取得したメールのサイズが大き過ぎる場合に表示します。システム ID, プロセスワークボード ID に半角英数字以外の文字が含まれる場合に表示されます。プロセスワークボード内通し番号に数字以外の文字が含まれる場合に表示されます。

(S)

メールによる案件登録コマンドの場合

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドの場合

コマンドの処理を中止します。

案件一括削除取り消しコマンドの場合

コマンドの処理を中止します。

(O)

メールによる案件登録コマンドの場合

メールの主題から制御文字を取り除いて、再度メールを送信してください。

マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成コマンドの場合

異なる ID を指定して、再度コマンドを実行してください。ID に指定できるのは 1 バイト以上 64 バイト以下の半角英数字です。

案件一括削除取り消しコマンドの場合

プロセスワークボード内通し番号に指定できるのは数字だけです。案件一覧出力コマンドによって出力されるプロセスワークボード内通し番号を参照してプロセスワークボード内通し番号を指定してください。

KNAB28024-E

メールのサイズが大き過ぎます

メールサーバから取得したメールのサイズが大き過ぎるときに表示されるメッセージです。

(S)

案件登録処理中のメールに対する処理を中止し、別のメールについて案件登録処理を開始します。

(O)

案件の登録に失敗したメールを案件として登録したい場合は、メールサーバにあるメールを一度受信し、案件の内容を画面から登録してください。

KNAB28025-E

インポート対象のシステム (システムの表示 ID) またはプロセスワークボード (プロセスワークボードの表示 ID) が存在しません。

案件情報拡張インポートコマンドの実行時に指定したシステムまたはプロセスワークボードが存在しません。

次に示す原因が考えられます。

- 指定したシステム ID に対応するフォルダが、-i オプションで指定したフォルダの配下に存在しない。
- 案件情報 CSV ファイルが格納されている上位フォルダ名 (システム ID) に対応するシステムに、案件情報 CSV ファイル名から取得したプロセスワークボード名のプロセスワークボードが存在しない。
- -p -id オプションに指定したプロセスワークボード ID に対応する案件情報 CSV ファイルが存在しない。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

-i オプションで指定したフォルダの構成、および案件情報拡張インポートコマンドを実行しようとしている案件管理 DB の情報を見直してから、再度コマンドを実行してください。

KNAB28026-E

インポート対象の CSV データが不正です (ファイル名: *ファイル名*, 行: *不正データの行*, 列: *不正データの列*, エラー詳細: *エラー詳細*)

案件情報拡張インポートコマンドのオプションで指定した、インポート対象の CSV データが不正です。

不正データの列が特定できない場合は、「- (ハイフン)」が表示されます。

パイプ区切りで複数の情報を表示する項目にエラーがあった場合は、エラー詳細のあとにエラーの個所が表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

エラー詳細を基に、次に示す対処をしてください。そのあと、コマンドを再実行してください。

ファイルフォーマット不正

次のどちらかの対処をしてください。

- CSV の各項目が「" (ダブルクォーテーション)」で囲まれているか確認してください。
- インポート対象の CSV ファイルの列数に過不足がないか確認してください。

指定 ID 不正

CSV データに記載されている ID に該当するデータが、案件管理 DB に存在しません。CSV データを見直すか、該当 ID のデータを案件管理 DB に作成してください。

フォルダ構成とインポートデータが不一致

-i オプションで指定したフォルダ配下の構成と、CSV ファイルに入力されているシステムおよびプロセスワークボードの情報が不一致です。次に示す情報を、インポート先のシステム情報と合わせてください。

- 対象システムのシステム ID
- プロセスワークボード ID

ID と名称が不一致

インポート先の JP1/Service Support に登録されている ID 情報から取得した名称と、CSV データに入力されている名称が不一致です。次に示す情報を、インポート先のシステム情報と合わせてください。

- 対象システム
- 案件ステータス
- エスカレーション先システム

添付ファイルが不正

次に示す対処をしてください。

- 案件情報 CSV ファイルに記載されている添付ファイルが、`-i` オプションで指定したフォルダ配下の適切な個所に存在しているかを確認してください。添付ファイルの格納先フォルダ名は、関連する案件のプロセスワークボード内通し番号が5けた未満の場合、先頭を「0 (ゼロ)」で埋めた値にする必要があります。また、ファイル名に含まれる添付ファイル ID は、案件情報 CSV ファイルに入力した添付ファイル ID と合わせる必要があります。
- ファイル名に含まれる添付ファイル ID が、同一フォルダ内で一意になっているか確認してください。
- 案件の添付ファイルの容量が、JP1/Service Support に登録できる上限を超えていないか確認してください。

項目間の整合性が不正

複数の項目の整合性が満たされていません。「13. 定義ファイル」の「[案件情報拡張入力ファイル \(任意\)](#)」を参照して、各項目の指定値の見直しを行ってください。

使用文字不正

項目に設定できない文字または値が、CSV ファイルに入力されています。項目の指定値を見直してください。

フォーマット不正

項目のフォーマットが不正です。項目の型に適したフォーマットになっているか見直してください。

指定値の範囲不正

項目に指定できるバイト数の下限または上限を超えています。指定値を見直してください。なお、改行文字を置換する機能を利用している場合は、置換後の文字列が範囲内の長さになるように見直してください。

ソート不正

CSV データが、プロセスワークボード内通し番号、バージョン番号の昇順でソートされていません。昇順になるように見直してください。

KNAB28027-E

案件フォームが存在しません (ファイル名: ファイル名, 行: 不正データの行, 案件フォーム ID: 案件フォーム ID, 案件フォームバージョン: 案件フォームバージョン)

案件情報拡張インポートコマンドのオプションで指定した、インポート対象の CSV データが不正です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次に示す対処をしてください。そのあと、案件情報入力拡張コマンドを再実行してください。

1. インポート対象データと整合性のある案件フォームを登録する。
2. インポート対象の CSV データの「案件フォームバージョン」を、1.で登録した案件フォームバージョンに合わせて修正する。

KNAB28028-E

案件フォームと案件情報が不一致です (案件フォーム ID:エラーとなっている案件フォーム ID, 案件フォームバージョン:エラーとなっている案件フォームバージョン, ファイル名:ファイル名, 行:不正データの行, 列:不正データの列, エラー詳細:エラー詳細)

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

エラー詳細を基に、次に示す対処をしてください。そのあと、コマンドを再実行してください。

フォームエラー

案件フォームと設定項目の指定値に関して、次に示す問題があります。案件フォームと設定項目の見直してください。

- 案件フォームに存在しない項目が設定されている。
- 案件フォーム項目 ID と関連情報種別が不一致。

指定必須項目エラー

案件フォームで指定が必須、またはクローズ時に指定が必須となっている項目が、CSV データに入力されていません。値を入力してください。

なお、クローズ時に指定が必須であるかどうかの判定は、案件情報 CSV の「案件ステータス ID」が「JIMSD_STAT_CLOSE」のデータを、クローズした案件と判定しています。

KNAB28029-E

案件の登録上限数を超えるため登録できません (対象:案件の上限を超える対象)

登録できる案件の上限を超えるため、登録できません。

対象には、次のどちらかが表示されます。

- JP1/Service Support
- プロセスワークボード表示 ID の値

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次に示す対処をしてください。そのあと、コマンドを再実行してください。

- データ種別が「最新」または「削除」のデータを削除して、登録する案件を少なくする。
- 登録済みの不要な案件を削除する。

KNAB28030-E

CSV ファイル（ファイル名）に不正なデータが含まれています

読み込んだ CSV データに、不正なデータが存在します。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ユーザー公開ログを参照し、エラーになった原因を取り除いてください。原因が取り除けない場合は、資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB28031-E

インポート対象の対象システム数が上限を超えています

インポート対象の対象システム数が上限を超えています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

インポート対象の対象システム数を少なくしてください。そのあと、コマンドを再実行してください。

KNAB28032-E

インポート対象の案件がありません

案件情報拡張インポートコマンドを実行したが、対象となる案件情報 CSV ファイルがありませんでした。

次に示す原因が考えられます。

- 案件情報拡張インポートコマンドの-i オプションで指定したフォルダ配下に、案件管理 DB に存在するシステムのシステム名に合致するフォルダ名のフォルダが存在しない。
- 案件管理 DB に、案件情報 CSV ファイルのファイル名に含まれるプロセスワークボード ID と合致するプロセスワークボードが存在しない。
- 案件情報 CSV ファイルが一つもない。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件情報 CSV ファイルが正しく配置されているか確認してください。そのあと、コマンドを再実行してください。

KNAB28033-E

CSV ファイル (ファイル名) の内容が不正です。(詳細情報: [詳細情報](#))

CSV ファイルの内容が不正です。

詳細情報は次のよう出力されます。

表 14-21 詳細情報

詳細情報	要因
行番号行目の (項目名) の値が不正です	CSV ファイルの値が不正。 項目に設定できない文字を使用している, または項目に設定できる文字列の長さを超えている。
行番号行目のデータ (項目データ) の形式が不正です	CSV ファイルの形式が不正。
行番号行目のデータ項目が不足しています	CSV ファイルのデータ項目数が必要数に満たない。
行番号行目に指定したシステム (システム ID) は存在しません	指定したシステム ID を持つシステムが存在しない。
行番号行目に指定したプロセスワークボード (プロセスワークボード ID) は存在しません	指定したプロセスワークボード ID を持つプロセスワークボードが存在しない。
行番号行目に指定したロール (ロール ID) は存在しません	指定したロール ID を持つロールが存在しない。
行番号行目に指定したユーザー (ユーザー ID) は存在しません	指定したユーザー ID を持つユーザーが存在しない。
行番号行目に指定したアクセス権 (アクセス権の名称) はプロセスワークボード (プロセスワークボード ID) で使用できません	指定したステータス ID を持つステータスをプロセスワークボードで使用していない。
行番号行目に指定したアクセス権 (アクセス権の名称) は重複して定義されています	指定したアクセス権が重複している, またはステータスのアクセス権とそのステータスの初期担当者を含むステータスのアクセス権が同時に定義されている。
行番号行目に指定したアクセス権 (アクセス権の名称) は存在しません	指定したアクセス権が存在しない。
行番号行目に指定したプロセスワークボード (プロセスワークボード ID) のアクセス権 (アクセス権の名称) は, 同じプロセスワークボードのほかのユーザーまたはロールに重複して定義されています	指定したステータスの初期担当者を含むステータスのアクセス権が, 同じプロセスワークボードのほかのユーザーまたはロールに重複して定義されている。

(S)

CSV ファイルの内容のチェックが完了している場合：コマンドの処理を中止します。

CSV ファイルの内容のチェックが完了していない場合：メッセージを出力して処理を続行します。

(O)

インポートに失敗したアクセス権情報を修正して、アクセス権情報インポートコマンドを実行してください。

KNAB28034-E

CSV ファイル (ファイル名) で指定した指定項目が存在しません

CSV ファイルで指定したシステム、プロセスワークボード、ユーザー、またはロールが存在していません。

指定項目別に、指定項目の表示が異なります。

システムが存在しない場合

システム (システム ID)

システム ID には、システムの表示 ID が表示されます。

プロセスワークボードが存在しない場合

プロセスワークボード (プロセスワークボード ID)

プロセスワークボード ID には、プロセスワークボードの表示 ID が表示されます。

ユーザーが存在しない場合

ユーザー (ユーザー ID)

ユーザー ID には、ユーザーの表示 ID を表示する。

ロールが存在しない場合

ロール (ロール ID)

ロール ID には、ロールの表示 ID を表示する。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

アクセス権情報入力ファイルの内容を見直してから、再度アクセス権情報インポートコマンドを実行してください。

KNAB28035-E

プロセスワークボード (プロセスワークボード ID) はステータス (ステータス名称) を使用していません。

アクセス権情報インポートコマンドで使用する CSV ファイルで指定したステータスに対するアクセス権のステータスが、指定したプロセスワークボードで使用されていません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

プロセスワークボード ID で示すプロセスワークボードが使用しているステータスを見直して、再度コマンドを実行してください。

KNAB28036-E

異なる構成で用いるオプションを指定しています

単体構成の際に-c online または-c standby を指定しています。

または、クラスタ構成の際に-c online または-c standby を指定していません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

単体構成の場合は-c online または-c standby を指定しないでコマンドを実行してください。

クラスタ構成の場合は-c online または-c standby を指定して、コマンドを実行してください。

KNAB28037-W

登録対象のメール本文のデータフォーマットが不正です。(案件 ID: 案件 ID, 解析中のタグ情報: 案件項目指定 ID, エラー詳細: エラー詳細)

案件登録の対象となるメール本文のフォーマットが不正です。

案件が添付ファイルに出力される場合は、案件 ID の値に「-」が出力されます。

解析中のタグ情報が存在しない、または取得できない場合は、案件項目指定 ID の値に「SS_SYSTEM_TAG」が出力されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

エラー詳細を基に、次に示す対処をしてください。そのあと、コマンドを再実行してください。

設定不可項目

現在の動作モードでは指定できない案件項目指定 ID が指定されています。指定した案件項目指定 ID を見直してください。

フォームエラー

案件フォームと指定した案件項目指定 ID に関して、次の問題があります。

- ・指定した案件指定項目 ID に対応する案件フォーム項目 ID が、案件の登録先のプロセスワークボードで使用されていない。
- ・指定した案件項目指定 ID に対応する案件フォームで、登録しようとした選択肢コードが定義されていない。

案件フォームと案件項目指定 ID の指定値を見直してください。

使用文字不正

項目に指定できない文字または値が指定されています。指定した文字または値を見直してください。

指定値の範囲不正

項目に指定できる上限または下限を超えています。指定した値を見直してください。

フォーマット不正

項目のフォーマットが不正です。項目の型に適したフォーマットになっているかを確認し、見直してください。

KNAB28038-W

登録対象のメール本文に、2重に設定された案件項目があります。(案件 ID: *案件 ID*, 解析中のタグ情報: *案件項目指定 ID*)

登録対象のメール本文に、二重設定された案件項目があります。

案件が添付ファイルに出力される場合は、案件 ID の値に「-」が出力されます。

解析中のタグ情報が存在しない、または取得できない場合は、案件項目指定 ID の値に「SS_SYSTEM_TAG」が出力されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

エラーが発生したメールの内容が登録された案件について、このメッセージに表示された案件項目指定 ID の情報を確認してください。必要であれば、登録された案件の情報を修正してください。

KNAB28039-W

登録対象のメール本文で、タグの記述が不正です。(案件 ID: *案件 ID*, 解析中のタグ情報: *案件項目指定 ID*)

登録対象のメール本文で、タグの記述が不正です。

案件が添付ファイルに出力される場合は、案件 ID の値に「-」が出力されます。

解析中のタグ情報が存在しない、または取得できない場合は、案件項目指定 ID の値に「SS_SYSTEM_TAG」が出力されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

エラーが発生したメールの内容が登録された案件の添付ファイルを参照し、登録された案件の情報を修正してください。

KNAB28040-E

送信元メールアドレスのデータを設定する案件項目とメール本文の情報を設定する案件項目が同一です。(案件項目指定 ID : 案件項目指定 ID)

送信メールアドレスのデータを設定する案件項目と、メール本文の情報を設定する案件項目が同一です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次に示すメール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf) のキーに指定されている値が、同一の案件項目指定 ID になっていないかを確認してください。

- hptl_jpl_imss_mail_source_address
- hptl_jpl_imss_mail_itemdata_set_form

KNAB28101-E

セットアップ情報ファイルに指定した値が不正です。(項目名 : 項目名)

セットアップ情報ファイルに記載された設定が不正です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

jsshasetup.bat コマンドを実行した場合

コマンドを実行したホストにリソース (共有ディスク, 論理 IP アドレス, 論理ホスト名) が割り当てられていないおそれがあります。コマンドを実行したホストのリソースを確認してください。リソースが割り当てられていないときは、リソースを割り当てて、コマンドを再実行してください。

上記以外の場合

セットアップ情報ファイルに記載されている値を修正し、セットアップコマンドを実行してください。

KNAB28102-E

セットアップ情報ファイルが不正です

セットアップ情報ファイルに不正な文字が混在しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

セットアップ情報ファイルに不正な文字がないかを確認し、セットアップコマンドを実行してください。

KNAB28103-E

(ファイル名) は予約デバイス名です

ファイル名、フォルダ名に予約デバイス名が含まれています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

指定したフォルダ名から予約デバイス名を取り除いて再実行してください。

KNAB28104-Q

処理を続行しますか？ (Y/N) :

Y を指定すると、処理を続行します。N を指定すると、処理を中断します。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

KNAB28105-E

指定したプロセスの標準案件フォームにおいて、案件の参照権限を設定する項目の定義が不正、あるいは存在していません

プロセスの標準案件フォームを使用しているプロセスワークボード内に、「案件ごとの参照権限の設定」が有効なプロセスワークボードが存在する、かつ指定のプロセスの標準案件フォームが次に示すどれかの条件に該当する場合に表示します。

- 案件の参照権限を指定する項目の「型」が「userrole」となっていない。
- 案件の参照権限を指定する項目の必須項目となっていない。
- 指定の案件フォームに案件の参照権限を指定する項目が存在しない。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

指定のプロセスの標準案件フォームに案件の参照権限を指定する項目として使用する拡張ユーザー情報項目が追加されているか確認してください。追加されている場合、使用する拡張ユーザー情報項目の「型」が「userrole」に設定、かつ必須項目となっていることを確認してください。

KNAB28107-I

データベース接続用のパスワードを変更します

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB28108-Q

パスワードを入力してください：

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

KNAB28109-I

パスワードを変更しました

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB28110-E

不正なパスワードが入力されました

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

設定できるパスワードを指定し、コマンドを再実行してください。

KNAB28111-E

パスワードファイルの編集に失敗しました

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを再実行してください。再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB28112-E

設定ファイルの編集に失敗しました

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンドを再実行してください。再度失敗した場合、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB28113-I

パスワードファイルを作成します

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAB28114-E

プロパティファイル(ファイル名)にオプション(オプション名)が指定されていません

プロパティファイルにオプションが指定されていない場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

プロパティファイルにオプションが指定されているか確認して、コマンドを再実行してください。

KNAB28115-E

プロパティファイル(ファイル名)の内容が不正です(不正な値が設定されているオプション名)

プロパティファイルの値が不正だった場合に表示されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

プロパティファイルのオプションの値を確認して、コマンドを再実行してください。

KNAB28116-E

LDAP サーバ種別が不正です

認証サーバ切り替えコマンドで、`-ldap` オプションを指定した場合、サーバ種別名が異なっていたり、サーバ種別名がなかった場合に表示されるメッセージです。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

サーバ種別名を確認して、コマンドを再実行してください。

KNAB28117-E

Failed to obtain the message *メッセージID*. (error code = エラーコード)

メッセージファイルの読み込みに失敗しました。

(S)

処理を継続します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB28118-E

Failed to obtain the message *メッセージID*.

メッセージファイルの読み込みに失敗しました。

(S)

処理を継続します。

(O)

資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB28121-E

案件保存 DB 拡張情報設定ファイルが不正です

案件保存 DB 拡張情報設定ファイルに不正な文字が存在しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件保存 DB 拡張情報設定ファイルに不正な文字が存在していないかを確認し、再度セットアップコマンドを実行してください。

KNAB28122-E

案件保存 DB 拡張情報設定ファイル(ファイル名)の内容が不正です。(項目名：項目名)

案件保存 DB 拡張情報設定ファイルに設定した値が不正です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件保存 DB 拡張情報設定ファイルに設定した値を修正し、再度コマンドを実行してください。

-c オプションを指定してコマンドを実行し、このメッセージが出力された場合、実行したホストにリソース（共有ディスク、論理 IP アドレス、および論理ホスト名）が割り当てられていないことが考えられます。リソースの状態を確認して、コマンドを実行するホストにリソースを移動してください。そのあと、コマンドを再実行してください。

KNAB28123-E

案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルが不正です

案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルに不正な文字が存在しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルに不正な文字が存在していないかを確認し、再度セットアップコマンドを実行してください。

KNAB28124-E

案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル(ファイル名)の内容が不正です。(項目名：項目名)

案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルに設定した値が不正です。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルに設定した値を修正し、再度コマンドを実行してください。

-c オプションを指定してコマンドを実行し、このメッセージが出力された場合、実行したホストにリソース（共有ディスク、論理 IP アドレス、および論理ホスト名）が割り当てられていないことが考え

られます。リソースの状態を確認して、コマンドを実行するホストにリソースを移動してください。その後、コマンドを再実行してください。

KNAB28125-E

案件ごとの参照権限設定セットアップコマンドの実行に失敗しています。案件ごとの参照権限設定セットアップコマンドを再実行してください

-id オプションを指定した jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) コマンドの実行に失敗しています。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

-id オプションを指定して jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) コマンドを再度実行してください。

14.7 案件フォーム定義ファイル編集時のメッセージ (KNAB30002～KNAB30214)

案件フォーム定義ファイル編集時のメッセージを次に示します。

KNAB30002-E

指定したファイル (指定したファイルパス) は存在しません

画面入力で指定したファイルが見つからない場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、指定したファイルパスを確認してください。

KNAB30003-E

(指定したファイルパス) はディレクトリです

画面入力で指定したファイルがパスであった場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、指定したファイルパスを確認してください。

KNAB30004-E

指定したディレクトリ (指定したファイルパス) は存在しません

画面入力チェックで、出力先に指定したディレクトリが存在しない場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、指定したファイルパスを確認してください。

KNAB30005-I

指定したファイル (指定したファイルパス) はすでに存在します。上書きしますか？

画面入力チェックで、出力先に指定したファイルと同じファイルがすでに存在する場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

はい：上書きしてファイルを出力します。

いいえ：元の画面に戻ります。

KNAB30006-E

ファイル（指定したファイルパス）を作成できません

画面入力で指定したファイルを作成できない場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、指定したファイルパス、ファイル名、作成先ディレクトリのアクセス権限などを見直して、ファイルを作成できる状態にしてから、再実行してください。

また、実行ホストのディスク容量を確認し、必要なディスク容量を確保してから再実行してください。

KNAB30007-E

ディスク容量が不足しています

コマンド実行中に、ディスク容量不足でファイルなどが出力できない場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、ディスク容量を確保してから再実行してください。

KNAB30008-E

ファイル（指定したファイルパス）の読み込みに失敗しました

ファイルの読み込みに失敗した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、指定したファイルパス、ファイル名、アクセス権限などを見直して、ファイルを参照できる状態にしてから、再実行してください。

KNAB30012-I

案件フォーム定義ファイル名を出力しました

ファイルを正しく出力した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

KNAB30013-I

編集を破棄してもよいですか？

作成中の定義情報がある場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

はい：編集を破棄し，処理を続行します。

いいえ：元の画面に戻ります。

KNAB30105-E

削除できない項目です

画面配置されたシステム上入力必須の項目を，画面から削除しようとした場合に出力されます。

(S)

削除を取り消し，ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り，編集を継続してください。

KNAB30106-E

指定した項目はすでに画面に配置されています

画面上に配置した項目を，再度配置しようとした場合に出力されます。

(S)

追加を取り消し，ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り，編集を継続してください。

KNAB30107-E

1行に3つ以上の項目を配置することはできません

画面に三つ目の項目を横に並べようとした場合に出力されます。

(S)
追加を取り消し、ユーザーの操作を待ちます。

(O)
入力画面に戻り、編集を継続してください。

KNAB30108-E

(項目 ID) の (属性名称) に指定した値は長過ぎます。長さバイト以内の文字列で入力してください

画面入力チェックで、入力文字数が最大値を超えた場合に出力されます。

(S)
ユーザーの操作を待ちます。

(O)
入力画面に戻り、入力文字数が最大を超えないように調整してください。

KNAB30109-E

(項目 ID) の (属性名称) に制御文字を使用しないでください

画面入力チェックで、制御文字の入力を禁止している属性に、制御文字を入力した場合に出力されます。

(S)
ユーザーの操作を待ちます。

(O)
入力画面に戻り、制御文字が含まれないように調整してください。

KNAB30111-E

(項目 ID) の (属性名称) の指定が正しくありません

画面入力チェックで、指定が誤っている場合、または矛盾がある場合に出力されます。

複数の候補値から選択する場合は、別の値を設定しているとき、または設定に矛盾があるときに出力されます。

(S)
ユーザーの操作を待ちます。

(O)
入力画面に戻り、入力した値を確認してください。

KNAB30112-E

(項目 ID) の (属性名称) には数字を指定してください

画面入力チェックで、数字を指定する属性に別の値を設定した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、入力した値を確認してください。

KNAB30114-E

(項目 ID) の選択肢コードは (上限値) を超えない範囲にしてください

画面入力チェックで、選択肢コードに設定できる以上のコードを定義した場合に出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

入力画面に戻り、上限を超えない範囲の選択肢コードになるように調整してください。

KNAB30155-E

一時ファイルを作成できないため、プレビュー画面を表示できません

プレビュー画面を表示する場合、JP1/SS パス¥log フォルダに一時ファイルを作成します。ディスク容量が不足している、またはアクセス権がないため、一時ファイルを作成できないときに出力されます。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

(O)

JP1/SS パス¥log フォルダのアクセス権を変更していないか、またはディスクに空き容量があるかどうかを確認してください。

KNAB30202-E

案件フォーム定義ファイル解析中にエラーが発生しました (詳細情報)

案件フォーム定義ファイルの解析中にエラーが発生した場合に出力されます。

(S)

案件フォーム定義ファイルの読み込みを中断します。

(O)

正しい案件フォーム定義ファイルか確認してください。

KNAB30205-E

入力必須の項目が見つかりません (項目 ID)

案件フォーム定義チェックで、システム上入力必須の項目が存在しない場合に出力されます。

(S)

案件フォーム定義ファイルの読み込みを中断します。

(O)

案件フォーム定義ファイルに入力必須の項目 ID を追加してください。

KNAB30208-E

(項目 ID) の (属性の xml タグ) に長さバイト以上の文字列が設定されています

案件フォーム定義チェックで、入力文字数が最大値を超えた場合に出力されます。

(S)

案件フォーム定義ファイルの読み込みを中断します。

(O)

案件フォーム定義ファイルの項目 ID のタグに指定した文字列を、最大値以下になるように調整してください。

KNAB30210-E

(項目 ID) の (属性の xml タグ) が (正しい値) から変更されています

案件フォーム定義チェックで、変更できない属性を変更しようとした場合に出力されます。

(S)

案件フォーム定義ファイルの読み込みを中断します。

(O)

案件フォーム定義ファイルの項目 ID のタグに指定した値を、変更できる値に戻してください。

KNAB30211-E

(項目 ID) の (属性の xml タグ) の指定が正しくありません

案件フォーム定義チェックで、指定が誤っている場合、または矛盾がある場合に出力されます。

複数の候補値から選択する場合は、別の値を設定しているとき、または設定に矛盾があるときに出力されます。

(S)

案件フォーム定義ファイルの読み込みを中断します。

(O)

案件フォーム定義ファイルの項目 ID のタグに指定した値を、確認してください。

KNAB30214-E

(項目 ID) の選択肢コードが上限 (上限値) を超えています

案件フォーム定義チェックで、選択肢コードに設定できる以上のコードを定義した場合に出力されます。

(S)

案件フォーム定義ファイルの読み込みを中断します。

(O)

案件フォーム定義ファイルの項目 ID の選択肢コードが、上限を超えないように調整してください。

14.8 インストール実行時のメッセージ (KNAB99001～KNAB99099)

インストール実行時のメッセージを次に示します。

KNAB99001-W

このプラットフォームは未サポートです。インストールを中断しますか？

このプラットフォームは未サポートです。

(S)

ユーザーの操作を待ちます。

はい：処理を中断します。

いいえ：処理を続行します。

(O)

サポートしている OS にインストールしてください。

KNAB99002-E

このプラットフォームは未サポートです。インストールを中断します

このプラットフォームは未サポートです。

(S)

処理を中断します。

(O)

サポートしている OS にインストールしてください。

KNAB99003-E

ログインアカウントはインストールするために必要な権限を持っていません。
管理者アカウントを使用してください

ログインアカウントはインストールするために必要な権限を持っていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

管理者アカウントを使用してインストールしてください。

KNAB99006-W

インストール先として指定されたパスが不正です。

固定ディスクを指定してください

インストール先として指定されたパスが不正です。

(S)

処理を中断します。

(O)

インストール先として指定できるドライブは固定ディスクだけです。指定したパスを確認して、再度正しいインストールパスを指定してください。

KNAB99007-E

製品名 バージョン のアンインストールに失敗しました

アンインストールに失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

修復インストールしてください。修復インストール後、再度アンインストールしてください。それでもアンインストールに失敗した場合は、資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

KNAB99008-E

サービスの停止に失敗しました

サービスの停止に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

不要なサービスを停止させたあと、再度インストールを実行してください。

KNAB99009-E

サービスの削除に失敗しました

サービスの削除に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取して、システム管理者に連絡してください。

KNAB99010-E

ファイルのコピーに失敗しました

ファイルのコピーに失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

不要なサービスを停止させたあと、再度インストールを実行してください。

KNAB99011-W

ファイルの削除に失敗しました。

インストール完了後に以下のファイルを削除してください。

削除に失敗したファイル：削除に失敗したファイル

ファイルの削除に失敗しました。

(S)

処理を続行します。

(O)

インストール完了後に削除に失敗したファイルを削除してください。

KNAB99012-E

ファイルのオープンに失敗しました。

オープンに失敗したファイル：ファイル名

ファイルのオープンに失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

不要なサービスを停止させた後、再度インストールを実行してください。

KNAB99013-E

ファイルにアクセスできません。

アクセスできなかったファイル：ファイル名

ファイルにアクセスできません。

(S)

処理を中断します。

(O)

不要なサービスを停止させた後、再度インストールを実行してください。

KNAB99014-E

インストールに必要な情報が不足しているためインストールを中断します

インストールに必要な情報が不足しています。

(S)

処理を中断します。

(O)

不要なサービスを停止させたあと、再度インストールを実行してください。

KNAB99015-E

レジストリに情報を設定できません

レジストリに情報を設定できません。

(S)

処理を中断します。

(O)

不要なサービスを停止させたあと、再度インストールを実行してください。

KNAB99017-W

環境変数 Path の設定に失敗しました。

登録に失敗した値：パス名

環境変数 Path の設定に失敗しました。

(S)

処理を続行します。

(O)

インストール完了後、環境変数 Path のダイアログボックスに表示された、登録に失敗した値を登録してください。

KNAB99019-E

サービス（サービス名）が起動しているため、処理を中断します

不要なサービスが起動しています。

(S)

処理を中断します。

(O)

サービス名に示されたサービスを停止後、再度インストールを実行してください。

KNAB99025-E

インストールに必要なファイルが見つかりません

インストールに必要なファイルが見つかりません。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAB99027-E

サービスの登録に失敗しました

サービスが起動しています。

(S)

処理を中断します。

(O)

コンピュータを再起動したあとに再度インストールを実行してください。

KNAB99028-E

ファイルの作成に失敗しました

インストールに必要なファイルが見つかりません。

(S)

処理を中断します。

(O)

不要なサービスを停止させたあと、再度インストールを実行してください。

KNAB99030-E

インストールされている製品名バージョンの情報を取得できません

情報を取得できません。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAB99031-E

製品名バージョンの情報のバックアップに失敗しました

バックアップに失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAB99032-E

製品名バージョンの情報の引き継ぎに失敗しました

引き継ぎに失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAB99034-W

環境変数 Path の削除に失敗しました。

削除に失敗した値：パス名

環境変数 Path の削除に失敗しました。

(S)

処理を続行します。

(O)

インストール完了後に環境変数 Path からダイアログボックスに表示された削除に失敗した値を削除してください。

KNAB99035-E

製品名 バージョン のインストール先が固定ディスクではないため、インストールできません

インストール先が固定ディスクではありません。

(S)

処理を中断します。

(O)

製品名に示された製品が正しくインストールされていることを確認してください。

KNAB99037-W

インストール先として指定されたディスクには十分な空き容量がありません。
ほかのディスクを指定してください

インストール先として指定されたディスクに十分な空き容量がありません。

(S)

処理を中断します。

(O)

空き容量が十分にあるドライブを選択してください。

KNAB99040-W

インストール先として指定されたパスが不正です。
不正な特殊文字 (; * ? " < > | \$ % & ' ` / ^ ! # { } [] + - = @ ~ : ¥), もしくは日本語が指定されました

インストール先として指定されたパスに、不正な特殊文字 (; * ? " < > | \$ % & ' ` / ^ ! # { } [] + - = @ ~ : ¥), またはマルチバイト文字が指定されました。

(S)

前の画面に戻ります。

(O)

マニュアルを確認して、正しい文字列を入力してください。

KNAB99041-W

インストール先として指定されたパスが不正です。

インストールパスに文字列が 39 バイト以上指定されました

インストールパスに文字列が 39 バイト以上指定されました。

(S)

前の画面に戻ります。

(O)

指定したインストールパスを 39 バイト未満にしてください。

KNAB99042-E

データベースサーバの構築に失敗しました

データベースサーバの構築に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

ファイアウォールのサービスが起動しているかを確認してください。ファイアウォールのサービスが起動していない場合は、ファイアウォールのサービスを起動してからインストールを実行してください。

同じエラーが再度発生する場合は、資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAB99043-E

データベースサーバの削除に失敗しました

データベースサーバの削除に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAB99044-E

WWW アプリケーションサーバの構築に失敗しました

WWW アプリケーションサーバの構築に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAB99045-W

プログラムフォルダ名が不正です。

プログラムフォルダに文字列が 256 バイト以上指定されました

プログラムフォルダに文字列が 256 バイト以上指定されました。

(S)

前の画面に戻ります。

(O)

指定したプログラムフォルダ名の文字列を 256 バイト以内にしてください。

KNAB99046-W

プログラムフォルダ名として指定された文字列が不正です。

不正な特殊文字 (; * ? " < > | \$ % & ' ` / ^ ! # { } [] + = @ : ¥), もしくは日本語が指定されました

プログラムフォルダ名に、不正な特殊文字 (; * ? " < > | \$ % & ' ` / ^ ! # { } [] + = @ : ¥), またはマルチバイト文字が指定されました。

(S)

前の画面に戻ります。

(O)

マニュアルを確認して正しい文字列を入力してください。

KNAB99047-E

WWW アプリケーションサーバの削除に失敗しました

WWW アプリケーションサーバの削除に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAB99048-E

(ファイル名)があるため、インストールできません

「(ファイル名)」に示したファイルがあるため、インストールできません。

(S)

処理を中断します。

(O)

次のどれかの対処を実施してください。

- インストールフォルダを変更する。
- 「(ファイル名)」に示したファイルの名称を変更する。
- 「(ファイル名)」に示したファイルを移動する。
- 「(ファイル名)」に示したファイルを削除する。

KNAB99049-E

サービスの停止中に内部エラーが発生しました

サービスの停止中に内部エラーが発生しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

クラスタ環境の場合

インストールを実行中のマシンに系が切り替わっているか確認してください。インストールを実行中のマシンに系が切り替わっていない場合、次の手順を実行してください。

1. インストールを実行するマシンに系を切り替える。
2. サービスコントロールマネージャで、案件管理 DB サーバの JP1/Service Support - DB Server サービスを停止する。
3. インストールを実施する。

JP1/Service Support をバージョン 8 からバージョン 9 以降へバージョンアップする場合

ご使用中の JP1/Service Support のバージョン 8 を修復インストールしたあと、バージョン 9 以降へバージョンアップしてください。

JP1/Service Support のバージョン 9 以降を修復インストールする場合

次のフォルダに「recovery.bat」という名称のファイルを作成し、JP1/Service Support のバージョン 9 以降の修復インストールをしてください。

JP1/SS パス¥tools¥setup¥tmp

修復インストールしたあと、「recovery.bat」は削除してください。

KNAB99050-E

この環境に上書きインストールはできません。インストールを中断します

この環境に上書きインストールはできません。

(S)

処理を中断します。

(O)

マニュアルを参照して、前提条件を確認してください。

KNAB99051-E

データベースサーバの構築に失敗しました (詳細コード: [詳細コード](#))

データベースサーバの構築に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

詳細コードに 02 が出力された場合

コンピュータを再起動したあとに、再度インストールを実行してください。

同じエラーが再度発生する場合は、資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

それ以外の場合

ファイアウォールのサービスが起動しているか確認してください。

ファイアウォールのサービスが起動していない場合は、ファイアウォールのサービスを起動してからインストールを実行してください。

同じエラーが再度発生する場合は、資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAB99090-E

メモリが不足しています。

不要なアプリケーションを停止後、再度インストールしてください

メモリが不足しています。

(S)

処理を中断します。

(O)

不要なアプリケーションを停止後、再度インストールしてください。

KNAB99091-E

内部エラーが発生しました。

資料を採取してシステム管理者に連絡してください

内部エラーが発生しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

資料を採取してシステム管理者に連絡してください。

KNAB99098-E

操作に誤りがあるおそれがあります。HCD_INST.EXE よりインストールを行ってください

操作に誤りがあるおそれがあります。

(S)

処理を中断します。

(O)

HCD_INST.EXE からインストールしてください。

KNAB99099-E

コード 9999

媒体不良のおそれがあります。購入元にご連絡ください

媒体不良のおそれがあります。

(S)

処理を中断します。

(O)

購入元に連絡してください。

15

トラブルシューティング

この章では、JP1/Service Support でトラブルが発生した場合の対処方法や、トラブルの原因になりやすい項目について説明します。

15.1 対処の手順

JP1/Service Support でトラブルが発生した場合は、次の手順で対処してください。

1. 現象の確認

トラブルが発生したときの現象を確認してください。メッセージが出力されている場合は、メッセージの内容を確認してください。

また、一般的に想定されるトラブルの対処法については、「[15.5 トラブルへの対処方法](#)」を参照してください。

2. 資料の採取

1.でトラブルが解消されない場合、または内部エラー、通信エラーなどの場合は、トラブルの要因を調べるために資料の採取が必要です。「[15.2 ログ情報の種類](#)」を参照して、必要な資料を採取してください。

3. 問題の調査

採取した資料を基に問題の要因を調査し、問題が発生している部分、または問題の範囲を切り分けてください。

15.2 ログ情報の種類

JP1/Service Support を運用しているときに出力されるログ情報は 4 種類あります。

- 共通メッセージログ
- 統合トレースログ
- 公開ログ
- プロセス別トレースログ

この節では、4 種類のログ情報について説明します。JP1/Service Support が出力するログファイルの一覧については、「付録 A ファイル一覧」を参照してください。

15.2.1 共通メッセージログ

共通メッセージログとは、システム側のトラブルを通知する、システム管理者向けのログ情報のことです。共通メッセージログは、必要最小限のトラブル情報を通知します。

共通メッセージログは、Windows イベントログに出力されます。

15.2.2 統合トレースログ

統合トレースログとは、各プログラムが出力するトレース情報を、統合トレース機能 (HNTRLib2) を通じて、一つの出力先ファイルにまとめて採取するログ情報のことです。共通メッセージログより詳しい内容のメッセージが出力されます。

統合トレースログのデフォルトの出力先は次のとおりです。

システムドライブ: %Program Files (x86)%Hitachi%HNTRLib2%spool%hnr2{1|2|3|4}.log

統合トレースログファイルは、任意のテキストエディターで参照できます。統合トレースログの出力例を次に示します。

図 15-1 統合トレースログファイルの出力例

```

タイムゾーン      OS情報      統合トレースログ機能      ホスト名
                ↓              起動時刻                ↓
**** Microsoft WindowsNT6.1 (Build:7601) Service Pack 1      JP1-SS01
TZ=(local)-9:00      2015/06/22 15:12:53.992
  yyyy/mm/dd hh:mm:ss.sss      pid      tid      message-id
message (LANG=0x0411)
0004 2015/06/23 12:22:34.367      jss_service      00001450 00000DE8 KNAB20128-I
JP1/Service Supportサービスが起動しました
↑      ↑      ↑      ↑      ↑      ↑
番号      日付      時刻      AP名      pid      tid      メッセージID
↑
メッセージテキスト
    
```

統合トレースログファイルに出力されるヘッダー情報と出力項目の説明を表 15-1 および表 15-2 に示します。

表 15-1 統合トレースログファイルのヘッダー情報

ヘッダー情報	説明
OS 情報	統合トレース機能が起動している OS の情報が出力される。
ホスト名	統合トレース機能が起動しているホスト名が出力される。
タイムゾーン	OS のタイムゾーンが出力される。
統合トレースログ機能起動時刻	統合トレース機能を起動した時刻が出力される。

表 15-2 統合トレースログファイルの出力項目

出力項目	説明
番号 (4 けた)	トレースレコードの通番。 番号はログを出力したプロセスごとに採番される。
日付 (10 バイト)	トレースの取得日付 : yyyy/mm/dd (年/月/日)。
時刻 (12 バイト)	トレースの取得時刻 (ローカル時刻) : hh:mm:ss.sss (時:分:秒.ミリ秒)。
AP 名	アプリケーションを識別するための名称 (アプリケーション識別名)。 JP1/Service Support で出力される AP 名は jss_service。
pid	プロセス ID。OS が付けるプロセス ID。
tid	スレッド ID。スレッドを識別するための ID。
メッセージ ID	メッセージの出力形式で説明したメッセージ ID。この製品で使用するメッセージ ID。
メッセージテキスト	統合トレースログに出力されるメッセージのテキスト。この製品から出力されるメッセージテキスト。

15.2.3 公開ログ

公開ログとは、ユーザーに公開し、問題解決を促すために使用するログ情報のことです。次の表に示す項目の実行結果が、公開ログとして出力されます。それぞれの項目の実行結果を公開ログに出力するかどうか、また、ログファイルのサイズや面数については、次に示す定義ファイルで定義します。詳細については、各定義ファイルの説明を参照してください。

表 15-3 公開ログを出力する項目と定義ファイル

項番	項目	定義ファイル
1	JP1/UCMDB 連携	機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties)
2	JP1 イベントの発行	JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties)
3	jssauthusersetup コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplauthusersetup.conf)
4	jssinformleave コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplinformleave.conf)
5	jssinformperiod コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplinformperiod.conf)
6	jssitemcount コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplitemcount.conf)
7	jssitemedit コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplitemedit.conf)
8	jssitementry コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplitementry.conf)
9	jssitementrybymail コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplitementrybymail.conf)
10	jssitemexportEx コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplitemexportEx.conf)
11	jssitemimportEx コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplitemimportEx.conf)
12	jssitemstore コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplitemstore.conf)
13	jssitemstoredbexpand.bat コマンド	—
14	jssitemstoredbrotate コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplitemstoredbrotate.conf)
15	jssrefaclsetup コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplrefaclsetup.conf)
16	jssaclexport コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplaclexport.conf)
17	jssaclimport コマンド	ユーザーログ定義ファイル (jplaclimport.conf)
18	jssstoreitemdel.bat コマンド	—
19	入力補助機能	入力補助機能プロパティファイル (hptl_jp1_imss_input_assist_plugin.properties)
20	メール通知機能	ユーザーログ定義ファイル (jplmailnotification.conf)
21	操作ログ	操作ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_access_log.properties)
22	メインサービス	メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_main_log.properties)

(凡例)

－：該当なし

15.2.4 プロセス別トレースログ

プロセス別トレースログとは、JP1/Service Support の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお、プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため、内容は公開していません。

15.3 トラブル発生時に採取が必要な資料

トラブルが発生したときに採取が必要な資料を示します。

なお、JP1 では採取が必要な資料を一括採取するための資料採取ツールを用意しています。資料採取ツールで採取できる資料は、OS のシステム情報や JP1 の情報です。

15.3.1 OS のシステム情報

OS に関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できます。

表 15-4 OS のシステム情報

情報の種類	採取資料	ファイル名※
資料採取日時	<ul style="list-style-type: none">• date /t の実行結果• time /t の実行結果	date.log
Windows イベントログ	<ul style="list-style-type: none">• アプリケーション システムルートフォルダ¥system32¥config¥AppEvent.Evt• システム システムルートフォルダ¥system32¥config¥SysEvent.Evt	<ul style="list-style-type: none">• SysEvent(Backup).evt• AppEvent(Backup).evt
マシンに設定されているホスト名の設定	システムルートフォルダ¥system32¥drivers¥etc¥hosts	hosts
マシンに設定されているサービスポートの設定	システムルートフォルダ¥system32¥drivers¥etc¥services	services
NIC の実装状況	ipconfig /all の実行結果	ipconfig.log
起動サービス一覧	net start の実行結果	netstart.log
バインド状況	netstat の実行結果	netstat.log
レジストリ情報	regedit の実行結果	regedit.log
ファイル一覧	dir の実行結果	dir.log
マシンの環境変数	set の実行結果	set.log
マシンのシステム情報	msinfo32 /report ファイル名の実行結果	msinfo32.log

注※

資料採取ツールを実行したあとの格納先でのファイル名です。格納先については、「12. コマンド」の「jss_log.bat (資料採取)」を参照してください。

15.3.2 JP1 の情報

JP1 に関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できます。また、ネットワーク接続でのトラブルの場合、接続先マシン上のファイルの採取も必要です。

表 15-5 JP1 の情報

情報の種類		採取資料	ファイル名
JP1/Service Support	統合トレースログ	システムドライブ:¥Program Files (x86)¥Hitachi ¥HNTRLlib2¥spool¥以下のファイル	採取元のファイル名と同じファイル名
	環境設定情報	JP1/SS パス¥conf 以下のファイル	採取元のファイル名と同じファイル名
	ログ情報	JP1/SS パス¥log 以下のファイル	採取元のファイル名と同じファイル名
		共有フォルダ¥log¥以下のファイル*	
	セットアップ情報	<ul style="list-style-type: none"> JP1/SS パス¥tools¥setup¥以下のファイル JP1/SS パス¥work¥setup¥以下のファイル 	採取元のファイル名と同じファイル名
		<ul style="list-style-type: none"> 共有フォルダ¥tools¥setup¥以下のファイル* 	
	バージョン情報	システムドライブ:¥Program Files (x86)¥InstallShield Installation Information¥ {FFF9C54A-48C0-4898-ACBF-93137C462B42}¥Setup.ilg, Setup.ini	Setup.ilg, Setup.ini
	製品情報	<ul style="list-style-type: none"> JP1/SS パス¥Version.txt JP1/SS パス¥ProductInfo.txt 	採取元のファイル名と同じファイル名
パッチの適用履歴	JP1/SS パス¥Patchlog.txt	採取元のファイル名と同じファイル名	

注※

クラスタ運用時にだけ採取される資料です。

15.3.3 オペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について、次に示す情報が必要です。

- オペレーション内容の詳細
- 発生している現象の詳細
- 発生時刻
- マシン構成 (各 OS のバージョン, ホスト名, JP1/Service Support の構成)
- 再現性
- ログインユーザー名

15.3.4 画面上のエラー情報

次に示すハードコピーを採取してください。

- JP1/Service Support, および OS が出力しているエラーメッセージのハードコピー
- コマンドが出力しているメッセージのハードコピー

15.4 資料の採取

トラブルが発生したときに資料を採取する方法を次に示します。

15.4.1 資料採取ツールを実行する

コマンドプロンプトを起動して、資料採取ツール（`jss_log.bat`）を実行します。

ただし、トラブル発生後、資料採取ツールを実行する前にマシンを再起動しないでください。再起動すると、資料が消失するおそれがあります。

15.4.2 オペレーション内容を確認する

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し、記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

- オペレーション内容の詳細
- 発生している現象の詳細
- 発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン、ホスト名、JP1/Service Support の構成）
- 再現性
- ログインユーザー名

15.4.3 画面上のエラー情報を採取する

画面にエラーが表示された場合は、その情報も採取します。次に示すハードコピーを採取してください。

- JP1/Service Support、および OS が出力しているエラーメッセージのハードコピー
- コマンドが出力しているメッセージのハードコピー

15.5 トラブルへの対処方法

一般的に想定されるトラブルについて、対処方法を説明します。

15.5.1 想定されるトラブル一覧

表 15-6 一般的に想定されるトラブル

項番	トラブルの内容
1	WWW ブラウザーから JP1/Service Support に接続できない。
2	ユーザー情報、ロール情報、プロセスワークボード情報、またはシステム情報を更新したが、異なった更新内容が表示される。
3	検索を実行してから検索結果が表示されるまで時間が掛かる。
4	プロセスワークボードまたは対象システムが表示されない。
5	画面操作中にエラーメッセージ KNAB12001-E が出力された。
6	案件フォームを登録したが、プロセスの標準案件フォームが更新されない。
7	案件フォームを登録したら、プロセスの標準案件フォームが更新されてしまった。
8	エラーメッセージ KNAB11017-E が出力されたが、ユーザー名・パスワードに誤りがない。
9	案件フォーム登録コマンド実行時に、エラーメッセージ KNAB26202-E が出力された。
10	簡易検索で、検索条件に合った案件が【案件検索結果一覧】画面に表示されない。
11	定義ファイルの設定が正しく反映されない。
12	送信されたメールが文字化けしている。
13	【プロセスワークボード作成】画面、または【プロセスワークボード編集】画面で、「長期化とする未解決時間」に任意の値を設定しているのに、メイン画面（案件状況）では、デフォルトの 72 時間で長期化の案件と判断されてしまう。
14	【プロセスワークボード編集】画面で、「長期化とする未解決時間」に値を入力するとエラーが発生する。
15	コマンドの実行中に、[Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切ったが、コマンドの終了が確認できない。
16	特定の JP1 製品にシングルサインオンでログインできない。
17	Windows イベントログに次のメッセージが表示された。この場合の対処方法については、「14.2.2 JP1/Service Support のデータベースがイベントログに出力するメッセージ」を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• KFPH00211-I• KFPH00212-I• KFPH00213-W

(1) WWW ブラウザーから JP1/Service Support に接続できない場合

要因

次の要因が考えられます。

- JP1/Service Support サービス、または JP1/Service Support - Web Service サービスが停止している。
- WWW ブラウザーと JP1/Service Support のサーバ間でネットワークトラブルが発生している。
- 指定したポート番号に誤りがある。

対処

- JP1/Service Support サービス、または JP1/Service Support - Web Service サービスが起動しているかどうか確認してください。
- Ping コマンドを実行して、サーバに接続できるかどうかを確認してください。
- telnet コマンドを実行して、対象のポートに接続できるかどうかを確認してください。

(2) ユーザー情報、ロール情報、プロセスワークボード情報、またはシステム情報を更新したが、異なった更新内容が表示される場合

要因

情報を更新した時刻と同時刻に、別のユーザーが同じ情報を更新しています。

対処

正しい情報を入力して、再度更新してください。

(3) 検索を実行してから検索結果が表示されるまで時間が掛かる場合

要因

検索条件に指定した文字列を含む案件が多過ぎるため、処理に時間が掛かっています。

対処

ステータスや登録日時などの絞り込み条件を検索条件に追加して、検索範囲を絞り込んでください。

検索範囲を絞り込むために、[すべての条件を満たす] ラジオボタンを選択してください。

(4) プロセスワークボードまたは対象システムが表示されない場合

要因

操作の誤りなどの要因で、プロセスワークボードまたは対象システムが削除されたおそれがあります。

対処

プロセスワークボードを削除した場合は、プロセスワークボード管理ロールに所属しているユーザーでログインして、メイン画面（案件一覧）のプロセスワークボード一覧で対象プロセスワークボードを選択した状態から [アクション] - [プロセスワークボードの削除取り消し] を実行してください。

対象システムを削除した場合は、プロセスワークボード管理ロールに所属しているユーザーでログインして、対象システム管理画面で対象システムを選択した状態で [アクション] - [削除の取り消し] を実行してください。

(5) 画面操作中にエラーメッセージ KNAB12001-E が出力された場合

要因

次の要因が考えられます。

- JP1/Service Support - DB Server サービスが停止している。
- 案件管理 DB の容量が不足している。
- マシンに多大な負荷が掛かっている。
- jssdbbackup.bat コマンド、jssdbrecovery.bat コマンド、jssdbrorg.bat コマンド、または jssdbreclaim.bat コマンドを実行している。

対処

次の対処を実行してください。

- JP1/Service Support - DB Server サービスが起動しているか確認してください。
- 詳細コードに-756 が出力された場合は、案件管理 DB の容量が不足しています。不要なデータを削除し、次の操作を実行してください。
 - 1.jssdelrec コマンドを実行し、削除待ち状態のデータを削除する。
 - 2.jssdbrorg.bat コマンドを実行し、案件管理 DB の空き領域を再編成する。
- マシンに多大な負荷が掛かっていないか確認し、しばらく時間を空けてから再度操作を実行してください。
- jssdbbackup.bat コマンド、jssdbrecovery.bat コマンド、jssdbrorg.bat コマンド、または jssdbreclaim.bat コマンドを実行していた場合は、コマンドを終了してから再度実行してください。

(6) 案件フォームを登録したが、プロセスの標準案件フォームが更新されない場合

要因

案件フォームを登録するとき、案件フォーム登録コマンドの-n オプションを指定したため、プロセスの標準案件フォームとして登録されなかったおそれがあります。

対処

- [案件フォームの管理] 画面で、標準案件フォームに指定したい案件フォームを選択した状態から [アクション] - [プロセスの標準案件フォームに設定] を実行してください。
- 案件フォームを変更する前に案件が登録された場合は、再度案件を登録してください。

(7) 案件フォームを登録したら、プロセスの標準案件フォームが更新されてしまった場合

要因

案件フォームを登録するときに、案件フォーム登録コマンドの-n オプションを指定しなかったため、プロセスの標準案件フォームとして登録されたおそれがあります。

対処

- [案件フォームの管理] 画面で、標準案件フォームに指定したい案件フォームを選択した状態から [アクション] - [プロセスの標準案件フォームに設定] を実行してください。
- 案件フォームを変更する前に案件が登録された場合は、再度案件を登録してください。

(8) エラーメッセージ KNAB11017-E が出力されたが、ユーザー名・パスワードに誤りがない場合

要因

次の要因が考えられます。

- JP1/Service Support - DB Server サービスが停止している。
- jssdbbackup.bat コマンド、jssdbrecovery.bat コマンド、jssdbrorg.bat コマンド、または jssdbreclaim.bat コマンドを実行している。

対処

- JP1/Service Support - DB Server サービスが起動しているか確認してください。
- jssdbbackup.bat コマンド、jssdbrecovery.bat コマンド、jssdbrorg.bat コマンド、jssdbreclaim.bat コマンドを実行していた場合は、コマンドを終了してから再度実行してください。

(9) 案件フォーム登録コマンド実行時に、エラーメッセージ KNAB26202-E が出力された場合

要因

次の要因が考えられます。

- 開始タグと終了タグがセットで記述されていない。

- セットとなっている開始タグと終了タグの外側に、半角スペース、改行文字およびタブ文字以外の文字が記述されている。
- 項目 ID に誤りがある。

対処

- 開始タグと終了タグをセットで記述してください。
- セットとなっている開始タグと終了タグの外側に、半角スペース、改行文字およびタブ文字以外の文字が記述されている場合は、削除してください。
- 0（数字のゼロ）と O（英字のオー）に注意して、正しい項目 ID を指定してください。

(10) 簡易検索で、検索条件に合った案件が [案件検索結果一覧] 画面に表示されない場合

要因

検索対象に設定した項目の記述方法が誤っているおそれがあります。

対処

システムプロパティファイルに設定した検索対象の項目について、次の内容を確認してください。

- 指定したすべての項目名は正しいか。また、大文字・小文字の誤りはないか。
- 検索対象の項目を六つ以上指定していないか。

(11) 定義ファイルの設定が正しく反映されない場合

要因

次の要因が考えられます。

- 定義内容が間違っている。
- JP1/Service Support のサービスを再起動していない。
- 定義ファイル内に重複した設定内容を記述している。

対処

次の対処を実行してください。

- 定義内容を見直してください。
- JP1/Service Support のサービスを再起動してください。
- 重複している設定内容を削除してください。

(12) 送信されたメールが文字化けしている場合

要因

JP1/Service Support から、メールサーバまたはメールクライアントの対応していない文字コードでメールが送信されたおそれがあります。

対処

次のどれかの対処を実施してください。

- メール定義ファイルで指定しているメール本文の文字列の最後に、「`\n`」を追加してください。
- メール定義ファイルで指定しているメールの文字コード（`hptl_jp1_imss_mail_notice_charset` キー、`hptl_jp1_imss_mail_charset` キー）を変更してください。
- メール定義ファイルで指定しているメールのタイトルおよび本文で、マルチバイト文字を使用しないよう変更してください。

メール定義ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「[メール定義ファイル \(jplimss_mail_setting.conf\)](#)」を参照してください。

(13) [プロセスワークボード作成] 画面, または [プロセスワークボード編集] 画面で, 「長期化とする未解決時間」に任意の値を設定しているのに, メイン画面 (案件状況) では, デフォルトの 72 時間で長期化の案件と判断されてしまう場合

要因

「長期化とする未解決時間」に、876,000 時間より大きな値を指定しているおそれがあります。

対処

[プロセスワークボード編集] 画面で、「長期化とする未解決時間」の設定値を、0~876,000 の範囲内で、半角数字の整数で入力してください。

(14) [プロセスワークボード編集] 画面で, 「長期化とする未解決時間」に値を入力するとエラーが発生する場合

要因

「長期化とする未解決時間」に、876,000 時間より大きな値を指定しているおそれがあります。

対処

[プロセスワークボード編集] 画面で、「長期化とする未解決時間」の設定値を、0~876,000 の範囲内で、半角数字の整数で入力してください。

(15) コマンドの実行中に、[Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切ったが、コマンドの終了が確認できない場合

要因

[Ctrl] + [C] キーなどで実行を打ち切ったため、子プロセスの実行が継続しているおそれがあります。

対処

次の対処を実行してください。

- [JP_SS コマンドプロンプト] を終了してください。
- しばらく時間を空けてから、各コマンドの注意事項に従って再度実行してください。

(16) 特定の JP1 製品にシングルサインオンでログインできない場合

特定の JP1 製品を次に示します。

- JP1/NP
- JP1/AO
- JP1/AJS3

要因

次の要因が考えられます。

- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) に、特定の JP1 製品と連携する際に必要なプロパティキーが設定されていない、または不正な値が設定されている。
- JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties) に、特定の JP1 製品と連携する際に必要なプロパティキーが設定されていない、または不正な値が設定されている。
- JP1/Base の設定が不十分である。
 - JP1/Service Support がインストールされているマシンに JP1/Base がインストールされていない。
 - シングルサインオンで特定の JP1 製品にアクセスするユーザーが、JP1/Base の認証サーバに登録されていない。
 - JP1/Service Support と特定の JP1 製品間で、JP1/Base の認証サーバが同一になっていない。
 - 認証サーバとしている JP1/Base のサービスが起動していない。
- JP1/Service Support へログイン後に JP1/Base の認証サーバを再起動した。

対処

次の対処を実行してください。

- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の確認

- JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties) の確認
- JP1/Base の確認
- JP1/Service Support への再ログイン

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の確認

システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) の設定について、次に示すことを確認してください。誤りがある場合は、設定し直してください。システムプロパティファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)」を参照してください。

JP1/NP にシングルサインオンでログインする場合

- 設定したキーが、コメント扱いになっていないかどうか（「#」で始まる行は、コメント扱いとなる）。
- hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num キーに設定した値が、hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n キーおよび hptl_jp1_imss_np_item_info_\$n キーの「\$n」より大きい値になっているかどうか。
- hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n キーに、JP1/NP と連携するための URL が設定されているかどうか。

JP1/NP と連携するための URL についての詳細は、JP1/Navigation Platform のマニュアルの、ほかの JP1 製品からナビゲーションプラットフォームを呼び出すための URL の説明を参照してください。

- hptl_jp1_imss_np_item_info_\$n キーに「true」が設定されているかどうか。

JP1/AO にシングルサインオンでログインする場合

- 設定したキーが、コメント扱いになっていないかどうか（「#」で始まる行は、コメント扱いとなる）。
- hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num キーに設定した値が、hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n キーおよび hptl_jp1_imss_ao_item_info_\$n キーの「\$n」より大きい値になっているかどうか。
- hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n キーに、JP1/AO と連携するための URL が設定されているかどうか。

hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n キーには、JP1/AO の [サービス実行] ダイアログを呼び出すためのラウンチ URL を設定してください。JP1/AO と連携するための URL についての詳細は、マニュアル「JP1/Automatic Operation 運用ガイド」のダイレクトアクセス URL の説明を参照してください。

- hptl_jp1_imss_ao_item_info_\$n キーに正しい項目 ID が設定されているかどうか。

JP1/AJS3 - Web Console にシングルサインオンでログインする場合

- 設定したキーが、コメント扱いになっていないかどうか（「#」で始まる行は、コメント扱いとなる）。

- hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num キーに設定した値が、hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n キー、hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n キーおよび hptl_jp1_imss_add_item_info_product_\$n キーの「\$n」より大きい値になっているかどうか。
- hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n キーに、入力されている次の情報が正しいかどうか。
 - ・ [モニタ] 画面表示対象のユニットがある JP1/AJS3 - Manager のホスト名を入力する項目 ID
 - ・ [モニタ] 画面表示対象の「スケジューラーサービス名:ユニット名」を入力する項目 ID
 - ・ [モニタ] 画面表示対象のユニットの実行 ID を入力する項目 ID
- hptl_jp1_imss_add_item_info_product_\$n キーに「jp1_ajs」が指定されているかどうか。

JP1/PFM - Web Console にシングルサインオンでログインする場合

- 設定したキーが、コメント扱いになっていないかどうか（「#」で始まる行は、コメント扱いとなる）。
- hptl_jp1_imss_add_item_info_url_num キーに指定された値が、hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n キー、hptl_jp1_imss_add_item_info_\$n キー、および hptl_jp1_imss_add_item_info_product_\$n キーの「\$n」より大きい値になっているかどうか。
- hptl_jp1_imss_add_item_info_url_\$n キーに JP1/PFM - Web Console と連携するための URL が入力されているかどうか。JP1/PFM - Web Console と連携するための URL については、「[4.10.1 JP1/PFM - Web Console へ引き継がれる案件情報](#)」を参照。
- hptl_jp1_imss_add_item_info_product_\$n キーに「jp1_pfm」が指定されているかどうか。

JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties) の確認

JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties) の設定について、次に示すことを確認してください。誤りがある場合は、設定し直してください。JP1 製品連携設定プロパティファイルの詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[JP1 製品連携設定プロパティファイル \(hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties\)](#)」を参照してください。

- 設定したキーが、コメント扱いになっていないかどうか（「#」で始まる行は、コメント扱いとなる）。
- hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_flag キーに設定した値が「true」となっているかどうか。

JP1/Service Support の認証方法が、案件管理 DB または LDAP サーバの場合

hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_userlist キーに、シングルサインオンで特定の JP1 製品にアクセスするユーザーのユーザー ID が設定されているかどうか。

JP1/Service Support の認証方法が、LDAP サーバの場合

- hptl_jp1_imss_information_search_userid キーに設定した情報検索用ユーザーのユーザー ID が、案件管理 DB に存在するかどうか。
- 情報検索用ユーザーとして登録したユーザーのユーザー ID およびパスワードが、案件管理 DB と LDAP サーバで同一になっているかどうか。

JP1/Base の確認

JP1/Base について、次に示すこと確認してください。誤りがある場合は、設定し直してください。
JP1/Base のインストールおよび設定方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

- JP1/Base を、JP1/Service Support がインストールされているマシンにインストールされているかどうか。
- JP1/Service Support が案件管理 DB または LDAP サーバを使用したログイン認証の場合、シングルサインオンで特定の JP1 製品にアクセスするユーザーが、JP1/Base の認証サーバに登録されているかどうか。

登録されていない場合は、シングルサインオンで特定の JP1 製品にアクセスするユーザーを登録してください。その際、登録するユーザーのユーザー ID とパスワードは、案件管理 DB または LDAP サーバのユーザーと同一にしてください。

- JP1/Service Support と特定の JP1 製品間で、JP1/Base の認証サーバを同一になっているかどうか。JP1/Base の認証サーバが同一になっていない場合は、同一にしてください。
- 認証サーバとしている JP1/Base のサービスが起動しているかどうか。JP1/Base のサービスが起動していない場合は、起動してください。

付録

付録 A ファイル一覧

JP1/Service Support で使用するファイルおよびフォルダの一覧について説明します。また、JP1/Service Support が出力するログファイルについても説明します。

付録 A.1 JP1/Service Support で使用するファイルおよびフォルダの一覧

JP1/Service Support で使用するファイルおよびフォルダの一覧を次の表に示します。なお、表内の「参照」は次の意味で使用しています。

- フォルダに対する「参照」：フォルダ以下に何が格納されているかの確認。
- ファイルに対する「参照」：ファイルを開いての内容確認。

表 A-1 ユーザーが参照・編集できるファイル・フォルダ一覧

ファイル名・フォルダ名	内容	参照	編集
JP1/SS パス¥conf¥	環境設定フォルダ	○	×
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_access_log.properties	操作ログ設定ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_access_log.properties.model	操作ログ設定ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_csv_setting.properties	CSV 設定ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_csv_setting.properties.model	CSV 設定ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties	JP1 イベント発行設定ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties.model	JP1 イベント発行設定ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties	JP1 製品連携設定プロパティファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties.model	JP1 製品連携設定プロパティファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_link_setting.properties	関連リンクプロパティファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_link_setting.properties.model	関連リンクプロパティファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_main_setting.properties	システムのプロパティファイル	○	○

ファイル名・フォルダ名	内容	参照	編集
JP1/SS パス¥conf ¥hptl_jp1_imss_main_setting.properties.model	システムのプロパティファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf ¥hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties	案件集計プロパティファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf ¥hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties.model	案件集計プロパティファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf ¥hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties	案件自動入力プロパティファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf ¥hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties.model	案件自動入力プロパティファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_usermgr.properties	ユーザー管理プロパティファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf ¥hptl_jp1_imss_usermgr.properties.model	ユーザー管理プロパティファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf ¥hptl_jp1_imss_input_assist_plugin.properties	入力補助機能プロパティファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf ¥hptl_jp1_imss_input_assist_plugin.properties.model	入力補助機能プロパティファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥hptl_jp1_imss_main_log.properties	メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf ¥hptl_jp1_imss_main_log.properties.model	メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥jp1imss_mail_setting.conf	メール定義ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥jp1imss_mail_setting.conf.model	メール定義ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥jp1imss_service_setting.conf	タスク実行サービス定義ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥jp1imss_service_setting.conf.model	タスク実行サービス定義ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥	コマンド環境設定フォルダ	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_itemcsv_columnmap.conf	CSV カラム名マッピングファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_itemcsv_columnmap.conf.model	CSV カラム名マッピングファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_itemedit_codemap.conf	案件編集コマンド用のコードマッピングファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_itemedit_codemap.conf.conf.model	案件編集コマンド用のコードマッピングファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_itementry_codemap.conf	案件登録コマンド用のコードマッピングファイル	○	×

ファイル名・フォルダ名	内容	参照	編集
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_itementry_codemap.conf.model	案件登録コマンド用のコードマッピングファイル のモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_itemimport_codemap.conf	案件情報インポートコマンド用のコードマッピング ファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_itemimport_codemap.conf.model	案件情報インポートコマンド用のコードマッピング ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_itementry_default.conf	案件自動入力プロパティファイル (コマンド用)	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_itementry_default.conf.model	案件自動入力プロパティファイル (コマンド用) のモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_replace_string_setting.conf	文字列置換設定ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1imss_replace_string_setting.conf.model	文字列置換設定ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1informleave.conf	ユーザーログ定義 (滞留案件通知用) ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1informleave.conf.model	ユーザーログ定義 (滞留案件通知用) ファイルの モデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1informperiod.conf	ユーザーログ定義 (期限前通知用) ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1informperiod.conf.model	ユーザーログ定義 (期限前通知用) ファイルのモ デルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemedit.conf	ユーザーログ定義 (案件編集用) ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemedit.conf.model	ユーザーログ定義 (案件編集用) ファイルのモデ ルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itementry.conf	ユーザーログ定義 (案件登録用) ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itementry.conf.model	ユーザーログ定義 (案件登録用) ファイルのモデ ルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itementrybymail.conf	ユーザーログ定義 (メールによる案件登録用) ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command ¥jp1itementrybymail.conf.model	ユーザーログ定義 (メールによる案件登録用) ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemexportEx.conf	ユーザーログ定義 (案件情報拡張エクスポート) ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemexportEx.conf.model	ユーザーログ定義 (案件情報拡張エクスポート) ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemimportEx.conf	ユーザーログ定義 (案件情報拡張インポート) ファイル	○	○

ファイル名・フォルダ名	内容	参照	編集
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemimportEx.conf.model	ユーザーログ定義（案件情報拡張インポート）ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1acllexport.conf	ユーザーログ定義（アクセス権情報エクスポート）ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1acllexport.conf.model	ユーザーログ定義（アクセス権情報エクスポート）ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1aclimport.conf	ユーザーログ定義（アクセス権情報インポート）ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1aclimport.conf.model	ユーザーログ定義（アクセス権情報インポート）ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemcount.conf	ユーザーログ定義（案件数確認）ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemcount.conf.model	ユーザーログ定義（案件数確認）ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemstore.conf	ユーザーログ定義（案件保存）ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemstore.conf.model	ユーザーログ定義（案件保存）ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemstoredbrotate.conf	ユーザーログ定義（案件保存 DB 切り替え）ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1itemstoredbrotate.conf.model	ユーザーログ定義（案件保存 DB 切り替え）ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1refaclsetup.conf	ユーザーログ定義（案件ごとの参照権限設定セットアップ）ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1refaclsetup.conf.model	ユーザーログ定義（案件ごとの参照権限設定セットアップ）ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1authusersetup.conf	ユーザーログ定義（認証ユーザー設定）ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥command¥jp1authusersetup.conf.model	ユーザーログ定義（認証ユーザー設定）ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥event¥hptl_jp1_imss_jp1event_status.properties	ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥event¥hptl_jp1_imss_jp1event_status.properties.model	ステータス変更 JP1 イベント定義ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥setup¥	セットアップ環境設定フォルダ	○	×
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jssitemstoredbexpandinfo.bat	案件保存 DB 拡張情報設定ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jssitemstoredbexpandinfo.bat.model	案件保存 DB 拡張情報設定ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jssitemstoredbinfo.bat	案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル	○	○

ファイル名・フォルダ名	内容	参照	編集
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jssitemstoredbinfo.bat.model	案件保存 DB セットアップ情報設定ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jsssetupinfo.bat	セットアップ情報ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jsssetupinfo.bat.model	セットアップ情報ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jsshassetupinfo.bat	クラスタ用セットアップ情報ファイル	○	○
JP1/SS パス¥conf¥setup¥jsshassetupinfo.bat.model	クラスタ用セットアップ情報ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥home¥public¥manual¥ja¥	マニュアル格納フォルダ	○	×
JP1/SS パス¥home¥public¥manual¥en¥			
JP1/SS パス¥home¥public¥manual¥zh¥			
JP1/SS パス¥home¥public¥report¥	レポート作成用のマクロファイル格納フォルダ	○	○
JP1/SS パス¥home¥public¥report¥jss_report.xls	レポート作成用のマクロファイル	○	○
JP1/SS パス¥home¥public¥report¥jss_report.xls.model	レポート作成用のマクロファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥home¥public¥inputassist¥	入力候補値設定ファイル格納フォルダ	○	○
JP1/SS パス¥home¥public¥inputassist¥jss_input_assist_sample.txt	入力候補値設定ファイルのサンプルファイル	○	○
JP1/SS パス¥home¥public¥inputassist¥jss_input_assist_sample.txt.model	入力候補値設定ファイルのサンプルファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥itemform¥	案件フォーム定義ファイル格納フォルダ	○	×
JP1/SS パス¥itemform¥jsschange.xml	案件フォーム定義ファイル (変更管理用)	○	○
JP1/SS パス¥itemform¥jsschange.xml.model	案件フォーム定義ファイル (変更管理用) のモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥itemform¥jssdefault.xml	案件検索用の案件フォーム定義ファイル	○	○
JP1/SS パス¥itemform¥jssdefault.xml.model	案件検索用の案件フォーム定義ファイルのモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥itemform¥jssincident.xml	案件フォーム定義ファイル (インシデント管理用)	○	○
JP1/SS パス¥itemform¥jssincident.xml.model	案件フォーム定義ファイル (インシデント管理用) のモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥itemform¥jssproblem.xml	案件フォーム定義ファイル (問題管理用)	○	○
JP1/SS パス¥itemform¥jssproblem.xml.model	案件フォーム定義ファイル (問題管理用) のモデルファイル	○	×
JP1/SS パス¥itemform¥jssrelease.xml	案件フォーム定義ファイル (リリース管理用)	○	○
JP1/SS パス¥itemform¥jssrelease.xml.model	案件フォーム定義ファイル (リリース管理用) のモデルファイル	○	×

ファイル名・フォルダ名	内容	参照	編集
JP1/SS パス¥log¥	ログフォルダ	○	×
JP1/SS パス¥sampledata¥ja¥jplss_sample_data_expand	サンプルデータ用のバックアップファイル	○	×
JP1/SS パス¥sampledata¥ja¥OutputItemCodeData.csv	レポート作成マクロ用のサンプルデータ (コードデータ CSV ファイル)	○	×
JP1/SS パス¥sampledata¥ja¥OutputItemData.csv	レポート作成マクロ用のサンプルデータ (案件データ CSV ファイル)	○	×

(凡例)

○：参照または編集できる

×：参照または編集できない

ユーザーが参照および編集する必要のないファイルとフォルダを次の表に示します。

表 A-2 ユーザーが参照・編集する必要のないファイル・フォルダ一覧

ファイル名・フォルダ名	内容
JP1/SS パス¥bin¥	コマンド格納フォルダ
JP1/SS パス¥conf¥以下にある、表 A-1 に記載がないファイルおよびフォルダ	JP1/Service Support の環境設定で使用するファイルおよびフォルダ
JP1/SS パス¥conf¥command 以下にある、表 A-1 に記載がないファイルおよびフォルダ	案件フォーム登録コマンド用フォルダ
JP1/SS パス¥db¥	案件管理 DB 格納先フォルダ※
JP1/SS パス¥dbms¥	案件管理 DB のシステムファイルおよびフォルダ
JP1/SS パス¥lib¥	ライブラリフォルダ
JP1/SS パス¥model¥	モデルファイルフォルダ
JP1/SS パス¥tools¥	ツールおよびツールの格納フォルダ
JP1/SS パス¥uCPsB¥	WWW コンテナサーバのファイルおよびフォルダ
JP1/SS パス¥work¥	デプロイ対象物格納フォルダ

注※

jsssetupinfo.bat コマンドで設定する案件管理 DB の格納先フォルダ名がデフォルト (JP1/SS パス¥db) の場合に作成されます。

付録 A.2 JP1/Service Support が出力するログファイルの一覧

JP1/Service Support が出力するログ情報の種類とデフォルトのファイル名およびフォルダ名を次の表に示します。

「ファイルの切り替え時期」には、JP1/Service Support によって出力先のログファイルが切り替わるタイミングを記載しています。ファイルがこの欄に示すサイズに達したとき、またはこの欄に示す事象が起きたときに、出力先の切り替え、またはファイルの上書きが行われます。なお、ログファイルが複数あり、最大ディスク占有量に達した場合は、更新日付の古いファイルから上書きされます。

また、クラスタ運用の場合には、これらのログファイルは共有ディスクに格納されます。クラスタ運用時には、次の表中の「JP1/SS パス¥log¥」部分を「共有フォルダ¥log¥」に置き換えてください。

表 A-3 JP1/Service Support のログファイルおよびフォルダー一覧

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	最大ディスク占有量	ファイルの切り替え時期
JP1/Service Support ポートレットログ	JP1/SS パス¥log¥Server¥jp1imssmain{1 2 3 4 5 6 7 8}.log	32 メガバイト	4 メガバイト
ユーザー管理ポートレットログ	JP1/SS パス¥log¥Server¥jp1imssuser{1 2 3 4 5 6 7 8}.log	32 メガバイト	4 メガバイト
案件一覧出力コマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemlist{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件履歴出力コマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemhistory{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件登録コマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitementry{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
ユーザーインポートコマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssuserimport{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件インポートコマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemimport{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件フォーム登録コマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssformdefc{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件フォーム登録コマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssformdefj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
削除コマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssdelrecc{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
削除コマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssdelrecj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
メールによる案件登録コマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitementrybyemail{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件情報拡張エクスポートコマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemexportExc{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	最大ディスク占有量	ファイルの切り替え時期
案件情報拡張エクスポートコマンドのログ (Java 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemexportExj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件情報拡張インポートコマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemimportExc{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件情報拡張インポートコマンドのログ (Java 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemimportExj{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12}.log	96 メガバイト	8 メガバイト
マスターシステム・一時受付プロセスワークボードの作成コマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jsscreatesysandpwb{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
マスターシステム・一時受付プロセスワークボードの作成コマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jsscreatesysandpwbj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件情報集計コマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jsscollectedatac{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件情報集計コマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jsscollectedataj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
期限前通知コマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssinformperiod{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
データベースバージョンアップのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssvupdbdatac{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
データベースバージョンアップのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssvupdbdataj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件一括削除コマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemdeletionc{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件一括削除コマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemdeletionj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件一括削除取り消しコマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssrevc{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	最大ディスク占有量	ファイルの切り替え時期
案件一括削除取り消しコマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssrevj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件編集コマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemedit{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
アクセス権情報エクスポートコマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssaclexportc{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
アクセス権情報エクスポートコマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssaclexportj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
アクセス権情報インポートコマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssaclexportc{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
アクセス権情報インポートコマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssaclexportj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件数確認コマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemcountc{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件数確認コマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemcountj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件ごとの参照権限設定セットアップコマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssrefaclsetupc{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件ごとの参照権限設定セットアップコマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssrefaclsetupj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
認証ユーザー設定コマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssauthusersetupc{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
認証ユーザー設定コマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssauthusersetupj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
データベース初期化コマンドのログ※1	JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbinit{無印※2 2 3 4 5}.log	100 キロバイト	コマンド実行時
データベース再編成コマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssdborg.log	100 キロバイト	コマンド実行時

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	最大ディスク占有量	ファイルの切り替え時期
データベース空き領域解放コマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbreclaim.log	20 キロバイト	コマンド実行時
データベースバックアップコマンドのログ ※1	JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbbackup.log なお、実行時に指定したオプションで、出力するログが増えます。 1. 「-f -maint」を指定した場合 JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbbackupresult.log 2. 「-o -maint」を指定した場合 JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbbackupMdb.log JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbbackupSdbA.log JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbbackupSdbB.log	10 キロバイト	コマンド実行時
データベースリカバリコマンドのログ※1	JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbrecovery.log なお、実行時に指定したオプションで、出力するログが増えます。 1. 「-f -maint」を指定した場合 JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbrecoveryresult.log 2. 「-o -maint」を指定した場合 JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbrecoveryMdb.log JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbrecoverySdbA.log JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbrecoverySdbB.log	10 キロバイト	コマンド実行時
データベースバックアップファイルのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbbackupresult.log	10 キロバイト	コマンド実行時
リカバリーした RD エリアのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbrecoveryresult.log	20 キロバイト	コマンド実行時
セットアップコマンドのログ※1	JP1/SS パス¥log¥command¥jsssetup{無印※2 2 3 4 5}.log	1 メガバイト	コマンド実行時
アンセットアップコマンドのログ※1	JP1/SS パス¥log¥command¥jssunsetup{無印※2 2 3 4 5}.log	10 キロバイト	コマンド実行時
ファイルの環境設定のログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jsswebconconf{無印※2 2 3 4 5}.log	20 キロバイト	コマンド実行時
セットアップのチェック処理のログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jsssetupcheckinfo{無印※2 2 3 4 5}.log	10 キロバイト	コマンド実行時

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	最大ディスク占有量	ファイルの切り替え時期
データベース状態確認コマンドのログ (bat 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbstatchk{無印※2 2 3 4 5}.log	10 キロバイト	コマンド実行時
データベース状態確認コマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssdbstatchkj{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件保存コマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemstorec{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件保存コマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemstorej{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12}.log	96 メガバイト	8 メガバイト
案件保存 DB 領域拡張コマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemstoredbexpand{無印※2 2 3 4 5}.log	100 メガバイト	コマンド実行時
案件保存 DB セットアップコマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemstoredbsetup{無印※2 2 3 4 5}.log	100 メガバイト	コマンド実行時
案件保存 DB 切り替えコマンドのログ (C 言語用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemstoredbrotatec{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
案件保存 DB 切り替えコマンドのログ (Java 用)	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemstoredbrotatej{1 2 3 4}.log	16 メガバイト	4 メガバイト
保存案件一括削除コマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssstoreitemdel{無印※2 2 3 4 5}.log	5 メガバイト	コマンド実行時
クラスタ用データベース初期化コマンドのログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jsshadbinit{無印※2 2 3 4 5}.log	100 キロバイト	コマンド実行時
クラスタ用セットアップコマンドのログ	<p>クラスタ用セットアップコマンドのログは、現用系サーバ、予備系サーバ、および実行時に指定したオプションで、出力先と出力するログが変わります。</p> <p>【現用系で実行した場合】</p> <p>1. 「-c online」を指定した場合</p> <p>共有フォルダ¥log¥command¥online¥jsshasetup{無印※2 2 3 4 5}.log</p> <p>共有フォルダ¥log¥command¥online¥jsshadbinit{無印※2 2 3 4 5}.log</p> <p>共有フォルダ¥log¥command¥online¥jsshacnconf{無印※2 2 3 4 5}.log</p> <p>共有フォルダ¥log¥command¥online¥jsshasetupcheckinfo{無印※2 2 3 4 5}.log</p> <p>共有フォルダ¥log¥command¥online¥jsswebcnconf{無印※2 2 3 4 5}.log</p>	1 メガバイト	コマンド実行時

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	最大ディスク占有量	ファイルの切り替え時期
クラスタ用セットアップコマンドのログ	<p>2. [-r] を指定した場合 共有フォルダ¥log¥command¥online¥jsshasetup{無印※2 2 3 4 5}.log</p> <p>3. [-vup] を指定した場合 共有フォルダ¥log¥command¥online¥jsshasetup{無印※2 2 3 4 5}.log 共有フォルダ¥log¥command¥online¥jsshaconconf{無印※2 2 3 4 5}.log 共有フォルダ¥log¥command¥online¥jsswebconconf{無印※2 2 3 4 5}.log 共有フォルダ¥log¥command¥jssvupdbdatac{1 2 3 4}.log 共有フォルダ¥log¥command¥jssvupdbdataj{1 2 3 4}.log</p> <p>【予備系で実行した場合】</p> <p>1. [-c standby] を指定した場合 共有フォルダ¥log¥command¥standby_予備系のサーバ名¥jsshasetup{無印※2 2 3 4 5}.log 共有フォルダ¥log¥command¥standby_予備系のサーバ名¥jsshadbinit{無印※2 2 3 4 5}.log 共有フォルダ¥log¥command¥standby_予備系のサーバ名¥jsshaconconf{無印※2 2 3 4 5}.log 共有フォルダ¥log¥command¥standby_予備系のサーバ名¥jsshasetupcheckinfo{無印※2 2 3 4 5}.log 共有フォルダ¥log¥command¥standby_予備系のサーバ名¥jsswebconconf{無印※2 2 3 4 5}.log</p> <p>2. [-r] を指定した場合 共有フォルダ¥log¥command¥standby_予備系のサーバ名¥jsshasetup{無印※2 2 3 4 5}.log</p> <p>3. [-vup] を指定した場合 共有フォルダ¥log¥command¥standby_予備系のサーバ名¥jsshasetup{無印※2 2 3 4 5}.log 共有フォルダ¥log¥command¥standby_予備系のサーバ名¥jsshadbinit{無印※2 2 3 4 5}.log 共有フォルダ¥log¥command¥standby_予備系のサーバ名¥jsshaconconf{無印※2 2 3 4 5}.log 共有フォルダ¥log¥command¥standby_予備系のサーバ名¥jsswebconconf{無印※2 2 3 4 5}.log</p>	1 メガバイト	コマンド実行時
クラスタ用アンセットアップコマンドのログ	<p>クラスタ用アンセットアップコマンドのログは、現用系サーバと予備系サーバで実行した場合に、ログの出力先が変わります。</p> <p>【現用系で実行した場合】 共有フォルダ¥log¥command¥online¥jsshaunsetup{無印※2 2 3 4 5}.log</p> <p>【予備系で実行した場合】 共有フォルダ¥log¥command¥standby_予備系のサーバ名¥jsshaunsetup{無印※2 2 3 4 5}.log</p>	10 キロバイト	コマンド実行時

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	最大ディスク占有量	ファイルの切り替え時期
クラスタ用セットアップコマンド(クラスタ定義ファイル更新)のログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jsshacnconf{無印※2 2 3 4 5}. log	20 キロバイト	コマンド実行時
サービスの登録・起動・削除のログ※1	JP1/SS パス¥log¥system¥jssService{1 2}. log	2 メガバイト	1 メガバイト
タスクサービスの登録・起動・削除のログ※1	JP1/SS パス¥log¥system¥jssTaskService{1 2 3 4}. log	4 メガバイト	1 メガバイト

注※1

クラスタ運用時でも、出力先のパスを「共有フォルダ¥log¥」に置き換える必要はありません。

注※2

1 面目の場合、ファイル名に数字が付きません。

JP1/Service Support では、システムから出力されるログファイルのほかに、ユーザーに公開しているユーザー公開ログがあります。ユーザー公開ログを出力するかどうかや面数、サイズなどはユーザーが任意に設定できます。デフォルトは出力しない設定になっています。なお、次に示すユーザー公開ログの名称、フォルダおよびサイズについてはデフォルトのものです。

表 A-4 JP1/Service Support のユーザー公開ログおよびフォルダ

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	サイズ	ログファイルの形式
案件登録コマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitementry¥jssitementry_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
操作ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥accesslog¥jp1imssaccesslog{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24}. log	16,384 キロバイト	ラップラウンドファイル (WRAP2)
クラスタ用の操作ログ	共有フォルダ¥log¥public¥accesslog¥jp1imssaccesslog{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24}. log	16,384 キロバイト	ラップラウンドファイル (WRAP2)
メインサービスのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jp1imssmain_info{1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16}. log	4,096 キロバイト	ラップラウンドファイル (WRAP2)
認証ユーザー設定コマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssauthusersetup_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
メールによる案件登録コマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssitementrybymail_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	ラップラウンドファイル (WRAP2)

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	サイズ	ログファイルの形式
JP1 イベント発行機能のユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jplmssevent{1 2 3 4 5 6 7 8}. log	4,096 キロバイト	ラップラウンドファイル (WRAP2)
期限前通知コマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssinformperiod_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
入力補助機能のユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssinputassist_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	ラップラウンドファイル (WRAP2)
メール通知機能のユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssmailnotification_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
JP1/UCMDB 連携のユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jss_pluginlog_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
案件編集コマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥command¥jssitemedit¥jssitemedit_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
滞留案件通知コマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssinformleave_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
案件情報拡張エクスポートコマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssitemexportEx_info{1 2 3 4 5 6 7 8}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
案件情報拡張インポートコマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssitemimportEx_info{1 2 3 4 5 6 7 8}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
アクセス権情報エクスポートコマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssaclexport_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
アクセス権情報インポートコマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssaclimport_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
案件数確認コマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssitemcount_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
案件ごとの参照権限設定セットアップコマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssrefaclsetup_info{1 2}. log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	サイズ	ログファイルの形式
案件保存コマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssitemstore_info{1 2 3 4 5 6 7 8}.log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
案件保存 DB 領域拡張コマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssitemstoredbexpand_info{1 2 3 4 5}.log	10 キロバイト	シーケンシャルファイル (SEQ2)
案件保存 DB 切り替えコマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssitemstoredbrotate_info{1 2 3 4 5}.log	8,192 キロバイト	マルチプロセス対応トレースファイル
案件保存 DB セットアップコマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssitemstoredbsetup_info{1 2 3 4 5}.log	20 キロバイト	シーケンシャルファイル (SEQ2)
クラスタ用の案件保存 DB セットアップコマンドのユーザー公開ログ	共有フォルダ¥log¥public¥jssitemstoredbsetup_info{1 2 3 4 5}.log	20 キロバイト	シーケンシャルファイル (SEQ2)
保存案件一括削除コマンドのユーザー公開ログ	JP1/SS パス¥log¥public¥jssstoreitemdel_info{1 2 3 4 5}.log	10 キロバイト	シーケンシャルファイル (SEQ2)

ログファイルの形式は、JP1/Base のログファイルトラップ機能を使用する場合に必要な情報です。JP1/Base のログファイルトラップ機能の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

付録 B プロセス一覧

JP1/Service Support のプロセスを次の表に示します。なお、表内の括弧 () 内の数値は同時に実行するプロセス数です。

表 B-1 JP1/Service Support のプロセス

プロセス名	機能
jss_service.exe(1)	JP1/Service Support サービスを起動するサービスの制御用プロセス
cjstartweb.exe(1)	WWW コンテナサーバのサービス用プロセス
cprfd.exe(1)	WWW コンテナサーバのトレース情報をファイルに出力するプロセス
pdprcd.exe(1)	案件管理 DB サーバの監視や起動を管理するプロセス
httpsd.exe(2)	WWW サーバのサービス用プロセス
rotatelog2.exe(2)	WWW サーバのログ出力用プロセス
pdsha.exe(1)	クラスタ環境用のプロセス (クラスタ運用のときだけ起動する)
hntr2srv.exe(1)	統合トレース(HNTRLib2)起動用のプロセス
hntr2mon.exe(1)	統合トレース(HNTRLib2)用のプロセス
jss_taskservice.exe(1)	JP1/Service Support - Task Service サービスを起動するサービスの制御用プロセス

付録 C ポート番号一覧

JP1/Service Support のポート番号について説明します。使用するプロトコルは、TCP/IP です。ポート番号は、JP1/Service Support のセットアップ時に設定されます。

付録 C.1 JP1/Service Support が使用するポート番号

JP1/Service Support のポート番号を次の表に示します。

表 C-1 JP1/Service Support のポート番号

ポート番号	説明
24400/tcp	案件管理 DB サーバとの通信用に使用する。
24401/tcp	WWW サーバとの通信用に使用する。また、WWW ブラウザーとの通信用に使用する。
24402/tcp	WWW コンテナサーバと WWW サーバの連携用に使用する。
24403/tcp	WWW コンテナサーバとの通信をシャットダウンするときに使用する。
24404/tcp	システム設定用の WWW サーバとの通信用に使用する。

なお、メールの送受信には次の表のポート番号を使用します。

表 C-2 メール送受信に使用するポート番号

ポート番号	説明
25/tcp	SMTP サーバとの通信用に使用する。
110/tcp	POP3 サーバとの通信用に使用する。

付録 C.2 ファイアウォールの通過方向

ファイアウォールの通過方向を次の表に示します。なお、JP1/Service Support は、パケットフィルタリング型、NAT（スタティックモード）型のファイアウォールに対応しています。

表 C-3 ファイアウォールの通過方向

サービス名	ポート番号	説明
JP1/Service Support - Web Service	24401/tcp*	WWW ブラウザー → JP1/Service Support

(凡例)

→：コネクション確立時の接続方向を表す

注※

ポート番号は、必要に応じて変更できます。

付録 D 制限値一覧

JP1/Service Support の各種制限値を、次の表に示します。

表 D-1 JP1/Service Support の各種制限値

項番	項目	制限値
1	作成できる対象システムの総数	200 個 (削除待ち状態のシステムを含む。マスターシステムを除く)
2	1 システムに作成できるプロセスワークボードの件数	4 件
3	プロセスの総数	4 個
4	作成できるプロセスワークボードの総数	800 件 (削除待ち状態のプロセスワークボードを含む。一時受付プロセスワークボードを除く)
5	一度にログインできるユーザーの数	100 ユーザー※1
6	プロセスワークボードで設定するアクセス権で、一つの権限に対して設定できるユーザー・ロール数	1,000 個※2
7	手動または自動で作成できるプロセスワークボード内の案件の数	作成、およびエスカレーションの合計で 200,000 件※3, ※4
8	エスカレーションできるプロセスワークボード内の案件の数	作成、およびエスカレーションの合計で 200,000 件※3, ※4
9	手動または自動で作成できる JP1/Service Support 内の案件の数	2,147,483,647 件※3
10	関連案件通し番号ごとにエスカレーションできる回数	98 回※5
11	一つの案件を編集できる回数	5,000 回※3, ※6
12	一つの案件に添付できるファイルの数	5 ファイル
13	一つの案件に添付できるファイル一つ当たりのサイズ	5 メガバイト※7
14	一つの案件に設定できる関連情報の数	20 個
15	一つの案件フォームの変更回数	255 回※8
16	一つの選択系の項目に指定できる選択肢の数	30 個
17	作成できるステータスの数	40 個
18	作成できるユーザーの数	1,000 ユーザー※9 (jpladmin ユーザーを含む)
19	作成できるロールの数	1,000 個 (システムロールを含む) ※9
20	一つのロールに所属するユーザーの数	1,000 ユーザー※10

項番	項目	制限値
21	案件一覧の1ページ当たりの表示件数	50件
22	検索結果として一覧に表示できる表示件数	1,000件
23	1台のJP1/Service Support と連携できるJP1/IM - Manager サーバの数	1サーバ
24	1台のJP1/Service Support と連携できるJP1/NETM/AIM サーバの数	255サーバ
25	1台のJP1/Service Support と連携できるJP1/UCMDB サーバの数	255サーバ
26	1台のJP1/Service Support と連携できる資産管理サーバ (JP1/ITDM2 - Asset Console) の数	255サーバ

注※1

一度にログインできるユーザーの数は100人ですが、案件管理DBへのアクセス多重度は10としています。そのため、11人以上が同時に案件管理DBへアクセスした場合、レスポンスが悪くなる場合があります。

注※2

一つの権限当たりの平均で20個のユーザー・ロールを登録することを想定しています。なお、案件管理DBの容量が上限値に達した場合、制限値を超えていなくても、アクセス権を設定できなくなることがあります。

注※3

案件管理DBの容量が上限に達した場合、制限値を超えていなくても、案件の作成や編集ができなくなることがあります。

注※4

上限に達した場合、不要な案件を削除することで登録できるようになります。

注※5

一つの案件の編集回数が上限の5,000回に達した場合、または案件管理DBの容量が上限に達した場合、制限値を超えていなくても、案件をエスカレーションできなくなります。

注※6

エスカレーション回数、引き戻し回数、および差し戻し回数も編集回数1回として数えます。

注※7

一つの案件に添付するファイルのサイズは、平均で256キロバイトを登録することを想定しています。なお、案件管理DBの添付ファイルを格納する容量が上限値に達した場合、制限値を超えていなくても、添付ファイルが存在する案件の作成ができなくなることがあります。

注※8

一つのプロセス当たりの平均で20個の案件フォームを使用することを想定しています。なお、案件管理DBの容量が上限値に達した場合、制限値を超えていなくても、案件フォームを変更できなくなることがあります。

注※9

案件管理DBの容量が上限に達した場合、制限値を超えていなくてもユーザーやロールの作成ができなくなることがあります。

注※10

一つのロール当たりの平均で100人のユーザーを登録することを想定しています。なお、案件管理DBの容量が上限値に達した場合、制限値を超えていなくても、ロールにユーザーを登録できなくなることがあります。

付録 E JP1 イベント

JP1/Service Support で使用する JP1 イベントについて説明します。

付録 E.1 JP1 イベント一覧

JP1/Service Support から発行される JP1 イベントを次に示します。

- 対処済み連動用 JP1 イベント (イベント ID : 00005F00)
- ステータス変更用 JP1 イベント (イベント ID : 00005F01)
- 対処済み連動用集約 JP1 イベント (イベント ID : 00005F02)

JP1/Service Support から発行される JP1 イベントの詳細を、イベント ID 別に示します。

なお、JP1 イベントの属性の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

(1) イベント ID : 00005F00 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント ID	—	00005F00
		メッセージ	—	KNAB15069-I 案件のステータスがクローズで登録されました。
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		ユーザー名	USER_NAME	案件を登録したユーザー名
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/SS
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ITEM
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	/システム名/プロセス名/案件名
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	案件 ID
		事象種別	OCCURRENCE	CLOSE
		終了時刻	END_TIME	案件の更新時刻
		プラットフォーム※1	PLATFORM	Windows
		アクションバージョン※1	ACTION_VERSION	085000
	固有情報	登録者※1	REGISTRANT	案件を登録したユーザー名
		JP1/IM - Manager ホスト名	ITEMENTRY_ACTHOST	JP1/IM - Manager の自動アクション (案件登録) を実行したホスト名※2, または案件登録を実行した JP1/IM - View

属性種別		項目	属性名	内容
拡張属性	固有情報	JP1/IM - Manager ホスト名	ITEMENTRY_ACTHOST	でログインしている JP1/IM - Manager のホスト名
		連動元イベント DB 内通し番号	ITEMENTRY_SEQNO	JP1/IM - Manager の自動アクション (案件登録) の契機となったイベント DB 内通し番号 ^{※2} , または JP1/Service Support に案件として登録するイベント のイベント DB 内通し番号

(凡例)

－：なし

注※1

JP1/IM - View のイベント情報の詳細情報に表示するためには、環境設定が必要です。表示させる方法については、[9.16.1 JP1/IM - Manager と連携するための環境設定] を参照してください。

注※2

案件登録時の自動アクションに定義されていない場合は、JP1 イベントは発行されません。

(2) イベント ID : 00005F01 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント ID	－	00005F01
		メッセージ	－	KNAB15070-I 案件が JP1 イベント発行対象のステータスで登録されました。
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		ユーザー名	USER_NAME	案件を登録したユーザー名
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/SS
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ITEM
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	/システム名/プロセス名/案件名
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	案件 ID
		事象種別	OCCURRENCE	STATUS
		終了時刻	END_TIME	案件の更新時刻
		プラットフォーム ^{※1}	PLATFORM	Windows
	アクションバージョン ^{※1}	ACTION_VERSION	085000	
	固有情報	ユーザー指定の拡張属性 ^{※1}	JP1 イベントに格納できる拡張属性	ユーザーが定義ファイルで指定するイベント拡張属性の項目 ^{※2}

(凡例)

－：なし

注※1

JP1/IM - View のイベント情報の詳細情報に表示するためには、環境設定が必要です。表示させる方法については、「9.16.1 JP1/IM - Manager と連携するための環境設定」を参照してください。

注※2

JP1 イベントに格納できる拡張属性については、「13. 定義ファイル」の「ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_status.properties)」を参照してください。

(3) イベント ID : 00005F02 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容	
基本属性	イベント ID	—	00005F02	
	メッセージ	—	KNAB15069-I 案件のステータスがクローズで登録されました。	
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Information
		ユーザー名	USER_NAME	一括操作で案件を編集したユーザー名
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/SS
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	ITEM
		事象種別	OCCURRENCE	CLOSE
		終了時刻	END_TIME	案件一括操作の終了時刻
		プラットフォーム※1	PLATFORM	Windows
		アクションバージョン※1	ACTION_VERSION	085000
	固有情報	JP1/IM - Manager ホスト名	ITEMENTRY_ACTHOST	JP1/IM - Manager の自動アクション (案件登録) を実行したホスト名※2, または案件登録を実行した JP1/IM - View でログインしている JP1/IM - Manager のホスト名
		連動元イベント DB 内通し番号	ITEMENTRY_SEQNO	JP1/IM - Manager の自動アクション (案件登録) の契機となったイベント DB 内通し番号※2※3, または JP1/Service Support に案件として登録するイベントのイベント DB 内通し番号※3
案件 ID リスト		ITEMENTRY_ITEMID	案件 ID のリスト	

(凡例)

— : なし

注※1

JP1/IM - View のイベント情報の詳細情報に表示するためには、環境設定が必要です。表示させる方法については、「9.16.1 JP1/IM - Manager と連携するための環境設定」を参照してください。

注※2

案件登録時の自動アクションに定義されていない場合は、JP1 イベントは発行されません。

注※3

複数のイベント DB 内の通し番号が「, (コンマ)」区切りで設定されます。

なお、対処済み連動用集約 JP1 イベント（イベント ID：00005F02）は、対処済み連動用 JP1 イベント（イベント ID：00005F00）をホスト名（項目 ID：JIMSD_FORM_IMHOSTNAME）で集約した JP1 イベントです。対処済み連動用集約 JP1 イベントは、一括操作で案件をクローズした場合に発行されます。対処済み連動用集約 JP1 イベントが発行された場合は、対処済み連動用 JP1 イベントは発行されません。対処済み連動用集約 JP1 イベントを発行するためには、JP1 イベント発行設定ファイルの設定が必要です。JP1 イベント発行設定ファイルの詳細については、「13. 定義ファイル」の「JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jplevent_setting.properties)」を参照してください。

付録 E.2 JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携できる JP1 イベント

JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携対象となる JP1 イベントを次の表に示します。

項番	イベント ID	イベント名称
1	00004102	ジョブネット開始イベント
2	00004103	ジョブネット正常終了イベント
3	00004104	ジョブネット異常終了イベント
4	00004105	ジョブ開始イベント
5	00004106	ジョブ正常終了イベント
6	00004107	ジョブ異常終了イベント
7	00004108	ジョブネット警告終了イベント
8	00004109	ジョブ警告終了イベント
9	0000410A	ジョブのキューイング取り消しイベント
10	00004120	ジョブネット保留イベント
11	00004121	ジョブ保留イベント
12	00004122	ジョブネット開始遅延イベント
13	00004123	ジョブネット終了遅延イベント
14	00004124	次回予定キューイングイベント
15	00004125	ジョブサブミット開始イベント
16	00004127	ジョブ終了遅延イベント
17	00004145	起動条件監視終了待ちイベント
18	00004146	ジョブネット待ち合わせ開始イベント

項番	イベント ID	イベント名称
19	00004147	ジョブネット待ち合わせ終了イベント
20	00004148	ジョブネット待ち合わせ滞留イベント
21	00004149	ジョブネット待ち合わせ回復イベント
22	0000414A	ジョブ待ち合わせ開始イベント
23	0000414B	ジョブ待ち合わせ終了イベント
24	0000414C	ジョブ待ち合わせ滞留イベント
25	0000414D	ジョブ待ち合わせ回復イベント
26	00004155	自動リトライによるリトライ間隔待ち開始イベント
27	00004156	自動リトライによる実行開始イベント
28	00004157	自動リトライ実行不可能エラー発生イベント
29	00004158	自動リトライによるジョブサブミット開始イベント

付録 F 操作ログの出力

JP1/Service Support は、画面からの案件の作成、編集、エスカレーション、および削除の操作に対して、「いつ」「だれが」「何を行ったか」などの操作情報の履歴を操作ログとして出力します。

なお、JP1/Audit と連携すると、ほかの JP1 製品の操作ログと合わせて管理できます。JP1/Audit との連携については、「[4.7 JP1/Audit - Manager との連携](#)」を参照してください。

JP1/Service Support の操作ログの出力情報について説明します。

付録 F.1 操作ログに出力される事象の種別

操作ログを出力する対象となる事象の種別、および JP1/Service Support が操作ログを出力する契機を、次の表に示します。事象の種別とは、操作ログに出力される事象を分類するための識別子です。

表 F-1 操作ログに出力される事象の識別

事象の種別	説明	JP1/Service Support が出力する契機
ContentAccess	JP1/Service Support で管理している案件情報へアクセスしたことを示す事象。	画面から、次に示す操作を行った場合に出力する。 <ul style="list-style-type: none">• 案件の作成• 案件の編集• 案件の削除• エスカレーション• 案件の引き戻し• 案件の差し戻し• ログイン• ログアウト

付録 F.2 操作ログの保存形式

操作ログの保存形式について説明します。

操作ログは、`jplimssaccesslogn.log` に出力されます。このファイルが一定の容量に達すると、ファイル名の末尾の数値に 1 を足したファイルに出力されます。つまり、`jplimssaccesslog1.log` が一定の容量に達すると、`jplimssaccesslog2.log` にログを書き込みます。`jplimssaccesslog2.log` が一定の容量に達すると、`jplimssaccesslog3.log` にログを書き込みます。

また、最後の面数の操作ログが一定の容量に達すると、初期化した `jplimssaccesslog1.log` にログを書き込みます。`jplimssaccesslog1.log` が一定の容量に達すると、初期化した `jplimssaccesslog2.log` にログを書き込みます。

なお、操作ログのファイルサイズおよび面数は、操作ログ設定ファイルで設定できます。操作ログ設定ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「操作ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_access_log.properties)」を参照してください。

付録 F.3 操作ログの出力形式

操作ログの出力形式、出力項目、および出力例について説明します。

(1) 操作ログの出力形式

操作ログは、操作ログのフォーマットであることを示す「CALFHM」、操作ログのリビジョン番号、該当する出力項目の順で出力されます。

```
CALFHM x.x, 出力項目1=値1, 出力項目2=値2, …, 出力項目n=値n
```

(2) 出力先

操作ログの出力先を、次に示します。

物理ホスト環境の場合

```
JP1/SS パス¥log¥public¥accesslog
```

クラスタ環境の場合

```
共有フォルダ¥Log¥public¥accesslog
```

(3) 出力項目

出力項目には、共通出力項目と固有出力項目の2種類があります。それぞれについて説明します。

- 共通出力項目
操作ログを出力する JP1 製品で共通して出力される項目です。
- 固有出力項目
操作ログを出力する JP1 製品ごとに、出力される項目です。

(a) 共通出力項目

共通出力項目に出力される値および内容を、次の表に示します。

表 F-2 操作ログの共通出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性		
1	共通仕様識別子	—	CALFHM	操作ログのフォーマットであることを示す識別子
2	共通仕様リビジョン番号	—	1.0	操作ログを管理するためのリビジョン番号
3	通番	seqnum	連番	操作ログの通し番号
4	メッセージ ID	msgid	KNABxxxx-x	製品ごとのメッセージ ID
5	日付・時刻	date	YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sssTZD*	操作ログの出力日時およびタイムゾーン
6	発生プログラム名	progid	JP1IMSS	事象が発生したプログラム名
7	発生コンポーネント名	compid	Server	事象が発生したコンポーネント名
8	発生プロセス ID	pid	プロセス ID	事象が発生したプロセス ID
9	発生場所	ocp:host	ホスト名	事象が発生したホスト名
10	事象の種別	ctgry	ContentAccess	操作ログに出力される事象を分類するための識別子
11	事象の結果	result	Success (成功)	発生した事象の結果
12	サブジェクト識別情報	subj:uid	ユーザー ID	事象を発生させたユーザーの情報

(凡例)

—：属性名は出力されない

注※

YYYY は年，MM は月，DD は日，hh は時間，mm は分，ss は秒，sss はミリ秒です。

T は日付と時刻の区切りです。

TZD はタイムゾーン識別子です。次のどれかが出力されます。

+hh:mm：世界共通の標準時刻から hh:mm だけ進んでいることを示す。

-hh:mm：世界共通の標準時刻から hh:mm だけ遅れていることを示す。

Z：世界共通の標準時刻と同じであることを示す。

(b) 固有出力項目

共通出力項目に出力される値および内容を，次の表に示します。

表 F-3 操作ログの固有出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性		
1	オブジェクト情報	obj	Item	事象が発生させた案件を示す情報
		obj:rid	関連案件通し番号	
2	動作情報	—	<ul style="list-style-type: none"> • Entry 案件の作成 • Edit 案件の編集 • Delete 案件の削除 • Escalation エスカレーション • Recall 案件の引き戻し • Sendback 案件の差し戻し • Login ログイン • Logout ログアウト 	事象が発生させたユーザーの操作の情報
3	自由記述	msg	任意のメッセージ	事象の内容を示すメッセージ

(凡例)

—：出力される属性名はありません。

(4) 操作ログの出力例

画面から案件をエスカレーションした場合の操作ログの出力例を示します。

```
CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KNAB16001-I, date=2013-08-25T23:27:35.386+09:00,
progid=JP1IMSS, compid=Server, pid=5176, ocp:host=IMSSHOST,
ctgry=ContentAccess, result=Success, subj:uid=IMSSUSER, obj=Item,
obj:rid=0000054321, op=Escalation,
msg=" 案件をエスカレーションしました。(エスカレーション先の案件の案件ID : pwb01-000400, エスカレーション元の案件ID : pwb02-000010, 案件のバージョン番号 : 3) "
```

付録 F.4 操作ログが出力される契機

操作ログが出力される契機、およびその際に出力されるメッセージ ID を、次の表に示します。

表 F-4 操作ログが出力される契機およびメッセージ ID

項番	操作ログが出力される契機*	事象の種別	メッセージ ID
1	案件の作成	ContentAccess	KNAB16001-I
2	案件の編集		KNAB16002-I
3	案件の削除		KNAB16003-I
4	エスカレーション		KNAB16004-I
5	案件の引き戻し		KNAB16005-I
6	案件の差し戻し		KNAB16006-I
7	ログイン		KNAB16007-I
8	ログアウト		KNAB16008-I

注※

画面からの操作が対象となります。

メッセージの詳細については、「14.5 画面操作時（案件管理）のメッセージ（KNAB10005～KNAB16008）」を参照してください。

付録 F.5 操作ログを出力するための設定

操作ログを出力するためには、操作ログ設定ファイルを設定する必要があります。操作ログ設定ファイルについては、「13. 定義ファイル」の「操作ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_access_log.properties)」を参照してください。

付録 G サンプルデータの登録

JP1/Service Support の基本機能を簡単に体験していただけるように、サンプルデータを提供しています。サンプルデータの概要、セットアップ手順、およびレポート用のサンプルデータについて説明します。

付録 G.1 サンプルデータの概要

サンプルデータは、次に示す設定に従って作成されています。

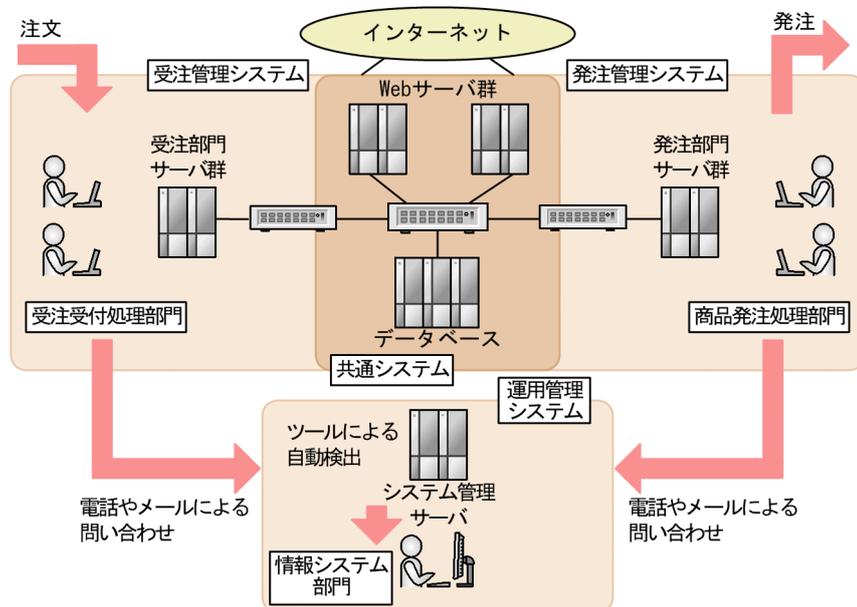
- 管理システムの概要
- 受発注システムのサポート体制
- JP1/Service Support を利用したインシデントのフロー
- サンプルデータで設定されているアクセス権限

また、登録されているサンプルデータの中で、すべてのプロセスを経由して処理された案件には、タイトルの先頭に「【サンプルデータ】」が付与されています。

(1) 管理システムの概要

サンプルデータは、次に示す XX 社の受発注管理システムをモデルに作成されています。

図 G-1 XX 社の受発注管理システム



XX 社は、個人または法人向けに PC を販売する会社です。顧客からの注文は、電話または XX 社が公開している Web ページから受け付けます。受注すると受注受付部門では、受注部門サーバにアクセスし、PC の在庫などを確認します。問題がない場合は、顧客情報を登録し、発送の可否や発送時期などを顧客に回

答します。また、商品発注処理部門では受注の連絡を受けると、発注部門サーバにアクセスし、顧客情報などを採取し工場へ発注します。

このシステムでは、受注受付処理部門が使用する「発注管理システム」、商品発注処理部門が使用する「発注管理システム」、および商品情報や顧客情報を管理するデータベースや Web サーバなどがある「共有システム」が、社内 LAN で接続されています。運用管理部門では、それらのシステムで異常が発生していないかをツールを活用して検出し、「運用管理システム」で一元管理しています。また、情報システム部門は、各部門からのそれらのシステムに関する問い合わせを電話やメールで受け付けてから回答しています。問い合わせ内容や回答についても、「運用管理システム」で一元管理しています。

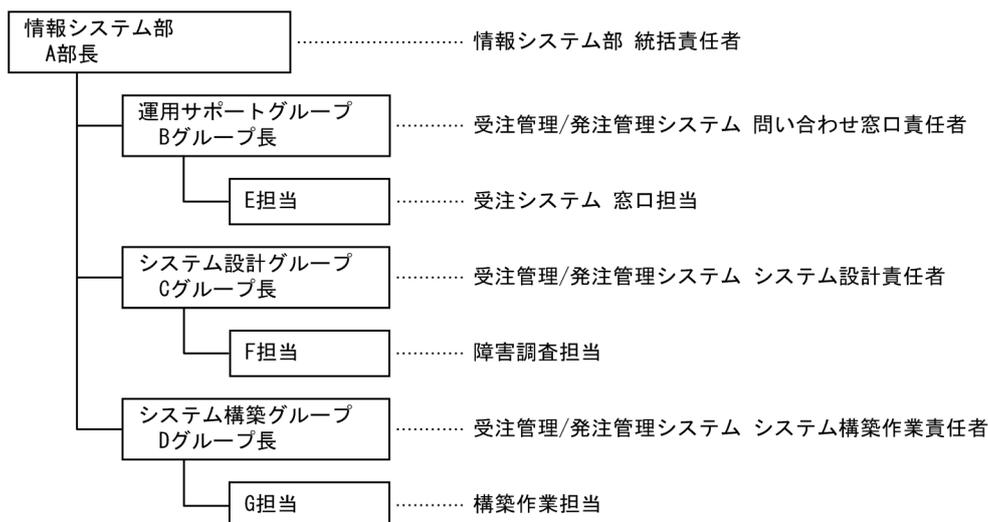
(2) 受発注管理システムのサポート体制

共有システムを一元管理している情報システム部門の体制と、システム変更検討委員会メンバーについて説明します。

(a) 情報システム部門の体制

情報システム部門の体制を、次の図に示します。

図 G-2 情報システム部門の体制



(b) システム変更検討委員会メンバー

システム変更検討委員会とは、システムの変更要請を受けた場合、変更の必要性、変更方法の妥当性、スケジュール、担当者などを検討する委員会です。この委員会で承認されない場合、システムの変更作業を実施できません。

なお、サンプルデータでは、「システム変更検討委員会ロール」として、次に示すメンバーが登録されています。

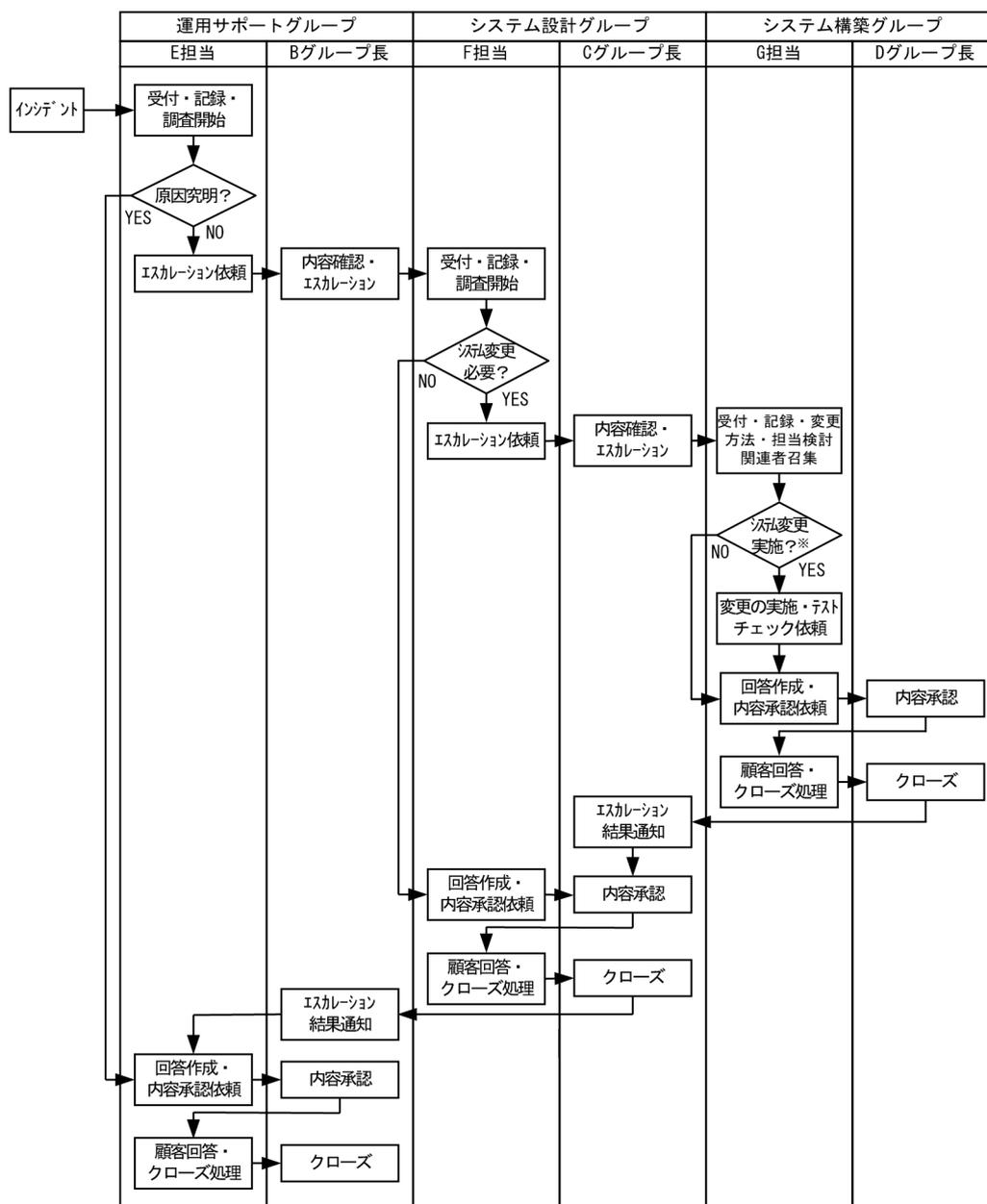
- 情報システム A 部長（情報システム部統括責任者）
- 受注管理部 X 部長（受注部門統括責任者）

- 発注管理部 Y 部長（発注部門統括責任者）
- 情報システム部 運用サポートグループ B グループ長（システム窓口対応責任者）
- 情報システム部 システム設計グループ C グループ長（システム設計責任者）
- 情報システム部 システム構築グループ D グループ長（システム構築責任者）

(3) JP1/Service Support を利用したインシデントフロー

「(2)(a) 情報システム部門の体制」を基に、JP1/Service Support を利用したインシデントフローを次の図に示します。

図 G-3 JP1/Service Support を利用したインシデントフロー



注※ システム変更検討委員会を開催します。

(4) サンプルデータで設定されているアクセス権限

「(2)(a) 情報システム部門の体制」および「(2)(b) システム変更検討委員会メンバー」を基に、サンプルデータで設定されているユーザー ID、パスワードおよびアクセス権限を、プロセス別に次の表に示します。

表 G-1 サンプルデータで設定されているアクセス権限（インシデント管理）

担当者	アクセス権限			
	参照	編集	承認	クローズ
A 部長	○	—	—	—
B グループ長	○	○	○	○
E 担当	○	○	—	—
C グループ長	○	—	—	—
F 担当	—	—	—	—
D グループ長	○	—	—	—
G 担当	—	—	—	—
X 部長	—	—	—	—
Y 部長	—	—	—	—

(凡例)

- ：アクセス権限が設定されている
- ：アクセス権限が設定されていない

表 G-2 サンプルデータで設定されているアクセス権限（問題管理）

担当者	アクセス権限				
	エスカレーション	参照	編集	承認	クローズ
A 部長	—	○	—	—	—
B グループ長	○	○	—	—	—
E 担当	—	○	—	—	—
C グループ長	—	○	○	○	○
F 担当	—	○	○	—	—
D グループ長	—	○	—	—	—
G 担当	—	—	—	—	—
X 部長	—	—	—	—	—
Y 部長	—	—	—	—	—

(凡例)

- ：アクセス権限が設定されている
- －：アクセス権限が設定されていない

表 G-3 サンプルデータで設定されているアクセス権限 (変更管理)

担当者	アクセス権限				
	エスカレーション	参照	編集	承認	クローズ
A 部長	－	○	－	－	－
B グループ長	－	○	－	－	－
E 担当	－	○	－	－	－
C グループ長	○	○	－	－	－
F 担当	－	－	－	－	－
D グループ長	－	○	○	○	○
G 担当	－	○	○	－	－
X 部長*	－	○	－	－	－
Y 部長*	－	○	－	－	－

(凡例)

- ：アクセス権限が設定されている
- －：アクセス権限が設定されていない

注※

システム変更検討委員会ロールに所属しているため、参照のアクセス権限が設定されています。

表 G-4 サンプルデータで設定されているアクセス権限 (リリース管理)

担当者	アクセス権限				
	エスカレーション	参照	編集	承認	クローズ
A 部長	－	○	－	－	－
B グループ長	－	○	－	－	－
E 担当	－	○	－	－	－
C グループ長	－	○	－	－	－
F 担当	－	－	－	－	－
D グループ長	○	○	○	○	○
G 担当	－	○	○	－	－
X 部長	－	－	－	－	－
Y 部長	－	－	－	－	－

(凡例)

- ：アクセス権限が設定されている
- －：アクセス権限が設定されていない

また、担当者のユーザー ID およびパスワードを、次の表に示します。

表 G-5 担当者のユーザー ID とパスワード

担当者	ユーザー ID	パスワード
A 部長	a	a
B グループ長	b	b
E 担当	e	e
C グループ長	c	c
F 担当	f	f
D グループ長	d	d
G 担当	g	g
X 部長	x	x
Y 部長	y	y

付録 G.2 サンプルデータのセットアップ手順

サンプルデータを利用するために、次に示す手順に従ってセットアップしてください。なお、セットアップは、Administrators 権限を持つユーザーが実施してください。

注意事項

ユーザーアカウント制御機能が有効で、Administrator 以外の Administrators 権限を持つユーザーの場合、次のどちらかの方法でコマンドを実行してください。

- Administrator で Windows Server 2016, Windows Server 2012 R2, または Windows Server 2012 にログインしてから、コマンドを実行する。
- スタート画面から [JP1_SS コマンドプロンプト] を右クリックし、「管理者として実行」を選択したあと、コマンドを実行する。

また、JP1/Service Support のインストールおよびセットアップが正しく完了していることが前提となります。インストールおよびセットアップの詳細については、「6. インストールとセットアップ」を参照してください。

1. サービスコントロールマネージャで、JP1/Service Support のサービスを停止する。

次の順序でサービスを停止します。

1. JP1/Service Support - Task Service サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス

3. JP1/Service Support サービス

2. JP1_SS コマンドプロンプトを起動する。

スタート画面から [JP1_SS コマンドプロンプト] を選択します。

3. ssdbrecovery コマンドを実行する。

JP1_SS コマンドプロンプトで、次に示すコマンドを実行します。

```
jssdbrecovery -f JP1/SS/パス¥sampledata¥ja¥jp1imss_sample_data_expand -expand
```

4. サービスコントロールマネージャで、JP1/Service Support のサービスを起動する。

次の順序でサービスを起動します。

1. JP1/Service Support サービス
2. JP1/Service Support - Web Service サービス
3. JP1/Service Support - Task Service サービス※

注※

案件情報の集計 (jsscollectdata)、期限前通知 (jssinformperiod)、滞留案件通知 (jssinformleave)、およびメールによる案件登録 (jssitementrybymail) コマンドを自動実行する場合、サービスを起動します。コマンドの自動実行の詳細については、「[9.8 コマンドの自動実行スケジュールの設定](#)」を参照してください。

なお、タスク実行サービス定義ファイル (jp1imss_service_setting.conf) がデフォルトのまま JP1/Service Support - Task Service サービスを起動すると、サービスの起動に失敗します。タスク実行サービス定義ファイルの詳細については、「[13. 定義ファイル](#)」の「[タスク実行サービス定義ファイル \(jp1imss_service_setting.conf\)](#)」を参照してください。

付録 G.3 レポート用のサンプルデータ

JP1/Service Support では、登録されている案件の状況を集計し、集計したデータを基にレポート作成用のマクロを実行することで、レポートを作成できます。なお、レポートの作成を簡単に体験していただけるように、レポート作成用に集計したサンプルデータを提供しています。サンプルデータの格納先を、次に示します。

案件データ CSV ファイルの格納先

```
JP1/SS パス¥サンプルデータ¥OutputItemCodeData.csv
```

コードデータ CSV ファイルの格納先

```
JP1/SS パス¥サンプルデータ¥OutputItemData.csv
```

上記のサンプルデータを使用したレポート作成手順を次に示します。

1. サンプルデータをローカルの任意のフォルダにコピーする。
2. JP1/Service Support にログインする。

3. メイン画面（案件状況）のメニューから、[集計データのファイル出力] を選択する。

[集計データのファイル出力] 画面が表示されます。

4. メニューから [マクロのダウンロード] を選択する。

マクロをダウンロードするためのダイアログボックスが表示されます。

5. マクロ（Excel ファイル）の格納先を指定する。

マクロの格納先は、サンプルデータの格納先と同じフォルダを指定してください。

6. マクロ（Excel ファイル）を開く。

7. 作成したいレポートをチェックして、[レポート生成] ボタンをクリックする。

マクロが実行され、レポートが作成されます。

マクロのダウンロードおよびレポートの作成手順の詳細については、マニュアル「JP1/Service Support 操作ガイド」の案件のレポートを出力する手順の説明を参照してください。

付録 H 各バージョンの変更内容

各バージョンの変更内容を示します。

付録 H.1 12-00 の変更内容

- 対応 OS から Windows Server 2008 R2 を削除した。

付録 H.2 11-50 の変更内容

- JP1/IM - View との連携で、任意の JP1 イベントの属性や文字列をインシデントとして引き継ぐことができるようにした。
- [案件検索結果一覧] 画面から CSV ファイルを出力するときの注意事項を追加した。

付録 H.3 11-10 の変更内容

- 対応 OS に Windows Server 2016 を追加した。
- JP1/AJS3- Web Console の Web GUI と連携できるようにした。
 - JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties)
 - システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
- JP1/PFM - Web Console と連携できるようにした。
 - JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties)
 - システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
- WWW アプリケーションとの連携機能を拡張した。
- 案件管理ウィンドウの範囲の指定方法を年指定から年月指定に変更した。
- 作業状況を印刷する画面での表示と印刷についての説明を追加した。
- JP1/Service Support をバージョンアップおよびアップグレードする際、案件管理 DB が格納されているドライブに必要な空き容量を変更した。
- JP1/Service Support に登録されている管理ノード数（プロセスワークボードに対して「案件の参照」以外のアクセス権を持つユーザーおよびロールのメンバー）を確認できるようにした。
 - jssnodecount（管理ノード数のカウント）コマンド
- jssitementry（案件登録）コマンドの引数に、次に示すオプションを追加した。

- -urlfile 関連情報定義ファイル
- -ulinkfilen 関連情報定義ファイル
- 案件管理ウィンドウの設定に次の指定キーを追加した。
 - hptl_jp1_imss_itemwindow_start_month
- メール定義ファイルの次の指定キーに指定できる変数として%ITEMURL%を追加した。
 - hptl_jp1_imss_mail_inform_deadline_assigned_text_rep
 - hptl_jp1_imss_mail_inform_leave_assigned_text_rep
- 次に示すメッセージを追加した。
KNAB15102-W, KNAB16007-I~KNAB16008-I, KNAB20306-I~KNAB20307-I, KNAB26227-E
- 次に示すメッセージの対処を変更した。
KNAB24108-E
- 次の操作を行った場合, JP1/Service Support が操作ログを出力する。
 - ログイン
 - ログアウト

付録 H.4 11-00 の変更内容

(1) 資料番号 (3021-3-018-20) からの変更内容

- 対応 OS に Windows 10 を追加した。
- 次の対応 OS を削除した。
 - Windows Server 2003
 - Windows Server 2008
 - Windows Vista
 - Windows XP
- 次の対応 Internet Explorer を削除した。
 - Windows Internet Explorer 7
 - Internet Explorer 6
- 製品名称「JP1/Integrated Management - Service Support」を「JP1/Service Support」に変更した。これに伴い, 次を変更した。
 - Windows のスタートメニューの [プログラム] に表示されるメニュー
 - 画面およびメッセージに表示される製品名

また、JP1/Integrated Management - Service Support Advanced Edition を、JP1/Service Support に統合した。

- 製品名称「JP1/Integrated Management - Navigation Platform」を「JP1/Navigation Platform」に変更した。
- 製品名称「JP1/Integrated Management - TELstaff」を「JP1/TELstaff」に変更した。
- 製品名称「JP1/Integrated Management - Universal CMDB」を「JP1/Universal CMDB」に変更した。
- JP1/ITDM2 - Asset Console と連携できるようにした。
 - jssitementry (案件登録) コマンド
 - 案件情報拡張入力ファイル (任意)
 - 案件フォーム定義ファイル (任意)
 - コードマッピングファイル (jplimss_itementry_codemap.conf)
 - システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
- HP NNMi を追加した。
- JP1/Cm2/NNM を削除した。
- 案件の引き戻し機能を使用することで、ステータスを遷移させた案件に対して遷移させたステータスにアクセス権がなくても、案件のステータスと担当者を遷移前の状態に戻せるようにした。また、案件の引き戻し時に、メール通知できるようにした。なお、案件を引き戻した場合、操作ログに出力されるようにした。
 - [プロセスワークボード作成] 画面
 - [プロセスワークボード編集] 画面
 - メイン画面 (案件一覧)
 - [案件参照] 画面
 - メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
- 案件の差し戻し機能を使用することで、案件のステータスと担当者をステータスの遷移前の状態に戻せるようにした。また、案件の差し戻し時に、メール通知できるようにした。なお、案件を差し戻した場合、操作ログに出力されるようにした。
 - [案件編集] 画面
 - メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
- JP1/Service Support で表示するプロセス名を変更できるようにした。
- [プロセス表示名編集] 画面
- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
- 案件の進捗を表示できるようにした。

- [進捗表示] 画面
- [ステータス管理] 画面
- [案件共通項目検索条件指定] 画面または [案件検索条件指定] 画面から案件を検索する際、[案件検索結果一覧] 画面の 1 ページに表示する案件数を指定できるようにした。また、検索結果が [案件検索結果一覧] 画面の 1 ページに表示する案件数を上回った場合、ページをめくれるようにした。
 - [案件共通項目検索条件指定] 画面
 - [案件検索条件指定] 画面
 - [案件検索結果一覧] 画面
 - システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
- ステータスの初期担当者を設定できるようにした。[案件作成] 画面および [案件編集] 画面でステータスを変更すると、自動で「担当者」に初期担当者が設定されるようにした。また、ステータスの初期担当者を設定していなくても、選択できる担当者が 1 ユーザーまたは 1 ロールの場合、そのユーザーまたはロールが「担当者」に設定されるようにした。なお、ステータスの初期担当者を含むステータスのアクセス権を追加した。
 - [案件作成] 画面
 - [案件編集] 画面
 - [アクセス権編集] 画面
 - jssaclexport (アクセス権情報エクスポート) コマンド
 - jssaclimport (アクセス権情報インポート) コマンド
 - アクセス権情報入力ファイル (任意)
- メールによって案件を登録する場合、案件登録の動作モードを指定することによって、添付ファイルとして登録するだけでなく、案件の項目に案件の情報を登録できるようにした。
 - メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
- [一括操作結果一覧] 画面で、案件のクローズ時にメールの送信結果を確認できるようにした。
- メール送信時に使用できるユーザー認証として、POP before SMTP と SMTP-AUTH (PLAIN および LOGIN) を追加した。また、ユーザー認証のためのユーザー ID をパスワードは、認証ユーザー設定コマンドを実行して、メール定義ファイルに設定するように変更した。
 - jssauthusersetup (認証ユーザー設定) コマンド
 - メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
 - ユーザーログ定義ファイル (jplauthusersetup.conf)
- メインサービスのユーザー公開ログを出力できるようにした。
 - メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_main_log.properties)
- JP1/Service Support をセットアップする際、クライアント環境変数グループの設定が不要になった。
- 障害に備えた設定として、ユーザーダンプの出力設定を追加した。

- jss_log.bat（資料採取）コマンドで採取できる資料から、ワトソンログに関する資料を削除した。また、JP1/Service Support の製品情報を追加した。
- 案件情報拡張エクスポートコマンドで出力される案件情報 CSV ファイル、および案件情報拡張インポートコマンドで入力ファイルする案件情報 CSV ファイルに、操作履歴を追加した。
 - jssitemexportEx（案件情報拡張エクスポート）コマンド
 - jssitemimportEx（案件情報拡張インポート）コマンド
 - CSV カラム名マッピングファイル (jplimss_itemcsv_columnmap.conf)
 - 案件情報拡張入力ファイル（任意）
- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties) のカテゴリーや記載順を変更した。
- メール送信に失敗した場合に、画面のメール送信に失敗したことを通知するメッセージを表示するかどうかを指定できるようにした。
 - メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
- JP1/Service Support の基本機能を簡単に体験していただけるように、サンプルデータを提供した。
- 次に示すメッセージを追加した。
KNAB05017-W, KNAB05059-I, KNAB15027-W, KNAB15061-W, KNAB15072-W, KNAB15103-I~KNAB15115-I, KNAB15117-E~KNAB15119-E, KNAB15121-E~KNAB15126-E, KNAB16005-I~KNAB16006-I, KNAB22124-W, KNAB24110-E, KNAB24234-E, KNAB26224-E~KNAB26226-E, KNAB28037-W~KNAB28040-E, KNAB28117-E~KNAB28118-E, KNAB99051-E
- 次に示すメッセージを削除した。
KNAB22102-W, KNAB26165-E, KNAB26184-E
- 次に示すメッセージのオペレーターの対処を変更した。
KNAB11008-E, KNAB11017-E, KNAB12001-E, KNAB24002-E, KNAB24224-E, KNAB26026-E, KNAB26101-E
- 次に示すメッセージの説明文とオペレーターの対処を変更した。
KNAB28033-E
- 文字コードに関する記述を追加した。

(2) 資料番号 (3021-3-364-10) からの変更内容

- 対応 OS に Windows 10 を追加した。
- 次の対応 OS を削除した。
 - Windows Server 2003
 - Windows Server 2008
 - Windows Vista

- Windows XP
 - 次の対応 Internet Explorer を削除した。
 - Windows Internet Explorer 7
 - Internet Explorer 6
 - 製品名称「JP1/Integrated Management - Service Support」を「JP1/Service Support」に変更した。これに伴い、次を変更した。
 - Windows のスタートメニューの [プログラム] に表示されるメニュー
 - 画面およびメッセージに表示される製品名
- また、JP1/Integrated Management - Service Support Advanced Edition を、JP1/Service Support に統合した。
- JP1/Service Support が提供する製品に、JP1/Service Support Starter Edition を追加した。
 - 製品名称「JP1/Integrated Management - TELstaff」を「JP1/TELstaff」に変更した。
 - JP1/UCMDB と連携できるようにした。
 - jssitementry (案件登録) コマンド
 - 案件フォーム定義ファイル (任意)
 - 機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties)
 - コードマッピングファイル (jp1imss_itementry_codemap.conf)
 - JP1/Audit - Manager と連携できるようにした。
 - JP1/NP と連携できるようにした。
 - JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties)
 - システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
 - ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties)
 - JP1/ITDM2 - Asset Console と連携できるようにした。
 - jssitementry (案件登録) コマンド
 - 案件情報拡張入力ファイル (任意)
 - 案件フォーム定義ファイル (任意)
 - コードマッピングファイル (jp1imss_itementry_codemap.conf)
 - システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
 - JP1/NNMi を追加した。
 - 案件の引き戻し機能を使用することで、ステータスを遷移させた案件に対して遷移させたステータスにアクセス権がなくても、案件のステータスと担当者を遷移前の状態に戻せるようにした。また、案件の

引き戻し時に、メール通知できるようにした。なお、案件を引き戻した場合、操作ログに出力されるようにした。

- [プロセスワークボード作成] 画面
- [プロセスワークボード編集] 画面
- メイン画面 (案件一覧)
- [案件参照] 画面
- メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
- 案件の差し戻し機能を使用することで、案件のステータスと担当者をステータスの遷移前の状態に戻せるようにした。また、案件の差し戻し時に、メール通知できるようにした。なお、案件を差し戻した場合、操作ログに出力されるようにした。
 - [案件編集] 画面
 - メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
- JP1/Service Support で表示するプロセス名を変更できるようにした。
- [プロセス表示名編集] 画面
- システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)
- 案件の進捗を表示できるようにした。
 - [進捗表示] 画面
 - [ステータス管理] 画面
- [案件共通項目検索条件指定] 画面または [案件検索条件指定] 画面から案件を検索する際、[案件検索結果一覧] 画面の 1 ページに表示する案件数を指定できるようにした。また、検索結果が [案件検索結果一覧] 画面の 1 ページに表示する案件数を上回った場合、ページをめくれるようにした。
 - [案件共通項目検索条件指定] 画面
 - [案件検索条件指定] 画面
 - [案件検索結果一覧] 画面
 - システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)
- ステータスの初期担当者を設定できるようにした。[案件作成] 画面および [案件編集] 画面でステータスを変更すると、自動で「担当者」に初期担当者が設定されるようにした。また、ステータスの初期担当者を設定していなくても、選択できる担当者が 1 ユーザーまたは 1 ロールの場合、そのユーザーまたはロールが「担当者」に設定されるようにした。なお、ステータスの初期担当者を含むステータスのアクセス権を追加した。
 - [案件作成] 画面
 - [案件編集] 画面
 - [アクセス権編集] 画面
 - jssaclexport (アクセス権情報エクスポート) コマンド

- jssaclimport (アクセス権情報インポート) コマンド
- アクセス権情報入力ファイル (任意)
- メールによって案件を登録する場合、案件登録の動作モードを指定することによって、添付ファイルとして登録だけでなく、案件の項目に案件の情報を登録できるようにした。
 - メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
- [一括操作結果一覧] 画面で、案件のクローズ時にメールの送信結果を確認できるようにした。
- メール送信時に使用できるユーザー認証として、POP before SMTP と SMTP-AUTH (PLAIN および LOGIN) を追加した。また、ユーザー認証のためのユーザー ID をパスワードは、認証ユーザー設定コマンドを実行して、メール定義ファイルに設定するように変更した。
 - jssauthusersetup (認証ユーザー設定) コマンド
 - メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
 - ユーザーログ定義ファイル (jplauthusersetup.conf)
- メインサービスのユーザー公開ログを出力できるようにした。
 - メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル (hptl_jpl_imss_main_log.properties)
- JP1/Service Support をセットアップする際、クライアント環境変数グループの設定が不要になった。
- 障害に備えた設定として、ユーザーダンプの出力設定を追加した。
- jss_log.bat (資料採取) コマンドで採取できる資料から、ワトソンログに関する資料を削除した。また、JP1/Service Support の製品情報を追加した。
- 案件情報拡張エクスポートコマンドで出力される案件情報 CSV ファイル、および案件情報拡張インポートコマンドで入力ファイルする案件情報 CSV ファイルに、操作履歴を追加した。
 - jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート) コマンド
 - jssitemimportEx (案件情報拡張インポート) コマンド
 - CSV カラム名マッピングファイル (jplimss_itemcsv_columnmap.conf)
 - 案件情報拡張入力ファイル (任意)
- システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties) のカテゴリーや記載順を変更した。
- メール送信に失敗した場合に、画面のメール送信に失敗したことを通知するメッセージを表示するかどうかを指定できるようにした。
 - メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
- JP1/Service Support の基本機能を簡単に体験していただけるように、サンプルデータを提供した。
- 次に示すメッセージを追加した。
 KNAB05017-W, KNAB05059-I, KNAB15027-W, KNAB15061-W, KNAB15072-W,
 KNAB15091-E, KNAB15093-I~KNAB15096-I, KNAB15098-E~KNAB15101-E,
 KNAB15103-I~KNAB15115-I, KNAB15117-E~KNAB15119-E, KNAB15121-E~
 KNAB15126-E, KNAB16005-I~KNAB16006-I, KNAB22124-W, KNAB24110-E,

KNAB24234-E, KNAB26224-E~KNAB26226-E, KNAB28037-W~KNAB28040-E,
KNAB99051-E

- 次に示すメッセージを削除した。

KNAB22102-W, KNAB26165-E, KNAB26184-E

- 次に示すメッセージのオペレーターの対処を変更した。

KNAB11008-E, KNAB11017-E, KNAB12001-E, KNAB24002-E, KNAB24224-E,
KNAB26026-E, KNAB26101-E

- 次に示すメッセージの説明文とオペレーターの対処を変更した。

KNAB28033-E

付録 H.5 10-50 の変更内容

(1) 資料番号 (3021-3-018-20) の変更内容

- 対応 OS に Windows Server 2012 R2 を追加した。
- JP1/IM - Service Support が提供する製品に, JP1/IM - Service Support Starter Edition を追加した。
- JP1/IM - Service Support が提供する製品に, JP1/IM - Service Support Advanced Edition を追加した。

JP1/IM - Service Support Advanced Edition の場合, 案件管理 DB に登録されている過去の案件を, 案件保存 DB に保存できるようにした。なお, 案件管理 DB のサイズに XL を指定できるようにした。

- jssdbbackup.bat (データベースバックアップ) コマンド
- jssdbinit.bat (データベース初期化) コマンド
- jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー) コマンド
- jssdbroorg.bat (案件管理 DB 再編成) コマンド
- jsshadbinit.bat (クラスタ環境用データベース初期化) コマンド
- jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ) コマンド
- jsshaunsetup.bat (クラスタ環境用アンセットアップ) コマンド
- jssitemstore (案件保存) コマンド
- jssitemstoredbexpand.bat (案件保存 DB 領域拡張) コマンド
- jssitemstoredbrotate (案件保存 DB 切り替え) コマンド
- jssitemstoredbsetup.bat (案件保存 DB セットアップ) コマンド
- jsssetup.bat (セットアップ) コマンド
- jssstoreitemdel.bat (保存案件一括削除) コマンド
- jssunsetup.bat (アンセットアップ) コマンド

- 案件保存 DB 拡張情報設定ファイル (jssitemstoredbexpandinfo.bat)
- 案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (jssitemstoredbinfo.bat)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitemstore.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitemstoredbrotate.conf)
- 案件管理ウィンドウを使用することで、特定の期間に登録された案件だけを運用できるようにした。
 - システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)
- 案件のステータスを一括で、「承認済み」または「クローズ」に変更できるようにした。また、案件のステータスを一括で「クローズ」に変更した場合、対処済み連動用集約 JP1 イベントを発行できるようにした。
 - システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)
 - JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jpl_imss_jpl_event_setting.properties)
 - ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jpl_imss_jpl_event_status.properties)
- 案件ごとに参照権限を設定できるようにした。
 - jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) コマンド
 - ユーザーログ定義ファイル (jplrefaclsetup.conf)
- JP1/IM - Service Support に登録済みの案件を流用して、案件を作成できるようにした。
- JP1/IM - Service Support に登録されている案件を、印刷できるようにした。
- JP1/IM - Service Support に登録されている案件数を確認できるようにした。
また、案件数の確認時にあらかじめ設定したしきい値を下回った場合、メッセージを出力するようにした。
 - jssitemcount (案件数確認) コマンド
 - システムプロパティファイル (hptl_jpl_imss_main_setting.properties)
 - ユーザーログ定義ファイル (jplitemcount.conf)
- アクセス権情報をコマンドで設定できるようにした。また、アクセス権情報をコマンドで CSV ファイルに出力できるようにした。
 - jssaclexport (アクセス権情報エクスポート) コマンド
 - jssaclimport (アクセス権情報インポート) コマンド
 - アクセス権情報入力ファイル (任意)
 - ユーザーログ定義ファイル (jplaclexport.conf)
 - ユーザーログ定義ファイル (jplaclimport.conf)
- メールで通知できる案件情報を追加した。
 - メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
- JP1/IM - Service Support のデータベースの状態を確認できるようにした。

- jssdbstatchk.bat (データベース状態確認) コマンド
- ウィルス対策ソフト実行時の注意事項を追加した。
- バージョンアップの手順を追加した。
- 次に示すメッセージを追加した。
KNAB10035-E, KNAB11044-E~KNAB11048-E, KNAB12014-E, KNAB20041-I~KNAB20043-I, KNAB20150-I~KNAB20151-I, KNAB20277-I~KNAB20299-I, KNAB20300-I~KNAB20303-I, KNAB22028-W~KNAB22030-W, KNAB24114-E~KNAB24115-E, KNAB24226-E~KNAB24233-E, KNAB26097-E, KNAB26157-E, KNAB26159-E~KNAB26161-E, KNAB26163-E, KNAB26165-E~KNAB26168-E, KNAB26170-E~KNAB26174-E, KNAB26176-E, KNAB26178-E~KNAB26186-E, KNAB26188-E~KNAB26198-E, KNAB26223-E, KNAB28033-E~KNAB28036-E, KNAB28105-E, KNAB28121-E~KNAB28125-E, KNAB99050-E,
- 次に示すメッセージを削除した。
KNAB20274-I
- 次に示すメッセージのオペレーターの対処を変更した。
KNAB12001-E, KNAB24002-E, KNAB26144-E, KNAB28011-E
- 次に示すメッセージのシステムの処置を変更した。
KNAB13005-W, KNAB26149-E
- 次に示すメッセージの説明文を変更した。
KNAB20026-I, KNAB20028-I, KNAB20272-I, KNAB22022-W
- 次に示すメッセージの本文を変更した。
KNAB20125-I, KNAB20133-I, KNAB26154-E
- 次に示すメッセージの説明文とオペレーターの処置を変更した。
KNAB26102-E~KNAB26103-E

(2) 資料番号 (3021-3-364-10) の変更内容

- 対応 OS に Windows Server 2012 R2 を追加した。
- JP1/IM - Service Support が提供する製品に, JP1/IM - Service Support Advanced Edition を追加した。
JP1/IM - Service Support Advanced Edition の場合, 案件管理 DB に登録されている過去の案件を, 案件保存 DB に保存できるようにした。なお, 案件管理 DB のサイズに XL を指定できるようにした。
 - jssdbbackup.bat (データベースバックアップ) コマンド
 - jssdbinit.bat (データベース初期化) コマンド
 - jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー) コマンド
 - jssdbroorg.bat (案件管理 DB 再編成) コマンド

- jsshadbinit.bat (クラスタ環境用データベース初期化) コマンド
- jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ) コマンド
- jsshaunsetup.bat (クラスタ環境用アンセットアップ) コマンド
- jssitemstore (案件保存) コマンド
- jssitemstoredbexpand.bat (案件保存 DB 領域拡張) コマンド
- jssitemstoredbrotate (案件保存 DB 切り替え) コマンド
- jssitemstoredbsetup.bat (案件保存 DB セットアップ) コマンド
- jsssetup.bat (セットアップ) コマンド
- jssstoreitemdel.bat (保存案件一括削除) コマンド
- jssunsetup.bat (アンセットアップ) コマンド
- 案件保存 DB 拡張情報設定ファイル (jssitemstoredbexpandinfo.bat)
- 案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (jssitemstoredbinfo.bat)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitemstore.conf)
- ユーザーログ定義ファイル (jplitemstoredbrotate.conf)
- 案件管理ウィンドウを使用することで、特定の期間に登録された案件だけを運用できるようにした。
 - システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
- 案件のステータスを一括で、「承認済み」または「クローズ」に変更できるようにした。また、案件のステータスを一括で「クローズ」に変更した場合、対処済み連動用集約 JP1 イベントを発行できるようにした。
 - システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
 - JP1 イベント発行設定ファイル (hptl_jp1_imss_jpl1event_setting.properties)
 - ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル (hptl_jp1_imss_jpl1event_status.properties)
- 案件ごとに参照権限を設定できるようにした。
 - jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) コマンド
 - ユーザーログ定義ファイル (jplrefaclsetup.conf)
- JP1/IM - Service Support に登録済みの案件を流用して、案件を作成できるようにした。
- JP1/IM - Service Support に登録されている案件を、印刷できるようにした。
- JP1/IM - Service Support に登録されている案件数を確認できるようにした。
また、案件数の確認時にあらかじめ設定したしきい値を下回った場合、メッセージを出力するようにした。
 - jssitemcount (案件数確認) コマンド
 - システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
 - ユーザーログ定義ファイル (jplitemcount.conf)

- アクセス権情報をコマンドで設定できるようにした。また、アクセス権情報をコマンドで CSV ファイルに出力できるようにした。
 - jssaclexport (アクセス権情報エクスポート) コマンド
 - jssaclimport (アクセス権情報インポート) コマンド
 - アクセス権情報入力ファイル (任意)
 - ユーザーログ定義ファイル (jplaclexport.conf)
 - ユーザーログ定義ファイル (jplaclimport.conf)
- メールで通知できる案件情報を追加した。
 - メール定義ファイル (jplimss_mail_setting.conf)
- JP1/IM - Service Support のデータベースの状態を確認できるようにした。
 - jssdbstatchk.bat (データベース状態確認) コマンド
- ウィルス対策ソフト実行時の注意事項を追加した。
- バージョンアップの手順を追加した。
- 次に示すメッセージを追加した。
 KNAB10035-E, KNAB11044-E~KNAB11048-E, KNAB12014-E, KNAB20041-I~
 KNAB20043-I, KNAB20150-I~KNAB20151-I, KNAB20277-I~KNAB20299-I,
 KNAB20300-I~KNAB20303-I, KNAB22028-W~KNAB22030-W, KNAB24114-E~
 KNAB24115-E, KNAB24226-E~KNAB24233-E, KNAB26097-E, KNAB26157-E,
 KNAB26159-E~KNAB26161-E, KNAB26163-E, KNAB26165-E~KNAB26168-E,
 KNAB26170-E~KNAB26174-E, KNAB26176-E, KNAB26178-E~KNAB26186-E,
 KNAB26188-E~KNAB26198-E, KNAB26223-E, KNAB28033-E~KNAB28036-E,
 KNAB28105-E, KNAB28121-E~KNAB28125-E, KNAB99050-E,
- 次に示すメッセージを削除した。
 KNAB20274-I
- 次に示すメッセージのオペレーターの対処を変更した。
 KNAB12001-E, KNAB24002-E, KNAB26144-E, KNAB28011-E
- 次に示すメッセージのシステムの処置を変更した。
 KNAB13005-W, KNAB26149-E
- 次に示すメッセージの説明文を変更した。
 KNAB20026-I, KNAB20028-I, KNAB20272-I, KNAB22022-W
- 次に示すメッセージの本文を変更した。
 KNAB20125-I, KNAB20133-I, KNAB26154-E
- 次に示すメッセージの説明文とオペレーターの処置を変更した。
 KNAB26102-E~KNAB26103-E

付録 H.6 10-10 の変更内容

(1) 資料番号 (3021-3-018-10) の変更内容

- 対応 OS に Windows Server 2012 を追加した。
- コマンドで、案件情報、関連情報、および添付ファイルを CSV ファイルなどに出力できるようにした。また、出力したファイルを、案件管理 DB に登録できるようにした。
 - jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート) コマンド
 - jssitemimportEx (案件情報拡張インポート) コマンド
 - CSV カラム名マッピングファイル (jplimss_itemcsv_columnmap.conf)
 - CSV 設定ファイル (hptl_jp1_imss_csv_setting.properties)
 - 案件情報拡張入力ファイル (任意)
 - ユーザーログ定義ファイル (jplitemexportEx.conf)
 - ユーザーログ定義ファイル (jplitemimportEx.conf)
- JP1/Base の認証機能を使用し、JP1/IM - NP または JP1/AO にシングルサインオンすることで、JP1/IM - NP および JP1/AO と連携できるようになった。
 - jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)
 - JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties)
 - システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
 - ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties)
- JP1/Base の認証サーバを使用したログイン認証を使用できるようにした。
 - jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え)
 - JP1 製品連携設定プロパティファイル (hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties)
 - ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties)
- [集計データのファイル出力] 画面に「全てのシステム」を追加し、案件の集計データを一括してダウンロードできるようにした。
- 操作ログを出力できるようにした。これに伴い、JP1/Audit - Manager と連携できるようにした。
 - 操作ログ設定ファイル (hptl_jp1_imss_access_log.properties)
- jssitementry (案件登録) コマンド実行時に、登録する案件の textarea 型の項目に含まれる任意の文字列を、改行文字に置換できるようにした。
 - 文字列置換設定ファイル (jplimss_replace_string_setting.conf)
- [案件作成] 画面および [案件編集] 画面の「担当者」をソートして表示できるようになった。

- システムプロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting.properties)
- 次に示すコマンドに、サービスを起動したまま実行できるオプションを追加または変更した。
 - jssdelrec (案件管理 DB データ削除)
 - jssformdef (案件フォーム登録)
 - jssitemdeletion (案件一括削除)
- jssitemdeletion (案件一括削除) コマンドの引数に、次に示すオプションを追加した。
 - -pi プロセスワークボード内通し番号
 - -ct 開始年月日-終了年月日
 - -et 開始年月日-終了年月日
 - -q
- jssitemlist (案件一覧出力) コマンドの引数に、次に示すオプションを追加した。
 - -ct 開始年月日-終了年月日
- LDAP 認証時に sAMAccountName (OS ユーザー (ユーザーログイン名)) を指定できるようにした。
 - JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル (hptl_jp1_imss_ua_conf.properties)
- 次に示すメッセージを追加した。
 KNAB10005-E, KNAB13005-W, KNAB16001-I~KNAB16004-I, KNAB20026-I,
 KNAB20028-I~KNAB20038-I, KNAB20272-I~KNAB20275-I, KNAB22121-W~
 KNAB22123-W, KNAB24213-E~KNAB24215-E, KNAB24217-E~KNAB24225-E,
 KNAB26098-E, KNAB26156-E, KNAB26211-E, KNAB26219-E, KNAB26221-E,
 KNAB28025-E~KNAB28032-E
- 次に示すメッセージのオペレーターの処置を変更した。
 KNAB11017-E, KNAB15042-E, KNAB22102-W, KNAB24002-E, KNAB24108-E,
 KNAB26005-E, KNAB26036-E, KNAB26090-E, KNAB26108-E, KNAB26123-E,
 KNAB26143-E, KNAB26144-E, KNAB26149-E, KNAB26203-E, KNAB28024-E,
 KNAB30006-E, KNAB99042-E
- 次に示すメッセージの本文および説明を変更した。
 KNAB15066-W
- 次に示すメッセージの本文を変更した。
 KNAB20268-I, KNAB26074-E
- 次に示すメッセージの説明文およびオペレーターの処置を変更した。
 KNAB22016-W, KNAB26073-E, KNAB28018-E
- 次に示すメッセージの説明文を変更した。
 KNAB26069-E

付録 H.7 10-00 の変更内容

(1) 資料番号 (3021-3-018) の変更内容

- コマンドで、ロールに登録されているメンバー情報を削除できるようにした。
 - jssmemberdelete (メンバー情報削除) コマンド
 - メンバー情報入力ファイル (任意)
- コマンドで、登録されているロールに新しくメンバー情報を登録できるようにした。
 - jssmemberimport (メンバー情報インポート) コマンド
 - メンバー情報入力ファイル (任意)
- コマンドで、ロールに所属するユーザー (メンバー) の一覧を CSV ファイルに出力できるようにした。
 - jssmemberlist (メンバー一覧出力) コマンド
- コマンドで、新しくロール情報を登録できるようにした。
 - jssroleimport (ロール情報インポート) コマンド
 - ロール情報入力ファイル (任意)
- コマンドで、ロールの一覧を CSV ファイルに出力できるようにした。
 - jssrolelist (ロール一覧出力) コマンド
- コマンドで、ユーザー情報を編集できるようにした。
 - jssuseredit (ユーザー情報編集) コマンド
 - ユーザー情報編集ファイル (任意)
- コマンドで、ユーザーの一覧を CSV ファイルに出力できるようにした。
 - jssuserlist (ユーザー一覧出力) コマンド
- 次のメッセージを追加した。
KNAB20020-I, KNAB20021-I, KNAB20022-I, KNAB20023-I, KNAB20024-I,
KNAB20025-I, KNAB22020-W, KNAB22021-W, KNAB22022-W, KNAB22023-W,
KNAB22024-W, KNAB22025-W, KNAB22026-W, KNAB22027-W, KNAB26064-E,
KNAB26065-E, KNAB26068-E, KNAB26069-E, KNAB26070-E, KNAB26093-E,
KNAB26094-E, KNAB26095-E, KNAB26096-E

付録 H.8 09-50 の変更内容

(1) 資料番号 (3020-3-R91-10) の変更内容

- 案件の検索条件の指定方法を変更した。

- JP1/IM - UCMDB の画面を呼び出し、JP1/IM - UCMDB が管理する機器情報を確認できるようにした。
- 案件プレビューに表示される次の項目について、アンカーをクリックすると、情報を表示できるようにした。
 - 関連案件
 - 関連情報
 - 機器情報
 - 添付ファイル
 - ユーザーが追加したリンク指定系の項目
- jssitemedit コマンド（案件編集）を追加した。
- 案件の担当者に案件が滞留していることを通知できるようにした。
- 案件フォーム定義ファイルを GUI ツールでカスタマイズできるようにした。
- ステータスの制限およびエスカレーションの禁止ができるようにした。
- 案件管理 DB と LDAP サーバを切り替えられるようにした。
- JP1/IM - View の画面から JP1/IM - Service Support の画面を呼び出し、案件を登録できるようにした。
- WWW アプリケーションと連携し、案件の情報を WWW アプリケーションへ渡せるようにした。
- オプションを追加し、案件の担当の変更や案件がクローズしたことを担当者にメールで通知できるようにした。
- オプションを追加し、案件の登録が完了したことを担当者にメールで通知できるようにした。
- ステータス変更用 JP1 イベントの発行設定の手順を変更した。
- オプションを追加し、出力したい案件をプロセスワークボード内通し番号で指定できるようにした。
- コマンドプロンプトを使用し、JP1/IM - Service Support のコマンドを実行できるようにした。
- メイン画面（案件一覧）のオプションメニューにリンクを追加できるようにした。
- 次のメッセージを追加した。

KNAB11041-E~KNAB11043-E, KNAB15091-E, KNAB15093-I~KNAB15096-I,
 KNAB15098-E~KNAB15101-E, KNAB20008-I, KNAB20251-I, KNAB20257-I~
 KNAB20260-I, KNAB20263-I~KNAB20271-I, KNAB22115-W, KNAB22116-W,
 KNAB24008-E, KNAB24210-E~KNAB24212-E, KNAB24216-E, KNAB26063-E,
 KNAB26071-E~KNAB26074-E, KNAB26081-E~KNAB26091-E, KNAB26213-E~
 KNAB26215-E, KNAB28114-E~KNAB28116-E, KNAB30002-E~KNAB30008-E,
 KNAB30012-I, KNAB30013-I, KNAB30105-E~KNAB30109-E, KNAB30111-E,
 KNAB30112-E, KNAB30114-E, KNAB30155-E, KNAB30202-E, KNAB30205-E,
 KNAB30208-E, KNAB30210-E, KNAB30211-E, KNAB30214-E, KNAB99048-E,
 KNAB99049-E

- 次のメッセージのオペレーターの処置を変更した。
KNAB11017-E, KNAB12002-E, KNAB13004-W, KNAB15042-E, KNAB24003-E
- 次のメッセージの本文, 説明文およびオペレーターの処置を変更した。
KNAB22014-W
- 次のメッセージの説明文を変更した。
KNAB24216-E, KNAB26007-E

付録 H.9 09-00 の変更内容

(1) 資料番号 (3020-3-R91) の変更内容

- 対応 OS に Windows Server 2008 を追加した。
- バージョン 9 以降の JP1/Cm2/NNMi と連携する場合の, 自動アクションの定義例を追加した。
- 入力された文字が UTF-8 に変換されることを考慮し, 操作手順で説明している画面上での入力時の制限文字数を, バイト数から文字数に変更した。
- 次のメッセージのシステムの処置とオペレーターの処置を追加した。
KNAB04005-I
- 次のメッセージのオペレーターの処置を変更した。
KNAB22102-W
- 次のメッセージを追加した。
KNAB24205-E~KNAB24209-E
- 次のメッセージの説明文を変更した。
KNAB26151-W

付録I このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録I.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- JP1 Version 12 JP1/Base 運用ガイド (3021-3-D65)
- JP1 Version 12 JP1/Integrated Management 2 - Manager 導入・設計ガイド (3021-3-D51)
- JP1 Version 12 JP1/Integrated Management 2 - Manager 構築ガイド (3021-3-D52)
- JP1 Version 12 JP1/Integrated Management 2 - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3021-3-D55)
- JP1 Version 12 IT サービス管理 基本ガイド (3021-3-D70)
- JP1 Version 12 JP1/Service Support 操作ガイド (3021-3-D72)
- JP1 Version 12 JP1/Navigation Platform ナビゲーション プラットフォーム 導入から運用まで (3021-3-D11)
- JP1 Version 12 JP1/Automatic Operation 構築ガイド (3021-3-D03)
- JP1 Version 12 JP1/Automatic Operation 運用ガイド (3021-3-D04)
- JP1 Version 12 JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console 設計・構築ガイド (3021-3-E16)
- JP1 Version 12 JP1/Performance Management 設計・構築ガイド (3021-3-D76)
- JP1 Version 12 JP1/Performance Management 運用ガイド (3021-3-D77)
- JP1 Version 11 JP1/Audit Management - Manager 構築・運用ガイド (3021-3-A17)
- JP1 Version 10 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド (3021-3-173)
- JP1 Version 10 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R)用) (3021-3-177)

付録I.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。次に、製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を示します。

このマニュアルでの表記		正式名称
HNTRLib2		Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2
HP NNMi		HP Network Node Manager i Software
JP1/AJS	JP1/AJS2	JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent

このマニュアルでの表記		正式名称
JP1/AJS	JP1/AJS2	JP1/Automatic Job Management System 2 - Manager
		JP1/Automatic Job Management System 2 - View
	JP1/AJS3	JP1/AJS3 - Agent
		JP1/AJS3 - Manager
		JP1/AJS3 - View
	JP1/AJS3 - Web Console	
JP1/AO		JP1/Automatic Operation
JP1/Audit - Manager		JP1/Audit Management - Manager
JP1/IM - Manager		JP1/Integrated Management - Manager
		JP1/Integrated Management 2 - Manager
JP1/IM - View		JP1/Integrated Management - View
		JP1/Integrated Management 2 - View
JP1/ITDM2 - Asset Console		JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console
JP1/NETM/AIM		JP1/NETM/Asset Information Manager
JP1/NETM/DM		JP1/NETM/DM Client
		JP1/NETM/DM Client - Base
		JP1/NETM/DM Client - Delivery Feature
		JP1/NETM/DM Client - Operation Log Feature
		JP1/NETM/DM Manager
JP1/NNMi		JP1/Cm2/Network Node Manager i
		JP1/Network Node Manager i
JP1/NP		Hitachi Navigation Platform
		JP1/Integrated Management - Navigation Platform
		JP1/Navigation Platform
		uCosminexus Navigation Platform
		uCosminexus Navigation Platform - User License
		uCosminexus Navigation Platform - Authoring License
JP1/PFM		JP1/Performance Management
JP1/PFM - Web Console		JP1/Performance Management - Web Console
JP1/Service Support または JP1/SS		JP1/Service Support

このマニュアルでの表記	正式名称
JP1/Service Support または JP1/SS	JP1/Service Support Starter Edition
JP1/Service Support (Standard)	JP1/Service Support
JP1/Service Support Advanced Edition	JP1/Integrated Management - Service Support Advanced Edition
JP1/TELstaff	JP1/Integrated Management - TELstaff
	JP1/TELstaff AE Professional Edition
JP1/UCMDB	JP1/Integrated Management - Universal CMDB Advanced Edition
	JP1/Integrated Management - Universal CMDB 10.1 Full
	JP1/Universal CMDB 10.2 Full
	JP1/Universal CMDB 10.3 Full

付録 I.3 このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
BMP	Basic Multilingual Plane
CAB	Change Advisory Board
CD-ROM	Compact Disc - Read Only Memory
CSV	Comma Separated Value
DB	Database
DNS	Domain Name System
DSN	Deep Space Network
GUI	Graphical User Interface
HA	High Availability
HTTP	Hyper Text Transfer Protocol
ID	Identifier
IP	Internet Protocol
IT	Information Technology
ITIL	Information Technology Infrastructure Library

英略語	正式名称
JAAS	Java(TM) Authentication and Authorization Service
JSP	JavaServer Pages(TM)
MIME	Multipurpose Internet Mail Extension
NAT	Network Address Translation
NIC	Network Interface Card
ODBC	Open Database Connectivity
OS	Operating System
PC	Personal Computer
POP	Post Office Protocol
RFC	Request for Change
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SNMP	Simple Network Management Protocol
UCS	Universal multi-octet coded Character Set
UNC	Universal Naming Convention
URL	Uniform Resource Locator
UTF	UCS Transformation Format
WWW	World Wide Web
XML	eXtensible Markup Language

付録 I.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024² バイト, 1,024³ バイト, 1,024⁴ バイトです。

(英字)

HP NNMi

ネットワークの構成管理、性能管理および障害管理のための統合ネットワーク管理プログラムの総称です。

IT サービス

ビジネスやサービスの遂行を支援する仕組みとして IT システムを活用した、ユーザーの要望を満たすサービスのことです。

JP1/AJS

業務を自動的に運用するためのプログラムです。

処理を順序付けて定期的に行ったり、特定の事象が発生したときに処理を開始したりできます。

JP1/AO

システム運用を自動化するプログラムです。

典型的な運用の処理内容を、サービステンプレートとして提供しています。このサービステンプレートを使用することで、作業の効率化を図れます。

JP1/Audit - Manager

内部統制の有効性を評価するために必要な証跡記録を一元管理し、内部統制の報告書作成や監査業務を支援するプログラムです。

ユーザー情報やシステム構成の変更などの証跡記録を利用して、業務の正当性を確認したり、リソースへの操作やアクセス状況を監査したりできます。

JP1/Base

JP1/IM の基盤機能を提供するプログラムです。

JP1 イベントの送受信や、ユーザーの管理、起動の制御などをします。また、JP1/IM システムのエージェントとしての役割も持ちます。

JP1/Base は、JP1/IM - Manager の前提プログラムです。

JP1/IM - Manager

JP1/IM - Manager は、システム全体の一元的な監視と操作を実現することで、システムを統合管理するためのプログラムです。

JP1/ITDM2 - Asset Console

ネットワーク装置を含めたハードウェア情報、ソフトウェア情報、契約情報などをデータベースに一元管理することで、資産の導入、ソフトウェアのライセンス管理、機器の保守などに伴う IT 資産管理業務の合理化および管理コストの低減を支援するプログラムです。

JP1/NETM/AIM

ネットワーク装置を含めたハードウェア情報、ソフトウェア情報、契約情報などをデータベースに一元管理することで、資産の導入、ソフトウェアのライセンス管理、機器の保守などに伴う IT 資産管理業務の合理化および管理コストの低減を支援するプログラムです。

JP1/NETM/AIM サーバ

JP1/NETM/AIM が稼働するサーバの総称です。資産情報を管理し、資産情報に関するサービスを提供します。

関連項目 →JP1/NETM/AIM

JP1/NETM/DM

ソフトウェアの配布およびクライアントの管理を、ネットワークを利用し一括して行うシステムの総称です。

JP1/NNMi

ネットワークの構成管理、性能管理および障害管理のための統合ネットワーク管理プログラムの総称です。

JP1/NP

JP1/NP は、業務の流れと作業手順を可視化することで、正確にかつ効率よく業務を支援するプログラムです。分散した手順書を一つにまとめたり、個人が持っている知識やノウハウを組織で共有したりできます。

JP1/PFM - Web Console

JP1/PFM を構成するプログラムの一つです。WWW ブラウザーでシステムの稼働状況を一元的に監視するため WWW アプリケーションサーバの機能を提供します。JP1/PFM - Web Console には、次の機能があります。

- GUI の表示
- 統合監視および管理機能
- レポートの定義およびアラームの定義

JP1/Service Support

JP1/Service Support は、ユーザーからの問い合わせやシステム障害、そこから派生した問題、検討課題などを、解決が必要な案件として記録、管理するためのプログラムです。

関連項目 →案件

jp1admin ユーザー

JP1/Service Support のシステム管理者用ユーザーです。デフォルトで登録されています。

JP1 イベント

システムで発生した事象を JP1 で管理するための情報です。

JP1 イベントは、次のような属性に分けて、事象を記録しています。

基本属性

すべての JP1 イベントが持つ属性です。

属性名を表記する場合、例えばイベント ID は B.ID (または単に ID) のように記述します。

拡張属性

JP1 イベントの発行元が任意に指定できる属性です。拡張属性は、次の共通情報と固有情報で構成されます。

- ・ 共通情報 (形式が統一されている拡張属性の情報)
- ・ 固有情報 (共通情報以外の各製品固有の形式の情報)

属性名を表記する場合、例えば重大度は E.SEVERITY (または単に SEVERITY) のように記述します。

JP1 イベントは、JP1/Base のイベントサービス機能が管理しています。システムで発生した事象を JP1 イベントとしてデータベースに記録しています。

WWW コンテナサーバ

画面の表示制御をする JP1/Service Support の内部コンポーネントです。

関連項目 →WWW サーバ, 案件管理 DB サーバ

WWW サーバ

案件管理コンソール (WWW ブラウザー) との通信の窓口となる JP1/Service Support の内部コンポーネントです。

関連項目 →WWW コンテナサーバ, 案件管理 DB サーバ

(ア行)

案件

プロセスワークボードで解決する作業の単位であり、作業の情報を記録するレコードのことです。一つのプロセスワークボードに複数の案件を登録でき、案件に記録された情報を、複数の

作業者が更新できます。案件同士の関係は、各案件の項目に、関係する案件の情報を記載することで定義できます。

なお、マニュアル内では、案件を登録するプロセスに合わせて、次のように呼ぶこともあります。

- インシデント管理プロセスに登録される案件：インシデント
- 問題管理プロセスに登録される案件：問題点
- 変更管理プロセスに登録される案件：変更点
- リリース管理プロセスに登録される案件：リリース案件

関連項目 →プロセスワークボード, プロセス

案件 ID

案件を登録した際に、その案件に対し JP1/Service Support が自動で採番する ID です。JP1/Service Support 内で一意の ID となります。

案件一覧

JP1/Service Support の表示条件に従って、案件の一覧を表示する個所のことです。例えば、メイン画面（案件一覧）の案件一覧には、プロセスワークボード一覧で選択した対象システムまたはプロセスの案件が、一覧で表示されます。

案件一覧では、各案件のタイトルや作業状況、担当者などが確認できます。

案件管理 DB

JP1/Service Support が提供するデータベースの名称です。

JP1/Service Support を使ってユーザーが構築した対象システム、プロセスの構成情報や、登録、更新した案件情報など、ユーザーが JP1/Service Support を利用するために作成、定義した情報のすべてが案件管理 DB で管理されます。

案件管理 DB サーバ

案件管理 DB の管理をする JP1/Service Support の内部コンポーネントです。

関連項目 →WWW コンテナサーバ, WWW サーバ

案件管理コンソール

WWW ブラウザーから案件管理サーバの JP1/Service Support にログインして、案件を参照または操作するマシンを指します。

関連項目 →案件管理サーバ

案件管理サーバ

JP1/Service Support がインストールされたサーバです。案件は、案件管理サーバの案件管理 DB で管理されています。WWW ブラウザーから案件管理サーバにアクセスすることで、案件を参照できます。

関連項目 →案件, 案件管理 DB

案件の参照権限所有者

「案件ごとの参照権限の設定」が有効なプロセスワークボードにおいて、案件ごとに設定する参照権限を所有するユーザーを指します。「案件ごとの参照権限の設定」が有効なプロセスワークボードでは、案件ごとに設定された参照権限を所有するユーザーだけが、案件を参照できます。案件の参照権限所有者は、案件の作成および編集時に、設定する必要があります。

案件フォーム

案件を入力する画面のフォーマットを指します。案件フォームは定義ファイルによって定義され、プロセスワークボードと関連づけられて管理されます。

関連項目 →プロセスワークボード

案件保存 DB

JP1/Service Support が提供するデータベースの名称です。

案件管理 DB の容量不足などで管理できなくなった案件を、案件保存 DB に保存できます。また、過去の案件を案件保存 DB に保存することで、それらの案件をナレッジとして管理し、必要ときに参照できます。なお、案件保存 DB に保存した案件は、参照だけできます。

イベントサーバ

JP1/Base で JP1 イベントを管理する機能を持つプログラムです。イベントサーバを起動すると、JP1 イベントを収集・配布できる状態になります。

インシデント管理

サービスへの影響を最小限にとどめるための活動です。ユーザーからの問い合わせやシステムの正常な運用を妨げる事象をインシデントとして管理し、適切な回答や回避策を早急に提示します。

JP1/Service Support では、この活動の内容を「インシデント管理」と呼ばれるプロセスワークボード上で管理します。

関連項目 →プロセスワークボード

エージェント

JP1/IM - Manager によって管理されるマシンの総称です。このマシンには JP1/Base が必要です。

エスカレーション

案件の内容に応じて、適切な対応ができるほかのプロセス担当者に、案件の対応を依頼することです。

(力行)

管理案件

案件管理 DB に登録した案件です。

関連項目 → 案件管理 DB, 保存案件

クラスタシステム

複数のサーバを連携させて一つのシステムとして運用するシステムのことで、

障害が発生してもほかのサーバに処理を引き継ぐことで業務が中断することを避け、可用性を向上させることを目的としています。この処理を引き継ぐことをフェールオーバーといいます。

業務を実行中のサーバ（実行系）で障害が発生すると、待機していた別のサーバ（待機系）が業務の処理を引き継ぎます。実行「系」から待機「系」へ業務を切り替えるので、「系切り替えシステム」とも呼びます。

なお、クラスタシステムの種類には、複数のサーバが並列処理をして負荷分散することを目的としたシステム構成などもありますが、このマニュアルでは、フェールオーバーによって業務の中断を防ぐシステム構成のことだけを指します。

関連項目 → フェールオーバー

系切り替えシステム

関連項目 → クラスタシステム

(サ行)

システム視点

メイン画面（案件状況）で案件の状況を確認するときの視点のことです。システム視点は、JP1/Service Support で管理しているシステム全体の案件の状況を確認する場合に適しています。

関連項目 → プロセス視点

システムロール

システムで定義されているロールのことです。ロール ID に「_jp1」で始まる名称が付けられています。JP1/Service Support の画面を操作して、環境を構築するユーザーは、このロールに所属している必要があります。

ステータス

案件の状態を表す情報です。案件に対する作業状況を案件ごとに案件一覧から確認できます。通常、案件が解決したか、解決していないのであればどの段階かを監視、集計するために使用します。

関連項目 →案件, 案件一覧

ステータス ID

JP1/Service Support 内でステータスを一意に識別するための ID です。

制御文字

このマニュアルでは、次に示す文字を制御文字と呼びます。

- ASCII 文字コードの 0x00~0x1F と 0x7F の文字

(タ行)

対象システム

JP1/Service Support の管理対象となるシステムを意味します。JP1/Service Support の管理対象となったシステムは、プロセスワークボード一覧で管理されます。

関連項目 →プロセスワークボード一覧

添付資料

案件に添付できるファイルを指します。

統合マネージャー

JP1/IM - Manager が稼働するサーバの総称です。システムで発生する事象を管理し、事象に対応する運用操作の基盤を提供します。

関連項目 →JP1/IM - Manager

フェールオーバー

JP1 を実行するサーバに障害が発生した場合に、ほかの正常なサーバに JP1 を移動させて処理を続行することです。または、システム管理者の操作によって、JP1 を実行するサーバを切り替えることです。

実行系サーバから待機系サーバにフェールオーバーするため、系切り替えともいいます。

物理ホスト

クラスタシステムで JP1 を運用する場合の、クラスタシステムを構成する物理的なサーバのことです。論理ホスト（物理的なサーバに依存しないで、フェールオーバーできる論理的なサーバ）に対する用語です。

関連項目 → クラスタシステム, 論理ホスト, フェールオーバー

プロセス

このマニュアルでは次の二つの意味で使用しています。

- JP1/Service Support でカテゴリー分けした作業の単位。インシデント管理, 問題管理, 変更管理, リリース管理の 4 種類がある。
- 製品が動作するための内部プログラム

関連項目 → インシデント管理, 問題管理, 変更管理, リリース管理

プロセス間 ID

案件作成時に自動で採番される関連案件通し番号と、エスカレーションごとに上がる番号を組み合わせた値をプロセス間 ID と呼びます。関連案件通し番号が同じ案件は、エスカレーションによって関連づけられた案件だとわかります。エスカレーションごとに上がる番号によって、その案件が何回エスカレーションしたかがわかります。JP1/Service Support 内で一意の ID となります。

プロセス視点

メイン画面（案件状況）で案件の状況を確認するときの視点のことです。プロセス視点は、特定のシステム内のプロセスの状況を詳細に確認する場合に適しています。

関連項目 → システム視点

プロセスの標準案件フォーム

プロセスごとに設定した案件フォームです。

プロセスワークボードごとに異なる案件フォームを使用できますが、プロセスごとに標準で使用する案件フォームをあらかじめ設定しておくことができます。

[案件フォームの管理] 画面で、プロセスの標準案件フォームを設定できます。

プロセスワークボード

プロセスごとの作業を記録する場所の単位です。ユーザーは、プロセスワークボード上で案件の登録や更新、ほかのプロセスへのエスカレーションなど、問題解決に向けた作業を実施します。

関連項目 → プロセス

プロセスワークボード一覧

プロセスごとの作業を管理するプロセスワークボードの一覧のことです。対象システム、プロセスの階層で管理され、階層ごとに案件を案件一覧で参照できます。

関連項目 → プロセスワークボード、対象システム、プロセス、案件一覧

プロセスワークボード管理者

プロセスワークボードの管理をするユーザー、ロールのことです。プロセスワークボード管理者になると、そのプロセスワークボードに対する編集権限と案件に対するすべてのアクセス権を持つようになります。

変更管理

IT サービスの改善を目的とした、IT サービスの変更を検討するための活動です。変更による障害発生リスクや業務への影響度を考慮に入れた上で、変更内容の審議と変更計画の立案を実施します。

JP1/Service Support では、この活動の内容を「変更管理」と呼ばれるプロセスワークボード上で管理します。

関連項目 → プロセスワークボード

保存案件

案件保存 DB に保存した案件です。案件保存 DB は、JP1/Service Support が提供するデータベースです。

関連項目 → 案件保存 DB、管理案件

(マ行)

メイン画面 (案件一覧)

JP1/Service Support の主画面の一つです。左フレームにプロセスワークボード一覧、右上フレームに案件一覧、右下フレームに案件プレビューが表示されます。この画面を起点に案件の管理を実施します。

メイン画面 (案件状況)

JP1/Service Support の主画面の一つです。左フレームにメニュー，右上フレームに状況確認，右下フレームに対象案件一覧が表示されます。この画面を起点に，案件の作業状況の管理を実施します。

メール管理サーバ

メールによる案件登録の際に，送信されたメールを管理するメールサーバです。

問題管理

システムの正常運用を妨げる事象の原因を追求，解決するための活動です。ユーザーからの問い合わせやシステム障害などを機に，原因追及が必要と判断したものを問題点として管理し，その問題点の根本原因の究明と恒久的な解決策を提示します。

JP1/Service Support では，この活動の内容を「問題管理」と呼ばれるプロセスワークボード上で管理します。

関連項目 →プロセスワークボード

(ラ行)

リリース管理

変更管理で検討した IT サービスの改善を，実装するための活動です。実装計画に基づき，構築，テスト，実装を実施します。

JP1/Service Support では，この活動の内容を「リリース管理」と呼ばれるプロセスワークボード上で管理します。

関連項目 →プロセスワークボード

ロール

JP1/Service Support にログインするユーザーをグループ定義したものです。ユーザーと同様に，プロセスワークボード，案件へのアクセス権を与えられます。

論理ホスト

クラスタシステムで JP1 を運用するときに，JP1 の実行環境となる論理上のサーバです。また，障害が発生した場合に，フェールオーバーするときの単位です。

論理ホストは，フェールオーバーの時に引き継がれる論理 IP アドレスと共有ディスクを持ち，それらを使って実行する JP1 などのアプリケーションから構成されます。

フェールオーバー時は，論理 IP アドレスと共有ディスクを引き継いで JP1 の実行を継続します。これによって，JP1 を実行するサーバが物理的に変わっても，ほかのホストからは同じ IP アドレスでアクセスでき，一つのホストが常に動作しているように見えます。

関連項目 → クラスタシステム, フェールオーバー

索引

数字

- 09-00 の変更内容 1320
- 09-50 の変更内容 1318
- 10-00 の変更内容 1318
- 10-10 の変更内容 1316
- 10-50 の変更内容 1311
- 11-00 の変更内容 1304
- 11-10 の変更内容 1303
- 11-50 の変更内容 1303
- 12-00 の変更内容 1303

C

- CSV カラム名マッピングファイル
(jp1imss_itemcsv_columnmap.conf) 739
- CSV 設定ファイル
(hptl_jp1_imss_csv_setting.properties) 746
- CSV ファイルへの出力 176
 - jsitemexportEx (案件情報拡張エクスポート) 612
 - jsitemhistory (案件履歴出力) 626
 - jsitemlist (案件一覧出力) 643
 - jsmemberlist (メンバー一覧出力) 652
 - jsrolelist (ロール一覧出力) 661
 - jsuserlist (ユーザー一覧出力) 668
 - 検討 301

H

- HNTRLib2 204
 - 統合トレースログ 1247
- HP NNMi
 - 用語解説 1325

I

- ITIL 29
- IT サービス 29
 - 用語解説 1325
- IT サービス管理でのサービスサポートの役割 29

[IT プロセス管理] 画面 (案件フォーム定義情報のプレビュー) 417

J

- JAAS 対応ユーザ管理定義ファイル
(hptl_jp1_imss_ua_conf.properties) 748
- JP1/AJS
 - JP1 イベント連携 305
 - 用語解説 1325
- JP1/AJS3 - Web Console
 - 引き継がれる案件情報 247
 - 連携の検討 313
- JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI
 - 接続 248
 - 連携 246
 - 連携するための環境設定 452
 - 連携する場合のシステム構成 75
- JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携できる JP1 イベント 1288
- JP1/AO
 - 接続 241
 - 引き継がれる案件情報 241
 - 用語解説 1325
 - 連携 240
 - 連携するための環境設定 451
 - 連携する場合のシステム構成 72
 - 連携の検討 312
- JP1/Audit - Manager
 - 接続 243
 - 用語解説 1325
 - 連携 243
- JP1/Base
 - JP1/IM - Manager と連携する場合のシステム構成 65
 - 用語解説 1325
- JP1/Base との連携 (認証機能) 258
- JP1/Base の認証サーバを使用したログイン認証 330
 - 特定の JP1 製品と連携しない場合 330

- 特定の JP1 製品と連携する場合 330
- JP1/IM - Manager
 - JP1 イベント連携 (統合スコープ) 305
 - 用語解説 1325
 - 連携 214
 - 連携するための環境設定 443
 - 連携する場合のシステム構成 65
 - 連携の検討 304
- JP1/IM - Manager 連携の検討
 - JP1/Service Support から JP1 イベントを発行する場合の自動アクション定義例 308
 - JP1 製品と連携する場合の自動アクション定義例 304
 - クラス運用での JP1/IM - Manager 連携 310
- JP1/IM - View
 - 案件登録 223
 - 連携 223
 - 連携するための環境設定 448
 - 連携の検討 311
- JP1/IM - View
 - 特定の JP1 イベントの属性をインシデントとして引き継ぐ 225
 - 任意の JP1 イベントの属性や文字列をインシデントとして引き継ぐ 227
- JP1/ITDM2 - Asset Console
 - 管理する機器情報の表示 244
 - 用語解説 1326
 - 連携 244
 - 連携するための環境設定 452
 - 連携する場合のシステム構成 74
- JP1/ITMD2 - Asset Console
 - 接続 245
 - 連携の検討 313
- JP1/NETM/AIM
 - 管理する機器情報の表示 233
 - 接続 234
 - 用語解説 1326
 - 連携 233
 - 連携するための環境設定 448
 - 連携する場合のシステム構成 67
- 連携する場合のシステム構成 (JP1/NETM/AIM, JP1/NETM/DM) 69
- 連携の検討 311
- JP1/NETM/AIM サーバ 68
 - 用語解説 1326
- JP1/NETM/DM
 - JP1/NETM/AIM, JP1/NETM/DM と連携する場合のシステム構成 69
 - JP1 イベント連携 307
 - 用語解説 1326
- JP1/NETM/DM, JP1/IT Desktop Management 2 および Job Management Partner 1/Software Distribution を使ったリモートインストール 339
- JP1/NNMi
 - 用語解説 1326
- JP1/NNMi または HP NNMi
 - JP1 イベント連携 305
- JP1/NP
 - JP1 イベント連携 307
 - 接続 239
 - 引き継がれる案件情報 238
 - 用語解説 1326
 - 連携 237
 - 連携するための環境設定 450
 - 連携する場合のシステム構成 70
 - 連携の検討 312
- JP1/PFM - Web Console
 - JP1 イベント連携 306
 - 用語解説 1326
 - 連携の検討 314
- JP1/PFM - Web Console の Web GUI
 - 連携するための環境設定 453
 - 連携する場合のシステム構成 76
- JP1/PFM - Web Console との連携 249
- JP1/PFM - Web Console への接続 251
- JP1/PFM - Web Console へ引き継がれる案件情報 250
- JP1/Service Support
 - JP1/Service Support とは 29
 - 案件解決の流れ 49

- アンセットアップとアンインストール 356
- 運用サイクル 260
- 運用例 42
- 概要 28
- 環境構築 371
- 環境見直し 531
- 起動 366
- 起動と終了 365
- 機能 79
- 構成 61
- サービス 204
- サービスおよびプロセス (クラスタシステム) 470
- サービスサポートの運用支援 31
- システム構成 63
- 終了 368
- 状況確認と分析 57
- 使用するポート番号 1282
- 設計 259
- 提供する製品 60
- 特長 34
- メンテナンス 506
- 用語解説 1326
- JP1/Service Support - Task Service サービス 904
- JP1/Service Support 以外のシステムからの案件データの移行 (手順) 459
- JP1/Service Support 以外のシステムからのユーザー情報の移行 (手順) 461
- JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報との連携 256
 - 環境設定 457
- JP1/Service Support が出力する Windows イベントログ 1036
- JP1/Service Support が出力するログファイルの一覧 1271
- JP1/Service Support で使用するファイルおよびフォルダの一覧 1266
- JP1/Service Support のアップグレード 351
- JP1/Service Support のアップグレード手順 351
- JP1/Service Support の上書きインストールとセットアップ 343
 - 上書きインストール手順 343
 - 修復インストール時のセットアップ手順 350
- JP1/Service Support の環境見直し
 - IP アドレスの変更 531
 - インストール先フォルダの変更 539
 - システム日時の変更 538
 - ポート番号の変更 532
 - ホスト名の変更 534
- JP1/Service Support の新規インストールとセットアップ 338
 - 新規インストール手順 338
 - 新規インストール時のセットアップ手順 339
- JP1/Service Support のデータベースがイベントログに出力するメッセージ 1036
- JP1/Service Support を自動起動する場合の注意事項 370
- JP1/UCMDB
 - 管理する機器情報の表示 235
 - 接続 236
 - 連携 235
 - 連携するための環境設定 449
 - 連携する場合のシステム構成 68
 - 連携の検討 311
- JP1/UCMDB サーバ 69
- jp1admin ユーザー 198
 - 所属するロール 200
 - [ユーザー管理] 画面 378
 - 用語解説 1327
- JP1 以外の運用管理製品との連携 252
- JP1 イベント
 - JP1/IM - Manager との連携 214
 - JP1 イベント発行設定ファイル 754
 - イベント ID : 00005F00 309
 - イベント ID : 00005F00 の詳細 1285
 - イベント ID : 00005F01 309
 - イベント ID : 00005F01 の詳細 1286
 - イベント ID : 00005F02 309
 - イベント ID : 00005F02 の詳細 1287
 - 自動アクション定義例 308

- ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル 890
- ステータス変更の通知 220
- 対処状況の変更 218
- 用語解説 1327
- JP1 イベント一覧 1285
- JP1 イベントによるステータス変更の通知と自動アクション 220
- JP1 イベント発行設定ファイル
(hptl_jp1_imss_jp1event_setting.properties) 754
- JP1 製品連携設定プロパティファイル
(hptl_jp1_imss_jp1product_cooperation_setting.properties) 751
- jss_log.bat (資料採取) 550
- jssaclexport (アクセス権情報エクスポート) 553
- jssaclimport (アクセス権情報インポート) 558
- jssauthusersetup (認証ユーザー設定) 561
- jsschauthorityserver (認証サーバ切り替え) 563
- jsscollectdata (案件情報集計) 565
- jsscreatesysandpwb (マスターシステム・一時受付プロセスワークボード作成) 672
- jssdbbackup.bat (データベースバックアップ) 675
- jssdbinit.bat (データベース初期化) 680
- jssdbreclaim.bat (案件管理 DB 空き領域解放) 682
- jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー) 683
- jssdbroorg.bat (案件管理 DB 再編成) 688
- jssdbstatchk.bat (データベース状態確認) 691
- jssdelrec (案件管理 DB データ削除) 567
- jssformcustomizer (案件フォーム定義ファイル編集) 569
- jssformdef (案件フォーム登録) 570
- jsshadbinit.bat (クラスタ環境用データベース初期化) 695
- jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ) 698
- jsshaunsetup.bat (クラスタ環境用アンセットアップ) 702
- jssinformleave (滞留案件通知) 572
- jssinformperiod (期限前通知) 574
- jssitemcount (案件数確認) 576
- jssitemdeletion (案件一括削除) 579
- jssitemedit (案件編集) 583
- jssitementry (案件登録) 598
- jssitementrybymail (メールによる案件登録) 609
- jssitemexportEx (案件情報拡張エクスポート) 612
- jssitemhistory (案件履歴出力) 626
- jssitemimport (案件情報インポート) 636
- jssitemimportEx (案件情報拡張インポート) 639
- jssitemlist (案件一覧出力) 643
- jssitemstore (案件保存) 704
- jssitemstoredbexpand.bat (案件保存 DB 領域拡張) 708
- jssitemstoredbrotate (案件保存 DB 切り替え) 712
- jssitemstoredbsetup.bat (案件保存 DB セットアップ) 714
- jssmemberdelete (メンバー情報削除) 648
- jssmemberimport (メンバー情報インポート) 650
- jssmemberlist (メンバー一覧出力) 652
- jssnodecount (管理ノード数のカウント) 655
- jssrefaclsetup (案件ごとの参照権限設定セットアップ) 717
- jssrev (案件一括削除取り消し) 657
- jssroleimport (ロール情報インポート) 659
- jssrolelist (ロール一覧出力) 661
- jsssetup.bat (セットアップ) 719
- jssstoreitemdel.bat (保存案件一括削除) 723
- jssunsetup.bat (アンセットアップ) 725
- jssuseredit (ユーザー情報編集) 664
- jssuserimport (ユーザー情報インポート) 666
- jssuserlist (ユーザー一覧出力) 668

L

- LDAP サーバとの連携 258
- LDAP サーバを使用したログイン認証 329
 - 特定の JP1 製品と連携しない場合 329
 - 特定の JP1 製品と連携する場合 329

O

- OS の環境構築 336

U

URL 定義ファイル (jsslogin.url) 757

W

WWW アプリケーションとの連携 253

WWW コンテナサーバ 204

用語解説 1327

WWW サーバ 205

用語解説 1327

あ

アクセス権

jssaclexport (アクセス権情報エクスポート) 553

アクセス権の削除 403

アクセス権の追加 401

案件に対するアクセス権の管理 166

設定手順 399

割り当て 399

割り当ての設計 269

アクセス権情報入力ファイル (任意) 759

アクセス権の割り当ての設計

運用に向けての検討 272

運用例 (案件ごとに参照権限を設定する場合の運用例) 281

運用例 (案件の処理) 276

運用例 (エスカレーションルート (エスカレーションの経路) の決定) 274

運用例 (サービスサポートの運用状況管理) 273

[アクセス権編集] 画面 401

アンインストール手順 357

案件 31

アクセス権 399

アクセス権の管理 166

案件一覧 (用語解説) 1328

案件ごとに参照権限を設定するための環境設定 432

[案件作成] 画面での案件の作成 122

案件データの移行 459

案件で管理する項目と入力方法の検討 288

案件の一覧表示 96

案件の管理 82

案件の作業状況の表示 112

案件の表示 105

案件を操作するための環境設定 429

一括操作 153

印刷 164

受付から解決まで 51

エスカレーション 141

関連案件の表示 114

検索 116

コマンドによる案件の作成 140

削除 160

作成 122

自動登録の検討 300

詳細表示 105

進捗の表示 109

ステータスの変更 146

登録済みの案件を流用して案件を作成 127

内容の編集 145

編集 144

メールによる案件の作成 130

用語解説 1327

履歴の表示 108

案件 ID 97

用語解説 1328

案件管理 DB 35

jssdbreclaim.bat (案件管理 DB 空き領域解放) 682

jssdbrorg.bat (案件管理 DB 再編成) 688

jssdelrec (案件管理 DB データ削除) 567

空き領域解放 517

案件の一括削除 512

検討 315

コマンドを使用した案件管理 DB の操作 206

サイズ拡張 515

再編成 517

再編成の検討 317

初期化 518

初期化の検討 315

- セットアップの検討 315
- データ削除 515
- データの削除の検討 316
- バックアップとリカバリー 511
- 用語解説 1328
- 案件管理 DB サーバ 205
 - 用語解説 1328
- 案件管理 DB のサイズの判断基準 318
- 案件管理 DB を使用したログイン認証 328
 - 特定の JP1 製品と連携しない場合 328
 - 特定の JP1 製品と連携する場合 328
- 案件管理ウィンドウ 101
 - 案件管理ウィンドウの移動 104
 - 案件管理ウィンドウの検討 303
 - 案件管理ウィンドウの設定 103
- 案件管理ウィンドウの検討 303
- 案件管理コンソール
 - 用語解説 1328
- 案件管理サーバ
 - 用語解説 1329
- 案件検索用の案件フォーム定義ファイル (任意) 764
- 案件ごとの参照権限の制御 48
- [案件作成] 画面での案件の作成 122
 - 項目の入力方法 122
 - 表示項目 123
- 案件自動入力プロパティファイル
 - hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties 769
 - jp1imss_itementry_default.conf 774
- 案件自動入力プロパティファイル (hptl_jp1_imss_pwb_default_setting.properties) 769
- 案件自動入力プロパティファイル (jp1imss_itementry_default.conf) 774
- 案件集計プロパティファイル (hptl_jp1_imss_main_setting_kpi.properties) 778
- 案件情報拡張入力ファイル (任意) 793
- 案件情報入力ファイル (任意) 786
- 案件情報の再登録 518
- 案件情報の出力に関する検討 301
- 案件で管理する項目と入力方法の検討 288
 - 案件検索用の案件フォームのカスタマイズ 288
 - 案件項目の自動入力の利用 289
 - 案件フォームのカスタマイズの利用 288
 - カスタマイズした案件フォームの使い分けの利用 289
 - 入力候補値および項目間連携の利用 290
 - ファイル添付の利用 290
 - リンク設定の利用 290
- 案件内容の編集 145
- 案件に対するアクセス権の管理
 - アクセス権の種類 167
 - 案件の編集とステータス, 担当者の関係 169
- 案件の一括操作
 - 結果 155
- 案件の一括操作の結果 155
 - 案件の一括操作によるメール通知 159
 - 一括操作で発行される JP1 イベント 158
 - 一括操作の実行結果 157
- 案件の一括操作の流れ 154
- 案件の作業状況の管理 183
- 案件の作業状況の表示 112
- 案件の削除
 - 画面操作による削除 160
 - コマンドによる削除 160
- 案件の参照権限所有者
 - 用語解説 1329
- 案件の集計データのファイル出力 189
 - 出力される CSV ファイルの内容 190
 - マクロのダウンロード 192
- 案件の集計と集計結果のファイル出力に関する検討 302
- 案件の進捗の表示 109
- 案件のステータスの検討 285
 - ステータスの設定をカスタマイズする場合 287
 - 通常使用するステータスをカスタマイズする場合 286
 - ユーザー拡張用のステータスをカスタマイズする場合 286

- 案件のステータス変更に応じた JP1 イベントの対処状況の変更 218
- 案件の内容に応じて別プロセスに対応依頼 38
- 案件の発生から解決までの運用プロセスの改善を支援 38
- 案件の表示
 - 案件一覧 96
 - 案件プレビュー 100
- 案件の保存 162
- 案件フォーム 36
 - jssformdef (案件フォーム登録) 570
 - 案件フォームの管理 177
 - カスタマイズ 409
 - 削除 411
 - 情報の参照 410
 - 用語解説 1329
- [案件フォーム定義] 画面 (案件フォーム定義) 416
- 案件フォーム定義ファイル
 - jssformcustomizer (案件フォーム定義ファイル編集) 569
 - カスタマイズ 413
 - 情報の参照 417
- 案件フォーム定義ファイル (任意) 808
- 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ
 - 手順 413
- 案件フォーム定義ファイル編集時のメッセージ 1226
- [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォームカスタマイズ) 414
- [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォーム定義選択) 414
- 案件フォームのカスタマイズ
 - 手順 409
 - プロセスの標準案件フォームの設定 412
- 案件フォームの管理 177
 - 案件フォームのカスタマイズ 177
 - カスタマイズした案件フォームの使い分け 179
- [案件フォームの管理] 画面 410
- [案件フォームの詳細情報] 画面 411
- 案件保存 DB 35
 - jssitemstore (案件保存) 704
 - jssitemstoredbexpand.bat (案件保存 DB 領域拡張) 708
 - jssitemstoredbrotate (案件保存 DB 切り替え) 712
 - jssitemstoredbsetup.bat (案件保存 DB セットアップ) 714
 - jssstoreitemdel.bat (保存案件一括削除) 723
 - 案件保存 DB 使用時のバックアップ 527
 - 案件保存のための事前確認 522
 - 案件を保存 526
 - 運用の流れ 321
 - 運用例 320
 - 拡張 524
 - 検討 320
 - 構築 522
 - コマンドを使用した案件保存 DB の操作 209
 - 年次メンテナンス 325
 - 保存先の切り替え 523
 - 用語解説 1329
 - 容量設計 322
 - リカバリー 527
- 案件保存 DB 拡張情報設定ファイル (jssitemstoredbexpandinfo.bat) 833
- 案件保存 DB 使用時のリカバリー
 - 環境の回復手順 528
 - リカバリー手順 528
- 案件保存 DB セットアップ情報設定ファイル (jssitemstoredbinfo.bat) 835
- 案件保存 DB の容量設計
 - 案件管理 DB に保存する案件の保存年数を見積もる 323
 - 案件の目標寿命を設定する 323
 - 案件保存 DB の拡張および保存エリアを計画する 325
 - 案件保存 DB の容量を見積もる 324
 - 設計する 322
- 案件履歴の表示 108
- アンセットアップ手順 356

い

- 一時受付プロセスワークボード 131
- 一括操作
 - 案件 153
 - 流れ 154
- イベントサーバ
 - 用語解説 1329
- イベントログの一覧 1036
- インシデント管理 30
 - 用語解説 1329
- インストール先マシンのリプレース 354
- インストール実行時のメッセージ 1233
- インストールとセットアップ 333
- インストールとセットアップの注意事項 359
- インストールとセットアップの流れ 334
- インストール前に必要な作業 336
- インポート
 - jssaclimport (アクセス権情報インポート) 558
 - jssitemimport (案件情報インポート) 636
 - jssitemimportEx (案件情報拡張インポート) 639
 - jssmemberimport (メンバー情報インポート) 650
 - jssroleimport (ロール情報インポート) 659
 - jssuserimport (ユーザー情報インポート) 666

う

- ウィルス対策ソフト実行時の注意事項 332
- 上書きインストールとセットアップ
 - バージョンアップインストール時のセットアップ手順 344
- 運用例
 - 案件ごとの参照権限の制御 48
 - インシデントの登録および作業の効率化 45
 - 企業内システムの運用管理 43
 - 問い合わせ管理システムとしての運用 42
 - リリース管理の効率化 46

え

- エージェント 67

- 用語解説 1329
- エスカレーション 141
 - エスカレーション (概要) 38
 - 用語解説 1330

か

- 外部認証サーバとの連携 258
- 各バージョンの変更内容 1303
- 各プロセスで対応する作業担当者の管理 39
- 過去の事例を基にした素早い回避策の提示を支援 36
- カスタマイズ
 - jsssetupinfo.bat コマンドの編集 339
 - 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ 413
 - 案件フォームのカスタマイズ 409
 - ステータスのカスタマイズ 419
 - 定義ファイルによる環境設定 434
- 画面
 - [IT プロセス管理] 画面 (案件フォーム定義情報のプレビュー) 417
 - [アクセス権編集] 画面 401
 - [案件フォーム定義] 画面 (案件フォーム定義) 416
 - [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォームカスタマイズ) 414
 - [案件フォーム定義編集ユーティリティ] 画面 (案件フォーム定義選択) 414
 - [案件フォームの管理] 画面 410
 - [案件フォームの詳細情報] 画面 411
 - [ステータス管理] 画面 420
 - [ステータス管理] 画面 (プロセスワークボード固有) 422
 - [ステータスラベル編集] 画面 425
 - [遷移先ステータス設定] 画面 427
 - [対象システム管理] 画面 385
 - [対象システム作成] 画面 386
 - [対象システム編集] 画面 387
 - [プロセス表示名編集] 画面 389
 - [プロセスワークボード作成] 画面 390
 - [プロセスワークボード参照] 画面 398
 - [プロセスワークボード編集] 画面 395
 - [ユーザー管理] 画面 373

- [ユーザー作成] 画面 374
- [ユーザー選択] 画面 381
- [ユーザー編集] 画面 376
- [ユーザー・ロール選択] 画面 402
- [ロール管理] 画面 379
- [ロール作成] 画面 380
- [ロール編集] 画面 382
- 画面操作時 (案件管理) のメッセージ 1049
- 画面操作時 (ユーザー管理, ロール管理) のメッセージ 1041
- 環境構築の流れ 372
- 環境のバックアップ 336
- 環境を構築するための設計 336
- 管理案件 35
 - 用語解説 1330
- 関連案件の表示 114
- 関連情報定義ファイル 837
- 関連リンク
 - 定義ファイルによる環境設定 434
- 関連リンクプロパティファイル (hptl_jp1_imss_link_setting.properties) 839

き

- 機器情報外部参照プロパティファイル (hptl_jp1_imss_ci_link_setting.properties) 842
- 期限前通知 922
- 既存の JP1/Service Support からのデータの移行 (手順) 462
- 機能一覧 80
- 共通メッセージログ 1247
- 共有ディスク 465
 - 共有ディスク上のファイル構成 470
 - 前提条件 467

<

- クラスタ
 - jsshadbinit.bat (クラスタ環境用データベース初期化) 695
 - jsshasetup.bat (クラスタ環境用セットアップ) 698

- jsshaunsetup.bat (クラスタ環境用アンセットアップ) 702
- クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support のアップグレード手順 497
- クラスタ環境でのインストール先マシンのリプレース 502
- クラスタシステム
 - JP1/IM - Manager 連携 310
 - JP1/Service Support がサポートする範囲 468
 - JP1/Service Support のアップグレード手順 497
 - JP1/Service Support の起動と終了 369
 - JP1/Service Support の構成 469
 - JP1/Service Support をクラスタシステムで運用するための制限 468
- jsshasetupinfo.bat の編集 474
- ODBC の設定 480
- 案件管理 DB のサイズ拡張 483
- 案件保存 DB の拡張 486
- 案件保存 DB の構築 485
- 案件保存 DB のセットアップ 485
- インストール 474
- インストール先マシンのリプレース 502
- 運用 211
- 運用と環境構築 464
- 概要 (一般論) 465
- 環境設定 (新規インストールからの環境構築) 473
- 環境設定 (物理ホストからの移行) 481
- 環境設定の流れ (新規インストールからの環境構築) 473
- 環境設定前に必要な作業 473
- クラスタ運用 466
- クラスタ運用時の注意事項 504
- クラスタ運用の概要 465
- クラスタ運用の前提条件 466
- クラスタ環境で運用中の JP1/Service Support のバージョンアップ手順 491
- クラスタ環境での JP1 イベントの発行 489
- クラスタ環境でのアップグレード 497
- クラスタ環境でのバージョンアップ 491
- クラスタソフト 465

クラスタソフトへのサービスの登録 478
クラスタソフトへのリソースの登録 476
実行系サーバ, 待機系サーバで実行できるコマンド
212
認証サーバの設定 479
フェールオーバー時の JP1/Service Support の
動作 211
マニュアルの組み込み手順 480
用語解説 1330
論理ホスト 465
論理ホスト削除 488
論理ホストのセットアップ (現用系) 477
論理ホストのセットアップ (予備系) 477

け

系切り替えシステム
用語解説 1330
検索 116
検索結果の表示 120
検索範囲, 検索結果の表示件数, および検索条件の
指定 116
検討
JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携
313
JP1/AO 連携 312
JP1/IM - Manager 連携 304
JP1/IM - View 連携 311
JP1/ITMD2 - Asset Console 連携 313
JP1/NETM/AIM 連携 311
JP1/NP 連携 312
JP1/PFM - Web Console の Web GUI との連携
314
JP1/UCMDB 連携 311
案件管理 DB 315
案件情報の出力 301
案件の自動登録 300
案件の集計と集計結果のファイル出力 302
案件のステータス 285
案件保存 DB 320
データ移行 327

認証方法 328
メールによる案件登録 295
メールによる案件の登録方法 295
検討する
送信メールのテンプレート 296

こ

公開ログ 1249
構成管理 31
項目間連携 257
コードマッピングファイル
jp1imss_itemedit_codemap.conf 845
jp1imss_itementry_codemap.conf 854
jp1imss_itemimport_codemap.conf 859
コードマッピングファイル
(jp1imss_itemedit_codemap.conf) 845
コードマッピングファイル
(jp1imss_itementry_codemap.conf) 854
コードマッピングファイル
(jp1imss_itemimport_codemap.conf) 859
コマンド 540
コマンド一覧 543
コマンド実行時のサービスの状態 547
コマンドによる案件の作成 140
コマンドの自動実行スケジュールの設定 405
案件情報の集計 (jssclectdata) 405
期限前通知 (jssinformperiod) 405
滞留案件通知 (jssinformleave) 406
メールによる案件登録 (jssitementrybymail)
407
コマンドの文法 541
コマンドプロンプトを使用したコマンドの実行方法
727
コマンドを使用した案件管理 DB の操作 206
コマンドを使用した案件保存 DB の操作 209
コマンドを使用したデータベースの操作 206

さ

サービスサポート 29
サービスデリバリ 29

- サンプルデータの登録 1295
 - サンプルデータの概要 1295
 - セットアップ手順 1300
 - レポート用のサンプルデータ 1301

し

- 資産管理サーバ 75
- システム構成
 - JP1 製品と連携する場合 65
 - 基本 63
 - メールで案件を操作する場合 63
- システム視点 57
 - 状況確認 185
 - 対象案件一覧 186
 - 用語解説 1330
- システム視点での案件の集計 184
- システム全体の案件の状況を管理 40
- システムプロパティファイル
(hptl_jp1_imss_main_setting.properties) 868
- システムロール 199
 - 用語解説 1331
 - [ロール管理] 画面 379
- 自動アクションによる案件の自動登録 215
 - 自動アクションの実行条件 216
 - 自動アクションの実行内容 216
- 自動アクションの定義例 (JP1/AJS3 - Web Console
の Web GUI との連携の場合) 248
- 自動アクションの定義例 (JP1/PFM - Web Console
の Web GUI との連携の場合) 251
- 自動アクションを利用した JP1 製品とのイベント連携
217
- 集計データを基にした運用状況の分析 58
- 障害に備えた設定 363
 - 障害発生時の資料採取の準備 364
 - ユーザーダンプの出力設定 364
- 資料の採取 1254
 - オペレーション内容を確認する 1254
 - 画面上のエラー情報を採取する 1254
 - 資料採取ツールを実行する 1254
- 新規インストール手順

- JP1/NETM/DM, JP1/IT Desktop
Management 2 および Job Management
Partner 1/Software Distribution を使ったりモー
トインストール 339
- 提供媒体を使った新規インストール 338
- シングルサインオン
 - 連携するための環境設定 455

す

- ステータス 146
 - アクセス権 400
 - 案件のステータスの検討 285
 - ステータスのカスタマイズ 419
 - ステータスの管理 180
 - 用語解説 1331
- ステータス ID
 - 用語解説 1331
- [ステータス管理] 画面 420
- [ステータス管理] 画面 (プロセスワークボード固有)
422
- ステータスのカスタマイズ 419
 - エスカレーションの禁止の設定 427
 - 使用するステータスの選択 419
 - ステータスの制限の設定 426
 - ステータスの表示順序変更 423
 - ステータス名称の編集 424
- ステータスの管理 180
 - エスカレーションの禁止 182
 - 使用するステータスの選択 180
 - ステータスの制限 182
 - ステータスの表示順序変更 180
 - ステータス名称の変更 180
- ステータス変更 JP1 イベント定義ファイル
(hptl_jp1_imss_jp1event_status.properties)
890
- [ステータスラベル編集] 画面 425

せ

- 制御文字
 - jssitementry (案件登録) 598

- jssitementrybyemail (メールによる案件登録)
609
- ステータス名称の編集 424
- 用語解説 1331
- 制限値一覧 1283
- 設計する
 - JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI との連携の検討 313
 - JP1/AO 連携の検討 312
 - JP1/IM - Manager 連携の検討 304
 - JP1/IM - View 連携の検討 311
 - JP1/ITMD2 - Asset Console 連携の検討 313
 - JP1/NETM/AIM 連携の検討 311
 - JP1/NP 連携の検討 312
 - JP1/PFM - Web Console の Web GUI との連携の検討 314
 - JP1/Service Support 以外のシステムからの案件データの移行について 327
 - JP1/Service Support 以外のシステムからのユーザー情報の移行について 327
 - JP1/Service Support の運用サイクル 260
 - JP1/Service Support の環境見直し 531
 - JP1/UCMDB 連携の検討 311
 - アクセス権の割り当ての設計 269
 - 案件管理 DB からのデータの削除の検討 316
 - 案件管理 DB の運用についての検討 315
 - 案件管理 DB の再編成の検討 317
 - 案件管理 DB の初期化の検討 315
 - 案件管理 DB のセットアップの検討 315
 - 案件管理ウィンドウの検討 303
 - 案件情報の出力に関する検討 301
 - 案件で管理する項目と入力方法の検討 288
 - 案件の自動登録の検討 300
 - 案件の集計と集計結果のファイル出力に関する検討 302
 - 案件のステータスの検討 285
 - 案件保存 DB の運用についての検討 320
 - 案件保存 DB の運用の流れ 321
 - 案件保存 DB の運用例 320
 - 案件保存 DB の年次メンテナンス 325
- 既存の JP1/Service Support からのデータの移行について 327
- 送信メールのテンプレートの検討 296
- 対象システム, プロセスの決定と体制作り 261
- 対象システム, プロセスワークボードの設計 268
- 他製品との連携の検討 304
- データ移行に関する検討 327
- 認証方法の検討 328
- メール送信時のユーザー認証の検討 293
- メール通知の検討 292
- メールによる案件登録の検討 295
- メールによる案件の登録方法の検討 295
- ユーザー, ロールの設計 266
- 設定する
 - JP1/AJS3 - Web Console の Web GUI と連携するための環境設定 452
 - JP1/AO と連携するための環境設定 451
 - JP1/IM - Manager と連携するための環境設定 443
 - JP1/IM - View と連携するための環境設定 448
 - JP1/ITDM2 - Asset Console と連携するための環境設定 452
 - JP1/NETM/AIM と連携するための環境設定 448
 - JP1/NP と連携するための環境設定 450
 - JP1/PFM - Web Console の Web GUI と連携するための環境設定 453
 - JP1/Service Support 以外のシステムからの案件データの移行 459
 - JP1/Service Support 以外のシステムからのユーザー情報の移行 461
 - JP1/Service Support 以外のシステムで管理している情報と連携するための環境設定 457
 - JP1/UCMDB と連携するための環境設定 449
 - アクセス権の削除 403
 - アクセス権の追加 401
 - アクセス権の割り当て 399
 - 案件ごとに参照権限を設定するための環境設定 432
 - 案件フォーム定義ファイルのカスタマイズ 413
 - 案件フォームのカスタマイズ 409
 - 案件を操作するための環境設定 429

既存の JP1/Service Support からのデータの移行
462
コマンドの自動実行スケジュールの設定 405
シングルサインオン 455
ステータスのカスタマイズ 419
対象システム情報の編集 386
対象システムの削除 388
対象システムの作成 385
対象システムの追加 385
定義ファイルによる環境設定 434
プロセスのカスタマイズ 389
プロセス表示名の編集 389
プロセスワークボード情報の編集 395
プロセスワークボードの削除 396
プロセスワークボードの作成 390
プロセスワークボードの参照 397
プロセスワークボードの追加 390
メール通知するための環境設定 440
メールで案件を登録するための環境設定 437
メールで案件を登録または通知するための環境設定
437
メンバーの削除 383
メンバーの追加 382
ユーザー情報の編集 375
ユーザーの削除 377
ユーザーの作成 373
ユーザーの追加 373
ロールの削除 383
ロールの作成 379
ロールの追加 379
ロールの編集 381
セットアップ・コマンド実行時のメッセージ 1083
[遷移先ステータス設定] 画面 427
前提 OS および前提プログラム 62

そ

操作ログが出力される契機 1293
操作ログ設定ファイル
(hptl_jp1_imss_access_log.properties) 898
操作ログに出力される事象の種別 1290

操作ログの出力 1290
操作ログの出力形式 1291
出力形式 1291
出力項目 1291
出力先 1291
出力例 1293
操作ログの保存形式 1290
操作ログを出力するための設定 1294
想定されるトラブル一覧 1255

た

対象システム
設計 268
設定項目 84
対象システム 83
対象システム情報の編集 386
対象システムの削除 388
対象システムの作成 385
対象システムの追加 385
定義機能 84
用語解説 1331
対象システム, プロセスの決定と体制作り 261
対象システム, プロセスワークボードの設計 268
[対象システム管理] 画面 385
[対象システム作成] 画面 386
[対象システム編集] 画面 387
対処の手順 1246
滞留案件通知 922
滞留案件定義ファイル
(jp1informleave_setting.conf) 900
タスク実行サービス定義ファイル
(jp1imss_service_setting.conf) 904
他製品との連携 213
検討 304
他プロセスへのエスカレーション 54

て

定義情報
バックアップ 507

バックアップ・リカバリー 507
リカバリー 509
定義ファイル 729
定義ファイル一覧 731
定義ファイルの説明形式 730
定義ファイル変更時の定義内容の反映時期 735
データ移行に関する検討 327
データベース
jssdbbackup.bat (データベースバックアップ) 675
jssdbinit.bat (データベース初期化) 680
jssdbrecovery.bat (データベースリカバリー) 683
jssdbstatchk.bat (データベース状態確認) 691
メンテナンス 511
添付資料
ファイル添付の利用 290
用語解説 1331

と

統合トレースログ 1247
統合マネージャー 66
用語解説 1331
同時に実行できないコマンド 546
登録された案件の件数の確認 142
登録済みの案件を流用して案件を作成 127
案件情報の引き継ぎ 128
案件を流用して新規案件を作成する方法 129
特定の JP1 イベントの属性をインシデントとして引き継ぐ 225
トラブルシューティング 1245
トラブル発生時に採取が必要な資料 1251
JP1 の情報 1252
OS のシステム情報 1251
オペレーション内容 1252
画面上のエラー情報 1253
トラブルへの対処方法 1255

に

入力候補値 256

入力候補値設定ファイル (任意) 908
入力補助機能 257
入力補助機能プロパティファイル
(hptl_jp1_imss_input_assist_plugin.properties) 918
認証方法の検討 328

ふ

ファイアウォール環境への対応 202
ファイアウォールの通過方向 1282
ファイル一覧 1266
フェールオーバー 465
用語解説 1332
二つの視点による案件の状況確認 57
物理ホスト 466
物理ホスト環境の前提条件 (クラスタシステム) 467
用語解説 1332
プロセス 29
プロセス 83
プロセスのカスタマイズ 389
プロセス表示名の編集 389
用語解説 1332
プロセス一覧 1281
プロセス間 ID 114
用語解説 1332
プロセス視点 57
状況確認 187
対象案件一覧 189
用語解説 1332
プロセス視点での案件の集計 186
プロセスの標準案件フォーム 179
用語解説 1332
[プロセス表示名編集] 画面 389
プロセス別トレースログ 1250
プロセスワークボード 32
案件の一覧表示 96
案件の管理 82
設計 268
設定項目 88

定義機能 92

プロセスワークボード情報の編集 395

プロセスワークボードの削除 396

プロセスワークボードの作成 390

プロセスワークボードの参照 397

プロセスワークボードの状態と実行できる操作 93

プロセスワークボードの追加 390

用語解説 1333

プロセスワークボード一覧

用語解説 1333

プロセスワークボード管理者

[プロセスワークボード作成] 画面 390

プロセスワークボードによる案件の管理 82

[プロセスワークボード編集] 画面 395

用語解説 1333

[プロセスワークボード作成] 画面 390

[プロセスワークボード参照] 画面 398

プロセスワークボードに登録された案件の一覧表示 96

プロセスワークボードによる案件の管理 82

対象システムの設定 84

プロセスの設定 85

プロセスワークボードの設定 87

[プロセスワークボード編集] 画面 395

へ

変更管理 30

用語解説 1333

編集

[案件編集] 画面での案件編集 144

案件の差し戻し 149

案件の引き戻し 147

コマンドによる案件の編集 147

ほ

ポート番号一覧 1282

保存案件 35

用語解説 1333

ま

マスターシステム 131

マニュアルの組み込み手順 358

め

メイン画面 (案件一覧)

用語解説 1333

メイン画面 (案件状況)

定義ファイルによる環境設定 434

用語解説 1334

メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル

hptl_jp1_imss_main_log.properties 920

メインサービスのユーザー公開ログ設定ファイル

(hptl_jp1_imss_main_log.properties) 920

メール管理サーバ

用語解説 1334

メール送信時のユーザー認証

検討 293

メール通知 171

検討 292

定義ファイルによる環境設定 434

メールで案件の更新を通知する場合のシステム構成 64

メール通知するための環境設定 440

タスク実行サービス定義ファイルでの設定 442

[プロセスワークボード作成] 画面, または [プロセスワークボード編集] 画面での設定 442

メール定義ファイルでの設定 441

メールを受信するメールクライアントの設定 441

メールを送信する SMTP サーバの設置 440

ユーザーログファイル定義ファイルでの設定 442

メールで案件を登録するための環境設定 437

コマンドによる一時受付プロセスワークボードおよびマスターシステムの作成 438

タスク実行サービス定義ファイルでの設定 439

添付ファイル管理フォルダの作成 437

[プロセスワークボード作成] 画面, または [プロセスワークボード編集] 画面での設定 440

メール管理サーバの設置 437

メール定義ファイルでの設定 438

- メールを送信するメールクライアントの設定 437
- ユーザーログ定義ファイルでの設定 439
- メールで案件を登録または通知するための環境設定 437
- メール定義ファイル (jp1imss_mail_setting.conf) 922
- メールによる案件登録 922
 - メールで案件を登録する場合のシステム構成 64
- メールによる案件の作成 130
 - 案件として登録されるメールの内容 132
 - 一時受付プロセスワークボード, およびマスターシステムとは 131
 - メールサーバからメールが削除される条件 139
 - メールによって登録される案件の内容 133
 - メールによる案件作成時の注意事項 140
- メールによる通知
 - 期限前メール通知 174
 - メール送信時のユーザー認証 172
 - メール送信のタイミング 171
 - メールで通知できる案件情報 173
- メッセージの記載形式 1039
- メッセージの形式 1039
- メッセージの出力形式 1039
- メッセージの出力先 1008
- メンバー情報入力ファイル (任意) 961

も

- 文字列置換設定ファイル (jp1imss_replace_string_setting.conf) 963
- 問題管理 30
 - 用語解説 1334

ゆ

- ユーザー, ロールの設計 266
- ユーザーからの問い合わせやシステム障害を解決が必要な案件として一元管理 34
- ユーザー管理 196
 - JP1/Service Support が管理するユーザー情報 197
 - JP1/Service Support のシステム管理者ユーザー (jp1admin ユーザー) 198

- 設計 266
- ユーザー情報の確認 199
- ユーザー情報の追加, 編集, 削除 197
- ユーザー情報の編集 375
- ユーザーの削除 377
- ユーザーの追加 373
- ログインユーザーによる自身のユーザー情報の変更 198
- [ユーザー管理] 画面 373
- ユーザー管理プロパティファイル (hptl_jp1_imss_usermgr.properties) 965
- [ユーザー作成] 画面 374
- ユーザー作成ロール
 - ユーザー作成ロールの追加, 編集, 削除 200
 - ユーザー作成ロールの定義情報 200
- ユーザー情報入力ファイル (任意) 969
- ユーザー情報編集ファイル (任意) 972
- [ユーザー選択] 画面 381
- ユーザーとロールの管理 196
- ユーザーの作成 373
- [ユーザー編集] 画面 376
- ユーザーログ定義ファイル 995
 - jp1aclexport.conf 975
 - jp1aclimport.conf 977
 - jp1authusersetup.conf 979
 - jp1informleave.conf 981
 - jp1informperiod.conf 983
 - jp1itemcount.conf 985
 - jp1itemedit.conf 987
 - jp1itementry.conf 989
 - jp1itementrybyemail.conf 991
 - jp1itemexportEx.conf 993
 - jp1itemimportEx.conf 995
 - jp1itemstore.conf 997
 - jp1itemstoredbrotate.conf 999
 - jp1mailnotification.conf 1001
 - jp1refaclsetup.conf 1003
- ユーザーログ定義ファイル (jp1aclexport.conf) 975

ユーザーログ定義ファイル (jp1aclimport.conf) 977
ユーザーログ定義ファイル (jp1authusersetup.conf) 979
ユーザーログ定義ファイル (jp1informleave.conf) 981
ユーザーログ定義ファイル (jp1informperiod.conf) 983
ユーザーログ定義ファイル (jp1itemcount.conf) 985
ユーザーログ定義ファイル (jp1itemedit.conf) 987
ユーザーログ定義ファイル (jp1itementry.conf) 989
ユーザーログ定義ファイル (jp1itementrybymail.conf) 991
ユーザーログ定義ファイル (jp1itemexportEx.conf) 993
ユーザーログ定義ファイル (jp1itemstore.conf) 997
ユーザーログ定義ファイル (jp1itemstoredbrotate.conf) 999
ユーザーログ定義ファイル (jp1mailnotification.conf) 1001
ユーザーログ定義ファイル (jp1refaclsetup.conf) 1003
[ユーザー・ロール選択] 画面 402

よ

用語解説 1325

り

リリース管理 31
用語解説 1334

れ

連携製品

JP1/AJS3 246
JP1/AO 240
JP1/Audit - Manager 243
JP1/IM - Manager 214
JP1/IM - View 223

JP1/ITDM2 - Asset Console 244
JP1/NETM/AIM 233
JP1/NP 237
JP1/UCMDB 235
JP1 以外の運用管理製品 252
JP1 製品と連携するための環境設定 443
連携製品からの案件の登録 253
連携製品の管理情報の参照 253

ろ

ロール 40
用語解説 1334
ロール管理 199
システムロール 199
設計 266
メンバーの削除 383
メンバーの追加 382
ユーザー作成ロール 200
ロール情報の確認 201
ロールとユーザーのマッピング 200
ロールの削除 383
ロールの追加 379
ロールの編集 381
[ロール管理] 画面 379
[ロール作成] 画面 380
ロール情報入力ファイル (任意) 1005
ロールの作成 379
[ロール編集] 画面 382
ログ情報の種類 1247
論理 IP アドレス 465
前提条件 467
論理ホスト 465
用語解説 1334
論理ホスト環境の前提条件 467

 株式会社 日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号
